



Title	アングロノルマン研究 -フランス語教本およびアングロノルマン文学-
Author(s)	福井, 秀加
Citation	大阪大学, 1995, 博士論文
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.11501/3104944
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

アングロノルマン研究

——フランス語教本およびアングロノルマン文学——

福 井 秀 加
HIDEKA FUKUI

アングロノルマン研究

— フランス語教本およびアングロノルマン文学 —

Contents

I	アングロノルマン時代と文学	1
II	アングロノルマン語の推移	9
III	フランス語教本	27
1)	<i>Tractatus Orthographiae</i> T. H. Parisii Studentis ——パリの学生 T. H. による正綴論——	29
2)	<i>Orthographia Gallica</i> ——「ガリア語正綴法」訳述——	47
3)	<i>Tractatus Ortogrphie Gallicane</i> by M. T. Coyfurelly ——M. T. コワフルリの「ガリア語正綴論」——	81
4)	Walter de Bibbesworth のフランス語教本 ◦ 語彙集: <i>Le Tretiz</i> ◦ Gautier de Biblesworth: <i>Le Tretyz</i>	111 205
5)	アングロノルマン「礼節」論 —— <i>Anglo-Norman Treatise on Courtesy</i> —— ◦ <i>Noreture</i> ◦ <i>Les Curtesyes</i>	267 291
6)	<i>La Manière de Langage</i> ——フランス語の話し方、書き方教本——	315
7)	書簡文範 <i>Epistolography</i>	365
8)	Treatise: <i>Femina</i>	381
9)	<i>Liber Donati</i>	601
10)	アングロノルマン語の顕著な特徴	611
IV	アングロノルマン文学	615
1)	<i>Amys e Amillyoun</i>	617
2)	Anglo-Norman <i>Ipomedon</i> と Middle English <i>Ipomadon</i>	673
3)	Layamon's <i>Brut</i> と Wace の <i>Le Roman de Brut</i>	691
4)	<i>Les Dytees</i> attributed to Walter de Bibbesworth ——ビズワスの <i>Les Dytees</i> 「詩」——	707
5)	<i>Le Jeu d'Adam</i> An Anglo-Norman Drama of the Twelfth Century ——アングロノルマン「アダム劇」——	723
	Select Bibliography	763

I アングロノルマン時代と文学

I アングロノルマン時代と文学

ウィリアム征服王がイングランドに渡った1066年より前に、当地の上流社会にはフランスの風俗と言語とがかなり広まっていたのであるが、ウィリアムに続いて主に、ノルマンディ地方の人々が多数イングランドに定着してから、彼等とその子孫達は数世紀の間、イングランドの言語と文化とに著しい影響を与えることになった。この人達の作り出した文学がアングロノルマン文学と呼ばれる。言語はアングロノルマン語である。彼等以外にも土着のイギリス人や大陸のフランス人、ノルマン人もこの文学の担い手となった。

この言語と文学が人びとの興味を引いたのは18世紀後半に遡る。しかしその研究は1939年に至っても「細部をつみ重ねて総合することが可能になったにすぎない…しかもそれは、まだ決定的な研究となり得ていない」のであった。¹ 1963年にオックスフォードから *Anglo-Norman Literature and its Background* を刊行された Legge 教授は、今でもこの分野の研究が不充分であることに言及させていた。² 1954年であったが、Ruth Dean 教授は英国およびフランスに400余のアングロノルマン語 (AN) による写本が現存していることに注目し、それらが全て翻字され、刊行される日の近いことを切望して ‘A Fair Field Needing Folk : Anglo-Norman’³ と AN に興味をもつ人々に呼びかけられた。フランス語による最初の抒情詩、聖書の翻訳、典礼劇、歴史書、年報、武勲詩、ロマンス等々の作品が大陸フランスに先がけてアングロノルマン語で作成されている。英文学を眺望し、また英語史を繙くにあたっても等閑にすることのできないアングロノルマン時代とその文学の諸特徴をまず述べてゆこう。

912年にノルマン人はフランク王からノルマンディ地方を譲与され、それを領有してノルマンディ公国を建設した。彼等は10世紀初頭から11世紀にかけて巧妙な政治手腕をもって其の地に強力な政体をつくり上げ、Bec や Caen にはパリに先駆ける優れた学問所を作った。そこでは高い文化水準が保持されたという。当時のノルマン人は実際的な人びとであり、強い好奇心をもち、真面目な宗教心を抱いていたようである。彼等は11世紀になってもまだ先祖の冒険心を失なわなかったらしく、巡礼や商人や兵士となり、或いはこの三者一体となった集団でフランスやイスパニアの諸地方にはいり込み、地中海の諸港に出入りした。ウィリアム征服王がイングランドを掌握している間に、この集団は南イタリアにおいて、其の地に強力な王国を建設した。ノルマン人がこのように急速に作りあげた勢力は制海権に立脚したものであったといえる。

海洋雄飛を好むノルマン人の嗜好を裏書きするかのように、海の冒険物語の「聖ブレンダヌスの航海」⁴ がイングランドに居を定めたノルマン人によっていちはやくラテン語からアングロノルマン語に翻訳されている。これは当時大層人気のあったものらしく、120余のラテン語による *Navigatio Sancti Brendani* が現在残っている。西方の大海上にある不思議な魔法の島々へ旅をし、地獄と天国とをかいま見る聖者 Brendan とその17人の弟子の遍歴の物語である。彼等は神に反逆した天使達の中で罪の軽いものたちだけが白い鳥になって住んでいる鳥の島を訪れたり、地獄の炎からひとときを逃れて、大海の真ただ中の岩に坐り、荒波に打たれながら贖罪をしている、骨と皮ばかりのユダに遭遇したりする。現存する最古のアングロノルマン語の写本⁵ によって伝えられているこの作品は、最近の研究によると、ヘンリー1世の最初の后 Maud に捧げられたものである⁶。「聖ブランダン」の作者の Benedeit とほぼ同

じ時に Philippe de Thaon が1119年頃「暦法」⁷をあらわした。ついで彼は博物学に関する手引書ともいべき *Physiologus* を翻訳して「動物誌」*Bestiaire*⁸を書いた。アングロサクソン語の *Physiologus* はイングランドに存在していたが、これはフランス語の中で一番古い「動物誌」(1121—1135)である。*Bestiaire* は実在と架空の動物をとりまぜて動物たちの習性をえがき、それらを比喩的な象徴であらわしている。例えばペリカンは胸を引裂いて血を与える、我が子の命を救うといわれ、キリストになぞらえてある。Philippe de Thaon は *Lapidaire* 「宝石誌」も書いた。最も古い *Lapidaire* もアングロノルマンのものが残っている。⁹ このような作品が他の様式より早く現われたことはアングロノルマン文学の性格の一端、すなわち早熟性 *Precocity*¹⁰ を示していると言ってもよいであろう。

歴史と年代記も又この文学の中で重要な位置を占める。フランス本土では Froissart の出現までは王家の年代記ないし編年史が殆どラテン語で作成されていたが、イングランドでは多くの韻文のアングロノルマン語による年代記が作られた。Geoffery Gaimar はブリトン人の歴史物語を書き、それに続いて *L'Estoire des Engleis* (1147—1151)¹¹ を *Saxon Chronicle* を典拠に用いて作り上げた。Jersey 島に生まれ Caen に住んだ学僧 Wace も Geoffrey of Monmouth のラテン語の *Historia Regum Britanniae* (ca. 1136)「ブリテン列王史」¹² を翻案して、*Roman de Brut* (1155)¹³ を世に出した。Geoffrey の *Historia* に同じく、彼はブリテン王国の建国伝説の王 Brutus の曾祖父 Eneas がトロイを逃れる所から物語を始めて、ブルータスとブリトン人が Albion に定住する話におよび、ブリテン最後の王 Cadwalader (689 A.D.) が国を離れ、かわってサクソン王 Athelstan がイングランドの王となり Cadwalader の子孫たちが後にウェールズに戻って落着く所で叙述を終えている。これには事実と架空の物語がいり混っているけれども、出来る限り読者に信憑性のある知識を与えようとする意図がある。ワースはそれをヘンリー2世の后 Eléonore に献じた。この「ブリュ物語」は詩人としてのワースの優れた技量を示しており、この分野の傑作である。デュフリーによって紹介され、ワースに導かれてアーサー王と円卓の騎士は、その後の文学の広い舞台に登場することになる。ワースはノルマンディ公歴代の物語 *Roman de Rou* (1160—1174)¹⁴ にも着手したが、それは完成せずに終えた。彼と同時代にありヘンリー2世の寵愛を受けた Benoît de Sainte Maure は *Chronique des Ducs de Normandie*¹⁵ を書き、ノルマンディ公の年代記をヘンリー1世の時代まで叙述した。ヘンリー2世とその息子たちとの当時の争いは歴史は Jordan Fantosme の *Chronicle* に残っている。¹⁶

文学史上アングロノルマン時代はヘンリー1世の時代に始まるとしているが、¹⁷ その後、ヘンリー2世と Eléonore d'Aquitaine 王妃の宮廷には各地から学者や詩人や騎士が集まった。ヘンリー2世の領地はスコットランドからピレネまで拡がり、西ヨーロッパに勢力を誇示していた。エレオノール王妃の祖父ポワチエ伯は大貴族であったがプロヴァンス文学を世に広めたトルーバドゥールの一人であったといわれる。このヘンリー2世の宮廷は英国の歴史に重要な意味をもたらすことになるのである。当時 British Isles はスカンディナヴィア諸国と共にヨーロッパ文化圏のいわば外縁に位置していたから、大陸との交渉が断絶すれば歴史の潮流の動きからとり残される危険を含んでいた。イングランドはノルマンディとの交流を通じてこの断絶をまぬがれ、中世全期にわたって地中海文明との交渉を維持する様になった。ヘンリー2世以後プランタジネット朝宮廷の果たした役割は歴史的にも文学的にも高く評価されなければならない。冒険心と投機心とに溢れ、巧みな外交手腕や実務能力を具え、優れた文学、美術観を持ち合わせていたノルマン人が、沈滞したイングランドの主に知的な面に貢献したということは見逃してはならない。

フランス文学の叙事詩の傑作 *La Chanson de Roland*¹⁸ や *Le Pèlerinage de Charlemagne*¹⁹ はアングロノルマン語の写本が残っている。この両作品がアングロノルマン語で保存されており、更にイングランドの地で模倣されて中世英語の作品となり *Roland and Vernagu*²⁰ や *Song of Roland*²¹ や *The*

I アングロノルマン時代と文学

*Lyf of the Noble and Crysten Prince Charles the Grete²²*としてこの地に広まつたことは興味深い。アングロノルマン文学ないし文明が持つていていた真の価値は、互いに離れて存在していた二つの国、イングランドとフランスとの間に人種的障害を越えて、活発な知的交流を行なつたことにある。この文明の特徴は‘Cosmopolitanism’にあるといえよう。*King Horn²³*, *Havelock the Dane²⁴*, *Richard Coer de Lion²⁵*, *Fouke Fitz Warin²⁶*, や *King Dermot²⁷* が新しい型の叙事詩の主人公になった。此等の叙事詩には *La Chanson de Roland* におけるような戦う戦士たちの荒々しい雰囲気が和らげられている。これらは既にでき上った貴族社会のなかで、平和的な安定した雰囲気を持って生まれてきた。つまりそれはロマンスの騎士道物語や冒険物語となった。イングランドに落着いたノルマン人の子孫はこのような社会的、文学的条件のもとで、12世紀にはかつての敵であったアングロサクソンの事蹟をもほめたたえ始めた。*Gui de Warewic²⁸*, *Bueve de Hantone²⁹* は Roland や Olivier と同様に著名な英雄になった。物語はまずアングロノルマン語で書かれた後、中世英語のロマンスとなって残った。

この他、アングロノルマン時代の人々はイングランドを古典古代の文明に再び接触させる役割をも果した。フランス文学で古代物とよばれる一群の作品、トロイ物語³⁰ やテーベの話³¹ アレクサンダー大王の物語³² 等がイングランドに伝わり此等はまた其の後中世英語の文学作品の主題にとり入れられて流布された。このことはカロリング・ルネサンスの波をアングロノルマン文学がイングランドの岸辺にもたらしたこと意味するであろう。

フランク王の所有する北フランスを侵略し、略奪をほしいままにしていた頃のノルマン人は、慄怖で好戦的であり、10世紀以前にはノルマンディ地方を徹底的に荒らしたのだったが、ノルマンディに公国をうち建ててからは敬虔で熱心なキリスト教信者となり、教会の保護者となった。イングランドに渡ったこのヴァイキングの子孫も宗教に非常な関心を示したのである。Ely, Canterbury, York, Durham などに居住していたノルマン人の建築家がたてた石碑に宗教詩がぎざまれている。これは彼等の宗教的作品の最初のものであろう。彼等はノルマン様式の修院や教会を僧侶や学僧のために建立した。そして僧侶や学僧の宗教的知識の分け前にあづかろうと熱心であった。聖書の物語 *Li Quatre Livres des Reis³³* の現存する5写本のうち最古のものがアングロノルマン語である。其の他「詩篇」³⁴ や「默示録」³⁵ も又この言葉で書かれている。アングロノルマン文学作品とされているもののうちでは聖者伝や説教や教訓物語は極めて多く重要な部分を占めている。³⁶ フランス文学史上最古の聖者伝である *La Vie de St. Alexis³⁷* にも、また最も古い劇作品である *Le Mystère d'Adam³⁸* にもアングロノルマン語の特徴がみられる。

アングロノルマン文学という立場からこの文学の担い手たちの果たした最大の功績を指摘するならば、それは彼等がケルト的素材—ブリタニアの素材 *Matière de Bretagne* を西ヨーロッパに広めたことにある。ケルト人とサクソン人とは何世紀もの間、時には敵対し、或る時は平和な隣人として共存してきたが、サクソン人はケルトの文学的素材をイングランドの地ではみのらせることができなかった。ノルマン人がイングランドに定着するや、持前の強い好奇心によってでもあろうか、このケルトの素材、空想と驚異の物語が文学的創造の源となり始めた。目に見えぬ客の住む館、人間の愛を求める妖精、魔法の剣、魔法使や、トリスタンとイズーが示す不可思議な情熱や、アーサーと円卓の騎士の話などが新しい文学を生み出して行った。³⁹ このようなケルトの素材をあつかった物語はウェールズ語やアイルランド語によっては文学的成功を獲得し得なかつたであろうが、アングロノルマン語を媒介にしてその豊かな発展をみせたのであった。

アングロノルマン文学の担い手たちは北フランスの騎士物語や、プロヴァンスの洗練された宫廷恋愛物語の影響も受け、ケルトの伝説をも用いて英仏海峡の両岸で文学史上に重要な文学作品を創造した。彼等の文学は様々な様式にわたっている。アングロノルマン文学は、中世イギリス文学に深い影響を与

えただけではなく、フランス文学にも大きな貢献をなしたのである。

注

1. Ruth J. Dean, "Anglo-Norman Studies", *The Romanic Review*, XXX (1939), p. 3.
2. M. Dominica Legge, *Anglo-Norman Literature and its Background* (Oxford, 1963), pp. 1-2.
3. Ruth J. Dean, "A Fair Field Needing Folk : Anglo-Norman", (*PMLA* 69 No. 4 pt. 1, 1954) pp. 965-978.
cf. 1965 年 K. V. Sinclair 教授は第二次大戦後より 60 年代に至る AN 研究ならびに新たな写本校訂についての該博なる解説論文を世に問われた。K. V. Sinclair, "Anglo-Norman Studies : The Last Twenty Years", *Australian Journal of french studies* 2 (1965) pp. 113-55, 775-78.
4. *The Anglo-Norman Voyage of St. Brendan* ed, Ian Short & Brian Merrilees (Manchester Univ. Press 1979)
5. MSS. A : London, British Library Cotton Vesp. BX, 1. ff. 1^r-11^r
B : Paris, Bibliothèque Nationale, nouv. acq. fr. 4503 ff. 19^v-42^r
C : Oxford, Bodleian Library, Rawlinson D, 913 f. 85^r
D : York, Dean and Chapter Library 16, K 12(1) ff. 23^r-36^r
E : Paris, Bibliothèque de l'Arsenal 3516 ff. 96^r-100^v
6. R. L. G. Ritchie, "The Date of the Voyage of St. Brendan", *Medium Aevum*, XIX (1950), pp. 64-66.
7. (1) *Li Compoz Philippe de Thaün*, mit einer Einleitung, ed. E. Mall (Strassburg, 1873)
(2) *Philippede Thaon, Comput* ed. Ian short (Anglo-Norman Text Society, Plain Texts Series 2 1984)
8. *Le Bestiaire de Philippe de Thaün*, ed. E. Walberg (Lund, 1900)
9. *Anglo-Norman Lapidaries*, ed. Paul Studer and Joan Evans (Paris, 1924)
10. M. Dominica Legge, "La Précocité de la Littérature anglo-normande", *Cahiers de Civilisation Médiévale*, 8 (Poitiers, 1965), p. 334.
11. (1) *The Anglo-Norman Metrical Chronicle of Geoffrey Gaimar*, ed. Thomas Wright (Caxton Society, 1850, rpt. New York, 1967)
(2) *Estoire des Engleis* by Gaimer ed. A. Bell (ANTS XIV-XV 1960)
12. *The Historia Regum Britanniae of Geoffrey of Monmouth, with contributions to the study of its place in early British History*, ed. Acton Griscom and Robert Ellis Jones (London, 1929)
13. *Le Roman de Brut de Wace*, ed. Ivor Arnold, 2 vol. (Paris, 1938, 1940), (SATF)
14. *Le Roman de Rou de Wace*, ed. A. J. Holden, 2 vol. (Paris, 1970, 1971)
15. *Chronique des Ducs de Normandie par Benoît, trouvère anglo-normand du XII^e siècle*, publiée pour la première fois d'après un manuscrit du Musée Britannique, 3 vol. ed. Francisque Michel (Paris, 1836)
16. *Chronicles of the Reigns of Stephen, Henry II, and Richard I*, ed. R. Howlett (Rolls Series, 1886)
17. M. Dominica Legge, *op. cit.* (2), p. 7.
18. *La Chanson de Roland*, ed. F. Whitehead (9th impression, Oxford, 1970)
19. *Charlemagne, An Anglo-Norman Poem of the Twelfth Century*, ed. Francisque Michel (London-Paris, 1836).
20. *Roland and Vernagu*, Ms. Auchinleck (Nat. Lib. Scotland, 19, 2, 1) : ed. S. J. Herrtage, (Oxford, 1882), (EETS, Es. 39) The English Charlemagne romances, pt. V.
21. *The Song of Roland*, Ms. Lansdowne 388 : ed. S. J. Herrtage, (Oxford, 1879), (EETS, Es. 35) The English Charlemagne romances pt. II.
22. *Charles the Grete*, Caxton's edition. 1485., ed. S. J. Herrtage, (Oxford, 1880) rpt. 1967.

- (EETS, Es. 36, 37) *The English Charlemagne romances* pt. III & IV.
23. (1) *King Horn, Floris and Blauncheflur*, re-ed. George H. McKnight (Oxford, 1901), (EETS Os. 14)
 (2) *The Romance of Horn by Thomas*, ed. Mildred K. Pope, 2 vol. (Oxford, 1955, 1964) [ANTS XII-XIII]
24. (1) *Le Lai d'Haveloc and Gaimar's Havelock Episode*, ed. Alexandre Bell (Manchester, 1925)
 (2) *The Lay of Havelok the Dane*, re-ed. W. W. Skeat (Oxford, 1868), (EETS Es. 4)
25. *Richard Coeur de Lyon*: MS. Auchinleck, Caius College, Cbg. 175: Critical ed. all MSS K. Brunner (Wien, 1913)
26. (1) *Fouke Fitz Warin, roman du XIV^e siècle*, ed. Louis Brandin (Paris, 1930) [CFMA]
 (2) *Fouke le Fitz Waryn*, ed. E. J. Hathaway, P. T. Ricketts, C. A. Robimson & A. D. Wilshire (*London*, 1975) [ANTS XXVI-XXVII]
27. *Song of Dermot and the Earl*, ed. G. H. Orpen (Oxford, 1892).
28. (1) *Gui de Warewic, roman de XIII^e siècle*, 2 vol. ed. Alfred Ewert (Paris, 1933) [CFMA]
 (2) *The Romance of Guy of Warwick, 15th Century Version*, ed. J. Zupitza, Pts. I & II. (Oxford, 1875), (EETS Es. 25, 26)
29. (1) *Der Festländische Bueve de Hantone*, ed. A. Stimming (Dresden, 1911)
 (2) *The Romance of Sir Beves of Hamtoun*, ed. E. Kölbing, Pts. I-III (Oxford, 1855-1894), (EETS Es. 46, 48, 65)
30. *Le Roman de Troye, par Benoît de Sainte-Maure, publié d'après tous les mss. connus*, ed. Léopold Constans 6 vol. (Paris, 1904-1912), [SATF]
31. *Le Roman de Thèbes, édition critique d'après tous les mss. connus*, ed. Léopold Constans 2 vol. (Paris, 1890), [SATF]
32. (1) *Le Roman de toute chevalerie*; by Thomas of Kent ed. B. Foster 2 vol. (London 1976-77), [ANTS XXIX-XXXIII]
 (2) *Kyng Alisaunder*, ed. G. V. Smithers 2 vol. (Oxford, 1952, 1957), (EETS Os. 227 237)
33. *Li Quatre Livres des Reis*, Die Bücher Samuelis und der Könige in einer franz. Bearbeitung des XII Jahrh. ed. E. R. Curtius (Halle, 1911), [Gesellschaft für romanische Literatur, XXVI]
34. *Libri Psalmorum Versio Antiqua Gallica*, ed. Francisque Michel (Oxonii, 1860)
35. *An Anglo-Norman Rhymed Apocalypse* with Commentary, from the Giffard MS. formerly in the possession of Sir John Fox and now in the Bodleian, ed. Olwen Rhys with a Historical Introduction by Sir John Fox (Oxford, 1946), [ANTS VI]
Apocalypse Anglo-Normande, Cambridge Trinity College MS R. 16. 2.
 ed. Y. Otaka & H. Fukui (Osaka, 1977) [CRAN]
36. cf. M. Dominica Legge, *op. cit.* cf. Johan Vising, *Anglo-Norman Language and Literature* (originally published in 1923, by Oxford University Press, rpt. London 1970)
37. *La Vie de Saint Alexis*, ed. C. Storey (Oxford, 1958)
38. *Le Mystère d'Adam, édition diplomatique accompagnée d'une reproduction photographique du ms. de Tours et des leçons des éditions critiques*, ed. Leif Sletsjöe (Paris, 1968)
39. cf. *Marie de France, Lais*, ed. A. Ewert (Oxford, 1969) Blackwell's French Texts.
Marie de France. Le Lai de Lanval, ed. J. Rychner (Paris, 1958), [TLF]
Béroul, Le Roman de Tristan, ed. E. Muret (Paris, 1970), [CFMA]
Thomas, Les Fragments du Roman de Tristan, ed. B. H. Wind (Paris 1960) [TLF]
Wace, Le Roman de Brut, op. cit. (13)

II アングロノルマン語の推移

——11世紀より15世紀まで——

II アングロノルマン語の推移

——11世紀より15世紀まで——

I アングロノルマン語の発達と衰退

イングランドでは、度重なるデーン人の侵入とその圧迫に抗するために、Æthelred 2世がノルマンディ公家の Emma と婚姻を結んだ時より、僅かながらもフランス語がこの地に根を下ろし始めていたと言えるであろう。'Unræd' (No-Counsel) という諱名のアゼルレッド王は、当時、ノルウェー王であり、デンマーク王をも兼ねていた Swein Forkbeard 王自らのひきいる船団の来襲に抗しきれず、遂に1013年、ノルマンディへと亡命した。

その後のイングランドにおけるデーン王朝 (1016-1042) 断絶の後、ノルマンディから帰国して即位した、アゼルレッドの王子 Edward 王 (位1042-66) は、一族や、多くのノルマン人を従えて海を渡って来た。青年期をノルマンディで過ごしたエドワード王は、言語、思想、感情もフランス的であったろうし、ノルマンの移住者たちはフランス本土におけるよりも優遇されたので、さらに多くの異邦人がイングランドに流れ込んだのであった。彼等は移住地の慣習や制度をさほど尊重しなかったと言われる。そしてフランス語 (Norman-French と呼ばれる) を使用していた。しかしこれは、Guillaume le Conquérant によるイングランド征服後に起こったフランス語伝播の、大きな勢いを恰も予告する、ほんの序曲に過ぎない。

ウイリアム征服王 (位1066-87) に続いて、多数の征服者たちがこの地に渡來した。数千人のフランス人（主にノルマンディ出身）が宮廷、裁判所、教会や学校の重要な地位につき、商人も London やその他の町に定住した。そして、クリュニー派やアウグスティヌ修道会の修道士が数多くイングランドに送り込まれた。ノルマン人の大小封建領主が次々とイングランドの土地を支配し、ウイリアム王が、ウェストミンスター寺院で英国王として戴冠してより20年後の1086年には、国内に存在する男爵領を所領する、英國人の領主は二人だけになってしまった¹という。

ノルマン・コンクエストの結果、イングランドの支配階級の多数がフランス大陸よりの移住者となつたために、フランス語は貴族の宮廷用語となつただけではなく、法律の用語となり、民衆を相手とする裁判の用語ともなった。こうして、フランス語の使用は急速に広まり、古英語の古い法律文はフランス語に、また、ラテン語に翻訳された。それは時代の要請であったのだ。

ここにウイリアム征服王の法律文書がある。これはイングランドにおいて、フランス語で作成された条文である。ノルマン・コンクエスト以後の英國を歴史的にアングロノルマンの時代と考えることが出来るが、ノルマン王朝成立以後の英國で用いられ続けたフランス語（最初は主にノルマンディ方言）は、大陸フランス語と異なる発達を遂げるので、これを言語学上、アングロノルマン語 (AN) とよぶのである。ウイリアム王の条文は、いうまでもなく、アングロノルマン語で作成された法律文の最初のものであった。

E s'il ne pot garant ne testimonie aver, si perderad e parsoudrad e pert son were vers sun seinur. Ceo est en Merchenelahge e en Denelahge. En Westsexenelahge ne vocherad il mie sun garant devant iceo qu'il seit mis en guage. En Denelahge mettrad l'om l'aveir en uele main, de ici qu'il seit derehdned;

II アングロノルマン語の推移

「当該者は、保証人を得ざれば、領主に対し、自己の財産を失うべし。これは Mercia 地域ならびに Dane 地域に於けるものなり。West-Saxon 地域に於いては、当該者の、保証人を得ざる前に、当該者を保証人として出廷させ得ることを得ず。Dane 地域に於いては、財産は末子に至るまで平等に分割せらるる。」この原文はやがて公文書用に、ラテン語に翻訳された。

司教や修道院長や、また、修道士が、英仏海峡を往来し、イングランドの学者たちも、フランスの司教座教会付属学校や、教会付属学校や、後には、パリ大学に学んだ。

ロンドンは商売に好都合な場所となつたために、ノルマンディの主要都市、Rouen や Caen に生まれた者は、ロンドンに移住して定住し、フランス語は商業界の言語ともなつた。このことは、現存する都市法や商業ギルドの条例が、全てフランス語ないしラテン語で書かれてあることによって知られる。⁵

Anjou 家よりイングランドの王が即位してからは南フランスのアンジュー領と Southampton のような海港との間に葡萄酒貿易が行われるようになり、⁶ フランス語は海洋貿易用語としても使用されるようになった。

また、12世紀末に発布された条令「侵奪不動産占有回復訴訟法」‘assize of noveldisseisin’ によって全ての自由民は、（主としてアングロサクソン以来の freeholders であるが、ノルマン人の貴族が支配階級になってからは、アングロサクソン時代の上流階級の者も多数この自由民になった）土地所有の権利を侵害された場合、領主の裁判所に訴訟をもち込むのではなく、王室裁判所に訴えることとなった。王の裁判所はフランス語を使用するのである。ゆえに、⁷ この条令はフランス語をイングランドの諸地方にまで広く行き亘らせるのに大いに役立ったのであった。

学校ではフランス語の教育が行われ、フランス人でない者も身分の高いものは手紙もフランス語で認めた。Oxford, New College の創設者、William of Wykeham はイギリス人にもフランス語で手紙を書いたという。⁸

次に Earl of Hereford であった Humphrey de Bohun が Henry 3 世に送った手紙の一節を紹介する。

Sacez, sire, ke icest Mardi feimes asembler la comune de Londres, e en la presence de tuz feimes lire vostre maundement; e quant nos lur avium diit ceo ke fut afere, asez s'en apaerent a noz avis. De autre part, sire, nus lur avium comande ke les chaenes ke furent remises ke ⁹ mentenaunt saunz delai seent abatues, e les clefs des portes rondues, e nul debat n'i trovames.

「陛下に言上奉ります。去る火曜日にロンドン市民を集合させ、全員の目前にて、王陛下の御命令を朗読致させました。致すべきことに就きましては、多くの者が我々に同意致しました。一方、再び繋ぎました鎖はこれを一刻も早く解き、城門の錠を潰すよう命じてございます。異議を申す者はございませんでした。」

ここには、後に詳記することであるが、アングロノルマン語の特徴がよく現われている。

AN はまた、祈禱や、讃美歌に用いられた。アングロノルマン語とラテン語を混用した祈禱もある。また、‘Mayden moder milde, Oiez cel oreysoun’¹⁰, と、このように、当時の英語と AN が混淆した祈禱も残っている。

明らかに素人の手になる、恋文風の散文のような小詩にも、AN に英語を交ぜて作ったものがみられる。

M., ma especiele,
Vus estes bone e bele;
Gardez qe vus seez lele

Aval la mamele,
 Ceo vus mand vostre abe de grant reverence.
 Loke nou that hit so be in obedience.
 Vus estes mout naturele
 Pur ceo l'en vus apele
 Mergerete la bele;
 Vus ne estes pas pucele
 Pur ceo qe vus estes frele,
 L'amour e le especialté
 Entre nous seit privé,
 Qe nul esclandre pusse lever.
 De ces vus pri e requer. ll. 1-15.

「親しきM.（マルガリト），善良で美しいお方，乳房の下を忠実に守りませ。尊き尊師がこれを貴女に申します。従順に，そうするように，気をつけなされ。貴女は大層素直なお人，それゆえ，美しいマルガリトと，人はいう。貴女は処女にあらぬゆえ，誘惑には，もろいお人だ。我々の愛情，そしてこの格別の間柄は，何の躊躇も起きぬよう，秘めやかにしておかねばなりませぬ。」

作者はかなりの要職にある聖職者らしい。Chaucer や Langland に非ずとも，顰蹙させられる程の厚顔破廉恥な僧侶の姿は，この時代的一面の現実であったようだし，このように巫山戯たフランス語も又然りであった。

イングランドにおけるアングロノルマン文学の隆盛を証明するものは，AN で書かれた写本の数である。宮廷や，教会，大貴族や小貴族が学問と文学を奨励したために，AN で書かれた多くの作品がイングランドに生まれた。これらは主に宗教文学，教訓文学，歴史，ロマンス，諷刺物語であり，抒情詩，劇詩，自然科学に関する作品も含まれている。

12世紀末葉に，イングランドで文筆活動を行った Hue de Rotelande は，彼の韻文物語 *Ipomedon* の冒頭で次のように言う：

「ラテン語で書いたから，叙述がまずいというのではありませんが，学のある者より俗人の方が多いのです。ラテン語は翻訳しなければ全然理解出来ない人達が沢山です。ですから私はできるだけ簡潔に，ロマンス語で話しましょう。そうすれば，学のある人も無い人も，分かって下さるでしょう。」

ロマンス語というのはもちろんフランス語のことであって，Rotelande の場合は，イングランドにおいて書かれた特徴をもった，アングロノルマン語のことである。

Ne di pas, q'il bien ne dit / Cil, qien latin l'ad descrit / Mes plus i ad leis ke lettres : / Si li latin
 n'est translatez, / Gaires n'i erent entendanz ; / Por ceo voil (jeo) dire en romanz / A plus brev
 (e)ment, qe jeo saurai, / Si entendrunt cleric e lai. ll. 25-32.

Roteland と同時代に活躍した Denis Pyramus による，*La Vie Seint Edmund le Rei* にも同じ趣旨の事柄が述べられてある。「私はこれをおしまいで，英語と，ラテン語から，訳した。フランス語でなら，立派な人々も，身分の低い人々も理解できるのだから。」

Translaté l'ai desque a la fin,
 E del engleis e del latin,
 Que en franceis le poent entendre,

II アングロノルマン語の推移

E (tut) li grant, e (tut) li mendre.¹³

ll. 3267-3270.

説教をフランス語(AN)で書くについての弁明もある。「学問のない者がしりごみすることのないように、私はラテン語をやめて、ロマンス語で申しましょう。」

Jeo larrei le latin sil dirrai en romanz; / Cil ki ne sunt gramaires ne seient pas dutanz.¹⁴
ll. 7-8.

フランスの女流詩人Marie de FranceはRouen近辺のVexin地方に生まれ、イングランドに渡り、Henry 3世に仕えてRotelandやPyramusと同時代に文筆生活をし、Shaftesbury尼修道院長となって他界した、と推定されているが、彼女も聖者伝*Espurgatoire Seint Patriz*の冒頭に、このように書き残している。「この書き物(ラテン語の本)にありますその伝を、ロマンス語に書きうつして、人々の記憶に留まるようにいたしましょう。」

Voeil en Romanz mettre en escrit, / Si cum li livre le nus dit, / En remembrance e en memoire;¹⁵
ll. 3-5.

ラテン語から、多くの人々の理解するロマンス語(AN)に訳すことは当時の文人のつとめであった。同じくMarie de Franceの抒情諱詩集*Lais*の序の一節から、当時の多くの文人たちが、きそってフランス語への翻訳を試みたという例証があげられる。「私はラテン語をロマンス語に訳しまして、何か良い話を書きたいと存じましたが、あれ程多くの方達が翻訳という仕事に携っておいでです。ゆえに同じ仕事を手がけましても、あまり評判は得られぬと存じました。」

Pur ceo començai a penser / De aukune bone estoire faire / E de latin en romauz traire; /
Mais ne me fust guaires de pris;¹⁶ / Itant s'en sunt autre entremis. / ll. 28-32.

このようにして、イングランドに広まっていったAN、またその文学は13世紀半ばにしてその最盛期に達するのであるが、この言語は、しかしながら、大陸フランス語とは異なる、島嶼フランス語となって、時代の経過とともに大陸フランス語との劈開を徐々に深めて行った。Marie de Franceは彼女自身敏感に、この言語の動向を感じ取っていた様子で、「私はマリイと申します。フランス生まれです。」¹⁷と、わざわざ自分が生粋のフランス生まれであると*Fables*の跋文に断わって物語を書いた。Guernes de Pont-Sainte-Maxenceによる*La Vie de Saint Thomas Becket*(1172-1176)の中にも、早くからMarie de Franceの趣旨と同じ言葉が見える。「私の言葉は良いのです、フランス生まれですから。」*Mis languages est bons, car en France fui nez.* l. 6165.¹⁸

フランス本土に生まれた作家は、自分の出生地に敢えて言及することによって、自身の言葉の良いこと、その正統性を暗に強調した。この種の発言は屢見られるようになり、イングランドにおいてフランス語(AN)を用いる文人たちには以後、自分たちの言葉と大陸フランス語との相違をますます判然と認識するようになってくる。

アングロノルマン語がこうしてイングランドに広まり、定着しながら、次第にその社会的優位を失ってゆく社会的原因としては、次のいくつかが挙げられるであろう。

(1) 13世紀初頭に、英国王John(位1199-1216)は、フランスのフィリップ尊厳王(位1180-1223)によって、ノルマンディ及びその隣接諸州を没収された。その結果、イングランドと大陸との生活は以前ほど緊密な関係を保ち得なくなってしまった。大陸におけるジョン王の領土没収という社会的不安はジョン王の領土に関係していた多くのフランス人をイングランドへ引きよせる結果となり、ジョン王も彼等を優遇

II アングロノルマン語の推移

した。その故もあって、13世紀のアングロノルマン文学は活発な盛況を呈するのであるが、この政治的事態は究極的にはAN、文学を衰退へと導くこととなった。

(2) Oxford大学がParis大学に較べて遜色のない名声を確立した。Robert GrossetestやDuns Scotusなどの優秀な教育陣容はイングランドの学者のパリ留学を事実上不必要なものにした。それはますます島嶼語であるANを孤立状態に置くことになったのである。

(3) 大陸との諸関係が変化し、イングランドの現状と将来性が更に大きく変化して、従来は主としてフランス語を話していた諸階級の人たちの間に英語が用いられるようになり、フランス語使用に反対する国民的動向が徐々に明確な形をとり始めた。例えば、ヘンリー3世のフランス一辺倒の政策（フランスから渡ってきた外国人による政治的支配）に対して1258年「オクスフォード改善案」（法令）が成立した。¹⁹ 王から不当に、土地や城を贈与されていた外国人（ポアトゥ人の貴族たち）は追放されたのである。ヘンリー3世は1258年には、フランス語と英語とによって布告を出した。エドワード1世（位1272-1307）は1295年の議会から、永続的にcommons（イギリス人の平民）も地方の代表として議会に召集した。教育界においては14世紀半ばまでフランス語が教育の手段に使用されていたが、Trevisa訳のHigden「万国史」*Polychronicon*の年代記によると、Merton College Schoolで文法を教えていたJohn of Cornwall²⁰はそれをフランス語によらず、英語で解釈させるようにしたという。²¹ 1347年にJohn Cornwallは6人の少年を教えていたらしい。これらはイギリスの国民性の覚醒であり、イギリス人による母国語、英語への復帰であった。

このような動向はしかし、直ちにANの衰退に連なったものではない。文学や法律や教育の分野ではフランス語がしっかりと根を下ろしており、英語はゆっくりとフランス語にとってかわったのである。

宮廷では英語を母国語とする最初の王、Henry 4世の治世まで、ANが用いられ続け、征服者の言語としての社会的威信を保っていた。Ranulf Higdenの「万国史」がその様子を物語っている。

「…故に貴族の子供たちは、揺籃で揺られている頃からフランス語を話すように教えられ、ガラガラの玩具で遊びながらフランス語を話すようになる。そして山家育ちの連中も、貴族の真似をしたがり、人に尊敬されるために、大いに努力してフランス語を話そうとする。」

Also gentil men children beeþ i-tauȝt to speke Frenſche from þe tyme þat þey beeþ i-rokked in here cradel, and kunneþ speke and play wiþ a childes broche ; and vplondisshe men wil likne hym self to gentil men, and fondeþ wiþ greet besynesse for to speke Frenſce, for to be i-tolde of. (Trevisa's translation)

英語の方言は多種多様であったからANは便利な共通語として用いられ続けたのである。「…というのは、Kentの人であれ、南部であれ、西部であれ、北部の人であれ、フランス語ならば発音も、言葉も同じように話すが、母国語の英語ならば、そうはできない。」ANの特殊性を示す、このような言葉もHigden「万国史」にみられる。

...for a man of Kente, southern, western and northern men spoken Frenſſhe al lyke in sowne and speche ; but they can not speke theyr Englyssh so.²²

ここで、ひとまず、我々はアングロノルマン語の時期的区分にも留意せねばならない。ANの歴史は主要な2時期に分かれる。

§ 第1期は即ち発展期であって1250年頃までに至る。

それは、フランス本土との社会的関係の変動がフランス語使用に影響を及ぼし始め、イギリス人の間に、イギリス人としての自覚が生まれ、英語使用への積極的動向が明確な形をとり始めた時期までである。

II アングロノルマン語の推移

この時期には AN は、フランス語の一方言とみなしえる。この言語が蒙った特殊な諸条件によって段々と変化したとは言え、世代から世代へと受継がれた、生きた地方的言語形態をもっている。

発展期はさらに1120年頃を境に、2分することができる。前半は、フランス西部方言と殆どかわらず、征服者とその子孫との言語であった。後半は、12世紀前半から13世紀前半までであって、AN が、混血家族や純粋のイギリス系の人々によても、広く使用され続けた時期である。この時期に AN は英語の言語習慣による影響と、島嶼語として置かれた孤立状態という立場のために、かなり獨得の発展形態を示している。イングランドの島がフランス大陸の様々な地方と政治的、商業的関係を保つようになり、フランスの様々な地域の言語がイングランドに持ち込まれた。この言語の雑多な状態は孤立した島嶼語の不安定性を高めた要因でもあった。

§ 第2期は衰退期であって1250年頃より15世紀初頭に至る。

この時期に AN はその基盤から切り離され、使用をますます制限され、誰の母語でもなくなり、常に習得されるべき言語となつた。音と形を無差別に使用するという特徴をもつたこの島嶼 AN 語は、大陸フランス語との劈開をますます広げたのであった。²⁴

一人のイギリス人僧侶が書いた、13世紀の *Poème sur l'Antechrist et le Jugement dernier* には、フランス語に自信のないことがくどくどしく述べられてある。

「私はロマンス語で物語を作ったり、説教をラテン語から訳したりよう致しませぬ。と申しますのは、私はパリにも、サン・ドニの修院にも、おりましたことがございませんのでして。そうでございますゆえ、私がロマンス語で上手に語れませんでも、誰方もお咎め下さいますな。」

Je ne sai guers romanz faire / Ne de latyn ma sermon traire, / Car jeo ne fu unques a Parys / Ne al abbaye de saint Denys, / Pur ceo nul homme ne me doit blamer / Si jeo ne sai mye bien roumauncer;²⁵

13世紀後半に書かれた、*Life of Edward the Confessor* にも興味深い一節がある。

「私が文法の規則を守らなくとも、規則にかかわらなくとも、非難されることはありますまい。どうすることもできないのですから。ラテン語では主格のものをロマンス語では対格にいたします。私の知っておりますのは、イングランドのまやかしフランス語でございます。それを学びに、よそへ参りませんでしたもの。けれど、他国で言葉を習われた貴方様は必要とあれば、これをお直し下さいませ。」

この序文は断片で残っているだけであるが、女性が書いたものである。AN に対する絶望的な口調が読みとれる。

Si jeo l'ordre des cases ne gart,
Ne ne juigne part a sa part,
Certes nen dei estre reprise,
Ke nel puis faire en nule guise.
Qu'en Latin est nominatif
Co frai romanze acusatif
Un faus franceis sai d' Angletere
Ke nel alai ailurs quere,
Mais vus ki ailurs apris l' avez,²⁶
La u mester iert, l' amendez.

ll. 41-50.

II アングロノルマン語の推移

Wilham de Wadinton も13世紀末の作品、*Manuel des Péchéz*において同様の弁解をしている。

「フランス語で韻文を踏めませぬが、誰方もお咎めなきように。イングランドに生まれ育ち、秘蹟を受けた者でありますゆえ。」

De le français ne del rimer / Ne me dait nuls hom blamer, / Kar en Engletere fu né / E nurri
lenz e ordiné.²⁷ /

この頃、英語勢力挽回を特に意図して書いた書物も多い。14世紀にノーサンブリアで書かれた *Cursor Mundi* の作者は言った。「この書物は英語で読むよう、イギリス人のために、メリーランドのイギリス人、世俗の人々にわかるよう英語に訳した。われわれはふつう、この国で、フランス語の韻文を読むが、それはフランス人のために作られたもの。フランス語のわからぬ者には何の役にたとう。イングランドの国民は、一般にイギリス人なのだ、その人達のよく分かる言葉で、大方話す必要がある。」

þis ilke boke es translate, / vnto engliss tung to rede / For þe luue of englijs lede, / Engliss
lede of meri ingeland / For þe comen to vnþerstand. / Frenkis rimes here i rede / Comunli in
ilka stede; / Mast es it wroght for frankis man: / Quat is for him na frankis can? / Of Ingland
the nacion, / Es Inglis man þar in commun; / þe speche þat man wit mast may spedē, / Mast
þat-wit to speke war nede; (ll. 232-244.)²⁸

14世紀末の *Speculum Vitae* では、William of Nassington が、何故英語で著述するかという理由を長々と説明している。「私としばらくおつき合い下さいますなら、英語でお話し申しましょう。ラテン語などは使わずに、皆さんのお話す英語で、イングランドに生まれた者なら誰にも分る英語で語りましょう。この言葉はお偉い方も世間の人も、たいがい使います。まこと、ラテン語は、学校で習った者しか分かりません。宮廷に出入りし、その中にいる者にはフランス語が分かり、ラテン語の分からぬ人たちがおります。また、ラテン語が少々、フランス語は覚束ない者もおります。しかしラテン語もフランス語も分からぬ者でも、英語はよく分かる人たちがおります。学者もそうでない人も、老いも若きも、皆、英語は理解します。ですから、たしかに、われわれは誰でも分かるその言葉を、つまり学者でない人々、世間一般の人たちのために使おうと思います。」

In English tonge I schal ȝow telle, / ȝif ȝe wyth me so long wil dwelle. / No Latyn wil I speke
no waste, / But English, þat men vse mast, / þat can eche man understande, / þat is born in
Ingelande; / For þat langage is most chewyd, / Os wel among lerid os lewyd. / Latyn, as (ms.
al) I trowe, can nane / But þo, þat haveth it in scole tane, / And somme can Frenche and no
Latyn, / þat vsed han cowrt and dwellen þerin; / And somme can of Latyn a party, / þat can
of Frenche but febly; / And somme understoned wel Englysch, / þat can noþer Latyn nor
Frankys. / Boþe lerid and lewed, olde and ȝonge, / Alle vnderstonden english tonge; / þer fore
I holde most syker þan, / We(ms. Wo) schewe þat langage þat eche man can, / And al for
lewed men namely, / þat can no maner clergy. (ll. 61-82)²⁹

対岸のフランス大陸では、13世紀に、当時のイングランドで使われていたフランス語(AN)を揶揄した作品が現われていた。かの人気を博した「狐物語」*Le Roman de Renart*の中でも、イギリスの旅芸人に化けたルナール狐の滑稽なアングロノルマン語が誇張されて、描き出されている。ルナールの言葉には、ANの特徴とみなされている、語末音の脱落(e.g. *Sir, Angleter*における語末の一^e), 語頭音の消失(e.g. *pris*, における語頭音aーの消失), 母音の混同(üと(u>)o, e.g. *fot,*), 性の誤り(e.g. *ta raison*の代りに *ton raison*), 動詞活用(e.g. *m'ansaing, avra, trover, fout*), 鼻子音mとnの混

用 (e.g. compaing の代りに *conpaing*), 文章法上の誤りなどがあり, それらは次の引用文中に見ることができる。(イタリック体筆者)

ll. 2402-2416.

Ez vos Renart qui le salue;
 « Godehere, fait il, bel *sir*,
 ne sai rien de *ton* raison dir.
 —Et Diex vos saut, fait il, amis,
 dom estes vos? de quel païs?
 vos ne futes pas nez de France
 ne de la nostre connoissance.
 —Naie, seignor, mes de Bretaign,
 s'avra tot perdu mon gaaing
 et fot cerchié par men *conpaing*,
 ne trover neant que *m'ansaing*.
 Toute France et tote *Angleter*
 fout cerchié por mon *conpaing* quer;
 si voil Paris torner ainçois.
 tant avrai mout bien pris françois,³⁰

また, 13世紀の Fabliaux に *De deux angloys et de l'anel* という話がある。病人が多少元気になり, 丸々とした羊の体が食べたいというので友達はさっそく小羊の肉を買求めに出かけるが, 羊という発音ができない。(即ち硬口蓋音 gn [n] はアングロノルマンに残らなかった音である) agnel と言っているつもりだが, asnel の肉が欲しいのだと肉を売る相手は合点し, それなら, と友人は小羊肉ならぬ驢馬の肉を買わされる破目になった。さて, イギリス人がフランス語を話すとこのような次第, というわけでアングロノルマン風のフランス語がからかわれているのである。³¹

14世紀になると, イングランドでは, フランス語の学習が奨励された。オクスフォードの学生は, フランス語又はラテン語を話すよう定められ, 大学側もフランス語教育を奨励した。³² 13世紀の末, Canterbury や Westminster のベネディクト派修道院の修道士たちは学校と修院回廊ではフランス語またはラテン語で会話をするように規定されたという。³³ Merton College School では, 14世紀半ば, John Cornwall が少年たちに, 文法を英語で解釈させたのであったが, 1340年に創立されたオクスフォードの Queen's College の学寮では, 少年たちは, 絶えずラテン語か, フランス語で話しているように躰られていた。³⁴

政治的な見地からもフランス語の習得は必要であった。カペー王朝のシャルル4世が男嗣なく身罷った後, エドワード3世が王位継承権を主張して英仏百年戦争を発発させた時期である。エドワード3世の1332年の議会においては, フランス語を習得させるように, と定められたのであった。

「諸侯, 豪族, 騎士および立派な町の立派な人たちは全て, 子供たちにフランス語を教え, 学ばせるように鋭意専心し, それによって子供たちが, 戦争に対して一層の心構えを持ち, 一層役に立つができるように, と命じられた。」

Encorres fu-il ordonné et arresté que tout seigneur, baron, chevalier et honnestes hommes de bonnes villes mesissent cure et dilligence de estruire et apprendre leurs enfans le langue françoise par quoy il en fuissent plus able et plus coustummier en leurs gherres.³⁵

II アングロノルマン語の推移

既にこの時期には、イングランドに根を下ろしていた AN は大陸フランス語から隔絶した、島嶼語の色彩を強く帶びていた。そして、それは最早真に生きた言語ではなかった。貴族、上流市民階級、聖職者および法律家という一定の階級間で使われ、諸規則、公の記録の作成や、書簡に使われていたこの言語は、この時期には、学習し、教えられねばならぬ言葉となっていた。

II 中世イングランドのフランス語教本

貴族の幼い子供たちが「しっかりとフランス語を学ぶために、」... pur ben apprendre, / En fraunceis....³⁶ l. 216.と、13世紀末に作られた教科書が残っている。子供たちだけではなくイギリスのために、フランス語教本は必要であった。フランス語をイングランドで教えるための‘manual’などは、恐らく、この時期よりも尚早い頃から作られてあったものと推察される。³⁷しかし、13世紀より14世紀にかけて現われたフランス語教本は相当の数に上ったらしい。この時期においては、衰退した島嶼語をよいフランス語へと復帰させるために、正字法論や文法論も書かれたのであった。現存する、フランス語教本に関する写本は概ね、13世紀より以後に作られたものである。³⁸

1923年にオクスフォードより刊行された、アングロノルマン語、文学についての概説書 *Anglo-Norman Language and Literature* は、斯界の碩学 John Vising の手になる文献であって、この書の目録には、当時のイングランドで書かれた、フランス語教本に関しての、現存する写本が記されており、それらの刊本、研究書が挙げられてある。以下、Vising を参照しながらそれらを詳解しよう。(University of London, Anglo-Norman Text Societyにおいて、1992年度より Vising 目録の増補改定版上梓が計画され作業は現在進行中である。)

The Thirteenth Century:

1. (321) (viz. Vising's catalogue number) *De Utensilibus*, Latin treatise with AN glosses by Alexander Neckam (d. 1217)
 - 1) Hunt, Tony “Les Gloses en langue vulgaire dans les manuscrits du DE NOMINIBUS UTENSILIUM d'Alexandre Nequam”, *Revue de Linguistique romane* XLIII. 1979, pp. 235-62.
 - 2) Wright, T. in *A Volume of Vacabularies*, London, 1837, p. 96.
 - 3) Scheler, ed. “Trois Traité de Lexicographie latin du XII^e et XIII^es.”, *Jahrbuch für romanische und englische Literatur*, vii, p. 58.
British Library, MS Titus D xx (XIII)
Oxford, St. John's College, MS 178
Oxford, Bodley, MS Digby 37
Oxford, Bodley, MS Rawlinson G 99
Cambridge, Trinity College, MS O. 7. 9 (XIII)
Bibliothèque Nationale, fonds lat. MS 217 (XVI), fonds lat. MS 7679 (XV)
2. (322) *Latin Glossary with AN Glosses*. c. 1200.
 - 1) Gröber, “Strassburger Festschrift Phil. und Schulmanner Altfranzösische Glossen”, *Festschrift zur XLVI Versammlung deutscher Philologen*, 1901, p. 39. seqq.
Hunt, Tony “The Vernacular Entries in the GLOSSAE IN SIDONIUM (MS Oxford Digby

172)" *Zeitschrift für französische Sprache und Literatur* LXXXIX 1979, pp. 130-150.
Oxford, Bodleian, MS Digby 172

3. (323) *Latin-French Glossary* (1st half of XIII)

- 1) Extr. Meyer, P. in *Jahrbuch für romanische und englische Literatur*, VII, 37. also in *Docum. manuscrits*, p. 123.
Glasgow, Hunterian Museum, MS R. 7.14 (middle XIII)
Ewert, Alfred "The Glasgow Latin-French Glossary", *Medium Aevum* XXV, pp. 154-163.

4. (324) *Legal Terms*, a short list (Middle XIII)

- 1) Wright, T. & Halliwell, J.O. *Reliquiae Antiquae*, vol. 1, 1841, p. 33.
British Library, MS Cotton Jul. D vii (f. 127) (c. 1250), MS Cotton Galba E iv (f. 46) (1285-1330)

5. (325) *Plant Names*, Latin-French-English list (middle XIII)

- 1) Wright, T. & Halliwell, J.O. *Reliquiae Antiquae* i, 1841, p. 36.
- 2) Wright Thomas and Wülcker, R.P. ed. *Anglo-Saxon and Old English Vocabularies*, i, London, 1884, p. 553.
British Library, MS Harley 978 (2nd half of XIII)

6. (326) *Nominale*, Latin-French.

- 1) Hunt, Tony "The Anglo-Norman vocabularies in MS Oxford Bodleian Library Douce 88" *Medium Aevum* LXIX, 1980, pp. 5-25.
Oxford, Bodley Library, MS Douce 88 (late XIII)
The MSS not mentioned in Vising, are:
Oxford, Magdalen College, MS 188 (f. 5r, 7r) nominale, Latin-French-English.
Oxford, All Souls College, MS 182 (f. 322r-323r, 327, 331)
British Library, MS Harley 219 (f. 152v) proverbs
British Library, MS Stowe 57 (f. 156, f. 158) c. 1200.

7. *Grammatical Treatise* (early XIII)

- 1) Meyer, P. *Romania* XXXII, pp. 65-66. Another Latin treatise on conjugation Cambridge,
- 2) Södergard, Östen "Le plus ancien traité grammatical français" *Studia Neophilologica* 27, 1955, pp. 192-4.
Trinity College, MS. R. 3.56 (XIII) ff. 49^v-50^r

8. *Tractatus Orthographiae* of T. H. Parisii Studentis,

- 1) Pope, M.K. "The 'Tractatus Orthographiae' of T. H., Parisii Studentis", *The Modern Language Review*, Vol. 5, 1910, pp. 185-193.
British Library, MS Addit. 17716 end of (XIII) ff. 88^r-91^r
The Fourteenth Century

9. (327) *Nominale sive Verbale*, 888 ll. mostly rhymed, with English translation (End of XIII)
 - 1) Skeat, ed. *Transactions of the Philological Society*, 1903.
Cambridge, Univ. Library MS Ee 4.20 (about 1340)
 - 2) Ewart, Alfred "A fourteenth-Century French Nominale", *Medium Aevum* III, pp. 13-18.

10. (386) *A Treatise on the French Language* (with special treatment of homophones) about 1140 ll., by Walter de Bibbesworth, c. 1300.
 - 1) Wright, T. and Halliwell, J.O. *Reliquiae Antiquae*, ii. 78.
Cambridge, Univ. Library, MS Gg 1.1 (early XIV) ff. 279^{va}-294^{rb}
Cambridge, Trinity College, MS B. 14-40 (XV) ff. 88^r-146^v
British Library, MS Roy 13 A iv (XIII-XIV) fragment, MS Cotton Vesp. A vi (XIV),
MS Harley 490 (XIV) fragment, MS Harley 740 (XIV), MS Arundel 220 (early XIV)
ff. 299^r-305^r MS Sloane 809 (XIV), MS Sloane 513 (XIV) ff. 139^v-153^v
Oxford, Bodley Library, MS Selden supra 74 (XIV) fragment
Oxford, Bodley, MS 39 (XIV) fragments
Oxford, All Souls College, MS 182 (XIV) ff. 331^r-340^r
Cambridge, Corpus Christi College, MS 450 (XIV) ff. 241^r-251^r
Cambridge, Trinity College, MS O. 2. 21 (early XIV) ff. 120^r-133^v
British Library, MS Addit. 46919 (1st half of XIV) ff. 2^r-14^v
Cheltenham, MS 8188 (Bibliothèque Nationale nouv. acq. lat. MS. 699) ff. 92^r-107^r
 - 2) La Rue, Abbé de. (Extr.) *Essais historiques sur les Bardes, les Jongleurs et les Trouveres normands et anglo-normands*, Caen, 1834.
 - 3) Michel Francisque *Rapports à M. le Ministre de l'Instruction Publique sur les anciens Monuments de l'Histoire et de la Littérature de la France*, 1838, p. 14.
 - 4) Palsgrave, J. *Lesclarcissement de la Langue Francoise*, 1530; reprinted by Génin in *Documents inédits de l'histoire de France*, Paris, 1852.
 - 5) Meyer, P. *Recueil d'Anciens Textes*, Paris, 1887 p. 360. also in *Romania* XIII, p. 502, *Ronamia* XXXII, p. 44.
 - 6) Onions, C. T. in *Times Literary Supplement*, 1922 Apr. 6, p. 228.
 - 7) Owen, Annie ed. *La Traité de Walter de Bibbesworth sur la langue française*, Paris, 1929.
 - 8) Fukui, Hideka ed. "A Treatise on the French Language by Walter de Bibbesworth"
Journal of OTEMAE Women's University X, XV, 1976, 1981, pp. 1-39, pp. 23-58.
 - 9) Rothwell, William ed. *Walter de Bibbesworth: Le Tretiz*, Anglo-Norman Text Society, *Plain Texts Series* 6. London, 1990.

11. (387) *Orthographia Gallica*, Latin prose treatise with AN examples and rules (1st half of XIV)
 - 1) Stürzinger, J. ed. *Orthographia Gallica: Ältester Traktat über Französische Aussprache und Orthographie*, Altfranzösische Bibliothek, VIII, 1884, rpt. 1968.
 - 2) Johnston, R. C. ed. *Orthographia gallica* (ANTS plain Texts Series 5) 1987.
London, Lincoln's Inn Library, MS Misc. 178 (XIV) ff. 215^r-216^v

- Oxford, Bodley, Rawlinson MS C 507 (XIV) pp. 106-8.
 Cambridge, Corpus Christi College, MS. 335 (XV) (f. 132^r, f. 132^v)
 British Library, MS Harley 4993 (XVI) f. 22^r
 Cambridge, Univ. Library, MS Ee 4. 20 (about 1340) ff. 152^v-154^v
 Oxford, Magdalen College, MS 188 (XV) ff. 1^r-4^v
 Dublin, Trinity College, MS 605 (E. 5. 13) (XV) pp. 427-435.
 Warminster, Longleat House MS 37 (XV) ff. 70^r-72^v
 British Library, MS Sloane 513 (XV) f. 139^r
 British Library, MS Harley 4971 (XIV) ff. 4^r-6^v
12. (388) *Tractatus Ortographie Gallicane*, Latin prose treatise with AN words and phrases, by Coyfurelly (End of XIV)
 1) Stengel, E. ed. "Tractatus ortographie gallicane per M. T. Coyfurelly", *Zeitschrift für neufranzösische Sprache und Literatur*, 1879, 1. pp. 16-24.
 Oxford, All Souls College, MS. 182 (XIV) ff. 340^v-344^r
13. (389) *Manière de Langage*, phrase-book
 1) Meyer, P. "La Manière de Langage qui enseigne à parler et à écrire le français", *Revue Critique d'Histoire et de Littérature*, 1873, pp. 373-408.
 British Library, MS Harley 3988 (XIV) ff. 1^r-26^r
 British Library, MS Addit. 17716 (XV) ff. 101^r-106^r
 Oxford, All Souls College MS 182 (XIV) ff. 305^r-316^r 372^r-373^r
 Cambridge, Univ. Library MS Dd 12. 23 (early XV) ff. 7^v-13^r
 Cambridge, Univ. Library MS Ii 6. 17. (XIV)
 Cheltenham, MS 8188 (Bibl. nat. nouv. acq. lat. 699)
 2) Stengel, E. "Manière de Langage", (Short continuation) *Zeitschrift für neufranzösische Sprache und Literatur*, 1, pp. 6-15.
 3) Extr. Meyer, P. *Romania* XV, pp. 262-63.
 also mentioned in *Romania* XXXII, p. 59.
14. Treatise on Courtesy
 1) Parsons, H. Rosamond. *Anglo-Norman Books of Courtesy and Nurture* Oxford, 1929.
 2) Stengel, E. "De Courtoisie" *Zstf. für französ. Spr. und Lit.* XIV, 1892, p. 151.
 3) Nicholls, J. W. *The Matter of Courtesy* Suffork, 1985.
 Oxford, Bodley, MS Selden supra 74 (XIII) ff. 33^v-35^v
 Oxford, Bodley, MS Douce 210 (c. XIII) ff. 43^r-45^r
 Oxford, Bodley, MS 39 (end of XIII) fragment
 Oxford, Bodley, MS 425 (XIV) ff. 107^r-113^v Contains: "Edwards, entendez bonement", (332 lines) "Bon enfant doit a son lever" (89 lines) "Urbain le Courtois" (136 lines)
 Oxford, Bodley, MS 9 (c. 1430) Contains: "Urbain" (128 lines) ff. 55^v-58^r "L'aprise de Nurture" (237 lines) ff. 61^v-67^r "Un Petit Traitise de Nurture" (190 lines) ff. 81^v-85^v

II アングロノルマン語の推移

Cambridge, Trinity College MS O. 1.17 (XIV) "Urbain" (146 lines) ff. 265^r-266^r

Cambridge, Trinity College MS B. 14. 39-40 (XV) ff. 129^r-138^v

"Urbain" は *Femina nova* の中にも収められてある。De moribz infantis と小見出しが付され
てある14行目から *Urbain le Courtois* が始まる。

15. (391) *Treatises on AN Epistolography, with Examples (partly of the XV)*

- 1) Uerkvitz, W. *Tractate zur Unterweisung in der anglo-normanischen Briefschreibekunst*, Greifswald, 1898.

Cambridge, Univ. Library, MS Ee 4. 20 (about 1340) (letters from 1327-1340, based on
formularies drawn up by a teacher Thomas Sampson) Univ. Library. MS. li 5. 17 f. 98v,
f. 100r)

British Library, MS Addit. 17716 (letters, first half of the XIV cent.) 94^v-99^v

British Library, MS Harley 4971 (letters from 1396-99) 13^r-22^v

Oxford, All souls College, MS 182 (letters from 1400-8) ff. 344^{ra}-359^v

British Library, MS Harley 3988 (XV) (letters from the first quarter of the XV cent.)
ff. 27^v-67^v

Oxford, Magdalen College, MS 188 (f. 8r, 8v)

Cambridge, Trinity College, MS B. 14. 39-40 (XV) ff. 162^r-177^r

The Fifteenth Century :

16. *Liber Donati*

A fifteenth-Century Manual of French

- 1) Merrilees, B. Sitarz-Fitzpatrick, B. ed. "Liber Donati: A fifteenth-Century Manual of French" *Anglo-Norman Text Society, Plain Texts Series* 9. London, 1993.
- 2) Stengel, E. "Donat françois" *Zeitschrift für neufranzösische Sprache und Literature* 1. pp. 25-40.

Cambridge, Univ. Library, MS Dd. 12. 23 (XV) ff. 1^r-13^r

Cambridge, Univ. Library, MS Gg. 6. 44 (XIV) ff. 19^r-30^r

Cambridge, Univ. Library, MS Ee. 4. 20 (XIV) ff. 154^r. 160^{r-v}, 165^r-166^r. 当該 MS には
Thomas Sampson の model letters や dictaminal treatises も収まっている。

Liber Donati は grammatical section と dialogue section とを含むものであるが写本により
どちらかが欠けていることもある。

Oxford, All Souls College, MS 182 (XV) ff. 316^v-321^v, 361^r-363^r. John Barton による
Donat françois が収録されている。

17. (401) *Femina*, (so named 'quia sicut femina docet infantem loqui maternam sic docet iste liber iuvenes rethorice loqui gallicam'), about 600 four-line stanzas, consisting throughout of two lines of French alternating with two lines of the English equivalent. c. 1400.

- 1) Wright, W. A. ed. *Femina*, 1909.

Cambridge, Trinity College, MS B. 14. 39-40 (XV) ff. 88^r-146^v

18. (402) *Dialogues, Inn Dialogues.*

- 1) Meyer, P. *Romania*, XXXII, 49.
- 2) Extr. in Stürzinger, *Orthographia Gallica*, p. xv.
British Library, MS Addit. 17716 (XV)
Cambridge, Univ. Library, MS Dd. 12. 23 (early XV)
Cambridge, Univ. Library, MS li 6. 17 (late XV) (f. 100^v f. 106^r)
The Grenville's Libraly, MS 7570 (Dialogues of W. de Word)

以上を大別すると、現存する、これらフランス語教本は、(1)語彙集 (2)文法書 (文字論) (3) 会話作文教本 (4)書簡文範に分けることが出来る。

語彙集 (Nominalia) の中で最も良い教本として残っているものに Walter de Bibbesworth が書いた、貴族の子供にフランス語を教えるための書がある。13世紀末、よいフランス語を覚るために、と書かれたこの ‘treatise’ には、AN の多くの特徴を見出しえる。教本そのものが、大陸フランス語の正統フランス語ではない、アングロノルマン語で書かれてあるのである。

中世英文学に輝かしい業績を残した Geoffrey Chaucer は、晩年の作、*The Canterbury Tales* の中で、カンダベリー寺院への巡礼の一人、上品な Prioress, 尼僧修道院長の堪能なフランス語を揶揄して、彼女のフランス語は ‘Stratford atte Bowe’ の流儀であって、パリのそれではないと言及した。礼節正しく、つつましやかな Madam Eglantine は、恐らく、ベネディクト派の修道院で話されていた、AN を習い覚えたのであろう。

ウイリアム征服王以来、イングランドのフランス語として使用してきた、アングロノルマン語の特徴はどのようなものであるのか、現存するフランス語教本および文学作品から資料を得て、その言語的発展と、衰退のあとを辿り、また、どの様な種類の語彙、どのような文体が現実であったのかその一端を明らかにしたいと思う。正綴教本、文法書、語彙集、会話作文教本、教訓書、書簡文範より主要な教本を紹介しつつ問題点を詳解してゆく。

注

- 1 F. M. Stenton, *Anglo-Saxon England*; *The Oxford History of England* (Oxford, 1943), pp. 617-618
- 2 歴史上の区分から言えば、Anglo-Norman England という名称を使用し得るのはノルマン王朝の終わり、1154年までであろう。しかし、アングロノルマン文学史から見ると、アングロノルマン文学が開花するのは、ヘンリー1世時代である。アンジュー王朝にその最盛期を迎えて、文学作品の創造は15世紀初頭まで続く。³⁹
- 3 15世紀に至るまでイングランドで用いられたこの言語を総称してアングロノルマン語という。この言語に対して、中世では種々の名称があった。即ち、lingua gallica, Gallicana, lingua romana, idioma gallum, franceis, などである。現代においても、この言語を時代的に二期に分け、前期を Anglo-norman, (13世紀に至るまで)後期を Anglo-French と呼んで区別することもある。これらの名称に関する論文は、L. M. Menger, *The Anglo-norman Dialect* (New York, 1904), p. 4. および、P. Studer, *The Study of Anglo-Norman*, (Oxford, 1920), pp. 4-16. を参照のこと。
- 4 J. E. Matzke, *Lois de Guillaume le Conquérant, en français et en latin, texte et étude critique* (Paris, 1899) p. 19.
- 5 P. Studer, *The Oak Book of Southampton*, I (Southampton, 1910) pp. xii-xv.
- 6 *Ibid.*, *Supplement*, pp. 8-9.

II アングロノルマン語の推移

- 7 F. Pollock, & F. W. Maitland, *The History of English Law*, I (Cambridge, 1895) rpt. 1968, pp. 83-84.
- 8 A. L. Leach, *The School of Medieval England* (London, 1915) rpt. 1969, p. 181.
- 9 F. J. Tanquerey, *Recueil de Letteres Anglo-Françaises*, 1265-1399, (Paris, 1916) p. 1.
- 10 David L. Jeffrey and Brian J. Levy ed. *The Anglo-Norman Lyric*, Canada 1990, pp. 41-43. cf. J. Vising, *Anglo-Norman Language & Literature* (Oxford, 1923) rpt. 1970, p. 58.
- 11 P. Meyer, "Mélanges Anglo-Normands," *Romania*, 38 (1909) pp. 434-35.
- 12 E. Kölbing und E. Koschwitz, *Hue de Rotelande's Ipomedon*, Ein französischer abenteurroman des 12 jahrhunderts. (Breslau, 1889) p. 1.
- 13 F. L. Ravenel, ed. *La Vie Seint Edmund Le Rei, an Anglo-Norman poem of the twelfth century* by Denis Pyramus, Bryn Mawr College Monographs, Monographs Series 5 (Philadelphia, 1906), p. 151.
- 14 A. Gabrielson, *Le Sermon de Guischart de Beaulieu, édition critique d'après tous les mss. connus* (Leipzig, 1909) p. 3.
- 15 T. A. Jenkins, ed. *Espurgatoire Seint Patriz* by Marie de France (Geneve, 1974) Slatkine rpt. p. 53.
- 16 A. Ewert, ed. *Marie de France LAIS* 18th ed. (Oxford, 1969) p. 1.
- 17 A. Ewert, ed. *Marie de France FABLES* (Oxford, 1966) p. 61.
- 18 E. Walberg, ed. *Guernes de Pont-Sainte-Maxence, La Vie de Saint Thomas Becket* (Paris, 1964) [CFMA], p. 190.
- 19 M. Powicke, *The Thirteenth Century 1216-1307: The Oxford History of England* (Oxford, 1953) p. 140.
- 20 Ranulph Higden, "Polychronicon," trans. Trevisa in *Rerum Britannicarum Medii Ævii Scriptores*, Rolls Series, 41. 2 (London, 1869) rpt. 1964, p. 161.
- 21 Leach, p. 196.
- 22 Higden, p. 159.
- 23 *Ibid.*, p. 161.
- しかし、フランスの本国では、イングランドの国と同様に多種多様のフランス語があることにも言及している。
- 24 M. K. Pope, *From Latin to Modern French with Especial Consideration of Anglo-Norman* (Manchester, 1934) pp. 424-426.
- 25 P. Meyer, ed. "Poëme sur l'Antechrist et le Jugement dernier", *Romania*, 29 (1900) p. 80.
- 26 A. T. Baker, ed. "Fragment of an Anglo-Norman Life of Edward the Confessor," *MLR*, 3 (1907-8) p. 374.
- 27 Wilham de Waddington, *Manuel des péchés*, quoted by J. Vising, p. 27. British Library MS Harley 4971 ff. 93^r-108^v.
- 28 R. Morris, ed. *Cursor Mundi, A Northumbrian Poem of the XIVth Century.* [EETS Os. 57. I] (London, 1874) rpt. 1961, pp. 21-23.
- 29 J. Ullmann, ed. "Speculum Vitae," in "Studien zu Richard Rolle de Hampole," *Englische Studien*, 7 (Heilbronn, 1884) rpt. 1967, p. 469.
- 30 Mario Roques, ed. *Le Roman de Renart, première Branche, Jugement de Renart* (Paris, 1970) [CFMA] p. 81.

そこでルナール狐は会釈した。「御気嫌よう、大将、旦那の仰有ることは分かりかねますが。」イザングラ
ンが答えた。「神のお救いを！ 兄さんは何処のお人で、何処の國から来なすった、フランス生まれじゃない
ようだ。知っている所でもないね。」「いや、その通り、旦那衆、ブルターニュの者でして。儲をすっかりす
って仲間に追われていますんです。しかし、あたしの手がかりは何もありやいたしません。フランス中、イ

II アングロノルマン語の推移

ングランド中、仲間は隈なく探したんですがね。あたしはパリに戻り、フランスことばを立派に会得してえと思つります。」

- 31 A de Montaiglon, et G. Raynaud, "De deux angloys et de l'anel", *Recueil général et complet des FABLIAUX des XIII^e et XIV^e siècles* tome II. Paris 1877, pp. 179-182.
- 32 H. Rashdall, *The University of Europe in the Middle Ages*, III (Oxford, 1895) rpt. 1969, pp. 162-63.
- 33 *Customary of the Benedictine Monasteries of Saint Augustine, Canterbury, and Saint Peter, Westminster*, ed. E. H. Thompson, Henry Bradshaw Soc. XXIII, p. 210; XVIII, p. 164.
- 34 Leach, p. 195.
- 35 G. J. Dilles, ed. *Froissart : Chroniques, dernière rédaction du premier livre. édition du manuscrit de Rome Reg. Lat. 869* (Paris, 1972) (TLF) p. 232.
- 36 A. Owen, ed. *Le Traité de Walter Bibbesworth sur la Langue Française* (Paris, 1929) p. 65.
- 37 Alexander Barcley, *Introductorie to write and to pronounce Frenche* (London, 1521) の Prologueにおいて 'The same tretyse hath ben attempted by dyvers men before my dayes....' と書かれてあることや, J. Palsgrave, *Lesclarcissement de la Langue Françoise*, 1530. に, '....Whan it was commaunded that the grammar maisters shulde teche the youth of Englande joyntly Latin with Frenche, there were diverse suche bokes divysed.' と引証されてあることなどを参照。cited in J. Stürzinger, *Orthographia Gallica*, Einleitung, p. 1.
- 38 *Vising*, p. 68 seqq.
- 39 F. N. Robinson, ed. "General Prologue," *The Canterbury Tales*, in *The Works of Geoffrey Chaucer*, p. 18. ll. 124-126.

III フランス語教本

1) *Tractatus Orthographiae*
T. H., Parisii Studentis

——パリの学生 T. H. による正綴論——

ノルマンディ公ウイリアムのイングランド征服はその後少くとも 3 世紀余の間、イングランドの支配階級の言語をフランス語 (AN) と変えたのであった。

イングランド王でありながらフランス大陸に広範囲の領地を所有していたヘンリー 2 世 (1154—1189) はアキテーヌのエレオノールを王妃に迎えて領土を拡げ、西ヨーロッパにその勢力を示していたのであった。彼の宮廷には各地から栄達、栄誉を求めて人々が集まり、文学作品その他アングロノルマン語による作品も数多く作成された。

しかしジョン王 (1199—1216) の治世にアキテーヌ、ガスコーニュを除くフランス領地が失われたという政治的事態の変化は一つの引き金となってアングロノルマン語を徐々に衰退へとむかわせる。13世紀半ばとなるとイングランドに広まっていたアングロノルマン語、またその文学は最盛期に達するのであるが、この言語は、しかし時の経過とともに、島嶼フランス語となって、大陸フランス語との差異を深め、誰の母語でもなくなり、学習しなければならない言語となっていたのである。イングランドにおけるフランス語の優勢は14世紀半ばごろから次第に衰えてゆく。しかし、14世紀になるとイングランドではフランス語の学習が奨励された。エドワード 3 世がフランスの王位継承権を主張して英仏百年戦争を勃発させた時期である。フランスとの関係を緊密にするための先々への配慮でもあったのだろう。

13世紀より14世紀にかけてイングランドのイギリス人のために、フランス語教本が相当数作られたらしい。現存する最も古いフランス語教科書 (AN の) と言えるものは Walter de Bibbesworth の「語彙集」¹ *Nomina*le であろう。最も普及した教本は14世紀前半に作られた *Orthographia Gallica* であった。これはラテン語によるフランス語文字論、正綴法の書で文法書と言えるものである。この種の文法書には Orléans 出身の司教座聖堂参事会員 Coyfurelly の編纂したフランス語正書法に関する論文 *Tractatus Orthographie Gallicane*² もある。そして、Coyfurelly が原典としたと推測される *Tractatus Orthographiae*³ も現存している。これは Paris で勉強したという T. H. の頭文字を持つ学生が作成した。これらはフランス語教本として初期のものであるから文法の記述となると不完全なところが多いが、当時のアングロノルマン語の実態を知る上で貴重な文献である。何となれば教本は大陸フランス語を正しく示そうとしているけれども、その記述には教本の著者が身近に親しんできた言語、即ちアングロノルマン語の特徴が随所に現われてきているからである。⁴ しかし彼等はフランス語の地方的な差異に留意しようと心掛けた。*Tractatus* には *Gallicum* と *Romanicum* との音声状況の相異も説明され、特にイングランド人のフランス語発音や書法についても言及されている。

本稿は現存するフランス語文法論の中で一番古いものであろうと見做される⁵ *Tractatus Orthographiae* T. H., Parisii Studentis を翻訳し、アングロノルマン語の実態を推測させ得る個所や、曖昧な個所、明らかな間違いの個所には注釈をほどこすこととした。翻訳には M. K. Pope ed., The 'Tractatus Orthographiae' of T. H., Parisii Studentis を基とし、写本 British Library Addit. 17716 ff. 88^r—91^r を参照している。なお、筆者のコメントは*印を付して原文と区別する。

——訳——

どのような人の援助をも欠いている者がすみやかに助けを得たいと期待しているところで私はそれを扶ける。というのは、若い時に様々な能力をもって花咲かそうと多くの者が望んでいるからだ。それはあたかも様々なみどりなす木といきいきとした草木を立派に植え込んである庭が初夏に屢々果実をみのらせ、幸せにも蕉り高い香気を馥郁と漂わせるのを見るようなものである。

従って、一つにして三つの位におわします三位一体のお導きにより、私は力及ばざる者ではあるが、ガリア人の言葉とガリア語の規則と共に書きかたを守ろうと意図する。そしてまた、海の此方の国々と同様、海を越えた国々における現今の人達の慣習に従ってそれをやさしく説明する。草木の枝々はその習性と知識によってまず花開き、ついで他の枝の中においても花は美しく現れ得るであろう。すべての王の寛容のお蔭によって。

(コメントには以下*印を付す)

1. まず最初に、字母の中のあるものは母音で、あるものは子音であると知るべきだ。母音は5つ、即ちa, e, i, oとuである。それらが母音と言われるのは、おのずから完全な音を持ち、それら無くしては字母の如何なる音も発音し得ぬからである。

これらの五つの母音のうち、二つは子音の性質に移行する。即ちiとuである。それはそれらが音節の始めに置かれ、そして後続母音と同じ音節を作る時だ。例えば：

ivere, vaulter, joustier, verserなど。また、同様の言葉にあっても同じである。

* iとuが半母音になる場合の説明。であるがverserの例は適当でない。

2. 時にAはほとんど字母eのように発音しなければならないということを知るべきである。即ち：

Savez vous faire un chauncoun. (詩歌がつくれますか)

Savez vous traire de l'ark (弓がひけますか)

Savez vous raire la barbe. (ひげを剃れますか)

など、そしてこれに同様の場合である。

* この記述においてはAと書くのは不正確であって正しくはaiと書かねばならない。アングロノルマンの綴りaiとeiの互換性についてはM. K. Pope「アングロノルマン語」[47.1.-2.]に記載されている。二重母音ai, eiは水平化されて[ɛ]の音価を持っていた。Pope:[35.3.1.0., 35.3.3.0]

(a) a, en a, およびia, という言葉が動詞habetとして理解される時、それらはいずれも同じ意味である。

そのあとに字母dを添えずに書かねばならない。従ってこの文をa, en a, と書くときdをもって書く者は間違っている。何故ならばガリア人(gallicos)によるとdは決して書かれもせず、発音されもしらないからである。

* 語末にdを付すのが間違っているとは言い切れない。adと書くのは古形であって語源的にはラテン語の語末子音を保持していることであるから。アングロノルマン語(AN)の特徴としてはこの古形が多く見られる。Pope:[38.1.1.3.-4.]これはアングロノルマン的一面の保守性である。secundum gallicos(ガリア人によると)という表現は大陸フランス人を指しているのであろうが、正確

にはどの地方の人々を示すかは不明瞭である。

(b) *avra* (彼は持つだろう) *en array* (私はそれを持つだろう) という文は語中に *e* を発音せず [また真中の *e* 無しに書かねばならない] 美しいフランス語によれば *v* なしに発音する。例へば *aray*, *en array* と発音し、この二文はどちらを書いててもよい。

しかし、ローマ人 (*Romanici*) ブリタニア人 (*Britannici*) アングリア人 (*Anglii*) は語中に *e* を添えて同じ語を次のように：*averay*, *J'averay* と書く。そして同様の言葉にあっても同じである。

* これは AN の顕著な特徴の一つである渡り音 *e* を *v* と *r* の間に *avera* の如く挿入するという現実を示している。この現実を *Tractatus Orthographiae* の作者は指摘し、矯正せんとするのである。しかし、*aray* と書いててもよいし、*array* と *rr* と綴りをもって書いても同じだ、という記述も AN の特徴である。ローマ人、ブリタニア人、アングリア人という記述も、どの民族どの地方の人々を正確に指しているのか判然としない。作者は美しいフランス語 *dulce gallicum* を専ら記述しようと意図しているけれども、作者自身の中に大陸フランス語と AN との混乱があり、往々にして AN の特徴を「美しいフランス語」と解しているらしいところがみられる。

3. B は語中では発音しなければならない。*debriser* や *trubuler* などのように。但し次の語は除く：*debt*, *endebt*, *subget* や、同じく動詞 *doubter*, *redoubter*, *substituer*。

そしてまた、同様の語にあっては *b* は真中に書かれねばならないが、発音してはならない。

* AN での語中の *b* をあるものは発音し、あるものは発音しなかったようだ。
substituer は *soustituer* と、*substance* は *sustance* と共存する。英語における借用は OED の初例に ca. 1300 : *Cursor Mundi* 9762行の *substance* が見られる。

4. C はしかし語中でまた *s* の音を持つ。次の語：*ca*, *pica*, *recoi*, *frauncois*, *rauncon*, *chauncoun* などと同じく。従って *s* をもって書く者は間違いである。

* AN では *s* の音価を持つ *c* の場所に *s* の綴りも現われている。例えば *francois*, *offis* (*office*) など。[アンダーライン筆者]

5. E が文の中で消え、*jeo aime* (私は愛する) や *jeo eusse loie* (聞くことができよう) や同様の語におけるように *e* の後に続く語が *a*, *e*, または *o* で始まる時、*e* は完全に削除される。そして *jaime*, *jeousse loie* のように二つの語から一つの語が作られる。しかし子音の性質に移行する母音はこの規則に従わない。

* 問題は *jeo* の *e* が *aime*, *eusse* の前で、*le* の *e* が *oeie* の前で消失することを論じているのである。また例文 *jeousse loie* (*jeo/usse/l'/oeie*) にあっては *usse* に対する *eusse* の語頭の *e* の省略も考えられていたのかもしれない。また、*oeie* が‘鶯鳥’であればこの場合は AN の特徴であるところの *la* にかわる *le* の *e* 省略ということだ。Pope : [63. 3.]

6. G が語中で母音と子音の間に置かれるとほとんど *ng* の音を持つ：*compaignoun*, *compaign* のようである。

* この記述にあっては *ng* の音が不明である。*n* の硬口蓋音 [n] の表記に一定の法則がない。*gn*, *ngn* のどちらの綴りも現存した。[n] 音は英語の借用語にあっては受け入れられ難い音であった。AN では [n] が [n] に移行している例が非常に多い。Pope : [38. 2. 1. 0.] は次の例を挙げている。

Brendan ⁷ 235-6 plein-desdeign, 215-6 feignant-peinent, 591-2 semaine-cumpaine, 713-4 meinet-enseignet.

7. H は字母ではなくて気音の記である。例えば次の語における如く : heitez, haiez, huis, hors, hounte, honye, hopeland, herd, harde, aherder これらでは h は常に発音されていた。

しかし次のような語では h を発音してはならない。huit, huie, hier, heyer, heur, hostiller, he, helas, honour そして同様の言葉においても同じである。

* 大陸フランス語ではゲルマン語起源の語においても13世紀には気音の h は発音されなくなっていた。AN にあっては英語の音体系の影響がみられたと思える。

8. I とその他の母音は語中で、二つの子音間にはさまれるか、母音と子音の間にはさまれるか、あるいは語の最後におかれた時、両方の音を持つようになる。

biens, riens, ciens, liens, meins, eins, joie, voie, arraier など、このような場合である。

* 上述の記述は i が二重母音の一つの要素となることを言うのであろう。i が半子音（半母音）となる場合では biens, riens, ciens, liens におけるように ien は半子音 [jen] となり、半母音となる場合では、meins, eins におけるように [ejn] となる。joie, voie では [oj], arraier では [aj] となるということらしい。

9. L は語中にあって母音が直後にくるとき、個有の音を保持する。例えば ovelement, parlant における場合である。しかし子音が直後に続くと l は u の音を持つ : loialment, principalment のようにである。ここでただ ils という語だけは例外とする、この語では l は u 音をほとんど持たない。

ils vont encamble (彼等は一緒に行く)

ils ount fait (彼等は成した)

L がまた語末におかれ、そして次にくる語が子音で始まると、l は個有の音を失い、u の音を保つ。

l'imirall d'engliter (英國の将)

chivalt sorelt (栗毛の馬)

fel de makerell mavez est (鮪のはらわたは悪い)

beal fitz (美しい子息)

しかしまことに次にくる語が母音で始まると l は個有の音を保つ。

mult aultre (多くの他のもの)

mult amy (多くの友人)

loial hom (忠実な者)

tiel usage (そのような用法) などがある。

またしかし、l が単音節の語末に置かれ、その後に子音がすぐ続くと u 音もその特質も持たない。

il s'en est alé (彼は行った)

je le voilt ben (私はそれをとても望む)

これは同様の言葉においても同じ。

* 子音の前で l が u の音を表わしていたために、フランス大陸では l の代りに u と書くようになった。上述の例文にあっては子音の前に l の発音の混乱を示している。例えば bel の綴りにも幾通りかがみられる。beal, beau, beaul, beu, beel, biau fitz などである。語末の l は子音が続くと u の音になると例題は示しているが、AN においては語末の l が多くの場合個有の音を持っていた可能

性は強い。しかし、例文 *je le voilt ben* における *voilt* では l がどの様な音価を示していたのか不明である。

10. N は 1 人称複数における任意の動詞では m の場所に書かれ、そして m の音を持つ。例えば：*aymons, ensignons, lisons* などの場合である。同様に子音の前でもまた m と発音されるべきである。*ensi, penser sentiere, envoiere, entiere, coumaunder, vendersdy* の如くである。

* 1 人称複数動詞の活用語尾は *-ons* であって *-oms* ではない。例題の綴りは正しいが *-oms* の m の場所に n が書かれて m の音を持つという記述は極めて興味深い指摘である。AN の特徴である語尾 *-oms* を使用していたであろうという事実がうかがわれる。Pope : [74. 1.] また, s, f/v, t/d, という子音の前で n を m と発音するという現象も AN の特徴であろう。

11. P は単音節の語で二子音間にあるときは音を持たない : *temps, corps* などである。そしてこれらの語および他の類似の語においては p を省略して次のように書いても間違いではない。

tens, cors, semagn など、このように。

12. Q はフランス語の綴りによると、ある語においては二つの母音が直後にくるのでなければ書いてはならない。即ち *qui, que, quar* などであるが、同種の語においては q と k のいづれを書いててもよい。また、*quar* という語については書く人の意思により k, q, c のいづれを用いて書いててもよいのである。

* AN では q に代る k の使用が往々にして見られる。*desque* の代りに *dakes, jesque* のかわりに *jekes, kes (que+les)* などもある。Pope : [cf. 46.]

13. R は時に語末で r 音を保持し、時には z という音を持つ。

vuilez vous aler (貴方は行きたいのですか) 又は
voilez vous alez 等々。

* [r] は母音間で [z] となる現象がある。上記の記述はこの現象の影響とも考えられる興味のある言及ではあるが、語末で母音に先行しないとき、aler が alez となる音変化はないと考えられる。

14. 語の中において単独の S は直後に子音が続く場合、発音してはならない : *tres redoubte, tres noble, sisme, disme* などのように。[アンダーライン筆者] この規則から次の語が除外される : *prosperite, chastelt, chestaine, substance, meschaunt, obstant, augustus, instance, register, sustenance, espirer, sustener, substituer, escharn, transgliter, enspirer, descharger, estauncher, estendre, spaundre, peschere, constrayner, despenser, escuter*, このような語の全てに関係した名詞と、どの様な方法にせよそれから派生した副詞、動詞も除く。除かれた語においては子音がすぐ直後にくるなら s は常に発音しなければならない。

* 記述は不明確である。s を発音する語として掲げられている上記の語を現代発音規則に照合すると、語中の s を発音する場合と、発音しない場合に分かれる。

母音が直後にくるときは、s は固有の音を完全に保持する :

tres excellent (まことに卓越した), *tres hautisme* (いと高き)
tres honoure (畏敬すべき), *tres humble* (いとつましき)
などのように。

* 固有の音 *sonum proprium* というのは無声子音の [s] であろう。上述の場合、連音に際しての有

声子音 [z] であるのかどうか。

複合字 ss は語中におかれると常に発音しなければならない：
poissoun, puissaunt などのように。

* 無声子音 [s] としてであろう。

もし単独の s が語末に置かれると、それらの語がたとえ代名詞、動詞、接続詞又は前置詞であろうと、次の語が子音で始まる時には自己の音を最少限に保つ：

dieu vous save et garde (神が貴方を救い護られんことを)
vous sentez vous sainz en coer (ご気分はよろしいのですね)
voiliez vous manger (召し上りますか)
veuillez vous jouer (競技をなさいますか)
などのように。

* 自己の音とは無声か有声かは不明であるし、最少限に minime という表現も曖昧である。綴りには s と z との混同が見られる。

しかし、もし次の語が母音で始まると、s は発音しなければならない。このように：
avez vous fait (できましたか)
veuz em pri (どうぞ) [アンダーライン筆者]
seiez vous (お坐り下さい)
ja estez vous un de eaux (貴方は既に彼等の一人です)
そして同様のものもまた同じ。

* 上記の説明に対し avez vous fait と seiez vous の二例は適当ではない。

しかし分詞、形容詞、名詞そして感投詞においては、語末の単独の s はもし子音が直後にくると自己の音を保持せねばならない。このように：

vouz avez assez de viand (貴方には肉が十分あります) [アンダーライン筆者]
jeo sui assez ben amez de mez servauntz (私は使用人たちから大変慕われている)
loiez soit dieux (神はあがめられるべし)
そして同様のものもまた同じ。

* 綴りには再び s と z の混同が見られる。assez の綴りには asses もあった。assez の z を s 音として発音させるという記述も興味深い。mez servauntz の mez の z も、loiez soit dieux の loiez の z も無声 [s] あるいは有声 [z] で発音することとなるのか、不明である。

15. T が語末に置かれ、次の語が子音で始まる時は、自己の音を完全に消さなければならない：

qu'est ceo qu'il dist (彼は何と言ったのか)
il est prest (用意ができた)
il ne poet chaloyre (必要ではあり得ない)
il fuist tout esbaye (彼はすっかり驚いて逃げた)
il fist que sage (彼は賢明に振舞った)
il n'ia que vanite en cest mound (この世には虚栄しかない) 等々である。

しかし t は時にはこの規則にもかかわらず自己の音を語末において持つ：

an tu fait prest nostre sopere (我々の夕食の準備はすっかりできましたか)

il prent deux marc^z par an (彼は毎年 2 マルクを得る)

nos vesins nous ayment ben (我々の隣人は我々を非常に愛する)

il boit trope hault (彼は大酒飲みだ)

il puit malement (彼は悪臭を放つ)

これらおよび同様のものにあっては、直後の語において子音が直ちに続こうとも t は個有の音を保つ。

* t が時には語末で自己の音 sonum snum を保つという現象は中期フランス語の時期まで見られるのであろうが、上記の記述はちょうど語尾の子音が発音されなくなつてゆく過渡期の現象を示しているようである。

(a) 名詞と現在分詞の単数において t で終るすべては複数において t を失い、s または z をもって書き、発音する：

単数における saint, faisaunt, alant は複数では sains, faisauns, alans 等々である。

* 語末の t に複数を表示する s を付す場合は, ts は z と表記されるのが、古フランス語の規則であった。故に s を書くということは正しくない。すなわち sains は sainz と書くのが正しいのだが、AN 第 2 期においては z, s が相互に交換されるようになった。Pope: [50.]

女性を示す母音 (e) が直後にくると語中の T は常に完全な音を持つ。例へば：

lez saintez virges du ciel (天上の聖女たち)

ad toutz et quaundez foitz vous plerra venir, vous serrez bien venuy

(お越しになりたい時はいつでも貴方を歓迎しましょう)

beaucop dez femmez en Loundrez sount merchauntz

(ロンドンの多くの婦人は商人です) 等々。

* この時代では toutz, merchauntz は toutes (toutes), merchautes と綴るべきであろう。中期フランス語において女性を示す語に e をつける傾向が一般化された。その傾向を早くも指摘している。

(b) ガリア語によると次の語で t は省略される：liz, pounz, porpoinz, そしてまた, z あるいは s を伴つたいくつかの語にあっても同様。

* この場合 ts は z と表記すると書かなければならないだろう。

しかし、ガスコニア人 (Vasconici) とアングリア人 (Anglici) は t をもって書く、このように：

amy sount noz litz faitz [アンダーライン筆者]

(さあ、我々の寝台は準備されているか)

sount noz porpointz prestez (我々の胴衣は用意されているか)

なぜならば ガスコニア語は決してガリア語ではないからだ。

* 作者にとっても、また当時の人々にとっても ts を z であらわすということが充分に理解されていなかったようである。

(c) ガリア語で用いられている接続詞 et における t は書かれてあっても発音されない。

16. lについては, doulz, ceulz, peaulz のような語においては l をもって書いてもよいし l なしに書いてもよい。

* 古フランス語においては z は ls である。dolce は l なしに doz と書きうる。子音に先立つ l の母音化は AN あっては徐々に進んだ。Pope : [38. 1. 3. 0.] (18. を参照)

そして l が語末に置かれ, 子音に先立つとき, l は u の音を持つ, 例えば veaul のように。しかし gentil de corps や同様の場合もある。

* 例題 gentil の l がどのような音を保持していたかは定かでない。

OED が初例としてあげる gentil は 1225 年に借用されている。

gentle (aj.) 1225 *Ancr. R.* 166 Noble men and gentile ne bereð nout packes (well-born)

1330 R. Brunne *Chron.* 188 Gentille of norture, and noble of lynage (courteous)

17. U は語中に置かれた場合, 個有の音を失う, 例えば: que, qui, quar, guerri, langue quel, quatre, quere などである。

18. X は語末に置かれると s のように発音してもよく, また z のように発音してもよい:

no chivalx (我々の馬), chivelx, huiselx, ceulx, telx, doulx, meulx, これらのような語は x, s または z のいずれをもって書いてもよい。そして同様のものもまた同じ。

* 上記の例では s を x と考えている。x は us である。

(a) この dieux という字は, 時には x をもって書かれ, 時には x なしに書かれるが, たとえ書かれても発音しない:

dieux vrouz save (神が貴方を救い拾わんことを)

dieux soit garde de vrouz (神が貴方をお守り下さるように)

* us に当る x を, この時代には s と混同しているようである。

しかし呼格に置かれる時, x は音を保持する, 例へば:

dieux, eiez pite de moy (主よ, 私を憐れみ給え) と。

* 男性単数主格語尾には s が付されていたので, 上記の例文によると x を s と理解していたことが分かるであろう。

そしてもし子音が続くときは, dieux mercye (神のお加護) 等々のように x を発音しない。

* この場合 dieux は賓格と考えられるから x は不要である。

(b) この doulz という語は男性および中性においては語末に x をもって書かれ, 女性においては c をもって書かねばならない。

* l は u になっていたから dulcis は dous となる。doulz における l は hypercorrection の結果であり, z は s に対応する。また, x は us であるから dulcis は dox ともなるだろう。しかし 12 世紀ごろに x は s とみなされたらしい。従って男性形は doux, 女性は doce ないし douce であったことを示している。dolz に対して doz もある (16. を参照)

19. ovec という語は語中に s なしにいろいろと次の様に書き得る: oveque, oveques と。

(a) solonque という語は n に終ってもよく、また c に終ってもよい。solon または soloncque のように c を以て。但し c は発音してはならない。

(b) escue, esau(?), escuiele, cuiler 等々という語は c をもって書き、q をもって書いてはいけない。

* 当時における q と c の慣習的用法を論じている。

20. Y はどのような場合でも i という音を持ち、多くの場合 i の代りに書かれる。それは飾り文字のためである。特に個有の都市や村の名前、男性または女性の名前、官職位階の名称においてそうである。

* y についての当時の見解である。この使い方は AN 独特のものであろう。

21. Z は事実上語末にあっては s のように発音する、例えば：querez, serchez aimez などのように。

* z は ts だから発音されたとすれば [s] ではなく z [ts] である。この記述の信憑性は少ない。

22. 先に部分的に母音のところで叙述したように次のことを知らねばならない。単音節の語が母音で終り、次の語が母音で始まるその時はいつも、その二つの語は発音されるべき一語のように互いに結び合わされねばならない。最初の母音は書いても発音してもいけない、例へば：

la abbe ないし l'abbe (修道院長)

l'on (人) ないし la on

masdre d'argent (銀の盃)

j'aime (私は愛する) 等々。

* abbe は abbé か abbaie か、が不明瞭であるが la と le の混同は考えられる。la on の la は on が代名詞とすれば誤りである。le と la の混同は屢々 AN に見られる特徴であった。

上記の説明は a と e の母音省略を la, de, je について論じている。

23. すべての動詞においてその各々の活用語尾が s に終る場合は書き手の意志により s と書いてもよいし z と書いてもよい、例えば：

amez, veniez, ditez, lisez, pensez と。 (cf. 21)

* s と z の使用が現在と異なることは屢々指摘してきた。一般に動詞の活用語尾が s に終るのは 2 人称単数の場合であるし、z に終るのは 2 人称複数である。作者はこの差異をどのように認識していたのだろうか、明らかではない。

また男性であれ女性であれ、e に終るすべての分詞はその分詞を派生させるもとの動詞と異なって語末に二重の ee を書かねばならない。

* 過去分詞について説明しようとしているのであるが、叙述は不充分である。二重の ee を書くのは女性単数語尾に限られる。

例へば過去分詞 amee をその動詞 ame と区別するために、enseignee は動詞 enseigne と区別するために書く。同様の語についても同じである。

* ame および enseigne は 1 人称、3 人称単数現在形であるのか、英語の不定法の形の類推から、不定形と混同されているのか、不正確な記述とみなされる。

24. c, ff または g で終る名詞は单数においては blane, viff, long のように、複数においては、ガリア

人に従えば語末に s を付して完全に c, ff, gなどを除去して blans, vis, lons のように書く。

* 当時の習慣をあらわす。しかし12世紀中葉あるいはもっと早くから、屈折の s の前に語幹末子音を導入する傾向があり、例えば vifs hommes (発音は vys hommes) のように書いた。Pope: [57. 1. 2.]

25. si と se は区別する。すなわちガリア語の si はラテン語の sic であり、ガリア語における se はラテン語の si である。

26. ラテン語に対応するすべてのガリア語の単語はできる限りラテン語の書法に従うべきである。Pope: [44. 1.]

* *Orthographia Gallica* も次のように言う:「たいていの場合、ラテン語で書いてあるように、ガリア語でも書けばよい。例えば, computum は ⁸compte, septem は sept, prebenda は prebendre, opus は oeps の如く」と。この時期にしては注目すべき記述である。

27. どのような性であれ語末に ee という二重音を持つとなるすべての名詞は二つの ee をもって書かねばならない。例えば pensee, privee, finee, rousee, vinee など上述の過去分詞同様のものについても。このように論述し且つ終る。

注

1. J. Stürzinger, ed., *Orthographia Gallica: Ältester Traktat über Französische Aussprache und Orthographie*, Altfranzösische Bibliothek 1884, VIII. rpt., Wiesbaden, 1968.
2. E. Stengel ed., "Tractatus Ortographie Gallicane per M. T. Coyfurelly", *Zeitschrift für neufranzösische Sprache und Literatur*, 1879, 1, pp.16-24.
3. M. K. Pope ed., "The *Tractatus Orthographiae* of T. H., Parisii Studentis", *Modern Language Review*, vol. 5, 1910, pp. 185-193.
4. Karl Brunner は *Die englische Sprache: Ihre geschichtliche Entwicklung* 2 vol, 1961 において Gallicum をフランス語, Romanicum を北フランス語と理解していたようである。K. ブルンナー「英語発達史」共訳松浪有, 小野茂, 忍足欣四郎, 秦宏一, 大修館 1973 pp. 116-17. Université de Montréal より *Parler vulgairement, Les intellectuels et la langue française aux XIII^e et XIV^e siècles*, 1987 を出版した Serge Lusignan は Coyfurelly の *Tractatus Ortographie* に言及し, Coyfurelly の指す lingua romanica を anglo-normande と解し, lingua gallicana を le français parisien と解している see : pp. 102-3.
5. see : Introduction by M. K. Pope in The *Tractatus Orthographiae* of T. H., Parisii Studentis pp. 185-189.
6. M. K. Pope 「アングロノルマン語」英語学ライブリー(67)大高順雄・福井秀加 訳述, 研究社, 1984, 第3版。本書は M. K. Pope, *From Latin to Modern French with Especial Consideration of Anglo-Norman*, Univ. of Manchester 1934, rpt. London 1966 より Part V. Anglo-Norman Chap. 1-V pp. 420-485 を訳述したものである。
7. Ian Short and Brian Merrilees ed., *Benedeit: The Anglo-Norman voyage of St Brendan*, Manchester University Press, 1979.
8. *Orthographia Gallica* op. cit. (CO 85), p. 16.

Tractatus Orthographiae

T. H., Parisii Studentis

British Library MS Addit. 17716

ff. 88^r-91^r

Uim habet creaturā angelo indigentis in terris solenax
ubi sperat celestis obtemperare & quin nō nulli sunt desiderant
dūsūs facultatis florescēt immontato facti viridum di
uisis arboribz & vītūlīs horūz nobiliter plantarū vide
multoq[ue]s fontes & vapores q[uod] modicū sc̄olentes tem
poribz estatū foliatis p[ro]p[ri]alibz h[ab]ent q[uod] angelo q[uod]mā
q[uod] regnat t[er]ram in cono lac[us] in sufficiens finibus galli
nos & forma septem[us] am regnibus in eisdū mōtione appul
sā. Et sedm dūsūs & mod. modernoz tam in p[ro]p[ri]ibz t[er]ris
magis q[uod] cīmūmīs dulci explanaz h[ab]ent hec dūsūs ja
mī moibz & sūd p[ri]mo florescēt & postea in alcis p[ro]ce
sunt in singulī omni Regi clementia disponentes. Primo
scend est q[uod] h[ab]et alie sūnt vocales alie consonantes loca
les sūnt unius scilicet a e i o u & dicunt vocales q[uod] p[ro]p[ri]e
se plena vocem h[ab]ent & sine illis nulla vox habetur & sequi
potest. Et ex his quatuor vocibz duo cūsumunt in unū co
sonanciū scilicet e & i. Et qui ponit in p[ri]ncipio alcūmū
fillabz & fillabunt cūm vocali sequente ne mere bāltoe
ionster beslor & sic de similibz. Et scend est q[uod] a. aliqui
de sonari fecerū scilicet h[ab]et p[er]petui geni sanz bono fuisse vñ
charmon sanz bono thare del act sanz bono p[er]tine laude
& sic de similibz. H[ab]et iste dicoes a. enī & si q[uod] bonū
& idū significant q[uod] cognitū p[er] hoc credo h[ab]et simplici
debet scibi sine hac q[uod] d. subsequenter idem coexpedit
q[uod] h[ab]emusmodi dicoes submīt cūm d. scribi q[uod] a. enī.

qua d. secundum galliis anguis ibid scribit nec sonor quid iste
dictus anima onusq; sive s. in medio & sonata secundum dulce
gallius sive s. ut sic apay onusq; que in differentiis post
bi possunt statim sonari hinc & angustib; secundum easdem dicit
ad e. in medio ut angus ianuay & sic de c. d. vero in
medio dictis semper & sonari ut debrusq; tribulus & c. est
hys dictis deit endere subiecto Nec no istis verbis dubie
redire substatue in quibus & sibib; d. in medio scribi de
bet non sonari. c. ead in medio dictis quibus hoc sonu d.
est in hys dictis ca. pica. Rector. franciscus pavonius chincu
& hinc vnde exstant qui scribunt ad S. c. hinc quid definet
in dictis & dicto subsequens misere ad a c ut o. Et reo amic
eo enso loic & filia poneq; exhorto & do illis duas dictis
fieri una dicto perbi gaudi game ronisse loic cum illo qd
quo rufinit in hinc consonantia non sonet illa regula d.
posita in finibus dictis ut vocale & consonantem habeat
sonu quasi z2 v. ut compagno compagno h. vero
no e ha sit affinitatio non sit in hys dictis hinc hinc
hinc hinc sonare hinc hinc hinc hinc hinc hinc
h. semper sonabit s. in hys dictis hinc hinc hinc hinc
hinc hinc hinc hinc hinc hinc hinc hinc hinc
sic de hinc q. vero & abe vocale in medio dictis non
sonas consonantes son ut vocale & consonantem aut
fine dictis sonu exigitur nec habet ut biens nunc
tenuis licet prout eius voce tenui annexo & hinc l. ad
in medio dictis vocali in medietate sequitur sonum

pmm rognabt ut ouelint plent & si consonas in quatuor
 sequentur tunc l. habet Pm. q. ut loquuntur pma palmon
 hoc dico qd ex canticis ex qna l. Pm. v. nro poterit
 Et illi sonit ensemble illi omittunt fuit l. oca p. in filio
 Dicoris & sequens dico mapiat a consonante Pm. vnu
 amictot & Pm. v. poterit ut latet deplorat
 natt pccit fel de malorum maner est leul fij f. b.
 Dico sequens mapiat a boli emur l. Pm. vnu poterit
 ut mult antea nullus cum laral homi riel v. fuge tard
 t. porta in fine dicoris que est monasillar si consonas
 in medietate pccit f. co. n. pmm rognabt ut ille sen est
 illo te lo vorit bid & sic de pccit q. vnu in quatuor dobo
 ex pma pccit pccit loco q. & debet Pm. v. n. t.
 agnous enfigurare hisdos & pccit f. co. d. n. c. pccit
 quis doler pccit ut eni pccit pccit emicote en
 tico remandat. hunc de pccit & hinc p. vnu que dnas
 consonantes porta ne facit Pm. in dicibili monasillis
 ut comes corpos & hinc tam h. p. n. illi dicoris & al
 confirmabile annuntio no est pccit ut tens coros estem
 f. emagni & hinc p. vnu. C. sed pccit oratio p. vnu q. vnu
 & pccit in aliq. dicione pccit dnas locabilis in medietate
 sequitur ut qm que quae & qm ne differt possunt
 pccit omni l. qm hec dico que ne differt potest
 pccit omni l. qm ut c. vnu latitudine pccit pccit 2. 6.
 aliq. in fine dicoris poterit Pm. & alii Pm. &
 et hinc long alio conseruare long alio & sic deo. C. &
 pccit in medio dicoris no de pccit si consonas in
 medietate pccit ut prefecibile q. vnu pccit pccit
 & hinc ab ac regula ex pccit dico pccit dico
 q. vnu sufficiens existimat obseruit anglicus ipse

Degister sutorum efficer? sutorum substantiar? efficien?
taught? offener? discharge? estimular? estender?
estendre pester? constyner? despars? estirre cum
omnibus eorum pomo? nro? et adueniis ac cunctis ab eisdni
qualitercumq? egredioribus in quibz S. semp dolet puer
bz coepit in mediate sequitur si vero potest immixt? qd
quod tunc pomo? p?m? regnabit plenar? et transponit
coepit in modis transposito? et transm?bile. si vero dng
in modo dicois posita fuit primaria? si ne possum
p?m? et hinc si vero s. simplex ex fine dicois ponit
quod sit pomo? exibit communis ut p?m? et sequitur
eo? moriat a confirmat p?m? fini? p?m? regnabit in die
boni? sibi? et quando boni? sentit? boni? sum? en?c? de
bile? boni? mangere? emere? boni? mori? et finit? sibi? us
quod sit Quicquid absoluunt S. Schol? sonat per a
boni? fact? boni? emp? fac? boni? et estet boni? b?i? do? et d?
et sic de q? etiam in principiis adiectis multo? et inter secon?
s. simplex ex fine dicois debet retinere? form? p?m?
bz consonans immixt? sequitur ne boni? an? et sibi? de
m?do? quo p?m? aff? b?i? an? de me? finit? boni? sentit? boni?
et sic de eo? et? vero si in fine dicois ponit? et dico
sequitur moriat a copia tunc de p?m? fini? penitentiale
ne que est eo? que dicit? il est profet? il no potest de
lo?re? il fruct? ent? eff?re? il fuit que fuit el ma
que dicit? ex eft? monit? et he? do? or? an? tam? et a
debit p?m? fini? in fine dicois ne obstante illa? et
as tu fuit profet? nec sapere il profet? dico? m?j? et
an nos? celus? nos? ignorare b?i? b?i? b?i? b?i? b?i?
il p?m? malam? et? q? hys? et? finit? et? retinebit p?m?

cum x. in fine & cum finit sed gains in C. Ita dicitur
 dñs nre pereft scribi ut onus onus fine S. in medio
 quod hoc dico plong in x. ut in C. in differentia pereft
 termina ut plon ut plong cum C. idm no de sacer
 qstos dntes estne esam estmole anleu & hmo debent
 scribi ad C & no cum q. y. vero hys form q. in omni loco
 & debet scribi in pluribz locis loco q. ca oratio pereft &
 pncipalit in pns nrae canticz & vllbz cognatis
 joribz mthibz & dignitatis & vero in fine dico q. p
 habet in effectu ut quec pibez amez & sic do o Et
 secundum est pte in pte digni pnta de locibz qd quo
 non alia dico monslls. Sixtus in hys signo di
 gniat & hys tunc illo dñe dico. Debent admitti
 coniugi quasi sub una dico primariu & prima hys pte
 debent scribi u. pna. Et la abbe. & labbe. hys & laon. mis
 dico dngnem qam p. si de o. qm omnia verbis tunc
 onus finit coniugio termino in S. in differentia po
 stula. ut in Q. ut z. ad libron pteoris ut amez sacer
 dices hys pereft ac omnia p. a. terminatio in E. cum sacer
 dices finit debent scribi cum eo. Duplex in fine ad dñs
 finit debent aquibz descendere ut amez p. a. Etiam
 hmo corbi amez exsigniez ad dñm finit debent exsigniez
 & sic de o. qm non terminari in C. ff. ut e. minimo finit
 ut blanc. diff long in pluribz locis debent scribi p. a.
 gallico min Q. in fine dico expellendo pteo C.
 ff. ut blanc pteo & long qm hoc dñm finit debent
 dico. si a se. & gallico sic latmo & si gallico. & si
 latmo qm non debet dico gallico concordare latmo i
 qm non potest debet sicut pteo latmo qm omnia

now cum hys genis finit en fine dictis hinc p^m
Duplicet eti^m duplia ec scribi doberunt ut per se operi
ve fructus sonus unice & hinc p^m principia supponit
temmunt & pertinet

**

Anot qd billa supplicatio & petio fore conmemoratur
& billa dixit tam ad dnos qm ad misericordias &
implicatio ad dñe & magnitudo qd & petio dixit
qz ad andicato senestat ut eoz dnos p eoz compatis
& eoz allocatis bona Et quinque sunt modi qmby po-
tissim meo billam pmo modo in qd sen psonis
de cuiusvis felonis sen pdcis videntur & beneficis
ommatis peribitio oratione Si ad iher Regna
princeps ipsorum ducem sen magnifici pacem Regn-
tum in superiori magno opere pno fabi eti^m exil
edato sen dñmmissio omibz pali qnt statio & qd
dñi en ipso billa ergnit & iognit. Si vero ad
alii dñm sen magnifici tunc en pncipio pmo bila
ponant scilicet & potest hinc billa fieri eti^m supplicatio
etis reparatione & conclusione corbi qnt ac
dime tressyallent trahendebz

Es sententia p^m mo p^m lo bopo
Supplie tressyallmento eti^m ponere hinc dñ.
E. iadis quazdmo deo p^mone en la mactisitiae
de ozo banie que com en lano del regno de le re
fuble En hemi iadis eti^m piers que dñmz assi-
stie le qz en p^m dñt officie de hm esti^m apont ut ne
aliquo de se fructus en psonis quo qdierit p^m
felonie erit. Domo leg esti^m apont solum uite &

2) *Orthographia Gallica*

——「ガリア語正綴法」訳述——

前述の如く中世イングランドにおいて最も普及したフランス語教科書と見做されているのは14世紀前半に作成された *Orthographia Gallica* である。正綴法であるから、教本には主として語の綴り方、発音が示されているが、本文は複数の作り方や動詞の人称変化、活用、前置詞、冠詞、代名詞、形容詞、副詞の扱い方などにも言及し、論述は統語論、文章法にも及ぶ。しかし教本の随所にアングロノルマン語の特徴を持った綴りや、不正確な文法の記述が見られるのは事実である。それらはとりもなおさずノルマン征服以後数世紀に亘りイングランドで使われていた AN 語の実態を示している。

AN 研究について不可欠な研究書を出版した M. K. Pope の大著 *From Latin to Modern French with Especial Consideration of Anglo-Norman*, Univ. of Manchester, 1934, rpt. 1966. (前掲) には AN の詳解に際して *Orthographia Gallica* より数多い引用がなされている。

本稿は *Orthographia Gallica* を翻訳して、注釈をほどこした。翻訳は J. Stürzinger ed. *Orthographia Gallica: Ältester Traktat über Französische Aussprache und Orthographie*, Altfranzösische Bibliothek 1884, VIII (rpt. Wiesbaden, 1968) を基としている。

編者の Stürzinger は *Orthographia* の刊本を作成するに際し、4 写本、即ち BL. MS Harley 4971 (ff. 4^r-6^v) 14世紀, Cambridge Univ. Library MS Ee. 4. 20 (ff. 152^v-154^v) 14世紀, Oxford Magdalene College MS 188, (ff. 1^r-4^v) 15世紀, Lincoln's Inn Library Misc. MS 178 (ff. 215^r-216^v) 14世紀、を用いて主題ごとに本文の叙述をまとめ、原文行順を並べかえた。そして異本を並記し、H C O T [H (Harley) C(Cambridge) O(Oxford) T(Towerdocument, [すなわち Lincoln's Inn Misc 178])] と記号を付した。筆者の翻訳は stürzinger の刊本に従い記号も正在している。なお筆者の注釈には * 印をつけて原文と区別しておいた。

(H1) ガリア語において第一音節あるいは中間音節に、狭い口で発音する e をもっているといわれる語は、書く場合その e の前に i の文字を必要とする。例へば: bien (良い), rien (物), chien (犬) と。

(T1) ガリア語において、第一音節あるいは中間音節に、狭い口で発音する e をもっているといわれる語は、書く場合、例えば, bien, dieu (神), mieuz (より良い), trechier (最後の), mier (海) および同類の語におけるように e の前で文字 i を発音しなくてはならない。

(CO1) ガリア語において第一音節あるいは中間音節に、狭い口で発音する e をもっているといわれる語は、書く場合その e の前に i の文字を必要とする。例へば: bien, rien, chien, piere (父), miere (母) 等々。

(H2) しかし、もし一方この e という母音が鋭く発音されるならば先行する i という母音なしにそれ自体で存在しなければならない。例へば: beevez (beivre), menez (mener), tenez (tenir), pernez (prendre) と。

(CO2) 母音 e が鋭く発音されるときはいつでも、先行する i なしにそれ自体で存在しなければならない。例へば: bevez (boivre) tenez (tenir) lessez (laissier) と。

(H3) しかしこの先行の規則は不明瞭である。上述の e が a b c 全ての文字のあとで、先に述べたとおりに発音されるかぎりその e の前に i をやはり同時に書くようにと理解すること。b のあとでは biez

[bien?] のように、c のあとでは ciez [chien?] のように、そしてその他同様に。だからこの規則はラテン語で言うとすれば [e を第一音節に持っている] 練りについて理解されてきたし、また理解されるだろうと考えておくこと。

(H4) e の前の音節の中においては、従って venez (venir) のように i を書かないのだと知っておくよう。

(H4a) しかし上述の文字 e が長いかぎり、その e の前で i を発音する場合は biez, ciez のように、一つの音節が i で終り、他の音節が e で始まる語についてあてはまるであろう。

[このように完全な規則をもって全ての場合に真実である]

(CO3) たとえ、ある音節のはじめにある e が鋭く発音されてもその前の音節の最後に i を置くのがよい： biez (beivre?), priez (prier), liez (lier), affiez (afier) のように。

* (H1) (T1) (H3) AN における二重母音 [ie] は著しい水平化を示した。英語の音体系では子音後に j の現われることが稀であつたから島嶼語 AN の [je] > [ɛ], > [jɛ] > [ɛ] という変化は大いに促進されたと言つてよいだろう。これは12世紀後半以後 AN の際立った特徴となったのである。
cf. Pope : [35. 1. 0. 0]

ラテン語の e [ɛ] から生じた [je] の AN における縮減形 [e] を、音においても、練りにおいても ie [je] に代えなければならないと *Orthographia Gallica* は教えているのである。cf. Pope : [39. 1. 2.]

(H2) ‘鋭く発音される母音 e’ という表現は e にアクセントを置くという意味であろうか。狭い e と考えられる。

(H4a) ‘その e の文字が長いかぎり’ という指示は不正確である。この場合ラテン語では e は短かく開いているからである。

(H5) さらに完全に発音された e に終る語はもし女性であれば語末に二重 ee をもって書かねばならない。例へば：

Femme amee, douee et enseigne[e] (天賦の才あり教養ある、愛されし婦人) と。

(CO4) 完全に発音された e に終る女性形容詞は e を重複させて tres honuree dame (令夫人) のように書く。

(T3) さらに完全に発音された e に終る語は重複 ee をもって書かねばならない、即ち： donee (与えられた), amee (愛された) のように。

(H6) しかし半分だけ完全に発音される場合は e を重複させない、即ち次のように：

Meinte feme est bone (多くの婦人は善良だ) と。

(CO6) 男性形容詞が un homme (一人の男), meynt homme (多くの男) のように e で終らないとしても女性の形容詞は半分完全に発音する一つの e で終る。

meynte femme (多くの婦人), une femme (一人の婦人) のように。

(T4) 半分完全に発音される e に終る語は e を重複させない、即ち： meynte feme est bone と。

(H7) しかしこの規則もいささか若い人達にとっては曖昧である。従ってこれはもっと明瞭に説明されねばならない。なぜなら時には語末で二重 ee を持たぬ語を書く。時には一つの e だけを持って書き、時には二重 ee をもって書く場合があるからだ。

男性における形容詞、即ち Franc home (立派な男), rud home (粗野な男), sotil home (馬鹿な男) のような場合は語末に e を付さない。

女性における形容詞は France dame (立派な婦人), sotile dame (愚かな婦人) のように語末に e を付

す。

男性が一つの e をもっている時、女性は二つの e 即ち形容詞は二重 ee を付す：

Tres honure sire (まことに尊敬さるべき殿方)

tres honuree dame (まことに尊敬さるべき婦人) と。

(CO5) 男性形容詞は完全に発音される e をもって終ろうとも e を重複させない：

tres honure sire のように。

(CO5a) しかし名詞では un Countee [a shire], un counte [a counte] のように作り、小文字や大文字でさまざまな形がある。

un counte counte[e] [a counte(s) countid] (ある伯爵の領地)

de le Counte de tiel Counte (その州の伯爵の)

* (CO4) (T3) (CO6) (H7) 形容詞の女性形語尾に e を付すよう注意をうながしている。過去分詞形の女性単数語尾は殊に混乱を招いていた様子である。

過去分詞女性形語尾に ee を付すその綴りは payee などとなって英語に借用されている。

(CO5a) un Countee は英語の綴りでは county となった。

M. T. Coyfurelly の *Tractatus Orthographie Gallicane* は過去分詞の語尾について次のように記述する：「e で終る全ての分詞は男性も女性もそれらの語から派生する語の音と区別するために語末において ee と二つの e をもって書かねばならない。例えば過去分詞 amee は二つの e をもって aimez と区別するために書く。」 cf. E. Stengel ed., 'Tractatus Orthographie Gallicane per M. T. Coyfurelly', *Zeitschrift für neufranzösische Sprache und Literatur*, 1879. I. p. 22. この記述も曖昧である。男性過去分詞語尾は -ee とならない。

(H89) 一つの音節が、二つの母音の性質をとる時、その二つの母音は、発音において一つの母音のように考えられる。例えば jeo (pron. pers.), ceo (pron. demonstr.) のように。e のかわりに ea を書く cea, caux (それら), deaux (数詞) のように、これらを書く場合はその語の中でより大きな音を持つ母音を先に書く。

(CO7) 一つの音節が二つの母音の性質をとるときその二つの母音は poet (pooir) のように一母音とみなされる。その際大きい音を持つ母音を先に書く。

(T5) 一音節が二つの母音をもつとき、それは発音において jeo, ceo, poet, moet のようになる。

(H90) しかしそのような綴り、あるいは単語 jeo, ceo は o なしで e をもって je, ce と書き得る。

(CO8) je, ce, jeo, ceo という綴りは ceo と書くのもよいし o なしの ce と書いててもよい。

(CO49) deaux, caux, eaux (彼等), veaux (望み) などは a をもって、あるいは a なしに、どちらでも書き得る。

* (H89) (H90) (CO8) (CO49) AN 綴りの実態を示している。jeo, ceo は二重母音の発音ではないが、綴りは AN 綴りの特徴を現わす。e のかわりに ea を書くのも AN 綴りである。

cea は ce, caux は ceux (pl.), deaux は deux, eaux (pl.) は eus と書かなければならぬ。veaux は veux であろう。

(T6) 名詞と動詞の複数で最後の音節に母音 e を持つ場合は字母 z を必要とする、即ち : amez (amer), enseignez (enseignier) のように。

(T9) 単数にあって t に終る語は、複数では字母 z を必要とする。すなわち单数で dyt (dire), fet (faire) となる語は複数では z を付して dytez, fetez となる。

(CO9) 単数の動詞で語末に字母 t を持つものは、複数で字母 z を必要とする、例えば：

単数で amet [he loveth] liset は、複数で amez [ye love], lisez [ye rede] となる。

(CO10) s 音に終る全ての動詞、形容詞、分詞は z をもって書かねばならない。

(CO10a) 文脈不明

(H36) 直説法の全ての時制の複数 1 人称、および直説法完了の単数 2 人称は s に終る。

(H37) 他の全ての時制の 2 人称は t で終り、複数の 2 人称と全ての分詞の語尾は z で終る。

* (T6) 動詞の複数とは 2 人称の場合であろう。名詞の場合 z を語末に必要とするのは語尾に e を持つ場合とは限らない。過去分詞の複数を示す s を z と理解しているらしい。

(T9) 複数語尾 s のかわりに z を使うというのは混乱である。名詞の場合も過去分詞の場合も複数語尾は s をとる。但し dire と faire に対しては歴史的な音変化を現わしていない dyt, fet 形が採用されている。複数形は dyz, fez となれば正しい。

(CO10) s と z の混同を示している論述。

(H37) 一般に 2 人称単数語尾は s である。t に終るという記述は間違っている。現在分詞の語尾は t であるので z は ts を示す。

(CO11) 全ての形容詞は s をもって書いてもよく z をもって書いててもよい：ces, cez [these] あるいは les, lez [they] と。そして toutz [all] などのように u が s 音に先行するのでなければこれは正しい。

(CO12) s 音で終る全ての名詞は s をもって書かなければならない：seignours [lords] dames [ladies] (しかし下にあげる動詞についてはそれは起らない。即ち第1人称…)

(H38) 単数で t に終る形容詞、名詞は複数では書き手の任意に従って s または z に終る：tenements (小作地) または tenemenz, ses (pron. pers.) または sez のように。

(CO13) tenement, gent (人), lent (緩慢な) などのように単数が t に終る場合、複数では区別なく s または tz と書くことができる。

(H93) te あるいは二重 ee で終る名詞のあとには feez (信仰), amistez (友情), bountez (寛大さ), leez (側) のように z をつけ加えること。そして d で終る言葉のあとには redz (薪), bledz (麦) のように z を書く。

(H94) l のあとでも genulz (膝) のように。

(CO95) 文脈不明

(CO14) 単数において l のあとに s を付すときはいつでも s のかわりに z が書かれる：filz (子息) のように。

(H73) eisnez (第一子), puissnez (第二子) のような語、およびその他のいくつか尊敬をあらわす名前は z をもって書き、そしてそれは発音しない。

(CO15) l または u が a あるいは e のあとに置かれ、直後に s が続けられるときは deux, loialx のように s は x にかえられるべきである。

* (CO11) z をもって書くというのも、u が s 音に先行するのでなければ、という記述も誤りである。tout は tous (pl.) となり toute (f.) は toutes となる。toutz の綴りは AN 風綴りと言える。

(CO12) 指摘している動詞の例題が欠除している。

(H38) ts は z である。従って ses を sez と書く、と指示するのは誤りである。

(CO13) t で終る名詞の複数語尾を s あるいは tz と書き得るという指示は誤りである。語尾は ts あるいは z となる。(CO11) の記述と同じく語尾に tz と書くのは AN 綴りである。

(H93) 語尾の te, ee のあとには複数の場合 s を付す。z を付すとするのは誤り。また, d のあとにも s を付す。複数の表示に s と z が混乱されている論述である。

(H94) l のあとも z ではなく s を付す。

(CO14) そして ls は z で表記する。故に fil の複数は fils または fiz と書かれるべきところ, filz と書くのは AN 級りと言える。

(H73) z は s と書くべきである。語末の s を発音しなくなった傾向を示しているのは正しいが、高い身分をあらわす敬称という説明には例文が付されていないので不明瞭である。

(C15) 伝統的な考え方によると不正確な記述である。us は x であるから。loialx のように x を付すと l は不用である。もっともこの点については大陸フランス語においても混乱が見られる loyal の複数は loyaux である。

(H75) また, ego (1人称主格) mei (属格) という代名詞 [あるいは2人称の] については nous, nos ; (CS CR) vous, vos ; (CS CR). のように z なしに v と ous [または os] と書く。

(H76) しかし nostre, vestre, noz, voz は noz, voz letres (我々の, 貴方達の手紙) のように書く。

(CO16) ego mei または2人称から生じる代名詞 nous, vous は us をもって, あるいはその場所に nous [we], nos [us], vous [ye] vos と書かねばならない。

(CO17) noster, nostra, nostrum (pl. m. f. n.) または vester, vestra, vestrum (pl. m. f. n.) から生じる nos, vos は z あるいは s のいずれをもっても o のあとで u なしに書くことができる。

(H91, CO18) ある音節があたかも呼気をもつように発音される時, その音節は s と t をもって呼気にかわりに書く, 例えば: est (estre), cest (pron. demonstr), plest (plaire) のように。

(T7, H29) 呼気をもってかのように発音されるいくつかの音節は s と t をもって書くことができる。例えば: est, plest, cest と。

(H35) s が t に付されると h の音を持つ。例えば est, plest は eght, pleght と発音されるようになる。

* (CO17) 人称代名詞1人称と2人称の複数, 主格, 賓格は nos, vos である。nos, vos が大陸フランス語の形であって noz, voz は正しくない。記述にある z と s の互換は誤り。

(H91, CO18) (T7, H29) (H35) 子音 t の前では s が有氣音となり消えてゆくという非常に古い音変化を示している。極めて興味ある指摘である。

(H30) 現在と過去の動詞においては batist (bastir) のように s を書くと心得よ。

(H31) しかしいつ s を書き, いつ s を書かぬかを理解すること。まず t と e, i, o, u の間には, 現在および過去の動詞においては batist 等々のように書く。e は est のように, i は fist のように, o は tost のように, u は lust のように, である。

(CO73) 現在時制と過去時制の動詞においては i, e, o, u のあとで st と書くこと。例えば: batist, fist (faire), est, tost (toster), lust (luir) のように。

(CO96) 現在時制と過去時制においては i, e, o, u と t の間に s が書かれなければならない: est, fist, tost, lust など。

過去形では a と t の間に s を書く: amast (amer) のように。

(CO67) ascun (誰かが) aucun と発音されるように, 時には s を書き u と発音する。

(H32, 61) ascun や blasmer (非難する) のように, 時にまた s を u のかわりに書くこと。そしてそれは aucun と発音する。

(cf. H8) s は [音においては変化させられるが文字においては変化がない] ascun のように書き, acun

と読む。

- (H33) また一方 n のかわりに s を書く : enpernez (enprendre) のかわりに espernez となるように。
(H34) また同じく美しい書き方として s を書くように : meme (同じ)のかわりに mesme, trechier (親愛なる) のかわりに treschier と。
(CO19) もし e のあとに d を書き m がすぐあとに続くと d は s に変えることができる。
(CO21) 字母 s を母音のあとに書き, 次にすぐ m が続くと s を発音しないこと, 例えは : mandasmes (mander), fismes (faire), duresme (durer) のように。
(CO93) 様々な音節および一つの語において m が e あるいは i に続くとき, s を介入させなければならない : duresme, fismes, feismes のように。
(CO94) a が語の中間音節にあり m が直後に続くときは s を mandasmes のように介入させるが s は発音しない。

* (H30) (H31) (CO73) (CO96) 例には 3 人称単数があげられている。直説法単純過去ないし接直法半過去の動詞に s を付することは多いが, 3 人称の現在形には大部分あてはまらない。例題で現在時制を示すものは est のみであるがこの動詞の活用は例外と言える。

(CO96) 直説法単純過去の説明の例に amast と, この場合は接続法半過去の形が示されている。単純過去形には passé faible と fort の違いもある。

(H32, 61) blasmer の s は語源に由来する。しかし ascun の s は語源に由来しない, AN 級りである。

(H33) 接頭字 in に由来する en と x に由来する es との交換を論じている。。enpernez は AN に頻繁にあらわれる形で enprenez の métathèse。

(H34) s を介入させるのが美しい書き方であるというところは興味深い。

(CO93) 語源的にみて s が入る場合と s を介入させない場合がある。起動をあらわす挿入字 esc に由来する s に言及しているようだが, s を類推も含めて多く用いる傾向を示している。

(H95, CO97) 未来時制 1 人称は ay で終り, 3 人称は a で終る。

(H39) 母音で始まるある語が母音で終る他の音節に続く時, 先行する音節の母音を省略しなければならない, そしつ結合していた子音は次の語の母音と連続させなければならない, 即ち : malme (私の魂), Dengleterre (イングランドの), Dirlande (アイルランドの) となり, それらは休止なしに発音しなければならない。

(CO22) 母音で始まる語が母音で終る音節に続く時はいつでも前の音節の母音を省略しなければならない。そしてそれに結合している子音は後続する母音と結合させなければならない。例へば : de Engleterre, de Irlande は Dengleterre [of Englond], Dirlande [of Irlande] と書く。

(T8) 母音で始まる語が母音で終る語の直後に続く時はいつでもその二つの母音は一音節と数えられるが間隔をおかずにつけて発音しなければならない, 例えは : malme, maye (私の援助), Dengleterre, Dyrlaunde, Dexcestre (エクセターの) と。

(H22) 母音で始まる語が母音で終る音節の後につくとき, [前の] 音節の母音は省略すること。

(H40) この規則はその語の意味が奪われたり取り除かれたりしない限り正しい。例えは : de eaux (彼等の) のかわりに deus, または si ay (そして私は持つ) のかわりに say とするような場合である。

(H40^a) そして良い話し手は, 話し言葉で solempne bone est (厳肅なのは良い) のように一つの母音を他の母音に続けるようなことはしない。また一方, 話し手にとってはそれらの語の性質を忠実にあらわすようにしなければならない。

(CO28) 省略によって語の音が、あるいは文字の変更によって語の意味が疑わしくなったり、変化させられたり、あるいは文字の付加によって（そのようになる）場合は常に書かれているように発音されるべきである：

de eaux のかわりに deux と書き、 sy ay のかわりに say と書く時など。

* (H40, CO28) 母音省略によって意味が不明瞭にならない限り母音省略は可能であるとしているが悪い例が挙げられている。eaux は eux に対する AN 級りである。deux (数詞の 2) と d'eux の混乱をさけようとしたのか、say は savoir の直説法現在 1 人称単数活用 sai とまぎらわしくなる。

(H47) さらに、a, e, o のあとに l を持つ第一音節あるいは中間音節でその l のあとにすぐ他の子音が続くと、その l は u のように発音しなければならない：malme, malveis (悪い) のように。

(CO23) a, e, o のあとに l の字が置かれ、もし他の子音が l のあとに続く時は u のように発音されねばならない。即ち：

malme [my soule], loialment (忠実に), bel compaignoun (美しい友) のように。

(H48) しかし一方この規則は、del bien (良きものの) のような場合は適用しない。

(H49) 一つの母音が語の中で音節の終りにくる l に続きとき、l は個有の音を持ち、次の母音とつながれる：beal[e]ment (美しく) のように。

(CO24) 母音が l に続けられるとき、l の字はそれに続く母音と連結して自己の個有の性質を保つこととなる。

(H50) そして又、時には次のように書く：del, de, du, des, al, au, a, as と。

(CO78) 時には de, du, del, a, au, al, as そしてまた de, a, などと書く。

(H51) 従って一方あるいは他方を書く時、充分に注意するように。de が le の前にくる時、le の e は取除かれ、l が de に結びつけられる、例えば：de l[e] Evesque は del Evesque (司教の) となり、[de le seignour] は del seignour (領主の) と書く。

(CO30) 英語において the の印は、常にフランス語においては le 又は la を用いる。もし de あるいは a がその印に先立つならば le の e は省略し、l を a または de と結合しなければならない、即ち：

a le tresdoute seignour (いと畏き主君に) は al tresdoute seignour と、de le tresnoble seignour (いと気高き君の) は del tresnoble seignour となる。

(CO31) 一つの母音が le の印の直後に続くとき、e を取除き l は次の母音に続ける、即ち：

a le honourable seignour (尊敬すべき主君に)、または a le Evesque (司教猊下に) は a lonourable seignour, a levesqe 等々と書かなければならない。

(H52, 60) しかし la と書くとき、そして de が la の前にくるとき、その a は取除かれず、de la dame (奥方の) の、de la vale (谷間の) 等々となる。

(CO32) 女性において la という印を書く時はいつでも、たとえ直後に子音が続き、de または a が先行しても la はいかなる分割もなく自己の性質を保つ、即ち：

de la dame, a la tresreverent dame (いと尊き奥方に) のように。

(CO32a) 女性において la を書き、一つの母音が直後に続くときはいつでも l を後続する母音と結合することもできるし、また自己の個有の性質を保つこともできる。

a la abbesse (尼僧修道院長に)、de la esglise (教会の) と書いてもよいし a labesse, de lesglise と書いてもよい。

(H53) 男性と女性と町をあらわす個有名詞の前には de を書く。

(CO78a, s.o.CO78) de, a について。the という印が後続せぬときは：

a mon seignur le counte d'OXONFORDE (我が主君オクスフォード伯に)
de mon seignur Thomas d'Irlonde (我が主君アイルランドのトマス殿) と書く。
[Johan de Waynflete] のように名前がすぐ続くとき seignour または sire を短かく省略して書くこと。
seignour のかわりに ſ° のように e を上に、また、sire からくる e を上に ſ° と書く、あるいは e なしに mon
とこのように書くこともできる。

(CO79) del, al [または al のかわりの au] について。

the が続き、子音がその印に続くと、上述のように del の l は u に変える必要はない。

(CO79a) しかし al の l はよく保れる。du はそれのみで de le または del のような意味を持つ、即ち : de le dit portour (上述の荷持係りの) のかわりに du dit portour となる。

(H55) 形容詞の前で時には de を書き、時には du を書く : de は de ceste chose (この物の) のように、
du は du dit portour などのように。

(H56) また en については問題は別だ : en は en de ceste assavoir (この知識について) のように書く。

(CO33) 印 le を書き、子音が直後に続き en が先行するときはいつでも n を省略し、l は e と結合されなければならない、即ち :

en le countee (伯領において) は el countee と書く。

(H54) 単数で de または del と書くとき、複数では des と書くこと。

(CO34) 単数において el, al, del を用いる場合はいつでも複数では、es, as, des と書かなければならぬ。

(CO80) 単数の印をもった全ての語に対して複数では es, as と書かなければならぬ。

(H57) le が a のあとにくる時、al と書かれ、複数では as となる。

(H58) しかし la は a la dame のように変化しない。

(H59) また、時には od のかわりに de と書くこと : od le bouche にかわって de bouche (口で) のよ
うに。

(CO81) 時には od のかわりに de を書く : od le bouche のかわりに vous diray de bouche (私は貴方
に口で申しましょう) と。

(O82) cum のかわりに od または ou と書くこと。

(CO83) vel あるいは ubi のかわりに ou と書くこと。

* (H48) de+le=du となるのであるが、del をそのままに発音し、du と発音しない例として興味深
い。それは AN の傾向であったかもしれない。

(H50) より (CO83) までは語形と語彙の問題である。例題には AN 練りが多く見られる。

(CO79) は (H48) に対応する。所有をあらわす del は例外と考えられていたのか。

(H56) 例題の en de ceste assavoir には不用の de が加えられてある。

(H57) al の複数形は as のほかに aus, aux がある。 (H58) は (H52) と対応。

(H64) また時に字母 y を si のかわりに書く : y vous plest (そこは貴方の気に入る) のように。そし
て場所、其処に、をあらわすために jeo y serray (私はその場所にいましょう) と書く。

(CO49a) 字母 y は時には si のかわりに用い、si vous plest と言うかわりに y vous plest と言う。時に
は ‘其処に’ のかわりに用いられ、jeo y serray と、このようになる。

(CO49b) 時には強調的、指示的表現のためには j' ay mys mon seal a ycestes (私はそこに印璽を置
きました) と、このようになる。

(H74) 時には memes のかわりに y を書く。例えば : mesme cesty dismaigne (この同じ日曜日) のか

わりに *y dismenga* となる。

(H65) *entre*, *pentre* に対しても。

* (H64) (CY49a) *si* のかわりに *y* を用いるという指示は間違いである。*y vous plest* はこの場合 *s'il vous plât* を意味していると思える。

(H74) *mesmes* のかわりに *y* を書くことも不可解である。特殊な AN 的表現であったのかもしれない。

(CO49b) また *ycestes* の *y* は AN 級りと見做される。アングロノルマン級りでは *y* を好む傾向があった。

(H65) *entre* (間に, で, の) と *pentre* (に対して) とは別の語である。後者は *ancien français* には稀な語。

(H62) 様々な意味に対して *s* と *c* の間にある相異に充分注意することが必要であると心得よ。

celo に対しては *ciel* (空) と, *sal* は *seel* (塩)

sigillo は *seal* (印璽) *cervo* は *cerf* (鹿)

servo は *servant* (召使) *serf* と書く。

(CO50) 発音において類似していても様々な書き方がいくつかの語の相異を作る。

ciel (空), *seel* (手桶), *seal* (印) ;

celee (かくれたもの), *ceele* (それ) ;

coy (静か), *quoy* (なに) ;

moal (卵黄), *moel* (臼石) ;

cerf (鹿), *serf* (農奴) ;

teindre (色を変える), *tendre* (柔らかな), *tenir* (持つ) ;

attendre (待つ), *atte[i]ndre* (到達する) ;

esteant (存在する), *esteyant* (立っている) ;

aymer (愛する), *amer* (苦しい) ;

foail (燃料), *fel* (胆嚢), *feal* (忠実な) ;

veel (犢), *viel* (年老いた) ;

veile (葡萄の巻きひげ), *veille* (目を醒ましてのこと) ;

vile (地方の家), *ville* (村) ;

brahel (半ズボン), *brael* (ベルト) ;

herde (群 [動物]), *erde* (結びつく), *enherde* (付着する) ;

essil (破壊), *huissel* (腋窩), *assel* (車軸) ;

nief (土着の), *neif* (雪), *noef* (9 : 数詞) ;

baaile (あくび), *baile* (引渡し), *bale* (袋), *balee* (瘤) ;

litter (敷きわら), *littere* (担いかご) ;

fournier (用意する), *forrier* (略奪者), *forer* (糧秣) ;

rastel (熊手), *rastuer* (削り器具) ;

mesure (尺度), *meseire* (苦しみ) ;

piel (白黒のぶちの子馬), *peel* (皮) ;

berzis (草, ハーブ), *berzize* (発酵前の麦芽浸出液) ;

grisil (霰), *greele* (細い), *grele* (上衣) ;

towne (容量単位), tonne (調子) :

neym (倭人), neyn (哀れた者) ; など。

(H66) huissel, assel, essel (心棒) という語は音が非常に似ている。

(H8) 次の字母は音が変るが、書き方は変わることを理解するように : c, d, e, f, g, l, n, p, s と t.

Cは母音で始まる語の前では次のように書き、そして読みなさい : vifs clercs est il (彼は元気な書記だ) と。

Dは ruds homme est il (彼は荒々しい男だ) のように、

Eは larges home est il (彼は大男だ) のように、

F Fは vifs home est il (彼は元気な男だ) のように書き, vif と読む。

Gは rougs home est il (彼は赤ら顔の男だ) のように、そして roug[e]と読む。

Lは nul home (誰か) のように、そして nuls と読む。男性では nul と書き、女性では nule と書く。

cil と celle, il と elle この場合、読むときに一つの l は発音しない。

Nは bon home (好人物) や bon gre (善意) のように書き、その時 n は母音の前では個有の音で発音し, bons homme と読む。

Pは oept (作品) のように、

Sは ascun のように書き、そして acun と読む。

Tは子音の前に書くと d と読むように、母音の前ではその通りの発音される。

Fについては、男性も女性も v にかわる。男性においてはその儘に読むこと。

Gについて、母音の前では rougs home と読むように。

(CO51) 文字母 c, d, e, f, g, l, n, p, s と t は音においては変えるべきだが、書き方は変えるべきでないと知っておくよう。

c は cleric 即ち clerics におけるように、母音の前の c はガリア語では cleris と発音しなければならない。

荒々しい男 ruds hommes は ruz hommes と発音せねばならない。善良な婦人、即ち bones femmes は bons femmes と発音し、その際 n は半明瞭に発音すべきである。元気な男 vifs hommes は vys hommes と発音されねばならない、その他同様。

(CO77) l と r は書き方において時には二重に重ねられるが、発音においてはそうではない、例えば： celle (pron. dem.), elle (pron. pers.) terre [londe], guerre [werre] は tere, gere, ele, cele 等と発音しなければならない。

* (H8) 例題には名詞、形容詞の主格 CS と賓格 CR の混乱が見られる。主格に付す s が書き方においてもまた発音においても意識されているようであるが vifs, rougs と書いて vif, roug[e] と読むと教え、また nul と書いて nuls と読むと教える。bon home と書き、そして bons homme と発音するようにと教える場合など、音を示す時の例題の綴りが不正確である。CS を正しく書けば bons hom でありその複数は bon home となる筈だ。CR の複数であれば bons hom(m)es となる。例題の home, homme はすべて CS の場合に CR の形を使用している。当時における、殊に AN における、CS と CR の混同の実態が示されている例であろう。

屈折の s の前に屈折しない語幹の語末子音を導入する傾向も AN である。Pope : [57·1]。混乱は更に屈折の s を -e に終る男性名詞の単数主格にも付す場合があった。peres という綴りなどに見られる。Pope : [57·2]

Cはclercsの綴りでk音を発音しないようにとの注意であろう。ANではclerc, clerkの綴りがある。Fについては男性も女性もfがvに変るという指摘は正しくない。男性のfに対して女性ではfに母音eが続くのでfはvに変り得る。

(H98) フランス語 (Fraunceis) はラテン語 (Latyn) のように短かく書かれないと注意である。なぜならフランス語は完全な語を要求するからである。

(CO84) ラテン語 (Latinum) は短かく書き得るが、ガリア語 (Gallicum) は完全な語を要求する。

(H63) 多くのところでフランス語はラテン語と一致する、例えば：septemはsept (7:数詞), prebendaはprebendre (食料) である。それはprovendreのように発音される。

(CO85) 大部分ラテン人の間で書かれるようなガリア語を書くこと、例えば：

comptumはcompte (計算), septemはsept, prebendaはprebendre, opusはoeps等々。

(CO86) 次の語については相異がある：

apprendre (習う) と prendre (取る) reprendre (再起する) ; oez (聞く) と oeps (仕事) ; vys (意見) と huys (入口) ; kynil (犬の群) と kenil (管)

(H9) 従って次のように言うよう心得ること：

rougs homme (赤い服の男), chival rous (赤毛の馬), harang sor (褐色燻製鯨), escuedé goules (輝くあかい楯), vin vermail (赤葡萄酒), rose [vermaile] (深紅のバラ), drap rouge (赤い布)
しかし私はこれを綴りについて言うのではなく、多くの言い方に対応する英語 (Engleys) のこのredという言葉の多様性について言うのだ。

(O87) 英語のreedという語に対してガリア語はいろいろの言葉がある、即ち：rous chivaler (緋色の騎士), chival [rous], harang soor, escuedé goules, vin [vermail], rose vermaile, と。

(CO88) brekeというこの動詞に対しては：

fruchez chaud payn (熱いパンを千切る), debrisez l'os (骨を折る), rumpez la corde (綱を切る)
enfraignez covenant (約束を破る), debrisez la hanap (杯を割る) などがある。

(CO89) bloweに対しては：

ventuez od le vent (風をおこす), corneiez od le corne (角笛を吹く), suflez de bouche (口笛を鳴らす) がある。

(CO90) estreym (strawe) と estreyn (hansel) の間には相異がある。

(CO91) daym (雄鹿) と dayn (地方執事) は異なる。

* (H98) (CO84) ラテン語はフランス語より長い綴りが多い。従って論述は不正確。

(CO86) (H9) (O87) (CO88, 89, 90) 語彙論である。殊に英語に対応してフランス語を教えようとする意図が窺える。

(H78) 子音に始まる語が、意味上連関ゆく文において子音に終る語に続くとき、前の語の子音はたとえ書かれてあっても、音を出してはいけないし、文を読む時に発音してもいけない。

(CO27) 子音に始まる語が意味上連関する子音に終る語に続く時はいつでも、前の語の子音は書いておくことはできるが文の読みにおいては発音してはならない。

例えば：apres manger (食べたあと) はapre mangerと発音される。

(CO28a) あるいは複数のかわりに単数を発音する。

例えば：tenementz (所有物), gentz (人々) のかわりにtenement, gentと。sachantz (知ること) のかわりにsachantと発音する。

(H78a) もっとも m, n と r は別である。それらは文の読みにおいて発音を省略してはならない。即ち：pur Dieu, William, faitz mon talent (神かけてウィリアムよ、私の意図するところを行え) [下線訳者] と読む。

(CO29) l, m, n, r, t, c, k は子音が次にきてもそれ自体充分に発音されるか、または字母を変化させて発音することができる。

(H79) いくつかの語の末尾、または語の真中にあるときは充分に発音されるのがよい。

例えば：cez sont mes compagnons (彼等は私の仲間です) のように。

(CO20) William が使われるかわりに、もし字母を他の部分から引き出すときは G[u]illiam と書く習慣がある。

* (CO28a) 語尾の子音を発音しなくなるという傾向を示すものであろうか。語尾の綴りはしかし複数 tz ではなく、ts 又は z である。tz は AN 綴りといえる。

(H78a) 例文の動詞 faitz も faites または fais である。

(CO29) per mutacionem littere ‘字母を変えて’ という表現は不明瞭。

(H79) この項の意味も不明瞭である。cez sont の t について説明しているのであろうか。cez の z は s となるべきところである。

(T13) grant, quant は三文字の上に省略記号をもって g^ant, q^ant のように短縮して書き得る。

(T13a) 女性形は grande (大きい) とか, quante foiz (幾度か) のように書く。

(H11) quant, grant, demandant, sachant, tant および全ての分詞は u なしに n をもって書く。しかし、読む時には u の音を持つ。

(H12) 女性と結びつくそのような分詞は単数では e に終り、男性では e なしに終る。

(H13) grant が女性と結ばれると、t は d に変る、例えば：grant pite のように。

(CO36) quant, grant, demandant, sachant および同様の音節ないし語は u なしに单なる n をもって書かねばならない。しかし発音においては u が発音されなければならない。

(O52, C53) この grant という語が、‘大なる’ という意味を示し、女性につけ加えられる時は e が続くよう、そして t が d に変るようになる：

grande dame (領主婦人), grande charge (大責任)

(O53, C52) grant seignour (大領主) のように grant が男性につけ加えられる時、そしてまた許可を意味する時は、たとえ e がそれに続いても t は d に変らない。例えば：j' ay grante (私は許可を持つ) のように。

(H14) g と q のあとでは u を発音してはならない：

quatre (4 : 数詞), guerre (戦い) のような場合, quatre, gere と読む。

(CO54) g または q のあとに u が書かれてあっても quatre, guerre のようにには発音されず quatre, gere のように発音しなければならない。

* (H11) (CO36) 鼻母音 ã が鼻子音と同じ音節にあって発音される場合、綴り aun が用いられたのは13世紀初頭からの AN 綴りの顕著な特徴であった。Pope : [34. 1.] この項で教えている綴りは aun の綴りを否定し、an と書くべき綴りなのであるが、読む時、すなわち発音する時には u 音を挿入するというのは、綴りは否定しても AN 語の極めて特徴的な音を保持するようにと指示していることに他ならない。

(H24) (CO54) quatre, guerre のような場合 u を発音しないと指示しているところも興味深い。

AN の実態は u 音を発音していた可能性強いからである。

(H41) moy, toy, soy, Roy という語は、ガリア語の多様性に従って o または e をもって書き得る。また, i または y をもって書き得る。

(CO26) moy, toy, soy は e 又は o をもって書いてもよい。i をもって又は y をもって書いてもよい。

(H42) また時には moy を、時には me を書く : si rien soit devers moy (もし何かが私に対してあれば) や, me recommandez a un tel (私をある人に紹介して下さい) のように。

従って、いつでもある与格が moi, toi, soi の対格に続くとき、それらは me, te, se と変る。

(H43) 主格、対格の ego, mei と、2人称と3人称単数は me, te, se と書く。もし何も、そして他の前置詞もこの形をくずさなければ、である。

前置詞と共にあっては devers moy (私に対して), devant [toy] (君の前) のようになる。

(H43a) その他の全ての斜格は moy, toy, soy のように y で終る。

(CO58) 単数の対格においては me が、その他の格においては moy が書かれる。

(CO59) 対格がある記号と共に置かれる時は moy と書かねばならない。例えば：

si rien[thinge] soit devers moy のように。

(CO62) 全ての斜格は luy, moy, toy のように書かねばならない。ただし前の前に対格が用いられる場合を除く。

(CO60) 複数では全ての格において mes, ter, les 等々と書くこと。

(H44) 時には moy または luy と言い、時には jeo または cil と言いなさい。例えば : cil et moy (その人と私) とか jeo et luy (私と彼) のように。

(H44a) だから、次のようにこの規則を守ると知っておくこと：主格には jeo と cil を、斜格には moy と luy を用いる。そして貴方の前の誰かを指し示す時は cil et moy となる。この moy は斜格のようになる。もし jeo et luy と言う場合、その luy は斜格である。

(CO61) 主格の代名詞 je と cil のいづれかを(他の代名詞に)先立てる時、後に続くものは斜格として用いる、例えば : je et loy とか cil et moy のように。

* (H41) (CO26) 大陸フランス語においては12世紀前半に mei における二重母音の ei は oi に変化した[Pope 16. 3. 1., 35. 3. 30]。ANにおいては13世紀にかけて ei が水平化して [ɛ] となるかあるいは ei>oi という変化を生ぜず ei のまま残ったのである。moy, toy などはフランス語の多様性に従って o または e をもって書いてもよいという指摘は依然として ei が多く用いられた事実を示しているし、またそれは大陸フランス語の ei>oi 発展段階を意識している記述として興味深い。そしてまた、iあるいはyを区別なく書き得るという指摘も AN の一つの特徴である。Coyfurelly の *Tractatus Orthographie Gallicane* にも次の説明が見える。「yはどんな場所でも i の音を持ち、非常に多くの場合 i に書きかえるべきだ」(E. Stengel ed., *Tractatus Orthographie Gallicane* p. 20)

(H42) 人称代名詞の強形と弱形の用法を論じようとするのであるが、強形および弱形を使用する際の条件が理解されていない。一般に弱形 (formes faibles) は動詞の前で用い、強形 (formes fortes) は前置詞および動詞の後、および不定詞、分詞、動名詞の前にも用いる。

弱形は me, te, le, la, li, se, 強形は moi, toi, lui, li, soi, eus, eles.

(H43) 主格と対格についての明確な概念が消失していたのか、Et sachetz qe le nominatif et l'acusatif de ego mei, secunde et tercie personnes el singuler serront escriptz me te se, という論述は誤りである。

(CO58) (CO59) (CO62) においては強形と弱形を格の概念で処理しようとするので混乱が起つて

いる。それは(H42)においても見られるところである。問題の取扱いは不正確、叙述には取り違えがある。

(H43a) iにかわる yは英語で好まれた綴りと思えるが賓格であるからyを書くというのは誤りである。そしてまた、強形は賓格だけに用いるのではない、moy, toy, soyは主格にも用いる。

(CO60) mes, tesはpossessifsの複数、3人称はsesである。lesは所有形容詞ではなく人称代名詞3人称賓格弱形の複数。尚、mesは男性主格単数形でもあり、主格複数形はmi, ti, si。ANにあっては、特に当時格の概念が非常に不明確で混乱していたと思えるが、*Orthographia Gallica*には格を強いて教えようとするところが見受けられる。

(H44a) (CO61) 再びmoyとluyを斜格であるとするのは誤りである。強形と格とを混同。

(H45, cf. 86) また時にはcestes, 時にはceauxと書くこと。この場合cestesは主格と対格としてであること、ceauxは他の全ての格において書かれることを知っておくように。

(CO76) 主格と対格においてはcestes, cellesと書きなさい。また、その他の格においては、特定されたものが存在するのでなければceuxと書くこと。そしてcestesをj'ay mys mon seal a ycestes(あの人達の所に私は印璽を置いた)と、このように書きなさい。

(H86) is(主格), eius(属格)の複数主格と対格はcellesと書かれる。属格, 与格, 奪格はceauxとなる。

(H45a) しかし、もし物事が現存するか、はっきりあるものとして示される場合、ceauxはcestesにかわる。例えば：de cestes choses(これらのものについて),あるいはen cestes chosez me trouerez prest(私がこれらについて準備しているのが分かるでしょう)のように。

(H46) また時にはtotes, 時にはtouzと書くように。それは即ち：主格と対格がtotesで他の斜格がtouzということだ。

* (H45, cf. 86) cestesは指示代名詞女性複数において主格、賓格に用いられる。しかしceauxが他の全ての格において用いられるということはない。ceaux=ceusは男性複数・賓格に用いられるのである。この項ではまた、近称と遠称の問題と格の問題が混亂している。

(CO76) cestesは女性複数の近称celesは遠称である。そしてcilの男性複数賓格がceuxとなる。指示代名詞の機能に対する理解が乏しい。

(H86) cellesは女性複数の主格、賓格に用いられる。ceauxは男性複数である。再び女性形と男性形の混亂が見受けられる。

(H45a) (CO76)と同じ。

(H46) この項においても男性形と女性形の区別が混亂している。touz(toz)は男性単数主格あるいは複数の賓格でありtotesは女性複数。故にtotesが主格、賓格に用いられるのは女性形で、touzが賓格に用いられるのは男性複数である。

(H15) jeo, moy, nous, vous, luy, les等々はつねに動詞の前に書かれる、例えば：

vous vous aforcez(貴方は自分自身努力する)

nous vous mandons(我々は貴方に依頼する)

il vous prie(彼は貴方に願う)

cil vous manace(それは貴方を脅かす)

(CO55) jeo, moy, me, nous, vous, luy, lesは一般に動詞の前で、印なしに次のように書かれる：de touz les biens quelles vous m'envoiastes(彼女達が貴方のために私に送った全ての財産)

(H15a) また, ego の与格および対格 mei と 2 人称, 3 人称は名詞と同じく, 動詞の前に置かれる。

(H67) jeo と対格は動詞の前に置き, ついで動詞の後には与格を置く。

(H67a) 与格が文を始めるような時は, その与格は与格の印を持つ, 例えは:

jeo me recomant a vous (自己紹介をします) などのように。

冒頭ではこう言う: A vous sire et a ma tres honuree dame vostre compaigne jeo me recomant (貴方様と御同伴の令婦人に私を推挙します)

(CO56) jeo, moy, nous, vous, luy, les などが動詞のあとに書かれると, 印 (即ち a) を前に置く必要がある, 例えは: jeo me recomant a vous のように。

(CO57) 前述の vous または luy など, あるいはそれらのどれかが動詞の前に置かれる時, そして話している人の名前がすぐあとに置かれると印を vous の前に置く, 例えは:

A vous seignour, sire Justice (裁判官閣下に), a les Justices (裁判官の皆様に), a la tresexcellente dame (いと尊き御婦人に) など。

(H68) そして vous が動詞のあとにおかれた場合, 2 人称については devers vous というようになる。

(CO75) 大部分の場合, 対格は記号(印)と共に与格のかわりに用いる。尊敬をあらわすためには, 例えは: vous manderay ma lettre (貴方に私の手紙をお送りしよう) は, je manderay ma lettre devers vous (貴方様に対して私の手紙を差し上げましょう) となる。

* (H15) 与格を動詞の前に書くという叙述である。例文の vous vous aforcez は代名動詞の直接目的語であるから例としては不適当。

(CO55) ante verba sine signo '動詞の前に記号なしに' というように, signo (印) という語が頻出する。この場合印は前置詞を意味する。

(H67) 与格を動詞のあとに置くという叙述であるが, この場合, 前置詞に先立たれた人称代名詞強形を与格と考えているらしい。強形は次のように動詞のあとにくる場合がある: Et quant j'ai avant perdu lui=puisque je l' ai perdu auparavant (*La Chastelaine de Vergi* v. 815)

(CO75) 対格が記号と共に与格のかわりに用いられるという叙述は, 前置詞を伴う間接目的語を指す。尊敬をあらわすためには前置詞を伴った形を用いるという記述も興味深い。

(H69) vostre または sue に対して la または le を次のように書くと知っておくこと。例えは: jeo tuy le vostre escoler (私は貴方の生徒です), あるいは (jeo tuy le) vostre servant en qanqe jeo puisse faire (私ができる事は何事においても私は貴方のしもべです), あるいは jeo tuy la sue ancelle (私は彼女の娘です), またこのように le vostre en tut tel (全てにおいて貴方様の) などである。それは最も丁寧に話すためであって, 特に jeo tuy le vostre (私は貴方様のもの) のように, 名詞が示されていない時である。

(H16) あなたが誰かに依頼する時は jeo を置かずに vous pri[e] と言うことができる。

(CO63) 誰かから何かを要求するとき jeo なしに vous pri と言ひ得る。

(H17) 誰か他の者が懇願する時には cil または il vous prie (彼は貴方に願う) と書くこと。他の人々は cil または il vous plest (彼は貴方の気に入る) と書くがそれは誤りである。何故なら pry と plest は意味が異っているからだ。

(CO64) 誰かが他の人に依頼する時は cil vous prie (彼は貴方に頼む) と言ひなさい。

(H18) jeo は次のように動詞の前に置く: jeo vous pry (お願いします), jeo m' affy (たしかです) と。

(H19) jeo を消して y のかわりに i を書く, そしてそれに e をつけ加える: vous prie, m' affie のよう

に。これは y で終る動詞においてのことと知るべきであるが、子音で終る動詞でその前に *jeo* を置くものは動詞語尾に *e* をつけ加えない。即ち：*jeo vous manc*（私は貴方にとって不足です）など、そして同様のもの。

(CO65) *vous pry* のように、動詞の前に印をはっきりと置かない時は *pry* または *m' affy* を *y* で終らせるべきである。

(CO66) もし印がはっきりと置かれているならば *y* は *i* にかえられて、そして *e* が加えられる、例えば：*je m' affie, jeo vous prie* のように。

この規則は語が *y* で終る場合は理解されるが、もし語が子音で終る時は規則があてはまらない。例えば：*je vous manc* のような場合である。

* (H69) 所有形容詞の前に冠詞を使う習慣を示している叙述であるが *la sue* は古形を保存する AN の conservatism をあらわす側面であろう。

(H19) 13世紀には主に *er* 動詞直説法・現在 1人称単数語尾に *e* をつける傾向が現われた。3人称の analogy の *e* であるが (H18) に示されているように *e* を加える場合も加えない場合もみられた。語幹が子音に終る動詞には *e* を付す傾向が AN では遅かったらしい。

(CO65) 1人称単数の主語 *je* が省略される場合、*signum* は人称代名詞 1人称単数主格を意味するのであろうが、直説法現在の語尾を *y* で終らせよと指示するのは、*y* を *i* の代りに用いるという AN の習慣である。(cf. CO49, H74) AN では既述の如く *y* の綴りが多い。

(CO66) *signum* (印) というこの場合は *je* あるいは *jeo* を指している。人称代名詞を書いても、あるいは省略をしても *e* をつけ加えることにかわりはない。*je* という人称代名詞がなければ語尾が *y* の儘で終るという叙述は正しくない。

(H20) ラテン語の *iste* (その) *ipse* (それ自身) という代名詞はフランス語では *c* をもって *cil* と書く。

(CO68) 代名詞 *ille* (かの), *ipse*, *iste*, *hic* (これ) 等々は *c* をもって書かねばならない。单数では *cele*, *cest homme* と書き、複数では *celles hommes, cestes* と書く。

(H21) しかし *suns* (男性), *-a* (女性), *-um* (中性) は *s* をもって *son* と *sa* と書かれる。

(CO69) *suus, -a, -um* は *s* をもって *son* と *sa* [これは单数である、複数は *c* なしに *sez*] と書かねばならない。

(CO70) *citra* (此方) のように *c* をもって書くラテン語の言葉は、ガリア語綴りでは変化しない、例えば：*de cea la mear* (海の此方) のように。

(H23) そしてその他のところでは隨意に *cil* ないし *il* と書いてよい。

(CO71) *cil* を書いて、それに *si* が先立つときは *cil* の *c* は取除かれ、*si* の *s* が *il* に付け加えられる。*si cil* (もしそれが) は *sil* と書かなければならず、それは誰か一人を意味している。

(H24) 時に *c* は *s* を取るがその時 *s* は発音されず *c* のみを発音する、例えば：

[j']ay resceu (受けとりました) は *j'ay re(s)ceu* と発音される。

(CO72) 時には *c* が自らの前に *s* を取る。しかしその *s* は発音してはならない。例えば *resceu* は *receu* と発音されねばならない。

(H25) また時には *ss* と二重に書かれてあっても単に *s* と発音する。*puisse* (*pouvoir*), *fuisse* (*être*), *eusse* (*avoir*) のように。

(T15) *quoer, cuoir* (心臓) という言葉は *e* あるいは *o* のどちらを書いててもよい。

(H26) 時には *c* あるいは *q* このどちらを書いててもよい。*cuer* 又は *qoer* のように書く。

(H27) また時には *qi, cum, qe* のようにラテン語に従う。

- * (H20) *ecce+ille>cil, cel* となる。この項は代名詞の語源が理解されていない叙述と言える。*ipse, iste* は *cil* とはならない。
 - (CO68) *ecce+iste>cist, cest* となる。ここにもラテン語の語源を理解しなかったために生じた記述が見える。ちなみに *ceste* は *cist* の女性形（近称），*cele* は *cil* の女性形（遠称）である。例文は指示詞の男性と女性形を混用している。CR であれば例文は *cel homme, cest homme* となる。また複数で CR の場合は *cels hommes, ces hommes* となる。
 - (CO69) *suus* の対格 *suum* が *son*, *sua* の対格 *suam* が *sa* となる。複数は *sez* ではなく *ses* である。c なしにという記述も奇妙にきこえるが頻出する *sces* の形を不正確としているのであろう。（cf. H24, CO72）
 - (CO70) *de cea la mear* は AN 級りである。*deça de la mer* となるのであるが *deça* は *ecce hac* に由来する。語源は *citra* ではない。
 - (H23) *cil* の系統と *il* の系統の分離が意識されていない。AN における古い用法 *cil* と *il* の併存状態を示している記述と言える。ラテン語 *ille(>il)* は指示形容詞と代名詞のどちらにも用いられていたが指示形容詞としては残らなくなった。
 - (CO71) *si cil* は *sil* とはならない。*enclise* によって *si+le>sil, si+il>sil* となる。
 - (H24) (CO72) s 音をあらわす *sc* 級りは AN の特徴である。
 - (T15) *coer* の異形は AN では *quer, queor, quoer, cuoir, cuer, qoer* など。AN においては [œ] をあらわす級りが一定しなかった。
 - (CO46) *qi, qe, qant* は *k* をもって書かれるのを常としたが、今日の人々の間では *k* を *q* に変える。それはラテン語によりよく一致するためである。なぜならば *quando* (時に), *quis* (誰), *quod* (qui の中性形) の中に *k* は現われないからである。
 - (H27) 時にはラテン語に従って *qui, cum, qe* のように。
 - (H28) *k* は人および町の個有名詞において用いられる、例えば：*Katerine* (キャサリン), *Kyngesmourtoun* などのように。
 - (CO47) 土地および人の個有名詞と、人名においては *k* をもって書くべきである。例えば：*Katerine, dame de Knap toun* (クナップ町の令夫人) [O Kamptoun]
 - (CO48) *car* (何故なら) よび *nam* (何となれば) のようにラテン人の間で *q* が現われないその他の語は書く人の意志によって *c* または *q* をもって書いてよい。
 - (CO98) 接続詞 *qe* は *q̄* と書いてもよいし *qe* と書いてもよい。しかし疑問詞として置かれた *qi* は省略なしに書かなければならない。だが *quel* と *quelle* は関係詞として書く。
 - (C99) ガリア人のようにイギリス人にあっても時に関係詞は接続詞的に用いられる。例えば：*the woman that was yesturday at Oxonforde* (オックスフォードに昨日いた婦人) or *the woman wylke was yesturday at Oxonforde* これは即ち：*la femme q̄ estoit* ([其処に] いた婦人) [または *q' estoit hier a Oxonie*] (その人はオクソニイに昨日いた) または *la femme la quele estoit hier a Oxonie* (オクソニイに昨日いた婦人) となる。
 - (T10) *que* または *qui* は古人の使用習慣に従って *k* をもって書かれるのを常としたが今日人々の間では *k* は *q* にかわる。しかし、たとえば次のような個有名詞と人名は除く：*Kateryne de Kyrkeby*
- * (H28) (CO47) (T10) 人名、地名に *K* の級りを用いるのは AN の特徴。
- (C99) *qui* は主語、*que* は属詞をあらわす関係代名詞である。

(H70) 人や土地の全ての名称と地名、さらに職名と尊称をあらわす名詞、この世の支配者たちの約款の始まりは大文字で書かねばならず、特に法令文書においてはそうである。

(C100) 人や土地の名をあらわす全ての名詞、地名、尊称、条文の始まりは大文字で書かれる。

(T16) 全ての個有名詞、貴顕および現世の支配者たちの尊称名は、文の始まりでは大字を書く。特に法律文書にあっては、語頭は大文字をもって書かれるべきと留意すること。

(H71) 文章の途中で大文字を用いずに一休止すべき時には、構成の句読点を用いること。

(C101) しかし文の途中では大文字で始めずに、二つの句読点を打ちなさい。

(CO35) 大文字で書かれた語が小文字で書かれた同一の語と別の意味をもつ時、例えば：un conte counte[e] (訴訟の話)、del Count de tiel[e] Count[e] (ある伯領の伯爵の) un Roy assist un roy (王が規則を制定する)などがある。

(H80, CO37) 多くの文字が読みとれるあるいくつかの形容詞でなければ、m を除いて如何なる文字のかわりにも省略記号 (titulus) を書いてはならない。また更に習慣的に、例えば datur (それが与えられる)などのように。

(H81, CO38) ある語の中で省略記号 (titulus) が複数の字母を含む時はいつでも次のような場合に書くのがよい。それをもって、語がよりよく限定されるような字母の上に省略記号を書くこと、ただしそれは今日の知識ある読者の共通の方法が要求するところであって、何等それを不明瞭にしないとき。

* (H70) (C100) (T16) 大文字の使い方を統一しようとする意図が述べられている。

(CO35) 大文字と小文字の明確な使いわけによって、語の意味が異なることを教えようとする記述は興味深い。

(H80, CO37) (H81, CO38) 写本における略字の解釈が曖昧になってきていることを示す記述であろう。

(H82) 字母 n を g のあとで書く時はいつでも signifiant のように n を先に書いてはいけない。

(CO39) 字母 n が g の前にたとえ発音されても g の直後に続く時は例えば signifiant のように g の直前に書いてはならない。

(H83) しかし、もし後に置くのでなければ、前に置かれる。

(CO40) もし n を g の前で発音し、そして g の後に続けない時は g の直前に書いててもよい。

(T20) ある語の中で n(m) が子音 g に続くときは n は先立ててはならない、即ち busoignes (必要) やその他、同様。

* (H82) (CO39) (H83) (CO40) 硬口蓋子音 n [n] の表記について (H82) (CO39) と (H83) (CO40) の記述は対立し混乱を示している。前者は gn 後者は ng と書くように指示する。この [n] 音がアングロノルマンでは困難な音となっていたのは事実であろう。ngn と n を g の前に書いてはいけないと指示しているようであるが、既述のフランス語教本、Coyfurelly の *Tractatus Orthographie Gallicane* には ngn を良しとする記述がある：

「g はところで語中にあって母音と子音の間に置かれるとほぼ n と g の音を持つ：compaignon, compaignie, moigne, maigne のように。しかしがリア人 (Gallici) は大部分の人たちが語中に n を書く：compaingnon, compaingnie, moingne, maingne のように。この場合のほうが良い。」(no. 5)

英語の音体系に存在しなかったこの硬口蓋子音 [n] が AN では早い時期に、歯音 [n] となり始めるのである。そして表記には混乱が生じた。

(T20) ちなみに *bosoigne* の異形の例をあげると次の如く多様性を持つ：
busoingne, bozoyne, bosuygne, bosongne, bosuine, bosoinne, busing, bosoyn と。

(H84) *meus* (私の), *tuus* (君の), *suus* (彼の) などは男性に付加える時 *mon, ton, son* と書くべきである。

(CO41) *meus, tuus, suus* を男性に付加える時は *moun, toun, soun* と書くべきで, *moun seignour* (私のあるじ), *toun seignour* (君のあるじ), *soun seignour* (彼のあるじ) のようになる。

(H85) 女性に付加える時は *ma, ta, sa* である。

(CO42) 女性に付加える時は *ma, ta, sa* と書くべきで, *ma dame* (私の女主人), *ta dame* (お前の女主人), *sa dame* (彼女の女主人) のようになる。

(H87) 中性の *meus, tuus, suus* はその次にくる名詞が動作を受けるものよりも, 動作をする人としてそれらと一致するときに *son* と書く。

(CO43) 中性に付け加えるときは, 中性が動作を受けるものよりは動作を行うものと, あるいは付隨者よりも主体者と一致するとき *moun chief* (私の頭) のように *moun, toun soun* と書かねばならない。何となれば, ここで *caput* (頭) は主体者の身体の部分とよばれるからである。

(H88) ただし *sa* を除く。

(CO44) 主体者よりもそれが動作を受けるもの即ち附隨的ないし第二義的な諸部分と一致するときは *ma teste* (私の頭部) のように *ma, ta, sa* を用いる。何となれば, ここで頭は身体の他の諸部分同様に, 身体の部分とよばれるからである。

(H77) 単数では *nortre* (我々の), *vostre lettre* (貴方達の手紙) となる。

(CO45) 単数の *noster* (pron. poss.) *vester* (pron. poss.) -ra -rum は全ての性において *nostre, vostre* と書き, 複数では *nos, vos* と書かなければならない。

* (CO41) *moun, toun, soun* は AN 級りの特徴である。AN 第二期 (1250年以後) の特徴として O+鼻母音の表記に *oun, oum* が認められる。

(H87) (CO43) 被所有物が物をあらわす場合における所有形容詞の用法を明らかにしようとしたと思われる。しかしフランス語において中性に存在しない。*suus* の対格 *suum* が *son* となったという記述は正しい。しかしフランス語の所有形容詞の性の一致は所有される人, 物をあらわす名詞の性に対して行い, 所有者の性とは関係がない。故に行行為者としての名詞, あるいは動作を行うものと一致する, という記述は誤りである。

所有形容詞とそれに続く名詞との関係が充分に理解されていなかった様子である。所有形容詞はそれに続く名詞の性と数と一致するのである。*sa mere* は彼女の母でもよいし, 意味内容から彼の母でもあり得る。この項の記述は英語の *his, her* の概念をあてはめようとして起っている誤りのように見受けられる。

(CO44) この項も所有形容詞と名詞との一致を説明しようと試みているのではあるが, 名詞の性と数に所有形容詞が一致するという規則がはっきりとは認識されていないのである。

(H92) *m* と *n* または *u* の間に母音の *i* をおくとき, その字母がより読み易くなるように *i* を *y* に変えてよい。

(CO25) 字母 *i* が *m* と *n* または *u* の間に置かれるときはいつでも, その字母が読み易くなるように *y* に変えることができる, 例えは: *Comyngtoun* のように。

(H96) *i* と *n* が二つの音節に分かれる場合は, その間に *g* を書く, 例えは: *certaignement* (たしかに)

のように。

(T17) i が m, n または u の直前あるいは直後にあるときはいつでも、更に読み易くあるように、あるいはその本来の性質において存在するように y を変え得る。

(CO92) いくつかの音節をもった語の中で n が i に続くとき g を介在させる、例えば：certaignement, benignement (寛大に) などのように。しかし g は発音されるべきではない。

(H97) しかし (i と n が) 同時に音節を作る場合は certain のように g を書かない。

* (H92) (CO25) i を y に変えようとするのは AN 級りで好まれる傾向である。

(H96) (CO92) (H97) は AN 風の規則と考えられる。certain から生じた certaignement には g が介入することはない。級りは certain, certainement が大方を占めるが AN の作品の中には certeygne の級りも散見される。例：cele maladie me tout certeygnes houres de jour tut le seen; (*Fouke Fitz Warin* 45.1)。ただし、benignement の語源は benignus に由来する。

(T18) 一音節の語が s で始まる場合、その語は完全に書くことを常とする、例えば：sum, si, se, set, そしてその他、同様。

(T19) ガリア人の間では mund (世界) と munt (山) 等々、は異なっている。

(T21) m がある語で子音 t [n?] に先立つときはいつでも、dampnum (破滅) のように p を介在させねばならない。

(T22) 語と語の間の空間は字母 n の幅を持つべきであると心得ておくこと。

(T23) 行末でもし必要ならば、語は分節を作ることができる。しかし一音節は決して分離されない。

(T24) 長い字母が行間の途中まで伸び、語が長い字母を含むときは省略記号をもって書く。例：ab-sconderē (隠す), Galfrid^a などの如く。

(T25) 等しく揃った文字を行ごとに書くのであるから、写本の羊皮紙はその上部を折り畳むか、線を引くべきである。そして、最初の線あるいはその折り目はまっすぐに整えなければならない。

(T26) 字母、音節、語を続けて書くに際しては、先行する字母と隣接する字母を考慮すべきである。

(T27) 字母 l を用いている全てのラテン語にあっては、それに由来するガリア語においては l を用いなければならない。例えはラテン語の multmu (沢山) は molt または mult とガリア語で言われる。

* (T18) 単音節の語では省略字を使用してはいけないという、写字生に対する注意であろう。

(T19) 古フランス語においては一般に語尾の d と t は交換可能であった。

(T21) 鼻子音が続くとき p を介在させるのは中期フランス語の特徴である。その傾向を先取りしている模様である。

(T22) (T23) (T24) (T25) (T26) 専ら写字生に対して文章の書き方の説明を行っている。(T24) Galfrid^a は主格の us が省略されていると見られる。absconder も absconderunt となるのであろうか。

(T27) 語源にさかのぼれという意図がみえる。l は u 音になっているからこの考え方には hyper-correction と見做してよい。いわゆる mots demi-savants である。

記

1987年 R. C. Johnston は Anglo-Norman Text Society, Plain Text Series 5において、*Orthographia Gallica* の edition を刊行した。Johnston の edition は *Orthographia Gallica* 写本の short version と long version を区別し、各底本を定めた。Short version は London Lincoln's Inn Library Misc.

Orthographia Gallica

178 ff. 215^r-216^v (14世紀) [Sturzinger は本写本が London, Towerdocument として Record Office に記録されてあったところから、転写の際、記号として (T) を用いた] を基とし、long version は Cambridge University Library Ee. 4. 20 ff. 152^v-154^v (14世紀) [Stürzinger(C)] を底本として転写を行ない、フランス語写本 [Stürzinger(H)] をまた別個に転写している。Stürzinger の edition は各主題別順に各写本を再構成してあるので原文そのものよりも刊本は ‘learned look’ であるから、原文を忠実に転写した、というのが Johnston の方針である。Stürzinger は緻密に写本を起こしており、転写に際してのあやまりは少ない。筆者は訳述を行なうにあたって Stürzinger の構成を可とし、これに従った。

Johnston は Stürzinger の edition 以後、*Orthographia Gallica* の写本があらたに認識されたとつけ加えている。それらは short version の Cambridge Corpus Christi College 335, f. 132^{r-v} (15世紀), Oxford Bodleian Rawlison C 507, pp. 106-8 (14世紀), British Library Harley 4993, f. 22^r (incomplete 16世紀) であり、long version は Dublin Trinity College 605 (E. 5. 13) pp. 427-435 (15世紀), Warminster Longleat House 37, ff. 70^r-72^r (15世紀), British Library Sloane 513, f. 139^r (illegible 15世紀) である。

Orthographia と綴られた title は Dublin MS, Longleat MS に認められる。C.O. には *Ortographia* とあり、MS Harley 4993 には *Ortografia* とある。その他の写本では表題が付されていない。

Cambridge University Library MS Ee 4. 20 ff. 152^v-154^v および British Library MS Harley 4971 ff. 4^r-6^v のファクシミリ版を掲載しておく。

Orthographia Gallica

Cambridge University Library

MS Ee 4.20 ff. 152^v-154^v

Symphoniae Massicae

Integri scribend
in Cilliæ

l'ordre des chevaliers de la table ronde qui en est le chef et le plus ancien et le plus illustre. Il a été fondé par le Roi Arthur et son conseil pour servir à la défense du royaume contre les envahisseurs. Les chevaliers doivent être hommes d'honneur, de force et de vertu, et doivent respecter les pauvres et les faibles. Ils doivent également être fidèles à leur roi et à leur cause. Leur devise est "Vivat Rex".

Senz tressa quatuor sunt p[er] septem uelut in. vige d[omi]ni m[er]ita
quatuor uincentis diff[er]entis speciebus sunt tripli quatuor
uincuntur et sunt septem uerbi deo[m]ini et sunt Senz et sunt
uincuntur et sunt septem uerbi deo[m]ini et sunt Senz et sunt
uincuntur et sunt septem uerbi deo[m]ini et sunt Senz et sunt

Domine dñe

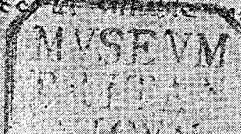
toz p m i n y o z m

Sallias

Orthographia Gallica

British Library

MS Harley 4971 ff. 4^r-6^v



... et de vie volonte p[er] desfors et fuisse luy s[ecundu]m
et q[uo]d par sonet q[uo]d e come ex rescen ha sonet iay rescen q[uo]d
desfors tenuit et sonet diste q[uo]d est. come p[ro]prie fuisse
ens et desfors est. et vel q[uo]d intercesserent come y sonet ou p[ro]p[ri]et
et desfors tenuit le Latin Et uenimus q[uo]d en p[re]s nomes des
fames q[uo]d uiles come fames tenuit et tenuit istem q[uo]d
dicto p[ro]prie, quasi en diffusio[n]e a possunt ubi erit sit ut est
soe p[ro]prio. Ut aueris genibus tu p[er]ficeris temp[or]is p[ro]prio. es
e come batif orez entredre q[uo]d est. q[uo]d ne me defensor
nichet q[uo]d p[er]tinet et c[on]tra q[uo]d est. q[uo]d esq[ue]l en r[ati]o de p[er]f[ect]o
temp[or]is et p[er]fecto come p[er]f[ect]o et e come resto q[uo]d come usq[ue]l o come
resto o come p[er]f[ect]o. Et desfors est. et en son de b. come
Mimi et uia vole dicim en lieu de se esmer p[er]f[ect]o. Et alia
sunt esmeras q[uo]d bele escripti come p[er]f[ect]o p[er]f[ect]o p[er]f[ect]o
Et autem est regula de illa le comit vesti come p[er]f[ect]o p[er]f[ect]o
come p[er]f[ect]o p[er]f[ect]o. Item la p[er]f[ect]a p[er]f[ect]a et p[er]f[ect]a de tam temp[or]is
et la secunda p[er]f[ect]a et tertiis de p[er]f[ect]o de illudicato meo p[er]f[ect]o
Et la secunda p[er]f[ect]a de tam alterius temp[or]is sua en se et la secunda
p[er]f[ect]a de p[er]f[ect]a et la p[er]f[ect]a de tam alterius temp[or]is p[er]f[ect]o p[er]f[ect]o en
destitutus mons de iustitia et tertiis mons auxiliatio a fiducia
et omnesq[ue] en se p[er]f[ect]o et p[er]f[ect]o en se ou en se a la fiducia
ut resq[ue]l come p[er]f[ect]o en se uero se. Item q[uo]d dicit
dicti incipiente et finaliter dicitur illudicatu tunc in dicitur
dicitur dictioris esse uelut p[er]fecti et consonans ad admittendu[m]
velut p[er]fecti ou locali p[er]fecti. Et quidam dicitur. Dicit
ne que sine p[er]f[ect]ione uelut p[er]f[ect]io. Et res p[er]fecta est uero
la q[uo]d la significacion est res ne uero talu nunc come p[er]f[ect]o p[er]f[ect]o
cans en se q[uo]d est et h[ab]et dicti esmeras defini nullo uero
en se p[er]fecti en p[er]fectis come p[er]f[ect]io h[ab]et est p[er]f[ect]a desfors
longe uincit p[er]f[ect]a signis h[ab]et uincit la uincit. Item hoc
dictio p[er]fecti q[uo]d son de se p[er]fecti p[er]fecti p[er]fecti p[er]fecti
can. Iungit q[uo]d uelut dictioris. Et res uelut dictioris non ali
p[er]fecti que come p[er]f[ect]o non sunt et me secundario
p[er]fecti q[uo]d efficit q[uo]d est la p[er]f[ect]a q[uo]d dictio dictio uelut

faculter de moi tñz sor ilz egypte come en me re re Et sachet
 le pndatifs et pluriels re Dao mei se et tte psonne et amoules tñant
 ester me re se et null tel signe desonble come serre moi devant
 et apusidet et com les dñe obliis furent en si come moy tñz
 Et ateforci vous dñez moy ou luy et ateforci ieo ou tel conercl
 et moy ieo e luy dont cachez le bonz gauverne este jense en tel
 maide geo et tel pñ le monatifs et moy e luy pñ les obliis Et qm
 vous noueres mis devant vos come yes e moy celle moy est en
 meade rebliot Et si vous dñez geo e luy dont est luy obli
 Quant ateforci vous escler ceset et ateforci ceans dont each
 et tñt pñ la pndatifs et faculter de ceans devant ester
 en tout les atefo caser pñs si les chosez sont pñta en amou
 nomes chitement en ester ceans tñant en estes come de ceses
 chosez ou en ceses chosez me tñant pñt Et quant vous escler
 ateforci lato et ateforci prout appassion lez monatifs et dñi
 sacris vices et les atefo obliis ieo Et pñtrez pñt mesme ente
 ncas il pñt a val e val o collabat si alunod consonans mme
 tre et segur tñt qm debet pñncipal come malme maluer
 ateforci tñt pñt fuster come debet debet Et Bonet tñnt
 I en la mo en pñt dñi pñle l'aria com affec soner e qm rogit
 ala balle come bealme Auguste ateforci vous escler pñt
 se en des ala a arf dont qm vous escler bin en laire
 quez bonz cada qm de ce devant le le bel le oja onfice et
 L qm rogit ala come rd Et qm oja escrit et qm oja
 del regnour Tñt qm vous escler li celle de ne et autre
 come de la dame de la vale e Amazot Renard pñt nomme eos
 Thomas et fñnes e villes qm le Et qm vous escler qm le
 el singulier nombr de qm le et pñt Et ateforci ester
 en deure de mettis le et ateforci legde come de ceses chosez qm
 come en des pñt pñt e cilia Et quant tel diffegence pñt en come
 en des ester astanors qm le mgez il qm pñt al e no et pñt
 qm le la ne qm pñt dñant come de la dame Et ateforci qm
 et de en lieu de ce come de boudie pñt la boudie Et mde
 qm pñt est devant la come de la vale de la dame de la dame

Die Sun stier, vermeint
Villem. On ramé vbi prins

3) *Tractatus Ortographie Gallicane*
M. T. Coyfurelly

—— M. T. コワフュルリの「ガリア語正綴論」——

訳

援助を必要とする者は誰であれ、すみやかに助力を得たいと望むところで自らの困窮を知らせる必要がある。何となれば、若い時に様々な能力をもって花を咲かせようと望む者は多いからだ。それはあたかも様々な若木と力づよい草木をしっかりと植え込んである庭園が多くの果実をみのらせ、早い夏に薫り高い香気を馥郁と漂わせるのを見るようなものである。

従って、一つにして三つの位におわします三位一体のお導きにより、私は力及ばざる者ではあるが、ガリア人の言葉とガリア語規則に従った書き方を知らしめたいと意図する。そして海の彼方の国々における習慣に従いより美しく発音させようと思う。そこから草木の枝はその習性と練磨によってまず花を咲かせ、ついで更に立派な姿をみせることになるであろう。王の王なるお方のお慈悲によって。

さて、まず第一にガリア諸国のアルファベットに従って字母の音を知ること。今日において正確に書かれているままに説明しよう。

a b c d e f g h i l m n o p q r s t
ae. bey. cey. dey. ea.efa. gey. assh. ij. k. al. am. an. o. pey. queu. aar. esa. tey.
u x y z
yu. eyx. y. edez. [.....] amen.

最初に字母の中のあるものは母音であり、あるものは子音であると知るべきだ。母音は五つ、即ち a, e, i, o と u である。それらが母音と言われるのは、おのずから完全な音を持ち、それら無くしては如何なる字母の音も発し得ぬからである。

そしてその五つの母音の中で、二つが子音の性質に移行する。i と u である。丁度それらがある音節のはじめに置かれる時は次に続く母音と同じ音節を作るよう、例えは：

juex (遊び), vanter (自慢する), joustier (馬上槍試合をする), voiser (楽しむ) 等々である。

1. A はほとんど字母 e と同じように発音しなければならないと知るべきである：

Savez vous faire un chancon (歌をつくることができますか)

Savez vous traire del arc (弓をひけますか)

Pierre remaint al hostel (ピエールは宿に留まる)

Saint Jaques est un tresnoble saint (サン・ジャックは高徳の聖者です)

J'en ai un bonne hopelande de pearce (私は上等の皮の上衣を持っている)

J'en ai grand paour (私は大層恐ろしい)

Je l'ay archivee (私はそれを成し遂げた) [アンダーライン筆者]

また斯様に。同様の語については同じように判断をすべきである。ローマ風の言葉 (AN ?) はまことに明確な完全な声で a を発音する。faire (成す), traire (引張る) とこの如く。

2. B は、語の中間に置かれると発音される。例えは：

debruiser (破壊する), tribuiller (苦しめる), troubler (混乱させる) 等々のように。ただし debtee (借

金のある), endebtee (負債のある), soubz (下に), desoubz (その下に) という語およびdoubter (疑う), redoubter (おそれる), soubstituer (代える) という動詞は例外である。全ての法と時制、単数および複数で b は発音されない。

まさにこれらの動詞から派生した全ての名詞と分詞においても発音されない。それらの語の中に b と書かねばならないが発音してはいけない。従って doubtree (おそれ多き) や tresdoubtee (いと畏き) などの語において語中に b なしに doutee, tredoutee と書く者は間違っている。

さて、a (avoir) や en a (il y en a それがある) という語は同じ意味である、というのは動詞 habet として理解されるのであるから。それらの文字に付け加えて多くの字母を書く事なく、単純にそれだけを書かねばならない。故に ad や en ad のように語末に d を付してこれらの語を書く人は間違っている。これらの語から d という字母の音は決して生じぬからである。また、このような語 avrai, en avrai (私はそれを持つだろう) は語中に e なしに書き、そのように発音しなければならない。しかしがスコニア人やその他の人達はこの語で常に e を発音し、e を語の中に書く：

averai, en averai のように。それはガリア語ではなく、いわんやローマ語 (すなわち AN か) でもない。また次の語、即ち：

je, jeo, jo, jou, ce, ceo, cou, chou は多様な言葉の習慣と正しい音に従って、それと明らかに分かるように書いて発音しなければならない。

3. C は語中に置かれると確かに z あるいは s の音を持つ。例えば：

ça (其処に), pieça (昔), tanquenta (同数の), reçoi (受取り), ainçois (このように), françois (フランスの), doulçour (優しさ), beneicon (祝福), rançon (身代金) 等々の語において。これらの語は常に上記のその形で書くべきである。時に c は k の音を持つ、例えば：

cas (場合), car (何故なら), canter (歌う) 等々の語におけるように。

4. E はほとんど字母 a のような音を持つ。特に語末にあっては短く鋭いアクセントで発音するべきである。即ち：

Je vien i endrois (私はそのあたりへ来る), Veicy belle chose (ここに美しい物がある) と。

5. G はところで、語中にあって母音と子音の間に置かれるとほとんど n と g の音を持つ：

compaignon (同僚), compaignie (同伴)

moigne (修道師), maigne (傷つけられた) のように。

しかしガリア人は大部分の者が語中に compaignon, compaignie, moingne, maingne のように n を書く、このほうがよい。

6. H は字母ではなく気音のしるしである。例えば次の語において：

huit (8 : 数詞), hors (外), hounte (恥), hony (恥ずかしい), hault (高い), hopeland (外套), herde (群), aherder (群がる), Jehan (ヨハネ), hard (綱) これらでは h は常に発音する。

しかし次の語では h は呼気をもって発音すべきではない：

hinc (ここから), huy (今日), hier (昨日), heure (時間), le hostel (宿), helas (あゝ : 感嘆詞), huiseux (布製), regehir (告白する) 等々。

7. I と e あるいは他の二つの母音が相互に結ばれている場合、i と e は語中にあって二つの子音間、あるいは母音と子音の間、又は語末に置かれた時、実際にはその両方の部分から音を取る、即ち：

biens (財産), ciens (此処に), siens (彼のもの), liens (きずな), miens (私のもの), riens (事柄),

arraier (並べる), baier (あくびをする), joye (喜び), voie (道), je (わたくし) 等々。

だからこれらの語における i 又は e が完全に音を失なうべきであるという人は、ローマ語 (AN)においてあれ、ガリア語においてあれ間違っている。何故ならガリア人もローマ人（アングロノルマン語を話す人々？）もこのような語にあっては常に i と e を発音する。

しかしローマ人は言葉において同じように書かない。まさに、次のように書く、即ち：
beins, ceins, leins, meins, reins, sceins, bein や jeo などのように。
この場合ガリア人は biens, liens, je と上記のように書く。

8. K はローマ語 (AN) では、ガリア語におけるようにではなく、c と h のかわりに書き、発音しなければならない。例えば、ガリア語における chival (馬力) のかわりに kival と、また chien (犬) のかわりに kien のように、vache (牛) のかわりに vake のように。

そして時には q を書く、chesne (桼の木) のかわりに quesne のように、である。ローマ人によれば c の場所に c と h が書かれる。このように pour chou 又は pour cheu に対してガリア語では pource (そのために) 又は pourceu である。decka に対して deca (此処から), tres douche に対して tresdoulce (大変優しい) となる、その他同様の語についても同じ。

身分、尊称や職名を示すローマ語 (AN) は、実際には単数であるが、複数で書かれる。即ち：
lui papes de Rome (ローマ教皇)

l'empereurs d'Alemaigne (ドイツ皇帝)

lui rois d'Engleter et de France (イングランド及びフランスの王)

lui chauncellers du Saint Peres (聖ペテロ寺院の枢機卿)

lui tresoreres mons. (財務長官)

lui duques de Launcastre (ランカスター公)

lui recevours madame la roigne (女王の収税人)

lui Sainz Esperes vous garde (聖靈の守りあらんことを)

この場合ガリア人は s なしに、これらの名詞を単数で書く。例えば：

le pape de Rome, l'empereur de R.

le roy d l'Engleterre 等々と。そのほうがより美しく簡潔である。

9. L は語中におかれて、母音がすぐに続く時は固有の音を保つ。即ち：

ennelement (早く), parlant (話している) と。

しかし、もし子音がすぐ続くとその時は u と発音されねばならない。即ち：

loialment (忠実に), principalment (最初に) のように。

ils という語はしかし例外であって、この語にあっては l は u 音を殆んど保たない。即ち：

ils vont ensamble (彼等は一緒に行く), ils ont fait (彼等が成した) と。

又 l が語末におかれ、次にくる語が子音で始まるときは固有の音を消失し、現実にはあたかも u のように発音する。即ち：

l'amiral d'Engleterre (イングランドの提督)

chival soor (赤い馬), fiel de fust (木材の樹液), seal d'argent (銀の印璽)

fiel de makerel malvais est (鮓の肝は悪い)

beal filz escoutez (良い子よ、聞きなさい) [アンダーライン筆者]

もしまことに次の語が母音で始まると、固有の l 音をまちがいなく保持する。即ち：

nul aultre (ある誰かの), nul enemy (どんな敵も), nul ignorant (或る無智なる人), nul homme

(ある人), nul usage (何等かの用法)

語末におかれた l, すなわち単音節の語末にある時は、直後に子音がくると u という音も個有の音もほとんど保たない。即ち：

il s'en est aleé (彼は行ってしまった), il le vuil bien (彼はそれを大層望む) 等々。

美しいガリア語に従えば、次の語では疑いなく決して l は発音してはならないということを知るべきである：hostel (宿), oil (然り), ombril (臍), penil (櫛), seel (印璽), sil (もし彼が), nonil (否)しかし、次のような語、即ち：

ael (葱), ael (祖父), ciel (空), ciel (瞼), voel (私は望む), veil (望み) においては l はそこから生ずるいかなる例外もなしに、常に発音される。

又一つ、次のような語、即ち：

fiel (真実の), chapel (礼拝堂), chatel (家財), chaste (城), pel (皮膚), pol (池), col (首), fol (無礼な) にあっては、例外なく美しいガリア語の正しい音に従って l は u の音を持つだろう。二重子音 LL が語中にある時はその音は完全に充分きこえる声で発音しなければならない：

fille (娘), fillete (小娘), oraille (耳), orailler (枕), aille (翼), oaille (羊) と。

しかし、次の若干の語 elle (彼女), belle (美しい), ycelle (その), nulle (何でも), quelle (どのような) 等においては ll をやさしく発音しなければならない。

ローマ人 (AN の人々) はまことに、特に l をどの様な場所でも何の支障もなく発音する。

10. N は母音と子音にはさまれ、ある語の語末に位置すると規則上は発音しない。その語は時制のいかんを問わず、直説法ないし願望法の三人称複数動詞である：

ils aiment (aimer), ils lisent (lire), ils dient (dire), ils amoient (ind. impf.), ils lisoint, ils disoient, ils amerent (prét.), ils listrent, ils distrent, ils amassent (subj. imp.), ils laissassent, など。しかし、次の動詞は例外、例えば：

vont (aller), ont (avoir), font (faire), avoient, eurent, estoient (être), furent, fesoient, firent であってこれらの全ての複合動詞についても同様。即ち：

en vont (其処から行く), en ont (それを持つ), en font (それでもって成す), en sont (其処から存在する), enavoient (それを持っていた) など。これらの語では n は固有の音を完全に保つ。

11. P が語末に置かれた時、子音が直後にくる場合、固有の音を完全に失わなければならない。例えば：

ne massez ja trop grand avoir (余り多くの財産を蓄積するな)

語末の屈折語尾の p で終わる固有名詞は別である：p は Philip のように発音する。

更にもし母音が直後にくるならば固有の音を完全に保つ：

mieulx vaut assez que trop avoir (多く持ちすぎるよりほどほどの方が価値がある) のように。

また、名詞 dras (布), tens (時間), cors (体) という語は p なしに書くべきである、その場所で正確な音が要求するよう。

ローマ人はその規則を守らない、なぜなら大部分の場合 p を常に書く。

そしてガリア語でも次のように書くことがある：draps, temps, corps と。

12. Q は常に弱くはないが柔かな音を持つ。そして直後にくる u で始まる二つの母音なしには次のいくつかの語で書いてはならない：

qui (誰), que (それを), quar (何故なら), querre (探す), querir (求める), quir (皮), quarre (四角い), auquant (いくつかの) などである。このような語で u を伴なわずに q を書く者は間違っている。

る。即ち：

qi, qe, qar, querer などのように。

そのような書き方をするのは不適当で規則を逸している。何故ならそれはガリア語の綴りの規則に従っていないからである。教える人の気に入るということだけで、合理的な基礎も理由もない。賢者は言う、弱い基礎は作品を台無しにする、と。そのように事実が存在するという以上のことと言ったり教えたりすることや、そのような学説や教訓が存在するはずだからといって合理的な理由を正しく見ないことは何の価値もなく、たしかに拒否されるべきものだ。

quar という語は書く人の意志により k, q 又は c のいづれをもって書いててもよい。というのは k, q と c は常に同じ効果を持つ。しかしある語にあっては第一音節に関して直後に入る母音なしには決して書いてはならない。また同じ様に綴られるのではない、なぜなら q がある語に用いられると、どの様な用法であってもラテン人の間で、特にラテン語の技巧では常に二つの母音が続く場合に書かれるのであるから。その最初の一つは u である。

13. R は語末に置かれると常に z のように、あるいは r のように発音してもよい。例えば：

j'en ay grand mal ou cuer (心に大きな苦しみを持つ)

j'en ay bon quer (優しい心を持つ) このように。

しかしがリア語では r というより z と同じ音の方がより優しい。しかしこの規則は次の語における如く全ての語で守られるわけではない：

quar, querir, ferir (嵌込む), ferrer (鉄を打つ) 等。

これらの語では r は常に固有の音を持って発音される。

14. 単独の S は直後に子音がくると語中では発音してはならない。例えば：

tresdoubte (畏れ敬われた), trenoble (大変高貴な)

tresgracious (いと優雅な) これらのように。

この規則から例えば、次のような語が例外とされる。即ち：

chastel (城), chastayne (栗の実), substance (実質), mesdant (悪い), Augustins (アウグスティヌス), instance (例示), registrer (登録する), fust (木), oscurte (暗がり), oscure (薄暗い), oscurement (暗く), oscurer (曖昧にする), sustiner (支える), substituer (代える), escharnir (あざける), transglouter (飲み込む), inspirer (吹き込む), discharger (荷物をおろす), estancher (枯らす), estendre (拡げる), espaundre (説明する), peschier (魚を釣る), estreindre (締めつける), dispenser (消費する), escuser (許す)

又、これらと同じ語から何等かの方法で作られたもの、あるいは派生した全ての分詞、名詞、そして副詞などにあってはたとえ子音がすぐ後にあっても s は常に発音しなければならない。

そしてもし母音がすぐ後に続くなら s は本来の音を完全に保つ。即ち：

tresexcellent (卓越せる), threshaultisme (いと高き), treshonuré (まことに尊敬された), tres humble (いとつましき) 等々。

複合字の SS は語中におかれる場合、常に発音される。即ち：

trespassant (通過する), tresfoissable (いと誠実な) あるいは tresfoiable (まことに忠実な) などである。

もし s が単独にある語の語末におかれると、その語がたとえ代名詞、動詞、接続詞又は前置詞であろうと、次に子音で始まる語が続く時には本来の音を最小限に保存する。即ち：

dieux vous saut et garde, vous seitez, vous sainz au cuer (神が貴方を助け守り給い、心をすこや

かに保たせられますように)

veuliez vous manger (召し上りますか), vuillez vous jouer (一勝負しますか), he regardez (さあ, 見なさい), mon tresgentil compaignon (私の親切な友人)

coment leur vestimentz sount bien et fetisement entailliez selon le guise du France
(如何に彼等の衣服が立派に形よくフランス流に裁断されていることか)

par le foy que je doy a Dieu, mon tresdoulz amy, j'en ay veu beaucoup des gens huy ou marchee
(神にかけて親しい友よ, 私は今日市場で多くの人達を見た)

しかし, もし次の語が母音で始まると s は発音せねばならない。即ち:

vous aimez (貴方は愛する), vous em priez (貴方は祈る), soiez vous icy (此処にいて下さい),
vous oustez la table (テーブルを片附けるように), estez vous un d'eux (貴方は彼等のうちの一人ですか) 等々。

そして, このような他の語も同様である。ただし vous ditez vray (貴方は真実を言う), vous le disoiez
vraiemment (貴方はその事を本当に言った), ils ount fait (彼等は成した) だけは除く。これらの語に
あってはたとえ母音が直後に従っても s は発音しない。

ローマ人 (AN の人々) は大部分の者が常に語中にある s を発音する。例えば:

dont estez vous? (どこからこられたのですか)

je m'en iray al ostel et je revenrey tantost (宿へ行ってすぐに戻ってきましょう)

qu'est la droite au Liege? (リエージュへのまっすぐな道はどれですか) と。

ガリア語においても同じ:

qu'est la droit chemyn vers Liegez (どれがリエージュへの正しい道ですか)

mon amy, vous irez a devant (友よ先に行って下さい)

et quant vous serrez la, vous ne pourrez nient marrir (其処へ行ったら困ることは何もないでしょ
う)。

全ての名詞, 分詞, 副詞そして感投詞において s が単独に語末におかれている場合, 単数でも複数でも s
は必ず発音しなければならない。例えば:

temps (時), corps (体), bras (腕), dos (背), huis (戸), fois (機会), noes (舟), noces (結婚),
poirs (梨), pourrez (pouvoir), orguelleus (傲慢な), dispeteux (軽蔑的な), cremeneteux (恐ろし
い), paourez (驚く), tremans (震え), trechans (切れる), estans (池), dis (数詞), lis (百合),
assez (かなり), ades (常に), jadys (且て), helas 等々。

この規則から次の語が除外される:

viz (顔), pis (胸), mis (私の), quantes (いくつの), longnes (長い), tous (全て), bons (良い),
petiz (小さい) そして grans (大きい)

それらは男性と女性とを問わない。又副詞 pas も数詞 dis も同様である。

これらの語 pas と dis では s を時に発音し, 時には発音してはならない。もし直後に母音がくると s は音
を保つ:

il en y a dis hommes loeggez a nostre hostell (我々の宿に10人の人達が泊っている) と, このよう
に。

しかし子音がくる場合は発音しない。例えば:

j'en ay dis livres (私は本を十冊持っています) となる。

また, dis が過去分詞として理解される時は s はそこで自らの音を保つ。即ち:

les sermons sont dis certainement (誓いの言葉が確かに言われる)

又、直後に母音が続かない *guaires* (殆ど), *waires* (多く) は除外される。このような場合 *je m'aresterai guaires en marchee* (私は歩いている間殆ど休まない) のほか、これらの語は s を発音してはいけない。また s はある語の語末に來るのでなければ発音しない：

deal filz ne demourrez guaires (美しい子よ、ここに少しでも留まってはいけない) このように。

15. T がある語の語末におかれる時、その語が動詞三人称単数の直説法現在時制又は過去の場合、あるいは代名詞の場合、次にくる語が母音で始まる時は発音しなければならない。即ち：

est il prest? (準備できていますか), *estoit a l'oster* (宿にいた), *il fut enmervaille* (彼は驚いた), *il fut ignel* (彼は足が早かった), *il fut oiseax* (彼は暇であった), *il fuit humbles* (彼は謙遜であった), *cest escuier icy chante tresbien* (此處にいる騎士の従者は巧みに唄う)

しかしこれにくる語が子音で始まる場合は t を完全に除外しなければならない。即ち：

qu'est ce q'il dit? (あの人は何と言っていますか), *il est prest* (用意ができている)

il ne peut chaloir (必要ではあり得ない)

il ne fait que pour esbatement (彼は楽しみのためだけに行なう)

que dit vostre meistre? (貴方の主人は何と言っていますか)

que fait monseigneur? (その人は何をしますか)

monseigneur vous ottroit de vous donner deux noble d'or (主人は二枚の金貨をお前に与えることを許す)

il estoit bien gracieus (彼は大層優雅であった)

il fut noble chevalier et vaillant (彼は気高く勇敢な騎士だった)

il fut tout dis joyeus (常に彼は陽気であった)

il fut vaillant, gentil et sage (彼は勇気があり礼儀正しく賢明であった)

il n'y a que vanitee ou ceste siecle (この現世には虚栄しかない) 等々。

ただし次の語、即ち *list* (lire), *et* (そして), *prend* (prendre) は例外である。それらの語から派生した全ての複合語も例外であって、それらにあっては t は常に発音されねばならない。また、語末の t は第三人称単数命令法の動詞においては音を最少限度に発音する。例えば：

Dieux vous beneit, monseigneur et la compaigne (貴方とお連れの方を神が祝福されますように)

Dieux vous ottroit de bien faire (神が貴方に善行を許されますように),

Dieux vous conduist et avance (神が貴方を導き進ませ給わん事を),

male semaigne soit a vous mis (悪い一週間になるように) と。

しかしながら *boit* (boir), *puit* (puir), *poit* (pouvoir), *eit* (avoir), *gart* (garder) と *ait* (aider) は除かれる。これらにあっては t は常に発音しなければならない。例えば：

boit il a l'autre (彼は他のものに乾杯する), *il puit malvairement* (悪い臭いがする), *il peit vilainement* (彼はひどい飼い方をする), *Dieux vous ait tout dys en sa garde* (神が常に貴方をお守り下さるように)

Dieux vous gart biau sire (御立派なお方、神の守護がありますように)

si Dieux m'ait (神が私をお助け下さるよう), *vous estez proudomme* (貴方は立派な人だ) と。

単数において t に終る全ての名詞、分詞は複数では語末に s 又は z をもって書かねばならない。それらの語では正しい音が要求するように t を完全にとり去るべきである。例えば：

単数で終る *saint* (聖者) の t は複数では *sainz* となる。*pourpoint* (胴衣) は複数で *pourpoins*, *pot* (壺) は *pos*, *li part* (部分) は *li pars*, *dovet* (衣服の布地) は *dovés*, *tout* (全て) は *tous*, *gent* (人) は

gens, tenant (保有者) は tenans, merchant (商人) は marchans, fait (事実) は fais, hault (高さ) は hauls, dit (言われた事) は dis, lit (寝台) は lis などである。こういう次第で、ガリア語の正字法に従うと複数で tz 又は ts をもってこのような語を書くのは間違いである。それはガリア人の間で一般的な規則であるから。

何となれば、ある語の中にどんな場合でも t がおかれるとはっきりと発音し、無音にしてはいけないのである。であるから直後に母音がくるのでなければ、たとえ女性の語であっても語中に t を書いてはいけない。

次のような場合である：

les saintes vierges de ciel ne cessent ades de loier nostre sires (天上の聖女達は絶えず我等が主をほめたたえる)

Dieu pour la grande grace et misericorde qu'il les a fait et moustré (神が彼女等に下し示された大いなる恩寵と慈悲のゆえに)

a toutes et quantes fois vous plerra venir, vous serrez tresbien venu (お気に召す時は何時でもおいで下さい)

il en y a des fammes en ce pais icy que soit bien richez merchauntz (この国には大変裕福な商人の御婦人がおられる) 等々。

しかし同じ様にこれらの語 sains (聖者), touz (全ての), merchanz (商人) や同様の語に子音を書いてはいけない。これらは男性で語末に tz 又は ts を持つのである。例えば saintz, tous, merchanz のように。従ってこれらの語は単数は t で終るが複数では t の音をいささかにも保たない。

しかしながら、過去分詞と理解される時、dis (dire) という語にこの規則が適用されないとと言われるとすれば、数詞の dis と区別するために語末に tz をもって書くべきである。かくして名詞あるいは動詞については、言葉の本来の多義性のために用法において対立が生じるが、自らの綴りの習慣を変えることはない。例えはある語は三つの意味を持ち、ガリア語の動詞 faire は六つの意味を持つ、それはその他の多くの言葉についても同様である。異なる話し方によって話の内容が充分に伝えられるのであるから、おのずからの多様性があろうと書き方は変えない。その点においてラテン語であれガリア語であれ他のいくつかの語に多義性がないと言うのは誤りである。

従って sains, tous, merchans などの語は複数においては語末を、ある時は s, ある時は z をもって書くのであって saintz, tous, merchans のように ts や tz をもって書くべきではない。何となれば tz と ts は同じ価値を持ち、この場合 z は s 音を完全な声で保つのである。

しかしながらガスコーニュ人は前記の規則を守らない。何故なら彼等は上述の語を末尾において tz, ts をもって書く。このように：

mon car amys, sont voz litz uncores faitz? (親しい友よ、貴方の寝床はすでに準備されていますか)

mon amys, sont mes pourpointz faitz? (友よ、私の胴着は作ってありますか)

まことにこのガスコーニュ人の言葉はガリア人に従って次のように書かねばならない：

mon amy, sont mes pourpoins uncores? faits (友よ、私の胴着はもう作られていますか) と。

次の語は：

fiuls (子息), mieulx (より良く), fois, ades, asses, vous poez (pouvoir), vous puiez (pouvoir), vous poiez (pouvoir), amiez (aimer), enseignez (enseigner), lisez (lire), oiez (ouir) 等々と書くべきである。従って tz をもって例えば fitz, mieultz, foitz 等々と書くのは間違っている、それらはガリア語ではない。それらの語からガリア語は t という音も綴りもいささかも保たぬ。それらは正しい音に従って正しく書かれるべきである。もしそれらの語が s または z で終る動詞あるいは前置詞である限

り, tz 又は ts が語末に書かれる。そしてもし子音が従う時は, 例えばこの二人称の動詞 *poetz* のかわりに *poet* と発音するとすれば, それはガリア語ではない。語末におかれた一つの s についての規則において上記の如く完全に承認されたようにそれはたしかにガスコニア語である。また同様に二人称の動詞単数, 名詞または副詞は音において, あるいは綴において t をいさ、かも保たない。例へば二人称の動詞 *tu peus* に対しては *tu peut* と言わぬいが, この場合よいのである。かように *fiulz* という語に対しては, 決してそのまま発音せずに *fitz* というのだがそれは悪い音である。従って:

fuilz, mieulx, fois, adés, assés, vous poez などのような語は正しい音に従って, t なしに書き, 発音しなければならない。

また, t は et という接続詞にあってはガリア語では書くけれども発音されない:

et je vous fais savoir que vous n'echiverez ja, se ce n'est par la soveraigne Dieu (また, 貴方に知らしめる, もし全能の神の加護がなければ貴方は決して成功せぬであろう) と。

16. U は語中におかれると固有の音を省略せねばならない, ちょうどラテン語, ガリア語, その他キリスト教国の多くの語において見られるように。すなわち, もし g, q, または s の三つの文字が語の中におかれる場合である。このように:

qui, que, longue (舌), longuage (言語), guerre (戦い), guerry (治った), guaires (多く), suef (柔らかい) 等々。

ひとたび非子音の u が母音の前につけ加えられると, それは力を失う。例へば:

suavis (心持よい), queror (求める) あるいは aqua (水), lingua (言葉) などの語がそれを証明する。g のあと, q のあと又は s のあとに隠れた u が認められる。我々の用法によれば二重母音は u から始まらない。注意すべきことは, 著者の証明するところによると二重母音とは二つの母音が, 相互にそれぞれ同一の音節の中で自らの音を保って結合している音のことであって, 次の如き四つの二重母音がある。即ち:

auris (耳) における au, euge (眼) における eu, musae (音楽の女神) における ae, poema (詩) における oe である。

ただしこの四つのうち最後の二つ ae, oe は使われていない。これらのことから明らかな如く, 全ての二重母音は au のように a で始まるか, eu のように e か, oe のように o で始まる。

従って:

suavis, lingua, queror, qui という語においてはその二重母音は存在しない。なぜなら二重母音は u で始まらないからである。また次の語, *unguentum (油), unguis (塗油), lingue (言葉)* にあっては u は子音ではなくて自らの力を完全に失っている。その理由は *ungentum, ungis, linga* 等々と u が力を失うように読むべきとある人達は信じているから。しかしそれは間違っている。というのは, たとえ u が固有の音を失ったとしても其処に置かれている場合は, 特に e と i という母音との連関において一般に u を発音すべきであると u が認めさせるからである。従って u が其処におかれていない時でも, 其の場所に別様に無益におかれていると理解すべきである。

また, *unguis* という名詞と, *ungo (油を塗る), ungis* という動詞の間に差異はない。そこで次のことが生ずる。u はそれらの語においては書かなければならないが, 発音してはならないということである。ただし, ガリア語の動詞, *sui (être), su (savoir), sue (suer)* およびそれら全ての法と時制を伴った形ならびに前置詞 *dessus* は例外である。これらの語にあっては u は常に, たとえ s が前にあっても発音される。

またしかし, ピカルディ, ブルゴーニュ, リエージュの町の人は上記の三つの文字 [g, q, s] のあとで

やはり u を発音する。例えば：

quatre (4 : 数詞), quarant (40) のように。しかしそれは不適当で規則に反する。

イングランド人, スコットランド人は u をそれらの文字のあとで発音する。特にラテン人の間では彼等の母語においてそういうことだ。このように：

quartus (第四の), quatuor (数詞), quare (何となれば), quaier (帳面) 等々。

17. X は語末において s または z のように発音し得る。例えば：

chivalx (馬), chiveux (毛髪), huiseux (布), oisealx (鳥), tieulx (そのような), ceulx (彼等), sealx (印), sielx (塩), および mieulx。

これらの語および同類の語は s, x, または z のいづれをもって書いてもよい。

知っておくべきことは Dieux は x を語末において保持しないということだ。全く単独で主格または呼格にあるときは別であって、韻律上の理由がある場合も別である。

こういう格で x をたとえ保っていても発音する場合としなくともよいときがある。それはちょうど主格において x が存在し直後に子音がつづく場合などであって子音が続くと x は発音しない。このように：

Dieux vous garde (神が貴方を守られますように) 又は

Dieux soit gart de vous (神が貴方の守護となって下さるように)

dieux が呼格にある時は常に音を保つ。次のように：

beal sire Dieux regardez moy en party

(うるわしき主なる神よ, 私が出掛ける時は見守って下さい)

さて次の語：

ferai (faire), serai (être), serrai (asseoir), verai (voir), orai (ouir)

このような語は一つの r をもって正しい音に従い, 書かれなければならない。次のような語とは異なるのである： ferrai, serrai, pourrai (pouvoir), verrai や orrai など。

しかし下記の語は rr と重ねて書くべきだ：

crerra (croire), morra (mourir), pourra (pouvoir), parra (paraitre), lerra (laisser), plerra (plaire), larron (盜賊) や lierres (泥棒) のような語はちょうど正しい音が要求するように正しい綴り rr 二つをもって書かねばならない。

ovec (共に) という語は, 明らかに見られるように, aveque, avuec, avecques, avec と様々な地方の習慣に従っていろいろに書き得る。しかし s を語の中に ovesque と書くのは間違っている。

この selonc (従って) という語では n または c をもってどちらで終っても良い。selon または selonc のように。

次の語, escu (楯), escuire (楯持ち), escuelle (杯), cueller (スプーン) およびこれらの語から派生する全ての分詞と名詞は, ちょうど正しい音が要求するように c をもって書き, q をもって書いてはいけない。なんとなれば q をもって esquier, esquelle というように書くと, 我々は eskier, eskelle と発音することになるだろうから。これはガリア語ではない。丁度 u に関する規則によってそれが充分に証明されるようにである。

18. Y はどんな場所でも i の音をもち, 非常に多くの場合書き方の装飾のゆえに i のかわりに書かれるべきだ。特に町, 人, 男性, 女性の名前をあらわす個有名詞, そして敬称の名詞などである：

Gunnyngton, Guynton, Guylliam de Boyton と, いうように。

19. Z は語末においてはほとんど s のように事実上発音される：

requerez (querir), sarchez (chercher), aimez (aimer), lisez (lire) のように。

そして同様の語についても。既に述べた我々のガリア語の論述においても同じ説明が示されている。

また、次のことを知るべきだ。ある単音節の語が母音で終り、次にくる語が母音で始まる時はいつもそれら二つの語は両者で一語のように発音されなければならず、最初の母音は書かれるべきではないし、自らの音を保持すべきでもない。このように：

l'abbe (大僧正), l'abbeye (僧院), l'ombre (影), l'oue (あひる), d'or (金の), d'argent (銀の), qu'est (être), qu'ore (その時), n'a (avoir), n'est (être), n'y a (其処にない), n'envoyer (送らない) 等々と。

全ての動詞で活用形が s に終る場合はいつでも書く人の意志によって s あるいは z をもって書くことができる：

aimez (aimer), beneiz (benir), ditez (dire), prenez (prendre) のように。

e で終る全ての分詞はどの性であれ、それらの語から派生する語の音と区別するために語末において ee と二つの e をもって書かねばならない。

例えば過去分詞 amee は二つの e をもって上述の語と区別するために書かなければならない。enseignee はその動詞 enseigne(enseigner) と区別するために、menee は mene(mener) と、donee は donne (donner) と区別するために。

またいくつかの男性の現在分詞で t に終る場合、excellent (すぐれた) についても、女性になると音においても綴においても e を加え e と発音しなければならない。しかし分詞の語末の e の前に i がある場合はこの限りではない、例えば：

appareillie (appareiller), veillie (veiller) と、このようになる。

c, f, g で終る全ての男性名詞単数は blank (白い), vif (元気な), long (長い) となり、複数は語末に s をもって書く。その際、c, f, g は完全になくなって blans, vis, lons となる。しかしこのような語 long, sang (血液) は単数では c または g のどちらをもって書いてもよい。例えば lonc, sanc, long, sang のようにである。

男性あれ、女性あれ全ての名詞で語末に二重の母音の音 ee を持つものは ee をもって書く。このように：

amee (愛されたもの), pansee (考えられたもの), puree (純粋にされたもの), rousee (露がしたたるもの), vinee (樽に入れられたぶどう), sunee (音を立てられた) 等々、と。

男性単数において t で終るような女性形容詞、sainte (聖なる), mainte (多くの) などはもちろん例外である。それら上記の分詞および名詞にあっては、音においても書き方においても ee は二重にそして完全に書かなければならない。同様の語においても上述した如く同じである。

さて、学識ある修学僧たちは、各人の時間を労費することなく、彼等を力づける三位一体の御加護により花を咲かせ得るであろう。彼等すべて、および各々は上記のことおよびその他のことについても正しく教えられる事を望むものである。

三位一体においてしろしめす全能の父は、善意と恩寵と幸運を与えられ私、パリの T. H. なる学生に諸国の言語についてのあらゆる形と書き方の真実をひき出さしめ給うであろう。習わしにおいても知識においても不足する者であると雖も。敬虔なる愛をもって、アーメン。

オルレアンの司教座参事会員、両学博士 M. T. Coyfurelly がここにパリの習慣と形式に従って新しく上梓した「フランス語正綴論」は終わる。

Tractatus Ortographie Gallicane

記

本文は14世紀後半に作成されたものと考えられる。*Orthographia Gallica* より後に作成されたものであろうか、M. K. Pope は実際に論文が作られた年代をエドワードIII世の時代の後半、あるいはリチャードII世の時代としている。(前掲 M. K. Pope ed., "The 'Tractatus Orthographiae' of T. H., Parisii Studentis," *MLR*, vol. 5, pp. 187-88.) コワルフルリ自身が論文の末尾に記している如く、パリの学生 T. H. による「正綴論」を新しく書き改めたものである。

コワルフルリの論文は1879年に E. Stengel によって一度 Oxford, All Souls College 写本 182 ff. 340^r-344^r より転写されて、*Zeitschrift für neufranzösische Sprache und Literatur*, Band I に収録された。(この第一巻には、ある英国人の著わしたフランス語会話書 *La manière de language* (1396年), MS Oxford All Souls College 182 ff. 314^r-315^r, 323^v-326^v や、John Barton 編の *Donait francois*, MS Oxford All Souls College 182 ff. 316^v-321^v, 361^r-362^v. も収められている)

今回再び Coyfurelly の *Tractatus Ortographie Gallicane* を MS 182 (Oxford All Souls College) ff. 340^{rb}-344^{ra} より転写した。Stengel の読み違いを修正し、Stengel の読みにおいて欠落しているところは補ってある。翻訳に際しては写本を参照した。Coyfurelly の *Tractatus* は MS 182 にあっては Bibbesworth の *Tretiz* (ff. 331^{rb}-340^{ra}) について、同じ筆写体で続けられている。

Tractatus Ortographie Gallicane

Cuiuslibet creature auxilio indigentis intererit revelare suum gravamen, ubi 340^{rb} sperat celerius subsidium obtinere. Et quia nonnulli sunt desiderantes diversis facultatibus florescere in juventute, sicut viridarium diversis arboribus et virtutibus herbarum nobiliter plantatum videtur multociens fructus et vapores non modicum 5 redolentes temporibus estatum feliciter propalare. Hinc est quod auxilio Trinitatis que regnat trinus in uno, licet insufficiens, sermones gallicanos et formam scripture cum regulis in eisdem intendo propulsare et secundum usum in partibus transmarinis dulciter sonare, unde herbarum rami moribus et scientia primo florescere et postea in altius poterunt insigniri, disponente clemencia Regis omnium Regum. Et primo 10 cognosce. Sonum literarum secundum alphabetum in partibus gallicanis recolo explanare prout in aperto scribitur in presente :

a b c d e f g h i l m n o p q r s t
ae bey cey dey ea efa gey assh ij k al am an o pey queu aar esa tey
u x y z
15 yu eyx y edez [...] (ms. illegible) amen.

Et primo sciendum est quod literarum alie sunt vocales, alie consonantes. Vocales sunt quinque, sive *a*, *e*, *i*, *o* et *u*. Et dicuntur vocales, quia per se plenam vocem faciunt et sine illis nulla vox literalis proferri potest. Ex hiis quinque vocalibus due transeunt in vim consonancium, sive *i* et *u*, ut quando ponuntur in 20 principio alicuius sillabe et sillabicantur cum vocali sequente, ut *juex*, *vanter*, *jouster*, *voiser*, et sic de similibus.

Et sciendum est quod *a* fere debet sonari, sicut *e* literam, verbi gracia : *Savez | vous faire un chançon ? Savez vous traîr de l'arc ? Pierre remaint a l'hostel.* 340^{va} *Saint Jaques est un tresnoble saint. J'en ai un bonne hopelande de pearce. J'en ai 25 grand paour. Je l'ay achivee*, et sic de similibus. Simile sit iudicium. Romanici vero proprie et plena voce sonant *a*, ut *faire*, *traire* et huiusmodi.

B vero in medio diccionis posita [...] (ms. none) ut *debruiser*, *tribuiller*, *troubler* et huiusmodi, exceptis hiis diccionibus *debtee*, *endeblee*, *soubz*, *desoubz*, necnon istis verbis *doubter*, *redoubter*, *sousstituer*, cum omnibus modis et temporibus 30 suis tam pluralis numeri quam singularis et cum omnibus nominibus et participiis ab eisdem verbis descendantibus, in quibus in medio scribi debet *b* set non sonari. Unde errant, qui scribunt *doubtee*, *tresdoubtee* et huiusmodi sine *b* in medio, ut *douee*, *tresdouee*. Item iste dicciones *a* et *en a*, que unum et idem representant, quia capiuntur pro hoc verbo *hebet*, simpliciter per se debent scribi sine pluribus literis 35 eisdem connexis. Unde errant, qui scribunt huiusmodi dicciones cum *d* in fine, ut *ad*,

en ad, ex quo sonus istius littere *d* ibidem nunquam habeatur. Item iste dicciones *aurai*, *en aurai* sine *e* in medio scribi debent et sonari. Tamen Vaconici et alii *e* in huiusmodi semper sonant atque scribunt in medio, ut *averai*, *en averai*, quod non est gallicum, ymmo romanicum. Item iste dicciones, videlicet *je*, *jeo*, *jo*, *jou*; *ce*, *ceo*, *cou*,
40 *chou* secundum modum et rectum sonum diversarum linguarum, prout hic evidenter patet, scribi debent et sonari.

C eciam in medio diccionis posita quoque habet sonum *z* vel *s*, ut in hiis 340^{vb} diccionibus *ça*, *pieça*, *tanquenza*(sic), *recoi*, *ainçois*, *françois*, *doulçour*, *beneçon*,
45 *rançon* et huiusmodi, que dicciones semper scribi debent modo et forma supradicta.

Et aliquando *c* habet sonum *k*, ut in hac diccione *cas*, *car*, *canter* et huiusmodi.

E vero sonum fere tenebit sicut *a* littera et principaliter in fine diccionis cum brevi et acuto accentu pronunciandum, verbi gracia *Je vien i endrois*. *Veicy belle chose*.

G autem posita in medio diccionis inter vocalem et consonantem habebit sonum quasi *n* et *g*, ut *compaignon*, *compaignie*, *moigne* et *maigne*. Tamen Gallici pro majori parte scribunt *n* in medio, ut *compaingnon*, *compaingnie*, *moingne*, *maingne*, quod melius est.
50

H vero non est litera, sed aspirationis nota, ut in hiis diccionibus *huis*, *hors*, *hounte*, *hony*, *hault*, *hopelande*, *herde a herder*, *Jehan*, *hard*, in quibus *h* semper sonabitur. Sed in hiis diccionibus *huit*, *huy*, *hier*, *heure*, *le hostel*, *helas*, *huiseux*,
55 *regehir*, *h* non debet aspirari, et sic de huiusmodi.

I vero et *e*, seu aliae due vocales ad invicem conjuncte, quando ponuntur in medio diccionis inter duas consonantes seu inter vocalem et consonantem aut in fine diccionis, sonum ex utraque parte capient in effectu, ut *biens*, *ciens*, *siens*, *liens*,
60 *miens*, *riens*, *arraier*, *baier*, *joye*, *voie*, *ie* et huiusmodi. Unde errant, qui dicunt quod *i* vel *e* in huiusmodi diccionibus sonum penitus amittere debent, tam in Gallicis quam eciam in Romanicis, quia Gallici et Romanici *i* et *e* semper sonant in huiusmodi, sed non simili modo scribunt in sermonibus Romanici. Namque scribunt sic, videlicet *beins*, *ceins*, *leins*, *meins*, *reins*, *seins*, et *bein* | et *ieo*, ubi Gallici scribunt *biens*, *liens* 341^{ra}
65 et *ie*, ut supra.

K eciam in lingua romanica, non autem in lingua gallicana, nomine et loco *c* et *h* scribi debet et sonari, ut *kival* id est gallice *chival*, *kien* id est *chien*, *vake* id est *vache*, et aliquando *q*, ut *quesne* id est *chesne*. Necnon loco *c* debent scribi *c* et *h* secundum Romanicos, ut *pour chou* vel *pour cheu* id est gallice *pour ce* vel
70 *pourceu*, *deçha* id est *deça*, *tresdouce* id est *tresdoulce*, et sic de aliis consimilibus. Item Romanica(sic) nomina dignitatis ut officii, que sunt singularis numeri, scribunt pluraliter in effectu, ut *lui papes de Rome*, *l'empereurs d'Alemaigne*, *lui rois d'Engleter et de Ffrance*, *lui chauncellers du Saint Peres*, *lui tresorerers Monseigneur*, *lui duques de Launcastre*, *lui recevours Madame la roigne*, *lui sainz esperes*(sic) vous
75 *garde*, ubi vero Gallici sine *s* scribunt huiusmodi nomina singulariter, quod pulcrius et brevius est, ut *le pape de Rome*, *l'empereur de Roy*, *le Roy de l'Engleterre*, et sic

de ceteris.

L autem posita in medio diccionis, vocali immediate sequente, sonum proprium reservabit, ut *onnelement, parlant*. Sed si consonans immediate sequatur, tunc 80 debet sonari sicut *u*, ut *loialment, principalment*, hac diccione *ils* tantummodo excepta, in qua *l* sonum *u* minime retinebit, ut *ils vont ensamble, ils onl fait*. *L* eciam posita in fine diccionis, si sequens diccio incipiat a consonante, sonum suum proprium dimittet et quasi *u* sonabitur in effectu, ut *l'amiral d'Engleterre, chival soer, fiel de fust, seal d'argent, fiel de makerel malvais est, beal filz escoutez*. Si vero 85 sequens diccio incipiat | a vocali, tunc *l* sonum proprium procul dubio retinebit, ut 341^{rb} *nul aultre, nul enemy, nul ignorant, nul homme, nul usage*. Tamen *l* posita in fine diccionis, videlicet in diccionibus monosyllabis, si consonans immediate sequatur, sonum *u* nec proprium sonum minime reservabit, ut *il s'en est alee, il le vuil bien*, et sic de ceteris. Et sciendum est quod in hiis diccionibus, sicut *hostel, oil, ombril, 90 penil, seel, sil, nonil*, procul dubio *l* nunquam debet sonari secundum dulce gallicum. Tamen in hiis diccionibus, sicut *ael, ael, ciel, ciel, voel, veil, l* semper pronunciabitur sine aliqua excepcione inde sequente. Item in hiis diccionibus, videlicet *fiel, chapel, chatel, chastel, pel, pol, col, fol, l* semper habebit sonum *u* secundum rectum sonum dulcis gallicis sine excepcione aliqua. *LL* vero duplex in medio diccionis integre et 95 plena oris voce in sono pronunciabitur, ut *fille, fillete, oraille, orailler, aille, oaille, set iste dicciones nonnullae elle, belle, ycelle, nulle, quelle, dulciter sonari debent, et sic de similibus. Romanici vero presertim *l* sonant in omni loco nullo obstaculo impediente.*

N autem posita inter vocalem et consonantem in fine alicuius diccionis, que 100 sit verbum, tercie persone pluralis numeri indicativi vel optativi cuiuscumque temporis fuerit, de jure non sonabitur, verbi gracia *ils aiment, ils lisent, ils dient, ils amoient, ils lisoient, ils disoient, ils amerent, ils listrent, ils distrent, ils amassent, ils laissassent* et huiusmodi. Tamen ista verba excipiuntur, sicut *vont, ont, sont, font, avoient, eurent, estoient, furent, fesoient et firent*, cum omnibus eorum compositis, ut 105 *en vont, en ont, en font, en sont, en avoient et huiusmodi, in quibus n sonum proprium totaliter reservabit*.

341^{va}

P vero posita in fine diccionis, consonante immediate sequente, sonum suum penitus amittere debet, verbi gracia *ne massez ja trop grand avoir*, exceptis propriis nominibus in *p* desinentibus ut *Philip*. Set si vocalis immediate sequatur, sonum 110 suum plenarie reservabit, ut *mieux vaut assez que trop avoir*. Item ista nomina *dras, tens, cors*, sine *p* sunt scribenda, prout rectus sonus exigit in hac parte. Tamen Romanici non tenent illam regulam, quia pro majori parte *p* in huiusmodi semper scribunt. Et in gallico bene potest itaque scribi, ut *draps, temps, corps*.

Q vero semper lenem, necnon mollem, habet sonum et nunquam scribi debet 115 in aliqua diccione sine duabus vocalibus immediate sequentibus, quarum prima erit *u*, ut *qui, que, quar, querre, querir, quir, quarré, auquant* et huiusmodi. Unde errant, qui scribunt *q* in huiusmodi diccionibus sine ista vocali *u*, ut *qi, qe, qar, gerer*. Qui

quidem modus scribendi indecens et irregularis est, ex quo non sequitur regulam orthographie gallicane, cum non habeat pro se racionabile fundamentum nisi causa, quia sic placuit instituenti, set ut dicit sapiens, «Debile fundamentum fallit opus.» Et 120 ulterius dicere seu docere quod ita res esset, et non videre regulariter causam racionalem, quare taliter existere deberet illa insinuacio seu doctrina, nullius est valoris, ymmo omnino est refutanda. Item hec diccio *quar* indifferenter potest scribi cum *k*, *q* vel *c* ad voluntatem scriptoris, quia *k*, *q* et *c* semper sunt ejusdem effectus, que nunquam debent scribi in aliqua diccione sine vocali immediate sequente, 125 habendo respectum ad principium sillabarum. | Non tamen simili modo sillibantur, 341^{vb} quia *q* in aliqua diccione posita, cuiuscumque ydiomatis fuerit, inter Latinos et principaliter in latinis artificibus(sic) semper scribi debet cum duabus vocalibus imme-diate sequentibus, quarum prima erit *u*.

R autem in fine diccionis indifferenter potest sonari quasi *z* vel *r*, ut *j'en ay grand mal ou cuer, j'en ay bon quer*. Set dulcior est sonus quasi *z* in lingua gallica quam quasi *r*. Tamen hec regula non tenet in omnibus, ut in hiis diccionibus *quar, querir, ferir et ferrer*, in quibus *r* proprie debet sonari, et sic de similibus.

S vero simplex in medio diccionis non debet sonari, si consonans immediate sequatur, ut *tresdoubté, tresnoble, tresgracious*. Ab hac regula excipiuntur iste 135 dicciones, videlicet *chastel, chastayne, substance, meschant, Augustins, instance, registrer, fust, oscurté, oscure, oscurement, oscurer, sustiner, substituer, escharnir, transglouter, inspirer, discharger, estancher, estendre, espaundre, peschier, estreindre, dispenser, escuser*, cum omnibus participiis, nominibus et adverbiis ab eisdem verbis qualitercumque exeuntibus vel egredientibus, in quibus *s* semper debet sonari, licet 140 consonans immediate sequatur. Si vero vocalis immediate sequatur, tunc sonum proprium plenarie reservabit, ut *tresexcellent, threshaultisme, treshonuré, treshumble*. *SS* vero duplex in medio diccionis posita semper pronunciari debet, ut *trespassant, tresfoissable u(sic) tresfoiable*, et huiusmodi. Item si *s* simpliciter in fine alicuius diccionis ponatur, que sit pronomen, verbum, conjuncio, vel preposicio, et sequens 145 dictio incipiat a consonante, tunc sonum minime reservabit, ut *Dieux vous saut et garde vous seitez, vous sainz au cuer; veullez vous manger ? vuillez vous jouer ? he regardez, mon tresgenlil compaignon, coment leur vestimentz sount bien et fetisement entaillez selon le guise du Ffrance; par le foy que je doy a Dieu, mon tresdoulz amy, j'en ay veu beaucoup des gens huy ou marchee*. Set si sequens dicctio incipiat a vocali, 150 tunc *s* debet sonari, ut *vous aimez, vous em priez, soiez vous icy, vous oustez la table, estez vous un d'eux*, et sic de aliis diccionibus, hiis exceptis *vous ditez vray, vous le disoiez vraiment, ils ount fait tantummodo reservatis*, in quibus non sonabitur, licet vocalis immediate sequatur. Romanici vero pro majori parte semper sonant *s* in medio diccionis, ut *dont estez vous ? je m'en iray a l'ostel et je revenrey tantost; qu'est la droite au Liege ? Idem est gallice qu'est la droit chemyn vers Liegez ? mon amy, vous irrez a devant, et quant vous serrez la, vous ne pourrez nient marrir*. Item 155 in omnibus nominibus, participiis, adverbiis et interjeccionibus, in quibus *s* sim-

pliciter in fine diccionis profertur, tam singulariter quam pluraliter, sine dubio
 160 semper est sonandum, ut *temps, corps, bras, dos, huis, fois, noes, noces, poirs, pourrez,*
orguelleus, dispeteus, crementeux, paourez, tremans, trechans, estans, dis, lis, assez,
adés, jadys, helas, et sic de similibus. Ab hac regula excipiuntur iste dicciones *viz,*
pis, mis, quantes, longues, tous, bons, petiz, et grans, tam masculini generis quam
 feminini, et istud adverbium *pas* et hoc nomen numerale *dis*, in quibus *s* aliquando
 165 debet sonari et aliquando non, ut si vocalis immediate sequatur, tunc *s* sonum 342^{rb}
 retinebit, ut *il en y a dis hommes loeggez a nostre hostell*, si vero consonans, tunc
 non sonabitur, ut *j'en ay dis livres*. Set quando *dis* capiatur pro participio, tunc *s*
 sonum suum semper retinebit, ut *les sermons sont dis certainement*. Item excipiuntur
 iste dicciones *guaires, waires*, in quibus *s* non debet sonari, nisi vocalis immediate
 170 sequatur, ut *je m'aresterai guaires en marchee*, vel nisi evenit in fine alicuius
 diccionis, ut *beal filz, ne demourrez guaires*.

T quoque posita in fine alicuius diccionis, que est verbum, tercie persone
 singularis numeri modo indicativi presentis temporis vel preteriti, seu pronomen, si
 sequens diccio a vocali incipiat, debet sonari, ut *est il prest ? estoit a l'oster, il fut*
 175 *enmervaillé, il fut ignel, il fut oiseux, il fuit humbles, cest escuier icy chante tresbien.*
 Set si sequens diccio incipiat a consonante, tunc debet sonum penitus amittere, ut
qu'est ce q'il dit ? il est prest, il ne peut chaloir, il ne fait que pour esbatement,
que dit vostre meistre ? que fait monseigneur ? monsieur, vous octroit de vous
donner deux nobles d'or, il estoit bien gracieus, il fust noble chevalier et vaillant,
 180 *il fut tout dis joyeus, il fut vaillant, gentil et sage, il n'y a que vanitee ou ceste siecle,*
 et sic de aliis, exceptis hiis verbis, sive *list, ot et prent*, cum omnibus suis compositis,
 in quibus *t* semper pronunciari debet. Item *t* in fine diccionis, videlicet in verbis,
 tercie persone singularis numeri modi imperativi, sonum minime propalabit, ut *Dieux*
vous beneit, monseigneur et la compagnie, Dieux vous octroit de bien faire, Dieux
 185 *vous conduist et avance, male semaigne soit a vous mis, hiis diccionibus boit, puit,*
poit, eit, gart et ait, tantummodo reservatis, in quibus t | semper debet sonari, ut boit 342^{va}
il a l'autre, il puit malvaiselement, it peit vilainement, Dieux vous ait tout dys en sa
garde, Dieux vous gart, biau sire, si Dieu m'ait, vous estez proudomme. Item omnia
 nomina et participia terminancia in *t* numero singulari, in plurali vero cum *s* vel *x*
 190 scribi debent in fine diccionis, *t* penitus amovenda, prout rectus sonus exigit, ut *saint*
 terminans in *t* in singulari, in plurali vero facit *sainz, pourpoint* facit in plurali
pourpoins; pot, pos; li part, li pars; douet, doués; tout, tous; gent, gens; tenant, tenans;
merchant, merchans; fait, fais; hault, hauls; dit, dis ; lit, lis, et sic de similibus. Unde
 errant, qui scribunt huiusmodi dicciones cum *tz* vel cum *ts* in plurali secundum
 195 ortographiam gallicanam, quia hec est regula generalis inter Gallicos, quod quociens-
 cumque ponatur in medio alicuius diccionis, plena voce est pronunciandum et non
 tacendum, et non debet scribi in medio diccionis, que sit nomen feminini generis, sine
 vocali immediate sequente, ut *les saintes vierges de ciel ne cessent adés de loier (sic)*
nostre sires Dieu pour la grande grace et misericorde qu'il les a fait et moustré; a

200 *toutes et quantes foiz vous plerra venir, vous serrez tresbien venu; il en y a des fammes en ce pais icy que sont bien richez merchantz, et sic de similibus.* Set non esset simili modo consonum scribere *sainz, touz, merchanz* et huiusmodi dicciones, que sunt masculini generis, cum *tz* vel *ts* in fine, ut *saintz, tous, merchans*, ex quo huiusmodi dicciones termiment in *t* in singulari et in plurali sonum *t* non retinent aliquo modo. Et si dicatur quod hec regula fallit, ut in hac diccione *dis*, quando capitur pro participio, debet scribi cum *tz* in fine diccionis ad differentiam huius nominis numeralis *dis*, obicitur sic contra nomina vel verba equivoca propter suas 342^{vb} equivocaciones, cuiuscumque ydiomatis fuerint, suam scripture certitudinem quovismodo non mutabunt, ut hec diccio tria habet significaciones et hoc verbum gallicanum *faire* habet sex significaciones, et sic de pluribus aliis, prout per diversos modos loquendi plenius poterit intimari, cum propter suas equivocaciones suam non mutant scripturam suam, tunc sequeretur quod non essent aliqua dicciones equivoce, latine seu gallice, quod non est verum. Ideo per consequens iste dicciones, videlicet *sains, tous, merchans* et huiusmodi, in plurali debent scribi in fine tantum cum *s* vel *z* et non cum *ts* nec *tz*, quoniam tantum valet *tz* et *ts*, ex quo *z* sonum *s* retinet plena voce. Tamen Vasconici non tenent regulam precedentem, quia scribunt huiusmodi dicciones prenotate in fine cum *tz* vel cum *ts*, verbi gracia *mon car amys, sont voz litz uncores faitz ? mon amys, sont mes pourpointz faitz ?* Que quidem oraciones vasconici secundum Gallicos debent scribi modo subsequenti *mon amy, sont mes pourpoints uncores faits ?* Item iste dicciones *fiuls, mieulx* (ms. *mielux*), *fois, adés, assés, vous poez, vous puiez, vous poiez, amicz, enseignez, lisez, oiez* et huiusmodi sunt scribende. Unde errant, qui scribunt huiusmodi dicciones cum *tz*, verbi gracia *fitz, mieultz, foitz* et huiusmodi, quod non est gallicum, ex quo sonum aut scripturam *t* quovismodo non retinet sermo gallicus, et huiusmodi dicciones secundum rectum sonum verissime scribi debent, quia si huiusmodi vocabula, ad minus que sunt verba vel preposiciones in *s* vel in *z* desinentes, cum *tz* vel *ts* scriberentur in fine diccionis. Et consonans immediate sequeretur, tunc sonaremus sic *poet* pro | secunda persona 343^{ra} huius verbi *poetz*, quod non est gallicum, ymmo vasconicum, prout superius in regula de *s* simplici in fine diccionis posito plenius approbatur. Nec huiusmodi verba in secunda persona numeri singularis, nomina seu adverbia in sono aut scriptura *t* quovismodo non retinent, ut pro isto verbo secunde persone *tu peus*, nos dicimus eciam *tu peut*, quod non est in hoc loco inconveniens. Et sic diceremus nec eciam pro diccione *fiulz* nos dicimus eciam *fitz*, quod esset malus sonus. Ideo per consequens huiusmodi dicciones, videlicet *fiulz, mieulx, fois, adés, assés, vous poez* et sic de huiusmodi, prout dictum est, sine *t* secundum rectum sonum scribi debent et sonari. Item *t* in ista conjuncione et gallice prolata non sonabitur, ut *et je vous fais savoir que vous n'echiverez ja, se ce n'est par la soveraigne Dieu.*

U vero in medio diccionis posita proprium sonum debet amittere, videlicet in latinis, gallicis ac pluribus aliis linguis cristianitatis, si istas tres literas, videlicet *g, q* vel *s*, in medio sequatur, ut *qui, que, longue(sic), language(sic), guerre, guerry,*

guaires, suef et huiusmodi. Una versus vocali prejungitur *u* non consona, vimque perdit, et hec *suavis*, *queror* aut *aqua*, *lingua* probabit. Post *g*, post *q* vel *s* latebras *u* cernere possis. Nam diptongus ab *u* nostro non inchoat usu. Notandum est quod testante auctore, diptongus est duarum vocalium ad invicem in eadem silba(sic) vim 245 suam retinencium conglucinacio. Et quatuor sunt diptongi, sive *au* ut *auris*, *eu* ut *euge*, *ae* ut *musae*, *oe* ut *poema*, unde et isti duo ultimi *ae* et *oe* non sunt in usu. Ex hiis patet omnem diptongum ab *a* incipere ut *au*, aut ab *e* ut *eu*, vel | ab *o* ut *oe*. 343^{rb} Unde in talibus diccionibus *suavis*, *lingna*, *queror*, *qui* et huiusmodi, diptongus non est, eo quod diptongus ab *u* non incipiat. Nec in talibus est *u* consonans, set perdit 250 totaliter vim suam. Racione(sic) cuius rei quidam credunt quod in talibus, seu *unguentum*, *unguis*, *lingue*, sic legere debemus *ungentum*, *ungis*, *lingo* et huiusmodi, eo quod *u* perdit vim suam. Quod falsum est, quia licet *u* vim suam perdat, dat tamen intelligere, quando ibi ponitur, quod generaliter debet sonari maxime respectu harum vocalium *e* et *i*, quoniam quando ibi non ponitur, aliter enim *u* ibi frustra 255 poneretur. Nec est differencia inter hoc nomen *unguis* et hoc verbum *ungo*, *ungis*. Unde sequitur quod *u* in huiusmodi diccionibus debet scribi et non sonari, exceptis hiis verbis gallicanis *sui*, *su*, *sue* cum omnibus modis et temporibus suis et iste preposiciones *dessus*, in quibus *u* semper sonabitur, licet *s* precedat. Tamen Picardi, Burgundii et Leodieni post predictas tres literas quoque sonant *u*, quod indecens et 260 irregularis est, ut *quatre*, *quarrant*. Angli vero et Scotici eciam sonant *u* post huiusmodi literas et principaliter in latinis, ac eciam in eorum linguis maternis, ut *quartus*, *quatuor*, *quare*, *quaier* et huiusmodi.

X autem in fine diccionis indifferenter potest sonari quasi *s* vel *z*, ut *chivalx*, *chiveux*, *huiseux*, *oisealx*, *tieulx*, *ceulx*, *sealx*, *sielx*, et *mieulx*, que dicciones indifferenter possunt scribi cum *s*, *x* vel *z*, et sic de similibus. Item sciendum est quod hec diccio *Dieux* non retinet *x* in fine diccionis, nisi solummodo in nominativo et vocativo casu, nisi fuerit causa rithmice et quamvis retineat *x* in istis casibus, | 343^{va} tamen *x* aliquando sonari debet, aliquando non, ut si fuerit in nominativo casu et consonans immediate sequatur, tunc *x* non sonabitur, ut *Dieux vous garde* vel sic 265 *Dieux soit gart de vous*. Si vero fuerit in vocativo casu, tunc sonum semper reservabit, ut *beal sire Dieux*, *regardez moy en party*. Item iste dicciones *ferai*, *serai*, *serrai*, *verai* et *orai* secundum rectum sonum cum simplici *r* sunt scribende ad differenciam istarum diccionum *ferrai*, *serrai*, *pourrai*, *verrai* et *orrai*. Set iste dicciones *crerra*, *morra*, *pourra*, *parra*, *lerra*, *plerra*, *larron* et *lierres* eum duplii *rr*, 270 prout rectus sonus exigit, veraciter debent scribi. Item hec diccio *ovec* diversi modo potest scribi secundum modum et usum diversarum provinciarum, prout hic patet evidenter *avecque*, *avuec*, *avecques*, *ovec*. Unde errant, qui scribunt *s* in medio ut *ovesque*. Item hec diccio *selonc* in *n* vel in *c* indifferenter potest terminari, ut *selon*, *selonc*. Item ista nomina *escu*, *escuier*, *escueilie*, *cueller*, cum omnibus participiis et 275 nominibus ab eisdem descendantibus, cum *c* debent scribi et non cum *q*, prout rectus sonus exigit, quia si scriberentur cum *q*, ut *esquier*, *esquelle*, tunc sonaremus sic 280

eskier, eskelle, quod non est gallicum, prout per regulam de *u* plenius approbatur.

Y vero habet sonum *i* in omni loco et debet scribi in pluribus locis loco *i*, causa ornatus scripture et principaliter in propriis nominibus civitatum, virorum et
285 cognicionibus virorum et mulierum ac eciam in nominibus dignitatis, ut *Gunnyngton, Guynton, Guyllyam de Boylton*.

343^{vb}

Z in fine diccionis quasi *s* sonabitur in effectu, ut *requerez, sarchez, aimez, lisez*, et sic de similibus. Simile sit indicium in nostris sermonibus gallice prelibatis. Et sciendum est quod quocienscumque aliqua diccio monasilliba(sic) desinit in vocali
290 et sequens diccio incipit a vocali, tunc ille due dicciones debent ad invicem quasi sub una diccione pronunciari (ms. pronunciando) et prima vocalis non debet scribi nec sonum retinere, ut *l'abbé, l'abbeye, l'ombre, l'oue, d'or, d'argent, qu'est, qu'ore, n'a, n'est* (ms. *n'este*), *n'y a, n'envoyer*, et sic de huiusmodi. Item omnia verba, cuiuscumque sint conjugacionis terminancia in *s*, possunt scribi cum *s* vel *z* ad libitum
295 scriptoris, ut *aimez, beneiez, ditez, prenez*. Item omnia participia terminancia in *e*, cuiuscumque generis fuerint, debent scribi cum *ee* dupli in fine diccionis ad differentiam suorum verborum, a quibus descendunt, ut *amee* participium debet scribi cum dupli ad differentiam huius diccionis *enseignee*, ad differentiam huius
300 verbi *enseigne ; menee, mene ; donnee, donne*. Et sic de ceteris participiis masculini generis terminantibus in *t*, ut *excellent*, que in feminino genere *e* simplice ms. simplicem in sono et scriptura debent sonari, nec non participiis habentibus *i* ante
305 *e* in fine diccionis, ut *appareillie, veillie*, tantummodo reservatis. Item omnia nomina, masculini generis terminancia in *c, f* vel *g* numero singulari, ut *blank, vif, long*, in plurali vero debent scribi cum *s* in fine diccionis, *c, f* et *g* penitus expellendis, ut
310 *blans, vis, lons*. Tamen hec dicciones *long* et *sang* in singulari possunt scribi indifferenter cum *c* vel *g*, ut *lonc, sanc, long* et *sang*. Item omnia nomina, cuiuscumque generis fuerint, in fine diccionis habent sonum duplicitis *ee*, cum dupli
315 *ee* debent scribi, ut *amee, pansee, puree, rousee, vinee, sunee* et huiusmodi nominibus adjectivis feminini generis, ut *sainte, mainte*, que in masculino genere et numero singulari terminant in *t*, dumtaxat exceptis, in quibus quidem participiis ac nominibus supradicatis, [.....] (ms. illegible), *ee* duplicit in sono et scriptura plenarie representantur, et sic de aliis huiusmodi prout superius declaratum est.

344^{ra}

Unde clerici doctores sine detimento singularis temporibus florescere potuerunt auxilio Trinitatis illos confortante, quibus omnibus et singulis in huiusmodi promoneri de cetero affectant. Graciam et fortunam bone voluntatis dignetur concedere Pater omnipotens, qui regnat trinus in uno, bene perseverare et me T. H. parisius studentem forme et scripture cuiuslibet sermonis de partibus ibidem veritatem depulsare, licet non sufficiens semper excusare moribus et sciencia. Devoto cum affectu, Amen.

320 Explicit Tractatus Ortographie Gallicane per M. T. Coyfurelly canonicum Aurilianum doctorem utriusque juris de novo editus secundum modum et formam Parisius.

Tractatus Ortographie Gallicane

Oxford All Souls College

MS 182 ff. 340^{rb}-344^{ra}

340ra

Comme le fernose y fust ame
 Quoniam pum bin ou fernoise
 Ne fua nul a feste a nufe
 Mes de ce ny ad mestier
 Grande maniere ad escriva
 Sims bons dices du pum cos
 Sont homme fernoit le rôde fo
 Tu teste dum fernale bin armes
 Et puis le recou plen banere
 Puis benefon one la fernonse
 Pums auerre aultre dinsfice
 Des vones paonez a fufies
 Chineres poceantz a telerns
 Pums auerre congne en granc
 Trestout de cerme poudre
 Et pms y one aultre pum de rofe
 Hesum vons aultre en coste
 Faillante astes e poudre
 Ennes alebres ploners rofe
 Merles vons de cors e manys
 Et des autres oiseaux que
 Nomme ne pms.
 Dicunt resped e fure
 On cerme rofe la temprine
 Et que la vache fust onfe
 Blanche pondre one vache e poudre
 Maces quibbs alebres e coffres
 Et des autres spes e futes
 Et nobles a fufes
 Inf. bons fumis eafe fumon
 Eau de fumone y ad afe
 De monte mane dinsfice
 Donc bons fumis fo a nufe
 Et qm a fumis bons comedie

340rb

.
 c. missibet evanescere angulus
 indigentis materie vniuersitate
 sum evanescere ubi fuit celos
 subsidium obtinere. et qd nonnulli
 sunt desiderantes duds faculta
 tibus florescit in iunctu sive
 vnde duds arboribus et mo
 ritibus herbarum nobilis plana
 cum ordet multoq[ue] fructus
 vegetus non modicu redolentes se
 pibus estatim felicem palare.
 Hinc est qd angulo Zemita
 que recordat vonus mbris licet
 insufficientis sermones gallicatos
 a formam scriptime cum recolis
 in eisdem metris pmissae sed
 qm in partibus insinuatis dul
 cit sonare. Vnde herbarum nomi
 moribus et scia pmo florafit et post
 ea in alcans poterit insinuari
 respondente clementia terris om
 borum. Et pmo cognoscit sum
 luarum secundum aliphabetum in partibus
 gallicans recolo explanari que
 in apto scribitur in presencia.
 De sap. cap. 2. cap. 3. cap. 4.
 aff. 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10.
 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18.
 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25.
 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32.
 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39.
 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46.
 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53.
 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60.
 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67.
 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74.
 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81.
 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88.
 89. 90. 91. 92. 93. 94.
 Et primo strandum est dicitur
 alio sunt loculos alio consonantes.
 Loculos sunt quinque e. i. e. i. o. u.
 et dicunt loculos quia e si plena
 vocem facimus e loculis multa
 vox levata profunda proponit. et his
 quinque loculis due longiorum
 in binis consonantibus e. i. o. u.
 quatuor primis in proprio oblongo
 parte e pluribus locis loculis p.
 quatuor quo maxima longior
 sonus e fusa similitudo. et sonus
 onus quo minima longior
 sonus e. h. loculi quo. sonus

Tractatus Ortographie Gallicane

Oxford All Souls College MS 182

340va

vous faire en chanson. D'ou le
trair des arc. pierre remarie
au hospit Saint iacques est con-
tinuele sainte. J'en ai en bonne ho-
pital de poorte. J'en ai grand
paour. Je l'ay achuee. Et sic de
similibus simile sit indicum. To-
mamia levo priez et plena voce so-
nante a et faire traire et timor.
S. levo m me dictionis po et de
bruiser tribuiller troubler et hu-
mismosi. ex his dictionibz debet
endere. sub: desonbz. uenon
istis verbis. Debet reuolter.
sonstuer. cum ois modis et te-
pibus sine tam pluralis mod q
particularis et cu omibus nobis
et particypis ab eisdem verbis
descendentibus in quibus in me
scribi debet b. set non sonari. En-
traunt qui scribunt dobletes res
doubtees et timor sine b. in me et
doubtes tsonbes. Item iste dia-
cones u et cura que l'au et idem re-
presentant q caput p hot vbo
set simpliciter p se debent scribi
sine pluribus trix eisdem conge-
le. Unde erunt qui scribunt hu-
mismosi dicones cum d. in fine
et ad ead ex quo sonus istius
l'ee s. ibm magis heatur. Item
iste dicones. uicai curauit sed
et in me scribi debent et sonari
et ambi distonia et alij. e. m hu-
mismosi semper sonant atq; se-
bile in me. et auerueruonou
quod non est scallium rimo lo-
maneu. Item iste dicones.
videlicte i' eco. io l'ou ce ces cou-
chon. sedm modum et certum so-
nus d'insarum l'enguarde puit
hic evidenter patet scribi debent
et sonari. C. etiam in me dic-

340vb

trons po. puz het sonni et vel. ex
in his dictionibus ta pietra tan-
guenta. recor. mitos. sonores
doulours boudon uantou et timori.
que dictiones semper scribi debent
modo et forma supradict. Si align
e. het sonni b. et in hac dictione
cas. car carter et timor. S. levo
sonni fere tenet sitat a lui. et p
trahit in fie d'ins cum breui et cui
to uentil prudens ubi rur. Je
ven i' endois deincep belle chose. S.
uicen po m me dicones inter loca
lem et consonantem habet sonum
quasi u. et g. Et companion
copunctio monodie et multodie. ta
men scallia p multo pte scribit
u. in me et companionia copa-
nitme monodie multodie ipso
melius est. S. levo non est l'au si
affirmations nota. et in his d'ins
hinc hors homine homy hault ho-
pitalis herde a herder. Iehu
haut m quibus h semper sonabit.
Ex in his d'ins hinc hinc hinc
haut le hospit scallias hinc pte re-
tehir. h non debet affinari et sic
de timor. S. levo et s. feu uic
duo vocales admittunt comite
q' poniunt m me d'ins ne d'ins
consonantes seu nt vocalen et
consonantem uic m fine d'ins so-
num q' utrux pte capient m cf
seau et brevis ceteris sicut sicut
mens viens. uruuer lauer rope
l'ee io et timor. Unde erunt.
I' cel o. m timor d'ins sonu. pente
l'auit debent uic m scallias qm
erunt m romana. quia galli
et romana j et semper sonant
m timor s. non simil modo sedm
m f'monibus romana. Romp
sonant sit videlicte brevis cons-
bens mens viens sonu et brevis.

et ieo ubi gallia scribunt biens b.
 Et a ie et supra - f. etiam in hys
 Romania non autem in littera
 gallicana no[n] g[ra]m[at]ica scribi
 debet a sonari ut final. i. gallois
 chiniat. Et en i. chien. balle. bache
 et align. Et quefne i. chefne n[on]
 non loco c. debent scribi c. et h. f.
 romantics et pour chon vel pom
 chen i. italiac pource vel pour
 en de chai. Dece tressouche i. tres
 dolce. i. sic de alijs consilie. Item
 romania no[n] dianatis ut offi
 cijs que sunt similiors n[on] scribi
 pluial in effectu. ut llii papies de
 Rome. Imperatores Palermannie. Ilii
 P[er]os Denegletor. a de ffrance. Ilii
 Chumellers du saint p[re]tres llii
 Tressouche mons[ic]t[us] sui Duques
 de linncastre. llii Recouur. s.
 madame la forme. llii sum. es
 p[re]tes llii t[er]me. llii vero realli
 ti sine s. scribunt s[ecundu]m no[n] sin
 gularit[er] quod pulceris et brevis
 est et le p[ape] de Rome. Imperator
 de P. le P[ape] Deneglet et sic de ec
 10. — V. autem po[n] in me d[omi]ni
 locali n[on] sequente sonu p[ro]p[ri]e
 referuabit. ut diversement par
 lant. s. si consonans immedias
 sequatur. tunc debet sonari sic
 q[ue]c[um]que soulement p[ri]ncipalment
 habet deone. ille. t[em]p[or]e ex. m[od]o
 sonum s. me retinebit. ut illi
 cont ensamble. ille ont fait. I. e
 etiam porta in fine d[omi]ni si sequens
 dictio incipiat a consonante sonu
 sun p[ro]p[ri]u dimittet. et quasi s. so
 habitur in effectu gallicum. Den
 glet etiam son[us]. fiel de fust.
 fiel d[omi]n[us] son[us]. fiel de makrel
 maluas est. et ul[ic]t[us] son[us].
 Si vero sequens dictio incipiat

a vocali. tunc s. sonu p[ro]p[ri]u ponit
 dubio retinebit. ut nul au[er]te.
 nul encryp. nul ignorant. nul ho
 me. nul osare. etiamen t[em]p[or]e posita
 in fine dictio. videlit in d[omi]nibus
 monassitabilis. si consonans imm[edi]ate
 sequatur. sonum s. nec p[ro]p[ri]u sonu
 me referuabit. ut il[ic] son est ale[te].
 et le oral bien. et sic de ceteris. Et
 sciend[us] est qd[em] in hys d[omi]nibus. s.
 hostiel ou[er] ombris penit[er] facit sic
 non il[ic] p[ro]culdubio t[em]p[or]e debet so
 nari sedm dulce gallicum. La
 men in hys d[omi]nibus. s. ac[ci]d. ac[ci]d.
 ac[ci]d. ac[ci]d. ac[ci]d. s. semper p[ro]p[ri]a
 lura sine aliqua exceptione inde
 sequente. Item in hys d[omi]nibus ex
 fiel chapel chate[us] chaste[us] pel pol
 col fel. s. semper habet sonu s. sedm
 rectum sonum dulce gallicum. Excep
 aliqua. Et vero d[omi]n[u]s in medio d[omi]nis
 intertere et plena orbis vocis in sono
 p[ro]p[ri]abatur. Et fille fillette orat[us]
 le orat[us] calle. sic iste d[omi]n[u]s
 nes normulle elle belle velle mille
 quelle dulcit sonari debent. et sic
 de fiel. romania vero p[ro]ferim s.
 sonant in omni loco nullo obstatu
 impidente. — C. autem po[n]a
 me localen et consonante in fine
 ul[ic] d[omi]ni que verbum vere p[ro]fone
 pluial nul modi indicari vel opta
 tum cum temp[or]e fuit de meo non
 sonabat. q[ui]c[um]q[ue] amant. illes
 lisent illes dient illes amant. illes
 lisent illes disfient. illes amant
 illes lisent illes disfient illes amant
 fent. illes lussifent. a finor. tamen
 ista verbis exceptu[m]. s. cont. ont
 font font auerent evenerent. fient
 fuent fient fuent cum orbis
 eorum compotis. ut evont enont
 enfont enfont enauoient et honori
 in quibus. N. sonum p[ro]p[ri]u total

littera referendis. Pero porta in fine secundis consonantie minime se-
quente soni suum peneus amittit
zeler & vox. remanserit ita tempore
auctor exponit quoniam notus in p-
reservandis et perfidip. sit si vox
immediate sequitur sonum suum ple-
nare referendabit. ut manifeste dicere
affit que tempore auctor. Item ista nota
debet sensu cordis sine p. sunt scriben-
di propter rectius sonus quoniam in hac
parte. tamen remansit non tenet
illam regulam. quia pro maioris p-
ro p. in timori semper stridit. Et
in statibus bene per hanc stridit. Et
diximus tempore corde. Sero
sonus latenter nec non mollem habet
sonum & nigrum scribi debet in ali-
qua deo fine duali vocalibus im-
mediate sequendibus. quam prima
est d. Et qui quis quatuor voces q-
uerit. qui quatuor aut quatuor. et
timor. Unde coram qui scribitur q-
in timori secundis sine ista regula.
Et quod est quatuor. Am quidem
modus scribendi indecans & irre-
gularis est quippe non sequitur re-
gulam autocriptae calligraiae. cu-
non habeat p. se rationabile frida-
mentum nisi causa. quia si ple-
nitatem inserviat. Ecce ut dicit se-
pione. Debile frumentum fallit
quippe. Et dilectus dicitur seu do-
cte quod ita res esset. ostendere re-
gulariter cum rotunda quatuor callo
exposita debet. illa inservia-
cio seu doctrina nullus est valo-
ris quod ovo est refutanda. Item
habet deo quatuor. indifferentem portat
scribi cum t. q. vel c. ad columnas
litterarum servit. quia t. q. & c. sem-
p. sive quidem officia que nup-
tialiter scribi in aliqua deo sine
coadūt immediate sequentur hinc
de respectum ad principia litterarum

non canes sit modo sufficiens
qua q. in aliquia dico posse ca-
racteris ydiomatis fructus inter-
cessos & principales in laetitia
artificis tempore scribi debet cum
duabus letabilibus immo sequitur;
quare pma est v. - Et autem
in fine dico indebet per sonari
quasi & vel r. et p. p. ab eundem
mat on eius. Jenay bon reuer.
Est dulcissim sotus quasi &
in limena vallida. qm quasi r.
Damen het vox illa non terret m
omibus ex m his deobus quare
quoniam farr & ferer m quibus
r. prie debet sonari & sic de fa-
bus. - S. Cetera simplex m me
dico non debet sonari. si consonas
immediate sequuntur. ut trepidante
et redonante et nobile efficiuntur
ut hic vox illa propriae iste
nes. videlicet christel chevaigne st-
stance mesthane aurifera in
stante vocifer fuit ostentio ef-
cure ostentio ostuler sustiner
substiner ostular transfor-
ter insperat dischararer extender
extender etiam id est posther ostre
indire diffenser califer. cu omnis
paraphys nobis & adulabis ad ei-
dem verbis qualiter exponit
vel exordiatis m quibus sese
debet sonari. licet consonans im-
mediate sequatur. Si vero vox illa
immob sequatur tunc sonu pnum
plenaria resonabile. ut trepidant
ente et hanc sine et sonore ef-
fumbe. ff. Cetera duplex m meo
dico p. tempore primam debet ut
excessione et expessione. & et ex-
cessione & timore. item si si sim-
pliciter in fine aliquo dico ponat
quae sit pronomen idem vobis
vel profacio. & sequens dico ma-

342^a

punc a consonante time sonu me
referrabit. Et dieys bons sunt et
garde bons fermez bons sunt au
cier. Bonsse bons manter. Bonsse
bons mer. Sie resirder mon tress
tis compatisson coment leur resta
mente sount bien et fesement en
tailler selon le conse du france p
le for que ie dor a dieu mon tres
soult amr sen ay bon beancop des
genz his ou marchee. Det si fepis
dico incipit a locali. time s. Debet
sonari. et bons amr. bons empes
Crier bons ier. bons ouster la table
estes bons en deyr et sic de alijs
deos; hys ex. bons dieus bras. bon
le distoer vraiment. il est ome fait
tunc referratio. In qmbe non
sonabat nec tollis immediate se
spur. Romana dico p maiori p ma
iori pte semp sonant s. in medio
deos. Et dont ester bons. Je men
ray a lostel. et le venemay tress
quest la dwoit au liere. Il est
justice quest la dwoit chenoy
et lieroy. mon amr bons reter a
denunc. et quunt bons servir la
bons ne pourrez ment marron.
Item in omnibus nobis principis
ludibris et maledicibus in qmbs s.
simpliar in fine dico pfectur
am simpliar qm puleme du
bo semp est sonans et tempo.
corps bras. vos hys fors nede no
ces pourre pourre vianellens d
pechir. cumentep. paonier et
mane trechans estams dieus lie
usse adeo iudys. Helas. et sic de
plibus. Ab hac regula excri
pte iste doceo. Or pte mis quan
tes longues bons bons petz et
trans. tam maseli rencor qm
fod et yend adnblum. pas. et hoc
bonen male. Bis. in qmbs s. a
ligni Debet sonari et aliquando
not. et si localis immediate se

342^b

quint. time s. sonum retinabit. et
il en ya. die homes locutus a nec
hostell. Si levo consonans time
non sonabit. et ien ap dis lures
Det qm dis capiat pio principio tunc
s. sonum sim semp retinabit. et les
fermone sont dis certamente.
Item precipu iste dictos gnares
bares. in qmbs s. non debet sona
ri nisi tollis immediate sequar. Et ie
marchetur gnares ou marchee.
Vel nisi enemt in fine aliamus do
mbs. et localis filii ne demontrat
toriales. — quay porta in
fine aliamus dictionis que e pte
tac psonae simpliaris mi modi
inditata presentis tempis vel pte
ut seu pte. si sequens dicto a co
mipras. Debet sonari et est il pte
efecto a lostel. Il fut amherubus
ce il fut uanel. il fut osfent. il
fut humbles. est estemet ier. chan
te tressien. Det si sequens dicto
merciat a consonante. time debet
sonum ptemus amr. et quest
ce que die. il est prest. il ne pent
chalon. il ne fait que pour esbu
tement. que die me mesme. que
fait mons. mons. bons occidit de
bons domer dem nobles doi. Il q
tue bien rancus. il fust noble
chr. et gaillant. il fut bonedis ier
ens. il fut gaillant rancus et fide
Il mra que lumere ou este fidele.
— sic de alijs ex hys verbis. 6. list
et et prent cum omibz suis coposi
tis in qmbs et semp pmissari de
bet. Item et in fine dico pfectur
in certis tac psonae sim mi modi
impars sonu me pvalable. Et diens
bons berent mons. et la compatisson
Dieys bons occidit de bien faire.
Dieys bons condus. auance and
le fermone sot a bons mis. hys
deos. bon pte porc est gare et
aut. tunc referratio in qmbs et.

semper debet sonari. Et hunc sit a lais
tre. Ille punit mulierum sententiam. Ille pe-
nit voluntatem. Dicimus donis ut
toujours en sa cause. Dicimus donis
toujours biau art. Si deus niat vous
estre prudome. Item omnia nostra
et propria timoritia in t. modo sum-
mum plurimis cum s. cel et scribi
descendit in fine decoris. t. penitus a
monstra puit rectus somnis vocat
et sancte. timorians in t. m. suorum
v. m. pluri deo facit. sancti. pone
ponte facit in pluri ponere possit. por-
pos. super spars. deuet deines. to
lit tous. recent regns. recent tena-
ne. methane methans. fait fuis hu-
ult hauls. Dit deus sit lis. et sic de
stibus. Unde erunt qui scribunt
timor deus cum t. cel cum t. m.
pluri sum extempthiam tallitam
quid hec est regulia regnulis inter
gallicos. quod quoscumque ponat
in me. aliamus dico. plena re-
ce est primordi. et non recend. et
non debet scribi in me deos. que
sit nomen sed regno sine locali i
me sequente. Et les sanctes per
tres de cel ne cessent uides de la
er me frues dieu pour la grande
grace et inseconde. plus les a fait
et monstre. si toutes et quantes fo-
rt. bons plena demir. tous serres
tressons hemi. Il en m des fames
en te pas icy. que sont bien riches
methane et sic de similibus. Cet
non est simili ni consopus scribere
sums tous methane et timor deos
que sunt mestri items cum t. et
t. m. fine le saintz tous methane
cipio timor deos timent in t. m
fine et m pluri somi. t. non retinere
illico modo. Et si dicat. quod hec re
gula fallit. Et in hac deo. die. qui
capient et pacient. Debet scribi cum
t. m. fine decoris. quod deum sumus no
stris in malis. deus oblietur sic con-

etiam nova vel verba equinata ppter
suis equinatibus emisitque ratione
firmitate suam scriptura certitudine
quoniammodo non mutabuntur. Et hoc
dictio tria het stans: et hoc verbum
nullorum fair. Het ser scriptoriarum
et sic de pluribus alijs prout p Dniss
modis capiendi plenus poterit ma-
nari cum ppter suis equinatibus
suam non mutant scripturam. quia
si sic mutarent scripturam sua tunc
sequerentur qd non essent aliique doctes
equinato latine seu nullite quod
non est rerum. Ideo p conspiens
istuc docto. vix. sanis tons methores
et hinc in pte hinc scribi in fine
cum s. Et s. et non cum ts. nec
ts. ipm tm hilet ts. et ts. ex quo et
sonum s. retinet plena vocem. za
men hystoma non tenent resonum
precedentem. quia scribunt hinc dic-
tiones protracte in fine cu ts. et cu
ts. verbi cum. Non carampa sona
doct lute. Uncores fuit. Non utrum
sonc mes propomis fuit. Sic q
don xones hystoma sedm nullios
debet scribi mes subsponenti ann
ann sonc mes propomis uncores fu
it. Item istuc doce fuit in multis
foris adeo usque donec pte sonus pa
ler sonus poros annus ensimnes li
ser ots. et hinc sum strikend. Ut
erunt qui scribunt hinc doct
cum ts. obliuia. fit multo so
it. et hinc quod non est nullum
ex quo sonum nunc scripturam. t.
quoniammodo non retinet s. nullum
et hinc sines sedm rectum soni de
rissime scribi debent. quia si hinc
retabundit id nimis que sunt verba
vel proposiciones in s. vel in z. destruer
ann ts. vel ts. scilicet in fine
doct et consonans immediate pte
retur. tunc sonuerimus sic. poet p

pro psona huius verbis poetz quod non est nullum ymo Gallicum que superius in regula de C. simplicia in fine dicitur pro plurimis approbatetur nec timor verbi in sedis persona nisi finit. nota seu adiutoria in sono aut scriptura et quoniammodo non recitent et pro ipso verbo sedde psonae tu psona nos dicimus enim tu perit quod non est in hoc loco inveniens. Et sic dicitur nec etiam pro hac dicitur. fuit. nos dicimus em fuit quod esset malus sonus. Ius p consequens timor dictionis. videlicet fuit miscelis sors uides a se bonis poetz et sic de timori prout den est sine et secundum rectam sonum scribi delent et sonari item t. m ista columnate et exaltare plaz. non sonabit. Et et ius factus sanguis quod bonis ne chalyx ia fact nec per la sondatione dicitur. Secundo in medio dicitur pro prium sonum seler amittit videlicet in latibus rectis ac pluribus alijs lumen est tam. si istas tres latus videlicet s. q. bel. e. in medio sequuntur et ipsi que sonus longiorat. queritur quare ronares sive et timor in versu. Vocati presumuntur s. non consona bimac. pdit et hec suans quaeve uite aqua sonoru psubdit. Post et post q. bel. e. latebras s. tenebre possit. Nam dictiones ab s. non non inchoare est. Nocund est quod testante auctore dictionis est diuini voculum ab inuenient in eadem sillae enim sua retinenciam comitutem. et quatuor sunt dictiones. s. autem auris en. ut enire ac. ut misere ac. ut psona. Unde et ista duo videtur et ac non simile in esu. Ex his patet omnem dictionem ab a. mape. Et an. aut ab e. Et en. ut

ab o. Et ec. Unde in talibus detribus suans lumen querere qui et timor dictionis non est. eo quod dictiones ab s. non incipiunt. nec in talibus est s. consonans. sed potest rotulatur enim suam ratione clavis rei quod in credite quod in talibus. s. bimac. bimac lumen. sic lessere debet. Unigenitum unicus lumen et timor. eo quod s. pdit enim suam quod fulsum est. ipsa sicut s. enim suam pdit. Aut tamen intelligere quod ibi ponit quod ronatis debet sonari. et impinge respectu hujus vocum latibus et c. q. qm quando ibi non ponit. ulic em s. ibi frustis ponitur. n. est deinde hoc nomen unigenitum et hoc enim unius unicus. Unde sicut quod in timori dictione debet scribi et non sonari quod hinc verbis gallicis omni suu sic cum omnibus modis et temporibus suis et iste psonae dictionis. Dicitur in quibus s. semper sonabit sicut et procedit. Tamen videtur dicens et locutione post pdit tres latus quae s. sonant s. quod in deinceps et irregularis est. Et quatuor quarant. Dicitur vero et locutione eorum sonant s. post timor enim et psonaliter in latibus. ac etiam in eorum lument mutatis. Et quatuor quatuor quatuor et timor. Unde in fine dictionis in differenter psonat s. sonant q. s. bel. e. ut chalyx omnes. Unde psona in capitulo contra scilicet sicut et miscelis. que dictiones invenient possunt sonari. cum s. p. bel. e. sic de tribus item sonant est quod hoc dicitur dicens non recinet et in fine dictionis non solimodo in uocato et locutione ac si nisi sint contra uniformes. et quae recinet et in ipsas capitulo.

Zamen x. alij sonari debet adi-
qu non. et si fuit in vocatu ca-
sa e consonis immixta sequatur.
tunc p. non sonabitur. Et dixerit
routde sic. dicens sonat de
voca. Si vero fuit in locatio ca-
sa tunc sonum semper reservabitur.
Et hanc sive dico responde moy
en party. quoniam iste dictiones se-
parat sonum sonui vocui et oralium
restum sonum cum simplicia e. sic
scribend. ad diuinum scriptum sum
seruare sonum ponatur etiam et or-
bati. Et iste dictiones caeca
motu ponuntur per sonum plena-
riam latronem et bernes cum dupli-
ca et. prout vocis sonus exigit
errant delent scribi. Item hec
dictio vocis bisimilis potest se-
bi secundum modum et secundum duplex
principia. prout hoc patet eni-
denter. utique amicis aucti-
one. Unde etiam quoniam scribuntur
si in medio est unusq. Item hec
dictio solonc. in i. vel in c. in
deuter. potest eminari. Et scilicet
solonc item ista nova estu q. qui
er estuelle oueller. cum orbis
principia et nobis ab eisdem des-
tendentes cum e. hinc scribi et
non cum q. prout vocis sonus ex-
igit. quia si scriberentur cum q.
de operis estuelle tunc sonare
nunc sic. esther estelle. quod no-
est gallicum prout p. regulam
de s. plenus approbat.

Vero hec sonum i. in omni loco et
debet scribi in pluribus locis loco
et causa sonatus tempore et in
capite in genere nobis. in ita-
tum uniuersum et cognacionibus
universorum et multorum. ut eas in
nobis tractaretur. Et summus
de Simeon. Omnia de s. de

con. i. in fine dictione quasi
sonabitur in effuso. Exponet sic
hinc amicis. et sic de similibus
simile sit indicum in nos sermo-
nibus gallicis pluribus. Et tunc
est q. quoniam tunc aliqua dictio
monosyllabi definit in vocali et se
quens dictio incipit a vocali. tunc
ille dico deinde. sedente admittitur
quasi sub una dictione principia
et prima vocalis non debet scribi ne
sonum retinere. Ut latere latlyxe
lombrie lome deo dargene. quoniam
quoniam na nescit. mra menutur et
sic de finior. Item omnia serua cu-
m sonumq. sine coniunctione tunc
nunt in s. p. scribi cum e. vel q.
ad libitum scripturis. Et amicis
benetis dicitur premer. Item ora
principia eminaria in e. cum tunc
item fuit debet scribi cum
et simplicia in fine dictione ad
diuinum suorum operum a quibus
descendent. Et amicis p. debet
scribi cum duplia. ad diuinum hunc
dictione eminere. ad diuinum hunc
dicti eminere. menet mne don-
ne domine. et sic de ceteris principiis
magis tunc eminat in t. Et ex
cellere que in s. exire e. simpli-
cium in sone et scriptura delent se-
nari. neconon principia scribuntur
i. ante e. in fine dictione ut ap-
paruisse possit. tunc modo refertur
Item omnia nova magis tunc
eminere in c. f. Vel et nub s. in
et blanc tuis lones. In pluribus
no debet scribi cum s. in fine
dictione. et f. et s. p. minus expel-
lendi. et blanc tuis lones. tamen
hec dico de s. lome et sancte in s.
p. scribi indecent cum e. vel q.

343ra

Et conc fane. lourz z fane. Item
omnia nomina cuiusunque tens
finis in fine dictorum habent
sonum duplicitate cum duplia
et debent scribi Et amce pahsec
pmee volee bmees simee z hmoi.
nomibus adiectus ferre recordo
de sancte manie que in maslo
reone z misse fini remant in e.
dimicat excepis. In qmibz qdmi
principis ac nominibus supradic
et precepit ee. Duplicit in sonor
scriptura plenarie representantur
z sic de alijs hmoi qui supius
declaratum est. Unde clia docto
sine detinendo singularis tem
pibus florestere potest auxilio
comitatis illos confortante qbz
omnibus z singulis in hmoi p
moneri. Secundus affectans quam
z fortunam bne voluntatis dura
tetur concedere pr omnipotens
qm regnat unus in uno bene
ffendare. z me et h. pisius stu
diorum forme z scripture cuius
libet sermonis de partibus idem
seruacem depulsive licet non
sufficiens semper excusare mori
bus z statim denota cum affidit
men.

*Expluat tractatus ortographi
e gallicane pr m. T. Cypriani
hy. canonicii Rurulan dicto
trivulsius iures de novo ed
tus sediu medium z formam pa
duis.*

* *

344rb

*Salutem mandem q
riesz cestes faciez laide de me
quartes de fourment. Des qua
rtes de fesle. Enj. quartes
bouye. quarente quartes daue
ys. cinquante quartes de fesles
cassane quartes de poys blando
cynf de poys vertz. Dufle de poys
vertz ou ronsfay. zebi. quartes
de bestes. my. de lentils. siqz nos
cions a la forme de my. en quar
ters de couz mang de bdes que
bons avez en nos traveux. Et
aussi faciez trece de nos estoile chi
nais appies jumentz de alz tores
tores lez bonetz baches inuen
ces tanglers tores biebz z rafiez
poys porchez z porchez. herbes
motons ouaisz horiez z ronnes z
nely gariez ones armes armetz
pions oue lorr pionnetz chapons
cox grelmes z pucys asnes et
malardes z tout autre manere
de puline columbes z columbels
des cefz miel cer quiers peule
laurez pellez effum blanc et
pule ferthe z puseache z riche
mendres usses faire certain
peulle suffisant pour faire as
chambres et as chualx et autres
preffez que faire meuse pour
tre auoir et preffez a garder
et les vendez usques a la salme
de qd. li. et nous emours mesme
la forme ussme q nous la ay
ous a londres dynaing et on
principale professe auoir.*
*Et oultre faciez lour mes fer
mes et vngs de estofez de plom
michel en suauement oue les
arremez des ames paffez et*

4) Walter de Bibbesworthのフランス語教本

語彙集：*Le Tretiz*

I. Text

Cambridge University Library, MS Gg 1.1 ff. 279^{va}-294^{rb}

Prologue — ll. 1140

- ① Le tretiz ki munseignur [279^{va}]
Gauter de Bithesweth fist
a ma dame Dyonise de Mounte-
- ④ chensi pur aprise de langage.
E co est a saver de primere tens
ke home neistra ou tut le lan-
gage par sa nature en sa juven-
- ⑧ te. Puis tut le fraunceis cum
il encurt en age e en estate de
husbondrie e manaungerie com
pur arer, rebingner, warreter,
- ⑫ semer, searcler, syer, fauger,
carier, muer, batre, ventre, e
mouwere, pester, brescer, bracer,
haute feste araer. Puis tut
- ⑯ le fraunceis des bestes, e des oy-
seaus chescune assemblé e par
sa nature apris. Puis trestuit
le fraunceys des boys, preez e de [279^{vb}]
- ㉐ pastures, vergers, gardins, cur-
tillages, ové tut le fraunceis
des flurs, e des fruz quil i sunt
e tut issint troverez *vous* le dreit
- ㉔ ordre en parler e en respundre
qe nuls gentils homme coveint
saver. Dount tut dis troverez
vous primes le fraunceis e puis le
- ㉘ engleise amount.
Femme ke aproche sun teins
to belittre
De enfaunter moustre seins

- [280^{ra}]
- [280^{rb}]
- Quant se purveit de une ventrere
 4 Qui seit avisé cunseillere.
 E quant li emfez serra neez
 Coveint k'il seit maylolez,
 Puis en berce le cochez
 8 E de une bercere vous purveez.
 Le enfant comence a chatener
 Einz k'il sache a peez aler ;
 E quant il baave de nature,
 12 Pur ces dras sauver de baavure ;
 Dites dount a sa bercere
 Ke ele lui face une baavere
 E quant comence de aler
 16 De tay se veet espaluer,
 E pur maine e pur blesure
 Garszoun ou garce li deit suire,
 Qu'il ne cece ne ne chece.
 20 Ensi coveint il bone pece,
 E quant il encurt a tele age
 Qui prendre se poet a langage,
 E[n] *fraunceis* lui devez dire
 24 Cum primes deit sun corz descrivire
 Pur l'ordre aver de moun, e ma,
 Ton, e ta, soun, e ça, le, e la
 Qu'i[1] en parole seit meuz apris
 28 E de nul autre escharnis.
 Ma teste ou moun chef ;
 La greve de moun chef
 Fetes la greve au laver

- p e feldefare*
- 32 E mangez la grive au diner,
lockes crispe
 Jeo ai les cheveuz recercillez
hevese
 Moun toup, vous prie, estanchez :
- foretop*
- En vostre chief vous avez toup,
hechele a toppe of flax
 36 E serencez de lin le toup ;
atte toppe
 En la rue juez au toup ;
wind the yarne
 E la lute desrenés le toup,
horn panne
 Ill i ad moun hanepel,
- brayn*
- 40 Moun frount e ma cervele
 Moun haterel ou mes temples ;
 E les mousters dist hom temples.
 Vostre regarde est gracieuse,
- goundi*
- 44 Mes vostre eel est chaciouse.
- p e gounde*
- Des eus oustés la chacie
maldrop
 E de nes le rupie.
 Meuz vaut la rubie par.b.
- 48 Ki ne fet le rupie par.p.,
 Car ci bource eut tant des rubies
 Cum le nes ad des rupies,
 Mult serreit riches de pirie
- recioouse stones*
- 52 Qui taunt eut de la rubie.
- be appel of p e eie*
- De le oile est sauf la purnel
p e eie lidde
 Si le pauper seit bon e bel.
- heres*
- En les pauperes sunt les cilz ;
- browes*
- 56 Amount les eus sunt les surciz,
 E ausi avez vous par reisun
perles gristel
 Deus nariz e un tendroun.

[280^{va}]

- þe co*
Mes war ki la chouve
- 60 *Ne touche vostre jouwe.*
- lippe þe hare*
Vous avez la levere e le leverer,
- þe pount bock*
La livere e le livre :
- La levere c'est ke enhost les dens,
- 64 Le levere ki boys se tent dedeins ;
- La livere sert de marchaudie,
- Le livere nous aprent clergie.
- [280^{vb}]
- 68 *Tasterés vos chose orde ou nette ;*
- rof*
En la bouche amount est palet,
- E les dames sunt ententives
- þe gomes*
Pur bien laver lur gingives,
- E l'encheisun est bien certeine
- 72 *Ki eles le funt pur bone aleine.*
- Le col, la gorge e le mentoun
- Dunt le fraunceis est *commun*.
- þe nrofeboll*
Dedens la gorge est le gargate
- 76 *E pluis parfunt si gist rate.*
- faxwax*
E si ad derere le wen au col
- A chescune sage e au fol.
- 80 *Desouz la launge est la fourcele,*
- Os fourché fraunceis l'apele.
- E n'est pas mester tut a descriver
- Du fraunceis ki chescun seit dire,
- wombe back bacbon*
Du ventre, dos ne de l'escine,
- schuldir arme breste*
84 Espaul, bras ne la peitrine :
- Mes jeo vous *frai* la mustreisoun
- De fraunceis noun pas si *commun*.
- En chef devant en la fontayne,
- 88 *La sovereine levere e la suzaine.*
- [281^{ra}]

wangeteth

En la buche sunt messeleres
E dens foreins, si tu les quers.

dalke

Au col avez un fossolet;

þe skale

- 92 Desouz la lange est le filet.

hole

Chescun orail si ad molet.

rime of hermes

Par kakenole est cervele nest,
E pur certefier la parole

- 96 Conestre coveint la kakenole.

þonewonges

Desouz le oraie est le grenoun;

scholderbon

A l'espaula avez blazoun.

armole

Desouz le bras avez ascel;

axetre

- 100 Parmi le char gist le escel.

mist

Desouz la mountayne surd le broil;

erþe

En bace tere ad bon soil.

strif

Entre pledours sourt le toil.

north hest

- 104 Le vent de bise mult greve le oyl.

Aprés le aust si chet le foil;

[281^{rb}]

þowinge

Aprés gele si vient remoil.

Cestes paroles ensi vous coil

- 108 E l'emcheisun dire vous coil

Pur meuz acorder en parlance

E descorder en variaunce.

Des spaules issint les braz;

helbowes

- 112 Coustez ne meins ne lerrum pas,

Mes entre le bras en la mein

þe virste

Si est trové la kouue de la mein

þe back

La paume dedeinz, la clay dehors.

- 116 E le poyne ceste la mein enclos;

E un poiné ki avez en mein

C'est la mein trestut plein ;
E ambesdeus les meins pleins

- 120 *þe spone*
E[n] Frauncze apel hom galeins.

Kar meuz vodroie petite poiné
De gengevere bien trié

- 124 *þe spen*
Ki ne ferroie cent galeins
De filaundre tut pleins

- 128 *a ribbe of a side*
Une coste de une costee ;
Adam en out deus enosté
Quant dame Eve primes fist.

- 132 Ne porte charge pur quei il gist,
Nepurquant ceo mot vient en place,
Mes bon est ke l'om le fraunceis sace
De la coste quei signefie,
Car tote gent ne sevent mie.

Mes en le ventre est le umbile

- 136 *shzare*
E par desouz est le penile.
þees bottokes clift
Quises e nages ou la fourchure

- riding*
Funt grant eyse pur chivechure.

- legges knes*
Jaumbes e genois conossez :
N'ad mester qe voz seient tochez,

hammes
Mes jaumbes sanz genois e karrez

- 140 *starke*
D'engeneler serreint trop rez.

- hammes garþors*
Au garrez unt ore gareters
Nos garzouns e nos esquiers,

carteres
Ne mie pur estre charretters,

- 144 Mes pur sauver lur lainers.

- kalf*
En la chaunbe avez la zure,
E tant cum braoun i est ensure

tristes him
De meilleur force home le assure

- 148 *shzinebon hurting*
Si l'eskanel seit saunz blezure.

[281^{va}][281^{vb}]

- sole to hele*
Plaunte i ad, urtil e taloun
Dunt le fraunceis est commun,
ankel pinne
Mes kevil de pé e kyvil de fust
- 152 Vodra jeo bien qe chescun le sust
ankles
Au pés avez les keviles:
Ne dites pas kyyiles,
Kar kevil fet hom ferm ester
- 156 E kyvil fet li carpenter.
*Ore pur aprise de ceo ki est dedenz
le cors de homme :*
Dedens le cors ad chescun hom
herte livre longen
Quere, foy e pomoum,
milte parme kidenere
Esplen, bouele e reynoun,
mawe senewes
160 Estomak, veine e nerf enviroun;
bleddre
E ne ubliez ja la vescie,
helpe
Ky au ventre fet grant aie
Pur ceo qe urine la quiloms.
- 164 Ne les reynes ja ne oblioms. [282^{ra}]
þees
galle
Ore ni faut si le fel noun
De quanqe est dedenz le cors avom.
a skine
Si avez par dehors une pel,
huide
- 168 E de une beste quire apel.
fleyx wayn
Vos avez la char e le char,
scorn
Mes cuntrgardom de *eschar* :
Eschar par folur hom revilist;
- 172 La char par hidour en hom fremist.
quakes
fleyz wayn
Jeo vi la char seer en char
scorn
E de la char fere eschar.

Mes eus par dolur ensecchisent ;

swellin

176 Le nerfs du bevour engurdissent.

skinne

Home e femme ount la pele,

huide

De mort beste quir apele.

laste knel

Le clercke soun le drener apel.

180 Li prestre feste a Rome apel.

Ore avez oy la force du cors,

Dedeins ausi e dehors.

*Ore du fraunceis de nostre vesture
od tut nostre autre herneis :*

Vestez vous dras, beaus duz enfiauns

[282^{rb}]

184 Chaucez vos gauns, souleres e brais ;

Mettez le chaperoun, coverez le chief ;

Tachez vos botuns e derecef

De une coreie vous ceinez.

188 Ne di pas 'vous' enceinez'

Kar femme est par home enceinete

E de une ceinture est ele ceinte.

D(e) la ceinture le pendaunt

bokel

192 Passe parmi trespase le mordaunt ;

tongge

E ausi deit li hardiloun

bore of a nalfin

Passer par tru de subiloun.

Si juvene enfaunt estent la main

196 Au matin vers le pain,

lompe

Une bribe dunc li donez,

szyvere

Ou une lesche si plus n'avez.

Au diner li donez des ouwes ;

200 Si les attirés a ses eus.

schelle

soupe

Oustés l'eschale einz q'il hume,

L'entruit ausi e le aubume,

yolke

E li donez le mouvel.

204 A home seine bon morcel,

[282^{va}]

sterene

Mes remuez la germinoun,
Mal a desire pur chescun hom.
Des poumes *vous* die ensement

208 La manere e l'affetement.

Quant poumes mangent *pur* ceo les eiment
E de dreit enfanz a reson les cleiment,

stalk

Oustez l'estiche e la parure,

212 Si lur donez la morsure.

kore

La pepinere *vous* engettez
E les pepines le plauntez.

*Ore le fraunceis des bestes e oyseus
chescune asemblé par son naturele langage :*

Beaus duz enfanz, *pur* ben apredre

216 En fraunceis devez entendre

Ki de chescune manere asemblé
Des bestes ki Deus ad formé
E des oyseaus ensement

220 Coveint parler proprement.

herdes

Primes ou cerfs sust asemblé

Une herde est apelé

[282^{vb}]

cranes

E des gruwes ausi une herde,

224 E des grives sauns .h. eerde;

partriz

Nyé de feisauntz cové de *partriz*,

larkes

Dameie des alouues, trippe de berbiz ;

coltes

Harras dist hom des poleins ;

cherles

228 Grant fouleie dist hom del vileins,

Soundre des porckes, sundre des esturneus,

smale briddes

Bovee des herouns pipee des oyseauz,

Route de beofs, mute des chiens,

232 Coumble de blé, soume des biens,

mork

Masse de argent, fimere des feins,

teles

Greile des gelins, turbe de *creceles*,

Luire de faucouns, luyre de puceles.

houting

- 236 Mes pucele ceo est saunz juper
 Les gentils faucouns aluirer.
 Eschele dist home de bataille ;
 Foysun dist home de vif aumaille
 240 Des dames dist hom compaignie
 E des ouwes ne chaungez mie
 Car de une fraunceis nient le deit ;
 Ly mestre baudiment l'oustreit.

[283^{ra}]

Ore de la naturele noise des toutes manere des bestes :

- 244 Ore oiez naturément
 Des bestes le diversement
 Checun de eus e checune,
 Solum ki sa nature doune.

berre

- 248 Home parle, ourse braie
 Ki a demesure se desraie ;
cow lowes crane crekez
 Vache mugist, gruuue grouule,
romies hasil quakez
 Leoun rougist, coudre croule,
neyez larke
 252 Chivaule henist, alouwe chaunte,
croukes
 Columbe gerist e cock chaunte,
mewith cisses
 Chate mimoune, serpent cifle,
roreth suen cisses
 Asne rezane, cine recifle,
wolfe yollez berkes
 256 Louwe oule, chein baie

fereth

- E home e beste sovent afraye.
fulimard sterez
 Putois li aynel afraie.
fax welleth brocke
 Gopil cleye, thesson traie
 260 Quant li venour li quer praie.

gandre

- Ouwe jaungle, jars agroile,
enede quekes
 Ane en mareis jaroile,

[283^{rb}]

- quekine trappe*
Mes il i ad jaroil e garoile ;
- 264 La difference dire vous voile :
 Li ane jaroil en rivere
 Si hom de falcoun la quere,
 Mes devant un vile en guere
- þe trappe*
268 Afichom le garoil en tere
 Pur le barbecan defendre
 A l'assaut ke home veut rendre,
 Si ki la porte i perde rien
- 272 Si l guerreour le seet bien.
- tode crodeth frogge*
Crapaut coaule, reyne gaille,
- snake*
Collure proprement regaille.
- gris wineth boor yelleth*
Purcel gerist, cengler releie,
- kide muteres bole yelleth*
276 Cheverau cherist e tor torreie.
- soune grounes draf*
Troye groundile quant drache quert ;
- doukere*
Faucoun tercel le plounoun fert.
- kakeles*
Ausint diez li geline patile
- leyth*
280 Quart pouné ad en gardin ou en vile,
 Car de Fraunce ai tele estile [283^{va}]
- a henne coppet leith and kakeles*
Ki geline huppé poune et patile,
- E ki trop se avaunce sanz resoun.
- 284 A la geline est compaignoun
 Ki plus se avaunce pur un eof
 Ki sa arure ne fet li boef.
- szep bleteth hoppeth*
Berbiz baleie, dame bale,
- bagge*
288 Espicer prent ces mers de bale.
- gones*
Par trop veiller home baal ;
 A sun serjaunt sa chose baille.
- raxes him*
Aprés dormer hom se espreche ;
- 292 Le prestre en le eglise preche

- Li peschour en viver pesche
nette *hock*
 Ore de sa rey, ore de son hesche.
 Faily lest la tere fresche
 296 Pur achater la char freische.
- Quant povre femme mene la tresche,
ring
 Plus la vaudreit en mein la besche,
 Car el n'ad en sa abesche
spade
 300 A payn ne a b(ri)be ne a lesche.
lompe *szivere*
 Soun chael la paele lesche.
- Ore donez a chauel a flater
lappen
 Ki lesche la rosé de l'herber.
 304 Eschuez flatour ki seet flater
glonden
 E les genz espeluper.
 E tun chaperoun ne vent lesser
dewe
 Un poyton, tant ad cher
losenge
 308 Noun pas tei, mes tun aveir
catel
 Ke desire de tei aver.
Ore de diverseté de fraunceiz ki
tut est dist de un engleis :
 Veez ci veint devaunt vous
 Un chivaler bieau tut rous
 312 Qui une destrere sor se est munte,
reed
 Esku de goules ad porté
 Un launce rouge en l'uyn mein,
 De vin vermaille l'autre plein,
- 316 Qi ne manjuwe point de peschoun
reed
 S(i) de le haranc sor noun.
quene
 Je vie uine reyne sanz rey

[283^{vb}]

- frock*
Pur une reyne fere desray
- 320 Ki enmye le reume le rey [284^{ra}]
forwe *nette*
En un reoun fist en un rey.
- in myn hevede lond*
Un vileint vint e[n] ma forer
- don out of time*
Ki eins oy foreiner
- 324 E dist qu'il voleit foreir,
pef
Li lers qu'il veit forveier.
- Ore le fraunceis du pré e du chaumpe e de carier les blez :*
- Ore aloms as prés e as champs
Pur enformer vos enfaunz.
- sicthe mowe a swathe of mede*
328 De faus fauchez un andenne de pré ;
- sikel rap a rep*
De faucil liez un javale de blé
- repes szeves*
Les javale en garbes liez ;
- En trosseaus les garbes mettez.
- a pese ris*
332 Un warrott de peis suz arascez
- beene szeves*
E les favots du warrott liez.
- Mes n'ad mester ke vous dioms
De tute manere de blé les nouns,
- rie barli*
336 De segle, orge ne forment
- Ke commune sunt a tote gent.
- Mes de autre semain trop i crest
- Ki pur mei a dire ne est : [284^{rb}]
- darnel dranck*
Le yverai i crest e le betel
- thar kokil*
Le azoun ausi e le neel,
- bloweth malue*
Le blaverole e le mauwe ausi
- szerlok*
Caroil e autre qe ne vous die,
- 344 Car trop avereit trop a fere
to telle
Si tuz semaus vous die retrere.

- Mes quant tens est de carier
 Vos charettez fetes charger,
 348 Mes chivaus deit li charetter
haling wippe
 De sa riote demener.
- mouwe*
- En grange vos blez muez
 Dohors la grange vos blez tassez,
reke
- 352 Car une moye est dit en grange
stake
 E une thase dehors la grange.
reke
- Moilom apellez ceo qe est en feyn
 E thas dist hom ceo qe est en grein,
anenes eyles
- 356 En graunge gardez *vous* des arestez
 En chaumpe *vous* blez des autre bestes.
 En sale chauntez *vous* lé gestes
 Pur oblier grefs e molestes
- 360 Au muster verrez degysé testes
 Ke ressemblent cornu bestes
biddest
- Mes si *vous* quillez genz a festes,
 Priez ceuz que sunt en questes
- 364 Pur lur malicez qe sunt si prestes,
 De fere grevaunces e molestes.
 Mes devisé point ne estes
 A ceuz donez les chars restes.
- Ore pur pestre vostre pain au
 fourn le fraunceis :*
- 368 Quant vostre blé est ben batu
windewith grounden
 Puis ventez e puis molu,
 Mes pur plus parfitement
 Parler devaunt bone gent
- 372 Il ad suffler, venter e corneer
 Dunt la resoun fet a saver ;
 Le fu suffle li quistroun
 E le vent vente *parmi* le busschoun,
- 376 Mes venour proprement corneie
 Quant chace prent de pure preihe.

[284^{va}]

- [284^{vb}]
- grist mele
Mes par le moudre devint farin
Ceo q̄i en greine fust huy matyn
380 E de farine ja deveint flour
Par le bulenge le pestour ;
bolting cloth
Car par le bulenge est severé
branne
La flour en fourfre einz demoré
384 A vos chivaus le fourfre donez.
Eawe teve a la flour medlez
E vostre paste ensuit pestrez
ribbe trhow
E de un rastuer le auge moundez.
- rake ribbe
388 Mes il i ad raster e rastuer
Ki servent de diverse mester,
Li pestour ad en mein la rastel
ribbe trhow
Mes li rastuer fest li auge bel ;
- 392 Car quant le paste a auge aerd
Li rastuer de ceo lur cert,
E tant cum feins sunt en prés
Est li rastel sovent manez.
- feron
396 Eschauffez le forn de feugere
Pur defaute de littere.
Littere e littere sunt divers
Discordaunt dient ces cleris.
- pe mouwe mouweth
400 Li faucheour littere fauche
Pur eise en littere hom chivauche.
Littere proprement sauz faille
En pure frauncé dist hom 'paile'.
- chaf stre
404 Pail e paille sunt nomez
Quant du greine sunt severez
E si paile ne seit pas,
pese stre
Pernez dunc le pesaz.
- 408 E quant le forn est bien chauffé
Du pel seit le past entré.

[285^{ra}]*Ore le fraunceis de ceo ki a bone*

mesuere apent :

Quant le past est au four
E de pestre i prent sojour,

- 412 E demesters la *mesuer*
Ne serra pas trop nunchaler,
Einz devendra bone curteller.
- 416 E ne ubliez ja *vostre canois*,
Car de lyn avereuz les bucheaus
E de caumbre les cordeaus.

- 420 E par tens le *arascez*,
- Puis apr  s la *rehaez*
E puis ou solail le *secchez*.
E pur tut sauver, mult fest bel

- 424 Uncore coveint sere au *pessel*

- 428 Ore *vous devez* au *pessel* ;
Mes quant au *pessel* ad sun *dever*

- 432 E *vostre lyn serencez* ;
E de un conoil *vous purveez*
Mes le fusil ja ne ubliez,

- 436 Ne sai ki plus *vous serreit dist*,
Mes ci ad diverset  
Dunt chescun n'est mie avis  .

- 440 De treys choses seert le *fusil* :

[285^{rb}][285^{va}]

- flint* *virhirne*
 E le fu de cailloun fert le fusil
- mulne spinel*
 E le blé est molu par le fusil.
- Quant vostre fil est bien filee,
- 444 E vostre fusil tut emplee
to pe rel
 Au trauil coveint dunt aler
pe yerne to relend
 Vostre fileie trauiller.
- yarnewinde*
 E puis coveint a la voidere,
- 448 Cum du filleie est la manere
to winden *rel*
 Pur voider aprés le trauil
weven
 E puis aprés tristrer le voil.
 Mes quei fest ore ma dame Hude
- a clewe* *wides*
 452 Un lussel de ses voiders wude.
- werpen*
 E la tristresce quant peru le ha
spooles
 Tantost ses trames voidra,
 E pur estre saunz blame
- a webbing szaly*
 456 Purveier coveint de une lame.
- Autre chose i apent [285^{vb}]
 Mes ne sai verrement.
- Ore le fraunceis pur breser brece*
e bracer cerweise :
- Puis ki desore suffist
- 460 Le fraunceis qe vous ai dist,
 Ore ferreit bien a saver
breser
 Cum l'en deit breser e bracer
 A la manere ke hom fest serveise
- kisses*
 464 Pur fere nos noces bien a ese
a keiex
 Allumés, auncele, une frenole,
a cake of spices
 Quant averas mangé de kakenole,
fat
 En une cuve large e leez

- [286^{ra}]
- 468 Cel orge la enfondrez
stepē
 E quant il est bien enfondré,
laden outh
 E le eauwe seit descouelé
 Mountez dunc cele haut soler
- 472 Si le facez bien baler,
sweopen
 E la coucherez vostre blé
spired
 Taunt cum seit bien germee ;
 E de cele heure apeleras
malt
 Breez qe einz blé on nomaz.
- 476 Le breez de vostre mein movez
rouwes
 En mounceus ou est rengez,
lepe
 E puis le portés en une corbail
- 480 Pur enseccher au torrail,
kulne
 Car corbail ou corbailloun
 Vos servirunt tut a foisoun.
- 484 Puis serra le brez molu
grounden
 E de eauwe chaude bien enbu.
 Si le lessez descoure ataunt
mahissing fate
 Hors de keverel meintenaunt
 Taunt cum la bresceresce entent
- 488 Ki ele eit bersil a talent,
wort
grout
 E puis le berzize prendra
 De forment ou orge ki ele a,
berme *worte*
 E par le geeste e le berzille
- 492 Dunt home plus se suttle,
 Par dreit never de bracerye.
 Mes tut divisor ne sai jeo mie,
 Mes tut issint de art en art
- 496 Attirez chescune part
 Deskes *vous* eez bone serveise,
 Dount home devient si ben a eise
- [286^{rb}]

- Ki les une en prenent taunt
 500 Ke il enyverent meintenant.
 Serveise fet miracles e merveilles :
 De une chaundaile deus chaundailes,
 Yveresce tent lais home a clerke
 504 Home mesconu fet aver merke ;
 Yveresce fet hom fort chatoner
 hose houten
 Home aroé fet haut juper ;
 Yveresce fet coyfe de bricoun
 508 Rouge teint saunz vermeilloun,
 E dunt dist home ki *par* saint Jorge
 Trop ad il bu grece de orge.
 A telez li auctour se repose,
 512 Car parler veut de autre chose.

*Ore pur peschour en viver
 ou en estaunck le fraunceis :*

Si saver voillez la manere

fische

Cum pescher devez en vivere,

Vivere est proprement nomé

[286^{va}]

- 516 Ou ewe vif est trové ;
 laden hout
 E euwe de servour primes espuchez
 Car du peissoun la ne faudrez,

pole
 E si vous faudrez a cel estauncke

alwei

- 520 Ou le eauwe est a descoraunt,

abidige

Alez dount saunz delai

gret pol

Ou espleiteromes tut dreit au lay

muire

Car c'este eauwe en butemay.

szyne

- 524 La coveint pescher de nace

neth

Ou petite rei ne trove grace.

szine ridel

Il i ad nace e crivere ausi

Commune fraunceis a chescuni.

smale

- 528 La nace est menument overez,

- Mes plus large par tuz assez
 Ad le crivere pur quei le di,
 Car autre difference n'ad ici.
- 532 Mes returnoms a la matire
 Ki de pescher *vous* voille dire,
_{*þe bobem torn hep*}
 Le gurget de nace revercez
_{*fulþe*}
 L'ordure leins engettez ;
- 536 Capaude e lezart ne esparniez
_{*neddre snake*}
 Serpent e colure ausi tuez ;
_{*greet flint*}
 Gravele e cailloun eruez
_{*snayl*}
 E lymaçoun ausint destruuez.
- 540 Si du pessohun i trrovez
_{*gilles*}
 Par les vemberges le prenez.
_{*kelinge*}
 Ci il seit mulewel de mer
 Overez le devez e espander,
- 544 Le no tantost en oustez
 Bouwele e eschine ensi le frez.
 Si returnez ver mesoun
_{*gappe*}
 Du gardin par cele crevessoun
_{*grene balke*}
- 548 Tant cum venes au vert tenail
 Ou le pastour est ou le aumail,
_{*szadewe*}
 Puis pa(r) corbois en cel umbrail
_{*wode hevese*}
 Passerez desouz le hourail.
- 552 Mes dount servent a tant des peres
 Ki sunt appelez passueres
_{*stremes*}
 Pur passer secke le russeles
 Ki sunt si clers e si beles,
- 556 Il i ad ourail par .h. escrit
 Orail ausi saunz .h. est dist.
_{*hevese lindes huides*}
 Desouz le hourail se keuve laroun

[286^{vb}][287^{ra}]

- Et par le orail est meint hom.
- 560 Mes einz ki passez plus avaunt
balke
 De tenail *vous* ert plus disaunt,
 Pur ceo qu'il ad plus de sens
 Dunt tel i ad il difference.
- 564 Il ad tenoun e tenail
 E tenailles ki n'est merveille.
handel *tilier*
 Ki tenoun tent li cotuyer
 E par le tenail passe meinte ber,
tonges *colles*
- 568 Mes tenailles servent des carbuns
 En yver quant au fu seoms,
smith
 E au fevre sert de custume
 Quant du martel sert sur l'enclume.
- Ore pur beau temps e pur tempeste :*
- 572 Ore pleut, ore geele ;
paweth
 Ore remet, ore regele.
 Pur la gelé avez vous glace
 E par la glace avez vous vereglace,
 [287^{rb}]
- 576 E si n'est pas bon trop hastere
 Sur vereglace pur vereglacere,
 E geele e pluwe deguttaunt
szlidinde
 Fount le chemin trop lidaunt.
- 580 Ore negge, ore cymeie.
sletes
 Le cyme empire *vostre* veie ;
a flake of snowe
 La bouche me entre un aumfe de neif,
 Ja quident qi jeo euse grant seif.
- 584 Nos averoms grisil puis q'il grele
haileth
smale
 Assez trop non pas trop grele.
ponner *pondres*
 Jeo oy toner, veir il toune
toune
- Dunt la cerveise empire en toune,
- 588 Ore ne suffrez mon pee toune.
slepeth

- Nul de vous mot ne soune.
 Freid eit de l'yver l'orer
 Un devinail voil demustrer:
 592 En yver quant l'orere chaunge
 Une verge i crest estrange,
 Verge qui est saunz verdour
 Sauns foil crest e saunz flour. [287^{va}]
- 596 Quant vendra le chaut esté
 La verge ne ert ja moustré.
 En yver quant l'orere chaunge
 E le tens devient estraunge
- 600 Qi a meint hom fet fort endurer,
 Pur le destreit de l'yver
comeled
 Dunt avez la mein si estomie
 Ki pur le freit ne purrez mie
- 604 De deis feir la capinole.
 Mes vodroie suz plume mole
 Seer pres du fu ki a la carole,
garlond *bloweth*
 Chapeu vestu de blauverole
- 608 Ou de quiller primerole
 Pur fere chapeus a clers d'escole
keix
 Ki par bost qui ne vaut frenole
 E par knyvet ou virole
- 612 Sovent attrere femme fole,
 Dunt teus ki sunt de tel escole
 Vaudroient plus en la jayhole
 Ki jevene femme en oriole,
- 616 Car quer de femme est si mole
beclippe hure
 Esquier ou clerke quant l'acole,
 Ki sovent a bref parole
 Femme fole le recole.
- 620 Ore pleut a Deu qe tels foles
pokes
 Ussent faces pleins de veroles,
maselinges
 E ceus ribaus les rugeroles.
 Si lerreint dunt les braceroles
- 624 E les foles les karoles,

- Eschurent les blaces foles.
 Mes pur aprendre ces innocens
 Des viroles dirrai plus de sens :
- 628 Il i ad virole e verole
 Ki sunt de diverse escole.
 La virole la maunche garde
 De cotel li mau musard,
- 632 Mes la verole la face empire
 Ne seit ja de si grant sire,
 Mes c'este une varole pure
 Ki de cholet crest *par* nature.
- 636 Un verme ki vert est coluré
 En Fraunce est varole nomé.
- Ore le fraunceis des flurs et des fruz du verger :*
- Le jour devient beaus e cler ;
pleyen
 Alom dedure ou banoer
- 640 Au verget ou sunt les fluris
 Dunt en issent les duz odurs,
 Herbes ausi pur medicine
 Dunt les noms ci *vous* divine.
- lilie*
 644 Fluir de rose e fluir de lys :
 Liz vaut pur roingne, rose pur pis.
solicle
 Ausi i crest la fluir de surcye,
helpe
 Ki a les eus fet grant aye.
- kousloppē*
 648 Primerole e prineveir
 Qui tost le mustrent en tens de veir.
 Here du bois e here terrestre
 En ceo boys devient crestre.
- weibrede*
 652 Ci ert assez de plauntayne
 E bugle ausi, herbe saine ;
- herte tonge* *chine*
 Cerlaunge ki sovent crest en *crevez*,
 Une herbe qe severouse redrez
- 656 E ausi troverez plenté des navez,
dayseie
 Consoude la blanche fluir

[288^{rb}]

- smerdocke*
E mercurial le grant valour.
- surdoke*
Pur sause vaut la surele
- roddok*
660 Pur home teignous la parele.
Parele i ad parele e parraus:
De tote manere des oyseaus
Une couple ad de mal e femel ;
664 C'est un parel nom pas parele.
E ausi sunt pareaus nomez
Puis ki ensemble sunt niez.
Uncore as flures me voil aler
- 668 Ki ne fest mie a ublier,
- moywed*
Car hermoise *vous* troverez
E plantayne si la semmez.
E si *vous* trovez au verger
- mayre*
672 Ameroke e gletoner,
- tuybil*
Les arassez de une besagu [288^{va}]
E plauntez cholet en lur liu.
- Ore le fraunceis des arbres
du verger :*
- En ceo verger des arbres creissent
676 Par charge des fruiz le uns abesent
- appiltre peretre chiritre*
Pomer, perere e coreiser,
haish brom plontrē
Freine, genest e pruner,
hawethen hawes
Ceneiller qe ceneilles port
- sloborne* *slos*
680 E le fouder qe le foudaines aporte ;
- brere* *hepes*
Englenter ki les peperonges comporte
- bolastre* *bolas*
Crekere ki les crekes forporte.
- cirnetre* *cirnes*
Ly alier port les alies,
- 684 Dunt Alianore en auncieneries
Le noun reçust de une rey
Ki out aliez en or devaunt sei.

- quincetre*
- Tut ausi crest li coingner
 688 Sovent le veit hom au *verger*.
 Mes si ad diversité grant
 Ki ne sevent mie aquaunt.
- in stockes*
- Li seignur fet l'un cneif coignier
 stockes
 692 En ces ceps pur chastier. [288^{vb}]
 Pernez un coing, si bates le secke coigner
 a wegh
 E coupez du coin un coigner ;
 E coingne est il ensement
 696 Ki fet la moneie de l'argent.
 Des autres arbres i sunt ausi,
 Pur meuz apprendre chescuni,
 box palmetre mapil
 Buit i ad, paumere e arable
 700 Ki n'est suffert en tere arable
- holintre*
- Mes a verger crest la houce,
 tabart
 Ki de nint ne vaut pur houce
 helren
 E le sueau li crest ausi,
 704 Commune fust a chescuni.
 wilwe hoke iv
 Sauz i crest e cheine e yf,
 De ceo fraunceis n'ad guers d'estrif
 Car le langage est ben commune
 708 E de clerck e de clerjoune.
- helre*
- Du sueth l'em fet sueaus
 Un manger bon e beaus.
- Ore le fraunceis des oyseaus
 de bois :*
- Quant du verger avom le chois,
 712 Aloms ore juer a boys [289^{ra}]
 Ou la russinole, þe nichtingale,
 houle
 Meuz chaunte ki houswan en sale.
 þrostel bose
 E meuz chaute mauviz en busson
 716 Ki ne fet chauf sorriz en meisoun.

- osel*
- En branche set le menue merle
- sheldedrake*
- En mareis demert la herle ;
- stare*
- Uncore il ad ausi filaundre
- wodelarke*
- 720 E le oysel ki ad noun chalaundre
- cricket*
- Au four meint le salemaundre
- scheden hifronne*
- Suffrez le pesschon espaundre ;
- Mes il i ad espandre e espaundre
- 724 Espendre ensemment e pandre.
- telles*
- Cil espandi conceil d'amy
- Ki li deskevre a nuly,
- schedes*
- E li enfez de gré espaunde
- 728 Hors de sa quele sa viande ;
- flakerers*
- E des eyles paunde peschoun
- Quant vif en rei le prent hom.
- spele*
- Mes espandere est la quarte parole
- 732 E ceo funt le clerjouns d'escole,
- Car espeau naturement
- Ki les lettres ensemble prent.
- Eyles e eeles sunt divers
- 736 Descordaunt dient des clers :
- finnent*
- Des eiles neent ces peschons,
- sparwes*
- Den eeles volent ces moschoms.
- Ausi ad il naer e noer e nager
- 740 Dunt la resoun fest a saver.
- swimmeth*
- En mer nee li peschoun
- drounes*
- E en mer noe mainte prodom ;
- hores rowen*
- Mes des virouns deivent nager
- bot szipman*
- 744 En bateles li mariner.
- snowe*
- Mes en yver veoms negger

[289^{rb}]

- flakes*
E les aumfes avaler.
Ore a oyseaus rediroms
748 Ou plus apprendre i purroms.
En chaumbre e aillurs ausi
woddekoc
Depeint home ceste oysel asci
Mes veez ou tapist un ascie ;
752 Fraunceis veut ke l'em li die.
Plus avaunt ore venés
E ceo ki verrez entendés,
roddocke
Car il i ad vereder e verder
forester
756 L'un oysel, l'autre forester ;
un wranne
Car par cy vole le vereuder
E par la voit li forester.
Ci vient volaunt un restel
stouc
760 E ce trest ver cele tresel ;
Car de ascies meuz vaut a restel
stouc
Ki vironer en un beau trescel,
fipele
Ki un beau treste de la viele
floute
764 Ou nule note de frestele.
titomoze
Uncore avez le musinge
poursekes
Ki les haies u boys renge.
yer gurdel
Deslacez, valet, toust ta renge
768 Si renger volez le musenge.
þe rede fleye
Uncore i ad la palevole
golfinges
E ausi la chardoneroile.
boterfleie
E si ad des papilouns
pistoles
772 Ki volunteers seent en chardoms,
breirs
E en les runces ensement
Usent de seer naturelment
- [289^{va}]
- [289^{vb}]

- greshop*
E ceo ne fet pas li grissilour
776 Ki en curtillage ad sun sojour,

hirchoun
Ne li hirchoun tient lui pluis
Ki prent le poume qe chet jus

fleiez gnattes
Ne mouches ne wibes ne sunt mie,

nettle
780 Car il eiment plus la urtie.

dike doukere
Ausi ad il anede e plumjoun
Ki en yvere unt lur mansioun.

wipes
En mores meinent les waneles ;

lanes
784 En viles sunt les veneles.

fanne
En graunge usom la vaanne

haterade
En quer de enviouise est le haane.

wilde ges
Ci vient volaunt un ouwe roser

 788 Un blaret ou li associer.
E meuz serroie de un blareth pu

rock
Ke ne serroie du char de fru.

swalwe
E pluis est ignele un arounde

storcke
792 Ki nul sygoun parmi le monde

hevesing
E severoundel a la cheverounde

swalwe
Prent le meisoun e le arounde,

snyte
E li oisel ke ad noun bekas

streing
796 Pres du river est pris a las.

kochou
Le chaunt de kokel ent recous
E si n'est guers delicious.
Poyne serreit si riotuse

 800 Si sun chaunt fu gracieuse.
E plus est oi en oriol

[290^{ra}]

- wodewale*
Ki la noise l'orkoil.
- Ore le fraunceis des bestes*
du boys :
- En fraunceis plus avant me voile
- 804 Por veer les estres du boyse.
- brocke*
Jeo vi vener un graunt tesschom
Ki ad guerpi sa mansiou
- fox*
Pur les fens du gupil
- 808 Ki l'ad mis en exil.
- fulymard*
E maudist seit li mauputois,
Car seit en vile ou en boys
Ne fet fors mes k'il eit
- [290^{rb}]
- 812 Grace geleine a sun reheite.
- wassele*
E plus vaudreit un beleth
- ratonz*
Pur fere ma graunge des raz neth
Ke totez les taupes de ci ki a Paris,
- moldewarpes*
- 816 Ki funt taupaines en pais.
E meuz amase ensement
Si jeo le huisse a talent,
Char le cerf ou de feoun
- 820 Ki chaunt de asne ou de poun.
- tayl*
E meuz aime kou de poun
Ki en l'escheker math de poun
E de pooun la bele couwe
- 824 Doune delit a la veuve.
- a boske of breres*
Je vi ci desouz la dume
- feberes*
Un oisel plumé, ci gist la plume,
Mes ki k'il seit ki l'ad plumé
- 828 Meuz vodrois q'il ut nois bluché.
- polt*
Jeo vi ester un petit neim
Sur la river ke est dit Sein.
- [290^{va}]

- angulkoc*
En sa main tent un neyn,
- sleth*
832 Pescher vout, ne pout pur ceyn.
- Ore pur un charet*
descrivre le fraunceis :
- kart*
Pur un charret descrivere
Le fraunceis vous met en livere.
- weles*
Dunt les reos vous di au primour
- bontes*
836 Pur les wendeaus ki sunt entour.
Desouz les bendeaus qe sunt de fer,
Sunt les jauntes attachez de fer.
- spokes*
E les jauntes entrent les rais,
- bemes*
840 E du solail issent les rais
E de la mer veinent les raies
- szlakes*
E ver la feire vount les rais;
Mes les rais de charette
- napes*
844 En les moyeaus ount lur recet.
- napes wel*
Dit li moail de la reof
- yolke hei*
Tut dreit au mouwel de l'oef:
'Jeo su fort a fes porter'.
- 848 'E jeo', feste li autre, 'bon a manger'.
- axetre*
Mes en les moyeaus gist le essel
- pinnes*
Ki par deuz heces le tient ouwel.
- cloutes*
Les esseoles unt lur juneres
- 852 Ki les eident cum bone freres.
- cartbody*
Sur les esseiles gist le chartil,
E pur sauver le peril
Le chertil est de becheus
- 856 Ferm liez a les esseus.
Entre le chartil e le moyeaus
Sunt hurteuers trovez deus.

[290^{vb}]

- E chescune charet ki mene blez
ronges
860 Deit aver rideles au costez.
staves
En les rideles vount roilouns
nayles
Pur les trus, sanz nuls clavoms.
lethern clout
E si outre les moyeaus seent sauners
laddres
864 Dunt n'i faut ci noun eschelez.
Mes pur estre plus artillons
Des esseaus plus *vous* dirroms.
axetre clout
Il ad essel e assel
armeholle
868 E li tierz ki ad a noun ascel.
Le chartil lyoms sur les esseaus ;
En les moyeaus *sunt* les esseaus.
armeholles
Mes les asceles avez *vous*
872 En ambesdeuz les bras a desouz.
pilles *pille hors*
En lymons veet li limower
Ki ades porte le dosser
womberop
E au ventre le ventrer
taylrop
876 E a la couwe le vauner.
Ventrer e ventrere i a,
Divers cum *vous* orrez i a :
Ventrere est proprement nomé
880 Une femme ke est demorré
Pur eider en cas sa voisine
childing
Quant ele girra en gysine ;
womberop
Mes proprement dist hom ventrer
pilke hors
884 Qi au ventre porte li lymoner.
eyhe
Li traices ad la bracerole
bicluppes
Ki les lymons embrace e cole.
pinnes
Devaunt les braceroles sunt billez

[291^{ra}]

888 Tailés de coteus ou de hachez.

hambrowes

Les couls de chivaus portent esceles

[291^{rb}]*homes*

E colers du quir en lur osseles.

En la charet est le somer

892 La ou seet le charetter.

haling wippe

Si le charetter eit sa roirte

Dunt ces chivaus en curs resorte,

Dunt ad qanke li appent

896 Kar ataunt suffist qe ki l'entent.

Mes pur estre plus sachaunt

Vous dirrai einz qe passe avant

Que en meyn tendra le charetter

900 E quei en mein avera le caruer :

Li charetter avera sa riorte

gode

Mes li carruer la aguilloun enporte,

horscome

E si li charetter estle avera

904 Dunt ces chivaus counreera ;

scorne

E li cotivers ne tinc a gaz

wispe

Ki ben ne forte de torbas

Einz qu'il seent enbeverez.

watred

908 Mes au seir serrunt waez.

Vayour i ad proprement

[291^{va}]

Ceo dist li auctour ki ne ment,

Dunt les beofs e les chivaus sunt vaes

912 E de tutes autres bestes sunt lavez.

*Ore le fraunceis des propretez
de carue :*

Puis ki deshore suffist du charret

De la carue ore me entrement.

En la carue avez vous

916 Divers nouns e merveillous :

foth

Primes le chef e le penoun

*handel**stulte*

Le manual e le tenoun ;

- ploureste*
Pardesouz est le oroilloun
- sheldebred*
920 E plus amount est l'escuchoun.
- koltre shzar*
La soke ausi e le vomer
Avera carue de never,
Mes war ki ne tuche
- 924 La zoke la zouche.
- plougbeam*
E longe la carue gist la haie
- hegh*
Ki vent du boiz ou du haie.
La carue ad un maillet
- 928 E un moundilloun *pur* fere le neth. [291^{vb}]
Devaunt la clacie sunt clavouns
Ou sunt atachez les tenouns.
- yokes*
Les boefs portent les jus
- 932 E pur Cristienes e pur Gius ;
E par les arczouns en jus fermés
- streigned*
Sunt les boefs cy forte artez
Ki les covent maugrer lour
- 936 Par le agoilloun eschuer errour.
- Ore pur meisoun edifier :*
- Si vous avez en penser
Mesoun ou chaumbre edefier,
Il covient au commencement
- 940 K'il eit bone fundament ;
- helewoth*
E puis leverez vous la mesere
- husewif*
Dunt femme est dit mesuere,
Car ceste est mur q'enclost la curte,
- 944 E mesere ou coumble aourt.
Mes il i ad messer e mesere ;
Entendez en diverse manere.
- haiward*
Ly messere ad li chaumpe en cure [292^{ra}]
948 Mes mesere fet mesoun suire.
Suir la mesere en travers outre

- pe wivertre*
Amount le celer mettez le poutre.
Au pieler desouz le poutre
952 De chevestre liez le poutre ;
E en vostre soler desuz le poutre
- gistes*
Trestuz les seillouns mettez outre ;
E desuz les seillouns la plauncie
956 De bordes ou de plastre pavie.
Sur la mesere les traes mettez,
E deuz cheverouuns un couple facez
Ki ferme estera sur la mesere
- pinne nauger*
960 Par kivil et par terere,
Dunt n'i faut si coumble noun
Ou tut amount la meisun
- pantre*
Covient en lunge aver genchour
964 Dunt le cumble ert mult plus sur.
Pur ceo fetes le cumble apert
E qu'il seit trop bien couvert.
Mes pur plus avaunt parler,
- [292^{rb}]
- 968 *Vous* ne devez ublier
- lathyes*
K'il ne covent aver grenchouns
E clous ficchez en vos mesouns.
- splentes*
E trenchons a la meisoun ausi.
- 972 Car pur aprise le *vous* die,
Mes chescun home ne seet pas
K'il seit difference en ceo cas,
- splentres*
Car trenchons sunt a mesoun eese
- gnawinges*
976 E trenchesouns a plusur despleise ;
E a chivaus nomeement
Trenchesouns apel hom *proprement*.
Uncore fest plus a saver
- 980 Endreit de mesoun edifier.
De dreit never i covent estre
- lover*
Li aumeire e la fenestre.
Aumeire e aumaire i a :

- 984 A l'aumere fume istra
 Car en fraunceis est aumere nomé
 Ki ci est 'lover' apelee.
 Mes ceo proprement aumaire [292^{va}]
- 988 Ou l'em mette viaunde e viaire.
þerswalde
 A l'entré de l'hus est la lyme
hoverdogne
 E outre la teste est la sullime.
- 992 Ou sunt ficchez les aneaus.
dorsbodes
 De coste sunt gymeaus deus
- 996 Si ert la meisun plus sure.
Ore pur attirere le fu :
 Fetez ore prest apparailler
 Ki nous puissoms tost manger.
 Une valet de *vous* quatre
- 1000 Va toust munder cele astre.
mochul
 Portez les cendres au fimer
- 1004 Ki de la quisine serra pris.
 Les asteles mettez en travers
aundhирnes
 Les chenes furchez du fers. [292^{vb}]
- 1008 Facez asteles, vos fres mal.
 Mettez au fu ascele du cheine
holre *ayhs*
 Coupé de aune ou de freyne,
becche
 E va dunc quere la fue
- 1012 Quir enclowé de fust de feu.
grenhed *szides*
 Mes pur la verdour des asceles

- [293^{ra}]
- sparkes*
Jeo ne vei issir estenceles.
- imbreis* *szherd*
Va quere breses en un teske;
- 1016 Attirez le feu, si vient le veske.
Ore agardez, beau duce frere
- glading*
Ne averez tost bele here.
- huysseles*
Gardez vos dras des flammecches;
- 1020 Mettez en breses peires e peeses.
- Ore pur attire bel la mesoun :*
- Moundes la mesoun, si la jungez
Asseez la table, si la coverez;
- hendes* *sydes*
Les bous de la table e les cures
- 1024 Coverez de nape devaunt seignurs.
Au meint ki ceo point seit estable
De blaunche nape coverez la table.
E la secunde ausi coverez
- 1028 De blaunche nape, si vous l'eez.
- soly*
E si la nape seit trop sale
- halle*
N'est mie avenaunt en sale;
Kar blaunche nape mult usé
- biselet*
1032 Vaut plus ke novele enboulré.
Lavés les hanapes, mundez les queles
- nailles*
Coupés des cysours de umbles les eles.
- fleyshhock*
Va t'en quistroun, ou toun havez
- 1036 Estrere le hagis del postnez.
- huive*
E mettez vostre veille rouche
- ladil*
Desuz vos pos, noun pas la louche.
- szhike*
Priez Jonet ki ta coyfe i leuche
- szhikin ston* *ladil*
1040 De un lucchere suiz la louche,
- wele*
E mettez la teille a l'ydol de lith

- welwit

Pres de la rose qe ja enflestrith.
Mes a la vile rouche redirroms,

1044 Ou plus apprendre i pouns.

[293^{rb}]

bees

La rouche server deit les ees
swarmes
Dount nous veom voler les dees ;
E un *par* sei singulerment

1048 *An hony bee* est proprement,
E proprement un de dees ees
En engleis est *a suarme of bees*.

honny come

E c'est une brecche de mel nomé

1052 Ki en la rouche funt les ees de gré.

Ore pur diverse paroles :

Requillez genz bel a manger
Si poez meimes alloser.
Taillez ceo pain que est paré ;

paringes

1056 Les bisseaus seient pur Deu doné.
Du cotel trenchoms les bisseaus
Du quiller mangoms mieaus.
Frussés ceo pain qi vent de fourn ;

1060 Debrusés cel os de venour
Rumpés la cord qe fet nusaunce ;
Enfreinés covenaut de deceivaunce.

lappes

Partiez, valet, en *vous* escous

1064 Le haranc sor de frahel rous,

[293^{va}]

steppes

Kar par devaunt sunt vos escous
E d'encoste sunt vos gerouns.
E donez tost a celui pelrynn

1068 Ke port un chape de hermin.

bispirnit

Cy vint un garzoun esclavoté,
La pruve *vous* ert ja mustré ;
Kar trop avera des esclavos

steppes

1072 Ki du chivaул suwe les esclos.
Fens estreit de puaunt souz

- [293^{vb}]
- soly cloth*
 Fest sale nap e grace chouz ;
 E herbe qe crest a l'huis de l'estable
 1076 Fet blaunche nap e megre table.
 Deus garzouns chacent grant preie ;
- wlaffez*
- A chescun mot l'un baubeye
 E li autre ne peut parler
- snywele*
- 1080 Une parole sanz nascier.
 Mes ne me chaut s'il nascie
- a pile of garlec*
- Kar il ne vaut pas un aillie ;
- slavereith*
- E li meins vaut, il baave tut dis.
 1084 Si crere voulist moun avis,
 Il enpriereit sa mere
- slavering clout*
- Ki ele le feise un baavvere.
 Mes veez, si vient Mestre Huge,
- stotteth*
- 1088 Ki ren ne parle si il ne bugé.
- horor*
- Mes de femmes ai dedeing grant
 Ki par orgoille se aforcent tant
 En parler bleser tut dis
- wlispen*
- 1092 Pur meuz pleiser a lur amis.
- kouwe spete*
- Ausi ad il tusser e escouper
 bolke spywe snese
 Ruper, vomer e esternuer.
- Home dist qu'il tousse de dreit
 1096 Ki mout de ruge serveise beit ;
- wamblez*
- E cil qui trop laumbei au quer
 Sovent li esteut escouper ;
- fleye cheuues suolwes*
- E cil qe mouche masche ou gouste
- 1100 Un grant gate li mettez jousté,
- bolke*
- Car ruper li esteint tresben
- spewe*
- Ou il vomera maugré soen.
 Mes esternnuer sovent

1104 Saunté est e aleggement.

[294^{ra}]*Ore le fraunceis pur un feste araer :*

Un vallet de la noveilerie

Ki vint her de un mangerie,

E de la feste nous ad cunté

1108 Cum lur servise fust araé.

Saunt pain, vin e cerveise

Ne serreint nuls a feste a ese.

Mes tut treis mout enliz

1112 Il en hurent, nos ad diz.

Mes de autre feste a parler,

Des cours k'il urent au manger.

Primes la teste de sengler ben armé

1116 E le groin plein banneré ;

Puis venesoun ove la formenté

Puis meinte autre diverseté :

cranes pokockes suannes

Grues poeuns e cynes,

kides porceaus heunes

1120 Chevereaus, purceaus e gelines

Puis averent coins en gravé,

Trestut de zugre enfundré,

Maces, quibibes e clous gilofrez

[294^{rb}]

1124 E autre espicerie ascez,

Viaunde de Cypre e maumerie

Vin vermaile e blaune a plente,

Puis i out autre foysen de roste

1128 Checun de eus autre encouste.

woddekoches

Feyzauns, asciez e pardriz,

feldefare larkes

Grives, alawes e plovers rostiz,

Braoun, crispes e fruture

1132 Ove zucré roset la temprure.

E quant la table fust ousté

Blaunche poudre en grose dragé.

E de autre noblei au foisoun.

1136 Einsi vous finist cest sarmoun.

Car du fraunceis i ad assez

E de meinte manere diversetez.

Dunt vous finist, seignurs entaunt :

1140 Au Fiz Deu trestuz vous comaunt.

Amen

II. ビブズワスの語彙集 訳

ディオニーズ・ド・モンテチェンシイの奥方様へゴーテ・ド・ビゼスウェイが謹んで捧げた言葉を習い覚えるための教本、それは人が誕生してより子供の頃に自然に覚えるフランス語、その後成人し、やがて家政に携わるようになる頃のフランス語を、すっかり知るためのものです。家政というものは耕したり、鋤いたり、堀り返したり、種蒔き、片附け、鋸挽き、鎌で刈り、車で運び、乾草、麦藁などを山積みにし、穀物を打ち、箕でふるい、粉に挽き、小麦粉を捏ね、麦を挽きませたり、麦を醸造したり、立派な祝宴の用意を整えたりすることです。それから、集まったそれぞれの獣や鳥の、生来知られている事柄について、フランス語を学び、また、森や、牧場や、田園や果樹園や、庭園や、小園や、その処にある花や果物についてのフランス語を全て学びます。そしてまた、話したり、答えたりする時の正しい語順もこの教本で教えます。それは高貴なお人の誰もが知るべきことでありましょう。さて、どの場合にも、まずフランス語をしるし、その上に英語を書き添えておきます。

産月の間近い婦人は、賢明な産婆の助言者が側に付添うよう配慮する良い。みどり児が誕生すると産衣でくるみ、搖籃に寝かせ、乳母を付添わせなさい。赤ん坊は這い這いを始め、それから立ち歩きを覚える。幼児が涎を流すようになれば着物を汚さぬため、涎掛けを作るようになると乳母に伝えなさい。子供は歩き始めると泥塗れになる。傷をせぬよう、怪我をせぬよう、男の子でも女の子でも、躓いたり、倒れたりせぬよう、その後についてゆかねばならない、長い間これは必要だ。

子供が言葉を覚える時期になると、フランス語で話しかけるように。私の、という時の男性、女性の区別、お前の、あの人の、それ、あれ、という時の、男性、女性の規則を知るために、まず自分の身体について述べよう。その規則は話して聞かせる方が、どの様な方法よりも良く覚えられる。

私の頭 ma teste (女性所有代名詞を使う場合)、又は私の頭 moun chef (男性所有代名詞を使う場合)、私の髪の分け目、髪を洗って分け目をつけなさい。食事には鶏を食べなさい(食べ物は好き嫌いをせぬように)。私の髪は縮れている、私の頭の髪の毛 toup を結わえてほしい。貴女の頭には前髪 toup がある。亜麻の束 toup を梳櫛で梳きなさい。独楽 toup は道で遊び、雄羊は争いで勝負する。

私(男性)の頭蓋があり、私(男性)の額、私(女性)の脳漿、私(男性)の項、私の(複数)顎頬 temples、がある。教会堂のことを聖堂 temples、とも言う。

貴方の目付は優しいが、眼には眼脂がある。両の目から眼脂を除き、鼻から鼻水を拭いなさい。'p' のある鼻水 rupie よりも 'b' の綴りのルビー rubie は価値がある。鼻に鼻水があると同じ位この財布にルビーがあれば、(50) それだけ沢山ルビーを入れておれば、宝石で大層金持になるだろうに。

眼瞼が丈夫で美しいと眼の瞳は傷つかない。眼瞼には睫毛がある。眼の上に眉がある。それから当然鼻軟骨と鼻孔が二つある。頬に蛾が止まらぬよう注意なさい。貴方には唇 la levore (女性定冠詞使用) がある。兎 le leverer (男性定冠詞使用) もいる。それからリーウル le livere (女性) と、本 le livre (男性)。唇は歯を守り、兎は森の中にいる。リーウル貨幣は商品に使い、本は我々に知識を教える。

口の中の上側が口蓋、汚ない物や清潔なものに触れて御覧。婦人方は歯茎を綺麗に洗う。綺麗な息をするため、という理由は全く明らかだ。

首や喉や、顎のフランス語は皆良く知っている。喉の中に食道がある。更に深い奥に脾臓がある。首の後ろに腱がある。これは賢明な人にも愚かな人にも同様。舌根の下に鎖骨がある。フランス人はそれを熊手の骨と言う。腹部、背中、背骨、肩、腕、胸など良く知っているフランス語についてすっかり述

べることはないだろうから、余り知らないフランス語を教えよう。

前頭の泉門、上唇は *la soverine levere* とも言い *la suzaine levere* とも言う。口腔には探せば、臼歯、外歯がある。首にはくぼみがある。舌の下に小帯、両耳に小葉がある。*kakenole* という菓子で、頭がすっきりする。この言葉を証明するには、その菓子を知らねばならない。耳の下に顎髭があり、肩に肩甲骨がある。腕の下には脇下 *ascel* がある。車の中にあるのは車軸 *escel* という。(100)

山の低地から霧が湧き、低地には良い土壌がある。訴訟人の間に議論が湧き、冬の北風は眼を痛める。8月が過ぎると木の葉が落ち、霜の後で氷が溶ける。この様な言葉を教える理由を言っておこう。それは話が良く通じる様に様々な論議が良くできるように、ということだ。

肩や、腕や、肘、手も忘れないように。腕と手の間に手首がある。掌は中に、手の甲は外にある。拳は閉じた手、手の一つかみ、*un poine* とは片手一杯のことであり、両手一杯をフランス語では *galeins* と言う。両手に百杯の細糸よりも、私の欲しいのは選りわけた生姜のほんの片手一杯の方だ。神はエヴァを造り給う時、アダムの脇腹からあばら骨を取られた。そうであるからと言って関わりはないが、それにも拘わらずこの言葉は此處に現われる。しかし人がフランス語を知っているのは良いことだ、というのは、あばら骨は何の意味か、誰も知らないのだから。

腹部には臍がありその下に恥丘がある。腿、臀部、股は乗馬を樂にする。脚や膝という語を覚えなさい。貴方の脚や膝を触れさせてはいけない。膝のない脚は角張っていて、跪くには大層ぎこちない。子供達や楯持ちは脛に靴下止めをつける。車を曳くのではなく、彼等の靴下を守るために。脚にはふくらはぎがあり、筋肉がついている。筋肉があるかぎり脛骨に傷がなければ足は丈夫で信頼できる。足の裏も足指も踵もあり、これらのフランス語は皆よく知っている。(150)しかし足の踝 *kevil* があり、木の桁 *kyvile* もある。一人一人踝をよく拭いなさい。足にあるのは踝 *keviles* であって、それを桁 *kyviles* と言ってはいけない。踝は人をしっかりと立たせ、木の桁は大工が作る。

(さて人間の身体の中にあるものを学ぶために)

誰にでも身体の中には心臓、肝臓、肺臓、脾臓、腸、腎臓、胃と、それらをとりまく血管と神経がある。膀胱を忘れてはならない。それは腹部を大層安樂にする。何故ならそれが尿を貯えるから。又腎臓を忘れてはならない。また、胆汁がなければ身体の中のものは役に立たない。身体の外部に皮膚があり動物の場合はそれを皮と言う。肉体は *la char* で車は *le char*、しかし人を嘲らぬ *eschar* ようにしよう。愚劣な嘲りは人の価値を下げる。人間の身体は恐怖で震える。私は肉体が車に坐り、肉体を嘲笑っているのを見た。私の眼は苦惱によって焦悴する。酒飲みの神経は鈍くなる。男にも女にも皮膚がある。死んだ動物についてはそれを皮と呼ぶ。学僧が晩鐘を鳴らす。司祭がローマの助力を乞う。さて身体の機能について内部のことも外部のことも説明した。

(次は我々の衣服、その他の馬具についてのフランス語)

可愛いいい良い子たちよ、衣服を着けなさい。上衣と、靴と下穿を着けなさい。帽子を被り頭を覆いなさい。更にボタンを嵌め、革紐の帯を締めなさい。締めること *ceintez* を *enceinez* と言ってはいけない。というのは女は男によって妊娠 *enceitez* するからであり、帯を締めるからである。帯の紐を留め金の穴に通しなさい。引き結びのくつ紐も突錐の穴に通す。

若し小さい子供が朝パンに手を出せば、パン一片をあげなさい。それもなければ小さく千切ったパンでもよい。食事には卵を与えよう。若しそれが好きならば、(200)それを啜る前に穀を取り、小胞と白味を除いて卵の黄味を子供に食べさせよう。健康な大人は卵をそのまま食べてもよい。ただし卵の胚はよく搔き回するように。それは誰にも良くないのだから。また、リンゴとその食べ方について貴方がたに言おう。リンゴを好むから食べるの、良い子は当然リンゴを欲しがる。柄と皮を取って一口分をあ

げなさい。芯と沢山の種も捨てよう。

(次は集まった獣や鳥とそのなき声のフランス語)

可愛いいい良い子たちよ、しっかりと学ぶためにはフランス語が解らなければならない。神が造り給うた動物の、集まった様子について、また小鳥についても同じく、正しく話せるようにしよう。まず、鹿の集まりを群れ *herde* とよぶ。鶴の群も同じ *herde*, 鶲は ‘*h*’ なしで *eerde* という。一巣の雛の雉子は *nye*, 岩鷦鷯の一孵りは *cove*, 数羽の雲雀は *damei*, 牝羊の群は *trippe*, 若駒の集りを *harras* という。農民については群衆 *grant fouleie* という。一腹の豚は *soundre*, 棕鳥の群がりも *sundre*, 同じ季節に孵った青鶯の群は *bovee*, 小鳥の集まりは *pipee*, 牛の群は *route*, 犬の群については *mute*, 山盛りの小麦は *coumble*, 多額の財は *soume*, 沢山のお金は *masse*, 肥料の山は推肥 *fimere* と言い、雌鶲の嗄れ声は *greile*, 馬糞鷹の一群は、*turbe*, 鷹の巣は、*luire*, 娘を惹き寄せるのは *luyre* という。しかし娘には声高に呼びかけるのではない。高貴な人たちは鷹狩りをする。戦士の一団を *eschele* といい、多数の大きい家畜を *foysun* という。婦人の連れは *compaignie* といい、雁についてもそれは変わらない。フランス語では、一つのものについては、殊更何も言わないが、フランス語に精通するお方も、このことには全く同意するだろう。

(あらゆる種類の動物の自然ななき声について)

さあ、雄も雌も、どれにも、これにも、自然に具わった多種多様な動物の啼き声を聞きなさい。人間は話し、熊は唸る。どちらも極度に腹を立てる。牝牛はもうもう、鶴は一声、(250) ライオンは咆哮し、様は震える。馬は嘶き、雲雀は歌い、鳩は愛情こめて鳴き、雄鶲はときを告げ、雌猫はにやあおと啼き、蛇はしゅうしゅうと音を立て、驢馬はひんひん、白鳥は声高くひゅうと鳴く。雌狼は遠吠えし、雄犬は吠える。動物は時々人間をこわがり、小羊はいたちを怖れる。狐はこんと啼き、穴熊は地を這う。狩人が獲物を探す時雌鷺鳥はぎやあぎやあ鳴き、雄鷺鳥はがあがあと鳴く。沼の雌鴨はぐわつぐわっと鳴く。しかし啼き声の *jaroil* と罠の *garoile* がある。その区別を話そう。人が鷹狩で獲物を探すと雌鴨は河でぐわつぐわっと鳴く。戦っている町の前に、相手が襲う攻撃に対し、外堡を守るために、地面に罠をしかける。戦士がそれをしっかりと作れば、城門は破壊されない。

蟾蜍はわめき立て、殿様蛙はげろげろ、無毒の蛇はしゅうしゅう、と音を出す。小豚は細く啼き、猪は唸り声をたてる。小羊はめえめえ、牡牛はもーと太く啼く、牡豚はおいしい食物を求めてぶうぶう鳴く、猛禽の鷹は飛び込んでくる。雌鶲は七面鳥が庭や町にいると我を忘れてくわつくわっと鳴く。つまりフランスではこんな状態である。得意顔の鶲は卵を産み、こっこっと鳴くと、とにかく前へ進み出る。雌鶲の仲間は、仕事の順を弁えて卵に向かって走り寄る。牡羊はめーと鳴き *baleie*, 奥方は踊る *bale*, 小間物商人は商品の荷物 *bale* を取る。夜ふかしをし過ぎて、人はあくびをし *baal*, 召使に自分のものを与える。眠った後で人は大声を出し、司祭は教会で説教をする。釣人は池で網や餌針をもって釣をする。性悪者は生身の肉体を買うために、土地を耕さず放っておく。貧しい女がロンドを踊るよりは手に鋤を持つがよい、というのは食料の一塊も、一片も、一かけもないのだから。(300) 彼女の小犬が鍋を舐める *lesche*, 小犬に舐め *flater* させておこう。小犬は庭園のバラを荒らして *lesche* ちぎってしまう。お世辞の上手な人を避けよう。彼等は人を無一物にする。お前の帽子も見逃しはしない。ほんの小さいものも、大層価値がある。お前を欲しいと望む者は、お前をではなく、お前の財産だ。

(次は様々なフランス語が一つの英語で言われる場合)

貴方の前に現われた褐色 *rous* の美しい騎士を見て御覧。輝く *goules*(reed) 楠を持ち、栗毛 *sor*(reed)

の馬にうち乗り、赤い rouge 槍を片手にし、赤葡萄酒 vermaille をもう一方の手に持っている。彼はこんがり焼いた sor (reed) 鯉以外の魚は口にしない。私は王のいない女王様が、蛙のためにまごまごするのを見る。王国には王様がおられる。葡萄畠の傾斜面には網をかけた。一人の百姓が森のはずれにやって来た。彼は以前によそ者が盗みを働くと言っていたのを聞いた。泥棒を追い払いにやって来たのだ。

(今度は牧場や畠のフランス語と麦についての作業)

子供たちを教えるために牧場や野原に行こう。長柄の鎌で草を一步一步刈りとろう。束ねた麦を半円形の鎌で刈ろう。麦の堆積を束にしよう。麦の束を荷にまとめよう。飼料の豆を引き抜き豆の茎を束ねよう。全ゆる種類の麦の名前を覚える必要はない。麦、大麦、小麦などは誰にもよくわかる。しかし他の種からも多くのが生えるが、私が言うこともない、毒麦、燕麦も、からす豌豆の実も、黒麦も、矢車菊も、葵も野性大根もあえて言わない。種の全てを述べるとすれば言うことは余りに多過ぎるだろうから。

車で運ぶ時期になれば車に荷を積もう。車を引く者は馬を鞭で馴さねばならない。小麦を穀物倉へ運び、(350)倉の外に山積みにしなさい。倉の中ではその堆積を moye と言い、倉の外の乾草の山を thase という。秣を moilom と言い、穀物の収穫の山を thas という。小作地では麦ののぎを保護し、畠では小麦を他の獣から守ろう。広間では唄を歌い悲しみや苦しみを忘れよう。教会堂で仮装した頭がみえる、それは角のある獣のようだ。もし、人を祭りに迎えたら、悪業のために、切羽詰まって罪を嘆き、苦惱している人のために祈りなさい。人をしたたかにやっつける人々と、貴方たちも余りかわりはしない。

(さてパンを窯で作るためのフランス語)

麦が充分打たれると、風にふるい分けられ、それから碎かれる。しかし、人の前でもっと正確に話すには、吹く、という言葉にも suffler, venter, corneer があるということ、またその意味を知らなければならない。料理人の下働きの少年は火をおこすために吹く、風は森の中で吹く。狩人は狩で良い獲物を捕えると、すぐさま角笛を吹く。さあ、今朝穀粒であったものは挽かれて粉になった。粉から上質の小麦粉になり、篩われて捏物になる。すなわち篩い布で選りわけて、外皮の混った粉は置いておく。馬には穀類を挽いた残滓の混合麦を与えよう。なまぬるい水を粉に混ぜて、捏粉を捏ろう。熊手 rastuer で飼槽を掃除しよう。しかし、熊手の rastuer と火かき棒、まぐわの rastel があって、種々に使われる。パンを捏ねる人は手に火搔棒を持つ。しかし熊手は飼槽をきれいにする、餌料が槽に附着すると、熊手が役に立つ。堆肥が牧場にある限り、まぐわが用をたす。藁がなければ歯朶で窯を暖めよう。藁と駕籠、littere と littere は異なる。学者はそれを、相違があるという。草刈りは藁を刈り取る、(400) 人は樂に駕籠で進む。正しいフランス語では、確かに間違いない、藁 littere のことを paile (藁) という。穀粒が選り分けられる以前のものを、莢と藁という。若し藁がなければ、豆穀を使う。そして窯を十分に暖めたら鍋から、捏物を入れなさい。

(良い家計に関するフランス語)

パン種を窯に入れるとしばらくその中に置き、主婦はその工合を見る。主婦はその間家の仕事に無関心であってはならず、畠作りをしっかりとせねばならない。亜麻の種を蒔きに行こう。大麻も忘れぬよう。亜麻からは乾物用の糸を作り、大麻からは糸を作る。時には亜麻の雑草を取り、時期がくるとそれらを引き抜こう。それから水を打ち、日に干して乾かそう。全てを知っているのは大層よいことだ。また、麻を打つために麻打機の台に坐るがよい。そうしなければ終りにならぬ。ミュリエルの奥様に私はそう頼む、さあ、麻打台の所へ行って下さい。麻打の仕事が終れば、歯の大きな櫛のある所に行って

下さい。麻梳櫛をとって貴方の麻を梳いて下さい。紡錘竿をとりあげ、紡錘も忘れぬように、それに必要な錘の車も。これ以上何と言ってよいか分らぬ。誰にも分らぬことが沢山ある。fusil というものは三つの役に立つ。つむ fusil から糸がつむがれる。火口金 fusil は火打石の役に立つ。そして石臼の心棒 fusil があるので、小麦は粉になる。貴方の糸が十分紡げ、つむが一杯になれば、糸車の所へ行かねばならない。紡いだ糸を巻き、巻枠にかけるように、糸は糸車から繰枠に巻きとるのが手順です。それから思うように織る。(450) ヨード奥様はさて何をしておいでですか。糸繰機から糸玉を繰っておられる。はた織りが糸をよじったら、とやかく言われぬように直ぐに糸巻きの糸を繰り、横糸を入れるとよい。他の事も関係するのだが、私は本当にこれ以上は知らない。

(碎いた麦を搔きませ、ビールを醸造するためのフランス語)

今まで話してきたフランス語が更に充分役立つように、発酵させたり、攪拌したりしてビールを作る方法も良く知っておこう。女を相手に気楽に飲み騒ぐためにも。娘よ、蘭に火を燈せ。お菓子を食べ終えると、広い大きな醸造用桶に大麦を入れよう。大麦が充分に水を吸うと水を捨て、あの高い天井の部屋に登り、其処を綺麗に掃除させよう。そして麦がしっかり芽を出すまで、其処にねかせておこう。それまで麦と言っていたものを其の時から麦芽という。そのモルトを手で搔きまわして山盛りにし、籠に入れて運ぼう。干し場で乾かすために。大籠であれ小籠であれ、大量を運ぶ役に立つ。それから麦は碎かれ、熱湯に浸される。ビール造りの者が思惑どおりの、求めるだけの発酵麦芽を今度は桶から外に流し出す。小麦であれ大麦であれ、その泡や発酵麦芽をビール醸造の正しい方法で巧妙に操作するのだ。全ての作業を話すことはできない。しかし一つの作業から次の作業へと工程の一つ一つを整えて、人においしく飲まれる、よいビールになるまで注意してかかろう。それを沢山飲んだ人たちは酔払ってしまう。(500) ビールは奇蹟や驚異を生み出すものだ。毛編シャツ一枚を、二枚に見せる。酔は俗人を聖職者にしたて、名もなき人を有名人にし、人を猫のように這わせ、節度ある人間を大声で叫ばせる。酔で人は馬鹿になり、赤く染めなくとも頭は赤くなる。そこで、聖ジョルジュ様の名にかけて、大麦の脂っこいビールを飲み過ぎた、と人は言うのだ。筆者はここで一息入れよう、というのは他の事も話したいから。

(養魚池あるいは池で釣をするためのフランス語)

さて養魚池でどの様に釣をすればよいか、知り度いと思っておいでのようだ。湧き水のある所をまさしく養魚池という。まず池の水を汲み出そう。そこに魚は必ずみつかる。流水のある池を求めるならば、ただちに急いで真直に森の池へ行くとよい。沼池のその水は築で魚を捕るに適している。小さな網は適当ではない。築もあり、篩もある。どちらも良く知っているフランス語だ。築は小さく作ってある、もっと相当大きいものを何故か篩という。というのも、他に違う点はないのだ。では本題に戻って魚釣について話そう。築の口を逆にして中の泥を捨てよう。蛙や蛾蜴も惜しまぬよう。大蛇や無毒の蛇も殺し、砂利や小石を捨て、かたつむりも捨てよう。そうすれば魚がみつかる。魚の鰓をつかまえ、もしそれが鱈であれば、腹をさいて開こう。肺臓や腹わたを捨て、腸や背骨も除こう。

家の果樹園に戻るために、あの山あいを通るならば、やがて、羊飼いが家畜の群れを連れている緑の土手 vert tenail にやって来る。木蔭を通って森を通り抜け、(550) こんもりとした森の下を通り過ぎよう。其処を通るには踏み石とよばれる多くの石が役に立つ。大層美しい綺麗な小川を濡れずに渡るために。ourail は ‘h’ で書き出しが、その ‘h’ は発音しない。森のはずれの境には盗人が隠れている。多くの人がその噂を聞く。さて、もっと先に進む前に土手 tenail のことについて更に話そう。それには多くの意味があり、このような相異があるのだから。tenoun 柄と tenail 土手があり、tenailles やっとこ、こ

れは珍らしくない。たてもの師は柄を操り、土手を多くの人が通る。しかし冬の火の側にいる時は、やつとこで炭をつかむ、鍛冶屋が鉄床を叩く時、槌はいつも役立つものだ。

(次は良い天気と嵐について)

さて雨が降り、氷がはる。また雨が降り、再び凍る。凍ると氷がとれ、氷が張ると、雨氷ができる。雨氷のために雨氷に覆われた上を余り急ぐのはよくない。凍てつきと不快な雨は道を大層滑り易くする。さて雪が降る。みぞれが降る。みぞれのために生活が辛くなる。私の口に雪の粉がはいる。粉雪は私の喉が喝いていると思っているのだ。霰が降り、そして雹がはげしく降る。雷が聞こえる。雷の鳴るのが見える。雷が鳴る *toune* と、樽のビールは悪くなる。私の足をしびれた併に *toune* しないで欲しい。貴方たちの誰も一言も言わぬ。冬が近づくと寒い。一つ謎々を教えてあげよう。冬に季節が移りかわると、緑のない裸の枝が奇妙に大きくなる。花もなく葉もなくそそり立つ。暑い夏がくるとそれは姿を消すのだ。冬がくると天気が変って、人々は大いに耐えしのばなければならない。(600) 冬の厳しさのために貴方の手は痺れ、寒さのためにその手は指で鐘を鳴らすこともできない。

しかし私は柔らかい羽根ぶとんの上で、カロルを踊っている火の側に坐っていたい。矢車菊の頭飾りをつけ、桜草を摘んでいたい、学校の先生にもその帽子を作つて上げるために。先生は空威張りをし、そして小刀やナイフの嵌め輪をもつて、愚かな女を屢々惹きつける。その様な学校に行く者は牢屋にはいった方がよい。門口の若い女も。つまり女の心はとても脆くて、楯持ちや学僧が、たいがい手短かに話しかけて、首に抱きついたりすると、愚かな女はそれを覚えている。どうかこの様な阿呆な顔はあはたづらになり、こうした放蕩者は麻疹にかかりますように。そうなれば馬鹿な者や女も踊りの輪をはづれて、つまらぬ場所を避けるだろう。さてしかし、このように何も知らぬ人を教えるために、*viroles*についてもっと詳しく説明しよう。剣の柄の嵌め輪の *virole* と、天然痘 *verole* がありこれらは別のものだ。嵌め輪は悪者の刃から袖を守る。しかし天然痘はどんな立派な殿方の顔をも醜くする。また、この自然のままの虫 *varole* は、ひとりでにキャベツから生まれる。緑色のこの虫をフランス語では *varole* という。

(果樹園の花と果物のフランス語について)

昼の日中は大層美しく晴れ渡った。かぐわしい香りの花が咲きみだれる、果樹園に行って気晴らしをし、日光を浴びよう。草木も薬用になる。それらの名前を言い当てよう。薔薇の花、百合の花、百合は皮膚病によく、薔薇は胸に効く。金盞花の花も咲いている。それは眼に大層効き目がある。蜀葵や桜草は、春に花開く、木にまつわる薦、地上の薦草(650)などがこの森に育つ。車前草も沢山生え、腐らない牛舌草もある。こたにわたりは、よく岩の裂け目に生え、香りばらも伸びる。

また、蕪も沢山あり、白い花の雛菊や、大層高価な、やまあい属の種類もある。深山かたばみはソースによい。地衣類は頭部皮疹に羅った人に効く。地衣と、同類と、仲間、という言葉がある。どんな種類の鳥にも雄と雌の番があり、それは同類 *parel* といい、地衣 *parele* ではない。また仲間 *parraus*ともいう、それらは一諸に孵つたものだ。もう一度忘れてはならぬ花について述べておこう。さあ、貴方がたは、にがよもぎを探し出す。種を蒔くと、おおばこも生える。また、アメロークや、グレトネールが果樹園でみつかれば、二又の鑿でそれらを抜き取り、そのかわりに玉菜を植えよう。

(果樹園の木々のフランス語について)

この果樹園には木々が育ち果実をつけて木が撓む。林檎の木、梨の木、実桜の木、櫻、えにしだ、李、実をつける山査子、実を結ぶ野梅、実をもつ野ばら、実の生る樅木、実が稔るちずもも、Alianore はそ

の昔ある王様がちずももにちなんでつけた名前、彼女は黄金のななかまどを身近に置いていたのだ。まるめろも生えている、果樹園で人はそれをよくみかける。しかし、いろいろと種類が多いので一度では見分けがつけ難い。

領主殿は下人を仕置板に入れさせる、この仕置板で微らしめるために。端を取って乾いた檻枠を打ちなさい。楔のかどを切りなさい。また鋳造貨幣 coingne という似た言葉もある。それは銀に刻印して銀貨をつくることだ。

それぞれ良く覚えておかねばならない他の木も其処にある。黄楊の木、棕梠、楓の木 arable、この木は耕地 tere arable では十分育たない。(700) 外套 houce の役に立たぬ 枝 houce はしかし、果樹園で育つ。庭常も生える、枝も庭常も皆よく知っている、柳もある、櫻の木も水松もある。これらのフランス語については少しも問題がない、というのは学者にとっても、勉強中の者にとってもそれは同じ言葉であって良く使われるものだから。庭常から人は美味しい食物の、そくすを作ることだ。

(森の小鳥についてのフランス語)

果樹園を見終えたなら森へ行って遊ぼう。其処では小夜鳴鳥が部屋の中のみみづくよりも上手に歌い、家の中の蝙蝠よりも、藪の鶲はうまく歌う。小鶲は枝にとまり、野鴨は沼に住む、また棕鳥もいる。そして森雲雀という名の鳥もいる。火とかげは炉の中にいる。魚に卵を生ませ殖やそう。然し明らかにするという言葉 espandre、拡げるという espaundre、同じような言葉の、費す、espendre、それから拡げるといういみの pandre もある。友人の考えを広める者はそれを他人に明らかにする。子供は好みによって口から食物を吐き出す。人が生きた仮の魚を網で捕えるとそれは鱗ではね上がる。また、解釈するという espandere は第 4 番目の言葉になる。学校の生徒がそれをする、というのは文字と一緒に合わせて当然説明するのだ。

鱗 eyles と翼 eeles は異っている。学問のある人はこれを相違があるという。魚は鱗で泳ぎ、雀は翼で空を飛ぶ。さらに泳ぐ naer と、溺れる noer と、漕ぐ nager という言葉がある。そのいみを知らねばならぬ。魚は海の中で泳ぐ、海で多くの人が溺れる。また、舟乗りは舟に乗り、櫂で漕がなければならない。然し我々は冬には雪が降るのを見る。雪片が舞いおりるのが見える。

さて鳥たちのことを再び取り上げよう。鳥についてもっと沢山のことがわかる。この鳥、山しきを人は部屋の中でもその他の場所でも描く。(750) いま、山しきが何処へ隠れるか見よう、フランス語はこのように言うのだ。

さあ更に先へ進もう、眼で見るものを理解するように。というのは森番人 vereder と、かわらひわ verder という言葉がある。一方が鳥で他方は森番だ、このあたりをかわらひわが飛び、森番はあのあたりを眺める。一羽のみそざざいがこちらへ飛んでくる。それから干草の山の方へ行く。ヴィオラの美しい音色よりも、フルートのどんな音色よりも、美しい干草積台をめぐって歌うのは山鳴より鷦鷯にふさわしい。また、四十雀がいる、それは生垣や森を飛び廻る。若者よ、すぐに肩帶をおはずし、もし四十雀を追い払うつもりなら。其処には赤とんぼもいる、五色ひわもいる、蝶々もいる。蝶は好んで薔にとり、茨にもとまる、自然に止まる習慣がある。こおろぎはそのようなことをしない、蟋蟀は野原や庭に住む。木から落ちる林檎を取る針鼠もそうはしない、蠅も小蠅もいない、つまりそれらは葦麻の方が好きであるから。又其処には冬の住家を持つ鴨とあびがいる。沼には田鳩が住み、町には小さな通り鴨がある。穀物倉では箕を使う。嫉妬深い心には憎悪が宿る。さあ野鴨が飛んでくる、大鶴も一緒だ。みやまがらすの肉よりは大鶴を食べた方がよいだろう。世界中のこうのとりよりも燕の方が早く飛ぶ。軒端につけた網が雀や燕を捕える。山鳴という名の鳥も池のそばで捕えられる、かっこう鳥の歌声はしづかれていて全然楽しくない。若し歌が優雅であったなら、騒々しくはなかっただろう。(800) それは高

麗鶯の声よりももっとよく小路で聞かれる。

(さて森の獣についてのフランス語)

森の状態をみるためにフランス語でさらに先へ進みたい。私は大きな穴熊が自分の住家を捨ててやってくるのを見た。狐の計略が彼を追放したのだ。長毛いたちは呪われろ、町であれ森であれ、とにかくねらうのは、肥った雌鶴だけなのだから。納屋の鼠を一掃するために、この地方でもぐら塚を作っている、ここからパリ迄のもぐら全部よりも一匹の馳が欲しい。思う存分手に入るのなら、私は今驢馬の歌や孔雀の歌よりも雄鹿か仔鹿の肉を好む。将棋盤で詰めをするよりも孔雀の尻尾のほうが良い。孔雀の美しい尾は眼を楽しませる。私は此處の茨の茂みの下に羽を巻いた鳥を見た。羽がある。然し誰が羽を巻いたにせよ皮を剥いだくるみを入れて欲しい。私は小人が立っているのを見た。セーヌと呼ばれる河の上で手に釣針を持っている。雲が降ってはだめだが、魚を釣るつもりだ。

(車に関するフランス語の叙述)

車を説明するためにフランス語をこの本に書いておく。先づ周囲に外輪がついている車輪について話そう。鉄で作られたその外輪の上に留金が鉄で留めてある。留金具は車の輻 *rais* の中には入る、太陽からは光線 *rais* が進る、海から摂れるのは魚の鱗 *raies* である。市に向かって糸の荷 *rais* がゆく。しかし車の輻は轂に収まる。それを車輪の轂という。それは卵の真中の黄身という意味もある。私は荷を運ぶのに力がある。もう一方の卵の方は美味しく食べられるようにする。また轂の中に車軸がある。それは二つの鉤留で車を支える。(850) 車軸は金属の覆い板をつけており、それらは仲の良い兄弟のように車軸を守る。車軸の上に車体が置かれる。車体は危険をさけるために皮帶で車軸をしっかりと結ばれる。車体と轂の間に二つの接続部品がある。麦を運ぶ車はそれぞれ両側に横木を渡さねばならない。横木の間に横桟を入れる。穴には釘は使わなくてよい。轂のほかには皮の覆いがある、その他には梯子があるだけだ。然しもっと熟達するように車軸についてもう少し話そう。車軸 *essel* と心棒 *assel* がある。第三番目には脇の下の *ascel* という言葉がある。車体は車軸の上に結び付ける。轂の中には心棒がある。しかし、貴方がたには両腕の下の脇のくぼみ *asceles* がある。長柄の荷馬が繋がれてゆく、それは長柄で車体を曳く。馬の腹には腹帶をつける。尻尾には袴革をつける。腹帶は *ventrer*、産婆は *ventrere* という。耳で聞くと相異がある。女性が産褥にいる時、側により世話をすると正しくは産婆という。しかし轔に繋ぐ馬がつけるものは、正しくは腹帶といわれる。馬具の輓革には革紐が付き、それは轔をかかえ込む。その紐の前に刀か斧で切った棒がある。馬の首には首かけがある、馬具には皮の首掛がある。車には坐台があり、車曳きは其処に坐る。若し駆者が鞭を使えば、走っている馬はそれでとび上がる。必要なものは全てある。望みのものがすぐ手には入る。

さて、更に物知りになるために、先へ進む以前に荷車曳きが手に何を持つか言おう。そして畠を耕やす車を牽く者が手に何を持つか教えよう。(900) 車曳きは鞭を持つだろう。百姓は突棒を運ぶ、若し駆者が馬櫛を持つなら、それで馬に櫛をあてるだろう。水を飲ませる前にわら束で馬をこすらない農夫は愚かではない。夕方には水浴びをさせなさい。牛や馬に水を飲ませ、他の家畜を洗ってやる人を *vayour* という、これは嘘をつかない著者のいうことだ。

(さて車の特性についてのフランス語)

車についてはこれで充分話したので、これから鋤について話そう。犁にはいろいろと面白い名前がある。まづ犁先と風見、杷手、柄、その上に犁べら、更に上には撥土板、犁べらは *soke* とも *vomer* とも言う。どうしても犁は必要だ。しかし、犁べらには手を触れぬように注意すること。鋤とともに繫具を

つけられた家畜がいる。それは森かあるいは垣の茂みからやってくる。鋤には小さな槌がついている。また、種を綺麗に落すための細工もある。棚の前に釘がある、釘に枘をかける。牛が頸木をつけるのはキリスト教徒にとっても、ユダヤ人にとっても同じこと。閉じた頸木の前輪で牛はしっかりと留められる。それは牛が嫌がっても刺針で失敗を避けさせるのだ。

(さて家を建てるために)

もし家や部屋を造ろうと考えているのなら、最初に良い基礎を作らなければいけない。それから壁 mesere を積み上げる。女性は家政を行なう主婦 mesuere という、中庭を囲むのは壁であり、壁は屋根組に付く。さて農作物の番人 messer と支えの壁 mesere がある。その違いを理解すること。農作物の番人は畠の世話をし、支えの壁は家をしっかりとさせる。壁の上に斜に、物置の上に梁を置くように。(950) 梁の下の柱に枠根太で梁を結び付けよ。大梁の下の貴方の部屋にも。その他にも樋を置く、樋の下に板を張るか、あるいは漆喰を敷きつめる。壁の上に梁を置く。二つの垂木で対を作る。その対は壁の上に釘と錐でしっかりと付けよう。家の一番上には屋根が必要なだけだ。やがて食物倉庫が必要になる。その屋根はもっとしっかりと作らなければならないだろう。充分覆いができるように屋根は別に作ることだ。更に話を先へ進めると、貴方の家には貫板や打込んだ楔を使うという事を忘れぬように。木摺も家には大切である。こういう事を教えるために貴方に言う。然しこの場合にも相違があるのを人は知らぬ。^{ケル}塗壁の下地の木材 trenchons は家を安定させ、切端 trenchons は多くの人がないがしろにする。とくに馬の激しい腹痛を trenchesoun と実際に言う。まだまだ家を正しく建てる為には更に沢山のことを覚えていなければならない。是非家に必要なものは煙出しと窓だ。煙出し aumeire と戸棚 aumaire がある。煙出しからは煙が出る。フランス語では aumere というが此处では lover と呼ばれる。また、こちらの方は正しくは戸棚であって肉や食物を入れておく。家の入口に敷居がある。頭の上に横木がある。横には二本の釘があり、其処に輪が嵌めてある。鉤釘には蝶番をつける。それに門の輪が二つ。鍵に掛金をつけよ、そうすれば家はもっと安全だ。

(火を熾すために)

我々が早く食事のできるように急いで準備させなさい。貴方がた四人に対して一人の給仕が直ぐにこの広間を綺麗にし、(1000) 灰を堆肥のある場所へ持つてゆく。台所から取ってきた燃え残りの焚き木で、まきに火をつけなさい。鉄の股の付いた薪掛けにまき斜めに置くように。もし馬の首輪の両側の曲棒を薪にするなら、それはよくない。樅の木の木片を火に入れなさい。榛木か、とねりこを切り、それから撫を探しに行きなさい。皮を巻いた撫の幹を。然し薪がまだ青いので、火花の散るのが見えない。火消し壺の消炭を探しに行きなさい。司祭様が来られる、火を熾しなさい。さあ、注意して、立派な兄弟よ、すぐに良い顔はしないこと。貴方の衣服に火花が飛ばないように注意をして、梨と桃をおき火に入れよう。

(家を美しく整えるために)

散らかっている家を掃除し、テーブルを置き、それを覆う。卓の端とわき、主人の前を卓上布で蔽えるようにする。そのところが動かないようにして白いテーブル掛けを卓にかける。できることなら二番目の卓も白い布を掛けること。もし卓上布が大変汚れておれば、それは広間にふさわしくない。というのは新しくて汚れているものより、使い古されていても白い布は価値がある。盃を洗い、鉢を清潔にし、鉄で爪のささくれを切りなさい。走り使いの子供よ、お前の肉鈎の所へゆき、料理鍋から細かく切った肉を取り出しておいで、古い巣箱 rouche を柄杓の下ではなく足許に置きなさい。お前の冠り物に鎧をか

ける Jonet に頼んで磨き石でひしゃくを磨きなさい。枯れてしまったバラのそばの寝台の絵に布をかけなさい。いや、しかし再びあの古い蜂の巣箱 *rouche* のことを取り上げよう。もっと学ぶことができるから。巣箱は蜜蜂を守る。我々はそこから蜂が群をなして飛ぶのを見る。特に一匹のは a honey bee と実際に言う。正しくは一群の蜜蜂のことを英語では *suarme of bees* という。(1050) そして、それは蜜蠟とよばれる。これは蜂が巣の中に喜んで作るものだ。

(さて様々な言葉について)

人びとを喜んで食事に招待しよう、そうすれば褒めて貰える。準備されたパンを切り、パンの皮は神に捧げよう。パンの端をナイフで切り取る。匙の方が上手く食べられる。炉からでてきたパンを千切れ、狩の獲物の骨を折り、邪魔になる糸を切る。便利な誤魔化しはしないように。

下働きの者よ、前掛けの中で褐色の籠の鯉を分けなさい。貴方の膝は身体の前にあり、胸当前掛は脇まである。白貂の長袍を着ている巡礼者に急いで施しをしなさい。

此処へ泥まみれの子供がやってきた。汚れている理由を教えよう。この子は馬の後ろについて歩いていたので泥を被ったのだ。堆肥は臭く布を汚し特別のものだ。厩の入口に育つ薬草は布を白くし、脂気のない食事を作る。二人の青年が大きな獲物を追う。一つ一つの言葉を一人は口ごもり、他の一人は鼻声を出さずに話すことができない。しかし、鼻にかかった声を出したからといって、私はかまわない。その様なことは大蒜の一かけらにも価しない。つまり何時も涎を流しているのは価値がない。もし私の意見を聞くのなら、彼は母親に頼んで涎掛けを作って貰うことだ。Huge さんが来られるかどうか見てごらん。彼は口ごもららずに話す。然し私は女性を大層軽蔑する。というのは女は思い上って、男達の気に入られようとして何時でもおしゃべりの中で, s, z の音を θ, ð, th の音にして発音しようと努めるのだから。又、咳をする、唾を吐く、嘔氣を出す、嘔吐する、嘔をするという言葉がある。赤い大麦のビールを沢山飲むと当然咳をすると人は言う。又、心臓に病 laumbei を持っている人は屢々唾を吐く必要がある。そして食物を噛んだり、味わったりしている人の側に大きな鉢を置いてやれ。(1100) 何故なら、その人はきっと随分おくびを出すだろうし、意志に反しても吐くだろうから。しかし、よく嘔をするのは健康であり気晴らしになる。

(祝いの日の準備をするためのフランス語)

食物を扱う店から昨日来た新入りの召使いが、祭りの時にはどのように接待すれば良いかということを我々に話した。パンや葡萄酒や大麦ビールがなければ、誰も祭りで楽しくなかろう。彼等は喜んでそれら肝心の三つを用意したと彼は我々に言った。さあ、御馳走のコースのある、他のお祝いについて話さねばならない。先づ充分に飾りたてた、いのししの頭、旗を飾りつけた豚の鼻、次に小麦のスープと多種多様に沢山の鳥獣の肉類。鶴、孔雀、白鳥、小山羊、小豚、雌鶏、それから砂糖に浸しておいた兎のシチュー、にくずく、畢澄茄、干し丁字の蓄、その他いろいろ沢山の香料、キプロス産の肉と麦芽、ふんだんにある紅白の葡萄酒、山盛りのロースト、各人の側にその各々を置く。雉子、山しげ、鷦鷯、鶴、雲雀、干鳥の焼肉、骨付き肉、クレープ、フルーツ、それらを甘い赤ぶどう酒に浸したものなどなど。さて食卓を片付けた後には、大量の白い粉、いわゆる消化剤、それにその他の珍らしいものもどっさりと供する。このようにして、貴方へのこの話は終る。というのも、これでフランス語は充分だから。いろいろ様々な話しであったが、皆さん、さあこれで終りです。神の御子が皆様がたを導かれんことを、アーメン。

III. Treatise 「語彙集」の作者ビブズワスとその言語

イングランドにおいて、アングロノルマン語が最も多く使用されたのは、13世紀半ば以降と見做される。しかしこの言語は13世紀初頭には既に衰退のきざしを見せていました。

上掲の「語彙集」は13世紀の終りに書かれたものである。フランス語をしっかりと会得するための教本、といわれる。特に英語を母語とする者が、フランス語に熟達するようにという目的であったろうか、フランス語の単語または熟語に対して、作者は英語をもって注釈をつけている。

作者はこの教本の中で実益のフランス語を子供たちに教えようとし、各主題ごとにフランス語をえらび、同音異義語は丁寧に言葉の意味を説明し、また、性と綴りに配慮する。彼は人体について、鳥獣について、田園の生活についてなどを、多くの語彙を用いて詳述する。しかし、我々が、注意をして認識しなければならないことは、この教本のフランス語が、大陸フランス語と言えないことである。作者の言う「正しいフランス語」とは、イングランドで用いられていた、当時のアングロノルマン語（島嶼悟）の特徴の数々を示すものであった。

教本の作者について多くは知られていない。しかし序言の冒頭に見られる Bibbesworth (Bithesweth) という名は、Oxford MS Fairfax No. 24 に収録されている、アングロノルマンの詩、*Débat or La pleinte* の中にも見える。エドワード1世の治世に、時の Lincoln 伯であった、Henry de Lacy と対等に話しあっている、Walter de Bibbesworth なる人物がこの詩に登場してくる。

更にヘンリー3世の頃、Essex 州 Hertfordshire, Kimpton の教区、Great Waltham, South House に Chelmsford の百夫長であった、Hugh de Bibbesworth の子息として、Walter de Bibbesworth の名が記録されており、エドワード1世の治世の始まりの頃、Walter は Essex, Saling Hall の館のあるじとなっていて他界した。Cambridge MS. Gg 1.1 に記されてある Bithesweth という綴りの姓は Bibbesworth であろうと考えるのが、大方の見解と思える。

Bibbesworth は Dionysia de Mountechensy とよばれる婦人のために、この教本「語彙集」を書き、それを献呈した。彼女の家柄は13世紀の Essex では名門であった。Dionysia Mountechensy は1293年にケムブリッジの近郊 Waterbeche の尼僧修道院を建立した夫人である。彼女には令息 William と令嬢 Joan があり、William の息女は、彼女の祖母と同名の Dionysia という。令夫人は孫娘の Dionysia にフランス語を教える手だてとして、同時代の人である Bibbesworth にこの語彙集を依頼したものであろうか。彼女は1304年に亡くなった。Chelmsford の百夫長の中の Hanningfield の領主たちが、隣接する、Mountechensy の人達に Bibbesworth の名を教えたということも可能である。

Walter de Bibbesworth がエドワード1世の治世の始めに死去していた事実や (c. 1290)，貴婦人 Dionysia の孫娘の結婚の年月日 (1297)，彼女の死 (1314)，さらに、彼女の父君 William 公の暗殺された年月日 (1289)，などから考察して、Walter が「語彙集」を作成した時期は、Dionysia 嫫の誕生した頃の1280年より Walter の死までの1290年間と考えることができる。(然し現在も尚確証は得られていない)

現在 Bibbesworth の「語彙集」は16の写本が残っている。散文ではなく、いずれも韻文であり、8音節2行詩句から成る。しかし押韻は屢不完全な所がある。現存する16の写本のうち、Cambridge, Trinity College 所蔵の MS. O 2.21 は、作者 Walter が Mountechensy の奥方に宛てて書いた教本に最も近いものであろうと見做されている。本書に転写された、Cambridge University Library 所蔵の MS. Gg 1.1 に見られる *Tretiz* は令夫人宛てに書かれてあった教本に Walter がさらに手を加え、補い、また、改訂などを工夫して、広く一般のフランス語テキストとして用いるよう、書き直したものであったろう。この両写本の他に現存する写本は、これ等両写本のいづれかを祖本として書かれたものか、あるいは両者を混合して書いたものと考えられる。

我々が見る Bibbesworth の言語の乱れは、勿論写字生に帰する所の多いことも考慮しなければならないが、音韻論的にも、それらがアングロノルマンの特徴をもつというだけではなく、語形論から考察しても、アングロノルマンと見做され得る混乱を生じている。

まず音韻と綴について、テキストにみられる Bibbesworth の言語の特徴を指摘しよう。次のような現象が明らかである。

Anglo-Norman の特徴

(1) 音と綴り

(当時の大陸フランス語の綴りと比較し、AN 語の特徴と見做される綴りをあげる)

A. 母音

— 1 — 鼻母音の表記

母音 *a* が鼻子音に従われる場合、13世紀初頭から綴り *aun*, *aum* が頻繁に用いられた : [Pope 34.1]

1) *chaunt* 797, 800, 820, *chaunte* 714, 715, *entaunt* 1139, *graunt* 805, *sauns* 224, 595, *saunt* 1109, *saunz* 148, 455, 508, 521, 557, 594, *taunt* 52, 474, 499, 1139,

2) *ataunt* 485, 896, *auncele* 465, *avaunt* 560, 753, 967, *blaunche* 1026, 1028, 1031, 1076, 1134, *chaumbre* 749, 938, *chaumpe* 357, 947, *chaundaile* 502, *chaunbe* 145, *devaunt* 371, 686, 929, 1024, 1065, *enfaunt* 195, *enfaunz* 327, *estraunge* 599, *fraunce* 281, *fraunceis* ⑧, ⑩, ⑪, 23, 74, 80, 82, 86, 130, 150, 216, 242, 460, 527, 706, 752, 803, 834, 985, 1137, *fraunecys* ⑬, *feisauntz* 225, *feyzauns* 1129, *graunge* 356, 785, 814, *jaumbes* 137, 139, *launce* 314, *launge* 79, *maunche* 630, *mordaunt* 192, *plauncie* 955, *plaunte* 149, *plauntayne* 652, *pendaunt* 191, *saunte* 1104, *seriaunt* 290, *viaunde* 988, 1125,

3) *auncieneries* 684, *chalaundre* 720, *estauncke* 519, *filaundre* 719, *nusaunce* 1061, *avenaunt* 1030, *covenauant* 1062, *deceivaunce* 1062, *deguttaunt* 578, *maintenaunt* 486, *salamaundre* 721,

(Verb) *avaunce* 283, *chaungez* 241, *chaunte* 252, 253, *chauntez* 358, *comaunt* 1140, *descoraunt* 520, *disaunt* 561, *enfaunter* 2, *espaunde* 727, *espaundre* 722, 723, *jaungle* 261, *lidaunt* 579, *paunde* 729, *plauntez* 214, 674, *sachaunt* 897, *volaunt* 759, 787,

— 2 — AN 第 2 期 (1250年以降) の特徴

o+鼻子音は(a) *oun*, *oum*, 又は(b) *un*, *um* と表記された : [Pope 45.1, 49.1]

(a)

1) *braoun* 146, 1131, *dount* ②, 13, 552, 1046, *frount* 40, *moun* 25, 29, 30, 34, 39, 40, 41, 1084, *noun* 86, 165, 308, 317, 685, 864, 868, 961, 1038, *nouns* 335, 916, *poun* 820, 821, 822, *pooun* 823, *soun* 26, 301, *toun* 1035,

2) *mounceus* 478, *mountayne* 101, *poume* 778, *poumes* 207, 209, *poune* 280, *soume* 232, *toune* 587,

(Verb) *counreera* 904, *doun* 247, *fount* 579, *groundile* 277, *moundes* 1021, *mountez* 387, 471, *ount* 177, 844, *poune* 282, *soune* 179, 589, *toune* 586, 588, *vount* 842, 861,

3) *amount* 920, 962, *arounde* 791, 794, *blazoun* 98, *bricoun* 507, *busschoun* 375, *clavouns* 929, *coumble* 232, 944, 961, *falcoun* 266, *faucouns* 237, *feoun* 819, *foisoun* 482, 1135, *garzoun* 1069, *garzouns* 18, 142, 1077, *grenoun* 97, *gerouns* 1066, *grenchouns* 969, *hirchoun* 777, *herouns* 230, *laroun* 558, *leoun* 251, *meisoun* 716, 971, *mesoun* 938, 948, 975, 1021, *mesouns* 970, *meissoun* 794, *mentoun* 73, *peissoun* 518, *penoun* 917, *peschoun* 316, 741, *plumjoun* 781, *pomoun* 158, *quistroun*

1035, resoun 283, 740, roilouns 861, sarmoum 1136, sygoun 792, taloun 149, tendroun 58, tenoun 564, 918, tenouns 930, tysoun 1003, virouns 743,

4) agoilloun 936, aquilloun 902, chaperoun 185, cheverounde 793, cheverouns 958, clerious 732, compaignoun 284, corbailloun 481, enviroun 160, escuchoun 920, germinoun 205, hardiloun 193, lymacoun 539, mansioun 782, 806, mustreisoun 85, moundilloun 928, papilouns 771, subiloun 194, severoundel 793, venesoun 1117,

(b)

1) cum 852, 878, 1108, dunc 1011, dunt 492, 641, 643, 684, 740, 835, 864, 894, 895, 904, 911, 942, 961, 964, 1139, sun 776, 812, tun 308,

2) cumble 964, 965, cuntregardom 170, munde 792, runces 773, secunde 1027,

3) cunseillere 4, fundament 940, munseignur ①,

4) botuns 186, carbuns 568, encheisun 71, foysun 239, reisun 57,

[Verb] cunte 1107, enfundré 1122, funt 816, 1052, jungez 1021, munder 1000, mundez 1033, munte 312, respundre ②, serrunt 908, sunt 697, 779, 784, 836, 837, 858, 870, 887, 911, 912, 928, 930, 934, 975, 991, 992, 993, 1065, 1066, unt 782, 851,

— 3 — 自由母音 o

(a) ou と表記された : [AN の綴り ou は eu に変化しない段階でとどまり, これは AN の保守性と考えられる] [Pope 16. 3. 1]

1) flour 380, 383, 385, 595, houre 475, lour 935,

2) auctour 910, bevour 176, errorr 936, flatour 304, peschour 293, pestour 381, pledours 103, verdour 594,

3) artillous 865, delicious 798, envoieuse 786, gracieuse 800, merveillous 916,

(b) o と表記された :

[Verb] demorré 880

(c) u と表記された :

1) duz 183, 215, 641, fu 441, 606, jus 931, lur 844, 890, 1092, 1108, pur ④, ⑪, 12, 17, 25, 70, 72, 95, 109, 128, 136, 143, 144, 163, 206, 209, 215, 269, 285, 319, 327, 339, 364, 370, 423, 425, 449, 455, 464, 530, 554, 603, 609, 626, 692, 698, 702, 807, 814, 832, 833, 836, 854, 862, 865, 881, 897, 929, 932, 965, 967, 972, 1013, 1056, 1092, tru 194, trus 862,

2) urtie 780, urtil 149,

3) aillurs 749, dolur 175, flurs ②, riotuse 799, seignur 691, seignurs 1024,

— 4 — 拘束母音 o (強勢母音と非強勢母音とを区別しない)

(a) ou と表記された :

encouste 1128, fourn 396, louche 1038, oustés 201, rouche 1037, 1043, 1045, 1052, route 231,

(b) u と表記された :

buche 89, bulenge 381, curteller 414, duce 1017, munseignur ①, purcel 275, russinole 713, turbe 234, tut ⑥, ⑧, ⑯, ⑰, 81, 124, 311, 423, 444, 482, 494, 495, 522, 687, 1111, tute 335, tuz 345, 529,

[Verb] respundre ②; suffrez 722, tusser 1093, ublier 668, ubliez 161,

— 5 — [13世紀にかけて二重母音 ei は急速に水平化して e になるか、もしくは大陸フランス語のよ
うな ei>oi という変化を生せず、ei のまま残った] [Pope 16. 3. 1, 35. 3. 30]

(a) ei を保存：

1) dreit ㉚, 210, 981, 1095, feyn 354, freid 590, meins 1083, quei 451, 530, 900, rey 685, sei 686,
1047, seif 583, seins 2, tei 308, treys 439,

2) cerveis 1109, emcheisun 108, feire 842, meisoun 794, peires 1020, peissoun 518, peitrine 84,
serveise 497, 501, teille 1041, veisine 881,

(Verb) aveir 308, beit 1096, creissent 675, deit 18, 24, 193, 242, 860, 1045, espleiteromes 522, seir
908, seit 809, 810, 827, 966, 1025, 1029, seient 138, 1056, seit 4, 6, 27, 54, 82, 406, 409, 470, 474, 542,
633, vei 1014, veir 586, veit 688,

(b) e と表記される：

perere 677, peschoun 741, pesschon 722, veneles 784,

(Verb) aver 25, 309, 860, 969, asscez 1022, crere 1084, dever 429, saver ⑤, ㉚, 373, 740, 979, seer
173, 606, 774, seent 772, seet 272, 304, 892, veer 804, veet 16, veez 310, 751, 1087,

— 6 —

1) o, ou のかわりに e, eo が現われる：

demert 718, deskevre 726, reof 845, reos 835,

2) e のかわりに語頭音節に o が現われる：

coreiser 677, sojour 776,

3) on にかわる en :

foysen 1127,

4) e のかわりに i, y が現われる：[Pope 39. 3. 2]

chivaler 311, chivauche 401, chivaule 1072, chivaule 252, chivaus 348, 384, 889, 894, 904, 911, 977,
chivechure 136, fusil 434, 440, 442, grisil 584, grissilour 775, gysine 882, hirchoun 777,

5) u にかわる i :

fimer 1001,

6) e, ei が i に対応する：

coreiser 677, geleine 812, gerouns 1066, maces 1123,

— 7 —

1) oi のかわりに ui, u が現われる：[Pope 49. 2. 0]

buit 699, juneres 851,

2) ui のかわりに u が現われる：[Pope 35. 3. 6. 1]

busschoun 375, busson 715, fruture 1131, fruz ㉚, fusil 441, hus 989, lussel 452, nusaunce 1061,
(Verb) dedure 639, destruez 539, espuchez 517, groule 250,

— 8 — 二重母音 ie のかわりに e が現われる：[ANにおいて je>e, jẽ>ẽ という変化が促進され、そ
れは13世紀後半以降 AN の際立った特徴となった] [Pope 35. 1. 1, 39. 2. 4]

1) ben 215, 368, 498, 707, 906, 1115, chef 29, 30, 87, fel 165, fens 1073, her 1106, mel 1051, pee
588, pes 153, peez 10, ren 1088, veille 1037,

(Verb) set 717, tent 831, vent 306, 926, 1059,

2) bracer 462, cengler 275, coingner 687, coigner 693, 694, colers 890, dosser 874, drener 179, manger 710, mester 81, 334, 389, mousters 42, pece 20, peres 552, pieler 951, pomer 677, pruner 678, river 830, sengler 1115, somer 891, tresben 1101, verder 755, viver 796, ventrer 875,

(Verb) covent 935, 969, 981, nager 743, negger 745, tendra 899, tochez, 138, vendra 596, venes 548,

3) baavvere 1086, ceneiller 679, charetter 892, 893, 899, 901, 903, coreiser 677, demesters 412, derere 77, destrere 312, escheker 822, fimere 233, forester 756, 758, littere 397, 398, 400, 402, lymoner 884, manere 208, 217, 335, 448, 463, 513, 662, 946, 1138, marinier 744, mesere 941, 945, 948, 949, 957, 959, perere 677, primere ⑤, rivere 265, souleres 184, terere 960, ventrere 877, vereuder 757, vivere 514, 515, volunteers 772,

(Verb) caruer 900, carruer 902, devendra 414,

— 9 — ien のかわりに ein :

chein 256, coveint ㉙, 6, 20, 96, 424, 445, 447, 456, 524, deveint 380, veinent 841,

— 10 — ai と ei と e が AN では無差別に用いられたらしい : [Pope 35. 3. 2]

1) ai にかわる ei, ey :

einz 907, eise 498, eyles 729, freische 296, grein 355, greine 379, greile 234, mareis 262, mein 113, 114, 116, 117, 118, 314, 602, 900, meins 112, 119, meinte 742, 1118, 1138, maintenant 500, maintenaunt 486, meisoun 716, meisun 962, moneie 696, meyn 899, neyn 831, plaunteyne 652, rey 318, reheite 812,

(Verb) depeint 750, despleise 976, eit 488, 590, 811, 893, 940, eiment 209, 780, eident 852, eider 881, enpriereit 1085, feir 814, meint 721, neistra ⑥, pleiser 1092, serreit 799, vaudreit 813,

2) ei にかわる ai :

rais 842, solail 840,

3) ai にかわる e :

brese 1015, brez 483, bresceresce 487, eese 975, fere 814, fes 847, megre 1076, pledours 103, reson 210, resoun 283, 740, tesschom 805, treste 763, tretiz ①,

(Verb) estrere 1036, fet 691, 696, 709, 716, 775, 811, 948, 1061, 1076, fere 174, 319, 344, 365, 928, fest 979, fetes 965, 1002, fetez 997, retrere 345, seet 973, trest 760,

4) ai にかわる ee :

veet 873,

— 11 — a のかわりの e, e のかわりの a :

breser 462, chescun 82, 93, 152, 157, 206, checun 246, chescune ⑰, 78, 217, checune 246, garbes 330, 331, grece 510, herde 222, 223, nomaz 476,

— 12 —

1) ai にかわる aa, a にかわる aa が現われる :

baave 11, 1083, baavere 14, baavure 12, baavvere 1086, haane 786,

2) e のかわりに ee, u のかわりに uu があらわれる :

geele 572, 578, gruue 250, neez 5, preez ⑲, seert 439,

—13— 渡り音 e が現われる :

cheverau 276, cheverouns 958, chevereaus 1120, la leveure 61, 63, 88, la livere 62, 65, le livere 66, le leveure 64 livere 834, overez 543, vereder 755, yverai 340,
(Verb) avera 900, 901, 903, 922, 1071, avereit 344, averent 1121, averez 417, 1018, coverez 1024, 1026, 1027, estera 959, enbeverez 907,

B. 子音

— 1 — 語末歯音 d の保存 : [Pope 38. 1. 1. 3, 42. 3]

1) ad 39, 50, 77, 93, 102, 138, 149, 218, 263, 280, 299, 307, 313, 334, 372, 429, 510, 530, 531, 556, 562, 563, 564, 663, 689, 699, 706, 720, 723, 739, 755, 769, 771, 776, 781, 795, 806, 808, 827, 867, 868, 885, 895, 909, 927, 945, 947, 1093, 1107, 1112, 1137,

2) l の前での硬音化した d の保存 : medlez 385

— 2 — 前口蓋破擦音 ts と dz が保存される綴りには cch, g, gg, が用いられる : [Pope 38, 1. 5. 0]

1) enseecher 480, ficchez 970, 992, flammeches 1019, lucchere 1040.

2) gouns 993, gouste 1099, grenchouns 969, gymeaus 991, gymel 993, negge 580, negger 745.

3) ch にかかわる g の綴り :

hagis 1036, jungez 1021.

— 3 — ch が ç に対応する :

hirchoun 777, trenchons 971, 975.

— 4 — 綴り h の挿入 :

pessohun 540, preihe 377, thas 355, thase 353, thesson 259,

— 5 — k, ck が多く見られる : [pope cf. 46]

bekas 795, clerck 708, clercke 179, clerke 503, 617, clike 995, crekere 682, crekes 682, deskes 497, eskanel 148, esku 313, estauncke 519, estomak 160, eveske 1016. kakenole 466, kar 896, karoles 624. keuve 558, keverel 486, kevil 151, 155 keviles 153, kivil 960, knyvet 611, kokel 797, kou 821 kouue 114, kyvil 151, 156, kyviles 154, orkoil 802, porckes 229, qanke 895, secke 554, 693 soke 921, teske 1015.

(Verb) escheker 822, deskevre 726.

— 6 — 口蓋音 l に l が対応する :

baal 289, tailes 888, taillez 1055, vermaile 1126,

— 7 — n が gn に対応する : [Pope 38. 2. 1]

cynes 1119, juneres 851, russinole 713.

— 8 — on, ons のかわりに om, oms, um が用いられる : [Pope 74. 1]

1) chardoms 772, tesschom 805, plumjoun 781,

(Verb) afichom 268, aloms 326, 712, averoms 584, avom 166, 711, cuntregardom 170, dioms 334, dirroms 866, espleiteromes 522, lyom 869, mangoms 1058, oblioms 164, puissoms 998, purroms 748, quiloms 163, rediroms 747, redirroms 1043, trenchoms 1057, usom 785, veom 1046, veoms 745,

2) n のかわりに m が用いられる :

aubume 202, emcheisun 108, emfez 5,

— 9 — r のかわりに rr が現われる :

demorre 880, dirrai 898, ferreit 461, girra 882, irrez 430, redirroms 1043, serra 413, 483, 1004, serreint 140, 1110, serreit 436, 799, serroie 789, 790, serrunt 908, torrail 480, verrement 458,

—10— sch, ssch, sc の使用 :

1) abesche 299, besche 298, busschoum 375, escheker 822, eschelez 864 moschoms 738, peschoun 741, pesschon 722, tesschom 805,

(Verb) masche 1099, pescher 832,

2) ascez 1124, bresceresce 487, nascie 1081, nascier 1080, yveresce 503, 507,

(Verb) arascez 420,

3) s と c が交換される :

cengler 275, chaciouse 44, houce 702, nace 524, 528, 534 ; sygoun 792,

—11— th が用いられる :

lith 1041, math 822, neth 928, sueth 709,

(Verb) enflestith 1042,

—12— w の保存

1) war 59, waneles 783, warrott 332, 333, wen 77, wendeaus 836, wibes 779, wude 452, (Verb) waez 908, war 923,

2) alawes 1130, alouwe 252, bouwele 545, couwe 823, 876, eauwe 470, 484, 520, 523, euwe 517, ewe 516, gruwes 223, houswan 714, jouwe 60, limower 873, louwe 256, mauwe 342, mouwel 846 mulewel 542, ouwe 261, ouwel 850, ouwes 199, 241, pluwe 578, veuve 824,

(Verb) enclové 1012, manjuwe 316, mouwere ⑭, suwe 1072,

—13— y が用いられる :

ceyn 832, cy 1069, foysen 1127, gysine 882, lyme 989, neyn 831, yvere 782,

(Verb) lyoms 869,

—14— cz の使用 :

arczouns 933 ; Franncze 120,

—15— z の使用 :

garzouns 1077, mauviz 715, sauz 705, totez 815, zouche 924, zucré 1132, zugre 1122, zure 145,

—16— 音位転換 :

bersil 488, berzille 491, drener 179, pernez 407, 431, 693,

—17— 古形 :

ees 1045, 1049, 1052, enfez 727, ydol 1041,

(Verb) descrivere 833,

(Pronoun) ceo 706, 732, 754, 775, 910, 965, 987, jeo 805, 818, 829, 847, 848, 1014,

(Indefinite Pronoun)

checun 1128, chescun 973, 1078, chescune 859, chescuni 704,

—18— 指小辞 (diminutive) :

charette 843, charret 833 ; clerioune 708, cleriouns 732, postnez 1036, quistroun 1035,

—19— 動詞の不定法語尾 -er が -ir を吸収 :

escouper 1093, 1098, pleiser 1092, seer 774, tusser 1093, vomer 1094,

—20— Anglicism : cneif 691

(2) 「語彙集」 MS Gg I. I に特有の綴り

—1— 不要の e :

andenue 328, aubume 202, ascie 751, bateles 744, chaumpe 947, chivaule 252, hastere 576,

orgoille 1090, oriole 615, perere 677, pieler 951, porckes 229, reheite 812, reynes 164, russinole 713, une destrere 312, veie 581, vereglace 577, vereglacere 577, yvere 782,

— 2 — 類推の e の存在：

forte 934, ignele 791,

(Verb) aime 821, espaunde 727, voile 803,

— 3 — e の脱落：

eschuer 936, farin 378, ferm 155, friai 85, frez 545, guers 798, lainers 144, lerreint 623, matire 532, pauper 54, ventrer 883,

— 4 — ge の脱落：

plounoun 278,

— 5 — h の添加：

hourail 551, 558,

— 6 — i の嵌入：

bieau 311, enfiauns 183, pluis 777, 791, roilouns 861, suir 949, teins 1, uine 318,

— 7 — l の嵌入：

coul's 889,

— 8 — n の嵌入：

englenter 681

— 9 — p と b との混同：

blaces 625,

— 10 — 不要の r :

leverer 61, maugrer 935, tristresce 453, tristrer 450,

— 11 — s の嵌入：

nest 94, fest 463, toust 767,

— 12 — ss のかわりの z :

blezure 148,

[3) Infrequency

aillie 1082, asci 750, ascel 868, assel 867, auctour 910, aumail 239, 549, aumaire 983, 987, aumeire 982, 983, aumfe 582, aumfes 746, aumere 984, 985, auncieneries 684, baavvere 1086, becheus 855, bendeaus 837, betel 340, blaune 1126, bost 610, bracerole 885, braceroles 887, breeche 1051, canois 416, capinole 604, caroil 343, carpenter 156, ceneiller 679, ceneilles 679, ceyn 832, chaltil 855, chardoneroles 770, chaunbe 145, clous gilofrez 1123, coigner 694, coins en gravé 1121, colure 537, cotuyer 566, cyme 581, dedeing 1089, dees 1046, 1049, dume 825, eel 44, eeles 738, eiles 737, en lunge 889, esclavos 1071, esclavoté 1069, esclos 1072, escous 1063, 1065, escuchoun 920, esqueles 1033, 867, esseles 851, estle 903, fens 807, fileie 446, filleie 448, foudeines 680, foulder 680, fouleie 228, frahel 1064, frenole 610, fru 790, fruture 1131, galein 120, gareters 141, garoil 263, 268, garrez 141, genchour 963, gengevere 122, gingives 70, grenchouns 969, gracechouz 1074, greste 491, grissilour 775, guerreour 272, haranc 1064, houce 701, 702, hurtevers 858, husbandrie ⑩, jauntes 838, 839, jayhole 614, kakenole 94, 96, 466, laumbei 1097, leuche 1039, lucchere 1040, manaunderie ⑩, maugrer 935, maumerie 1125, mauputois 809, mauviz 715, messer 945, messere 947, mesuere 942, moail 845, mouvel 203, mouwel 846, moyeaus 844, 849, 857, 863, 870, musenge 768, musinge

765. noblei 1135, orer 590, orere 592, 598, oriol 801, orroilloun 919, osceles 1007, osseles 890, ouwe roser 787, palevole 769, pardriz 1129, paumere 699, peeses 1020, peperonges 681, pesaz 407, plovers 1130, poeuns 1119, pouen 823, poun 820, 821, 822, poyton 307, primour 835, quer 786, 1097, quibibes 1123, rastuer 387, 388, 391, 393, 430, raz neth 814, recous 797, restel 759, reynoun 159, runces 773, sauners 863, sauze 705, seillouns 954, 955, solum 247, taupaines 816, taupes 815, torbas 906, traes 957, trenchesouns 976, 978, treste 763, trescel 762, vaanne 785, varole 637, vemberges 541, vile 1043, voidere 447, voiders 452,

(Verb) agroile 261, araer ⑯, baubeye 1078, bluché 828, cleye 259, coaule 273, cures 1023, cymeie 580, enboulré 1032, espeluper 305, estermuer 1103, estomie 602, escuger 425, gerist 253, groule 250, mimoune 254, naee 739, regaille 274, rehaez 421, releie 275, rezane 255, torreie 276, toune 587, voidra 454,

N. Bibbesworth の *Tretiz*

以上ビブズワス「語彙集」の音と綴りに関して、AN の特徴と思われる点を本文より挙げてきた。語彙集には鼻母音 ã, õ の軟口蓋化を示す、大陸フランス語にはない aun, oun の綴りや、二重母音 ie より e への水平化が広範囲にみられ、対強勢母音 e が先行する tš,あるいは後続する j, l, nのために上昇して i になったことを示す語形などが見られる。ラテン語の自由長母音 [e] に由来する二重母音 ei は oi に変化せずに残り、ø>ou は eu とならずにとどまった。ø>u の変化も綴りに現われている。

子音群 cr, tr, dr, fr, vr における渡り音 e の発達も AN の特徴の一つであろう。語頭及び語末の w の保存や、k, ck, sch 綴りの使用も顕著である。

また、教本の内容からも我々は、イングランドにおける当時のフランス語の曖昧な実状を窺い知ることができる。ビブズワスは曖昧な発音および綴りからくる混乱を防ごうと心を配った。例えば、似た言葉があり、その違いを正しく教えようとする個所で、“唇と、野兎と、リーヴル貨幣と、本がある…61-66.” という一節であるが、唇の ‘la levre’ には、AN の特徴の渡り音 e がはいり ‘levere’ となっており、兎の ‘le lievre’ は二重母音 ie の水平化と渡り音によって ‘levere’ となっている。貨幣単位のリーヴルにも、本にも、渡り音 e がはいり ‘la livere’, ‘le livere’ となった。このように、作者の折角の努力にも拘わらず、この4種の単語はビブズワスの教本どうり、男性、女性の冠詞を付して、正しく発音し、正しく綴ったところで、尚大陸フランス語の発音と、綴りとは異なったものであったのだ。テキストの中に、同音異義語の多いことは、当時の発音を知る上からも興味深い。

AN の音や綴りという見解をはなれてこの作品を読んでみると、その頃の文学作品、ロマンスや、聖者伝や、年代記などには見られない、13世紀後半のイングランドの日常生活の風俗を身近に感じができる。“両手に抱えきれぬ程の細糸よりも、ほんの片手一杯の生姜が欲しい…121-124.” という表現から、我々は当時、13世紀から14世紀にかけて、生姜の砂糖漬が pâte du roi とよばれて、大層珍重された嗜好品であったことをあらためて思い出し、働き者の主婦は、パンを竈に入れて焼く間にも、時間を惜しんで畑仕事に出かけることや、手造りのビールを飲んで酩酊する人々のありさまや、魚釣りのありさま（魚掬いと言うべきか）や、花園の花、薬草の知識などさまざま教えられて楽しい。

Bibbesworth が教本の冒頭で、家政 husbandrie e manaungerie についてのフランス語を習い、ついで田園、果樹園、森の花、小鳥、動物の名や生態も学ぶ、と記しているとおり、主題はまず①②人体について、③身の廻り、④鳥獣の群と⑤その啼き声、⑥フランス語の多様な表現、⑦畠の作業、⑧窯まわりの作業、⑨亜麻打ち、糸紡ぎ、⑩ビールの醸造、⑪魚釣、⑫天候、⑬果樹園の草花、⑭果樹園の木々、⑮森の小鳥、⑯森林の動物、⑰荷車、⑱耕作用鋤車、⑲家屋、⑳火を熾すこと、㉑家うちを整えること、

㉒日常の様々な言葉、話し方、㉓お祝いの御馳走の準備、となっている。

①②教本はまず嬰児をどのように扱うべきかというところから話し始めて身体の各部分、内臓の名称を教える。意図されてあるところは単数、複数、冠詞、所有代名詞の性別を認識させることにある。しかし、そこで例えば、上述の唇という言葉を教える際、同時に同音異義語あるいは類似語も教えておこうとするから叙述は身体についての主題から離れてゆく。屢々その親切な同音異義語の説明はアングロノルマンの特徴をもった言葉を登場させる結果となっている。脇下 *ascel* から車の車軸 *escl* へと話は飛躍するし、足の踝 *kevil* は木の杭 *kyvil* と区別する。*kevil* は大陸フランス語では *clavicula* に由来する *cheville* であるが、この語は踝の意味も木釘の意味も持つ。綴りを変えて *kevil* と *kyvil* を区別するのはアングロノルマン独特の言葉であろう。③ *enfaunt* や *pendaunt*, *mordaunt* に *aun* の綴りが見られ、*chaperoun*, *hardiloun*, *sublioun* には *oun* の綴りが現われる。

④群れの獣や鳥を指す時のさまざまな呼び方が記されているが鹿の群、鶴の群を *herde* と言い鶲は特に ‘h’ を発音せずに *eerde* というのも面白い。*herd* は *heord* に由来する言葉である。教本に英語彙が多く借入されているわけではないが、この呼び方などは英語彙も摄入された当時のアングロノルマン語の話し方を如実に示している。

⑤幼い子供たちが言葉を覚えようとする際、動物の啼き方を教えて、その啼き方の擬声語が動物を認識させる語となるのは今も昔も変わらない。雌猫はにゃあと啼く ‘chate mimoune’ というが、現在フランスの幼児の絵本もさまざまな動物の啼き声を早い時期に教えるのである。《Miaou ! Miaou !》 dit le chat というように。⑥フランス語の多様な表現に対して英語はひとつの単語で対応するとしている。成程そのような場合もある。たとえば馬にしても *destrer*(*destrier*), *sorel*(*sorrel*), *equins*(*equine*), *rounci*(*roncin*) はアングロノルマン時代に借入された。

⑦⑧中世の邸における日常生活で農作業は欠かせない。多人数の食事を用意する台所まわりの仕事も大切である。吹くという言葉も英語の *blow* に対して *suffler*, *venter*, *corneer* がある。藁は *littere* と綴った。*litteir* の [jɛ] が [ɛ] となって水平化している。このアングロノルマンの発音が英語に借入されたと思われる。現在英国では公用の大きな屑籠に *litter* の文字が記されている。駕籠の意味では Anglo-Norman Dictionary (1983) が *Waldef* から一例のみを挙げている。En litteir se fet porter … 6069 と。*litteir* は *litere* の variant であって *litere* (*litiere*) には藁と駕籠の両義があり特に綴りを以て区別することはなかった。Bibbesworth は ‘相異がある’ *divers*, *discordaunt dient ces clers* 398-9 と言っているけれども。

⑨⑩家政をつかさどる婦人は多忙である。糸を紡ぎ小麦を粉にする臼を挽く。火口金を使って火を熾す。OF *fuisil* にはいろいろの意味があるがこの語は AN では二重母音 *ui* が *u* となって *fusil* と綴られ、また [u] と発音されたと思われる。ビールの醸造も楽しい仕事である。ビールを飲んで酔うと大言壯語、俗人を聖職者に仕立てるとは少々 Bibbesworth のからかいの口調が読みとれる。ビールは奇蹟もおこす。驚異も生み出す。Serveise fet miracles e merveilles 501, 毛編シャツ 1枚 *chaundaille* を二枚に見せたりするから。

⑪⑫池で釣りをしているのどかな田園風景が浮かぶ。The Complete Angular 「釣魚大全」をものした Isaak Walton の口調さながらである。いづこの風景であろうか、緑のない裸の木々の枝が奇妙にそそり立つイングランドの冬の気候も語られている。そのような寒々とした冬にはチロチロ燃える炉のそばが快適である。燃える火の側の暖かい想像は春の野原で桜草の花輪を作るところを心に画き、その花輪を学校の先生にあげることへと飛躍し、やがて先生や学僧たちの甘言に脆い女性への厳しい批判となる。viroles からの類推でつけ加えられた畠の青虫 *varole* がキャベツから生まれるというのも楽しい。畠の風景から次は果樹園へと移ってゆく。

⑬よく晴れた日、薬草も植えてある果樹園へ急ぐ。Alom dedure ou banoer 639 をフランシアン綴りにすると Alon deduire ou baigner となる。1人称現在複数動詞語尾が -om となるのは AN の顯著な特徴である。dedure の u も ui[<uc] が u となった AN の特徴。果物 fruz も同様の変化を示している。ui[Ui] は AN に受け入れ難い音であったようだ。baigner に見られる gn[n] は AN では [n] となり、綴りは bainer, あるいは ai を a と表記する異綴 banoer となった。[ø] に由来する fleur の綴りは flour となるがここでは flurs, fluir もあらわれている。

⑭果樹園には englenter (eglantier) や, freine (frêne), alier (alisier) が育つ。englenter は女性の名にも使われる可憐な野ばら (eglantine) を咲かせ, 果実 peperonges [大陸フランス語には稀な語] をつける。とねりこ freine は Marie de France の短詩に登場する佳人の呼び名でもある。Bibbesworth はこの物語の連想から alier と Alianore (Eleanor) を結んだのでもあろうか。ともあれ Henry 2世の后エレオノールの名前が、彼女の身に付けていた黄金のちずももに由来するという言い伝えがあつたらしいという事を知るのはこの教本の記述による。作者が名を挙げる花、草木、果実は薬用、食用となって実益に供されるものが多い。また、先にも述べておいたが Bibbesworth は教本で特に同音異義語に留意し, homonyms を口調よく並べようと努力する。その結果 homonyms への関心が先行すると当然内容は、主題の果樹園の話から逸れて説明はさまざまな方向へと向かう。coingner (cognassier) ‘まるめろ’ の homonym は coingnier (coincer) ‘足枷をはめる’ もあるし coingne (coin) ‘貨幣の鋳型’ といういみもある、という工合に学習が進む。フランス語で一般に熟知されていると思われる言葉には繰返し Car le langage est ben commune 707. と注釈が入る。

⑮森の小鳥たちの中でも russinole (rossignal) ‘小夜鳴鳥’ は nitheingale とふつう呼ばれフランス語への借用語になっていた。我々が日常生活の中で鳩や鶴の絵、模様を見慣れているように当時の人々は ascie (bécasse) ‘山鳴’ の絵姿を見慣れていたのだ。しげ鳥は捕え易いということで古くから愚かな女の代名詞であった。火の中に住むという伝説の ‘火とかげ’ salamaundre に書き添えられてある英語は、多分家こおろぎ criket のつもりだろう。salamaundre は山椒魚でもある。その連想から次の語句 spaundre の説明には魚の話が持ち出されたと考えられる。espandre (espondre<L exponere) と spaundre (L expandere), espendre (L expendere) と pandre (L pandare) は語源が異なっているが混同しやすい言葉である。第4番目の言葉として espandere が登場すると我々も迷ってしまう。この言葉は expandere に由来するものであろうが書き添えられてある英語をみると espeudre の混乱した異形かとも考えられぬことはない、容易に判断を下し兼ねる。Bibbesworth がこの項では、また、殊更に ‘i’ の音と ‘e’ を区別しようと腐心しているところが見受けられる。eyles と eeles を綴りわけて区別しようとするのは、独特の AN 的特徴と言えるだろう。彼はさきに kevil と kyvil (151-4) とに綴りをわけて聞きわけられる音と共に意味の区別をしようと試みた。

⑯森の動物には tesschom (blaireau) ‘穴熊’ や gupil (renard) ‘狐’ が現われる。ルナール狐の奸計にはめられ、蜂蜜を嘗め損なった熊のお馴染の話を我々は想い出す。この主題の中にも、比較表現とともに接続法の用例も現われる。仮定文における動詞に接続法が使用されるのは Anglo-Norman のテクストに屢見られる形である。比較の接続詞 que, ke のかわりに qi, qui, ki の綴りが現われるのも Anglo-Norman の特徴といえるであろう。

例. E meuz amase ensement / Si jeo le huisse a talent / Char le cerf ou de feoun / Ki chaunt de asne ou de poun 817-820.

⑰⑱当時はイギリスの大部分の人々が、農業を営む生活であった。故に日常の耕作仕事に必需品の車についての叙述は大変詳しい。moiel (moyeu) ‘轂’ などという言葉も特有の綴り moail で教えられる。卵の黄身を意味する moiel には別の綴り mouwel を使う。char の縮小形 charret, charet, charette

が好まれ, chartil ‘車体’ という綴りも現われる。charetter は荷馬車の御者であり, carruer は鋤車で耕す者である。charret と carue の説明は入念に行なわれ, k 音, ch 音が頻出する。ノルマンディには農耕用の伝統的な charrette, charrue が現在に伝わっている。charrue の発音はアングロノルマン諸島において様々で kéru, téru, káru, kehu などである。ventrer(ventrier)‘馬の腹帶’ と ventrere (ventriere) 助産婦は違っていて, それは Divers cum vous orrez i a 878. と作者が念を押す所だけれども, 再び二重母音の ie が水平化して e と変化している。Bibbesworth は ‘正しいフランス語’ を教えようとした, しかし作者が言うようにこの両者に差異をつけてしっかりと発音しても尚大陸フランス語とは微妙な違いがあったことになる。

⑯㉐家屋を造ること, 火を熾すこと。家は自分たちが作るものだ。木組みをして基礎をこしらえ, 壁を造る。この主題の中にも曖昧な綴りが見られ, 大陸フランス語を対応させた場合の混乱は避け難い。la mesere (mesiere) ‘支えの壁’ ly messere (messier) ‘農作物番人’ には再度 ie の水平化による AN の特徴が見える。mesuere (ménagère) ‘主婦’ という綴りもある。この項には前置詞の使用が多く, 実際の使い方は滑らかなリズムに乗った口語表現で示されてある。aumeire と aumaire が特に書き出されているのにも興味がある。aumaire は (L armarium > armoire) AN Dictionary が異形 variants に al- ; a(u)meire, almarie, -ary, erye ; aumaile を記載し, 意味は repository, storehouse という。aumeire は variants が -aire, er ; ameire で, 意味は louver とあり, AN Dictionary fasc. I. には *Femina* よりの用例一例が挙がっているだけの稀な言葉である。Tobler-Lommatzsch : *Altfranzosisches Wörterbuch*, Wiesbaden. および F. Godefroy : *Dictionnaire de l'ancienne langue Française*, Paris. に aumeire という語は加えられていない。即ちこの語は特殊な意味を持つに至ったアングロノルマンの言葉ではないかと考えられる。日常の生活で火を熾すのは畠を耕やすと同様に大切なことだ。使役動詞 feire, fere が使われており, tutoiemment が現われる。忙しく立ち働く様子のうかがえる言葉づかいである。衣服に火の粉が飛び散らぬように注意しながら, とろ火の中に梨や桃を入れて焼きリンゴならぬ焼き梨を作るのはさぞ楽しいだろう。

㉑㉒家うちを整えることや様々な言葉について。新しくても汚れているテーブル掛けの布より, たとえ洗い古したものでも白い布がよほど良いなど実際に即することを細やかに教える。鍔で手の爪も切らなくてはならない。農家で飼っているだろうと思える蜂の巣箱や蜜蠟の話もある。honey bee という言葉もフランス語へ広く借用されていたのだろう。パンの堅い端を神に捧げるという習慣は奇妙に聞こえる。パンの堅い耳よりも柔い内側を我々は有難がるならわしであるから。下働きの者は巾広の前掛をつけ, 女性は頭を頭布で覆っていた。その大きな前掛の中で干物の魚や豆類をよりわけたのだ。鯨は常食であったらしい。騎士殿の好物でもあった。(cf. 311-317)さて, Bibbesworth はこのフランス語教本を Essex の Mountechensy の奥方に献呈したのだった。彼女は孫娘の Dionysia にフランス語を教えるために語彙集の作成を依頼したといわれているが, 作者は女性に対して遠慮会釈のない厳しい批判を教本の中で行なう。愚かな女は学校の先生がお世辞に差し出す小刀や嵌め輪などに惹きつけられ, 椅持ちや学僧の一寸した言葉に脆くも靡く。(cf. 609-619)女性は男の気に入るようになると気取って, 高慢ちきに硬口蓋歯摩擦音を使っておしゃべりをする。私は女性を大層軽蔑する Mes de femmes ai dedeing grant 1089. と作者は言い切り, 皮肉も言う。

㉓大詰めのお祝いの日の準備は大童である。先づ充分に飾りつけた猪の頭だとか, 美事な旗飾りをつけた豚の鼻だとかを食卓に並べる。種々の贅沢な香料, 珍味が次々と並べられる。葡萄酒に大麦ビールは欠かせない。ゴール人は昔から大麦のビールに酔っぱらい大法螺を吹いたことだろう。ビールは奇蹟を起こすものだ, 一枚のシャツが二枚に見えてくる, と Bibbesworth は記していた。(501-510)鶴に, 孔雀に, 白鳥の肉, これは珍味に過ぎるとしても雉, 山鳴, 鷦鷯, 鶴, 雲雀, 千鳥のローストは地方の

自慢料理であったのだろうか。coins en grave は兎 conins (variant) のシチューと読んだ。御馳走をたらふく食べ終って満腹の後には白い粉の消化剤、胃腸薬が供されるというところまで作者はつけ加えるのだ。この一言で我々は、まのあたりにまるで Hogarth が描きそうな絵画、一題して‘饗宴の satiety’一を一幅の実感をこめて見る思いがする。

Bibbesworth の Treatise が書かれてある写本 Cambridge MS Gg I. I には、断片であるけれども同じように貴族の子供たちのための教本 *Urbain le Courtois* が含まれている。フランス語を教えるのが主目的ではなく、やがては立派な士族になる騎士見習いの少年たちに礼儀作法を教えるものである。Anglo-Norman で書かれてあるのは幾種類か現存する。大陸フランスで作成された *L'art d'aimer* にみられる courtoisie elaborée とは異なる実際的な教本である。アングロノルマン文化というものを作り上げたウィリアム征服王の子孫や所縁の者たちは国民性として大層 practical minded であったということだ。教本には、食卓について御馳走の分配が、自分には少なくとも不平顔をするなどか、貴人の食卓で給仕をする場合、まずパンを供し、それからゆったりと寬いで食事をして貰えるようにビールの杯を置くとか、いろいろと作法の実質が教えられてある。身分の良い少年達は何よりもまず行儀を良くし、そして、フランス語を上手に話さなければいけない。礼節を学ばぬ者は恥であって、即ちこの礼節 noreture とは実利を伴なう社交上の躊躇なのだ。Bibbesworth の教本は *Books of Courtesy and Nurture* とは異なる、フランス語の語彙をもっぱら教える目的の *Nominale* に属する。然し礼節と修身の書である *Urbain* も、*Apprise de Nurture* も、Bibbesworth の Treatise も、内容において大層実際的なことを実証的に教えようとするところは大差がない。ノルマン征服以来、イングランドに定住し、異民族との混淆の中で彼等の経済、科学、文化をつくり、言語を伝えてきたノルマンの子孫たちの日常生活、彼等の関心事、趣味嗜好の断片をこの教本に垣間見ることが出来る。彼等はロマンスの虚構の世界の住人ではない、現実の世界の住人である。Bibbesworth の教える言語という点から再びこの教本を振り返る時、その言語は社会的威信を長らく保ち続けたイングランド上流階級の共通語として用いられたものである事を念頭に置かなくてはならない。AN は母語(英語)では地方的に方言の異なりを持つ人々の共通語であったのだ。AN は当時のフランス語としては言語の早熟性 precocity も示すと同時に保守性 conservatism をも示すのである。Bibbesworth の教本の何よりの特徴は作者が苦心する所の類似語への配慮である。それには①異なる語源を持つ言葉が類似の形になっているものと②同じ語源である言葉が違った意味と綴り、時には異なる音を持つようになったと判断されているものがある。興味深いことに、そして又皮肉なことに作者の配慮する①にも②にもかえって Anglo-Norman の特徴が明らかであり、それらは Anglo-Norman 特有の稀な語と思える形になっているものが多い。文法という規則にあてはめて教本を見る場合、教本には冠詞、名詞、代名詞、形容詞の用い方に混乱が認められ、動詞活用にも特殊性が認められる。その言葉の独特の響きは、いづれ *faus français d'Angleterre* として崩壊してゆく運命であったと言い切ることもできるが、一方において Bibbesworth の言葉は口ずさんでみると、尚、アングロノルマンがフランス語の一方言として確立し得た、ある種の親しみ深い魅力を残す koine の風格を具えていると言えるのである。

記

Annie Owen ed. *Le Traité de Walter de Bibbesworth sur la langue français* Paris, 1929 は Bibbesworth *Tretiz* の variants を挙げて edition を作成したが、585行 assez trop non pas trop grele を転写せずにおり、この行は Owen 校本から抜け落ちた。行数において Owen と筆者が異なることを記しておく。

cf. W. Rothwell ed. *Walter de Bibbesworth Le Tretiz, Anglo-Norman Text Society Plain Texts*

Series 6, 1990.

Rothwell が校訂した *Tretiz* は筆者が転写をした *Tretiz* と同様のものである。本校訂では文意が読みとれるかぎり写本の文言、綴りを写した。Rejected readings も Rothwell と細部において異なっている。

Rothwell は *Modern Language Review* vol. 77, 1982 pt. 2, pp. 282-293 に “A Mis-judged Author and a Mis-used Text: Walter de Bibbesworth and his ‘TRETIZ’” と題する論文を掲載し、A. Owen の edition に見られる誤記、写本と転写の不一致を克明にとり上げた。

Walter de Bibbesworth: *Le Tretiz*

Cambridge Univ. Library MS Gg. 1. 1

ff. 279^{va}-294^{rb}

C eutes duz fiz ore ne sari sita en vie me trouerez
 S eau fiz coo dist ieo me wiz e wod ic demarrez
 E lle se leue pur aler mes ne pour pur tut le uundre
 T ost remont al lement lepulac eses uincs estent parfunde
 O te pez dire ceo me semble la dame de serverement
 I eo querre mun fiz mes ieo nel troef mlt le querent entauement
 J cole querre e ieo la ple il de ten neme respunt
 O reli mandez par amur ke played de amur murir me fumt
 A aultie est tut amortie pris nunc amelun cunge prist
 Y a ne ultra hors de quer la duse parole heil nuc dist
 F emme decez a tun fiz este parole uremette a mort
 D uz iohan de wod le dit eud ne me futes nul confort
 A tant se leue lement iohan en auant li vint entur
 S r le menez en la cite plus par force qe par amur
 S emt iohan la garde al menz ke il puet benoit leit u de luer
 E tirz tress he la dame houement ven a lui por
 B eriet leit li ditz illi etut mes leit honure
 K e cesser ne wot iekes a tant he veit la gant delure
 E venoit leit la duse mere ke nō porta le rei de glorie
 E venoit leit tress tress ke la peme vut en memorie. Amet.

* * *
 I st tress li min seignur
 G auant de bichelewey fait
 A ma dame d'yeuse de monseur
 Chenu pur a pris de langage.
 E co et a auer de premiere tens
 Ke honne uelut ou tut le lan
 gage par sa nature en sa rumeur
 Puis tut le frument cum
 Il encourt en age en esat de
 Huswadre e inanangerie
 pur arer, ueduguer, warer,
 demer, scarder, sner, singer,
 carier, ayer, batir, ventre, et
 mouwore, paster, bresler, brater
 hante festre auer, puis tut
 le frument des veldes, e des oys
 feus chescune assenble epur
 la nature apres, puis crestut

le frument des boyds, prez, e
 pastures vergers, gardins au
 tillages, oue tut le frument
 des flurs, e des fruz qu'il soit
 e tant issint trouvez; wod le drec
 ordre en parler e en respuendre
 qe nuls gentils houent souent
 auer. Socht tut dis trouvez
 wod pannes le frument epur le
 engleis amout.

Amme le apche sun tens.
 to be litter.
 Deefamenter moustre sens.
 midibis.
 Quant se puruet de une ventre,
 Qui leit auise auiseillere

& quant li remez sera neez . pur lorde auer de montema.
 & ouent kil sert mayolez . Ton·eta·loun·eta·le·ela .
 p mis en berc le cochez . Au en pole sert menz apres .
 & devne bercere w puruez . E de nul autre escharnis .
 I centant comence a chateiner . **M**a teste ou moun chef .
 & mis kil sache a prez alec . La greue de moun chef .
 & qnt il baane de tature . pe sched
 p cos i assauuer de taature . & ecce la greue au lauer .
 d tes dount a la bercere . pe feldefare
 k cele luface vne baanere . Emangez la greue audinca .
 & qnt comence de alec . lockes . crispe .
 d etay se veet espalier . Il eo ai les cheuez retreallez .
 & purmaine pur blesure . heuse .
 C arsoun ou garde li deit laurt . moun toup w prestauchez .
 A mil ne este ne ne chece . foretop
 & nsi ouent il bone pete . hechelle a roge of flax .
 E qnt il encuit a tele age . Serencez de lin le toup .
 A ui prendre le poct a langage . acie cope
 & fanceis lui deuez dire . En la ruc mez au toup .
 C um pmes deit lui coeg desrule . Wind pe parme .
 Moun haterel ou mes templex .
 Vostre regard est gracie .
 gomme .
 C um pmes deit lui coeg desrule . Mes vic et est chacion se .

Des eus onces la chacie
 maldrop. pe gomme.
 Des eues le rupie le luer
 Meuz vint la rubie par. v. lert de marchandise.
 A nre fet le rupie par. p. le mire ne appent clergie.
 Car ci bourse eut tant des rupies. En la wache amoult est pale.
 Cum le tes ad dos rupies Tastres nos chose ordene.
 Mult serrent riches de pice vissi
 pson le stony. Eles dames sunt cintaines.
 Qui tant eut dela rubie ye gomes
 pe appel of picie. par bien lauer lurgingues.
 De le oile est lauf la purnel Glen cheilun est bien certaine.
 picie lide. K icles le fent par la aleme.
 Si le pauper seit won e bel hond.
 En les paupres sunt les ab Le col la gorge elementum.
 broches. Dunt le frances est quam.
 A mount les eus sicut les maz. ye protolle.
 Gausi auerz w par tecum Dedens la gorge est le gargant.
 per les gristel. micer.
 Des eus maz e va tendroun Splins parfunt li gis tate.
 pe co. far wax.
 Mes war kila choune Et si adderre le wen au col.
 chelur. A chescune large e au fol.
 Si touche vr̄e roube De sonz la lanninge est la fourcie.
 lyppe vel haire. Os fourche frances la uie.
 vd auerz la leuere ele cuerer En est pas mestre tut a destruci.
 pe rount bock. Du frances li cheilun seit duc.
 l a luer ele luer Wombe back lacoun.
 l aleuer cest le chost leg dens. Du ventre dos ne de lessme.
 l elener ki doys leter de demis. Schuldr arme veclie.
Gspal bras uela peurme.

Mes ieo w̄ fai la mestresoun.
 Desfrancis nom pas si gneur.
 En chevauant en la fontayne.
 ne pere.
 Ja souerain leuer e la suraine.
 Wangttech
 Galabuge sunt mesmeleers .
 Dans forens si tu les quers .
 d'allece
 A uolanez un follolet
 pe stante
 desouz le marge e le filet
 hole
 Chestmorail si ad molet
 amic of hernies.
 par hakenole est occuelle nest .
 Epurcetefier la parole .
 Conclu couent la hakenole
 ponelbonges .
 Desouz le corail est le gñoun
 scholdri w̄n .
 A l'espale auz blazoun
 armole
 de long le bras auz escel
 axe ce
 par au le char gist le escel
 mit
 Desouz la mountayne sard le broil.
 erye
 En battez ad ton soi
 stife
 Entre pleours sourt le coi
 north heit
 L'evert de bise nist greve le oyl.

A pres le aust si chet le soi .
 volvinge.
 A pres gele si uient remoil .
 Cates paroles ensi w̄ coi .
 Glenchesundure w̄ wil .
 pur meuz acorder en parlane.
 E desorder en vatriance .
 Des espoules issint les bras
 helwibz
 Coulez ne meus ne lerrumpas .
 Mes entre le bras en la meun
 pe virste
 Si est tione la houle de la meun .
 pe back
 La pannie de denz la clay de hoz .
 E le poynz cest la men en dos .
 G un pouie k'anc en meun .
 Cest la meun trent plen .
 Gambes dens les meuns plens
 pe syne
 E fumce apel horn galens .
 Ha ar meus vodore petre poine .
 ke gegeuer bien tre
 pe fern
 Ha ne ferroie cent galens .
 Deschaundre tut plens .

A tribbe of a fide
 V ne coste de une costee
 I dam en out dens en oste
 Quant d'ame enc p'mes fist
 He p'ret charge pur quel il fist,
 He purqu'nt ceo mot vient en place.
 Mes bon est ix loin le finiesse face.
 De la coste qui signifie
 Car tout gent ne seneut mie
 Mes en le uentre est le vmbre
 E par de sonz est le perle
 Ce les enages ou la fourchue.
 T'ent gunt eysse pur chuechue.
 J auubres egnors conoissez
 Had mestor qe wz seneut tochez.
 Mes auauiles sanz genoys charrez
 Den genieker seneut trop rez
 A ugatz vnt ore garterez
 Hos garterez enos ciquerez
 Genie pur estre charreterez
 Mes pur sauuer lur lamers

Et la chancib'e auez la ^{halfe}
 G taut cum braoun test esulte
 De meillur force homie se assure
 S t'es hantel seit sanz blement
 sole ^{to} hele
 p'launce tad vras et taloun
 D uat le fummeis est gamin
 Mes heml de peckyul de fust
 vodra no bien qe chescam lestue
 A u pes auez les hemles
 He dites pas kyules
 Kar heml fet hom fum etan
 E kytul fet li carpinter
 Ore pur aprise de ceo li est aduis
 Le cors de homine
D Edens le cors ad chescam hem
 heire lute longen
 Auere soy e ponour
 milte parme hidanc
 Espien louele e repouer
 malte senetis
 Estomak venuie enef embouer
 vleudre
 Enc vbliez ja la vestue
 K y au uentre fet gunt mie
 pur ceo qe urme la quilonis

Heles reynes ^{yes} ta ne oblioms.
 ore infaut ^{galle} si le fel noun
 de quinq^e est de denz le cors awom.
 si auiez par dehors une pel ^{a l'ame}
 hinde.
 Et vne veste quire apel ^{fieyx} ^{Wayn.}
 pos auiez la char e le char ^{scorn}
 ges cun^t gardom des char.
 Et char partoulur hom ^{qualies.} venist.
 La char par hidour en hom furent.
 J'auⁱ la char leer en char ^{scorn}
 Et la char scire eschar
 ges ens par dolur cusechirent.
 lenerfs du berour en gardirent. ^{l'ame}
 home e femme corut la pte ^{scame.}
 De mort veste quire apel ^{hinde}
 le clerck sonne le drenier apel ^{la teste knel}
 le prieur fust a come apel
 ore auiez oy la force du cors
 Vedans ausi dehors
 bre du frances de nolac vidur
 Od tut nre autre herrier

Testerz w^dras beaus denz enfrans.
 Chancez wogamis souleres e bras.
 Metez le chaperon conciez le chif.
 Tachez ws botuns e de recf.
 De vnetoreic w^d temez
 Je di pas w^d encantez
 kar femme est par home enemte.
 De vne centure est ele cente,
 D la centure le pendaunt ^{wkel}
 passe p un trespass le mordant,
 G ausi deit li hardloun ^{tongge.}
 bore of a nafin
 passer par cru de fuloun.
 Si unene enfant estent la mam.
 Au matin vers le tam ^{lome}
 V ne brie dunc li donez ^{symer.}
 Ou vne lesche si plus naues.
 Au diner li donez des ouibes.
 Et les artres a les cui^s ^{schelle} ^{coupe.}
 O uist le chale emz qil hunte.
 L entrut ausi e la bune.

polke
Guidenez le mouuel
 A home leme w*n* morcel
 mes remuez la germinoun
 mal adesire purchescun hom
 Des p*w*unes w*d*ie enlement
 Il amanier claffement
 Aut p*w*unes mangent p*co* le g*m*et.
 Ed d*r*uit enfanz arcson les c*le*mit.
 O ustez lestiche el*a* parice
 Dilurdon*e* la morsure
 l*a* p*p*emere w*c*ugitez
 Les pepunes le plauitez
 Ore le fr*a*uncis des vestes oyseus
 chescune asemble par son matre le langage
Bearns duz enfanz p*v*en ap*yndre*.
 En fr*a*uncis deuz entende
 Ki de chescune maniere asemble
 Des vestes ki deus ad forme
 Des oyseaus enlement
 Couent parler p*p*remier
 p*r*imes ou certes sunt assemble

v*n*e herde est apele
 cannes
 Des gruves aussi v*n*e herde
 Des gruves sans. h. cord
 Hyc de feisantz con*e* de p*ar*
 latkes
 Dame*e* des alouies t*pe* de la
 coltes
 haras dist hom des polems
 cherles
 Soudre des porches soudre d*al*
 fons le b*ea*u
 Bouee des hercuns p*p*re de go*ve*
 Route de veo*s* chute des ch*ies*
 Coumble de ble soume des vi*ng*
 mors
 masse d'argent finier des tems
 teles
 Gecile des gelins turbe de deus
 l*ur*
 l*ur* de faucons luyre de p*ar*
 hoing
 mes pucele co*e* est saur*z* i*mer*
 les gentils fr*a*uncis et l*ur*
 Eschele dist home de u*ta*ille
 foysun dist home de v*if* au*ma*ille
 Des danies dist hom compagnie
 Des ouubes ne changez me.

*Tar de un fr*a*ncis.*

Carde vne frances itent ledit.
 Ly mestre bandement lons leit.
 Ordre de la naturele noise des
 toutes maniere des vestes.
Oncorez naturelement.
 Des vestes le diversement.
 Chemin de eus echecine.
 Solum li sa nature d'une
 verre
 home parle our se brare.
 Aia de mesme le destrat.
 volb volbes crane arkes
 Vache mugist gruue groule.
 romies hasil quakez
 Le corn wngist coudre troule.
 neyez larke
 Chuaule hemist al oulde chanuit.
 croules
 Colombe gerist ecole chanuit.
 mewich assis
 Chatte mounie serpent asse.
 wach suan assis
 A lieurezane tene recie.
 wolfe voliez letiez.
 Loulde oule chem bane
 sciez.
 Ghone ebste sonent afraye.
 sulmard sterez
 Patoris li aynel afraie
 fox welich broche
 Copil deye chelon triate
 lych
 Aut li venour li quer pracie.

Gandre.
 Oulbe taungletars agtoile.
 encde quekez
 A ne en mareis taroile
 quckine ttre
 Mes il iad taroil e garoule.
 La difference dire vñ wile.
 Liane taroile en rucere.
 Si hom de falcon la querre.
 Mes devant vñ vulc en guere.
 petunpe
 A flichom le garoule en tere.
 Pur le barbecan defendre.
 A lassant le home veut rendre.
 A chi la porte ipide rien.
 Si il guerreour le fait vien
 tode ciodch frogge.
 Cnapant couale repne graille.
 snake
 Collure pprement regaille.
 gris wnicch lwoz vellech.
 Purcel gerist engler velie.
 kide mitteirs wle vellech
 Cheuerau cherist etor torcie.
 soune givmes drap
 Troye groundide qnt drache quer.
 doulicie
 Facon tenel le plomouf tart.
 kakelos
 A usint diez li gelme patole.
 lych
 Aut punc ad en gardin ou en vole.

C ac de fraince at tele estre .
 A hemme coypet lech and kakeler
 K i gelinc huppe pounie esparte ,
 G ri trop se auantie sanz resoun .
 A lagelme est compaignon .
 K i plus se auantie p du eot .
 K i sa arure ne fet li boes
 Hep bleath hoppeth .
 Berbiz valce dame vale
 Bagge .
 Espuer prent ces mers de vale
 gones .
 par trop veiller home mal
 A sun seruant la chose baillie
 rares him
 A pres dormir hom se espreche .
 Le prestre en le eglyse preche .
 I i pleshour en vuer plesche
 nette voek
 O re de la rey ore de son hescle
 f aily leit la tere freische
 pur achater la char freische
 ring
 Aut pour se auantie la tere
 spade
 plus la vandecit en men la tere
 Car el nad en la tere
 lompe tenuer
 A payu ne abbe ne aleche

li lech
 Soun chael la pacle lesche
 rappen .
 Orc denez a chanel a flater
 telle
 K i lesche la rose del herber
 losengt
 G schuez statour li leet statou
 glondre
 Eles genz espluper
 G turi chaperoun ne bent leste .
 amote
 V n pyton tant ad chek
 catel
 Houn pas ter mes tui auein
 hanie .
 Ke desire de ter auer
 Ore de duier sete de fraincois ki
 tut est dult de vu engleis .
 L eez a venne de tuit wus
 du chualer beau tuit wus
 so tred
 Q ui vne destrie le est munte
 tred
 G skri de gouches ad port
 V n launc wuge en layn meun
 D e vne vermeille lauter plein
 Q ue manu be point de pleschom
 tred
 S de le harant so nom
 quene
 J e vne vne reyne sanz rey
 frock
 pur vne reyne ferre delay

li entayc le reume le rey
 forbe recte
 En un reoun fist en un rey
 i myn heuete lond.
 vu vident vint enia forez
 don ont of tyme
 li eus oy foremer
 .
 S dist quel wleit forez
 pef
 li eis quel vert foruerer
 de le futuress du pre e du
 blauy e de armer les blez
 .
One alouys as pres eas champs,
 pur enforcer nos enfantz
 liche molle a swiche of mede.
 de sans fauchez vu auende de pef
 fmei rep A repre
 de faulx liez vu iacle de ble
 tress freres
 les iaculae en gardes liez
 .
 Entroissaus les gardes metiez
 aux seris.
 un Waroit de pris sur aysac
 veene freres
 Glos sauoirs du Waroit liez
 .
 Mes nad nester ke w dioms
 de tunc manere de ble les noums
 ke war
 Desgloce oge ne forement
 ke comune sunt a tote gent
 .
 Mes de autre semain trop urest

li pur mei a dire ne est
 sarnel dranck
 li e yuenai urest ele betel
 thar hoku
 li eazoni aust ele necl
 blollech malue
 li e blauctole ele maulle aust
 szerok
 Carou e auant que ne w die
 .
 Car trop auerit trop a fere.
 totelle
 Si tuz semaus w dei rettere.
 Mes qut tens est de varier
 vos charetz fetes chargez
 Mes chuaus det li character
 halung Wyre
 De la riote demener
 mouille
 En grange ws blez muez
 .
 D chors la grange ws blez tassez
 .
 Car vue moye et dit enginge
 stanc
 Enue chasc de hors la grange
 .
 Molou apellez coq q est en feyn
 .
 Chas dist hom eo q est en grange
 amenes cyles
 En grange gardez w des arables
 .
 En champ w blez des autre lentes
 En ale charitez w le grange

pur oblier grefs e maledes .

Au minister verrez de gyfet testes .

ke resemblient corou beates .

viodest

mes si id quilles genz a festes .

pechez leuz que sunt en quelles .

pur lur malicez qe sunt li pretes .

De fere grevances e maledes .

axes deuse pout nectes .

A ceuz donez les chars iclos .

Ore pur pestre vre pum au
fourri le frauncis .

Quant vre ble est ben lau

puis venteze puis molu .

mes pur plus pferment .

parler deuant wne gent .

Il ad suffler venter e cornier .

Dunt la tseloun fet a lauer .

le fesuffie le quastroun .

Ele vent vente pur le braschoum .

mes venour aprement cornier .

Oult chac prent de pure pferc .

grist
mes par le moude deuine farm .

Geo qui en grene fust huy matyn .

E de farme ia deuent flour .

par le bulenge le pefour .

Car par le bulenge est sencre .

I a flour en fourre emz demore .

A ws chuauns le fourre donez .

E au be teuc a la flour medez .

E vre pastre ensint pefrez .

E de un rastuer la ange moride .

mes il iad rastuer e rastuer .

Li seruent de duc le mestre .

Li pefour ad en men la rastel .

mes li rastuer fest le ange vel .

Car qut le past a ange aer .

Li rastuer de eco lui cert .

Etant cum tems sunt en pres .

Est li rastuer souent manez .

Echauffez le fourri de fengir .

pur defaute de latte .

Littere e littere sunt duers
 d istorduant dient ces cler^{ye monbler}^{monblech}
 l i fauchcour littere fauche
pur esle en littere hom chuauche.
 Littere gurement sanz faille
 En pure fraunce dist hom paile.
 chuf stie
 pail e paile sunt uomes
 Quant du greme sunt leueres
 Esprade ne seit pas
 pesestre
 peritez dunt le plesaz
 Squant le forn est bien chante
 du pel seit le past entre
 ore le frumentis de ceo ki a lue
 mesure apent
 Quant le past est au four
 G de pate iprent sojour
 housewif
 G de nester la mesuer
 He sera pas trop muchalcr
 Enz ducendea lue cuiteller
 wisede
 Oe alez lemer volte lynois
 En evbliez ia vre canois

fayolle
 Car de lyn auerez leg budcaus
 G de cambre les cordans
 wedhit
 vostelyn par tens sarchez
 G par tens le arasez
 tecchit
 pins a pegs la rehaez
 drubheit
 G pins ou solail le sechez
 E pur dat launer nult fest del.
 libmglestock
 V noire conent seer au pessl.
 libmgle.
 pur estiger vre lyn
 Car autremet nult pas fin
 E ico requier dame muriel
 Ore wdeuez au pessl
 mes qut au pessl ad sun deuck.
 rible
 D unt urz a rastuer
 hthelc
 E la serence dunt pernez
 G vre lyn serencez
 roctie
 G de ba conol wdeuez
 oes le fusil tane ubliez
 Werne
 G le vnel li a co suffit
 H elar li plus wdeurit dist

Mes a ad dimersece
 dunt chescun nest une ause.
 De tress chose le fust
 Le fust est file du fusil
 fuit vichine
 Le fu de caillau fuit le fusil
 multe spuel.
 Le bie est trolu par le fusil
 Quant vec fil est bien filee
 Et vec fusil tuit empree
 to perel
 Autant conent dunt ales.
 ye perne to relend
 Vostre filee traumier
 parue bude
 Epuns conent a la videre
 Cum du fillere est la manere
 to buden. et
 pur wied apres le traueil
 weuen
 Epuns apres trausier le wil.
 Mes quez tuit ore madame hude.
 a de l'he vides
 ou lassel de sed wiede hude.
 werpu
 Ela tristesse qut pri le ha.
 spoules
 Tantot les traumes wiede.
 Epure est laus vigne
 purbeier conent de vne lame.

Autre chose ra apert
 Mes ne fait verement
 ore le traumier pur breser bras
 vracer ceruise.
Puis la desore suffit
 Le traumier quez ardist
 ore ferret bien a sauer
 bras
 Cum len dent breser e vracer
 A la manere he hom fait servir
 kistes
 purfere nos noez bien aese
 akier
 A l'umey auocle vng fieroy
 a gage of spuel
 Quant aueras mangé de haken
 fait
 Envoye cuue lange e leez
 step
 Cel oge la entourez
 Gquant il est bien ensoudre
 iadrouch
 Le caulbe fait desouele
 montez dunc cele hant soler
 si le pyn
 Si le facez bien valer
 Ela couchiez vec bie
 spured
 Tantot cum seit bien germe
 E de cele hant appeleras

Brez qe emz ble q nomaz .	A terez chesame part .
le brez de vec mem monez .	Desnes w rez l'ore serueise .
<small>walbes.</small>	D oint home deuient silencie.
En mouinceus ou est regez .	ki les vns capucin vant .
<small>repe</small>	ke il enjurerent inciterant .
Epus le poetes en vne corail .	S crucis fet miracles emiracles .
<small>hulne</small>	D e vne chaundale deus chaundales .
pur ensecher au corail .	P uerelle tenz lais hommages .
Car corail ou corailloin .	H ome mesconset auer meillz .
des seruauit tut a foloun .	<small>y uerelle fet hom fort chatouer.</small>
<small>grouden</small>	<small>hole</small> <small>homme.</small>
qms sera le brez molin .	H ome ave fet haut iher .
de caulx chande bien cubu .	<small>y uerelle fet coyle de bricouin.</small>
qle lessz destoure attaunt .	R ouge temz lauz utuicouin .
<small>mahislingfate</small>	G dant des homm ki p sent iorge .
hors de keuerel meintenant .	T rop adil bei gote de oegc .
taunt cum la bresceresse entent .	A telz li auantur se repot .
<small>woet</small>	<small>Car parlez veut de auant dolc.</small>
kiele cit kerli a talent .	<small>ore pur relour cu buicu</small>
<small>gwint</small>	<small>ou cu cituinch le frarines .</small>
Epus le verdize prendra .	<small>l'amer welle la maye .</small>
<small>derme</small> <small>woet</small>	<small>tilde</small>
d'orment ou orgt kiele a .	C um plescher deuez en baigre .
par deit deuer de bracrye .	
Qes tut duiser ne fait ieo inc .	
Qes tut issint de art en art .	

V u mere est apprement nōme
 O uelbe vif est avue
 E caulbe de serour p̄mes espalyez
 C au du p̄ssooun la ne faudrez
 E si w̄ faudrez a ce l estatuncke
 O u le caulbe est a descorant
 A lez dantz sainz de lai
 O u espliterouissut dect au lay
 Car ceste caulbe en batay
 La couent p̄scher de nate
 O u p̄cice rei n̄ troue gracie
 Il had nate et riuere aussi
 Comme frauncers a chescun
 L e nacest meauemēt ouerez
 Mes plus large par tuz allez
 A d le crucifix pur quei le di
 Car autre difference nad ici
 Mes retournons a la matrice
 Ki de p̄scher w̄ will dire
 Le bozem tornyep
 L e garget de nate reuerez

filse
 l'ordure letis engetez
 w̄de hencete
 Crapaud e lezaat ne cparnez,
 nedee snake
 Serpent e colure ainsi tuez
 gret flint
 Branle e carrollot e ruez
 frayl
 Glymatom ausint destuez .
 Si du p̄ssooun trouuez
 gilles
 par les vemborges le p̄nes
 helinge.
 C et il seit malebel de me
 ouerez le deuz e espadez
 Je no tantost en ouitez
 Bouleie e chime ensi le trez .
 Si returnez ver mesoun
 gaix
 Du gardin p̄oic circuoun
 genie valke .
 Tant cum vues au vertemal .
 O u le pastour est ou le animal .
 p̄uis pa corbis n̄cel vmbail
 w̄de heuse
 passerez de lotz le houcail
 le p̄instone
 mes dantz scrivent a tant des p̄ns .
 Ki sunt applez passueres
 stremes
 pur passer lecke le ruseles

ki sunt si cleris e si beleg
 J i had ourail par . h . estat
 O rai aussi sainz . h . est . dist
 De soin le houail se heue la voin
 E par le orail est uenit hom
 mes enz ki passez plus auant
 valke
 Detenail w est plus disaunt
 pur ce quil ad plus de sens
 Dunt tel iad u differente
 J i had tenoorn etenail
 Etenailles ki nest merueille
 handel nlier
 Kitenoorn tenuit li cotuyer
 E par le tenail passent uente ver
 tonges
 Mes tenailles seruient des carbuncs
 En puer qut au fassoms
 lunet
 E au fure fert de custume
 A nt du maner fuit sur leuchine
 Ne pur beant temps e p tempsite
On ne pleut ore geele
 valere
 Ore reueit ore regle
 pur la gele auex w glace
 E par la glace auex w beglace
 E si nest pas lon trop hastier
 Sur verglace pur beglaceit
 E geele e plulle deguttant
 hildinde
 F ouit le chemin trop lidant
 stres
 Ore negge ore cymie
 Le cymie en pure ure veie
 a flake of snow
 La londre me entre un amfe denef
 J a quindri q ieo esle gnt saf
 hailech
 Nos auerons grisil puis q lgret
 final
 A flez trop nonpas trop gele
 pomme
 I eo oy toner ven il tome
 pondres
 Mes tenailles seruient des carbuncs
 tome
 Si puer qut au fassoms
 lunet
 Ore ne suffrez mon pre tome
 Sul de w mot uelounie
 Freid eit dul puer lorcr
 Vu de binal wil de multea
 En puer qut lorcre chaunge
 Vu ne verge iarest estrange

A erge quies saluz wendur , vaudroient plus en la mayhole
 S ains soi crest esluz floue. ki retiene femme en orole
 Qu'it wendra le chaut est . Car quer de femme est si molic
 La verge ne ert iamonsire . Esquier ou clerke qui la cole ,
 En yuer qui lorere change . Ki souent a bref parole
 E letans deuent eschange . femme sole le molic
 De a meint hom fet fort endurer . Ore pleut a deuge telo folos .
 pur le desir del yuer . villes faces plenis de volos .
 Dunt auiez la mem si comise . G deus ribans les rugerolos .
 ki pur le freit ne purrez mie . Si lervent dunt les bracolos .
 De des feir la capinole . E les folos les karolos .
 Mes wodorie surz plumie molic . Eschurent les blacez folos .
 Des presdus fu le a la carole . Mes pur apprendre ces umores .
 Garlond Chaper uestu de blaue molic . Des viroles durtai plus de sens .
 Chaper uestu de blaue molic . Il iad virole e volc .
 O u de quiller primerole . Ki sunt de diversc escole .
 pur fere chaperus a des escole . La virole la maniche gande .
 ki par loit qui ne lant fermole . De totel le maumusied .
 E par karpuc ou vuole . Mes la verole la face empire .
 Douent attere femme sole . He leit ia de si grant sire .

mes este vue varole pure .
ki de cholet crest p natur .
vn verme ki vert est colure .

En france est varole nome,
de le frances des flurs eys
fruz du verger.

Le iour demeint trop beaus eder. **E**mercial le güt valour.
A lom de dure ou baoer ^{pleyn} .
Au berget ou sunt les flurs.
Dunt enissent les diz odurs.
herbes aussi pur medicine .

Dunt les nomis et vñ dñme .
flur de rose e flur de lys ^{lilic} .

In vant pur rogne rose p pis.
Ausi crest la flur de surgyc ^{soudre} .
ki a les eys fet güt eye ^{heyl} .
Primerole e princiuer ^{rougloffe} .

Autost se multrent en tens de ver .
her du bois e herre terristre .
En cro lys demeint crestre .
Ciert assez de planteayne ^{velebre} .

E bugle aussi herbesame .
herbe cong ^{dunc} .
Cerlaunge ki souent crest encuez .

V n herbe qe feu rouse redrez .

E aussi trouerez plente des nauez .
dayseie ^{lindes} .
Consolde la blanche flur ^{linetocke} .

Le iour demeint trop beaus eder. **E**mercial le güt valour.
pur lause vant la luncle ^{lindoke} .
pur home regnous la parele .
parele iad parele e parlaus .

De tote manere des oplaus .
V ne couple ad deniale femel .

Cest un parel nom pas parele .

E aussi sunt parlaus nomes .
puis huchamble sunt mez .

V noce as flures nre vil aleer .

Hine fest me a ublier ^{moyved} .

Autost se multrent en tens de ver .
Car hermose id trouerez .

E plantayne si la semmez .

E si id trouez au berger ^{dayseie} .

A merche e gletoner ^{lindes} .

Les arasesz de vne belagu. stockes.
 Epauitez cholet en luy lui. En ces temps pur chaster
 Ore le fraincres des arbres pernez un conq si vates le leste conq
 Du verger. albegh
 Ecouez du com un conquier
 Et ceo verger des arbres aussi. E conquier est il enlement
 par charge des fruz leus abesent. ki fet la monie del argent
 appatre perte chaste
 pouer perte e coreiser
 hais brom ploutre
 firme genest e pruner
 halbchen halbes
 Ceneiller que cencilles port
 sioorne sios
 Ele foulder que le foudre ne aperte. ki nest suffit en tere arable
 brete heys
 Engleter ki les peperouges portes a verger crest la honte
 waistre wiar tabatt
 Creker ki les creches forporte. ki de nant ne laut p hont
 aruec arues heire
 Il y alicz port les salies. Glc lucan li crest aussi
 Dunt alianore en aunceneries. Comme fult a chescum
 Un nouv recult de vne rye. Willise yoke W.
 Ki out aliez en or deuant la. Danz tarest echene eyf
 quinccit
 Tut ausc crest le conquier
 S ouent le vert hom au vger.
 ayes si ad diuersite grant
 ki ne se leut tine a quantit.
 L isegnuit leu am euef conq.
 ux stockes
 ore le fraincres des oyseaus
 de lis.

Quant du berger auon le chois. Mes esprandre est la quarte parolle.
 A louis ore uer a lys Eco sunt le cler iours descole.
 Oula russinole ye mithungale. Car esprau naturellement.
 ouerz chantez li horswan en sale. Ki les lettres ensemble prent.
 priez wist
 Gneuz chantez manuz en busson. Eyles eecles sunt ducres.
 hinc fet chant forz en tuisou. Desordaint dient ces clerz.
 orel.
 En brandelet le menue merle. Eschent
 liet dedrake
 En merle deniert la herle. Des eiles neent ces peschous
 stare
 vnoire illad aussi filaudre. En mer wist ces molchous.
 Wodelarke.
 Gleysel kradoun chalamandre. A usi ad il uace enoer enager.
 orkiet
 Au four meint le salernaudre. Dunt la resoun fait a sacer.
 scheden hisfronde
 Suffrez le peschon esprandre. En mer nec li peschoin
 mes il iad esprandee esprandre. dioues
 Et
 Esprandee ensement esprandre. En mer noe meint pdom.
 tellus
 Cil esprandi conteil dampy hores volken
 kil desheur a enly
 schets
 Eluenez de gie esprandre. mes des virions deuent negget.
 hors de la quele la viande
 faketeres
 Edes eyles paunde peschoun
 Aut dit en rei le prent hom.

Mes en uer woms negget.
 fables
 Eles aumbry aualer
 Ore a oysans iudicoms
 Ou plus apprendre i puricoms
 En chambres arlins ans
 d exent horne cest oyschaste

Mes vees ont apist vñ astre .
 Et rameres vut le hemis die .
 Plus auant ore venes .
 Ecco ki veriez entendes .
 Car li ad verder e verder .
 Lun oyse lantur forester .
 Car par cy wic le verendre .
 Par la wit li forester .
 Ci vient wlaunt vñ testel .
 Ectrest verete tressel .
 Car de astres tressel vant arscl .
 Ki vivoter en vñ beant tressel .
 Ki un behu tressel de la vute .
 O u nule note de fructe .
 Vncore auez le tressel .
 Ki lea hares vñ brys tengre .
 Deslarez valer tout ta tengre .
 Si rengre volz le mulsinge .
 Vncore iad la pa leuele .
 Gaist le hardonerie

Voterfete
 E si ad des papilosns
 Ki volunters saent en chardoms .
 En les rimes enslement .
 V sent de sier naturlement .
 Ecco uest pas li grisselour .
 Ki en cartillage ad sun doroun .
 Heli hirchoun tient lun plus .
 A i prent le poume qdectus .
 Hemouches ue wbed ue luctue .
 Car element plus la verte .
 Ausi ad il ane de epilimorph .
 Ki en yvere vut lui manlioun .
 En mores menent les wanels .
 En viles sunt les venelles .
 En graunge vlosm la matine .
 En querde auons le haane .
 Ci vient uolant vñ ouille roser .
 Vn blaret ou li assotier .
 E menz serore de vñ blareth pu .
 Kette serore du char desru

¶ plus est iguele un avounde. Car seit en vile ou en loys .
 ¶ mil hygoun pur le mende . He seit fors mes hil eit .
 ¶ leuerounde a la chenerounde. Grace geleme a sun rechte .
 ¶ prent le meissoun ele arounde. ¶ plus vaudent un beletch .
 ¶ Etoisel head nom becas . pur fere magiaunge des razuch .
 ¶ pres du riuier est pris alas . ke totez les taupes de ci hi a paris .
 ¶ lechaunt de korel est retous . li sunt taupaines en pais .
 ¶ Enest guers deliciouz . ¶ menz amase ensemenc .
 ¶ poynelerent si riotule . S i no le huisse a talent .
 ¶ Silun chaunt fu graciouse . Char de cerf ou de leoun .
 ¶ ¶ plus est or en oriol . li chaunt de aleie ou de pou .
 ¶ li la norre lorhoil . ¶ menz ame hoa de pou .
 ¶ pre le frantours des vestes . li en lescheremach de pou .
 ¶ du hoy .
 ¶ ¶ chauncer plus quant me lise . ¶ de pou la lele coulbe .
 ¶ pur dor le estres du boyse . donne delit a la veulbe .
 ¶ brok . aldoske of breirs
 ¶ J o vi venuer un gant tesschom . Je vi a de lors la dame .
 ¶ li ad guerpi carnanschom . ¶ u u oisel plume a gist la plume .
 ¶ pur les feus du gypur . ages ki li seit li ad plume .
 ¶ li ad nus en gel . menz wdroie q il ve uois bludie .
 ¶ Emaudist seit le mauputoris . Je vi ester un peat uena .

Sur la ruitre heest dit lein
 angulier
 En la matin tenu vntueyn
 sieth.
 Pescher wut ne pout pur ceyn
 ore pur vntcharret
 descuire le fumoir
 kart.
Puis vntcharret desauere
 esfumoirs wnt en lincey
 veles.
 Ount les roos wnt au primour
 bontes
 pur les Wendens li sunt entour.
 Desouz les bendens qe sunt de fer.
 Sunt les iantes attachez de fer.
 spiles.
 Elos iantes entrent les rais.
 bemes.
 E du solaril issent les rais.
 E de la mer viennent les rais
 salines.
 E ver la feure wunt les rais
 varres.
 Ayes les rais de charret
 nayes
 En les moyeaus ouint lur cete.
 nayes Bel
 dit li moyal de la rof
 polie. hci
 Tuodret au moualbel teloef
 Je su fort a ses portes
 Gies feste li autre luy a manger.

avertir
 pumes
 li p deuz heces se tient ouzel.
 cloues.
 les esceles vnt lur innies
 li les eident cum lue stres
 artwy.
 Sur les esceles gis le chartel
 pur sauoy le prul
 le chartel est de bechens
 lein liez a les esceles
 Ester le chartel ele moyeaus
 Sunt hurciers trouez deus
 E chescune charret li meire blez
 vonges.
 D est auer rideles au costez
 stances.
 En les rideles wunt wiloms
 nayles.
 pur les trus sanz nulz clamans
 lecherous
 E si outre les moyeaus sont sanz
 ledres.
 D ent ntaut a noum eschere
 ayes pur estre plus accillons
 des esceles plus wntoms
 avertre clout
 Jil ad esel e assel
 armes
 Guierz kisad anoun esel

Il estatly lyoms sur les escaus.

Gules moycaus sunt les escaus.
arue holles.

Ayes les a seclez auz w.

En ambes deuz legbras a de lous.
villes ville hors
En lymous veet li lymosser.

Riades porte le dossier
bonibevp.

En ventre le ventre
cavlyvp.

Cala coulbe le hanter

Ventire e ventire ia

Dliers cum uo orez ia

Ventire est appremant noire

Vne femme hie est demoire

Pur eider en cas la versine²
childing.

Aut cle gira en gysme
bonibevp.

Mes appremant dist hom ventier
ville hors

Al au ventre porte li lymouer
eyhe.

L'irancs ad la bracerole
bichiques

Li les lymous en brac e sole
pinnes

Devant les bracterolez sunt bellez
Tales decottus ou de hachez

ham brolbes
les couls de chians portent esceles.
homies.

E colers du qui en lui osseles.

En la chante et le somer

La ou see le character
halingbyp.

S'il character est saincte

Dunt ces chians en cors vaste.

Dunt ad que le appent

Kar a taunt suffit qui leutant.

Ayes pur estre plus sacheant.

Uo durrat enz ce pisse amant.

Que en meyn tendra le character.

E quel enem auera le caruer.

Li character auera la morte
god.

Ayes li caruer la aguilloun capte
hors come

E li character este auera

Dunt ces chians conureta
scorne

E li totaures nctue agaz
Wise.

Ki ben ne fute de toulas

Emz quil seent embueret
Watred

Ayes au sen serrant waes

Vayour iad appremint
 Geo dist li auctour li ne ment
 Dunt les boefs e les chivaugis laez
 E deutes autres bestes sunt laez
 Ore le frumentz des pratz
 De carue
Puis li des hore suffit du chant
 De la carue ore me entremet
 En la carue auz wns
 Divers rounz e merveillons
 primes le chef e le penoun
 l'emanuel e le tenoun
 par desouz est le cozoouloun
 G plus amont est le stachoun
 l a sole ausi e le waten
 A uera carue de deuer
 ayes war li ne tache
 l a roke la ronche
 G longe la carue gis la haie
 li vent du wz ou du haie
 l a carue ad un maillet

Gvn troundillot
 Deuant la clair sunt clarounz
 Ou sunt atachez les tenounz
 yokes
 Les weys portent les ruz
Gpur cristencs e pur gis
 G par les arzounz en us temps
 Sunt les boefs q forte arez
 li les couent mangier lour
 par le agouiloun eschir errur
 ore pur mesoun edien
Sild auz empesier
 mesoun ou charmeur eschier
 Il couent au comencement
 il est lune fundancier
 Epins leucresz w la nacle
 Dunt femme est dit nacle
 Car este est mur que clost la carue
 G nescir ou tourable aout
 ayes il iad nescir e nacle
 Entendez en divers le maner

L'haillard.
 Ly mesere ad li chaumpx en cure.
 Mes mesere fet mesoun lunc.
 Sur la mesere entrauctor ouer.
 A mount le celier metez le poutre.
 Au picler de lousz le poutre
 De chevrefre liez le poutre
 En vre soler desuz le poutre.
 Tenuz telleours nitez ouer.
 E desuz les scellours la platerie.
 Deslours ou de platre laire
 Sur la mesere les traes meserez.
 Deux chevrefours un couple facez.
 Riforme chene sur la mesere
 Parknul e paravene
 Dunt infante se comble uouen.
 Ou tre amouent la mesere
 Conent enlunge auer gentour.
 Dunt le comble est mult plus sur.
 Pur le bate de le comble apert.
 Esqu'il leit trop bien conuer.

Mes pur plus avant parler.
 Ne deuez ublier latres
 Kil ne conent auer gencouers.
 Edous fichez en vos mesours.
 Sylentes.
 Et reuehous a la mesoun ame.
 Car pur apeise le w dir
 Mes chescun home ne leet pas.
 Kil est difference en ceo cas.
 Spicutes.
 Car reuehous sunt a mesamele.
 Guaburgs.
 Et reuehous a plusur desplese.
 E a chunus nomement.
 Tenehous apel hom premet.
 Encore fait plus alaure
 Endrent de mesoun odifer.
 De dret deuor ioyent ester
 louer.
 Il i auemere e la fructe
 A ueme e auendre ia
 A l auemere su me iste
 Car auemancis est aueme nomie.
 Kil a est louer appelle

Mes eco est apperment au mante.

O u le manteuaude evirante.

A l'entre del hys est la lynde.

Goutte la teste est la sultane.

Decoste sunt gyneaus deus.

O usint fichez les auans.

G u b n g ymel sunt les gonne.

S i deuz vertueles eomis.

Ore feces clie en serrure.

S iert la mesun plus sure.

Oe pur attirer le fu.

G etez ore preit appamaller.

La trious pur soms tost mangier.

V ne valent de w quatrie.

V a coust munder cele astre.

Portez les crundres au fumer.

L es astreles fetes au lumier.

Par un cyloun de fu en pris.

Li de la quisine sera pris.

L es astreles mettez en trauers.

stand huncies.

hamborg.

S i des osceles du chual

f z h des.

F a t e z a s c e l e s w o s f i r s m a i

M e t t e z au fu a s c e l e d u c h e m e

holle ayho

C ou p de a u n e ou de f e r y a r

v e n t h e

G u a d u n c q u e r e la f u e

b e a t h e

O u r e u clo b e de f u t d e f e u

g r e n h e d

a x e s p u r la v d o u r d e s a s c e l e s

s p a r l i c y

J eo ne vei issir e s t e n t l e s

u m b r e s

V a q u e r e b r e l e s e n v n t a k e

A t t e z le f e u se vient le w s t e

Ore a g a r d e z v e a n d u x f i r e

g l a d i n g

H e au e r e z to st ve le h e t e

h u y s s e l e s

G a r d e z w o d r a s d e s f l a m m e t h e

M e t t e z e n b r e l e s p e n c e p e c l e s

Ore pur attirer bel la mesoun.

D u n d e s la mesoun si la u n g e s

A s t e z la t a b l e si la couerez

h e u d e s

L es lous de la t a b l e e t e s e u r e s

C ou e r e z de n a p e devant le g i n

Aument ki eo pout seit estable.	La rouché servier dit des ^{bees} ees de blaunchenape couerez la table.
E la fetunde aussi couerez	E un pfer singulierement
de blanche nape si w th leez	A u hony bee est appremet
^{soy} Si lanape seit trop sale	E appremet vnde des ees
^{halle} Est mie auerant en sale	En engleis est a suarne of bees ^{homy come}
kar blanche nape mult vle.	E cest une breche de mel nome
^{biselet} vaut plus ke noule en wulke.	Kien larouche fuit les ey degre.
Vaies les hanapes mendez les qles.	Ore pur dimer se paroles
Coupez des cyfours de vribles legelz.	^{mailes} Ne quillez genz vel a mangier.
^{fleysh hoch} va au quistrotin ou toun hanez.	E t puez meimes alloier
Esterre le chagis del poitiez	Taillez eo pain qui est pare.
^{hum} Emettez ve ^c verle rouché	^{pargnes} Les bisscaus seient pur den done.
desir ws po ^s trouv pas la rouché.	Qui cotel trenchons les bisscaus.
^{sz hikke} puz ionct ki ta coycx i lenche.	Qui quiller triangonis tricantis.
^{sz helkinton} de yn luchere surz la rouché.	E russes eo pain qui bent defourn.
^{Wele} Emettez la terrie al ydol de lich.	Debrusles cel os de venour.
^{Wellbit} pres de la rose que ia en festrich.	Rumpes la cord que fet iustice.
Mes a la vle rouché endurroms	Enfirmez ouenant de deceintance.
Ou plus aprendre i pouys	^{lages} partiez valz en w escous.

Le batanc sor de frachel wus . Si avez wulst mouen amis ,
 Kar parduaunt sunt vos esdous . Il emprirect samere
 Et enoste sunt vos gerouins . Ki cle le feise un baantere
 Edonez rost a celin peltry . Aves veer si vient mestre hugo
 He porte un chape de herum . Ki ren ne parle si une buge .
 Cy vint un garzoun esclauoie . Mes de femmes ar de demys gitez
 La prune wert ia nustre . Ki par orgoule seaforcent tant
 Kar trop auera des esclauos . En parler blescer tut dis .
 Ki du chival sulde les esclavos . Whi pen
 Fens estreit de puauant sonz pur meuz plenier a lur amis .
 fest faire nape egrace chouiz . A usi ad u tresser escouper .
 Gher le geart al huis de estable . Eal qui trop laumber au que .
 f et blanche napremegir able . Ki mout de ruge seruele bet .
 Deus garzouns chacent gitez pie . Wamblez
 Achescun mot lun bauleye . Dourcet li estent escouper .
 Ghautre ne pent parlez . Sieve cheuilles suoviles
 Vuc parole sanz nascie . Eal que moache malche ougome .
 mes tenuie chaut sil nascie . Vngant gate li mettez wiste .
 Kar il ne vaut pas un aille . Car rup li estent tresuen .
 Eli mens vaut il baane tut dis . O uil wimera mangre wen .

gaunte est e allegement
 vre le suauit p vñ feste auer
Gauant de la nouelere ,
 ai vnt her de vñ mangerie
 Et la fete nō aduente
 Cum luer scrulse fust arac
 gaunt pain vñ e cerueise
 Heserent nulg a feste aese
 mes tut treis mout en lz
 sien hureut nos ad diz
 mes de autre feste a parler
 des cours hil vrent au manger
 primes la teste de lengler len arme
 Ele groin plen bauuere
 Puis veneloun ouc la formante
 pur incinte autre duer lete
 Geus penus e cynes
 Cheueaus pur ceaus egelince
 puis auerent conden grane
 Trestut de zugre en simbre

maces qui bives edous glofrez
 Gantir espuerie aseuz
 V i aunde de typer et maumente
 v in vermaille e blauinc aplente
 Puis tout autre foysen de roste
 Chetun de eas autre en coulter
 wodoches
 & cyzams aseuz e pdiz
 feide faire la rkes
 Gruies alawes e plouers rostiz
 Bravoun cristes e frutine
 O ue zutre wolt latempire
 Gant la table fust oustre
 Blanche poudre en girole drage
 Et autre noble au forsoun
 Enli w fuit este sarmorn
 Car du frauncis iadallez
 G de menite auanci diuetez
 Dunt w fuit scignur enauant
 Amet .

Gautier de Biblesworth : *Le Tretyz*

I. Text

British Library, MS Addit. 46919 ff. 2^r—14^v

Prologue—ll. 1253

Coe est le tretyz ke Mounsyre	[2 ^{ra}] ①
Gautier de Biblesworth first a	②
Madame Deonyse de Mountechen-	⑧
sy ke nous aprendra le fraun-	④
ceys de plusour choses de ce mound,	×
pur fyz de gentyls home enfour-	×
mer de langage. Dount tut dys	㉖
troverez le fraunceys <i>e</i> puis le	㉗
Engleyeys pardesus.	㉘
Chere soer, pur ceo ke vous me	×
pryastes ke jeo meyse en ecryst	×
pur vos enfaunz acune apryse	×
de fraunceys en breves paroles,	×
jeo l'ay fet soulum ceo ke jeo ay a-	×
prys <i>e</i> soulum ceo ke les paroles	×
me venent en memore, ke les en-	×
faunz pusent saver les propretez	×
de choses ke veent <i>e</i> kaunt dey-	×
vent dyre: <moun> <i>e</i> <ma>, <soun> <i>e</i> <sa>,	×
<le> <i>e</i> <la>, <moy> <i>e</i> <jeo>.	×
1 Femme ke aproche soun tens	1
De enfaunter moustre sens,	2
Kaunt se proveyt de une ventrere	3
4 Ke soyt avysee conseylere.	4
Kaunt ly enfes serra nez	[2 ^{rb}] 5
Cel enfaunt dounk mayllolez,	6
En soun berz l'enfaunt couchez	7
8 De une bercere vous purvoez.	8
L'enfaunt comence chatouner	9
Ainz q'il sache a pez aler,	10
E kaunt yl baave de nature	11
12 Pur sauver ses dras de bauveure;	12

	Vous direz a sa bercere	13
	Ke ele le face une bauviere.	14
	Sy toust cum l'enfes comence aler	15
16	De tay se veut empaluer,	16
	<i>E</i> pur mahaim <i>e</i> pur blesceure	17
	Garce ou garzoun, le deyt sure	18
	Ke il ne ceeste ne ne chece.	19
20	Ensi covient bone pece,	20
	<i>E</i> quant il encourt a tel age	21
	Ke prendre se puet a langgage,	22
	Primes en fraunczoys le devez dire	×
24	Coment sont cors deyt descrire,	×
	Pur l'ordre avoyr de <moun> <i>e</i> <ma>,	25
	<Toun> <i>e</i> <ta>, <i>e</i> <soun> <i>e</i> <sa>,	26
	Si q <i>e</i> en parole soit meuz apryz	27
28	<i>E</i> de nul autre escharnys.	28

	Ore de la premere propreté pur quan-	[2 ^{va}]
	qe aprent a la teste	×
	Il i ma teste ou moun chef;	29
	Et la greve de moun chef	30
	Ffaitez la gryve au lever	31
32	<i>E</i> mangez la gryve au dyner.	32
	Jeo ay le cheveus recercilez,	33
	Mon toup, vous pry, estauciez :	34
	En vostre chef <i>vous</i> avez toup,	35
36	En la rue jueth ou toup ;	×
	<i>E</i> serencez du lyn le toup ;	36
	<i>E</i> a la lute derenez le toup.	37
	Il i a ausi moun hanapel,	38
40	Moun frount e moun cervel	40
	Moun haterel ove les temples ;	41
	<i>E</i> les moustiers dist om temples.	42
	Vos regarz sount graciouses,	43
44	<i>E</i> vostre eul est chacious,	×
	Mes <i>vous</i> eus sount jaciouses.	44
	Des euz oustez la chacye	45
	<i>E</i> du nes la rupye.	46
48	Mieux vaut la rubie par < <i>b</i> >	47
	Ke ne fait la rupie par < <i>p</i> >,	48
	Car si bourse eust tauut de rubyens	49

Come le nes a de rupyes,	50
52 Riches serroyt de perrye	51
Ky taunt eust de la rubye.	52
De l'euyl est sauvé le purnel	[2 ^{vb}] 53
Si le paupere soit bon <i>e</i> bel.	54
56 En les pauperes sount les cyz ;	55
Amount les eus sount les sourcyz.	56
Le nes deyt aver par resoun	×
Deus narryz <i>e</i> un tendroun.	58
60 Mes war ke le chuhe	59
Ne touche nostre jouhe.	60
Vous avez la lievre <i>e</i> le lievre,	61
La livre auxi <i>e</i> le lyvre :	62
64 La lievere si enclost le denz,	63
Le lievere en bois se tient dedenz ;	64
La lyvre sert en marchaundye,	65
Mays le lyvre nous aprent clergye.	66
68 En la bouche amount en palet,	67
Tasterez vous chose orde ou net ;	68
<i>E</i> les dames sont ententives	69
Pur bien laver lour gentyves,	70
72 <i>E</i> si est l'encheisoun certeine	71
Qe eles le fount pur bone aleyne.	72
Col y a gorge <i>e</i> mentoun	73
Dount le fraunczois est commun.	74
76 Desouz la launge est la fourcele,	79
Un os fourchee ke fraunczois si apele.	80
Dedenz la gorge est la gargate,	75
Le meyns de dame sount aseth beles,	×
80 Mes se dens sunt agaceles.	×
<i>E</i> checun orayl si ad molet	[3 ^{ra}] ×
E de la bouche veient crachet.	×
Et plus parfound si gyst la rate	×
84 <i>E</i> si ad le wenne au col derere	×
En droit de l'art plus ma fiere.	×
En chef devaunt est la founteyne,	87
La sovereyne lievere <i>e</i> la souzeine.	88
88 En la bouche sont messeliers	89
<i>E</i> denz foreyns, si tu les quers.	90
Au col avez un fosselet,	91
Desouz la launge est le filet.	92

92	<i>E</i> pur certefier la parole Conoistre covient la cakenole.	95 96
	Desouz le orayl avez gernoun ;	95
	A l'espaule avez blazoun.	98
96	Desouz le braz avez essuyl ;	99
	Desouz la charette ausy le essuyl.	×
	Sour la mountaigne sourt le broyl,	101
	En basse terre ad bon soyl.	102
100	Entre pledours sourt le toy	103
	Le vent de byse greve l'uyl.	104
	Aprés le aust si chet la foil ;	105
	Aprés gelee si vient remoyl.	106
104	Par deray cheet sovent duyl	×
	Cestes paroles ensy <i>vos</i> koyl,	107
	La resoun pur quey dire <i>vos</i> vuyl,	108
	Pur mieuz acorder en parlaunce	109
108	<i>E</i> descorder en variaunce.	[3 ^{rb}] 110

	Ore des autres membres du corps endescndaunt aval la teste	×
	Ne est mye mestiers a descrire	×
	Du fraunczois qe cheascuns siet dire :	×
	Espaule, braz, ne la peytrine,	×
112	De ventre, dos ne de l'eschine.	×
	Mays jeo <i>vos</i> fray moustreysoun	×
	De choses noun pas si comoun.	×
	Des espaules yssent les braz,	111
116	Les coustés ne meyns ne lerroms pas.	112
	Mais pur estre en tout certain,	×
	Vous dy du cou de la mayn,	×
	La paume dedenz, la clae dehors.	115
120	Le poyn est dist, kaunt mayn est clos.	116
	<i>E</i> ly feel fert du poygnoun	×
	A travers soun compaignoun.	×
	<i>E</i> une poignee, qe avez en mayn	117
124	Ceo est la mayn trestote pleyne.	118
	Deus mayns ensemble viides ou pleynes	119
	En fraunce sount nomes le galeynes.	120
	Car mieux voudroie petite poignee	121
128	De gyngyvere ben tryee,	122
	Qe ne feyse cent galeynes	123

De filaundre totes pleynes.	124
Ore du fraunceys pur quantqe vous avez par dehors le corps Une coste du costee ;	[3 ^{va}] × × 125
132 Adam en out Dieux oustee Quant dame Eve primes fist. Ne vous enchant purquey igyst Ne purquey le mot vient en place.	126 127 128 129
136 Mais bon est qe om le fraunczoys sace De la coste, qe signefie, Car tote gent ne le sevent mye. Par venteresse en ventre	130 131 132 ×
140 Le payn de fourment entre. Enmy le ventre siest le oumbyl, E par desouz est le penyl. Quisses, nages, ove la fourcheure	× 133 134 135
144 Fount grant eyse pur chivauchure. Jaumbes e geneus conoissez : N'a mestiers qe vous soint touchez, Le jaumbes saunz genuz e garez	136 137 138 139
148 De engenuler serreint trop rez. Al garez ount ore gareters Nos garzouns, nos esquiers, Ne mye pur estre chareters,	140 141 142 143
152 Mes pur sauver lour layngneers, E les garettes avez auxi. Pur cele aprise le vous di Qe illeok selye om de garetiers,	144 × [3 ^{vb}] × ×
156 Si vint l'usage de charettiers. En la jaumbe avez le assure, E taunt come braoun i est ensure De meilloure force om se assure	× 145 146 147
160 Si le skanel soit saunz blesceure. Ausi avez vous les kevilles : Mais n'entendez pas kivilles, Car keville fait home ferm ester	148 153 154 155
164 E kiville fait ly carpenter. La keville du pee, un kivil de fust Vodrey ben ke checun conceust. La plaunte, les ortyz, les talouns	156 151 152 149

168	Dount le fraunczoys est comuns.	150
-----	---------------------------------	-----

168	Ore de l'aprise pur quantqe vous avez dedenz le corps	
	Dedenz le corps ad cheascun hom	157
	Queor, <i>e</i> foye, <i>e</i> pomoun,	158
	Esplien, bouweles, <i>e</i> reynoun,	159
172	Estomak, veynes, <i>e</i> nerfs envirooun.	160
	<i>E</i> ne obliez ja la vescye,	161
	Q <i>e</i> au ventre fait graunt aye	162
	Pus q <i>e</i> l'urine i aquilloms.	163
176	Ne les reyns ne vos ublioms,	164
	Dount n'y faut sy le feel noun	[4 ^{ra}] 165
	De quanqe dedenz le corps avom.	166
	Vous avez la char, <i>e</i> le char,	169
180	Mes countregardez vous de eschar.	170
	Jeo vi la char seer en char	173
	<i>E</i> de la char fere eschar.	174
	Eschar par folour hom revilyth ;	171
184	La char par hydour en home fremyt.	172
	Ses par dolour ensethisent	175
	Le nerfs de levour engourdisent.	176
	Homme <i>e</i> femme unt la pel,	177
188	De morte beste quyr jeo apel.	178
	Le clerk soune le dreyn apel ;	179
	Le prestre fet a Rome apel.	180
	Ore avez ceo ke apent a corps,	181
192	<i>E</i> par dedenz <i>e</i> par dehors.	182

168	Ore de vostre vesture aveok trestout l'autre harnoys	
	Vestez vos dras beau douz enfaunz ;	183
	Chaucez vos brais, soulers <i>e</i> gaunz,	184
	Metez le chaperoun, koeverez le chef,	185
196	Tachez vos botouns <i>e</i> pus derechef	186
	De une corroye vous ceyntez.	187
	Ne di pas : <Vous enceinez>,	188
	Car femme est par homme enceinte	189
200	<i>E</i> de une ceinture est ele ceynte.	[4 ^{rb}] 190
	De la ceinture le pendaunt	191
	Passe parmy le mordaunt,	192

<i>E</i> eusi doit le hardylloun	193
204 Passer par tru de subylloun.	194
<i>E</i> si a i moun aumoner,	×
Ma bourse, <i>e</i> moun agoiller,	×
Moun cotel auxi, <i>e</i> m'espree,	×
208 Dont li enfes ert enformee.	×
<i>Qe</i> quant la table ert oustee,	×
Les coteaus serront suwee	×
<i>E</i> vostre espee terderez,	×
212 Mais nostre nes i mucherez.	×
Ore du fraunczois pur nur-	
rir vos enfauns a la matinee	
e a la vespree	
Si jeofne enfaunt <i>vos</i> tend la mayn	195
La matinee vers la payn,	196
Une bribe donk le donez.	197
216 Ou une lesche, si plus ne avez.	198
Mais si <i>vos</i> le donez des oefs,	199
Ensi les atyrez a son oes	200
Oustez l'eskale ainz q'il les hume,	201
220 L'entruit ausi <i>e</i> le aubume,	202
Si le donez le moel.	203
Ke a home sein est bon morsel	[4 ^{va}] 204
Mais le germe <i>vos</i> en oustez,	×
224 <i>Qe</i> a nul ne apruve se sachez,	×
Remuez <i>vos</i> di le germinoun	205
Mal a desire pur checun hom.	206
<i>E</i> de droyt enfaunz cleymant,	210
228 Manger poumes <i>pur</i> ceo k'el eyment.	209
De pomes <i>vos</i> di ensement	207
La maniere <i>e</i> le affaytement.	208
Oustez l'estiche <i>e</i> la parure,	211
232 Si li donez la morsure.	212
La pepigniere vous engettez	213
Si les pepignes ne plauntez.	214
Ore de bestes <i>e</i> des oyseaus, che-	
ascune assemblee par son naturel	
Langage en diverser <i>e</i> de lour nouns	
Beau douz enfaunz, <i>pur</i> apprendre	215

236	En fraunczois devez entendre Qe de tote manere de assemblee Des bestes qe Dieux ad fourmee <i>E</i> des oyseaus ensement	216 217 218 219
240	Parler doit om proprement. Primes ou cerfs sont assemblee Une herde est apelé, Des gruwes ausi une herde,	220 221 222 223
244	<i>E</i> des gryves sanz <h> erde, Nyee de feisaunz, kovee de perdryz, Dameye des alouwes, tripee de berbyz. Soundre de pors e de estourneaus,	[4 ^{vb}] 224 225 226 229
248	Beveye de heyrouns, pypee des oyseaus, Greille de gelynes, tourbee de cerceles, Luire de faucouns e de puceles. Kar pucele seet saunz juper	230 234 235 236
252	Les gentiz faucounz allurer. Eschiele dit om de bataile, Fuisoun dist om de vif aumaille. Haraz dit om des polainz ;	237 238 239 227
256	Ffoleye dist om de vilains. Bruit de barouns doit om nomer Ffrape des clerz par droit dever. Array i a des chivalers	228 × × ×
260	Route i a des esquiers. Des burgeys i a auxi route, Des ribauz e des boefs sanz doute. Some de ble, some de biens ;	×
264	Masse de argent, femier de fens. Compaignye de dames direz, <i>E</i> des ouwes ensy le frez Ceo deus sont associez	×
268	Quelle est la resoun ore elysez. Meute des chiens en venerye, <i>E</i> de corneyr, quey qe hom dye. Mais pur plus parfitement	×
272	Parler devaunt bone gent, Il i a saufler, venter e corneer, Dount la raisoun fait a saver. Le feu soufle, li quystroun,	×
276	<i>E</i> le vent vente parmy busshoun.	×

Mais venour proprement corneye	×
Quant chace prent de pure preye.	×

Ore de naturele noyse des bestes e des oyseaus	
Ore oez natureument	244
280 Des bestes le diversement	245
Cheascun de eus <i>e</i> cheascune,	246
Solounc <i>qe</i> sa nature doune.	247
Home parle, ourse brae	248
284 <i>Qe</i> a desmesure se desrae ;	249
Leoun romyst, gruwe groule,	251
Vache muge <i>e</i> koudre croulle,	250
Chival henyst, alouwe chaunte,	252
288 Columb geent <i>e</i> cok chaunte,	253
Chat myngnoune, serpent cyfle,	254
Asne retane, cyne rescyfle,	255
Lou eule, chen bae,	256
292 Putoys par afry garaye.	[5 ^{rb}] 258
Gopyl cleye, tesson traalent	259
Quant li venour prendre le veut.	260
Ouwe jaungle, garz agroille,	261
296 En marreis ane jaroille.	262
Mais il i a jaroil <i>e</i> garoil ;	263
La difference dire <i>vos</i> voyl ;	264
Le ane jaroille en rivere	265
300 Si nul du faucoun le quiere,	266
Mais devaunt une vyle en guere	267
Affichent le garoil en tere	268
Pur le barbican defendre	269
304 A l'assaut <i>qe</i> om i veut rendre,	270
Si <i>qe</i> la porte n'i perde rien	271
Cyl guerreour le sievent bien.	272
Mais a la noyse rediroms,	×
308 Ou plus aprendre i purroms.	×
Crapaud Koaille, reine gaille,	273
Coleovere proprement regaille.	274
Purcel gerist, sengler releye,	275
312 Chevereaus cheyrist <i>e</i> tor torreye.	276
Troye groundylle, quant drache qert ;	277
Ffauncoun tercel le plounczoun fert.	278

	Gelyne natureument patyle	279
316	<i>Quant pounté en jardin ou en vile,</i>	280
	Kar de Fraunce ay tel estille	[5 ^{va}] 281
	<i>Qe geline hupee pount e patylle.</i>	282
	Mais l'estreignal e la nascye	×
320	Destourbent <i>qe ne pounent mye</i>	×
	<i>E ky trop se avaunce saunz reson.</i>	283
	A la gelyne est cumpaignoun	284
	<i>Qe plus se avaunce pur un oef</i>	285
324	<i>Qe pur sa arrure ne fait un boef.</i>	286
	Et <i>quant la gelyne chaloyse</i>	×
	Et de trepyller fayt la noyse	×
	Des oefs le donez germoez	×
328	Noun pas <i>qe sont estergulez.</i>	×
	Berbyz baleye, dame bale,	287
	Espiecer prent ses merz de bale.	288
	<i>E du baleys hom baleye</i>	×
332	La sale, ainz <i>qe la nincheye,</i>	×
	Par trop veiller hom baaille ;	289
	A son serjaunt sa chose baille.	290
	Aprés dormyr hom se espreche ;	291
336	Ly prestres en l'eglyse preche ;	292
	Ly pescheour en rivere pesche	293
	De sa rey ou de son hesche.	294
	Le fayilly leest sa tere freesche	295
340	Pur acheter la char freesche.	296
	Sa femme va mener la treesche	297
	Plus ly vaudreyt en main la besche,	[5 ^{vb}] 298
	<i>Quant ele va ou se abesche</i>	299
344	A payn ne a bribe ne a lesche,	300
	Son chael la paele lesche.	301
	Pur la vyaunde salee ou fresche,	×
	Ore donez ceo chael a flater	302
348	<i>Qe leesche la rosee de l'herber.</i>	303
	Eschvez flatour ke seet flater	304
	<i>E les genz espeluper.</i>	305
	En toun chaperoun ne vut lesser	306
352	Un poytun, taunt ad cher	307
	Ne pas vous, mes toun aver	308
	Ke desire de toy aver.	309

Ore de diversete de fraunczois	
Ke sounet tut un en un engleys	
Veez, Ci vient devaunt vous	310
356 Un tresbeau chivaler rous,	311
Un destrer sor est ja mounté	312
Le esku de goules ad porté,	313
Une launce rouge en l'une meyn,	314
360 De vin vermail en l'autre pleyn	315
Qe ne manjue point peissoun	316
Si del hareng sor noun.	317
Ore de autre diverseté de aprise	
Jeo vey une reyne saunz rey,	318
364 Pur une reine faire desrey	[6 ^{ra}] 319
Qe enmy le reaume le rey,	320
En un reoun siet en une rey.	321
Oncore de un autre	
Un vilain vient en ma forer	322
368 Ou par despit fit foreine heer	×
Qe ainz oy foreiner,	323
Et dist q'il voloit foreer	234
Dount jeo le fesay forveyer,	325
372 Le lievere ke vint la foreer.	×
Ore de l'aprise pur ceo qe apent	
a pree e ensement a chaumps	
Ore aloms as prez e as chaumps	326
Pur enfourmer nos enfaunz.	327
Du fauz fauchez une aundeyre de pre,	328
376 Du faucyl syez une javele de ble.	329
Vos javeles en garbes lyez ;	330
Et en trusseaus vos garbes mettez.	331
Un warot de poys araschez	332
380 E les favaz du warrot lyez.	333
Et si n'a mester qe vos dioms	334
De tote manere de ble les nouns,	335
De segle, d'orge ne furment,	336
384 Qe comuns sont a tote gent.	337
Mais de autre semail trop i crest	338
Qe a cotniers assez desplest.	[6 ^{rb}] ×

	Le yveray i crest <i>e</i> le betel,	340
388	Le hazoun ausi <i>e</i> le nel,	341
	Le blaverol <i>e</i> le mauve ausi,	342
	Karoil <i>e</i> autres q <i>e</i> ne vos di,	343
	Kar trop i averoit ore a faire	344
392	Touz semaus ensi attraire.	345
	Mais <i>quant temps</i> est de carier,	346
	Vos charettes faites charger.	347
	<i>E</i> ses chivaus doit charetter	348
396	De sa reorte demener,	349
	Dount ci a double entendement.	×
	Q <i>e</i> totes genz ne sievent nent.	×
	Li carrettiers ad sa reorte	×
400	Mais carruewers le agoilloun eu porte.	×
	En la graunge vos bles muwez,	350
	Dehors la graunge vos bles tassez,	351
	Car une moye est dit en <i>graunge</i>	352
404	<i>E</i> un tas dehors la graunge.	353
	En graunge gardez vous de arestes,	356
	En chaump vos blez d'autre bestes.	357
	En sale chaunterez les gestes	358
408	Pur ublier grefs <i>e</i> molestes.	359
	Mes si <i>vos pries</i> genz a vos festes,	362
	Priez ceus q <i>e</i> sont en enqu ^{est} es.	363
	Moylloun apelez ceo ke est de feyn,	354
412	Et tas ceo ke est de greyn.	355
	A moustier verrez deguysee testes,	360
	Pur les malices, ke sont si prestes,	[6 ^{va}] 364
	De fere grevaunces <i>e</i> molestes.	365
416	Mes si desavisee poynt ne estes	366
	Ke a ceus doynnez les chars restes.	367

**Ore de l'aprise pur pestier vostre
pain au four**

	Qaunt vostre blee est ben batu,	368
	Pus ventee <i>e</i> pus molu,	369
420	Par le moudre devient faryn	378
	Ceo q <i>e</i> en grain fu hui matyns	379
	Et du faryn veent le flour	380
	Pour le bolenge le pestour ;	381
424	Car par bolenger est severee	382

Le flur de four fere demoree	383
A vos chivaus le fourfre donez.	384
Eawe teuve a la flur medlez	385
428 <i>E</i> vostre past ensi pestriez	386
De un rastuwer le auge moundez,	387
Dont il i a rastel <i>e</i> rastuer	388
<i>Qe</i> servent de divers mestier.	389
432 Le pestour use le rastel,	390
Mais rastuer fait auge bel,	391
Les rastel <i>e</i> le rastucheer	×
Sount divers en lour mester.	×
436 Taunt cum feyns sount a preez	394
Est ly rastel manyeez.	[6 ^{vb}] 395
Kaunt le past a l'auge aert,	×
Le rastuer dounk lour seert.	×
440 Eschaufez le four de feugiere	396
Pur defaute de litiere.	397
Litiere <i>e</i> litier sont divers,	398
Descordaunz dient ceus clerz.	399
444 Li faucheour litiere fauche ;	400
Pur eyse en litier hom chivauche.	401
Mais ceo est litiere sanz faille	402
<i>Qe</i> en pure frauncé dist om paille.	403
448 Pail <i>e</i> paille sont nomez	404
<i>Qaunt</i> du grain sont severez,	405
Et si du paille n'i ert pas,	406
Pernez donk le pesaz.	407
452 <i>E</i> <i>qaunt</i> le four est eschaufé,	408
Du peel soit le past entree.	409

Ore de l'aprise pur <i>quange</i> apent	
a bone mesure <i>e</i> sage	
Quaunt nostre past est au four	410
<i>E</i> de pestier i prent sojour,	411
456 Endementiers la mesuere	412
Ne serra pas trop nounchaliere.	413
Ore alez semer vostre lynois	415
<i>E</i> ne ubliez ja le kanois.	416
460 Alez same mesuere,	×
Seez bone curtilere	×
Car du lyn avez les boceaus,	[7 ^{ra}] 417

	<i>E</i> du kaunfre les cordeaus.	418
464	Vostre lyn par temps sarcliez <i>E</i> par temps le arraschez, <i>E</i> derechef le sarcliez <i>E</i> donk au puiz le rehaez	× 420 419 421
468	<i>E</i> pus au solail le sechez. <i>E</i> pus au batre vous aforcez En yver si <i>vos</i> eschaufez. Et <i>pur</i> tout savoir, mult fait bel,	422 × × 423
472	Seir <i>vos</i> covient au pessel <i>E</i> <i>qaunt</i> au pessel ad son never, Donk irez au rastuer, La serence dounk <i>pernez</i>	424 429 430 431
476	<i>E</i> vostre lyn i serencez ; <i>E</i> pus du conoyl <i>vos</i> purvoiez, Mes les fusil ne lesez, Kar ni faut si fusil noun	432 433 434 ×
480	<i>Qe</i> a mesuere deviserom. Sauve le vyrel <i>qe</i> a ceo suffyst Ne say <i>qe</i> plus <i>vos</i> serra dyt. Mais ci ad ore diverseté	× 435 436 437
484	Dont cheascuns n'est mye avisee. De treys choses sert le fusyl : Le fyl est fillee du fusyl, <i>E</i> feu du kaillon fier fusyl,	438 439 440 [7 ^{rb}] 441
488	<i>E</i> ble est molu par fusyl. <i>Quant</i> vostre fyl est ja fyllee, <i>E</i> le fusyl est pleyn chargee, Au trahuil covient donk aler	442 443 444 445
492	Vostre fyllee trahuiller. <i>E</i> pus alez a la vudiere, Come de fylee est la manere Pur vaudeer aprés le trahuil	446 447 448 449
496	<i>E</i> pus aprés tister le voyl. <i>E</i> la tystresse, <i>quant</i> perru le a Tauntost ses tremes veudera, Ke fet hore dame Hude	450 453 454 ×
500	Un lussel de wudres vude. Si vous ay dyt <i>quantqe</i> apent Ffors si la lame soulement.	× × ×

Ore pur l'aprise de breser <i>e</i> de bracer	459
Puis ke desore suffist	459
504 Le fraunczois q <i>e</i> vous ay dyt,	460
Desore serroit a saver	461
Come l'en doyt breser <i>e</i> bracer	462
A la manere q <i>e</i> fait cervoyse	463
508 Pur faire nos hostes a eyse.	464
Alumez, auncle, la frenole,	465
E kaunt averas mangé de brachole,	466
Une kuve large p <i>r</i> imes pernez	[7 ^{va}] 467
512 <i>E</i> vostre orge i enfoundrez.	468
Et <i>quant</i> il est ben enfoundree	469
<i>E</i> l'eawe soit deskouvelee,	470
Mountez donk en soler,	471
516 Si le faites bien baleer,	472
<i>E</i> la cocherez vostre blee	473
Taunt q <i>'il</i> soit bien germoee ;	474
<i>E</i> de cele houre apelleras	475
520 Breis ceo q <i>e</i> aint ble nomas.	476
Pus le breis des mains mouez	477
En mounceaus ou en rengees,	478
<i>E</i> pus le portez en un corbail	479
524 Pur ensecchir au torail,	480
Kar corbail ou corbailloun	481
Servyr vos doit a fuisoun.	482
<i>E</i> pus serra le breis molu	483
528 <i>E</i> de eawe chaude bien enbu.	484
Si le lessez detoure ataunt	485
Hors de kouverel maintenaunt	486
<i>Dunsqe</i> en un koauge bel,	×
532 Aprés le sojour en koverel.	×
Taunt q <i>e</i> la braceresse entent	487
Q <i>e</i> ele eit berzil a talent,	488
Et <i>pus</i> le berzise prendra	489
536 De furment ou de orge q <i>e</i> ele a,	[7 ^{vb}] 490
<i>E</i> par le gest <i>e</i> le berzille	491
Dont om tut dys se sutylle,	492
Par droit never de bracerye.	493
540 Q <i>e</i> tout deviser nel peus mye,	494
Mais tout ensi de art en art	495
Attyree cheascune part	496

Taunt qe vos avez la cervoyse,	497
544 Dont hom devient si bien a eise	498
Qe les uns en pernent taunt	499
Dont il enyvrent maintenaunt.	500
Yvresce tient lays home a cherk ;	503
548 Home desconu fait avoir merk,	504
Yvresce fait fort home chatouner ;	505
Home aroee fait haut huper,	506
Yvresce fait koiffe de bricoun	507
552 Rouge teint sanz vermailloun,	508
E donk dist hom par saint Geoge	509
Trop a celuy beau gresse de orge.	510
A tieles le auctour se repose,	511
556 Qe parler pense de autre chose.	512

Ore du fraunczois pur pescher	
en vivere ou en estaunk	
Si savoir volez la manere	513
Come pescher devez en rivere,	514
Vivere est proprement nomee	[8 ^{ra}] 515
560 Ou eawe vive est troeve ;	516
Auques du cervor i espuchiez,	517
Si du peissoun i querez,	518
Et si vos faillez a tel estaunk	519
564 Ou l'eawe est a descoraunt,	520
Alez donk sanz delay	521
Ou l'eawe estiet en betonay.	523
E la pescherez vous de nace	524
568 Ou petite rey ne troeve grace.	525
Il i a nace e crievere ausi,	526
Comun fraunczoys a cheascuny.	527
Le nace est menuement oeverez,	528
572 Mais plus larges pertuz assez	529
Ad le crievere pur quey le dy,	530
Qe autre variaunce n'a de lui.	531
Mais retournoms a la matyre	532
576 Qe de pescher vos doy dire.	533
Le gurget ou nace reversez,	534
L'ordure lienz engettez ;	535
Crapaude ou lesarde si les trovez,	536
580 Serpente ne koelievre ne esparnyez,	537

	Gravele <i>e</i> cailloun enruwez,	538
	<i>E</i> le limaizoun destorchez.	539
	Et si du peissoun i trovez,	540
584	Par les vemberges le pernez.	[8 ^{rb}] 541
	<i>E</i> si il soit myluwel de mer,	542
	Overir le devez e espander.	543
	Le no tauntost en oustez,	544
588	Buwel, eschine ensi le frez.	545
	Si retournez vers maysoun	546
	Du gardin vers cele crevisoun	547
	Nous voloum porter le peissoun,	×
592	Par le veu verges a mesoun.	×
	Taunt <i>qe</i> venez au verd tenail	548
	Ou li pastour siet ove le aumail,	549
	Pus par ceo bois en cel oumbraiil	550
596	Passez par desouz le horail.	551
	Il i a horail par <h> escrit,	556
	<i>E</i> orail sanz <h> dyt.	557
	Desouz le horail se koevere larroun,	558
600	<i>E</i> de l'orail ot cheascun om.	559
	Mais ainz <i>qe</i> passe plus avaunt	560
	Du tenail <i>vos</i> ere plus disaunt,	561
	Pur ceo q'il i a plus de sens	562
604	Dount il i a tieu differenz.	563
	Il i a tenoun <i>e</i> tenail,	564
	<i>E</i> tenaylles de autre aparail.	565
	Le cotyvers tient le tenoun,	566
608	<i>E</i> par le tenail passe preudom.	567
	Mais tenailles servent de carbouns	[8 ^{va}] 568
	En yver, <i>quant</i> au fu seoms,	569
	<i>E</i> au fievere sert de custome	570
612	<i>Quant</i> du martel fier a l'enclume.	571
	Dount servent cy taunt de pieres	×
	Mes sount apelés passueres	×
	Pur passer sek les rousseus	×
616	Ke cy sount clers <i>e</i> beus.	×
	 Ore de l'aprise pur beau temps	×
	<i>e</i> pur tempeste	×
	Ore pleut, ore geele :	572
	Ore remoye, ore regele.	573

Par le geel avez vos glaz	574
620 <i>E</i> du glaz nient vereglaz,	575
Kar pluye <i>e</i> geel sount vereglaz.	×
<i>E</i> si ne vaut guaires trop haster	576
Sur vereglaz pur vereglacer.	577
624 <i>E</i> geel <i>e</i> pluye degoutaunt	578
Font le chemyn trop lydaunt.	579
Ore negge, ore cemoye,	580
Le cem empyre nostre voye.	581
628 La bouche me entre un aunfee de neyf,	582
Si quindent les uns <i>qe</i> soit pur seyf.	583
Nous avoms grisyl <i>pus</i> q'il ghee, greele	584
Auges grosse, noun pas trop gresse.	585
632 Jeo oy tonayre, voyre il toune,	[8 ^{vb}] 586
Dount la cervoyse empyre en toune.	587
Ore attendez, moun pee toune,	588
Nul de vous ja mot ne soune.	589

**Oncore de autre diverseté de yver
nayl tempeste**

636 Freyd est de yver l'orré ;	590
Un devinayl vous est moustré :	591
En yver <i>quant</i> l'orré chaunge	592
<i>E</i> le temps devient si estraunge	599
640 <i>Qe</i> maint home fait fort endurer,	600
Pur le destroit de l'yver.	601
Kaunt en yver l'orré chaunge	598
Une verge creest estraunge,	593
644 Verge saunz verdour,	594
Saunz foille <i>e</i> saunz flour.	595
Kaunt vendra l'estee	596
La verge ne ert ja trovee.	597
648 <i>Ked me pys redles what may hyt bee</i>	
Ceo est un esclarril en fraunceys	×
Ou yszikel en engleys.	×
Kaunt avez la mayn taunt estoumie	602
652 <i>Qe pur le froid ne poez mye</i>	603
Des doys faire la copinole.	604
Meux vindroit suz plume mole	605
Seer pres du feu <i>qe</i> a la carole,	[9 ^{ra}] 606
656 A chapenu vestu de blaverole	607

Ou de quyller primerole	608
Pur fere chapeus a cler de escoles	609
Ke par mouwes de fryvole,	610
660 Sovent attrere de femme fole.	612
Mais queor de femme est si mole	616
<i>Quant beau bachelers le acole,</i>	617
Ke sovent a breve parole	618
664 Ffemme fole le recole.	619
Ore pleust a Dieu qe teles folos	620
Eusent faces pleines de veroles,	621
<i>E les ribauz le rugeroles,</i>	622
668 Si larroient donk les places foles.	623
<i>E les foles, les caroles,</i>	624
Le fous lerreynt les braceroles.	625
Mais pur aprendre ceus innocens	626
672 Des veroles <i>vos</i> di plus de sens :	627
Il i a viroles, verole <i>e</i> varole	628
Qe sont de divers escole.	629
La virole la maunche gard	630
676 De coutel le mau musard,	631
<i>E</i> verole la face empyre	632
Ne soyta ja de si sage sire,	633
Mais ceo est une varole pure	634
680 Qe du cholet crest de nature.	[9 ^{rb}] 635
Le verm qe verdz est colouree	636
En Fraunce est varole nomee.	637

**Ore des flurs qe cressent en boys
ou en verger**

Le jour devient biaux <i>e</i> cler ;	638
684 Aloms deduire ou banoyer	639
Au verger, ou sont les flurs	640
Dont en issent les douz odurs,	641
Herbes ausi pur medicine,	642
688 Dont les nomis cy <i>vos</i> devine.	643
Fflur de rose <i>e</i> flur de lyz :	644
Lyz pur roigne, rose pur pyz,	645
Ausi i avez la surele.	646
692 <i>E</i> pur le teign vaut la parele,	660
Parele a parel <i>e</i> pareaus :	661
De tote manere des oyseaus	662

Ou couple ad de male <i>e</i> femele ;	663
696 Ceo est un parel, noun pas parele.	664
Car aumdui sont pareaus nomez	665
Pus <i>qe</i> ensemble sont nyez.	666
Oncore a flurs me veul aler	667
700 <i>Qe</i> ne fait a ublier.	668
Il i a la flur de sourcye,	646
<i>Qe</i> a les euz fait graunt aye.	647
Heere du boys <i>e</i> heere terestre	[9 ^{va}] 650
704 En ceo verger deyvent crestre.	651
Primerole <i>e</i> primeyveyre,	648
<i>Qe</i> se moustrent en temps de veire.	649
Et la conseude i crest ausy,	×
708 Comune herbe a cheascuny.	×
Cy ert asez de plaunteyne	652
E bugle auxi, un herbe seyne ;	653
Cerlaunge creest en crevez,	654
712 <i>E</i> plenté troverez de navez,	656
Conseude la blaunche flour	657
<i>E</i> mercuryal de graunt valour.	658
Ermoysse ausi i avez	669
716 E plaunteyne, si la semez,	670
Sauge, letuse <i>e</i> persylle.	×
Chevrefoil <i>e</i> camamille,	×
Ffenoil <i>e</i> autre herbery.	×
720 <i>Qe</i> nomer totes ne peus mye.	×
Mais si vos trovez en verger	671
Ameroke ou gletouner,	672
Les arachez de un besagu	673
724 <i>E</i> plauntez cholet en lour liu.	674

**Ore des arbres *qe* cressent en boys
ou en verger**

Au verger des arbres cressent,	675
Ici vous ferai a savoir	×
<i>Qe</i> on doit en memoire avoir,	×
728 Q'il a en l'an iiiij saisons.	×
Or en pores oir les nons,	×
Par charge du fruit plusors se abessent.	[9 ^{vb}] 676
Pomer, perer, ceriser,	677
732 Ffresne, genet <i>e</i> prumer,	678

Ceneiller qe la ceneyllle porte,	679
Ffourder qe la fourdine porte ;	680
Eglentier ove les peperouges,	681
736 <i>E</i> creker ove les crekes roundes.	682
Un aliher ke porte les alihes,	683
Dont Alienore en auncyenrye	684
Le noun receut par un rey	685
740 Ke out alies encore devaunt sey.	686
Ausi i avez le koigner ;	687
Sovent le veit om en verger.	688
Dont il i a variaunce graunt	689
744 Qe ne sievent pas li auquant.	690
Ly sires fayt son neyf koigner	691
En ses ceps pur chastier.	692
<i>E</i> pernez le koign, abatez le koigner	693
748 <i>E</i> coupez du koign un koigner ;	694
<i>E</i> koigner est il ensement	695
Qi fait la monoye d'argent.	696
Coupez du coyn une coygnee ;	693
752 Envoyez au coygner ke fait la monee.	×
De autre arbrerye i a ausi,	697
Pur aprendre cheascuny.	698
La premere si a non ver,	×
756 Estés, autonnes <i>e</i> iver.	×
Vint aprés ices de parties	
L'an partent en iiij parties.	×
Car vos comence a la Saint Pere	×
760 Qe chas dist iv.c. sospiere.	×
A Saint Urban faut prier	
A le Saint Bartemeu esté	×
Autonne a feste Seint AAnes	×
764 Qe Diu est commencement.	×
Buis i a, paumer <i>e</i> arable	[10 ^{ra}] 699
Qe ne apruve en tere arable.	700
<i>E</i> la huise i est en verger,	×
768 Qe poy vaut a edifier.	×
Ensi vos di qe cete houce	
Ne vaut de mut pur fere houce.	×
La char nue desouz la houce	×
772 Vaudreyt plus gisir en souce.	×
Et le sueau i est ausi	703

Qe comun est la cheascuny.	704
Sauz i a sarail, chesne, <i>e</i> yf,	705
776 De ceo fraunczois na nul estrif.	706
L'eeme tortel, koudre, gagger,	×
Plus n'i a fiert en verger.	×
Mes de sueau l'em fet suheaus,	709
780 Un manger ke est bon <i>e</i> beaus.	710
Ore pur trestouz les oyseaus	
qe habitent en boyis ou en foreste	
Kaunt du verger avoms le chois,	711
Ore aloms juwer au boys	712
Oyr du russingnol le gal,	713
784 Qe mieux chaunte qe huwan en sale.	714
<i>E</i> mieux chaunte mauvyz en busshoun	715
Qe chaufe soriz en meysoun.	716
En braunche siet le menu merle ;	717
788 En mareis demoert la herle ;	[10 ^{rb}] 718
Oncore i avez le filaundre,	719
<i>E</i> li oysel qe ad noun chalaundre.	720
Au four meint le salamaundre.	721
792 Li peissoun des eyles paunde.	×
Eyles <i>e</i> eeles sont divers	735
Descordaunz dient ceus clers.	736
Des eyles naent ceus peissouns ;	737
796 <i>E</i> des eeles volent ceus musshouns.	738
Ausi a il noer, naer, nager <i>e</i> neger	739
Dont la raisoun fait a saver.	740
En mer nae li peissoun	741
800 <i>E</i> en mer noee maint preudom :	742
<i>E</i> des vyrouns deyvent nager	743
En batel li maryner.	744
Mais en yver veoms neger	745
804 <i>E</i> les aunfees avaler.	746
Ausi a li espandre <i>e</i> espaundre.	723
Espandre ensement <i>e</i> paundre.	724
Cil espande counsayl d'amy	725
808 Qi le deskoevere a nului,	726
<i>E</i> li emfes de gre espaunde	727
Hors de ses quele sa vyaunde ;	728
<i>E</i> des eyles paunde peissoun	729

812	<i>Quant vyf en rey le pernoum.</i>	730
	Sachez ke de passeraz	×
	Chars sount chaudes, megre ou gras.	×
	Mais espeandre est la <i>quarte</i> parole,	[10 ^{va}] 731
816	<i>E</i> ceo font li clerioun de escole,	732
	Kar cil espeaut natureument	733
	<i>Qe</i> les lettres ensemble prent.	734
	Oncore as oyseaus rediroms	747
820	Ou plus aprendre i <i>purroms</i> .	748
	En chaumbre <i>e</i> en place meint	749
	Sont li widekok depeint	750
	<i>Qe</i> plusours dyent ascye,	×
824	Mais droit fraunczois n'est il mye	×
	Ainz sont witekok proprement.	×
	<i>E</i> verdr i a ensement	×
	Dont verder i a <i>e</i> vereder,	755
828	Un oysel <i>e</i> un forester;	756
	Kar par ci vole le verder	757
	<i>E</i> par la voit li vereder.	758
	Veez ou tapit un ascye,	751
832	Ffraunczois veot k'ensi le dye	752
	Ke wydekoc ci est lestil	×
	De burgeys de zorkenvyl,	×
	Ci vient volaunt un restel	759
836	Si se trait vers ceo trussel;	760
	Car plus ayme le restel	761
	En vyroner un haut truessel,	762
	<i>Qe</i> nul beau treit de la vyele	763
840	Ou nule note de frestele.	[10 ^{vb}] 764
	Oncore i avez le musenge	765
	<i>Qe</i> les haes en bois renge.	766
	Deslacez, vallet, vostre renge	767
844	Si renger voillez le musenge.	768
	Oncore i a la palenole	769
	<i>E</i> ausi la chardounerole.	770
	<i>E</i> si a il des papyllouns	771
848	<i>Qe</i> seir se voillent es chardouns,	772
	<i>E</i> en les rounces ensement	773
	Usent seir natureument.	774
	Mais ceo ne fait pas ly grysylleur	775
852	<i>Qe</i> en curtillage ad son sojour,	776

Ne li herysoun nient le plus	777
<i>Qe</i> prent la pome ke chiet jus,	778
Ne musches ne wibetz nel sont mye,	779
856 Car il eyment plus le urtye.	780
Ausi a il ane <i>e</i> plounczoun	781
<i>Qi</i> en rivere unt lour mansioun.	782
En mores meynent les vaneles ;	783
860 <i>E</i> en viles sont veneles.	784
En <i>graunge</i> usoms le van ;	785
<i>E</i> en l'envyous est le bean.	786
A la vanele <i>e</i> ly pounzot	×
864 En more fount lour riet.	×
Ci vient volaunt un ouwe roser,	[11 ^{ra}] 787
Un blarret a lui acumpaigner.	788
Et mieux serroye de un blarret peu	789
868 <i>Qe</i> ne serroye de char de freu.	790
Et plus est ignel une arounde	791
<i>Qe</i> nule cygoyne en ceo mounde.	792
Et ceveroundel a la ceveroude	793
872 Prent le musshoun <i>e</i> le arounde,	794
Et li oysel, <i>qe</i> ad noun bekaz	795
Pres de rivere est <i>pris</i> au laz.	796
Le chaunt du cukoil est bien rocous,	797
876 <i>E</i> si ne est guaires delicious.	798
A peyne serroit si ryotous	799
Si son chaunt fut gracious.	800
Mays plus est oy en oriol	801
880 <i>Qe</i> la noyse du l'oriol.	802
Et plus vaut pel de fooun	×
<i>Qe</i> chaunt de ane ou de pooun,	820
Mais du pooun la bele kuwe	823
884 Est delitable a la vuwe.	824
Car plus eyme dame penne de pooun	821
<i>Qe</i> en leschekiere mat de pooun.	822

**Ore pur totes les bestes *qe* habi-
tent en boys ou en foreste**

Plus avaunt onkore m'en voys	803
888 Pur me dedure en ceo boys.	[11 ^{rb}] 804
Jeo vey venyr un teyssoun	805
<i>Qi</i> ad guerpy sa mansioun	806

Pur le feence du gupyl	807
892 <i>Qi</i> lui ad mys en exil.	808
Et honysoit li mauputoys	809
Car, soit en vile ou en bois,	810
Ne l' enchant mais <i>qe</i> il eyt	811
896 Grasse gelyre a son reheyrt.	812
Et plus amasse une belette	813
Pur faire ma <i>graunge des</i> raz nette	814
<i>Qe</i> totes les taupes de ci <i>qe</i> a Paris,	815
<i>Qi</i> font taupaynes en pays.	816
900 Jeo vey cy desouz la dume	825
Un oysel plumé, veez cy la plume,	826
Jeo vodrey q'il hut noyz blaunche	×
Cyl <i>qe</i> l'oysel ad plumé.	×
904 En la neyf ele ceym,	×
Jeo vey ester un petit neym.	829

Ore pur les proprietés de une

Carrette ove quanqe i apent

Pur une carrette bien descrivre	833
Le fraunczois vos met en lyvre.	834
908 Dont les roes di au primour,	835
Pus les bendeaus <i>qe</i> sont entour.	836
En les bendeaus, <i>qe</i> sont de fer	[11 ^{va}] 837
Sont les jauntez atachez de fer.	838
912 Desouz la bende est la jaunte,	×
Ke a clous de fer l'entree graunte.	×
En les jautes entrent les raes,	839
<i>E</i> du solail yssent les raes,	840
916 <i>E</i> de la mer viennent les raes,	841
<i>E</i> vers la foyre vount les raes;	842
Mais les raes du charet	843
En les moyaus unt leur rescet.	844
920 Et dist le moal dedenz le roef	845
Tut droit au moel de l'oef:	846
<Jeo sui, fait il, fort fes a porter.	847
<i>E</i> jeo, fait l'autre, bon a manger>.	848
924 Mais en le moal gyst le essel	849
<i>Qe</i> par deus hieces se tient owel.	850
Sur les asseaus gyst le chartyl,	853
<i>E</i> pur sauver le de peryl	854

928	Si ert le chartil de bons brabeaus Fferm lyez as esseaus.	855 856
	Et si outre les moaus soient sauneres, Donk n'i faut si noun eschieles.	863 864
932	Kar entre le chartil <i>e</i> les moyeus Sount atachez hourtouheres deus. E chescun charette ke meyne blez Les esseus unt lur juneres.	857 858 859 851
936	E les eydent <i>cum</i> bon freres. Doit aver rideles a costeez En les rideles vount les roulons Par les trus, saunz nul clous.	852 [11 ^{vb}] 860 861 862
940	Mais pur estre plus artillous, Des esseaus <i>vos</i> dirray plus. Il i a essel <i>e</i> assel, <i>E</i> le tiers oncore huissel	865 866 867 868
944	Le chartyl lyoms sur le assel. Et en le moal gist le essel, Mais le huissel avez vous As ambes les braz a desouz.	869 870 871 872
948	En lymouns va li lymoer u. l lymounier <i>Qe</i> au dos porte le dosser <i>E</i> au ventre le ventrer, <i>E</i> a la kuwe le wauner.	873 874 875 876
952	Ventrere <i>e</i> ventrer i a, Divers come <i>vos</i> orrez ja ; Ventrere est proprement nomee Une femme <i>qe</i> est demoree,	877 878 879 880
956	Pur ayder en kas sa veysine <i>Quant</i> ele girra en gisine ; Mais proprement dist om ventrer <i>Qe</i> au ventre porte li lymeer.	881 882 883 884
960	Le traycer ad la bracerole <i>Qe</i> les lymouns embrace <i>e</i> acole. Devaunt les braceroles sount billez Taillez de coteaus ou de hacherz,	885 896 [12 ^{ra}] 887 888
964	De bon fust round dolorz. Les cols des chivaus portent esceles <i>E</i> coliers de quir ove lour oceles, Et les colier de quyr <i>e</i> bourle hosceles.	× 889 890 ×
968	En charette est le somer,	891

La ou seet le charetter.	892
Et si le charetter ad sa reorte	893
Dont ses chivaus en cours resorte,	894
972 Donk ad <i>quange</i> a lui apent,	895
<i>Qe</i> en taunt suffist <i>qi qe</i> l'entent.	896
Et pur estre plus sachaunt	897
<i>Vos</i> diray, ainz <i>qe</i> passe avaunt	898
976 Le droit afaire du caretter	×
<i>E</i> ensement du caruwer.	×
La carretiers estrille avera,	903
Dont les chivaus <i>conroera</i> .	904
980 Et li boiners nel tiegne a gaz	905
<i>Qe</i> bien ne frote du torkaz	906
Ainz <i>q'il</i> soient enbeverez.	907
Mais a soir serront waez.	908
984 Wayour i a proprement,	909
Ceo dist li auctour <i>qe</i> ne ment	910
<i>Qe</i> chival <i>e</i> boef font waez,	911
<i>E</i> totes autres bestes lavez.	912
	[12 ^{rb}]

Ore pur la carruwe ove tote la propreté <i>qe</i> il i afiert	
988 Puis <i>qe</i> ore suffit du charret,	913
De la carruwe ore m'entremet,	914
En la caruwe avez vous	915
Divers nouns <i>e</i> mervailloûs :	916
992 Dont <i>primes</i> le chef, <i>e</i> le penoun,	917
Le manual, <i>e</i> le tenoun ;	918
Pardesouz est le orilloun	919
<i>E</i> plus amount est le escuchoun.	920
996 La zoche <i>e</i> le vomer	921
Avera caruwe de dever.	922
En lung la caruwe gist la hae,	925
<i>Qe</i> vient de bois ou de hae.	926
1000 <i>E</i> si covient avoir un maillet	927
<i>E</i> un moundylloun pur faire le net.	928
Devaunt la hae sount les clavouns	929
Ou sount atachez les tenouns.	930
1004 Les boefs i portent les juks	931
Pur Crestiens <i>e</i> pur Gius ;	932
<i>E</i> par les arczouns es juks fermés	933

Sont les boefs si fort artez	934
1008 Qe les covient maugré lour	935
Par le agoilloun eschure errorur.	936
De ceste matire assez avoums,	[12 ^{va}] ×
Redressom ore nos maisouns.	×
Ore de l'apise pur quanqe apent	
a maisoun edifyer	
1012 Si vous avez en penser	937
Maisoun ou chaumbre edifier,	938
Il covient au commencement	939
Qe il i ait bon foudement ;	940
1016 E pus i leverez la mesiere	941
Dont femme est dite mesuere,	942
Il i a messiers e mesiere ;	945
Entendu en diverse manere.	946
1020 Ly messiers ad les chaumps en cure	947
Mais mesiere fait la sale sure.	948
Car ceo est meur qe enclost la court,	943
E ceo est mesiere ou coumble le ahourt.	944
1024 E pareye est il ensement	×
Qe de une part e de autre prent.	×
Mur est dist de porte en porte,	×
Et la mesiere qe mesoun porte.	×
1028 Sur la mesiere en travers outre	949
Amount le celer mettez la poutre.	950
Le poutre en sale doit om poser,	×
E La poutre en un soler,	×
1032 Mais au piler desus la poutre.	951
Trestouz les seyllouns mettez outre ;	[12 ^{vb}] 954
E sur les seyllouns la plauncyé,	955
De bord ou de plantre pavyé.	956
1036 Au piler desouz le poustre	951
De chevestre liez la june poutre ;	952
Sur la mesiere les traes mettez,	957
De deus cheverouns une couple facez	958
1040 Qe ferm esterra sur la mesiere.	959
Par kivyle e par terere,	960
Dont n'i faut si coumble noun,	961
Ou tout amount la maisoun	962
1044 Covient en lung avoir guenchour	963

Dont le coumble ert mult plus seur.	964
Mais pur plus avaunt parler,	967
Vos ne devez ublier	968
1048 Qe il n'i covient des brenchouns.	969
Clou fichez a nos maisouns,	970
E trenchouns a la pareye ausi.	971
Pur tele aprise le vos di	972
1052 Qe il i a trenchouns e trenchisouns,	×
Dont tien descord i a des nouns	×
Qe trenchouns a maisouns eise	975
E trenchisouns as une despleise ;	976
1056 E as chivaus nomeement	977
Car il les manguwent malement.	×
De tote la maisoun est coumble apert,	965
E cel est de tekt dont est covert.	966
1060 Oncore fait bien a saver	[13 ^{ra}] 979
Qe endroit de maisoun edifier.	980
De never il i covient estre	981
Li aumeyre e la fenestre.	982
1064 Aumeyre e aumaire i a :	983
A l'aumeyre fumee istra,	984
Mais ceo est proprement aumaire	987
Ou l'em met viaunde e viaire.	988
1068 A l'entree de l'huis est la lyme,	989
E outre la teste est la sullyme.	990
Dencoste sont les gymeaus deuis	991
Ou l'en dont pendre son huis.	×
1072 En l'un gymel pendoms nos gouns	993
Si deus verteveles eoms.	994
Ore faites cliket e cerure,	995
Qe passe parmy la cerure.	×

**Ore pur attyrer sale ou chaum
bre countre la venue des estraunges**

1076 Fetes ore appariler,	997
Qe nous puissom toust manger.	998
Un vallet de vint e quatre	999
Moundez tauntoust cel hastre.	1000
1080 Portez les cendres au fumer ;	1001
Les hasteles fetes allumer	1002
Par un tysoun de fu enprys	1003

	Qe de la quysine serra prys.	[13 ^{rb}] 1004
1084	Les hasteles mettez en travers	1005
	Les chenes qe sont forgés de fers.	1006
	Si des esceles le cheval	1007
	Faitez hasteles, vos faites mal.	1008
1088	Mais faites hasteles de chene,	1009
	Ou de aune, ou de frene.	1010
	Pus va quere le fou,	1011
	Qi est fet de quyr e de fou.	1012
1092	Mais pur la verdour des asteles,	1013
	Jeo ne voy ysser estenceles.	1014
	Va quere bresses en un teske ;	1015
	Ateyser le fu my veent l'esveske.	1016
1096	Ore agardez, sa beau frere,	1017
	Ne avera ci ja bele chere.	1018
	Gardez vos dras de fameches ;	1019
	Mettez en breses poyres e pesches.	1020
1100	Mundez la sale soule,	×
	D'un baleys fayt de boule.	×
	Mundez la sale, si la ninchez,	1021
	Mettez la table e la koevere.	1022
1104	Au meins qe ceo point soit estable	1025
	De napo koeverer la haute table.	1026
	E la secounde ausi koeverez	1027
	De blaunche napo, si vos le avez.	1028
1108	E si la napo soit trop sale	[13 ^{va}] 1029
	N'est pas avenaunte en sale ;	1030
	Car blaunche napo mout usee	1031
	Vaut plus qe novele embrouwee.	1032
1112	Les bouts de la table e les cours	1023
	Coverez de napo devaunt seignours.	1024
	Lavez les hanaps, moundez esqueles,	1033
	Coupez les unges dusqe as aeles.	1034
1116	Va t'en quystroun, ou toun havet	1035
	Estrere le hagyz du postenet	1036
	E mettez vostre veille ruche	1037
	Desouz vos poz, noun pas la luche.	1038
1120	E priez la dame qe ta koyfe luche	1039
	De sa luchiere sur la huche,	1040
	E mette la teyle a l'ydole du lyt	1041
	Pres de la rose ke la enflestrit.	1042

1124	Mais a la ruche rediroms, Ou plus aprendre i porroms. La ruche servira des ees, Dont nous veoms voler les dees ;	1043 1044 1045 1046
1128	Car un e par soy singulerement <An hony bee> est proprement, E proprement un de des ees En engleys est a <swarm of bees>.	1047 1048 1049 1050
1132	<i>E</i> ceo est une bresche de mel nomee Qe en ruche font les ees de gre.	1051 [13 ^{vb}] 1052

**Ore pur diverses paroles qe
aventurouusement menent
en place**

Requyllez bel genz a manger ; Si poez meimes alloser.	1053 1054
1136 Trenchez le pain qe est paree ; Les byseaus soyent pur Dieu donee. De coutel trenchoms ceus byseaus ; De quiller mangoms ceus myeaus.	1055 1056 1057 1058

Ore de un autre

1140 Frusshez le pain chaud de foour ; Druisez le os de char venour. Roumez la corde qe fait nuisaunce ; Freignez covenauant de desavenaunce.	1059 1060 1061 1062
--	------------------------------

Ore de un autre

1144 Ci vient un garzoun esclavotee, La proeve vos ert ja moustree ; Qe trop avera des esclavoz Qi du chival suwe les esclos.	1069 1070 1071 1072
--	------------------------------

Ore de un autre

1148 Fiens estreit de puaunt sous Fait sale nape e table gracieux ; <i>E</i> herbe, qe crest a huis de estable, Ffait bele nape e meagre table.	1073 1074 1075 1076
--	------------------------------

Ore de un autre

1152 Pernez, vallet, en vos eskours	[14 ^{ra}] 1063
-------------------------------------	--------------------------

Le hareng soor du frael rous,	1064
Car par devaunt avez eskours	1065
<i>E</i> d'encoste sont vos girouns.	1066
 Ore de un autre	
1156 Jeo vey cy venir mestre Huge,	1087
Ke ryen ne parle, si il ne buge.	1088
Ses deus garzouns chacent preye ;	1077
A checun mot ly uns baubeye	1078
1160 <i>E</i> li autres ne puet parler	1079
Une parole sanz nascyer.	1080
<i>E</i> ne m'enchaunt si il nascye,	1081
Car il ne vaut pas une aillye estarrie	1082
1164 <i>E</i> qe meins vaut il baave tut dys.	1083
Mais si croire vousist moun avys,	1084
Il emprieroyt sa miere	1085
<i>Qe</i> lui feist une bauviere.	1086
1168 Mais de femmes ay dessein graunt	1089
<i>Qe</i> par orgoil se afforcent taunt	1090
En parlaunt bleseer tut dys	1091
Pur plus plere a lour amys.	1092
1172 Ausi a il tusser <i>e</i> escoper,	1093
Ruper, vomyr, esternuer.	1094
Hom dist <i>qe</i> cil tousse de droit	1095
<i>Qi</i> trop de rouge cervoise boit.	1096
1176 Batayle champele	×
La renumé de cest rei fu espaundue	×
Par sa gentirise par tote teres.	×
<i>E</i> cil <i>qe</i> mult laumbeye au queor	[14 ^{rb}] 1097
1180 Mult lui estuet escoper ;	1098
<i>E</i> cil <i>qe</i> mouche masche ou gouste	1099
Une graunt gate le mettez joute,	1100
Car rouper lui esteut tres bien	1101
1184 Ou vomyr maugré le soen.	1102
Mais estuer sovent esternuer	1103
Sauntee est <i>e</i> allegement.	1104
Vomyr i a <i>e</i> vomer	×
1188 Diversemement pur parler,	×
Car <i>qi</i> maunde ne puet tenyr	×
A force lui estuet vomyr.	×
Mais eschaumps sert le vomer	×

- 1192 *Qe* bien le sievent li caruwer. ×
 Et cil l'auraye proprement ×
 Dient les uns comunement ×
Qi froid estomak ad en lui, ×
 1196 Si suchent le myre ensi. ×

Oncors de autre variaunce ×

- Ensi a il cluner, *e* retleer, ×
 Roiller, l'encer, *e* gwenyller. ×
 Hom clune des euz natureument ×
 1200 *Quant* naturel somoil le prent. ×
E li feloun roille les euz, ×
Quant venger se veut par corouz. ×
 Le capele de l'espeie fu de fin or, ×
 1204 *E* cil retleye, dist li fraunzois, [14^{va}] ×
Qe l'un eul ad vers le boys, ×
E l'autre au chaump ou au pre. ×
 Cestui retleye tout de gre, ×
 1208 Mais celui est l'entiers de droit, ×
Qi de loinz nule rien ne voit ×
 Si ne la mette a l'eul pres ×
 Celui l'ente tout adés, ×
 1212 Mais gwenillers autre chose entent, ×
 Cil *qi* volaieusement ×
 Les eus gette, *e* sa *e* la ×
 De mal usage prime le a. ×

Oncore de un autre

- 1216 Platez la plate, beauz douz friere, ×
 Engleis l'apelent <plate piere>. ×
 Mais platerel fait a plater, ×
E la pelote a peluser. ×

**Our pur parler de l'array de
une graunt mangerye**

- | | |
|--|------|
| 1220 Un vallet de la novelerie | 1105 |
| <i>Qi</i> vient de une graunt mangerie. | 1106 |
| <i>E</i> de la feste nous ad countee | 1107 |
| Come lour service fust arraee. | 1108 |
| 1224 Sanz pain, <i>e</i> vin ou cervoyse | 1109 |
| Ne serra nuls a feste a eise. | 1110 |

	Assez parmy la mesoun,	×
	De grese <i>e</i> de enfermeyson.	×
1228	Mais au meins fait a saver	[14 ^{vb}] 1113
	Du cours q'il eurent a primer.	1114
	La teste du cengler armee,	1115
	<i>E</i> pus le groign plein baneree ;	1116
1232	Puis veneyson ove le furmenté,	1117
	Puis mainte autre diverseté :	1118
	Des gruwes, pouuns, <i>e</i> cynes,	1119
	Chevereaus, purceaus, <i>e</i> gelynes,	1120
1236	Pus avoient conyns en gravee	1121
	Trestout de zucré enfoudree.	1122
	<i>E</i> pus i out autre foisoun de rost,	1127
	Cheascun de eaus autre encost	1128
1240	Ffeisaunz, ascyez, <i>e</i> perdriz,	1129
	Gryves, alouwes, <i>e</i> plovers rostis,	1130
	Braoun, crespes, <i>e</i> fruture	1131
	Ove zucré roset la temprure.	1132
1244	Maces, qibebes, clou gilofrez,	1123
	<i>E</i> d'autre espicerye assez.	1124
	Et quant la table fu oustee	1133
	Blaunche poudre ove la grosse dragee,	1134
1248	<i>E</i> d'autre nobleie a fuisoun.	1135
	Ensi vos finyst le sarmoun,	1136
	Car de fraunzoys i a assez,	1137
	De mult de manere diversetez,	1138
1252	Dont vos finyst, seygnours en taunt.	1139
	Au Fyz Dieu vos trestouz comaunk <i>e</i> Amen.	1140

Explicit ut supra dictum est *et Amen*

II. 本編は Bibbesworth の *Tretyz* の書き写されている写本, BL Addit. 46919 より原文を翻字したものである。さきにこの *Tretyz* の異本を Cambridge, University Library, MS Gg1.1 より転写し翻訳を付したのであったが BL MS Addit. 46919 の *Tretyz* はいまだ翻刻されていないので翻字の上はやがて、異綴も多く、統語法上もそれぞれ特徴を持つ両写本の treatise の比較が容易になるであろう。

ちなみに Addit. 46919 は William Herbert Collection と名指される写本である。Herbert(d. 1333?)は Hereford のフランシスコ派修道士であった。Paris および Oxford で学んだ学問僧である Herbert はこの写本を編纂した。Treatises, poems, sermonsなどを集め、作品にところどころ注釈をつけ、自作も加えた。ラテン語の sermons, ME で書かれた religious lyrics, Francien の抒情詩、ロマンスの他にアングロノルマン語による作品が多数集録されている。Nicolas Bozon や Simon de Freine の名前も見られる。殊に Bibbesworth のフランス語教本 *Tretyz* が写本冒頭を飾っているのは、当時のフランス語

にたいする編纂者 Herbert の関心の程が示されているようである。写本の contents を次に簡単に記しておこう。本文は f. 2^r より始まる：

‘*Le Tretyz*,’ by Gautier de Biblesworth, with vocabularies and glosses (French / English) (AN)

‘*Le Chastel de leal amour*,’ a poetic and quasi-allegorical disputation(AN)

‘*Le arte de venerie*,’ by Guillaume Twiti(AN)

Recipes in English, anonymous (E)

Prose treatise on falconry, anonymous(AN)

Poem on the Passion, by Nicholas Bozon(AN)

‘*La plainte d’Amour*,’ by Nicholas Bozon(AN)

‘*Tretis de naturesse*,’ courtly poem by Nicholas Bozon(AN)

‘*Ave Maria*,’ paraphrased by Nicholas Bozon(AN)

‘*Ave Virge Marie*,’ by Nicholas Bozon(AN)

‘*Ave seynte Marie*,’ anonymous(AN)

‘*De celuy haut seignour*,’ anonymous cross-poem(F)

‘*Les nouf joies Notre-Dame*,’ anonymous(F)

‘*Bele mere, ke friai*,’ anonymous poem(AN)

‘*Douce dame, pie mere*,’ poetic prayer to the Virgin(AN)

Prose treatise on the religious life, in Anglo-Norman

‘*Le Char d’Orgueil*,’ by Nicholas Bozon(AN)

‘*Vous ke me veez en la croiz morir*,’ poem in which Christ addresses sinners from the cross(AN)

‘*Cuard est ke amer ne ose*’(F)

‘*Les femmes a la pie*,’ by Nicholas Bozon(AN)

‘*Le meel de ceel*,’ by Nicholas Bozon(AN)

Debate between the Body and Soul, by Nicholas Bozon(AN)

‘*Reigne couronee, flour de parais*,’ by Nicholas Bozon(AN)

‘*Comment Nostre Dame e la croiz desputerent sanz nule voiz*,’ anonymous(AN)

A series of seven homiletical poems by Nicholas Bozon(AN)

Two homiletical poems by Nicholas Bozon(AN)

A prayer to the Virgin by Nicholas Bozon?(AN)

‘*Ave Maria*’(AN)

A Cross poem(F)

‘*La priere de Notre Dame*,’ by Thibaut d’Amiens(F)

Latin notes, with Anglo-Norman gloss, on falconry, armour for tournaments and for war, etc.

‘*L’ordre de chevalerie*,’ of Hue de Tabarie(F)

Allegory on the Passion in which Chirist is represented as a knight by Nicholas Bozon(AN)

Poem on the love of the Virgin(AN)

‘*Les Dytees*’ by Walter de Bibbesworth(AN)

‘*De bone femme la bounte*’ by Nicholas Bozon(AN)

Alphabetical list of proverbs(AN)

‘*Sermons*’ in the hand of William Herbert

‘*Le roman de Fortune*,’ by Simon de Freine(AN)

Gautier de Biblesworth : *Le Tretyz*

'*De la charte du diable fet a conveytous*,' by Peter Pecham(AN)

Paraphrase of the Lord's Prayer(AN)

Extended 'Ave Maria,' in quatrains

'*Les contes moralisés*,' by Nicholas Bozon(AN)

Treatise on the Sparrowhawk(AN)

'*Conversio*'(F)

Latin sermons of Friar William Herbert interpersed with nineteen Middle English religires lyrics

記

本論の *Tretyz* はケンブリッジ写本 Gg 1.1 の *Tretiz* と較べると表現にも差異があり、追加の文章も見られるので参考までに転写文書の右側に *Tretiz* の行数を付しておいた。×印は *Tretiz* と対応しない箇所である。

写本には英語の Glossary が詩行の上に書きこまれているがその転写は MS Gg 1.1 と対照したいので本論文では省いてある。

Gautier de Biblesworth : *Le Tretyz*
(Walter de Bibbesworth)

British Library MS Addit. 46919

ff. 2^r-14^v

Cœc est le tretyz le moindre
Gautier de Biblesworth fist a
ma dame Leonysse De ayons de
sy ke nous apprendra le frument
teys de plusouys choses de ce moule
pur fyt de gentyls home ensout
nier de langage: Vouint tut oys
trouuer le frumenteys a plus le
englyps pur de sus.

Chere soer pur ceo ke vous me
prystes ke ico mesme en etoyst
pur vos ensaintz acame apysse
de frumenteys en breues paroles:
Ieo lay fet soulium ceo ke ico ay a
prys e soulium ceo ke les paroles
me uenent en memoire ke les en
saintz pusent sauver les preterez
de choses ke veent e hannt de
uent dyre. ayom e ma soin e sa
le e la. moy e Ieo.

■ Enme ke a proche seim tens,
ke ensaintez monstre sens.
Hannt se poruyt de vile ventre.
Ke soyt auysee conseylere

ve chys y bore
Fenant sy enies se jra nez.
Cels enfantz doms amysloes,
Enfantz beys enfaunt couchez.
De une bertere venu auquelz.
L'enfaunt comence chatoher.
Aunt q'il sache apet alest.
Et hannt yl bame de nature.
Pur sauver ses bras de banniere.
vous d'yez a saberteze
a expiching clout.
ke esle le face vne banniere.
fen. bimule. of fen.
Sy toutz cum l'enfes comence aller.
De tay se uert empilier.
T pur malam e pur blesceuse.
Gante ou garzoum le deyt fure.
ke il ne stumble ne ne cheue.
En si conuent bone pete.
Se q'it il encoirt a tel tige.
ke prendre se puet a langgage.
Primes enfrumenteys le deuet dire
Comment sont cors deyt desene.
pur lordre auoyz de mons e ma.
Soim e ta e soim e sa.
Si q'en parole soit meut apres.
E de mil autre escharrys.

Ore de la p'mere p'rete pur qn
qe apent als teste.

Ilia ma teste ou moin chef.
ve sheede.
Et la greue de moin chef.
ve sheede.
Faites la greue au leuer.
ve ueldeuage.
Z manger la gruyne au dynes.
her crise.
Ieo ay le cheueus retertisez.
ayon toip uous p'ry estmicez.
En uostre chef uo' auer toip.
in ve stree. at ve top.
En la rie nich ou toip.
bechese of fley ve top.
Z serencez du hyn le toip.
at re gressinge shyn ve rom.
Z ala lute derenez le toip.
Ilia aussi moin hanapel.
ayom frument z moin tenuer.
ayom hatreles oue les temples.
Z les moustiers dist om temples.
ul woster regard est rouelyche.
Vos regart soint graelouises.
Iuost eul est chanoisiss.
ayes wus eus soint sacionises.
Des eus eust la chache
mal drope.
Z du nes la ruppe.
ayez uant la rubie p'ry.
Bene fait la ruppe p'ry.
Car si bours eust tant de rubyes.
Come le nes a de ruppes
Riches serroyt de perrye.
Kytaunt eust de la ruppe.

Des euyz est sainc le purnel
ye appels of pe eze.

Si le p'mere soit bon z bel.
ve heres i pe hdes.

En les p'meres soint les eze.
ve grosses.

A mount les eus soint les sonqz.
ve grosses.

Le nes deyt auer pur resoun.

Deus noscros les and a grustec.
noscros les and a grustec.

Deus narryz z un tendroum.

ayes char kele chuse.

He touche uostre souhe.

Vous auer la lieure z le lieure.

La liure auxi z le liure.

ve liure. ve tech.

La lieure si enclot le denz.

ve liure. ve liure. ve liure.

Le lieure en bois se tient de denz.

a round chaffare.

La liure sert en marchaundye.

ayays le liure nous ap'ret aergye.

ve rof remoy.

En la bouche amount eu pilet.

Gasterez uous chose orde ou net.

z les omes sont entierues.

p'ur bien sauver lors gentyues.

z si est l'encherison certeme.

Or esles le fount p'ur bone aleynie.

Col yn gorge. z mentoum.

Deount le frantzois est comm.

De souz la lamine est la fourtele.

vn os fourchee le frantzois si apese.

De dent la gorge est la gargate.

Le meyns de dame soint azechbel.

ayes se dent sunt agateles.

¶ Effectum oryssi ad maledicentem.

¶ Et de la bouche veient quachet spesle

Et plus parfoumd si gyst la fete. midris.

7 si ad le ^{foix} ^{hex} heime au col de rete.

Endroit desart plus ma fere.

En chef de uant est la fonteyne. pe molte

pe ouere le ppe pe neve.

La souereyne lieueze et la souerme.

En la bouche sont messeliers ^{Bona tere}

7 denz foreyns si tu les quies.

Qui col auet un fossellet. pe dale in re nette.

Ne sone la lamine est le filet.

7 pur certefier la pirose.

Conoistre conent la canenole.

¶ De sout le orayl auex ges nomi. pe her ouer ye ere.

¶ Si espmise auex blazon.

De sout le bras auex effuyl.

De sout la charrete auex le effuyl.

Sous la moutaigne sont le broyl.

En basse terre ad bon soyl.

Entre plendours sont le toyl.

Le ven de byse greue luy.

Apres le mist si chet la foil.

Apres gelee si vient remoyl.

Par deray cheet sonent duyl.

Cestes paroles ensy ad soyl.

La reson pur quey dire v'vuyl.

Pur meut acorder en paixance.

Ore des autres membres du corps

endescendant aus la teste.

¶ E est mye mestier a deschire

Du frantais q chascuns fiet en e.

Espnile bras. ne la peytine.

De uentre. dos. ne del ^{rugien} eschyme.

Mays ieo v'fny moustreysom.

De chose nom pas si comour.

¶ Des espniles yssent les bras.

Les costes. ne meyns ne serrons pas.

Mais pur estre en tout certain.

vous dy du cou de la matyn.

Le hord sydome. perug syponen.

La pame de dent. la clae de hors.

Le poyn est dist baunt mayn est clos.

7 ly feest fest du poygnoym.

A tenuys soin compaignon.

¶ ¶ vne poignee q met en mayn.

Ceo est la mayn trestote pleyn.

Deus mayns ensemble vudre en pleyn.

Enfranunce sount nomes le galeyn.

Cay mieux woudroie petite poigne.

De gyngyuer ben triec.

¶ ne feyst cent galeynes.

De filamandre toutes pleynes.

¶ ayed oyates. my encelle

Ore du frumentys pur cintre
vous par de hors le corps.

v. He coste du costee.

Alam enout dieux oustee.

Our dame que pmes fist.

He vous entrait pur quey igyst.

He p quey le mot uent en place.

Aym bon est q om le frumentoy sace.

Le coste q signifie

Car tote gent ne le senent nre.

s. Par ventesse en ventre.

Le payn de fourment entre.

En my le uentre si est le ombys.

Et par de sous est le penyl.

vezes. bocobes. le dist.

Quisses. nages. que la fourchue

fount gnt eyse pur chmacture.

Jambes et genys conoissez.

Ha mestiers q nous somt touchez.

Le jambes sainz genuz e garez.

Deengemiles se jent trop rez

et garet oumt ore gareters.

Hos gatzours nos esquiers.

He mye pur estre chireters.

Ayes pur sauuer lour hysgneers.

v. Les garetes auet my.

pur cele apse le uous. ditz

Quelcokz selye om de gareters

Si vint lusage de charettiers.

En la jambe auet le assire.

7 taint come braoum i est en hys. tresseth.

De meilleure force om se assire.

Si lessimes soit saint blesme. hysinge.

7 lusi auet veus les feuilles amdeun.

Mais nentendez pas feuilles. pmes of tre

Car feuille fait home ferm ester

7 feuille fait ly capenter.

La feuille du pec un feuil de fust.

vecre ben le chetum conteust.

La plante les ortyz les taloins.

Vomit le frumentoy est commis.

Ore del apse pur cintre vous auer

Se dent le corps.

s. E dent le corps as cheastu hom.

hectre hure hingre.

Quicor. 7 soye. 7 pomorum.

Esplien. boufles. 7 reynouin.

re anise aderes. reiesgen.

Estomak. vynies. 7 nerfs envirouin.

7 ne vbliez i ala uestre help.

Qu au ventre fait graunt ayre.

pur q hysme i ailloms

He les reyns ne v blions.

Dount my fait sy le feel nom.
 De cinqe de deuz le corps auom.
 Vous avez la char ^{ve tatt.}
 Mes countregardz vous de eschar.
 Jeo vi la char seer en char.
 Et de la char fere eschar. ^{scorn.}
 Eschar par folour hom remysch. ^{ut ten.}
 La char par hydour enhome fumyt. ^{quater.}
 Ses par dolour enschisent. ^{duren.}
 Le nerfs de senouys engoutisent.
 Thome a femme vns la pes. ^{scrym.}
 De morte teste quyr ico a pes.
 Le deff soume le dreyn apel.
 Le prestre fet a Rome apel.
 Ore miec ceo le apent a corps.
 Et par de deuz et par de hors.

Ore de nostre uestire ancely
 trestout l'autre harnoy's.

Ester uos bras beau dont esmyz.
 Chantez uos bras soulef et gant.
 Ayez le chaperon. Roeniez le chef. ^{after shirf.}
 Tachez uos bottoms et pis de rectief.
 De une corroye vous ceyntez. ^{suyd re.}
 Ne di pas vous encemitez. ^{make pe myd child.}
 Car femme est par homme enceinte

7 De vne ceinture est esc ceynte.
 De la ceinture le pendunt. ^{ve bofes.}
 passe par my le moromint. ^{ve tonge.}
 7 ensi doit le handillam. ^{bi ve bofes of dor al.}
 passer par esu de subyllam.
 Et si a i moum chumonez.
 ay bourse et moum agoiller.
 ay moum cotel auxi et mespee.
 Dount li enfes est enformee.
 Q2 qnt la table est oustee.
 Les cotens serront sussee. ^{kiped}
 et vostre espee reposez. ^{kipen.}
 Mais nostre nes i micherez. ^{kipen.}
 Ore du sainctois pur mir
 pur uos enfans a la matinee
 et a la uespree.

I I eofne enfin v tend la main.
 La matnee uers le pijn. ^{a kyng}
 vne bube donz le donez. ^{an hys}
 Ou vne lefche si plus ne aue. ^{eien.}
 Ams si v le donez des oes. ^{des oes}
 Ensi les atirez a son oes.
 Oustez les baletant qz les hys. ^{soyez}
 le rime. Lentzat aussi et le cubisme. ^{blote of de ep.}
 Si le donez le moel. ^{ollez}

Cotiles shelles of eyren.

Be a home sem est bon morsel.
Mais le germe vo^r en oustes.
Or a mis ne apruisse sesachez.
Reunies et le germe mou.
Mal a desirer pris checum hom.
Et de droyt ensainte cleymant.
Manger pommes p^r ceo ke leymet.
Ne pommes v^r di ensement.
La manere et le affaytement.
Oustes le stiche et la purite.
Et magnument le bode.
Si h^r donez la morte.
La pepigniere vous engetez.
Siles pepignes ne plaignez.

Ore de bestes et des oyseaus. Cix
ascime assemblée par son naturel

Langage en diuersité de louz noms.

En douz ensaintz p^r apadie.
En fraincois deuez entendie.
Or de tote manere de assemblée.
Des bestes q^r dieux ad foismee.
et des oyseaus ensement.

Parler dott om iprement.

Primes ou terfs sont assemblée.

vne herde est apese.

Des grues ausi vne herde

veldeuages.
et des gryues. sanc h. erde p^r riches.
Aye de feisant. boner de perdix.
Nameye des alouches. tripee de les bix.
Soindre de pors et de estoynemus.
Beueye de hezroums. pyppe des oyseaus.
Greille de gelynes. touilee de testes.
Luse de faucoms et de puceles.
Bar pucele seet saint nuper.
Les gentz faimourz assuyer.
Eschene dit om de lntale.
finson dist om de vif armalle.
Hantz dit om des polamz.
ffoleye dist om de vilamis.
Bunt de baroms dit om nomes.
ffrappe des clers par droit de uer.
Thomy i a des chualers.
Route i a des eschiers.
Des Surgeys i a mixi route.
Des rimbz et des boefs sanc doute.
Some de ble. Some de biens.
masse de argent. semes de fens.
Compnigne de dames ditez.
et des ouves eny le frer.
Ceo deus sont associez.
Quelle est la resoun ore eysse.

Meinte des chiens en venesye.
 De toleyz quey q hom dye.
 Mais pur plus perfitemment.
 Parler deuant bone gent.
 Si a souffre uenter. et cornier.
 Dount la rassoun fait assuer.
 Le feu souffle li chyfroum
 Et le vent uentre pur my bussoum.
 Ains venoir prement cornier.
 Quant chace prent de purre prexe.

Ore de naturele noyse des bestes

et des oysemis.

Re oez natureument.
 Des bestes le onissement.
 Chescum de eus et cheascume.
 Soloimt q sa nature dounde.
 Lhomme parle. Oufse vne
 Oz a desmesure se desme.
 Cedum pomyst. grasse grasse.
 Rose roser. basel baser.
 Unde muge et kounde couille.
 Chinal ^{nezey} larke ^{fingey}.
 Columb ^{coulrey}. et col chante.
 Chat myngnoime. serpent cysse.
 Alste torey. Shan ^{thirrey}.
 Hesp hondre. chen bac.
 Loueule. chen bac.

falmere gredey.
 Putoys pur afay gataye.
 fox zellep brok housey.
 Copyl clepe. tesson traitec.
 Quant li venour prendre le vent.
 Oufse iungle ^{andree} garz agroisse.
 En marrais une iavoile
 ains il a iavoil et garoile.
 La difference dire v' wyl.
 ve enedie trickey
 Le une iavoile en rniere.
 Si mis du faucom le quiere.
 Ains deuant une vyle en guere.
 Ziffichent le garoil entere.
 pur le barbitan defendre.
 Et assaut q om i veut rendre.
 Si q la porte n perde rien.
 Cyl guerreour le sieuent bien.
 Ains als noyse redioms.
 Ou plus apredre i pittoms.
 Erapaud ^{tride} roaille. reme gaillie.
 Colconce ^{rouler} frogge ^{trigge} pyppey
 Couleuse ^{tralre} ^{trigge} bouey
 Pintel ^{trigge} setist. senglet relexe.
 Cheuecaus ^{motrey} bole bellier.
 Troye ^{tralre} sturtep ^{tralre} daf.
 Troye groindolle qnt darche qre
 ffrimtoun testel le plomtoun fort.
 Gelyne natureument pityle.
 Quant point en iandom ou en vilie.

Bar de fraunce my tel estille. phis ly uaudreyt en main labesche.
 Or gelme ^{coprest} lepy ^{diatelle} bousbez
 Or gelme hyspe point a pitelle. Or t^{ea} ele ou se abesche
 Ams lesteignalz a la nascye. ^{ye pipe} ^{pe pipe} ^{lyse}
 Destoufentz ne pount myc. ^{lof} ^{lype} ^{lyse}
 Z ly trop se auantte sainte reson. pur la uyamde salee ou frische.
 Z la gelme est cypngnoym. Ore donet ceo chael ^{for to laper} a flater.
 Or phis se auantte pur un oef. ^{on esp} ^{erlyng}
 Or pur sa affuse ne fait un beff. ^{on ore} ^{doctey}
 Et qm^t la gelme chaloyse. ^{hachen}
 Et ce ttepyller fait sa noyse. ^{istriens}
 Des oefs se donet gejmoez. ^{adeli}
 Hom pas q^t sont estergilez.
 Vespbyz baleye. ^{baleye} ^{loupy}
 Espieter prent ses meyz de bale. ^{frare of bagge}
 Z du baleys hom baleye. ^{veseme} ^{boopey}
 La sale. amz q^t la micheye. ^{galley}
 par trop ueilles hom bameille. ^{trame}
 A son seriaunt sa chose balle. ^{talay}
 Z l pres dormir hom se espieth. ^{rarey}
 Vy prestres en leghise prethe.
 Vy pescheoir en rive pessche. ^{fissheth}
 Desatay ou deson besche. ^{mer} ^{boek}
 Le faylh leest sa teze frische.
 pur achater la char frische.
 Safeme vamenet la frische. ^{le ring}

re spade.

phis ly uaudreyt en main labesche.
 Or t^{ea} ele ou se abesche
 Z lyse. ne abube. ne aleche.
 Son chael la piele lesche
 pur la uyamde salee ou frische.
 Ore donet ceo chael ^{for to laper} a flater.
 Or lesche la rosee del herber. ^{re dene}
 Eschier flatour le seet flater ^{losengen}.
 Z les gentz espelupes ^{pice. ut. b. salstien} ye folie.
 En toim chaperoun ne vut lesser.
 Un poym tannit ad cher.
 He pas vons. mes toim auer.
 Re desire de toy auer.

Ore de dunesete de fmmtois

Re soume tut un en un engleys.

v. Est ci vient deuauit vons.
 un tresbeau chmalois ^{trahit} ^{res} sons.
 un de sther sor est ia mounte.
 Le eschir de goules ad porte
 une launce rouge en lune meyn ^{gyn}
 avin ^{red} en lantje pleyn.
 Or ne manue point ^{de} peisson.
 Si del bateng ^{hering} ^{res} noum.

Ore de autre dunesete de aprile.

a quene bouten ring.

Ieo vey vne reyne saint rey.

pur vne semme faire desfres
¶ en my le peame le roy
En un foiss ^{in an neg.} fiet en vne rey

[Oncore de vna mire]

v U vilain vient en ma foret ^{in min heued long bishop} Bisoit. et autres q ne v di.

Ou par despit fit foreme heer. Bas trop i auoit ore a faire.
¶ aint oy foremer. ^{don out of franchise}
Et dist q il uoloit forage. ^{men forage}
Vouint ieo le fesap foremer. ^{gon out of le wyp}
Le leure ^{sethe forage} le uint la foret.

[Ore des aperte pur ceo qe apent
a pice et ensement a champs.]

o Re alsomis as prez et a champs. ¶ O toutes gentz ne sieuent nent.

pur enfourmer nos enfaist. Li carretiers ad sa feorte. ^{in shirpe}
Du frante fauchez vne ameine de pres ^{a syne moche} assas ca rues her le agouillou eu ^{re gode} ponte,
Du fauyl syet vne intie de ble. En la grange vos blez missez. ^{isabel repe}
Vos uaneles ^{in shee ues} en grubes hiez. De hors la grange vos blez missez. ^{bruechent}
Et en truscaus nos grubes mettez. // Car vne moye est dit en gunge ^{a peseis}
vn barot de poys ^{ful op} et vn tas de hors la grange. ^{bancheve re tis}
et les fauaz du barot hiez. // Engunge gne et vous de aresses.

[Et si na mester q v dioms.]

De tote mane de ble les nouins.

De segle. Dorge. ne furment.

¶ commis sont a tote gent.

Ains de autre ^{seeds} trop i qest. prez ceus q sont en enques.

ayolloum apeler ceo ke est de seyn.
Et tas ceo ke est de greyn.

¶ ayoustier verter deguysee restes.

William a boshet.

pur les malices he sont si prestes. Est h[er] rastel maniez.
Desferre greuaunes & molestes. Vaunt le pist alsuge aert.
mes si desauise poingt neestes. Le rastier dom[me] lour seert.
Le aens doymez les chasteines. Schimiez le four de feugie.
Ore del aprise pur pestierestre pur dosance de hieses
pam aufour.

h. Chant uostre blee est ben batu.
pus nentez & pus moliu.
par le mondre deinent satyn.

Ceo q[ue] engra[ve] sibut matyn.

Et du foyne recent le flor[ur].
pur le volenge le pestoir.
dor pur volenges est seuerce.

Lestun de foyne demorce.
Haus chauis le foyn fire donez.

Ense de la flur medez.
h. au p[re]t[er]ne p[re]t[er] ensi pesties.

h. au p[re]t[er]ne p[re]t[er] le rastel.

2 axis rastier fait auge bes.
Les rastel e le rastier.
Bont d'uers en long mestier.
Vaunt am foyas soint a prece.

Licie et lietier sont d'uers.
h. h[er] y possen. Desordunz dient ceus clerz.
y vins[er] y gromde. remouere. stabel mosse.
Li fauchouz lietier fauche.
pur cyse en lietier hom chauache.
axis ceo est lietier saint faulze.
Q[ui] en pur[er] fraine dist om p[re]sle.
p[re]s[er] p[re]s[er] sont nomez.
Q[ui]nt ougram sont seuerce.
Esi du p[re]sle n[on] eit pas.
peyne dont le pesce.

2 q[ui]nt le four est eschauf[er].
Au peel soit le pist entre.
Ore del aprise pur cinqe apert
abone mestier & sage.

Vaunt uostre pist est au four.
7 de pesties i prent soiour.
Endementiers la mesuer.
Hesern pas trop neunchalier.
Ore alez semer uostre lynes.
7 neubiez n[on] le banois.
h. Eler dame mesuer.
Gecz leue am tisere.

ve hopen
 Cap du syn auer les bateaus.
 t du bauis le cordieaus.
 Vostre syn par temps farder. ^{biege hit.}
 t par temps ^{pol hit.} le arasther.
 t defechef lessartez ^{cet hit.}
 t donlez au puit le rehaiez ^{rehaiez hit. sierte}
 t pus au solas le sether. ^{donje hit.}
 t p^r au batre vous aforcer.
 En ynes si veschaufer.
 Et p^r tout sainct must fait bel. ^{magelot.}
 Seiz v^r conient au pesset.
 t q^{nt} au pesset ad son deuer.
 Donlez mez mi fastuer. ^{to le rible.}
 La serence dom^r pnez.
 t vostre syn i serenctez.
 t pus du conoyl v^r purnoiez.
 oes les fusil ne lesez.
 Bar m^r fait si fusil norm. ^{to hostyf.}
 Q^ra mesuete de nesciom.
 Samue le virel q^r a ceo suffyst.
 Je say q^r plus v^r seyn dyt.
 Samus ci ad ore dnisete.
 Dont chescuns nest mye amisee.
 De treys choses seit le fusil.
 Le fusil est fillee du fusil.

virg of fint fusilren.
 t feu du baillou fiert fusil.
 t ble est molu par fusil. ^{mis grounden mid myne spide.}
 Q^rait vostre fusil est infolle. ^{spunne.}
 t le fusil est pleyn chargee.
 Zhu trahul conient donlez alez. ^{to ye tec.}
 wostre syllce trahulles. ^{to ye jarnysnde.}
 t pus alez ala vudiche. ^{to ye jarnysnde.}
 Come de fylle est la manere.
 pur vaudeez apres le trahul. ^{vindien hit.}
 t pus apres tister le wyl. ^{verien hit.}
 t la tystresse q^{nt} perdu le a. ^{ysborpeit.}
 Taintost ses temes veudeza. ^{vinnes. vindien. iif spoler.}
 Ille fet hore dame huoe.
 vni lussel de gndres vude. ^{a clef.}
 Si vous ay dyt q^{nt} ge apent. ^{re cheung slay onliche.}
 ffors q^r la lame soulement.
 Ore pur l'apuse de breser t de brater.
 Pur le desore suffist
 Le frumentois q^r vous ay dyt.
 Desore feffoit asnes. ^{mastein.}
 Come sen doyt breser t brater.
 t la manere q^r om fait ceruoysse.
 pur faire nos hostes a eyse.
 Ellitez au cele la freuole. ^{ye her.}
 E faint nicas ninge de bration. ^{of a leake byt h.}

a vnt **Wyd**
 Vne bune large pnes pernez
 Et woste orge i enfouidez.
 Et qnt il est ben enfouidez.
 Et sensse soit deshouidez.
 mouitez donsz vn soler
 Si le faites bien laseez
 Et la coheret woste blee.
 Taint qsl soit bien ^{ichme}
 Et de cele houle appelleas.
 Breis ceo q anit ble nomas.
 Pus le breis des mains mouiez.
 En moutteaus ou en rengées.
 Et p le portez en vn corbal.
 pur ensetchyz au torail.
 En corbal ou corballoum.
 Se uyr v doit a fuisoum.
 Et p serre le breis molu.
 Et de casse chaude bien enbu.
 Si le lesssez ^{vne} decoure a taint.
 Hors de bourel maintenait
 Vnsc en vn homme bel.
 Apres lessour en bourel.
 Taint q la braceresse entent.
 Q ele eit bezil a talent.
 Et p le bezile prendre.

De furnement ou de orge q ele a.
 Et p le gest et le bezille.
 Dont om tut dys se fustisse
 par droit deuer de bracayre.
 Q tout deuise nel peus mye.
 Mais tout ensi de art en art.
 Attyree cheasture part.
 Taint q v auce la ceruoysse.
 Dont om deuient si bien acise.
 Q les uns emprenent taint.
 Dont il en yurent maintenait.
 Yuresce tient lays home a leste.
 Home Descomi fait auoir mesme.
 Yuresce fait fort home chatoues
 Home avec fait haut ^{treopen} ^{hoes} ^{zelien}.
 Yuresce fait boisse de bracayre.
 Roigne temt sans uermailoum.
 Et donsz dist hom p seint George
 Trop a celiy beu gresse de orge.
 A telles le aultor se repose.
 Q ples pense de autre chose.
 Ore du francois pur pescher
 en vniere ou en estaminz.
 I sainct uoser la manere.
 Come pescher deuez en vniere.

vniere est pprement nomee.
 On enesse vnie est trouue.
 Thiques du ceruoz i espucheez.
 Si du peissoum i queez.
 Et si v' frusser a cel estampe.
 On sensse est a des coruante.
 Allez donsz sancz desay.
 On sensse estre en bocouky
 i la pescaderie vous de nace.
 On petite rey ne trouue grace.
 Si i a nace i queeze misi.
 Comm framcroyz a cheastuny.
 Le nace est memencient oeuerez.
 Mais plus larges pertut assez.
 A lo le queeze. pur quey le dy.
 Or autre uiaance na de hin.
 S'ains retournions a la matyre.
 Or de pescader v' dyg dire.
 Le gurget on nace renueez
 L'ordure li ent en getter.
 Esapoude oulesape si les trouer.
 Serpente ne broleure ne espartez.
 Gnuelle i calloum enrussez.
 I le l'macoum descorchez.
 Et si du peissoum i trouer.

vi ve guses
 par les riemberges le pnez.
 i si il soit mylussel de met
 openen ^{openen} fasson l'openen.
 Ouerit le deuer ^{ve sound} et espandez.
 Lenor tenuant en ouster.
 Bushel eschime ensi lefrez.
 Si retournier uers mayson
 Du gardin uers cele greison.
 Sous voloun portez le peissoum.
 par le veueuges a mesoun.
 Taint q' venez au verd tenail.
 On li pastour siet oue le aumail.
 pur par ceo bois en cel oumbrai.
 passer par desoit le horai.
 Si i a horai pur. h. escrit.
 i orai sanc. h. dyt.
 De soit lebail se leue le lassoun.
 i des orai ot cheastum om.
 S'ains aint q' passe plus auant.
 Du tenail v' eje pl' disaunt.
 pur ceo q'si a plus de sens.
 Doint il i a tieu different.
 Si i a tenoun i tenail.
 i tenayilles de autre apys.
 Le cotyuers tient le tenoun.
 i pur le tenail passe preudom.

Glossary: north.

longgen of colcs.
Mais tenchilles seruent de cartouis
En yuer q̄nt en su seoms.
z au feste de clome.
Q̄nt du hōmet ^{onfect} maistre al entume.
Womt seuen cy taunt de pieges.
Ayes souint aples p̄fliuers.
pur passer ses les rousseus.
ke cy souint clerz & bens.
Ore des aprise pur beuu temps
z pur tempeste. ^{vresy vresy.}
Re pleut ore geele. ^{eler}
Ore remoye ore regole. ^{vresy rem.}
Par le geel auer v glaz ^{vresy}
z du glaz auent uer glaz. ^{vresy}
Fai p̄fliye & geel souine vereglaz. ^{Maruey. l' fidez}
z si ne vaut gueres trop hastier. ^{fidez}
Sur vereglaz pur vereglaz. ^{fidez}
z geel & pluyce degoutant ^{terre}
ffont le chemyn trop hydant. ^{fidez}
Oremegge ore temoye. ^{fidez}
Le tem empyre nostre voie. ^{fidez}
La bouch me entre un mīce de nerf. ^{a floyez finos}
Si chident les vns à soit pur seyf. ^{nerf}
Hous auoms ḡtisyl p̄ q̄l geele geele. ^{ayp̄ fress ul baylen}
Zius grosse. nom p̄is trop gressle. ^{finel}

Yeo oy conayre voire il tōme
Mount la ceuoyse emprise en tōme. ^{m tomme.}
Ore attendez. mons p̄ee tōme.
Hil de vous ia mot ne soume:
Oncore de autre d'iesse de yuer
nayl tempeste. ^{re eyn of st̄mpter.}
Reyde est de yuer loye ^{a redles}
vn deimayl vous est moustre.
En yuer q̄nt loye chamege.
z le temps deuent si estrange ^{dreien.}
Q̄ a maint home fait fort endurier.
pur le destroit des yuer. ^{st̄mpter.}
Faunt en yuer loye chamege.
vne verge creest estrange.
verge saunt verdonys.
Saunt foille & saunt flout.
Faunt vendra testee.
La verge ne est ia trouer.
red me yys redes shat may h̄bœ.
Eco est un esclavil en franteys.
On ysabel en engleys. ^{so acombre}
Faunt auer la mayn taunt estoü ^{mag}
Or pur le froid ne poet mye. ^{ye honde noile}
Des doys faire la copmole. ^{ope a nesse p̄ise}
aneuy vni droit sus phime mole.

Seer pres du feu q̄ a la capole mener of reghurte
 Si chapeau uestu de blançole. of blossed Q̄ du cholet q̄ est de nature.
 Ou de quyller primecole. of yssyndre. Le verme q̄ uerde est colanee.
 pur sere chapeus a clez de escoler wost En fraunce est vno le nomes
 Si p̄t mousses de frivoile of yssyndre. Ore des flus q̄ crescent en boys
 Beuent atq̄ere feme sole nessie. ou en uerger. ou en uerger.
 Mais queor de femme est si mole. bidup. & iour de nient baincoper.
 Quant beau bachelers le a cole. bidup. Iloms deditare ou baincoper.
 Q̄ sonent abrene p̄role. bidup p̄ hys aem. Zhu uerger ou sont les flus.
 femme sole le recole. bidup. Vont emissent les dorz oibais.
 Ohe pleust a dieu q̄ telles soles. of poches. Herbes aussi pur medicinie.
 Eusent faces plenes de veuloles bidup. Vont les nomis q̄ v̄ deigno.
 & les ribautz le rugeoles. wasses. flur de rose, & flur de lys.
 Si lassroient donx les places soles. bidup. Lys pur roignor rose p̄ p̄ole.
 & les soles les capoles. bidup. souz docte.
 Le fons ferreint les bruceoles re d'upingez. Ilisonnace la sinfetinelle.
 Si v̄s apprendre ceus mōens. pur. re jecot docte.
 Des veuloles & di plus de sens. bidup. & pur le roignor vint la p̄petez.
 Si ra vno le veulole & vno le bidup. parfume amparel & p̄remez.
 Q̄ sont de diuers escole. re hant. De rognieren des oyseaus.
 La vno le mainche gane. re sineke. of he ma he.
 Vno q̄tes le man misard. lange. Vn des p̄oles de male & femele.
 & vno le la face empire. re poche. Et cest un p̄ole nomi p̄s p̄ole.
 Il soit i a de si sage sire. a genescorssorn. Cet amparel fait p̄fants nomes.
 Si v̄s ceo est vne mōle p̄ue. help. pur q̄ ensemble sont myez.
 & vno le la face empire. re poche. Ondore a flus me veul alez.
 Il a la flur de sourcere. of solsete. Q̄ ne fait a vbliez.
 & a les euz fait grunet age. help.

vin and heylhone
Heere du boys & heere terestre.
En ces uerger deuyent terestre.
primerose & primeneijre
Or se moufret en temps de veres
Et la conseude i crest aussi.
Comme herbe a chescam y.
Cy est asse de planteine
Exconge & bugle auxi un herbe seyne.
Cest aminge creest en greuet.
& plente trouerez de naiet.
Conseude la blanche flour.
Merlesier & merciful de graunt vlosur.
Fermoyse aussi i auiez.
& planteine si la semer.
Sauge letuse & perhysse.
Cheuerefois & camamille.
ffenois & autre herberye.
Or nomer totes ne peus mie.
Mais si v trouez en uerger.
zheriske ou gletomier
Les aracher de vn besugu.
& plantez cholet en lous fu.
Or ces arbres q' cressent en boy's
En ces uerger des arbres cressent p'ut apprendre chescam y.

Par charge en frant plusors se abeser.
apertes. p'ret. chrisco.
Pomes. peres. cerises.
ash. brom. planteine
fresne. genet. & pruner
hachee. ye hachee
Ceneilles. q' la ceneille porte:
slotte. ye slotte. ou la blanche
fourder. q' la fourdure portes tote
violet. ve violet.
Eglenter ou le peperouges.
volar. volat. volat.
& celer ou les celer roindes.
azetree. azier.
Un alher le porte les alhes
Want zlienoie en auçyempe.
Le nom receut par un rey.
Be out alies enoie deuant sey.
Zlihi i auiez le roignes.
Souent le uoit om en uerger.
Want il i a uariaunce grante.
Or ne sienent pas li auçint.
Ly syres fait son neys roignes.
En ses temps p'ut chastier.
& pernez le roign abatez le roignes.
z couper du roign un roigner.
& roigner est il ensemencement.
Or fait la monoye d'argent.
Couper du coyn une coyghee.
De autre arbres i a aussi.

Lez vous ferai a sauoir La p'mere si auon ver. Car d'comence a la saint
q'en soit en memoire auoir Estes: antomies: a Juex. Q' chas dist iu suspicie:
Q's a: en san: mi: saisons. vint apres ces de p'ties. q'saint urbain faut p're
or en pores oir les nens. Lan: p'tent en un: p'ties. elle fait baftme tste.
autome a feste seit chans
Q' dieu: est amementem

Bois i a. parmer. 7 arable. *cheldearke.*
 Or ne apprise en tēte arable. En marsis demort la herse.
 7 la huse i est en uerger. *et ringlond* *estare*
 Or poy vnut a edifier. *holm* *cheldearke.*
 Ensi v' di q' cete heuse. *to bulgyn* *ribet.*
 Se vnit de mult p' feste houise. *holin* *fimes var*
 La char nuc de soit la houise. *conertour* *Li peissom des eyles p'mode.*
 vaudreyst plus gisir en seute. Et le suem i est aussi.
 Et le suem i est aussi. *eyles 7 celes sont dñiers.*
 Or commun est a chescuny. *suff* *descordunz dient ceus clers.*
suff *sals* *francs flammes* *fishes.*
 Saut i a. sarm. chesne. 7 yf. *chene* *Des eyles naent ceus peissoms*
 De ceo frantzois na nul estrif. *buch* *ringen fibay* *spresses.*
 Fou. Leeme. tortel. boudre. gagger. *tortel* *7 des celes volent ceus missbours.*
 plus m'asfert en uerger. *of etern*
 Ayes de suem sem fet suhemis. *ey mille*
 un mangier ke est bons 7 beaus. *ore* *7 lusi a il. noes. naes. nager. 7 neges.*
 Ore pur trestoutz les oyseus *in ve bot* *Dont la rassom fait a sauer.*
 q' habitent en boyis ou en foreste. *cupidon*
 L' lunt du uerger auons le chois. *Li marynet* *En mer nae li peissom.*
 Ore aloms nisser au boy. *intingne* *7 en mer noce manit preudom.*
 Oye du tussignol le gal. *oute in halle.* *ore* *7 Des oyseus depuent nager*
 Or meury charante q' busson ensale. *sheedey*
 7 meury charante maniez en busshoun. *prostie* *Eu batel li marynet*
 Or charfesoriz en mayson. *temous* *ans en ynes ucoins neges*
 En branche siet le menu meyle. *fring* *7 les amfées auas.*
 ydel. ydel. *lat* *7 lusi a il espmode 7 espmode.*
 usens oyseus *in re net*
 Sachet ke de passerat *of spresses.*
 Chars soint chandes megre ou gras.

ayans espereure est la cōte p̄fole ou milc note de frestele.
 Et ceo font li clejoum de escole. S'ont ore i aines le m̄usenge.
 Car cil espereut natureument. Q' les haes ^{heges} en bois ^{ramas} re titemose.
 Q' les lettres ensemble prent. Deslitez villes wſtre renge
 S'ont ore as oyseus rednoins. Si renge villes le m̄usenge.
 On plus apredre i proms. Oncore i a la pilenole.
 En chambres et en place ment. Et aussi la chardoméjole.
 Sont li h̄idetoks depenit. 7 si a il des papillons. re titemose.
 Q' plusouys dyent astye. Q' sen se uoillent eschardeums.
 Aymz dooit smiczois nest il myest en les rovinces ensement.
 Amz sont h̄idetoks apprement. usent sen natureument.
 7 verder ia ensement. ayans ceo ne fait pas ly gryffillouz.
 Dont verder i a 7 veredes. Q' en cuitillage ad son soiouz.
 Un oyse et un forestier. He li heysouz ment le plus.
 Car par ci vole le verder. Q' prent la pome le chiet n̄is.
 7 par la vire si ueredez. He musches ne l̄ibetz nel font mye.
 S'ont ore ou tapit un astye. Car il eyment pl le vryte.
 smiczois veot hensi le dyce. S'ausi a il ^{ene} aine 7 plormozom.
 Le sydetoz ci est festil. Q' en r̄iere vnt loiz ^{compig} mansiom.
 De bingey's de zorrenys. En moires meynet les vaneles. ^{spes / lapessi}
 Ci uinent volant un restel. 7 en tales sont vaneles.
 Tressel. Si se tuit uers ceo trussel. En ginge ^{re wonne} vsmis le vint.
 Car plus ayme le restel. 7 en semipons est le han.
 Environez un haut trussel. A la vanele 7 ly primoz ^{bitterede}
 Q' mulbeni treut de la vycle. En more foingt loiz piec.

Si vient uolent vn ouisse ^{bildegos} abrois. Puis me deduire en ceo boys.
 vn blasset a lin acupagner. ^{bernat} Seo uex uenir vn teysoum.
 Et mieux se joye de vn blasset peu. ^{bernat, fed} Qd ad guepys sa mansioum.
 Quae serroye de char de freu. ^{of a rok} Puis le feente ou gypyl.
 Et plus est ignel vne moude. ^{raife} Qd lin ad myn en exil.
 Qd mulecigoyne en ceo monde. ^{ank} Et homys soit si mauputoys.
 Et ceutroudes a la ceneforme. ^{sinfestre iut at rebous euchinge} Car soit en vise ou en bois.
 prent le musshorn et le aforme. ^{malicie} Qd el enchant mais q il eyt.
 Et li oyselet q ad nom lezat. ^{ayte} Grasse geyne a son reheat.
 pres de ruerre est ps au lat. ^{snare} Et pl amasse vne besete.
 Le chaint ou ciloil est bien rotour. Puis faire ma ginge des jaz nette.
 si ne est guares delicios. Qd toutes les tainpes de ca q a pris.
 Lejne seroit si rjetous. Qd font ^{bon desamper} taupaynes en myn.
 Si son chaunt fut gracious. Seo uex cy desout la dinne.
 Mayns plus est oy en oriol. ^{in pe heye tout} Un oyselet polles le her pe reperon.
 Qd la noyse du lorol. ^{re des hale} Seo uodres q l huc noyse blanche.
 Et pl ommit pel de foorn. ^{of retch} Oyl q oyselet ad plumé.
 Qd chaint de aine ou de poorn. ^{ml} En la neyf ele teym. ^{scot.}
 Ains du poorn la bese ^{basse} Seo uex ester un petit neym.
 Est deitable a la vesse. ^{reperi of retch} Ore puy les prietes de vne
 En pl eyme Dame penne de poorn. ^{cart bendes.} capette oue qnqe i apent.
 Qd en letheiere mat de poorn. ^v vne capette bien descuse.
 Ore puy toutes les bestes q ha- ^v Le frumetors v met en hyse:
 bient en boys ou en foreste. ^v Dont les roes di mi pmours ^{re fessele}
 v Lus auant oncore men voys. Puis les bendemis q sont entour

En les bendedis q̄ sont de fer. Aont auer rideles a costez.
 Sont les ^{pe valien} mantez atacher de fer. En les rideles vount les roulois.
 De sour la bende est la iamme. Par les trus saintz nul clous.
 Le a clous de fer l'entre grante. sahns pur estre plus artalouis.
 En les iammes entrent les ^{pe sonde} fnes. Des essens v' d'ijm̄ plus.
 A du soleil p̄sent les fnes. Il a essel 7 assel.
 A de la mer menent les fnes. 7 le tiers entore hinsel.
 A uers la foire vount les fnes. Le chartyl hymys sur le assel.
 Mais les fnes du chaste. Et en le moal ḡst le essel.
 En le moyens vnt lour jescet. Mais le hinsel auer vous
 Et dist le moal de dem le jef. As ambes les bras a descez.
 Tuit droit au moal des oes. Se n hymouns vali hymoer ul hymon
 Seo fui fait il fort ses a porter. Q̄ au dos porte le dossier.
 A ico fait l'autre bon a mangier. 7 au ventre le ventret.
 Fais en le moal ḡst le essel. 7 a la brise le bannier.
 Q̄ par deus hies se tient ossel Ventrete 7 ventret ia.
 Auj les asseaus ḡst le chartyl Quijs come v' oriez ia.
 A puis faines le de perys. ventrete est apprement nomee.
 Si est le chartyl de bons braulans. Pour aydes en has sa weymie.
 fferm hies as escaus. Et si outre les moies soient faines. Q̄ut ele ḡt en ḡme
per deutes. on thibetide.
 Donlez m faut si nom esmeles. Inde esfart. Bonnebop
Mais apprement dist om ventret.
 Pas entre le chartyl 7 les moyens. Telle lors
 Sount atachez houstoilez deus. pe eche of re trayt.
 Et chescun chasne le meyne bles. Balley.
 2 Les ^{axter} escaus vnt sur ^{cloutes} iuncies.
 & les cydron au bon freres.

Venant les braceroles sont ^{treopmme} billez. 7 totes mitres bestes tenuz.
 Tailer de cotteaus ou de hachet. Ore pur la caruisse oue tote
 De bon fust round ^{yrreutien} doletz. la prete q'il i astier.
 Les colz des chnauis portent estelles. vis q'ore suffit du chappet.
 7 coliers de quin ^{ver l'anne} oue lour oecles. De la caruisse ore mentsemet.
 Et les coies de quin ^{le ruisseau} 7 bouiehostelles. En la caruisse auet vous.
 En charette est le soner. D'ueys nomz 7 muassous.
 La on seet le charetier. Dont pmes le chef 7 le penouin.
 Et si le charetier ad sa reorte. Le bondie 7 le fante.
 Dont ses chnauis en cours resorte. Le manual 7 le tenouin.
 Donty ad epicte a l'in apent. Par de senz est le oxillouin.
 Q' en taunt suffist q'q sentent. 7 plus amont est le escuchouin.
 Et p' estre plus sachant. La roche 7 le vonez.
 V' d'ny amz q' passe auant. Aueyn caruisse de deuer.
 Le droit afaire du capetter. En l'ing la caruisse gift la hac.
 7 ensement du caruisse. Q' uient de bois ou de hac.
 Le carretiers estrille auant. 7 si couent auoir un maillet
 Dont ses chnauis groen. a solch betel. ul. brodel
 Et li boineys nel tiegne a gr. 7 un morindylloin pur faire le net.
 Q' bien ne frote ^{mis le biss} ou tortez. Venant la hac soint les chnes.
 Tantz q'soient enbeurez. On soint ataches les tenouins.
 Mais a soi serront franez. Les boefs i portent les nubis.
 Fraienc i apprement. pur crestiens 7 pur gnis.
 Ceo dist li auctor q' ne ment. 7 pur les arzouins es nubis fetines.
 Q' chnauz 7 boef sont franez. Sont les boefs si fort artees.
Q' les couent maugre l'ordre.
Par le agdillouin es chnauz effouz.

De ceste matice asset moins.
redressom ore nos moins.

Ore des aprise pur cincie apent
a moins edifier.

I vous auez en penser.
maisom ou chmire edifier.

Il conient au commencement.

Or il i ait bon foudement.

Sz p i leueez la mesiere.

Dont feme est Dite mesiere.

Il i a messiers et mesiere.

Entendu en dñse manere.

Ly mesier ad les chmps en aye.
mais mesiere fait la sale fine.

Car ceo est meur q enclost la court.
et ceo est mesiere ou coumble abouit.

et preye est il ensement.

Or de vne part et de autre prent.

ayut est dñs de porte en porte.

Et la mesiere q mesoun porte.

Sur la mesiere en tñrs outre.

Almont le celz mettez la poutre.

De poutre en sale dote om poser.

La poutre en un solez.

mas au pilier defus la poutre.

ye systes ^{coumbe} s'ouïres
Trestoutz les seylooms mettez outre

z sur les seylooms la plaunch'e.

De bord ou de plastre pnyre.

Zu pilier de sonz le poustre.

De cheuestre liez la nme poutre.

Sur la mesiere les tñres mettez.

De deus cheuestrons vne couple facez.

Or fermi esterra sur la mesiere.

Par la pynelle as fach symbel.

Par la pynelle z par terere.

Dont m'saut si coumble nouv.

Ou tout amoint la maisom.

Or conient en hing auoir pnyree guenchois.

Dont le coumble est mis p'seun.

Avis pur plus auant pnyser.

Car ceo est meur q enclost la court.

Vne deues vbliez.

Or il i conient des brenchois.

Cloufchez a nos moins.

z trenchois a la pnyre ausi.

Pur cele aprise le v di.

Or il i a trenchois z trenchisouns.

Dont tenu descord i a des nouv.

Or trenchois a moins eise.

z trenchisouns as vns despleise.

z as chmians nomeliche.

Car il les mangulent mallement.

Or De tote la maisom est coumble a pnyser

& cel est de telz dont est couest.

*F*oncore fait bien a sauver.

*O*u en droit de maison edifier.

*D*e deniers ilz conuent estre.

*M*ie smoket *me fumose*.

*L*i aumeyre et la fenestre.

*S*umeyre et aumeyre i a.

*A*ll aumeyre sumee istra.

*M*ais ceo est pprement aumeyre.

*O*u lem met vicundre et viare.

*E*t l'entree des huns est la hyme.

A et outre la teste est la fullyme.

*V*encoste sont les gynneaus deus.

*O*u len dont pendre son huns.

*E*n hys *herre* gymel pendons nos gooms.

*H*ooker *bengeles Et chistien*

*S*i deus uesteuelles eoms.

*O*re faites chibet et cerupe.

*O*u pisse par my la terife.

*O*re pur attyer sale ou chiam.

*N*re comtre la venie des estinges.

*E*t ces ore appailler.

*O*u nous prissons tout manger.

*V*n uasset de uint e quatres.

*M*ouindez tantzout ces hastre.

*P*ortez les cendres au funer.

*L*es hastelles fetes alhimer.

*D*it un tisoun des fu emprys.

*O*u de la quysme sera pris.

*L*es hastelles mettes en tmyers.

*L*es chenes q sont forges desfers.

*G*o des escole le cheual.

*F*aites hastelles v faites mal.

*M*ais faites hastelles de chene.

*O*u de autre ou de frene.

*P*uis un quele le fou.

*O*u est fet de chy e de fou.

*M*ais pur la verdur des astes.

*V*encoste sont les gynneaus deus.

*S*eo ne voy ysser escencelis.

*V*a quele breses en un tessre.

*E*n hys *herre* gymel pendons nos gooms.

*T*el teysel le fu cy vecut lessveuse.

*O*re agardez sa beau frere.

*H*e auera ci la bele cheure.

*G*ardez vos dras de famethes.

*A*mettez en breses poynes et pesches.

*S*aymdez la sale soule.

*D*um baleys fayt de boule.

*A*mettez la table et la bocueuz.

*Z*lu mems q ceo point soit estable.

*D*e nappe bocuez la haute table.

*E*t la seconde napi bocuez.

*D*e blainche nappe si bocuez.

hors
7 si la nappe soit trop sale.
in halle.

Hest pas auenante en sale.

Cas blanche nappe moult vsee.

Vaut plus q̄ nouelle en brouillée.

Les borts de la table e les couirs.
Conefiez de nappe deumit feignoirs.

V. Lavez les hanaps moundez esquelles. Trenchez le pain q̄ est pasee.

Mortella Coupez les vngles d'usche as cieler. Les byseaus soyent p̄ dieu donee.

Vaten quystroum ou toim hauer. De toutes trêchoms tens byseaus.

Etre le hagyz du postenet. De ille me mangoms tens myeaus.

7 mettez vostre veille ruchie.

De sout vos poz nom pa la ruchie.

7 priez la dame q̄ ta leFFE ruchie.

De sa luchie sur la luchie.

& mette la teyle al ydole ou lyt.

Pres de la rose le la enfeftat.

Mais a la ruchie rediroms.

On phis apprendre i p̄roms.

La ruchie seruira des ees.

Want nous veoms volez les ees.

Car un e par soy singulierement.

A n homy beo est apprement.

Apprement un de des ees.

En engleys est a s̄ar of beos.

7 herbe q̄ est abus de estable.

7 cez est une bresche de mel nomee.

En ruchie font les ees de gre.

Ore pur diverses paroles q̄ auenturouusement inerent en place.

Et p̄illiez bel geuz a mangier.

Si poez menez alloser.

V. Lavez les hanaps moundez esquelles.

Coupez les vngles d'usche as cieler. Les byseaus soyent p̄ dieu donee.

Vaten quystroum ou toim hauer. De toutes trêchoms tens byseaus.

Etre le hagyz du postenet. De ille me mangoms tens myeaus.

7 mettez vostre veille ruchie.

De sout vos poz nom pa la ruchie.

7 priez la dame q̄ ta leFFE ruchie.

De sa luchie sur la luchie.

& mette la teyle al ydole ou lyt.

Pres de la rose le la enfeftat.

Mais a la ruchie rediroms.

On phis apprendre i p̄roms.

La ruchie seruira des ees.

Want nous veoms volez les ees.

Car un e par soy singulierement.

A n homy beo est apprement.

Apprement un de des ees.

En engleys est a s̄ar of beos.

7 herbe q̄ est abus de estable.

7 cez est une bresche de mel nomee.

Ore de un autre.

singe of ambe de pliede.

sens estreit de puant sous.

herc doy schbord.

ffant sale nappe i table gntionis.

Ore de un autre.

Ore de vñ autre.

Ernez uasset en vos est dars.
Le harenç soor du fraciejons.
Car pat deuant miez estoys.
et dentoste sont vos gissons.

Ore de vñ autre.

Ico vey cy remt mestre Hugo.
Le rye ne parle si il ne buge.
Ses deus gissons chagent prese.
A checum mot li vns bambeye.
Li autres ne puet parler.
vne parole sans nascyer.
Li ne menchaut si il nascyer.
Car il ne uant pas vne alye. estatue.
et q' mems vaut il vauentut dys.
Mais si q' ore vousist mour auys
Il empriest sa miere.
O! lui feist vne bauue.
Mais de fenes ay dedem grun.
O! par orgoil se afforcent tuit.
En parlant blescer tut dys.
pour plus pleye a lors amys.
Tlusi a il tussier et escoper.
Ruper, vomyr, estermier.
Ihor dist q' cil tousse de droit.
O! trop de rouge ceuoise bot.

vnyht in veldie.
Vtayle chamele.
La renome de cest fu esprindue
par sa gentilise par tote terres.

14
et cil q' mult laumbeye au qucor,
mult lui estuet escoper.
et cil q' multe mache oil gouste.
une gtmunt gat le mette ionste.
Car ruper lui estent tresbien.
Ou vomyr mangre le soen.
Mais estuyer souent.
Bauntee est et allegement.
Vomyr ia et vomer.
Diversement pur parler.
Car q' inuinde ne puet temir.
A force lui estuet vomyr.
Mais eschaumps seit le vomer.
O! bien le sienent li carusser.
Et cil lauseye appremet.
Vient les vns commençment.
O! froid estomak ad en sin.
Si sienent le myre ensi.

Oncore de autre vñiance.

Ilusi a il chiner et reteler.
roisset, lenter, et gakenyller.
Hom clune des euz naturellement
Oint naturess somoill le preint.
et li felonie bille les euz.
Oint veniger se veut pas coroies.

re hiltie.
Le capelé et espere fu de fin or.

bagges
 Et cil recleye dist li frimmois.
 Qu'li m eul ad uers le boyg,
 Et l'autre au chump ou au pre.
 Cestui recleye tout de gre.
 Mais celi est lenteys de droit.
 Qu' de somz nule rien ne vit.
 Si ne la mette n'eul pres.
 Celi lente tout a des.
 Mais ghemilleys autre chose entet.
 Eil q' volaieusement.
 Les eus gette et sa et la.
 De mal usage pme le a.

 Oncore de un autre.
 Later la plate beurt douz frixe. Crunes. aloues. et ploners rostis.
 Engleis la pelent plate piee. Braom. cespes. et frutage.
 Mais plateys fait a plates.
 Et la pelote a peliser.

 Ore pur parler des armes de
 vne graunt mangerye.
 Si vallet de la noueserie.
 Qu' vient de vne graunt mangerye.
 Et de la feste nous ad cointee.
 Come lors seynce fust assenee.
 Sant pam et um ou ceuoyse.
 Sesera nuls a feste a eae.

 Asser par my la mesme.
 Et grechue and taken out of grete.
 De grete et de enfermeyson.

arms au mehys fait a sauet.
 Du cours q' eurent a pmer.
 La teste du cingler ^{i armes}.
 Et pus le groign ^{ve grot} ^{fig of baneires} plen baneire.
 Puis uencyson ^{nd ve cheete} ou le furmente.
 Puis maunte autre d'uisete.
 Des grusses. petoles. ^{armes} ^{petoles} ^{armes} et cynes.
 Cheuerens. pincemis. et gelynes.
 Trestout de laque en foindree
 Et p' i out autre foison de rost.
 Chescun de ensis autre entost.
 Feisantz. aschez. et perdriz.
 Que laque roset la temprise.
 Ayres. quebes. clouges. offretz.
 Et d'autre espiereye assez.
 Et q'nt la table fu oustee.
 Blanche poudre ou la grosse dgee.
 Et d'autre nobleie a fusoun.
 Ensi v'fmyst le sarmoir.
 Car de frimoyis i a assez.
 De mult de manere d'uisetez.
 Dont v'fmyst seignoys en taunt.
 Zu fiz dieu v' trestout comaus.

 Explicit ut sup dictum est. et c.

5) アングロノルマン「礼節」論

— Anglo-Norman Treatise on Courtesy —

Noreture

I. Text

Oxford, Bodleian Library, MS Douce 210

ff. 45^r—45^v new pagenation

- 1 Ci comence noreture,
Curteisie et *grant* mesure.
Coment ly sages son fitz apent,
- 4 Poez oer apertement.
Une sage home de *grant* valour
Qi longe tens vesqui od honour,
De son enfaunt se purpensa
- 8 Et de son bone sen ly mostra,
Et dist: Beau fitz, ore escotez,
Si jeo die, bien le entendez.
Noreture vous voile apprendre
- 12 Taunt come estez d'age tendre.
Car pur verité et ben vous die,
Ly home est honiz ke n'est norie.
Ore escotez, *moun* beau douce fiz,
- 16 Coment jeo voile qe seez noriz.
Jeo voile tot a de *primoure*
Que tu seez sages et pleyn de douçoure,
Seez deboneir et corteise
- 20 Et ke tu saches bien parler *fraunceys*.
Car molt est lengage alosé
De gentil home et mout amé.
Ore retenez cest de moy
- 24 O les biens que jeo mettrai.
Si en serrez le plus sachauant.
Ore escotéz, *moun* douce enfaunt,
Vous devez amer le Dieu pussaunt,
- 28 Tenez la ley et soun comaunde.
Voluntiers alez a mouter,
Si escotés le Dieu mester.
Car de la *serveise* Dieu oyr
- 32 Ne poet nule male avenir.

[45^r]

- Piere et mere honurés
Et bele *grace* en averés,
Bone *sainté* et longe vie
- 36 De ceo, chere fiz, ne faudrez myc.
Beau fiz, vos devez esteer
Devaunt *toun* seignor a manger,
Et par ta bone volonté
- 40 *Vous* serrez deschaproné.
A pilere ne devez apoer
Ne ta neu chare grater.
Ne rier ne reschiner,
- 44 Ne a nuly moker.
Taunt come *vostre* seignor beit,
Genuler devez de droit,
E a ta dame ensement.
- 48 Car ceo a nurture apent.
De *serveise* devés apprendre
Que tu sachez toy defendre
A mangere devaunt la gent,
- 52 Bien et curtoysement.
Vos en irrez tot entour
Come apent a *toun* labour.
Si i seit aprés manger,
- 56 De l'*eawe* devez doner.
A baroun ou chivalere
Vous devez engenulere,
A chevaler ou a *personne*,
- 60 Car ceo a nurture condoune.
De language apernez
Que entendre le savez,
Et parler apertement
- 64 Come a nurture apent.
Si langage ne savez,
Ne apprendre ne volez,
L'em porra parler de *vous*
- 68 Grant male et deshonours.
Si l'em vous doin, petit ou *grant*,
Taunt come *vous* estez enfaunt,
En genulaunt le pernez
- 72 Et belement ly merciez.
Pensez de *vous* bienfesours,

- Si les rendez en honours,
Quanqe *vous* soiez de poer,
- 76 Vous li devez mercier.
Si vous alez enhiminaunt,
Et vous encouitez petit ou grant,
Toste ta bouche overez
- 80 Et belement li saluez.
Si *vous* en alez coy avaunt
E ne responez meyntenaunt,
L'em porra toust parler de *vous*
- 84 Ke vous estes mout deynous,
Et ke vous estez maunori.
De ceo pensez, jeo vous pri.
Ne seez pas medisaunt
- 88 A home, a femme, ne a enfaunt.
Et *vous* gardez bien touzjors
Que vous ne responez a rebours.
Noveles avaunt ne portez,
- 92 Si avower ne les poez.
Car l'em *vous* dirra deshonour
Qe vous estes fort mentour.
A nuly ne promettez
- 96 La chose qe *vous* ne avez,
Car beau promesse e rien doner
Se fest li fole recounforter.
Fues puteynes et hasardrie,
- 100 Et la taverne de vynetrie.
Car ki est holers e taverners
Toust avera gasté ses deners.
Si acune amy en avez,
- 104 De ceo *vous* bien avisez.
Ja por vostre fou delite
A li ne facez nule despite.
Toun amy devez touz jours amer,
- 108 Et totdys honurer.
Si nule home a *vous* trespace
De dite, de fete, ou manace,
Le maundez toust par bone gent
- 112 Ke il *vous* face amendement.
Vos ne prendrez la venjaunce
De cotel, de espey, ne de launce.

- Hastivement devez conquere
116 Amendement par lay de terre.
Ne seez pas trop hastifs,
Ceo *vous* prie, moun chere fiz.
Fole hastivesce mout poy vaut,
120 De simple home ou de haut.
Car cely que poet bien soeffrir,
Sovent avera son pleyser.
Entre riches et menes
124 Belement *vous* portés.
Ne vos portez ja trop baud,
Ne trop simple ne trop haut,
Mes *vous* portez menement
128 Cum a mesure appet.
Ne seez pas trop orgelous,
Vos prie, chere fiz, per amours.
Orgule regne un poy adés
132 E grant hount vient après.
Si sage home devenez,
De ceo vos bien avisez,
Ke acun devez conseiller
136 Qi ad a *vous* grant mester,
Li consellz bien solom la ley
Et ly diez la droit fey.
Ne li blaundez jeo *vous* defent
140 Pur or ne pur argent.
Mes ly diez la droit *vérité*
Que puys après *vous* sache gré.
Les biens qe *vous* porchacez,
144 Sagement le despendez,
Hors de fole compaignie,
Beau fiz, et ceo vou prie.
Car *nous* veoms mult sovent,
148 Une grant partie de fole gent
Ke vendent tere et tenement
Et autre chose qe a ceo pent,
Lour eritage tot enters
152 Mettent tot en diners.
Et robent ceo beau damoyseles
Que souint si avenauns et beals.
Et achatant lour viaundes

[45^v]

Noreture

- 156 Tot apr s lour demaundes,
Bone vyn chapouuns et owes.
Puys apr s eles fount lour mowes,
Et mokent cele despendour
160 Ke lour fist si grant honour.
Car taunt come la bourse poet dorer,
Amour de femme poez aver.
Et quant la bourse par defaute se close,
164 De femme ne averez fors un glose.
De ceo seez bien garny,
Beau douce fiz, jeo vos prie.
Ore Dieux nous doint issi overir
168 Que fere pussom soun douce pleyser.

Amen

II. 教養の書 *Noreture* 訳

- ここに教養と礼節と優れた節度の教えが始まる,
賢い人がどのようにその息子に話したか, さて, しっかり聞くとしよう。 1
信義を重んじ年を重ねた 德高き賢明なる人は
子息のゆくすゑを慮り, 自身の良識を彼に示した。 8
そして言った「よき息子よ, さあお聞き, 私の言うのをよく聞きわけよ,
年若いうちのお前に, 教養ということを教えておきたい。
まこと, 私はお前に言うが, 教育のない者は恥をかく。
さあ聞いておくれ優しい子, どのように育って欲しいと願っているかを。 16
まず第一に望むのは, 賢明であり, 優しくあって欲しいこと。
人には寛大に 礼儀正しく, フランス語を上手に話せるように,
フランス語は身分ある人が賞賛し, すんで使うものだから。
私が教える善いことと共に, それをよく覚えておくのだよ。 24
すれば, 一番の物知りとなろう. 従順な子よ, 聞くがよい,
全能の神を愛し, 神の掟を守り, いましめを忘れぬように,
喜んで教会に行き, 神への勤行を聞きなさい。
ミサにあづかっておる限り, 何の悪いことも起こらない。 32
父母を敬い, うるわしい寵愛を受けるよう,
健康と永生き, 愛する息子よ, それがないがしろに思ってはいけない。
さてわが子, 食事の際には御主人の前に立ち
そして, 行儀よく帽子を脱ぐこと。 40
柱にもたれかかったり, 肌をぼりぼり搔かぬよう,
笑ったり, しかめつらをしたり, 人をばかにしてはいけない。
お前の御主人が飲物を摂る時, 姿勢を正し膝をつくのだ
奥方にも同じようにしなさい, 教養にかかわることだから。 48
給仕については, 礼儀正しく
人の前では食べぬよう, その心得を知りなさい。

お前の仕事にふさわしく、周囲に心を配ること 食事が終ったあとならば、きれいな水を差し上げよ。 身分高きお方、騎士どのには、片膝ついて跪くこと。 勲功ある方、司祭どのにも、それが教養を示すのだ。 フランス語を学び、それを理解し はっきりと話せるようになりなさい。その教育にふさわしく。	56
フランス語を知らず、覚えようともしないなら 人はお前をけなしもするし、不名誉なことも言うだろう。 お前が幼少である間、いろんな人から頂くときは 跪いてそれを受け、心から感謝するのだよ。	64
恩恵下さる方々を覚え、敬うように、 肝に命じて、有難く思わなければいけない。 道を歩いて、さまざまなお人に出逢ったら いそいで口を開き、立派に挨拶しなさい。	72
だまって行き過ぎ、何も言わぬなら、 人はお前の噂をして、失礼な奴と言うだろう、 教養がないとも言うだろう、よく考えておくのだよ。	80
男性、女性、子供にも、悪い口をきいてはいけない つっけんどんに答えないよう、注意してわきまえなさい。 認めることが出来なければ、噂を持ち運ぶのは禁物。 人はお前を大嘘つきと呼び、お前の不名誉を言いふらす。	88
自分にできないことならば、誰にも約束してはいけない。 良い約束をし、何もできぬというのは、愚かな空約束だから。 いかがわしい女性や賭事、酒を売る店は避けること。 夜ふかし共や居酒屋浸りは、自分の金をまたたく間になくす	96
そんな友達がいるならば、よく忠告してやることだ。 お前の愚かな優越感で、友だちを軽蔑するべからず。 友達は常に大切にし、尊敬しなければならない。 もし誰か、言葉、行為、あるいは脅迫で、お前を陥れるなら、	104
ただちに然るべきお方に依頼してその償いを求めるように。 刃物や剣や槍などで、仕返しをするのではない、 国の法律に従って、すみやかに償いをかち得るのだ。 何事も焦ってはならない、愛する息子、それは頼んでおきたい。	112
つまらぬ者も高貴のお方も、愚かなせっかちは損をするだけ。 充分耐え得る人々には、大抵喜びが訪れる。 裕福な人たち、多くの方々の間では立派に立居振舞うこと、	120
はしゃぎ過ぎず、つまし過ぎず、またおごらず、 ほどほどにしなさい。良識ある者のように。 あまり傲慢にならぬよう、親愛なる子よ、愛をこめてこれは頼むのだ。 傲慢が、日の眼を見るは束の間で、大きな恥辱がすぐ後にくる。	128
賢明な人になるのなら、これは胸にきざんで覚えておいで、	

誰かがお前をあてにして、忠告をせねばならぬなら 法律に従い相談にのり、まこと誠実に言いなさい。 金貨や銀貨のためだといえど、追従おべっかは許さぬぞ。 まことの真実を言うのだよ、いずれ感謝されるように。 お前が骨折った財産は、良識をもって使うのだ	136
馬鹿げた友達からは離れてな、美しい息子よ、是非そうしておくれ。 狂った多くの連中を、見かけることは屢だ。 土地や家屋を売り払い、それにかかるものなども、 相続財産売りとばし、全てを金に代えている。	144
素敵で綺麗な娘さん、別嬪さんをかっぱらい、 言うが儘にと大散財、まず食物を買い与え、 良い酒、去勢鶏、鷺鳥とくるが、すぐさま娘さん等は苦い顔、 ちやはや大事の お大盡様をば、ばかにする。	152
財布の金の続く限り、女の愛情はもつけれど、 空っぽになって閉じるとき、女の不平しか残らない。 このことに充分心せよ、美しい優しい息子、是非そう願いたいものだ。 さて神がこのように我等を善く導き、慈悲深き御心もて嘉し賜わんことを。	160
	168

アーメン。

III. 品詞別語彙

1. Article

le	25 27 30 (3) : la 28 31 51 96 100 113 137 138 141 161 163 (11) : les 24 143 (2) : li 98 (1) : ly 3 14 (2)
un	164 (1) : une 5 148 (2)
del	56 (1)

2. Substantive

age	12 (1)
amendement	112 116 (2)
amour	162 (1) : amours 130 (1)
amy	103 107 (2)
argent	140 (1)
baroun	57 (1)
bienfesours	73 (1)
biens	24 143 (2)
bouche	79 (1)
bourse	161 163 (2)
chapouns	157 (1)
chare	42 (1)
chevaler	59 (1) : chivalere 57 (1)
chose	96 150 (2)
comaunde	28 (1)
compaignie	145 (1)
cotel	114 (1)
curteisie	2 (1)

Noreture

dame	47 (1)
damoyseles	153 (1)
defaute	163 (1)
delite	105 (1)
demaundes	156 (1)
deners	102 (1) : diners 152 (1)
deshonour	93 (1) : deshonours 68 (1)
despendour	159 (1)
despite	106 (1)
dite	110 (1)
doucours	18 (1)
eawe	56 (1)
enfaunt	7 26 70 88 (4)
eritage	151 (1)
espey	114 (1)
femme	88 162 164 (3)
fete	110 (1)
fey	138 (1)
fiz	15 36 37 118 130 146 166 (7) : fitz 3 9 (2)
fraunceys	20 (1)
gent	51 111 148 (3)
glose	164 (1)
grace	32 (1)
gré	142 (1)
hasardrie	99 (1)
hastivesce	119 (1)
holers	101 (1)
home	5 14 22 88 109 120 133 (7)
honour	6 160 (2) : honours 74 (1)
hount	132 (1)
labour	54 (1)
langage	21 65 (2) : language 61 (1)
launce	114 (1)
lay	116 (1) : ley 28 137 (2)
male	32 68 (2)
manace	110 (1)
manger	55 (1)
menes	123 (1)
mentour	94 (1)
mere	33 (1)
mester	30 136 (2)
mesure	2 128 (2)
mouster	29 (1)
mowes	158 (1)
noreture	1 11 (2) : nuture 48 48 60 64 (3)

noveles	91 (1)
or	140 (1)
orgule	131 (1)
owes	157 (1)
partie	148 (1)
persones	59 (1)
piere	33 (1)
pilere	41 (1)
pleyser	122 168 (2)
poer	75 (1)
promesse	97 (1)
puteynes	99 (1)
rebours	90 (1)
recounforter	98 (1)
riches	123 (1)
sages	3 (1)
saunte	35 (1)
seignor	38 45 (2)
sen	8 (1)
servise	31 49 (2)
taverne	100 (1)
taverners	101 (1)
tenement	149 (1)
tens	6 (1)
tere	149 (1) : tere 116 (1)
valour	5 (1)
venjaunce	113 (1)
verité	13 141 (2)
viaundes	155 (1)
vie	35 (1)
volunté	39 (1)
vyn	157 (1)
vynetrie	100 (1)
Dieu	27 30 31 (3) : Dieux 167 (1)
4. Adjective	
avenauns	154 (1)
baud	125 (1)
beau	9 15 37 97 146 153 166 (7) : beals 154 (1) : bele 34 (1)
bone	8 35 39 111 157 (5)
chere	36 118 130 (3)
coy	81 (1)
curteise	19 (1)
deboneir	19 (1)
deynous	84 (1)
douce	15 26 166 168 (4)

Noreture

droit	138 141 (2)
enters	151 (1)
fou	105 (1) : fole 98 119 145 148 (4)
fort	94 (1)
gentil	22 (1)
grant	2 5 68 69 78 132 136 148 160 (9)
hastifs	117 (1)
haut	120 126 (2)
longe	6 35 (2)
medisaunt	87 (1)
neu	42 (1)
orgelous	129 (1)
petit	69 78 (2)
pleyn	18 (1)
pussaunt	27 (1)
sachaunt	25 (1)
sage	5 133 (2) : sages 18 (1)
simple	120 126 (2)
tendre	12 (1)

6. Pronoun

acun	135 (1) : acune 103 (1)
altre	150 (1)
cele	159 (1) : cely 121 (1)
ceo	36 48 60 86 104 118 134 146 150 153 165 (11)
cest	23 (1)
eles	158 (1)
en	25 34 53 74 81 103 (6)
i	55 (1)
il	112 (1)
jeo	10 16 17 24 86 139 166 (7)
ke	14 149 160(3) : ki 101(1) : qe 96 143 150(3) : qi 6 136(2) : que 24 121 154 (3)
l'em	67 69 83 93 (4)
le	10 62 71 111 144 (5) : les 74 92 (2) : li 76 80 106 137 139 (5) : ly 8 72 138 141 (4) : lour 151 155 156 158 160 (5)
moun	15 26 118 (3)
moy	23 (1)
nous	147 167 (2)
nule	32 106 109 (3) : nuly 44 95 (2)
rien	97 (1)
se	7 98 163 (3)
son	3 7 8 122 (4) : soun 28 168 (2) : ses 102 (1)
toun	38 54 107 (3) : ta 3 9 42 47 79 (4)
tot	152 (1)
toy	50 (1)

Noreture

tu	18 20 50 (3)
vous	11 13 27 40 58 67 69 70 73 75 76 77 78 81 83 84 85 86
	90 93 94 96 104 109 112 113 124 127 136 139 142 143(32) :
vostre	vos 37 53 73 113 125 130 134 166 (8) : vou 146 (1)
	45 105 (2)

6. Verb

(acater)	
achatant	155 (1)
aver	162 (1)
ad	136 (1)
avez	96 103 (2)
avera	102 122 (2)
averes	34 (1)
averez	164 (1)
(aler)	
alez	29 77 81 (3)
irrez	53 (1)
(aloser)	
alosé	21 (1)
amer	27 107 (2)
amé	22 (1)
(apendre)	
apent	3 48 54 64 (4)
appent	128 (1)
aprendre	11 49 66 (3)
apernez	61 (1)
apoer	41 (1)
avenir	32 (1)
(aviser)	
avisez	104 134 (2)
avower	92 (1)
(beivre)	
beit	45 (1)
(blandir)	
blaundez	139 (1)
(clore)	
close	163 (1)
(comencer)	
comence	1 (1)
(condonner)	
condoune	60 (1)
conquere	115 (1)
conseiller	135 (1)
conselez	137 (1)
defendre	50 (1)

defent	139 (1)
(deschaperoner)	
deschaproné	40 (1)
(despendre)	
despendez	144 (1)
(devenir)	
devenez	133 (1)
(deveir)	
deves	49 (1)
devez	27 37 41 46 56 58 76 107 115 135 (10)
(dire)	
die	10 13 (2)
dist	9 (1)
dirra	93 (1)
diez	138 141 (2)
doner	56 97 (2)
doin	69 (1)
doint	167 (1)
(durer)	
dorer	161 (1)
(enchiminer)	
enchiminaunt	77 (1)
(encuntrer)	
encountrez	78 (1)
(engenuler)	
engenulere	58 (1)
entendre	62 (1)
entendez	10 (1)
(escuter)	
escotés	30 (1)
escotéz	9 15 26 (3)
(estre)	
est	14 14 21 101 (4)
estes	84 94 (2)
estez	12 70 85 (3)
sount	154 (1)
serrez	25 40 (2)
seez	16 18 19 87 117 129 165 (7)
seit	55 (1)
soiez	75 (1)
(ester)	
esteem	37 (1)
(faire)	
fere	168 (1)
fest	98 (1)

Noreture

fount	158 (1)
fist	160 (1)
facez	106 (1)
face	112 (1)
(falloir)	
faudrez	36 (1)
(fuir)	
fues	99 (1)
(garder)	
gardez	89 (1)
(garnir)	
garny	165 (1)
(gaster)	
gasté	102 (1)
genuler	46 (1)
genulaunt	71 (1)
grater	42 (1)
(honir)	
honir	14 (1)
honurer	108 (1)
honurés	33 (1)
manger	38 (1)
mangere	51 (1)
(mander)	
maundez	111 (1)
(malnurir)	
maunori	85 (1)
mercier	76 (1)
merciez	72 (1)
(mettre)	
mettent	152 (1)
mettrai	24 (1)
moker	44 (1)
mokent	159 (1)
(mostrer)	
mostra	8 (1)
(norir)	
norie	14 (1)
noriz	16 (1)
oyr	31 (1)
oer	4 (1)
overir	167 (1)
overez	79 (1)
parler	20 63 67 83 (4)
(pendre)	

pent	150 (1)
(penser)	
pensez	73 86 (2)
(poeir)	
poet	32 121 161 (3)
poez	4 92 162 (3)
porra	67 83 (2)
pussom	168 (1)
(porchacier)	
porchacez	143 (1)
(porter)	
portés	124 (1)
portez	91 125 127 (3)
(prendre)	
pernez	71 (1)
prendrez	113 (1)
(prier)	
pri	86 (1)
prie	118 130 146 166 (4)
(promettre)	
promettez	95 (1)
(purpenser)	
purpensa	7 (1)
(regnier)	
regne	131 (1)
(rendre)	
rendez	74 (1)
reschiner	43 (1)
(resondre)	
resonez	82 90 (2)
(retenir)	
retenez	23 (1)
rier	43 (1)
(rober)	
robent	153 (1)
(saveir)	
savez	62 65 (2)
saches	20 (1)
sachez	50 (1)
sache	142 (1)
(saluer)	
saluez	80 (1)
soeffrir	121 (1)
(tenir)	
tenez	28 (1)

(trespacer)	
trespace	109 (1)
(valoir)	
vaut	119 (1)
(vendre)	
vendent	149 (1)
(voir)	
veoms	147 (1)
(vivre)	
vesqui	6 (1)
(venir)	
vient	132 (1)
(voloir)	
voile	11 16 17 (3)
volez	66 (1)

7. Adverb

a de primoure	17 (1)
adés	131 (1)
apertement	4 63 (2)
aprés	132 142 158 (3)
avaunt	81 91 (2)
belement	72 80 124 (3)
ben	13 (1) : bien 10 20 52 89 104 121 134 137 165 (9)
ci	1 (1)
coment	3 16 (2)
curtoysement	52 (1)
de droit	46 (1)
ensemement	47 (1)
entour	53 (1)
hastivement	115 (1)
issi	167 (1)
ja	105 125 (2)
menement	127 (1)
meyntenaunt	82 (1)
molt	21 (1) : mout 22 84 119 (3) : mult 147 (1)
mye	36 (1)
ne	32 36 41 42 43 43 44 65 66 66 82 87 88 90 91 92 95 96 106 113 114 117 125 126 126 129 139 140 164 (29) : n 14 (1)
pas	87 117 129 (3)
plus	25 (1)
poy	119 131 (2)
puys	142 158 (2)
sagement	144 (1)
si	25 30 154 160 (4)
sovent	122 147 (2)

Noreture

tot	17 53 151 156 (4) : toste 79 (1) : toust 83 102 111 (3)
totdys	108 (1)
touzjours	89 107 (2)
trop	125 126 (2) : trope 117 126 129 (3)
un	131 (1)
voluntiers	29 (1)
8. Preposition	
a	29 38 41 44 47 48 51 54 57 59 59 60 64 88 88 88 90 95 106 109 128 136 150 (23)
apr�s	55 156 (2)
de	5 7 8 18 22 23 31 36 49 61 67 73 75 83 86 100 104 110 110 114 114 114 116 120 120 134 148 162 164 165 (30) :
devaunt	d 12 (1)
en	38 51 (2)
entre	71 152 (2)
fors	123 (1)
hors de	164 (1)
od	145 (1)
par	6 (1) : o 24 (1)
por	39 111 116 163 (4) : per 130 (1)
solum	105 (1) : pur 13 140 140 (3)
	137 (1)
9. Conjunction	
car	13 21 31 48 60 93 97 101 121 147 161 (11)
come	54 64 (2) : cum 128 (1)
et	2 8 9 13 18 19 20 22 28 33 34 35 39 52 63 68 72 78 80 85 89 99 100 108 123 138 146 149 150 153 154 155 157 159 163 (35) : e 47 82 97 101 132 (5)
ke	20 84 85 112 135 (5) : qe 16 94 (2) : que 18 50 62 90 142 168 (6)
mes	127 141 (2)
ore	9 15 23 26 167 (5)
ou	57 59 69 78 110 120 (6)
quانqe	75 (1)
quant	163 (1)
si	10 55 65 69 74 77 81 92 103 109 133 (11)
taunt come	12 45 70 161 (4)
10. Interjection	
amen	169 (1)

IV. *Noreture* に就いて

Oxford Bodleian Library 蔵の MS Douce 210に収められている *Noreture* ff. 45^r—45^v は子供の教育のための教訓書であって、このような教訓詩は中世イングランドにおいて多く書かれたと見做されている。教訓詩の中で、¹ アングロノルマンの「礼節」論 Anglo-Norman Treatises on Courtesy と呼ばれるものが8写本に現存し、Oxford Bodley 図書館, Cambridge Trinity College 図書館, Cambridge

Univ. 図書館に所蔵されている。

それらは *Edward* (Bodley MS 425 ff. 107^r—112^r), *Bon Enfant* (Bodley MS 425 ff. 112^r—113^r), *L'Apprise de Nurture* (Bodley MS 9 ff. 61^v—67^r), *Un Petit Traitise de Nurture* (Bodley MS 9 ff. 81^v—86^r) の 4 篇と, 中世では *Urbain le Courtois* と言われてきた作品である。上記の 4 篇は単独写本に残っているのみであるが, 特に *Urbain* 「礼節」論と言われる 1 篇は 8 つの写本の中に残されてある。それらは即ち: Bodley MS Selden Supra 74 (S); Bodley MS 39 (fly-leaves) (F); Bodley MS Douce 210 (D); Cam. Univ. MS Gg. 1.1 (G); Cam. Trin. Coll. MS O. 1. 17 (O); Bodley MS 425 (U); Cam. Trin. Coll. MS B. 14. 40 (B); Bodley MS 9 (C) であって, 13世紀後半より 15世紀初頭にかけて作られた写本である。

初期の写本と後期のもの間には百余年の隔たりがあり, 「礼節」論の内容もまた初期のものと後期のものに凡そ二分される。The Earlier Version は D, G, O, C と F の一部分と考えられており, The Later Version は F の一部分と, S, U, T である。² S は 1892 年に E. Stengel によって ‘De courtoisie’ として, 紹介され, 翻字された。(cf. *Zsft. für französ. Spr. und Lit.* XIV, pp. 151—153.) そして, The Earlier Version と The Later Version は H. Rosamond Parsons によって 1929 年に刊行された。然し乍ら Parsons は *Urbain* の原本に最も近い形を再現しようとの試みからか, この教訓詩の構文の, 細密に構成されていない特徴を生かして, 初期の作品も後期の作品も現存の各写本からある部分を抽出し, 底本となるものに加え, 所謂混淆本文 amalgamation を作り上げたのであった。写本校定は写本に書かれてある, ありのままの姿を可能な限り示すことも肝要である。よって, 本論では Parsons 氏が Earlier Version の底本となした Oxford MS Douce 210 の *Urbain* (筆者はこれを *Noreture* と題する) ff. 45^r—45^v を茲にあらためて刊行することとし, 転写と共に翻訳, 品詞別語彙とその頻度, さらに, 言語の特徴についての記述を附加した。

さて, アングロノルマン「礼節」論のうちの *Urbain le Courtois* と言われてきたものであるが, この呼び名はラテン語で書かれてあった礼節についての書物の表題の *Urbanus* から借用したらしい。しかし内容は特にラテン語の *Urbanus* の翻訳ではない。³ *Noreture* は子供の頃の礼儀作法と節度の心得などを成長過程の実際に即して教えている。Ly home est honiz ke n'est norie (14) 教育のない者は恥をかくのであって, その教育は食事中の作法, 目上の人達への礼儀であり, そして誠心誠意誠実であれということだ。何事も熟考して中庸を重んじ, 愚かな快樂で身を滅ぼすことのないようにと教えるのである。立派な人は賢明で, 雅びでなければならないし, Que tu seez sages et pleyn de doucoure / Seez deboneir et corteisie (18—19) 優しい人柄であることが大切だ。また, フランス語を上手に話せるように心得ておくことは, プランタジネット王朝の英国においては上流社会, 良家の子弟の教育には必ず必要な条件であった。何故ならフランス語は宮廷の言葉であり, 身分の高い人々が推賞し, 好んで使う言葉だったから。しかし乍ら, Et ke tu saches bien parler fraunceys (20) フランス語を巧みに話すようにと教えているところで, アングロノルマン独特の鼻母音に u を入れる fraunceys という綴りや, 大陸フランス語とは異なる発音綴りが現れているのも興味深い現象である。(上掲は 18—19 行引用例も参照)

近代イギリス文字の源流となる作品を世に出した Geoffrey Chaucer も少年の頃は礼儀作法を子供の教育のために書かれたこの種の教訓詩から学んだのであったろう。英語の優れた作品といわれる *The Babees Book* 「幼児の書」⁴ はラテン語からの翻訳とされているが, その一節が MS Douce 210 *Noreture* の一節を翻しているのも興味深い発見であった。

「わが子よ, 食事の時は御主人の前に立ち, 行儀よく帽子をぬいで, 柱にもたれかかったり, 肌をひっかけてはならないよ.」(ll. 37—42) という教えは英語で you're heede, you're hand, your feet, holde ye

in reste ; / Nor thurhe clowying your fleshe loke yee nat Rent ; / Lene to no poste whils that ye stand present / Byfore your lorde, … (ll. 80—83) 「手、足、頭を動かさぬよう、肌をがりがりひっかけて傷を作っちゃいけないよ。御主人の前に立つときは柱にもたれたりしないこと。」となっている。この「幼児の書」も官邸での行儀見習いの小姓や良家の子弟のために書かれたもの、如何に振舞うべきかということに関して厳格な教訓を授けているのである。Chaucer の傑作「カンタベリー物語」に登場する騎士見習いの従者 squire は父親につき従って旅をしていた。彼の礼節を心得た好もしい青年であったのだ。Curteis he was, lowely, and servysable (General Prologue l. 99)

子供たちの教育について、僧院や大寺院附置の塾の如き教育機関は既に 7 世紀に存在していたのであるが、中世イングランドで、殊にプランタジネット王朝時代には子供たちが、6、7 才になると彼等を他人の家に預けて教育、躾をして貰うことも広く行われていたようである。そのような場合「礼節の書」が譜じられて、教本となった可能性が多い。Curteisie 「礼節」と Noretur 「教養」を身につけることは、子供たちにとってまず第一の課題であった。礼節正しき姿は、その時代の大いなる理想の姿でもあったのだ。

V. 言語の特徴

Chaucer の「カンタベリー物語」に登場する美しい華やかな騎士見習いの若者 squire は、フランス語を主として話していたらしい。彼のフランス語習得がどの程度であったかは知る由もないが母国語の英語も不十分だと謙遜する程、日常はフランス語を使っていたのであろう。Chaucer に言われるまでもなく、その当時良家の子弟、子女にとってフランス語を学ぶことは肝要であった。そしてそれはイングランドのフランス語であった。MS Douce 210 の *Noretur* にもそのアングロノルマン語の特徴が見られるので、その特徴を以下に記しておく。

I. 母音

① 鼻母音の表記：

(1) a+鼻子音

母音 a のあとに鼻子音が続くと、綴り *aun* が用いられた。*Femina* (後述) には locution として *aun* の u を軽く発音するようにとの指示がある。

- a) *avaunt* 81, 91 *avenauns* 154 *comaunde* 28 *enfaunt* 7, 26, 70, 88 *demaundes* 156 *devaunt* 38, 51 *medisaunt* 87 *pussaunt* 27 *sachaunt* 25 *viaundes* 155 *venjaunce* 113
[verb] *enchiminaunt* 77 *genulaunt* 71
- b) *fraunceys* 20 *launce* 114 *saunte* 35 *taunt* 12, 45, 161
[verb] *blaundez* 139 *maundez* 111

- (2) o+鼻子音は *oun*, *oum* 又は *un*, *um* と表記された(アングロノルマン 1250 年以降の特徴とされる) 綴り *aun* は cf. Pope : [34. 1] *oun* は [45.1, 49.1]

- a) *baroun* 57 *chapouns* 157 *hount* 132 *moun* 15, 26, 118 *recounforter* 98 *soun* 28, 168 *toun* 38, 54, 107
[verb] *condoune* 60 *encountrez* 78 *fount* 158 *sount* 154
- b) *cum* 128 *volunte* 39 *volutiers* 29

② 自由母音 o の表記：

- a) *ou* : cf. Pope : [16.3.1]

bienfesours 73 *deshonour* 93 *deshonours* 68 *doucoure* 18 *honour* 6, 160 *honours* 74 *mentour* 94 *primoure* 17 *valour* 5

b) u:

honurés 33 [verb] honurer 108

c) o:

seignor 38, 45

③ アクセントの前の音節の拘束母音 o は u と書かれた:

corteise 19 curteisie 2 curtoysement 52

④ 13世紀にかけて二重母音 ei は水平化して e になるか、もしくは ei のまま残った: cf. Pope: [16.3.1]

a) ei の保存: (*Femina* にも ei を保存する発音が記されている: 例 boseign, locution boseyne)

corteise 19 curteisie 2 fey 138 ley 28, 137

[verb]beit 45 seit 55

b) e と表記:

[verb] aver 162 seez 16, 18, 19, 87, 129, 165

⑤ 二重母音 ie が e となる: cf. Pope: [35.1.0.0]

a) (-ariu>)

chevaler 59 chivalere 57 deners 102

b) (-en>)

ben 13

c) (-eriu>)

mester 30, 136 mouster 29

d) (sapiatis)

sachez 50

⑥ e の代りの i: cf. Pope: [39.3.2]

chivalere 57

[verb] enchiminaunt 77

⑦ 渡り音の e が表われる:

averés 34 が averez 164 avera 102, 122 overez 79 overir 167

⑧ ei, ey が ai の代りに用いられる:

a) deboneir 19

b) pleysir 122, 168

⑨ 不定法語尾-er と -ir の混同:

pleysir 122, 168

⑩ ui が y と交替する:

cely 121

⑪ 語頭音 a の消失:

(apendre) pent 150

II. 子音

① 語末歯音 d の保存: cf. Pope: [38.1.1.3, 42, 3]

ad 136

② k の使用:

[pronom] ke 14, 149, 160, ki 101
[conjonction] ke 20, 84, 85, 112, 135
[verb] mokent 159

③ 口蓋音 [l] を l が表わす：

orgelous 129

[verb] consellz 137

④ Metathesis：

[verb] apernez 61 pernez 71

⑤ rr の使用：

[verb] serrez 25, 40

⑥ w の使用：

eawe 56 mowes 158 owes 157

[verb] avower 92

III. AN の特徴を示す綴り

① 綴り y が多く見られる：

amy 103, 107 coy 81 curtoysement 52 damoysesles 153 deynous 84 espey 114 fey 138 fraunceye
20 ley 28, 137 meyntenaunt 82 moy 23 mye 36 pleyn 18 pleyser 122, 168 poy 119, 131 puteynes
99 puys 142, 158 totdys 108 toy 50 vyn 157 vynetrie 100

[verb] garny 165 oyr 31

② 1人称現在単数形：

voile 11, 16, 17

③ 男性単数過去分詞の語尾：

norie 14

④ jeo 10, 16, 17, 24, 86, 139, 166 ceo 36, 48, 60, 86, 104, 118, 134, 146, 150, 153,
beals 154 ; dorer 161 ;
chivalere 57 engenulere 58 toste 79 ; piere 33 ; solom 137 ; fitz 3, 9

IV. 活用語尾の混用

① 2人称現在複数動詞語尾 -ez と -és の混同がある：

devés 49 escotés 30 portés 124

② 1人称複数の動詞語尾 on, ons にかわる om, oms :

pusson 168 veoms 147

V. Assonance については不規則を示す例がある

① beit : droit (ei : oi)

45 46

② moy : mettrai (oy : ai)

23 24

③ pernez : merciez (ez : iez)

71 72

poer : merciez (er : iez)

75 76

④ overir : pleyser (ir : er)

167	168
soeffrir : pleyser	(ir : er)
121	122
⑤ menes : portés	(es : és)
123	124
	(moienes)

VI. Morphology

- ① 指示形容詞と形容詞女性複数形 celles と belles に対して男性形単数の ceo と beau が用いられる：

Et robent ceo beau damoyseles 153

- ② 指示形容詞男性単数に対して女性形 cele が用いられる：

Et mokent cele despendour 159

- ③ 関係代名詞男性主格に対して ke, que が用いられる：

ke n'est norie 14, Ke vendent tere et tenement 149

Ke lour fist si grant honour 160

Car cely que poet bien soeffrir 121

VII. Syntax

vous と tu の場合の動詞語尾の混同：

[2人称において単数主語に対して複数動詞形が用いられる]

Que tu seez sages et pleyn de doucoure / Seez deboneir et corteise 18—19

Que tu sachez toy defendre 50

注

1. H. Rosamond Parsons, *Anglo-Norman Books of Courtesy and Nurture*, Oxford, 1929, p. 1.
2. *Ibid.* p. 4. p. 6.
3. P. Meyer, "Les Manuscrits Français de Cambridge" *Romania* XXXII, 1903, pp. 68—71.
4. F. J. Furnivall ed., *The Babees Book*, EETS Os. 32, London 1868: New York, Greenwood Reprinting 1969, p. 4 (MS Harley 5086 ff. 86^r—90^r ca. 1475 A. D.)
5. Geoffrey Chaucer, 'General Prologue' *The Canterbury Tales*, ed. F. N. Robinson, The Riverside Press, Cambridge, 1957.
6. 'The Squire's Tale' in *The Canterbury Tales* op. cit. p. 128. l. 37.

Noreture

Oxford Bodleian Library

MS Douce 210

ff. 45^r-45^v

Si comente noreture
 Comente a gnt mefme.
 Coment fi sage voi fes apnt.
 Poer oer apertement.
 Si sage home de gnt malbry
 Si lange tems coiffu d'homme
 Je con ceulx re ppechis.
 Et de un bonc re si mostya.
 Et dist leau fes ore estoer.
 Si leu die bren le entendre.
 Oeaus rul boile apndre.
 L'ame come estes sage rendre.
 Car pm moyre e Nier voulz die.
 Un home est homm le nest norie.
 Que estoer mon bren dure fr.
 Coment leu vole q' reg noyn
 Leu vole coc a deffomme.
 Que tu reg sage e plen de loucom.
 Les debonnes e curose.
 Et leu vache bien pler francois.
 Car molt est langage ablo.
 De strel home e mort ame.
 Que recens cest de moi.
 Les biens que leu mectoy.
 Si en feres le plus sachant.
 Que estoer mon douce enfante.
 Vou deles ames le dieu puissant.
 Tenez la ley e tout comande.
 Noblement alez a monster.
 Si estoer le dieu mestre.
 Say de la chaste dieu oyr.
 Que poer male male auem.
 Queve a mes domes.
 Que bles ete en auers.
 Vou deles a longe vie.
 Que ceo chef ne ne faudre my.
 Vou fu mes deles estoer.
 Dement voi venger a mangier.
 Et par ta boue refire.
 Que deys deschaprone
 Piller me deus, a poey.
 Et ta neu chere quater.
 Et pier ne refire.
 De amulx moker.
 Si comte ore regne bret.
 Gouel deus de bret.
 G-a ta dame ensemene.
 Say ceo a nuptiue apent.
 Que chise deus apendre.
 Que tu rages coq dependre.
 D'menys deusant la gant.
 Vou a contrepement.
 Vou en ipes coq entour.
 Comte apent a touz bretur.
 Si i seit apres indugay.
 Des este deus domes.
 Des ou chivaloy.
 Des deus engenleoy.
 Chevaloy cu a ppon.
 Say ceo a nuptiue endure.

De bngatice apet le.
 Que encandp resquer.
 Et parler apertement.
 Come a mytis aperto.
 Si language ne digne.
 Ne aprendre ne roter.
 Len ppa pa lez de vo.
 Que male a deshonore.
 Si leu vo d'or peit ou gnt.
 Tant come coo estoer enfant.
 Engenleoy le peyne.
 Et bellement li morties.
 Penses de coo bien festoy.
 Si les rendre en honore.
 Qui que coo dies de peyne.
 Voil le deus morties.
 Si coo alez en criminale.
 Et noy morties peit au gnt.
 Toste ta houche ouer.
 Et bellement li valuer.
 Si vo en alez coj auant.
 Que refire meintenant.
 Len ppa tout parler de vo.
 Le vo estoer mort deshonore.
 Et le coo estoer meunoy.
 Que ceo penser leu coo py.
 Que ceo pas medisant.
 Un home a femme ne a enfant.
 Et nad gardes bien tenu voys.
 Que vo ne refire a rebours.
 Poules surt ne porcs.
 Si a moker ne les voe.
 Say len coo digne deshonore.
 Si vo estoer mort meunoy.
 Si maill ne promette.
 Si chose q' vo ne auer.
 Si ar bren pmesse a rien donez.
 Si fest li sole vecostoy.
 Si sua ptemes a baptdre.
 Si la cauerne de bryctoy.
 Si ar li est blosys e laurans.
 Si dust auera caste coo denoy.
 Si i acune ame en auer.
 Si ceo coo bren auver.
 Si por roter foudre.
 Si le ne ppa nul despose.
 Vou ame denz ton louys ames.
 Et tue des homies.
 Si milde homie a vo tressaco.
 Si de dieu de face ou mordre.
 Si mordre coust par bone vant.
 Si le vos face amendement.
 Vou ne prie la mercienc.
 Si acois de effoy ne de bries.
 Si astuegient deus conques.
 Si mendement p lez de zappo.
 Si a des pas trop happe.
 Si co coo tue mou chef li.
 Solo trastuegient mouz pappo.
 Si simple domes ou deffant.

Car celz que par son effect
 Sonvert meya con plesier
 Enf. Riches & menez
 Selement vos pries
 Ne vos pries, ta trop hard
 Ne trop simple ne tu hauras
 Vos vos pries menement
 Tu ameslye appert
 Ne sei pas trop orgelous.
 Vos prie ches fui per amours
 Orgule, regne, ton poy ades
 Gant haurat voint apres
 Sage homo deuens
 Ne ceo vos bien diste
 Ne acim deuens conseilley
 Ne al a moy gant mestre
 Si conseil, bien soldam la lej
 Est li dieu, li port, li
 Ne li blamme, re de defens
 Nur or, ne puy argent.
 Vos li dieu la d'port force
 Quo pries appes li p'fie
 Es bienz q' vos poufates
 Agement li defende
 Vos de fole impangue
 Deau fu a ceo vous prie
 Et nol meoms nol puent
 Vos gant partie de sole sent
 Ne vendent ces & tenement
 Et alef chose q' a ceo pent
 Tous exage tot encey
 Mencem tot en Disney
 Et volent ceo deau demandez
 Quae gout si auenans & bales
 Et achacent luy craindes
 Et appes luy demandez
 Vos vnu d'apres & obes
 Vos d'ores elo p'c luy malvois
 Et malvois cele desfencion
 La luy fist si gant honou
 C'ay tenu come li d'ayse p'c doez
 Amoy de femme p'c auez
 Et gant li d'ayse p'c defance se doez
 La femme ne auerai fors un alio
 Ne ceo ore, bien garig
 Deau douce fu reo vos prie.
 C'ay dieux nol dom'e, i'm ouery
 Ne seoy p'fissom voul douce plesier

QVI

Vo or i'm est mou eaduce ceo.
 Ma vno mon cofor mon p'fice hauras
 Vos nol p'nd m'z en le rest d'ap're am'.
 Qu' nol auer meustres, a moy d'vertis p'fice

Save a tou hont de tout comencey
 De loys tou regne nou s' m'le faire a l'her
 Ceo que p' mes vesprires ne doi par offrir
 Vos coo luy empesce p' odre relacy
 Ne donec i'm le velle medeces
 En tene ou en fistes ceo fu le vendey
 Soncement empastez au trecons enemis
 Indas j'm tou corps a les mes vendeys
 Vos ceo que tu sangro I fust enuenient
 Vautes a vos disciples un poal m'le ch'ngent
 Vos de nos m'ois est crecer & ly comez a le
 S'amus I lealz esferent vngoutz augeant ait
 Ne donec i'm q' auoir pla face
 Monstres vos disciples al monte d'ame
 Pla l'air A en dist tout enembant
 Que c'ies estoie ta alme p' mes vendeys
 La voi m'fies as genoys p'ce caprante
 Vos humeurz signe q' tu amesles temo
 Le quoy q' tu p'fies estoie cramele amant
 Vos paix de la mort q' ia ame p'fond
 Ne donec i'm los al'fes enocent
 Ne fust exige p'fias q' tel ment d'ame
 L'ne ment pas souz mes d'route gant
 Ne tog v'ler come l'yon a amener auoit
 Et q'als q'nt voi p'fies d'fies meymement
 Dex moy si leu le dieu q' nol ales querz
 Ne mon forces vo' p'fisiers leu dieu ales p'fis
 Mes ames disciples ne fatus tant ne que
 Ne donec i'm los f'istes amene
 Q' u' p'ce de la lej Caiphas appelle
 I'les q' democristos totz la m'gret
 Des ones & des al'fes infemel f'fice
 A p'fes d'fies p'fies p'fis en la m'gret
 Barant p'fice le f'fies estoies m'fice
 Ne faire testinogies p'famme stort d'fice
 Mes come un signel totz p'fies p'fis
 Ne donec i'm a li p'fice ad p'fie
 Vos q'nt ce ont ces gants p'c d'ap're p'fis
 Ne es tu bon de fues & de rest p'fis nol
 O'fice il'or ceo dist d'fies ad respondu
 Q'ou Regne & ma regnaxie nest pa' d'ap're p'fis
 Vos raliez le p'ples q'li reo ca venu
 Mes en la fin du m'le reo d'fies
 Ne donec i'm donec p'fice respondu
 D'fies p'fies de regne ceo di reo bien q'
 Ne tu bon de fues d'fies moi reo tenu
 Ne si tol ce bon & tenu venu
 Ne ceo ne tenu respondu donec p'fice ren
 I' dist a les mes v'les c'egant q'li p'fis
 Q'li no cof' adhesion en rest d'fies
 Vont p'rule v'les deffes est p'fis
 Ne donec i'm leu ad un sondes

Les Curtesyes

I. Text

Oxford, Bodleian Library, MS Bodley 425

ff. 113^r—113^v

- 0 Ces sount les curtesyes qeux le sage hom*me* aprent son fitz [113^r]
1 Un sage hom*me* et de graunt valour
 Q*e* long temps vesquit od graunt honou*r*,
 De son enfant se purpensa
4 Et de son bien li demonstra.
 Et dit: Beau fitz, ore escutez
 Si jeo dye, bien l'entendez,
 Nurtur *vous* voil apprendre
8 Taunt come *vous* estez de age tendre.
 Ore escutez, mon cher fitz
 Coment voil q*e* vous seez nurrys:
 Seez franke et debonner,
12 Saunz mesdit et saunz mesfere.
 Jeo voil tut a primur
 Q*e* vous seez humble et plein de douzour,
 De beale portour entour la gent
16 Nent trop haut, mes menement.
 Par taunt serrez le meuth praisé
 Et de sage gent appellé.
 Veez touz jours q*e* seez sage
20 Et q*e* *vous* ne facez houterage
 Vers veil hom*me* ne enfaunt.
 Et quant tu seras entre la gent
 Gardez ta lange sagement.
24 Si *vous* avez acheson [113^v]
 De moustrer avaunt vostre reson,
 Curteys et brief soit tun langage
 Le meuth serrez oy de le sage.
28 Et quant *vous* voillez parlere
 Et vostre resoun demoustrere,
 Ou si *vous* soiez aresonee
 De june hom*me* ou de eyné,

- 32 L'entendez bien, ne soiez hastifs.
Et quant sont passez touz lour disse
Enmy le frount les regardez.
Vos peez ne voz meynes ne crouellez,
- 36 Mes sagement et sanz mesdist
Respounez a touz lour dist.
Et fauseté et fause gent
Sur tout rien vous defent
- 40 Ne *vous* lessez venter orgoil,
Jamés a vostre voil,
Kar ceo est la surtz de touz maus
Et chef de pecché *criminaus*.
- 44 Et ceo est le peché *qe* fet la gent
Purrir et finer malement.
Et totes choses *qe* fere devez
Premerment vous purpensez,
- 48 A quel chef *vous* puissez trere.
S'il est bone, bien est a fere
S'il est mauveys, si lassez.
Et *pour* meutz fere *vous* purpensez,
- 52 Seez touzdis bone *cristien*.
Amez Dieu sur tote rien,
Le meuz *vous* avendra a touz jours.
A tote gent fetes honours
- 56 Et a femmes nomement,
Kar ceo est del mound afaitement
Ke l'em prent plus a gree.
Et plus i est alosé,
- 60 Car d'eles venent les prués,
Les *grans honors* et les hautesces,
Les biens, les joyes, tout a une mot.
Dount me est a vise q'il est sote
- 64 Ki d'eles se fet hayr
Ja ne verrez bien finer,
Que ceo est foli ou *grant peché*.
Amez la bien saunz fauseté
- 68 Et pus amerez les nettetez.
Et les ordurs eschverez,
Et pus amerez les curteysies.
Mes de une rien *vous* gardez
- 72 Ke ja en femme ne affiez

- Pur sa valour ne pur son pris,
Saunz counsail de voz amys.
Veez qe en vostre vie
76 Ne vous avauntez de vostre amyé.
Et quant vous voillez parlere
Et vostre resoun demonstrere,
Sascez q'il est resoun
80 Saunz mesdit et saunz tensoun,
Si serrez le meuth amé
Et pur sage alosee.
Alez partout entour la gent
84 Si orrez de plusours afaitment,
Kar jammés jeo vous affye
Ne serrez altrement nurrie.
Seez de bele conteinment
88 Ou qe tu vas entour la gent,
Nent trop haut ne trop bass
Qe nul se puisse fere de vous gas.
Amez les armes et les chivaus,
92 Si les avrés bones et beaus
Si les donez autresi vilement,
Come ils vausissent nient.
Ore, escutez qe jeo vous die :
96 Vous gardez bien de tote folie,
Dez maus qe vennent de orgoil,
Chastier mon enfaunt voil.
Sur tote rien vous requer
100 Qe orgoil ne proche vostre cuer.
Veez qe ne seez lousengour
Vers amy ne vers seygnour.
Et s'il desirent qe vous diez
104 Tote le male qe vous savez,
Ne pensez my pur eus paiere
Mes pur bien dire sanz cuer grevere
Et a la meuz qe vous poez,
108 Plus beal counsail lour donez.
Et s'il crusent a cele foez,
Pus aprés vous savrount grez,
Et pour Dieu ne vous acustumez
112 D'escharner homme qe vous veez,
Tout seyt il povr et bosognus,

- Que il ne seyt si beal come vous
Ne si prodome, ne si sachaunt
116 Ne si curteys, ne si vaillaunt
Ja pur ceo n'echarniez,
Kar pur escharner bien sachez
Ne serez jaméz alosez
120 Mes haie et rebutez.
Et moult soleit Dieu haier
Ceux qe ament l'escharnir.
Et serra li escharnisour
124 Escharny de chef de tour.
Ne seez pas envoous
Ne plein de ire, ne covetous.
Et si homme te voet mesdire,
128 Ne saillez pas pur ceo en ire.
Lessez les dire tout lour voler,
Kar meuz ne lour purrez venger.
Et quant il avra tout counté
132 Si sera il pur fole clamé,
Et tu a sage tout tenuz
Le meuz amé et cremuz.
Si vous avez rien bien fet,
136 Ja par vous ne soit retret.

II. 賢者が子息に教える礼儀正しき振舞 訳

- 1 世の尊敬を受けて年を重ねた賢明なる御仁が
息子のゆくすえを思い、良識を我が子に伝えんものと
こう言った「さて良き息子よ、聞きなさい
8 年端のゆかぬお前に教養の糧を教えておきたい
さあ、お聴き、いとしい子、どのように育って欲しいと
願っているかを。
立派な人格の穩やかな人になるのだ
悪口も言わず、わるさもせずに。
まずもって望むのはお前が慎み深く優しいこと
16 皆の前で良い振舞をするよう、尊大な風をせず、中庸であれ、
すれば大いに讃められ、賢い人と言われるのだ。
常に思慮深く気をつけて、年寄り共や子供など
侮辱をしてはいけないよ。人と一緒にいる時は
お前の言葉に注意せよ
24 言いたいことを言う機会あれば
短く礼儀正しく言いなさい、見識ある者は聞いてくれよう。

- 自分の主張を述べるとき、話しかけられたりするときは
32 目上目下の区別なく、まず聞くことだ、急がずに。
話が済んでしまったらまっすぐに顔を見るのだよ
両手両足をくんだりせずに、慎重にして悪口叩かず
みんなの話に答えなさい。嘘いつわりや嘘つきは
40 断じていけないことなのだ。勝手気儘の我侷で
高慢ちきにならぬよう、それは諸悪の根源で
一番重い罪だから。傲慢は人をくさらせて
終りはろくなことがない。お前の成すべき全てのことを
48 まず第一に考えよ、どんな結果になるのかと。
良いことならばしっかりとやり、悪いのならば止すがよい、
良くなるように頭をお使い。善きキリスト教徒であるように、
何にもまして神を愛せよ。全ての人を敬え
いつも良いことが訪れる。特に女性を敬うべし。
それは世の中の礼儀だから、さすれば世間の気に入られ
世の人々に褒められる。女性を敬うことにより
勇氣と名誉と高遇な心、幸せと喜びそれら全てが訪れる。
64 だから愚かな話しだよ、彼女たちから憎まれるのは
悪い始末になるだけだ。馬鹿なことだし罪だしね。
嘘いつわりなく善きことをすべし。清潔を愛し
不潔は避けよ。そして礼儀を大切に。
72 だが一つ注意しなさい、友達に相談もなく
女の価値や大きさなど、信用してはいけないよ。
お前が若い間には、恋人の自慢をしないこと。
意見を述べたいと思うとき、言い分のある時は
80 悪い言葉や口論はなしに、理路整然と言いない。
すれば人から好かれるし、利口であると誉められる。
あちらこちらの人々に対し、鄭重に耳を傾けること。
はっきり言うが、それより他に教養はつかぬ。
88 人々の間に立ち交り、どこへ行こうと立派な態度を持つのだよ。
誰にも馬鹿にされぬよう、えらそうにもせず卑下もせず。
武具や馬は大切にして、立派な良いものを持ったなら
まるでねうちがないような、手ひどい扱いはせぬように。
96 きてもう一言聞いておくれ、あらゆる狂気に気をつけよ。
私は子供をいさめたい。傲慢の悪から身をお守り、
傲慢の心が起ころぬように、何をおいても頼んだぞ。
友人や御領主に対しての、おべっか使いは困るのだ。
104 知った限りの悪口雑言、たとえ言えとて求められても
それを言うのは慮外千万、心を傷めず良いことを言え。
出来る限りの良き助言、彼等に与えてしかるべきだ。
その時気まづくなつたとて、後には感謝されるから。

- 112 人を侮辱する習慣などはゆめゆめつけるものではない。
如何に貧しく、金がなくとも、お前ほどに見映えせずとも
立派でもなく、物知りでもなく、雅びでもなく、勇敢でなくとも
- 120 決してそれ故に侮辱をするな。人を侮辱するならば
人は決してお前を褒めず、お前は憎まれ、よそよそしくされる。
神をないがしろにする者を、神は殊更憎み給う。
人を小馬鹿にする者は、最後に馬鹿にされるだろう。
ねたみ心はいけないよ、おこりんぼうも、欲張りも。
- 128 人から悪口言われても、それで怒ってはならぬのだ。
存分言わせておけばよい。これ以上の仕返しはない。
何だかんだと言いまくる奴は、狂っていると見做される。
お前はたしなみ良き者とされ、皆から好かれ一目置かれる。
- 136 何か善いことをしたならば、しりごみしてはならないよ。

III. 『礼節』論に就いて

中世イングランドの社会において所謂 social etiquette の規範を示す書きもの、Courtesy Books が多く現れるようになったのは12世紀も半ばの頃であったろう。¹ ラテン語で書かれた *Facetus*²『優雅な人』が数多くの写本に写され、*Liber Urbani* あるいは *Urbanus*³『礼節の書』とも呼ばれて、やがてはこの種の作品を代表する呼び名となった。ヘンリー2世に仕えていた Daniel Church が書いた *Liber Urbani* の断片も現存しているし (Bibli. Nat. MS Lat. 3718), Oxford で講座を開いた Robert Grossteste の名も *Liber Curialis*『宮廷の書』の作者として写本に残っている (Oxford, Trinity College MS 18)⁴ ということだ。これらは比較的早い時期に書かれた礼節論と言える。

イングランドおよびフランスにおけるヘンリー2世の強大な勢力はしばしの平和な社会的均衡をもたらし、貴族たちの城館があちこちで賑わいを見せた。封建時代の領主たちにとって上層階級の子弟の教育が必要であった。殊に城館の内外で、地域社会の中での交流を円滑に行うために礼儀作法や道徳の指針が不可欠であった。そこで、社会の一員としての礼節、教養とは如何なるもので、いかに身を処すべきかを教える教訓の書、礼節を教える教本が現れたのである。このような教訓自体は目新しいものではない。King Alfred 以前の Anglo-Saxon の詩にも、年老いた心賢い父親が息子の立派な成長を願って与えた処世訓 “A Father’s Instruction” (Exeter Book ff. 80^r–81^r) などが残っている。女の愛を警戒せよという親切な教えも含まれていた。然し一般に *Facetus* と呼ばれている Courtesy Books には食卓での作法を重視するという特徴があった。⁵ 貴族の館での祝宴の食卓は華やかな行事だったのだから。

プランタジネット王朝のイングランドにあって vernacular (AN) で書かれていた Courtesy Books も現在8写本に残されている。本論は ‘Books of Courtesy’ を刊行した H. R. Parsons が later verriion の底本となした MS Bodley 425 *Urbain* (筆者はこれを *Les Cartesyes* と題する) をあらためて転写し、翻訳、品詞別語彙とその頻度を示し、言語の特徴についての記述を加えた。

Bodley MS 425は113葉から成り、英語とフランス語で書かれている。30×20 cm, 14世紀半ばにイングランドで作成されたという。まず、詩篇が英語で第1葉から書き始められており、94葉からフランス語になる。フランス語には AN の特徴が顕著である。告解を獎める詩 ff. 94^r–101^r, ソロモンの箴言 ff. 101^r–106^r (これは AN の作家 Nicole Bozon の作とされている。) この次には再び, “In beginning worde it was...” と短い時禱書の文言が英語で記され (ff. 106^v–107^r), 107葉から AN の教訓詩が *Edward, Bon Enfant, Urbain* と続いて書き写されている。“Ces sount les curtesyes...” で始まる最

後の詩 *Urbain (les curtesyes)* は完結せぬまま 113葉 *verso* で写本は終わる。

*Urbain*⁶ には当時大いに読まれた筈の Dionysus Cato の対句集 *Disticha Catonis* からの影響も見られる。⁷ *Urbain* は初期のものと後期のものと多少の差違はあるものの、少年期から青年へ、そして成人してゆく過程における礼節を教えている。少年時代はお小姓として、騎士見習いとしての宮仕えの作法、食卓に侍る折の躊躇、友人とのつき合い方、殊に目上の人たち、周囲の人たちに対する振舞を教え、また、青年となっては女性に対する際の心得を説き聽かせるのである。それは且て江戸時代封建体制の社会構造の中で現世的生活倫理として広くゆき渡った実用的な道徳の書、石門心学の教訓をさえ想い起こさせる。曰く、「何にかぎらず、偽をいふたり為たりはなされぬものにて候…惣じて人のつしみて申さぬ不礼なる大口をかたく申さぬものにて候」⁸ という如き口調は、“Et fauseté et fause gent / Sur tout rien vous defent 38-39や、Jeo voi… / Qe vous seez humble et plein de douzour, / …Nent trop haut, mes menement” (13-16) と、何事にも慎み深く、中庸であれという教えや、嘘を言ったり嘘つきなどは断じていけない、と禁じているあたりを髣髴とさせる。どちらも social behaviour の教えである。

13世紀になるとイングランドにはかなり多くこの種の教育論が現れたと推測されるが、それはラテン語あるいはアングロノルマン語によるものであったろう。ラテン語からフランス語に翻訳されて現存する写本は *Contenance de Table*⁹ 『食卓の作法』と概ね呼ばれて13世紀末の成立と考えられている。英語による『礼節の書』¹⁰ が現れるのは15世紀を待たねばならない。これらは主に *Facetus* の翻訳、翻案である。英語の *Courtesy Books* の関心は大部分が食卓の作法に置かれてあって、記述はまことに具体的である。例えば、食事の折にパンをポケットにしまい込んではならぬとか、耳や鼻をほじってはいけないとか、ナイフで歯をつつくなどはもってのほか、という具合だ。¹¹

Chaucer の『カンタベリー物語』に登場する美しい修道院長は飲物を摂るとき綺麗に口をお拭きになるが、それもはっきりと *Courtesy Books* で教えている規則どうりを実行なさっているわけだった。“Wype thi mouthe when þou wyll drinke, / Lest it foule thi copys brinke,”¹² 彼女にとってはお作法 *curtesyes* が第一である。

ところで、MS 425 *Urbain (Les curtesyes)* には食卓で食事を摂る時の作法については記述がない。¹³ 残りの later version では対人関係についての賢明なる身の処し方を教えている。まず、良い躊躇を身につけた者は高貴で率直 *franke*、優しく且つ寛大 *deboner* であるべきだと諭される。高慢 *orgoil* は諸悪の根源である。*orgoil* についてこの書は厳しい口調をとる。“Ceo est le peché qe fet la gent / Purir et finer malement” (44-5)。傲慢は人格を台なしにする。まことにそうであろう、世の始まりにかの天使たちでさえ傲慢の罪により地獄の永劫の焰へと墮ちていったのだから。そして、特に女性を敬うべしという論調には earlier version には見かけられない展開がある。凡そ *amours courtois* の世界においては、騎士道精神をあます所なく具現するために修業中の若者は淑徳高き高貴な女性を称え、御婦人に認められるよう精進する。婦人を崇めながら、ひたすら自身の研鑽を積むことにより名譽を与えられ、高邁な精神に到達し得るという図式である。ここにはその様な身分の高い城主夫人のおもかげが修養の対象となって登場する。“Car d'elles venent les prués, / Les grans honores et les hautesces, / Les biens, les joyes, tout a une mot” (60-2)。つまりところ、喜びも恩恵も騎士としての美德も全て御婦人に由来するのである。また、若者は広く世間を知って教養を深め、武器や馬を大切に扱うよう努力せねばならぬ。然しこれでも、彼等はロマンスの中の騎士たちのように女性崇拜に浮身をやつすわけではない。冷静な判断力をもって女性を評価する。色香にのぼせてしまっては判断もあやしいものだから、友人に相談せずして女の価値など信用せぬようにと良識ある父親は息子にさとすのだ。最後に念入りに説くところは絶対に人を侮辱するなという教えである。人を侮辱すれば報いとして自分が憎まれる。神をないがしろに

する、敵神の心なき衆生を神は許し給わぬのである。“Kar pur escharner bein sachez / Ne serez jamés alosez / Mes haie et rebutez. / Et moult soleit Dieu haier / Ceux qe ament l'escharnir. / Et serra li escharnisour / Escharny de chef de tour” (118-24)。

Chaucer が描いた squire は若者としての理想の姿を具えていたのだ。彼は高ぶらず謙遜してよく長上に仕える。“…Vous seez humble et plein de douzour” (14)。“Et pus amerez les curteysies” (70)。と、このような礼節の書の教えを諳じていたかも知れぬ。そしてまたおそらく、このような礼節の教えは長く語りつがれていったのではなかろうか。『ハムレット』劇に登場する、クローディアス王の宮内長官ポロウニアスがフランスへ旅立つ息子レアティズに与える教訓も礼節の書にある文言を想い起こさせる。Give every man thy ear, but few thy voice; / Take each man's censure, but reserve thy judgement. *Hamlet : Act I. Sc. III* (68-9) であるとか、あるいは、Neither a borrower nor a lender be; / For loan oft loses both itself and friend, / And borrowing dulls the edge of husbandry. *Act I. Sc. III* (75-7)¹⁴ などという教えからは、礼節の書の抑揚のなごりが聞こえてくるようであらう。

VI. 言語の特徴

MS 425 *Urbain (les curtesyes)* の言語が AN の特徴を示しているのは言うまでもない。AN では綴りが一定せず、その上転写に際して誤写も生ずる。例えば上述の escharnir “軽蔑する”という言葉は語尾が -ir であるが AN では語尾の -ir と -er の混同が起こるので escharnir のつもりが写本では escharner となったりする。escharnir はピカルディ方言であったが mocquer に押されて現在は消え去った語彙である。ちなみにフランス語の escharner は皮をはぐという意味で語源も異なる。また一つの例を挙げるとロマンスの貴婦人や、立派な騎士を形容する debonaire (=de bon air) も AN 綴りで debonner となっている。ai は AN では e と表記されるのである。(ME には debonaire, debonere, deboneure 等の形がある。) 以下に 425 *Urbain (les curtesyes)* の中から、気付いた言語の特徴を示しておく。

[I] Graphy

(1) 母 音

1. a+n:

1-1 aun= (OF an)

avaunt 25 enfaunt 21, 98 graunt 1, 2 sachtaunt 115 saunz 12, 67, 74, 80 taunt 8,
17 vaillaunt 116 [verb]avauntez 76

1-2 eyn

meynes 35 (OF main)

2. a+yod:

2-1 e (OF ai)

2-1-1 mesfere 12 [verb] fere 46, 49, 51, 90 fet 44, 64, 135 fetes 55 trere 48 retret 136

2-1-2 mes 16, 71, 106, 120 (OF mais)

2-1-3 deboner 11

2-1-4 reson 25 resoun 29, 78, 79

2-1-5 [verb] lassez 50 lessez 129

3. k / g+a:

chef 48 (OF chief) [verb] venger 130 (OF vengier)

4. al+s:

- criminaus 43 maus 42
5. e + 1 :
5-1 beal 108, 114 beale 15 (OF bel)
5-2 counsail 108 (OF conseil)
6. 自由長母音 e :
curteys 26, 116 (OF cortois) curteysies 70 (OF cortoisie)
[verb] seez 11, 14, 19, 52, 87, 101, 125, (OF seiez / soiez) seyt 113, 114 (OF seit / soit) veez 19, 75, 101, 112, (OF veiez / voiez)
7. e + yod :
veil 21 (OF vieil < Lat. veclus)
8. 自由短母音 e > ee :
peez 35 (OF pied)
9. 三重母音の縮約 ieu > eu :
meuth 17 meutz 51 meuz 54, 130, 134 (OF mieuz)
10. 自由長母音 o :
10-1 ou :
honour 2 honours 55 douzour 14 escharnisour 123 lour 33, 37, 108, 129, 130
lousengour 101 plusours 84 portour 15 seygnour 102 valour 73
10-2 u :
bosoygnus 113
11. 自由短母音 o :
cuer 100, 106 prués 60
12. 拘束短母音 o :
tut 13 (<tottu) cf. tote 53, 55, 96, 99 / totes 46 tout 39, 62, 129, 133 touz 19, 33, 37, 42
13. o + 1 + yod :
voil 7, 10, 13, 98 (OF vueil) cf. voillez 28, 77
14. o + n :
oun= (OF on)
counsail 108 dount 63 frount 34 mound 57 resoun 29, 78
tensoun 80 [verb] counté 131 respounez 37 savrount 110 sount : 0
15. 二重母音の縮約 ui > u :
pus 68, 70, 110 (OF puis)
16. 母音の重複 :
baas 89 (OF bas)
17. 語頭音消失 a :
proche (OF aprocher) 100
18. 語末のeの添加 :
[verb] aresonee 30 demonstrere 78 grevere 106 paiere 105 parlere 28, 77 vise
63
19. 語末のeの欠如 :

foli 66 (OF folie) povr 113 (OF povre)

20. yの使用：

amy 102 amye 76 amys 74 bosoygnus 113 curteys 26, 116 curteysies 70 enmy
34 eyné 31 mauveys 50 meynes 35 my 105 nurrys 10 seygnour 102 [verb]
affye 85 dye 6 escharny 124 hayr 64 oy 27 seyt 113, 114

21. 特殊な綴：

foez 109 (OF fois)

(2) 子 音

1. 単子音字：

1-1 h :

houterage 20 (OF outrage)

1-2 g :

lange 23

1-3 k :

franke 11 (OF franc) kar 42, 57, 85, 118, 130 (cf. car 60) ke 58, 72 (cf. qe 14 / que 66, 114)
ki 64

1-4 z :

douzour 14

2. 複子音字：

2-1 sc :

hautesces 61 (OF hautece) [verb] sascez 79 (OF sachez)

2-2 th :

meuth 17 (OF mieuz)

2-3 tz :

fitz 0, 5, 9 (OF fiz)

3. 重子音：

3-1 ll :

[verb] appellé 18 (OF apele)

3-2 pp :

[verb] appellé 18

3-3 rr :

[verb] serra 123 serrez 17, 27, 81, 86, (OF sera, serez)

4. 語末のzの添加：

[verb] cremuz 134 tenuz 133

5. 特殊な綴：

5-1 disse 33 (OF s. m. dits)

5-2 prués 60 (OF proeecs)

5-3 queux 0 (OF que)

5-4 surtz 42 (OF sorce)

[II] Morphology

1. *jeo* は *je* にかわり, *ceo* は *ce* にかわって用いられ, これらは Anglo-Norman 級の特徴とされている:

ceo 42, 44, 57, 66, 117, 128

jeo 6, 13, 85

2. 関係代名詞男性主格に対して *qe* が用いられる:

Un sage homme… / qe long temps vesquit 1-2

Dez maus qe vennent de orgoil 97

3. 男性形に代わる女性形

De beale portour entour la gent 15

Seez touzdis bone cristien 52

Les biens, les joyes, tout a une mot /

Dount me est a vise q'il est sote 62-63

Tote le male qe vous savez 104

Si sera il pur fole clamé 132

4. 女性形に代わる男性形:

Sur tout rien vous defent 39

5. *de le*(OF *de*) の存続:

Le meuth serrez oy de le sage 27

6. *-ir* にかわる*-ier*:

haier 121(OF *hair*)

7. *-ir* と*-er* との混同:

escharner 112, 118 *escharnir* 122

(cf. *echarniez* 117 *escharny* 124)

[III] Syntax

1. 男性名詞に女性冠詞が用いられる

Amez la bien saunz fauseté 67

2. *Veez…que* の用法

接続法が用いられる:

Veez touz jours qe seez sage / Et qe

vous ne facez houterage 19-20

3. *Vous* と *tu* が混同される:

Et quant tu seras entre la gent /

Gardez ta lange sagement 22-23

4. *Si* で始まる条件文に接続法現在が現れる:

Si vous soiez aresonee 30

5. 接続法の代わりに直説法が現れる:

Ou qe tu vas entour la gent 88

6. *au mieux* に対して *a la meuz* が用いられる:

Et a la meuz qe vous poez 107

7. 特殊な語法：

Si vous avez acheson /
De moustrer avaunt vostre reson 24-25

V. 品詞別語彙

1. Article

le	0 27 34 44 104(5)
la	15 22 42 44 67 83 88(7)
les	0 60 61 61 62 62 68 69 70 91 91 92 93(13)
li	123(1)
un	1(1)
une	62 71(2)
del	57(1)
dez	97(1)

2. Substantive

acheson	24(1)
afaitement	57(1)
age	8(1)
amy	102(1) : amye 76(1) : amys 74(1)
armes	91(1)
bien	4 67(1) : biens 62(1)
chef	43 48 124(3)
chivaus	91(1)
choses	46(1)
conteinment	87(1)
counsil	74 108(2)
cristien	52(1)
cuer	100 106(2)
curtesyes	0(1) : curteysies 70(1)
Dieu	53 111 121(3)
disse	33(1) : dist 37(1)
douzour	14(1)
enfant	3(1) : enfaunt 21 98(2)
escharnisour	123(1)
fauiseté	38 67(2)
femme	72(1) : femmes 56(1)
fitz	0 5 9(3)
foez	109(1)
foli	66(1) : folie 96(1)
frount	34(1)
gas	90(1)
gent	15 18 22 38 44 55 83 88(8)
gree	58(1) : grez 110(1)
hautesces	61(1)
homme	0 1 21 31 112 127(6)

Les Curtesyes

honour	2(1) : honours 55 61(2)
houterage	20(1)
ire	126 128(2)
joyes	62(1)
langage	26(1)
lange	23(1)
lousengour	101(1)
male	104(1) : maus 42 97(2)
mesdist	36(1) : mesdit 12 80(2)
mesfere	12(1)
meynes	35(1)
mot	62(1)
mound	57(1)
nettetez	68(1)
nurtur	7(1)
ordurs	69(1)
orgoil	40 97 100(3)
pecché	43(1) : peché 44 66(2)
peez	35(1)
portour	15(1)
pris	73(1)
prués	60(1)
reson	25(1) : resoun 29 78 79(3)
rien	71 99(2)
sage	27(1)
seygnour	102(1)
surtz	42(1)
temps	2(1)
tensoun	80(1)
tour	124(1)
valour	1 73(2)
vie	75(1)
vise	63(1)
voil	41(1)
voler	129(1)

3. Adjective

beal	108 114(2) : beale 15(1) : bele 87(1) : beau 5(1) : beaus 92(1)
bone	49 52(2) : bones 92(1)
bosoygnus	113(1)
brief	26(1)
cher	9(1)
covetous	125(1)
criminaus	43(1)
curteys	26 116(2)

deboner	11(1)
envyous	125(1)
eyné	31(1)
fause	38(1)
fole	132(1)
franke	11(1)
grans	61(1) : grant 66(1) : graunt 12(2)
hastifs	32(1)
humble	14(1)
june	31(1)
long	2(1)
mauveys	50(1)
plein	14 126(2)
povr	113(1)
prodome	115(1)
sachaunt	115(1)
sage	0 1 18 19 82 133(6)
sote	63(1)
tendre	8(1)
vaillaunt	116(1)
veil	21(1)

4. Verb

(acustumer)

acustumez	111(1)
-----------	--------

(affier)

affye	85(1)
affiez	72(1)

(aler)

vas	88(1)
alez	83(1)

(aloser)

alosez	119(1)
alosé	59(1)
alosée	82(1)

(amer)

amez	53 67 91(3)
ament	122(1)
amerez	68 70(2)
amé	81 134(2)

(apeler)

appelé	18(1)
aprendre	7(1)

aprent	0(1)
--------	------

(aresoner)

aresonee	30(1)
----------	-------

Les Curtesyes

(avaunter)		
avauntez	76(1)	
(avenir)		
avendra	54(1)	
(aver)		
avez	24 135(2)	
avra	131(1)	
avrés	92(1)	
chastier	98(1)	
(clamer)		
clamé	132(1)	
(conter)		
counté	131(1)	
(criendre)		
cremuz	134(1)	
(croller)		
crouellez	35(1)	
(corucer)		
crusent	109(1)	
(defendre)		
defent	39(1)	
(demonstrer)		
demonstrere	29 78(2)	
demonstra	4(1)	
(desirer)		
desirent	103(1)	
(dever)		
devez	46(1)	
dire	106 129(2)	
die	95(1)	
dye	6(1)	
dit	5(1)	
diez	103(1)	
(doner)		
donez	93 108(2)	
escharner	112 118(2)	
escharnir	122(1)	
echarniez	117(1)	
escharny	124(1)	
(entendre)		
entendez	6 32(2)	
(escivre)		
eschverez	69(1)	
(escuter)		
escutez	5 9 95(3)	

Les Curtesyes

(estre)	
est	42 44 49 49 50 57 59 63 63 66 79(11)
estez	8(1)
sont	33(1)
sount	0(1)
sera	132(1)
seras	22(1)
serra	123(1)
serez	119(1)
serrez	17 27 81 86(4)
seyt	113 114(2)
soit	26 136(2)
seez	10 11 14 19 52 87 101 125(8)
soiez	30 32(2)
fere	46 49 51 90(4)
fet	44 64/135(p. p.) (3)
fetes	55(1)
facez	20(1)
finer	45 65(2)
(garder)	
gardez	23 71 96(3)
grevere	106(1)
hayr	64(1)
haier	121(1)
haie	120(1)
(lesser)	
lassez	50(1)
lessez	40 129(2)
mesdire	127(1)
moustrer	25(1)
(norir)	
nurrie	86(1)
nurrys	10(1)
(oyr)	
orrez	84(1)
oy	27(1)
paiere	105(1)
(parler)	
parlere	28 77(2)
(passer)	
passez	33(1)
(penser)	
pensez	105(1)
(poer)	
poez	107(1)

Les Curtesyes

purrez	130(1)
puisse	90(1)
puissez	48(1)
(praiser)	
praisé	17(1)
(prendre)	
prend	58(1)
(prochier)	
proche	100(1)
(purpenser)	
purpensez	47 51(2)
purpessa	3(1)
(purir)	
purrir	45(1)
(rebuter)	
rebutez	120(1)
(regarder)	
regardez	34(1)
(requerre)	
requer	99(1)
(respordre)	
respounez	37(1)
(retreire)	
retret	136(1)
(saillir)	
saillez	128(1)
(saver)	
savez	104(1)
savround	110(1)
sachez	118(1)
sascez	79(1)
(soler)	
soleit	121(1)
(tenir)	
tenuz	133(1)
(treire)	
trere	48(1)
(valer)	
vausissent	94(1)
(veer)	
voet	127(1)
verrez	65(1)
veez	19 75 101 112(4)
(venir)	
venent	60(1)

vennent	97(1)
venger	130(1)
venter	40(1)
(vivre)	
vesquit	2(1)
(voloir)	
voil	7 10 13 98(4)
voillez	28 77(2)
5. Adverb	
a la meuz	107(1)
afaitment	84(1)
altrement	86(1)
apr�s	110(1)
autresi	93(1)
avaunt	25(1)
baas	89(1)
bien	6 32 49 65 96 106 118 135(8)
coment	10(1)
dount	63(1)
haut	16 89(2)
ja	65 72 117 136(4)
jam�s	41 119(2) : jamm�s 85(1)
le meuth	17 27 81(3) : Le meuz 54 134(2)
melament	45(1)
menement	16(1)
meutz	51(1) : meuz 130(1)
moult	121(1)
my	105(1)
ne	20 35 65 72 76 86 101 105 111 114 119 125 126 128 130 136(17) : n' 117(1)
nent	16 89(2) : nient 94(1)
nomement	56(1)
ore	5 9 95(3)
ou	88(1)
par taunt	17(1)
partout	83(1)
pas	125 128(2)
plus	58 59 108(3)
premerment	47(1)
pus	68 70 110(3)
sag�ment	23 36(2)
si	50 81 84 92 93 114 115 115 116 116(10)
tout	62 113 129 133(4)
touzdis	52(1)
touzjours	19 54(2)

Les Curtesyes

trop 16 89 89(3)

tut a primur 13(1)

vilement 93(1)

6. Pronoun

cele 109(1) : ceux 122(1)
ceo 42 44 57 66 117 128(6)
ces 0(1)
eles 60 64(2)
i 59(1)
il 49 50 63 79 103 109 113 114 131 132(10) : ils 94(1) : eus 105(1) : les 34
129(2) : li 4(1) : lour 33 37 108 129 130(5) : i' 6 32 112(3)
jeo 6 13 85 95(4)
l'em 58(1)
me 63(1)
mon 9 98(2)
nul 90(1)
plusours 84(1)
quel 48(1)
rien 39 53 135(3)
sa 73(1) : son 0 3 4 73(4)
se 3 64 90(3)
ta 23(1) : tun 26(1)
tote 53 55 96 99 104(5) : totes 46(1) : tout 39 131(2) : touz 33 37 42(3)
tu 22 88 133(3) : te 127(1)
vostre 25 29 41 75 76 78 100(7) : vos 35(1) : voz 35 74(2)
vous 7 8 10 14 20 24 28 30 39 40 47 48 51 54 71 76 77 85 90 95 96 99 103
104 107 110 111 112 114 135 136(31)

7. Relative Pronoun

ke 58(1) : ki 64(1)
qe 2 44 46 95 97 104 112 122(8) : queux 0(1)

8. Conjunction

car 60(1) : kar 42 57 85 118 130(5)
come 94 114(2)
et 1 4 5 11 12 14 18 20 22 26 28 29 33 36 38 38 43 44 45 46 51 56 59 61
68 69 70 77 78 80 82 91 92 103 107 109 111 113 120 121 123 127 131 133
134(45)
ke 72(1)
mes 16 36 71 106 120(5)
ne 21 32 35 40 73 89 100 102 115 115 116 116(12)
ou 30 31 66(3)
qe 10 14 19 20 75 88 90 100 101 103 107(11) : q' 63 79(2) : que 66 114(2)
quant 22 28 33 77 131(5)
si 6 24 30 127 132 135(6) : s' 49 50 103 109(4)
taunt come 8(1)

9. Preposition

Les Curtesyes

a	37 41 48 49 54 55 56 58 63 109 133(12)
de	1 3 4 8 14 15 18 25 27 31 31 42 43 71 74 76 84 87 90 96 97 124 124 126(24) : d' 60 64 112(3)
en	72 75 128(3)
enmy	34(1)
entour	15 83 88(3)
entre	22(1)
od	2(1)
par	136(1)
pour	51 111(2) : pur 73 73 82 105 106 117 118 128 132(9)
sanz	36 106(2) : saunz 12 12 67 74 80 80(6)
sur	39 53 99(3)
vers	21 102 102(3)

注

1. J. W. Nicholls, *The Matter of Courtesy* (Suffolk : Boydell and Brewer, 1985), p. 57.
2. Nicholls, pp. 10-11. See Arnold Morel-Fatio, "Mélanges de littérature Catalane," *Romania*, 15 (1886), 224-35. Morel-Fatio はラテン語 *Facetus* の edition を掲載している。英国における *Facetus* の写本については Nicholls の Bibliography p. 207が詳しい。*Stans Puer ad Mensam* 『食卓の給仕』という表題で知られている写本も多い。
3. Cambridge, St John's College MS 147には *Facetus* と同義語に *Liber Urbani* や *Urbanus* が使用されていたことを示す記述がある。……*Liber explicit hicque Facetus. / Scribitur Urbanus, sit scriptor a criminis sanus. Explicit liber Urbani*, cited by Paul Meyer in *Romania*, 32 (1903), p. 70. [イタリック筆者]
4. Nicholls, p. 11.
5. S. Glixelli, 'Les Contenances de Table,' *Romania*, 42 (1921), pp. 1-9
6. *Urbain le Courtois* は“優雅な都人”とでも訳せようがこのグループのタイトルを筆者は『礼節の書』としてまとめた。
Cambridge Univ. Library MS Gg 1.1 の *Urbain* の冒頭 6^vには興味深い記述がある。Une sage home de graunt valour / Ki jadis vesquist en honour / urbane esteit il apelé (*italic* 筆者)
7. see E. Stengel, "Disticha Catonis hs. Harl. 4657," *Ausgaben und Abhandlungen aus dem Gebiete der romanischen Philologie*, 47 (1886), pp. 110-42.
8. 柴田実編『石門心学；前訓（手島堵庵）』日本思想史大系42 (1971), pp. 164-67.
9. Glixelli, pp. 5-11, 30-40. 食卓の作法について、フランスでは3系統の写本が現存するという。F. J. Furnivall は *The Babees Book* EETS Os. 32, rpt. 1969に MS Bibliothèque Nationale 1370, BN MS 1181 所収の *Contenance de Table*, 及び Mme de Saint-Surin が1835年に *L'Hotel de Cluny au moyen age*, Paris という表題で刊行した凡そ13世紀末に成立した写本の edition を載せている。
10. Nicholls, pp. 57-63. Furnivall, pp. i-405, *Caxton's Book of Curtesye* (EETS Es. 3, 1868).
11. Furnivall, part I., p. 18. from Bodley Ashmolean MS 61. f. 20.
12. Furnivall, part I., p. 23. from the same MS "The boke of Curtesy".
13. 食卓の作法については *Petit Traitise de Nurture* が詳しい。
14. William Shakespeare, *Hamlet* ed. G. R. Hibbard (Oxford: Oxford Univ. Press, 1987)

Les Curtesyes

Oxford Bodleian Library

MS Bodley 425

ff. 113^r-113^v

(alt.)

Diteuez tene basement
Seau tene dieu gte te rem
Te grux el sette me comez
Pur vae enfant me retene
E me donez sen + valur
Gardan me deiez + confort
Si de fete bone amaser
Qui feanz + d'ontinez

Encore te priez le p're marie
Oust me donz roic se manne
Et bone e feme & beaus enfans
Dorviso & dages & vellhau
Qui tien a lei me amant
En veillant & en dormant
En mangant & en buvant
En muntant & descendant
Se torz mals ne desse
So fest & ioge & fait semblant
de toutz tems a l'anquant

Les deux familles que je connais sont donc assez peu

¶ In dago domo e do giamit colom
¶ Louis tanqued vechnit ad sit bono
¶ De son auant do pimpa
e do conlun h demona
¶ Et dit banchet owo eschauz
¶ Si Je d'ye un lindamay
¶ Unpry wot wot amys
taunt come owo owo do owo tondre
¶ Owo amys wot ch foy
coniant wot ¶ Owo owo mappo
¶ Des frantz + belony
Samys mofet + darm massys
¶ Do wot tue a pimpe
¶ Owo owo humble et plam do bonzom
¶ Do bealo partom entom la aero
uent trophant mes menement
¶ Parant sepp le mortis prafte
e do cruce sent appelle
doez wot iome ¶ Owo owo
e wot foyz hontezas
¶ Owo owo doma no enfant
¶ Et que in Gas ento la genc
gafoz ta sang degeneit

Si voil auiez a cheson
 Demontierz amantz vost pefon
 Sauteys & bries cont tunc langage
 De uelut cupez oy de le sage
 Et gitez vost coilliez pleye
 Et vost le son demontierz
 On si voil auiez a fesonee
 De l'ame bono on de eyne
 Vouloidez bien ne auiez hafte
 A gitez conte passer touz loiz dispe
 En my le fomit les pogez
 Vol peyz ue voix meyns ne gitez
 Des easement & sans mesfet
 Jefformez a touz lomz dist
 Et faulz & fance sent
 Enz toutz uen vons defaut
 Ne voil lefiez vencez orgol
 Jamz a vostre vol
 Par cez est la ence de touz manz
 Et chef de pechez dimans
 Et cez est le porche q' fet la gent
 Drappz & finer malament
 Et toutes ces q' fezo deitez
 Domment vons pypans
 A quel chef voil pypas tenu
 Q'il est bonz bien est a feze
 Q'il est naimoy d' la feze
 Et p'moy fezo voil pypans
 Dez touz des bonz tenu
 Denez dieu sur toutz uen
 Le menz voil amendia a touz ionse
 A toutz sent fates bonouys
 Et a frumes nonement
 Tay cez est dal mons a fament
 Et lein pient pley a spes
 Et plus iest a los
 Tay de los roentz les pined
 Les grans hontes & les fantes
 Los biens les rudes tout a une mot
 Denit me est atise gil est voto
 Et de les ce fut bay
 Ja no auiez bien puer
 Q'no cez est foli ou s'nt peche
 Unes la uen vannz fances
 Et plus amiez les mertez
 Et les ordys eschinez
 Et plus amiez les empesches
 Q'les de vnu uen voil gasdez
 En un fomme ne affez
 Uny ea ualens ne puy son prie
 Vannz comfit de voz amys
 Tay q' en vost vie
 Voil amantuz de vost amys
 Gitez vons vaillez pleye
 Et vost le son demontierz
 Et apres gil est Jason
 Vannz niefes & sans resfum

Si auiez le mentz amys
 Et puy casso a los
 Et lez p' toutz atoli la eant
 Si auiez de plisouys a fament
 Tay l'ameus vco vons affez
 Ne auiez aflement mifie
 Gevez de belz conterment
 On q' tu vons amoy la gent
 Neant tephant ne q'ap baas
 Q' ml se pypfe fezo de vost
 Vanez les armes & les chameos
 Si les armes bonnes & beaux
 Si les donez archez uilement
 Vons ilz transfissent ment
 Vos estez q' vco vons die
 Voil gasdez bien de toutz felie
 Des manus q' vament de orgole
 Chasties mon chifant voil
 Onz tote uen voil regier
 Q' orgole ne pypfe vole ciez
 Devez q' no voix l'engom
 Vos amys ne vco venz
 Et cil desfient q' vost diez
 Toto le male q' vons vanez
 Apes puy bien dyo danz aux gitez
 Et a la menz q' vons poc
 Vons beal comisal vons donez
 Et cil vespere a calo poy
 Puis appes vons vaudonire gitez
 Et q' dieu no vons acfemire
 Chasties bono q' vost reeo
 Ouit sent il puy & bofond
 Vos il no vost el beal come voil
 No ei p'moy si castiarint
 No ei tayez no ei castiarint
 Ja puy tot uo chauiez
 Tay puy eschinez bieil vachez
 Vno giez amies allos
 Vles bies & rebites
 Et montz volez dieu batez
 Tay q' amant lez damp
 Et ceras li eschamisouys
 Eschamis du chef de touz
 Ne auiez pas amys
 Vos plan de vco no conterpo
 Et el homs to uer mesme
 Ne auiez pas puy ce au ipo
 Chasse les vies toutz lomz volez
 Tay menz no lomz pley vauig
 Et gitez il vauit toutz conter
 Si giez il puy sole chano
 Et tu a vaste toutz temz
 Le menz amys & q'ennuys
 Si vons amys uan brevet
 Ja p' vons no vost jetat

6) *La Manière de Langage*

——フランス語の話し方、書き方教本——

I [f. 1^r] 我々は始め、このように言う：父と子と聖霊の御名によりアーメン。

さてここに美しいフランス語を正確に話し、また書くすべてをお前に教える「言葉の用い方教本」が始まる。これはフランスの言葉の使い方、習慣に従っているものだ。

先ず最初、この必要な仕事を始めるにあたり、我々は敬虔な心を以て神と、いと優しき御母、至福の処女マリアならびに天の聖なる王国にいます諸々の栄えある方々に祈りを捧げよう。神はその天国に神の友、選ばれた者を置き給うた。あらゆる至高の学問、知恵、恩寵と理解、あらゆる美德がその高みよりよって來たる。神の慈悲深き思し召しと恵みを以て、この書を学ぶ全ての人々を高邁なる善知恵と理解の恵みに溢る、露に浸し、啓発し給わんことを。

さらにこの人々が、この世で他の如何なる言葉よりも尊敬され、且つ愛されている必修ラテンについて、最も美しく優雅な言葉であり高雅な話し言葉のうましフランス語を、正しく発音し書くための學習の生来の理解力を示すよう導き給え。とりわけフランス語は凡そ神御自らの栄光を称るためにかくも甘美にして愛すべきものとされたのである。それ故フランス語はその大いなる甘美さと美しさの故に、天上の天使たちの話し言葉にも匹敵し得る。

人間はこの世の中で最も高貴であり、尊厳ある生き物であるから、神は人をその配下にある全ての生きもの、事物の支配者、^{あるじ}主であれと命じられた。故に私は人間について、又人間の身体の各部について [f. 1^v] そして人間に關して、また人に起こり得る全て必要な事柄についてはっきりと明示し、説明するところから始めよう。

記憶すべきは人間の身体が12の部位に分かれているということである。賢明なる哲学者の述べる如く天の黄道十二宮がこれを支配する。この天の黄道は月が人間の身体の部位に符合する十二宮のひとつに入る時、今述べた人間の部位にたいして大いなる影響と支配力をもつものである。さて私の親しき友よ、人間というものがさかさまの木であると、知って欲しい。即ちその幹と根っこは逆立ちしており、てっぺんは枝と共に下方にある。

人間の頭はそのようになっている。頭は一番高い所にあり、主要な部分であるがそれは木の幹にあたり、髪の毛は根っこにあたるのである。

また次のことも知っておきたい、人間にはいろいろな部分があるということ。額 la front だと、耳 les oreilles, 目 les yeux, 眼瞼 les paupières, 眉 les sourcils, 鼻 le nez, 鼻孔 les narines, 軟骨 la tendron, 頬 les joues, 口 la bouche, 唇 les lèvres, 歯 les dents, 舌 la langue, 頸 la menton, 喉 la gorge. 首 le col, 甲状腺 le vènus, 肩 les épaules, 肩甲骨 le blason, 脇 les asselles, 腕 les bras, 肩先 les épaulettes, 肘 les coudes, 手 les mains, 指 les doigts, 掌 la paume, 爪 les ongles, 関節 les articulations, 胸 la poitrine, 乳房 les mamelles, 肋骨 les costes, 脇腹 les flans, 背中 le dos, 骨 les os, 脊椎骨 l'escrime, 腹 le ventre, 膽 l'omblig, 息丘 le pénis, 生殖茎 le vit, 精巢 les testicules, 肛門 le cul, 腰関節部 les hanches, 腿 les jambes, 鼻腔 la lèvre, 膝 les genoux, 脚 les jambes, 外腿 la garter, ふくらはぎ le mollet, 踝 la cheville, 足 les pieds, 跟 le talon, 足指 les orteils, 足の裏 la plante du pied, 内臓 les viscères du corps, 脳 le cerveau [f. 2^r] 咽頭 le pharynx, 胴体 le corps, 心臓 le cœur, 肝臓 le foie, 肺 le poumon, 脾臓 l'estomac, 胃 l'estomac, 血管 les

veines, 神経 les nerfs, 髓 la rate, 胆囊 le fiel, 腎臟 les reignons, 腰 les reynes, 膀胱 la vessie, 皮膚 la pel, および 4 つの体液, 即ち胆汁 colre, 血液 sang, 粘液 fleume, 黒胆汁 malencolie など, というものである。

II. さてこれから我々にとって必要な事柄とその話し方とを述べよう。

館の主が一人の騎士, あるいは騎士見習い, 又は部屋係, あるいは他の下僕の一人, もしくは従者の若者にむかって言う: 「衣裳係を私のところへ呼んでおくれ, 直ぐに来るようになると伝えなさい。」「かしこまりました, 御主人様, 直ちにお言付通りに。」と, それから騎士見習いは衣裳係のもとへと行きこのように丁寧に言う: 「ギヨームさん, 神の御加護を!」<あるいは> (vel sic): 「神のおひきたてを!」と。「私の親友, よう来られた。私にできることで何かお望みかな」「え、その通り, 旦那様がすぐ来いとお呼びになっている。承知の助だろ, ぐずぐずしていると旦那様はあんたに腹を立てられる。だから, まごまごせずに, あちらへさあさ急いだ, 急いだ。」

「どんな御用か知っているのかね」「神かけて, 知らないよ。しかしさ, 御主人様の御入用の品々を買うんだろうからお昼前に行かないよ, と思いますね」

そこで衣裳係はできるだけ急いで主人の許へ出向き, うやうやしく次のように言う: 「御主人様, 何かお気に召しますことは?」<あるいは> [f. 2^v] 「御主人様, 何か御用向きは」「行きつけの布地屋へ行つて欲しい。そこで上等の深紅のを12棹（1棹ほぼ1メートル強と思われる）真赤を6棹, 青を8棹, 紺色を9棹とそれに同じく紫と茶色だ。それに白も15棹。それから小間物商のところで10オーヌ (aulne は肘の長さで測るという) の金色の布と赤い純綿の布1枚, それに30オーヌの白いファスチアンあや織りと又同じく灰色のファスチアンあや織り, ランスの布地20オーヌとそれに同量の亜麻布だ。

全部そのようにして済めば, 持ち帰って衣裳棚へ入れ, そこで袖なし外套と小型のマント, 大きなホップランドコートの長いのと短いの, 長い飾りリボンの付いた巾広い頭巾, 腰と尻を覆うかなり長いズボン, そして同じようなしつらえの長いくつ下を裁断しておくれ。それから, 胯着, 短いチュニック, 胸の開いたチョッキ, 短い上着に裁断して仕立てる。お前が出来る限り, 且つ工夫して仕事を下働きの職人にさせ得る最良の方法でやっておくれ。さっき言っておいたフランスの織物20オーヌと亜麻布は絹帷子, 下着, 儀式用ズボンを作るためにしまっておくと承知して欲しい。尚, 腕の立つ, また急ぎ仕事のできる職人を沢山集めてしっかりと縫製した良い仕立てをさせる。職人の仕事に失敗や手抜きがあってはならない。[f. 3^r] 立派な仕立てをしなかったために, 直ぐにも形がくずれ, 縫目がほころびるなどは職人の赤恥だからな。

さて現在のところ, 私の身分にふさわしい家の管理や何やらは, この館に来たばかりだから充分には出来兼ねるので, 管理人にいろいろ調度を整えさせたいと思う。まず, 私の寝室には厚みのある平板に寝台用の藁蒲団, それを購入したら大工あるいは寝台作りを来させ, 寝台を組みてて藁蒲団をはめ込ませる。それから執事は寝具や附属品を買いに行く。

すなわち, 掛け蒲団 1 枚 un couverture, ベッドの頭部をもち上げる長枕 testre avec la sileure, カーテン les courtines, サージ織りの布 une sarge, 種帷子 2 組そのうちの 1 対はランス織りで, との 1 対は上等の亜麻布のもの deux pair de linchiaux, 毛布 2 枚 deux blankets, 羽蒲団又は装飾用寝台掛け une keulte ou une keutepoingt (OF colte, cueute pointe ca. 1180) 長いクッション付の枕 2 つ deux oraillers avec un long coissyn, 麻の丈夫なシーツ 1 枚 canevas de chanvre など。

広間用に購入する品は背のたかいテーブル desse, 立派な壁掛けタピスリ grant doseur と台に掛ける厚布 les tapis bankeurs, クッション quarreaux, テーブル tables, 架台 briches, 酒杯用卓 tables pour

hanapes, 長椅子 bankes, 椅子 chaiers, ベンチ fourmes, あんか scelles, 平板 aes, 平水鉢 bacins, 火鉢 chauffouers と吊下げの手洗い鉢である。

酒房についてはテーブルクロス napes, ナプキン touuailles, 長いクロース longres, 銀カップ tasses d'argent [f. 3^v] 柄付杯 gobles, マドラス木杯 madres, 壺 terrins, 皿 plas, 碗 escuelles, 純銀の皿と小匙 sauciers et cuillers tout de fin argent を買うこと。

厨房の品物は食器棚 dressouers, 赤銅の鍋 pos d'arrein, 大鍋 paelles, 三叉串 troipies, 焼き網 grailles, 鉄串 hasles, 鉄の掛け金と肉焼なべ crockes et lechefris de fer, ふいご soufflettes, 井戸の滑車と釣瓶 cackes et sielx pour le puus である。同様にまた、冬に備えて多くの薪が必要だ。

私の靴屋には、12足の切込み模様のある靴 soliers escoletez et partusez, と裏皮の靴 3足 soliers escorchez を作らせ、また私の馭者のために2つ結び目のある靴 5足を作るよう話しておく必要がある。

また、私の管理人がやがて来たる花の復活祭のために、私の口に合う4樽の赤葡萄酒、それもこの地方でみつけられる最上のものを手に入れておくようにと望むのだ。というのも、私は大いに飲んだり、食ったりするだろうから。

III. さあ、国許を遠く離れて馬で旅をしたり、あるいは徒歩で旅をしようとする人が道中どのように振舞い、どのように話すべきかについて語ろう。

まず、主人は出発に先立ち召使いにこう言う：「ジョナンよ、あるいはヨハン、ジャック、ピエール、ペラン、ペロット、ポール、あるいはギョームであれ、ギヨミニットであれ、さあ、こっちに来い」<あるいは>「こっちへ来なさい！」「御主人様、できるだけ急いでやって参りました」「ジョナンよ、準備しておくれ、私の馬を鍛冶屋へ連れて行き、必要なら金具を打たせろ。良く打ち込んだ頑丈な蹄鉄にするのだ」「はい、そういたしましょう。」

それから [f. 4^r] 召使いは馬数頭を引いて鍛冶屋へゆき、主人のいいつけた事を行う。召使いが鍛冶屋から帰るや否や主人は次のように話す：「ジョナンよ、済ませたか」「はい、たしかに。」<あるいは>「はい、しっかりといたしました。」「では、すぐ馬どもに干し草、大麦、そしてパンをやれ。というのは、私は朝食が済めば直ちに馬で出掛けることになる。多分すぐに戻ってくるだろう。地方の領地で仕事が山積しているからな。ジョナン、食卓を置いて支度せよ。ちょうど食事をするによい時間だ。」「かしこまりました、御主人様。」

召使いはテーブルを置きに行く、よい工合の長さにテーブル覆いを掛けて、それから塩つぼと水を半分満たしたコップを運び、食卓に置く。そこでパンを取りに行く。干からびたのではなく、よくふくらんだつるつるした、このあたりで見られぬ程の白い良いパンと、大層上品で口あたりの良いボルドーのすき透った赤葡萄酒と白葡萄酒を探しに行く。さてそこで主人は侍僕の一人にむかって、あるいはお気に入りの誰かにむかって、物腰も柔らかな調子でこのように言うのだ。「ジョナン君、調理場へ行って食事が出来上がっていかないか尋ねて欲しい」「御主人様、御言い付けどうりにいたしましょう。」そして彼は全てが準備されるよう見届けるために調理人のところへ話しに行く。そうこうするうち、[f. 4^v] 主人は手を洗い席につきにゆく、そうすれば侍僕や召使いが美味しい肉を給仕するのだ。というのは、まず第一のコースとして、夏であれば蕪のスープ de soupe des naveux、冬であれば 鶏肉とキャベツ des chous de porree、あるいは脂身と豆の煮込み des poais aveque la larde、又は裏漉しのピュレ de puree が供される。そのあと牛肉 de boef とか羊肉 moton、豚とか仔牛 porc et vial のこってりした肉料理である。第二のコースとしては、とり肉料理 de chapons、雄鳥 gelines、雌鳥 pulles の大きなパテが出る。第三のコースには卵 des ouves、子豚と雌豚をとり合わせたもの petits porceus et porceletes

jostees, 白鳥 cines, つる greus, かささぎ heyrons, さんかのごい bytores, ちどりにうづら pluviers et pardriz, その他いろいろ野鳥の肉である。最後にはチーズ de fromage, 梨 poirs, りんご pomes くるみ des noes など。大いに食べたあとで主人がこう言う：「さあ、食卓をさっさと片附けてくれ、ジョナンよ、馬に鞍を置きに行くのだ。しかし口の中に馬銜を入れる時、黒馬にはよく注意しろ、噛まれんように。鞍を置いたら馬を広間の戸口の前へ引いておいで、そこで私が馬に乗るから。」主人はやおらやつて来て馬に乗り目的の道を行く。町のはずれまでくると、みすばらしい一人の老女、あるいは別の女に尋ねるのだ：「おばさんよ、オルレアンへ行く道はどれかね」「旦那さん、教えましょ。この道を真っすぐ馬に乗ってお行きなさい、谷間のところ [f. 5^r] までくると、ちょっと前方に生垣が見えましょう。そこには道が二筋あって十字架が立っております。その十字架を右手に見ながら左の道を進むんですよ。そうすると大きな森が見えます。悪者が沢山隠れているという噂だから、旦那さん、泥棒には注意しなされ。ひどいわるさをするんだそうで。神のお導きにより、あなた様のお気に召す何事にも栄えと喜びありますように。」「美しい奥さん、神と共にあれかし。」〈あるいは〉「あなたに神の御加護を。」さて、この旦那は道を進み次のような、あるいは又別の、自分の気に入る唄を歌い始める：

ほうら、ほら、我等仲間に
今年は葡萄の当り年
心も想いもくれてやる
我等は楽しい仲間たち。
飲んだり、飲んだり、このエキス
黒い葡萄のしたたりを。
唄えや、踊れ、今年は豊年万作だ
神に感謝のひと踊り。
良い酒なしには
うれしい祭りも始まらぬ
ほうら、ほら、甘く切ないこの酒は
人を笑わせ唄わせる。
貧乏人は金持だ
パンやお金がなくっても
お酒の功德で金持ちだ
酒の御利益ありがたい。
どけちの財布もゆるみます
あの後悔先立たぬ。
娘さんたち
落穂を拾い [f. 5^v]
家に帰れば思い出す
楽しい仲間のお遊びを。
3人、4人と集まって
口を揃えてこう言うよ
飲もうよ、みんな、
ちっちゃな瓶でぐいとやり、
愉快な気持ちになりましょう。
さあさ、行ったり、酒倉へ

恵みの葡萄酒
開けよじやないか
葡萄を植えた葡萄作りの
長き幸せ，長寿を祈り
この葡萄酒をあけよじやないか。
これは美味いぞ，
俺の心はとろけたぜ
とろける口ゼガ
おいらに歌を唄わせる。
この葡萄酒は，
頭にくるわ
うちの内儀さん，足さかさに
ぶつ倒れさせてしまうまで。

彼は歌を歌い終えると侍僕あるいは侍僕たちに次のように話し始める：「さあ君たち，まもなく夜になる」〈あるいは〉「やがて夜になろう」とジョナンは自分の主人に大層丁寧にこう答える「さようでございます御主人様，まことにさようで。」〈あるいは〉「そのようでございます。」〈あるいは〉「仰有るとおりで。」「今日は先を急ぐより，この町に泊まった方がよからう，どう思うかね」「御主人様，思し召しのとおりでございます。」「ジョナンよ」「はい，旦那様」「先に行ってすぐに宿をとっておいで」「さようにいたします旦那様。」そこでわきめもふらず道を進み，宿に行き着くと大変鄭重にこのように言う：「宿の御亭主，御亭主殿。」すると宿の主人は前者に奥からまったく横柄に答える「何だ，誰なんだね」「この怠け者，何でお前さんは私が呼びかけた最初に返事しなかった？」[f. 6^r] 〈あるいは〉「私がまず戸を叩いた時，どうして返事をしなかったのだ。神かけて災いをふりかけてやるぞ。あんたはここで私を長い間ほんやり待たせたんだぞ。知ってのとおり，今日ほど寒いのは今年始めてだ。雪は降るし，あられもみぞれもひどいもんだ。水は凍って足の甲みたいになってるじゃないか。凍てついた氷はなかなか溶けないで。さあ，早く戸を開けてそこへ入れて呉れ。さもないと，戸をめちゃめちゃにぶち破るぞ，本当にやるぞ！」「さあさあ！あなた，そんなにかんかんに怒りなさるな，すぐ開けますからに。」宿の主は急いで戸を開けにかかる。戸を開くと，戸を叩いていた人間を見て，彼に言う：「聖マリア様！驚いた，ジョナンさん，あんたでしたか」「そうともさ，私が見えないか」「ジョナンさん，親しい友だちよ，気を悪くせんで欲しい。あんたが其処にいるとは思ってもみなかった。さてさてあなた，御機嫌損じたならどうか御勘弁願いたい。充分つぐないはしますよ。ジョナンさん，心から信頼しているから是非頼むのだが，私がやったことをそちらの主人には言い付けて欲しい，もしわかったら，そりゃ気を悪くされるだろう。私は御主人のお気に入らんことになる。」[f. 6^v] 「君，そんな事は心配せずともよい，君が良い友達づきあいをしてくれるのなら，そんな事は言わないよ。」「誓いますよ。親友さん，すばらしい友達になりますよ。私ができることで何かお望みなら，それがお前様のお気に入るなら，言って貰いたい，できる限り喜んでやりますぞ。私は常に，今もこれからもあんたの言う事は聞きますよ。」「それじゃ宿の御亭主，ここ泊まり心地はよろしいかな，言って貰いましょう」「はいはいお客様，お蔭様で…王様のお泊まりを仰せつかっても充分お気に召すような，行き届いた誠実な宿でございますよ」「さて，そのようではあるが。」

そこであるじは次のように答える：「こちらへ来てみて下さい，お客様御一緒に。さっそく一番綺麗な一番居心地の良い部屋を見て貰いましょう。これまで見たこともない程一層立派に金や絹の布で飾りつけし，しつらえてある部屋です。しかします，錠前を開けるための鍵を探してきましょうや。」彼は

戻ってくると戸を開け中に入り、相手に言う：「さあ、この部屋のあたりをぐるっと見廻して下さい、どうですかね」「成程、御亭主、結構な工合で私の気に入るようだね、又、別の点でも大層気に入りますよ、部屋はしっかりとまじめにホウキで掃いてあって埃も塵もないからね、というのは、蚤もしらみも他の虫もいないだろう」「虫なんかあなた、絶対おりませんよ。うけ合って言いますが、皆さんはここで快適にお泊まりになれます。[f. 7^r] 勿論ねずみや二十日鼠がたんとおるのは御承知のところだが、それは皆さんにはどうでもよろしいことで——というのは以前に私が作った巧妙な道具、網や仕掛けでねずみ共をしっかりとつかまえるように言い付けときました。もっとも鼻高々で言ってるんじゃないですが。ジョナンさん、さあ聴いて下さいよ。御主人は今夜ここに泊まられるかね」<あるいは>「御主人さんは今夜ここへ見えるでしょうな」「そりゃ本当ですともさ、しかし、御主人が仲々御ゆっくりなんで不思議に思っているところだよ、というのは先ぶれのために旦那様を後にした時、ここからもう3哩程のところだったから。」「御主人が間違いなく今晚来られるとお前様は知っていますさるのか」「誓って、そうとも。」「それじゃ、まこと私は鳥屋へ行って、にわとり、食用の雄鶏、鴨や小さい野鳥などと夕食のために買うとしましょうや。」「宿の亭主、まずはさあ、薪を切って暖かい火を頼むよ、今日はとても寒いんだから。」

さてそれから道に出て鳥屋へ着くと、(この場合宿の亭主 hosteler が行ったのかジョナン Janyn が行ったのか文脈は曖昧になる) 次のように尋ねる：「さて御亭主、これはいくらぐらいのものですかね」<あるいは>「おかみさん、これをいくらでわけてくれますか」<あるいは>「これでいくらになりますか」<あるいは>「この河あひる三羽でいくらですか」「旦那、10ドニエいただきます」「あんた、それは高すぎる、半値で充分だ」「何をおっしゃる、この河のマドラデル三羽には9ドニエ払って貰いますよ。つまりこれは本当に逸品として…肥えて脂ぎっていますから。うけ合っても良いがこれから先二年経ったってこんな良いやつにお目にかかるたり、食べたりはできませんよ。[f. 7^v] さあさ、よう見て下さい。もう脂ではち切れているでしょうが。」「ふむ、ふむ、よう分かる。しかし、また法外にふっかけたものだ」「めっそうもない！旦那、私がこうと思えばですね、今日でもあしたの朝でもこのあひるは10ドニエで売れますぜ、これは信用してもらわにや」「そんな力むことはないって。それ以上言わんでも最初の言葉でわかっているよ。さあひと言、いくらにするね？」「こりや絶対に、その値段をいただきます。さもなくば売りません」「やれやれ！今年取引きした商売のうちでお前さんは一番高値をつける人だ。ほかではこの三羽と同じに良いやつでも7ドニエで手には入るさ。しかしまア仕方がない。この次にはもっと良いのが見つかるだろう」「パウロ様に誓ってこの値段でこんなに良いのは町中にありませんや、これより上等のあひるなんかお目にかかることはない筈でさあ。」「それじゃそれを貰おう、ほらここにあんたのお金だ、あんたを神にお委せしよう」<あるいは>「神のお導きを！」<あるいは>「守り給う神に！」<あるいは>「神と共に！」<あるいは>「神の御加護を！」「旦那さん、健康とやすらぎを神が下さいますように！」

そこでジョナンは宿へと帰り主人の夕食のために肉の準備をする。彼は帰くると、水を一杯張った鍋を火にかけ、鍋が沸騰し始めると、あひるに火を通すために鍋の中へざぶんと浸ける。それから急いで羽を抜く。羽を全部 [f. 8^r] 抜き終えるとすぐ尻尾を切る。指をあひるの胴体の中に入れて内臓と汚物を全て引き出し丁寧に水で洗う、それからローストするために焼きぐしに刺し、すっかり出来上がって充分に焼けると串からはずす、その頃主人が宿にやってくる。

そこで宿の女主人あるいは娘が出迎えて客にこのように言う：「旦那様、よくいらっしゃいました」<あるいは>「よくおいでなさいました」《もし、馴々しい言い方をすれば、それは疑わしい言い方だが》「旦那さん、ようこそ」「奥さん、御機嫌はいかがかな」<あるいは>「お内儀、どうしているかね」<あるいは>《次のように言う》「奥さん、あれからずっとどうしておられたか」「まあ、神様とあなた様のお蔭で、お元気なあなた様よりなおびんびんいたしとりますわ」「そりゃ大いに結構」「旦那さん、長いこと

お目にかかりませんでしたわね」「その通りだよ、さて美しい奥さん、教えておくれ、いつも貴女の所にいた美しい娘さんは一人もおりませんかな」「お客様、お気に召すなら、大層綺麗な上品な身体つきの娘が二人おります、両手で握り締められるほどのかわいらしい娘でございますよ。」「それでは是非その娘さんをここへ連れて来て貰おう。その娘達を見る迄は馬から降りませんぞ」[f. 8v] そこで娘達が客人の前に現われる。客曰く：「これはこれは、この前逢った娘さんよりずっと身体つきも良いし、ずい分美しい女性だね。是非とも私のN荘園で一緒に暮らして貰えるとよいが。この娘たちには金や銀やほかの財、いや館までくれてやろう。」そこでやおら客は馬から降り娘の名前を尋ねて言う：「可愛い、恋人たちは何という名前なのかね」年かさの娘がこのように答える：「御主人様、お気に召すなら、私の名はイザベルと言います」そして他の一人が言う：「御主人様、マルガリータでございます。あなた様が善行をほどこされる御恵みを神が下さいますように」「イザベルよ、さあこっちへ来なさい、さあ」<あるいは>「さあ、優しい恋人、私のところへいらっしゃい、遠慮せずに。ひどいことはしませんよ、それは約束する。神も御覧あれ、やさしく大切にあつかうよ。」「はい喜んで、旦那様のお言い付け通りにいたします。そこで客は娘を抱き、甘い口づけをする。それから優雅に情熱的な愛情をもって、恋する男の調子で次のように言うのだ：

やさしく美しい恋人よ
つとみやびやかなる人よ
私はお前に愛を捧げた
花の衣装で飾った君は
私がぞっこんの御主人様だ
花園に咲くいとしのバラだ。
しなやかな姿の恋人よ
私は君に心を捧げる
私の愛と、あらゆる楽しみを、
美しい一折の花のように大切なお前。

それから客人は彼女の手をとり広間へ行って言う：「娘さん、夕食と一緒に食べよう」「有難うございます。お客様」[f. 9r] そこで彼は召使いの名を呼んで尋ねる：「ジョナンよ、我々の夕食の支度は出来たかね」「はい御主人様、どうぞいつでもお座り下さい」主人は席に着きあたりを見回して言う：「あゝ、まだテーブルが置いてないじゃないか」そうして召使いたちに腹を立て始めこのように言う：「お前たち二人にはろくな一週間にならぬぞ」<あるいは>「お前たちは痛い目にあわせてやる。絶体に。私がここへ到着してからというものがお前たちは一体何をしていたのだ。夢でもみてぶらぶらしていただけではないか。すぐに食卓を置いてただちに赤葡萄酒のクラレか白かを飲めるようにして持って来い。喉がからからだぞ、それに腹も空いた」「はいはい、お言い付け通りにいたします、旦那様」この主人はやがて酒を飲み終え、娘も飲むと、彼女にこんな風に言う：「さあ恋人、こっちへ来なさい、この私の前の椅子に坐るのだ」「お客様、それはどうぞお許しを」「おやおや！ そうして貰わんとな」「有難うございます、それでは」そうすると客と娘には大層味の良い夕食が供される。客は満足した顔付で大いに喜び言う：「娘さん、どんな工合かね」「旦那さん、喜んでおりますわ、神様とあなた様のお蔭で」「まことに私も嬉しい、どんな人にもましてあんたを歓迎する、是非あんたが気に入る食事をさせてやりたい」「まあとんでもない、充分です、おかげ様で」客は娘に言う：「おや、もう食べないのかい」「あら、いただきますわ旦那様。有難うございます」「では見ていよう」[f. 9v] 二人が食事を終えるや否や客は娘を愛撫し始める。彼女の愛と処女性を獲得するために、彼女に対し感じた愛の大いなる残り火ゆえに、この世で一番甘美な愛に満ちた唄をこのように口ずさんだり大層やさしげに歌ったりするのだ：

愛情こめて見つめる美しい目差しが
私の心にいとしさをそそぎ込む
お前と私が目と目を見交すと
全身の血は失せてその目に吸い込まれてしまう。
お前の優しい魅力で有頂天の私は
いくら見とれても見あきはしない
お前の姿を心にしっかりと描きとめたから
他の思いがは入り込む余地はない。
こんなに嬉しい思いをしているのだから
お前を忘れるなんてぜったいにないのだよ。

《ここに最も樂しいうたが終る》泊り客はこの唄を歌い終えると娘に大層やさしく話しかける：「ねえ私の恋人、この唄仲々上手に歌っただろう」「さようですねお客様、非常に上手く歌われましたわ、心も身体もすっかりのぼせ上りましたもの」そこで客は娘の手をとり、男一匹に誓って、一生ほかの女を相手にしないとはっきり約束して言う：「さあ私の恋人、お前さんを私の伴侶とするよ、この点について確約する」それから客は娘とたわむれ、遊ぶので、全ゆる快樂やおふざけのうちに彼の心は有頂天となって、宿のおかみさん、召使連中、部屋付きの者たち、従僕たち [f. 10^r] に多くの美しい贈り物をする。つまり、宿の女主人には緑の薄絹の美しい腰帯を、召使いには3スー4ドニエの銀貨を与える、従僕連中には巧みに丈夫に作ってある緑ビロードの財布を一個ずつ与える。財布には赤い純絹の紐がついている。そして12ドニエの銀貨も入れてやる。客人と娘、それから身分のある客の友人たちが皆彼と楽しみ、驚くほどの遊興をする。客の主人は従者の楯持ち、侍従たちにスパイズと飲物をもってくるように命じる。すぐさま、楯持ち、侍従たちは蠟燭を沢山持ってやってくる。ゆうに50本はあるのだ。其処へ全ゆる種類のスパイズが一杯は入った、サラセン風の宝石作りの美しい盃をもち込む。それから彼等は上等のビールと上等の葡萄酒を持ってくる。つまりクラレに赤葡萄酒、白葡萄酒だ、また、ひとつ、ギリシャの酒のような甘いワイン、ヒポクラス、モントローズ、リュネイ、ベルナージュ、アルボワザン、アルザスのオゼイ、香料入りのクラレイ、その他手に入る限りの酒類である。そして又他の飲料、サイダーのようなもの、梨のサイダーや香料入りビールの甘いプラゴットなども持ってくる。その時、客の主人の前に角笛吹きやラッパ吹きがクラリネットやフルートを持って現われ、角笛やクラリネットを吹き鳴らす。すると客の主人、楯持ちたちは真夜中になるまで大いにしゃべり、踊り、踊りの組をくみ、身体をゆすりそして美しいキャロルを歌うのだ。このように騒いですっかり疲れ果て [f. 10^v] もうそれ以上踊れなくなると主人はまわりの優雅な友人たちに言う：「さあ皆さん、寝む時間となりましたよ。もう真夜中過ぎて一時に近い、だからさっさとやすみましょう。私は横になればもうぐうぐうですな」「ほら、ジョナン、恋人を部屋へ案内しろ、靴と服をぬがせてやりなさい。私が部屋に入ったら一緒に休むためにすっかり準備が出来ているように」そして客の主人はやってきて大満足で恋人と寝床に入り彼女に接吻をし、かき抱き、片腕を首の下に置いて彼女に対して親しく夫婦の間柄にあるやさしさと愛撫を与える。朝になると彼は非常に早く起きて部屋付きの者の名を呼ぶ：「ジョナンよ、まだ寝ているのか」「いゝえ、どういたしまして旦那様」「では何をしている」「旦那様、夢を見ているんでして」「目を覚ませ、悪魔と母親とにかくて、何でもよいから起きろ。昨晚お前に言い付けておいたように何故早く私を起こさなかったか」「旦那様、誓って申しますが、お起しましたよ」「何だと！お前は喉の奥で嘘をついている、一体今何時なのだ」「御主人様、まだ朝早うございますよ」「そんな事はどうでもよい」〈あるいは〉「それはかまわん」〈あるいは〉「つまらぬことを」〈あるいは〉「それは関係ない。」「ほら、起きろ」〈あるいは〉「さあ、すぐ起きるんだ」〈あるいは〉「さあ尻を上げて朝食の支度だ。」

さて主人は起き出し、シャツを自分で着て、胴着と大きなコートを付け、靴を履く。全部を身につけて [f. 11^r] 準備がととのうと部屋の隅の窓の所へ行き手を洗う水を貰う。手を拭くタオルも、其処へ持ってくる。宿の女主人が現われこのように言う：「御客様昨晚は如何でございましたか」<あるいは>「昨晚お休みになされましたか」「あ、結構でした。おかみさん有難う、しかし少々気分が悪くてね。沢山飲みすぎたし、夜ふかしをやらかしたから。ジョナンよ、櫛を取っておくれ、あの娘が髪をとかしつけてくれるだろう。馬に水をやり大麦とかいばをやるよう馬丁に言い付けろ。それからいきの良い魚をどっさり注文するんだ、鰻 anguilles に、やつめうなぎ lampreous, その幼魚 lamprals, 生鮭 samon fraisse に塩鮭 et saleie, せたかうお bremes, にしひめじ roches, パーチ perches, 舌びらめ soles, かれい pleiz, バーベル barbels, あさがおくらげ luces, 鮎 leynge, 鯿 treyte, 河ひめます grepel, 小鱈 cedeleynge, 千鱈 merlankes, つのざめ butynge, 塩魚 poisson saleie, ひらめ platoun, とげうお espineis, かじか魚 carboeul, きたのかまつか gojoun, ばら mulet, 塩鱈 muluel de mer, きゅうりうお espelankes, ちょうざめ estorjoun, ターポット turbiller, 鮒 rais, 食用テンダル tendal, くらげ geleis, かに crevis, めかじき rasours, 鮫 chien de mer, 葡萄酒漬いるか porpeis avec la pufée, かき oistrez, 紫貝 muscles, とりがい kochavon, にしん heranc blanc, 燻製にしん heranc sor, それに、にしききゅうりうお esperlinge と小魚、その他の海の魚や河の魚も沢山にだよ。

この食事が全てととのうと客人は両手を洗い食卓に座る。食事を終えると女主人に次のような場所へ行く道を尋ねる：「此処からパリ近くのエタンプまでどのくらいあるのだね」「御客さん、ほんの10里ほどしかありませんよ」[f. 11^v] 「夜のうちに着けるかなあ」「え、お客様、勿論ですとも」「えーとさて、此処からオルレアンまではどの位だろうか、どの道を通ればよいかな」「旦那さん、エタンプの町を馬でずっと過ぎてゆき、サンロイの門の方へおいでなさいまし、そこから町を離れて半里ほど行くと道が二つありますよ。一つは十字架のある道で一つは細い道です。十字架を右手に見て、緑の一番大きな道をお進みなさい。それからシャルトルの森の方へ道をとるんです。そこへ着きましたらその後すぐにボーシャテル・レ・プレという町に近付きますよ。すると真直ぐにオルレアンにむかっている街道が見えます。横道にはそれません。それをお望みでなければですがー」「さあ、テーブルを片付けてさっそく馬に乗ろう、そこで泊る前にまったく暗くなるだろうから」さて客は女主人に暇いとまを告げ、この言葉を言う：「奥さんではごきげんよう」「旦那さん、御幸せに御達者でいらっしゃいますように、なさること全てに御運がありますように、旦那様本当に御親切によくしていただいて有難うございます」<あるいは>「有難うございます旦那様、お目にかかった最初からずっと私共によくして下さった気取らぬ御親切、御心の広さに心から感謝いたします。いずれあなた様に御恩返しが出来ますように、まったくのところ旦那様、大変有難く存じております」そこで客は馬に乗り恋人の娘に接吻し [f. 12^r] 当座の費用に30フランを渡してやさしく言う：「大切な連れ合いのいとしい恋人、又逢う日まであなたを神にお任せする。私はオルレアンに行き少々気晴らしをしてくる。長くはかかるないよ」

そしてこの主は馬で道を急ぎ、町の中へやってくると最初に出逢う人に訊くのだ：「もしもし、あなた」<あるいは>「御主人」<あるいは>「御子息、今は何時ですか」<あるいは>「時計が今何時を打ちましたかな」<あるいは>「いくつ時計が鳴りましたかな」「さあ、たしかに、よく分りませんが 10時を打ったんだと思いますがー」というのは、ここのつを打ってから充分一時間はたってますからね」「御若い方、有難う、神のお守りをー」「御主人、神が良い機会と祝福を与えられ、あらゆる危険から守られますように」

IV. さて次は肉体労働をする労働者や農業に従事する者たちの話し方を述べよう。

小農園で仕事をする者が土を掘り溝を作る土木工事人にこのように言う：「おい、お前、実のところ今週はいくら稼いだのだい」「いやあ、実際、今週一ぱい土掘りをやり、つるはしや棒ぐいを使って深い溝を掘ったのに、たった12ドニエの稼ぎだったのさ」「それはひどい！少ないな」「じゃあ、親方言っとくれ、あんたはいくら稼ぎなさった」「そりやお前さんには教えてやる。これまでお目にかかったこともないような見事なつぎ木の庭の樹全部にやってな、そいつらは青々としてきたぜ。も一つの庭は土を掘り起こして [f. 12v] キャベツや葱、パセリ、セージ、それからほかの緑の香草をうまく植えたねえ、そいからそこのいらくさとか、しもつけそうとか悪い雑草をみんな引っこ抜いてきれいにし、種の良いのを沢山植えたんだがね、それからいろんな果物の樹、リンゴやら梨やらすもんやら桜んばやらくるみもそこいらきれいに剪定したってことよ。けどな、今週の稼ぎは30ドニエだけさ、いやしかし、先週も同じだけ稼いだから、まあ結構と喜んどるが」「まあ、そんなことはどうでもええ、今日この日手に入るものを稼がにゃ」「おや、あっちこっちの鐘楼で鐘が鳴ってるじゃねえか」「そうよ、明日はありがたい祝祭日だで。そろそろめしの時間だな」「その通りだ」<あるいは>「そうしよう」

そこで二人は食事をしようと連れ立って宿屋へ行く、宿につくとバターで味つけして脂ぎったベーコンと一緒に煮たキャベツ、ベーコンと白味も黄味もある殻つき卵が供される。二人は若僧は大層大食なので腹ペコを早いこと満たすためにむしゃむしゃと噛みもせずに食物をのみ込む。さてすっかり食べ終ると飼犬のマスチフ犬に骨を投げてやる [f. 13r] この恐ろしい犬はものすごい勢いで骨をかじる。犬共はお互にふざけて戯れ始め、当然それは争いとなり、強い方が弱いのを地面に倒す。そうなると威勢の良い奴が相手に言う：「俺のマスチフの方がお前さんより強いぜ、まあ犬は離して、我々も力づくで腕だめしをしよう、どっちかが地面に倒えるまでな」「俺達の方はやめとこうや、市場へ行って金槌と木槌を買うんでな。この前の時と同じ、先に降参した方がよいさ。あとは神だのみ、俺は行くぜ」

V. また別の話し方。

小麦をふるいにかけて荒挽きと精選とをよりわけているパン屋が従弟の一人に言う：「ピエール、塩を取り、すぐに水を汲んで大鍋に入れて火にかけるんだ。今夜は粉を捏ねてパン種のは入った9ブッシュルをベルボワさんとこのために焼くぞ。明日のサン・ミッシェルの祝日は御立派な奥方のギュネル様の御埋葬式さね、ベルボワの奥方様はこの前の聖十字架称賛の祭日にお亡くなりだ。」「親方、怒らんで下さい。両手に怪我をしちまったんで、ほんとに、水汲みができません」「何で又そんな怪我をしたのだ [f. 13v] お前はわざとする悪い奴だ」「本当なんです。両手で剣を持ってだち公とふざけていた時、右手をグサッとやられ、手の平を切って骨にとゞと程なんですから、僕の言っているのが嘘でない証拠を見て下さい。」「なんてこった！ばかなことをしたもんだ、こんなに怪我するまでふざけるとは。今はお前の手がいるんだよ、それなのにお前はぜんぜん役に立たん」「あゝ、それなら親方さん、心配ないです。治ってしまうまで僕のかわりの者をみつけますから」「本当にできるのか」「え、できますとも、大丈夫です」「今にわかるだろ。しかしどもかくこんな怪我をして困ったことだ、傷はかなり深いし、危いところだが、まあ元気を出せ。お蔭があれば直ぐにも治るだろう」

VI. 今度は商人たちのもう一つの会話。

商人は年季奉公の見習いに言う：「ギョーム、どこにいるか」「御主人様、ここにおります」「私の所へおいで」<あるいは>「こっちへおいで」「旦那さん、はい只今」「お前は一体朝起きてからどこへ行っていたか。お前がちゃんとおったのなら私は朝から市へ出かけていたろうに、品物を売りに行こうと私

が起きたのをお前は知つとるじゃないか。今週は [f. 14^r] お前にとて悪い週になるぞ、お前の馬鹿さ加減で今日はあきないを台なしにした」「何はともあれ、旦那さんが昨夜言い付けられた通りに、旦那さんの仕事をしてたのは御承知でしょう」「何を嘘を言う、身もちの悪いあばずれ娘たちと一緒にいたんだろ、鎌で顔でも切られるとよい。お前が馬鹿をやめぬなら、いづれはひどいことになるぞ」「とんでもない、そんな所にはいませんでしたよ」「お前は喉の奥で嘘をついておる。連中と一緒にいたのは分っている」「お願いです、そんなのじゃありません」「だまれ！悪魔にかけて！」<あるいは>「静かにせい、さもなくばこれから4日間身にしみて私を忘れんような平手打ちをくわせるぞ。本当だぞ、やって欲しいなら、たしかにやってやる」<あるいは>「うるさい」<あるいは>「さっさと出て行け」<あるいは>「ひどい目に逢うのが嫌なら口答えするな、これ以上つべこべ言えばお前はなぐりつけられて、3週間は私を忘れんようにしてやる。本当だからな、私は言うことは絶対に守るのだ」「あゝ、おやさしい御主人様、すみません。お腹立ちのところをどうかお赦し下さい。[f. 14^v] 平身低頭お願ひします。神かけて、もう決してあなた様に対し悪いことは致しません」「それでは行け、許してやる」「まことに有難うございます旦那様」

そこで奉公人は主人の品物を売るために市場へ行く。其処には様々の国から沢山の人が商品を買おうとやってくる。見習いはその人たちにむかって礼儀正しくこのように言う：「さあ皆さん、こちらへどうぞ。この町で御みかけになるのと同様上等の布を御覧に入れましょう。ほかのどの町でもできない良い買物ですよ。さあお客様、みて下さい。如何ですか」<あるいは>「さあお気に召しますか。此処に上等の赤紫のとえび茶のが、ございます。ほかにえも言われぬあらゆる色がありますよ、お好みを選んで貰いましょう」そこで客の商人が言う「この緋色のひと巻きはいくらするのか」と相手はこのように答える：「旦那、2000フランいただきます」「それや駄目だよ、あんた、そんなに払えると思うかい？このひと巻きで700フランは払うがねえ」「ねえお客様、お見かけしたところ御立派で目がお高い。では一言、本当のところ言わしてもらいます。1500フランでどうぞ」「いやなかなか、どうあってもこれ以上は払えないね。それに、まだ高すぎる」「とんでもないです。旦那はちょっと手厳しい。しかし、いづれ又 [f. 15^r] 今後も私の品をもっと買って貰えるでしょうから、では私の買った値でお願いします。つまり1200フランで…しかし今すぐお支払い願えるということでー」「さあ、それは心配しなさん。神のお気に召せばすぐ支払うよ。支払い日を8月1日にしてくれんかね」「それはまことに、お気を悪くしないでいただきたいですが、そういうのはできません。私の立場がとてもひどい事になつてもかまわん、というなら別ですが。貴方様の故で私がのっぴきならぬひどい状態になるなんて、そうなれば良いとはお考えじゃござんせんでしょう。と言いますのは、私は國の人たちに金を沢山借りており、それを今度のクリスマスまで借りている状態です。このために負債はあるわ、まさに祝祭日に支払うわという二重に重なった厳しい負目に縛られとります。ですから、その支払いを部分的に、あるいは全面的に怠るすれば牢に入れられること請合いで。すっかり支払うと同意するまでは牢から出られませんや。そういうわけでして、旦那さん、心からお頼みしますよ、全額をすぐに払って貰いたいんです。もう待てぬという必要に迫られているんでして。[f. 15^v] 本当に旦那、この次は貴方様に喜んで同じ額をお貸しいたしますよ」「まあ、あんた、そう興奮せずに。では金の半分を払おうじゃないか。残り半分はだね、来たるクリスマスの聖ペテロ祭に耳を揃えて支払うという義務をまちがいなく履行しよう」「そうすると言わられるなら私も結構です。何としても引き延ばされるより今すぐ私の必要額を支払って欲しいんですが。しかしこれ以外にできんのでしたら、支払い日をお待ちするしかありません」さて、見習いが、買い物と全てを取り決めると次のように言う：「お優しいお客様、それではこの品はお渡しします。本当に旦那さんは私が買った値段でお買いになりましたよ」<あるいは>「やれやれ、私が払ったと同じ値でお客様さんは品物を手にいれましたね、さあ商品をお持ち下さい。それが私のものになる筈の利ざやを願わ

くば儲けられますように」「これはこれは親切に有難う。私があと二年このままで行けば、あんたの親切は無駄にはなりませんよ。お蔭があれば、私はお前さんに報いますからね」「旦那さん、[f. 16^r] 神の御加護を」「では、親切なお若いの、神がお守り下さるように。」

* * * *

La Manière de Langage と呼ばれているフランス語の教本は14世紀後半にイングランドにおいて作成されたもので現在数種の写本が現存している。フランスの習慣や言葉の使い方に従い、美しいフランス語を正しく話し、正しく書くように ‘droit parler et écrire doulz français’ と、教えるものである。すなわち *Manière* は会話とフランス語の書き方教本といえる。*Manière* を作成したのはイギリス人であろう、しかし名も不明である。教本の後半になって Kirnyngton という名が現われるがこれは写字の名であろうと見做されている。see: Paul Meyer, *La Manière de Langage qui enseigne à parler et à écrire le français: Modèles de conversations composés en Angleterre à la fin du xiv^e siècle, et publiés d'après le MS. du Musée Britannique Harley 3988*, Paris 1873. p. 373

作者はフランスに滞在したであろうし、当時のフランスの日常的な社会事情にも詳しいようであるが、この時代の他の「フランス語教本」にも見られる如く、英語の表現法をそのまま、フランス語に直訳した言い回しが現れる。例えば、pourquoiのかわりに英語の why をそのまま、訳したような quoi が続出するし、il est bien tempsのかわりに il est haut temps (it is high time) と言い、 combien は quant bien (how much) となり、 surveillerのかわりに survey (survey), Aportez nous bientôtのかわりに Aportez nous une fois (bring at once) と言う。また、綴り方が定まっていないという面も大いにあるけれども日常に用いる用具の名や、御馳走に供せられる魚の名前などには大陸フランス語に現れない綴りや表現が頻出し、訳者を大いに悩ませる。これらは当時のイギリスの美しく、正しいフランス話なのである。

会話の主題はもちろん日常の関心事におかれてある。現実に生活する人々に役立つためのフランス語であるから、生々しく、活気溢れる人たちの息づく生活の断片が我々の目に飛び込んでくる。^{あるじ}主が従僕や召使いをどのように叱責するか、そして召使いはどのように答えるか、という状況や、お大盡様の旅の遊興、職人たちの些細な楽しみ、それに商売の売り方、買ひ方の巧妙なかけひきが面白おかしく語られる。面白くなれば言葉は覚えられない、と言ったのはラブレーであったか。

文法教本と合わせてこのような話し方、書き方のマニュアルをつけておくという事も当時は行なわれたようだ。イングランドで incunabula が出回るようになるとラテン語で解説をほどこした英語の文法書が書かれるようになる。Grammatica nova Anglicana と呼ばれるものであるが、それら英語文法教本には *Manière* を模倣したらしい Dialogue も付してある。曰く、道を尋ねる場合、宿屋で宿泊する場合、品物を売買する場合というような状況設定で会話文が続いている。しかしこれにはフランス語の *Manière* に見られるようなふざけたところがみられない。*Manière* に現われる雰囲気はガルガンチュアやパンタグリュエルの世界へとやがて通じてゆく様相を呈しているが、ひとたび一つの主題について話し始めると際限なく陳述が続くという手法は英会話本には現われない。イギリスらしいと言おうか会話の全てが上品にとり澄まして仕組まれている。フランス語の会話教本と、それらを手本として作成されたような英語の会話教本を比較研究することも、彼等の現実的な趣味嗜好を知る上で興味ある問題である。

上述の Paul Meyer は BL MS 3988 (13 cm × 21 cm 15世紀) に書き残されている *Manière de Langage* (1^r—24^v) を転写し、*Revue critique d'histoire et de littérature* XII, 1870. pp. 373—408に掲載した(offprint 1873)。筆者は Meyer の主題分けに従ったところの 1—6 番を翻訳したのである。MS 3988

に収められている *Manière* は 26^vまで続く。27^r—67^vは Oxford で教鞭をとっていた Thomas Sampson の教材、書簡集の写しである。Sampson は business training の講座をうけもっていたのであるからこの *Manière* のごとき会話教本も副読本として用いたかもしれない。67^vで写本は綴じる。1879年、E. Stengel は Oxford All Souls College MS 182の *La manière de langage* ff. 314^r—315^rを *Zeitschrift für neufranzösische Sprache und Literatur* I. pp. 1—12に Harley 3988の variantsと共に発表した。“Die ältesten Anleitungsschriften zur Erlernung der französischen Sprache”が表題である。All Souls MS 182 314^r—315^rは Meyer が転写しなかった BL Harley 3988の 25^r—26^rにあたる。MS 182は MS Harley 3988の *Maniere* に酷似していると言つてよい。Stengel は、すなわち Meyer が転写を残した 25^r—26^vに相当する All Souls MS 182の個所を翻字したのである。筆者はここで All Souls MS 182をとりあげ、Stengel が転写を残した 316^rまでを転写し終えることとした。会話は読み易いように改行してある。

Anglo-Norman の特徴を示す語、句、については注解を付した。Anglo-Norman Anniversary Essays edited by Ian Short, Anglo-Norman Text Society occasional publication series No 2, London, 1993 pp. 149—157に掲載された論文であるので注解は英文を転載する。

尚、*Manière* の更なる continuation は All Souls MS 182 372^r—373^rにあらわれる。筆者の知る限りでは現在も inedited の状態である。

The All Souls Continuation of *La Maniere de Langage*

Text

Oxford All Souls College MS 182

ff. 314^r—316^r

[I]

1 “Mon tres gentil sire, Dieu vous beneit! [314^r]

——Mon tres doulz amy, je pri a Dieu qu'il vous donne bonne encontre. (*vel sic*) Sire, Dieux beneit et la compaignie!

——Beau sire, dont venez vous, s'il vous plaist? (*vel sic*) De que part venez

5 vous, mon tres doulz amy, mais qu'il ne vous desplaise?

——Vraiemment, sire, je vien tout droit de Venyse.

——He! mon amy, c'est une ville de Lombardie?

——Oil, vraiemment, beau sire, si est.

——Par mon serement, mon tres gentil sire, j'en ay grand joy de vous que vous
10 estez si bien travaillé, depuis que vous estez si jones, car je pance bien que vous
n'avez pas encore xxx. ans.

——Si ay je vraiemment et plus. Mais pour ce que je sui bien sains et joliet ou
cuer, la Dieu mercy, l'en me dit que je sui plus jones que je ne sui pas.

——Ore, sire, est Venyse une belle et grande ville?

15 ——Oil, vraiemment, sire, c'est la plus bealle ville et la plus noble port qui soit
en tout le monde, si come m'a l'en dit en cel pais la, qui out travaillé partout.

... .

Et de que pais estez vous, beau tres doulz amy, mais qu'il ne vous desplaise?

- Vrayement, sire, je sui de France.
20 — Et de que ville, s'il vous plaist ?
— De Parys, sire. (*vel sic*)
En que pais estiez vous nee, beau sire, s'il vous plaist ?
— Vraiemment, sire, je fu nee ou roialme de France.
— En que ville, beau sire ?
25 — En Parys, sire, si Dieu / m'ait. [314^v]
— Vraiemment, sire, je vous en croy bien, car vous parlez bien et gracieusement
doulz franceis. Et pour ce, il me fait grand bien et esbatement ou cuer de parler
avec vous de vostre beau language, car c'est la plus gracieus parler que soit ou
monde et de tous gens mieulx prisee et amee que nul autre. Et coment vous est
30 a vis, beau sire, de tres bealle citee de Paris ?
— Vrayement, sire, il m'est a vis que ne vi oncques mais jour de ma vie si
belle citee come ce est, toutes choses accompteez, car il en y a tant de si beaux
chasteux, si grans forteresses et si haultes maisons et fortes, et que sont si
honestement apparailliez que, si vous les eussiez veu, vous en seroiez trestout
35 esbahiz.
— Vraiemment, sire, il peut bien estre veritable ce que vous ditez. He ! pleust
a Dieu et a la Vierge Marie, mon tres doulz amy, que je seusse si bien et
gracieusement parler franceis come vous savez, car vraiment j'en feusse
doncques bien aise a cuer.
40 — Par Nostre Dame de Clery, je vouldroy que vous seussiez.
Mais toutesvoies, vous parlez bien asses, ce m'est a vis, car je pance bien que
vous y avez demouree grand piece, depuis que vous parlez si bien et plainement
la language.
— Par saint Pol, sire, je n'y fu oncques mais.
45 — Et coment savez vous parler si bien donques ?
— Vraiemment, sire, si come je m'ay acoustumee a parler entre les gentils de
ce pais / icy.
— Seinte Marie, j'en sui bien esbahis coment vous le pourrez aprendre en ce
pais, car vous parlez bien a droit hardiement.
50 — Save vostre grace, beau sire, non fais.
— Par Dieu, si faitez aussi bien et gentillement come se vous eussiez demouree
a Paris ces vint ans, car vraiment je n'oy oncques mais Englois parler françois
si bien a point ne si douclement come vous faitez, ce m'est a vis toutesvoies.
— He ! sire, je vous remercy de ce que vous me prisez plus que je ne sui pas
55 dignes. Toutesvoies et pour ce, je sui toujours a vostre gentil comandement en
quanque je pourrai faire pour l'amour de vous.
— Et vraiment, beau sire, vous estes tres bien venu en ce pais. (*vel sic*) Et
par m'ame, sire, vous estez tres bien venu ciens.
— Grand mercy, mon tres gentil sire, de vostre grand gentilesse et courtoisie.

Beau sire, feustez vous oncques mais a Rouan en Normandie ?

— Nonil, vrayement, sire, je n'y fu oncques jour de ma vie, mais j'ay esté autre part en beaucoup de lieux, à Tours en Toureyn ; j'ay esté au Bloys, a Chartres et a Aurilians aussi bien.

— A ! Aurilians. Sainte Marie, c'est bien Ionis de cy, car c'est bien pres au bout de la monde, si come nen dit en ce pais icy.

— Vraiment, sire, ils sont bien fols qui le cuident, car c'est ou mylieu du roialme de France.

— Est Aurilians une beau ville ?

— Oil, sire, si Dieu m'ait, la plus belle que soit ou roial/me de France après Paris. Et aussi il en y a un grand estude des loys, car les plus vaillanz et les plus gentilx clerz qui sont ou cristianee y repairent pour estudier en civil et canon.

— Mon tres doulz amy, je vous en croy bien, mais toutesvoies j'oy dire que l'anemy y apprent ses desciples de nigromancie en une teste.

— Pas voir, par saint Jaques. Toutesvois, il y avoit jadys un Englois qu'estoit fort nigromancien qui est a nom Colyn T., qui savoit faire beaucoup des mervailles par voie de nigromancie.

— Sire, ce n'est pas chose creable, mais qu'il ne vous desplaise, car je say bien que n'y fut oncques mes estude de tel fatras. Mais j'oy bien dire que souleit estre entre les Espaniols mescreans.

Et pour ce, ne le croiez mie.

— Sire, je vous croy bien.

— Ore, alons boire, sire, s'il vous plaist.

— Grant mercy, beau sire.

— Bevez a moy, sire, je vous em pri.

— Vous comencerez, s'il vous plaist.

— Pur Dieu, non ferai.”

Et puis dit l'autre, quant il a bu : “Sire, grand mercy de voz grans biens et despenses. (*vel sic*) Grant mercy de voz biens.

— Il n'y a de quoy, beau sire.

— Si est vraiment, car se je vous pourrai jamais veoir en mon pais, je vous rendrai bien la grand gentrise que ore m'avez fait par la grace de Dieu.

— Ore, je recomande a vous et je pri a Dieu qu'il vous donne santee et paix.

— Mon tres gentil sire, a Dieu vous comande et vous donne bon/ne vie et longe.”

[315^r]

[II]

De parler entre compaignons qi demourent ensamble en un hostel, quant il se devent aler coucher.

“Guilliam, avez vous fait nostre lit ?

- Nonil.
- 100 — Vraiment? Vous, bien meschant, que nostre lit est encore a faire. Sourdez vous le cul e alez vous faire nostre lit, je vous em pri, car je vouldroy estre endormy, (*vel sic*) car je dormisse tres voulantiers, se je feusse couchee.
- He! beau sire, me laissez vous chaufer bien les piés premerement, car j'en ay grand frotit.
- 105 — Et coment le pourrez vous dire pour verité, quant il fait si grand chaut?
- Alumez la chaundelle e va traire de vin, se vous vueillez, car je ne me bougerai ja.
- Qu'il le meschie que vous en donnra a boire, car je m'en irai querre du vin pour moy mesmes e pour Johan, e par Dieu, se je puis, vous ne bevez mais huy,
- 110 — a cause de vostre malvaise voulantee.
- Vraiment, Perot, vous estes bien malvais. Je pri a Dieu qu'il vous meschie.
- Teis toy, senglant, hideus garçon, vilain mastin, meschant paillart, cornart qui te es, ou tu en avras des horions, que tu les sentiras de cy as quatre jours." Doncqs, il lui donne un bon buffe sur la jouue, ainsi disant : "Dieu met toy mal
- 115 — an quoy me respondiez vous ainsi!"
- Et l'autre se comence a plorer e dit :
- "Je pri a Dieu que tu peus rumpre le col avant / que tu t'en iras hors de ciens, ou bougeras de ciens.
- Par Dieu, il te feust mieulx taiser, si ques tu n'as plus de damage.
- 120 — Vraiment, je ne suffrerai ja plus estre batu de vous. J'amasse mieulx encore demourer la ou nul me cognoissoie qu'a rester plus longuement icy.
- He! Guilliam. Ne vous chaille! Je ne vous ferai ja plus de mal.
- Ore, buvons nous tost et alons coucher!
- Guilliam, ou alez vous?
- 125 — Je m'en vais amont.
- Beau sire, je vous em pri que vous couvrez le feu par moment, et oustez ces busses et tysons tost, e boutez les carbons e les breis ensamble, e mettez dessuz les cendres. E puis nous en irons coucher."
- Et puis aprés, ils s'en vont a leur chambre amont. Et quant ils seront la, l'un demandera a l'autre ainsi :
- 130 — "Ou est Briket le petit chien, e Florette la petite chienne?"
- Je ne say my ou Briket est devenuz. Mais toutesvoies, Florette s'en est couchee aval dessoubz les chesnes qui gisent ou jardyn.
- Guilliam, deschacez vous tost e lavez voz jambes, e puis les ressuez d'un drapelet e els frotez bien pour l'amour de puces, qu'ils ne se saillent mye sur voz jambes, car il y a grand coup gisanz en le poudre soubz les junx."
- 135 — Et puis il s'en vait coucher. Doncques dit il a l'autre :
- "Traitez vous la, car vous estez si frotit que je ne puis pas endurer que vous me touchez point. Et dormeons, par Dieu, car j'en ay grand mestier, a cause que j'

- 140 ay veillez toutes ces / deux nuys passez sanz dormir.
— Que, dea ! vous estez bien chaut, ore que vous suez si fort !
— He ! les puces me mordent fort e me font grand mal et damage, car je m'
ay gratee le dos si fort que le sanc se coule. Et pour ce je comence a estre
roignous et tout le corps me mange tres malement. Et pour ce je m'en vai
145 demain pour estre estufee sanz plus targer, car j'en ay tres grande necessitee.
— He ! Guilliam, que vous estez bien suef de corps. Pleust a Dieu que je fus
si suef et si nette come vous estez !
— He ! Perot, ne me tuchez point, je vous em pri, car je sui bien chatilleus.
— He ! Guilliam, je vous chatoillerai tresbien.
150 — Doncques, par Dieu, beau sire, finez vous, car il est hault temps a dormir.
— Mais huy, par l'amur Nostre Dame, toutevoies c'en fait mon.
— Ore, ne parlons plus doncques, mais dormons fort et estraingnez la chan-
delle.
— Guilliam, Dieu vous donne bonne nuyt, e bon repos a moy aussi !
155 — Quoy ? Ne dions nous noz orisons, si come nous sumez acoustumee ?
— Il ne me souvenoit point.
— Ore, nous dirons. *De Profundis* en louent de Dieu et de Nostre Dame, la
benoite Vierge Marie, sa tresdoulce Mere, et de tous les sains de paradis, et pour
les ames des trespasssez que, la mercy de Dieu, attendant ou paines de purgatoire
160 qu'ils pourront le plus tost estre relesseez de leur paines a cause de noz prieres,
et venir a la joy par/durable, laquelle joye Dieu, qui maint en Trinitee sanz fin
en cel eire delectable et nous rechata de son precieux sanc, de sa grande
misericorde et pitié nous otroit en la fin, s'il lui plaist ! Amen.”

[III]

- Mon tres cher et tres honuré seignur, ore, Dieu en soit regraciez, j'ayachevee
165 cest traitis al reverence et instance de vous. Et a mon esciens, je l'ay traitee e
compilee si come j'ay entendu et apres es parties dela le mer. Et se j'ay parlé
en mainte lieu oscurement et nient escienteusement fait cest busoigne, je vous
en supplie de vostre gentilesse, et tous ceux qui cest livre en remirent, de m'
avoir excusee, car, combien que je ne sui pas le plus escienteux a parler et
170 escripre doulz franceis ou romance, neantmeins je l'ay fait selon ce que Dieux
m'a livree grace, raison, sens et entendement. Et vraiment, mon tres doulz sire,
s'il soit bien a point a vostre plaisir, j'en ay tres grand joye et leesce ou cuer,
entendans, s'il vous plaist, treshonuré seignur et mon tres doulz amy, que je sui
et toujours serai a vostre gentil comandement de faire voz plaisirs en tous bons
175 poins et honestes, sanz enfraindre heure.

Et Dieux me donne grace, s'il lui plaist, que je vous pourrai rendre, ou temps
a venir, du bien et de l'onneur pour les grans biens, naturesses et courtoisies que
vous m'avez fait et mustree sanz le mien desiert, / et encore, s'il Dieu plaist,

come j'ay esperance de vous. Et je pri a nostre doulz Seignur Jhesu Crist q'il
180 vous donne bonne vie et longe, et vous en donne santee et paix as toutzjours
mais. Escript etc.

[316']

Among the linguistic features of the text we may note the following graphies : *que* (= *quel*) 5, 21, 24, 26 ; *jouue* 133 ; *busses* (= *busches*) 148 ; *junx* (= *joncs*) 159 ; *desiert* 213. *Louent* 186 is presumably a variant of *loenge*. Loss of final -e occurs at 10, 80, 124, 133, 134, 154, 191 ; it is added spuriously in *mainte lieu* 199. *Breis* 149 is no doubt for *braises*. Masc. forms such as *nee* 26, 27, *acheveee* 196, etc. are widespread. Adventitious s is found on *des* 88. Final -s is replaced by -z on 2nd-pers. pl. verbs : *ditez* 43, *estez* 11, 67, 161, 171, *faitez* 61, *feustez* 69, etc. Examples of the interchange of *la / le* are to be found at 18, 33, 50(masc.), 159, 198(fem.). *Qui / que* are also interchanged : 33, 39, 87, 131, 189.

Of note morphologically is the small number of analogical fem. adj. and pron. : 17, 39, 170, 191. *Une beau ville* 78 is exceptional (but cf. 82, 133, 189, 196). *De le monde* 75 is a graphically re-expanded form. *Ou* representing *en + le* is found at 15, 32, 77, 155, 206, 211 (cf. 81, 189). *Nen* 75 for *l'en* is not unknown in Anglo-Norman. Traces of the declension system survive at 12, 15, 16, 55, 63, etc. Notable verbal forms include *est* 87 (= *eut* ?), *cognoissoie* 141 and *estraignez* 180 (for *esteignez* ?). *Beneit* 1, 3, *meschie* 124, 129, and *ottroit* 194 survive as pres. subj. forms.

Syntactically, there are two examples of reflexive verbs construed with *aveir* : 53, 167 (cf. *estre froit* 161 and *estre chaut* 165). *Pas* is on two occasions attracted by an explicative *ne* in comparatives : 16, 63. *Ne* after negative *nul* is apparently lost at 141. *Point* is used positively at 162. Examples of partitives are : 122, 125, 211. We may note the strong pronominal form preceding an imperative at 157 (cf. 134). The interchange of sing. and pl. 2nd-pers. verbs is attested at 122. *Je vouldray estre endormi* 116 is of note, as is *je vous en supplie...de m'avoir excusee* 200-1. Examples of tense usage in hypothetical clauses are : 40-41, 103-4, 116-17, 205-6, Impf. subj. are found at 43, 44, 45, 47, 59, 138, 140, 171, 172. Indicatives seem to be preferable to subjunctives at 136, 138, 190, 202. Among prepositional uses we may note *Bevez a moy* 96.

Idiomatic phrases include : *il est hault temps a dormir* 176-77, *par moment* 147, *grant coup* 158, *sanz enfaindre heure* 209, *c'en fait mon* 179(=?). Lexically we may note two examples of *travailler* in the sense of 'travel' at 11 and 20, and the following items : *roignous* 'flea-bitten' 168 (cf. AND 662a), *estufer* (= *estuver*) 'to take vapour bath' 170 (AND 285a), *eire* 'place' 192 (AND 19a, 204a), *escienteux* 'skilled' 202, *escienteusement* 199, *franceis ou romance* 203, *naturesses* 'kindlinesses' 212, *gentrise* 'civility, generosity' 104, *horions* 'blows' 131, *chatilleus* 'ticklish' 174 (not in AND), *teste* 'text' 85. *mange* 'démange' (cited in Godfroy).

(AND) *Anglo-Norman Dictionary* : The Modern Humanities Research Association FASCICLE 1-7.

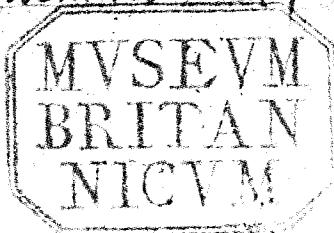
La Manière de Langage

British Library MS 3988

ff. 1^r-16^r

A nostre comencement Nous dirons. ainsi
En nom du pere fâz & saint esprit Amen.
Ci comence la maniere de langage que enseigne
bien a droit parler & estre doulz françois selon
lusage & la constance de france premiers au
comencement de me fait & bosognie nous pre
sons dieu deuoutement & me dame la benoite
vierge marie sa tresdoule mere & toute la glo
riouse compagnie du saint roaume de pechis
celestis ou dieux mette ses ames & ses esprits
de quoi vient toute science sapience gracie
& entendement & tous manieres des vertus
qu'il lui plust de sa grande misericorde & gre
tous ses estoiers estoitantz en estre l'ire ainsi
abuoyez enluminer de la consee de sa haute
sapience & entendement qu'ils purront auoir
sens narmel aperte a parlez bien soner &
adroit estre doulz françois quest la plus
bel et la plus grâces language & plus noble
parler apô latin destole qui sont du monde
& de toutz gens meulz visee & ameech nul
autre que dieux le fist si doule & amable
principalment a l'oreur & loinge de luy
mesme. Et pour ce il pent bi compatis
en parler des angles du ciel donz le grec
balkan & brancas dires est wonir tant q
bonne est le plus noble & le plus digne quel
tue q dit en est siecle & q dieux a ordon
nee deesse sonerame & mestre de toutes
majes creatures & choses qui sont desoubz
lui. Pour ce comence au declayer &
plaiement determiner de luy & des mem-

bras de son corps & de toutes autres choses &
 nécessaires qu'il lui appartiennent ou au contraire
 Et fait à sensibler q' l'homme est dessiné en
 diverses parties al maniere & qu'il y a diverses
 signes du ciel que les hommes come dit
 le sage philosophre & les signes ont grant
 signification & division de les membres suzdis
 quant la forme sera en aucun de eux acor
 dant au son membre & fachez mes tres
 doux ames que l'homme est vne arbie destour
 nee test adise lester & les jambes du quelle
 sont verseez conveignement & la similitude avec
 les jambes en divers. Ainsi est la teste domine
 que est la plus haute & principale partie de lui
 que est l'assemblée & lester de l'arbre & les chi
 nes & les jambes & fait a sonz plusieurs
 brancop des membres come la front les gen
 les yeux les pompeys les cilles les smallles
 le nez les narines la rendion les iouies la
 bouche les lienges les dens la sanguine la
 menton la gorge le col le devant les es
 quilles le blazon les navelles les bras les
 malhutes les coultes les mains les deis
 la paume les ongles les iornes la por
 triu les manches les costes les costes
 les flans le dos les os le sternme le ventre
 lombes le peyn le bras les chevillons le cul
 les hanches les queses la sene les genoys
 les les jambes le genet le assene la che
 mille les pieds le talon les arcols la platre
 du pie. q' les entrailles du corps. le censel.



le gorgier. le corps. le cuer. le faire. le polinom.
 le pessien. les bremz lestomat. les tennes.
 les neffs. la pate. le fel. les reignons. les
 jorres. la cressie. la pel. auquel les quiche.
 humentz est au sonoy. Celle. Ong. femme.
 mulecole. Ore ie vins d'oscar. les cho.
 ses necessans au home. et li manere du puster.
 ffar le signeur de l'estel. a un chmache. ou
 a un estrey. a un surlet ou autrement a
 un de ses surletans ou garcons. aye fairez
 hemz devant moy men gardesobez e ditz
 hemz au qu'il vigne tantost. Voulantez moy
 fr a die comandement. Et apes son estrey
 son ja au gardeobez. a lui diaz ainsi tout
 conrolement. Vnissij moy amr dieux
 tenu. mi vel oit dieux vous auance.
 mon resounz compaignon en priez hemz
 vuslez vous neno que le prie fait. Ois
 die. mon fr hemz comanda se lui hemz
 tenuest. tu. le fu en se vno demonez
 granez il sera en ruy de bonz et pomy
 ce ne vnu a pester myne mais auantz bog
 sur vre chemyn. Tenez neno q li plouf
 non il si dieux natt. mais ie paue
 bi que vous en nez la des devantz nido
 pomy achitez des tuncies a loepz de
 mon fr. doncques hemz le gardesobez
 a son fr. En vnte le hyst qui pent a lui.
 diaz tout honurablement en cest ma
 meje. mon fr. vplust bons. relais.

mon signeur q̄ vous plust il. Je vous que vous en
 nez à mon draper & vous achaterez de lui drap
 verges de fin étoilet sis verges de rouge. huit
 verges de peacock. neuf verges de sanguin &
 atant de violet & bromet & quinze verges de
 blanc & mis vous en nos a mon mestier &
 vous achateiez de lui dis aulnes de drap d'or
 & un drap tout entier de fin soie rouge &
 aussi q̄ent aulnes de blanc fustian & atant
 de fustian de grise vint aulnes de drap
 de jeans & atant de tele & q̄nt vous aurez
 testout ainsi fait vous le porterez a li gar
 de jobe & la le taillez testout en manches
 & tabardes longues & aussi en havelades
 longues & courtes & chapeons aux longues co
 rnettes & lyses & chancres by longues co
 uer. m̄ les blanches & le cul & aussi en mes
 me la gaine des chaussebles. Item des
 pourpoints toutes suisses ouies & corse
 tes vous entaillerez & ferrez & ce en la
 millon maniere & facon q̄ vous fairez
 en pourperez denier ou ordemener. Faut
 se que ie voul que les amides vint aulnes
 de drap de jeans & atant de tele soient
 gardes & estoiez pour faire des bouchants
 chemises & bras et q̄ vous en ordemenez
 vous q̄nt corps des confiseurs qui s'ement
 en demier & ignellement confise & q̄
 les confiseurs soient bons fort conseez siq
 nul defaute ou faussetee ne pourra ja

estre trouuee en leuy. besoigne quay il leuy
 sera gnt honté se les costumes feussent tost
 mis decouuez pour devant de bon ordre
 Et pour tant que ic ne smi moy en poudre
 de menage & diverses choses qui estoient
 a mon estat quant a pris a cause que ic
 smi de noulle venu a cest hostel Je suis
 que mon poudre les sera achatez cest
 a fuisse pmyerement pour ma chamb
 bre daes en espes et aussi de peis po
 mon lit et quant ils seront achatez Je
 vus qul sera temps aens le quassé en
 le poygnon po appuyer l'ostie & faire
 les aies de mon lit & aps deboutez le paille
 dedans les aies Et pms aps mon poudre
 sen ja pour achatez en lit avecque les
 appartenances cest a dire en continuance
 testie avec la sileme & les cotmes & une
 large deuy pur de luchian. dont un
 pur seu de drap de jems & lantje de
 tressore tele deuy blanketes une bender
 en une autre poing deuy orlettes d'or
 en long corsyn & en fort caneba
 chameur son pur la file il leuy fait
 chater pour la boute desse en pur
 avecque les tapis lankens qui es
 tables riches table po hanpes hantes
 chaers formes scelles les lucas chens
 fons. en mure pendant et pour la
 bretie napes roulées longres tasses

durent. gelles matres temps plus estiuelles
 canaces & canelle tout de fin durent Item
 pour la cusine dressonnes. pos durent puel-
 les noipies grualles histeres & leche
 fles de fer. ouffleres cicles & fiche pour le
 pris amfement pris. tenu drues assés
 de drus. Item il conment parlez a mon eur.
 desbunes. de me faire auon. vne donfaine
 pur le sdeis estoilez & partuzez & chois
 pur. sdeis estochez & pur mes chirotes
 enqve pur. sdeis on den nos. Aussi
 ie voul que mon prys des lichette conge
 le feste de pâques floreez pâcham qdient
 pur ma ppre bouché quicte touely de
 bon vin emaillé & ce du millon qdient
 estre trouue en tout ce pris en. dont
 apres ie feui un gnt mantepe. Oze ic
 vons monstres au coner on home chual
 chaut on chenuant se doit contemz &
 parler sur son chenu qui vident ale-
 bi long hors de son pris. Et pâmeje-
 ment le fait parler a son varlet ainsi
 devant son ale. Item en pâcham. qd
 apres prie. priez on pâpot. pote. en
 on enullmet virez ca virez volez deitez
 ca. mon fr. le bich a bens iendrois en
 tout quicte ie nie pris auancez. debile
 te doncqs. Item da menez mes chuals
 au forge pour feuz. silenc est mustez &
 qmlo enuent de bons feuz. forz & bien
 forges. mon fr. il seja fait et pris le

Varlet se hant du forge ou les chmibz & fait
 le comandement de son fr^e est sitost que le
 varlez p^ra iehenn du forge le p^ret lui pur
 le p^rat q^mun as tu fait. Ail vptement
 mon fr^e bellic^e. Ail s^rue tress^e a ferme
 ore du rost & les domez du fein. Tenuenes
 & du pum quay sitost q^m u^r desmee re
 me chmibz p^rai fuy mon chemyn & pur
 menture ie ne iehennai en piece a cause
 que iay biaudop astre en les parties de
 pumice. Q^mun mette li table rost au
 il est hant temps dalez donez. Touslan
 tress^e men s^r Et puis sen hant amete
 la table & de le couverc. Du nape & longee
 En honeste & aps il apporte les fileys du
 feel & les wijs un plume drame & les
 mette fuy. La table est puit sen hant que
 du pum non pas chmibz mais du bon
 pain leue & alie aussi blu & blanc donez
 len pent trouuez en tout le monde &
 aussi du dm repu ille raper & blanc
 En gaucons & amable abonez doncques
 demandez le p^rat de ses esmees ou
 dm. ame que lui plera tress^e ient
 en cest manere. Q^mun mon amy alez
 bons. & corsine & li demandez sera vante
 soit encore p^rat. ajo^r s^r il sera fait le
 vte comandement. A puit il sen hant
 parlez a le enusmez de le fuy deoy &
 garder. Tant son prest & en le men

temps le s' sen ha lamer & son douchnes
 lui sejouent les estreves & bursles de mult
 bon viande ast assous a la premiere cose
 de soupe des manevx sil soit en estre & sil
 soit en vuer des chous de porree ou de po
 uis autreque la laide ou de pource au p's ce
 il seja p'm de gnt chay come de boef/
 moron port & vial Et puis ale seconde
 cose ilz lui sejouent de chapon gel
 nes & pulles en gros pastees et ale tierce
 cose il seja p'm des omues petis porceus
 & porceleres porree & des enes greus her
 pous bocozes plumees & pardeez & bian
 cop des autres osculte fumage & au des
 rameys ilz lui sejouent de fumage pous
 pomes & des noes fait le s' p'm qui
 auja asses mangee. Instez la table rost
 et q'auj d'utren seller mes chinalz mis
 au des bons bin de morelle quant vous
 bourez le brinde dedans la bouché qui
 ne vous moede poynct et quant auys lun
 ne fait les amenez devant le hys de
 la sale car la ie montez au chinalz Apes
 d'out le s' se monte au chinalz & sensant
 chinalches s' son chemyn et quant il
 sera a borte de la ville il demandera a
 un perevele ou a un autre ainsi ast co
 mecte quest la d'ort chemy de Nupluns
 mon s' ie vous d'ire bons chinalches
 tout d'ort puy cest chemy & quant bon

i. Vendies
 Denrez ou diligez vous direz un poy deme
 dons en hiver et la vous trouerez deuy
 chemyns à une crois. Oulevez la qdis et la
 mayn droit et judeiez la chemyn au man
 Genestre et puis vous trouerez su
 vre chemyn en gnt baus ou ylrd gne
 cop des lanns sionne lez dit et pour
 ce mon p^r gaitez vous bi de eux car
 ils font biaucop de malz ayen si dieux
 vous condusst et vous donne benuys et
 ioye de quanque vous amez celle dame
 a dieu soiez vel oit a dieu vous comande
 Et puis les Je comence a chenter sur le
 chemyn la chanson quiersint duz amie
 q lmi plast Santus p^r he he la bone
 vnce sera cest amee pour les compaing
 nous qe leut ai donnee mon cuer mi
 pancee pour tant qnto sonz bons bu
 nons binons de est pancee qui es de
 gence de ces morillons chantons den
 cons cest amee est abz tunc lez
 dieu deuons La feste honurable ne bez
 a table se bons vns ny sonz he he les bons
 delitables sonz et amables me chantes
 sonz fait de fait les pomes gens si
 chez tel fois quant leur huches par nre
 gent dont vous sonz ils sont estat
 gy les cheches tel fois que pour mes
 aps sentendront quant ces iones fomes
 auont fait lez glenes batant en lez

maisons recouvertes lez grane trois ou quatze
 assamblez dont e d'ont binous malusme
 chasteine facheppyne plus ases en sejons
 Alors ilous a nre cuine en tressone estanche
 nous desimons Bone demeure e longue du
 jee a ces vne jons Qui ont liboier e libigne
 plantez dont ces vnis beunos Bone sot
 ils font manouys conquesitez les donz
 jous des ore chantez me sont que ces vns
 fejont ma fame huyter la flor tanguelle
 et tomber lez ples conchement / Et que
 q'la ja achence la chanson il començat
 a parler a son estamez ou a ses estamez
 ainsi disant mes amys il est en ples
 de mort tel que Il sera par temps mort
 Sonques respond J'ay au son si by
 geulment en cest manere Si venement
 mon s^r dons ditz tel que Donz di
 sez bon tel que Ditz brav Je parle
 bi qu'il sejor n'mely pour n'ons d'ester
 en ce ville n'uler plus auant nus huy comez
 vous est ibis ainsi come bons vñlez mon
 s^r J'ay au s^r Va devant e primier
 me hostel par temps Si sejai le mon s^r
 et sen hys tout d'or en sa voie e quin
 il sejai benn a l'hostel il dia tout confor
 sement en cest manere Hosteler hoste
 ler / Et l'autre huy respond au dehamois
 tout de deignement ainsi Quest la
 amys Quoy ne mas tu paillut respond
 dit au primier pole que ie rappelloi

Se le ore. Quoy ne me respondiez bons du
 prier feis q ie hys tai a portre. Je prie
 a dieu quil te peult meschewr. Du corps t'y
 tu mas fait icy long temps miser et tu
 fais bñ q il ne fesoit si gnt frot cest am-
 nee come il fait a plement car il neige greffillie
 & gelle si fort que biaume est aussi espres
 en gelle come la laine de mon pieux par
 quoy je su bñ que le glas du gelée ne se
 degelle a en piece. Querez la porte rost
 & laisser me entier aens ou angement le
 le depecezai trestout par la foy que ie doy
 a dieu me q uo se en bins. Ne biaume foy
 ne vons coruoy pourz oisez ai ie donc
 ques lofeler sei vant bñ hystrement pour
 ouer le perte et quant il la ouerree il le
 regat aussi luy disant. Omme ayrie
 q amyn estez bons la. O il del ne me pens
 tu beon. Ne q amyn non tressouly my
 ne vons desplayse car vraiment ie ne
 aurois pas q vous y fustes & biaume foy
 se my pien mespris on mal fait emb
 raud pardonnez le moy car ie lamente
 jai bñ & q amyn ie bons empri chement
 come ie nassie gndement en vons ne
 somez bons mot ale nassie de aens de
 ce que ie bons au fait car ie su bñ sil
 ensent pien il ensejont bñ nassi &
 aussi ieu auoi mal geer de luy agor

amy ne vous pouriez de cela ay se dor me fai
 tez bone compaingne ie nen perte lez au pary
 mon hement mon tressouz amy ie dons feai
 tressone compaingne et se dons amillez pene
 q ie pris faire q sont a vre plaisir ditz le moy
 et ie le feai volontiers a tout mon pooy cay
 ie sui a tout temps feai doce en d'autant abje
 gentil comument Oze me ditez hoste
 lez que dons de bone hostelerie ciens chil
 one si diens mar bone et honeste asses pons
 lez q il lui plenst estre laiger ciens Oze
 il pons a redonques resport hosteler en la
 maniere qu'enfuit venez ar le biam fne
 aucque mon et ie vous monstrez au mante
 nant la plus belle et la plus honeste chamb
 bre et mienly aumee et chare de fay draps
 doce et de soye q bons vistres aucques mais
 wyr de ore die mais pmyement ie
 menz nai que le la claf de le hym pons
 ouer le la feme et puis il se jement e ont
 le hym et son est enqur liens et dit a lange
 ainsi Oze regardez et chardez tout entour
 a l'entour de ce chambrez comont il dor est
 odis truyement fte il mest odis qui est
 esbn myeillie qestore a mon grec et vne
 autre chose aussi me plesz bi et la chambre
 est sibn et honestement conaice des bulares
 et nectre des ponces et pbyttes car ie puse
 q il ma pente des ponces ne des poiles ne dan
 tre d'vn rason il fne a dieu le geon car ie
 ne fais fort q vouserez bi et aisement doe

gez ciens finant quil en yu jut cop de pas & des
 soirs mais decela ne vous chuse celi ient au ordene
 nee tressor aportez de les poidre de las yes &
 levens que ie fiz piece de mon subtil engin
 comen que ie ne le die pas pour nulle bo
 launce. J'ay mon conseil de monsieur en
 core myt dom se loeger bens plement. Cela
 mons est myt icy agist. Il durement
 mais ie sui bly adue a cause quil demeure
 si longuement icy au temps q'il me perte de
 lui il n'est plus lomis q' trois lieues de cy
 Et fauez dons bien domques quil devant a
 myt sans faille. Il s'ye il dien le deon dep
 dieu domques ie mey rai a pulletto pour
 achater des chapons pulles aues & dro pe
 tie ordeals fumages pour son spei hosteler
 a sonnez ie te pri prumeurement q'tu somes
 couper de bons & me faitez un bon feu icy
 il fait gne frot et puis lez faitz sa voie &
 quant il devant la il demandera tout ainsi
 Rien s'ye come faitez bons de cez
 Belle dame pour qut bly me domques vous
 deuy. Nel s'ye q' vous domquer le deo plement
 quant bly me costera ces trois aues de la
 nece. Ome vous me domques dis domes
 ays ans cez trop obiect bly po la mortee
 Sainz vous q' vous feiez vous me dom
 quer pour ces trois moulades de juve
 noef domes car ils sont bly bons gros
 & gras & ie me fais fort q' vous ne man
 gastes ventrees ne manistes du deuy
 ans passerz du nullome quels ne sont

Oyez regardez bien s'ye coment ils sont tout
 lampes du sommeil des le le bœuf bœuf mais
 vraiment vous demandez trop plus la mort
 dieu bœuf s'ye se le enfeu bœuf le enfeu eb bœuf
 ou matinée pour messies les anes x d'ore
 ne choiez se bœuf bœuf Il ne bœuf fandia
 la anes mey etay le bœuf enchoi bœuf a prud
 mot bœuf plus sonnez Oyez moy ab
 mot que paiezai le plus ma for icel anes
 utant pour vœus ou autrement le n'audi
 pens Si dieux mait vous estes le plus ch
 home ou qui iay marchandise cest amiee
 etay ien aurai aussiens trois aussi bon
 mes come ils sont pour sept demies mais
 il ne peut chalouz ay un autre fois le ma
 usquel meule plus saint pol le fait bien
 q'non amez si bœufs de la perte en toutte
 ce ville car ien sui etam q'vous ne distes
 auques mais du millions anes qu'il ne
 fait bailler et auques et leys en me
 ilgent et adieu vous comande relax
 dieux vous condamne relax Adieu qui
 vous gert relax A bœuf s'ye relax
 dieux soit garde de bœus Oyez dieux
 vous donne santez et paix au auques
 au auys sen bœuf a lestel pour appailler
 la viande pour la soper de son f. Et q'nt
 il sera venu il fera mette le pot sur le
 feu plane domine et q'nt il comenceja
 a bœuf il bontea les anes dedans le
 pot pour estreunder Et p'me il les des
 plumea ignellement Et tost ap's q'nt

les amja ainsi desplumee il les decoupea
 les culs & bouteja ses deis dedans les corps
 & onsteja les bodeus & toutes lordme dedans
 & plus les lantja de brume bin & honeste-
 ment et aps il les bouteja sus une hache
 pour poster & quant il sera tout fet & asses
 hostee il les onsteja de les haches et p cel
 temps sera venu le fest a son hostel lors ven-
 ja la dame de lhostel ou la dame sellez & dya
 en ce momeje a p mons. vous estez tres
 bin venu rel ore avon p dieu sainz venu
Si j'ay tenu dans aliqne h[abitation] en mission
tud p[re]mis du jesabis voul[er] amy bin die-
 venu. Dame comeut bons est il rel ore
 dame comeut fairez bons rel ore sic d[omi]n
 ma dame comeut bons amez bo p[re]teree
 depuis que ie ne leys vi m[ai]s. a jeson mon
 s[aint] dieu mercy & la vie & menu que ie
 trouv[er] bin en bonie fantez du corps voire
 ment ien au gant iore he mon s[aint] il va gant
 piece que ie ne bons vi m[ai]s. dapement
 mame bons ditez greite ore belle dame
 me ditez bons nanez bons poingt des
 belles fillettes come bons foltoes moy
 avon s[aint] fil bons plait ien au deuy es-
 belles restes & gavonsment entailliez
 du corps & aussi gressles q boz les poingt
 empounez entre boz deuy nanez he
 me fairez bons devant moy tost cel
 les fillettes cas ie ne destendez alia de
 de mon chival auant que les amur ven

doncques viennent maint les fillettes ou p'sence
 du s'. fait le s'. ces sont les plus belles fames
 & incely entailliez du corps et mest une que
 n'y veu pieci & plenst a dieu auceque heue
 demonians a mon amoyr de m' ne les domi
 poi de lor & de largent & d'urges bus & chateux
 asses doncques destent le s' de son chival
 demandé les noms de les fillettes & dit ainsi
 mes tresdouces amies comeut auxz vos a nom
 et doncques respont la plus veille pucelle
 & dit ainsi mon s' sil vous plast uix a nom
 Isabelle p'me dit laudie mon s' lau a nom
 margarete ore ie p'm a dieu q'nt cordame
 fce de b' faire Isabelle v'ne et v'ne q'el dit
 venez a moy ma p'doulce amie h' diement
 car le b' bon p'me je ne v' feja la dedi
 laym'e aus doz fey li s' dieu plast de b'
 & de lomey voulanties mon s' a v'le conti
 dement doncques fait le s' atole & doulce
 ment b'usser la damoiselle en la bouche &
 p'me il si dit gracieusement de bon & f'rement
 auz par n'mere damoiselle les roles
 g'reusement auz n'mere doule & gracie de d'
 & de comtoisie plu'mousie a qui iay donne
 manours car de toutes les floures mon
 se bons ester souame a mon grec come
 la rose entre l'lie floures velo q'el dame
 gentille de pomptartre en bons iay n'm
 tente ma cuje & n'mo & tente plaisir
 ie v'gencise come de toute beantes la flor
 Et p'me le s' li mene par la man d la
 sale & li dit ainsi Damoiselle v' soupe
 sez auceque moy fait mey mon s' a

doncques il appelle son viret par nom ainsi luy
 disant. Jamyn est mie Empereur tout pte encors
 Oul mon frere vous soyez quant voleplene
 fait le frere doncques et si jegurt tout enmon
 Et dit que deu encors est la table a mettoe et
 sy comence pour estre mappo des sonbrie
 Es siegeans ainsi lemy disant au ille semayne
 A bone sort mose tout deuy relacie Je pte
 a dieu qul vous pust meschon du corps come
 Quant vous fait depuis que le veuer tenuis doy
 ne faitz que songer et muser entrez la table
 tost et apertez nous vne fois abone deuy
 clayer ou deuy blant ay iey au chyant
 pris et aussi resgut faij avecques le pte
 comandement mon frere et quant il aya
 buz la damoiselle aussi il li dia en ce manege
 xame venez vous en aux vous seyez ioy
 devant moy en vne chuec auen pte fil led
 plaste mon feau par dieu si feriez venuies
 mon frere et pme aps le frere la damoiselle feaut
 seur de moult bone vnde a sonper doncques
 le frere fait tesson cheve et gitez desdint
 ainsi li disant damoiselle que cheve faitz
 vous auen pte tesson cheve dieu et
 la ore de jurement ient au grun ioyt aij-
 uns mestres aussi le venz come amouie
 fame de monde et plaste a dieu que eresse
 de biande que vous portez plaser feaut
 dieux mon frere est apes dieu meys
 doncques dit le frere la damoiselle Quay
 ne mangez vous doncques pas dieu si
 fais ie mon frere joye meys ore il pena

Et si tost qu'il auoit souper le signeur comte
 ceulz auomasser la demoiselle a poys auoy
 son amoyz a la pucelleage q'il fait poys le gnt
 bresier auoyz qu'il ena enus li le plus gra
 cious, et le plus amelors chansoy qui peut
 estre en tout le monde en ce manege dist
 en autrement chantant et oyensement
(cavat p. 11)
 (Tres bonz regart amerousement et en tant
 de douleur feut mon cuer entier, quant les
 miens veuls te peuer tacontez que tout
 mon sang me fuit, et tu trait est tout
 me plus tenu gtaons atqut q de deoy ic
 ne me pris fousles, et tu poys tant si en
 mon cuer poys qaut que pensee ne ten poys
 iort entier, et tel plus est fait dedans moy
 entier que j'auus ious tu n'en spes jenato
Et die fuit dantis dulcissime, et quant le
 saincte achene sa chanson il parle a la du
 morselle tout conuolement en ce manege
 aqums eme au le bon et pfaitemment fait est
 chanson, Oul vraiment mon frereson a
 pury aux bons menez en ambeec tout le
 cuer et le sang, d'aucques part le saincte
 par la main et suffiance entierement de la
 poys des ditz corps qu'il auaya li autre faire
 q'il d'auoit fadie ainsi d'auant auame
 ne vous pme ioy a mi compaigne et say
 ce le vole assiance est pme le saincte
 et esion entier auqune auame q tout ma
 menez de place des ditz li estatements des
 mes sembaor et il donne a dame de l'ostel
 et a tous ses frerez chambres et baus

selleres blancop. De biens bons cest a sainct
 aladams de l'ostel et uns tons ses sieges en chum
 bries et busselotes une esbelle ceinture de
 fin soie vert et chistin des siegeans trois
 druzz et quarte deniers defflings et chistin de
 les busselotes une bonys de vert veluet bny
 appareillie et fort cordeille de fin soie longe
 et dousze deniers defflings. D'ouques le f^r
 sume et toute la gentille compagnie avec
 luy festoient et estoient atant que cest mes
 mises et le f^r comende ses estuies et offices
 de laporter des especes et de bone etost ap
 viennent auant les estuies et offices
 ou qut cop de cierges bny ente enlignant
 et la pectent de testelles estuies sans des
 pieus ptiens a guse et autre des paga
 zins restont plaus des tons autres des
 especes et plus ilz aperoient de tisone et
 noire et des bons vins cest a sainct vny da
 jet dimaille et blanc fin de vno dancres
 come de vny de grece que gas montose
 finet degnage aux mous et en clair
 et preument et de tons autres vns et leu
 pent auon aussi des autres vnes come
 de dys et pompe et blagore. D'ouques vnu
 neut auant un p^rence du f^r se conconço
 et clapones en long actelles et clapons
 et se concrent acorne et clapones effet
 a vns le f^r en ses estuies se croient
 silencie dansent boument et chantent
 de bianc bries otur assy insques
 amys iust et quent ilz sejont tressent
 si entrelissez et labquisse ne se pensoit

u. acel temps plus longuement dimer. lors le s
 dira a toute la gentille compagne hys enuy
 ainsi. ay es amys il est hante hemye de nous
 alez coucher mais hys car il est deua bi p
 vne hemye ay my mort e poy ce alons rost
 coucher car se ie fus couchee ou lit ie dormis
 tres volonteys Et J. ay my mane a
 chambres si dest. lusq; a deuestez e q' elle
 soit tout p'st encontre ma hemye poy alez
 coucher avec moy Et puis venja le s e se
 concheda uerque samie en t'sq'nt roye e
 esbatement e se comence de li bisez. G aco
 ler e boire on de ses bras desdins le cul
 si fait t'ostout li constoicie e maniere de esba
 temeint e desdins qu'orient au mart faso a
 sa fane espoes Et quant il venja au ma
 triee il soi leue a sus bi matin e appelleja
 tantost son chambres par mon amys q'ay
 des tu mon il mon s Que fais tu d'mois
 ay s'il rons plust ie sonuge Venelle ton
 depas le deable e depas sa messe ou tout
 quey ne nus tu jeneisse bi matin come
 le te comende biesdu mon s par mon
 fement si fesoie he tu mens p'usment
 par my la gorge quelle hemye est il mani
 tenoit mon s il nest q' bi matin entore
 a deniques ne pent chilouz vel adou
 ques ie ne fais compt vel doncques
 ie ne fais force vel Il ne men chaut
 doncques ore leue ton vel ore leue sus
 tost vel ore sondez dans le cul rost
 e appellez il dimer Et puis le s di leue
 e se veste de chemise pomporat e de ho
 pesante e soy chalise e si tost quil sera

tout vestu & appareillie il se tue al xme astre
 de la chymbre du les fenestres & la en d'or n'en
 lui donne de l'ameur a laver ses mains & lui
 apporte un longe de les essuyer & la dame
 de l'ostel vient auant disert en ce manere
 monsieur comeut auez vous fait a myt quelz
 comeut vous auez vous portez a myt quelz
 en d'ameur eyle meyce mais ie fu en por ma
 lades car i auoi trop bu encellez a myt
 j'auoy bussiez et mon pigne q manne me
 pourra pigner la teste & comande mon gar-
 con qnt face abusier mes chinalx & puis les
 donne du fum & des amenes & ordenez q
 nous ayons de bon poisson asses come des
 anguilles lampreis lamprees sanguin
 fraisse & saleie & aussi de carpes breves
 raches solees plan turbelles lices leyrge
 roye gelet et de leyrge mestantes hu-
 trige poisson saleie placens esomeis
 cabouet gourou mullet mullet de mer
 esplanches estoizies & vypiller tau-
 rendal gelat qmme jasme & chien du mer
 poyses avec la puce distreustres lez
 hureys hureys blanc & dor aussi bespilunge
 & memis & d'autre poissos du mer & du ja-
 neq asses & fitos q tout ce viande sera
 pte le foyen ja feon & table aps qnt auja
 lance ses mains & aps manger il deman-
 de ja a la dame de l'ostel son chevyn de
 tel lieu tout ainsi dame me ditez vous
 quant en val de cy a temps auuy f' sil
 vous plaist q s'ya que die lieutes bien pe-

tates Montrui ie y estre encoré mort Ois de
 mon fr̄on aise Et plus quans bi y a il ditz
 que ois Anjilius a quel chenuy tenzai ie ay
 f̄. bons chnus cheiez tout pmy la ville de
 temps q̄s la poete sainc lode la boderisse
 yes e quant w̄ serez en demy lieue de la roh
 y trouuez dux chenuys une crois e une
 biseute si phndres la plus gnt chenuy e veut
 q̄ la qois dans le jey uli manz d'oro Edouc
 ques bons w̄ trahisez q̄s la force de chay
 ques et quant qm̄s y serez rost aps vous q̄
 cheiez une ville que nez appelle Blanchefel
 en les prees e doncques vous enuez die
 hante chenuy de Anjilius tout d'oro de
 mort w̄ signe corne puyez i a feignier
 se non que vos vñller. Oze ouster la table
 e alors a chual rost car il seu dñ p̄ de
 mort auant q̄ nous y serons legerz donc
 ques pme le f̄ onge a dame li distit ces
 nos Dame adien bons comande vñs si
 le p̄z a dien q̄s dor donne bone vie e ton
 que e de bi fr̄ie en tons dor fait e gant
 my mon f̄ de dor grano dor e compoies
 vñl ore. Et ie bons remeia mon f̄ tenu
 tement de cuer des tons les bns
 bontees e nacnesses que bons menez
 fait e montree depuis le prme temps
 que dor ai comu amplement a dieux me
 donne iste fille plust q̄ ie le bon puy
 par jendre en temps auant. En vñ
 ment mon f̄ ien sun esbn temz. Onques
 le f̄ Temoistre a chual e baye la fillete

si compaingnez li bailli tient france a paix
 pour ses despens li dit constement mis
 ma tresson lez amys et tresschere compaingne
 a dieu bons mques n'jeris tay ie men n'ai
 pour estatue a amilians en por do tempo mai
 le nauestre au grumes et plus los senchus de
 sij son chevun et quanc il venia ou my lieu
 de la ville il demandera du prieur quel
 voudra que mon amys delo Gian fye
delo Gian filz quelle heure est il nument
 nant delo Cest ce qui sonnez de loz
 leges mon seigneur mart ie ne vos fait delo que
 d'icelle multe jamez en quil a sonnez die delo en mesme
 tay il ya en die hem & passe depuis qm
 domine noest Gian filz a dieu que do gart
 mon frere au dieu quil bons domine bone enou
 que et bons benet sunt a gart de tous villes
 u bons denys au bon autre manege de pley
 de piercille come des labours a demeures des
 mestres du le closier du Jardin a un po
 son - qm fone les tress en les fosses en cest
 manege mon amys pay ce foy qu'au t
 es tu gaignee ce semainne pay mon se
 ment ier au gaignee tout ce semainne po
 fons les tress et fane des fosses en psons
 en mapic et mapelle u xij de mes des
 perq pay la mort dieu cest un petite
 gre me direz bon lez amys qu'auz hoy
 gaignee voulameis mon gentil dom
 pagnyay pay entrez tous les arbres de mon
 Jardin de les plus belles entres qdij beu
 preta ore ils començant a gerdis et
 aussi ian fonec du armois jardins et elay

tresson a porret plantees des choux porree psele
 & oing & des autres viennoisies herbes & plus
 entore un lai machere & estreves done les ve-
 ties jorneys & toutes les ruches des fruches
 & espes. semee de blancor. secondes semain-
 res en aussi blancor de belles autres por-
 tam de divers fruits come des pommes pions
 prunes diverses & mers et ie les ai pris tout
 tresson appuyelliez & entores ces viennoisies
 le semainre q. n. Semainre de pentecôte. mais
 le vingt mai la deuant semainre que fut
 decembre auant & en estoit vintiquatre
 en brevet. le mon amys ne sans chaste-
 cap il faut gaignez ce que ney vont
 mon en u de huy. le stouliez conuent
 toutes les santes s'asment en chaste
 mon amys cest a cause de le soleme-
 fete q. sera demain. Il est temps de nous
 alez prenges. En fait mon ~~de~~ ore
 fait mon soncques ilo se vout a l'estel
 poy. d'orez ensemble & quant ilo se-
 pent venin ilo se port oly des chous li-
 se en grès & brie ensemble & aussi
 du lait & des ays avec les coquies lan-
 bin & moeilles & ces denys mesmeus &
 long si grandes de leys. Gaudie quels
 le engloutent sans mastres & cause
 des amours plus est leys que fam &
 quau. ilo va import estre mangier
 ilo mejorat les es aleys mastres dont

que les uns iugieront sifert, n'est debiles, et pr
 imierement ils se estoient etant ensemble
 qu'ils combatoient droitement ainsi q le plus
 fort abattra le plus feble au cheval. Doncques
 dit lui vilain a lange ayons mestre est plus
 ejamur n'est le cheval pour ce nous les de
 ptois et nous assurons nos forces aussi
 manege de luter tang lui sera abattu
 que l'uns nous ore me n cap il me fait
 alez au marche pour achater un manteau
 et un mantelet aux armes pour mesme ainsi que
 mesme le cas pencheoit en quel iay cheva
 plement. A dieu bon commandé. car ne
 mens pas. Vne autre manege du par lej
 ffort le boulengier qui batait la buse et desoi
 ure la gros de l'armure avoit de ses doig
 tons ainsi priez dame la sieur de la roche
 de l'anne et priez le bon dieu de la misericorde
 p.elle et le meurt pur le fait car il me fait
 encore mult faire de peine et pur nous ou
 fels de faire du plement pour le depeches
 mons de creusac car l'endemant de faire
 apres sera l'entrement de ma mesme
 dame madame de Guivres que fut sa
 compagnie et trespassa au festin de la
 abacion sainte croix devant passer
 au festin ie vous emprune bon desplaisir
 car l'urement ie ne puis plus espousier
 de l'anne et cause q je sui blessee en les
 mains. Et comment fus tu ainsi blessee

meschent pullast qm tu es. Ornement fñé.
 s'icomme ic me mñt au lëspere de deuy manis
 avecque vñ de mes compagnons il me
 donna vñ ytre horizon sñj la man d'orite
 qñl le fendist pmy la paulme iñsignes
 Il es Oze diez bons la proef qñl nest
 pas menconge ce q ic veus die may la
 mort dien tu sis q sol amsi mes de
 ten blesser en cest manere. Maintenant
 ic ai gnt bpdigne de toy & tu ne me
 pens nens proufitez. He mon tressor
 iustie ne bons chale car ic deu seru. mon
 vñ antge en nom de moy desques a leure
 qien seru tout quer. Et saiez bons biey.
 que bons le ferez. Ois deu ne veus soniez
 de cela. Oze il pena doncq. ma sortes
 voies vñ sñj vñ man q tu es amsi nau
 fice car la felice est vñ psonne & pilouze
 mauv ne pour qnt te jecorfoit vñ car
 fil dien plaut tu en deas vñ que
Oze vñ antge manere de pley des m-
chans dit vñ mñtant ubi de ses appu-
trz tout amsi Guissu ou es tu mon p-
re sñj suis qd vitez a moy. Selot dien
mult de uagres iustie le biey a bons.
On as tu este depuis q tu te lenas je
enisse este au marchee pieca se tu n'es
Et tu fais vñ que ien fil vñ matin leue
on multinee pour alez au marchee il
veutje mes danrees. qialle semynne fait

toi misé car my p̄d̄ h̄rit mon malheur
 a cause de ta folie. Aten p̄me le bon
 fanez b̄n que luy este empereur ento b̄z
 besognes s'comedons me comandassez
 heissoz. ke tu mens fâusement enas
 este amie que tes filles portaines e
 mulejelles e p̄my ce le p̄ri a dieu q̄
 de mille fâcaille. joillie p̄me tu avoy
 le vit conper d'ay le p̄t b̄z q̄ tu enas
 mille extrame u desjameys se tu ne
 vno b̄tissier tel fâche. p̄y dieu mon
 fr̄ le nr̄ fu p̄te. Sanc vne ḡce mon
 p̄au tey toz depy le déable ~~intendre~~
 tien tē cor q̄ u te dominez my vtel
 p̄mplez q̄ tu penseras de moy leob
 as qu'as vnes moi coor se tu vnu
 cap le te temz conent ~~estors~~ de
 my bonz cor ~~ut ac~~ p̄mes lez lez
 ne me parlez nā plus a cest p̄s. p̄y
 p̄il quez pompa ames d'au se tuz
 le feirez tuz en amez des horions si
 b̄n appes q̄ p̄dementje doz pensers
 de moy deoz nos gois p̄maines my
 aries se doz Guilles cap lez
 lez lez temps la condamne hevyn
 es dons misere le lez op̄ ento
 b̄nes ensuppli b̄mblement. de vye
 ḡce que lez me b̄mlez p̄domez ore
 ¶ En mens fâusement p̄my la gorge lez
 b̄n q̄ tu v̄ suis

mal valent eis. si l'ien plust ie ne mesplirai
 ja plus enies vous. Oze au rey tuz ie te pdomie
 Gantz iuy mon frere vngques lapput sey
 Vint a londres pour vendre ses armes
 de son maistre et la vienement gnt cop des
 gens de tress pust de les achater. Et lap
 ditz leuy dit tout conterdement en cest
 maniere mes amys venez vous ciens et ie
 vous monstrez de aussi bon emp come
 vous trouuez en tout ce villes et vous en
 amez de aussi bon marche come mil
 autz. Oze regardez biansy come
 vous est vus ~~et~~ come vo^z plust
 il deuy de bon escarlet violet sangly
 tanee et de tons autres coulours q n'en
 peult nomer. oze estiez de telz vous ples
 vngques d'vn autre q me costera tout
 cest leuy escarlet. Et l'autre d'vn autre
 que vous me domurez deuy nules festes
 d'vn il deuy mon amys mme sance d'vn que
 ie vous endommerai sans enurez de moy
 poy tout cest leuy xij francs mon
 tressoulez syc il mest done q uoyez
 tressoulez et vullant. voullez d'vn q n'houe
 d'vn autre poy tout vngement vo^z
 me dommerez d'vn franc mon poy auo^z tress
 tressoulez ie ne vous dommerai plus et
 encor il mest done qul est d'vn cheveux
 tressoulez non est biansy mme vo^z estez
 d'vn poy trop tenant et poy ce q d'vn est

perance q' vous achaterez de moy plus de den
 rees ou temps auant vous laurez de la peine
 q' me coste cest a sauoir 200 francs mais q'
 vous me paiez bi maintenanc moy auant
 ne vous souciez ie vous paierai estoit tel
 que plust signe vous me donnez tout le
 painement usques a la goulé duost a venu
 ment s'il ne vous desplaise ie ne le puis
 faire se non quil me servent gnt chepisse
 ment et empirement de mon estat laquelle
 ie patusse bi q' vous ne vouldevez mye de
 fayer q' ien sens empirement chepissation
 empiree a cause de vous cay ie doi us
 gens un pais grantes sommes d'argent
 q' iay empruntee de eux usques a noel
 prochain auant et sur ce ien sui obligee
 et tem par une forte obligation fante
 de bonble de le paier a mesme le fest
 Et se ie fayai doncques de mesme la
 paument en partie ou en tout ie me
 fais fort q' ie serai mis en prison et ien
 suis etam q' ie n' serai mye dissolue
 nant q' ien amal estoit fait greve Et
 pour ce bau s'il ne vous empriant
 chement come ie puis q' soyne baullez
 paiez moy argent tout ensemble ore
 a ma gnt necessite sans plus longue

Delaye et bauement fire icelz apsterai
 Vne autre fois voulanties desjches atant
 De moy amys ne bons corouez punit car
 Vous endurez ore la mortee de largement
 Et de l'autre mortee ic me obligera a hys
 par vne obligacion de bons paer bien
 Et loylement ou feste du saint pierre
 L'annuelz pcham qm venra. Enue boy
 bien i' agreeerez doncques I'en sui bien
 agree mais toutes vnes ramere my
 de l'autre maintenant a ma gnt bo
 sougne q plus en delaye mais depuis
 quil ne peut estre autrement il me co
 ment d'attendre le 10^e de paement
 Et quant l'applicz enama estoit achetee
 C'acordee auquelz luy il luy dira tout
 ainsi mon tressous amys maintenant
 ces amrees sont les yesz travelement dons
 les amez de mesme la prie q ie les achatai
Et ore, Si dieux matess les amez de aussi
 bon marchee come ils me costent /
 pmez dor bus et le pri a dieu quil vous
 endonne atant de profit et enqesance
 come u voulrois enaoy filz pensent
 les mense. Ore gnt mri de ore con
 rofie et se ie vnerai au deuy mis son
 ne pdelez na mens de ore bus fait aw
 fil dieu plait ie le vns rendrai bi

* * .
 Siens fiz a diens bons commandez mon es-
 donz amys diens bons en ipz fait garder
Dyn autre maniere du peler dit dy
 Garlet a dy dubber. Ses veils draps
 en ce manere q'en ioy en pous portent
 fust jumprz en buncop de liens &
 aussi pom. la gremouz partie les cou-
 ples sont decoufeez & pu ce ie bons puz
 chement q' lez lez millez adubber. En
 honestement pom mon argent &
 me ditez q' millez bons en moy puz
 Siens mey amys bons me donnez sic
 temers uant mot ces drayments lo-
 nage dyoel dy bant tant ence denys
 heres & lez bons ferai q' b'z u pente
 Siens fiz ainsi q' bons bons temez dy
 agree ore il purra et le bons empes
 q' lez luy dimanche pichim q' uient au
 dessamiesz celz ien u gue mestez de
 puy dien il ne luy fandra u de men
 puler plus ces sil dien plauist il sepa
 doncques tout puz q' b'z aye planter
 ne bons soncier q' dyn autre maniere du
peler. dit dy garcon a son compag-
 non mis laisse tenu a le compag
 maistre & battez a estoquer a tes
 chmellez ces fez rois maistre te nouent

7) 書簡文範

Epistolography

I. Text

BL MS Harley 3988 ff. 57^v-60^r

f. 57^v

① De matre ad filium scolarem

Salut avecque ma benicon, treschier filz. Sachiez que je desire grandement de savoir bons novelles de vous et de vostre estat; car vostre pere et moy estions a la faisance de ces lettres en bon poynt la Dieu mercy. Et sachiez que je vous envoie par le portour de ces lettres demy marc pur diverses necessairs que vous en avez a faire sans (58^r) escient de vostre pere. Et vous pri cherement, bean tresdoulz filz, que vous laissez tous mals et folyes et ne hantez mye mauvaise compaignie; car se vous le faitez, il vous fera grant damage, avant que vous laperceiverez. Et je vous aiderai selon mon pooir oultre ce que vostre pere vous donnra. Dieux vous doint sa benicon, car je vous donne la mienne. Escr. etc.

② Responsio

Honeurs ou tous maniers de filialx obeissances vostre chiere benicon humblement empriant.
vel sic: Ma chiere et treshoneuree mere, je me recomande a vous en tant comme je puis ou tous honeurs et reverences de vostre treschiere benicon, humblement vous ensuppliant. Et ma treschiere mere moult souvent je vous enmercy de ce que vous m'envoiaitez et ne m'avez pas oubliee. Et s'il Dieu plaist, je metteray tant ma diligence et mon pooir d'apprendre que dedens brief temps vous en aurez grant joye de moy et voucherez sauf tous les despens et costages que vous avez despendu pour moy. Et, treschiere mere me (58^v) vueillez vous recommander a mon treschier pere et saluer bien souvent de par moy tous mes freres et soers et tous mes aultres amys et compaignons. Nostre Sire soit gart de vous et vous accrese en bien et honeur as tous jours mais. Escr.

③ De sorore ad sororem

Salut et bou amour, treschiere et tresamee soer. Vueillez savoir que mon pere m'a enprocuree un mariage grandement encontre ma voulantee, car c'est une leede personne et pour nulle chose de monde il ne fera jamais copulacion entre nous. Pour ce, ma treschiere soer, je vous pri chierement, comme je m'affi de vous, que vous en parlez a vostre sir qu'il me vueille envoier un de ses chivalx, que je puis demourer deux jours ou trois en vostre compaignie tan que sa malencolye soit essuagee et abessee, car il est forment coroucee avecque moy pour ce que j'ay son comandement refusee. Ma treschiere et tresamee soer, je pri a Dieu qu'il vous doint bonne vie et longue et gracious fyn. Escr. etc.

④ Responsio

(59^r) Ma treschiere soer, je vous salue par maintes fois de cuer. Et sachiez qu'il me poise grandement de ce que vous avez ainsi mespris contre nostre pere, et pancez bien, ma treschiere soer, qu'il est vostre soverain aide et vous aidera quant tous voz amys vous lerront, et abessez vostre cuer et ne soiez mye si hautayne ne si orgueillouse ne rebelle de respons contre nostre pere comme vous estez, car se vous refuseez sa compaignie par aventure vous devendrez folle pour ce que vous n'avez rien de quoy vous pourrez vivre ne estre sustenu. Et ramembrer vueillez de ce que le sage dit : Mieulx vault la verge que plie, que ne fait cely que rompe. Aultre respons ne vous fay mander quant a present. A Dieu qui vous eit en sa garde. Escr. etc.

⑤ De viro ad eius uxorem

Ma treschiere et tresamee famme, je vous salue si souvent fois comme je say ou puis, desirant tout dis d'oier bons nouvelles de vous et de vostre bon estat et santee que Dieux vueille maintenir (59^v) et accroistre a sa louange. Et endroit de le mien vueillez savoir que a la faisance de ces lettres j'estoy bien aise et en bon point, beneoit soit Dieux. Et sachiez que marsdy derrain passee je m'en alay hors de la citee de Londres devers la mer ; d'autre part ma treschiere famme, sachiez que je doy a W. B. de Londres cordewanier XX s. VI d., lequel argent vous pri que vous luy paiez au plus brief que faire se pourra bonnement pour l'amour de moy. Et saluez bien souvent de par moy tous noz bons amys et voisins, et vous pri de faire bien et sagement en m' absence. Treschiere et tresamee compaigne. Dieux vous eit en sa garde et vous doint grace de bien faire. Escript en hast etc.

⑥ Littera amorose composita

A m'amie tres belle et chiere
En qui est toute ma pansere
Saluz vous mande milles cent
Et moy a vostre commandement,
Tant des fois vous mande saluz
Comme foilles sont ou boais et plus ;
Atant de foys vous salue chierment
Comme estoiles (60^r) sont en firmament.
Il n'y a famme que tant desire,
Combien que de vynt porroi eslire.
Vous estez ma mort, vous estez ma vie,
En vous est toute ma druerye.
Et se rien soit que vers moy vueillez,
Privement a moy mandez.
Aultres ne vous say mander,
Mais grant desir vous ai parler.
Pancez de moy comme je de vous,

書簡文範

Que loyal amour soit entre nous.
Ihesu Crist vous donne honours
Et saut de mal tous jours.
Plus vous dire ne say je mye,
Mais vous comande a filz Marie. Escript. etc.

II. F. J. Tanquerey : Recueil de Lettres

⑦ William de Valence, Lord de Pembroke, à sa femme

1267

(Roy. and Hist. Letters, II 657)

William de Valence, seignor de Penbroc, a sa chere compaigne et amie, saluz.

Sachez que nus vus enveoms Sir Robert de Inmer a garnir le chastel de Wyncestre de blez et de vivres, et a demorer oveke vus a garder le avant dit chastel ensemblement od Sir Martin de Roches et Phelip le Clerc.

Et vus lur comandez de par nus que il ovrent en tute choses par un acord et par un conseil, et vus donoms le poer sur eus tuz et de eus tuz a ordener et a purver en tute choses solom ceo que vus verrez que meuz fra a fere. En cui testmoine nus vus enveoms ceste nostre lettre patente.

Done a Berkinge, le Dimeinge procheine apres la Ascencion, le an le rey Henri, fiz le rey Johan, cinquante primer (29 mai).

⑧ Blanche, Duchesse de Bretagne, à Henri III

1263-70

(Roy. and Hist. Letters, II 665)

A son tres haut et tres chier seignour Henri par la grace de Deu roi d'Engleterre, seignour de Yrland e duc d'Aquitene, Blance, duchesse de Bretangne, saluz e reverence, e soi apparellie a ferre sa volente cum a son chier seignour.

Sire, je vous pri, si vous plest, que vous me mandez vostre estate, le queul nostre Sire par sa grace face touz jours bon ; quar sachiez, mon chier seignour, que j'ei mout tres grant joie toutes les foiz que je puiz oir et savoir bones noveles de vous. Sachiez, sire, que ma dame Beatrix, vostre chiere file et la nostre est encor deheite de sa feivre, meis el en est mout amende, la Deu merci ; e nous dient les fizechiens que sa feivre ne li puet par longein durrer. E vous pri, mon cher seignour, que s'il avoit riens en noz parties, que vous le me mandez e comandez cum a la vostre ; quar sachiez, sire, que je arroie mout tres grant joie de ferre vostre volunte a mon poer.

E sachiez, sire, que Artus est mout bon emffant e mout beil, la Dieu merci. E nostre Seigneur vous gart.

⑨ Walter de Bibblesworth à Sir John de Kirkeby

1283

(P. R. O., vol. IX 17)

A sun tres cher ami, sire Johan de Kirkeby, le sen Gauter de Bibblesworth, saluz e bon amur. Cher sire, souveignez vus de ceo ke jo vus priay ke vus enveisez letters de par le rey as vescunes k'il delivrassent as esseketurs Sire Hue le Fiz Hotes les gardes le queus il ont de dun le rey e les chateus; e s'il en eusent riens pris, k'il le rendissent; c'est a saveir le maner de Derfleye en kunte de Gloucestre, e Hamertone en kunte de Hontedone, e Fissele en kunte de Norfouke; e si ceste chose n'est fornies, jo vus pri, pur l'amur de mey, ke vus veoillez comander ces brefs sicome vus me promistes, vostre mercy, e fere les bailler au portur de ceste lettre, issi ke l'alme de vostre ami ke mors est n'eit damage par le delai. Saluz.

⑩ Eléonore, reine d'Angleterre, à Jean de Kirkby

1276-84

(P. R. O., vol. X 39)

Alianor, par la grace Deu, reyne de Engletere, dame de Irlaunde e duchesse d'Aquitayne, a son cher clerk, sire Jon de Kirkeby, saluz e bon amour.

Nous vous prioms de quer pur nostre chere benvillaunte dame Marie de Clare, contesse de Gloucestre et de Hereford, ky bosoynes nous vodrioms ke fusent espleytes sicom les nos, ke, pur l'amour de nous, seiez eydannt e conseillant a ly e a sons, a ses bosoynes exploiter en kaunt ke vous poez a dretoure, si com vous vodriez estre a nous en nos bosoynes demeynes.

Done a Douvere le viij jour de Maii.

⑪ Jean Peckam à Edouard I

1280

(P. R. O., vol. XIX 195)

A tres haut prince e seignur, Edward, Deu grace, roy de Engleterre seygnur d'Irlande, duc d'Aquitaine, frere Jan, le prestre de Caunterbire, saluz en graunt reverence.

Sire, jo merci mut a vostre hautesce des curtaisies ke vostre bunte m'ad feites sovent e especiaument de graunt plente de viaundes et de vyns ke vous me comaundastes envoier en vostre terre sauvage de Gales, Deu le vous mire. Oveskes, co, sire, sachez ke nos chanoinies de Pencriz ove lur deen unt fet graunt despit a vostre eglise de Caunterbire, cuntre la tuiciun qui est la greinnur fraunchise ke la eglise de Caunterbire eit. E unt fet prendre par lettre de capciun aucune genz qui sunt prossiens de la glise de Lichefeud, la queu chose, jo ne puis suffrir, ke tut mun poeir ne voist a hunte. De la queu chose, jo pri ke il vous pleise a creire sire Antoigne, vostre clerc nostre ami, e ke il vous pleise delivrer ceus qui sunt emprisunez a tort e cuntre la eglise de Rome et le iglise de Caunterbire. E ne vous esmerveillez pas si jo en face mun dever,

書簡文範

sauve vostre dreit a vos chapeles en tutes choses.

Sire, Dieus vous gard e quaunt ke vous amez.

Ceste lettre fu escrive a Sallo pres de Rible, en la voille des uttaves seint Pierre e seint Pou
(5 juillet).

I. 訳

① 母より勉学中の息子へ

親愛なる息子へ、祝福をもってあいさつを送ります。お前がどうしているのか、良い知らせを知りたいと切に望んでいるとわかつて下さい。貴方の父上と私は神の御加護により元気で、この手紙を書いております。この手紙を持たせる者にことづけて、諸経費のためにと、お前に半マルクを送りますがそれは父上の御存知ないところでお前がいろいろとしなくてはならない経費のためです。さて、優しい息子よ、心から頼みますが悪い行いや、愚かなことはせず、悪い友人とはぜったいに付き合わぬようにして下さいよ。もしそんなことをすればお前の気づかぬうちに大変な損害をうけることになるでしょうから。父上がお前に与えられるものに加えて私もできる限りお前を助けましょう。神の祝福がありますように、私は私の祝福を貴方に与えます。

② (息子からの) 返事

尊敬とあらん限りの息子の服従を以て貴女の優しい祝福を心より庶幾いながら。(vel sic あるいは一) 大切な敬愛せる母上へ、心から母上のお気に入りますように、深い尊敬と名誉にかけて貴女の親愛なる祝福をへり下って祈ります。愛する母上様、貴女が私にお送り下さったものについて幾重にもお礼を申します。また、私をお忘れでなかったのを感謝いたします。もし神のお気に召すならばいずれ間もなく、私について大層お喜びになろうことをお知らせするために一生懸命努力いたしましょう。私のために使われた出費と経費の全てはお許し下さい。

親愛なる母上、何卒父上によろしくお願ひいたします。そして兄弟、姉妹、友人と皆々に私からよろしくと呉々もお伝え下さい。

我等の主が貴女様を守られ、日々貴女様の幸せと名誉を増して下さいますように。

——認む——

③ 妹より姉へ

懐かしい、大好きな姉上へ、大きな愛と共に御あいさつを。

まったく私の意志に反して父様が結婚を取り決めなさったということを知っています。その相手の人は醜男です。何があろうと絶対に私たちの間で交わりはできません。ですからね、大好きなお姉様、ねえさまを信用していますから、ほんとうに是非お願ひします。ねえさまの旦那様に話して下さって、御手持ちの馬を一頭さし向けて欲しいのです。私の憂鬱が消えて静まるまで、二~三日姉様と一緒にそちらで過ごすことができればと思います。と言うのは父上のお言い付けにそむいたので、父様は私に対し大層腹を立てておられるの。愛する大切なお姉様、どうか神様が貴女に長い良い一生と優雅な最後をお与え下さいますようにとお祈りします。

—— [何月何日] 認む、その他 [—]

④ 姉より妹へ返信

親愛なる妹へ、幾度も心からあなたに挨拶します。あなたが私達の父上をこんなにないがしろにしたのは私にとって大変辛いと承知して下さい。よく考えなさいよ、可愛いい妹。父様は貴女の最高の保護者です。友達が皆あなたを見捨てても貴女を助けて下さるのよ。心を謙虚になさい。貴女が今しているように父上に対してそんなにえらそうに答えたり、傲慢だったり、反抗的だったりしてはいけません。その方と一緒になるのを拒絶したりすれば多分貴女はおろか者よ、つまり貴女の生きるすべも扶養してもらうすべも何もかもなくしてしまうんですからね。賢者の言っていることを想い出してごらん。争いよりも答のほうが値打がある、争いはこわれるだけだから、と。今のところこれよりほかの答えを貴方には送りません。貴女を助け、お守り下さる神にゆだねます。

——認む、その他——

⑤ 夫から妻へ

いとしい愛する妻よ、私は心得てできる限り何度も繰返しお前に挨拶を送ろう。お前からのよき知らせと日々のよき暮らし、また健康について常に聞きたいと望みながらー そして、神が御自身をほめ称える者を守り、さらに高め賜わんことを、と祈りながらー

私に関しては、この手紙を大変心持よき状態で、元気で書いている、神よ見えられてあれ。さて先週火曜日ロンドンの町の外に出て海の方へ行った。それに、親愛なる妻よ、私がロンドンの W. B. コードバン皮師に20シリング 6ペニスを借りていると知っておいて欲しい。その金を私への愛情のしるしに、気持よくできるだけ早く支払って貰いたいと頼んでおく。我々の親しき友人たち、隣人たち皆に私からの鄭重な挨拶を頼む。私の留守中、思慮深くよろしく取り計らっておくれ、大切な、深く愛している伴侶よ、神がお前を見守ってお助け下さるように、善い行いをするように恩寵を与え給わんことを。

とり急ぎしるす、その他

⑥ 恋文

私の全ての思いをやどす美しくいとしい恋人に、
言い付け通り何千回も、御機嫌ようと言いましょう
この木の葉っぱの数より多く、何度も何度も御機嫌よう
大空の星の数ほどたくさんの、愛情深い挨拶を。
たとえ20の数から選ぶとしても
こんなに望む女性はいない。
あなたは私の死、そして生、
私の愛のすべては貴女。
何かお望みのことあらば、ひそかに頼んでいただきたい。
代りを送れはしないけれど、ほんとに貴女と話したい。
あなたを想っているように、私のことも想って欲しい。
真撃な愛が二人には、ありますようにと祈ります。
常の悪よりはるかに離れ、神よ栄光を与え給え。
貴女をマリアの御子に委ね、もうこれ以上は申しません。

何某認む

書簡文範

II.

⑦ ヴァランスのウィリアム、ペンブロク卿より夫人へ 1267年

ウィリアム・ド・ヴァランス、ペングロクの領主、いとしき妻へ挨拶を送る。

ワインチェスター城に麦と食料を補充し、そなたのもとにとどまるべくロペール・ド・イマーを差し遣わす。マルタン・ド・ロッシュならびにフィリップ・ル・クレールともども城を警備すべし。

全てにおいて合意と相談の上仕事を行うよう、予にかわり彼等に命ずること。そなたの見識に従い、あらゆる点についてよくよく事が運びゆくよう彼等に命じ、監督する権限を与える。そのことに関する証明として予の公式書状をそなたに送る。

被昇天祭に続く次の日曜日、バーキングより発送
ジャン王の王子、ヘンリー王の御代 第51（5月29日）

——○——

ウィリアム・ド・ヴァランスの妻はジャンヌと言い、ヴァリン・ド・モンテンシ男爵（国王直封）の息女である。妻の権利によってウィリアム・ド・ヴァランスは「ペンブロク伯」の称号を得た。ロペール・ド・イマーはウィリアム・ド・ヴァランスに仕える身であった故に1270年、ペンブロク伯の所用のためアイルランドへ赴いた。マルタン・ド・ロッシュはワインチェスター城の家老であって、サザンプトンの州執政長官、領主のオルトン館の管理責任者を次々とつとめた。（Tanquerey pp. 3-4）

この手紙は実例である。F. J. Tanquerey, *Recueil de lettres Anglo-françaises (1265-1399)* Paris, 1916 に集録されている。

Tanquerey は13世紀、14世紀にアングロノルマン語で書き残された書簡をロンドン Public Record Office に保管の *Ancien Correspondence* 58巻の中より求め、書簡選集を上梓した。筆者は Tanquerey の Recueil より数点を選び、書簡実例として茲にとりあげる。例文からは AN の特徴が読みとられるとともに手紙をしたためた個人の心境も窺い知ることができるであろう。

（この手紙は Tanquerey によると *Ancien Correspondence* 58巻の中の Royal and Historical Letters II. 657番である。）

⑧ ブルターニュ公爵、プランシュよりヘンリー3世へ ca. 1263-70

神の御恩寵を蒙り、英国王、アイルランド領主、アキテーヌ公爵たる、いと高貴にして最も親愛なるヘンリー王陛下、ブルターニュ公爵プランシュよりうやうやしく御挨拶を。

敬愛せる主の君の御気に召すように私が常々心がけておりますと思し召せ。

陛下、御旨でありますれば、貴方様の領地を私に賜わりますよう御願い申し上げます。その地には我等の主たる神がとこしえの御恵みを下されましょ。我が君、貴方様のよき知らせを聞き、且つ知ることができるたび、まことに喜ばしく嬉しく存じておりますと御承知おき下さいませ。

貴方様のいとしい娘、我が娘のベアトリスは発熱して苦しんでおりましたが、大層回復してきておりとお知らせします。お蔭様で医師たちはその熱は長びかぬだろうと申しております。何卒御主人様、我が国において何等かの事柄があります場合、貴方様御自身の国における如く私にお命じになり、委ねていただきたく存じます。と申しますのは貴方様の思い通りを、力を尽くして行いますことに大きな喜びがあるのでござりますから。

書簡文範

アーサーはとても良い子で、神に感謝します。そして大変可愛らしい子だということを覚えておおき下さいませ。神が貴方様をお守り下さいますように。

—○—

Tanquerey p. 4

(Royal and Historical Letters II. 665)

⑨ ウォルター・ド・ビブズワスよりジャン・ド・カービイ殿へ
1283年

親愛なる友ヨハン・ド・カービイ殿へゴーチェ・ド・ビブズワスが友愛をもって挨拶します。

州長官執務室に王の手紙を貴殿から送っていただきたいと願いましたのを覚いておいででしょうか。その内容は没収地管理官から財産管理の権限をユーグ・ド・フィツオットの後見者たちに渡すということです。後見者たちが承知している王のおくりものや城館について、もし彼等が何も譲渡されていなければ、それは与えられるようにと。すなわちグロスター伯領にはダーフレイ莊園を、オントダン伯領にはハメルトンを、ノーフォーク伯領にはフィセルを与えよということです。もしこの事が履行されていなければ是非、友情にかけて、貴殿がお約束下されたように令状をお送り下さい。それをこの手紙持参者に御渡し願えると有難く思います。遅延することにより亡くなられた貴殿の友人の魂がそこなわれることのありませんように。

敬具

—○—

Tanquerey pp. 40-41

手紙の筆者 Walter de Bibbesworth がフランス語教本 *Tretiz* を作成した本人であるかどうかは明らかではない。Walter de Bibbesworth はしかし Henry de Lacy, Earl of Lincoln とは *Débat* (前述) の中で対等に話しあっている knight であり crusader でもある。

1283年に死亡した Hughes le Fitz Otto は王家の執事であった。1283年3月24日、遺言執行人たちが財産を完全に管理し得る許可が出された。ビブズワスの手紙に対する答えであろう。(cf. P. R. O. Close Rolls 1279-88 p. 204)

(ビブズワスの書簡は P. R. O. vol. IX の17番に保存されている。)

⑩ 英国王妃エレオノールよりジャン・ド・カービイへ
ca. 1276-84

神の御加護によって英国王妃、アイルランド領主夫人、アキテヌ公爵夫人たるエレオノールより王室輔佐官ジャン・ド・カービイに厚意と挨拶を。

我々の親愛なる、善意溢れるマリー・ド・クレール夫人、グロスター伯、ハーフォード伯夫人のために心からお願ひします。私達の用件と同様に、夫人の用件が片附きますように望みます。我々のために、どうか貴方が夫人の用件について助言し、援助を惜しまれませんように。また貴方が我々領主の必要に応じ仕事をして下さる如く、可能なかぎり正当に、彼女の要請が達成されるように取り計らって下さい。

ドーヴィアにて5月8日送る。

—○—

(P. R. O. vol. X. 39)

書簡文範

⑪ ジャン・ペッカムよりエドワード1世へ 1280年

いと高貴なる君主エドワード、神みそなわします英国王、アイルランド領主、アキテーヌ公爵閣下へ、カンタベリーの僧ジャン修道士が崇敬の念をもって御挨拶いたします。

陛下、貴方様の御好意がお示し下されました御高配、特にウェールズの御領地の野山から私に送れと御申し付けを賜わりましたあり余りますほどの食料、葡萄酒につきまして衷心より感謝申し上げます。

神が陛下に御報いになられますよう。

感謝と共にではありますが、ペンクリツの教会参事会員が司祭長と共にカンタベリイ教会に対し甚だ遺憾なことを致したと、どうか御承知おき下さい。カンタベリイ教会の保有する最大の特権の聖域に対してであります。逮捕状によってリッチフェルドの教会教区の何人かを捕えさせました。それは耐え難いことでございます。何と致しましても恥をかきたくはございませぬ。その件につきまして御願い申し上げたいのであります。陛下の僧侶であり、私奴の友人であるアントワヌ氏を何卒御信用いただきたく存じます。

ローマ教会およびカンタベリイ教会に対して、あやまって投獄されている者たちを何卒御放免下さいませ。陛下の礼拝堂ならびに全てにつきまして陛下の御政道に傷つきませぬよう、私が自己の義務を果たすといたしましてもお驚き遊ばれますな。陛下、神が貴方様と貴方様の愛されます全てをお護り下さいますように。

この手紙はリブルの近郊サロにて認めました。

聖ペテロ、聖パウロ祝日8日間の前夜において

7月5日

* * * * *

Public Record Office, Ancient Correspondence Collection に収められている書簡は13世紀半ばよりフランス語が多くなる、その時期以前の大半はラテン語の書簡といわれる。また1350年以後は英語の書簡も現われる。Ancient Correspondence Collection には多種多様の手紙が収められている由であるが、数葉を紹介するにあたって形式にはまつた公式文書は避けた。ペンブロク卿より夫人への手紙、そしてアキテーヌ公爵夫人よりヘンリー3世への手紙は Tanquerey が集録した164通の書簡の中でも特に個人の感情が表現されていると Tanquerey の述べているものである。カンタベリー大司教ジャン・ペッカムの書簡には王と対決も辞さぬ彼の積極的な姿勢があらわれている。

British Library MS Harley 3988 28^r-67^v には *Manière de Langage* に続いて多くの書簡範例が記載されている。それらは主として王侯貴族へ家臣からの陳情書であったり、また請願書、報告書、特許状の書式の模範例等であるがその中に私文書の例文も掲げられてある。

14世紀半ばより後半にかけて Oxford には秘書官あるいは書記官のための実技を教える講座があり、その講座において Thomas Sampson (前述) との名を持つ教師が指導にあたっていた。Sampson は自身を 'enformour d'escrire et diter' と称し、4年間のコースであったというが彼は多種多様の書状の様式、そして書簡文の書き方、綴り方を学生に伝授した。¹ Sampson の講義に使用された各種の書式範例は MSS Longleat 37, Harley 4971, Cambridge Ee 4.20 に書き残されており15世紀に作成された Harley 3988 も Harley 4971 に記載されている書簡文と同様の文言が認められる。Harley 4971 に写されてある書簡文は1396-99年の間に書かれたらしい。

筆者はここに Harley 3988 より 6 点の私文書様式を掲載する (57^v-60^r)。Tanquerey が編輯した手紙

²

書簡文範

文の実例も 5 点をとり上げた。両者の間には年代の異なりがあるが Sampson の書簡例は Tanquerey 編の実例と比較し得る好材料である。

注

1. Ivor D. O. Arnold, "Thomas Sampson and the *Orthographia Gallica*", *Medium Aevum* 6, 1937 pp. 193 -209.

Arnold は上掲の論文において Cambridge MS. Ee 4.20 ならびに Harley 4971 に記載されている *Orthographia Gallica* は Sampson の Oxford 講座で教科書として使用されていたものであるという。

2. see : F. J. Tanquerey, *Recueil de Lettres Anglo-françaises* (1265-1399) Paris, 1916 pp. 3-4, 22, 40.

Epistolography

British Library

MS Harley 3988

ff. 57^v-60^r

pour demourez en ore t honurable copaigne
 sans nez auoir desir deus vous dont ma
 es chieze dme le vous pismes entiermet
 do ouer quil ne vous desplaist car io fi
 conenant par tout cest amee pour demon
 jer ou ma es chieze dame Anne Elianore
 la dame de T. au ses fees & robes Mais
 es honurable dame voulante le enesse
 demouree en ore honurable copaigne en
 cas qd vous me eussez comande puz lez
 graciees hies devant la mayn ma es
 graciee dame monueillez tous iours
 comander ore graciee voulante come
 cely qd lo fera sans faire deffault au
 es honurable dame dieu vous demou
 ioye de quaque vous avez

De matre ad filium solato

Salut aucoyne ma brenon Es chie
 fils sachiez qd ie desir gridelement de sa
 non bons nouuelles de vous & de me estat
 car ore pere & moy estois a la fasilite
 de ces hies en bon poynx la dieu mercy
 Et sachiez que vins emoire par le po
 to de ces hies demy nre po dmes ne
 cessans qd vous lez avez a faze sine

estient de vre pere Et vous prie chenece
 beau ts donz filz qd vous laissiez tous mals
 & folyes & ne hantez mye maluaise com
 patigne car se voudra le faitez il vous
 fera gnt damage auant qd voi la pcc
 neez & ie vous adeqai selon mon poor
 oultre ce qd vre pere vous domia. Dieu
 vous domia sa bencou et qd vous domie
 la mene Estp.

Responsio

Honens on tons maners de filialy obes
 fances vre che bencou hymblement en
 priant qd ma ts chiere & ts honens
 meje ie me recommande a vous en tanto
 donec ie pns on tons honens & jendices
 de qd ts qd bencou hymblot vo
 en impliant Et ma ts che meje moult
 soiment ie vous emide de ce qd mon memorias
 & ne manez pas oubliez Et sil dieu plauso
 ie metteray tant ma diligence & mon poor
 apud qd dedens brief temps vous en
 auiez gnt ioye de moy & vouchez sans
 tons les despens & costiges qd volanez
 Despendu pour moy Et rsq d meje mo

meillez vous recommander a mon esther
pere & saluer en sonment de p mons tons
mes freres & soeurs & tons mes autres
amis & compaignons que s'ont gantz
de vous & vous acusee en en & honen
us tons vns maist Epistole.

De borro ad borro
Salut & bon amoyt D'esther & to
amee soez meillez sanoy q'mon pe
nt empesee en mariage qndem
encontre ma voulante ce q' est vne
leode p'sonne & pour mille chose de
monde il ne fera nmais copulacion
entre nous & Dom & ma esther soez
je vous p're chement come ic m'assu
de vous q' vous en plor a me s' qnt
me meillee emoies en deses chual
je pris demeurer deuy vos en tros
en me compaignie tang fa mullen
dolye soit effussee & abeffee / Car
il est forment coroncee anecque
moy pour ce q' iav son comandement
refusee / au esther & sumee soez
je p're a dieu qnt q' domit bne vie
& longue & gtrone svn Epistole.

Responsio

Ma tache je fer ic vons salme par
 mantes sois do cuer Et sachiez quil
 me porse gudement de ce qd vons amez
 ainsi mespris conte me pere & pourcez
 by ma te che soye quil est vre sonam arde
 & vons aider a apir tons voz amys vons
 deffont & abessez vre cuer & ne soiez
 mre si hantame ne si orgueillouse ne
 rebello de lesspons conte me pere come
 vous estez car se vons refuserez sa co
 paingne pas auenture vons deuendrez
 folle paix ce qd vons amez rien de que
 vous pourrez vire ne esto sustenu Et
 ramembrez vneillez de ce qd le sage dit
 Aliens vult la vige que plie qd ne
 fait celv qd impie Autre lesspons ne
 vons fait mandez que il pfect A
 dieu qui vons en en fait garder Est
 ce

O viro ad ei hymnem

Ma tache & tribunes faire ic vons
 salme si lamentez sois come ic say
 ou pmis deshant tout des doies bons
 nouuelles de vons & de vre bon estat
 & santez qd dieu vneisse mantem-

A droisies a sa louange Et en d'or de le
 men queilles s'auoit q'ala fausance de
 ces lies restor bin nisez en bon paut be-
 neoit son dieu Et sachiez q' mes dom
 demam passee ie men alay hors de la
 crete de londres dans la mer Quant je
 paut mi es chiere frere sachiez q' ie
 dor a. Q. S. de londres & ordene q'
 le quel argent vous pri q' ceo
 luy paiez au plus bries q' faire se poie
 bonement pour lamour de moy Et
 saluez bin souuent deparz mon tenuz noz
 bons amys & voisins & vous pri de
 faire bin q' sagement en ma b'sence q' es
 chiere & es amys compagnie Dieux nus
 dit en sa garde & vous doint gracie
 de bin faire Egypt en hast

Atra amozose oyente
 Remanne es belle & chiere en q' n'est
 toute mi pancele saluz moy mende
 milles cent & mon xv^e comandement
 Tant des fois vous mende saluz come
 folles tout en bone & plus Tant de
 fois vous saluz chiermet come estoiles

sent en fijnement Il my a fâme q̄tant
 desjne Combien q̄ de vnyt pomoy eslire
 Vouz estez ma mort Vouz estez ma vie En
 Vouz est toute ma benerie Et se ney soit
 q̄ de moy bueilles p̄mement a moy mame
 des Autres ne vous sup̄mandez alors
 q̄ut desir vous a parler D'ancez de mor
 come ie vous q̄lors moy soit entre
 nous Ihsu q̄st vous Dame honoys et
 saint & mal tous ios & plus vous que ne
 sup̄ ie mere ihus vous comande a filz
 marie Estcript

A Domicella ad suam
 Mal qd honerice & te redubtee dame ie
 me recomande a vous au tant & scientie
 ment de euz come ie sup̄ ou p̄us plus
 tome celle q̄est toutdis lez & ionouse
 voier & suoyz bons nouvelles de vous ma
 dame & de vje bon effect & comment il vous
 est vont le per il me sjes dieu apotocent
 q̄tous vous soit il bon & toutdis p̄ amen
 dement. Mal redubtee dame vous plust
 suoy q̄nd me samble moult long q̄ ne
 ney nulle nouvelle de vous cap̄ctes
 ma dame onques p̄me q̄ vous deputes,
 avec deuglet je ie muoy nulle nouvelle de

8) Treatise : *Femina*

Femina が収められてある写本 Cambridge. Trinity College B. 14. 39-40 は小型 18×14 cm の四つ折り判である。もとは 2 部に分かれていたものを 39 (ff. 1^r-87^v) と 40 (ff. 1^r-93^v) を合わせて現在は 1 冊に纏められてある。前半 (39) は 13 世紀後半 (40) は 14, 15 世紀に成立したと見做されている。

当該の *Femina* は 88^r (14. 40 の 1^r にあたる) より始まり 146^v に終る。Walter de Bibbesworth のフランス語教本 *Tretiz* と同じく子供たちにフランス語を教える目的で書かれたものである。*Femina* という表題が用いられているのは教本の編者がまず最初に 'Liber iste vocatur femina, quia sicut femina docet infantem loqui maternam, docet iste liber juvenes rhetorice loqui gallicum prout infra patebit.' (この書は *Femina* とよばれる。何故ならば *Femina* は母が幼ない子に話し方を教えるごとく、この書はこのあとに記されるように子供たちが修辞法に従ってガリア語を話すことから教えるからである。) と前置きしているところに由来する。編者はまた教本のおわりに「新フェミナ 終る」'Explicit ffemina nova' と記している。*'nova'* という言葉は 13 世紀末に作成された Bibbesworth の Treatise を敷衍しているという意味で加えられたものであろう。当時 1 世紀余にわたり読まれつづけたに違いない Bibbesworth の Treatise に、この *Femina* は大綱において従っているが 129^r からは「さて幼ない子供たちに nurture について教えよう」という言葉をもって *Urbain le courtois* 「礼節の書」の教えが 138^v まで続いている。*Femina* の一部分として記されている *Urbain* の中にはこの '*nova*' の価値を高めようとの意図によるのか特に Dionysus Cato に対する言及がなされ、134^r-138^v には「カト一対句集」*Distichs of Cato* ² に見られるラテン語の格言や、ソロモンの箴言、セネカの処生術、はては Vulgata 聖書 Tobias 4 章 11 节の引用も見られる。³ 14 世紀にアングロノルマン語で優れた作品を書き残したフランシスコ派の僧侶 Nicholas Bozon 作 *Proverbes de Bon Enseignement* ⁴ の冒頭、ソロモンの箴言が摄入れられてある個所は *Femina* の編者がそっくり借用した。

この *Femina* が書かれた時期は 15 世紀初頭である。Bibbesworth の *Tretiz* から凡そ 1 世紀半に近い時を経てこれはフランス語教本 *Tretiz* の流れを汲む最後の教本と言えるであろう。15 世紀ともなれば、イギリスの上層階級の間で使われてきたフランス語を、英語が母語である子供たちに学習させるためには対訳も必要であったにちがいない。*Femina* の特徴はフランス語の対句 couplet の後に英語訳の 2 行が続きこの形が繰返されることである。英語彙の綴りがフランス語綴りに対応している場合も多い。例へば最初の数葉に次のような押韻が現われる：

F assemblé / appellé 13-14	E assembled / appealed 13-14
F batayle / amayle 23-24	E batayle / bestayle 23-24
F nomer / never 37-38	E name / never 37-38
F voyle / ryver 73-74	E wyl / ryver 73-74
F bale / baal 101-102	E bale / baal 101-102

そして 138^v-146^v には Rule が付け加えられている。rule とは第 1, どのようにフランス語を綴り (regula scripcionis), 第 2, どのようにフランス語を読み, 発音するか (regula locucionis), 第 3 にそのフランス語彙に対応する英語を理解すること (regula construcionis) を教えるものであって、第 1, 第 2, 第 3 の縦 3 棚に分けて書かれた語解 glossary である。146^v で *Femina* は終り、写本は 179^v を

Treatise : *Femina*

最後に綴じている。*Femina* に続いて147^vには数詞代名詞が、147^v-148^vには動詞活用 amer, estre, voloir が記され、149^r-154^vはフランス語対話、即ち *Liber Donati* 対話篇、語彙篇が続いている。この *Liber Donati* の対話の中で1415年、Agincourtにおいてヘンリー5世率いる英軍がフランス軍に対して勝利をおさめたこと、捕虜がロンドンへ連行されることなどが語られる。155^r-157^vは *Orthographia Gallica*, 159^r-162^r は *Le Manere de Salutacion et Ecriture*, 162^r-177^r は書簡集、177^r-177^v は *De Rege ad archiepiscopum*, 178^r-179^v はフランス語による賢明な婦人の物語(後半は写本の汚濁により判読し難い) 179^r-180^v, *La Manière de Langage* である。

筆者はここにあらためて *Femina* の全文およびそれにつづく *Liber Donati* (grammatical sections) から数詞の1葉、動詞活用を示す1葉を転写するものであるが *Femina* では話しをすすめていく主題の順が Bibbesworth の *Tretiz* (Cambridge MS Gg 1.1) と異なっているので次に二者の見出し語を対照させておこう。

Femina

- 1 De assimilitudine bestiarum
- 2 Quomodo appelluntur secundum eorum voces
- 3 De proprietatibus infantis
- 4 De partibus capitis
- 5 De anteriori parte capitis
- 6 Adhuc de corpore
- 7 De vestura infantis capitulum
- 8 De diversitate nominum
- 9 De eodem
- 10 De proprietatibus campi
- 11 De arte pistoris
- 12 Semina seminanda
- 13 Ars braciatricis
- 14 Ad prendendum pisces
- 15 De Tempore yemis
- 16 De nominibus herbarum
- 17 De nominibus avium
- 18 De nominibus animalium
- 19 De proprietatibus bige
- 20 (De proprietatibus aratri) [the heading proposed by W. Wright]
- 21 Ad edificandum domos
- 22 De proprietatibus nominum
- 23 De moribus infantis (*Urbain le courtois*)

Tretiz

- (1) (Pur aprise du gendre en frances) (F3 4, 5, 6) [the heading suggested by the editor]
- (2) Pur aprise de ceo ki est dedenz le cors de homme(F6)
- (3) du Fraunceis de mostre vesture ad tut mostre autre herneis(F7)

- (4) le Fraunceis des bestes e oyseus(F8)
- (5) De la naturele noise des toutes manere des bestes(F2)
- (6) De diversité de fraunceiz ki tut est dist de un engleis(F8, 9)
- (7) Le fraunceis de pre e du chaumpe e de carier les blez(F10)
- (8) Pur pestre vostre pain au fourn(F11)
- (9) Le fraunceis de ceo ki a bone mesuere apent(F12)
- (10) Pur breser brece e bracer cerveise(F13)
- (11) Pur peschour en viver ou en estaunck(F14)
- (12) Pur beau temps e pur tempeste(F15, 16)
- (13) Le fraunceis des flurs et des fruz du verger(F16)
- (14) Le fraunceis des arbres du verger(F16)
- (15) Oyseaus de bois(F17)
- (16) Bestes du boys(F17, 18)
- (17) Pur un charet(F19)
- (18) Le fraunceis des propretez de carue(F20)
- (19) Pur meisoun edifier(F21)
- (20) Pur attirere le fu
- (21) Pur attire bel la mesoun(F21)
- (22) Pur diverse paroles(F22)
- (23) Le fraunceis pur un feste araer(F22)

Femina 転写に際しての詩行表示はフランス文と英文とを別けて行数を数え、 1 Beau enfaunt pur apprendre に対し (1) Fayr clyld for to lerne と表示しておく。

Femina

I. Text

Cambridge Univ. Library, MS B. 14-40

ff. 88^r-146^v

Lyber iste vocatur *femina*, quia sicut *femina* docet infantem *loqui maternam*, [88^r] docet iste liber juvenes rethorice *loqui gallicum* prout *infra* patebit.

Capitulum primum docet rethorice loqui de assimilitudine bestiarum.

1 Beau enfaunt, pur apprendre
En franceis devez bien entendre

- (1) ffayre chyld for to lerne
In frensh ye schal wel understande
Coment vous parlerez ^ebealment
- 4 Et devaunt lez sagez naturalment.
How ye schal speke fayre

(4) And afore þyze wyzemen kyndely

Ceo est veir que vous dy:

Hony est il qui n'est norry.

That ys soth þat y yow say

Heny ys he þat ys nat tauȝth

Parlez tout ditz com affaités

8 Et ne my come dissafaités

Spekeþ alwey as man ys tauth

(8) And nat as man untauth

Parlez en primer de tout assemblé

Dez bestez que Dieu ad formé

Spekeþ fyrst of manere assemble alle

Of bestes þat God hath ymaked

beau debet legi þeu enfaunt fraunceys bein belement

ce cet vel eyȝtt Iil neot toutdiz afetes

dissafetés beetez du & non dieu

^a
Et dez oseaux ensement

[88^v]

12 Parler doyt homme naturalment.

And of bryddys also

(12) Speke schal a man kyndely

Ubi autem iste litere rubre supra scribuntur semper pronosti cant(sic), quomodo id verbum pronunciatur, quia multociens gallicum uno modo scribitur & alio pronuncietur, ut sic beau debet scribi beau, enfaut debez scribi enfant sine u. Ideoque semper scrutate ubi dicte litere sunt scripte sine rubre litere & eas quere in hoc mergine huius libri te docent qualiter dicta verba leguntur.

^b
Primeȝ, ou cervez sount assemblé

^c
Un herde donq[ue] est appellé.

Ffyrst when hertez beþ assembled

And herde þanne hyȝt ys appeled

Dez grues ensy un herde

16 Et dez grivez sanz .h. erde.

Of cranes also an herde

(16) And of feldfares withoute .h. erde

Nye dez fesauntez coveye dez perdryz,

Dame dez alowez trippe dez brebyz.

A nye of fesauntes a coveye of perdryz

A dame of larkes a trippe of shep

Soundre dez porks & esturnyz

20 Deveye dez heronez & pipe de oseaux.

Oseus sount cum u eet pors eturnyz

A sondre of hogges & of stares

[89^r]

(20) A deveye of herones a pipe of bryddys

Greyle dez geleynez, turbe dez cercieles

Lure de ffaukones & puselez.

A greyle of hennes a turbe of teles

A lure of ffaukones & damezeley

Eschele dit homme en batayle

24 Ffusoun dit homme de vyf amayle

An ost seyþ a man in batayle

(24) Ffusoun seyþ man of quyk bestayle

Haraz dit homme dez poleynez,

Ffolye dit homme dez vileynez.

Haras seyþ man of coltys

ffoleye seyþ man of chorlys

Summe du blé, summe du bienez

28 Mace d'argent, fume dez fuez.

Summe of corn summe of goud

(28) Mas of selver fume of fier

Mut dez chiens en veneerie

Et de corner aprés vous die.

A mut of houndez in veneerie

And after to blowe y shal say

Mut dey chiens vous dirrez

32 Quater vint racchez ensemble, couplez deux & deux

cercelez echele chein secundum parisium chan apre vou deus

[89^v]

- A mut of houndes ye shul say
- (32) xxiiij(sic) racchez ycoupled togedere
 a
 Un lese dez leverers est nomé
Quaunt treis en lese sount ensemblé
 A lese of grehoudes ys y named
 When .ij. en lese beþ togedere
 Et un *bras* est dez leverers
 b
 36 Quaunt deux en lese sount entiers,
 And a *bras* of grehoudes ys
 (36) When ij en lese beþ togedere
 Brut dez barones doit *homme* nomer,
 d
 ffrap dez clerkes & *droit* dever.
 A brut of barones shal *man* name
 A ffrap of clerkes *with ryȝt* devere
 Aray dit *homme* dez chivalers,
 e
 40 Route dit *homme* dez esquiers.
 Aray seyþ *man* of knyȝtys
 (40) A route seyþ *man* of squiers
 Dez rebaudez ensy un route
 f g
 Et dez beofs ensy sanz doute.
 Of rebaudes also a route
 And of oxen also *without* doute
 Et de un chose *bien* vous gardez,
 h
 44 Au parte senestre leverers menez.
 a b c d e
 eet deus enters clers equers oþer squiers quia fert
 f g h
 scutum beef saunz cum u senetre
- And of o þyng take ye hede
- (44) On þe left half grehoudes ledez
 a
 Compaignie dez damez dirrés,
 Et dez owes ensy ferrés.
 A companye of ladies ye schal say
 And of gees also ye schal do
 b
 Qar en franceys tenent de droit

[90^r]

Treatise : *Femina*

- 48 Le maistre bauldement ^c l'ottroit
 Ffor on frensch þey holdeþ of ryȝth
- (48) þe maister baldely holdeþ þerto
 ^e Si vous volez parfitement
 ^e Parler devant bon gent.
- Yyf ye wylleþ parfytely
 Speke afore goud folke
 Il y ad suffler, venter & corner,
 52 Dount la resoun fait a saver.
 Me bloweþ in iij maneres .i. corner
 (52) When of þe resoun ys to wyte
 ^g Le sieu suffle le quystron .i. sufflet ^h propre
 Le vent vente parmy le brousson.
 þe fyer bloweþ þe quystron
 þe wynd bloweþ þoru þe bussh
 Mez le venour proprement corneie,
 56 Quaunt chas prent pur quer preye.
 ^a companie sine ^b g, fraunceys cum ^c u metre ^d baudement
 ^e ^e vous devant cum ^f v, feet ^g fu quytron ^h quaunt cum ⁱ u
 scriptum .i. quando sine u vel sic quant ponitur pro quanto

But þe hunter properly corneþ & bloweþ

[90v]

- (56) Whanne chas he taket for to seche praye

Quomodo appelluntur secundum eorum voces.

Ove oyez naturalment
 ^a Des bestez le diversement.

Now hereþ kyndely

Of bestez de diversite
 ^b ^c Chescun de eux & chescune

- 60 Solonqe que sa nature done.
 Every of hem he & sche .i. maul & femaul
 (60) After þat har nature yevyþ
 Homme parle, ours braye,
 ^d Qi demesure ceo affraye.

- Man spekeþ bere brayeþ
 þat out of mesure hyt affrayeþ
 Lyon romyt, *greve groule*,
- 64 Vache muche & courdre *groule*.
 Lyon romy whole *cran grauly*
 (64) Kow loweþ hasyl bloweþ
 ^e Chyval hinst, allowe chaunt,
 ^f Colure jerist & cok chaunt.
 Hors neyeþ larke syngeþ
 Coluere jurrut & cok syngeþ
 ^g Cheat minoie, *serpent ciffie*,
 ^a ^b ^c ^d ^e ^f ^g betez checun eus ce hinit jerit chat
- 68 Asyne ^a rekane, cigne reciflie.
- Kat meweþ addere cissit or flet *proprié*
- (68) Asse rugeþ swan reflieþ
 ^b Lowe & le chien baye,
 ^c Quaunt le venour quert sa praye.
 þe fox & þe hound bayeþ
 Whanne þe huntere secheþ hys pray
 Owue jangle, jars jaroyle,
- 72 Mez il ad garoyle & jaroyle.
 Goos jangleþ gandre *gralle*
 (72) But me haþ garoyle & jaroyle
 ^c La difference dire jeo voyle,
 L'ane jaroyle en la ryver.
 þe difference telle y wyl
 þe doke queketh in þe ryver
 Quaunt le ffaukoun volaunt ly quere,
- 76 Mez devant une ville en gere.
 Whanne þe ffaukoun fleynge hire secheþ
 (76) But afore a town in werre
 ^d Homme fiche soun baner en *terre*,
 Pur le barbycan defendre.

[91r]

A man stikyþ hys baner in grounde
 For þe barbycan to defend
 De le sault que homme voeut rendre
 Secundum parisium aye chaan secundum parisium quaunt
 cum u ponitur pro quando je vile terre saut veut

- 80 Ore a le noyse redirroms, [91^v]
 Of þe saut þat man wole ȝelde
 (80) Now to þe noyse say we azen
 Ou plus apren dre y purroms.
 Crapaud coile, reigne gayle,
 When more lerne we mowe
 ffrogge crowkeþ tadde pipyþ
 Coulur proprement regayle,
 84 Porcelle gerist, sengler releie.
 Snake properly swyeþ
 (84) Pig wrenneþ boor boweþ
 Chevere gerist, ture torrayle,
 True groundille, quaunt drage quert.
 Tyche bletuþ bole belweþ
 The sowe gronekeþ when sche draf secheþ
 Ffaukon terssel le plunison fert,
 88 Geline naturalment patille.
 Ffaukon terssel ye mallard smytyþ
 (88) The hen kendely kaklyþ
 Quaunt poume en gardyn ou en ville,
 Qar en Fraunce est tiel estile
 When sche leyþ in gardyn or toune
 ffor in Fraunce ys swyche a stile
 Qe gelyne hupe, ruke & patille.
 veut redirroums purrovuns gerit toor patile ville
 vile legetur teel etyle patile
- 92 Et qui trop se avaunte oultre reson, [92^r]

pat hen clokkeþ rekleþ & kakleþ

- (92) And he þat to moche avantyp hym above reson
 A la gelyne ^cserra compaignon,
 Qar plus se avaunte ^cpur un oeff,
 To þe hen he schal be felawe
 Ffor more sche avaunteþ for on ey
^dQe ^epur sa arure fait le boef,

96 Et *quaunt* le gelyne commencea russille.

panne for hys erynge doth þe oxe

- (96) And whanne þe han ^ftakyþ to russille.
 Et moustre ^gceo a ^htrippeler
ⁱDez oefs luy donez le *germoes*.

And scheweþ þat sche wyl syȝte abrod

Of eyren ȝyve hyre þe stren
^kNoun ^lpas quex sount estergules

100 Barbyz baley, dame balee.

But nat þo þat beþ adle

- (100) Schep bletuþ ladyes hoppyþ
^mEt le *espicer* prent sez mers de bale

Pur *trop* veylez homme baale.

The *spicer* takeþ hys mers out of hys bale

Ffor ouermuche waak man gouþe baale

A soun servant sa chose bayle

^atrof ^bsecundum ^cquosdam ^doutre ^ecompaynoun ^foof ^gfeet ^hboof
ⁱmoutre ^jce ^ktrepiler ^loofs ^mquens ⁿetergulez ^oepysere

I

104 Et ove baleye homme baleye.

[92v]

To hys servaut hys þynges he takeþ

- (104) And with baleys men swopyþ

Regardez *que* la sale soit juncheie,
^aApr s ^bdormer homme espreche.

Tak hede þat þe halle be rysshett

After sleppe man rakslet

^eLe prestre en l'aglyse preche,

- 108 Le pischeor en la ryver peche,
 þe prest in þe chyrche precheþ
 (108) þe fysser in þe ryver fysseþ
 Ove soun rey ou soun eche.
 Quaunt la poure femme mene le tresche,
 Wyþ hys nett oþer with hys hook
 þe poure woman ledyþ þe daunce
 Melour serroyt en mayn le besche,
 112 Qar ele n'ad a verme forps le besche
 Beter schold be in hand a spade
 (112) ffor she naþ to lyve by but hyre spade
 Pur payn querer, bribe ou lesche,
 Moun chael le baele lesche.
 ffor bred to gete loof oþer lasse
 My welpe þe panne lyckeþ
 Ore donez ceo chaele a flatier,
 apre epreche pretre pichour beche leche cheel flater
- 116 Qe lesche la rose de l'herber. [93r]
- Now gyf þat welpe lape
 (116) þat lyckeþ þe rose of þe herber
 Et il est flatour qi soit flater
 Et lez gentz qi voet espuliper.
 And he ys a flaterour þat can flatere
 And þes folk þat wyle bygyle
- Hoc capitulum docet de proprietatibus infantis.
- Q**aunt enfant est primer neez,
 Covient q'il soit malloeez,
 Whenne a chyld ys fyrst ybore
 (120) Hit behouyþ þat hyt be swadyd
 Puis en soun biers ly cochez,
 Et bercere luy purveiez.
 After in hys cradel hym leyþ

- And a rokkestere hym purveyþ
Quaunt enfaunt comence a chatoner,
 124 Et einz q'il sache as pies aler,
Whenne a child bygynneþ to crepe
 (124) And ere he conne on feet go
Et il bave de sa nature,
Pur sez draps saver de baveure,
And he dreveleþ of hys nature
ffor hys clophys to save fram dreveling
leche eet gens veut epuliper enfaunt cum
ne covint maloe bers pes dras

- Ditez donc a sa bercere [93^v]
 128 Q'ele face un bon bavere.
Sey ye þanne to hys rokkestere
 (128) þat sche make a goud dreveling clowt
Et puis quaunt il commence d'aler
Et volunteers luy mesmes voet enpaluer,
And after whenne he bygynnyþ to go
And gladly wyle hym self byslobbe
Pur mal maym & male blesure,
 132 Ffaitez un gars luy garder sure.
Ffor evyl maym & evyl hurte
 (132) Make a boy hym kepe sure
Si q'il ne ceppe ne chie ceo,
Mez garduz en suerté.
So þat he stombles nat ne falle
But kepeth in suerte
Et quaunt il court en graunt age,
 136 Mettez ly apprendre langage.
And whenne he renneþ in gret age
 (136) Put hym to lerne langage
En fraunceys a luy vous devez dire
Come primez il doit soun corps discri[r]e.

In frensch to hym ye schal say

How fyrst he shal hys body discribe

memez veut fetes ly che ce quauant pro quando cum
 sine u pro quanto fraunceys vou corps discrie decrie legetur

Et pur ordre garder de moun & ma,

- 140 Toun & ta, son & sa, .i. masculino & feminino.

[94^r]

And for ordre to kepe of mon & ma

- (140) Toun & ta soun & sa for ma souneþ

Quia ma sonat feminino, moun masculino

To femynyn gendre & moun to masclyn,

Cy que en parle soit bien apris

Et de nule homme escharnis.

So þat in speche he be wel lerned

And of no man y scorned

Capitulum de partibus capitis.

- 144 **D**i ma teste ou moun chief
 Et la greve de moun chief.

- (144) I say myn heved & myn heved

And þe shode of myn heved

Featez la greve a toun lever

Et manger la grive a toun dyner.

Make þe shode at þyn upprist .i. in capite

And ete þe feldfare at þyn dyner

- 148 J'ay lez cheveus recercelez,
 Moun tooþ vous prie que estouncez.

- (148) I have þyze cripse lokkys

My tooþ y praye þat ye shere

En vostre chief vous avez tooþ

echarnys testte cheef vou etoncerz cheef

En la ryme getez un toup.

In your heved ye havyþ a top

In þe trouȝt cast þe toup

[94^v]

- 152 Et serencez de lyn le top,
De la lute *pernez* le tup.
- (152) And hecheleþ of flex þe top
Of þe wenne takeþ þe tup
^a
J'ay auxci moun hanapel,
Moun front ensy & moun cervel,
I have also myn brayn panne
Myn forhed also & myn brayn
- 156 Moun haterel ove les temples,
^b
Et lez ministres dit homme templez.
- (156) Myn pol with þyse templez
And þyse ministres seyþ man templez
Vostre regard est *gracious*,
Mays *vostre* eul est *chacious*.
Youre byholdynge ys *gracious*
But *your* eyȝe ys spaduous
^e
- 160 De l'eur oustez le chacie
^d
Et dez neeaz auxci la rupye.
- (160) Of þe eye cast out þe spaduynge
And of þe nose al so þe droppynge
^e
Mult vault la rubye escript par .B.,
^f
aucy cum si mincteres ouztez neez vaut ecrip
- Mez poy vault il escript *par* .P.,
Much ys worth þe rubye ywryte by .B.
But lytyl ys worth he ywryte by .P.
- 164 Ewe est rupye issant de neas,
^a
Mez rubye est *precious* piers.
- (164) Water ys rupye goyng fram nosez
But rubie ys a *precious* ston
De l'eur est tout saf le purnel,
^b
Si la papire soit bon & beal
Of þe eye ys al saff þe appyl
Yyf þe eyed be goud & fayre

[95r]

[95v]

- 184 Ele ad col, gorge & mentoun,
 d
 Dount le franceys est comoun.
- (184) Eche havyþ necke gorge & chyn
 Wher of þe frensh ys comyn
 e
 Desoubz la longe est furchele.
 a b c d e
 teint bouche certeyne fraunceys cum u south

Oos furche en Fraunce l'em apele.

[96^r]

- Vnder þe tonge ys þe furche
 Boon furcheþ in Fraunce me elepeþ
- 188 Dedeinz le gorge est gargate
 a
 Et pluis parfounde la gist le rate.
- (188) With ynne þe þrote ys þe gargule
 And more deppere so lyþ þe ryngbon

De anteriori parte capitidis.

- E**n chief devant est fonteyne,
 e d
 Le soubtheyne luyre & sovereine,
 e f
 In þe heved afore ys a pute
 pe ny þer lyppe & þe overer
 192 En la bousche sount mesfalles,
 g
 Et donque foreines, si tu lez quere.
 (192) In þe mouth beth wong teth
 And þen þe fore teþ ȝyf þu hem sekyst
 A col vous avez un fosslet,
 Desouth la lange est le filet.
 At þe nekke yow havyþ a lytyl hol
 Under þe tonge ys þe fylet
 196 Et pur certifiere la parole
 h
 Conustre devez le kakenole.
 (196) And for to certifie þe speche
 Know ye schal þe rem of þe brayn
 a b d e f g h
 eet gitt devaunt cum u southene liuere mefallas countre

- Et desouth le orayle avez *gernon*
 A lez ^aespaulez avez blason.
 And under þe ere ye havyþ heer
 At þe schulders ye have a schulderbon
 200 Desoub le chart ^bgist ^cle essel,
 Desoub le bras avez huissel.
 (200) Under þe carte lyþ þe ȝex tre
 Under þe arme ye have a putte
 Le char chivage en le chare,
 Dont lez hommes fount ^dlour eschar.
 þe fleyssh rydeþ in þe char
 Wheroft men makeþ har skoryn
 204 Sur le montayn ^ecrust le broyl,
 En bas terre est tout foitz bon soil.
 (204) Uppon þe hulle groweþ þe myst
 In low lond ys alway goud soyl
 Entre pledourus move le toyd,
 Le vent de bijs greve le oyl.
 Bytwyn pledourus ys meved strif
 þe wynd of þe eest greveþ þe eye
 208 Apres ^gaugust chiet le foyl,
 Apres ^hgele ⁱvient remoyl
 (208) After August falleþ þe leff
 After ffrost comeþe þawe
 epaulez south gitt ecar crut tere eet apre aust
^jchet ^kveint
 Cestez ^aparolez icy ^bjeo coil
 Q'est le chesoun vous dire jeo voyl,
 Swyche speches here y gadere
 What ys þe chesoun yow y wyl say
 212 Pur ^cmutz acorder en parlaunce
 Et discorder en variance.
 (212) ffor muche to acorde in spekyng

And to discorde in varynge

Adhuc de corpore.

Il n'est pas mister a discr^{i[r]}e
de fraunceys que chescun sciet di[r]e,

Hit ys non nede to discrie

þe frenshe þat every man can say

216 De ventre, de doos, ne de chyne,
Dez espaulez, ^gbras, ne petrine.

(216) Of wombe rugge ne chyne
Of shuldres armez ne brestbon
Mez jeo face le mustreson
De chose n'est pas cy comun.

But y make þe shewyng
Of thyng þat ys nat so comune

220 Dez espaulez issint lez bras,
Coutes, ne mayns ne lessom.

(220) Out of þyze shuldres goth þyse armez
^acetez ^bje ^cmuz ^dvariaunce ^ecum ^fu checun seit
epoulez ^gmoutreson

Elbowes ne handez leve we nouth

[97v]

Je oy tonner, coment il tonne,
Dount la servise piert en tonne.

I hurd dondere how he denede

Where of þe ale pershede en tonne

224 Mez pur estre en tout certeigne,
^bVous ^cdie de la cowe du mayne.

(224) But for to be in al certayn

Yow y say of þe wrest of þe hand

La paume dedeinz le clacie dehors
Et la poyn est la mayn cloos.

þe paume vyþynne þe clouth withoute

And þe fust ys þe hand cloos

228 Et le fel fert le poignoun,

A *travers* soun compaignoun.

- (228) And þe galle beryþ þe longhe
 To *travers* hys felawe
 Et une poine q'avez en mayn,
 Ceo est la mayn *trestout* pleyn.
 And on handful þat ye havyþ in hande
 þat ys þe hand ryȝth ful
 232 Et ambedeux les mayns pleins
 En *Fraunce* l'em apelle galeyns.
 (232) And bothe þyse handes fulle
 a b c d e f g
 pirt certeyne vou eet poynon *trestout* ambedeus

In frensh men clepeþ galeynes
 a b
 Mez pluis vault une petit poigné

[98^r]

De gyngefere bien trié,
 But more ys worth a lytyl handful
 Of gyngefere wel ytried

- 236 Qe sount lez galeyns
 De filaundres toutez pleines.

- (236) Þenne beth a hundred galeynes
 Of gossomer al fulle
 Une cost de l'un costee
 Avoit Adam par dieux ousté.

A rebbe of a syd
 Hath Adam by God uttake

- 240 Quaunt dame Eve primez fist,
 g h
 Ne porta charge, lieu q'il gist.

- (240) Whenne dame Eve fyrst he made
 Hyt bare no charge in place þere hyt lay
 En mylyeu del ventre est umbil,
 Et par desouth est le penil.
 In mydde place of þe wombe ys þe navyl
 And by under þere ys þe share
 244 Quisez & nagez ove le ffurchure

ffount grant ese pur chevachure.

- (244) Thies & buttokkes forth with twyste
 a b c d e f g h
 vaut peti deu owȝtte quaunt fiȝtth leu gitt

Doth gret eze for rydynge

Jambez & Jenoylez conusez,

[98^v]

a N'est mister que a vous soient tochez.

Shankes & knowes ye shal knowe

Hyt ys no mister þat to yow þey be touched

- b 248 Mez en jambe vous avez lassure,
 c Et tanque brayn est en sure.

- (248) But in legges ye have sparlure

And as brayn hyt ys þer uppon

De mellour fors homme ce assure

Et si le canel soit sans blesour.

Of beter strengthe men hym assureþ

And ȝyf þe shynbon be withoute hurt

- 252 Et lez garteres vous avez auxci.
 d Pur cele aprise jeo vous di.

- (252) And þyze garteres ye haveþ also

ffor swyche a lernynge y yow say

De celuy homme du garteres

e Si vient l'usage dez garteres.

Of þylke men of þe garteres

So com þe usage of þe garteres

- f 256 Auci avez vous lez kevilles,
 Mez n'entendez pas kivilles.

- (256) Also ye havyþ þyse anknees

a b c d e f
 neett vou eet je vient keviles

But understandeth nat t'reen pynnes

a b
 Keville fait homme ferme estier,

Et la kiville fait le charpenter.

Ankne maketh man faste stande

[99^r]

And þe treen pyn makeþ þe carpenter

260 Plante ad homme, urther & talon,
Dount le frauncés est comoun.

(260) Sole haþ man too & hele
Wherof þe frensh ys comyn
c d
Dedeinz le corps ad chescun homme
Coer, fay & poignonen.

Withynne þe body haþ every man
Herte lyvere & longhen

264 Splen bowel & reynonen
Stomak veyne nerf envyronen

(264) Mylthe þarme & kydeney
Stomake veyne synues al aboute
Et ne obliez pas noun vessie,
Qe al ventre fait grant aie.

And forzytteþ nat þe vessie i. a bladdere
þat to þe wombe doþ gret helpe

268 Puis que la uryne est aquilon,
Ne lez roynez ne obliom.

(268) After þat þe uryne ys ygadred
a b c d e
feet eyȝttyr cors checun feet

Ne the reynes forȝete ye nouȝth

[99v]

a b
Ore ne fault rien mez fel par noun
c
Dedeynz le corps que ad homme.

Now fayleþ nouyþ but þe galle by name
Withynne þe body þat haþ a man

De vestura infantis *capitulum*.

272 **V**estez vous ove voz draps, petit enfaunt,
d
Chaucez voz braiez petitez & grantz.
e

(272) Cloþe yow with your cloþys lytyl chyld
Doþ on your breche hosyn & shon
f
Mettez le chaperon coverez le chief,

- Tachez *vous* botonez derechief.
 Put on þe hoth kevere þe hed
 Tache *your* botnes fram on ende to oþer
 276 Ove une correye *vous* seintez,
 A *vous* ne di ne ceyntes.
 (276) With a gyrdyl gyrde yow
 To yow y say nat wexe with chyld
 A cause que femme est par homme enceynte,
 Et ove une seinture ele seinte.
 Bycause þat womman ys by man with chyld
 And with a seynture she ys ygurd
 280 De la seinture le pendaunt
 Passe parmy le mordant.
^a^b^c^d^e^f^g faut reincors dras graunz cheyff derecheiff
- (280) Of the seynture le pendaunt [100^r]
 Passeþ þoru þe mordaunt
 Ensy doyt le mordaunt & le hardyloun
 Passer par tru de subilon.
 Also shal þe mordaunt & þe tongue
 Passe þoru þe hool & al
 284 ^a^b Si jeone enfaunt tien la mayn
 Primez al matyn vers la payn,
 (284) ȝyf a yong chyld holdyþ hys hand
 ffyrst on morn toward breed
 Une brybe donque luy donez,
 Ou une lesshe si pluis n'avez.
 On lesshe þanne hym ȝevyþ
 Oper a sheve ȝyf ye no more have
 288 Mez sy *vous* luy donez dez ouefs,
^c ^d Ensy lez atir s a soun oeps.
 (288) But ȝyf ye ȝeve hym of egges
 Also hem atire to hys use
^e Oustez le chale, eynz q'il hume,

Le tru & la albume.

Cast away þe shulle ere he neme hyt

þe reme also & þe wyte

292 Et luy donez le moel,

Qy a homme seyn est bon morsel.

^a
jwne teyt ofes use ouȝtthes aubume mool
^b
^c
^d
^e
^f
^g

(292) And hym ȝevyth þe yelke

[100^v]

That to a man hool ys a goud morsel

Mez le germe *vous* en ostez.

^a
Ren ne vault bien *vous* sachez.

But þe stren ye out caste

Noȝyng hyt ys worth wel ye know

296 Dez pommes *vous* di *ensemant*

^b
Le manere & affaitemant.

(296) Of þyse apples y say yow also

þe manere & þe affetement

^c
Oustez lez stykes & la parure
^d

Et luy donez la morsure.

Cast away þyse steles & þe parure

And hym ȝevyþ þe body

300 Lez pipiners en getez

Et lez pipeims en plantez.

(300) Pize cores cast out

And þyze kerneles setteþ

De diversitate nominum.

Veyez, Si vient deuant *vous*
un chivaler tout rous,

Sethe here comeþ afore yow

A knyȝth al red

304 Qi a chival sore est monté

^a
vawt affetement ouȝtthes parure
^b
^c
^d

- ^a
Escuue de goulez il porté
(304) þat on an hors red ys ystyze
A sheld of red goulez he beruþ
Une launce rouge en l'une mayn.
^b
De vyn vermoyl soun bousche est plein,
A launce red in on hand
Of wyne red hys mouth ys ful
308 Et ne mange de peson,
Mez haryng soor *qui* ad non.
(308) And he eteþ no ffyssh
But heryng red by name

De eodem.
^c
Jeo veie une roigne sany roy
^d
Pur une reyne fayre grant affray.

- I sawe a quene wyþoute kyng
ffor a tadde made gret affray
312 Et enmy la realme la roy
^e
^fEst un ryom fait pur un rei.
(312) And in myddys þe reme of þe kyng
Ys afore y mad for a nette

Hoc capitulum docet de *proprietatibus campi*.
^g
Ore aloms as prees & champs
^h
ⁱPur norrer nostre enfauntez.

Now go we to mede and feld
^a ^b ^c ^d ^e ^f ^g ^h
ecu bouche je fere reme feet alommis chanis
ⁱ
enfauncez cum u

- ffor to norshe oure chyldrym
316 Une faux ^a fauche un ambinge de pre,
De faucyl est garbe & javelaucy.
(316) Asyde mowęþ a swad of þe mede
Of swad ys sheff & shoffe also
Vos javelez en garbez liez,

- b
- En trosseaux voz garbez mettez.
 Youre shoffez in sheffez byndyþ
 In trussey your sheffez putteþ
- 320 Un varrot de pois suis arechez,
 Et lez feves en warrot liez.
- (320) A waze of pesyn uppon recheit
 And þyse beins in wazes byndyþ
 Mez il n'ad myster que vous dioms
 De toteþ maneres dez blez le nounz.
 But hyt ys noon ned þat ye say
 Of al manere cornes þe names
- 324 Del sigle d'orge, ne froment
 Qe communs sount a tout gent,
- (324) Of rye bere ne whete
 þat comune bethe to al folk
 Mez d'autre semaile qui crest,
 Qi cultivers mult displet.
 But of oþer seyth þat groweþ
 faws trosseus diommis nounes d'autre cret mut
 diplet

þat tiliers much displesyþ

[102r]

- 328 Reveray il crest & le betoyl,
 Le hayson auxcy & le noeil,
- (328) Dragge hyt wexyþ & dernelle
 þe wyld facche also & þe kockyl
 Le blaverole & le maw auxci,
 Charoyle & autres que ne vous di,
 þe blewed also & le hocke
 Charllok & oþer þat ne yow say
- 332 Qar trop j'avroie ore a fayre
 De totez semailez vous dusse trahere.
- (332) Ffor overmuche y shold have a do
 Of alle sedys yow to say

Mez ^d*quaunt* temps est karier,
Bonez chartes ^efaitez charger.

But whanne tyme ys to karye

Goude cartys doþ charge

336 Le chariter ad sa riorte,

Mez charuers le auguillon porte.

(336) þe cartere haþ hys whyppe

But þe plowmen þe gode berud

Et le charter ^fcovient q'il porte

Ove luy ^gtoutfoitez ^hsa ryorte,

þe cartere behouyþ þat he bere

^aaucy ^bnoil ^cfere ^dtens ^efetez ^fcovint ^gly ^htoutfoiz

Wyþ hym alway hys whyppe

[102^v]

340 Dount il ad dobble entendement

^aQe tout gent ne savent nient.

(340) When of me hath double understandyng

þat alle folk knowe nouȝth

^bEn la grange voz blez mowez,

Dehors la grange voz blez tassez,

In þe graunge youre cornes moweþ

Wyþoute þe grange your cornes tasseþ

344 Qar un mow est dit en grange,

Et un tasse, dehors la grange.

(344) ffor a mowe ys seyd in graunge

And a tas withoute grange

En grange gardez vous de hareit,

^cEs champs ^dvorstre blez d'autere bestes.

In berne kepe yow fram þys eilez

In feld your corn fram oþer bestes

348 En sale chaunerez lez ^egestez,

Pur obliere lez ^fgrevez molestez.

(348) In halle ye shulle synge þyse gestez

To forȝete þyse grevous hurtes

Mez si vous priez gentz a ^gvous ^hfestes,
 P[ri]ez ceux qui sount en enquⁱestez,
 But ȝyf ye praye folk to *your* festes
 neint ^avou ^bchams ^cbetez ^dgetez ^emoletez ^fgens
 fetes ceus ^henquⁱetez ^k

- Pray hem þat ben in enquestes [103^r]
 352 Pur lour malice qui sount si prestez.
 (352) ffor hare malice þat ben so redy

De arte pistoris.

- Q**uaunt vostre ble est bien batu,
 Puis venté & bien molu,
 When *your* korn ys wel y þrosse
 After y wynwyd & wel y grounde
 Par le mouler^be devient farin,
 356 Et donque pain proschein matyn.
 By þe grindynge comeþ mele
 (356) And þen bred nyxȝt on morwe
 Auxcy de grayn devient flour
 Par le bolenge del pistour.
 Also of corn comeþ flour
 By þe buntynge of þe bakere
 Et par la bolenger est severe
 360 La flour & furfure q'est si clere.
 And by þe buntere ys deceveret
 (360) þe flour and bran þat ys so clere
 As voz chivalez lez fourfre donez,
 Et ove ewe teen le flour medlez.
 To *your* hors þis bran ȝevyþ
 And wyþ water warm þe flour medleþ
 pretes devint prochein aucy pitour qeet

- Et vostre past ensy pesterez,
 364 Ove une rastuer *vostre* auge mundez. [103^v]

And *your* past also kned hyt

- (364) With a dowryb *your* trow make clene
 b Mez il y ad rastuer & rastel,
 c

Qe servent de divers myster.

But me haþ a ryb & a rake

p̄at serven of divers myster

d Le pistour tient le rastel,

e f Mez rastuer fait le auge beal.

p̄e bakere holdyþ p̄e oven rake

- (368) But þe ryb makeþ þe throw clene

Chaufez le four ove fugere,

g Sy vous fault bone lytere.

Hett þe ovyn wyþ spayes

ȝyf yow fayleþ goud strawe

Lyttere & liettere sount divers,

- h 372 Discordaunt diount lez clerkes.

Lyttere & liettere sount divers

- (372) Discordant seyþ þyse clerkys

i Le faultour, littere littere fauche,

Pur eze en litere homme chivauche.

p̄e mowere straw moweþ

For eze en litere men rydyþ

a b c d e f g h ratuer yl rastel teint fet beel faut clerks
 i fautor

[104^r]

Mez ceo est litere sanz fayle

- 376 Q'en doufce Ffraunce homme dit payle.
 a

But þat ys litere wyþoute fayle

- (376) þat in douce Ffraunce man clept wombechaf

Paile & pale sount divers,

Quaunt de grain sount severez.

Chaf & smal chaf beþ divers

Whanne of grayn þey beþ severed

Et si paile ne est pas,

- 380 Pernez doncue le pesas.
And ȝyf straw ne be nouȝth
- (380) Takeþ þanne þis straw
Et quaunt le four est chaufé,
Ove pele soit le past entré.
And whanne þe oven ys hoot
With þe peyle be þe past y put yn
Quaunt vostre past est mys en four,
- 384 Et le pistour prent soyour,
Whanne your paste ys put in oven
- (384) And þe bakere takeþ reste
Endementeris le mesure,
Ne serra trop pas nonchalure.
Rechelys out of mesure
Lat nat hyt be to muche y bake
douce myis

Semina seminanda.

[104^v]

- O re alez a semer vostre lynois,
388 Et ne obliez pas vostre chanere,
Now goþ to sowe your flex
- (388) And forȝete nouȝt youre hempe
Qar de lynois vous avez lez busceaux
Et de chaneare lez cordeaux.
ffor of flex ye have þyze hoppes
And of hempe þyze cordez
Vostre lyn en temps sarchez
392 Et puis en temps sustreyez,
Youre flex in tyme wedyb
- (392) And after in tyme drawe hyt uppe
Et doncue en une putte reheitez,
Et puis al solayl le secchez,
And þanne in a putte rette hyt
And after on þe sonne drye hyt

- Et puis abatre *vous* forcez,
 396 Et ove ceo en *yvere vous* eschaufez.
 And after to bete hyt ye forseþ
 (396) And with þat in wynter ye hetuþ
 Pur tout saver mult serroit beal.
 Gesir *vous* covient al pissel,
 ffor al to knowe muche hyt were fayr
 vou buceus cordeus tens sutreyez ce echaufez
 mut covint

- Ley hyt byhovyþ to þe swynglingstoke [105^r]
 Pur byen escucher le lyn,
 400 Qar autrement n'ert ja fyn.
 ffor wel to swyngle youre flex
 (400) ffor elles shal be þer noon ende
 Et quaunt al pessel ad soun dever,
 Donque irrés a rastuer.
 And whanne atte swynglyngstoke hyt haþ hys deute
 þanne ye shulle go to rybbe
 Et puis tauntost serencez,
 Et puis un knole *vous* purveiz.
 And after anon ryȝt to ecchele
 (404) And after a dystaf ye purveyþ
 Et ordeynes *vous* un fusoun
 Qe a l'art aver divssom
 And ordeyne yow a spyndylle
 þat to craft have we shold
 Et le virel en failli,
 408 Pluis a l'ore ne *vous* di,
 And þe wherwe lat nat fayle
 (408) More at þis tyme nel y yow nat say
 Mez unquore monstrai un diversité
 Dount chescun n'est mye avise
 But yett y shalshewe a diversyté.

ecucher ^a ^b ^c
 quaunt cum .v. ponitur pro quando. ratuer tain-
^d ^e ^f ^g
 touȝth vou montrai checun

When everyman ys nat awysed

[105^v]

De treis chosez serit (sic) le fusille,

412 Le fil est filé ove le fusille.

Of iij þynges servyþ þe spindelle

(412) þe þred ys ysponne with þe spyndelle

Et puis le coilon fert le fusille

Et ble est molue *par* le fusille.

And after flynt smyteþ þe spindelle

And corne ys grounde with þe spyndelle

Quaunt vostre fil est filé

Et vostre fusille est remplé

Whanne your þred ys isponne

(416) And your spindelle ys yfoold

A la trayle ^b vous covient aler

Et puis irrés a la vaulder.

To þe reel yow byhouyþ to go

And after ye shulle go to þe yarnewynder

Com de fileie est la manere,

420 Pondez tantost aprés le traul.

As of spynnynge ys þe manere

(420) Weyze anon after þe yarn

Et puis aprés testier le veil

Et la tisteresse, *quaunt* parubble ad.

And after anon wef þe web

checun ^a ^b ^c ^d ^e ^f fusil covint vauder tantowȝt apre titeresse

And þe webestere whanne worbyn she

[106^r]

Tantost lez tromez ele vaudrat.

424 Ore ay *vous* di *quant* apent.

Anon hyre *tromez* she wyndeþ uppe

(424) Now y have yseyd how muche longeþ

Fforispris lalme soulement^a

Outtake þe sley onlyche

Ars braciaticis.

Ore serroit a saver

De l'art a bresser & brasyr.

Now hit schal be to wyte

Of crafte to mylde & to brewe

428 Coment homme fait servoise^c
Pur noz ostez faire bien a l'ese^d

(428) How man makeþ ale

Ffor oure gestez to make wel at eze

Une keve large primez pernez

Et vostre orge enfoundrés.

A keve large first takeþ

And your bere azoteþ

432 Et quaunt il est bien enfoundré^e
Et la ewe est soit discouelé,^f

(432) And whanne hyt ys wel yzote

And þe water be late out

forþis lame feet fere quaunt cum u ponitur pro quum eet^f

Moundez doncue un soler,

[106^v]

Et veiez que soit bien baler.

Make clene þanne a soler

And loke þat hyt be wel yswopud

436 Et la cocherez vostre blé,

Tanque q'il soit bien germé.

(436) And þere ye shalle ley youre corn

ffor to hyt be wel acome

Et doncue tu appelleras

Brese que avaunt ble nomas.

And þanne þu schalt clepe

Malt þat a fore corn was named

- 440 Le bres *donque ove voz maynez mewez*
En mounteles ou en renges,
- (440) *þat malt þanne with your hand meweþ*
In hepes oþer in rowes
Et puis portez en un corbeil,
Pur ensecher al torayl,
And after beruþ in a leepe
Ffor to drye at þe host
- 444 Qar corbeil ou corbylon
Vous servira tout al fusoun.
- (444) ffor leep oþer basket
Ye shal servise al at lust
Puis serra le breys molu [107^r]
Et en ewe chaude tout enbu,
After shal þe malt be grounde
And in water warm al ydraweþ
Et donque voz lessez decurre taunt
En un coverel mayntenaunt.
- (448) And þanne ye shal let hyt renne so
In a keverel anoon
Desque que ^aplein soit un doige ^bbeal
Et puis remittés en un coverel,
Into þat ful be a droweþ fayre
And after put hit azen in a messyng what
- 452 Jesque ^cqi la brustere ^den cuer tient,
Q'ele eit bercil a sa talent.
- (452) In to þe browestere in herte holdyþ
þat hit be wort at hire talent
Et puis la bercil prendra
De froment ou d'orge qu'ele a.
And after þe wort she shal take
Of whete oþer bere wheþer she hath
- 456 Et par la gest & la bercile,
Dount pluis & pluis homme sotile,

(456) And by þe berme & þe wort

Wher of more & more men sotileþ
^a^b^c^d
 de^{que} beel cuer teint

Par droit never du *bercere*,[107^v]

Dount tout deviser ne say mye.

By ryȝthe deute of *browynge*

When of al devise ne can y nat

460 Mez tout yci de art en art,

^a Chescun autere en sa part,(460) But al here fram *craft* in *craft*Every oþer in hys *part*

Tanque q'il eit bone servoise,

^b Dount homme devient si bien a eise,

In to hyt be goud ale

Wherof man bycomeþ so wel at eze

^c Qar luy mesmez ad perne *taunt*

Q'il ebire maintenaunt.

þat hym self hath ytake so muche

þat he wexit dronke anon

^d Ebiresse tient layez hommez & clerkys,^e^f Nulle autere count fait si mers.

Dronknesse holdeþ lewed men & clerkys

Non oþer knoweþ hyt makeþ so derke

468 Ebiresse fait homme chatoner

^g Et homme aroie fayt hault huper.(468) Dronkenesse makeþ man to *crepe*

And man hoȝ hyt makeþ heyȝe to crie

^a^b^c^d^e^f^g checun devint memez cler nule feet hautt

Ebiresse fait face du brykon

[108^r]^a Ters ruge sanz vermyloun,

Dronkenesse makeþ þe visage of a myx

fful red wyþoute vermyloun

472 Et donc^{ue} dit homme *par* seynt George :
 «Or trop ad bu du grece d'orge»,

(472) And þanne seyb man by seynt Gorge
 þat over muche he haþ dronke fat of bere
 b
 Qe luy covient d'aler a repose,
 A cause que ne puet faire alter chose.
 þat hym byhouyb go to reste
 Bycause þat he may doo noon oþer þyngē

Ad prendendum pisces.

476 **S**i assaver volez la manere
 Coment pissher devez en vivere.

(476) ȝyf know ye wylle þe manere
 How fysshe men shal in ryvere
 Ryver est proprement nomé
 Ou ewe vif est trové.
 Ryver ys properly ynamed
 When water ys quyk yfound
 c d
 480 Ove esponger primez espougez,
 e
 Et donc^{ue} pissons enquerez.
 (480) Wyb a sponge fyrst led out
 a b c d e
 treruge covint epoger epougez pisoums

And þanne fyssh sechyb
 a
 Et si vous failez en tel estank,
 b c
 Alez tauntost a l'ewe corant.

And ȝyf ye fayle in swych a pond
 Goþ anon to water rennyge

484 Alez donc^{ue} sanz delay
 Ou ewe est en batonay.
 (484) Goþ þanne wyþoute delay
 Wher water ys in batonay .i. moor
 Et la pisshez c'e nase,
 And þere ye shulle fysshēn with a yene

[108^v]

- Ou petit rey, ou trové est grase.

Ou .i. other lite nett when founde ys gras
d

488 Yl y ad nase & crevere auxi,
e
Comune frauncés ad chescuun.

(488) Me haþ reddere & yene also
Comune frenshe·to every man
Le nase est menement overez,
Mez pluis large parties assez.
pe yene ys lytyl openid de forains
But more large partiez ynouȝ
f

492 Ad le crevere pur quoy jeo dy,
g h
Nulle autre variance est en luy.

(492) Hath þe reddere for why y say
a b c d e f g
you tauntouȝt coraunt aucty cheeuñ je nule

Non other variaunce ys in hym
a
Ore redirroms a la matere,
Qi de pisshe vous doy dire.

Now say we azen to þe matere
pat of fysshynge yow y shal say
La gourge de nase reversez,
L'ordure dedeinz degettez.
þe botme of þe yene torn upsedoun
þe ordure withynne cast hyt out
Crapaude ou [le]sarde si vous trovez,
Par lez wymbergez lez pernez.
ffrogge oþer ewete ȝyf ye fynde
By þe chellez hem takeþ
Et s'il soit morw de mer,
b
Overer luy devez & espander.
And ȝyf hyt be melwel of þe see
Opene hym ye shal & spalde
c d
Le noo tauntost en oustez,
e
Bowel ou eschyne ensy ferrés,

[109^r]

- þe sound anon cast hyt out
 Bowel & chyne also ye shal do
 504 Et returnez a vostre measoun.
 f
 Jesque a l'auter sesoun
 (504) And turneþ azen to your hous
 h a b c
 variaunce cum u redirruouns epander tauntouȝt
 d e f g
 ouȝtez echyne meson jeque

- In to another tyme [109^v]
 Et quaunt vous venez al verde tenayl,
 Ou le pastour est ove l'amayl,
 And whenne ye come to a grene bank
 Wher þe herde ys with hys bestayle
 508 Puis en boys alez soubz l'umbray,
 a
 Passez doncque par le horayl.
 (508) After in wode goþ under þe shade
 Goþ þanne by þe wode shauē
 Yl y ad horail par .h. escriyt,
 Et orail sanz .h. dit.
 Me haþ horail by .h. ywryte
 And orail withoute .h. yseyd
 512 Desouth le horayl soy kevere le laroun,
 Et ove orayl oit chescun homme.
 (512) Under þe wodys efȝe hym kevereþ þe thef
 And with ere heruþ every man
 c
 Mez que einz passoms avaunt,
 De la tenayl serra disant,
 But ere þat we passe forþe
 Of þe balk yow hyt shal be seyd
 516 Pur ceo qy'l y ad plusours de sens
 d
 Et plusours dez deferens.
 (516) ffor þat hyt hath manye deversitez
 a b c d
 suz checun passoumis purce

And manye differensez

Tenail est & tenoun,

^a
Et tenayles d'autre apparaile.

Handele pere ys & tenoun

And tenayles of oþer apparail .i. tonges

520 Lez cultouiers tienent le tenoun,

Et parmy le tenayl passe prudom.

(520) pyse tlyers holdyn þe handle

And þoru þe balk passeþ þe goudman

Mez tenayles servent de carbuns

^c ^d
En yver, quaunt a fyeu syoms.

But tonges serveþ for colez

In wynter whenne by þe fier we sitte

524 Et al fevere serit(sic) de custoume,
^e
^f Quaunt le martyfert al clume.

(524) And to þe smyth þey serve of custum

Whan þe hamer smythyþ on þe anfeld

De tempore yemis.

Ore pluit, ore gele,

Ore remoyle, ore regele,

Now hyt reyneþ now hit frest

Now hyt þaweyþ now hit fresuþ azen

528 Par le gele avoms glas,

^h
Et de glas vient verre glas.

^a ^b ^c ^d ^e ^f
dautre tenant fu syoumis cotoume quaunt cum
u pro quum, feit anoumis vint

(528) By fforst we havyþ glas

And of glas comeþ verre glas

Gele & pluuie degetaunt

ffount la chemyn trop ledtaunt.

fforst & reyn doun fallynge

Maken þe way over hurtyng

532 Ore nege, ore cemoie.

Tiel temps piert nostre voye.

- (532) Now hit snewet now hit sletup
 Swyche tyme persheth oure way
 En moun bousche vient un anffe de neff,
 Jeo croy que est pur grant ceiff.

In myn mowth comeþ a flade of snow
 Y leve hyt be for gret derst
 536 Noz avoms gresile & gele.

- Gryssyl graunt, non pas grele.
 (536) We haveþ hayl & forst
 Hayel gret noþyng lytyl
 Ore entendez mon pe tonne.
 Nulle de voz mot ne sonne.
 Now takeþ hede myn fot slepeth
 Non of yow a word spekeþ

540 In yvere quaunt l'aure chaunge
 Et le temps devient si strange,
 tens pert bouche vint anouinis nule devynt

- (540) In wynter whan þe weþer chaungeþ
 And þe tyme bycomeþ so strange
 Qe homme ne peut le suffre,
 Pur la distresse de l'yver.

pat man nat suffre hyt
 ffor distresse of wynter

- 544 Dount lavez la mayn estome,
 Qe pur la freydure ne poyez mye

- (544) Wherfore ye haveþ þe hond so komelet
 pat for cold ye may nouȝth
 Dez deiez faire la capinole.
 Mult ore vault sur plume mole.
 With fyngres make þe hok .i. cumulare
 Muche now ys word on reyn nesshe
 548 Seer pres de sieu divers le karole,

[111^r]

- Chaperon & vestuez de blaverole,
 (548) Sitte by fyer aȝeynes cole
 Hod & cloþ of blew
 Ou de quyler la primerole
 Mez cuer de femme est si mole,
 Oþer togadere þe primerose
 But þe herte of a womman ys so nesshe
 552 Quaunt biaux bacheler l'acole
 Qe sovent al bref parole,
 etome fere mut vaut prede fu vetuz cuyr beau
 (552) Whanne fayr man hyre byholdyþ [111^v]
 þat y nowȝ at short speche
 ffemme fole le recole.
 Jeo ay ore les verolez
 Womman foul hym byholdeþ
 I have now þyze pokkys
 556 Et les rubeux ove roles.
 Et facent ore lez placez folez,
 (556) And þyze red rowes
 And makeþ now þyze places foule
 Et lez foles lez karolez.
 Mez pur apprendre ceux innocens,
 And þyze folez þyze karoles
 But to teche þyze innocentes
 560 De virolez vous di plus de sens,
 Pur ceo q'yil y ad virole, verol & varole,
 (560) Of virole yow y say mo wyttys
 ffor þat me haþ virole verol & varole
 Qe sount de divers escole.
 La virole le mambre garde,
 þat beth of divers scolys
 þe virole þe haft kepyþ
 564 Du cotel du mal mussarde.

Et le virole le face empire

^a ^b ^c ^d
je rebeus cens ecole

- (564) Of þe knyff of þe lyther grom [112^r]

And þe pockes þe face enpersheþ

^a
De chescun fool & sage sire.

^b
Mez ceo est un varole *pur* veire,

Of every foul & wyseman

But þat ys a wort worim for soþ

- 568 Qi de cholet *crest* de nature.

^c
^d Une verme est, q'est verde est de coloure.

- (568) þat of wortys groweþ by kynde

A worim hyt ys þat grene ys of colour

^e
En Fraunce varole est nomé.

In Fraunce a varole he ys named

De nominibus herbarum.

L^f e jour devient beau & cler.
^g
Aloms en austre *pur* juer,

þe day bycomeþ fayr & cleer

- (572) Go we in somer to pleye

En verger ou sount lez floures,

^k
Dount issent lez doulcez odourus,

In erber wher ben þyze floures

Wher of gon out þyze swete odourus

Erbez auxci *pur* medicine.

- 576 Et lour nouns jeo voile devine.

Erbez also for medicine

^a ^b ^c ^d ^e ^f ^g
chescun ce cret qeet fraunce cum u devint bew
^h ⁱ ^k ^l
alommis ete doucez je

- (576) And here namez y wylle devine [112^v]

Fflour de rose, flour de lys,

Lijz *pur* royne, rose *pur* pitz,

Fflour of rose flour of lilie

- Lilie for shorf rose for breste
 Auxci avez la sorele.
 Et pur la teste vault la pareele
 Also ye havyþ þyze sorele
 And for þe heved ys worth þe dokke
 Parele est parel & pareux
 De totez manerez dez oseaux,
 Parele þer ys parel & pareux
 Of alle manere of bryddys
 Ou couple sount de male & female:
 Ceo est un parel & non pas parele,
 When couple ys of male & female
 pat ys a payre and nouȝth a dokke
 Qar ambedeaux sount par eux nomez,
 Puis qe ensemble sount en nez.
 Ffor boþe togedere þey beþ named
 After þat togedere þey be in neste
 Uncore as flourus jeo voile aler
 Qe ne soit mye oblier.
 ȝytt to flourus y wyl go
 auycy tete vaut pareus oseus ambedeus je

- (588) pat hyt be nat forȝete [113^r]
 Yl y ad flour de sworcye
 Qe as lez eulez fait grant aïe.
 Me haþ flour of þe rode
 pat to eyen doþ gret helpe
 Primerose & primeveire,
 Que moustrent en temps de veire.
 Primerose & kowslyppre
 (592) pat shewith hem in tyme of somer
 Et la consoude crest auxci,
 Comune erbe est a chescun.
 And þe dayesye wexith also

Comune erbe ys to every man
 h
 Ermoyse auxci trouerez,

596 Et plantayne si lez querez.

Mugwort also ye shal fynd

(596) And waybred ȝyf ye seche

Mez si vous trouvez en vostre erber

Ameroke ou glocomer,

But ȝyf yow fynde in erber

Merche oþer clothe

Lez arasshez ove un bisacu

600 Et plantez cholet en lour lieu.

Hym raseþ upp with a mattok

^a feet ^b graunt ^c cum ^d u ^e moutrent ^f tems ^g cret ⁱaucy checony
^h aucy leu

(600) And setteþ wortes in hare place

[113^v]

En verger ou arbres cressent,

Pur charge du frut plusourus abessent.

En erber wher trees wexyþ

Ffor charge of frut manye boweþ

Pomer, perysyr & seryser

604 Ffrene, jenet & pruner,

Appiltre peretretre & cherytre

(604) Assh brom & plowmtre

Ceneiler que ceneilez porte,

Ffourder que fourdeynez porte,

Hawe þorin þat hawes beruþ

Sloþorin þat sloez beruþ

Et glentre porte lez piperongez,

608 Et creker que porte lez crekez roundez.

And bremyl þat beruþ þe hepe

(608) And þe bolace tre þat beruþ þe bolacez round

^a Auxci avez lez coignieres

En plusourus des vergers.

Also ye havyþ þys coigne treys
 In manye of þis erberes
 Dount il y ad diversité grant,
 612 Et multez ne savent quant.
 Wherof me haþ diversite gret
^a
 aucy

- (612) And manye knowe nat how manye [114r]
 Lez seignoures fount lour naifes coigner
 En lour ceeps pur chastiser.
 pyse lordes doth þyse bondemen in stokkys
 In hare kyves for to chaste
 Et pernez le coigne, abatez le coigner,
 616 Et cepez un coyne du coigner.
 And takeþ þe quynz smytt doun þe coyntrae
 (616) And hakkeþ a wegge of þe coyntrae
^a ^b
 Et coignier est il ensement,
^c
 Qi fait moneye de bone argent.
 And a coyner ys he al so
 þat makeþ moneye of goud sylver
^d
 Et autres arbres sount auxci
^e
 620 Pur apren dre chescuny,
 And oþer trees þer beþ also
 (620) Ffor to lerne of everyche
^e
 Biux paulmer & arrable
^f ^f
 Qi crest multfoitȝ en tere arable.
 Box palmer & mapyl
 þat wexyþ manye tymes in lond arable
^g
 Et la hiussie y crest aucy en verger,
^h
 624 Qy poy vault pur edifier.
 And holun wexyþ also in orchard
^a ^b ^c ^d ^e ^e ^f ^f
 eet Il feet aucy checuny palmer cret mutfoitȝ
^g ^h
 cret vaut

(624) þat lytyl ys worth to buld [114^v]

Et le lorme il ^acrestaucy,
Coie arbre a chescuny,

And þe elle hyt *grewyth* also

Comune tre to every man

Saal, chene & yff,

628 Dequele *franceis* n'y ad striff.

Wethy assh & hw

(628) Of wych frensh haþ no strif

De *nominibus avium.*

Q^cuaunt de ^dverger avoms le choys,
^eOre aloms jewer en boys.

When of orchard we havyþ þe choys

Now go we to pleye in wode

Oyer le russinole, le gale

632 Oy melour chaunte syngeþ que huwayn en sale.

To here þe note of þe nyȝttingale

(632) þat beter syngeþ þanne doþ þe owle in halle

Et mellour chaunte le maveys en bossoun

^fQe le sors in measoun.

And better syngeþ þe prostyl in þe busshe

Þanne þe rethemous in þe hous

En braunche seet la merele,

636 En mareis demurmt la herele.

^achescuny ^bfraunceys cum u ^cquaunt cum u ^dpro ^equando
avoumis alommis mesoun

In braunche sett þe þrosshe

[115^r]

(636) In mareis duellyþ þe shield drake

Unquore avez le ffylaundre,

Et le oysel par noun chalandre.

ȝytt have ye þe star

And þe bryd by name wodelarke

En four maynt le salemandre,

- 640 Lez pisson ove eylez paunde.
 In Owen dwellyþ þe creket
 (640) þyse fysshes with fynnes swymmeþ
 Eyle & eley sount divers,
^a ^b
 Discordaunt diount lez clerks.
 Ffynnes & wyngez be divers
 Discordyne seyen þyze clerkes
 Ove eiles naount lez pissoms,
 644 Et ove elez volent les mussoms.
 With fynnes swymmeþ þyze ffysshes
 (644) And with wynges fleeþ þyse sparues
^c
 Ensi avoms noer, nager & neger,
^d
 Dount la resoun fait assaver.
 Also we havyþ to drowne swymme rome & snowe
 Wheroft þe resoun ys to wyte
^e
 En mear naee le pissoun,
^f
 648 En mear est naee mult prodom.
 discordauant cum u clers avoumis feet meer
^a ^b ^c ^d ^e
^f mut
 In see swymmeth þe fyssh [115^v]
 (648) In see ys drowned many goudman
 Et ove viroums doit homme nager
 En batil, ou est bon mariner.
 And with ores shal man rowe
 In boot wher ys a goud mariner
^a
 Mais en yvere veioms neger
 652 Et lez amphez enviroun voler.
 But in wynter we seyþ snowe
 (652) And þyze fladis aboute fle
^b ^c
 Avoms auxci espandre & espeandre,
 Espandre ensement & paundre.
 We havyþ also espandre & espeandre
 Espandre also & paundre

- Il espande conseil d'amy,
 656 Qi discovere ne doit a null^dy.
- He sheweþ conseyl of a frend
 (656) þat discovere ne shold to no man^e
 Et l'enfaunt multfoith espeande
 Hors de esquil soun viande.
 And a chyld ofte tyme shedeþ
 Out of hys dysch hys mete
 Et ove eilez paunde pissoun,
 660 Quaunt vif en rey luy pernoun.
 vioumis aucy epandre nuly l'enfaunt cum u^f
 mutfoiz equyl ly^g^h

- And with fynnes swymmeþ þe fyssh
 (660) Whanne quyk in nett hym we takeþ
 Mez espeandre est un *parole*,
 Qi clerks usent in lour escole.
 But to spele ys a speche
 þat clerkes usen in hare scole
 Et si ils espandent naturalment,
 664 Toutz lez letrez ensemble preignent.
 And ȝyf þey spele kyndely
 (664) Alle þyze letres togedere þey takeþ
 Unqore as oseaux redirroms
 Ou pluis aprendre y purroms.
 ȝyt to bryddys say we azen
 Wher more lerne þere we mowe
 En chaumbre & aillourus auxci,
 668 Depeint homme l'oisel asci,
 In chambre & oþer placez also
 (668) Peyntith man þat bryd wodekok
 Et le verreder ensem^{ent}.
 Et il ad double entendement.
 And þe rowddok also

[116r]

And hyt haþ double entendement

Ly ad verreder & veredir :

672 L'une est oisel, l'autre forester,

clers ecole letres oseus rediroumis purroumis
aucy yl

Me haþ verreder & veredir

[116^v]

(672) þe on ys a brydd þat oþer a forester

Qar ^a par luy vole le verreder,
^b
Et ceo vit ^c bien le veredir.

ffore by hym ffleeb þe ruddok

And þat seeth wel þe forester
Et ^c doncue vient une reistele,

676 Volauant enviroun un trassle.

And þanne comeþ a wrenne

(676) Ffleynge aboute a stok

Et mult ^d pleast un petit reistele,
^e
A vironer ^f un grant trasselle,

And much hit plesuþ a lytyl wrenne

To go aboute a gret stok

^g ^h ⁱ
Qe ascun ^j beal touche du viele

680 Ou le note d'une fistele.

þan eny fayr touch of þe vyþele

(680) Oþer þe note of þe pipe

Unqore avez un mussenge,

Si lez haies ou boys renge.

ȝytt have ye on hekemose

ȝyf þyze hegges in wod ye seche

Dilacez ^k vostre renge,

684 Si renger volez le mussenge.

^a ^b ^c ^d ^e ^f ^g ^h ⁱ
ly ce vint mut pleet graunt cum u acun beel vile

Ungyrd your swerd gyrdyl

[117^r]

(684) ȝyf ye wyle seke þe hekemose

- Auxci avez le palevole
 Et ensement le chardinole.
 Also ye have þe goddyskow
 And also þe goldfynch
 Unqore avoms lez pampilonis,
 688 Qi volunteers volount *par* chardoms,
 ȝytt have we þyze botterfliez
 (688) þat gladly fleeþ by thystles
 Et en lez rounceux ensement
 Usent a seer naturalment.
 And in þyze breres also
 þey usyn to sytte kyndely
 Mez ceo ne veeut pas le grissilour,
 692 Qe en curtilagez prent soun sojour.
 But so wyl nat þe grashoppere
 (692) þat in curtelagez takeþ hys reste
 Ne le hyrsoun n'ayme ryen pluis
 Que prendre pommes que chient jus.
 Ne þe yrchon loved no þyng more
 þanne take apples þat leth lowe
 Mugez & wybez ne fount mye,
 696 Qar ils ayment pluis la urtie.
 a b c d e f
 aucty avoumis rounseus ce veut ryin

[117^v]

- Ffliez ne gnattez ne doþ nouȝth
 (696) Ffor þey love better þe netle
 a Ensy avoms ane & pluisoun,
 Et en ryver ound lour mansyon.
 Also we havyþ henede & doke
 In ryver þey have hare dwellynge
 En morez maingnent lez vanelez,
 b En villez sount lez venelez.
 700 In mores duellyþ þyze lepewynkes
 (700) In townes beþ þyze lanez

En *grange* usoms la vaan,
 Et le envious ad le haan.
 In *graunge* we usen þe wanne
 And þe envious haþ þe hate
 Cy vient volaunt un [ouwe] roser,
 704 Une brallet a luy est socier.

Here comyþ fleynge a wylde goos
 (704) A *brandgoos* to hym ys felawet
 Et mult vault une brallet estre pu,
 Mult melour que char du fru.
 And much ys worþ a *brandgoos* yrosted
 Muche betere þan þe flesh of a rook
 Et pluis est ignel une arounde
 708 Qe ascune cygoine qu'est en monde.
 avouomis ^a viley ^b usouuns ^c vint ^d ly ^e mut ^f vaut
 acun ^g queest

And more ys swyfter a swalue
 (708) þan eny snyte þat ys in world
 Et le apie a la severounde
 Prent le mussoun & l'arounde.
 And þe bee at þe hous efȝe
 Takeþ þe sparue & þe swalue
 Et le oisel qi ad noun bibikay
 712 Prés la ryver est pris en las.
 And þe bryd þat haþ name beke
 (712) By þe ryver ys take in *gren*
 Chaunt ^e de cokkow en esté avoms,
 Pur ^b praiser ceo ne tendoms.
 Song of kokkow in somer we have
 To preyse þat take we noun hede
 Mez ^c pluis vault pel de ffoun
 716 Qe chaunt d'asyne ou de poun.
 But more ys worþ þe skyn of a foyn

[118r]

(716) Pan songe of asse oper of pown .i. pane
 Mez du poun la beale cowe

Est dilitable a la vewe.

But of þe pokok þe fayr tayl

Ys dilatable to þe syȝthe

Mez pluis ayme archer penne de poun

720 Qe en escheker mat de paun.

avoums tendouuns vaut dayne bele echeke^a^b^c^d^e^f

But more loveþ þe archer þe penne of þe pakok

[118v]

(720) Pan in cheker a mat of þe paun

De nominibus animalium.

J^aeo veie un grant toisoun

Et guerry ad sa mansion,

I saw a gret brok

And haþ forsake hys dwellyng place

Pur le fein d'un gopyl,

724 Qi luy ad mys en exil.

Ffor þe stynke of a vox

(724) þat hym haþ put owte

Et hony soit le mal putoys,

Si soit en ville ou en boys.

And wo be þe evyl putoyse

ȝyf he be in toun or wode

Et mal aventure a luy soyt,

728 la grete gelyne a luy retrait.

And evyl aventure to hym be

(728) Pe grete hen to hym he draweþ

Mez pluis vault un belete

Pur fayr ma graunge de ratouns nete,

But more ys [worþ] a keme

To make my graunge of ratones clene

Qe toutz les taulpes jesque a Paris,

a b c d e f g h
je mijs vile ly vaut fere taupes jeque

- 732 Qe sount talpines en lez prees [119^r]
 panne alle þe moulez fram henne to parys
 (732) þat makeþ molhepes in þys medes

De *proprietatibus* bige.

Le charet jeo voile discr^bire
 Et mettre yci en nostre livere.

- Of þe cart y wyl discr^bive
 And put hyt here in oure book
 De lez roos *vous* di primour
 736 Et puis de bendeux *que* sount entour.

- Of þe whyles yow y say fyrst
 (736) And after of þyze bendes þat beþ aboute
 En lez bendez *que* sount de fer
 Sount lez chauntez entachez de fer.

- In þis bondez þat beþ of yre
 Beþ þyze spichez y tachet of yre
 En lez jauntey entrent lez raes,
 740 Et de solayl issent lez rayes,
 In þese felghes entren þese spokes

- (740) And of þe sonne goþ out þese sonne bemes
 Mez lez raes en le charet
 En lez moaux est lour resset.
 But þese spokes in þe cart
 In þese nauez ys hare resset
 tapines dicrie bendeus mous

- Lez moaux gisent entre le roof [119^v]
 744 Toutdroit com le moel de l'oof.
 þese namez leggeþ withynne þe wheyle
 (744) Ryght as þe yelk of an ay
 Un est fait pur grant charge porter,

- Et luy autre *pur* bon manger.
 On ys mad to bere *gret* charge
 pat oþer for *gret* goud mete
 Mez en le moel gist l'essel
 748 Et deux hetes se tiegnent.
 But in þe nave lyþ þe ȝextre
 (748) And tuo ronges holdyn hyt evene
 Si le chart ait bonez brasez,
 Fferme lye as lez esseux.
 ȝyf þe cart have goud bondes
 Ffaste ybounde to þyze ȝextres
 Et si deins lez moaux sount soverez,
 752 Donque en fault rien fors que eskeles.
 And ȝyf withynne þese navez be cloutez
 (752) þan fayleþ noþyng but ladderys
 Mez *pur* estre pluis artilous,
 Dez esseux vous dirrai pluis.
 But for to be þe more craftious
 Of ȝextres yow I shal say more
 mool feet ly deus esseus mous faut forque
 ekelez vou
- En le mear naent lez raies [120^r]
 756 Et vers lez faires veignent lez raies.
 In þe se swymmeþ þese rayes .i. pisces
 (756) And toward fayres comeþ rayes .i. vestura
 Auxci avoms essel & assel
 Et la tierce parole huisselle.
 Also we havyþ essel & assel
 And þe thrydde word huisselle
 Le chart gist sur le assel
 760 Et en le moel gist le essel.
 þe cart lyþ on þe ȝextre
 (760) And in þe nawe lyþ þe ȝex

- Mez le huissell avez vous
 ^d
 En vostre bras *par* desoubz.
- But þe arm hole have yow
 In *your* armez bynethe
 En lez lymonis vat le lymeour
- 764 Et en dos porte soun dosser,
 In þe lymones goþ þe lymener
- (764) And on hys rugge he beruþ hys rygrope
 Et al ventre le venter,
 Et a la cowe le vauner,
 And at þe wombe hys womb erope
 And at þe tayl þe taylorope
 ^a ^b ^c ^d
 meer avoumis git souz

Ventrere & ventrer ^a il y ad.

[120^v]

- 768 Divers sont com ffraunceys dit me ad divers.
 A mydwyff & a wombrope me haþ
- (768) þey beþ as Frenssh me haþ seyd
 Ventrere est proprement nomé
 ^b
 Une femme, que en ville demurre
 Ventrere ys proprelyche ynamed
 A womman þat in toune dwellyþ
 Pur aider en cas sa vecine,
- 772 Quant ele girra en gesyne.
 To helpe in cas here neyȝbore
- (772) Whanne she shal lygge in gesyne
 Mez proprement dit homme ventrer,
 Qe a ventre porte le lemer.
 But proprely seyþ man ventrer
 þat at wombe beruþ þe lemer
 Le traser od le braserole,
- 776 Que lez lymoms brace a cole
 þe trays wyþ þe brasyng eye
- (776) þat þyze lymoms brasyþ togedere

Devant lez bracerolez sount bilettes,

Taylez de coteaux ou hachettes.

Afore þyze brasyngeyez beþ pyñnes

Taylez ycorve with knyves or hachettes

[121^r]

Lez coiez du chivales portent eisselez,
780 Escolers de cuver que leur hosslez

Rese nekkes of hors berub hawnbergez

Galaxies of luminosity with branch luminosities

(186) Colors of Egypt with their Significances

Et si je charader ad sa morte,

D'où l'avez-vous tiré, monsieur?

And syt þe carter have his whyppe

Where with pyze hors in cours ne resortez
b

Donque ad tout que a luy appent.

784 Et assez suffit, si luy tient.

þanne hath he al þat hym bylongeþ

(784) And ynouȝt hit suffizeþ he hym holdeþ
 c
 Mez pur estre pluis sachantz.

Vous dira eynez que passe avant

But to be more convynge

Yow more v shal say here v passe for be

Le droit a fayre a chareiter

788 Et ensement le charuer.

þe ryȝtth to do to þe carter

(788) And also to be godenge

Le charetter le stile avera.

Douent lez chivalez correierq.

Ye kartere be hors combe shal have

Wher with hys hors he shal correye
a b c d
seclera by stre for.

[121v]

Et le bouer ne teigne a gas

792 Pur bien ffroter sez bestez ove cordas.

- And þe oxeherde holdeþ hyt no trifle
 (792) Ffor wel to ffrote hys oxen with a waȝe
 ^b ^c
 Einz q'ils sount bien enbeverez,
 Mez al soir sount waiez.
 Ere þey be wel ywatered
 But at even þey shal be wel wassh
 ^d
 Waier yl ad proprement,
 796 Si dit l'autor qie ne ment,
 A wayre me hath proprely
 (796) So seyþ þe autor þat lyeþ nat
 ^e
 Qar beofs & chivaley sount waiez
 Et totez autres bestes lavez.
 Ffore oxen & hors beþ ywatered
 And al oþer bestes ywasshe [De proprietatibus aratri]
Puis q'ore suffit du charet,
 800 De la charue ore me entremet.
 After þat hyt suffiȝeth of þe cart
 (800) Of þe plowe now y wyl me entremette
 En la charue avez vous
 Diversez nouns & merveilous.
 In þe plow have ye
 Divers namez and merweylous
 ^a ^b ^c ^d ^e
 betez qu[i]ls been Il beefs
- [122^r]
- Primez le chieff & le penoun,
 804 Donque le manuel & le tenoun.
 Flyrst þe heved & þe foot
 (804) þanne þe handle & þe stylte
 ^b ^c
 Par desoubz gist le oriloun,
 ^d
 Et pluis amount est leschecoun.
 Bysythe lyþe þe ryȝtthe
 And more above lyþe þe shelfryȝtth
 Le soche ensy & le ffomer

- 808 Avera le charue de droyt dever.
 Pe cultor also & pe shar
 (808) Shal pe plow have of ryȝtth deute
 En longe la charue gist la haie,
 e
 Qi vient de boys ou de haye.
 In longes pe plow lyþ pe beem
 Pat comeþ of wode or of hegge
 Unqore avez un mallet
 812 Et un mondeloun pur faire luy nette.
 ȝyt have ye a maylet
 (812) And an gretstaf to make hyt clene
 Les boofs portent lez jueſ
 Pur cristienx & pur Jewes.
 Pyze oxen beryþ pyze yokes
 Ffor cristen men & for Jewes
 cheif souz gjit Iechecoun vint fere ly

[122^v]

- Et par lez acoms fichez en juēs
 816 Dont lez beofs si forts artés,
 And by þese bowes ystyket in yokes
 (816) Beþ þese oxen yforset so harde
 a
 Qy lez covient maugré loure
 b
 Par l'auguiloun eschuer error.
 Pat hem byhouyþ maugre hem
 By þe gode eschue error

Ad edificandum domos.

- S**i vous avez en penser
 820 Measoun ou chambre pur edifier,
 þyf ye have in þouȝt
 (820) Howz or chaumber for to buld
 e
 Il covient al commencement
 f
 Pur fayre un boun foundement,
 Hyt byhouyþ at þe fyrste

- To make a goud foundement
 Et pluis pur lever le meisere,
 824 Dount femme est dit messnere.
- And more to rere uppe þe helewoghes
 (824) Where of a womman ys sayd houswyf
 Il y ad messier & meisserre :
 Entenduz en divers manere.
 Me haþ messier & meisserre
^a^b^c^d^e^f covint echuer vou mesoun covint fere
- Understande in divers manere [123^r]
 Lez messierez ount lez champs en cure,
 828 Mez meisserre fait le meason sure.
 Pese haywardes haven þis feld in cure
 (828) But hous woghes makyn hous sure
^b Ceo est le mure qi enclose le court,
 Mez ceo est meisserre on couple la zhourt.
 þat ys þe wal þat encloseþ þe court.
 But þat ys meisserre þat closeþ þe roff togedere
 Et un pareye est ensement.
- 832 De l'une part & de l'autre prent.
 And a wal hyt ys also
 (832) Off on part & other hyt takeþ
^c Sur la meisserre en travers oultre
 Amount le celer mettez poutre.
 On þe woghe in travers above
 Above þe celer put a poudre
 La poutre en sale doit homme poser
 836 Et le poutre ensy en soler,
 þe poudre in halle shal man putte
 (836) And þe poudre also in soler
 Et sur lez soiloms le plancyé,
 De bord ou plastre bien pavyé.
 And on þese gystez þe plauchys

a b c
feet ce outre

- Of bord or plaster wel ypavyd [123v]
- Sur la meissiere lez trahes mettez,*
 840 *De deux chiveroms un couple facez,*
On þe woghes seþ youre bemez
 (840) *Of tuo rafters a couple makeþ*
Qi ferme estera sur le meisserē
Par kiville & par terere.
- Þat faste shal stande uppon þe woghe
 By þe treyn pyn & by þe wymbyl
Donque ne fault mez comble par noun,
 844 *De tout amount le measoun.*
- Þanne fayleþ nouȝth but rof by name
 (844) *Al abowe þe hovs*
Covient d'aver un longe gwenchuron,
Dount le couple est pluis suor.
- Hyt byhouyþ to have a long lyene
 Wher of þe couple ys more cuer
Mez pur pluis avaunt parler
 848 *Vous ne devez o[b]lier.*
- Butte for more ferther to speke
 (848) *Ye shulle nauȝth forȝete*
Et vous covient d'aver brenchoms
De cloams ffychez a voz measonez,
And yow by houyþ to have latys
deus chiveroums eiȝterea kivile faut mesoun
covint you clays

- Wyþ naylez ynayled to youre house [124r]
Et trenchoms a la pareie auxci.
- 852 *Pur cele aprise jeo vous di,*
And stantyz to walle also
- (852) *ffor swich a lernyng y yow say*

- Qar il y ad trenchoms & trenchesoms,
 Dount discord ad de nouns,
 Ffor me haþ trenchoms & trenchesoms
 Wheroſ discord ys of namez
 Qar trenchoms fount as measones
 856 Et trenchesoms fount morer chivalez.
 Ffor stantiz beþ mad to housez
 (856) And trenchesoms makyn hors dye
 Et en chivalex sount nomement,
 Ou ils mangent malement.
 And in hors they beþ namely
 When þey eten evyle
 Unqore fait bien a saver
 860 Qe endroit measoun a faire.
 zytte be hyt wel to wytte
 (860) þat in ryȝth of an hous to make
 De never il covient estre
 Bone laumeire & fenestre.
 Of deute hyt byhovyþ to be
 auyt chivalez feet afere il etre fenetre

- Goud lover & wyndow
 Aumeire & ameire y ad.
 864 A l'aumeire fume issera,
 Lover & almarye me haþ
 (864) At þe lover fume goþ out
 Qar en Fraunce est ameire nomé
 Qy cy est lover apelle
 þat en fraunce ys aumeyre named
 þat here lover ys apelyt i. nominatus
 Mez ceo est proprement aumeire,
 868 Ou l'em mette viande ou viaire.
 But þat ys properly a almarie
 (868) Wherynne men putte viande

[124v]

A l'entré de huis est le lyme,
 a b
 Et oultre la teste est le suislyne.

At þe entre of þe dore ys þe thresfold

And above þe heved ys þe overchek
 c d
 Par le costé sount lez lymaux deus,

872 Ou l'em deyt prendre le huis.

Bysithe beþ þyse dore harrez tweyes

(872) When men schal take þe dore

Et un gymel pendoms noz gumphs,

Quaunt deux vertilez nous avoms.

In þe chymptre we henge oure hokes
 a b c d
 outre tete lymeus deus

ȝyff tuo twystez we have

a
 Ore faitez cleket & serrure,

876 Et donque est le measoun tout sure.

Now makeþ clyket & loke

(876) And þanne ys þe hous al seker

b
 Mondez le measoun, coilez, jonchez,

Mettez la table, donque coverez la,

Make clene þe hous gadere rysshenn

Laye þe table þanne kevere hyre

c
 A meynz que soyt estable,

880 De unne nape coverey le haut table,

Anon þat hyt by do

(880) Wyth a cloth kevere þeheyȝhe table

d
 Et la secunde auxci coverez

e
 De blaunche nape, si vous avez.

And þe secunde also kevere

Wyp whyt naperie ȝyf ye have

f
 Et si la sale soyt tropt salee,

884 N'est mye a preyser en sale.

And ȝyf þe halle be over fowle

(884) Hyt ys nat to preyse in halle

[125^r]

Pluis vault blaunche nape mult usé^g^h

Qe la novel mult enbowé.

More ys worth whyȝt cloth yused

fetez mesoun etableaucy vou trop secundum quosdam^a^b^d^e^f
vaut meut^g^h

[125^v]

pānne þe newe muche enboweþ

Lavez hanapez, moundez esquilez,^a

888 Lez anglez copez jesque as ascieles.^b^b

Wassh coppez make clene dissches

(888) pys angles swope in to corneres

Ale a quystron ove toun havet^c

Et estreiez le hagyz du posnet,

Go to þe quistron wyþ þyñ fleshok

And draweþ out þe hagys of þe posnet

Et mettez a vostre veile ruche

892 Desouth voz potz, non pas la luche.^d^e

And put to youre olde hyve

(892) Above your pott nat þe ladyl

Alez a luchere ove la luche,

Et priez la dame que ta coiffe luche.

Go ye to þe slykestere with þe slykston

And pray þt dame þat she þy coyfe slyke

Mez a la ruche redirroms^f

896 Ou pluis aprendre y purroms.^g

But to þe hyve say we azen

(896) When more lerne we þere mowe

La ruche servira de aeps,^h

Ou noz vioms voler les dees,ⁱ

Þe hyve servyþ for been

equiles jeqz acilez quitron desouz poz rediroumis^a^b^c^d^e^f
puroumis as vioumis^g^hⁱ

When we se fle þe swermez

[126^r]

Un par soy synglement.

900 A hony be est proprement

On by hymselffe syngerly

(900) An hony bee ys proprely

Et proprement un dez d'ees

En anglysh est *a swarm of bees*.

And proprely on of þys bees

In Englys ys a swyrme of bees

^a ^b
Et ceo est un ree du meal nomé

904 Qe en ruche fount lez aeps de gré.

And þat ys a combe of hony ycalled

(904) þat in hywe makyn þyze bees of gre

De proprietatibus nominum.

Requilez bon gent a manger,
^c ^d
Si poez vous mesmez aloſé.

Prayeþ goud folk to mete

So may yow yeself alose

Trenchez cest payn q'est paré,

908 Lez bisilez soient pur Dieu doné.

Kerveþ þe bred þat ys pared

(908) þis parelez befor god yȝyue

^g ^h
De coteal trenchez sez biseaux,

ⁱ ^k ^l
De quyler mangoums ceux meaux.

^a ^b ^c ^d ^e ^f ^g ^h
ce meel vou memez biseus du cotel biseus
ⁱ ^k ^l
mangoumis ceus meyez

Wyþ knyff kerve ye þis crommez

[126^v]

Togydere ete we þis myez

Ffrushez le Payne chaude de flour

912 Ffrushez .i. brekeþ þis bred hot of owyn

^a
Brussez les oos du venour.

(912) Brusseþ þis bones of þe hontere

Rompés la corde du nusaunce,

Ffreignez covenant de discevaunce.

Brekeþ þe corde of nusaunce

Brekeþ covenauant of disceyvaunce

^b Cy vient un garsoun tout sclavote,

^c ^d Bien luy apert distre harlotte.

Here comeþ a boy al by sqvyrt

(916) Hym semeth wel to be a harlot

Et plusours ad dez esclavos,

^e A cause q'il ne feut a chival doos.

And manye he hath of sqvyrtis

Bycause he whas not on a hors bak

^f Ffiems qissera de measoun sous,

920 Ffait sale nappe & table gracious,

Stynk þat goþ out of þe hoggys hous

(920) Make foul nappe & table gracious

^h Et erbe que crest a l'huis d'estable.

Ffait blaunche nappe & megre table.

^a ^b ^c ^d ^e ^f ^g ^h oos vint ly detre qijl meson feet cret

And erbe þat groweþ at þe dore of þe stable

[127^r]

Make whyȝt naperie & lene table

^a

Pernez valet en voz escouz

924 De haryng sour de ffraiel rous.

Takeþ yoman in youre slyttes

(924) Of haryng red of þe frayel red

Par devaunt avez escouz

^b

Et de cousté avez geroms.

Byfore ye have slyttys

And bysyde beþ gores

^c Deux garsoms chacent grant pray,

^d

928 Al chescun moot l'une baylai.

Two gromez renneþ gret sped

(928) At every word þat on flafflet

^e

Et l'autre ne peut parler

Une parole sanz nascier.

- And þat other may nat speke
 A word withoute snefflynge
 f
 Et toutfoith il nascie,
 g
 932 A peine vault une alye.
 And alway he sneflyþ
 (932) Unneþe ys he worth a pese
 Il y ad tusser & escaper
 Ruper, vomer & estremer.
 a b c d e f g
 ecouz couȝtthe deus checun lautre toutfoiz vaut
- Me havyþ to couȝtthe & to spete [127v]
 Remynge spwyng & spetyng
 Homme doit tusser de droyt,
 a
 936 Qi trop de servoise bevoyt.
 A man shal couȝtthe of ryttthe
 (936) þat over moche of ale haþ ydrone
 b c
 Covient luy doyt escoper
 d
 Et cel qi muche, masche ou gouste.
 Ynowȝ he shal spete
 And he þat smakkeþ swolleþ or takeþ
 Un grant gate luy mettez gouste,
 e f
 940 Qar ruper luy estut tresbien,
 A gret rebaud hym put to ete
 (940) Ffor respyn he mot fulwel
 g
 Ou vomer mult maugré souñ,
 h
 Mez qi estremer peut sovent.
 Oner spwe muche maugre hym
 But he þat snoze may ynowȝ
 San est & ad leggement
 944 J'ay de femme ay disceyt grant,
 Hool he ys & hath moisture
 (944) I of womman have yhurd disceyt gret
 Qi par orgoyle se forcent tant,
 i
 En p[ar]lance toutditz a blesere,

^atrof secundum quosdam ^bly ^cecoper ^dmache ^eetut ^ftreben ^gmut
^hetremer toutdiz

þat by pride hem forseþ muche

[128^r]

In spekyng alway to lypse
^aPur soun aimez pluis a *pleasere*.

Ffor hare lovez more to plese

- 948 **U**n valet de la novellerie,
^bQi vient d'une grant mangerie.

- (948) A yoman of þe newe get
 þat cometh fram a greit feste
^cDe la feste moy ad counté
 Com lour servise feut araié.
 Of þe feste me haþ ytold
 As hare servise was arayde
- 952 Sanz payn & sanz bon servoise,
 Ne serra homme al feste bien a eise.
- (952) Withoute bred & withoute goud ale
 Ne shal man at feste be wel at eze
^dMez d'autre chose fait a saver
 De cours qi feut al primer:
 But of oþer þynge hyt ys to wyte
 Of þe cours þat was ffyrst

- 956 La teste du sengler armé
 Et le groyn bien baneré,
- (956) þe heved of þe boor yarmed
 And þe groyn wel ybanereth
^aplesere ^bvint ^cfete ^ddautre ^efeet

- 958 Puis venesoun ove furmente,

^aEt puis autre diversité.

Affter vensoun wyþ furmente

And after oþer diversite

- 960 Dez grus, pouns & cignez

[128^v]

Treatise : *Femina*

- b
Chiveraux, porceles & gelinez,
(960) Of cranes, pokokys & swanes
Kydes, pygges & hennes
Puis avoient conies en grave,
c
Tresbien en sugre enfouindrē.
After þey hadde conies in gravez
Fful wel in zeugre yfoundret
964 Puis y ount autere fusoun de rost,
d e
Chescun deux en autre cost.
(964) After þey hadde oþer fusoun of rost
Every tuo in oþer side
Ffesantz d'asciez & perdryz,
f
Gryues, aloys & toutz rostiz,
Ffesantez, wodekockes & perdryches,
Ffeldfares larkes & alle yrostud
968 Brayon crispis & friture.
Ove zugre roset en temperure
(968) Brawoun crispis & freturyss
With zeugre roset in temperure
a b c d e f
autre chivercus tresben checun dens touz

[129r]

- Macez, quibibz & clovez gilosfrés
a
Et dez autres espicez assez,
Macez quibibz & cloues gyloffre.
And of oþer spicsez ynowȝ
b c d
972 Et quaunt la table fuist outé
Grant poudre ove bon draggé
(972) And whanne þe table was yled
Gret poudre wyþ goud dragge
e
Et d'autre nobleye fuist fusoun
Et ore finie icy ma resoun
And of oþer nobleye was fusoun
And now þe ende here my resoun

- De moribus infantis
- 976 **O**re nurture jeo voile aprendre
 A totez *qui* sount d'age tendre,
- (976) Now nurture y wyl teche
 To al þat ben of age tendre
 Et pur verité je *vous* di.
 Hony est il *qui* n'est norry
 And forsoth y yow say
 Heny is he þat ys nat tauȝth
- 980 Ore escotez, moun chier fitz,
 Coment jeo voile *que* soiez norrys.
- (980) Now take hede my dere sone
 epicez *quaunt* cum u pro quando feut ouȝtthe dautre je
 voun nett cheer fiz
- How y wyle þat ye be norshet [129v]
 Jeo voile tout al primour
 Qe soiez humble & plein de doulçor.
 I wyl at þe fyrst
 þat ye be lowe & ful of goudnesse
- 984 Soiez ensy ffranke & bonere,
 Sanz misditz & sanz mesfayre.
- (984) Be ye also fre & bonere
 Withoute myssaynge & mysdoynge
 Et de beale porture entre le gent.
 Ne trop hault, mez mesnement
 And a faire porter amongez folk
 Nat to hye but menelych
- 988 De totez gentz serrez le pluis amé
 Et sagez serres aloſé.
- (988) Of alle folk ye shal be more yloved
 And wijs ye shal be alosed
 Toutz jours vous *prie* qe soiez sagez
 Et *que* vous ne facez nullez outragez.

- Al dayz y pray yow þat ye be wys
 And þat ye make noon outrages
 992 A nulle homme q'est vivant
 k Ne vers en femme ne vers enfant.
 (992) To noman þat ys levyng
 a b c d e f g
 je docour mediz mefere bele trof secundum quosdam haut
 h i k l
 vos nulez qeet enfant cum u

- Ne azens womman ne chyld [130r]
 994 Et quaunt vous serrez entre le gent,
 Gardez vostre lange sagement,
 And whanne ye shul be amongez folk
 Kepe youre tonge wysly
 b
 996 Et sy avez ascun enchesoun
 c Pur demonstrer vostre resoun:
 (996) And ȝyf ye have eny enchesoun
 Ffor to shewe youre resoun
 Court & bref soit vostre langage,
 Et le muz serrez amé du sage.
 Short & lytyl be youre langage
 And þe bettere ye shalle be loved of þe wyze
 1000 Et quaunt voilez parler
 Et vostre resoun demonstrer,
 (1000) And whanne ye wyl speke
 And your reson shewe
 Et si vous soiez aresoné
 d De jeone homme ou de eigné.
 And ȝyf ye be aresonet
 Of yong man ne of old
 1004 Luy entendez bien, ne soiez hastiz.
 Et quaunt serrount passez tout lour ditz
 (1004) Hym understandyþ wel & be nat hasty
 a quaunt cum u pro quando acun demontre b c d e
 june diz

[130^v]

And whanne þey be passed al hare speche

En my lour front regardez ly,

Voz piees & mayns ne croulez.

In myddys þe ffront hem byholdyþ

Your feet & handez ne waggeþ nat

1008 Mez sagement & sanz misditz
Respoignez a tout lour ditz.

(1008) But wysly & withoute myssaynge

Ansuere to al hare saynge

Pur Dieu amour soiez bonere

Et cointez & sagez pur bien faire,
For godys love beth bonere

And quynþ & wys for wel to do

1012 Et de beale affaitement,
Pur bien acoynter ove le gent.

(1012) And of fayre affaitement

Ffor wel to be a coyntet with þe folk

Ne soiez pas dissafaitéz.

Jeo voile que soiez affaitéz,
Ne be ye nouþ unmaad

Y wyl þat ye be maad

1016 Ffrank, bonere & curteys

Et pur bien parler en franceys,

(1016) Ffre bonere & curtays

pez mydiz repoines du been fere bele affatemant
dissafetez je affetez

And for wel to speke in ffrenshe

Qar mult est langage alosé

De jentyl homme & bien amé.

[131^r]

Ffor muche hyt ys langaget wel ypreyzed

Of gentyl man & wel yloved

1020 Ffauxcete & faux gent
Sur tote rien jeo vous defend.

(1020) Ffalshede & fals folk

Over al þyng y yow defende
 Ne jammez a *vostre* voile
^e
 Ne avez en cuer ascun orgoyle,
 Ne nevere at youre wylle
 Ne havyþ in herte eny pride
^f
 1024 Qar ceo est le *surse* de toutz malez
^g
^h Et chief dez pecchez criminalez.

(1024) Ffor hyt ys uppemest of alle eveles

And heved of synneȝ *criminalez*
ⁱ
 C'est le pecché *que* fait le gent
 Morer & fyner malement.

þat ys þe synne þat makeþ folk

Deye & ende yvle
^j
 1028 Et alez toutfoitz entre le gent
^m
 Pur oyer & apprendre faytement.

(1028) And goþ alway amonbez folk

^a ^b ^b ^c ^d ^e ^f ^g ^h
 mut faussete faus reen vou acun ce touz cheef
ⁱ ^k ^l ^m
 ceet feet toutfoiz fetement

To here & lerne afetement

[131^v]

^a
 Et soiez de *beal* conteignment
^b
 Et portez *vous* mesnement.

And be ye of faire conteinement

And bere ye menely

1032 Et ne soiez pas envyous,

Ne plein dire ne anguissous.

(1032) And be ye nat envyous

Ne ful of *yre* ne anguissous
 Unquore vous *prie sur* tout rien
^c
 Qi de pecché *vous* gardez bien
 ȝytt y *pray* yow above al þyng
 þat of synne yow kepe welle
^e
 1036 Et en chescun rien *que* comencez

De la fyn toutfoitz purpensez.

(1036) And in every þyng þat ye bygynne

Of þe ende alway thenkeþ

Et soiez tout jour bon ^f*cristien*,

Amez ^gDieu *sur tote rien*.

And beth al day a goud *cristynman*

Love god above al þyngē

1040 Dote Dieu & seynte egliese,

Amez luy byen & soun ^hservice.

(1040) Dowte god & holy cherche

^a_b^c_d^e_f^g_hbeel vou reen been checun *crityen du ly*

Love hym wel & hys servise

^aLe muz *vous avendra* a toutz jours.

^b_cA tote gentz faitez honours.

þe beter shal ye come to al dayes

To alle folk do ye honour

1044 Et ore retenez ceo de moy :

^eOvesque lez bonez *vous mettray*,

(1044) And now holdeþ þat of me

With þe goudmen ye melde

Tout jour *serrez le muz sachant*,

Le muz amé, le pluis vailant.

Al day ye shal þe more konne

þe beter loved þe more yworth

1048 Et vous covient d'estre amable

Vers tout gent & compaignable.

(1048) And yow byhouþ to be amyable

A gaynez al folk & compaignable

^k_lDe beal porte *vers chescun homme*

De beal semblant. Ceo est la somme.

Of faire porte agaynes every man

Of fayre chyre þat ys þe best

1052 Et as femmes faitez honouris

[132r]

En ^o*vostre* vie a toutz jours,

(1052) And to *womman* do ye honours

^b_b ^c_b ^d_c ^e_d ^f_e ^g_f
touz gens fetez ce oveque sach'aunt cum u vailaunt
^h_i ^j_i ^k_j ^l_k ^m_l ⁿ_m ^o_n
cum u covint detre beel checun ce fetez votre

In *your* live at al dayes

[132^v]

Et a *femme* nomement,

Ou ele est ensigné ^a d'affaitement,

And to a *womman* namely

When she ys norshet & ytauyth

1056 Qar ^b d'eux veignent lez pruestez,

Lez honours & lez hautissez,

(1056) Ffor of hem comen þys pruesses

þis honours & þis hyȝnessez

Lez bienz ^c & lez joyez tout a un,

Dount moy est avys que il est soun.

þis joyey & þis goudes al to on

Wherfore myn awyis ys

1060 Qi de eux soy fayt hayer

Jammez ne luy verrez bien chever.

(1060) He þat of hem hym makeþ hate

Nevere shal ye se hym wel achyve

Pur ^f quele chose jeo vous prie,

Qe a bone femme soiez amy,

Ffor whych þyng e y yow pray

pat to a goud *womman* ye be frend

1064 Et sanz folye & sanz pecché.

Amez le bien sanz fauxcete

(1064) And withoute folye & synne

^a_d ^b_e ^c_f ^d_g ^e_h ^f_g ^g_h
daffetement deus beins eus ly je vou facete

Love here wel withoute falsede

[133^r]

^a Mez de une chose vous bien gardez:

Jammez en femme en affiez.

- But of on þyng take ye wel hede
 Nevere in womman ne trestuþ
- 1068 Pur sa valour ne pur sa priijs
 (1068) Sanz bon conseyl de *vous* amyz.
 (1068) Ffor hyre valoure ne for hyre prijs
 Withoute goud conseyl of *your* frendes
 Et jammez en *vostre* vie
 Ne *vous* avauntez de *vostre* amye.
 And nevere in *youre* lyve
 Ne avaunce yow naȝth of *your* loue
- 1072 Et quaunt *vous* voilez parler
 Et *vostre* resoun demonstrer,
 (1072) And whan ye wyl speke
 And *your* reson shewe
 Veiez q'il soit resoun,
 Sanz mysditz & tension.
 And lokeþ þat hyt be resoun
 Withoute myssaynge & chydynge
- 1076 Portez *vous* bien entre la gent,
 Et toutfoitez menement,
 (1076) Bere yowe wel amongez folk
 vou^a quaunt^b cum^c u pro quando^d demontre^e qijl mediz
 toutfoiz

- And al way menely
 Ne trop^a hault, ne trop^b bas,
 Qe l'em ne face de *vous* gas.
 Nat to hyye ne to lowe
 þat men ne make of yow no skorn
 1080 Amez, armez & chivalex,
 Si vous lez avez bonez & bealex.
 (1080) Loved armez & hors
 zyf ye hem have goud & fayre
 Si terre^e devez doner,

[133^v]

- Pensez ^f pur bien exploiter.
 3yf lond ye shal yeve
 penkeþ for wel to fulfylle
- 1084 Si vous donrez tout al commencement,
 Manger & boier ffranchement,
- (1084) 3yf ye shal yeve al at þe fyrst
 Mete & drynk frely
 A prodez hommez du pays,
 Robes & chivalex du prys,
 To goodemen of contre
 Robez & hors of prys
- 1088 Et as lez vaylauntez chivalers,
 Chivalez, villez & maneres
- (1088) And to þis vaylaunt knyȝtthez
 haut trof chivalez belez ^a ^b ^c ^d ^e ^f ^g tere bien vitez
- Hors townez & manerez [134^r]
 Et a lez damez beaux jewés
 Cotez de say, fyrmiaux d'orrez,
 And to þis ladyes fayre jewelley
 Cotez of say brochys of gold
- 1092 Et a bourdez & damyselez
 Symplez garlandez & chosez bealez.
- (1092) And to minstralez & damyselez
 Symple garlandez & þyngez fayre
 Chose asconfoitz est a doner
 Et asconfoitz a retener.
 Thynges oþerwhyle ys to ȝyve
 And oþher whyle to wyþhold
- 1096 Si l'autor dit en verité,
 Querez Catoun pur autorité.
- (1096) So þe autor seyþ in sothe
 Secheþ Catoun for autorite
 Dandum etenim aliquid est cum tempus postulat aut res.

- To yeve for sothe þynges ys
 Whan tyme askyþ of þyng
 Pur Dieu gardez vous bien.
 1100 Ne promitteþ nulle rien,
 Ffor god kepe yow welle
 (1100) Ne byhoteþ noþyng
 beus firmaus acunfoiz du been nule reen
- ^a
 Sur esperance d'autry.
^b ^c ^d
 Par venture n'est prest a luy,
 On hope of on oþer man
 Parauenture hyt ys nat redy to hym
^e
 Qar mult promittere & rien doner,
 1104 Ceo fait le fool multe conforte.
 For muche to byhote & lytyl yeve
 (1104) pat makeþ þe fool moche conforte
^f
 Si vous disir s pur sagez aloser,
^g
 Sis choses gardez en vostre cuer:
 ȝyf ye desyre to by holde wys
 Syx þynges kepeþ in yowre herte
 Cez sount com l'autor dit
^h
 1108 Et en latyn sount escript.
 þyse hyt beþ as þe autor seyþ
 (1108) And in latyn þey beþ ywryte
 Si sapiens fore vis sex cerua que *tibi* mando,
 Quid loqueris & ubi, cur cui, de quo, quomodo, quando.
 ȝyf þu wylt be wyse syx þu kepe
 þe whych to þe yhote
 What þu speke & when of what
 To whom why how whanne
ⁱ
 Et sur tout rien jeo vous requere,
 1112 Qe orgoyle n'aproche vostre cuer.
 esperauunce cum u neet preet ly mut feet vou
^a ^b ^c ^d ^e ^f ^f
^g ^h ⁱ
 vostre & vetre secundum quosdam escript je

[134^v]

[135^r]

- And above al þyng y yow byscche
- (1112) þat pride aproche nat youre herte
 a b
 Il distruunt totez vertuez
 b
 Et ouste d'omme lez bonez duez.
- Hyt distroieþ alle vertuez
- And casteþ fram man þis goud thewes
 c d
 Si homme ad bienz & soit sachauant,
 1116 Bien formé & vailaunt,
 ȝyf man haþ goud & be connynge
- (1116) Well yfourmed & vailaunt
 f
 Si orgoile soit en luy,
 g h
 Toutz sez bienz il ad perdy,
 ȝyf pride be in hym
- And al hys goudes he haþ ylost
 i
 Com en escripture est trové
- 1120 Et est veir en verité.
- As in wrytte hyt ys yfounde
- (1120) And hyt ys soþ in sothe
 Si tibi copia seu sapiencia forma que detur,
 Sola superbia destruit omnia si comitetur.
 ȝyf plente wyþ shappe to þe be yeve
 Only pride distryeþ alle ȝyf he þer to be put
 Et ne soiez courrious,
 1124 Et de tensiones gardez vous.
 a b c d e
 Il ditrut ouȝte benez sachauant cum u vailaunt
 cum u ly touz il ecriture vou

Ne be nat courrious

[135^v]

- (1124) And of chydynge kepe yow
 a b
 Mult est beale vileinie
 c
 D'estre vencuz en tensorye.
- Muche hyt ys a fayre veleynie
 To be overcome in chydynge
 d e
 A ceo concorde Catoun & dit

- 1128 En les *vers* com est escripte :
 To þat acordeþ Catoun & seyþ
 (1128) As in þis verse hyt ys ywryte
Contra verbosos noli contendere verbis,
Sermo datur cunctis animi sapientia paucis.
 Aȝeins word men strif nat with wordis
 Word ys yeve to every man but wysdom to fewe
 Parole est doné a chescuny,
 1132 Mey sachance n'est en luy,
 Word ys yeve to every man
 (1132) But connynge ys nat in hym
 Qy en parolez est estrivour,
 Et jammez ne vendra a l'honour.
 þat in word ys a stryvour
 And nevere shal he com to honour
 Une chose uncquore jeo voile vous dire :
 1136 Ne soyez jammes plein de yre.
 mut bele deetre ce dijt écrit checuny sachounce cum u
 neet ly etriuour

- On þyngē ȝyt I wyle yow teche [136r]
 (1136) Be ye never ful of wrathe
 Hatie toutfoitz il engendre,
 Concordaunce amour veut rendre.
 Hate alway he engendreþ
 Concordaunce love wyl yelde
 Ira odium generat concordia nutrit amorem.
 Whrathe hate gendreþ acord norsheþ love
 1140 Veiez que ne soiez losenger,
 (1140) Loke ye be no losenger
 Vers dame, ne vers seignour secunda(sic).
 Agaynes lady ne lord
 Et s'ils desirent que vous moustrez
 Toutz lez mals que vous savez,

- And ȝyf þey desyre þat ye shewe
 Alle þis evelez þat ye knowe
 1144 Ne pensez mys eux en paier,
 f Mez pur bien dire sanz grever.
 (1144) Ne þenkeþ nouȝth hem to paye
 But for to say wel withoute *grevance*
 Pur Dieu ne vous acostomez,
 h D'escharner homme que vous poiez.
 For goddys love acostome ye nayt
 To skorne man ȝyf ye may
 toutfoiz ^ail ^bvou ^cmoutre ^deus ^ebein ^fdu ^gcotomez
 h decharner
- 1148 Tout q'il soit povres & boseignous, [136v]
 Ou q'il ne soit si beaux come vous.
 (1148) youȝgh he be poure & ned^y
 Or ȝyf he be nat as fayre as ye
 Si ^bprodomme ne si vailaunt,
 Ne si curtais, ne si sachant,
 So fayr man ne so vailaunt
 Ne so curtais ne so connynge
 1152 Ja ^cpur ^dceo ne luy escharnez,
 Qar par escharner bien sachez
 (1152) Nevere for þat hym ne scorneþ
 Ffor by scornynge ye knowe welle
 Ne serrez jammey aloſé,
 Mez haȝ mult & rebetté.
 Ne shal ye nevere be aloſet
 But hatyd muche & rebatud
 1156 Catoun le sage eseigne & dit
 Et en soun livere divine & myt:
 (1156) Catoun þe wyzeman techeþ & seyth
 And in hys boke divineþ & puttyþ
 Corporis exigui vires contempnere noli.

Dyspize þu nat þe body of a lytyl man
 Le petit corps d'ascun homme
 1160 Ne escharnez, Ceo est le summe.
 beus vailaunt cum u ce ly mut cors dacun eet

þe lytyl body of eny man

[137^r]

- (1160) Ne skorn þat nat þat ys þe summe
 Et tout q'il soit empoverés,
 Uncquore ne luy escharnez.
 And þouȝgh he be poure
 ȝyt hym ne skorneþ nouȝth
 Paupertatis onus pacienter ferre memento.
 Of pourte þe charge paciently have mynd to bere
 1164 Ne soiez hastiy, ne irrés
 b Toutfoitz de ceo bien vous gardez:
 (1164) Be nat hasty ne hangry
 Al way of þat wel yow kepe
 Poeta iratus rerum nescit discernere verum.
 þe angry man of þynges ne can nat discerne þe soþe
 c d Unquore, fitz, escotez,
 1168 Et un poy apriendrez
 ȝyt chyld take hede
 (1168) And a lytyl lerneþ
 e Qe en scripture j'ay trové
 Et en latyn translate:
 þat in scripture y have founde
 And in latyn y translated
 Poeta Qui scit laudatur qui nescit vituperatur.
 He þat can ys to preyse he þat can nat ys to dyspyze
 a b c d ly toutfoiz fiz ecotez criȝture

1172 Quy bien entent & sovent lytt,

[137^v]

Prow avera & dylytt.

(1172) He þat wel entendeth & ynouth redeþ

Prow he shal have & delyte

Salamon : Inicium sapiencie timor domini.

Le sage dit en soun livere que commencement de bien vivere :^a

In þy bygynnyng dred god

Þe wyzeman seyth in hys bok

þat þe bygynnyng of goud lyf

1176 Sur tote rien est doter
^b

Dampnedieu & luy honourer.^c^d

(1176) Above al þynge ys to doud

Dredful god & hym worshepe

Salomon : In bonis sit cor tuum in diebus juventutis tue,
& acorde tuo amore maliciam.

In goud þynges be þy herte in þe dayes of

þyn yonghed And fram thyn herte evyl to putte

1180 L'autor dit quy vostre entente

Metttere devez en ta juvente,

(1180) Þe autor seyþ þat your entente

Putte þu sholdez þyn juvente

De toutz pecchey vous retrahere

Et bonez ouoprus user & faire.^e^f

Of alle synnez yow to withdrawe

beyn reyn damne du ly ovrs fere^a^b^c^d^e^f

And goud werkys use & doo shal be

[138r]

1184 Qui odit correpcionem incipiens erit quia melius est

a sapiente corigi quam stultorum verba adulari

(1184) He þat hatyþ undernymyng unwyse he for beter ys

Of wyze to be corectud þan of folys in wordys to be shamed

Si vous haiez d'estre repris,^c^d

Ne serrez jammez bien apris

zyf ye hate to be up take

Ne shal ye never be wel yloved

1188 Pluis vault tensoun de verdisour^a
b Qe beal disceyt de faux mentour.^b^c

- (1188) More ys worth chydyng of a *trewē seire*
 þanne fayr disceit of fals liere
 Elimosina purgat peccatum & facit intrare in vitam eternaz(sic).
 Almesdede purgyþ synne And makeþ men to entre everlastingyng lyf
 Bon est estre almoigner
 1192 Des bienz que purrez gaynere,
 Goud hyt ys to be a almesyevere
 (1192) Of goudes þat ye may gete
 Dez voz pecchez remission
 Et vie perdurable en guerdon.
 Ffor yowre synnes remission
 And lyf everlastingyng to mede
 Vis habere magnum, imperium impera te et habebis magnum honorem.
 ferē vou detre vaut beel faus benis

3yf þu wylt have governayle governe þu þe

[138v]

And þu shalt have muche honour

- 1196 Si vous disirez grant honour
 Et dignitez d'empemour,
 (1196) 3yf ye desire gret^chonour
 And dignite of empemour
 Emperour en droit nomer
 Quy luy mesmez sciet justicer.

Emperour in ryȝth ys named

þat hymself can justefie

- 1200 Ore priez Dieu issint puissetez finer
 Qe a soun joye purrez vener.

- (1200) Now prayeþ god so ȝe may end
 þat to hys joye ye may kome so be hyt. Amen

- [1] La rule q'est ensuant eseigne ensement coment
 vous scriverez vostre fraunceys, & ce est en la primer rule la ou il dit.
 þe rule þat ys shewynge techeþ
 Also how ye shal wryte your frensh
 And þat ys in þe furst Rule þer where hyt seyþ

Regula scripcionis en le ij^e lieu prochein ensevant a part senestre la ou il dit. Regula locucionis : si comme est escript, en mesme la rule en tel manere lirrez vostre franceys,
 [5] & issint une rule enseigne a scrivere & l'autere a liere.
 graunt cum u ly memez du Amen

Et en le tierce lien q'est devisé la ou il dit : [139r]

Regula contruccionis. Ceste rule enseigne le Englysh dez voz parolez de ffranceys et en tel manere la primer rule enseigne pur scrivere, la seconde pur lire, la tierce pur entendre et ensement enseigne plusours differencez du ffranceys. Regula scripcionis In þe seconde place nyxt folwyng on þe lyft syde þere where hyt seyþ.

Regula locucionis as hyt ys wrytyn in þe same rule in whych manere shal ye rede your Frensh & so on rule techeþ to wryte and a noþer to rede and in þe iij place þere where he seyþ regula construccionis þat rule techeþ þe Englyshe of your wordez of Frensh & in swych manere þe fyrste rule techeþ to wryte þe seconde to rede þe thryde to vnderstand.

And also hyt techeþ manye dyfferencez of Frensch.

[10] Incipit autor hoc kalendare per A. Et ordine cum suis sequentibus finit.

Cest kalender commence par A, Et ordinelment finist ove sez ensuantez.

Linia scripcionis	Regula locucionis	Regula construccionis [139v]
A vant vel avaunt	Avant cum v legetur	to fore .s. tempus
Ascun homme	Acun homme	Eny man sine E
Ascune femme	Acune femme	Et cum E servit feminino generi
Auter homme	Aulter homme	An oþer man
Autere femme	Aultere femme	An oþer womman
Alouuns, e	Eod modo legetur	þe same manere oþer placez
Auxci	Auci	cum u & non v Also
Ameire	Eod modo	þe same manere almerye
Aumaire	Amayre	A lover for smokes
Aeps	As	A bee
Ascies	Acies	A wodekok
Almez vel almes	Ames vel ame	soulis or soule
Aidant	Aidauant cum u	helpynge

Aloms	Alommis	go we
Aleigne	Aleine	goynge
Affiez	Eodem modo	trestub
Asselle	Assel	A sadel
Esselle	Essel	A ȝextre
Avient	Avint	hyt happyb
Arrable	Eod	A mapyl tre
Arable	Eod	lond arable
Apeine	Eodem	unneþe
Acier	Acer	steel
Arsevesque	Arseveque	A ershebisshop ^e
Almoigner	amenir	an almesyevere
Ambedeux	ambedeus	boþe to
A servit dativo casui	Ut a moun cher amy	as to my dere frend
Al pro accusativo in singulari	Ut ad villam ibo	to towne y shal go
As eid in plurali	Ut ad villas ibo	to townys y shal go
Au pro apud	Ut datur apud lond	Iȝeue at londone
B ien	ben	wel
Beau	beu	fayre
Beal homme	beel	fayr in masculino
Beal femme	bele	fayr in feminino
Bousche	bouche	a mouth
Bleise	eod modo	to lypse
Bijs	eod modo	est
Baas	eod modo	west
Boseigne	boseyne	nede
Baale	bale	happy
Bale	eod modo	a bagge of pyper .i. bale
Baleie	eod modo	to blete
Baile	eod modo	to gone for slepe
Baayle	bayle	to take þyng to kepe
Baylye	eod modo	to swope
Bevez	eod modo	dryng ^e
Bye	eod modo	aske
Bauley	eod modo	to flafly in ore
Bauure	eod modo	dreflynge
Blesure	eod modo	an hurte
Beers	bers	a cradel
Bersere	eod modo	a rokkestere
Blaunche vel blank secundum quosdam	eod modo	whyȝt

C hien secundum pikardiam Chaan secundum parisium	cheen vel chaun	an hound
Chiet secundum pikardiam Chiat secundum parisium	cheet vel chaat	an kat
Chiere	Chere	diere
Chief	cheef	a heved
Coer vel Cuer sic	cuer	a herte
Ceost	cest	þat ys
Corps	cors	a body
Coste	cote	a syde
Countee	eod modo	a shire
Counte	eod modo	a Erl
Counstre	countre	to knowe
Ceo	ce	þat
Chescun	checun	everych
Coteal	cotel	a knyf
Compaignoun	companioune	a felawe
Combien	combeen	as wel or how moche
Covient	covint	hyt byhovyþ [141 ^r]
Ceaux vel ceux	ceus	þylke
Centier	center	to make wyþ chyld
Coigner	coynor	a coynre
Coigne	coyne	a wecc
Coignier	coynour	a koynour to make money
Chalandre	Chalaundre cum u	a wodelarke
Ceal in feminino ceale	cel in feminino cele	swych on
Cigne	cyne	a swan
Chatoner	eod	to crepe
Chastelle	Chatel	a castel
Chiuaux	chivaus	a hors
Chiekier	cheker	a cheker
Champe	Chaumpe cum u	a feld
D oos	dos	a rugh
Deis	eod modo	ffyngres
Deniz	eod	wyþ ynne
Doulce	douce	swete
Demonstre	demonstre	shewe
Defaitez	defetez	un mad
Dieux vel dieu	deu	god
Demande	Demaunde	aske
Draps	draas	cloth

Dest <i>re</i>	det <i>re</i>	to be	
Deeistier	Deister	to stande	[141 ^v]
Dame	eod	a lady	
Daam	Dam	a deo	
Disme	dyme	a tenth part	
Disormez	eod modo	fro hennes forward	
Devant vel devaunt	devaunt cum u	to fore	
E sploiter	exploiter	to fulfylle	
Estre	etre	to be	
Est	ey3th	ys	
Eistier	eister	stande	
Eigne	eyne	old	
Esglise	eglise	a cherche	
Eueske	eveke	a bysshope	
Eschvere	echvere	to eschue	
Escharner	echarner	to scorne	
Estable	etable	stable	
Escript	cript	y wryte	
Esmond	edmound	emound	
Esperche	eperche	raksle after slepe	
Eyles	dicitur eod modo	fynnes of fyssh	
Eles	dicitur eod modo	wyngges of bryddys	
Espandre	dicitur epandre	discovere consayl	
Espaundre	dicitur epaundre	shede mete	
Espeandre	dicitur epeandre	spele lettrys	
Enfaunt	enfaunt cum u	a chyld	[142 ^r]
Esteant	eteaunt cum u	beayge	
Ebiresse	eod modo	dronknesse	
Erde	eod	a herd of feldfares	
Sed herde cum h scriptus dicitur a herd of cranes oþer of deer			
F uist vel sic	feijt	was	
ffinist	finit	endeþ	
fist	fi3th	dede	
fitz	dicitur fiz	a sone	
file	dicitur eod modo	a douster	
fils	dicitur eod modo	a dred	
filz	dicitur eod modo	sones in plurali	
feu	eod modo	fier	
feim	eod modo	honger	
fume	eod modo	smyche of fier	
faire	fere	to do	

Treatise : *Femina*

fauxcete	fausete	falsede	
femme	eod modo	a womman	
fusil	eod modo	a spyndele	
forspris	forpris	outake	
forsque	forque	butte	
feve	eod modo	a bene	
G rant vel grant grant sed sic legetur graunt cum u sonante gret			
Grante	dicitur		
Graunde		eod modo	ygraunted
Guerre		eod modo	in feminino genere gret [142 ^v]
Gist		gere	werre
Gilliam		gyth	lyiþ
Grues	dicitur	eod modo secundum parisium	William
Gryue	dicitur	grues	a cran
Groule	dicitur	eod modo	a feldfare
Grooule	dicitur	eod modo	cranez croulet
Garoile		eod modo	hassil waget
Galeine		eod modo	a baner in warre
Gelyne		eod modo	a handful aliquarum rerum
H uis		eod modo	a hen
Huissel		eod modo	a dore
Huy		eod modo	armputte
Homme		eod modo	þys
Hupe		eod modo	a man
Herde		eod modo	clokky as a hen
Hony		eod modo	a herd of cranes oþer dere
Hiussie		eod modo	heny
Horaile		eod modo	holun
I lleoques		illeques	wodeshave
jeo		je	þere
jeoune		june	y
jameys		jammez	yonge
Ici		eod modo	nevere
jambey		eod modo	here
jaroiley		eod modo	[143 ^r]
jaroile		eod modo	legges
K eville	dicitur	kevile	grallet or jangleþ
Kyvylle	dicitur	kyvyle	a queket
Kaunt			a ankne
Kar		secundum antiquos	a treyn pynne

Ky

Keyne

eod

an Ok

L iege

lige

a lyge man to þe kyngē

Leal

leel

trewe

loial

eod modo

laweful

lieu

lw

a place

luy

ly

hym

luchere

eod modo

a slykestere

luche

eod modo

a hyve

lyvere

eod modo

a booke

lyvere

eod modo

a lyppe

levere

eod modo

a hare leverer A Grewhond

lire

eod modo

a balaunce

layne

eod modo

wolle

liez

eod modo

byndethe

lyre

eod modo

to rede

Lesche

eod modo

to lykke

[143^v]

Littiere

eod modo

straw

Lettere

eod modo

a lyter þat men rydeþ ynne

Lyttire

eod modo

wombe straw

Lange

eod modo

a thonge

Leverer

eod modo

a grehound

Laas

eod modo

wery

M esmez
Mult

memez

þe same

Mesditz

mut

muche

Mesfaire

mediz

myssay

Miere

mefere

mysdo

Mear

mere

a modyr

Mounde

mounde cum u

þe wordle

Moel

Mool

þe yulk of a zey

Moal

mool

þe nave of a wheyl

Messuer

eod modo

a houswyf

Messiere

eod modo

helewogh

Messier

eod modo

a hayward

Multfoitz

mevtfoiz

many tymes

Mount

mount cum u

north

Mays

eod modo

butte

Mesque

meque

butte

Maintenant

maintenaunt cum u

hand holdynge

Meniz

eod modo

lasse

[144^r]

Majour	eod modo	more	
Mesgre	megre	lene	
Measoun	mesoun	a hous	
Mesdre	medre	best	
N ient	neint	nat	
Nest	neet	nys nat	
Nees	nes	y bore	
Neff	dicitur	eod modo	snow
Neiff		nyffe	a shyp
Naif		eod modo	a bondeman
Nase		eod modo	a ȝene a reddyre
Nease		nees	a nose
Nascie		nacie	snefel of þe noze
Nasciere		naciere	to snefly
Naer	dicitur	eod modo	to swymme
Noer		eod modo	to drowne
Neger	dicitur	eod modo	to rowe
Nager		eod modo	to snowe
Nadgars		nagars	.i. nouiter newly
O ilez		eulez	eyen
Oraylez eren sed horaylez cum h			wodeshave
Oos		ous	a bon
Ops		vse	werke
Oeff		oof	a ay
Ore		eod modo	.i. modo now
Oor		or	gold .i. aurum
Oseaux		oseu	a bryd
Oneure		onoure	onour
Ouste		ouȝte	cast out
P iere	dicitur	pere	a faper
Peer		eod modo	a ston
Preigne		preyne	taak
Pecche		eod modo	synne
Pecchour	dicitur	pechour	a synnere
Peschour		peshour	a fyssher
Poigne		poyne	a fust
Poune		eod modo	a paun in ches
Poun		eod modo	a pokoc
Poet vel peut		peut	may
Pus		eod modo	after

Parel	dicitur	eod modo	a payre
Parele		eod modo	a red dokke
Puisse		puse	may quasi possum
Par		eod modo	by
Pur		eod modo	fore quasi pro
Prest		prett	redy
Pryȝtth		eod modo	takeþ vel sic prist
Prestre		petre	a brest
Q uant vel quant Q uaunt		qant	how moche
Quele		eod modo in feminino	whanne
Quele			what þyngē
Sed legetur qele in masculino & neutro genere, regula non fallit.			
Que conjunctio quy		vel qui relativum	þe wyche oþer þat
Queux		queus	þe wyche menn
R yen		reyn	þyngē
Roialme		reme	a kyngdom
Real		reel	a þyngē
Roy	dicitur	eod modo	a kyngē
Roigne		Royne	a quene
Sed royne		sic scriptum est	a tadde
Royn		eod modo	a shorf
Rubie	dicitur	eod modo	a preciouse ston
Rupie		eod modo	a drop of þyn nose
Rastuer		ratuer	a dowȝgh rybe
Rastelle		ratel	a owyn rake
Raes		eod modo	spokys of weylez
Raies	dicitur	eod modo	sonne bemez
Raayes		rayes	ray fyssh
Ray		eod modo	ray cloþe
S aitez		setez	arwen
Sale		eod modo	an halle
Sell		sale	foul oþer felthe
sile		seel	a seel in wexe
Sseauz		selez	salt
Sauntz		saluz	helthe
Soubz		south	under
Sur		eod modo	.i. supra above
T reschiere		trechere	ful dere
Treshonoure		trehonoure	worssheþful
Treshonouree sic in		feminino genere	worssheþpful lady
Tresreverent		trereverent	ful reverent

Treatise : *Femina*

Tresexcelent	<i>trexcelent</i>	ful exelent
Tresgracious	<i>tregracious</i>	ful gracious
Tresnoble	<i>trenoble</i>	ful noble
Trespuissant	<i>trepuissant</i>	ful myʒtty
Trehaut	<i>treaut</i>	ful heiȝgh
Tresdoute	<i>tredoute</i>	ful doutous
Tresresonable	<i>treresonable</i>	ful resonable
Tout puissant	<i>eod modo</i>	Almyȝthy
Tressage	<i>tresage</i>	ful wyȝ
Tout	<i>tut</i>	al
Taunt vel tant	<i>taunt cum u</i>	so moche
Tesmoigne	<i>temoyne</i>	wetnesse
Tantost	<i>tantouȝth</i>	anoon ryȝth
Trop	<i>secundum quosdam trof</i>	over moche
Tielx	<i>telez</i>	swyche
Taulpes	<i>taupes</i>	molles .i. talpa
Tenailles	<i>eod modo</i>	coleȝ
Tienailles	<i>tenailez</i>	tonges
Tennailles	<i>eod modo</i>	balkes
Tresque	<i>treque</i>	in to tyme
V ient	<i>veint</i>	he comeȝ
Vint	<i>eod modo</i>	twenty
Vault	<i>vaut</i>	y worth
vostre vel votre	<i>votere</i>	you're
veout vel veult	<i>veut</i>	wyle
viande	<i>viaunde cum u</i>	mete
ville	<i>vile</i>	a toun
vieiles	<i>veilez</i>	wacchez
veil	<i>eod modo</i>	a nonnes weyl
veil	<i>eod modo</i>	a seal
venturel	<i>eod modo</i>	to blowe
virole	<i>eod modo</i>	a wyrole of a knyf
varole	<i>eod modo</i>	a wort worym
verol	<i>eod modo</i>	pokke
verder	<i>eod modo</i>	a forester .i. home
verreder	<i>eod modo</i>	a ruddok
vanelles	<i>vaneles</i>	a lepewynke
venelles	<i>veneles</i>	lanes yn tounes
ventrere	<i>eod modo</i>	a mydwif
ventrer	<i>eod modo</i>	a wombe rope

[146^r]

[146^v]

Hæc litera X non hic intitulatur, quia alie litere capiunt eius sonum in dictamine gallico, prout inferius patet scripturis,

Yvereed modo

Wynter

Y aliquando ponitur pro sy, aliquando pro illeoques, aliquando pro nomine demonstrativo, ut jeo y serra, y vous pleast, a y cestez & cetera, ut patet in regula diccionis seu 1^a Regula.

Raro invenitur hæc litera Z in principio verborum ffrancorum, nisi sit in propriis nominibus locorum.

Qui scripsit carmen sit benedictus, Amen.

Explicit Ffemina nova.

II.

上記の本文において就中、特記するに値する点は以下の通りである。

1) 関係代名詞が省略される：

De chose [qui] n'est pas cy comun 219

Et glentre [que] porte piperongez 607

2) ð[に由来する ue が a[に由来する e と押韻する：

aloser / cuer 1105-6

3) 押韻の誤りが見られる：

3.1 過去分詞と不定法の混同

3.1.1 aler / oblier 587-88

oblier は過去分詞でなくてはならない。

3.1.2 manger / alosé 905-6

alosé は不定法でなくてはならない

3.2 語形のみの押韻

3.2.1 medicine / devine 575-76

devine は deviner でなくてはならない

3.2.2 Furmente / diversité 958-59

diversite は存在しない。

Femina には138^oよりつけ加えられてある glossary のほかに、特に発音に対する注意を喚起するため、写本の各葉の最下段、すなわち欄外にいくつかの単語の発音綴りが小筆記体赤字で記されている。ここでは glossary に挙げられていない語、又は語解に発音の記述してある語の異綴であって、特に AN の特徴を示しているいくつかを提示しよう。15世紀の AN の特徴の一端が窺われるであろう。*Femina* の中の特徴ある字母としては写字生が z と ȝ(yogh) とを同綴で扱っていることである。ȝ は英文ではȝe = you となるが þyȝe wyȝemen(4) と [z] の音も示している。フランス語綴りでは lez sagez 4 となり s と z は混同されている。ouȝtez 160 に対しては ouȝt̄teȝ という発音綴りがあらわれる。英文には ȝ が頻出する。

発音

1) 鼻母音 [ã] は u の渡り音をもって発音するようにとの注意書きが多い。

Femina はどのようにフランス語を美しく話すかという観点から書かれ、どのようにフランス語を読むか、即ち発音するかというところに重点がおかれているようである。Beau enfaunt pur appren-

dre / En franceis devez bien entendre / Coment vous parlerez bealment / E devaunt lez sagez naturalment (1-4) と、この言葉が冒頭である。

linia scripcionis	regula locucionis
-------------------	-------------------

corant	coraunt
devant	devaunt cum u
discordant	discordaunt cum u
esperance	esperaunce cum u
france	fraunce cum u
fraunceys	fraunceys cum u
grant	graunt cum u
quaunt	quaunt pro quando cum u sine u pro quanto quaunt cum u ponitur pro quum
sachant	sachaunt cum u
sanz	saunz cum u
variance	variaunce cum u
valiant	valiaunt cum u 等々。

Orthographia Gallica(H 11) [以下 OG と略す] の記述は quant, grant, sachantなどを u なしに書き、読む時は u 音を持つ、ということであるが、15世紀においてもこの音価は AN 語において好まれたと思える。ME にも aun の綴りは借用された。Geoffrey Chaucer, *Canterbury Tales : Prologue* にまず異国を訪れる巡礼の話があり、見知らぬ岸辺は straunge strandes と記されている。また、*Famina* に見られる quaunt の但し書きは興味深い。何となれば quando の意味を持つ時、それを quaunt と発音し、quanto の意味を持つ時は u なしに quant と発音するようにと指示するからである。When を意味する場合と how much を意味する場合とをわけて発音させることは、ちょうど chevill を keville と kyvylle (語解参照) に殊更わけ、二種の発音を教えることと同様、AN 語のひとつの特徴である。フランスの litiere に対応する言葉として、語解は littiere(straw) lettere (a lyter þat men rydeþ ynne) lyttire(wombe straw) と三者の区別ももうけている。

2) 二重母音 ai を e と発音することはまず T. H. 記述の *Tractatus Orthographiae*(2) [以下 TH と略す] および Coyfurelly の *Ortographie Gallicane*(1) [以下 CO と略す] が教えている。

affaitement	affetement
affaites	afetes
dissafaitez	dissafetes
fait	fet または feet
faitez	fetez 等々。

CO(1)はローマ風の言葉を話す人々 Romanici は完全な声で a を発音すると記している (Karl Brunner, *Die Englische Sprache* によると romanicum は北フランス語との解釈である)。

Famina では ai を音として ee と記述されているところもあり glossary には raies (sonne bemez) に対し eod modo との指示もある。曖昧なところがあったであろう。

3) OG(T 1)は ie [je] の発音を注意して e の前で i を発音しなくてはならないとしている。CO(7)の記述も同様である。しかし *Famina* では e [ɛ] を第一音節あるいは中間音節にもつ語が ie とはならずに発音は e と指示されている。ie が e と水平化されるのは AN の顕著な特徴であるがこの特徴は15世紀に至るまで保ち続けられた。

biers	bers
cercielez	cercelez
chie	che
chiet	chet
entiers	enters
flatier	flater
pies	pes
tresbien	treben 等々。

例えば maniere は AN で manere (本文 l. 490) となり、 eschekier は語頭音消失とで chiekier となり、 発音は ie の水平化で cheker となった (cf. 語解)。

ie に対しては ee の発音表記もあり ei の表記もある。

bien	been
chier	cheer
meal(miel)	meel
tiel	teel
rien	reen 等々。

CO(7)は言う。Romanici はガリア人と同様に書かず beins, reins, sceins のように書くと。

Famina にも次の発音表記があらわれる。

bien	beins, beyns
chief	cheyff
derechief	derecheiff
fiert	feit
rien	rein, reyn
sciet	seit
tient	teynt

後期 AN にあたっては強勢音節の e が狭くなり i と発音されることがあった。すなわち vient は vint となるのである。この傾向は英語において15世紀に ē が狭くなった現象と平行する。*Famina* にもいくつの例が挙がっているが *Famina* の書法は AN のこの傾向を証明する最初の例であるかもしれない：

(cf. 語解	avient	avint	Hyt happy)
covient	covint		
devient	devint		
piert	pirt		
ryen	ryin		
viele	vile		

covint は語解にもとり上げられているが covint, devint の発音表記は欄外に幾度も繰返される。
(cf. Pope : 30. 2. 4. 0., 28. 2. 0)

4) 二重母音 [aw] は eu と発音表記され [ew] であったらしい。

beau	bew		
beaux	beus	debet legi	beu
biseaux	biseus		
busteaux	buceus		
chiveraux	chivereus		
cordeaux	cordeus		
coteaux	legetur coteus		
(cf. 語解 coteal	cotel	a knyf)	
esseux	esseus		

OG(CO49)は ceaux, eaux などの例をあげ、これらの語は a をもって、あるいは a なしに書き得ると記している。ceaux は ceux, eaux は eus である。綴りにも混乱が生じていたと思える。語尾の x は s と発音させていることも特徴。

5) AN では [ø] [œ] が排除された。

deux	deus		
Dieu	du non dieu	と記されている。	
eux	eus		
fieu	fu, feu		
lieu	leu		
(cf. 語解 liew	lw	a place)	

[õ] [œ] に由来する [œ] は -oo 又は -ee と表記された。

beof	beef		
boef	boof		
oefs	oofs		
(cf. 語解 oeff	oof	a ay)	

6) 二重母音 ui [ɥi] は u, ou となるか, i となるか、曖昧なところが見られる。

distrut	ditrut		
epougez	epouges		
fuist	feut		
(cf. 語解 fuist	feijt	was)	
(cf. 語解 luy	ly	hym)	

7) on が oun と表記されていることが多い。しかし欄外の発音表記には特に採上げていない。

mustresoun	moutresoun		
nounz	nounes		
sout	sount cum u		

そのほか、chesoun, enfoundres, fusoun, resoun など。

8) 動詞 1人称複数語尾は on ではなく概ね oms と綴られており発音表記は oumis, ommis である。名詞については oum と表記されている：

avoms	avoumis
dioms	diommis
manguoms	mangoumis
passoms	passoumis
purroms	purrouuns
redirroms	rediroumis
syoms	syoumis
tendoms	tendoumis
usoms	usoumis
veioms	vioumis
vioms	vioumis
chiveroms	chiveroums
pissoms	pisoums

9) 硬口蓋音 [n] は AN では [n] であった：

compagnie	companie	sine g
(cf. 語解 compaignoun companioun)		
certeigne	certeyne	
respoignez	repoines	

(CO5) は言う。「g が語中にあり母音、子音の間におかれるとほとんど n と g の音を持つ」と。そしてガリア人は ng ではなく ngn と書き、このほうがよい。例えば compaignon の如く、と記すのであるがこれは [ɲ] を意識させる試みであったろうか。agnel に対し AN は anelle, angneau という綴りなどを持つ。

10) ȝ(yogh) が z と混同されて綴られていることは上述のとおりであるが ȝ は s 音の気音化を示すと思える綴りとしても使用されている：

couste	couȝtte
est	eyȝtt (但し eet という発音表記は数多く繰り返されている)
estera	eȝttera
fist	fȝstth, fȝzth
oustez	ouȝtsez
tantost	tauntouȝth
(cf. 語解 tantost)	tantowȝt)
teste	teȝtt, tete

(OG H35) には「s が t に付されると h の音を持つ。例えば est, plest は eghit は eghit, pleght と発音される」と記されてある。

(CO14) は語の中で単独の s に子音が続く場合は発音しないことを記し、発音する場合もまた詳細に論じている。語中の s の発音は AN では混乱していたかもしれない。発音表記にも estile は etyle, jesque は jeque とある。

- 11) その他：ANにおいて Francien の語に対して語韻音消失形が屢あらわれる所以であるが、*Femina*にあっては事例は多くはない。esquiers 40 に対して squiers の発音表記が認められるのはやがて語頭音の消失する過程を示しているのである。estile 90 は英語で stile となった。AN にまた見られる v と r の間の渡り音 e の綴りも尚存在する j'avoie 332, livere 177, leveure 172 などが見られる。[ô []>ou>eu という発達は AN にあっては ou の段階でとどまったので、本文には flour 573, honour 1134 などの綴りが英語対訳の綴り flour, honour と共に認められる。

III. 更に音と綴りを明確に示すため、語解 (Glossary) より発音 Regula locucionis に対応する綴り方 Regula scripcionis を採上げ「書法対応表」を作成し、どのような綴りが同じ音をあらわすかを明らかにした。M. K. Pope [前掲, P と略す] および Jacques Chaurand, *Introduction à la dialectologie française*, Collection Etudes 302, Paris, Bordas 1972 [Ch と略す] の研究書を参照している。これらの研究書に該当しない事項は *Femina*において指摘する新しい事実である。

書法対応表

I. 母音 (locutio : scriptio)

I. 1

(1 : 0)

1. e = o (語尾) assel=asselle — blank=blaunche — chatel=chastelle — messier=messiere
— use=ops — parel=parele — ratel=rastelle — vanels=vanelles — verol=virole (P 1133, 1135 ; Ch 99)
(渡り音 e) verder=verreder — votere=votre (P 1173 ; Ch 69, 99)

(1 : 1)

2. a = e nager=neger
3. e = i lettere=lyttire — verol=virole (参照 4 ; cf. P 1200)
4. e = y lettere=lyttiere (参照 3 ; cf. P 1200)
5. y = i dyme=disme — gyth=gist (P 734)
6. u = o use=ops (P 1220)

(1 : 2)

7. a = aa bale=baale — dam=daam
8. a = ae as=aeps (cf. P 1219)
9. e = ai defetez=defaitez — fere=faire — mefere=mesfaire (P 1157)
10. e = ea bele=beal — catel=coteal — mesoun=measoun (参照 28 ; P 1212)
11. e = ee bers=beers — counte=countee — deister=deeistier — nes=nees — neet=nest (P 1235)
12. e = ei neff=neiff (参照 14)
13. e = eo ce=ceo — cest=ceost — je=jeo (cf. P 1213)
14. e = ey eles=eyles — jammez=jameys (参照 12)
15. e = ie acer=acier — ben=bien — chere=chiere — center=centier — cheker=chiekier — eister=eistier — lettere=littiere — mere=miere — pere=piere — trechere=treschiere — telez=tielx — tenailez=tienailles (P 1154 ; 1155)
16. i = ie lige=liege — lyttire=littiere (cf. P 1320, vii ; xxxi)
17. o = oo dos=doos — or=oor
18. u = ou tut=tout (P 1220)

Treatise : *Femina*

19. u = ui	puse=puisse (P 1227)
20. y = uy	ly=luy (P 1160 ; Ch 83)
(1 : 3)	
21. e = aie	setez=saietez
(2 : 1)	
22. ou = o	tantouȝth=tantost (P 1220)
(2 : 2)	
23. ae = ay	raes=ray (cf. 1219)
24. ae = oe	naer=noer
25. ay = ai	amayre=aumaire (P 1223)
26. ai = ei	naif=neiff (P 1223)
27. ay = ei	amayre=ameire (P 1223)
28. ee = ea	beel=beal — leel=leal — meer=mear — nees=nease — leel=leal (参照 10 ; P 1212 ; Ch 96)
29. ee = ia	cheet=chiat
30. ee = ie	cheef=chief — cheet=chiet (cf. P 1189)
31. eu = oe	peut=poet (voir 38 ; cf. P 1229)
32. ou = eu	onoure=oneure (P 1238)
33. ie = ue	messier=messuere (P 1142, iii)
34. oa = oe	moal=moel
35. oo = oa	mool=moal
36. oo = oe	mool=moel — oof=oeff
37. ue = oe	cuer=coer (参照 31 ; P 1156 ; Ch 63)
38. ou = oo	ous=oos
(2 : 3)	
39. ae = aie	raes=raies
40. eu = eou	veut=veout (cf. Ch 41)
41. eu = ieu	deu=dieu/dieux (P 1168)
42. ou = oou	groule=grooule
43. eu = eau	beu=beau — ceus=ceaux — oseu=oseaux (P 1162)

I. 2 鼻母音

(2 : 3)	
44. in = ien	avint=avient — covint=covient (参照 51)
45. aun = an	aidaunt=aidant — avaunt=avant — blanche=blank — chalaundre=chalandre — chaumpe=campe — demaunde=demande — devaunt=devant — graunt=grant — graunte=grante — maintenaunt=maintenant — taunt=tant — viaunde=viande (P 1152 ; Ch 75)
(3 : 2)	
46. oun = on	Edmound=Esmond (P 1220 ; Ch 78-9)
(3 : 3)	
47. aun = aan	chaun=chaan
48. een = aan	cheen=chaan
49. aun = ien	chaun=chien
50. een = ien	cheen=chien — combeen=combien

Treatise : *Femina*

51. ein = ien neint=nient — veint=vient (参照 52 ; Ch 96)
 52. eyn = yen reyn=ryen (参照 52 ; Ch 96)

II. 子音 (scriptio : locutio)

II. 1

(1 : 0)

53. b = 0 soubz=south
 54. d = 0 nadgars=nagars (P 1210 ; 3 ; cf. 1175-7)
 55. h = 0 trehaut=treaute (P 1237)
 56. l = 0 almes=ames — almoigner=amenir — auter=aulter — autere=aulter — douce=douce — filz=fiz — mult=mut — taulpes=taupes — vault=vaut (P 1163 ; Ch 72)
 57. p = 0 corps=cors — aeps=as — draps=draas
 58. s = 0 arsevesque=arserveque — ascun=acun — ascune=ascune — chastell=chatel — chescun=checun — coste=cote — counstre=counstre — demonstre=demonstre — destre=detre — disme=dyme — esglise=eglise — eveske=eveke — estable=etable — escript=ecript — espandre=epandre — espaundre=epaundre — espeandre=epeandre — esperche=eperche — exploiter=exploiter — estre=etre — esteant=eteant — ffinist=finit — forspris=forpris — forsque=forque — mesditz=mediz — mesfaire=mefere — mesque=meque — mesgre=megre — mesdre=medre — nest=neet — prest=prett — prestre=pretre — rastuer=ratuer — rastelle=ratel — treschiere=trechere — tresdoute=tredoute — tresgracious=tresgracious — tres honouree=trehonoure — tresnable=trenoble — tresresonable=treresonalbe — tresreverent=trereverent — tresque=treque — tesmoigne=temoyne — vostre=votre (P 1236)

59. x = 0 dieux=dieu — oseaux=oseu

(1 : 1)

60. b = p rubie=rupie
 61. d = s Edmound=Esmond (P 1175-7)
 62. p = f trop=trof
 63. s = z est=eyʒth — fist=fizht — ouste=ouʒt — tantost=tantouʒth (参照 64 ; P 1216, iv ; 1178)
 64. s = j faist=feijt (参照 63 ; P 1178 ; cf. P 1216, iv)
 65. x = s ambedeux=ambebeus — ceux=ceus — ceaux=ceus — chivaux=chivaus — queux=queus (P 1221)
 66. s = z almez=almes — jameys=jammez — vieiles=veilez (P 1231)
 67. x = z tielx=telez

(1 : 2)

68. m = mm jameys=jammez
 69. n = nn tenailles/tienailles=tennailes
 70. t = th fist=fizth — tantost=tantouʒth
 71. t = tt prest=prett (P 729)
 72. z = th soubz=south

(2 : 1)

73. sc = c ascies=acies — nasciere=naciere

74. xc = c	auxci=auci (参照 82)
75. ff = f	ffinist=finit (P 729; 1217, v)
76. gu = g	guerre=gere (P 1180)
77. ch = k	blaunche=blank (P 1209, 2)
78. ll = l	asselle=assel — chastelle=chastel — keville=kevile — kyvylle=kyvyle — ras-telle=ratel — ville=vile ; vanelles=vanels (P 729)
79. qu = q	quant=qant (P 1180)
80. rr = r	arrable=arable — gere=guerre — verreder=verder
81. xc = s	fauxcete=fausete
82. tz = z	fitz=fiz — mesditz=mediz — multfoitz=meutfoiz — salutz=salutz
(2 : 3)	
83. st = ȝth	fist=fȝst (参照 63; P 1216, iv; 1178)
(3 : 2)	
84. cch = ch	pecchour=pechour
85. sch = ch	bousche=bouche — eschuere=echuerer — escharner=echarner (参照 86)
86. sch = sh	peschour=peshour (参照 85)

II. 2 硬口蓋子音

2. 1 n (P 696)	
(3 : 2)	
87. ign = yn	coigne=coyne — coignier=coyner — cigne=cyne — eigne=eyne — poigne=poyne (P 1230)
(3 : 3)	
88. ign = ini	compaignoun=compainioun
(4 : 2)	
89. oign = en	almoigner=amenir
(4 : 3)	
90. eign = ein	aleigne=aleine
91. eygn = eyn	boseigne=boseyne
92. oign = oyn	roigne=royne — tesmoigne=temoyne

2. 2 l	
(3 : 2)	
93. aly = al	baylye=bale
(3 : 3)	
94. ieil = eil	vieiles=veilez
(4 : 3)	
95. oil = eul	oilez=eulez

2. 3 l の母音化	
(2 : 2)	
96. ul = eu	multfoitz=meutfoiz
(3 : 2)	
97. eul = eu	veult=veut

III. その他

(2 : 1)

98. au = a aumaire=amayre
 99. es = e tresexcelent=trexcelent

(2 : 2)

100. er = ir almoigner=amenir

(3 : 1)

101. ieu = w lieu=lw (cf. P 1142; 1214)

(3 : 3)

102. ier = our coignier=coynour

(4 : 1)

103. oial = e roialme=reme

(4 : 2)

104. ms = mmis aloms=alommis

Anglo-Normanism

— 1 —(vowels) 1, 3, 4, 5, 6, 8, 9, 10, 13, 15, 16, 18, 19, 20, 21, 23, 24, 26, 27, 28, 29, 31, 32, 33, 34, 38, 41, 42, 44, 46, 47, 52

— 2 —(consonants) 53, 55, 56, 57, 59, 62, 64, 65, 67, 72, 76, 77, 78, 79, 80, 84, 88, 101

Englishism (Pope, Chaurand に言及されていない)

— 1 —(vowels)

7(a=aa), 23(u=eou), 25(ae=oe, <noier> *nwejer* と *noer*), 29(ee=ia), 34(oa=oe), 35(oo=oa), 36(oo=oe), 38(ou=oo), 24(ae=aie), 40(eu=eou), 42(ou=oou, <ou> と <u>) の, interchangeability による), 45(in=iен, i に強勢をおく習慣による), 47(aun=aan), 50(een=ien), 92(oign=oyn)

— 2 —(consonants)

53(b=0), 57(p=0), 60(b=p), 62(p=f), 67(x=z), 68(m=mm), 69(n=nn), 70(t=th), 72(z=th), 73(sc=c), 74(xc=c), 80(rr=r), 81(xc=s), 84(cch=ch), 85(sch=ch), 86(sch=sh), 101(w=ieu)

注

1. M. R. James, *The Western Manuscripts in the Library of Trinity College, Cambridge : A Descriptive Catalogue* vol. 1. B. 14. 39-40 Cambridge University Press 1900, pp. 438-449.
2. F. J. Furnivall ed. *The Minor Poems of the Vernon MS* part II. EETS Os. 117, 1900-1901 pp. 522-609.
3. E. J. Annold, "Les sources de *Femina nova*", *Studies in French Language and Medieval Literature presented to Professor Mildred K. Pope*, New York, 1939, rpt. 1969 pp. 1-9.
4. A. Chr. Thorn ed. *Proverbes de bon enseignement*, Lund, 1921 (cf. Arnold p. 7)
5. W. A. Wright ed. *Femina, now first printed from a unique MS in The Library of Trinity College Cambridge*, Cambridge University Press, 1909.

Wright の edition は ȝ(yogh) と z を区別せずに転写した。この ȝ 文字は Wright の edition の中で時には z を意味し、時には気音化した s を示し、また時には英字の y を示すので混乱が起こり得る。筆者は MS B. 40 と MS Gg 1. 1. とを照合しながら Wright の ȝ を修正した。

Femina

Cambridge Trinity College

MS B. 14-40

ff. 88^r-146^v

p[er] iste vocat[ur] ferd q[ui] dicit fera doc[et] uisa
 ten[us] loq[ue]t[ur] matua d[icit] iste liber h[ab]uens
 rethorice loq[ue]t[ur] gallicu[um] p[ro]ut inf[orm]atebit
 cap[itu]l[um] p[ri]mu[m] doc[et] rethorice loq[ue]t[ur] de assumptudine
Recu enf[orm]it p[ro] app[re]ndre bestiarii
 En faccio denes bien entendre
 faire ch[ose] fer to lerne
 In fashi ze schul bel vnder staude
 q[uod] sonet vo[p]pler[um] bealstunt
 Et sonent lez sacer[di]ces natualnit
 Volk ze schul freke farre
 And a fore p[ro]te wyrenie knudeb[us]
 q[uod] Leo est rex a rono dr
 Rom[ans] est il q[ui] uest uoz
 d[icit] ut oothi p[ro]f[ess]i voll var
 Leuy ut he p[ro]f[ess]i nat tam; t[ame]n
 q[uod] parlez tout d[ic]t[us] com. assante
 Et nemy come dissafates
 Speker alber as nad p[ro] tauchi
 And nat as nad vntauchi
 q[uod] parlez emp[er]e[us] de tout assemble
 Des bestes i[n] dien ad forme
 Speker fr[on]t of mane assemble alle
 Of bestes p[ro] god h[ab]et p[ro] maked
 Deas. q[ui] legi best[em]b[us] es fornit francis p[ro]p[ter] beu[er] felam
 cum ca est ut exi p[ro] uedt totundiz afetes
 Sapp[er]ato beates do t[ame]n no dien

¶ Et deo osman eusement
Parlez doré hōme natālmēt
And of brydys also

Speke shul amā kyndely

¶ Vbi aut̄ iste līcē rub̄ sap̄ st̄nt̄ oenip̄ p̄uost̄
cāt̄ dñi id vñ p̄uiciat̄ q̄ multotēs gallicum̄
vno iā sebz̄ & alio p̄uiciet̄ ut sic beh̄ deb̄ s̄bi
beau enſunt̄ d̄ s̄bi erſut̄ sine v. Ideoq; ſauor
ſt̄ate vbi deo le s̄ut̄ ſepte. c. rubie le & eas q̄
in hoc m̄ḡio hui' libri te docet̄ q̄it̄ dñi vñ le

¶ Pimez on c̄nes ſont̄ aſembly gut̄

¶ Tu herde donz̄ eft̄ appelle
Prift̄ lehen h̄ter̄ bev̄ aſembled̄
And fyde rame h̄ȳt̄ yo appelled̄

¶ Dez grues auf̄ tu herde

Et dez grues danz̄ h̄. eide

Of c̄nes also an herde

And of feldſires ſt̄ oure h̄. eide

¶ Kne dez ſefauitez couere dez p̄drys

Dame dez alobiez tipe dez b̄ȳz

A uye of ſefauites a couere of p̄drys

A dame of carles a tipe of b̄ȳz

¶ Sonudre dez peulte & eſtayz

Dame dez heznez & pipe de afans

Apeſt ſonut̄ cu s̄. ait̄ p̄oſt̄ etayz

A sonore of hyddes & of staves
 A swipe of herones a pipe of bryddes
 q A gyse des valernes the dez cieles
 Junc de ffauernes & prufles
 A gyse of hennet a turke of tele
 A linc of ffauernes & dannerles
 q A schile dit home en bataple
 fuson dit home de vpf amarle
 En ost sepp ame in bataple
 fuson sey nra of wypk bestaple
 q Baras dit home des poleynes
 folbe dit home des valernes
 Baras sepp nra of colys
 poleye sey nra of chorlys
 q Fume du ble fume du bieus
 blac dargent fume des fuez
 fume of corn, of cornis goud
 blac of osluer fume of fier
 q Aut des chicus en veue
 Et de cornez ap's rous die
 A wint of homides in venise
 And ast to bloose y shal say
 q Aut des chicus wo? ditz
 Et vint lachez ensemble couplez Selys & Deux
 coulez enjole chen & pifin chen ap' nos deno

I mut of horndes ze shul say
 viiiij. Fachez y coupled to goddes
 q. Un lese dez leuers estreue
 Aunt tis en lese sount euseuble
 A lese of ghomedes ys y name
 When my en lese bay to gedere
 q. Et vu bo est dez leuers
 Aunt Deux en lese odut entier
 And a bo of ghomedes ys
 When y en lese bay to gedere
 q. Vn dez barones dor hōme nene
 sp dez clerkes & dit deuer
 A bret of barones shal my name
 A sp of clerkes w^t sp deuer
 q. A vix dit hōme dez chivalo
 Voute dit hōme dez esq^re
 A vix eyx ma of knyghtys
 A conte vix ma of esq^re
 q. Dez rebandes esy vñ route
 Et de leofe esy cauz doute
 Of rebandes also a route
 And of over also w^t route doute
 q. Et de vñ chose bū vous garder
 An pte senesch^r leuers nene
 est deug^r ente cler^r esq^r or^r esq^r p fent
 fuit beef cauz cu v dedier

And of oppug take ze hede
 On ye left half shouder ledy
 q Compaignie dez damez ditzes
 Et dez oþres enþ ferres
 A compainge of ladies & sthal say
 And of gees also ze sthal do
 q Auor en freres tenet de dit
 Le maist baldeint lettir
 Soi on frensh pey holdry of lyȝt
 Ye maist en baldeint holdry þto
 q Si vno wleȝ pfitant
 Parlez dent bon gent
 Enf ze Wyller pfitely
 Speke a fore goud folle
 q Il y ad ouffler vent & corner
 Dont la reson fait asance
 me blodey in m manes & corner
 When of ye deþnu yo to Wyte
 q Te sien suffle le quyste & sufflet prie vent
 Te vent vente p my le biffon
 þ frez blodey r quyste
 ye bynd blodey poru þ biffon
 Suffler
 corner
 q Mez le venour pñnt corner
 Sunnt chas pñnt p quez prie
 compagnie come g. frameroyt cu p met balle
 met les deant cu p fait fai quyste quyste cu
 p prie. i quando come b. rot sic fait pñnt p quez

But pe hutes apply corner i blodey
 Channe chas he taket for to eche pre
 A nom appelliit ordre eoy rotes
 ¶ 1. **O** we over natant
 Deq bestez le drapent
 Nolt breep kyndely
 Of bestez de drapite
 ¶ 2. **C**hristina de eys i chevrons
 Colours q da nate done
 Guy of han he i odre i man i feuer
 Iste y haer nate reuypp
 ¶ 3. **R**ome p le oure by
 A de mesure deo affre
 Han spckes leys breep
 Out of mesure hyt affrayer
 ¶ 4. **T**hou sonyp gne gule
 Sache muche i coradys gule
 Thom sonyp en gulypp
 Full blodey hafyl blodey
 ¶ 5. **S**hyual hwest allethe chaynt
 Colys perles i col chaynt
 Hors neyve lorde syngay
 Colues purant i col syngay
 ¶ 6. **M**eat minore opunt effe
 Lour chevons enys le hwest perles chaynt

Apne fetynne cigne rebelle
 Tat meillor ador' assit or flet jme
 Appe fuyer obam refleur
 ¶ Tollez & le apres baye
 Aint le veno querz sa prie
 Je for a pe hound baye
 Ghene p' hundre archey hys p'p
 ¶ Oben jangle aus paroyle
 Apz il ad garoyle & paroyle
 Aus janglez grandez gitez
 But ne hay garoyle & paroyle
 ¶ La diffuce d'ieso royle
 Tine paroyle en la syn
 Je diffuce telle p' Eys
 Je doke q'c ez iu p' synec
 ¶ Aint le ffaucon volant ly p're
 Apz deut vne ville en gere
 Ghene p' ffaucon sleyngz hys archey
 But a fore a tolz n' m gere
 ¶ Honie fishe sou baner en tre
 Que le barbycan defendez
 A ma frapp hys ban in gunde
 For pe barbycan to defende
 ¶ De le fault q'honie voulz rendre
 Autz p'st ayne chame p' p'st q'nt au
 En. 6. ponct p' q'nt ie vole, autz p' p'st

De a le noyse rediutoris
 Of f^e faut p^r uai bote zelde
 Nost to f^e woyse say de a zen
 Q On plus apudre p^r frome
 Grande eile regne gayle
 When more bie bie molde
 Sage akter tadde purr
 Q Conduz p^rnt regnle
 Porcell geest engles celeste
 Snake p^ply v^r yes
 purz brenney haue wylly
 Q Spuej gerit nise teneyle
 True gundille p^rnt I^rte q^rt
 Duche letuy bote hystey
 The pale duchy when the d^r pachey
 Q Fauton effel le pluveln fest
 Celme vatalant patille
 Fauton effel p^r massal smyty
 The han bendes kufly
 Q Aunt porune en gardyn ou en ville
 Au en frunce est tel etyle
 Lhe oys leys in gardyn er tobie
 for en frunce yo oblyche a pale
 Q De gypne hupe buke a patille
 Cest rediutoris proximus gerit toor patille ville
 Ville leget teel etyle patille

Et q̄ tō ce aūte oult̄ refon
 † hen clokter Tidley a Tidley
 And he ī to moche auantyy h̄t̄ bone refon
 q̄ Ala delyne Da compaignon
 Gar plus ce aūte p̄ v̄ ra oeff
 To pe hen he shal be felarie
 for more othe auantys for on ē
 q̄ Ce p̄ sa dame fait le boef
 Et quyt le gelynne comere a Russelle
 Dralle for h̄t̄ eyngē doth pe ore
 And whanne p̄ h̄t̄ takyp̄ to russell
 q̄ Et mifre ceo a t̄p̄eler
 Dez oefor h̄t̄ doner le ḡmōe
 And ochelber † othe b̄yl syatte a b̄ord
 of eyren z̄rue h̄t̄ p̄ st̄n
 q̄ Son p̄ quer sonz estgules
 Tidley b̄iley Dame bale
 But uat p̄ t̄ be y alle
 Ochey bluetur ladires happy
 q̄ Et le chris put ooz merde bale
 Pur t̄ rey lez h̄ome baule
 Olyc h̄ic takey h̄o merde out of h̄o bale
 for omanche waft man douȝ baule
 q̄ A son dūant sa chose bayle.
 t̄p̄ oꝝ quoꝝ q̄t̄ compaignon cof fac̄t boef
 mōt̄ t̄ t̄p̄eler cof queno etgules eyres

19

A one baleye hōme baleye
 To hys swāt, hys pyng he takey
 And as baleye me oldopp
¶ Roadez q̄ la fale oot muchere
 Ap̄ dormez hōme esp̄che
 Tak hede y p̄ halle be rysshet
 Af̄ sleep mā Falset
¶ Ne p̄t̄ en laslye peche
 Le p̄f̄heor en la syn peche
 Y p̄t̄ in y chyrel p̄cher
 Be fysser in pe syn fysser
¶ Dre sou rey on sou eche
 Annt̄ la poure femme mene le c̄ph̄
 Hys hys nett op as hys hys
 q̄ pruce hōma ledyp̄ y dante
¶ Geld rooyt en mayn le bēche
 Aaz ale nad a come sorps le bēche
 Bet̄ shold̄ be in hand a spade
 for oþe nay to lyue by hit hys spade
¶ P̄ payn frex brise on leþe
 Non chael le baile leþe
 for bred to gate loof on laſſe
 my hels p̄ p̄ne haleyn
¶ Dre donz cao chaide affatier
 q̄ esp̄che f̄f̄ p̄dour leþe leþe chæſt flader

De leſſe la roſe del hibis
 Nolle wſt p' helpe lape
 p' lydeley p' roſe of pe hibis
 q' Et il eſt flatō q' fort flatō
 Et lez gentz q' voet aſſūlē
 And he yo a flatōur p' can flatōe
 And y' fall p' Gyle by gyle
 Hoc capitulo docz de appetatibz infantis

Quant enfant est puer nœz
 Conuent q' fort malloez
 Chen a chyld yo fyrt p' beze
 Hys be honuy p' hys de obadyd
 q' Muo en son biers ly cochez
 Et beze lez pueriez
 Aſt'm hys edel hys lepp
 And a robleſſe hys pneyy
 q' Quant enfant comite a thatorer
 Et eniz q'l sache as priez alez
 Chen a chyld by gyman to cpe
 And ej' he come ou feſt go
 q' Et il bone de pa nate
 Pour fez dñeſ ſanez de baner
 And he diueley of hys nate
 for hys cloppo to ſane fū diueley
 tene eſt geno nobis appeler infantis cu. v.
 de abont malde bezo priez

Q Ditez douz a sa frere
 Rele face un bon banere
 Cey je pme to hys rofesere
 ¶ oche uafe a goud diebys clost
 Q Et pme quent il conice daler
 Et voluntes luy uiesmace roet empalur
 And ast le hys he bry myrr to go
 And gladdys Cysle hy self by clobbe
 Q Pinal maym & male blesure
 Uitez en yaros luy gardes oure
 For enyl maym & enyl herte
 Make a boy hym kepe oure
 Q Si qil ne cappe ne chie des
 Ne gardes en suete
 ¶ oþ he stamble nat ne fall
 But kept in suete
 Q Et quent il court en gant age
 Uitez ly appndre language
 And when he armey in gnt age
 Put hy to fine language
 Q En fances a luy vñ venez dñ
 Come pme il doit son corps diste
 In fush to hy je shal say
 Hob syrt he shal hys body distre
 menez vñs fetes lyche tñ quent p quido cu. v.
 pme. s. p quato fantes vñs corps diste dece
 glaget

q Si p' ordre garder de mon a ma
 Tou e ta oon e sa .i. mastis e fio
 And for ordre to kepe of ma e ma
 Tou e ta sou e sa for ma sounex
 q Ama ma sonat feso mon mastis
 To femyny gendre a mon to mastyn
 q Sy q en p le oot bñ apô
 Et de nule hunc cñcharuo
 So q in specie he de Gud lemned
 And of no ma y storned
 Capitul de p tib; capite
 q **D**e ma teste ou mon cheif
 Et la gue de mon cheif
 I say myn hened e myn hened
 And y shode of myn hened
 q featez la gue a ton leuer
 Et mangez la gue a ton dyn
 Take y shode at ym opprest .i. mi capite
 And ate y feldfais at ym dyn
 q Jay lez chevons recteles
 You tooþ vol pte q estoitez
 I hanc pyc epse lottys
 Day tooþ y ppe y je shes
 q En vre cheif wo auez tooþ
 estamys teinte cheif nob aunciez cheif

En la Syne getez son toup
 Qu'zo henued ze hanoy a toup
 Qu'pe tuzgh casz y toup
 ¶ Et seancez de bvn le toup
 De la lute gnez le toup
 And hecheler of flez ye toup
 ¶ Of y' bennie takey y' toup
 ¶ Jay auyci mon hanapel
 Mon front enly & mon enel
 I have also myn bvn pame
 Myn forbed also & myn bvn
 ¶ Mon hadel oue lez templez
 Et lez ministre dit bome templez
 Myn pol as ppe templez
 And ppe ministre say mon templez
 ¶ Vre regard est gtois
 Jay vre cul est chascis
 Sonce by holdyngre yo gtois
 But zo eyre yo spaduons
 ¶ Del cul ouitez le chaste
 Et dey neez auyci la fuppe
 ¶ If y' eye take out y' spaduunge
 And of y' nose al so d'roppunge
 ¶ Agult want la rubre except p. 3.
 auyci cu. p. ministrer ouyz neez want esp

Mes por vaudy ic est p. p.
 Much yo Worth y rubye y Certe by ss.
 But lytul yo Worth he y Certe by p.
 q Elle est tuppe issant de veas
 qz rubye est p^{re} p^{re}
 But yo tuppe goyze f^{er} nos^z
 But rubrie yo a p^{re} p^{re} son
 q Da^z eul est tout paf le p^{re} n^o
 Si la papir^z soit bon^z & biel
 qz p^{re} epe yo al sass p^{re} appyl
 zyt p^{re} epe led be goud & faire
 q En lez papires sont lez cielz
 Amont lez enez sont lez ozielz
 Ju p^{re} epe ledes bes y heres
 A bone p^{re} epe bes y brokys
 q Dinc anez por p^{re} bone reson
 Deux narres & un tendu
 Allo han^z ze by goud reson
 qz rostres & a g^{re}lon
 q Dinc anez la lyre & le lene
 Le lyne enly & le luyez
 ze haney la ly & le lene balancez & y han^z
 Le boek allo & p^{re} le p^{re}
 q Le luy^z est q enclose lez dentez
 c^op n^o beel c^oles ozielz anez cu p^{re} deus deuz

16

- Le leue en boyo soy tient de deus
 Je lyre yo r' enclosay pe tay
 Je luce en bussi ly holdyy Et yunc
 q Li ly ent en marchandyse
 Le lune noz p'ut al clergize
 q balunne ouey en marchandyse
 q boke vo techay to clergye
 q En le boutay a mout est pallet
 p tuft vo chosay orde on nett
 En y mony ou herzgh yo r' pallet
 To taste vo pynges fonsle op clene
 q Et lez damez sont euteutnes
 p byea lauer le genou
 And pise ladyes leys ful de fr
 for bel to Bassi ly knolles
 q Est la chesn p cteigne
 p auer le melo a leyne
 p yo r' reson for cteigne
 for to hane p bette brethe
 q Ele ad col gorge & mentou
 Dout le fricay est coniou
 Sché hanys necke gorge i chyn
 When of ye frensh yo comyn
 q De soubz la longe yo r' est fuchelle
 tout bouche cteigne fricay en s. fouch

dor furche en fūnce leu apelle
 Undez y tonge yo r̄ furche
 Bon furchey m fūnce me cleper
 q De deur le gorge est gargate
 Et plus p founde la gisit le rute
 W̄tme y proté yo r̄ gargale
 And more de ipel co lyp p synct don
 Si anteriori p te caput
 q **C** u chief dent est fonteyne
 C u soubisneyne blyre i souine
 In y haned a fore yo aperte
 p uys lyppes & p ouez
 q En le boufhe sont messallo
 Et denys foremer si tu les p̄ce
 In y monys letti Gronz teth
 And ye p̄ force terz ysf y h̄e rebust
 q A col rois aues un fosset
 De south la lange est le fillet
 At y necte zole hauyg a lytys h̄ol
 Undez y tonge yo r̄ sylet
 q Et p̄ cestie la pole
 Comme deuez le bakenole
 And for to cestie y speche
 Trois ze schul p̄ tem of p̄ byn
 est ḡt deuant cu v soubisneyne blyre n̄fallo
 q comut

- q Si de souz le orme le amez gnon
 Iles spoulez amez blason
 And vnde s' eez ze hanyp heez
 Et pe shuldero ze hanee a shulderon
 q De soub le chart dist le esel
 De soub le boeue le bresel
 Unde s' arte lyf ye zey tre
 Unde s' amez ze hanee a putte
 q Le char chauage en le cheve
 Donc lez homes font le esther
 s' fleysth rydes ni s' char
 Woef me maker her oberyn
 q Sur le montayn c' le broyl
 En bus t' est tout fontz bon fil
 Upon s' halle gitez s' myst
 In lode lond ys alidap goud sepl
 q Entre plerous moue le torf
 Le reut de bys gue le oyl
 By thysa plerous ys mened p'
 s' kynd of s' est grecy s' eze
 q A po gale vient remoyl
 A po angust chiet le foys
 Aft angust falley s' leff
 Aft effe comeys valle
 apula cont gitt eez ceut t' est ap aust
 rere vient

q depez polez ier ieo coil
 Aest le cheson dey dy ieo wyl
 Oblyth speches hef y gader
 Shat yo r' cheson zoll y leys say

q p' nautz a corder en p' launce
 Et distorder en variance
 For muche to a corde in spekyng
 And to distorde in variancye

Adhuc de corps

q **T**unc p' nautz a distre
 Le francois q' chesoun stet die
 Hyt yo non nede to distre
 Ye freash y eny ma ca say

q De rent de doce ne de chyue
 Des espanez bo' ne petne
 Af Combe fuge ne chyue
 Af shuldres armes ne brestlou

q hez ieo face le nauftoun
 De chose vest p' cy comil
 But y make y obelkyng
 Af yng p' yo nat so comune

q Des espanez issint lez bo'
 Lantes ne maynes ne lessone cui sunt
 Out of yng shulde godit vif
 Allez ie myn variancye n'p' chesp'ne
 Espanez montoun

Eldestes ne handez leue ve nouet
 q Jeo oyours comt il tonne
 dont la ouise piret en tonne
 q hurez doudes hols he denede
 q che of p ale p sspde en tonne
 q que p est en tout eteigne
 q die de la colte du mayne
 vnt for to be in al etayn
 colt y say of p crest of p hand
 q La patme de deniz le chiae de horo
 et la peyn est la mayne cloos
 q pubme bry yinne p cloos tute
 and p fust po p hand cloos
 q Et le fel fect le poignon
 q tuo son copaignon
 and p galie beyy p longhe
 q tuo hys felalke
 q Et vne porne ganez en mayn
 q eo est la mayna tñout p leyn
 and en handful p ze hanp p in hande
 q p p hand ryght ful
 q Et auant lez mayne p leyn
 q En forme leun apelle galeryus
 and p le handeo full
 q p le handeo full
 q p le handeo full

In fress men cleper galynnes
 q̄ q̄ez pliis vaut vne p̄t poigne
 De syngeſe bi te
 But more þorþ a h̄tys handſul
 Of syngeſe Wel ȳ tēd
 q̄ an ſout lez galynnes
 De filamincs tricez plenies
 þer beþ a hundred galynnes
 of goſſonies al fulli
 q̄ vne coſt del in coffee
 Quort adur p̄ dienix ouſte
 A leb of a syd
 With Adam by god vttake
 q̄ An̄s Dame que p̄me; fiſt
 Ne porta charge bien q̄l gift
 An̄s Dame que fyſt he made
 Hyt baxe no charge in place þe hyt lay
 q̄ En my lyen del went eft vmbil
 At þe þuch aft le penil
 In mynde place of þe Bonib⁹ þe þauyl
 And by vnder þe yd y ſpere
 q̄ Anſer 4 nages one le ffurche
 ſout gūt eſe p̄ chen a chy
 Thicke & buttokkes forth w̄ thyſte
 vābt peti den eloztie q̄nt ffect leu gūt

Dost ḡt c̄e for b̄ydnyze
 q Jumbez i jenoyles comys
 n̄est mist q̄ a vol soiet rochys
 Chantes & knocles ze ffhal knutte
 Hyt yo no nust p̄ to zold pey de touched
 q q̄ en jumbe vol auez lassus
 Et tantz b̄nu est esfus
 But m leys ze haue sparsin
 And ar b̄nu hyt yo p̄ coppa
 q De mello fere hōme ce alay
 Et si le cauel soit auz b̄lefo
 of det frangche men hy affuyer
 And q̄f p̄ oþryson le b̄ out huet
 q Et lez garterez vol auez amys
 p̄ cele ap̄fe ieo vol di
 And p̄ye garterez ze hanyp also
 for oblyche a lemyng p̄ zold say
 q De celoy hōme du garter
 Si vient lufage dez garterez
 of p̄elle me of p̄ garterez
 O com p̄ vfrage of p̄ garterez
 q Iaci auez vol lez b̄nilles
 q̄z uentendez p̄ b̄nilles
 Zoll ze hanyp vysé autres
 vien p̄b̄ est ie vien tēbiles

Vny vndeſtād nat tēn p̄ymēo
 q̄ b̄eille fait hōme ferme estre
 Et la b̄eille fait le charpūt
 Dubre makey uā ſafe ſtande
 And y tēn p̄ymē makey y carpēt
 q̄ plante ad hōme uāl & talon
 Dōit le ſūces eft comou
 Cole hay uā too & hele
 Chen of y fash yo conye
 q̄ de deuz le corps ad chēſtūm hōme
 Coz fax & poignōē
 Et yme y body hay eny uā
 The lyne & longheu
 q̄ ſplen bollel & leynōē
 Stomak reyne nerf cubyronē
 Wythe yame & kydeney
 Stomake reyne cymes al a bout
 q̄ Et ne alliez p̄ nou veffie
 A al vent fait grāt aie
 And for zyttey nat p̄ veffie i. a bladdey
 p̄ to p̄ ſcombe dor ḡt help
 q̄ ſomo q̄ la poynē eft agōt
 ne lez reynez na obliou
 Aſt y p̄ reyne yo y gadey
 ſauoyez eno chēſtūm fait

Ne ye leynes for zete ye nouȝtē

¶ Ore ne fault rien mez fel p nou

De deynz le corps q ad hōme

Nost fayles nouȝtē but v dalle by name

S t yme p body v hag annan

De vestura infuntio ca.

¶ **I**effez wone woz Iſſo pet anſit

Chancez woz biez petitez e gretz

Ellope zoll S t p cloppes lytys chyldz

Dor on p breeche hofyn e godz

petitez le chapon comez le chief

Tachez wot botuez des chief

put on p hoth loun p bed

Tachez p botuez fui on ende to op

¶ One vne corps ne feinte

A doine di ne ceintes

S a gyrdys gyrdz zoll

Do zoll p say nat leyez us chyldz

¶ A cause q ferme est p hōme en ceintes

Et one vne feinte ele feinte

By cause p ferme yo by ma us chyldz

And S a ceintes she yo y gard

De li feinte le pendit

passe p my le mordant

fins que vne vne so gretz aysse de la geff

Ofre fernte de pendut
 Passer porus mordut
 q Ensy doyt le mordut & le hedyson
 Passer p ten le subilon
 Allo shal y mordut & p^e tonge
 Passer wau p hool & al
 q Si peone enfit tien la mayn
 Primier al matyn d^e la payn
 Syf a zong chyld holdyng his hand
 Syft on worn tollard bread
 q One bryde donq^e luy donq^e
 On vne lesshe o^r pliis vanez
 On lesshe vne hy zeuyr
 Sy a obene syf ze no more hanec
 q Mes se ro^r luy denez de^r ouest
 Ensy lez atys a son ope
 Unz syf ze reue hy of eggos
 Allo hem atys to his pose
 q Bustez le chale eyng qil hume
 Ne tru & la albame
 Cast a way p shulle ay he nemme hys
 p Feine allo & p Certe
 q Et luy denez la moel
 Sy a home sign est bon morsel

Et luy denez la moel

And hym zengy v' zelle
 That to a ma heys a good morfel
 q **A**ye le gne w' enotes
 Ben ne vane bai v' laches
 But v' sta ze out este
 Ropps hys po Borgh Bel ze frond
 q **A**ay pommes v' di esent
 Le made e affent
 of vse apples v' say v' als
 v' mane e v' appetant
 q **D**ates lez ples e la puy
 Et lez donez la morsus
 Capt a Day v' se ples e v' parus
 And hym zengy v' ledy
 q **N**ez piperis enotes
 Et lez piperis enplantes
 pyp cores cast out
 And pyp keruelos occit
 De dignitate nonum
 q **T**enez si ment deut v'
 Son chez tout bon
 v' hys comez a fore v'
 A luyself al red
 q **C**ar a chual ppe q' mente
Multe spesimant oufere v'

Epine de goulz il porte
 Son arme herbe red po y frige
 A ffeulz of red goulz he becuy
 q. Un lamente ronge en lame triste
 De vyn vnoy l'ou bonfie est pleine
 A lamente Red in en hand
 Of lynn red hys mouthys ful
 q. Est ne mās de peſon
 Mes herys esce q ad nou
 And he etay no ffys
 Unt herys red by name
 De eodem

q. **T**o vie vne boigne fayz boy
 Po vne regne fayz gant affy
 Pelle a quene Wyg oute kyng
 Por a tasse made ges affy
 q. Est en my la Realme la boy
 Est un ppon fait po vne rei
 And in myddye po vne reine of po kyng
 po a fore y mad for a nell
 Por capitain doctz de pietatis capi

q. **O** ec alomio as pio e chano
 po uorper nre ensamitez
 Nost go bie to mede and felds
 em dante in po reine feet alomio chano
 ensamitez cu o

for to norſſe ouſ chyldren
 q One fām' ſinche yn ambinge de p
 De fāncys eſt gaerde & panel auncy
 2 oþde moldey a oþrad of þ mede
 of oþrad yo oþeff is ſtoffe alſo
 q Woʒ panelez en gardey liez
 En effemyn woʒ gardey mettez
 3ong ſtoffez in oþefez byndy
 In t'paz zo oþeffez putter
 q On carrot de pois ſuo areches
 Et lez feuer en carrot liez
 2 Caxe of peſen upon rechit
 And yſke leino in Caxes byndy
 q Hez il nad myſt q uol diomis
 De totay manes dey blez le nouuz
 But hpt yo noon ned v ze ſoy
 of al manē corico þ names
 q Del ſigle derge ne furent
 Le coniue ſouit a tout gentil
 of kyng ne ſhete
 t coniue bety to al folke
 q Mez daudz ce male q eſt
 A cotines multe diſpolat
 But of op oeyt v ſoldey

qne t'pene diomis nobis ſaint et mult
 diſpolat

p' tibet much displesey
 q' leueray il est & le betoyl
 le hysoun auxoy & le noel
 Degge hyt lewyp & deuelt
 v' leysd sathe also & v' leysd
 q' le blauole & le mals auxoy
 charoyle & autre q' ne bo'di
 v' leysd also & le hocke
 leysd & op' v' ne zoll say
 q' lez t' rancie ore a fapi
 de totez senarlez do' duse t'hey
 for onnuch v' shold hanc a do
 of alle oedre zoll to say
 q' qez qnt tempo est keriez
 l'onez chartes fairez charger
 but lez t' rancie ore to kerye
 soude cartoy dor chge
 q' le charit ad ea nocte
 q' charier le magnillon porte
 v' cartes lez hys lez lez
 but v' platemen v' gode herad
 q' Et le chart coment qil porte
 une luy toutforiez ea zporte
 v' cartes le houyy v' he bei
 auxy noel fey tens fetez cobint

F

Cyp hym al Day hys Chyppe
 q Dout il ad dobbé entedent
 Ce tout gent ne sient ment
 When of me hath double understandyng
 ¶ alle folk knolle nouȝt
 q En la gūge voz blez mollez
 De hys la gūge voz blez tassez
 In p gūge zō cornes mollez
 Cyp ont p gūge zō cornes tassez
 q Aaz en molle est dit en gūge
 Et en tasse de hys la gūge
 For a molle po seyd in gūge
 And a tas le ont gūge
 q En gūge gardez vō de hant
 En chāmpo vee blez dante hant
 In fine kepe zol fin ppo ealez
 In feld zō corn fin op hant
 q En pale chantez lez gesetz
 po oblyz lez gnez niolestez
 In halle ze spille oyuge vpe gesetz
 En for zete vpe gnos hantes
 q qz en hant ppe gentz a po feitez
 po enq q sont en enqitez
 vnt zyf ze ppe folle to zo fetez

f. 102v. 1. Cyp hym al Day hys Chyppe
 2. Dout il ad dobbé entedent
 3. Ce tout gent ne sient ment
 4. When of me hath double understandyng
 5. ¶ alle folk knolle nouȝt
 6. q En la gūge voz blez mollez
 7. De hys la gūge voz blez tassez
 8. In p gūge zō cornes mollez
 9. Cyp ont p gūge zō cornes tassez
 10. q Aaz en molle est dit en gūge
 11. Et en tasse de hys la gūge
 12. For a molle po seyd in gūge
 13. And a tas le ont gūge
 14. q En gūge gardez vō de hant
 15. En chāmpo vee blez dante hant
 16. In fine kepe zol fin ppo ealez
 17. In feld zō corn fin op hant
 18. q En pale chantez lez gesetz
 19. po oblyz lez gnez niolestez
 20. In halle ze spille oyuge vpe gesetz
 21. En for zete vpe gnos hantes
 22. q qz en hant ppe gentz a po feitez
 23. po enq q sont en enqitez
 24. vnt zyf ze ppe folle to zo fetez

34.

pray her i^r ben in enys
 qⁱ sonz malice qⁱ fount or p^ryz
 for hys malice i^r ben so redy
 de arte pistoris
 q **Q**uit vre ble est bi battu
 p^rimo dente & bi molu
 when zo corn yor bel y p^ryz
 Aft^r y bryngyd t^e bel y gude
 qⁱ par le mousel deument faciu
 Et donys pain p^ryzem matyn
 By y gudynge comey mele
 And pen bread mynd on moralle
 qⁱ knyng de vnu deument flour
 par le bolenge del pistoris
 Alsp^r of corn comey flour
 By y bryngye of y bakes
 qⁱ Et y la bolenger est come
 La flour & fress^r fest or dey
 And by y bunt y dedenet
 i^r flour and bi y po es dey
 qⁱ As boz chivallez lez fourfie donez
 Et one elle teen le flor medley
 So zo horo y bi zeyp
 And upp lat Ram y flo medley
 flos debent p^ryzem anty pitoris q^rest

q Et voe pust eny peches
 One vne fastuer vre ange vñde
 And zo pust also kned hpt
 Et a dethryb zo tress make cleue
 q Ayz il y ad rastuer & fastel
 Le ouent de dñe myse
 But me hap a ryb & a late
 & onen of dñe myse
 q Le piste tient le fastel
 ayz rastuer fait le ange heil
 & latey holdyy & onen late
 But yz ryb makay y thross cleue
 q Chansoy le four one fagey
 Cy vol fainte bone lyte
 Hettyn ouyn kyy suapey
 yf zolle fayley goud stakke
 q Myte & hette cont dñe
 Distordun dñon lez clerkes
 lyte & hette sont dñe
 Distordant seyr puse clerky
 q Ne faulte hette litte fandye
 & eze en litte hōme chianache
 & mollesy ptes mollesy
 for eze en litte men rydyy

Rastuer yl fastel tient fet deel fait cler
 fante

qd qd re est lete aux fayle
 En doulce frunce lrene dit fayle
 But p y lete eyre oute fayle
 p in doute frute ma clep t combechaf
 qd pale + pale out dno
 aint de gni out seney
 chaf + small chaf dep dno
 chame of syn ley key caled
 qd Et a pyle ne est pas
 perus donq le peper
 And pif stalle ne be nouich
 Takey rme yis stalle
 qd Et quin le four est claus
 A pele out le past eut
 And chame y enau ye hoot
 Et p peple be p past y put yu
 qd aint ore past est myc en four
 Et le pisto put adyon
 chame yo pasto ye put in ouen
 And p bakes takey rest
 qd En deant le mesure
 ne ora ly p nouich alay
 Rechelys out of mesur
 Tat met hpt be to much y bakes

.donee myc

Petit résumé

1 **O** ne alez a tems vre bnois
 Et ne obliez p' tems d'espous
 Nez gop to solez p' flex
 And forrete nouet zony hennep
 2 Que de bnois vus auiez les brestes
 Et de d'quans les cordes
 for of flex x haue ppe hoppes
 And of hennep ppe cordes
 3 Vre bnoi en temps oarches
 Et pris en temps festives
 Zony flex en tyme dedys
 And aft tyme dedys hyst vpp
 4 En dantz en vne partie rebetes
 En pris al colay le oarche
 And pris en a partie rebete hyst
 And aft on p' l'ame dyppe hyst
 5 En pris abat p' facez
 En one cie en yme vus estatutes
 And aft to bete hyst p' facez
 And bete p' en bete ze hyst
 6 En tout fauex mache exent beal
 Besie vus conment al pissel
 for al to knolle mache hyst besy facez

vng bnois cordes tems outez ce chantez
 vnt desfut

Tex hrt by douny to þe oblynglyngþot
 q þe bren estucher le bren
 eas autant uert ia fren
 for bel to oblyngle zonj flex
 for ell ohal le þe nam ende
 q et quay al pesel ad con den
 deng rees a lastuer
 And oblyne atte oblynglyngþot hrt bren
 yme je oblyle go to zelle Chro deute
 q et priu tenuit seruiez
 et priu ion knole wþ puer
 And aft a nou yngt to ecclie
 And aft a dyntaf je puerip
 q Et edenreus wþ ion fuston
 Si al art auer drifson
 And edenreus wþ a pyndylle
 þ to eft hanie we tholl
 q Et le vrel en faulti
 plino al ore ne wþ di
 And þe oblyle lat nat sayle
 more at þe tymre wel y wþ nat say
 q oblynglyngþot ion dufite
 donz chescum uet myre abise
 But zett y hal oblyle a dufite
 .comber quent en se porto y quido lastuer tu
 to mout oblyngþot

105v 36.

Et en cymad yo n'it a Gysel
 q De tis chose est le fust
 Le fil est file onc le fust
 Et m' synges d'ys p' spindelle
 q I' cred yo p' spone q' p' spindelle
 Et pmo le corde fust le fust
 Et ble est molue p' le fust
 And ast fleyut fuytes p' spindelle
 And corn yo grande q' p' spindelle
 q Sunt ore fil est file
 Et ore fust est perple
 Orme zo cred yo p' spone
 And zo spindelle yo p' fole
 q A li tyle w'comet alez
 Et pmo mes a la pañde
 To p' fole zole by houpp to go
 And ast ze shulle yo to p' jorulmey
 q Eni de filee est la mane
 Vnde iutost ap' le tul
 as of spynnge yo p' mane
 Keyze a non ast p' zera
 q Et pmo ap' testier le reil
 Et la tresser qunt publie ad
 And ast a non leef p' des

cheam fust comet vander tutolzti ap' tress

And y^e weberste whiche wrytn of
 q dñeles les tmes ofe bandest
 ore ay i^e di pris agent
 I non h^et tmes ofe wryt vpp
 h^ell y haue y seyd h^ell wreke longef
 q fresshnes fuline solemenet
 Dittate f^e olypys ouylde
 dor braciatis

O re orent a sau
 Del art a brefez + beafz
 h^ell h^et shal be to lye
 of crast to mylde + to breke
 q dñit hame fait orwif
 p^r uoz ofez fan^r bn al cfe
 h^ell mā makey ale
 for our yester to make del at eze
 q vne kene large pmes gnez
 Et vre vze enfonndres
 I kene large syft takey
 And y^e bes^r a zote
 q Et quint il est bn enfonnd
 Et la esse est vort distoule
 And whiche h^et y^e del y^e zote
 And f^e that be late out
 for laine feit f^e quint cu vpon p^r qu cest

- q mondez douz vr colez
 et velez q ffitz bu laler
 qude dene pme a soler
 And lader q hyt le bel y nborud
 q Et la colez vre ble
 tang qd lort bu gne
 And pe je spille ley zoyz corn
 for to hyt le bel a come
 q Et douz tu appellas
 vres q amys le nomas
 And pme p shalt clepe
 qd q a fore corn Bas named
 q Le bres douz oue voz maynes mellez
 En moutes lez on en reuges
 q vaut pme Et zo hand mellep
 qu hebet op in robes
 q Sois pme portez en un corbeil
 p empchez al toray
 And ast bry in a leep
 for to drye at p fest
 q Lax corbeil on cardylen
 sois dñe tout al fuson
 for leep op basset
 q Mal dñe et 11. at lafty

q pmoora le bgo nolu
 Et en este chande tout cubu
 qst shal y malb le grande
 And in bat Garm al y ddeoy
 q et doug roz leffez decy trut
 En vn conel moyntement
 And pme ze shal les hys jenne os
 In a penel a noon
 q deesq q plen soit vu doze bial
 Et pmo remistes en vn conel
 In to y ful be a droley fax
 And qst put h a yon in a messys bhat
 q pff q la bfe en cnez tient
 Aele or fal a sa talent
 In to y bkele in hte holdy
 q hte de Cort at hys talent
 q Et pmo la fal pnd
 De finantz on doze qle a
 And qst y bkele sfe shal take
 of bkele op by wifey che hach
 q Et p la gesy & la fale
 Dont plus & plus forme forte
 And by y berns & y Cort
 When of more & more me contrey
 Des beel cnez temt

Lxvi

- q *Mar dit leu d'la tressy*
Dont tout deusifer ne say mye
By ryght deute of blyngyng
Open of al deusifer ne ca p' net
- q *ayez tout ya le art en art*
Chestyn autē en ea p'
But al hef f'm cest in cest
Anny op in hys p'
- q *Tantz q' est bone dnoise*
Dont bone deuout si bi a cise
In to hyt be goud ale
Whof mā by comeys so bel at oye
- q *Aar bay miefacie ad pme rāt*
Sil aby maintenāt
p' hym self hatly take p' nunchē
p' he Regit Inke a nou
- q *ebresse tient lavez homiez & clerkyng*
Mille autē comyt fait si mes
Dufresse holdy leded mā & deyng
Non op knolay hyt makey so derd
- q *ebresse fait bone chaton*
Et bone arone foyt hauft super
Dufresse makey mā to oye
Had mā hez hyt makey heye to ē
- afrem ieduit meinez dezo mle foyt hauft*

q D'resse fait fate du bryton
 Des euge fuys comployn
 Dukeesse maloy r' visage of a nyne
 ful ad bry oute maylon
 q Et douz dit home p' seyt George
 En t' ad bu du gte doige
 And yme bry wa by seyt George
 t' ou multe he hay Duke fat of bry
 q Au bry comet daler a chose
 A cause q' ne puet say alt chose
 p' hem by hemm go to refe
 q cause p' he may do noon o' yng
 No pudendum pister
 q **S**i assan solez la mane
 Comit pifher deuz en vme
 qf knoll je Wyllie p' mane
 knoll fressh me shal in Kyne
 q Kyu est p'nt nome
 On este vif est tue
 Kyu ye p'le y named
 When d'at ye quyl y found
 q Ce espons p'mez espons
 et douz p'sons espres
 Bry a bryngge fressh led ont
 f'rege coñt apes epouges p'sobme

And p̄me syfth occlyp
 q Et o w̄l faulz en tñl estant
 Ali; tñtoft al este corant
 And yf se fayle in olþydh a prud
 Sop a nou to bat̄ zengye
 q Ali; donz fure delay
 On este est en batonay
 Sop p̄me bryp oute deley
 When bat̄ yo in batonay i. moor
 q Et la p̄fesse one uafe
 And pe ze shalle sp̄fhe Et a jene
 Du ret̄ ley on eue est ḡfe
 Du i of lite uett when fonde yo go
 q Et i uad uafe A eue auxer
 Loume futes d̄ chescum
 q Et hap zedde i p̄ne al so
 Loume futes to any mā
 q Ne uafe est menant oder
 q q̄ pluis large p̄ties affez
 p̄ p̄ne yo h̄tys open id de forain
 But more large p̄ties p̄ nobez
 q Ad le eue p̄ quoy p̄s dy
 Nulle aut̄ rassance est en luy
 But̄ p̄ redde for b̄ḡr p̄ say
 Nob̄ tñtouyt corant my d̄p̄cun ie nulc

Men op valiancet ic in hi m
 q Sacredicente a la matre
 a de piffhe w^o dyg dy
 uas say the a zan to p^e matre
 p^e of frissynge zoll y spal say
 q Tu gourge de vase raflez
 Widne de deuy de getry
 ge botine of p^e zene vane op salva
 v ordue b^r yune cast hpt out
 q Spende on seide or w^o tuey
 pley bynbyez lye gnez
 fesse op elote zef ze frude
 b^r p^e challez hem telop
 q Et fil fort uelle de mer
 Enar bay deuy & spende
 and zef hpt le uellel of p^e zee
 spene zef shal & fralle
 q Le nos tristez en oufey
 Robel on eschyne vase ffro
 p^e conud a van cast hpt out
 volled & chyne al so ze spal de
 q Et retuez vre nieson
 jesop a lant beson
 And tunc a zan to p^e houe
 valiancet cu p redicente quader tuncingt
 oufeyz eschyne nieson p^e

In to a nōr tyme
 q Et quāt po^r venç al pēde tenayl
 On le pifto eft one la mapl
 And whāne je come to a grene bant
 Whāt r^e ffe yo w^t hys lesteryle
 q Po^r mo en boyz ale^r lōubz laby
 passe^r doug p le horayl
 Aft in lede sorunder p^e shāde
 Sor quāne hy p^e lede shāne
 q Yl p ad horail p. h. estpt
 Et ocal ouz. h. dit
 ape hap horail hy. h. y. Oryte
 And ocal le oute. h. y. oeyd
 q De south le horayl sor beine le lacou
 Et one oreyl oit cheftu hom
 Sud p^e lode efe h^r lode p^e tief
 And le c^r hump cui^r mā
 q Gez q emz passus ame
 De la tenayl oza d'fanc
 Unt q^r t^e passe sōp
 Af p^e lull yo h^r h^r be oeyd
 q Po^r ceo q^r y ad pluson defens
 Et pluson dez defens
 for p^e h^r hath manye deufitez
 onz chevres p^r obmis p^r

And manye diffēns
 q Deual est & tenon
 et tenacles dāult appale
 Andeles se yo & tenon
 And tenacles of oþ appal i tonger
 q Iç custome tienent le tenon
 Et p my le tenacle passe p dom
 ppe tybexo holden p quidele
 And porb p hall passe p gondme
 q Aye tenacles huet de distre
 En yu quicq a fren fren
 But tonges ouer for cole
 In kynt Whane by y fice bee hitte
 q Et al feue ont de custome
 Amant le maryl fietz al dumie
 And to p swyng ppe oue of custum
 Whan pe han swyngpp ou p arsed
 De tempe penus

O re plint ore gele
 O re remople ore regale
 Nos hyt Raynes nos h̄t fit
 Nos hyt palkep nos h̄t fressup azen
 par le gele anomus glas
 Et de glas vintz vñ glas

Sunt tenentes fu cygnis cotibus quinque
 P q̄ fuit custos vintz

46

- Wy fforst bee hauy glas
 And of glas comyn wth glas
 q Cele & plene de ge tut
 fōnt la chaymā tē ledet
 forst & reyn dñi fallynge
 maken p^{er} may on hauynge
 q Dre nege ore remore
 Deel tempo p̄riet ne bōye
 Nols h̄t onelset nols h̄t pletur
 p̄tysd̄ tynne p̄f̄fer ouy may
 q En noū bouſtis vrient on auffe de ueff
 yea c̄ q est p̄ gnt caiff
 In myn molten comyn a flade of suol
 y leue h̄t be for ḡt deſt
 q Noy aūous ḡfile & gele
 myffyl ḡunt uon p̄ gle
 ee hauyn h̄yl & forst
 h̄yfel ḡret noppyns h̄yfel
 q Dre entendez uon pe tome
 nulle de voz mot ne forme
 nols takyn h̄ede myn fot sleep
 Non tā of zold a bord spely
 q In p̄ne quyt lan^g change
 Et de tempo deinent si frange
 mō p̄ bōiche p̄int aūobinio nulle debūt

In Wynter shal y Reg' chayngay
 And y tyme by coray to fege
 q De bonac ne pent le suffe
 p la distre del yu
 t ma nat suff hyst
 De distre of Wynter
 q Dont lauez la mayn estome
 ac p la fide ne poriez myne
 Celi fore ze hanep y bras et bouslet
 t for cold ze may nouz
 q Des deuz faitz la capmole
 ayult ore vante o plume mole
 t frangz male y hot i cumulay
 quele nolt ys leord on reyn nesse
 q Ceci pste fia d'au le broule
 Chapou et piffiez de blanole
 Pittre by fyez a regnes oile
 Hod je dor of Wynter
 q En de quylle la pmerole
 que tuer de faine et a mole
 op to gade y pmerole
 que y fye of Wynter nesse
 q Amant brayez batez et batez
 ac conent al le quylle

etome pmerole vache pmerole ayez batez

Et hinc fayz uā hys by holdy
 t y nolz at effort speche
 q Dame sole le rcole
 ses ay ore lez verolez
 Dame foul hys by holdy
 Dame uā ryze pethys
 q Et lez rindux one zolto
 Et facet ore lez placez foloz
 And ryze red zolto
 And makep nob ryze placez foulz
 q Et lez foloz lez karolez
 qz p a fadz ceaz inces
 And ryze foloz ryze karolez
 But to teche ryze jnacenes
 q De vrode co diphis de sens
 qz ces qz y ad vrode verolz & vrode
 qf vrode zolz y fay mo Gyttez
 for t me hys vrode verolz & vrode
 q Es cont de dñs estole
 q De vrode le membre grande
 t bath of dñs robe
 q De vrode y fay
 q Du cotel du manteau pide
 Et le vrode la face emp

ne rebete sens ente

Mr Euph of chever grom
 And y poctes y face eupher
 q De chescum foul & sage sy
 wch deo est vn varole p men
 Of euy foul & kyfema
 But y po a Cort kerri for for
 q A de cholet qd de nre
 Une frme est qd de colde
 y of Cortys gleep by kynde
 A kerri hpt po y gne yd of colde
 q En frme varole est nome
 La frme a varole he po named
 De nre herber
 q **T**e iour deuent beau & cler
 Alors en auste p mer
 y day by come fayz & deer
 So ne in frme to pleye
 q Saitez on fuit lez flomes
 Dont issent lez doulcez alors
 Je ester loren bin yze flomes
 Alors of god ent yze obte alors
 q Lez anga p medicament
 Lez chomuns iel p lez flomes
 Estez ap for me

And hez names y Cysille demeue
q floure de rose flos de lys
lys p royne rose p frantz
flourz of rose flos of lylie
lylie for blacq rose for blake
q duxa amez la peele
et p la teste vaut la peele
Also ze haury ppe orele
And fer p gneis p ferme p dolde
q parele est parcl & paix
De totez manez des oferay
pele p po parcl & paix
If alle mane of brydys
q un couple sonz de male & female
Les est vnu psl & nō p pele
Other couple po of male & female
& po a paix and nō po a dolde
q Avez condescendre psl p paix nomez
y nō ge enfaire come en nō
flos leys t'ys qd p leys
q p leys t'ys qd p leys
Come en p leys t'ys qd p leys
De ne p leys t'ys qd p leys

q̄ h̄yt be not for zete
 q̄ pl̄ y ad flour de chortye
 ac ad lez ealez fait gret aic
 q̄ hay flour of y zode
 q̄ to eyen dor ḡt helpe
 q̄ puerose & pueromy
 q̄ monstut en temps de rey
 puerose & boldeslype
 q̄ obis sp̄m in tyme of oon
 q̄ Et la confonde q̄t auxri
 Comme erbe est a chestun
 And y deyfrie Auḡt also
 Comme erbe ys to eny mi
 q̄ Ernysse auxri tneuz
 Et plantayne et lez queruz
 ayngfort also ze ffolys fynd
 And Swybrede yf ze oecfe
 q̄ q̄z et rōt tneuz enysse erber
 Amersot ou gloster
 But yf zolys fynde in erber
 sperche op clole
 q̄ lez araffez oue son bisacu
 Et plantez cholez en lour bin
 hym tafep vpp a melle
 . fier ḡnt cu p mōdēt tēs d̄ auoy chātomy
 alay leb

2

And settes portz in hys place
 q En vger on arbres esent
 p charge du frut plisoun abessent
 In eves when tec besy
 for charge of frut manye blokys
 q Nomz perysse & seysse
 fite sonet a puce
 Aperte pees & chys
 Assy brom & plowmy
 q Ceneles q ceneles porte
 foudre q foudreynez porte
 halde porin p' hautes deys
 also porin p' dolz deys
 q Et glement porte lez pipewongez
 Et ester q porte lez evez roundez
 And breuyt p' breuyt p' heye
 And p' bolace tre p' heye p' bolace roundez
 q Maynt aux lez coignes
 En plisoun des vges
 Also x haux p' coigne trax
 In maux of y eves
 q Dont il y ad d'usite gret
 Et multez ne fauent gret
 When of me hay d'usite gret

.moy

And manye knolle nat leste manye
 q' lez signes furent lou uifez coignez
 En le cepe p' chasteze
 p' se lordes doch p' se boudement p' stoltez
 la bas ch' signez fer to chaste
 q' Et p' nez le coigne abutez le coign
 Et cepez en coyne du coign
 And takey p' quynz empit don p' coynz
 And hiltay a legge of p' coynz
 q' Et coignez est il auferment
 Si fait monye de bone argent
 And a coyn p' he al so
 p' malle monye of goud spuer
 q' Et autz arbres furent auysa
 p' apud chescunz
 And op' ces p' bep al so
 for to leue of cuperche
 q' Vix paumes & arable
 Si est multe foiz en tuz arable
 bep paumes & mapyl
 p' Bepp manye tymes in lond arable
 q' Et la haesse p' est anoy ea p'
 ay bep vantz p' edifier
 And holme Bepp al so in orchard
 . et p' feet anoy checunz palmer est multe foiz
 et vint

¶ hyt yd yo therth to buld
 q Et le lorne il est auxy
 Corre arbre a chescun
 And yd elle hpt gldys al so
 Comme tpe to cny man
 q Pial chene & yff
 De quale fructo ny ad piff
 Cechy est & qd
 Of leys fruct hpt no pif
 De uorbz aliuu
 ¶ **Q**uit de regd amours le choy
 Que aliuu pellec en booy
 Wren of orchard le hanuy y choy
 Nost go le to pleye in trave
 q Spec le frument le gale
 Sy uello ^{languor} syngrep q hu mayn eufale
 To her p note of p myngale
 p bet syngrep pme dor p oddle in halle
 q Et uello thame le manegy en bosson
 Au le foy in uelsson
 And her syngrep p yffyl in p buff
 pme p resounus in p bous
 q En bunge her la maled
 En mayn le uelsson la gantz

Autem aliuu uelsson

55

En branche sett y proesse
 En mares duellip p' sheld d'ee
 q u'a quoq' auez le fytamond
 Et le oyfel p' uon chaland
 zyt hane xe p' star
 And p' bryd by name Godelard
 q En four mayut le solemand
 Lez piffon one eylez paunde
 En olen Welby p' est
 p' le fessheo t' formes obymen
 q Eylez eylez sont dno
 Difordit dont lez clerco
 formes & Gyngez be dno
 Difordyage seyn ppe clerco
 q que cles naont lez piffons
 Et one eylez volent lez massons
 t' formes obymen ppe fessheo
 And t' Gynges fleur ppe formes
 q Enf auons uenue p' lez negoz
 Dont lez represe
 Allo lez fessheo
 Cben of p' lez fessheo
 q Enf auons uenue p' lez negoz
 Enf auons uenue p' lez negoz

In zee obȝneye ye fyssh
 In zee poȝt much manyn gudnā
 ¶ Et one vironne doit hōme uazer
 En batil en est bon mariner
 And Et eecor shal mi ȝolle
 In boor ȝehen ye a goud mariner
 ¶ Hanc en yue vironne neger
 Et lez amysbez en broun voler
 But in Spyn ȝee seyth enolēc
 And ryȝe fladis a boute fle
 ¶ Anome auxti esprāndis & esprāndis
 Esprāndis enſentis & parandis
 Ne haupp alſo esprāndis & esprāndis
 Esprāndis alſo & parandis
 ¶ Il esprānde conſeil damp
 En distone ne doit a nullis
 Ne helleys coſeyl of a fiend
 Et distone ne holdis to no ma
 ¶ Et leſſent myſteris appande
 Hors de esquyl conſervande
 And a chyldis apereysis espedis
 Out of hyo dyngis godes
 ¶ Et one eilez parandis piffare
 Cunt vif en zey day piffare

mēfus apereysis nullis dypuris
 nullis esquyl by

And G^r franco aboymer v^e fress
 Whunc quyt in nett hym be takey
 q^uayz apperand^y est v^e pole
 ai clerke rferit in son^t estole
 But to spele po a freche
 v^t clerke rferit in has^t stole
 q^uet si ilo esprudent uatalent
 Boutz lez lez ensemble pignent
 And i^r p^rey spele kyndeler
 alle pyze leco to gedes^t p^rey takey
 q^uanpi^t us oseany redierons
 En plene apud^y v^e proximis
 y^t to bryddys say we ayen
 when more leme pe we molke
 q^u En chambre i^t aillous auys
 Depenit houne loisel asti
 In chambre i^t op place^t also
 peynt mu^t v^t bryd^t Rodefort
 q^uet le deder cuseant
 Et il ad double entendent^t
 And v^t roleddot also
 And h^t h^t hay double entendent^t
 q^u v^t ad vredes & vredes
 Vnde est oisel lant^t forest^t
 .duo egle leto osebo redierons probans
 amys y^t.

ge hath vredex & veder
 on po a brydd, & on a forest
 q Dar p luy wole le vredex
 Et ceo vit ha le veder
 fore by hym fflyp p' kuddok
 And p' feath bel p' forester
 q Et douz vrient vne reistele
 Volent emrou vu tisse
 And yame comey a brene
 Mlyng a boute a stok
 q Et mult plaid vu petit reistele
 A vron vu gant tissell
 And much h' plesir a hotyl brene
 To go a boute a stok
 q As astur beal touche du viele
 Ou le note dune fistele
 p' eny fayz touch of p' oppel
 or p' note of p' pipe
 q Engos amez vu mifenge
 Si lez haes on bope renge
 Zyt hane ze ou hebenose
 zef ppe hegger in god, ze seche
 q Delacez ore renge
 Si renget wole le mifenge

p' mifenge, plaid gant cu v acun bel vle.

Vugoyd zorez obredz gyrdyl
 zys je byle acte p' heterose
 q duxa auex le palemole
 Et ensent le chardinal
 Allo je hane p' goldysuol
 And allo p' goldysuch
 q Vugoy auons lez pumpilou
 Si voluntz volontz p' chardinal
 Zett hane lez yaze bottfiez
 p' gladys fleez dy chysies
 q Et en lez rointenz ensent
 Usent a creer natalent
 And in yaze breys allo
 pey vysyn to sytis kyndely
 q Nez ceo ne veent p' le gyslou
 Ne en cotelagez put son sorouz
 But so bryl nat p' god hoppe
 p' in cotelagez takey hys reste
 q Ne le brysou nayme rye pluo
 Ne budy fomes q' chiet suo
 Ne p' ychou loredz no yng more
 yme take apples p' letz lise
 q Anges & byles ne sont ayne
 cler ilz ayment pluo la vrtie
 . anoy adame roinsens ce recht ryui

flez ne grattiez ne dop nouȝt
 for pey loue beth p' netle
 q Ensy auens aue p' plisoun
 Et en hyuer ont louz maſpon
 i Alſo oſe hanyp heuede z doke
 In hyuer pey haue haſ d'uelluyng
 q En morez manguent lez vanelez
 En villez ſout lez vanelez
 In morez duelluyng pyze lepeltryng
 In toldeos bep pyze lauz
 q En gūge vſouis la vaat
 Et le embiono ad le haan
 In gūge berſeu ye charme
 And p' embiono hau p' hote
 q Oy vient volant en roſez
 Vne brallet a luy eſt ſocier
 Hey comyp fleyuge a lynde gooſ
 A bradgoos to h̄y po felabret
 q Et mult rānt vne brallet eſt p̄n
 quicke melo q char du fñ
 And much po Corp a bradgoos p' roſed
 quiche lete p̄n p' flesſ of a roob
 q Et plino eſt ignel vne axouide
 Le asturie tygome qſt en mode
 . anſambl vlez vſouis vint by mult ſoubt
 aum qſet

And more yo obysf a obialue
 yn eyuyte y yo in lewys,
 q Et le apie a la redounde
 ynt le apissou & le arrounde
 And y bee at y hono efe
 Takep y fene & y obialue
 q Et le oisel q ad non bibikaz
 po la lyuez est po en lao
 And y boyd y hap name beke
 Yr y lyuu po take in gyn
 q Chant de col koll en este anomo
 po pisez ceo ne tendom
 Song of kolkoll in somme he hane
 to pise y take he non hede
 q quez plus vaut pel de froun
 Le chanut dufyne ou de poum
 Ut moy yo lewys y syn of a foyu
 yn song of asse op of polen i pane
 q quez du poum la beale chose
 Est dilatable a la delice
 ut of y polon y fayz tayl
 yo dilatable to y syrtre
 q quez plus gome arch penne de poum
 Le ea estheret mat de paun

... anobus tandem vaut digne bele escheret

62

But more loued y^e arch y^e rene of y^e pilote
In in cheker armes of y^e paun
The wolv animalin

¶ **I**n þis wȝt/ to þū
et querȝ ad oða manfou
i oðre a gȝt brok
and hƿr fer þis ƿ-ðeallung place

q pur le feni d'au gospyl
ai loy ad myx en exil
for p' synde of a rooy
l' hymay put este
et homy ont le mal pratoys
si este en pille ou en b

q est huy dont le mal putoys
si sont en ville ou en bays
dus que le y engl putoys
y f le le en tem or de

q Et mal amate alioz oyt
La ghe gelone a huy retit
Zed angel amate to hys he
ghe hys to hym ha drakey

q' q'ez plus penit son bâton
pe faire ma grange de Batz au
but more yo a feme

To make my singer of voices done
q se toutz des tambours & de la gogotte

61 62 63 64 65 66 67

et imperiale regale fidei et imperii regis

631

En sōnt tabmēs en lez pēs
 pēme alle y moulez fai hēre to parys
 y makey molhepes in y po medes
 De pētatis bise

- ¶ **I**e chāst ieo por le disty
 Et metty yci en nōe hēre
 Af y cart y dēf distine
 And put hēt hēt ip ouy book
 ¶ De lez pēs po di pēs
 Et pēs de bēdenez q̄ sōnt ento
 Af ye Chāples jōs y day syrt
 And aft of yzze bēdes y bēp a hēte
 ¶ En lez bēdes q̄ pēt de fer
 Sōnt lez chātes entachez de fer
 In y bēdez y ley of y
 Ley yzze bēches y tachet of y
 ¶ And entachez ento lez pēs
 Et entachez spēt lez pēs
 In y fles que enta y spolez
 And of y pēme goy ent y pēme bēnes
 ¶ q̄ez lez rāgo en le charret
 En lez moaux est lo refet
 Out y spolez in y car
 In y namez yo hēt zespēz

tabmēs dīc bēdene mon.

64.

- q Vey moaux gifent ent le zoof
 Dontest com le mœl del oof
 q namez legges et yune et chyple
 Escht ac v joll of au ay
 q vuest fait p gnt chce port
 Et lui aut p bon nager
 On po mad to bes gnt cheze
 v op for gnt goud mete
 q hez en le mœl gift lessel
 Et deuy hetero se treguet
 vut in p name lyp v zext
 And tuo rouges holdyn hnt enene
 q Si le chart art bonez braez
 ferme lye ac lez essenz
 zpf v cart hanc goud boudes
 faste v bounde to pyre zext
 q Et si deuo lez nianez so
 donz en fult rien for sy appeler
 And zpf v yune v namez be cloutez
 vni faylez noppes but laddere
 q hez v est pluor artisou
 dey essenz v ditz pluor
 vut fee to be p moore cftious
 Af zexto gnt v squal say more
 mas fct by deuo essenz mons fabt forz
 vlied nos

q En le moer uacent lez raios
 Et do lez fayls veignet lez raios
 Ju p^e je oblymer p^e rapes e. pistes
 And tolbard faylos comeys rapes. i. vesta
 q Aixi auons essel z assel
 Et la tierce pole hussell
 Alp lec hauy p^e assel i assel
 And p^e thysde bord hussell
 q Le chart gisit o le assel
 Et en le moel gisit le assel
 p^e cart lypp ou p^e zept
 du m p^e uasse lypp p^e zept
 q Apes le hussell auenz vous
 En ore bras p^e de coubs
 But p^e arm hole hané zoll
 Ju zo armez by nethe
 q En lez hymones vat le hymenour
 Et en doz forte cou dosses
 Ju p^e hymones gos p^e hymenes
 And ou hyos rugge he heruy hyos ryxoye
 q Et al ventz le ventez
 Et la vesse le vanner
 And at p^e vondre hyos vondre zop
 And at p^e tayl p^e tayllof
 mees auons gisit couz

q vent⁹ & recteſt⁹ p ad
 dñs cōſidera p̄m̄ expo dit me ad dñs
 a mydlyſte a bimbrōp̄ ne h̄ap
 p̄p̄ h̄ap̄ ac fāc̄f̄t̄ me h̄ap̄ cord
 q b̄c̄y et sp̄m̄t̄ nome
 que fām̄ q̄ en velle den̄y
 b̄c̄y yo q̄p̄ h̄ap̄ y named
 a b̄m̄m̄ p̄ m̄ velle d̄b̄l̄y p
 q p̄ uder en cao da vecme
 b̄k̄o de ḡy en gefyne
 a h̄elpe en cao b̄c̄y m̄r̄zboſ
 b̄f̄me oþe þat h̄ose m̄gefyme
 q p̄ez q̄p̄t̄ dt̄ h̄ome p̄t̄t̄
 que a roent̄ p̄ te lelemer
 b̄ut q̄p̄t̄ epp̄ m̄a vent̄
 a ot̄ b̄c̄b̄ lemyr p̄ lemer
 q le t̄per ad le br̄erole
 en lez b̄ymom̄ br̄ace a cole
 b̄t̄o epp̄ p̄ b̄f̄ng eye
 a p̄ye b̄ymom̄ br̄ace to gadej
 q Deunt̄ lez b̄erolez b̄ot̄ b̄f̄l̄y
 b̄t̄y lez de cotēans on p̄f̄l̄y
 a fore p̄ye b̄erolez b̄t̄ p̄nac
 b̄t̄y v̄ cotēans b̄t̄y p̄f̄l̄y
 q p̄cotēans b̄t̄y p̄f̄l̄y

q̄ lez volez du chm̄les portent asseliez
 esto de quyez une lme hoffez
 y ueliez of horo berly haidez
 solerex of leyye et hys tynghamez
 q̄ et si le cheuer ad ta mante
 don̄t lez chm̄ales en tōus resorte
 And yf y capte faire hys cheyze
 q̄ hez le p̄yez horo in tōus he resortez
 q̄ douez ad tout q̄ a luy appent
 Et assez suffit si luy tient
 yme hach he al y hys by longez
 And y nouȝet q̄ affez he hys holtuz
 q̄ eyz p̄ est p̄blis sachant
 vol dyp eynez q̄ passe aint
 But to be more couynge
 zols more y fhal say hys y passe forz
 q̄ de dt a fayz a chayz
 Et enfaunt le cheuer
 y dypth to do to y captez
 And als to y godene
 q̄ de chayz le file ana
 don̄t lez chm̄ales correy
 y captez y horstondz fhal faire
 when et hys horo he fhal correy
 c̄lles h̄ est fey

- q Et le boner ne teigne a gao
 p' lu fff des deitez one cordas
 And r' oxeple holtz hyt no telle
 Nor bel to ffe hys open G a braxe
- q Enz qils sont bieu embenez
 qez al soiz sont baiez
 Si pey be bel y bated
 But at euen pey shall be bel basset
- q Baiez yl ad ppart
 A dit bantor q' ne uent
 A Gayr me hath pby
 Soeyp r' autor p' lyep nat
- q Aaz beoso z chmilesz sont baiez
 Et totez auto bestes lauz
 fore open i horo bep y bated
 And al op bestes y basset
- q **P** mo jere suff du chaste
 de la chue ore me entmet
 Apf r' hyt suffrey of r' cart
 of r' plosse nols y byl me entmette
- q En la chue auez venu
 Sudoz nonz z muelous
 In p' plosse haue ze
 Sudz namez and milbeylous
- Betez qils been yl beoso

69

q̄ p̄mez le chieff & le penou
 Songz le manuel & le tenou
 Hyst p̄ henech & p̄ foot
 vanc p̄ hande & p̄ stolte
 q̄ Par de soubz gisit le orlou
 Et plus a mout est leste conu
 By foythe lyp p̄ tyzthe
 And more a boue lyp p̄ ohefryzth
 q̄ le soche ensy & le sformez
 Qua le chue de dixt deuer
 p̄ cultor also & p̄ shar
 Apal p̄ plots haue of ryzth dente
 q̄ En longe la chue gisit la haie
 Si vident de brys ou de haye
 In longes p̄ plots bry p̄ beem
 p̄ cornes of heve a or of herze
 q̄ unq̄ auxez vu vut a poi mallet
 Et vu nodelou. vñt h̄. p̄ fay luy uet
 p̄t hanc ze a maylet
 And au gretstaf to make q̄t clene
 q̄ lez boos portet lez queo
 p̄ esmeux & p̄ Jelbec
 p̄ze oxen besy p̄ze zebec
 for ester men & for Jelbec
 apal onz gisit leste conu vint fay ly

- 50.**
- q Et p lez acomes fidejz enques
Dont lez beoſt or fortis artis
And by p boldes y ryket in robor
Bep p open y forſet o hajde
- q Ay lez comet mangy louy
par langdon esquier exouz
y hem by houyp mangy hem
y p e gode ethue exouz
ad edificandū domos
- q **E**n vñ aux ou penſer
Aeſonū ou chamb̄ p̄ edific
yf za haue in pouȝt
challz or chūber for to bulg
- q Al couet al coniuent
Al fayz va bou ſoundent
Et by houyp eo y at p̄ fyſte
eo make aere cuffis goud ſoundent
- q Et pluioz true o bate ſe meſſez
Dont femine eſt rit meſſez
And more to ray p̄ ſe meſſez
the of a Godespys ſe houſez
- q Il y ad meſſez ſe meſſez
Entendiz en deſt meſſez
ye houſe meſſez ſe meſſez
- Et ſe meſſez p̄ ſe meſſez ſe ſe

71 123

Undestrande en dinc maue
 q' lez messierz pour lez champs en cui
 gez messierz fait le meson suz
 i hay gardes hané p' feldz in cui
 vut houilliez malys houe ouz
 q' c'eo e le nuy qui enclose le court
 gez ceo est messierz ou couple la zhourt
 v' po p' eal p' enclosz p' court
 vut p' po mesierz p' clozey p' roff co geden
 q' Et v'n pareye est enfeut
 de lune pt et de lant p'nt
 vnd a eal hpt yo alfo
 off ou pt et op hpt taker
 q' p' la mesierz en tuo oult
 a mon le celz metter pout
 On p' eoghe in tuo a bone
 a bone p' celz put a pondy
 q' La pont en sale doct forme poser
 Et le pont enz en solez
 p' pondy en sale quel vnd putte
 vnd p' pondy app en solez
 q' Et o lez pilers le plantye
 de houe on plez de paix
 vnd en p' seitez p' planty po

fin de acte

¶ qf lord or plas trel y paund
¶ qf la messey lez thes mester
De deuyx choumois son couple facez
en p' boghes dep zoure bemez
et tuo rastre a couple makey
qf la forme estre le messey
par knolle s p' dey
¶ qf faste shall stand appon p' boghe
¶ qf p' tyu pyn e by p' brymbyl
Song ne fault mes comble p' nou
De tout a mont le meastre
p' une fayley nouȝt but zof by name
at a booke p' heo
Comment dauer un longe gescoune
Dont le couple est plus suer
Byt by houpp to haue a long biane
Open of p' couple p' more suer
qf ay p' plus arant p' lez
So ne deuez oiez
Vutte for more fether to speke
ze spiril nauȝt for pecte
Et vous comet dauer barchois
De cloans ffychez a vez meastre
And zoll by houpp to haue latre

Den hunderten exiter knule fahrt wieso
obut vob clage

73

Cyp myles y uayled to youre houſe
 q Et tachomus a la puce auysa
 p cele ap̄se ieo vo di
 And stantz to lealle alſo
 for oþerich a thynge y zys say
 q Aaz il y ad tachomus & tachefons
 Dont distord ad de nomme
 for me hys tachomus & tachefons
 shen of distord ys of namez
 q Aaz tachomus font as meafones
 Et tachefons font morer chinalz
 for stantz her wad to houſe
 And tachefons makyn herodye
 q Et en chinalz font nouement
 On ilo mangent nulment
 And in herod pey her nameby
 Et pey eten eyle
 q Maçoy fait bñ afanc
 Ce endroit meafon aſey
 ytt be hyt bel to kyte
 hat in ryȝt of a houſe to make
 q De deuer il conient eſey
 Bone canueny & foneſty
 Of deute hyt by horay to be
 enoy chinalz frot aſey p̄t et feuet

Coud Louer & Gydois
 q Amers & amers y d.
 Al amers fume isses
 Louer & almeys me hys
 Et p Louer fume gop out
 q Aut en fume est amers nome
 q y cy est louer apelle
 t en fume yo amers named
 t qd Louer yo apelyst i uocatio
 q Aez ceo est p amers
 En lere meste viande on vult
 Vut p yo gys a abatue
 Gys yme men putte viande
 q Al aut de hys est le hym
 Et oust le teste est le fustine
 Et p ent of p dore yo pessold
 And a bone p heued yo p ouches
 q p le coste cont les hymaux deuy
 En lere doyt pndy le hys
 Up sithe bep yse dore hys ymays
 Cheri me stat take p doy
 q Et un gynele pendumto uoz gyngho
 Aut deuyx diles uos auomo
 In p chyngyng le honge on hys hokes
 aut tete hymalo deuy

giff tis taystes de hame
 q ore faites celiers & oys
 Et doux est le meastur tout fay
 Nos multes oyent & loys
 And pynes yo y fous al fetez
 q oyendez le meastur coriez pambes
 Aitez la table doux coriez la
 autre chose y fous gardez tressen
 Lere y table pynes leme hys
 q Amenez q oynt estable
 De vne nappe coriez le hant table
 A uoy y hyt by do
 Cest a cloth leme y fayzhe table
 q Et la seconde auycoriez
 De blaniche nappe si vous auuez
 And y seconde als leme
 Oyt hyt nappe yf je hame
 q Et si la sale poyt tpt salee
 Nest mye apysse en sale
 And yf y falle be ou folle
 Hyt yo met to poysse in falle
 q plus vantz blaniche nappe mult poysse
 De la nouel mult endolle
 More yo worth poysse clop y rysse
 fayz meastur estable auyc vob tpoysse
 vade ment

16
 priez p' ne me vache en bolles
 q lauz humpz moudez esquiles
 lez angles copes jesp as a stielz
 tress copes make clene distiles
 p'z angles oblope in to cornez
 q Ale a quistu one tout hanet
 Et estre le hagyz du posuet
 So to p' quistu lopp p'm fleshholz
 And slayz out p' hagys of p' posuet
 q Et mettez a tre veile vache
 Desouz voz potz nouz la luche
 And put to zone olde hymne
 A loue zon peir nat p' ladyf
 q Alez a luche one la luche
 Et p'z la dame q la coiffe luche
 Soye to p' slyfesse Bt p' slyfeson
 And p'z p' dame p' che p'z coiffe
 q p'z a la luche redizans
 Ou plus apndi p' redizans
 Unt to p' hyde day bee a zon
 When more leue bee p'z molle
 q La luche dme de aero
 Ou nos vionis voler lez dees
 p' hyde obyp for been
 equales p'z alez quatu desouz voz redizans
 mult p' redizans ad viderius

Then be or fle p' other me
 q On foy syngint
 A hony be est p'mt
 On by he selfe syngers
 Au hony bee ye p'sly
 q Et p'mt on dey deo
 Au anglysh est a olyari of beo
 And p'sly on of ywo beo
 In englysh ye a olyari of beo
 q Et ceo est on ree da meal nome
 Ae en riche fount lez apode gy
 And p' ye a comt of hony y called
 Y m' spylle makyn ytre beo of gy
 De p'petabiz noumū
 q **E** quylz bon gent a mang
 On poez wo' mesmez a lōse
 Ma' vnu folk to mete
 So m' vols ze self a lōse
 q Breuchez cest payn gesti pay
 Sez biseuz soient p' dien done
 Sequel p' bres p' yo parred
 P' pelez be for god y que
 q De coteul trachez sez biseauy
 De quylz manguomo tenz meaux
 ne meal god meuez biseauy de coteul biseauy
 manguomo debz meuez

- 15
- Cuy knyf beque je p' canier
 Et sydes ate le p' myez
- q Prouchez le payn chande de flouz
 Prouchez i. broches p' bred hot of abyn
 Prouchez les oos du venonz
 Vnu ssep p' bonez of p' honte
- q Tonpez la corde du mifance
 signez conenant de disteunce
 Prekez p' corde of mifance
 Prekez conenant of disteunce
- q Si vient vu grefou tout plauote
 En bry apt dist harlotte
 Si comez a boy al by squyrt
 Ny cemeth bel to be a harlot
- q Et plusou ad dez esfauoz
 A cause quil ne fent a chual doos
 And manye he quich of squyrtis
 Ny cause he chao nat on a hor
- q Siens qissé de mafou fous
 fait sale nape & table gciono
 tynt p' sop out of p' hessye hono
 sale foul nape & table gciono
- q Et este q' est al hmo destable
 fait blanche nape & mestable
 En tenu le desq' quil mafou fecti et

And eche t' gleye at y' dore of y' stalle
 quele blayt napre & lene table
 q. I mez valet en roz estour
 Et harung ouz deffret rous
 Tales zomme in zomme oblytys
 Of harung red of y' frangl red
 q. Par deunt auez estour
 Et de conste auez gerous
 By fore ze haue oblytys
 And by syde ley gores
 q. Deny garbus chacent gitez poy
 Al chesten moet lune baylor
 Tels gitez iannep gitez sped
 Et cuny bord y' on flasset
 q. Et laint ne pent pler
 Me sole sanz uastier
 And y' op may nat spele
 A bord et onte onefflyng
 q. Et tout foiz il uastie
 Apene vault vne alpe
 And al leuy he onefflyng
 Unay ye he bord a pese
 q. Si y' ad tusse & esrap
 Enz romez & estour
 et me conzette deuc chevau laint tolifay rabot

ay hemys to conynghe & to spete
 hemynge spleyng & spetynge
 q home dont tuffe de dyt
 ai tē de droufe benoyt
 qm̄ shal conynghe of iycyngh
 y ou moche of ale hay y droufe
 q Coment luy dyt estor
 Et tel qm̄ muche wasthe ou goust
 y woulde he shal spete
 And he y smallep or kollep or takey
 qm̄ ou gout gate luy mettez goust
 aux fuper luy estut tōu
 A ḡt rebuud h̄y put to ete
 for respyn he uot fullbel
 qm̄ ou vomez mult mangē son
 ay qm̄ estreys pent couert
 qm̄ spete muche mangē h̄y
 But he y fuze may y nolb;
 qm̄ Pan est + ad leggēnt
 luy de feine ay disteyt ḡut
 thoo he y & hath morfē
 of Comma haue y hued disteyt ḡut
 qm̄ ai y orgoyle or forcent tāt
 En plante towndis ablesy

qm̄ ay qm̄ luy ecōp muche etis tōu mult
 etene towndis

q̄ by ſide he forſey muche
 In ſpekyuge allayn to hysse
 q̄ in lou amez plas a pleaſer
 for haſ louez more to pleſe
 q̄ **V**i vales de la nouelle
 q̄ vi vrient dune ḡt magie
 A zomā of ſe uelle get
 q̄ vi cometh ſai aḡt feſte
 q̄ de la feſte moy ad counte
 Louz ſinſe ſent a rame
 of ſe feſte me hay vi tolly
 to hys ſinſe Bas a rayde
 q̄ Pauz poynt & fauz bon ouroſe
 ne oja honne al feſte bu a eſe
 Oute bred & oute gondale
 ne ſhal ma at feſte le ſbel at eze
 q̄ q̄ ſainte chofe fait afauor
 De couz q̄ ſent al puer
 But of or yng hyt po to kyte
 Af ſe couz p ſbel ffyft
 q̄ La teste du ſengler armie
 et le ḡnu bu bane
 vi bined of vi booz vi armeſ
 And vi ḡnu Bel vi banet
 pleſy vint feſte labe ſect

- q pmo veneson one fante
 Et pmo alij drafte
 Apf veneson byt fante
 And apf of drafte
 q Dex grus poros & cignes
 Moudry porches & galnes
 of cnes pollys & olanes
 tydes pyges & hennes
 q pmo amorient cornes en gne
 Et en sus enfoundy
 Apf pey hadde cornes en gney
 And leel en zeng y foundy
 q pmo y ont ante fuson de rost
 Chescum deuy en anty cost
 Apf pey hadde op fuson of rost
 En tuo en op eue
 q fefantz dasies & fefanz
 Apf pey allos & tantz rost
 fefantz bedeboces & fefanz
 fefanz larkes & alle y rost
 q You espis & ffe
 One zugy Rose en tempys
 Braken culpis & frictys
 En zeng Rose en tepe
 And chenes & Ben checum deuo tuo

q spaciez quibz & clouez gylfes
 Et dey and espaciez affez
 spaciez quibz & clouez gylyffy
 And of op spaciez y nobz
 q Et quart la table ffirst ouster
 Ent pondy one bon dge
 And entune y table was y led
 Ent pondy wy goud dge
 q Et daulx noblesse ffirst fusoun
 Et ore fine ic y ma reson
 And of op noblesse was fusoun
 And nobz y ende hez my reson
 De mortz infante

q **O** te merte ieo veule apud
 2 toter q sont dage tende
 Nobz marte y leys tache
 To al y ten of age tende
 q Et p merte ie no di
 Hony est il q nest noray
 An for folys y nobz say
 Hey y go he y go nat tangis
 q Ore estotez mon chever fitz
 Coment ieo veule q foray noray
 Nobz take hede my dey sone

spaciez quibz en y qm feit ouster dant ie
 Nobz nobz chever fitz

Telle p l'espri p je be neschet
 q Jeo wile tout al p'mour
 Le soiez habble a plein de douleur
 L'espri at p fyst
 p je be l'obie a ful of crudesse
 q Soiez en sy ffust a boneq'
 auz iusdictz a sauz imessayz
 De je also fre a boneq'
 Aute myssayge a myscryng
 q Et de beale porte ent le gentz
 ne t'p fault nez mesuerent
 And a fey port a mongez folz
 Nat to hys but menelych
 q De totez gentz drez le plus ame
 Et sagez drez a los
 Of alle folz je shal be more p loued
 And leye je shal be a losed
 q Tantz ious voulz pe je soiez sagez
 Et q voulz ne facez nullez outres
 Al dayz p p'z jols p je be l'espri
 And p j je make noon outres
 q A nulle home qest vman
 Ne do auferme ne do aufer
 So uomia p p'z campage

ie dorou meuz mesej bele t' p qd'z habet
 vost vitez qest aufernt cu v

Ne a zero hōmā ne chyld
 q Et quāt w̄ d̄ez ent le gent
 Cardez vre lange sagerit
 And whīne ze shūl be amongez foli
 Kepe zon̄ tongue Wysh
 q Et sy avez astur en chesou
 po demouſte vre reson
 And yſf ze hāne euy enchesou
 for to shelle zon̄ reson
 q Court & br̄ soit vre language
 Et le maz d̄ez ame du sage
 short & lytyl be zon̄ language
 And p̄ bett̄ ze shūl be loned of p̄ Wyze
 q Et quāt voilez pler
 Et vre reson demouſte
 And whīne ze Wysh speke
 And zon̄ reson obelle
 q Et si w̄ soiez a reson
 De Jeone hōme ou de cygne
 And yſf ze de a resonet
 Of young mā ne of old
 q Vix entendez b̄n ne soiez hasty
 Et quāt drouē passer tout lo ditz
 Wydstandyp Wel & be nat hasty
 quāt ou w̄ p̄ quāt acūt demouſte Ivne 25

86

And schene pey be passed al haÿ speche
 q En my lo fitz regardez ly
 Neq puce & mayno ne culez
 Je myldro p flat hem ly holdry
 ton feet & handez ne bagges nat
 q Mez sagement & oamz misditz
 Espoignez a tout lour ditz
 But Wyssy & Coute myssage
 Ausney to al haÿ fayge
 q p dieu amio odiez boney
 Et contez & sagez p bien fait
 for godysdone both bone
 And quynete & Cyo for bel to do
 q Et de beale affaitement
 p bien a coyut one le gent
 And of fayn affaitement
 for bel to be a coyutet Cte p folle
 q ne odiez p diffaitez
 ne porde q odiez affaitez
 ne de ze nouvys un niad
 q Oyl y je be maad
 q fit bone & cteyso
 Et p bien ples en faceyso
 fre bone & curtayso

Repoueo dñ bein fay beale affe
 Lame diffaitez ic affetez

And for Bel to speke in fresh
 q Dar mult est language a l'ose
 De gentyl home & b'ne ame
 for muche h'yt po langaget bel p' p's
 of gentyl ma & bel y' loued
 q faux cete & faux gent
 ne tote rien ieo po defend
 falsoede & falso folle
 ou al yys y zols defende
 q ne iamez a ore vole
 ne auiez en cuer astur orgoyle
 Ne veue at zoyz Wyde
 ne hanyp in t're emz p'de
 q Dar ces est le ope de toutz malez
 Et chief des parvez crimalez
 for h'yt po eynement of alle cueles
 And heued of queylz crimalez
 q Est le peche d'apostolz gent
 moiez & frere malice
 po y' eynement folle
 doye & exultez
 q Et alez rostez po eynement de gent
 po opes & eynement folle
 And gop al Roys & knyghtz folle

 Et po eynement de toutz opes
 et po eynement folle

To hys e leue a feteunt
 q Et coiez de beal conteignent
 Et pletez vo mesuerent
 And bi ze of fan conteneunt
 And bes ze manely
 q Et ne soiez p enuyous
 Ne plen dy ne anguissous
 And be ze nat enuyous
 Ne ful of y ne anguissous
 q Vnignore vno p tout rien
 Ai de peche vo gaudiez bien
 Ipet y p yols a bone al yng
 of synne yols kepe lesl
 q Et en chescun rien q comicez
 De la syn toutfortz penses
 And in euy pungy qd synne
 of y ende al euy reueleyn
 q Et coiez toutz vo bon ples
 Amez dien o tote rien
 And beth al day a god qmna
 Bone god a bone al yng
 q Dote dien e seynt eys
 Amez luy byen e qd amez
 Dote god e hys chape

Ded uen bein apidou eys
 D

Vne hymne Bel & hys chose
 q Le myz do ayent a toutz iours
 a tote gentz faites honours
 q bet shal ze come to al dayes
 So ast folz do ze honour
 Et ore retenez ces de moy
 q uesq[ue] lez bonez poys mettay
 And nols holday p[er] of me
 q p[er] gondmen ze melde
 q Tout iour deez le myz rachant
 le myz ame le plus valant
 Al day ze shal p[er] more bonne
 p[er] bet loued p[er] more p[er] worth
 Et vous conent desse amable
 Vo tout gent & compagnable
 And zoll by houyy to be amiable
 a gaynez al folz & compagnable
 De beal porte vo chescun home
 De beal semblant ces esto la forme
 of fay port a gaynes euy ma
 of fayre chy p[er] vo p[er] best
 Et au feme faites honours
 En ore ore a toutz iours
 And to beaute do ze honours

tenuz gitez quez ce ouys qachant en oysement
 en oysement set beal thenc ce fetez vote

q In zo tunc at al dayes
 q Et a feine nomenent
 On ele est ensigne daffantenent
 And to a Bonne namey
 When ohe yo noriset et y tanzt
 q Aez deuy regnent lez pestez
 Lez honoures et lez hanties
 for of he come yre peste
 et honoures et y gressueles
 q Lez biens et lez poyez tout a bon
 Dont moy est amys q il est son
 y poyez et y gressuelz al to on
 before myn a lypis yo
 q Si de aux bys foyt haper
 rammez ne les vrez un chen
 de y of he fe maley hate
 Rende sal et ce fe eel a chyne
 q y quale chose nol tel fe
 Si a bon plementez aux
 for vespere plementez aux
 Et to a goud veste et le poud
 q Et pantz folys a goud poud
 Rammez le bies tunc pantz veste
 And et ouz en poud et poud

Loue hez bel le conte falfede
 q d'ez de loue chose venuo tñ gardes
 Jammez en feme en affez
 But of ou yds take ze bel heze
 Mené in Roma ne tñsp
 q p sa valo ne p sa piso
 Panz bon conseil de zo jamez
 For hez valou ne for hez piso
 le conte gond conseil of zo fendeo
 q Et Jammez en vre vre
 Je venu amitez de vre amye
 And nene in zonj loue
 Je amate zot nath of zo loue
 Et quant voh vorlez pler
 Et vre reson demone
 And belen ze bryl spele
 And zo resor balle
 q Verez qd fort resor
 Panz my bryl resor
 And belen y bryl resor
 le conte venuo tñ gardes
 q Verez qd fort resor
 Et venuo tñ gardes
 Verez qd fort resor

And al l'ay menachy
 ¶ Ne t'f haüst ne t'f bas
 ¶ A e lem ne face de poe gao
 Nat to lyze ne to l'esse
 ¶ p'mea i ne make of zollus ne scorn
 ¶ Amoz armoz & chivaloz
 ¶ v'rouz lez amoz bonez & bealez
 Loued amoz & furo
 ¶ zof je hem hauie goud & fayz
 ¶ Si t'f deuez donez
 ¶ venez b' bien espoloit
 ¶ zof loued je shal zane
 ¶ venep for l'bel to fullfylle
 ¶ Si vos dorrez tout al concerant
 ¶ ganger & boire ffuchement
 ¶ zof je shal sal at p' fyszt
 ¶ yete & druyt freby
 ¶ A p'dez bonez du pays
 Robez & chualoz du pays
 To gedeme of contz
 Robez & herz of prie
 ¶ Et ac lez regnantez chivaloz
 chivaloz viliez & manez
 And to p' naylant knyghtez
 ¶ A p' lez beloz t'f bien viliez

Auro tobinz & manez
 q Et a lez Damez blang jellez
 Cotez de say fymamp doriez
 And to y ladyes fayz jelleles
 Cotez of say brochpo of goldz
 q Et a bouredz & danyfalez
 Symples garlandez & chofez bealez
 And to minstrelz & danyfalez
 Symples garlandez & rygnez fayz
 q Rose athonfortz est a doner
 Et asturfortz a detener
 Thys op Chyple ye to zyne
 And op Chyple to Kypp hold
 Si lautor dit en vire
 Querez Catou p' autorite
 So p' autorit orpy m folhe
 Secher Catou for autorite
Endu estu aliqz e en tenu postulat ant res
 To zeue for folhe pyng yo
 Chy tyme yx assy of pyng
 p' dien gardez vous bien
 ne punitez nulle ruz
 for god kepe zoll bell
 ne by hotez no thyng
 Beho fiambo acimforz do been nile reen

qur espace dantz
 qur dentz nest p[er]t alay
 In hope of on oy man
 parame[re] hyt yo nat redy to hym
 qur a[re] multe p[ro]mete a[re] peu don
 ses fait le fool multe confort
 for multe to by hote & hystol zene
 & makes y[ou]r fool multe confort
 qur o[ur] r[oy]al disp[on]t p[er] t[he]s[te] a[re] sofer
 o[ur] chaste gardes en p[re]ce cuet
 y[ou]f ye desir[er] to by holdre lopo
 byx rynges keper in zolay h[er]e
 lez sont com l'autor dit
 Et en latyn sont escript
 y[ou]pse hyt dey as y[ou]r autor sey
 And in latyn yey dey y[ou]r bryte
 qur i sappens fore o[ur] sey tua que t' mando
 And loquere ubique cum de q[ui] q[ui] quod
 y[ou]f y[ou]r b[ea]ut be bys opp y[ou]r kepe
 Chyng to y[ou]r y[ou]r hote
 what y[ou] speke a[re] late of what
 to lham chyng hote lham
 Et o[ur] tout rien n[on] nous reque[re]
 Et orgoyle n[on] p[er]ce vre cuet
 esp[er]ance cu[re]s veet p[er]t hy mult feit p[er]t
 vre & vele o[ur] quodam escript le

And a bone al yys y volle by othe
y pde apche nat yon hte
y dist totes vnes.

Et ouste domne lez bonez duez
y dist alle vnes

And castey fyn ma y goud thellos
Si bone ad brenz A odi oachant

Vien forme + vauant

yf ma hay goud + be compre
telle y formes + vauant

Si orgoile odi en licy
Tantz oez brenz il ad pdy

yf pde be m hym

And al hym goudes he hay y de

Cou en estrete est tne

Et est ver en vite

As m Gritt y dist po y founde

And y dist po ody la othe

Si copia seu sapientia form qd set a

Sola sapientia deit oia si comit a

yf plente leyp seappe to y ba zene
only pde distrep alle yf he y to be put

Et ne oiez comono

Et de tensioneo gaidez no

¶ Ditz oultre bonez oachant cu vauant
en h tanz qd ecce vob

Ne de nat courroux
 And of chydrage kepe zoll
 q Molt est beiale vilenie
 Desce renay en tenuye
 Auche hys po a fay velwynie
 To be outcome in chydrage
 q A ceo corde Caton a dit
 En leis de com est escript
 So p a cordey Caton a seyp
 26 m p Rose hys po p brete
 q Dont obespo noli cordey obespo
 Oezmo dat curz ammi enet paix
 I remo word me ff nat le corde
 Word po zeue to euy ma but leysde to f
 q Parole est done a chesteury
 Mez sachante nest en hys
 Word po zeue to euy ma
 But conyge ys nat in hym
 q Oyen polez est estouur
 Et sames ne rend il honour
 p m word po a sepiour
 dad neve shal he com to honour
 q Vne chose inquore ieo veille po d
 Ne sopez sames plein de v
 mult bale dect ce ditz erit checuy sach
 amre en v neet ly estouur

Ou ryngz iyt. I wyl wyl teche
 Ve re uen ful of. Briathe
 q Hatte toutfoiz il engendry
 Concordance amoy vent rendy
 hate alay he engendrey
 Concordance loue wyl zelde
 q Ira odin genut concordia matt. amore
 Whiche hate gedy acord norshes loue
 Vitez q ne odiez losenger
 sole ze be no losenger
 Wo dme ne wo ceignour f
 A gaignor lady ne lord
 q Et also desirent q wo monstz
 Tantz lez malo q wo fanez
 And zpf ray desir f ze felde
 Alle p enelez p ze knolle
 q Ne pensez myc emp en paix
 chez p bien dij oanz guer
 Ne penkez nouzth de to pape
 But for to say leel Et oute grante
 q Po dian ne wo la costomez
 Desfizam hame q wo poiez
 For goddes loue a costomez iu maz
 So seorne ma zpf je may
 toutfoiz il wob robt eut bein Et costomez
 De chayn

¶ Tout ordy poures & boseignes
 On qil ne ordy si beaux come po
 jousz he be poure & nedy
 Or zef he be uer as fayz as ze
 ¶ Ap donne ne si vauant
 Ne o cteas ne si oachant
 As fayz ma ne so vauant
 Ne so cteas ne so compuge
 ¶ Sa p ceo ne lui esthauez
 Nor p esthauez bien oachez
 Neue for p t hz ne storney
 Nor by storneyng ze knolle Bell
 ¶ Ne oez jammes alose
 Nez hdy mult & belette
 Ne shal ze uene be a lost
 Nut hatyd muche & rebatus
 ¶ Caton le sage esigne & dit
 Et en son liue duisse & myt
 Caton p llyxem a telley & deydh
 And in his boke duisse & putyp
 ¶ Corpis exigui vres coteigne nob
 Dyffere p nat p body of a lytel ma
 Le petit corps dastur home
 Ne esthauez ceo est le sume
 ¶ Autr vauant cu v ce hz mult coro dacum est

p^e hystyl bōd^e of eng mā
 ne okorn p^e nat p^e po p^e sume
 q^o Et toutz qil vnt emponer
 Unquore ne huy esthernez
 And pouzgh he le pouz
 zyt h̄y ne okornep pouzgh
 q^o hanptat^o omes pacient foy memēto
 of porate p^e chayde paciently haue mād
 ne odiez hastz ne uzeo q^o to bej^o
 toutforz de ces bā pono gardez
 le nat hastz ne hangz
 Al lchap of p^e Bel zole kepe
 p^o lat^o Foy nestit distinc^o verū
 p^e angry mā of p^e gres ne cā nat distinc^o
 q^o Unquore fitz estotez q^e sope
 Et un poy apudrez
 zyt chyld^e take fedz
 And a hystyl leyney
 q^o De en septe luy tne
 Et en latyn translate
 p^e in septe p^e hanc fonde
 And in latyn p^e translated
 p^o Ani et condac qui nest^e dictupat^a
 he p^e cā po to preys he p^e cā nat po to dyffyz
 h̄y toutforz fiz ecotez cīn^o

- q A my hū entent & odouent lytt
 prolos aula & dylyt
 he y^t wel entend & y north wadey
 prolos he shal hane & debyt
 luciu sapie timor domi
- q Galant de sage dit en son linc & conueint de bien vne
 In y^r bygynge dred god
 Wyxanā seyth in his book
 y^r bygynge of goud lyf
- q Our tote dien est doter
 Tempne dien & lux honore
 A bone al y^r god to donch
 Dredful god & hys Worshope
- q Galant ha bonis sit cor tuu m dieb quiccius tue
 & a corde tuo amone maliciam
 In goud y^r god be y^r fite In y^r dapes of
 y^r yong hed And sin y^r fite euyl to putte
- q Lantoz d^t juyrie entente
 Mette Devez en ta lnuete
 y autor eapp y zo entente
 putte y sholdes y^r lnuete
- q De toutz pechez vro rettey
 Et bonz ouiprue vset & fay
 Of all synez zols to le dralle
 deyn reyn damne do by obro foy

- And goud kerkye vse & dos shal be
 q An odit correption i capiēt erit q̄ meliȝe
 a capiēte corigi q̄ ſtruktur iha adulati
 Heyt hauy vuduyng⁹ vnderyng⁹ he for bet p̄
 q f Gyze to be correctud iñ of folys in leedys
 q Si vñ hauy deſt reſor Gto be ſhamed
 Ne orez James bn apo
 ȝyf ye hate to be vop take
 Ne ſhal ye neu be beel y loued
 q plene vaut tēſon de vddis
 De beal diſteyt de fauy meton
 more yo leorth chydunge of a tise ſay
 vaine fayr diſteyt of falſe beyn
 q Shmeſina p̄gat p̄tui & facit m̄tū in vntū etiā
 Almesde p̄gyp ſyne and makey me to ent
 Non eſt eſt almoign⁹ Gvlastys byf
 Deq brenz q̄ p̄ez vayne
 ſoud hyt yo to be a almeſteine
 of godes ȳ he may gete
 q Deq vñ peccchez remiſſion
 Et vñ p̄dny ble en guerdon
 for vñ ſp̄ces remiſſion
 And vñ eulastyng to mede q̄ magnū honore
 q Vno heyl magnū nupū nupate & heblie
 fey vñ ſet vaut beel fabo benio

3yf y' shal haue gounaple gonne y' ye
 And y' shal haue muche hono
 q. ¶ vno dixez gnt honour
 Et dignitez tempo
 3yf ze desy gret hono
 And dignitez of emplo
 q. Emplo en dit nomer
 Auoy sup mesmez stet justic
 Empourz in ryght po named
 ¶ hym self co justifie
 q. Ore p̄ez dien iſint puſſetez finer
 Et a ſon Joye prez venoz
 Noll prez god ſo ze may eud
 ¶ to hys Joye ze may come ſo be hyt dñe
 q. La Rule q̄ est enſuant eſigne eſtant comit
 ¶ ſtuez ore ſumeroz & ce eſt en la p̄m Rule
 ¶ rule y' po chelbyng techerz la ou il dit
 Alſo hōd ze ſhal exerte zo frith
 And y' po in y' firſt Rule y' leho hyt ſey
 Regula ſp̄cioris En la q̄ den po hem enſe
 uant a po canſet la ou il dit Regla locu
 roris or co eſt eſt en meſine la rule en
 tel maner lirrez ore ſumeroz & iſint vne
 Rule enſigne a ſtud & lante & lieye

gñne en po ſtud meſine vne dñe

Et en le tierce lier qest densse la en il dit
 Regla constructio teste rule enseigne le en
 glyssh dez vor polez de franceys et en trel
 mane la p'm rule enseigne p' stue la p'se
 p' la tierce p' entendre et en semet en
 seigne plusdous differencez du franceys
 q Regla spacio In p' oide place myt folly
 nge on p' lyft syde ne bheis hyt cayp
 Regula locutio ac hyt yo bryte in p'
 same rule in ethych mane shal ze rede
 p' frensch & oo on rule techep to bryte
 and a noy to rede and in p' in place p' le
 bheis he cayp Regla constructio p' rule
 techep p' englys of 20 wordes of frensch
 & in ethych mane p' fyfte rule techep
 to bryte p' sede to rede p' pryde to under
 stand and also hyt techep manye diffe
 rencez of frensch

Iacop' autor hoc kalendai p'
 Et ordine cu suis sequitur finit
 Cest kalender corante p'
 Et ordinat finit one eoz ensuantez

luna sp̄cōis.	Fēglā locutōis.	Fēglā cōstruccōis.
H uant v̄t aut̄. dūnt cū v̄ leget̄.	to fore .o. temp̄	My man me .e.
A d̄stū hōme. Atū hōme	Atūne fine	Et cū e dūt f̄
A st̄me fēme	Anst̄ home	In op̄ ma
A ut̄ hōme	Anst̄e fēme	In op̄ Roma
A ut̄e fēme	God v̄ leget̄	þ same mane op̄
A lōnu	aci	cū v̄ & n̄. n̄ also
A nxi	God v̄	þ same mane alw̄
A raij	away	a lobet for fruct̄
A manj	to	a bee
A ept̄	aces	a Bedelot
A sp̄co	Ames f ame	soulbo or soule
A bñez f almeo	dūnt cū v̄	Helpyng
A dānt	Alomu	go be
A lomo	Alame	Coyng
A leigac	God modo	Frastur
A ffier	Assel	A fadel
A sp̄t̄	Assel	A zext̄
A sp̄t̄	A vint̄	Hyt happy
A ment	God	A mapyl t̄
A zable	God	lond ayable
A zable	God	unyepe
A peine	aci	feel
A nxi		

afresff	Afrenesff	A crissibissop
smoigner	smoigne	an almeszene
mbedoux	mbedens	bop to
daut	det casin	at a mon ch am. ac to my des fuds.
sz acut	in franglan	et ad villa ibo. to tolde y shal go.
s ed m plurali	et ad villas ibo.	to tolbyo y shal go.
ap apud.	et det apd lond	I zene at londone
B ien	ben	bel
kan	bet	farv
real home	beal	farv in mastino
real ferme	bele	farv in feid
onsthe	bouchx	a mouth
lefe	cod in	to lyfse
ip	cod in	eft
part	cod in	eft
esigne	fescyne	ede
use	dale	happy
ule	cod in	a hagge of paper & bale
ulterie	cod in	to blete
uale	cod in	to gone for sleep
ample	kynle	to take yys to keps
aylyc	cod in	to oloope
onez	cod in	tryng
pe	cod in	istec

bailey	cod in	to flaily in of
bann	cod in	dressyng
blesse	cod in	an herte
boos	boos	a cradel
boose	cod, in	a booke
blanch	at blan, o. open cod, in	blanch
Q Queen o' plaudian Queen o' peisn queit o' plaudian Quat o' peisn		
	open of chare an hond	
	quiet & quiet an herte	
quay	quay	dry
quayf	quayf	a heued
cuer f. cuer o.	cuer	a herte
leof	leof	f. yo
leope	leof	a body
leufe	leufe	a syde
lounnes	cod in	a shyn
lounnes	cod in	a sel
lounsf	lounsf	to knasse
louf	le	pat
louf	louf	enysch
louf	louf	a knyf
loufengow	loufengow	a felasse
loubien	loubien	as bel or full

ment	ment	hut by honyp
lemy vñ cenz	ens	ysylfe
lentier	center	to make by chylde
souuer	oyuer	a coyn
signe	oyne	a leach
enginer	oyuour	a coyn to make monay
halundy	chalamandy cū þ	a bedelurke
cel in fei' ceale.	cel in fei' cele	wyrch on
igne	cyne	a ollam
launerz	cod	to crepe
nestell	chatel	a castel
spayn	espinace	a horo
fretier	cheker	a cheker
rap	chabnyp cū b	a feld
D oos	doos	a knugh
D eis	cod iñ	fyngreos
emz	ead	by yme
onice	donce	blete
emonst ^e	emonst ^e	shelbe
efutes	refe: 23	in wad
herz & dien	refe	rod
emande	remannide	afte
rapo	ris	loth
effe	ret ^e	to be

S ceffher	deift	to stande
T ame	ead	a ladr
Taam	dim	a Deo
Tifne	dyne	a tenth part
Tisornes	ed in	fro hemnes focke
Tenant f deit	denamt cu. v	to fore
E splort	explot	to fulfylle
E se	et	to be
E st	erzth	ye
E stier	eister	stande
E gne	gne	eld
E ghefe	eghe	a cherche
E uestre	euerke	a brythop
E sthuey	echuey	to esthue
E stharuer	echaruer	to storne
E stable	stable	stable
E stipt	estipt	y wryte
E smond	edmund	emond
E spiche	spiche	Rufle ast oþer
E sples	ed in	lymes of fys
E leo	ed in	lyngges of by
E spundi	spundi	distone cosayl
E spundi	spundi	chede mete
E spundi	spundi	spese lettroy

isfat	enfint cu v	a chyld
peaut	ateannt cu v	beypge
huesse	eod m̄	drunknesse
nde	ead	a herd of feldfare
heide cu h sept.	hēde cu h sept.	Sicte a herd of chev op of deer
up vfor	fori	Wat
P finst	fint	endes
	frith	dede
	for	a sone
	eod m̄	a dount
	eod m̄	a dred
	eod m̄	ones in flū
	eod m̄	fer
	eod m̄	hunger
	eod m̄	Snycbe of fier
	fei	to do
urcete	faufete	fussede
ine	eod m̄	a lōmā
spīl	eod m̄	a spynelē
espo	forpo	on take
esp	forp	furte
	eod m̄	a bene
Gnt e grant.	gnt oꝝ dic leget gnt cu v	gnted
Gntē	eod m̄	gnted

Ende	end in	in feso gene gret
Endy	end	endy
Ent	ent	ent
Enton	end in o m	enton
Enton	enton	a cran
Entone	end in	a feldefay
Entonle	end in	enton leset
Entonle	end in	fassil leaget
Saxonle	end in	a barn in Saxon
Saxelme	end in	a hand ful alapp
Selyne	end in	a hen
H ^{mo.} quaffel	end in	a doze
Gwyn	end in	a rumpitte
Conner	end in	yyo
Conner	end in	a red
Conner	end in	clotky as a hen
Conner	end in	a head of coner
Conner	end in	henry
Conner	end in	holim
Conner	end in	odeshane
Conner	ilegeit	ye
Conner	ene	yong
Conner	enimez	nene

143

Heij
logges
gillet or jangley
a qfet
a arfue
a tyn ppyd

fons antiquus

cod	an oft
lige	a large man to go to
leel	the
cod in	lalkeful
it	a place
sp	you
cod in	a obidant
cod in	a gone
cod in	a Cunne
cod in	a type
cod in	a Gay // Com
cod in	a Colument
cod in	full
cod in	provident
cod in	to rede

Vesthe
bitney

bitney

bittyn

langhe

lenere

lasso

Mefincz

mesditz

mesfay

mesy

mesar

monde

moel

moal

messies

messies

mesies

messifitz

mesys

mesys

mesyent

cod m

cod m

cod m

cod m

cod m

cod m

memez

metz

mediz

mesey

mesy

meer

monde cu v

mool

mool

cod m

cod m

cod m

mebetforz

monz cu v

cod m

mesy

maintenant cu v hand holdynge

to lyffe

realle

a lyt p me wdes ym

combe stis

a thonge

a g hond

verg

p forme

unche

wysay

wysdo

a modyz

zee

wordle

p bulk of a zey

p naue of a ship

a constyf

ledelegh

a baylard

many tymes

forth

dutte

dutte

ymz	cod in	basse
mour	cod in	more
ysg	megy	lene
uson	meson	a bono
edre	medy	best
rent	nent	nat
Mest	neet	ayonat
seo	neo	y bore
aff	cod in	nuoſ
aff	wyff	a chyp
aff	cod in	a bondemā
aff	cod in	a zelle a reddryz
aff	neeo	a nose
aff	acie	oneſel of y noze
aff	aciey	to cueſhy
aff	cod in	to oſſume
aff	cod in	to droſſne
aff	cod in	to Rose
aff	cod in	to onoſke
aff	magro	a nomit uelſchyn
aff	enlez	eyen
Dilez	Oxaplez erenys horaplez cu h	Eodeſhane
	ens	a bon
	ufe	werk

aff	af	a ay
ay	ay	a in nold
oor	or	gold + anez
spax	spax	a bord
snax	sonax	sonax
sufte	onste	waf out
P ref poer	ped	a fax
prague	cod in	a fion
prache	fyne	mat
prachy	cod in	cymae
prachy	prache	a cymae
prachy	peche	a frell
sorgie	forne	a frist
sone	cod in	a padra in chur
sou	cod in	a palce
soet & pent	peny	may
sow	cod in	affe
sorel	cod in	a payd
sorele	cod in	a red dolde
sorele	puke	may q̄ possu
sorele	cod in	by
sorele	cod in	(red) q̄ pro
sorele	prett	redy
sorele	cod in	takēf & preft

afre	pet	a breft
at f quant.	quant	holde moche talpe
quant	cod in	charme
ule	cod in in fes	that yng
legit gale in masculino + neuter genit Regla in falle		
in domino pax & qui relat		p. syde op p
ung	quicke	p. syde merrie
par	seyu	yng
Verchere	rene	a byngdene
el	reel	a yng
que	cod in	a byngdene
zyn	Doyne	a quene
que	Septu	a tasse
bie	ren cod in	a ffef
me	cod in in	a porce fine
	cod in in	drop of
	etres	the late dole
	etres	a digne
	etres	petys of engl
	etres	charme
	etres	the dñe of god
	etres	coronation day
	etres	the dñe of god

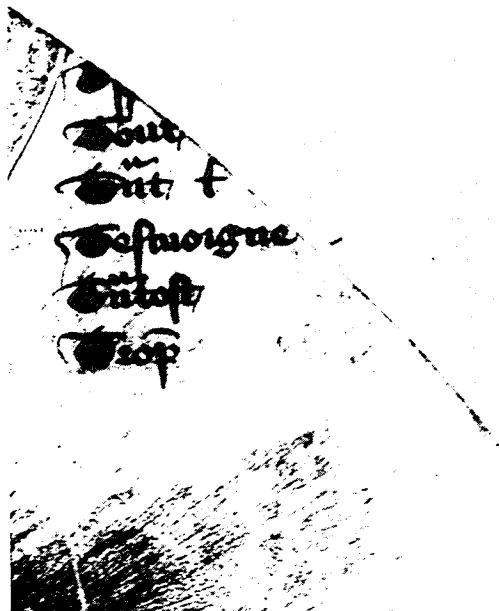
self	selfe	forl of feliche
oy	oel	a oel in lvey
oor	ole	oat
spay	ole	feliche
want	olay	ander
onky	onk	i. oup a bone
our	ond	ful dey
Tresphore	trephore	oxflepful
Tresphore s. in summo gene		oxflepful ly
Tresponent	tresponent	ful reverent
Trexalent	trexalent	ful exolent
Triono	triono	ful gracion
Triddle	triddle	ful, resle
Trifflant. tressent ful wyzthy		a pabn in d
Trant	tant ful lengh	a poler
Trante	toute ful denton	
Trandable	trasonable	ful reson abbe
Trant püssant	ond in	ablongifile
	trage	ful coz
	tray	
	trant. cū	
	trayne	
	tratemeth	
	trayre	
		tramea zyght
		tramea moche

alix	telez	strepche
amper	temper	maller . i. calpa
andis	cod in	colez
andis	temperly	tonges
andis	cod in	halloer
alix	tip	in to tyme
cent	rent	he conney
conat	cod in	liberty
alix	rant	in forth
ake & pare	rote	rouy
at & result	rent	Cyle
ade	ramande cu p	mote
de	vile	a tou
des	releoz	Racchey
de	cod in	a nommeo knif
de	cod in	a ocul
turel cod in		to blode
de	cod in	a cyrole of a knif
de	cod in	a port garnya
el	cod in	polke monro in
de	cod in	a forest i. a wood
ader	cod in	a buddot
elleor	paneleo	a strepche & cestez in
elleor	veneleo	linos y tos in quylt cu ples
		treoy ses soors lo in plu
		rot boz in plurals

ventus eod in a mordibz
ventus eod in a tombe zop
q[uod] h[ab]et no[n] h[ab]et initulat q[uod] alie h[ab]e caput enop
in dictamine gallici p[ro]ut infexi patet scripturio
q[uod] h[ab]et eod in Oynter
y aliquando ponit p[er] sy aliqui p[er] illequeo aliqui p[er]
demost[ri]o ut reo y[ea] ora y[ea] dono p[er]f[ac]t a y[ea] cestez t[em]p[or]e
patet in Regula dicitur o. l[et] Regula
q[uod] vero viciem h[ab]et h[ab]et in principio vob[is] p[er] auctoriz
in p[ro]prio nominiz locoz

Am fift ame & bader dene

2 Expos femina nova §



9) *Liber Donati*

Explicit ffemina nova と *Femina* の叙述が終る146^vと次葉147^rより数詞が書き写されており、曜日の語彙に続いて代名詞（単数複数）の説明がある。147^vから動詞活用変化が示される。動詞は amer, estre, voloir である。当該写本にあっては148^vで文法は終る。

4世紀の文法家 Aelius Donatus の著わした *Ars Minor* のラテン文法は、その後中世において作成された文法書の拠りどころとする模範本であったから Donatus の名は権威あるものとして屢借用され、ラテン文法だけではなくフランス文法教本にもその名はあらわれた。Liber Donati (15世紀) あるいは *Donat français* (15世紀, John Barton 作成) などとフランス文法書は名付けられている。13世紀以降に著わされたフランス文法書は Donatus の手法を踏襲しているのである。筆者の転写した文法 (147^v—148^v) もその例に洩れない。本文転写各行の次段にイタリック体をもって異本の *Liber Donati* の記述を加えておく。説明文の文言の多少の差異、順序の異同はあるがそれらは容易に比較し得るからである。

代名詞に関しては Cambridge Univ. Library MS Gg 6. 44 (14世紀) [Gと略す] f. 19^rに記載されてあるところを写し、数詞、名詞、動詞活用については Cambridge Univ. Library MS Dd 12. 23 (15世紀) [Dと略す] ff. 2^{rb}—3^{ra}, 4^{va} および 6^v, 7^rに記載されている変化形を記した。Liber Donati というタイトルは [D] f. 13^rに記されている。尚、転写については Brian Merrilees & Beata Sitarg -Fitzpatrick ed., *Liber Donati : A Fifteen-Century Manual of French Anglo-Norman Text Society, Plain Texts Series 9*, London, 1993を参照した。

数詞については Cambridge MS B 14—40に記された quatre vyntz という表現が septaunt, oettaunt, noefauntと共に注目に値する。動詞変化については vous と tu の活用に混同があり、estre 活用にあっては接続法半過去と条件法現在の混同が見られる。動詞 voloir には半過去形に稀な活用が示され、接続法半過去形は [D] にアングロノルマン 3人称の特異な形が表記されている。

- | | |
|--|---------------------|
| 1. un deuz treys quatez cynk cys sept oet noef dys
(D f. 7 ^r) <u>un</u> , <u>deux</u> , <u>trois</u> , <u>quatre</u> , <u>cinque</u> , <u>sis</u> , <u>sept</u> , <u>oet</u> , <u>noef</u> , <u>dis</u>
2. unsze dusze tresze quatorze quynsze sesze dyssep
<u>unsze</u> , <u>dousze</u> , <u>tresze</u> , <u>quatours</u> , <u>quinsze</u> , <u>sesze</u> , <u>disept</u> ,
XX X XI XX X XL
3. disoet disnoef vynt vynt um etc trent e un etc quarant
<u>disoet</u> , <u>disnoef</u> , <u>vint</u> , <u>vint et un</u> , <u>etcetera</u> , <u>trent et un</u> , <u>quarant et un</u> , <u>et cetera</u> ,
4. Cynguant sessaunt septaunt oettaunt vel quatrevyntz noe/faunt
<u>cinquante et un et cetera</u> , <u>sessant et un et cetera</u> , <u>septant et un et cetera</u> , <u>oetant et un et cetera</u> , <u>noefant et un et cetera</u> ,
C CC
5. Cent deuxcent CCC CCCC D DC DCC DCCC DDCCCC myll etc
<u>cent deux</u> , <u>centz trois</u> , <u>centz mile ou milers</u> , <u>un mile</u> , <u>trois mile</u> , <u>et cetera</u> .
6. Le primer secunde tierce quartre
<u>Le primer</u> , <u>le secunde</u> , <u>le tierce</u> , <u>le quarte</u> | [147 ^r] |
|--|---------------------|

7. quynte cysme septisme oetyme noefisme disme
le quinte, le sisme, le septisme, le oetisme, le noefisme, le disme
8. onszysme douzysme treszysme quatorszisme quynszisme
le unsisme, le douisme, le tresisme, le quatresisme, le quinsisme
9. seszysme disseptisme disoetisme dysnoesme vintysme vynt
le seisme, le disepisme, le disoetisme, le dysnoefisme, le vintisme, le ventisme
10. Primer etc trentisme quarantisme cynquantisme sessantisme oet/antisme
primer et cetera, le trentisme etc. quarantisme, le cinquantisme etc. le sessantisme, le oetantisme etc.
11. noeffantisme centisme millisme
le noefantisme etc. le centisme etc. le milisme. l'an de grace milisme, quatrecentisme quarantisme et septisme et cetera.
12. lunedy marsdy mekerdy jeody venderdy samady
Lunedy, marsdy, meskerdy, jeofdy, vendredy, samady,
- (D f. 6^v) 13. dysmenge hier huy demayn lendemayn l'autrejour
dysmeinge, hiere, hui, demayne, lendemayne, l'autre jours, l'autriere
14. semange quynseyne troys semangnez moys quarte an de/my an
semaigne, quinsizme, trois semaignez, mois, quarte an, dlemi an.
15. Ego in nominativo casu je et aliquis moy et in ceteris casubz
Ego je / moy in noninativo singulari, in ceteris casibus
- (G f. 19^r) 16. in singlari moy us me et in quolibet casu plurali nous
singularibus moy vel me, in quolibet casu plurali nous.
17. in nominativo tu et in aliquis casibz in singulari toy us te et in plurali / in
Tu in nominativo, in ceteris casibus singularibus toy vel te, in quolibet casu quobibet casu vous
plurali vous
18. il us cyl ponuntur semper in nominativo casu
Ille, il et cil in nominativo, in ceteris casibus singularibus,
19. celuy luy se et soy in quolibet casu in singlari ils et semper in
luy, cellui, se et soy, ils in nominativo plurali,
20. nominativo eux ceux les et lour in quolibet casu plurali in masculio genere in /
feminnio
eux, ceux, les et celles et loure in ceteris casibus pluralibus,
21. illa ele et cele et la in quolibet casu in singulari eles
Illa, elle, cele et la in singulari, eux, ceux, les et
22. celes ceux et lez in quolibet casu in plurari
celles in quolibet casu plurali
23. iste : cesty ceste in quolibet in singulari cez et cestez in quolibet casu plurali.
Iste : cesti et ceste in quolibet casu singulari, Ista : cez, cestez in quolibet casu plurali
24. ista meus : moun ma toun ta soun sa mien
Meus : mon, ma, ton, ta, son, sa in singulari, mes, Tuus : tes, ses in plurali

25. in *suus* : soen soen in singulari mez tez sez soens *lour* in plurali
mien, toen, soen in singulari, mens, toens, soens, in plurali in neutro genere substantivale.
26. *noster vester* : *nostre vostre* in singulari *nostres vostres* nos voz in plurali
Noster et vester nostre, vestre in singulari, nostres, vostres in plurali, noos, vous,

[amer]

- (D f. 2^{vo})
1. Amo, J'ayme tu aymez il ayme pluriel nous aymons
En l'endicative moed et en le tens present : J'ayme, tu aymez, il ayme : pluraliter : nous aymons,
 2. vous aymez ils ayment
vous aymez, ils ayment
 3. Amavi, J'amoy ou ama tu amoiez ou amas il amoit on amat
En le pretert nient parfit : j'amoy ou amay, tu amoiez ou amas, il amoit ou ama ;
 4. pluriel nous amoions ou amasmez vous ~ oyez ~ ast ils ~ oyent ou ~ eront
pluraliter : nous amoions ou amasmez, vous amoiez ou amastez, ils amoient ou ameront.
 5. Amam, J'ay amé tu as amé il ad amé pluriel nous
En le pretert parfit : j'ay amé, tu as amé, il a amé ; pluraliter : nous
 6. avouons amé vous avez amé ils ont amé
avons amé, vous avez amé, ils ont amé
 7. Amasseiz, J'avoy amé tu avoys amé il avoit amé pluriel nous avons
En le pretert plusque parfit : j'avoii amé, tu avoiez amé, il avoit amé ; pluraliter :
 8. amé vous avoiez amé ils avoient amé
nous avoions amé, vous avoiez amé, ils avoient amé.
 9. Amabo, J'ameray tu ~ rez il ~ ra pluriel nous ~ rons vous ~ rez il ~ rent
En le tens avenir : j'ameray, tu ameras, il amerat ; pluraliter : nous amerous, vous amerez, ils ameront
 10. Ama, Ayme tu ametz il pluriel aymons nous aymez vous aymet / ceux
En le comaundant manere : aymez tu, aymet il, pluraliter (D f. 3^{ra}) aymons nous, aymez vous, aiment ils ou ceux.
 11. Amare, J'ameroy tu ~ roys il ~ royt pluriel nous ~ royons vous ~ royez ils ~ roient
En le desirant moed : plust a Dieu que j'ameroy, tu ameroiez, ils ameroit ; pluraliter ; nous ameroions, vous ameroiez, ils ameroient
 12. Plust a Dieus, J'aymasse ou ~ eusse amé tu ~ sez ou eussez amé
En le pretert parfit et plus que parfit : plust a Dieu que j'aymasse ou eusse amé tu amassez ou eussez, amé
 13. il ~ setz ou eust amé pluriel nous ~ souns ou eussions amé
il amasset ou eust amé ; pluraliter : nous amassons ou eussions amé,

14. vous ~ sez ou eussez amé ils amassent ou eussent amé
vous amassez ou eussez amé, il amassent ou eussent amé.
15. Amem, Com ut si j'ayme etc sicut indicativo modo present temporis
En le tens avenir : plust a Dieu que j'ayme, tu aymez et cetera si come en l'endicative moed.
16. Amare, Com ut si j'amoy ou aymerei tu amoiez ou aymereuez
En le pretret nient parfit : come j'amoy ou ameroy, tu amoiez ou ameroyez,
17. Amavez, Com j'ay amé tu eiez amé il eit amé nous eiouns amete
(D f. 3^r) *En le pretret parfit : Come j'eie amé, tu eiez amé, il eit amé ; pluraliter : nous eions amé, vous eiez amé, lis eient amé.*
18. Amssey, Com j'aymasse ou eusse amé tu amassez ou eussez amé
En le pretret parfit et plus que parfit : Come j'amassee ou eusse amé et cetera si come desus en le pretret parfit et plus que parfit en le desirant moed.
19. il ~ setz ou eust amé pluriel nous amassouns ou enssouns vous
20. Amavero, Com j'auray amé tu aurey amé il aura amé plurielment
En le tens avenir : Come j'araie amé, tu aras amé, il ara amé, pluraliter :
21. Amare, Amer avoir amé aler amer ou estre amee
En le maner saunz fyne : amer ; en le pretret parfit et plus que parfit : avoir amé ; en le tens aveniere : aler amer ou estre amé.
22. Impersonalia Amatus, l'en ayme l'en amoit ou l'en aymast l'en ad amé
l'en ayme, l'en amoit ou l'en amast, l'en a amé
23. l'en avoit amé le aymeray etc.
l'en avoit amé, l'en amera, et cetera,
24. Amor, Je suy amé tu es amé il est amé pluriel nous summus amez
je su amé, tu es amé, il est amé : pluraliter : nous sumes amez,
25. Vous estez amez il sount amez
vous estez amez, ils sont amez.
26. Meum quedam verba passiva declinatio Per Participium sui activus et hoc verbum
27. Sum es sui semper ut je suy amee tu es amee etc. [148^r]

[estre]

- (D f. 2^{rb}) 1. Je su tu es il est nous sumus vous estez ils sont
En l'endicative moed je su, tu es, il est pluraliter : nous sumes, vous ester, ils sont.
2. J'estoy tu estoiez il estoit pluriel nous estoions vous ~ ez ils ~ ent
En le pretret nient parfit : J'estoie, tu estoiez, il estoit : pluraliter, nous esfoions vous estoiez, ils estoient
3. Je fu ou j'ay esté tu fusez ou as esté il fust ou a esté pluriel
En le pretret parfit : je fu ou j'ay esté, tu fuis ou as esté, il fuist ou a esté ; pluraliter :
4. nous fumus ou avons esté vous fusez ou avez esté ils furent / ou out esté
nous fuismes ou avons esté, vous fuistez ou avez esté, ils furent ou ount esté,

5. J'avoy esté tu avoys esté il avoit estee
En le pretert plus que parfit : j'avoï esté tu avoiez esté, il avoi [t] esté, pluraliter
6. nous avoions esté vous avoiez esté ils avoient esté
nous avoins esté vous avoier esté, ils avoient eslé.
7. Je seray tu serez il serra pluriel serouons vous serez ils serount
(D f. 2^{va}) En le tens avenir : je serray, tu serras, il serra ; pluraliter : nous serrons, vous serrez, ils serront.
8. Soiz tu soit il soioms nous soiez vous sorént ils
En le comaundant manere : soielz tu, soit il ; pluraliter ; soions nous, soiez vous, soient ils ou ceux.
9. Plust a Dieu que je fuisse ou seroi tu fussez ou seroiez il
En le désirant moed : plust a Dieu que je fuisse ou serroie, tu fuisseez ou serroiez il
10. fuse ou seroit pluriel nous fussoiuns ou seroiousns vous fussez ou seroi / ez
fuist ou serroit pluraliter : nous fuismes ou serroions, vous fuistez ou serroiez
11. ils fussent ou seroient
ils fuissent ou serroi[e]nt. En le pretert parfit et plus que parfit : en mesme le manere.
12. Sachez que touz lez autrez temps sount si com l'endicative moed
Et sachez que toutz lez autrez tens sont si come l'endicative moed
13. excep le pretert parfet et le plus parfet en la conjuctive moed lequel
except le pretert parfit et le pretert plus que parfit en le joyand moed lezquelez
14. fait ainse j'eusse esté tu eussez esté il euste nous eussens
sont ainsi come j'eusse esté, tu eussez esté, il eust esté : pluraliter ; nous eussions
15. esté vous eusse esté ils eussent esté
esté, vous eussez esté, ils eussent esté.

[voloir]

- (D f. 4^v) 16. Je voil ou je le vuys il vooet nous vuillons vous vuillez ils / vuillent
Je voile veut voilons voilez voilent
17. Je voloi:ou voilla tu voloiez ou voillas il
Je voloy ou volay, voloiez ou volas,
18. volait ou voilla pluriel voloions ou vuillasmus vous ~ ez ou voilles ils voloioount
voloit on vola, voloions on volumez, voloiez ou volustez, voloient ou voluerent
19. J'ay volu tu as volu il a volu pluriel nous
J'ay volu.
20. avons volu vous avez volu ils ount volu
21. J'avoy volu tu avoiez volu il avoit volu pluriel nous avoions
22. volu vous avoiez volu ils avoient volu
23. Je vorray tu vorras il vorra pluriel nous vorrouons vous ~ rez ils ~ rent

Liber Donati

Je vorray.

24. Je vodroy tu vodrois il vodroit *pluriel nous* vodroions *vous ~ ez ils ~ ent*
Je vorroye ou vodroye.
25. Je vuisisse tu vuisissez il ~ setz *pluriel nous ~ souns vous ~ sez ils ~ sent*
Je vosiste ou eusse volu.
26. Com je vorray tu vorras il vorra *pluriel nous vorrouns vous ~ rez* [148^v]
27. ils ~ rent ut sic J'aray volu tu arez volu il ara volu
28. *pluriel nous arons volu vous ~ rez ils aront volu*
29. Sachez que toutz lez autrez temps serount si com l'*endicative mod / ou l'optative moed*
30. S'elle vuillez avoir volu vuillant
voiler, volu, voillant

Liber Donati

Cambridge Trinity College

MS B. 14-40

ff. 147^r-148^v

u. den. tress. quater. cunct. qd. cept. oct. nov. dñe.
 vñse. vñse. tress. quatorse. quynse. cesse. dysser.
 sifet. disuof. bynt. + bynt vñ. + t. trent + vñ. t. quideant.
 onqut. cessant. septant. octant. et quatzbynt. noe
 fuit. Cent. deuy cent. att. att. att. att. att.
 e puer. secunde. tress. quarte. Quatt. quatt.
 quynce. cysme. septime. octime. noeisme. disme.
 nysme. douysme. tresysme. quatrysme. quynysme.
 eysme. dissyse. disoetyme. dysnoesme. vnytyme. bynt.
 t. t. trentyme. quantyme. cunquyme. cessantyme. oct.
 atyme. noestantyme. Centyme. millime.
 medy. uaredy. uerkedy. peddy. venderdy. canady.
 dysmenage. huy. huy. demayn. lendumayn. lant ion.
 enange. quynspeyne. tress. demangne. ave. qst. an. de
 Ego ni no casn le + aliqui moy + ni cetic casu. S my. au.
 a singlari moy vt me + in qst can plurali. Noue.
 no + u + m. alio can in singlari typ vt te + in plurali.
 le il et cyl ponut semip in no can. Sm qst casu bouc
 luy luy se + soy in qst can in singlari ilo + semip in
 eux ceuy lez + lo in qst can plurali ta i nustrio qd in
 a ele + cele + la in qst can in singlari e lez usfemino
 lez ceuy + lez in qst can in plurali.
 cest y ceste ni qst can in singlari cez + cestez ni
 che le mon uia tou ta son sa mon. qst can plurali
 u fu soen in singlari mez tez sez soens lo in plurali
 st deffire ore i singlari mes vres uos voz in plurali

Iayme tu aymerz il ayme. pt veluet no⁹ aymons
w⁹ aymerz ilo ayment
amere amoy on ame. tu amorez on ame. il amort ou amat.
veluet no⁹ amorint on amasmez. vo⁹ rez est il exet
lauray ame. tu es ame. il ad ame. pt^m nous. q en eont
amons ame. vo⁹ avez ame. ilo ont ame
amercia uoy ame. tu amors ame. il auoit pt^m il no⁹ auoit
ame. vo⁹ amorez ame. ilo auoient ame
amado la ueray. tu rez il ra. pt no⁹ rois. vo⁹ rez il cent.
amie ayme tu amez il pt aymons no⁹ aymerz vo⁹ aymer
amere amoy. tu rois. il ropt. pt uolropus. vo⁹ ropez q ceuy
est a dieux roient l'aymisse on eusse ame. tu sez ou eusse
la ame de come il setz ou eust ame. pt no⁹ souz on enssoud ame
amers son vo⁹ sez ou eussez ame. il amassat on enssent ame.
amers Com pt si jayme t^e sit iudicat m pnt t^e poros
amere Com pt si jamey on aymeret. tu amorez on aymeret
ameres Com jay ame. ta eiz ame. il est ame. no⁹ eiont ame
amers Com l'aymisse on eusse ame. tu amassez on ensez
il setz ou eust ame. pt no⁹ amassouz on enssoud vo⁹
ameres Com jamey ame. tu amez ame. il amra ame. pt
amaz denez auoit ame. alez amer. on estre amee
pt sonst Amat leu ayme. leu amort. on leu aymaist. leu ad
leu amort ame le aymeray t^e
amor je fuy ame tu es ame il est ame pt no⁹ fuy ame
vo⁹ estez amez il sont amez
ge qd vda passua decli p^m pti sm act^t & hoc d^t

cum es fui semp vt je sup amee tu es amee +
 Je fu tu es il est noī fons voī estez ilo font
 estoy tu estez il avert pt noī estoiono volez ilo ent
 Je fu ou rai este tu fussez on ac este il fust on a este pt
 noī furez ou a uome este voī fussez on auoy este ilo furet
 auoy este tu auoy este il auoit este Qon ont este
 pt noī auoiono este voī auoiez este ilo auoient este
 lefray tu fray il sera pt frout voī fray ilo frout
 diez tu soit il soiono noī soiez voī soiet ilo
 volut a dieu q ie fuisse on froi tu fuisse on froray il
 fuisse on froray pt noī fuisse on froray voī fuisse on froray
 q ilo fuisse on froray
 puchez q touz lez autrez temps sount ficoni lendif moed
 excep le p̄t p̄fet + le pl̄ p̄fet en le concti moed le q̄l
 fait ame le p̄fet este tu ensez este il enstero enffent
 este voī enff este ilo enffent este
 le volu on ve le rymo il voet noī vullone vullone ilo
 le volu on willa tu voloiez on willao il Qvillant
 volant on willa pt voloiono on vullaf voīez on vollef
 ray volu tu ac volu il a volu pt noī Qil voloiont on vullant
 auons volu voī auiez volu ilo ont volu
 auoy volu tu auoiez volu il auoit volu pt noī auoiono
 volu voī auiez volu ilo auoient volu
 Je doray tu dorao il dorra pt noī doriono volrez ilo zet
 Je doray tu dorao il dorroit pt noī doriono volrez ilo zet
 Je doray tu dorao il dorra pt noī doriono volrez ilo zet

• Com i e dorray tu verras il vera p^t no^o dorroue et rez
ile rent et sic dorray volu ta tu a rez volu il era volu
pt uo^o arone volu vol rez ile arout volu

xi Pachez q toutz lez autrez tems front si com leud nac
elle vusser auoir volu vnuillant - - - - - Qon lopt

アングロノルマン語の顯著な特徴

アングロノルマン語、すなわち11世紀後半より15世紀に至るまでイングランドにおいて会話、そして文章に用いられた島嶼語の発音、あるいは綴りの特徴的な現象 (typical Insularity) を考察すると次の諸点が挙げられるであろう。

1) 二重母音 [je] は特に接尾辞 -ariu, -aria に由来する -er において [e] となった：

ex. ① littere (Bibbesworth [Bと略す] 397, 398, 400 seqq. Femina [Fと略す] 371, 373, 374, 375
lyttere F 371) > ME litere

OED 初例 1300 *Cursor Mundi* 13817 Quen he had made me hale and fere, 'Rise up', he said,
wit þi litere'. ModE litter

OF litiere

② manere (B 208, 217, 335, seqq. F 419, 476 seqq.) > ME manere

OED 初例 1275 Layamon's *Brut* 18983 þes þinges weren forþriht in þilke manere idiht.
OF maniere

③ rivere (B 265 river 830 F 712) > ME river, rivere

OED 初例 1297 R. Gloucester *Chronicle* 487 Gret plente hii found of fiss, … of wodes and
of rivers, as is in þe contreie.

OF riviere

2) 自由強勢音節において [e] は [ɛ] (ai, ay, e, ei, ey と綴られる) となり、[wɛ] (oi と綴られる)
に進化しない：

ex. ① aveir (B 308 aver 25, 309, 860 seqq. Noreture 162) > ME aver

OED 初例 ca. 1380 Wyclif *Works* 306 we aver þis what jude seiþ of apostataes.
OF avoir

② rey (B 318, 320 F roy 310) > ME ray=a King

OED 初例 ca. 1400 Sir *Perceval* 178 Scho tuke hir leve and went hir way, Bothe at barone
and at raye.

OF roi

3) 強勢音節の前ないし後における [e] は [i] となる：

ex. ① chival (Amys e Amillyoun [AAと略す] 462, 464, 615 seqq. B. chivaus 889, 894, 904 F
chivales 361) > ME chival

chivaler (AA 220, 227, 380 seqq. B 311 F 303 chivalers F 39) > ME chivaler

OED 1377 Langland *Piers Plowman* B XIX 99 ȝowre champioun chivaler, chief knyȝt of ȝow
all.

chivalrie (AA 242, 876)

OED 初例 1300 Kyng Alisaunder 1495 He schipeth into Libie, with al his faire chivalrie.
OF cheval, chevalier

② chimenee > ME chimenee

OED 初例 1330 Syr *Degarre* 352 Ase fer out of a chimenai.

OF cheminee

4) 自由強勢音節における [o] (uないし ou と綴られ o と綴られることは少ない) は [u] となり [ɸ]

(euと綴られる)に進化しない:

ex. ① flour (B 380, 383, 595 F 357,577) > ME flour

OED ca. 1400 *Lanfranc's Cirurgery* 46 Take mel roset … small flour of barley and medle hem togidere.

OF flour, fleur

② honour (AA 32 Noreture 6, 160 F 1134 AA honur 34, 35, 60 seqq) > ME honour

OED 1390 *Gawer Confessio* III, 24 So as she may … Her honour and her name Save.

OF onor

5) 口唇硬口蓋母音 [y] と [ɸ] は消失した:

fu (B 1003 1009 F fieu 53 fyeu 523 fu との発音表示がある)

[cf. coeverfu (AN) > ME 1330 curfu > ModE curfew]

OF feu

6) [y] は [ju] となる:

ex. ① pure (B. 403) > ME pure

OED 初例 1297 R. Gloucester *Chronicle* 184 So clene is al so þat lond and mannes blod so pur. [vrr. puir, pure]

OF pur f. pure

② sure (B 996. suire 948 F 876) > ME sure

OED ca. 1355 *Gawain* 588 Gurde wyth a bront ful sure.

OF sure, seur

7) 硬口蓋子音 [ɲ] と [ʎ] は消失し、それぞれ [n] と [l] になる:

ex. ① compaignie (F 45 companie sine g と発音表示がある)

compaignoun (F 229 compaignon 93 compaynoun と発音表示がある) > ME compainoun

companie (AA 20, 1062 compainie 523 compayne 22) > ME compainie

OF compaigne, compaignon

② mountayne (B. 101 F montayn 204) > ME mountain

OED 1205 Layamon's *Brut* 1282 Bi Ruscikadan heo nomen þa sæ and bi þe montaine of Azare.

OF mont, montagne

③ bataille (AA 425, 499, 582 seqq.) > ME batayle, -aile, -aille.

OED 初例 1297 R. Gloucester *Chronicle* 369 þere, as þe batayle was, an abbey he let rere … þat ys ycluped in Engelond.

Chaucer *Canterbury Tales* Prol. 61 At mortal batailles hadde he been fiftene.

OF bataille

8) 無声語末母音 [ə] (eと綴る) は屢々消失する:

ex. farin (B 378 F 355) OF farine

ventrer (B 883) OF ventriere

guers (B. 798) OF gueres

9) 中英語およびイングランドのフランス語(AN)にあっては語幹に強勢がおかかる。その影響によって語頭音節が脱落する場合がある。

ex. ① esquiers (F 40 equers 又は squiers と発音表示がある F(40) squiers) > ME squier

OED 1300 *Kyng Alisaunder* '6022 fyve hundred thousand knyghtis…, withoute pages and skuyeris.

② proche (*Curtesyes* 100) > ME prochen

MED ca. 1400 *Wars Alexander* 1926 Now he [Alexander] proches for pride, & propurly he wedis;

OF aprochier

10) ui[ɥi]は u となる：

ex. ① fruz (B 638(h)) > ME frut(e), fruit

OED ca. 1175 *Lambeth Homilies* 135 Me saweð sed on ane time and gedereð þet frut on oðer time

OF fruit

② dedure (B 639) > ME dedut (pa. ppl. of OF deduire)

OED 初例 1297 R. Gloucester *Chronicle* 564 [Hy] were in hor dedut, iwend an hontinge.

OF deduire

11) 動詞不定法語尾 -ir が -er に吸収される：

ex. pleiser (B 1092) OF plaisir

seer (B 774) OF seir

tusser (B 1093) OF tossir

12) その他鼻母音の綴り an, on が aun, oun と頻繁に綴られる：

John Palsgrave, *Esclarcissement de la langue françoise*, London, 1530. によると, a の後に m, n が続くとき a は二重母音 au の如く発音し, 例えば amant, tant, quant は “… shall in redynge and spelynge be sownded *amaunt*, *taunt*, *quaunt*, soundyng the a lyke *au* and something through the noose, and so of all such other.” と書かれてある。16世紀になってもイングランドにおいては尚 aun の音と綴りを好んでいたようである。また, AN において k, w, y を使用した綴りが頻繁であったことも前述の Bibbesworth: *Tretiz*, および *Femina* その他に見られる実例から証明されている。

IV アングロノルマン文学

Amys e Amillyoun

I. Text

British Library MS Royal 12 C. XII

ff. 69^{ra}-76^{rb}

- Qi voet oyr chaunzon d'amur,[69^{ra}]
De leauté e de grant douçour ——
De troeffle ne voil jeo parler ——
4 En pees se tienge pur escoter !
De deus juvenceals vous dirray,
Sicom en escrit le trovay ;
Q'en la court un counte estoient
8 E des armes li servoient.
Moult furent de grant vassalage,
Gentils e de grant parage ;
Fiz estoient de barons,
12 Si vous dirroy bien lor nouns :
Li un estoit Amys par noun,
L'autre est appellé Amillyoun.
Li deus estoient de une nature,
16 Angeles ressemblaient de faiture.
Taunt s'amerent fierement
Que freres se firent par serement ;
As autres ne fesoient unke semblaunt
20 De companie tant ne quant.
Ceus de la court avoient envie
De lour estre e de lour compayne,
Q'amerent entre eus tant fierement,
24 E de ceo se coroucent sovent.
De cors de visage bien ressembleyent :
Si de une robe vestu estoient,
N'est home el mound qe les avisast
28 Qe l'un de l'autre desceverast.
E si furent de une estature,
De une forme e de une nature.
Leals furent envers lor seygnur,

- 32 Bien le portent a honour ;
Si les amast mult tendrement,
Honur les fist a lour talent.
Chivalers lour fist a grant honur :
- 36 Touz les ad dobbez en estour,
Lour trova si com il voleint ;
Hautement lour feste teneint.
De Amys fist son botiler,
- 40 Car moult a ly puet affyer.
Amyllioun ne velt lesser :
De son hostel ly fist justizer,
Mestre mareschal sur touz
- 44 Qi fort esteit e coragous.
De cel mester longtemps servirent
E par tot bien loé furent.
Amillion demorra
- 48 Atant qe son pere fina,
Qi de soi n'ad autre heyr.
Quant Amillioun sout pur veir
Qe son pere fuy affyné,
- 52 De son seignur le counte ad pris congé,
Qe li covient garder sa terre
Qe nul li fist treson ne gere,
Ne qe autre heyr n'i entrast
- 56 Ne ses droitz amenusast.
Le counte fust de ceo marriz,
Congé li done mes enviz ;
Mes le conte fist com bon seygnur,
- 60 Destourber ne vout son honur ;
Mes s'il eust od ly affere,
Fuist ceo en pees ou en guerre,
Maundast a ly hastivement,
- 64 E il od force de sa gent
Vendroit a ly, ceo li jura.
Amyllioun ly mercya.
Atant del counte departi,
- 68 Si ala parler a son amy
Amys, q'estoit son compaignoun,
En bone foy saunz treson.
De plur ne se poet tenir,
- 72 Car moult li greve le departir.

[69rb]

- Donqe parla sire Amillioun
E dit : 'Amis, beau compaignoun,
En bone foy saunz tresoun
- 76 A nostre seignur servy avom.
Pur vostre honur vus cri mercy,
De une chose soiez garny :
Le counte ad seignz un seneschal
- 80 Qe mout est feloun e desleal
E si est de mult grant parenté ;
Pur ceo est il le plus doté.
Unke ne vous pout amer,
- 84 Mal vus ad quis a son poer,
Mes encheson ne pout trover
Par quoi il vus pout grever.
Mes quant jeo serray departi,
- 88 Donke vus serra il fort enemy.
Gardez vus de sa felonie !
Ne aiez od li compaignie,
Car qui s'acompanie od feloun
- 92 Ne porra trover si mal noun ;
Car piz ne porra avenir
Quant compaignoun velt autre trahir.
A tote gent bel responez,
- 96 Grant preu e grant honur avrez !
Lessez orgoil e envie,
Si vous gardez de glotonie !
Amez bien vostre seignur,
- 100 Ne soffrez q'il eit deshonur !
Mout li devez amour e foy,
Car bien ad amé vous e moy.'
- Atant se sunt entrebeysés,
- 104 Plurent e crient de pité.
Suz cel n'ad home que la fust
Qe dolur de la pité n'en eust.
Paumez sunt chaeuz a terre ;
- 108 N'est home qi me vousist crere
Si jeo deisse la moyté
Del doel q'entre eus ount demené.
- Li un s'en va ver son pays,
- 112 Li autres remeint tristes e pensifs.
Quant Amis de palmisoun levoit,

[69^{va}]

- Vers la court sei retorneyt ;
Sitost com en la porte entra,
116 Li seneschal li encontra
 Qe semlaunt d'amur li fesoyt,
 Mes de quer poy li ameit.
 ‘Si[re] Amis,’ dit il, ‘bien veignant !’
- 120 De vous suy ore alé pensant
 E de misire Amillioun
 Qi a vous ert leal compaignon.
 Ne volez unke nul autre amer
- 124 Ne semblant a nul mustrer ;
 Mes quant s'en est departi,
 Requer qe soyez mon amy,
 Mon ami e mon bien voilant.’
- 128 Amis respount aitant :
 ‘Sire seneschal, vostre amisté
 En moy n'est si emploie
 Qe ne puisse nul autre amer
- 132 Quant talent me doint e voler.
 Si Amilliouns soit alé,
 Son quer me est abandoné,
 E jeo ly aym e ameray ;
- 136 Pur nul autre ne li lerray
 Par [ceo] qu'il est chose esprové
 Pur promesse saunz seurté.
 Mes de taunt me poez crere
- 140 Qe, si vous eiez de moy affere,
 Jeol vous fray od graunt douçour,
 Sauve chescuny honur.’
 Li seneschal ataunt se tint,
- 144 Qe d'angusse pale devint ;
 Purpense sei q'il se vengereit
 Sitost com son leu verreyt.
 Amis lessa le temps aler,
- 148 Ala e fist son mester ;
 Servi le counte com il soleyt,
 E le counte mout li amoyt :
 Od sei le tint plus privé
- 152 Qe nul autre de sa meisné.

[69^{vb}]

Ore vous dirrai de sir Amilloun :

- Quant vint a sa regioun,
La gent qe de sa terre furent
156 Od grant nobley li receurent ;
Trestouz li firent homage.
Ore poet il mener grant baronage !
N'ust od ly ja si privé
160 Q'il n'out dis chivalers de maisné.
Tant fuit de sa gent amé,
E lour ad trestouz doné
Bons chevaus e deners,
164 E robes a ses esquiers.
E il memes si bel estoyt
Qe tut le pays le disoyt
Si Deu mesmes le eust purtret,
168 Plus bon ne meuz [ne] serra fet.
Sa gent durement l'amerent ;
A femme prendre li consaillerent. [70^{ra}]
Par lour consail se mariat :
172 Une gentile femme esposat
Qe fille d'un counte estoit,
E pere e mere perdu avoit ;
Pur heritage la moyté
176 Li fuit escheu del counté.
De beauté avoit le pris
Sour touz les dames du pays.
Bien furent entre eux couplés
180 De parage e de beautez.
- Ore lerray de Amyllioun ester,
E de sir Amys vus voil counter,
Qe fuit demoré od son seygnur
184 E meuz li servi de jour en jour.
Taunz com Amis meuz li surveyt,
Le seneschal plus li haeit ;
De son benfait avoit envie,
188 Mes Amys ne l'aparce[u]st mye.
Li quens une dame aveit
Q'il come sa vie ameit.
Une fille avoit la dame
192 Q'ele amoit come s'alme.
Mout fut gentile la damoysele,

En une realme ne out plus bele.
Deus countes la desirant,
196 E esposer la volirent,
Mes ele a trestouz respondu
Ne vout uncore aver mary.
A grant cherté le tynt le pere,
200 E mout l'ama auxi la mere.
La damoisele fuit bien gardé :
Compaignes out a grant pleinté
Des dameseles del pais
204 En sa chambre noef e dis,
Qe touz fesoient sa volonté ;
De countredit n'en ad parlé.

Un jour par aventure avint
208 Qe li quens une feste tynt
Par un jour de l'Ascensioun ;
La fuit assemblé maint baroun.
Est veuz li mestre botiler,
212 Amys, q̄i bien sout son mester :
De un drap vestu esteit,
La coupe devant li quens teneit.
Mout fu beals e aligné,
216 Des chivalers fuit moult prisé.
Entre eux communement disoient
Qe unque si bel chevaler ne veient ;
E li quens même le dist
220 Qe onqe si bel chivaler ne vist.
Touz ceus qe en la sale estoient
De sa beauté matire aveient.
Est venuz la novele
224 En la chaumbre a la damoisele
Del botiler qe tant ert beaus
E tres gentil dameyseals,
E q'il fuit tant bon chivaler
228 Q'en la court n'out son per.
La pucele en prist tendrour
Qe tant vers li ad getté s'amour ;
Si forment comensa a amer
232 Q'ele ne pout boyvre ne manger.
Les damoiseles qe od li erent

[70^{rb}]

Purquei ceo fuy ly demaunderent.

E ele dit que malade fuit,

236 Ne sout dont cel mal ly avenut.

Ele comaunda qe eus se teysent

E d'autre chose s'enveysent.

En cel langur demora

240 Tant que li quens s'en ala

A boys juwer en venerie,

Od ly tote sa chivalrie.

A l'ostel n'i out nul remis

244 Des chevalers for sire Amis,

E il remist pur maladie.

E la damesele ne targa mye :

De sa dame prist congé,

248 E ele tantost li ad doné.

Nomer vous dey la pucele :

Son dreit noun est Mirabele,

Mes Florie fust apelé

252 De ceux qe furent de sa meisné.

Florie, quant le congé en eust,

S'a hasté a plus que ele pust ;

Ove une soule chambere

256 Ala par congé de sa mere

Parler a Amys que ele ama.

Tant parla e taunt demora

Qe tot son corage descovery :

260 E dit pur l'amur de luy

Morust, s'il n'eust de li pité

E que ele fust de ly amé,

Que si de ly amour ne avoit,

264 Jamés home ne amereit.

Amis, quant l'ad escoté,

Quideit que ele fuit devee

Qe ele pout pur hounte discoverir

268 Sa volonté e son desir.

De responce se purpensoit

Com celi qd talent ne aveit

Q'il mesprist vers son seignur.

272 Estez vous Florie par grant error !

Ele li respondi e dist : 'Coment

Vous ay amé celement ?

[70^{va}]

- Qe jeo vus ay doné m'amur ?
276 Ja en ma vie aprés ceo jour
Ne srray en mon quer heytez
Si jeo ne soye de vous vengez !
Certes ore suy jeo bien honye
280 Quant vous me dedeignez avere amye !
Tant gentils hommes m'ount prié,
E trestouz ai je refusé.
Certes n'estes pas chevaler !
284 Mescreaus estes e laner !
Un play bien dur vus bateray :
A mon pere le conteray
Qe vers li estes e moy forfet,
288 E serrés des chivals destret.
Donques srray de vous vengé !
Atant s'est Florie retorné.
Amis mout se purpensa ;
292 Le un mal e l'autre mout dota.
Corteisement ly respundi :
'Damoisel, pur Deu mercy,
Vostre amy suy e srray,
296 E vostre serjant tant com jeo viveray.
Vers vous ne mesprendroie mye
Par quei vous en averez vilenye
Ne de vostre corps hontage.
300 Jeo preng Deu en tesmoignage :
Si ceo poet estre aparceu
Qe de moy feissez vostre dru,
Ne serrioms nous en fyn honye ?'
304 'Hostez, hostez !' ceo dit Florie,
'Nous le froms si privément
Touz deus a nostre talent
Ne[l] savera home de mere nee.'
- 308 Tant li ad dit e parlé
Ore sunt a un de cel affere,
Dount devisent la menere
Coment e quant s'assemblerunt.
- 312 Allas ! Q'encusé serround,
Qe trestot oy un vassal
De la meisnee le seneschal.
A son seignur le ala counter

[70^{vb}]

- 316 Sitost com il poet espleiter.
Le seneschal fut molt lee ;
Ore quideit bien estre vengé
De vostre corteis botiler ;
- 320 Tot lour estre fist espier.
Qant vint le terme q'avoint dit,
Il ensembleront od grant delit :
Par grant duçour s'entrebeiserent,
- 324 De amour parlerent e juwerent.
De autre chose ne dirra[i] mie ;
Ne croy pas q'il y avoit vilaynie.
Le seneschal, quant sout la covine
- 328 Entre Amis e la meschine,
L'endemain vint tot a hounte :
Acounté est tot lor oevre al counte.
Li quens fu de ire enflé,
- 332 Ne parla mot une luwé.
'Adonke,' dit il, 'Deu mercy,
Si ceo traitour m'ad issi hony,
Que tant amey e tant ting cher,
- 336 En qi me porrai affier ?
Si est grant desert venu :
Ma fille est pute devenu.
Ele est honie, jeo suy trahi ;
- 340 Cel fel traitre m'ad icy servy.
A touz jours avera reprover
Si jeo ne me puisse de li venger.
Est ceo voir, sire seneschal ?
- 344 Jeo quide que l'avez dit pur mal.'
'Sire,' le seneschal respound,
Par celi qe fist le mound,
S'il le velt denier,
- 348 Com leal chevaler le voil prover,
E cil que de nous est vencu
Soit detret e puis pendu !
E dit li quens : 'Ore vaut meins !
- 352 Ceste play m'est laid e vileins.'
Atant en la chambre entrat,
La dame sur un lit trovat.
'Dame,' dit il, 'ne savez
- 356 Quele fille vus avez !

[71^{ra}]

- Ele est ja femme de mester,
E ceo ad fait nostre botiler.
Pur nostre bien hounte nous rend :
- 360 Tray nous ad malement,
Qe nostre fille ad trahy e affolé.
Deu li doint male destiné !
Si avra il, si jeo vive tant ;
- 364 Ne li ert nul de mal garrant.
Tut ert detret e puis pendu,
E la pute arse en fu !'
La dame ne sout quoy dire.
- 368 Le counte de mal ard e d'yre,
Devint plus noyr ke carboun.
Tost sailli hors de la mayson,
Si encontra le botiler.
- 372 A li soleit trop beal parler ;
Les oils sur ly forment roylla.
Amis moult se merveilla.
'Fel,' fait il, 'Deu vous maudie !'
- 376 Ma fille est par vous honye.
Mes vous ne irrez ja riant ;
La mort vous va ja approchaunt !'
'Sire,' dist Amys, 'vus dites mal.
- 380 Jeo suy vostre chivaler leal ;
Si nul vous ad de moy counté
For que dreit a vérité,
Moult bien me deffenderay
- 384 Devant qe jeo denieray.'
Le seneschal atant se vint
E son gaunt en son poing tint,
E tendist en noun de gage
- 388 Com home de grant vasselage,
E dit que od li combat[er]eit
E la vérité provereit.
Est veus tote la court ensemblé,
- 392 Ly chivalers e la meisné.
Li un countre l'autre tendi son gant,
E li quens [les] resceust atant.
E donc jugga le baronage
- 396 Que plegges troverent en hostage.
Le seneschal ad taunz trové

[71rb]

- Ke le counte fut bien payé.
Tant fuit li seneschal doté
400 Qe Amys un soul n'en ad trové,
Quoy pur doute quoy pur pour,
E trestouz virent qe le seignur
Haist Amys desqe a la mort,
404 Fust ceo a dreit fust ceo at tort.
Nul ne oseit pur li parler,
E le counte li velt venger.
Quant ne pout trover plevine,
408 Pausmē chei la meschine.
En la place estoit Amis
Com esgarré e com pensifs,
Ne sout lequel il pout eslire,
412 Mort ou vie, ne sout ke dire.
Plusors aveient de ly pité,
Mes li sire fust tant yrré
Qe la n'out home taunt hardi
416 Qe oseit un mot parler pur ly.
La dame ne se pout tenir
Ne pur vivere ne pur morir ;
Devant le counte se genula
420 E le chivaler demaunda :
En hostage pur li serreit,
En son plegge devendreit.
'Voir,' dit li quens, 'volez ensy ?'
424 E jeo lealment vus dy
Qe, s'il defaut a la bataille,
Le juggement averez saunz faille,
Qe vostre fille fust destiné ?
428 La dame lermist pur pité,
Prist Amis en plevine ;
Moult fu dolente la meschine.
Amis se retret e purpensa
432 Com celi qe grant mester en a.
De son frere li sovynt ;
Tantost a la countesse vynt,
Congé li ala demaunder
436 Qe a son frere velt aler ;
Son enuy monstrer li vout,
E ala qe mult se redut.

[71^{va}]

- Ele li dist : 'Beau sir Amys,
440 Traihir me volez, m'est avys !
Si vous ne venez a tel jour,
Vous savez bien qe mon seignur
Pur vous ad ma mort juré.'
444 'Dame,' dist il, 'par ma lealté,
Pur ma defaute ne murrez mie,
Tant com je puisse aver la vie !'
Atant congé ly dona,
448 E un palefroy mounta
Saunz garsoun e saunz esquier ;
N'ala pas com chivaler
Mes ala com pelrin.
452 Ne fina unke soir ne matyn,
Poy mangea e mains beust,
Si ne dormist nule nust.
Touz les noitz issi chevaucha,
456 Qe onke de nuyt ne se reposa,
Tant qe vers une vespré
En un grant boys est alé.
A force ly covynt dormir,
460 Aviz li fust qu'il deust morir.
Desouz un arbre se cocha,
E son chival a une raym lya.
Dormist, car mult fu travaillé,
464 E son chival fuist mesaysé.
Amyllioun en son lit giseit,
Deleez sa femme se cocheit ;
Si s'avint en avisoun [71^{vb}]
468 Ke sir Amys son compaignoun
D'un leon fust assailli,
Qe li fuist mortel enemy.
Del sounge fut moult effraë
472 E tost sus sailli com home desvee.
Tost appela ses chevalers,
Ses garsouns e ses esquiers.
Touz lour fist mettre lour seeles ;
476 Unke ne lour dist autre noveles,
Mes dist q'il voleit visiter
Son frere qe tant pout amer.
Trusser s'en vount en mynuyt ;

- 480 As autres ne fuist pas deduit.
En cele nuyt tant errerent
Qe parmy le boys passerent
Ou sire Amis reposeit.
- 484 Sire Amillioun primes le veit ;
Tost est cele part torné,
Tendrement l'ad esveillé.
E sa gent passerent avant,
- 488 E [i]l entendi nepurqant ;
De son estre saver voleit.
Si li retint, si li diseit.
Fu la joie, fu la pité,
- 492 Quant l'un od l'autre est aquointé !
Donke li dit sir Amillioun
Paroles de mult grant resoun :
'Beau frere, quant avez forfait
- 496 E le serment avez fet,
Jeo me doute qe pur pecché
Del serment serrez encombré.
Pur vous la bataille fray,
- 500 E le serment lealment juray
Qe jeo unke ne li forfiz,
E quiderount qe jeo soye Amys.
Jeo espoir par la grace de Dé
- 504 Qe del feloun serrom vengé,
Qe vus quideit aver hony.
Mes chivalers qe sunt icy
Od vous desoremés demorront ;
- 508 A ma court od vous irrount.
E quant nous averoms robes chaungé,
[72^{ra}]
Donqe quideront de verité
Qe vous seiez lour seignur.
- 512 Si vous requer par amur
Qe de ma femme facez atant,
En fet e en semblant,
Come jeo memes iceo fuisse,
- 516 Qe ele encheson ne troesse
Qe illoke est autre de moy ;
Car jeo vous dy en bone foy
Qe ele [est] mout aparcevante !'
- 520 E sire Amist trestut le graunte.

- Lour robes ount trestot chaungé,
E Amyllioun s'en est alé;
Tut soul va saunz compainie.
- 524 Ore Deus li soit en aye
E doigne q'il puisse bien fere!
Grant chose enprent pur son frere!
Amys remaint od la meisné,
- 528 Cum li sire e envoyé;
E quiderount trestouz pur voir
Qe ceo fuit lour dreit seignur.
E la dame, quant li veu aveit,
- 532 Qe Amillioun fuit bien quideit.
Les deuz furent issi d'un senblant
Ne crerreit home ja si parcevant
Qe l'un de l'autre sout deviser,
- 536 Si par noun les oist nomer,
Ne par cors ne par fasçon,
Par riens, si par la robe noun.
Amis, quant il se ajouta,
- 540 Leez la dame se coucha;
Sa espeie nue entre eus posa.
La dame de ceo s'enmerveilla.
A la dame ne voleit parler,
- 544 Desques al matin al lever.
Chescune nuyt issi se contint
Desques Amyllioun a meson vynt.

- Ore lerrom de Amis ester;
- 548 De sir Amillioun voloms parler.
Le jour vint qe fuist assis
Entre le seneschal e Amys.
Le seneschal se fist armer,
- 552 Puis demaunda le botiler;
E quant il ne pout estre trové,
La dame fuit pris e durement lié,
E la pucele ensement.
- 556 Grant pité avoient la gent:
Plurent e pleignent lour beauté.
Li quens, que mout fuit irré,
Ala hastaunt lour juggement,
- 560 E si jura grant serement

[72^{rb}]

- Qe il memes les verreit arder.
Ataunt virent vener un chevaler
Qe vers eux fist grant aleure,
564 Poignant plus qe amblure ;
Del feu q'il vist fut grantment effraé
E de les dames eust grant pité.
'Sire,' dit il, 'jeo suy venu !'
568 Dount vous sert tot ceo fu
Qe pur les dames fait esteit ?
Trop vilaine roste serreit !
Armes me fetes tost bailler
572 Pur cestes dames deliverer !
Jeo deffendray nostre dreit.'
Le quens, quant le chevaler veit,
Bien quideit qe ceo fuit Amys ;
576 De cors resemblast e de vis.
Bons armes demaunda
E li memes le chivaler arma.
En son corage fust bien paié
580 Quant ad le chivaler si bien armé.
Puis li dist suef en son oraille
Qe, s'il pout deffendre la bataille,
Sa fille a femme ly dorreyt
584 E de tote sa terre heir li freit.
Est venuz l'asemblé ;
Ore mes sourdra la medlé.
Le un l'autre desaffient
588 Qe entre eus nul amur ne eyent.
Ore s'en vount les chivalers
Qi mult sunt orguillous e fiers.
Ne avera mester de acord ;
592 L'un hiet l'autre desq'a la mort.
Nul deigne a autre affier ;
Chescun se prend a ferir.
Amillioun fier le seneschal
596 D'un grant launce enpoignal
Parmi l'escu peint de asur,
Mes le hauberc fuist fort e dur
Qe de mal l'ad garri.
600 Le seneschal li referri ;
Lour launces ount as coups brusé

[72va]

- E si sunt outrepassé.
A cel encountre tant firent bien
604 Qe l'un ne l'autre ne perdit ren.
Amillioun vint par corucer,
Par ire tret le brank d'asser ;
Le seneschal ferir ala,
608 En le healme grant coups dona.
Mes le healme tant fort fu
Qe de la mort l'ad deffendu,
Qe le coup ala descendant
612 Si chiet sur l'arsoun devant ;
Trestut trencha quir e fust
Com si rasour trenché le eust.
Parmy l'espaudle del chival
616 Cola le braunke en terre aval
Plus qe plein pé e demy ;
Le seneschal a terre chay.
Qe pout, quant son cheval li ment ?
620 Del cop parlent durement :
Dist l'un a l'autre qe le chivaler
Ses armes sout trop bien porter,
Mes son coup est trop pesant.
624 Le seneschal se leve ataunt,
Qe dolent est e corucé
Quant combatre deit a pié ;
A plus tost q'il pout se vengereit,
628 E Amyllioun a pié se mettreit.
Mes il aparceut tost la manere,
Si ceo retret tost arere.
Tost descendri de son destrer ;
632 Combatre voleit per a per,
Q'il n'eust de son cheval envie.
Tant fist il par sa cortesie :
Meuz a pié l'estut ferir
636 Que lessir son chival morir.

[72^{vb}]

- Le seneschal, qe nel pout amer,
Un grant coup li vint doner
Amount el heaulme peint de flurs,
640 Qe tost abati les colurs.
Sur le senestre le coup descent,
Mailles trenchent plus de cent.

- Bien pres passa le costé,
644 Mes la char n'ad pas toché.
Amyllioun, qe tant fu de vigour,
Meint coup li dona ceo jour.
La bataille ad bien duré
648 Desque noune fust passé.
Ly seneschal fist moult bien,
E sire Amillioun ne dota de rien.
Ne savoit [nul] del chaump juger
652 Lequel fuit meilleur chevaler.
Amillioun fust bien anuié
Qe la bataille ad tant duré ;
Un coup li voudra ja doner
656 Qe li deit par dreit grever.
Mes le seneschal primes li ferist,
Qe son coup tres bien apparist :
La healme del coup enbarra,
660 Qe Amillioun fort estona.
Ore poet trop attendre :
S'il ne sache le coup rendre,
Li autre s'en irra gabbant.
664 E sire Amillioun atant
Ferir li vint par tel ayr
Qe le feu fist tresailleur,
Qe le healme fust tot purfendant.
668 En la cervele cola le brank,
E l'oraille od tote la face
Voler fist enmi la place.
Le braz od le brank trencha ;
672 Desque en la haunce le branc cola.
En cel champ fu ben vengé ;
Par li mes n'iert encusé.
S'il chaist, n'est pas mervaille.
676 Ore finist la bataille.
Les uns chaunterent, les autres plorerent.
Les chevalers ja corerent,
Mes le counte vient premer ; [73^{ra}]
680 Atant se fist desarmer.
S'il eust plaie li demaunda ;
Cil dist que mal n'en a :
Plus est sain qe pesson de mer.

- 684 Atant li vount touz beiser :
Sur touz li fist la dame joie,
E la pucele totevoie
Semblant li fist tant com osa,
- 688 Car son pere moult dota.
Le counte atant l'ad appellé :
'Dy moy,' fait il, 'fille bele,
Amys pur vous ad combatu,
- 692 Son enemi ad confundu ;
Ly e vous ad aquité
Del fait dount fuistes encusé.
S'il vous velt esposer,
- 696 Li porriez de quer amer ?"
E ele respount moult simplement :
'Tot soit a vostre talent !
Si vus me volez marier,
- 700 Jeo ne me deveroy pas corucer.'
Dount fut comaundé al baronage
Qe eus feussent al mariage.
L'endemain a terce sonant
- 704 Touz i furent, petit e grant,
Les barons e les chevalers,
Borgés, sergeans e esquiers.
Quant touz furent assemblé,
- 708 La pucele fut amené
A l'huis de moster.
Quant Amillioun deust son noun nomer,
Si se purpensa moult estreit ;
- 712 Oyst une voiz que li disoit : —
Qe nul ne oist fors li noun —
'Lessez, lessez, sire Amillioun !
Jeo vous di certeine novele :
- 716 Si vous esposez la damoisele,
Einz qe soint .iii. anz passez,
Aprés de ceste leprouz serrez.
Avant mes unke si laid ne fust
- 720 Home, com dire bien le poet.'
Amillioun l'ad bien entendu,
E la prist sicom son dreu,
Mes pur ceo ne vout lesser,
- 724 Mes la resceit come sa mullier.

[73^{rb}]

Ne voleit qe eus furent aparceu
Coment son frere eust deceu.
La damoisele fuit ben paé

728 Quant ad baroun a volonté.

Le counte tynt feste plenere
Une symaine tot entere ;
Mout i furent des robes donez

732 Dont les menestrauz furent feffez.

Le counte dona a ses esquiers
Les chivals e les destrers.
Ore vus dei jeo bien counter

736 Coment il firent a coucher :

La dame ad son dreu acolé
E par amour sovent baisé,
E en quidoit qe ceo fu Amys.

740 Mes Amillioun, qe fu pensifs,
Bien entendi en son corage
Fere ne li velt hountage
De son compaignoun trahir.

744 Moult parfound getta un sospir,
E el suspir geint forment.
La dame l'acola tendrement,
Si li demaunda quoi pensoit

748 E purquei tels suspirs getteit.

Donke dit sir Amillioun : —
Ne vodra celer son noun —
'Jeo ne suy pas celi qe vous quidez ;

752 De vostre espoir failli avez.

A vous le peus bien counter,
Car bien le deverez celer.'
Tot lour estre luy ad counté,

756 E puis dit q'il prendra congé.

Quant il eust le congé pris,
E seignurs ove ly desqe a dis,
En son pais s'en est alé.

760 A Amys ad trestot counté
Coment eust finé la bataille
E coment eust fait la sposaille.
En une chambre puis estrerent

764 E lour robes chaungerent ;

Donpue ne fuit aparcevant

- De lour estre tant ne quant.
A plus tost qe Amys poeit,
768 Congé ad pris, si s'en aloit
En son pays vers s'amyne
Qe tant ama come sa vie.
Ore est mout en astage,
772 Car cru li est par mariage
Grant seignurie e grant honur :
De grant terres est il seignur,
De .iii. countez e demy,
776 Si tost come li quens est fini.

- Ore est amé e tenu cher ;
N'estoet mes estre botiler.
Consailler fut fait e sire ;
780 Quantq'il voleit porreit dire.
Tenu fut par tote la terre,
Tant demeint grant affere.
Sa femme ly aime tendrement,
784 Si fist tot son commaundement ;
Tant qe le counte enmaladi.
E quant longtemps out langui,
Morust e a Deu rendist s'alme ;
788 E tost après morust la dame.
Quant mortz furent pere e mere,
Il ne eust soer ne frere
For soul la dame qe Amis aveit,
792 Pur ceo les terres recevoit.
Ore vodrom de Amis lesser,
Qe assez ad dount il ad mester.
Vus dirrai de sire Amillioun
796 Qe tant estoit leal compaignon.
Com il en son lit gisoit,
Sa bele dame a li disoit :
'Me diez par amour de moy ——
800 Car jeo vus aime en bone fey ——
Ta espee nue meistes entre nous,
Sire, purquei le feistes vous ?'
'Dame, jeo [ne] le dirrai mes ;
804 A ceo fui jeo confés.'
Par ceo savoit sir Amillioun

- Qe Amis estoit leal compaignon.
Ove sa feme tant demorra [73^{vb}]
808 Qe tot son pel ly arracha.
Si malade e si laid devint
Qe checun pur mesel li tint.
La dame li tint trop en despit :
812 Ne voleit entrer en son lit,
Ne voleit auxi od lui parler,
Ne od li beivre ne manger.
Meuz, ceo dit ele, veut morir
816 Qe a li vousist venir.
Cil soffri en cel an
Grant dolur e grant han.
Ses chevalers touz departoient,
820 Ses garsons touz li guerpeient ;
Ne trova serjant ne esquier
Qe ewe froide li vodra doner.
Trestouz li ount deguerpi,
824 Estre un enfant q'il out norri.
Fiz de un counte, son parent,
Od li tint fer[m]ement,
E dit que li ne velt guerpir
828 Ne pur vivre ne pur morir.
La dame, que mout est ennuyé,
Ambedeus s'est hors getté ;
E le seignur e le serjant,
832 Sire Amylloun e son enfant,
A chef de la vile a un bordel
Illoc lour fist aver hostel.
O, misires Amyllioun,
836 Mis estes a povre garisoun !
Jadis fu sire e seignur ;
N'est pas merveile s'il ad dolur.
La mort desire plus qe la vie ;
840 Nul solas ad ne compaignie :
N'ad home a qui parler,
Ne a qui poet son dolur moustrer,
Fors a l'enfant que ly serveit.
844 Amillioun com plus viveit,
Tant plus leid deveneit.
La dame par tant defendi

- Qe nul ne fut si hardi
848 Qe de rien li regardast,
Ne que manger li donast.
L'enfant, quant oy cel comaund,
Ne sout ou quere lour vivre avant.
852 Tantost counta a son seignur,
E il dit : 'C'est mal dolur
Quant n'avom a boivre ne a manger ;
Ne poums icy plus demorer.
856 Jhesu, le fiz seinte Marie,
Com longes me durra ceste vie ?
Jeo solei aver grant tresour,
Estre servi d'argent e d'or,
860 Ore suy tant demené
Qe de ma vie est grant pité.
Si jeo de feim morir deveray,
De mei memes force ne fray.'
864 L'enfant a soi doncue appelast,
E pur Deu li conjurast
Qe illoec morir le lessast,
E yl en son pais alast.
868 L'enfant respoundi par grant douçur :
'Merci Deu, mon seignur,
Meuz voil od vous suffrir dolur
Qe sanz vous estre emperour.'
872 Quant l'un l'autre ad regarde,
Mout est entre eux grant pité :
Plurent e decirent lour draps,
Sovent se claiment cheitif e las ;
876 Plein[en]t de grant chivaltrie
Le honur e la seignurie
Qe sire Amillioun avoit eu,
Qe ore est devencu.
880 Le noun vous dirray de l'enfant :
La gent l'appelent Amorant,
Mes Uwein fuit son dreit noun.
Donque li dist sire Amyllioun :
884 'Oweyn, a la dame irrez,
Nostre congé de li prendrez.
Hors de ceo pais irroms
A plus tost que nous pooms.

- 888 Mes jeo ne puis aler a pié ;
Priez a lui par charité
Qe ele me face une ane doner
Qe jeo puisse chivacher.' [74^{rb}]
- 892 L'enfant a la dame ala,
Son message li counta.
Ele li fist un asne aver,
E pus sus les seintz jurer
- 896 Qe mes en le pais [ne] vendreit
De l'hure qe issi serreit.
Hors del pais s'en vont ;
Jamés quident qe revendrount.
- 900 Owein, le leal enfant,
Lour viaunde va querant,
Mes tant lour vint sur cherté
De pain, vin e de blé,
- 904 Qe donke ne poient home trover
Qe rien lour voille doner.
Einz ne pount plus entendre
Q'il covient lor asne vendre
- 908 Pur cink souz e diz e maille ;
De ceo acateront lour vitaille.
Estre ceo lour fount fere
Sur deus roes une cyvere
- 912 Qu'il pout sei meismes enchacer.
Amillion fist dedeinz cocher,
A plus q'il pout li eysa,
De long en long li enmena.
- 916 Par la terre tant alerent
Qe feym e me[s]aise troverent,
Desques eus vindrent el pais
Ou sojorna le counte Amys
- 920 Qe noble court illoeq tenoit
E moult grant ben fesoit.
La povre gent tot enviroun
Ala com a processioune.
- 924 Entre autres les deuz vount.
Ne sciet, qe eus veit, qu'il sount ;
Si eus fuissent en la cort conuz,
A grant honur serreint receuz.
- 928 Pres [de] la porte se sount mis,

- E l'enfant, qe bien fust apris
E moult ama son seignur,
Ala demaundant tut entour
932 Des povres les estres e les maneres
E les custumes de les terres.
Les gentils homes, qe alere[n]t juaunt
E les povres regardant,
936 Veu ount l'enfant bel e parceu,
E [s']il fuit auke vestu,
Gentil home resemblereit.
Un de eux ly appeleyt,
940 Demaundast s'il vont servir.
E il getta un grant suspir ;
Cil dit q'il out un seignur
Q'il ne lerreit pur estre emperur.
944 Qy ceo fuit li demaundeient,
Mes sitost com il veu avoient
Celi q'il clama pur seignur,
Touz li tenoient a folur.
948 Mes de l'enfant avoient pité ;
Al counte Amys ount counté.
Cil, sitost com mangea,
Son premer mes li envoya
952 Par son mestre botiler,
Qe ert corteis chevaler.
De chescun mes qe l'em li porta
La moyté lor envoia.
956 Amis une coupe avoit
Ke mout ferement amoit,
Car Amillioun, qe tant amoyt,
Cele coupe li donait.
960 Amillioun mesmes avoit le per,
Qe ne vont vendre ne doner.
Mes le hanap tant ameyt
Q'en tot son anguisse guerpir ne voleit.
964 Les deus hanaps tant ressembleient
Qe, si en une mayn estoient,
N'est home qe tant de l'overaigne seust
Qe l'un de l'autre deviser deust.
968 [...]
Qe unke lesser le voleit.

[74va]

- Quant le counte ad pres mangé,
Son botiler ad appelé :
- 972 'Pernez ma coupe od tot le vin,
Si l'aportez a ceo frarin,
Au povres qe tant est mesaysé.
Mes le hanap soit bien gardé :
- 976 En son esquel le vin versez,
E ma coupe me reportez !
E celi fist le comaundement
E vint e porta le present.
- 980 Le povres, qe mesel fuit en vein,
Prist sa coupe hors de son sain,
E l'autre la vist, si s'esmerveilla.
La coupe durement regarda ;
- 984 Pensa cil : 'Coment poet estre ?
Ces deus hanaps fist un mestre !'
Arere tantost se repeira,
Al counte de cel hanap counta
- 988 Coment a soen ressembleit.
E le counte moult esmerveileit,
De Amillioun doncq li sovent :
'Bien sai', fait il, 'verraiment,
- 992 De mon frere l'ad emblé,
Qe cher serra achaté !
Outre la table saut ataunt,
A cel povre vint errant ;
- 996 Forment l'ad feru du pé,
Qe en la bowe est il versé.
Les chevalers vindrent del deys,
Qe li estoient de molt prés ;
- 1000 Enresoner li voleient,
Mes pur poer qe eus avoient,
Ne li poeient assuager
Q'il ne li velt ocier.
- 1004 Quant batu li out e defolé
Que ses mains sunt allassé,
Donqe commaund qe l'en ly lyast
E en sa prison li gettast.
- 1008 Amillioun doncq maundereit
E la verité de li querreit
Qe son hanap out perdu

[74^{vb}]

- E coment est avenu.
- 1012 Quant Amyllioun li oist nomer,
De dolur pout son quer crever :
'Sire,' dit, 'par la foy qe vus devez
A Amillioun, qe tant amez,
[75^a]
- 1016 Ne me facez enprisoner,
Mes le chef me faites tost trencher.
Mes certes ai jeo trop vesqui ;
Trop bien ai la mort deservi.'
- 1020 'Voir,' dist il, 'vous l'averez !
De vostre demaunde ja ne faudrez !'
Tantost espeie demaunda,
E il memes dist q'il le tuera.
- 1024 Tost l'espeie li fust baillé,
Puis l'ad en haut levé,
E Amillioun le col tendist.
Mais l'enfant avant saillist :
- 1028 Uwein, q̄i ne poet suffrir
Qe son seignur deust morir,
En haut cria : 'Mercy, mercy !
Pur icel Deu qe onqe ne menti
- 1032 E q̄i en croiz suffri passioun,
C'est mi sires, sire Amillioun !
Sire quens, remembrez, Amys,
Com vous li soleiez amer jadis.
- 1036 Grant bosoigne li ad icy chacé.
Si le occiez, vous fetes pecché.'
Quant le counte ceo oist,
Tost estendu a terre chaist :
- 1040 Bate ses mains, ses cheveuz detire,
Sa vie hiet, sa mort desire,
La hure maudist q'onqe fu nee,
Quant pecché l'ad ensi encombré
- 1044 Qe son frere desconusseit
Qe touz biens li fesoit.
Trestouz plurent de pité.
Amis s'est tot adrescé,
- 1048 Plus de cent foiz li ad beisé,
Tot ensi com ert de tay levé.
Entre ses braz li ad apporté,
En sa chambre li ad couché.

- 1052 Bainer li fist e seigner,
Con son corps li fist garder,
Servir le fist tot a talent
De viande e de boivre ensemant. [75^{rb}]
- 1056 E li memes a li vet
Chescun jour sis foiz ou sept ;
Tant com pout l'ad conforté.
La dame sovent a ly est alé,
- 1060 Qe li ama molt de fin quer
Comme si ele fust sa soer ;
Plus ne li poet fere companie.
- Treis anz demena tele vie ;
- 1064 De ses eses ass[e]z avoyt
Tant com il memes desiroit.
Quant passa le temps issi,
Qe li quens une noyt dormi,
- 1068 Une voiz oy qe li disoit
Qe Amillioun trop bien garreit
S'il en fist mettre cure
[Des] deus fiz de sa gendrure :
- 1072 Si les enfantz tuast
E Amillioun en le saunk bainast,
Si sain devendreit com pessoun.
Quant veu avoit l'avisioun
- 1076 E de cel sounge resperi,
'A, Deu!' dit il, 'qe onqe ne menti,
Doine qe voir soit mon sounge.
Mes ore, soit voir ou mensoungue,
- 1080 La merveile voiz voil prover.
Pur mes enfanz ne voil lesser.
Mout avera fait bone jorné
Si par lour saunk poet estre sauné.'
- 1084 Un jour s'est par matyn levé,
E al matin est il alé ;
Deu requist e son haut noun
A son frere doine garisoun.
- 1088 La dame vint, qe bone fust,
Sovent Deu pur li requist.
Atant le counte s'est repairé,
En une chambre est entré
- 1092 Ou les deus enfanz dormerent ;

E doucement eux entreacolerent.

[75^{va}]

Le pere [n']eust de ses fiz pité :

Ambedeus ad le chef trenché ;

1096 E le sanc de eux ad quillé
E Amillioun dedeinz ad envelopé.

Sitost com le saunc senti,

De son grant mal est il garri,

1100 Qe en corps ne en face
De maladi ne appareust trace.

En Amis ne out qe regeir ;

Une bone robe li fist vener

1104 E a mouster puis li mena.
La dame, sitost com vew li a,
Pres de joie se palma ;

Vint al seignur, si li demaunda

1108 Si ceo fuist sire Amillioun,
Coment il out sa garisoun.
'Dame, certes, jeo vus diray,
Mes vous desconforteray.

1112 Sachez, dame, que pur sa saunté
Voz deus fiz ai estranglé.'
La dame ses meins a Deu tendi
E mout graces li rendi,

1116 Donqe comence pur fere joie :
'Jhesu Crist, le fiz seinte Marie,
Si li plest, par son poer
Nous porra enfaunz doner.

1120 Si Amyllioun perdu eussez,
Jamés tel autre ne averez.
De les enfaunz plus n'enpensoms ;
Si Deu velt, bien lé recoveroms.'

1124 Atant la parole ount lessé
E le service Deu ount escoté.
Aprés la messe vint a mesoun ;
Joiouse est ele pur Amyllioun.

1128 Amys donqe ove la dame ala
En la chambre ou les enfaunz lessa.
Les enfantz furent estranglés,
E tot vifs les ount trovez !

1132 En lor lit s'entrebeysèrent,
Del ray del solail s'enjoierent.

- Pere e mere, quant ceo virent,
A Deu graces en rendirent.
- 1136 Sire Amillioun, quant fust sané
E de son grant mal netté,
Sitost com porra prist congé,
En son pais s'en est alé.
- 1140 Quant la dame aveit oy
Qe son seignur estoit garri
E q'il revint el pais
E od li le counte Amis,
- 1144 Tel ad el quer dolur
Qe unque femme ne out greignur.
Donqe se tint enfyn honie :
Ne quideit pas q'il fuit en vie.
- 1148 Pur ceo fut tot appareillé
Q'en le mois deust estre esposé.
Mes ore se claime lasse cheitive ;
Moult luy poise qe ele est vive.
- 1152 Ne saet ele pas quoi ele poet fere ;
Si se met hors de la terre,
Ne la savera plus aider.
Donqe comencia a purpenser
- 1156 Q'entre nonaynes se muscereit ;
Son seignur jamés ne verrait.
Mes ne li ert pas destiné,
Car un jour par matyné
- 1160 Les deus countes sunt venuz
E a la porte descenduz,
Qe nul fut aparcevant
De lour venue tant ne quant.
- 1164 La meisnee fust endormie ;
De lour venue ne saveint mie.
Quant la dame oi counter,
En une chaumbre se ala muscer ;
- 1168 Meuz velt estre pendue
Qe de son seignur estre veue.
Sire Amillioun fist com leal bier :
Sa gent fist tot assemblér,
- 1172 Chasteleins e chivalers,
Serjanz, vadlet e esquiers.
Touz devant li venerent ;

[75^{vb}]

[76^{ra}]

- Merci crier touz penserent.
- 1176 Son maltaient lour pardona,
Od sei les tint e les ama.
Donque fist sa femme demaunder,
Car de li se veut venger.
- 1180 Tant fuit quise q'ele fut trové,
Mes de pour se fuist muscé.
Sitost com vist son seignur,
Ele pauma de pour.
- 1184 Le seignur la fist relever,
Bel la comence a chastier :
'Dame,' dit il, 'lessez ester !
Ne deussez tel doil demener
- 1188 Pur ceo qe sain tuy revenu.
Molt vus fust ben avenu,
Si feussez tele com deussez estre,
Par Jhesu, le roy celestre.
- 1192 Tourné me ert a grant vilté
Si jeo ne soie de vous vengé.
Si fu[i] malades e defet,
Pur ceo n'avoi jeo pas forfait,
- 1196 Qe vivre deusse bien du mien.
Dame, sovenez vous del bien,
Coment a manger me menastes
E del pais m'enchaceastes ;
- 1200 Puis feistes jurer mon serjant
Qe jeo ne deusse en mon vivant
En ceo pais revener,
Ne pur vivre ne pur morir.
- 1204 Suvenez vous del bordel
[K']a moy livrastes pur hostel.
Celi averez tant com vus viverez ;
En noun de dowere le tenez !
- 1208 Donque fist fere un turel :
Petit fut mes molt bel,
Si fut fort durement ;
De loin le virent tote sa gent
- 1212 Outre tote la cité ;
La fu la dame durement lié.
Jamés de illoec ne pout issir ;
La demora desqe al morir.

- 1216 Autre dames ensample averont [76^{rb}]
Coment lour seignurs lour garderont.
Une garce la serveit
Qe par une fenestre luy porteit
1220 Chescun jour sa liveré,
Coment le counte out comaudé.
Un an vesqui e un jour ;
A drein morust pur dolur.
1224 Sire Amillioun fut molt prisé
Qe autre peine n'ad liveré.
Unke puis femme ne vont aver ;
Nul eyr out de sa mullier.
1228 Owein l'enfant bien feffa :
De tote sa terre li herita,
Qe bien aveit deservy.
En bone vie longtemps vesqui ;
1232 En bienfaitz se pena.
Aprés sa mort a Deu ala ;
Amis, son frere, ensement.
Moult se amerent fierement,
1236 E bone fut la compaignie.
Lor corps gisent en Lombardie,
E Deu fait pur eus grant vertuz :
Les voegles ver, parler les mutz.
1240 Tot ensi finist le sermoun
De sire Amis e de syre Amillioun.

REJECTED MANUSCRIPT READINGS

105 Sur cel. 111 un uount. 123 ami. 130 moy nestes. 137 Pas quil. 160 des chualers. 171 lu mariast.
172 esposast. 176 Qe fuit. 233 La damoysele. 285 En play. 321 Tant uint. 374 Ainz moult. 437
emuy. 438 dedut. 468 De sir. 528 sire ad enuoye. 539 Ainz quant. 551 se bien armer. 596 launce
ne pout gal. 653 bien arme. 682 Sil dist. 736 firent a soir. 745 Cel suspir meint. 790 Ele ne. 815
dit il. 875 cheitif allas. 924 autres de deuz. 932 Les poures. 945 com li ueu. 1061 Commes qe ele.
1070 nen fist. 1076 repairi. 1113 fiz ad. 1196 viure ne deusse. 1205 suruenez. 1227 Nul eyse. 1228
Ewein. 1241 finust.

II. 脚韻

1.

1 — 1 *ai : e*

forfait / fet 495-96

e :ai

defet / forfait 1194-95

1 — 2 *ant : aunt*

pesant / ataunt 623-24 riant / approchaunt 377-78

aunt : ant

ataunt / errant 994-95 juauant / regardant 934-35 semblaunt / quant 19-20

ante : aunte

aparcevante / graunte 519-20

aund : ant

comaudn / avant 850-51

1 — 3 *ant : ank* 語尾における子音字の使用が曖昧になった例

purfendant / brank 667-68

2.

2 — 1 *é : ê (= ié)*

apelé / meisné 251-52 ensemblé / meisné 391-92 paé / volonté 727-28 privé / meisné 151-52

é (= ié) : e

moyté / counté 175-76 moyté / demené 109-110 prié / refusé 281-82 corucé / pié 625-626

e (= ié) : é (= ié)

effraé / pité 565-66 pité / adrescé 1046-47 pité / trenché 1094-95

ie / é

paié / armé 579-80

2 — 2 *ein / ain*

vein / sain 980-81

2 — 3 *ien / en (= ien)*

bien / ren 603-4

3.

3 — 1 *er (= ier) : er (= ier)*

botiler / chevaler 952 - 53 botiler / mester 211 - 12 chevaler / laner 283 - 84 mester / botiler 357-58

3 — 2 *ers (<ariu) : iers (<ariu)*

chevalers / esquiers 473-74, 705-6, 1172-73

deners / esquiers 163-64

3 — 3 *ier[s] : er[s] (= ier[s])*

esquier / chivaler 449-50 esquiers / destrers 733-34

3-4 *er (<a) : er (=ier)*

marier / corucer 699-700 parler / manger 813-14 parler / venger 405-6

-ariúに由来する語尾ierはieが单母音化し、erと綴られていることが多いためにer:er, er:ier, ier:erという脚韻が多くみられた。

この混乱により語源を等しくせぬ(<ariú)と(<a)から派生した脚韻、即ちchivaler / porter 621-22やbotiler / parler 371-72なども使われている。

このように異なる語源に由来し、異なる音韻変化を行ったはずの語が脚韻に同じ綴で現らわれている例を以下に挙げておく。

3-5 *er (=ier<ariu) : er (<a)*

botiler / affier 335-36 botiler / affyer 39-40 botiler / parler 371-72 chivaler / per 227-28 chivaler / porter 621-22 destrer / per 631-32 premer / desarmer 679-80

3-6 *ier : er (<a)*

denier / prover 347-48 esquier / doner 821-22

3-7 *er[s](=ier[s]<ariu) : ier[s](<ěr)*

chivalers / fiers 589-90

3-8 *er (<a) : er (=ier<eriu)*

aler / mester 147-8

3-9 *er (<ya) : er (ar)*

cher / affier 335-36

3-10 *er (<a[]) : er (<ě[])*

amer / poer 83-84

3-11 *ere(<ay) : (<aria)*

affere / manere 309-10

fere / cyvere 910-11

3-12 *ere[s](<aria) : ere[erres](<ě])*

manere / arere 629-30

maneres / terres 932-933

3-13 *ere(<ay) : are(<a[])*

fere / frere 525-26

3-14 *ere(<ay) : erre(<ě])*

affere / guerre 61-62

fere / terre 1152-53

3-15 *ere(<ě[]) : ere(<ay)*

crere / affere 139-40

3-16 *erre(<ě]) : ere(<ay)*

terre / affere 781-82

3-17 *erre(<ě]) : ere(<ě[])*

terre / crere 107-8

3-18 不規則韻 (anomaly)

eir : er

regeir / vener 1102-3

er : ir

revener / morir 1202-3

ier : ir

affier / ferir 593-94

yr / er

ayr / tresailler 665-66

oir : ur

voir / seignur 529-30

es (< ay) : és (< ess)

mes / confés 803-4

oist : aist

oist / chaist 1038-39

uisse : oesse

fuisse / troesse 515-16

ust : oet

fust / poet 719-20

4.

4 — 1 *eit (< ēy) : eit (< i[)*

dreit / veit 573-74 aveit / ameit 189-90 esteit / serreit 567-68 vendreit / serreit 896-97

vengereit / mettreit 627-28

eit : eyt

resemblereit / appeleyt 938-39

eyt : eit

dorreyt / freit 583-84 ameyt / voleit 962-63 surveyt / haeit 185-86

4 — 2 *eit : ait*

mescereit / verrait 1156-57

4 — 3 *eit : oit*

aveit / recevoit 791-92 desconusseit / fesoit 1044-45 estreit / disoit 711-12 poeit / aloit 767-68

eyt : oyt

soleyt / amoyt 149-50

oit : eit

avoit / amereit 263-64 disoit / garreit 1068-69 pensoit / getteit 747-48 purpensoit / aveit 267-70

oit : eyt

levoit / retorneyt 113-14

oyt : eit

fesoyt / ameit 117-18

4 — 4 *oyt : ait*

amoyt / donait 958-59

4 — 5 *oy (< ē[) : ey (< i[)*

moy / fey 799-800

4 — 6 *eient : oient*

demaundeient / avoient 944-45 voleient / avoient 1000-1001

oient : eient

departoient / guerpeient 819-20 disoient / veient 217-18

5.

5 — 1 *oun : oun*

Amillioun / compaignoun 73-74 Amyllioun / garisoun 835-36 Amilloun / regioun 153-54 Ascensioun / basoun 209-10 avisoun / compaignoun 467-68 passioun / Amillioun 1032-33 pessoun / avisoun 1074-75

5 — 2 *oun : om*

tresoun / avom 75-6

5 — 3 *oun : on*

Amillioun / compaignon 121-22, 795-96, 805-6 carboun / mayson 369-70 compaignoun / treson 69-70

on(s) : oun(s)

fasçon / noun 537-38 barons / nouns 11-12

5 — 3 *ound : ound*

respongud / mound 345-46

5 — 4 *onte : ounte*

hounte / counte 329-30

ont : ount

demorront / irround 507-8 vont / revendrount 898-99

5 — 5 *unt : ount*

assemblerunt / serround 311-12

6.

6 — 1 *our : ur*

doucour / honur 141-42 jour / dolur 1222-23 jour / seignur 441-42

pour / seignur 401-2

ur : our

seignur / pour 1182-83

6 — 2 *our(<oriu) : or(<auru)*

tresour / or 858-59

6 — 3 *out : ut* 級り ou と u が同価値である例

vout / redut 437-38

6 — 4 *ur[s] : ur[s]*

dolur / greignur 1144-45 douçur / seignur 868-69 flurs / colurs 639-40 seignur / amur 511-512 seignur / dolur 837-38, 852-53 seignur / emperur 942-43 seignur / folur 946-47

7.

7 — 1 *uit : ut*

fuit / avenut 235-36

- 7-2 *ust : ist*
fust / request 1088-89
8. *y : uy*
descovery / luy 259-60
9. 語尾子音字綴りの使用が曖昧になっていた例
- 9-1 *és : ez*
estranglés / trovez 1130-31 couplés / beautez 179-80
- 9-2 *iz : ys*
forfiz / Amys 501-2
- 9-3 *ys : ifs*
Amys / pensifs 739-40
- 7-3 *ui : oe*
fuisse / troesse 515-16
- 7-4 *u : oe*
fust / poet 719-20

III. 「アミとアミロン物語」

「アミとアミロン」物語の系譜は中世紀において広くヨーロッパに流布していた folk-tale の 'Two brothers' などに由来するといわれる。¹多くの言語によって書き残されており叙事詩, 武勲詩, ロマンス, 聖徒伝, 奇蹟劇, そして散文の歴史物語と, 物語の様式も多種多様である。

11世紀後半に Fleury の修道僧 Radulfus Tortarius (Raoul le Tourtier) がラテン語で書いた書簡体詩 *Ad Bernardum* 340行のうち203行が Amicus と Amelius の友情物語に割かれている。現存する記録としてはこの書簡体詩が最も古い。²12世紀のラテン散文 *Vita Amici et Amelii Carissimorum* は二人の主人公を愛のために一切を抛った聖者として扱った。1200年ごろ, フランシアンで綴られている *chanson de geste* の *Ami et Amile* ³が現われた。アングロノルマンのロマンス *Amys e Amillyoun* が作られたのは凡そ同時期である。1330年頃の作成と推定されている tail-rhyme romance の ME *Amys and Amylion* (又は *Amis and Amiloun*) は AN *Amys e Amillyoun* を翻案したと考えられるほど物語の構成, 言葉遣いに類似点が多い。それは1200年より以前に書かれてあった, 現在は現存せぬアングロノルマンの「アミとアミロン」物語を両者が共通の原典とした故であろう, とするのが大方の見解である。AN による *Amys e Amillyoun* は3写本が現存する。即ち以下の3本である:

Cambridge Corpus Christi College MS 50 ff. 94^vb-102^ra (13世紀後半)

Karlsruhe Badische Landesbibliothek MS 345 (olim Durlac 38) ff. 52^ra-61^vb (14世紀後半)

London British Library MS Royal 12. C XII ff. 69^ra-76^rb (13世紀後半から14世紀初頭)

Cambridge MS と London MS の本文は似通っているが Karlsruhe MS の本文には多くの改竄が認められる。

E. Kölbing は1884年に「アミとアミロン」物語の批判本文を上梓した (ME *Amis and Amiloun* AN *Amis e Amilum* ON *Amicus Rimur ok Amilius L Vita Amici et Amelii carissimorum*)。⁴その批判本文のアングロノルマンの項について述べると, Kölbing は London MS を底本として選んだが Cambridge MS との composite edition を作成した, と言うことができる。ちなみに London MS BL Royal 12 C XII と Kölbing edition を読み較べると1241行の詩行のうち Kölbing の手になる emendation は600余個所を数え得る。彼は AN アミとアミロン物語の, 彼の考えるところによる, prototype

を作り出したのである。よって、編者はここに MS BL Royal 12 C XII に収められてある AN *Amys e Amillyoun*⁵ の single MS edition を提示した。当時多くの聴衆を魅了し、アングロノルマン語で読みものとしても重宝されたに違いないこの物語の概要を次に記しておく。

ある伯爵に二人の貴族の子息が仕えていた。一人は Amys と言い、他の一人は Amillyoun と呼ばれていた。この子供達二人はまことによく似ていて人に抜きん出て美しく、天使とも見まがう程であった。又とない仲の良い友達になって篤い友情に結ばれている二人は立派な騎士として主君を敬愛し誠実に仕える。伯爵も二人を信頼し、Amys を大膳係に任せ、Amillyoun は執事にとり立てられた。やがて両親を失くした Amillyoun は主君のもとを辞して先祖の領地へ戻る。かねがね二人の仲の良さを妬んでいた家令頭は、含む所あって Amys に見せかせの友誼を申し出るが断わられる。美しい立派な騎士様だと人々に誉めそやされている Amys は主君の息女に恋される。この二人の仲を知った家令頭は早速あるじに注進に及ぶので Amys は姫の面目を保つ為に白を切って決闘裁判で戦わねばならぬ。彼は神の前に潔白を誓って決闘にのぞむ自信がない。思い余って Amys は、今は奥方を迎え、領主となって立派に彼の地に暮している親友の Amillyoun をひそかに訪ねる。Amillyoun は主君の姫に対しては晴天白日の身であるから友の身替りになってやろうと申し出る。二人は衣服を変えて Amillyoun が決闘に臨む。誰も身替りとは気付かない。Amillyoun になりました Amys は友の領地へ赴き、Amillyoun の帰国を待つ間、白刃の剣を毎晩友の妻との間に置いて眠る。Amys にかわって決闘場に向かった Amillyoun は首尾よく家令頭を打ちとった。Amys になりましたとして結婚式を挙げようとする Amillyoun に天の声が聞え、天罰として三年のうちには醜い病になるであろうと告げる。然し彼は友情を裏切ることを潔しとせず、身替りが発覚することを恐れ、天罰を覚悟で結婚の披露を済ませた。

Amillyoun は事実を新妻 Mirabele にうちあけ、ひそかに帰国して Amys に入れ替わる。Amys はその後主君の息女 Mirabele と共に幸せに暮すが、一方 Amillyoun は天罰の癪となり遂には妻に領地から追い立てられる。彼は忠実な一人の従者と共に流浪の果てやつれ衰えて Amys の領地へ辿り着く。Amys はこの哀れな乞食が彼の無二の友とは思いも寄らぬ。Amys と Amillyoun の二人だけが所持している筈の友愛のしるしの寸分たがわぬ酒杯を物乞いの病人が持っている所から Amys はてっきりこの乞食が盗みを働いたものと思い、立腹して刀に手を掛ける。その時、どこ迄も Amillyoun を見捨てずに、誠を尽くして付添っていた従者の Owein がこの癪病患者こそ Amillyoun であると Amys に告げる。Amys は驚愕し、嘆き悲しみ、友を城に請じて手厚く看病する。或る晩 Amys の夢の中で声が聞こえ、Amillyoun の病気を治すには Amys の二人の幼児を殺してその血で病人を潔めるのがよいと彼に告げた。Amys は遂に子供を殺してその血で親友を浄める。Amys の妻は夫より話を聞いて、Amys の無二の親友の命を救う為であったのならと納得する。Amillyoun の病は癪える。殺された子供達は翌朝何事もなかった様に目を醒ました。Amillyoun は領地へ戻る。彼の悲情な妻を石牢へ閉じ込めて、最後迄あるじに忠誠を尽した Owein を自国の領主にし、Amys と Amillyoun はその後しあわせに暮らす。神に召された二人はロンバルディの墓に葬られたのであったが、神は彼等を嘉し給い、多くの奇蹟を示し給うた。

さて先に、この AN の物語の adaptation が ME ロマンス *Amys and Amilyon* であると述べたので、AN と ME において叙述の類似しているところ、あるいは主題の扱い方に微妙な差異が認められるところなどを引用してみたい。まずは Amillyoun になりました Amys が親友の妻と臥所を共にする場面である。

Amys, quant il se ajousta,
Leez la dame se coucha ;

Amys e Amillyoun

Sa espeie nue entre eus posa.
La dame de ceo s'enmerveilla.

AN ll. 539-542.

& whan þai were togider ylayd,
Sir Amys his swerd out braid
& layd bitvix hen two.
þe levedi loked opon him þo
Wroþlich wiþ her eizen two,

ME ll. 1162-1166.

叙述は同じように進んでゆく。MEはANをそのままうつし取っている様子であるがANの奥方が驚いているのに対し、MEのAmylion夫人は夫を睨みつける。較べてみると類似しているとはいえ、各々個性が浮かび上がる。やがて Amillyounは哀れな乞食の姿と変り果て、Amysの領地へと流浪して行く。領主である Amysが激怒して手にかけようとしたその物乞いこそ且て己れの危急を救ってくれた無二の親友であったと判明した時の Amysの驚愕を ANと MEの両者はどのように表わしているであろうか。

Quant le counte ceo oist,
Tost estendu a terre chaist :
Bate ses mains, ses cheveuz detire,
Sa vie hiet, sa mort desire,
...
Trestouz plurent de pité,
Amys s'est tot adrescé,
Plus de cent foiz li ad beisé,
Tot ensi com ert de tay levé.

AN ll. 1038—1041,
1046—1049.

He fel aswon to þe grounde
& oft he seyd, "Allas þat stounde!"
...
For he saved mi liif biforn,
Ichave him ȝolden wiþ wo & sorn
& wrouȝt him michel wo.
"O broþer." he seyd, "par charite,
þis rewely dede forȝif þou me,
pat ichave smiten þe so!"
& he forȝave it him also swiþe
& kist him wel mani a siþe,
Wepeand wiþ eizen two.

ME ll. 2134—2135,
2140—2138.

MEは Amys の痛哭の独白を入れ、Amylionへの語りかけの言葉を導入した。AN の、特に心理描写

Amys e Amillyoun

を ME にうつしとる際、ME では屢々会話体が導入される。会話体をもっていきいきとした個性の描出を試みるのは、AN より翻案された ME の物語に認められる一つの特徴といえるだろう。

引用の AN に会話はないが Amys の悲嘆の描写には迫力がある。やつれた癪者が Amillyoun であると気付いた Amys は驚愕の余り地に倒れ伏す。手を打ち髪をかきむしり、我身をいとい死んでしまいたいとさえ思う。悲しみに暮れて涙を流しながら何回となく Amillyoun を抱擁する。AN version は昂揚した感情を生々しく巧みに描出するのである。この技巧はやがてイギリスのロマンスに摄入されられて、Chaucer にあっては自家薬籠中の物となる。

また、AN ME 物語において基調となる言葉を考えてみたい。AN の物語は冒頭で語り手が聴衆にまず示すごとく、これは *chaunzon d'amur* なのである。Amys と Amillyoun の二人は深く愛し合った ‘Taunt s'amerent fierement’ l. 17。二人の間に自己を捨てた友情が成立するのも心の中に変らぬ愛があればこそ、である。二人の主君伯爵も彼等をいつくしんだ。‘Si les amast mult tendrement’ l. 33 二人のたぐい稀な愛、厳しい自己犠牲もいとわぬ一途な愛を神は嘉し給うたのである。一途なる愛と信頼という主題は聖書の故事アブラハムをさえ想起させる。この観点を強調すると物語は聖徒伝として扱われるだろう。一方、ME に見られる、keynote となる言葉は ‘plighting of troth’ l. 5 である。二人は愛情があるからこそ友情の誓いを立てるのであるが、ひとたび誓いを立てた後は誓いを守ることが何よりの美德となる。我々はここでゲルマン民族に伝わる、タキトス言うところの *comitatus* の関係を思い浮かべる。Comitatus は主従の間柄だけではなく主君に忠誠を誓い合った家臣たちの間にも成立した。

家令頭に友誼を持ちかけられてそれを断わる Amys は、Amylion とかわした誓約にそむけば全く私の立場はなくなる、とひたすら誓約を守ることに重点をおく：

…“Mi treuþe y pliȝt
To sir Amiloun, þe gentil kniȝt,
...
Y no scal never mi treuþe breke,
Noþer for wele no wo.
...
Y schal be to him trewe;
& ȝif y were now forsworn,
& breke mi treuþe y were forlorn,
Wel sore it schuld me rewe.”

ME ll. 367—368.

371—372. 378—381.

Amylion が領地を相続するために国へ帰ることとなり、親友の Amys と別れる時も一番重要な言葉は *trewne-pliȝt* であった。彼等は誓い合った中だからお互いが真実であれかしと念を押すのである。

Sir Amiloun, þat hendi kniȝt,
Was riȝt-wise man of rede
& seyd to sir Amis ful riȝt,
“Broþer, as we er *trewþe-pliȝt*
Bope wiþ word & dede,
Fro þis day forward never mo
To faily oþer for wele no wo,
To help him at his nede,

Broþer, be now trewe to me,
& y schel ben as trewe to þe,
Also god me spede!"

ME ll. 290—300

Amysに愛を打ち明ける主君の息女 Belisaunt (ANではMirabele) も彼に言う…貴方は誠実であって、私を他の誰とも取り替えないと貴方の真実を誓って下さい。私もそのように致しましょう。死ぬまで誓いに背きません…と。

"Pliȝt me þi trewþe þou schalt be trewe
& chaunge me for no newe
þat in þis world is born,
& y pliȝt þe mi trewþe also,
Til god & deþ dele ous ato,
Y schal never be forsworn."

ME ll. 583—588.

病身の Amillyoun を邸内に引取った Amys の妻 Mirabele は夫を愛するが故に Amillyoun を兄のごとく誠意をもって de fin quer l. 1060 愛する。この愛は宮廷恋愛詩にみられる fin amour に通じるところがあろう。MEでは変り果てた Amiloun をみて Amys の妻は気絶するが甲斐々々しく世話をすることとなり、Amys 夫妻は Amiloun に真を尽くすのである。Ful trewe þai ware & kinde l. 2187.

さて、AN version では愛による献身という行為が物語の主旨である。ME version では友愛の誓いに、そして主従の、夫婦の、誓いにどれ程忠実であり得るか、が物語の関心事となっている。また決闘裁判でアミロンと家令頭が死力を尽くして戦う一騎打ちの場面は両雄互いにゆずらず、AN Amillyon と seneschal は武勲詩⁷に活躍する剛勇さながらのイメージであるし、MEの二人これに勝るとも劣らない。ここには M. P. Ker の言うところの英雄詩・武勲詩がかもし出す精神の類似がみられる。以上瞥見であるが AN *Amys e Amillyon* はすなわち、Roland と Olivier の友愛の姿を彷彿とさせる武勲詩と roman courtois の性質を兼ね備え、ME *Amys and Amylion* は OE heroic poetry の伝統と外来ロマンスの要素を巧みに混淆していることが読みとれるであろう。両者を比較することにより文学的嗜好変遷 acculturation 期の作品の興味深い手法が一層明らかに顯示されることと思われる。

注

1. Mac Edward Leach ed. *Amis and Amiloun*, Oxford Univ. Press (EETS Os. 203) London rpt. 1960 pp. xxxii - lxxi.
2. Marbury B. Ogle and Dorothy M. Schullian ed. *Rodulfi Tortarii Carmina*, American Academy in Rome: Rome 1933 (Papers and Monographs of the American Academy in Rome viii)
F. J. E. Raby. A *History of Secular Latin Poetry in the Middle Ages*, Oxford, 1934 vol. 2, pp. 23 - 26
3. Peter F. Dembowski ed. *Ami et Amile, chanson de geste*, Paris, 1969 (CFMA 97)
4. Eugen Kölbing, ed. *Amis and Amiloun*, (Altenglische Bibliothek, II) Heilbronn, 1884
5. Hideka Fukui ed. *Amys e Amillyoun*, (Anglo-Norman Text Society, Plain Texts Series 7) London, 1990
写本は vellum 123 folios, trilingual miscellany である。*Amys e Amillyoun* は二欄 42行をもって各葉に書かれてある。1320—1333年ごろ Hereford において写本に綴じられる以前、写字生によって書きとられてあつたものらしい。
6. Cornelii Taciti, "Germania", *Opera Minora*, Oxford Univ. Press 1952, p. 311 seqq.
7. W. P. Ker, *Epic and Romance*, Dover Publication Inc., 1957, p. 51 seqq.

Amys e Amillyoun

British Library

MS Royal 12 C XII

ff. 69^{ra}-76^{rb}

*Q*i voet oþr châtelain d'au
 ve laute ede gât ioner
 de roessie ne wil ieo pler
 n'peçs le rienge pur esoter
 e deus Juncereals w' d'urais
 ioum en esct le tuis
 en la court vu Comte estreut
 des armes biteruient
 oult fureat de gât vassalage
 entis e de gât parage
 n' estreut de Barons
 iwo' d'rror bien lor nouë
 i vu estott Amys p' uouï
 autre est appelle Amillyoun
 deus estreut de vne nature
 ugeles ressembleuer de fature
 auant samerent fierement
 ue freres se firent p' serment
 s autres ne se firent vñz semblant
 e compagne taut ne ant
 eus de la court auont emir
 e leur estre ede tour opâvne
 auerent cint eur vant agenc
 de ceo se corouerent souuent
 e vns de vngage bien ressembleuer
 e de vne robe uer estreut
 est home et moult q' les auslast
 iuu de l'autre de la uera
 si furent de vne estature
 e vne forme e de vne nature
 eals furent en us lor seigneur
 ien le portent a honour
 i les auant mult rendement
 honur les fist alour uileur
 iualens tour fist agir honur
 ouz les ad dobbes en estour
 our troua liuom il vleure
 auantement tour fette teneut
 q' Amys fist son Bouler
 ar moult a lo p'et assver
 myllion ne xvi' le esser
 e sou hostes lo fist iustuer

i estre marchant sur touz
 i fort estre e dragons
 e au mestre long temps seruet
 p' tot bien loe fureut
 million demora
 taut q' son pere fua
 i de loi nad auant heur
 ut Amillyoun fuit pur veir
 son pe fuy assive
 e son seignur le comte ad p's d'ar
 li comte garder li teire
 nul li fist treason ne gerre
 e q' autre heur tu fuitast
 e ses droits amenuisast
 e comte fuit de ceo marru
 onge li done mes cubz
 es le duc fist combre leign
 estourber ne iout son honour
 es si eust od lo uifer
 iustice en peçs au en guerre
 amandat albastuement
 il oþ force de sageut
 e cudoit alþ ceo li uira
 myllion le mercys
 ruit del comte depri
 iula parler a son amiv
 myl q' estoit son compaigne
 iuane sor laiu treason
 e plur ne se pot terer
 ar moult li greve le depri
 onge pla lire amillion
 dit amys beau opâgnoü
 il bouc los salz treason
 i me seignur sui auoua
 ur vostre honour v' e mercys
 de vne chose soiez garny
 le comte ad seignz un seneschal
 iuont est felonie e desclai
 si est de ruit gât parent
 ur ceo est il le plus ore
 vñz ne w' p'ut amer
 et al v' ad quis etou per

es encheson de pour tuer
 p ur quor il v'pont grevi
 es qut re serré depu
 onz d' leura il fort emenu
 garder u de sa felonie
 e aue od li compagnoe
 ar qui si compagno obseiou
 e para uoi linal mon
 ar piz ne para auer
 lit compagno velt aut trahir
 tote gent les responz
 ruit peu e got homar auer
 est origu e enue
 rard de glorome
 me bie d' seignur
 e sotre; qil est deshonur
 oint li deuer amoure for
 er bien adame u'e urop
 tant se sunt entrebres
 lument e tuit de pice
 ur rei nad home que la sunt
 dorur de la pice nen eust
 auant s'ut chalem iteire
 est home qm me uousist irere
 s'eo deuse ja morte
 el doel qent engoist demene
 ion toutz li son pass
 autres repenit tdes pessis
 lit amys de palusou leuort
 vers la court sei recouerit
 i tot com enta porc eut
 i seneschal li encont
 se milant dumir li fesoir
 ce de quer poy battier
 amys dit il bien reignant
 e ro s'ut ore ale pensant
 de misere amillou
 a ro eit leal opagnon
 le uile vnk uil autre ami
 e semelant amil mestier
 es qut sei est depu
 equier q soye mon ami

on am e mon bieu uisaut
 mis resonant arant
 re seneschal vre amule
 n moy nestes li emploie
 ne p'mest uant am
 uant talent me donite uiler
 amillion s'ut alle
 on quer me est abandone
 re leuay e amay
 ur am amure ne li libertay
 pas: qui est chose eglise
 par p'messe samz seurte
 es de tuit me peccere
 si ro eiez de moy affere
 col ro fray od gant douour
 amie chesamby honur
 i seneschal uant le tuit
 danguise pale devyrt
 purpense sei qil se vengent
 i tot com son leu terret
 mis leisale temps aler
 la e fait son mestier
 am le conte com il soleint
 le conte mort li muort
 od sei le tuit p's pue
 uant de la mesme
 ore ro d'urrai de sir amillou
 qut vnt asa regiou
 a gent q de sa teme fairent
 d' gant nobley li receurent
 restouz li furent homage
 ore poer il men gant baronage
 ut od lo ia si prie
 uant des chualers de mesme
 vant fait de la geut ame
 lour ad restouz done
 bons chevaus e deners
 robes a ses esquers
 il mimes s'ut estoit
 un le p'as le desoyt
 den mesmes le eut purget
 plus bonue uen; sera sei

S agent d'ameuret fairement
 A feue prendre le conseillerent
 Par lour conseil li marast
 Ne gentile feute e qoust
 Qu fille d'un Comte estoit
 Le pere e mere perdonans
 Pur litage la morte
 Li fuit escheu del counte
 De beaute auoit le p's
 Son com les dames du pais
 Bien fareut ente eux couples
 De parage e de beaute
Otre lerray de Amillyoun ester
 De de sir Amys ro vil counte
 Fuit demoie od son seigneur
 Meuz li seru de lour enjour
 B auz com amys meur li s'ire
 Le seneschal plus li haet
 De son ben fait auoit envie
 Des Amys nel aparcell uve
 Li quens vne dame auoit
 Qal come le vic amier
 Vne fille auoit la dame
 De le amoit come salme
 Aout fait gentile la damoysele
 En vne realme ne ont plus bele
 Aens Comtes iadesirent
 L'exposer la volonte
 Des ele arrestoz repudi
 Ne wut vnoire auer warv
 A gret cherte le tynt le pe
 E mort lama cur la mere
 La damoysele fuit bien garde
 Compaignes ont a gret plante
 Des dameleies del pais
 En la chambre noef e dis
 Qu tonz fesoient la volonte
 De conredit nemad parle
On lour plemente auoit
 Li quens vne teste tynt
 Par un ionr del ascencion
 Li fuit assemble maist baron

Et vien li metter bouter
 A mys qd bies fait son mestre
 De vndrap uestu esort
 Li coupe deuant li quens temer
 Out li beals e aligne
 Des chualers fuit moult pise
 Entre eux amument disoient
 Unque sibei chualer ne vceut
 Li quens meme le dist
 Onque sibei chualer ne vut
 Non cens q euilaule estoient
 De la beaute mature auient
 Et vien la nouele
 La chambre aladamoysele
 Des bouler q tant eit beaus
 Li trengentil dameleis
 Qui fuit tant bou chualer
 En la court nout son per
 La pice le empas ten dreour
 Teut vers hsd gette lamer
 Si furent concusa a amer
 Cele ne pour boire ne mang
 La damoysele qd li erret
 Un qui ceo fuit lv de maudeneys
 Ce le dit que malade fuit
 Se sont dont col mal ly auenuit
 Le comandu q ens se tresser
 Dautre chose tenuye leit
 Nel langir de moys
 Aut que li quens seu gla
 A boys niller en tuerie
 D lv tote sa chualerie
 A loste au out vni remus
 Des chenalers fuit sur amys
 Il remust pur maladie
 La dameleie ne targent mire
 E la dameleie pur conge
 Ele tantost li p'd done
 Nomer ro dey la pucele
 Son dret nou est amable
 Des floue fuit apelle
 Ce le cene q furent de li meisne

Si l'ore uit, le conge en eut
 S'ahaste ap's que' ele put
 Que une loule thambere
 A la p' conge de sa mere
 Parier a amys que ele amia
 Dont paria e tenuit demora
 Tot son corage descouvr
 Est dit pur lamur de ly
 Au orist sil n'eust de li p're
 Que ele fust de ly amie
 Que si de ly amour ne auoit
 Jamas honie ne auoit
 Mis ant lad escote
 Quandent que ele fuit deuee
 Ele p'ont pur honte descouvr
 S'awilure e sondesir
 De repondre le p'ensoit
 Com ceul qui talent ne auoit
 Cil mespris uers son seign
 Oster wus florrie p' güt arrour
 Ele li respondi e dit coment
 Vons ay ame elemenc
 Le ro v' le done manur
 Ja en ma vie ap's ceo jour
 Je seray en mon quer heytz
 Si ieo ne soye de iuvengz
 Certes ore sun ieo bien honie
 que' w' me dedeigne; au e amie
 tant gentis homies mort p'
 E trestrom au ie refuse
 Certes nestes pas chenaler
 mesmeaus estes e laner
 En plus bientout v' batemai
 A mon p' le corr'au
 Li vers li estes e moy forter
 S'series des thuals desuet
 Tonques seras de to grengz
 A tant fest flore retome
 A mis mort se p'cessa
 Le qui mal elauere mort donz
 Corseusement ly repoudi
 Damoisel p' den merci

V' offre sun e servy
 L'ostre sraint tant com' ceo vnu
 V' exp' le mesprisodie mie
 Par qui w' en auiez vulene
 Ne de ostre corps homage
 Le preng deu en resuoirunge
 L'ao poët e apceu
 De iuv' feste vre d'au
 Ne serrious uos en son honore
 Hostez hostez oeo d'c florrie
 O' le fromis si p'uenement
 Donz deus auostre talent
 Ne suna honie de mere nee
 Aut had dit e parie
 V're sunt auu de cel assere
 Domit deusent la menere
 Coment e q'nt l'assemblie
 A llas q'ncuse servoit
 Le testot oy vu vassal
 V' e la mesuse le seueschal
 A sou seignur le ala comit
 I' tost com il poët esplorier
 Le seueschal fut mort lee
 Die quid est bien estre venge
 Ne nostre corres b'bler
 Hot lour estre fust esquier
 Hau vint le tme quion dit
 L'assemblie od güt delit
 Har güt duour leutrebeisent
 Ne amour plerent e uillarent
 De autre chose ne dura mie
 Ne irov pas qu' y auoit vulayme
 Le seueschal q'nt loit la couine
 Utre amus e la mesame
 Endemam vint tot ahoante
 A' comece est tot lor occire al comece
 L'iquens fu de ire enfe
 Ne pla mot vne lufse
 Il douz ditil deu niv
 Le ieo traictor mad iste honoy
 Ne tant amys etant eng d'et
 N' q' me p'rai affier

I est gant de fent venu
 A fille est pinte deuenu
 I le est hame ieo lui trahi
 I el fel traire mad ior seru
 A tous ionrs aua repter
 I ieo ne me puise de li renger
 I st ceo wir sire seneschal
 I eo quinde q lauz dit pur mal
 I ure le seneschal respond
 I artel q fut le mound
 I il le veit demier
 I om leal chevaler le vil puer
 I ai que de no^e est veuu
 I ort de tret e plus pendu
 I dit li quens ore vaut nems
 I este play mest l'aid e vicius
 I tant en la chambre entrat
 I a dame sur vuit trouuat
 I ame dit il ne sauiez
 I ue le fille v^e auez
 I le est ia feine de mesler
 I co ad sur nostre Bonier
 I ur nostre bien houante no rend
 I rai noz ad malement
 I e noz^e fille ad trahi e assole
 I en li dont male destue
 I a aua il si ieo vnu tant
 I e liert aul de mal garant
 I ut ert detet e plus pendu
 I la pute arse en fi
 I a dame ne soit quon dire
 I e Comte de mal ard e dore
 I evint plus noir e carrou
 I ost scull hors de la maision
 I i euoctra le Bonier
 I li soient tropbeal parier
 I es ois sur ly soment roylla
 I un moult se merueilla
 I el fait il deu w^e mandie
 I a fille est p w^e honje
 I es w^e ne ure ia riante
 I a mort w^e va ia apphant
 I dist Amys v^e dites mal

71
 I es sun w^e fore chivaler leau
 I mul w^e ad de moy comte
 I or que drect e verite
 I ouit bien mie dessenderay
 I enant q ieo deuera
 I es seneschal atant se vut
 I son gant en son pung tuz
 I tendist en noil de gage
 I om home de gant vasselage
 I dit que odi combatent
 I la verite puerit
 I st beus tote ja court entable
 I o chivalers sia meius
 I un autre faire rendi son gam
 I liquens recut atant
 I donq iugya le Barouge
 I ne plegges mouenir en hostage
 I es seneschal ad tanqz teone
 I le Comte fut bien pase
 I ant fait li seneschal donc
 I Amys un soui nez ad trouue
 I uoy pur dure quoy pur pour
 I tremon virent q le seignur
 I vut iuys desqe ala mort
 I fust co adiret fust co decore
 I qui ne osent pur li parler
 I le amice li uet yengi
 I ne pour tout plume
 I ensme chei le macheine
 I n la place estoit Amys
 I om esgare e com puchay
 I e sont le quel il pnt ellire
 I oxt oubie ne tout le dire
 I susors auerent de ly pte
 I es li lire fust taunt ferre
 I la nout home taunt hardi
 I oseret en mot parier pur ly
 I a dame ne se pnt tenir
 I ne pur vngre ne pur morir
 I enant le amice le segnula
 I le est demanda
 I ne hostage pur li servir
 I n son plegge deuaderit

Y en est li queus vies enus
 E res legement v' d'
 C Si desaut alo bataille
 I e engement aies sainz fuisse
 C vostre fille fust destane
 I adame termist pur pte
 P uit amis en pleine
 Os vint fairent la meschme
 A mis se retert e purpens
 O m'eli q' gant mestre era
 E son frere li sovire
 V antost ala Comtesse vint
 Conge li ala demander
 C a son frere le t'aler
 S on enus monstre li vint
 C ala q' mal le dedra
 C je le dist beau sur amys
 L ralur me vies n'est amys
 S a ne venez tre l'ouf
 E laue bien q' mon seignur
 P ur roial mi mett iure
 D ame dist il par ma lealte
 P ur ma dessaire ne m're nre
 L eut com le paillé q' la vie
 T ruit conge lo dona
 C on palestoy morta
 S on garson e sancz esquier
 C ala pas con chre
 Ares ala com peirn
 N e sera vngz soit ne matyn
 O n mangent mains beust
 S i ne donist nule nust
 S ou, les noz, usi cheuauchia
 C onq de nust ne se reposa
 L ait q' vers vne vespe
 C e n'vn gant bois est ale
 I force li conuit domur
 A m'li fust qu'il deust morir
 E souz un arbre le cocha
 C son chual avue rahi lya
 D omist rai mult du travaille
 C oit amys fust mesme se
 I nwillon en son lit guer

C e lez sa scume se cohert
 S e fauont en gausiou
 C e sur amys son corpsugion
 D un leon fust assalli
 D u li fust mortel enemis
 C el somme fuit moult estre
 C oit ens stali com home deues
 D ost appela ses chris
 S es gardans e les esquiers
 H ouz lour fuit metre lom' deees
 D ux ne lour dist autre noueles
 A es dist qui vint visiter
 C on frere q' tant put amer
 D ouler sen vout en mi myrt
 A s autres ne fust pas dedur
 C uelle nust tant errerent
 C par my le roys passerent
 O n fure amys reposet
 S ure amillou pines le vett
 P ost est cele part come
 F endrement l'ad eschelle
 C la gent passerent suant
 C lementdi ne purgant
 D e son estre sauver vlett
 S il retut sil diser
 E n la roie fula pte
 Quel tem qd j'autre est aquante
 S onz li d'z sir amillou
 P aroies de vnt gant reson
 C eau frere q' ames furent
 C le s'ement auer fet
 I eo me dointe q' pur peche
 C el s'ement ferre encombe
 P ur roial la bataille fuy
 C le s'ement le tenuer jure
 C le roval ne li fesiz
 C ouideront q' ieo soye amys
 I eo espri par la gare de de
 C le del fesou leuon lenge
 C le v'quidant au houy
 A es chualers q' sunt icy
 D u d'elorgues demorren
 I ma court qd ie urennit

C' qut ne liuons robes ristange
 En onge qndront de viter
 Qu' ro siez lour seignur
 Si w' requier par l'umur
 Qu' de ma feme faire atant
 Qu' n'fete en scriblant
 Come reo meimes i'co fuisse
 Qu' ele en chelon pe troeile
 Qu' illoz est art de moy
 Car reo w' d' en bne soy
 Qu' ele mort apouante
 e s're amst cestut le gntre
 L' ore robes onut restot chauge
 Qu' amillion sen est ale
 D'nt soul va laiz compame
 Qu' de dens li fort en ar
 Qu' doncq' qil puise bien fere
 g' m' chose cupit pur son frere
 A my s remant od l'ancine
 Qu' n'li dire ad en iove
 Qu' quideronut t'storez pur dor
 Qu' ceo fuit lour dreit seignur
 Qu' la dame qut li ven auet
 Qu' amillion fuit bien quide
 Qu' os deus furent illi dum seplante
 Ne acerent home ja si peuvent
 Qu' lundel autre sont deunet
 Si p' nom les oit nomer
 Ne p' cors ne par fason
 Par mens si par la robe nouu
 Am, qut il se mouute
 Cez la dame se coucha
 Sa spere nre eut ens pois
 Qu' la dame de reo seminella
 Qu' la dame ne volez parier
 Qu' espoal matin alleuer
 Chedue nuyt illi se qut
 Desques amillion ameson vint
 Qu' re le tem de l'ans ester
 Qu' la amillion volez parier
 Le lour vint q' fuit assis
 Qu' tre le seneschal e amys

72
 e seneschal le biez armer
 Qu' us demanda le Sontier
 Qu' il ne puit estre troue
 Qu' odene fuit ps edurement lie
 Qu' la pucele enklement
 Qu' raut pte auoient sagent
 Purrent e pleignant lour heutie
 Qu' iquens que mort fuit yr
 Qu' la hastant lour uigement
 Qu' si mra gnt ferement
 Qu' il meimes les veirent arder
 Qu' tannt virent uener vachir
 Qu' vers euy fuit gnt aleure
 Qu' signart plus q' amblure
 Qu' ei feu qil vust fuit gntement esfile
 Qu' de los dames cust gnt pte
 Qu' ire dit il reo luy venu
 Qu' ompt w' fent tot reo fu
 Qu' pur les dames fent ester
 Qu' trop vaste rode serer
 Qu' p'mes me fetes tost b'iller
 Qu' nrodes dames desmener
 Qu' eo descendrap mre dret
 Qu' iquens qut le us' vret
 Qu'ien quide qe ro fort ampe
 Qu' os reis rel'emblaist e de vis
 Qu' ons armes demanda
 Qu' li meimes le chivalier armia
 Qu' n son corage fuit bien pate
 Qu' nt ad le chivalier Silvien armie
 Qu' us li dist suis en son etaille
 Qu' sul pour destadre la bataille
 Qu' a fille aleme lo d'rect
 Qu' decore la terre heri li fent
 Qu' st venu la semble
 Qu' re mes sondis la medle
 Qu' e vu l'autre desassent
 Qu' entre ens nul amur ne cheut
 Qu' re semuait les chivaliers
 Qu' nlt aut oguillous e fiers
 Qu' auq' metter de accord
 Qu' mi huet l'autre desquau mar

Sut deigne a ant assier
 Chelam le prent astier
 A million fier le seneschal
 Un güt laume ne puit gill
 P un resch peint de asur
 Mes le haubec fust sort ednre
 De mal iad garri
 E seneschal li referr
 Our laumes out as coups bie
 Si sunt out passe
 Cel encontre tant firent bien
 Un ne laure ne pdit ren
 A million vint paruer
 Par ure tret le branp dasser
 E seneschal serir aia
 Ue healm güt coups donz
 Es le healm tant fort fu
 De la mort iad desendu
 Le coup ala descendant
 S iher sur lassou decouert
 Prent tecunha qur e fust
 Onsi rasom tecunche le eua
 P mo le poudre del chual
 Cola le brame en terre audi
 Plus à plein pe e demy
 E seneschal a temps etab
 P tout qut son chenal li meut
 De l'op parient durement
 fist jui alcour q le chualer
 Ses armes sont trop bien pe
 Es son coupest trop pesant
 Le seneschal se leue et am
 Dolent est e come
 Ut combatre deit a pie
 A plus tot qut puit se ueugent
 Amillion apie se mettare
 Es il apie tot la manere
 S iher retrer tot arre
 Est descendu de son destrier
 Combatre volent per a per
 Cel neut de son chenal en vie
 Daut fust il p mi corseine
 En eis a pie le fuit feni

Ne lessir son chenal man
 Le seneschal q ut puit amer
 Un güt compli vint doner
 A momen el healm ne peint de flurs
 Tot abata les colurs
 Sur lescuistre se coup desent
 Q uilles tecunche plus de auct
 Ben pres passa le oste
 Es lache nad pas tothe
 A million q vant fu de vigour
 C est compli dona eo iom
 La bataille ad bien dire
 Esque nome fuit passe
 Le seneschal fist monte bien
 Sire Amillion ne dota de rieu
 Ne sauoir del chual uiger
 Le quoi fuit meilleur chet
 A million fait bien armee
 La bataille ad tant dire
 Un compli voud ia doner
 Le lidet p dier greuer
 Es le seneschal pmes li ferist
 Le coup tresbien appist
 Le healm del chual en barra
 Amillion fort etoua
 Pre piet trop tecundre
 Si ne lache le coup tecudre
 I auant seu iru galant
 Sire Amillion atant
 Perir li vint p telair
 Le ben fist tecundier
 Le healm fist tot purfendu
 Un armee sola le branp
 La bataille od tote la face
 O oier fist en ma la place
 Le bras od le branp tecunche
 Desque en la hanche le brame sola
 Un cel chump fu ben veuge
 Par li mes uer tenu
 Si chaut nest pas meridulle
 Ce fust la bataille
 Es vus chamerent les autres plor
 Les dres ia occerut

73
 w es le comte vient pinge
 I tant se fist desarmier
 S il ena plaine li demanda
 S il dist que mal uen a
 p lus est sum q person de mer
 I tant li mont touz briser
 S ur touz li fit ladame ioue
 E la pucele tote ioue
 S emblant li fist tant com osta
 T ar son pe mout dota
 E comte ayant lnd appelle
 V y moy hant li fille beie
 A mys pur tous ad combati
 S on enemis ad combati
 T y eaus ad aquate
 D ei fait donut fustes enuise
 S il n o velt espacer
 L iparie de quer amer
 C eie repaire mult simplemer
 D ot soit au rothe talent
 S iv me volez marier
 E os ne me deuoy pas coruer
 D ompt fait comande al baronage
 D eus feulxent al intrude
 L endemam a tie sonant
 D onz furent petit egne
 Les barons e les chs
 D eorges s geras e riuers
 D at touz furent assemble
 L a pucele fait amene
 A l hys de moster
 C et amillion denit son nouu nom
 S i se penca mult esrre
 O yst uerion que li duoit
 D uel ne oint sois li nouu
 L esq; lessi sire amillion
 E o n o di certeue uoue le
 S iv eposse la damoisele
 E au qe dont us sen passer
 A pres de este lepron; serre
 Alaut miez vult si laid ne suis
 F nome: o dire bien le poe
 Amillion had bien entendu
 E la pucele from son deu

w es pris ceo ne vont lester
 S i es la resceu come la mallece
 N e vien qe ens furent aperten
 C oment son brefe les enu deuen
 L adamoisele fut ben pate
 C et ad baron n tolente
 L ecomte tynt feste pleure
 V ne sy manie tot cittere
 O uir furent des robes donez
 D ont les menestranz furent fere
 L e Comte dona als empres
 L es chuals e les destres
 O re v de ieo bien counter
 C oment il furent a son
 L adame ad son deu acote
 E par amour sonent beue
 V en quidot q ceo fu amys
 O es amillion q fu pensise
 Bien entendu en honrage
 fere ne li veit hommage
 D e son compaignon trahe
 O uir par son qretta un loppur
 C et supir meurt forment
 L adame la cou rendement
 S il demanda quoi pensoit
 E par quel tels amys qretta
 D ouir dit sur amillion
 N e vdra celor son nom
 L ea ne lui pas celo q de quidez
 D e wofre ejour fusti que
 A vous le pens bien counter
 Garbiel le deuerez celor
 D ot lour estre lui ad comte
 E pms dit qui prendra conge
 C art il eust le conge pris
 E s auours ore iv desqe adis
 E n son pais senet ale
 A lans ad trebot amire
 C oment eust faire la bataille
 C oment eust faire la bataille
 E u vne chambre plus entrent
 E lour robes chaungent
 C onque ne fait aperten
 D our estre taur ne qite
 E plus ie buyg poe

A plus vost qd amys poer
 Longe ad pas si sensi lez
 C n son puy s'vers la mire
 De temz amys come sa vie
 De est mont en astage
 C de ceu li est par mariage
 Et rait seignurie gnt honne
 D egnt reures est il seign^t
 A e my countez e demy
 S i vost come li quens est lui
Ore est amo e temz chez
 On goet mes entre toiles
 Conqiller fait fait e sire
 Quel qil voler porcent dare
 Benfut pur tote la tere
 T art de meurt gnt affere
 Sa femme ly ame tendrement
 Si fait tot son d mandement
 Hant q le counte eui mal adi
 C qnt long temps out langui
 morut e idem rendist salme
 E tost aps morut la dame
 Quot mortz furent pe e incre
 Ce ne eust soer ne frere
 Soi soul la dame q amys auoit
 Pur ceoles tres recevoit
 Ore vndrom de amys lessier
 Si aies ad don il ad meister
 V dura de s. amillion
 De vant estoit leal compaigno
 Tom il en son lit gison
 Sa vele dame ali duide
 aye diez pamoir de moy
 Tar leu vame en loue sep
 Si a epée nre meistes eut no
 Sire pur que le fentes ro
 Dame leu le durez mes
 Leu fai leu amys
 pur leu fai leu s. amillion
 Si amys estoit leal compaigno

Ne sa femme taurt de morts
 De tot son per ly arachet
 Si malade es il ad deuient
 De cheval pur mesel li tant
 La dame li tant tpe endespr
 Ne volet entrer en son lit
 De volet auer ad lu parlez
 De od li beure ne mang
 ayen, eo dit il veut meur
 Si li voulut veur
 Si li soffri encor
 g mult dolur e gnt han
 Ses chns tom deparrouent
 Ses gardes trou li guerpet
 Ne troua sainc ne esquier
 Elle fonde li wod doner
 Restouz li omis deguerpi
 E lire un enfant qui out ne
 ff q de uicomte son pent
 Id li matferement
 L dit que li uevelt gupur
 Ne pur buneue pur bane
 La dame que morut est enuige
 Ambedens less hord grice
 Je seign e leseriant
 Sur amylion edou enfant
 A chef dela vle amylion
 Lloc lour fait auer hostei
 Mu sures amyllon
 Ans estes a pur lez garison
 I adis li sire e leseur
 Ne pas meruelle sil ad dolor
 La mort desire plus q la vie
 Si ul soldat ad ne compaigne
 Si ad home aqui parler
 Ne a qui pet don dolor moult
 ffors al enfant que ly seruert
 Si million con plus viuent
 Hant plus leid deuenent
 La dame pur tant de tendi

Ce nul ne fut si hardi
 Q[uo]d de rieu li regardoit
 Ne que manger li donast
 L'enfant q[ui]t oy es comandis
 Ne s'ant au querre lour mire aust
 Baintost come a son seignur
 C[on] il dit cest mal dour
 Quant nauom a monre ne amang
 Ne pousis ioy plu demorer
 H[ab]it le fr[ere] sainte marie
 Com longes me dura esteue
 eo solei auer g[ui]t resour
 e tre seru d'argent e dor
 Et en tuit demene
 De de marie est g[ui]t pite
 Si e o de feim mour deuay
 A enemis mesme force ne trav
 L'enfant a soi domque appela
 C[on] pur deu li comandis
 B[ea]t il deo morir le lessat
 Quel en son pais alast
 L'enfant respondi p[ar] g[ui]t d'autant
 A e tri deu mon seignur
 O eny rois odys suffrir dolor
 L[et] sainz e[st]re empour
 Quant luri launtre ad fregirde
 Mout est ent eny g[ui]t pite
 Plurent e dearent lour draps
 Souent se clament chetis allas
 p[ar] leint de g[ui]t chaustrie
 E homur e la seignurie
 S[an]cte annelou auoit eu
 Q[uo]d ore est deuenu
 L'enou w[ill]duras del enfant
 La geut lappelent amorant
 Mes v[er]ben furt londret noum
 Donque li dist s[an]cte myllion
 B[ea]t weyn aladame urez
 Roare conge de h[ab]idre
 H[ab]is de eeo pais nroms
 A plus tost que nos pooms
 Mes eeo ne puis aller apie

p[ar] e[st] g[ui]t p[ar] chante
 Q[uo]d ele me faire une me tancer
 Q[uo]d eeo puise chaucher
 L'enfant aladame ala
 Son message li comandis
 E le li fist un asne amer
 E p[ar] suis les tems murer
 Q[uo]d mes en le pais vendreit
 A el h[ab]re q[ui]li serret
 H[ab]is del pais servir
 Ames q[ui]lent q[ui] reueudrois
 B[ea]t weyn le leal cussant
 Lour vnuide va querir
 Mes tuit long vut sur cherte
 U e palm vni e de ble
 Q[uo]d donc ne pient home trouer
 Q[uo]d rieu lour wille duner
 Q[uo]d n[on] ne p[ar]nt plus entendre
 Q[uo]d il comeut lor asne vendre
 Sur cez sonz e dor e maille
 U e cez alatant lour vnuide
 E tre eeo lour somat fere
 Sur deus roes vne oycre
 Q[uo]d mi p[ar]nt sei meilue s[an]cte
 I miliou fait dedem cocher
 Plus q[ui] p[ar]nt li evita
 U e long en long li cunena
 P[ar] latore tant alerent
 Q[uo]d seym e meaise trouerent
 D esques eus vuidrent e pais
 O u roiora le comte amys
 Q[uo]d noble court illoeg tenoit
 E mont g[ui]t beu fesot
 La poure geut tote auuron
 A la com et p[ar]fession
 L'ltre fures de dem vunt
 Q[uo]d saet q[ui] eus veit q[ui]ls sonnt
 S iens fuisseut en la cort amys
 E g[ui]t homur lement recev
 Pres la porte se sont mis
 E l'enfant q[ui] bien fuit apis
 E moult amys son seignur

A la demandant tut entour
 Les poures les estres les maies
 Les custumes de les terres
 Les gentils homes q̄ aleret suant
 Les poures regardant
 Vuont l'enfant bei e p̄an
 Il fut au p̄e venu
 Gentil home ressemblerent
 Vnde eux li appelleut
 Demandast sil vout sur
 Il getta un ḡt suspir
 Il dit q̄l ont un scigur
 Il ne levoit pur ce empur
 Vo ce fut li demandeient
 As si vost com li beu auoit
 Celi q̄l clama pur leignur
 Bon li tenoient a son
 As del enfant auoient pre
 A comte luy s'omt comte
 Si vost com mangea
 Son p̄mer mes li enuoia
 Par son mestre botaler
 Il est cortes chenaler
 De chescun mes q̄ lem li porta
 L'auoyte lor enuoia
 A vus une coupe auoit
 Qui mont fermeient auoit
 Car amillion q̄ tant auoit
 Celle coupe li donat
 Amillion mesmes auoit le per
 Que vost veudre ne don
 Mes le hanap tant ameyt
 Den tot so agnise gr̄pir newlett
 Les dens hanaps tant resellett
 Si enunc māv n estoient
 Est home q̄ tant del auant leust
 Un del autre denis deust
 Si vint lesser le wleat
 Qui le comte ad p̄es mangie
 Son botaler ad appelle
 Nez ma coupe od tot le vin

Si la portez a ceo starai
 Npoures q̄ tant e meilavie
 Es le hanap soit biengarde
 Si son esquel le vnu versez
 Ma coupe me reportez
 Celi fait le comandement
 Vuit e porta le present
 Le poues q̄ mesel fait enuen
 Vrit sa coupe hors de son liti
 La autre la vut si estoieilla
 La coupe durent regarda
 Pensa cil comment poer et
 Des dens hanaps fist au mest
 Reve raintot le repera
 A comte de cei hanap come
 Comment alsoen ressembleut
 Le comte mont esmeileut
 De auillion doneq̄ li souent
 Bien fait il verameint
 De mon frere lad emble
 Cher seur li achate
 Entre la table s'fut atant
 A cel poure vuit erant
 Assoient lad feru dn pe
 En la bove est il verie
 Les chys vndreut dei deys
 Si estoient de molt pres
 En resoner li toleient
 Mes pur poer q̄ ens auoient
 Ne li poerent assuager
 Si neli velt oier
 Qui batu li ont e desole
 Que les mains sunt allasse
 Doneq̄ omāud q̄ le lo lyant
 En la p̄on li gettaut
 Amillion doneq̄ māderet
 La vertue de li querent
 Son hanap ont pdn
 Comment est auant
 Qui amillion li oist nom
 De dolur pour son quer creull

S ure dit par la soi q v^e deuez
 A amillion q tant amer
 Q e me faitz empesone
 A es le chef me faitz tost trenay
 A es certes au ico trop uesqui
 D p bien aila mort deservi
 V er dit il w^e lauz
 D e vatre demande rancandrez
 T auroit espeie demandez
 C u manes dit qu le terna
 D ott lespie libast baillie
 I nus had en hant leue
 C amillion le oï tendist
 M ais lensant amant s allist
 V wein que poe sussir
 Q son seignur deust mour
 E nhant camery mercy
 P ur i ai den q onqene meua
 E q en avon suffri passiou
 C et ou lures lure amillion
 S ure queis vemeubrez Amys
 T on w^e li solez amer jadis
 G ut blosigne li ad ioy chace
 S ile octez ro fetes peache
 D ic le comte ceo oit
 T ott estendu attere chaut
 L ate ses mains les cheuez deure
 S avie hiet sa mort desire
 L a hure mandat qonqe fu nee
 D ic peache had ensi enembre
 D son frere descouuisent
 Q tonz biens li besoit
 H restouz plureut de pite
 I nus iest tot adresce
 P us de cent soi li ad beise
 D ot ensi son ert de ray leue
 C ut les bras li ad aperte
 N la chambre li ad couche
 Y amer li fist e leuguer
 T on son corps li fist garder

S erur le fist tot ataleyt
 D e viande e de boire easement
 C li manes ali ret
 C hestau rom sis soi ou lept
 D ant com prut had amibote
 L a dame sonent alz est ale
 Q li ama molt de faiquer
 C om vies qe cie fust si soer
 P us ne li piet fere compame
 D reis daz demena tele vie
 D e les eles ali auoyt
 D ant com il manes desiroit
 C ut passa le temps illi
 C li queus me noyt domu
 V ne woz oy qe li didont
 C amillion trop bien gairet
 S il nensuit metor cure
 D ens fiz de sagendure
 S iles enfantz tuatz
 C amillion en les amib hanast
 S i sam deuendreut com pessou
 C ut ven auont lausion
 D de tel somge repauri
 A deu dit il q onqe ne nucari
 D aine q wir soit mon somge
 A qd ore soit wir ou auen somge
 L a nusele woz woz puer
 P ur mes enfanz ne wil lester
 O ut auia fait bone forme
 S i parlour sump puet est faire
 V n iour fust p matin leue
 C al matin est il ale
 D en requist e sou hant uoil
 A son frere dome grison
 L a dame vint q bone fust
 S ouent deu pur li reijst
 T ant le comte fust repaire
 C auve chambre est entre
 C u les deus enfanz domue reit
 C doucement eur entre garder

Le pere eust de ses fr̄s p̄ce
 A mbedens ad le chef tenebre
 E le lant de eux ad quille
 L amillou de dem ad enuotupe
 Si tost com le samz lez
 De son q̄t mal est il garri
 L eu corps ne euface
 Ve maladi ne appent tre
 L n amis ne out q̄ regeur
 Ve bone robe li fist vener
 L amo uster p̄us li mena
 La dame sitost tō vers li a
 Pres de iore se pahna.
 Vnt al seignur si li demanda
 S ieo fuit s̄tre amillou
 Comment il out sa gârisson
 Dame c̄es ieo v̄ dirrai
 A es v̄ desconfitav
 Sachez dame que pur sa sainte
 Vz deus fr̄s ad estrangle
 La dame ses mens adeu tendi
 E mont gres li rendi
 Vonge comence pur fere ior
 J h̄ u' dist je fiz lente marie
 S i li plest p̄ son poer
 Ro forra enfaus doner
 S i amyllou p̄du eulz
 Jamas rel entree ne auiez
 E les easins pins nempersons
 S iden velt bien le rivotons
 I tant li pahle ouint lede
 L e dante deu ouint escote
 A pres la messe vint ameson
 Dions est ele pur amyllou
 A myd doncq̄ one la dame uil
 C u la chambre ou les eybam lez
 L es ensins fireat estrangle
 E tot viss les amis trouez
 E n lor lit seutrebeysereut
 A el ray del solzil sen iureut

P er le mere q̄t eos dirent
 A deu graces enredireut
 S ure amillou q̄t fust dme
 L de son q̄t mal nette
 S i tost com porap̄t range
 C u son pais leu est ale
 Q u'nt la dame quer ov
 S i son seignur estoit garri
 L q̄l venit al pais
 L od li le comte amis
 P ei ad ei quer dme
 V uaque leme ne out greignur
 V onqe se tut en son home
 S equidez pas q̄l fuit en vie
 P ur eos fut tot appelle
 D en le mois deut ce epoche
 A es ore le dame lasse chetue
 M oynt lui pose q̄ ele est vne
 N e la fete ele pas quoi ele p̄t fer
 S i le met hors de la tere
 N e la luna plus ader
 Q onqe comeuta a penser
 L autre nomaines le musaient
 S on seignur Jaunes ne verme
 A es ne li est pas destine
 Car du tour p̄ matyne
 L es deus comtes hant veuz
 L ala porte descendiz
 Q u'il fut apourant
 D e lour veue aut ne q̄t
 L a messee fait endormie
 D e lour veue ne sluet me
 Q u'nt la dame ai conter
 C u une chamb're le ala muser
 A eur velt estre pendue
 S ure amillou fist com leal bier
 D a grut fist tot assembler
 Q u'nt leus etinaliers
 S eriam vadet cesq̄ers

D'on devant li venirent
 Era erier tous penserent
 Son mal taient lors pardons
 D' des les tont e les ames
 Onque fait sa femme demander
 Car del se veut venger
 Want fuit quise que se fait tue
 Mes de pour le fuit misse
 Tost com fist son seigneur
 Le paumé de pour
 Le seigneur la fist retenir
 Et la comence a chaster
 Dame dit il lessiez ester
 Ne deusiez tel doit demeurer
 Pur ceo q sam sui renement
 Oit v' fuit beu auem
 Si feusiez cele com deusiez estre
 Par ihu le Roy celestre
 Homme me ert agit vitez
 Si ceo ne soie de v' venge
 Si fu malades e detest
 Pur ceo naison ceo pas forsart
 Vuire ne deusiez bien du men
 Dame souenez v' del bien
 Comment amang me menastes
 Del pais marchastes
 Ans festes mire mon serment
 Si ceo ne deusiez en mon vint
 Ceo pais reueuer
 Ne pur vuire ne pur treuz
 Si n'renes v' del b' del
 Si moy l'lastes pur hostes
 Celi auiez tant co v' vuiez
 En nou de dolbere le teuez
 Onqz fist fere un tare
 Pur fuit mes molt bet
 Si fist fort durement
 De loiz le virent tote la gerte
 Outre tote la cre
 A fa la dame durement lie
 Comes de illo et ne portt illir
 A demoré deuge ol morir

Aut d' dames esample auoit
 Comment leur seignur leur gardoit
 Ne garde la servent
 Par une servante lui portoit
 Chelamour sa lumere
 Comment le comte ont onnaide
 Un an vesqu e v' mon
 Adrem morrit pur dolur
 Il we amillou fit molt pise
 Autre pene nad lumere
 Unz v'us femme ne mit auer
 Sul eyse ont de sa mulher
 Bien l'enfant bien seffa
 A v'ote la teme li herita
 Bien auoit deservu
 Ulme vie long temps vesqu
 Il v'ien fait le pena
 Ap's sa mort a der ala
 A mis son frere ensenant
 Molt se amereut fierent
 Bone fut la compaigne
 Oz corps gisent en lombardie
 Dieu fait pur eus qut v'uz
 Les voegles ver ples ledumetz
 Hoy euh faust le sermon
 De sire anus e de s're amillou
L'Appliſſit

2) Anglo-Norman *Ipomedon* と Middle English *Ipomadon*

Hue de Rotelande の作とみなされている *Ipomedon* (ca. 1190) の本文は次の写本によって伝えられている：1) Cotton, Vespasian A vii. 羊皮紙 Octavo. 13世紀. ff. 39^r-106^r. (新しい頁付) 各葉 2段書き 37~38詩行；2) Egerton 2515. 羊皮紙 Folio. 14世紀前半. ff. 3^r-70^v；3) Rawlinson Miscellanea 1370, 14世紀初頭. 断片 f. 91. これらは Anglo-Norman 語で書かれている；4) Continental French Version *Ipomedon*. 14世紀中葉の断片. f. 106, f. 111.

ME の *Ipomadon* は Anglo-Norman の *Ipomedon* から直接あるいは間接に由来したとされているが、その本文は次の 3 写本が現存している：1) Chetham 8009. 紙製写本 Quarto. ff. 188^r-332^r. 12行 tail-rime stanza によるこの作品は1350年ごろ成立し、15世紀に転写された；2) Harley 2252. *The Lyfe of Ipomydon* 紙製写本 Folio. ff. 54^r-84^r. この作品は15世紀初頭に成立し、15世紀後半に転写された. Metrical Romance；3) Longleat 257. 《Marquis of Bath's MS. 25》 Longleat House, Wiltshire. 羊皮紙 Folio. ff. 90^r-105^v. これは14世紀後半か15世紀に書かれた散文の *Ipomedon* である。以上の内容は H. L. D. Ward¹ や J. E. Wells², J. B. Severs³, E. Stengel⁴, C. H. Livingston⁵ などによって紹介してきた。

E. Kölbing と E. Koschwitz は1889年に *Ipomadon* の ME 3 写本の本文と AN 写本 (Cotton Vesp. A vii) の本文とを合わせて刊行し、両語における本文間に緊密な関係があると指摘した。更にこの刊本で AN 本文の底本として採択された AN *Ipomedon*, Cotton Vesp. A vii (以下 fr. Ip. a. と略す) と ME *Ipomadon*, Chetham 8009 (以下 Ip. A. と略す) との間には、物語の筋立てにおける共通点だけではなく、fr. Ip. a. は octosyllabic couplet で書かれており、Ip. A. は12行の tail-rime stanza の詩型であるにかかわらず、非常に多くの ME の詩句に AN 本文の逐語訳を見ている。⁶ そして Kölbing-Koschwitz は語句や詩行の類似、反復される表現や内容を詳細に比較し、実例を挙げて Ip. A. が fr. Ip. a. 以外の何等の副材料をも原典として使用しなかったという推定を下した。⁷

ここでは fr. Ip. a. と Ip. A. の中から一部の類似箇所を提示しよう。そして類似点を明確にするだけでなく、写本の本文を忠実に転写して Kölbing の刊本、Ip. A. においてまず再検討されるべき点を指摘し、若干の問題提起をも試みたいと思う。fr. Ip. a. には参考のために邦訳を付けた。

* * * * *

掲示箇所の話は、主人公 Apulia の王子 Ipomedon (ME Ipomadon) が想い人 Calabria の姫 La Fièvre の危急を救うために fool に変装し、援助を求めて来た、La Fièvre の侍女 Ismaïne (ME Imayne) との従者の矮人と共に Sicily の Meleager 王のもとから Calabria へ向かう途中の出来事である。Ismeine は旅の道中、決闘の場での Ipomedon の実力を目撃して、本物の愚か者かどうかと思案を始め、矮人と言い争うのであるが、Ipomedon は相変わらず痴れ者を巧みに装っている所である。

* * * * *

① 音韻と韻律

Ip. A. の stanza は原則的に12行からなり、a a b c c b d d b e e b という押韻形式がみられる。この形式に厳重に従って Kölbing は end rime の読みを修正した。それは写本に出来る限り忠実な本文作成という方法からみれば再考を要するところである。

6968 sell, 6978 thare, 6980 dereynes, 6981 gas, 6986 he counteynes, 6996 gass, 7004 quake, 7006 sitt,

7015 drowe, 7017 dele, 7027 lyese, 7032 ben, 7034 layne, 7043 travayll, 7045 trowe, 7049 aylle, 7068
dele, 7074 serke, 7075 werke.

以上の修正はすべて押韻のためとみられる。ここでつぎに問題となるのは Ip. A. の方言であろう。Kölbing は Ip. A. の方言を Lancashire の北方、North-west Midlands と推定した。⁸ 本文に南方方言を示す語彙や語尾変化が現われるが、それは写字生が原本文の北方語形を一貫性なく屢々南方方言、語形に置きかえた場合が多いようであると説明する。⁹

これに対して A. McL. Trounce は Ip. A. の方言を中部地方北西方言とみなさず、中部北東方言であると主張した。¹⁰ Trounce によれば、Kölbing は Ip. A. での *e* と *i* の押韻の意味を無視したことになる。¹¹ Kölbing の読みの改竄は end rime においても再検討されるべき問題があろうと考えられる。また K. Brunner によれば、OE *ā* に対応する *o* の綴は中部地方の北寄りの部分では14世紀になんでも確立せず、OE *ā* を持った語は比較的民衆的な詩では必要に応じて *ō* とライムしたり *ā* とライムしたりした¹² というが、これが Ip. A. に適用され得るとすれば、6981 gos:masse; 6996 goos:has に対する Kölbing の修正形 gas; gaas は正当化されないであろう。

6969-6970. folye:chevalrye は fr. Ip. a. に見られる押韻をそのまま踏襲したと思える。そのうえ、逐語的に ME が AN に対応している個所もある。fr. Ip. a. 7919-20; Retenuz est pur sa folie/Plus ke pur sa chevalerie: Ip. A. 6430-31; Thus is he kept for his folye/More then for his chevalrye.

6980. deveres から dereynes への変更も Kölbing は韻と意味とのためであると説明する。¹³ dereynes (zweikämpfe と Kölbing は訳す。) に対応しては fr. Ip. a. 8572 に deredner <Act., défendre, soutenir par les armes> (Godefroy) があり、Ip. A. 6330; I shall the graunt the fyrist deryne <A fight; esp., a single combat> (MED) がある。しかし deveres は「騎士のつとめ」という意味に解される。当該個所を nonsense にはしない。rime にとっては不適当であってもこの語をそのまま置くことも出来よう。

6978. there:fare における there を Kölbing が thare と改めるのであれば、同様に 7050-51 bare:there の 7051 there をも thare と修正すべきではなかったか。

6987. is his countenaunce から he counteynes(彼は振舞う)への修正は類似の表現方法、Ip. A. 7924; As a fole thou contenes! (ms. conteynes) からとったと Kölbing は言うが、それでは単なる模倣という非難を免れ得ようか。韻の形式をととのえるために 6977-6989 のこの stanza では 4 個所の修正がみられるのである。

7045. rewe より trowe への変更もまた韻と意味のためのものであろう。

7074. 以下は tail-rime stanza がくずれている。shorte と serke は同じくシャツの意味があるが Kölbing は shorte を serke へ変更し、同時に押韻上から worke を werke と改めた。

7084. stroung は押韻上からではないが straunge に修正された。aun は an の AN 綴であるが、そのまま stroung を残すこととも出来たと思われる。

Tail-Rhyme Romance と呼ばれる韻文 tail-rime stanza とは一般に 4 歩格を持つ 2 行 (couplet) と 3 詩脚を持つ 1 行 (tail-line) とのくみ合せによって構成されている 3 行が tail-rime をもって 4 回繰返されたものと言える。¹⁴ Ipomadon もこの形のロマンスであるが Ip. A. の本文伝来に関しては正統性があまりにも欠けているために、正確な tail-rime stanza として韻律を面構成することはできないであろう。しかし、この点について Kölbing は多くの大胆な見解を掲げている。例えば 6992 の Loke と 6998 の come and とは削除すべきであり、7029 は詩行があまり短いので And tho the とでも加え、7035 は詩人が Hym self feld two wyth speres orde とすることもできたであろうと呈示する。¹⁵ (cf. Kyng Alisaunder; l. 3815 þere were spere baþyng) 7058 は stondyng のかわりに Stond か stood を入れ、

7075はWroughtのかわりにThat wroughtとする等の提案を示している。¹⁶この提案はしかし、余りにも明確に規則と形式を尊重する独逸の文献学者のものである。

② Anaphora

Fr. Ip. a.の作者Hue de Rotelandeはanaphoraを好んだらしい。¹⁷Waceも*Le Roman de Brut*においてこの様なrepetitionを好んで用いたしLayamonも*Brut*でWaceの用いるrepetitionを翻訳にうつしたようである。¹⁸この首語句反復は4587ff., 4823ff., 5154ff., 5887ff., 6455ff., 6876ff., 6902ff., 7364ff., 7405ff., 7725ff., 8026ff., 8741ff., 8784ff., 8788ff., 9097ff., 9122ff., 9329ff., 9337ff., 9575ff.に現われる。Ip. A.もかなりの個所でfr. Ip. a.に対応させてanaphoraを使用している。例えばfr. Ip. a.の8573 ff.がIp. A.の6981 ff.に対応していることは明らかである。MEの6981 ff.に見られる手法は再びIp. A.で、fr. Ip. a.とは対応せずに独自の繰返して7922-7924に現れる。As fole thou comyst & fole þou goste (gas K版)/As a fole all thy matters makyste (mas K版)/As a fole thou conteynes (contenes K版)となっている。Hue de Rotelandeの文章上の明らかな特徴は二点あって、第一は上記の首語句反復である。この技巧をIp. A.が模してfr. Ip. a.に密接に類似していることは写本本文の対照によって証明される。第二は物語が内容的に関係のある個所で屢々類似の表現を用いることである。¹⁹本論での提示個所は限られているのでここからは例証を挙げ得ないが、この手法もIp. A.にはすっかり踏襲されていることを記しておく。

③ 語句の解釈

Kölbingの刊本が出版されると、Max Kaluzaは批評を*Englische Studien*, Band 13に載せた。²⁰本論の引用個所では6975に問題がある。Kaluzaは6975で原文の読みのfyndesを保存することを主張した。たしかにfindenには<to support or maintain ; to provide the necessities of life for ; to nourish or feed>(MED)の意味がある。Kölbingはfedes(<feden)と写本の読みを変更したが、殊更にfedesを探る必要はなかったであろう。fedesより原本文のfyndesは6957行の格調を高めると思われる。

6992, Ofteよりwyth usへの修正はfr.ip. a. 8582の内容に基いたものであるとKölbingは言う。

6994. Kölbingは写本のtheをとらずmeをとりI hold me payde!とした。

7019,冒頭のButをForに変更したのは意味上であろうがその必要はないと思われる。

7026-28. この詩行をKölbingは難解であるとし,Anmerkungenにおいてこれを矮人の言葉とすればどうであろうかと提案する。(この際Kölbing自身の用いたpunctuationは問題外となる。)「人々は実際に賢い者を愚か者と見做し、何の愚かさもない彼等を非難する。貴女様が全くそうだ。即ちこの間違いを貴女自身当然におかしている。」という意味になるが、このsituationを矮人の言葉と受取るにふさわしくない7030のþerforeはKölbingを困惑させたものであったらしい。²¹この時7028のthemはtheに変更する。7026と類似した詩行6647, Ye for to gette then (them K版) loss & prise/Men make them folys that byn wyse/And off full grette renowene. (6646-6648),及びfr. Ip. a.で似かよったことを言っている8593以下とのかかわり合いにおいてKölbingは7026-28の意味を解明しようとするが説得的ではない。

G. L. KittredgeがKölbingの‘Anmerkungen’を批評した*Englische Studien*, Band 14の当該個所を参照すると、²²まずKölbingのpunctuationが問題となることを示唆している。Kittredgeは言う。「7026-28の難点は若し人がwitteを動詞とも名詞とも取らず全く簡単に少々間違って書かれたwitti又はwitty (adj.)と考えるなら難なく解決する。そしてこの様な間違いは決して例外ではない。」彼はChaucerの*Troilus and Criseyde*, II. 641にmanyがmaneになっている個所を例に挙げている。意味は次のようになる:Imayneが矮人に言う「全くのところ賢明な男たちは屢々ばかげたことをする、つまりあれやこれやの関係においてばかさかげんを示す。今や、お前様は丁度それなのです。」お前様は正

気ではなく、この騎士の全く明白な愚行を全然信じようとしない。大ばか者も時には思慮分別がある者のように現われる。Kittredgeはこの説明が fr. Ip. a. 8597 ff. Teus trove l'um veisez e sagez ki tant sunt fol にふさわしく適合すると述べている。7027 non は kein (verstand) と取り、7028 them は Kittredge も the と読むのである。Kölbing と Kittredge の両碩学の見解には、しかしながら、私見をさしはさむ余地がないとは思えない。試みに 7028 them を原本文のままにして置く可能性を考えてみよう。7026-28の3行を一般的な実際であると Imayne が言った言葉と解する。7026は Kölbing 訳をとる。7027は makythe them witte として前者 7026と対照的意味を現わすものと考え「人は賢い者を愚者と見做し、分別のない愚か者を賢者と見做す。(non の解釈は Kittredge をとる)明らかに人はそのようにするものです。」と解釈してはどうであろうか。Ip. A. には fr. Ip. a. に見当らない 7019-22 が挿入されているので Imayne の言葉は矮人との対話以外のものとは考えられない。しかし fr. Ip. a. の 8594-8601 は、この言葉を Ismeine が矮人に言ったとも考えられるし又 Ismeine が自分の好意を無下に拒絶した fol (Ipomedon) に腹を立て彼に直接投げかけた言葉であると考える事も可能なのである。

以上の断片的な比較によっても明らかであるが、fr. Ip. a. と Ip. A. の密接な類似を示す、興味深いロマンス AN および ME の *Ipomedon* を対照した批判本文は斯界において大いに期待されている²³ 所のものであろう。

注

1. H. L. D. Ward, *Catalogue of Romances in the Department of Manuscripts in the British Museum*, I (London, 1883), rpt. 1961.
2. J. E. Wells, *A Manual of the Writings in Middle English 1050-1400* (London, 1916).
3. J. B. Severs, *A Manual of the Writings in Middle English 1050-1500* (New Haven, 1967).
4. E. Stengel, "Hs. Rawlinson Miscellanea 1370 alt 1262," *Zeitschrift für Romanische Philologie*, VI (1882), 390-396.
5. C. H. Livingston, "Manuscript Fragments of a Continental French Version of the *Roman d' Ipomedon*," *Modern Philology*, 40 (1942), 117-130. Cf. Marius Esposito, *Revue des bibliothèques*, XXIV (1914), 196-7.
6. E. Kölbing und E. Koschwitz, ed. *Hue de Rotelande's Ipomedon. Ein französischer abenteuerroman des 12. Jahrhunderts. Als anhang zu der ausgabe der drei englischen versionen zum ersten male herausgegeben* (Breslau, 1889), pp. XXVI-XXXIX.
7. Kölbing, pp. LXV-CXVII.
8. *Ibid.*, p. CLXXII, seqq.
9. *Ibid.*, p. CLXXIV.
10. A. McI. Trounce, "The English Tail-Rhyme Romances," *Medium Ævum*, III (1934), 41-43.
11. *Ibid.*, p. 41.
12. ブルンナー, 「中世英語文法概説」, 厨川文夫訳, 英語学ライブラリー (52) (東京, 1960), pp. 18-19.
13. Kölbing, p. 441.
14. Trounce, *Medium Ævum*, I (1932), 87.
15. Cf. E. Koeppe, "Zur textkritik des Ipomedon," *Englische Studien*, 14 (1890), 383. Koeppe の見解も Kölbing に近いが彼は *To speres hym self dyd he sheuer/Off you he myghte gette a worde neuer* と提案する。
16. Kölbing, pp. 441-442.
17. Edmund Stengel, "Hue de Rotelande's Ipomedon," *Zeitschrift für französische Sprache und Litteratur*,

atur, XIII (1891), 10.

18. *Le Roman de Brut de Wace*, ed. Ivor Arnold (Paris, 1934), ll.10589-10620.

Layamon's Brut, ed. Sir Frederic Madden (London, 1847), ll.24685-24692, 24725-26.

19. Kölbing, pp. IX-X, CXLVII.

例えれば7922-24はIp. A.におけるanaphoraの繰返しだあるが、anaphoraに限らず、このように既出の表現に類似した描写法が繰返しfr. Ip. a.に現われる。必ずしもfr. Ip. a.とは同順序で平行しているのではないけれども、その技巧をIp. A.は充分に模倣している。

20. Max Kaluza, "Ipomedon in drei englischen bearbeitungen herausgegeben von Eugen Kölbing. Breslau 1889," *Englische Studien*, 13 (1889), 490.

Kölbing-koschwitz版には積極的な批評がなされた。殊にfr. Ip. a.に関しては多くの改訂案が出されたが、この小論ではIp. A.の掲示個所に関連のある批評のみを取り上げる。fr. Ip. a.についての批評の主なものは次の通りである。

A. Mussafia, "Sulla critica del testo del romanzo in francese antico *Ipomedon*," *Sitzungsbericht der Wiener Akad.*, 121 (1890), cf. *Romania*, XIX (1890), 503.

E. Stengel, *Zeits. f. franz. spr. u. Lit.*, XIII, 9f.

21. Kölbing, pp. 441-442.

22. G. L. Kittredge, "Anmerkungen zum mittelenglischen Ipomedon A. Zu Ipomedon B. Zu Ipomedon C." *Englische Studien*, 14 (1890), 391.

23. M. D. Legge, *Anglo-Norman Literature and its Background* (Oxford, 1963), rpt. 1971.

cf. A. J. Holden ed. *Ipomedon : poème de Hue de Rotelande (fin du XII^e siècle)* (Paris, 1979).

AN *Ipomedon* 訳

「この様に立派な騎士を二人打ち負かした（ものはいまだ曾ていなかった。Il n'eust ja mes a nul tens (8564行) Conquis (BK.の読みを採る) deus si bons chevalers）おろかな者よ、多分三千人と競っても、身を危険にさらすなど彼は決してしないことだろう(8567行)。というのは、彼は痴れ者で節度もなくシチリア王の宮廷では三千人がこの者を愚か者と見做している。彼處には一段と高い栄誉を守るために戦う多くの優れた騎士たちがいた(8572行)。阿呆の如くその宮廷を出発し、阿呆の如くやって来て、阿呆の如く私の傍に立つ。阿呆の如く振舞い、阿呆の如き身なりをし、阿呆の如く話し、語り、事を為す。阿呆の顔をし、阿呆の如く怒り、阿呆の如くものわかりがなく、阿呆の如く笑い、夢心持でいる。」(イスメーヌ独白) (8578行)

おとめは夕餉についた折ひそかに矮人を呼ぶ。「あの愚か者をこちらへ近寄らせ、我々と一緒に食事をするために来させなさい。」矮人はイスメーヌに大変感謝をし、かの騎士の許へ行きそう願ったが、彼(イポメドン)は、そうはしないと言う。心の底から愚か者のように話し、大いに怒っている風をよそおって彼は答える(8587行)。「あの性悪女は昨日食事時に私を殺させようとしたくらんだ。又今日もそうだ。お二人は大層嬉しがらせを言う人だ。」矮人はその言葉を聞きいたく嘆いた。矮人は引き下って口をつぐんでしまった。イスメーヌは成行きをすっかり察知している(8594行)。「少しも私を信じないのですか。よく目につくものを人は非難するという事を御存知ないのか。心底はずいぶん愚かであっても人は利巧で賢い人だと思うものです。人は見たことをわかろうとしない。わかっていることを信じようとしないのです。さあそれが友よ、今貴方の立場なのですわ。」(8601行)

矮人はここで大変心を痛めた。「姫様、貴女は間違っていらっしゃる。貴女様のために彼のお方は死ぬ目にお逢いでした。ですから彼のお方が心中非常に御立腹なのも不思議ではござりますまい。決して良いお顔をあの騎士殿になさいますな。良いことも悪いことも仰有るな(8608行)。いささか仏頂面をして

Anglo-Norman *Ipomedon* と Middle English *Ipomadon*

おられる彼のお方はすぐにお腹立ちですよ。何時も運に恵まれずに仕えるお人はどんな大きな幸運も信じられないものです。彼のお人が余りにも不幸であるか或いは貴女様の心が余りにも傲慢であるか、でございましょう。」(8614行)

イポメドンに矮人はまめまめしく仕える。彼の世話は全く行き届いていた。彼等はゆっくりと夕食を取って、再び彼等の馬に乗り旅路を急ごうと努めたのであった(8619行)。日暮になりみすぼらしい町で投宿することになる。快適な宿は一軒すら見当らず、その地にある宿は大層狭苦しい。イポメドンは今回同じ宿に泊ることになった(8625行)。イスメーヌはそれに不平をいわなかった。というのは彼が自分を恥辱から守ってくれたことを屢々考え合わせたからである。イポメドンは武具を外し矮人はいそいそと手伝った。矮人は彼の武具を外し終えると短いマントをつけさせた、それは緋色で内側の黒いものだった(8633行)。その場に居合せた人は驚いてつっ立っていた。彼は珍らしい風合の絹で出来た肌着をつけ、赤い布地の下穿きを履いていた。彼の身体つきも、脚も、足もどんなに美しくほっそりしていたか、私は言い現わし得なかった。又言うすべを知らぬ。

AN *Ipomedon*

Ke unkes deus si bons chevalers (;	f. 93v
Fole(,) assez tost de treis milleres	8566
N(') avreut il james l(') aventuure (;	
Kar il [est] fous e senz mesure(,)	
E pur [fol] le tindrent treis mile	
En la curt le rei de Sezile(,)	
U out meint meuldre chevaler	
Pur mut haut dreit deredner (;	
Cum fous [s'en] parti(,) cum fous vent	
E cum fous pres de mei se tent (,	
Cum fout se cument(,) cum fous vet(,)	
Cum fous parole e dit e fet (;	
Fole chere ad (,) cum fous se desve(,)	
Cum fous set(,) cum fous rit e resve(.)	8578

Al disner s(')aset la pucele(,)	
Priveement le naim apele (:)	
Fetes cest fol ça procher(,)	
Venge ce eenz od nus manger (!")	
Li naims Ismeine mut mercie(,)	
Al chevaler vent si li prie(,)	
E il li dit ke nu fera(;)	
Tut de gré folement parla(,)	
Respunt par semblant de grant ire(:)	
La putain me volt fere oscire	
Her al disner e ui cest jur(:)	
Andui erent si duneur(.)	8590

Anglo-Norman *Ipomedon* & Middle English *Ipomadon*

Li naims l(')oi(,) mut li pesa(,)
 Arere vint(,) mot ne suna(;) .
 Ismeine le tresoi ben
 E dit (:) creirez me *vus* de ren (?)
 Ne savez *vus* ke l(')um reprove
 Une ren(,) ke l(')um suvent *trove* (:)
 Teus *trove* l(')um iez e sagez(,) .
 Ki tant sun fol de lur curagez (;) .
 Saveir ne volent co ke il veient(,) .
 Ne co ke il seuent(,) pas ne creent (;) .
 Se est il ore(,) amis(,) de *vus*(.) .
 Es *vus* li maimes *trop* anguissus (:)

8602

(") Damaisèle(,) *vus* avez tort(,) f. 93 c.
 Pur *vus* ad este *pres* de mort(,) .
 E pas ne *vus* esmerveillez(,) .
 Se il en sun quer est *trop* irez (:).
 Unc bel semblant ne li feistes
 Ne ben ne mal ne li deistes (;) .
 Cil s(')aire legerement(,) .
 A ki la leveure aukettes pent (;) .
 Cil ke tuz jurz sert senz eur(,) .
 De nul *grant* ben ne seit seur (;) .
 U cist est *trop* meseurus
 U *vostre* quer *trop* orgeillus(.) .
 Li naims sert ben Ipomedon(,) .
 E sun servise esteit mut bon(,) .
 Quant il unt a leisir disné(,) .
 En lur chevaus resunt munté
 E se peinent de tost errer (;) .
 Herbergez sunt al vesprer
 En une vile [mult] mulveise (:).
 N(')i trovent nul ostel a eise(,) .
 Li ostel i sunt mut estreiez(.) .
 Ipomedon a cele feiz
 En meisme la maisun descent(;) .
 Ismeine n(')en grua neent(,) .
 Kar ele se est suvent purpensee(,) .
 Ke il aveit de hunte garde(.) .
 Ipomedon se desarma(,) .
 Li naims de bon quer li aida (;) .

8614

8626

Anglo-Norman *Ipomedon* & Middle English *Ipomadon*

Quant li naims 1(') aveit desarmé(,)
 De un curt mantel 1(') at afublé (;)
 De escharlet esteit(,) neir dedenz (;)
 En estant fut merveille est genz(.)
 Il out une curte chemise(,)
 Camoisse de estrange guise(,)
 Cauces out de vermeil essai(.)
 Jo ne pus dire ne ne sai(.)
 Cum il ert beaus e alignez
 De cors(,) de jambes e de piez(,)

8638

ME *Ipomadon*

In battell can he well endure
 Bothe be witte and be mesure(,)
 So have I happe or seall (;)
 How so he farithe *wyth* folye(,)
 His dedis byn off grette chevalrye(,)
 Be god and sent myghell (!)
 There is a Ml. knyghttes of skole(,)
 That holdes this man but a fole
Wyth in the land off Cesile(,)
 That Mallenger fyndes *wyth* honoure(,)
 Half so strong be not in stowre(,)
 Cowde not have done so well (!)

f. 302^r

6977

For a fole they hold hym there(,)
 And pure foly is all his fare(,)
 But bold is his *deveres* (:)
 As fole he comys(,) as folle he gos (:)
 As fole all his matters masse(,)
 As a fole he hym demeynes(:)
 As a fole he lawghis(,) as a fole he lyes(,)
 As a fole he sittes(,) as a fole he rysis(,)
 As a fole all way is his countenaunce(,)
 Be god & sent myghell(,)
 He fyghttes so worthely & so well(,)
 I hope(,) he dothe but faynes (!")

6989

She bad the dwarrfe prebely (:)
 ("")Goo(,) byd yound knyght come sit me by(,)
 Loke(,) yf hym lyste ofte to dyne (!)

Anglo-Norman *Ipomedon* & Middle English *Ipomadon*

Sethe þou haste so faste for hym *prayed*(,)
 Lett hym come(,) I hold the *payde*(!')
 There of they nougte tyne (:)
 The dwarffe was glad & to hym he goos
 And hertly *prayed* hym he has(,) f. 302^v
 To come and drynke a drawȝt of wyne (:)
 (")And ye shall dyne of the wylde(,)
 And *wyth* you shall younde maydon mylde
 Male a sufficiante fyne (!')

7001

As he were halff wood(,) he faris(,)
 And on the dwarff sternly he staris(,)
 That for feyre he quakys (:)
 (")Nay(,) I *praye* to god(,) I lesse my witte(,)
 By none suche rapokys will I sett(,)
 For all the fare(,) ye make (!)
 For hyr prowde wordes too
 Now wott I well(,) she will me sloo(,)
 Downe for I theme strake(.)
 For all your trappyng & *your* trayne(,)
 There *wyth* shull ye bothe agayne
 The debyll off hell you take (!')

7013

Then had the dwarff sorow inough(,)
 Sorofully agayne he drowee(,)
 So sore aferde was hee(.)
 Imayn harde *every* deale(,)
 She sayd (:")Syr(,) so have I sell(,)
 But thou trowest nouȝte me
 Off the tale(,) that I the tolde(,)
 Be the grette god(,) thy selff I hold
 A more fole then hee (!)
 Hit farythe by the(,) as bothe be moo (:)
 Ye know that ye here also(,)
 Ye beleve not(,) that ye see(!)

7025

Men makythe them folis(,) þat ar wyse(,) f. 303^r
 And witte them(,) þat non in lyethe
 So fayreth of them playne (!')
 The dwarff was angurd sore
 And wrothely spake to hyr þerfore (:)

(")Lett be thy fare(,) Imayne (!)
 In poynte of dethe we bothe hathe byn(,)
 He hathe vs savyd(,) and þat is sene(,)
 The sothe is not to laye (!)
 To spere hym self dyd hym orde(,)
 Off you he myghte gette never a worde
 For his godenes agayne (!)

7037

Syne the fyrste tyme(,) þat yo mett(,)
 A mery word myght he non gett(,)
 Thereffore(,) wyth outen fayle(,)
 He(,) that servys thanke aye(,)
 May thynke well set(,) I darre well say(,)
 Att the laste his longe travell(.)
 Right as ye say(,) hit farithe be you(,)
 That ye se(,) ye will not rewe (:)
 This myghty man under mayle(,)
 Full worthely wrought hathe hee(,)
 And þerof ye will not knowe bee(,)
 What so ever ye ayell (!")

7049

The dwarff mett to hym bare(,)
 Full egurly e he ettees there (;)
 Imayne on hym can loke(.)
 When they had dyned(,) forthe they rode(,)
 Right as a fole(,) wyth outen bode(,)
 Ever more his hedde he shoke(.)
 Hit drew to the nyghte faste(,)
 They saw a towen at the laste
 Stondyng on the syde of a broke(.)
 Hit was but a meane velage(,)
 So littil wan the harborage(,)
 That both one inne they toke(.)

f. 303^v

7061

The inne was so streyte(,) for thy
 They bothe must in a chambur lye (;)
 Imayne grogyd noughe(,)
 In her hertte she thynkes sone(,)
 Over mekyll amys has she done(,)
 To amend it(,) she hathe thought(.)
 He put of his armore every deyle(,)

Anglo-Norman *Ipomedon* と Middle English *Ipomadon*

The dwarffe hym servyd wonder well(),
 A mantill to hym he broughte(),
 Blake wyth in and red wyth oute();
 He wrapeud hym worthely abowte(),
 That richely was iwroughte().

7073

Off sylke he hade one a shorte
 Wrought of a wondyr worke(),
 Sowyde bothe well & clene(),
 A kyrtyll and a crochett fyne(.....)
 Full wele idyght well all bedene().
 Imayne hym behyldes on the face (:)
 A ffayrer knyght(), thanne he wan(),
 Her thought(), she hade not sene(:)
 ('') Ys this a fole (?) nay(), certes(), hee (!)
 In hertte sore for thenkes mee(),
 So strounge that I habe been (!")

7084

Imayne repentes(), that she hathe done(),
 And in her hertte she thynkes sone(),
 To amend hit mekyll more().

以下に AN *Ipomedon* の異本文を記す。左側に写本 Cotton Ves. A vii. の読みを掲げ、右側に Kölbing-Koschwitz 版の修正された読みに (K) を附し、写本 Egerton 2515 の読みには (B) を附して掲げた。上記の転写に際して写本の綴りの略号はイタリック体で復元し、写本にない読みで K 版に加えられているものは[]に入れて示した。句読法は K 版をそのまま()にいれて採用した。

8565 Ke unkes] Conquis BK. 8566 milleres] millers K. 8568 il] il est BK. 8569 pur] pur fol BK. 8573 parti] s'en parti BK. 8575 fous] fous K. 8581 ca procher] ça aprocher K. 8582 eenz] (e)enz K. 8590 duneur] duneour K. 8597 l'um iez] l'um veisez BK. 8598 sun] sount B., sunt K. 8599 le il] k'il K. 8600 ke il] k'il K. 8602 maimes] naym B., naim K. 8606 se il] s' il K. 8610 la leuere] l'eur K.; aukettes] alkes B., aukes K.; pent] apent BK. 8612 ne] se K. 8620 Herbergez] Herberger BK.; sunt] se vunt K. 8621 malveise] mult malveise K. 8623 estreiez] estreiz K. 8626 grua] gruca K. 8627 Kar ele] K'ele BK.; se est] s'est K. 8628 Ke il] K'il K.; aveit] l'avoit B., l'aveit K.; garde] gardee K. 8632 De un] D'un K. 8633 De escharlet] D'escharlet K. 8634 merveille est] merueillous B., merveilles K. (K 版は est を削除) 8636 Camois- se] Camoissee K.; de estrange] d'estrangle K.

ME *Ipomadon* に関しては、以下写本 Chetham 8009 の読みを左側に示し右側に Köbling-Koschwitz 版の修正された読みを示す。転写に際して写本の綴りの略号はイタリック体で復元し、句読法は K 版そのままを採用した。

Anglo-Norman *Ipomedon* と Middle English *Ipomadon*

6968 seall] sell 6975 fyndes] fedes 6978 there] thare 6980 deveres] dereynes 6981 gos] gas
6986 is his covntenaunse] he counteynes 6990 prebely] prevely 6992 ofte] wyth us 6994 K版は
the のかわりに me を採用 6996 goos] gaas 7004 quakys] quake 7006 sett] sitt 7015 drowee]
drowe 7017 deale] dele 7019 But] For 7024 Ye know] Ye know not. (not)を付加 7025 belebe]
beleve 7027 lyethe] lyeſe 7032 byn] ben] 7034 laye] layne 7043 travell] travayll 7045 rewe]
trowe 7049 ayell] aylle 7051 e]は KF版で削除 7068 deyle] dele 7074 shorte] serke 7075
worke] werke 7078 well] KF.版では削除 7084 stoung] straunge.

AN *Ipomedon*

British Library MS Cotton Vesp. A VII

ff. 93^rb-93^va

ME *Ipomadon*

MS Chetham 8009

ff. 302^r-303^v

Ipomedon le pere l'ame
 Il n'our fasse quer en la chante
 C'aurans et chez l'adrenu
 Si le ogle bon bunt esmulus
 Toute l'oreille iestre enflue
 Nel cheual a tenu esteint
 Al namu ad l'ame le desir
 D'ic li le il euface suauier
 Nos smene bieu le gage
 Otre puritet euer bone auarice
 Creon un sou uadet auer
 Si ralun del bois la tenir
 Quel il vut d'acter cum seigneur
 Ayene had a tra cheure
 Romeria mister le fest
 A sun seigneur alei le let
 Et silimende tru senz simile
 La siere au ha teur bannelle
 Si chaut semas i fust mustre
 Malgros li avert dit autre
 Est creou bi pus auant
 Had auant au il auant
 Smene est uertez estage
 Dukez estrine asur curage
 Vut le ab fust le plus sage hume
 Et le plus fol ce n'le auant
 Si tel que eust empes
 Se p'co auant he fol le uer
 Pur vut al dit meaderome
 Illes vost le ubi pas ne uer
 Fest pas si poos au il se lez
 Sesai se il se que follement
 Ayens tunc se cultat sagement
 Vut au ordure suauier
 Scus estoit ougur hardement
 Recouent od cheualerie
 Otre mesme e ueracie
 Se astrent autes de sens
 Il ne eust jamez qu'il sens

Se vntes deus si bons cheualers
 Sole asse totz de ces milieus
 Ma uer il uant le neant
 Par il sous e leur mesme
 Et pur le condur uer uale
 En la court le pa de ferme
 Bout meurt tenuire cheugler
 Pur un uant haur dret tendre
 C'au sous part au sous uent
 C'au sous p's de mesme uent
 C'au frout se auant au sous uent
 C'au sous parole e dire estre
 Sole cheve ad. au sous le desir
 C'au sous fet au sous rat e refus
Il disner saler ist pucele
 Ymeeuet le uana aperte
 Feres cest fol ca procher
 Benge ce cent od aus mager
 Li uans smene uant jadis
 Il cheualer uent ei l'ipe
 C'ill dit le uant
 Tuit le gire solement en la
 Bespum par leblant le gire ure
 La puchu uie wct lete dare
 Her al discoure by cest uir
 Andui erent si diuoir
 Li uans soi uant l'ypa
 I'rete duto uot ne fuit
 Smene le uant tem
 E dit creuz e me uant en
 Sesauex u'ly lumi reponse
 Uue leu telu u'uent tue
 Deut theu lez el azer
 Bi sunt l'auant le l'auant
 Sancor ne uolent co le il neant
 Ricco de il leuant pas ne auant
 Soest u'ore amu de uis
 Es u'li matines ip anguillus

Damuse le vaut mort
 Pur v'ad este p's de mort.
 Et pas ne v'ez n'ailleuz
 Se il enz au quer est q' urez
 Vut bel semblaist nelz frerez
 Je len ne mal nelz deffez
 Cels au re legerement
 Si la leure aubettes fait
 Cil be aux ourz seit leuz cur
 De mil gitez lea ne seit leuz
 Vaist est q' mesuruz
 Vi v're quer q' orgellus
 Li namus seit leu ipomedon
 Et sun seurise estoit multe bou
 Aut il bar a l'elur dene
 L'elur chenuis refut multe
 Et se penent de rost en er
 Herbergz sunt al uespier
 En une bise maluise
 Si trouet mil o delise
 Li ostel sunt multe estrevez
 Ipomedon a celesez
 En meisme la massundement
 Sun meisme uen grua ueatt
 Bar ele se est sunet p' ousee
 Et il auoit de huitte gitez
 Ipomedon le del armia
 Li namus de lou quer lianda
 Aut li namus l'anet resaine
 De uu aurt mancel lat afable
 De escharlet estoit uen de tenz
 On estant aut. tenuelle est genz
 Il oit une ante chemise
 Chemise de estinge gitez
 Chutes out de ilmeil ellai
 Jo ne pris dire ne ne fai
 Cum l'art leauz e alignez
 De cors. de jambes. e te piez

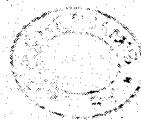
De chef de col. uout gitez
 Se il uest leout si regnise
 Li namus uad un nupuis
 Ipomedon s'est shs
 Sun mele ad regarde mult
 De hez ait il se il ne la fuit
 Ful ait adeu sei ke il ne uoit
 Pur la fiere dunt il se doint
 Sun mele esprante la feant
 Sun cors sage ad amise
 Sun ensun quer aser le p're
 Aut le iepent destige grase
 ke ele out si estige trau
 Bar custume est e eit epi
 Celin be plus leue hanter
 Celin sun quer li rechagera
 Pus eit al deli amiez plus
 Si mult des uautre us
 Celin le des plus amenir
 Pur po de athenam plus hanter
 Si be plus tost reouerir
 l'estige le al rehier
 Li a poer la uent seru
 Jo enz le uer p' colad
 Sun meisme engage sun corage
 Ben sout le ele uoit pris lez
 De co le ele out fet tel desir
 le nem ad apde a sei
 Et si li condut la folie
 Si namus be deus beneie
 Id dit deus ds eant auant
 Si ready meruz e gitez
 Sun meisme eant auant esage
 Il chengler rend sun gitez
 Et pus uoit le requiert e p'e
 Beilli pardouit la gitez tenu
 Li namus est lez esaut auant
 Bel sur bar pner le gitez

In battell can he well endure
 Both he wille and he mesure
 So han i happe or falle
 How so he falle or falle
 And dedur byn off grotte chaldray
 Be god and sent my ghelle
 There is a grymnesse of stol
 That gold tye men but a folo
 In the land off stol
 That maffing fynd in gromme
 Halle so strong he not in stolys
 Towre not han demys so well
 For a folo they hold hym ther
 And synys folys were his faze
 But bold is his dewo
 Do folo he camys to folo he gan
 Do folo alle his maffing masse
 Do a folo he hym demeynor
 Do a folo he lalugge to a folo he lyne
 Do a folo he falle to a folo he ryne
 Do a folo all way to his contendum
 Be god se sent my ghelle
 To synys so wortysly se so well
 I hope he deth but fynnes
 The land the sways fable
 So byn ymbs lymyt come fit me by
 Lode yf hym lyfe ofte to dyns
 Sethe yf hast so faste for hym ^{me}
 Lett hym come i hold ^{me} payde
 They of they no gafe thyn
 The olveresse vito glad se to hym he gan

Ipomedon. 3. 302

And herteby p̄ped hym to haue
to come me synke a dñeſt of myne
And ye ſhall ſynke of the mynde
And w̄ yow ſhall ſynde maydow mylde
With diſſiaſtante fyne
So he were helle mede he fayre
And on the swaſh ſtemly he ſtarre
that for fayre he quyte
Ray I p̄ye to god I leſſe my vittie
By none ſuchē reþerke will I ſett
ffor all the fare ye make
ffor thyne quide myldes too
Now mote I melle ſhe will me ſlow
Downe for I thome ſtrake
ffor all yow trappynge is ȳo trayne
therore w̄ ſhake ye lathe degaynes
the debylle off here now take
ffor had the swaſh ſeron I had
Coyffull degaynes he dydwes
So ſore a ſode on to he
of midwe hede on y deale
She ſayes ſe hanen I ſet
But than trawest non to me
Off the take that I the tolde
So the ḡtthe god tay þeff I hole
I more folg then hee
hit fayreþe by the do deþe he moe
ye know that ye heþe deþ
ye be leſe not that ye ſee
Now malþe them ſe þe wylle

And with them þ now in hysque
 So fayrely of them playne
 The dawes into Englynd fer
 And anrochely farr to thy rifer
 Lett be thy farr Indylne
 In paynte of dedes we beth hathe bryng
 To hathe no salye and þ w sone
 The path to not to lye
 To spere hym self dyd hym espere
 Off þow he my grette gette new awarde
 For þis godenesse agayne
 Syne tis fyfthe tym þ þo most
 A meny wordz myght he no gote
 Theroffe at ane fayre
 He that þynge thynkeþ me
 May þynke welle set I say welle say
 At the lathe þis longe travele
 Prest at þo say hit fayrely be þow
 That þo se þo will not rede
 Ther my gretty mille vnder mynyle
 Full worthly wronghat hathe haue
 And þos þo will not know haue
 Augat þo end þo dyde
 The dawes met to hym bates
 Full agnewly - go etre there
 Indylne on hym can leke
 Wher they haue dynd forþe they rode
 Prest at a fele w oner hode
 End more ffor heede he shold
 Hit drew to the my grette farr



They saw a tolme at the fiftie
Standynge at the syde of a broke
hit was hit a metme evelage
So littell wile the harbrage
that both ane Inne they tolle
the Inne was so foynt for thy
they wolt mire in a chambry ly
Indrys groggs wylle
In her herte she thynkys sonys
and myllyt amys hito she dene
to amend it she hathe thought
the pnt of her demys any dayle
the dwaffe hym syngd wond welle
A mantell to hym he broughte
A blake wim and red wane
the warapes hym wryghtly & bolwe
that nesly wile I wryghte
Off sylk as hale one differte
Avyngest of a wondry work
So wyde bothe welle & dene
A kyng & a crochett syng
full wole I syngt welle all bedene
Indrys hym be hym on tis face
A ffryzer byngest thame he wile
Hoy thoughte she had not sonys
no tyme aysle nely certe que
In certe see for thynges mes
So syngys that I habe been
Indrys seyngt that she hathe dene
dis in her herte she thynkys sonys
to amend hit myllyt more

3) Layamon's *Brut* と Wace の *Le Roman de Brut*

——はじめに——

イギリスにノルマン王朝が築かれ、プランタジネットの Henry 2世がイギリスの覇者として国を治めていた頃、ノルマンの詩人 Wace は年代記 *Roman de Brut* 「ブリュ物語」(Ca. 1155) を書き、それをヘンリー2世の后 Eleanor に献呈した。この Wace の列王記の中に現われるブリテンの王者達の中でアーサー王と彼を取巻く円卓の騎士の肖像はフランス文学では12世紀の詩人 *Chrétien de Troyes* (1135—90?) の宮廷文学や、*Marie de France* (12世紀後半) の短詩の中に受継がれてゆき、*roman courtois* の題材となった。

それから凡そ50年後、*Roman de Brut* はまた、ウスターの僧侶 Layamon が Early Middle English で書いた *Brut* (Ca. 1205) の原典となったのである。そして Layamon の *Brut* も其の後の英文学に現われるアーサー王物語の発展に寄与することになる。

Layaman は Wace の *Brut* を自由訳して、物語の構成から叙述の順序迄殆んど其尽に Wace をうつし取った。

物語はイギリス建国伝説の王者 Brutus の曾祖父にあたる Eneas が新天地を求めてトロイを逃れる所から始まってブリトン人の Albion 定住、其の後國威を輝かせるアーサー王の偉業が情熱的に語られてゆき(アーサーに関する物語に Wace も Layamon もおよそ全体の三分の一を費している)、ブリトン最後の王 Cadwalader (689A. D.) が国をサクソン王 Athelstan の統治にゆだねて島を離れ、その子孫がウェールズに戻って落着く所で話は終っている。

Wace の octosyllabic couplet 14866行 (Ivor Arnold 編) は Layamon では hemistich の32241行 (Francis Madden 編) になっている。Wace と比べて Layamon の詩行の長々しいのは彼が物語を進める際登場人物の会話を沢山とり入れたり、Wace の叙述を更に詳しく説明したり、彼独自の挿話をつけ加えたりしているためである。

このワースとラヤモンの *Brut* 物語を比べた時にラヤモンの特徴として先づ挙げられて来た事は OE heroic poetry の伝統を色濃く受継いでいる彼の Englishness¹ である。ラヤモンはワースを訳したのであるが、訳出にあたってラヤモンの醸し出したアングロ・サクソン的な英雄詩の雰囲気を強調するあまりに、彼が *Brut* に描いた世界は古代的であってワースの描き出したロマンス風の騎士の社会とは対蹠的であるときめたり、ラヤモンひとりが *Brut* の中で残酷で野蛮な特徴²を持っているかの様な評価を与えることには一考の余地があると思われる。

そこでこの小論は実際に Wace と Layamon のテキストを並べて検討し、果して彼等の描いた *Brut* の世界は大層違ったものなのか、Wace はどの様に Layamon に受継がれていったのかを探ってみようとするものである。つまり Layamon がどの程度 archaic であり less sophisticated³ なのか調べたいと思う。それから両者を比較する事によって当然浮かび上って来る Wace の特徴的なフランス風嗜好や Layamon のアングロ・サクソン的氣質にも焦点をあててみたいのである。以下問題を 5つの項に分けて話を進めよう。

第 I は中世のロマンスに織込まれてくる女性との恋愛関係の描写や roman courtois で troubadour が

語った woman-worship と courtesy のたしなみがどの程度に Wace と Layamon に現われてくるかを調べ、

第IIは Wace と Layamon の描く King Arthur と円卓の騎士達の肖像には果して大きな差異があるのだろうかと検討し、第IIIは Layamon に対する一つの批評から彼の特徴といわれる ferociousness について Wace と対比して考え、第IVは *Roman de Brut* を翻訳するにあたって Layamon がみせる Anglo-Saxon 気質から彼の Englishness の一つの特徴を明らかにし、第Vは Layamon のイギリス人らしさと好対照をなす Wace のフランス的な嗜好を全篇を通じて考察する。それは courtly sentiment であるよりむしろ彼の Norman gait であるようだ。その具体的特徴をテクストからとりあげる。

I

婦人に対する愛情や優しい心づかいを描く点では Layamon は Wace より多少ひかえめでこそあれ、決してひけを取らない。我々はまず女性への恋心の描写を、アーサーの父王ユーサーがコーンウォール公ゴロワの妻イガーナに横恋慕する場面に認めることができる。(彼女は後にユーサーの子を宿しアーサー王を生む)

.....Ygerne, sa femme,
Curteise esteit e bele e sage
E mult esteit de grant parage.
Li reis en ot oï parler
E mult l'aveit oï loer ;
Ainz que nul semblant en feïst,
Veire assez ainz qu'il la veïst,
L'out il cuveitee e amee,
Kar merveilles esteit loee.
Mult l'ad al mangier esguardée,
S'entente i ad tute turnee.
Se il mangout, se il beveit,
Se il parlout, se il taiseit,
Tutes eures de li pensot
E en travers la regardot.
En regardant, li surrieit,
E d'amur signe li faiseit.
Par ses privez la saluot
E ses presens li enveot,
Mult li ad ris e mult clunied
E maint semblant fait d'amistied ;
Ygerne issi se conteneit
Qu'el n'otriout ne desdiseit.

Wace ll. 8573—8596

þe king sende his sonde
to Igærne þere hende.
Gorlois eorles wif

wifmone alre hendest.
 Ofte he hire lokede on
 & leitede mid ezenē.
 ofte he his birles sende
 fron to hire borde.
 ofte he hire loh to
 & makede hire letes.
 and (heo) hine leofliche biheold
 ah inæt whær heo hine luuede.
 Næs þe king noht swa wis
 ne swa ȝære witele.
 þ imong his duȝeþe
 his þoht cuðe dernen.

⁵
 Layamon ll. 18534—18549

Uther は Gorlois に伴われて王の饗宴に列席した Igerne をみそめるのである。Wace のユーサーはイガーナを恋して食べる間も、飲む間も、話す間も、黙っている間も、彼女を想い、彼女を見詰めて微笑みかけ、愛の合図を送る。Layamon のユーサーも負けてはいない。彼は度々酌人を彼女の食卓へとつかわし、彼女を見詰めて笑いかける。彼は彼の心を隠すことが出来ない。ユーサーは遂にイガーナに恋ぐるいをして股肱の重臣の Ulfín に何とかしてくれなければ彼女恋しさの余りに死んでしまうなどと言う。

L'amur Ygerne m'ad surpris,
 Tut m'ad vencu, tut m'ad conquis,
 Ne puis aler, ne puis venir,
 Ne puis veillier, ne puis dormir,
 Ne puis lever, ne puis culchier,
 Ne puis beivre, ne puis mangier,
 Que d'Ygerne ne me suvienge ;
 Mais jo ne sai cum jo la tienge.
 Morz sui se tu ne me conseilles.

W. ll. 8659—8667

Ulfín ræd me sumne ræd
 oðer ich beo ful reðe dæde.
 swa swiðe me longeð
 þ ne mai i noht libben.
 after þere faire Ygærne

L. ll. 18718—18722

この様に Wace も Layamon もユーサーの恋情をロマンスの主人公の雰囲気で以て描き出している。また、アーサーが王妃グイニヴアを大切にしていたことは、簡単な passage においてではあるが、Wace と Layamon が異口同音に記している。

'Artur l'ama mult e tint chiere ;' (W. l. 9656), 'Arður heo nom to wife / & luuede heo wunder swiðe' (L. ll. 22241—22242).

Woman-worship の精神や courtoisie (curteisie)⁶ は Layamon にはまだ鮮明に現われず、Wace の描

写のはしばしに見られるのであるが、*Roman de Brut* で amour courtois を思わせる言葉は円卓の騎士の交わす冗談と、アーサーの戴冠式に参集する騎士の資格を述べたところに散見する程度である。この言及を全篇の中からとりあげ殊更重視して、Wace の物語の特徴は courtly sentiment であると言い、Layamon の描いた *Brut* の世界を Wace から昔に遡った古い社会であるかの様に考えるのには疑問の余地があろう。

II

Wace の騎士達は Layamon の武将達の住む世界からかけ離れた、中世封建社会の住人であってロマンス風の騎士であると殊更に強調するのは危険なのである。Wace のアーサー像は courtoisie を心得た王であって確かに Layamon のアーサーと比べると洗練されている。礼節正しさ、生まれの良さ、勇気のあること、気前の良さに於て他の君主を凌駕しているのだが (ll. 9030—9032)，彼はまた、強くて剛胆で勝ち誇っている自信満々の王者でもあるのだ。名声を愛し、名譽を愛し、ほまれの名を残さんと望む英雄である (ll. 9021, 9025—9026)。

Les thecches Artur vus dirrai,
Neient ne vus en mentirai ;
Chevaliers fu mult vertuus,
Mult fu preisanz, mult gloriis ;
Cuntre orguillus fu orguillus
E cuntre humles dulz e pitus ;
Forz e hardiz e conqueranz,
Large dunere e despendanz ;
E se busuinnus le requist,
S'aidier li pout, ne l'escundist.
Mult ama preis, mult ama gloire,
Mult volt ses faiz mettre en memoire,
Servir se fist curteisement
Si ce cuntint mult noblement.
Tant cum il vesqui e regna
Tuz autres princes surmonta
De curteisie e de noblesce
E de vertu e de largesce.

W. ll. 9015—9032

Eugene Mason はアーサー像を次の様に現代語訳した：

He was a stout knight and a bold : a passing crafty captain, (Forz e hardiz e conqueranz, *l.*, 9021,) …… He was one of Love's lovers ; a lover also of glory ; and his famous deeds are right fit to be kept in remembrance, (Mult ama preis, mult ama gloire, / Mult volt ses faiz mettre en memoire, *ll.* 9025—9026).

'preis' は戦による名声だけではなく、淑女を礼譲を以て愛する能力をも評価の中に含んでいる。⁹ 同様に 'conqueranz' も征服者として勝ち誇っているだけではなく、異性に対する自信満々の意味があるが、此処では女性への愛だけに 'preis', 'conqueranz' を解釈してよいだろうか。Mason は 'Mult ama preis, を 'He was one of Love's lovers,' と訳したが筆者は 'アーサーは名声を大層愛した' と直訳して、こ

の‘名声’を愛することは、武将としての統率力、栄誉を評価されるべく望んでいるものと考えたい。

Wace の Artur は chanson de geste に描かれている heroic age の英雄の美德を具えている。彼のイメージはアングロ・サクソンの伝統的な英雄像を継承している Layamon の Arður とさしてかけ離れてはない。何となれば英雄時代の hero の美德は広い世界に共通したものであるから。

pa þe Arður wes king
 hærne nu seollic þing.
 he was mete-custi
 ælche quike monne.
 cniht mid þan bezste
 wunder ane kene.
 he was þan ȝungen for fader
 pan alden for frouer
 and wið þan unwise
 wunder ane sturnne.
 woh him wes wüder lað
 and þat rihte a leof.
 Ælc of his birlen
 & of his bur-þæinen.
 & his ber-cnihtes
 gold beren an honden.
 to ruggen and to bedde
 iscrud mid gode webbe.
 Nefde he neuere nænne coc
 þat he nes keppe swide god.
 neuær nanes cnihtes swein
 þat he næs bald þein.
 þe king heold al his hired
 mid hæzere blise.
 & mid swulche þinges
 he ouer-com alle kinges.
 mid ræhzere strengðe
 & mid riche-dome.
 swulche weoren his custes
 pat al uolc hit wuste.
 Nu wes Arður god king
 his hired hine lufede.

L. ll. 19930—19961

Layamon は Wace の詩行 ‘Servir se fist curteisement / Si ce cuntint mult noblement.’ (ll. 9027—28) を具体的にアーサーにはべる従者の様子を述べて説明し、翻訳しようと試みている様だ (L. ll. 19932—19952)。Arður はまた、Germanic hero で、brave, daring, boast-uttering, boast-performing,

hostage-hanging king¹⁰ であるといわれるがこれは Layamon の Arður に限らない。Wace の Artur も又而り、fierce king¹¹ なのだ。

Wace の chevaliers はロマンス風の騎士というより、*Chanson de Roland* のシャルマーニュの12臣将の如くに、‘Les vaillanz humes les meilleurs, / Les plus hardiz cumbateürs,’ (W. ll. 9865—9866) であって、王に生死をゆだねて戦に明け暮れ、目ざましい手柄をたて、は太っ腹のアーサーから褒賞を授かる剛勇の武将達である。御婦人の愛を求めて武者修業に専念する騎士の姿は Wace の *Brut* に見られない。それらしい騎士の姿勢への言及はほんの数行である。

III

Layamon は僧職にありながら残忍な心を持っていたという批評がある。R. S. Loomis は特に彼の野蛮な一例としてアーサーが Yuletide feast¹² で宴席の順列優劣争い¹³ を起した張本人一族の男達の首をはねさせ、女達の躰をそがせる描写をとりあげている。然しアーサーは ‘…wið þan unwise / wunder ane sturnne. (ll. 19938—39) なのだから味方同志でアーサー王のクリスマスの饗宴に血を流す争いを起したおろか者の一族に厳しい罰を与えるのは不自然ではない。Wace はこの紛争については特に何も記していないからこれは Layamon の補足であろうが、この争いと懲罰のいきさつは、この様なつまらぬいさかが二度と起らぬために皆が平等に坐れる円卓をアーサーが採用するという話の導入部になって、円卓の謂が生彩を帶びて印象づけられてくるのであるから、ここでは我々は Layamon の残酷性を論ずるより物語作家としての彼の巧みさを買って然るべきかと思う。Layamon だけが ferocious であるというのは片手落ちだ。このような懲らしめは殊更彼が考え出したわけではないのだから。殺戮の残酷な場面は Wace にも描かれている。例えばブルータスがイギリス国統一に至る過程に獅子奮迅のいくさをする時、Wace の描写は生々しく残酷である。

Li Greu esteient endormi,
Ainz que il fussent estormi,
Out par les très maint cop doné,
Maint puin, maint braz, maint pié copé,
Espandue mainte cervele
E percée mainte büele.

W. ll. 467—472

his horn he vastliche bleu.
Iherden hit Troynisce
& tuhten to þon Gricken.
heo heom aweihten
mid heora wæles igrure.
par fluwen haueden on felde
fæiðe þer feollen.
moni hond moni fot
þe hæp wæs þe wrse.

L. ll. 808—816

Brutus のひきいるトロイの軍勢は眠っているギリシャ軍に不意打をかけ、こぶしや腕や足を沢山ちよん切り、脳みそを飛び散らし、いたる所で腸を突きやぶる。この場合 Layamon はどうかというと、‘par fluwen haueden on felde / …… / moni hond moni fot’ と Wace を真似てはいるがそれ以上具体的

に残忍な描写を続けず、OE 風 epic formulæ の ‘fæiðe þer feollen’ を使い、‘þe hæp wæs wrse.’ と切上げてしまった。

Wace の円卓の騎士達も仲々savage である。ローマ皇帝のもとへ使者として迎えられた Gerin, Bos, Gawain の3人の中、ガーウェインは使者の役目も果さぬうち、皇帝に縁続きの Quintilien の言葉が気に喰わぬからと、いきなり彼を叩き切り3人がたふと逃げ帰る話は Wace も Layamon も変わらないが、Wace のガーウェインが「御免」とも断らずに馬に飛び乗るのに対して(W. ll. 11757—11760)、Layamon のガーウェインは「我々を追って来られる勇敢なお方がおられても、私は容赦なく刀で叩きりますぞ」と少くとも断りの捨てゼリフを残す(L. ll. 26465—26470)。果してどちらのガーウェインが野蛮であろう。

IV

Dorothy Everett は Layamon のイギリス人らしさを、彼が Wace のフランス風 *Brut* を訳した際にその扱い所とした伝統的な Old English の英詩の概念、古きものへの強い憧れを示した彼の詩作の方法に認めている。いくさの身ごしらえをするアーサー王のいでたちを語る Layamon の言葉から Everett は *Beowulf*¹⁴ を連想する。確かに、Layamon の戦いの描写は古代英語で書かれた battle song の雰囲気を彷彿とさせる。Layamon がこの意味でイギリス的なのでは言う迄もないが、この項では、Layamon が示すアングロ・サクソン気質を *Brut* に登場する戦士達の会話の中から Wace と対比して撮り上げてみようと思う。

ブルータス勢の勢いに押されて浮足立った Poitou 王 Goffar のひきいる軍勢にブルータスの重臣の一人 Corineus は‘敵に後を見せるとは卑怯なり’と大みえ切って呼びかけるのであるが、Wace の描くコリネウスの叩く大口と、Layamon の描くコリネウスの生真面目な説教風の詰問調とは面白い対照をなしている。

Vus fuiez trop vilainnement
Ki fuiez pur mei sulement ;
Ja estes vus plus d'un millier
Si fuiez pur un chevalier.
Ne savez cele part fuir
Que jo ne vus face murir ;
Mais riches conforz vus puet estre
Que vus murrez od ceste destre
Dunt jo ai maint bon cop duné
E maint millier d'omes tué
E maint gaiant par mi trenchié
E en enfern maint enveié.
E quatre e quatre, e treis e treis,
Venez ça, ferez demaneis !

W. ll. 887—900

Goffar mid þire ferde
wi wolt þu fleam makian.
Ne miht þu na wiht so fleon
ȝif þu us wlt heonne fleman.

þu most swijner fehten
er we heonne iwenden.

L. ll. 1576—1581

‘私一人のために逃げるとはふらち千万……いや、だが御安心召されい。御前がた死ぬのは僕のやつつけた御連れと一緒にだからな。何千人も殺して、大男の首をはねて地獄へ送り込んでやりましたぞ。さあ、三人ずつでも四人ずつでもかゝって来なされ。’

と Wace は皮肉たっぷりなのだ。Layamon の方は、‘ゴファーよ何故軍勢を引き連れて逃げるのだ、我々を此の地から追い払うつもりなら逃げてはならぬ。我々が退却するより先に貴殿はしっかり戦うべきですぞ。’と至極御尤なことを言って敵を呼び戻そうとするのである。Wace の物語を大体に於て内容を変えずに写し取っている Layamon なのであるが Wace がひとたびフランス風のからかいや、馴熟落や、軽口を叩き始めると Layamon は其の個所を削除するか、或いは彼独特の生真面目な精神で翻訳してしまう。

Layamon のこの特徴はローマ皇帝 Lucius からアーサーの恭順を強要する使節の到来に接して、善後策を講ずるために召集された騎士達の間に交される会話にも認められる。

Quant Cador dist en suzriant,
Oiant le rei, ki ert avant:
En grant crieme ai, dist il, esté,
E mainte feiz en ai pensé,
Que par oisdives e par pais
Devenissent Bretun malveis.
Kar oisdice atrait malvaistied
E maint hume ad aperecied.
Uisdice met hume en peresce,
Uisdice amenuse prüesce,
Uisdice esmuet les lecheries,
Uisdice esprenat lé drueries.
Par lunc repos e par uisdice
Est juvente tost ententive
A gas, a deduit e a tables,
E a autres geus deportables.
Par lunc sujur e par repos
Poüm nus perdre nostre los.
Pose avum esté endormi,
Mais Damnedeu, sue merci,
Nus ad un petit resveilliez,
Ki Romains ad encuragiez
De chalengier nostre païs
E les autres qu'avum cunquis.

W. ll. 10735—10758

þa stod þer up Cador
þe eorl swiðe riche ær.

and þas word sæide
bifore þan riche kinge.
Ich þonkie mēe drihte
þat scop þes dæies lihte.
þisses dæies ibiden
þa to hirede is iboȝen.
and þissere tidinge
þe icumen is to ure kīge.
þat we ne þuruuen na mare
aswunden liggen here.
For idelnesse is luðer
on ælchere þeode.
for idelnesse makeð mon
his monscipe leose.
ydelnesse makeð cnihte
for-leosen his irihte.
idelnesse græiðeð
feole ueele craften.
idelnesse makeð leosen
feole þusend monnen.
þurh eðeliche dede
lute men wel spedeð.
For ȝare we habbeoð stille ileien
ure wurðscipe is þa lasse.
ah nu ic þokie drihtne
þae scop þas dæses lihte.
þat Romanisce leodē
sunden swa ræie.
& heore beot makieð
to cumen to ure burhȝes.

L. ll. 24899—24930

Cornwall の Cador は戦が始まりそうでやれやれだとばかりの口調で… ‘暇があつて平和ですと、我々は悪くになりますな。無為はろくなことにならない…。’ と口を開く。Wace のカドー公が ‘Uisdive met hume en peresce, / Uisdive amenuse pr̄uesce,’ / Uisdive esmuet les lecheries, / Uisdive espreut lē drueries.’ (ll. 10743—46) と得意の repetition を始めると Layamon はその口調を取つて ‘…idelnesse makeð mon / his monscipe leose. / ydelnesse makeð cnihte / for-leosen his irihte. / idelnesse græiðeð / feole ueele craften. / idelnesse makeð leosen / feole þusend monnen. / þurh eðeliche dede / lute men wel spedeð.’ (ll. 24913—22) この様に真似ているが、彼は Wace の ‘Quant Cador dist en suzriant’ (カドーが笑いながら言った….) という言葉を訳さなかつた。Layamon は重大な会議の討論をにこにこと冗談まじりに話す態度が納得出来なかつたのか或いはそれは彼の生真面目な性格の好みに合わなかつたのでもあろうか。

カドー伯に答える Wace の Gawain (Walwein) は、‘殿、何卒そうお怒りになられますな、いくさの後の平和は宣しいものにござります。土地は美しくも豊かにもなります。まことに、巫山戯ますのも、御婦人との愛も結構なことで、恋人のため、愛を獲得するために騎士達は騎士道に励みます。と軽く応酬する。

Layamon のガーウェイン (Walwain) は真正面から怒ってカドーに反対し、平和は神聖なる神の創り給うた誰にも結構なもので、平和は善良な人間に善行をさせるのです、と真面目くさってカドーに喰つてかゝっている。

Sire cuens, dist Walwein, par fei,
De neient estes en effrei.
Bone est la pais emprés la guerre,
Plus bele e mieldre en est la terre;
Mult sunt bones les gaberies
E bones sunt les drueries.
Pur amistié e pur amies
Funt chevaliers chevalerries.

W. ll. 10765—10772

þat iherde Walwain
þe wes Ardures mæi.
and wraððede hine wið Cador swide
þa þas word kende.
and þus andswærede
Walwain þe sele.
Cador þu ært a riche mon
þine ræddes ne beod noht idon.
for god is grið and god is frið
þe freoliche þer haldeð wið.
and godd sulf hit makede
þurh his godd-cunde.
for grið makeð godne mon
gode workes wurchen.
for alle monnen bið þa bet
þat lond bið þa murgre.

L. ll. 24949—24964

Layamon の騎士達は優しい気持は持ち合っていても冗談をいわない。Wace は此處ではロマンスの騎士の宮廷風な姿を垣間見せて呉れている。それに対して Layamon のガーウェインは説教臭い坊様のようだ。Cador と Gawain の軽快なフランス風の軽口の応酬は Layamon の苦手とする所である。二人の会話を大真面目な論争に変えてしまった。これは Layamon の職業がらというだけではなく彼の生来の生真面目アングロ・サクソン気質が彼の文学にうつり伝わっているように我々は思う。

しんでいたアンジェヴアンの宮廷の模様をうつし入れたと思われるアーサー王の戴冠式の華やかな祝宴の様子である。式の模様は Wace も Layamon も共にアーサー王宮廷の富と権勢を示す豪華絢爛さを以て描いている。豪華さという点だけを挙げれば、あまたの従者、給仕人の末に至る迄きらびやかに純金で装っている Layamon のアーサー宮廷が勝っているやも知れぬ。然し祝宴の酒盛りも果て、其の後の競技となると、Wace の描く宮廷の淑女は如何にもフランスの女性らしく生きいきとしたあでやかさを現わして来る。彼女達は余興の競技者をみるために壁へ登り意中の人を見付けると秋波を送り、顔を振向ける (W. ll. 10539—42)。Layamon の貴婦人は Wace の淑女達よりもおとなしい。彼女達は壁によりかゝって競技の面々を眺めるのである (L. ll. 24713—24720)。

さあそれからの余興となると、Wace の雄弁はにわかに活気を帯びてくる。彼はフランス風の賑やかで華やかな情景を満喫させてくれる。宮廷には軽業師や、歌い手、楽師、勝負師が集まり、武勲詩や恋のうたや、手回し琴弾きの唄や、評判の詩やハープやフリュート伴奏のうたなどが聞かれる。堅琴、太鼓、笛、管絃樂、七絃琴、一絃琴、ティンパニー、トランペットと樂器の賑やかな音色の中にダイスとテーブルを持って来させている声も混じる。喧嘩をしたり叫んだり、「お前はごま化しただろ、外へ投げろ、掌を動かして骰子を振れ！…」等と聞こえて来る。沢山着込んでいた者が身ぐるみはがれてゆく情景も見られる。

Quant li reis leva del mangier,
Alez sunt tuit esbanier ;
De la cité es chans eissirent,
A plusurs gieus se departirent ;

 Les dames sur les murs muntoent
 Pur esgarder cels ki juoent ;
 Ki ami aveit en la place
 Tost li turnot l'oil e la face.
 Mult out a la curt jugleürs,
 Chanteürs, estrumenteürs ;
 Mult peüssiez oïr chançuns,
 Rotruenges e novels suns,
 Vieleüres, lais de notes,
 Lais de vîèles, lais de rotes,
 Lais de harpes, lais de frestels,
 Lires, tympes, e chalemels,
 Symphonies, psalterius,
 Monacordes, timbes, coruns,
 Assez i out tresgeteürs,
 Joeresses e jugleürs ;
 Li un dient contes e fables,
 Alquant demandant dez e tables.

 Assez suvest noisen e crient ;
 Li un as autres suvent dient :

"Vus me boisiez, defors getez,
Crollez la main, hochez les dez !
Jo l'envi avant vostre get !
Querez deniers, mettez, jo met !"
Tels i puet aseeir vestuz
Ki al partir s'en lieve nuz.

W. ll. 10521—10524, 10539—10556, 10581—10588

Wace の賑やかさに比べて Layamon の余興の描写は次のようである。彼は苦々しい気持で Wace の騒騒しさを削除したのであろうか、彼の興味は専ら Arður にかしづく廷臣達の群像と競技の晴れの勝者が、アーサーより褒賞を授かることである。

þa þe king iȝetē hafde
and al his mon-weorede.
þa buȝen ut of burhȝe
þeines swiðe balde.
alle þa kinges
and heore hereȝringes.
alle þa biscopes
and alle þa clærckes.
alle þa eorles
and alle þa beornes.
alle þa þeines
alle þa sweines.
feire iscrudde
helde ȝeond felde.

L. ll. 24681—24694

Monianes kunnes gomen
þer heo gunnen driuen.
& wha swa mihte iwinne
wurðscipe of his gomene.
hine me ladde mid songe
at-forē þan leod-kinge.
and þe kīg for his gomene
ȝæf him ȝeune gode.
Alle þa quene
þe icumen weoren þere.
and alle þa lafdies
leoneden ȝeond walles.
to bihalden þa duȝeðen
and þat folc plæie.
þis ilæste þeo dæges
swulc gomes & swulc plæges.

þa a þā ueorðe dæie
þe king gon to spekene.
and aȝæf his gode cnihten
al heorere rihten.
he ȝef feoluer he ȝæf gold
he ȝef hors he ȝef lond.
castles & cleðes eke
his monnen he iquende.
per wes moni bald Brut
biuoren Arðure.

L. ll. 24705—24730

饗宴がおひらきになるとアーサー王は持前の気前の良い寛大さを発揮して賓客に贈物をする。再び Wace の筆はとゞまる所を知らぬ程滑らかになり、得意の repetition で anaphora を用い、アーサー王の引出物を列挙する。

Treis jurs dura la feste issi.
Quant vint al quart, al mecrésdi,
Li reis ses bachelers feufa,
Enurs delivres devisa ;
Lur servises a cels rendi
Ki pur terres l'ourent servi ;
Burcs duna e chasteleries
E evesquiez e abeïes.
A cels ki d'autre terre esteient,
Ki pur amur al rei veneient.
Duna cupes, duna destriers,
Duna de ses aveirs plus chiers.
Duna deduiz, duna jouels,
Duna levriers, duna oisels,
Duna pelicuns, duna dras,
Duna cupes, duna hanas,
Duna palies, duna anels,
Duna blialz, duna mantels,
Duna lances, duna espees,
Duna saietes barbelees.
Duna cuivres, duna escuz,
Ars e espiez bien esmoluz,
Duna lieparz e duna urs,
Seles, lorains e chaceüirs.
Duna haubercs, duna destriers,
Duna helmes, duna deniers,
Duna argent e duna or,

Duna le mielz de sun tresor.
N'i out hume qui rien valsist
Qui d'autre terre a lui venist
Cui li reis ne dunast tel dun
Qui enur fust a tel barun.

W. ll. 10589—10620

祝宴の4日目, Artur は騎士見習の従者に恩賞を与え官職封を分かち, 領地を司って彼に仕えた者には城市や城を与える, 司教区や修道院を与えた。外国から敬意を表して王のもとに参じた面々には盃や軍馬やとアーサーの高価な財宝を与え彼等に満足と喜びを与えるのであった。贈物の品目は, グレーハウンドあり, 鳥あり, 毛皮裏付き外套, 衣服, 大盃, 高台付酒盃, 上衣, 指輪, チュニック, マント, 槍, 刀, 矢, 逆刺, 真鎧, 三角楯, 弓, 研ぎすました矛, レオパード, くま, 段梯子, 甲冑, 房付鞭, 鎖かたびら, 馬, かぶと, デナリウス銀貨, 銀, 金等々, 大層なものでなしである。

Layamon と比べてみよう。彼はもう Wace に従ってゆけない。彼は口調も構文も其位に 'he ȝef seoluer he ȝæf gold' (L. l. 24725) [cf. 'Duna argent e duna or,' (W. l. 10615)] と Wace を写し始めるが, Arður は銀や金を与え, 馬や土地を与え, 城や衣服も与え彼の臣下を喜ばせた (ll. 24725—24728)。と, このあたりでぶつかり Wace のお喋りを削除してしまう。戴冠式の豪華な Arður 宮廷の雰囲気は終幕に近付くと Wace の賑々しさに比べて急に貧弱にみえてくる。が然し Layamon は賑やかな管絃や悪巫山戯や騒々しい宮廷や止まる所を知らぬ有様の饒舌はアーサー王と廷臣達の威儀を傷つけるとでも考えて, 敢て Wace の賑やかさを抹殺した模様である。我々は此處に Wace と Layamon の歴然とした相違を認め得る。

Wace のこの際限なしのお喋りは極めてフランス的な特徴と言えるであろう。武勲詩の *Chanson de Roland* にも既にそれは認められるし, 中世随一の詩人ヴィヨンや, ルネサンスの華, ラブレーの「ガルガンチュア・パンタグリュエル物語」にも顕著な 'verbiage' の一面がある。つまり, *Roman de Brut* に於てみられる極立った Wace のフランス人の嗜好は騎士道華やかな世界に具現される courtoisie¹⁵ ではなくて, それは, いざれは生真面目で沈鬱なアングロ・サクソンの国民性を変化させ, Merry England¹⁶ の出現に影響を与えることになる。Norman gait¹⁷なのである。

——結び——

我々は以上五項目に分けてワースとラーヤモンのテキストを対比させて来た。その結果, Brut の世界が双方共多分に heroic age の伝統に則った英雄時代の社会である事に気付く。ワースとラーヤモンの描く王侯の肖像は英雄時代に廣く共通していた, いくさ人の社会倫理, 美徳を具えているから, 彼等の英雄のイメージは一致するのである。ワースがロマンスの洗練された騎士の住む社会を *Roman de Brut* に描き, ラーヤモンは OE poetry に見られるような古いアングロ・サクソン風の世界に住む粗野な武将の社会を彼の *Brut* に創り出していると考えるのは妥当ではない。野蛮な心を持つと言われるラーヤモンの ferocity はラーヤモンひとりに限らずワースにも又認め得るものである。

貴婦人の愛を得るために騎士道に励む, という esprit courtois の woman worship の精神はワースの中に認められるのだが *Roman de Brut* の全詩行を眺める時, その数行の言及を以てワースの特徴は courtly sentiment¹⁷ であると言える程重要視できるものではないだろう。

女性に対する愛情や優しさを描く点ではラーヤモンは控え目でこそあれワースに習って恋愛描写を行なっている。しかし, アングロノルマン文学と翻案する ME 文学の舞台へ複雑で魅力的な女性が賑やかに登場するのは今暫く時を待たなければならない。ラーヤモンがワースより more archaic であって less

sophisticated であったと言う時、それが OE poetry の伝統を強く受継いだ言語から受ける印象であるのは言う迄もないが、又一面それはラーヤモンの生真面目で冗談や駄洒落を言わぬ気質にも関係しているだろう。less sophisticated なラーヤモンの世界とは、即ち軽味のある、巫山戯た、賑やかなノルマン風のワースの気心を充分に写し取れなかったところにあると思われる。

注

- 1 Dorothy Everett, *Essays on Middle English Literature* (Oxford, 1955), pp. 35—37.
also see : R. S. Loomis, "Layamon's Brut," *Arthurian Literature in the Middle Ages* (Oxford, 1961), pp. 110—111.
- W. H. Schofield, *English Literature from the Norman Conquest to Chaucer*, reprint (New York, 1969), pp. 351—352.
- 2 Loomis, *Op. cit.* pp. 107—108.
- 3 *Selections from Layamon's Brut*, preface by C. S. Lewis, ed. by G. L. Brook (Oxford, 1963), P. viii
- 4 Schofield, p. 351.
- 5 Wace の作品の引用は *Le Roman de Brut de Wace*, ed. by Ivor Arnold (Paris, 1934) に拠り、 Layamon の作品の引用は *Layamon's Brut*, ed. Sir Frederic Madden K. H. (London, 1847) に拠った。 Wace よりの引用には W., Layamon よりは L. の略記号をしるし、引用文は各 lines を示した。
- 6 'curteis' は既に武勲詩 *Chanson de Roland* に見られる。 'Oliver li proz e li curteis,' の如くに使われていた。しかし 'curteisie' という言葉が多く用いられるようになるのは12世紀頃といわれる。アーサー宮廷の礼節正しき有様を述べるこの言葉は Wace にはまだ 3 回しか出て来ない。
- 7 see : Wace ll., 10770—10772.
当時のアーサー宮廷の騎士達は三たび戦って腕をためし騎士として立派な資格を証明出来なければ女性の愛は得られなかった。このことは Wace も Layamon もしるしている。 W. ll. 10511—10520, L. ll. 24661—24680. Wace が 'Ja peüst aveir druerie / Ne curteise dame a amie,' (ll. 10513—14) と必ずしも結婚を対象としない 'druerie' という語を使っているのに対し Layamon は腕をためした 'cniht' でなければ高貴な婦人は 'laverd' に選ばなかつたし、 'hif oht-scipen icudde' (l. 24671), 彼の勇敢さを明らかにした騎士だけが花嫁を求めることが出来たのだと言う。この場合 Wace も Layamon も女性の愛を獲得するための騎士の資格を問題にしている。 Layamon は女性への礼讓を描かないわけではない。然し両者の間には微妙な違いが認められる。 Wace の詩は amour courtois を思わせる。 Layamon は Wace の詩行をうつし取ってはいるが騎士と婦人の関係を結婚を対象としたものに翻訳している。
- 8 *Wace and Layamon Arthurian Chronicles*, Introduction by Gwyn Jones, trans. by Eugene Mason, (Everyman's Library, 1966) p. 43.
- 9 'Pris' Tobler-Lommatsch, *Altfranzösisches Wörterbuch*, 参照。然しながら Mason の現代語自由訳から 'one of Love's lovers' という phrase をとってきて、それがたかも Wace のアーサーのイメージであるかのように紹介している C. S. Lewis には承服できかねる。 see : *Selections from Layamon's Brut*, ed. by G. L. Brook, introduction by C. S. Lewis, (Oxford, 1963), p. ix
- 10 Gwyn Jones, p. xii.
- 11 see : boast-uttering (W. ll. 9317—9336) (L. ll. 19980—19995, 20102—20119)
boast-performing (W. ll. 9337—9356) (L. ll. 20070—20081., 20120—20145)
hostage-hanging (W. ll. 9261—9262) (L. ll. 21101—21109)
- 12 L. ll. 22827—22846.
- 13 Loomis, p. 107. 裏切者の耳や鼻をそぎ落し、女達を宙吊りにする話は既に古く、「オデュッセイア」にも出ている (XXII)。

Layamon's *Brut* と Wace の *Le Roman de Brut*

- 14 Everett, pp. 35—36.
- 15 アングロ・サクソン気質を変化させた Merry England 出現の背景は厨川文夫博士の「中世の英文学と英語」、研究社、1962、pp. 149—156に詳解されている。
- 16 アーサーの戴冠式を控えての、準備にせわしく活気あふれる賑やかな描写もその一つの特徴と言えよう。
- 17 Wace は ‘courtoisie’ を学びつゝある社会に語りかけているのだと Gwyn Jones は言う。 *Wace and Layamon Arthurian Chronicles*, p. viii. *Brut* の中で Wace の ‘amorous sentiment’ を過大視することは出来ない。see: Charles Foulon, “Wace” in *Arthurian Literature in the Middle Ages*, p. 101.
La Partie Arthurienne du Roman de Brut, ed. I. D. O. Arnold et M. M. Pelan (Paris, 1962) の Introduction には、理想の王として Wace が描いた Arthur と Charlemagne のイメージとの類似が指摘されている。
see: pp. 30—31.

4) *Les Dytees* attributed to
Walter de Bibbesworth

——ビブズワスの *Les Dytees* 「詩」——

I. Text

British Library MS Addit. 46919

[92']

- 0 Cy comencent les dytees moun syre Gauter de Bybeswurthe,
1 Amours m'ount si enchaunté Regardez, lysez, apernez.
 Qe jeo ay tut dys deschauntee,
 Tut quantke jeo chauntoye
4 Qar touzjours deschauntoye
 Pur ceo tieng mon chaunt a deschaunt.
 Qaunt jeo enchauntaunt
 Chaunt chaunt, par qey j'enchaunt
8 La chaunte qe jeo chaunte.
 Chaunçoun ou chaunçounette
 Qe n'est chaunçoun nette,
 Qar la mieuth chauntaunte
12 Sy est deschauntaunte.
 Qaunt ele chaunte tel chaunz
 Qe n'ad en sey ly douz chaunz,
 Qar par lour chauns deschaunteez
16 Unt les genz sy enchaunteez,
 Q'yly quydent estre chaunteours
 Mes yl sunt tut deschaunteours,
 Qar lour ames deschauntent
20 Touz les chaunz q'yly chauntent.
 Ore par une suy sy enchaunté
 De qy j'ay mes chauns chauntee,
 Qe ly plusours y vount chauntaunt.
24 Mes ore dy en mon chaunt taunt
 Qe ja plus ne chaunteray
 De Maryot mon chaunt trerray,
 Qar de Marye voyl chaunter
28 Pur le chauntour enchaunter,
 Qaunt sovent me enchauntoy
 Par Maryot qe chauntoy.
 Ha, dame Eve, mal chaunt chauntas,

- 32 Qaunt Adam taunt enchauntas
Q'yl manga vos chaunçonz,
Qar tolu nous ount douz chaunçouns
Par toun mal enchaumentement
36 Qy autrement chaunte yl ment.
Ne fust ly chaunt douz dount chaunta
«Ave» qe Gabriel chaunta.

[92^v]

- Jamés ne chaunteroyes
40 Nul chaunt qe chauntereies.
Adam e tu chaunterez
Taunke ly faufee enchaunterez,
Car Eva deschauntames
44 E par Eva contre chauntames.
Qaunt nous «Ave» ben chauntoms
Touz maufeez enchauntoms,
E ja ne deschaunterons
48 Taunt com «Ave» bien chaunteroms.
E ledement yl chaunte Eva
Qy Ave lest pur Eva.
En touz ses jours ad ve
52 Qy volunteers ne dyt : «Ave».
La treduce Maria
Qe fiz e pere e Mary ad,
Qar qy est *plena gratia*
56 Ou k'ele seyt, graunt grace y ad,
Qar *Dominus* est ove ly
Q'en eubrew ad noun Hely.
Qaunt vient a «*Benedictatu*
60 *in mulieribz es tu*,
Del haut salu te esmayas
Donk dyt ly angle : «*Ne timeas*»,
E après taunt te conforte
64 Qe respoundis com forte :
«Auncele suy, veiez me cy,
Solom ton dyt *Fiat michi*,
A toun message bien m'accord»
68 E ensi comença nostre acord.
Par la duce «Ave Marie»
Le corps a la suye Marie.
Qe volunteers ne chaunt : «*Elyt*

- 72 Ave» al mouster *et* al lyt,
E Maria qe chaunt emende,
Par ly fu fete l'amende.
A Deu de vos *grant* trespass
- 76 Vous savez touz qe jeo ne trespass.
Lesons donks les chauncouns sales
Qe ceus faus chauntent en sale,
Qar les chauntauns en salysent
- 80 Sovent eyns qe la sale yssent.
E chauntoms de la Pucele,
Qar unkes nule puyscele
Ne fu de sy noble afere
- 84 S'amour m'aprent de chaunt a ffere.
En novel compas de ryme
En la mer la ou jeo ryme,
E me fet chauncouns rymer
- 88 E en la mer myeuth rymer.
D'assez q'avaunt ne rymoye
Qaunt jeo de foles rymoye,
Dount les fous y vount rymaunt
- 92 Par quey yl serchent rymaunt.
E en la mer ou yceus ryment
Qe touz jours saunz ryme ryment,
Pur ceo sagement rymez
- 96 Vous qy les beaus motz rymeez,
Qar si vos chauncouns rymees
Meynent en orde rymeez.
La lasse alme al rymour
- 100 Jeo le tiens a mal rymour.

[93^r]

- Hey, las ! taunt longes rymay
Q'a poy qe jeo rymay.
En cele oscure ryme
- 104 Ou meynte alme ad mal ryme,
Pur ceo qe le mal rymeyent
Taunt com en siecle rymeyent.
Jamés mes ne rymeray
- 108 Fors les chauntz q'arymeray,
De Madame a qy rymoyt
L'aungele qaunt de tel rymoyt
Vers Nazareth ou yl ryma.

- 112 L' «Ave Marie» ou tel ryme a
Qe qaunt nous bien la rymons
Tut dreyt ver le port rymouns,
La ou ly bons seyntz rymerunt
- 116 Pur ceo qe «Ave» rymerunt,
Ou il touz jours rymerunt
Loenges a qy rymerunt.
Gabriel, bone ryme as
- 120 E ta chaunçoun ben rymé as,
Qar qy la rymera,
En paradys rymera
Ou nous trestouz rymeroms,
- 124 Par «Ave» qe nous cryeroms.
Ore, vous ay, Dame, rymee.
Veyez si jeo ay bien rymé.

II. *Les Dytees* と写本 Addit. 46919

Walter de Bibbesworth と言えば13世紀後半、イングランドにおいて、さる豪族 (anglophone land-owner) の夫人¹のために家事を司る際に必要なフランス語教本 *Le Tretiz* をあらわした作者としてまず知られている。

Bibbesworth はフランス語を教えようとするとき、前述のごとく *Tretiz* の中に特に同音異義語 homonyms に关心を寄せた。例えば、太陽からは光線 *rais* が送り、海からは魚の鱈 *raies* がとれ、市にむかって縞模様の布地 *rays* の荷が行く、車輪の輻も *rais* という、などと、このように homonyms を並べてその違いを認識させようとするのである。しかし、これらの様相を明瞭に示そうとする試みはかえってアングロノルマンの特徴を際立たせることになるのでもあった。

Bibbesworth は *Tretiz* のほかに短かい詩も作った。*Les Dytees* と呼ばれており、それは現在 British Library の写本 Additional 46919 の中に残されている。*Tretiz* の書かれてある現存写本は断片も含めると16本を数えるが、*Dytees* は単独写本、すなわち Addit. 46919ff. 92^r-93^r にのみ書き残されているらしい。この詩はかつて Romania 13 に碩学 Paul Meyer が紹介しているものであるし²、また M. Dominica Legge : *Anglo-Norman Literature and its Back-ground*, における Bibbesworth の作品解説にも *Tretiz* のほかに *Débat* とこの *Dytees* が記載されている。しかし、筆者の知るかぎりにおいて、いまだこの全文は翻刻されていない現状であるから、ここに *Dytees* を翻字し、また Bibbesworth の意図を明らかにするために多少の説明を加えることとした。Legge は自著の中でこの詩について ‘an exercise in grammatical rhymes’³ と紹介している。*Dytees* の技法に関しては Meyer が ‘La première chanson, qui est une pièce en l'honneur de la Vierge, prouve que la goût des vers équivoqués avait pénétré en Angleterre.’ と記した⁴。Vers équivoqués は同音異義の脚韻であるが曖昧な韻を作る一種のしゃれ、修辞の遊びであろうか。例えば、この *Dytees* において、巧みにラテン語とフランス語を合わせて脚韻を作っているところ、*Qar qy est plena gratia/Ou k'ele seyt, graunt grace y ad vv. 55-56* [イタリック筆者] などはその典型的な例であろう。写本には見られる如く詩行の2行を1行に纏めて、あたかも中間韻を踏んでいるように綴られている。アングロノルマンの詩行については alexandrin とか hémi-stiche とか octosyllabe とか判然と認められない。英語の stress accent の影響を多分に受けて

Les Dylees attributed to Walter de Bibbesworth

heptasyllabe が octosyllabe と混ざり合う詩行もアングロノルマンの一つの特徴である⁵。Bibbesworth はこの小品において、もっぱら動詞の種々の活用形を押韻に用い、また様々な品詞を使用して文法の理解を勧めようとつとめたらしい。彼が *Tretiz* の中で深い関心を寄せている homonyms も使われているし、上述の vers équivoqués もちりばめてある。

‘Amours m'ount si enchaunte’ で始まる詩が記されているこの写本 Addit. 46919 は William Herbert (d. 1333?) collection⁶ と言われる写本（前述）である (Vellum; ff ii+211 230 mm × 160 mm. British Library では select manuscript 扱い)。*Pastoralia* と称し得る写本⁷ ということだが説教や教訓詩、マリア、キリスト讃美の抒情詩に加えてかなり多くの世俗的な詩が含まれている。アングロノルマン語の作品が数多く収録されていることは Bibbesworth の *Tretyz* を転写した際に紹介した。狩猟についての最も早い時期の教本も収められてある、それはエドワード II 世の宮廷に仕えていた英国人 Guillaume Twiti の作ということだ。

III. Les Dylees の特徴

この短詩は P. Meyer が Gautier de Biblesworth による聖母マリアの讃歌と紹介しているのであるが、その構成は三部分に分かれている。まず、(1-48行)名詞 *chaunt* と動詞 *chaunter* をとりあげ、動詞は様々な活用形が示される。マリアと対照的なエヴァの姿も現れる。ついで (49-84行) 恩寵深きマリアを称える歌である。最後 (85-126行) は動詞 *rymer* を使って同音異義語また、多義をも示す。

第一部 1-48行

chanter に接頭辞 *en-*, *des-* を加え、それぞれ意味の異なることを示している。*en-* を附した 1 行目の *enchaunte* は「愛に心を奪われて」魅了されたという意味であるが、この言葉と押韻する *deschauntee* は「対旋律を歌っていた」、即ち愛の旋律にたいして隨唱していた、ということになろうか。しかし、何を歌っても単旋律を歌い *deschauntoye* 4 私の唄は調子外れの歌 *deschaunt* 5 である。エヴァはアダムを魅惑する悪い唄を歌った。我々から美しい歌をとり上げてしまった。*chaunt* や、*chaunter* という綴りは AN の特徴ある綴りである。同様に [o] + 鼻子音 [n] が *oun* と綴られている。

この第一部において特徴のある押韻を以下に示しておく：

A. participe passé (m)/participe passé (f)

1-2, 21-22

B. ① substantif/indicatif prés. (3)

35-36

② substantif/participe prés.

5-6

③ substantif/adjectif

9-10

C. gérondif/adverbe

23-24

D. -onz/-ounz 33-34, -ons/-oms 47-48

-oyes/-eies 39-40

語尾にはこのような綴りも散見する。

E. chauncounette/chauncoun nett 9-10

chauntaunt/chaunt taunt 23-23

chaunteray/chaunt trerryay 25-26

Eの脚韻は Meyer が言及した vers équivoqués と言えるだろう。Bibbesworth が最後に ‘Veyez si
jeo ay bien rymé’ と言っているのはこのような技法も指してのことであろうか。

第二部 49-84行

恵み深きマリアを讃美する主題が展開する。

押韻の特徴としては第一部と同様にまず、同一品詞の語が互いに押韻しない場合が顕著である。加えてフランス語がラテン語 [L] と押韻している詩行やヘブライ語 [H] と押韻している詩行も認められる。

A. ① préterite (2)/subjonctif prés. (2) [L]

61-62

② indicatif prés. (3)/adjectif (f)

63-64

B. ① substantif/indicatif prés. (1)

75-76

② substantif/indicatif prés. (3)

53-54

③ indicatif prés. (3)/substantif

67-68, 73-74

④ substantif (ablatif) [L]/indicatif prés. (3)

55-56

⑤ substantif/infinitif

83-84

⑥ substantif [H]/substantif

71-72

⑦ pronom/substantif [H]

57-58

⑧ substantif/interjection [L]

51-52

⑨ adjectif (pl)/substantif (sg)

77-78

C. ① adverbe/pronom [L] (datif)

65-66

② participe passé [L]/pronom (2) [L]

59-60

E. ad ve/Ave 51-52

Maria/Mary ad 53-54

gratia/grace y ad 55-56

conforte/com forte 63-64

me cy/michi 65-66

Ely/al lyt 71-72

第三部 85-126行

rymer という動詞を使って同音異義、多義を示す。また、法、時制、人称などを種々違えて押韻に用い、文法的な理解を奨めているようである。rimer には「詩を作る、歌う、韻を踏む」という意味、「漕ぐ、航行する、世を渡る」という意味がある。ちなみに、「漕ぐ」、「航行する」という動詞 rymer は86, 88, 93, 94, 106, 111, 114行において使われており、「うたを作る、歌う」という意味では87, 90, 91, 96, 97, 101, 102, 105, 107, 110, 113, 115, 116, 117, 118, 122, 123, 125行であろうし、「押韻する」という場合は89, 92, 95, 98, 108, 109, 120, 121, 126行である。そのほか名詞では「櫂」85, 94、「歌」112, 119「歌人」99, 100、「氷霧」103行がある。また、彼等は常に海で出鱈目に漕ぐ、という個所、93-94は手法を知らずして詩を作るという意も含んでいるだろう。

第一部、第二部と同様に Bibbesworth の押韻の特徴をとりあげておく：

A. ① indicatif prés. (pred.) (2)/indicatif prés. (aux.) (2)

119-120

② indicatif préterit (3)/indicatif prés. (3)

111-112

③ participe passé (f)/participe passé (m)

125-126

B. ① substantif/indicatif prés. (1)

85-86

② gérondif/substantif (p. prés.)

91-92

D. -ez/-eez 95-96, -ees/eez 97-98

-ons/ouns 113-114, -oms/-oms 123-124

E. rymes/ryme a 111-112

IV. 品詞別押韻

名詞：名詞

11-12 chauntaunte (p. prés.)/deschauntaunte (p. prés)

13-14 chaunz/chaunz

17-18 chaunteours/deschaunteours

33-34 chaunçonz/chaunçouns

49-50 Eva/Eva

69-70 Marie/Marie

71-72 Elyt/lyt

81-82 pucele/puyscele

99-100 rymour/rymour

103-104 ryme/ryme

代名詞：名詞

57-58 ly/Hely

名詞：動詞

5-6 deschaunt/enchauntaunt

35-36 enchauntement/ment

53-54 Maria/ad

55-56 gratia [L]/ad

75-76 trespass/trespas

83-84 afere/a ffere

85-86 ryme/ryme

動詞：名詞

67-68 acord/acord

73-74 emende/amende

91-92 rymaunt/rymaunt (p. prés.)	
名詞：感嘆詞	
51-52 ve/Ave	
名詞：形容詞	
9-10 chauncounette/nette	
形容詞：名詞	
77-78 sales/sale	
動詞：形容詞	
63-64 conforte/forte	
動詞：副詞	
23-24 chauntaunt/taunt	
動詞：代名詞	
59-60 benedictatu [L]/tu [L]	
副詞：代名詞	
65-66 cy/michi [L]	
動詞：動詞	
1-2 enchaunte/deschauntee	3-4 chauntoye/deschauntoye
7-8 enchaunte/chaunte	15-16 deschaunteez/enchaunteez
19-20 deschauntent/chauntent	21-22 enchaunte/deschauntee
25-26 chaunteray/trerray	27-28 chaunter/enchaunter
29-30 enchauntoyt/chauntoyt	31-32 chauntas/enchauntas
37-38 chaunta/chaunta	39-40 chaunteroyes/chaunteries
41-42 chaunterezez/enchaunterezez	43-44 deschauntames/chauntames
45-46 chauntoms/enchauntoms	47-48 deschaunterons/chaunteroms
61-62 esmayas/timeas [L]	79-80 salsent/yssent
87-88 rymer/rymer	89-90 rymoys/rymoye
93-94 ryment/ryment	95-96 rymez/rymeez
97-98 rymees/rymeez	101-102 rymay/rymay
105-106 rymeyent/rymeyent	107-108 rymeray/arymeray
109-110 rymoys/rymoyt	111-112 ryma/a
113-114 rymons/rymouns	115-116 rymerunt/rymerunt
117-118 rymerunt/rymerunt	119-120 as/as
121-122 rymera/rymera	123-124 rymeroms/cryeroms
125-126 rymee/rymē	

V. Anglonormanism

1) a+鼻子音 n>aun

aungele 110 avaunt 89 chaunçoun 9, 10, 120 chaunçounette 9
 chaunçouns 34, 77, 87, 97, chaunçounz 33 chauns 15, 22
 chaunt 5, 7, 24, 26, 31, 37, 40, 73, 84 chauntauns 79 chauntaunte 11
 chaunte 8 chaunteours 17 chauntour 28 chauntz 108

Les Dytees attributed to Walter de Bibbesworth

chaunz 13, 14, 20 deschaunt 5 deschauntaunte 12
deschaunteours 18 enchauntement 35 grunt 56
qaunt 6, 13, 29, 32, 45, 59, 90 rymaunt 92 saunz 94 taunke 42
taunt 24, 32, 48, 63, 101, 106

[verb]

chaunt 71 chaunta 37, 38 chauntames 44, chauntas 31
chaunte 8, 13, 36, 49 chauntee 22 chauntent 20, 78 chaunter 27
chaunteray 25 chauntereis 40 chaunterez 41 chaunteroms 48
chaunteroyes 39 chauntoms 45, 81 chauntoye 3 chauntoyt 30
deschauntames 43 deschauntee 2 deschaunteez 15
deschauntent 19 deschaunterons 47 deschauntoye 4
enchauntas 32 enchauntaunt 6 enchaunte 7 enchaunte 1, 21
enchaunteez 16 enchaunter 28 enchaunterez 42
enchauntoms 46 enchauntoyt 29 rymaunt 91

2) o+鼻子音 n>oun

chaunçoun 9, 10, 120 chaunçounette 9 chaunçouns 34, 77, 87, 97,
countre 44 dont 37, 91 moun 0 noun 58 toun 35, 67

[verb]

ount 1, 34 respondis 64 rymouns 114

3) ai → e

afere 83 ensi 68 ledement 49

[verb]

ffere 84 fet 87 fete 74

4) e → ee の使用

dytees 0 faufee 42 maufeez 46

[verb]

chauntee 22 deschauntee 2 deschaunteez 15 rymee 125
rymees 97 rymeez 96, 98

5) ie → e

ben 45, 120 dytees 0

6) ier → er

mouster 72 volunteers 52, 71

7) o → u

tut 2, 3, 18, 114

8) on → om

[verb]

chaunteroms 48 chauntoms 45
cryeroms 124 enchauntoms 46
rymeroms 123

9) on → un

unkes 82

- 10) eur → our
lour 15, 19 plusours 23 rymour 99, 100
- 11) oi → ey
dreyt 114 quey 92 sey 14 seyt 56
[verb]
veyez 126
- 12) ou → u
treduce 53
- 13) c → sc
puyscele 82
- 14) ç → s
lesons 77
- 15) qu → q
qar 4, 11, 15, 19, 27, 34, 55, 57, 79, 82, 97, 121, qe 2, 8, 10, 14, 23, 25,
30, 38, 40, 54, 64, 71, 73, 76, 78, 80, 94, 102, 105, 113, 116, 124
qey 7 qy 22, 36, 50, 52, 55, 96, 109, 118, 121
- 16) re → er (métathèse)
[verb]
apernez 0
- 17) z → th
mieuth 11 myeuth 88
- 18) k
donk 62 donkes 77 quantke 3 unkes 82
- 19) y の使用
dreyt 114 dys 2 dyt 66 dytees 0 ly 14, 23, 37, 42, 57, 62, 74
lyt 72 meynte 104 meynent 98 myeuth 88 paradys 122
poy 102 puyscele 82 qey 7 quey 92 qy 22, 36, 50, 52, 55, 96,
109, 118, 121 rymaunt 92 ryme 85, 94, 103, 104, 112, 119
rymour 99, 100 sey 14 seyntz 115 seyt 56 sy 12, 21, 83
syre 0 yl 18, 20, 33, 36, 49, 111
[verb]
arymeray 108 ay 2, 22, 125, 126 chaunterey 25 chaunteroges 39
chauntoye 3 chauntoy 30 cryeroms 124 deschauntoye 4
dy 24 dyt 62 enchauntoy 29 esmayas 61 lysez 0
quydent 17 ryma 111 rymaunt 91 rymay 101, 102 ryme 86
rymé 120, 126 rymee 125 ryme 97 rymeez 96, 98
ryment 93, 94 rymer 87, 88 rymera 121, 122 rymeray 107
rymeroms 123 rymerunt 115, 116, 117, 118 rymeyent 105, 106
remez 95 rymons 113 rymouns 114 rymoyle 89, 90
rymoyt 109, 110 suy 21, 65 suye 70 trerray 26 veyez 126
voyl 27

20) 古形

ove (—apud) 57

注

1) Dame Denise de Monchensy は Waterbeech に女子修道院を建立した女性であったろうとは Paul Meyer の説 (d. 1304), see : *Romania* 13 p. 501. A. C. Baugh (1959) の調査によるとこの *Traité* は 1240 から 1250 年の間に書かれたもので、献呈された夫人は Warin of Munchensy の second wife, Dionysia of Ansty であるという。いずれもいまだ確証がない。

see : Baugh, A. C. 'The Date of Walter of Bibbesworth's *Traité*', *Festschrift für Walther Fischer*, Heidelberg, 1955 pp. 21-33

Beebe, B. 'The English Baronage and the Crusade of 1270', *Bulletin of the Institute of Historical Research*, vol. XLVIIINo. 118, pp. 127-148

Walter de Bibbesworth (現写本では Gauter de Bybeswurthe と綴る) は knight であり, crusader であり且つ grammarian であった。see : M. Dominica Legge, *Anglo-Norman Literature and its Background*, Oxford, 1963 p. 283

2) Paul Meyer, 'Notice et extraits du MS 8336 de la Bibliothèque de Sir Thomas Phillips' *Romania* 13, 1884 pp. 531-532 (写本紹介 pp. 497-541)

3) D. Legge, p. 348

4) P. Meyer, p. 531

5) R. C. Johnston, 'On Scanning Anglo-Norman Verse' *Anglo-Norman Studies* 5, 1983 pp. 153-164

6) William Herbert Collection の写本は後に著名な蔵書家 Sir Thomas Phillipps のコレクションに入り Phillipps MS 8336 と記された。Phillips MS 8336 は現在の British Library MS Addit. 46919 である。

7) David L. Jeffrey and Brian J. Levy eds. & trans. *The Anglo-Norman Lyric : An Anthology*, Pontifical Institute of Mediaeval Studies, Toronto, 1990, see : pp. 3-5

* 92 recto より始まるビブズワスの『詩』の前には聖母マリア讃歌 (91^v- 92^r) が書かれてあり 'Trop pres de la male marche' と終っている。93^rからは Bozon の'De bone femme la bounte'が続く (93^r-95^v)。

Les Dytees

British Library MS Addit. 46919

ff. 92^r-93^r

P gant ergoys se maryed. Non est caplours nom maryon.
 e puy's ben enfer en maryon.
 qas en luy aue maryon. fet maryage a maryon
 la dist chescu que maryon. fet maryage a maryon
 chescu plesnt son mal marye. de puy's enfer marye
 s'ysant qyl ad mes marye. de puy's enfer marye
 mal marye ver le marye. trop pres de la male marye.
 ou plus souent marye.

Cy commencent les dylees ayons sire Gantez de blybessurthe
 regalet hisez a pernez.
 chmouys meut si enchaunte. que Jeo ay tut d'is eschauntee.
 tut qncke ieo chaunte. qar tout iours deschaunte.
 pur ceo tieng mon chaut a deschaut. qaut ieo enchauntaut.
 chaut. chaunte. pur qey sentante la chante que ieo chaunte.
 Chauntour ou chauntourne. que nest chauntour nette.
 qar la oyent chautante. sy est deschautante.
 qaut ese chante tel chaut. que nad en sey sy leut chaut.
 qar pur souz chauns deschaunteez. vnt les gent sy enchaunteez.
 qyl quydent estre chaunteours. mes yl sunt tut deschauteours.
 qar souz ames deschaudent. tout les chaut qyl chaudent.
 ore pur une sy sy enchaunte. de qy jai mes chaut chautee.
 que sy plusouys ynoit chautant. mes ore dy en mon chaut taut.
 que ja plus ne chaunteay. de maryot mon chaut tressay
 qar de marye voys chantes. pur le chauntour enchaunter.
 qaut souent me enchauntoyt. par maryot que chauntoyt.
 Dame cue nial chaut chautas. qaut adam taut enchauntas.
 qyl mangia vos chauntour. qar tolu nous oint douz chauntours.
 pur tout nial enchaument. qy mitement chante. yl ment.
 He fust sy chaut douz douz chauta. que que gabriel chauta.

Jamz ne chaunte poyes / mis chaint tē chaunter eies.
 Elam e tu chaunterez / tañre h̄y faufet enchaunterez.
 Car ena deschauntameſ / e par ena conſerchauntameſ.
 qānt nous aue bien chauntameſ / tout manfeet enchauntameſ.
 E ia ne deschaunterons / tañt com aue bien chaunterons.
 E ledement yſchaunte ena / q̄y aue leſt pur ena.
 En tour ſes Jours ad ve / q̄y volūteſ ſe dyt aue.
 La treducte maria / q̄e fit e pere e mary ad.
 qar q̄y eſt plena gr̄ce / ou leſe ſeyt gr̄at gr̄ce y ad.
 qar dñs eſt ouel h̄y / qen enbreſh ad nou h̄y.
 qānt vient a bñda tu / in miſibz eſtu.
 Vel haut ſalu te eſmayas / donk dyt h̄y engle ne tñmeſ.
 E Apres tañt te conforſte / q̄e reſpondis conforſte.
 Elanteſe ſuy veiez me cy / ſolom ton dyt ſiat miſhi.
 El ton message ben macord / e enſi conenca noſtre acord.
 Par la dute aue marie / le corps ala ſuye marie.
 qe uolūteſ ne chaunt eſtit / que al mouſter z al h̄it.
 E maria q̄e chaunt emende / par h̄y ſu fete ſamende.
 A den de vos ḡnt trespas / vous ſaniez tourz q̄e ieo ne trespas.
 Leſons donks les chauntameſ ſales / q̄e ceus ſuis chauntēt enſal
 qar les chauntameſ enſalyſent / ſouent cynd q̄e la ſale yſſent.
 E chauntameſ de la piuſe / qar vñkes miſe piuſ cele.
 He ſu de h̄y noble aſſe / ſamour maprent de chaunt aſſe.
 En nonel compas de rym / enſamer la ou ieo rym.
 E me ſer chauntameſ rymet / e en ſamer myent ſymet.
 Nasset qānt ne rymoye qānt ieo de foles rymoye.
 Dout les fois yvoit rymant / pur que y ſerchēt rymant.
 E en la mer ou yceus rymant / q̄e tout ious ſauz ryme rymet
 pur ceo ſagemet rymet vo / q̄y les beaus metz rymeez.
 qar ſi vos chauntameſ rymeez / ayement en orde rymeez.
 Ta laſſe alme al rymour / ſeo ſe tiens amal rymouz.

Hey las taut songes rymay / qapoy ce ieo rymay
 En cele oscure ryme / ou meynre alme ad mal ryme;
 pur ceo qe se mal rymeyent / taut com en fetele rymeyent.
 Jamys mes ne rymey / fors les chaintz qai ymer ay:
 De ma Dame a qy rymoit / lamgese qut de tel rymoit.
 vers natactz ou p's ryme / l'ane maje ou tel ryme a
 qe qut nous bien la rymons / tut dreit ver le port rymous.
 Ia on h'bons seintz rymezut / pur ceo qe aue rymezut.
 On il tour ionys rymezut / soenges a qy rymezut.
 Gabriel bone ryme as / et ta chaintcom ben ryme as.
 qar qy la rymezut / en p'ndys rymezut.
 on nous trestout rymezut / par aue qe nous t'rezut.
 ore nous ay Dame rymee / velez si ieo ay bien ryme.

De bone feme la bonite) Si ee puyse.
 voroy byen qe fust comte)
 ieo fuse ablamet pur verte) et me teusse.
 Si ieo celasse lour bonite .
 pur un thes qay charpente) Haut et bas;
 ou tut le monde i est entre)
 une feme fu corouee) et beau jolas.
 vñkes nentendy reuyser.
 feme qe deuisse taut amer) a bon droyt.
 Bone feme dort hom p'yer) qe meut h' soyt
 et pur autre dort hon p'yer
 Bone feme est souent blamee) de folye.
 pur la fole qest enfamee.

5) *Le Jeu d'Adam*
An Anglo-Norman Drama of the Twelfth Century

——アングロノルマン「アダム劇」——

—序—

「アダム劇」は現存する唯一の写本 MS Tours 927 によって伝えられてきたフランス語による最も古い宗教劇の一つである。その本文は12世紀半ばに成立したと推定される。

フランス、イギリスにおいて宗教劇の萌芽は凡そ10世紀ごろ教会の内部から発生した。教会の聖務日課の祭式や祝祭日の礼拝式は元来劇的側面を具えていたのである。聖職者たちは、これら典礼の重要なものをわかり易くして民衆を信心に導こうという目的のために短い劇にしきみ、彫琢を加えた。祝日、主日のミサ式文のところどころで歌われるラテン語の交誦、進句 trope には衣裳や小道具を使用した説明の場面がつけ加えられた。

この試みは教会堂内で聖職者が演ずる典礼劇へと発展するのである。古い記録ではウインチエスター司教、Æthelwold の制定した *Concordia Regularis* 「修道士規則」965-75の中に、劇的な復活祭朝課の一場面の演出が書き残されている¹といふ。

やがて典礼劇は聖堂から外へ出て、教会の正面入口を背景に前庭 parvis の広場で上演されるようになり、劇の言葉も俗語がラテン語にとって代った。拡大してゆく内容に個人的創作がつけ加わり、工夫が凝らされると劇は次第に聖務から離れて独立し、変貌してゆく。

「アダム劇」はちょうど教会内の典礼劇が教会を離れ民衆のものとなり、宗教劇 Mystery Play として発展してゆく初期の第一歩を示していく、準典礼劇の傑作である。準典礼劇と見做すべき所以は、三つの主題即ち、アダムとエヴァ、カインとアベル、予言者たちの証言²、という場面を持つこの劇の枠を一応形づくっているのが七旬節主日 Septuagesima の典礼、ラテン語による交誦と、降臨節の際の同じくラテン語による応答であるからだ。³ 礼拝式用の型どおりの liturgic なラテン語が朗誦されるとその意味を説明し、解釈を行う俗語、フランス語 (AN) による劇が展開する。このドラマツルギーは、しかし、作品が全く初期のものであるに拘わらず見事に統一がとれており、活気に溢れ、観衆の心に訴えかける魅力ある主役たちを舞台に登場させるのである。上演に必要なト書がラテン語で書きつけられてある所から察して役者は一部の者を除き修道僧、あるいは修道院附属学校の学僧、生徒であったと考えられている。悪役のサタン及びその手下共⁴という配役は僧侶にとっては喜ばしくない配役なので旅回りの芸人、吟遊詩人等がその役を貰い活躍したであろうという楽しい推測もできる。

現存する写本は13世紀後半のものでこれを筆写した写字生は南仏の人間であつただろう。然し随所に AN の特徴が見られ、アングロノルマン韻律の特徴が顕著である。古英語の「創世記」*Genesis* B に見られるアダム誘惑の描写と「アダム劇」におけるその場面の類似性が認められることなどによってこの劇が英國に於て成立した可能性も考慮し得るし、また、ノルマンディに於て成立したという見解も多い。いずれで成立したにせよ、現在一致を見ている諸学者の見解は、まず劇の原典がアングロノルマン語で書かれてあったということ、それはジョン王又はヘンリー3世の治世に Aquitaine 周辺へ極めて容易に伝達されたであろうということ、そしてその写しが Tours の单一写本となつて残ったであろうということである。写本は229葉から成り、Wace の *Vie de la Vierge Marie* や *La Vie de sainte Marguerite*

も含まれており、「アダム劇」は写本の 20 recto—40 recto に書かれてある。そのうちアダムとエヴァの物語は 20^r より 31^v までである。

作者は僧職であったのか、教会の教えである十分の一教区税について、収護の初物を神に捧げる習わしについて言及する。⁸ 作者はしかし、僧であると同時に劇作家であった。彼は当時の観衆が大いに関心を持ったであろう話題、人びとの生活に浸透した事柄を巧みに把えて、人類の歴史の始まり⁹ という厳粛で広大な背景の中に何の苦もなく移し入れる。E. アウエルバッハの言うリアリズムである。更に彼は登場人物の心理描写に優れた手腕を示し、彼等の性格づくりに非凡な冴をみせているので、この素朴な劇の登場人物はまるで親しみの持てる隣人のように見る者に迫り、語りかけてくる。octosyllabic と decasyllabic をもって流れる詩のリズムに変化をつける対話は、微妙な心理の綾を短い応酬に凝縮させる絶妙な扱いであって、その短い対話と対照的なアダムとエヴァの愁嘆場の長台詞と共に聴く者を舞台に惹きつけたことであろう。翻訳はアダムとエヴァの楽園喪失の物語に限った。Aebischer 版を底本として隨時写本を参照している。原文ラテン語の部分は [] を付して示した。

—訳—

アダム劇の演出手順

[一段と高い所に天国の楽園がしつらえられる。天国の中にいる人物は肩から上だけが見えるよう、その高さに楽園の回りをカーテンと絹の布がとり囲む。香りの良い花々や木の葉が散りばめられる。その場所が大層楽しい所と見えるように果実をつけた種々の樹を置く。やがてダルマチカを身に着けた救世主が現われる。アダムとエヴァは彼の面前に立つ。アダムは赤チュニック上衣を着け、エヴァはまことに女らしい白い服、白い絹の上服を着けており、二人は神に向かって立つ。アダムは然し神に近く落着いた顔付きで立ち、エヴァは少し顔を俯けている。アダムが答えねばならぬ時は速すぎも遅すぎもせず答えられるように充分弁えねばならぬ。彼自身だけでなく全ての人達が落着いて話すように、又話題にしている事柄につき当事者にふさわしい身振りをするように教えられていること。リズムを以て話すときは音節を加えたり省略したりせずに全ての音節を正確に発音し、言うべき事は次々と順に言う。科白を言うものが誰であれ天国を名指す時は、天国の方をみてそれを手で指し示す。

さて朗誦が始まる：

(朗誦) 最初に神は天と地を創られた

それが終るとコーラスが歌う：応誦

主はかくして造り給うた

歌が終り、神 (FIGURA, 形姿と呼ばれる) が口を開く] :

アダム (Adam) よ！ アダム答えて：主よ！

F. 大地の土から私はお前を創った。

A. よく存じております。

F. お前は私の似姿にした。私の姿を写して土から造ったのだ。以降決して私に背いてはならぬ。

A. 背きはいたしません。貴方様を信じ、私の創り主に服従します。

F. 私はお前によい仲間を与えた。(10) それはエヴァというお前の妻である。妻でありお前と同じものだ。彼女には誠実でなければならない。お前は妻を愛し、妻はお前を愛する、そうすればお前達二人は私の寵愛を受ける。彼女はお前に従い、そして二人は私の思いの儘になるように。汝の脇骨から彼女を造った。お前から生まれたのだから他人ではない。まさしくお前の身体から作り (20) 女はお前から出てきた、他からではない。理性によって彼女を支えよ。お前達の間にいさかいがなく、大いな

る愛と豊かな理解があるように。それが結婚の掟である。

[神はエヴァ (Eva) に向かって]：

エヴァよ、さてお前に話そう。言う事をよく聞き、よく覚えておくのだ。私の言う通りにすればお前の心に優しさが宿るであろう。汝の創り主なる私を敬い、(30) 私を主^{あるじ}と認めなさい。汝の考え、力、知恵の全てをもって私に仕えることだ。アダムを愛し、いとしみなさい。彼は夫でお前はその妻である。彼には常に従い、彼の言い付けからは、はずれぬように。優しい心で彼に仕え、愛するのだ、それが結婚のつとめであるから。汝がアダムの良き伴侶となるならば (40) 私は汝をアダムと共に栄えしめよう。

E. 主よ、私はそのように致します。貴方様のお気に入りますように、何事も背きは致しません。貴方様を主と認め、アダムを私と同じもの、そして又、より力強きものと認めましょう。アダムには常に忠実であって、良い相談相手となりましょう。あらゆることについてお気に召しますように、主よ、お仕えいたします。

[そこで神はアダムを近くへ呼び寄せ、ねんごろに言う]：

アダム、私の言うことを良く聞くのだ。(50) 汝を造ったからにはふさわしいものを汝に与える。私の掟を守ればお前は永遠に生き、病に苦しむことなく、健やかに過ごす。飢えることもなく、渴きのために飲まねばならぬこともない。寒さもなく、暑さも知らぬ。お前は喜びの中にあり、疲れを知らず、楽しみの中にあり、決して悲しみを知らぬ。お前の生命は常に喜びに満ち、とこしえであり、生命に限りはない。私はそのことを汝に告げる、エヴァにもそれを聞かせたい。(60) エヴァが分からねば自ら愚かものということだ。汝は大地の全ての支配権を持つ、鳥類、獣類、其の他諸々の富の。羨む者は無益である、何となれば全世界は汝に従うのだから。汝に善きもの悪しきものをわきまえさせる、そのような才覚を持つ者は自由を享受するのだ。全てを公平に秤にかけよ。私の忠告を信じ、私に忠実であって欲しい。惡を捨てて善に従え。(70) 汝の主を愛し、主と共にあれ。たとえどの様な助言を受けても私の忠告をおろそかにするな。若しお前がそれを守れば決して罪を犯はしない。

A. 貴方様のお恵に深く感謝します。貴方様は私を創られ、善と惡とを私の権限の中におくという恩恵を授けて下された。私は喜んで貴方に奉仕します。貴方様は私の主であり、私は主に造られしもの。貴方は造り賜い、私は主の被造物です。心を尽してお仕えせぬよう (80) よこしまな心には決してなりません。

[そこで神は片手で天国の楽園をアダムに示し、次のように言う]：

F. アダムよ。

A. 主よ。

F. 私の考えを聞かせよう。さあ、この園を見よ。

A. 何という所ですか。

F. 天国だ。

A. ほんとうに大変美しい。

F. 私は天国を其処に置いた。其処にとどまる者は私の友である。お前は楽園にとどまり、それを守るように。

[彼等を楽園に送り、言う]：

この中にお前たちを住まわせよう。

A. 我々は此処に長く住めるのですか。

F. 間違いなく永遠に生きるのだ。決して死ぬことなく、病にも罹らぬ。

[コーラスが歌う：応誦

そこで神は人を連れて行かれた
それから神は片手を天国に向けて上げ、言う] :

この園の自然のさまを教えよう。(90)此處では如何なる楽しみも欠けることがないのだ。この世で凡て被造物が欲しがる善きものはそれぞれ此のところで望み通りに与えられる。此の園では女は男の怒りを知らず、男は女にたいして恥も恐怖も覚えさせぬ。男は罪なくして子供をつくり、女は苦しまずして子供を産む。汝は永遠の生命を得、幸福に生きる。お前は決して年をとらぬ。死を恐れることはない、それは汝に危害を加えぬ。(100) 汝は楽園から外へ出さずに、此處で暮らすのだ。

[コーラスが歌う：応誦

主はアダムに語られた
そこで神はアダムに樂園の木を示して言う] :
お前は気儘にこの果実の全てを食してよい。

[それから禁じられた樹とその実を示して言う] :

お前にこれは禁じる。どんな楽しみもこれから得てはいけない。若しこの木の実を味わうならば、直ちに死を感じ、私の愛を失う。お前の境遇も悪しきさまに変わるので。

A. 私は貴方様の掟を全て守ります。私もエヴァも決して掟を背くことはありません。たった一個の果実でこのような領地が失くなるのでしたら、私が外へ風の中へ投げ捨てられるのは当然です。リンゴ一つのために私が貴方様の愛を捨てるのならば、(110) 正気であれ狂気であれ、私は反逆者に対する法により裁かれるべきです。誓いを破り自分のあるじを裏切るんですから。

[そこで神は教会の方へ行き、アダムとエヴァは誠実な心をもって喜びながら天国を逍遙する。その間悪魔たちは舞台の方へ集まってきて様子を窺う悪魔らしい身振りをする。彼等はやがて樂園へ近付き、禁じられた木の実をエヴァに指し示し、食べるようになると何やら誘っている。

それから悪魔 (DIABOLUS) はアダムに近寄り、そして言う] :

何をしているのかね、アダム？

A. とても楽しく此處で過ごしています。
D. うまくやっているのかい。
A. 苦しみなど何もありません。
D. もっと良くなれるのだがな。

A. どの様にしてなれるのか分かりませんが。

D. 知りたいかね。

A. 私がもっと上手くやれるんですって！

D. どんな工合にするのか知っているぞ。

A. 何の必要がありましょう。

D. 必要でないことはなかろう。

A. 役に立ちません。

D. いや、役に立つ。

A. どれ程だか分かりません。

D. (120) 性急にお前に言うことはできぬが。

A. まあ、言って下さい。

D. 言わぬぞ。お前さんが頼み疲れるのを見るまでは。

A. 私は知らなくとも良いですよ。

D. つまりだな、お前さんはもうそれ以上の善いものを持つ必要はないのだ、お前は最も善いものを持

っているのにそれを楽しむすべを知らんのだね。

- A. どうしてですか。
D. 聞きたいか、こっそりと教えてやろう。
A. 是非そう願いたいです。
D. アダム、まあお聞き、しっかりと聞くのだぞ。(130) お前の得になることだ。
A. それでは聞きます。
D. 私を信じるかね。
A. ええ、しっかりと。
D. まったく全てだぞ。
A. 一つだけは別ですが。
D. どんな事だ。
A. 言いましょう、私は創り主には背きませんよ。
D. そんなに畏れているのか。
F. ええ、確かに。私はあのお方を愛し、そしてまた、恐れています。
D. お前は分かっちゃいないね、自分に何ができるのか。
A. 善いことも悪いこともできます。
D. 悪いことが起るなどと思った日が穢いだ。(140) お前さんは栄光に包まれており死にはしないのだろう。
A. 神は私に言されました。捷をふみはずした時は死ぬのだと。
D. その大それた違反とはどんなものか、今すぐに聞きたいね。
A. ええ、すぐに言いますよ。神は私に命じられました。楽園にあるあらゆる木の実を食べても良いと、但したった一つだけはいけないと、そう教えて下さいました。その木は禁じられていますから(150) 手を触れぬようにしています。
D. それは一体どの木だ?

[その時アダムは手を差し伸べ、悪魔に禁断の木の実を示して言う] :

- A. あの木が見えますか、まさしく神が禁じ給うた木です。
D. 何故なのか知っているのかい。
A. 勿論知りません。
D. その理由を教えてやろう。他の果物は彼にとって何も重要ではない。

[片手で禁じられた果実を示し、そしてアダムに言う] :

- あの高い所にぶら下っている果実の他はだ。あれは知恵の木の実だ。全ての知識についての知恵を与える。あれを食べればお前は善いことをするのだよ。
- A. (160) 私がどんなことを。
D. いざれ分かろう。お前の眼は直ちに開け、あるべき事柄は全てお前に明らかとなる。お前のやりたい事は全てできる。木の実を引張って摘みとればお前さんは良いことをするのだよ。お食べ、ためになるから。何も神を怖れなくなるよ。食べてしまえば、お前は神と等しい者だ、だから彼はその木の実を禁じようとするんだ。私を信じるかね? 果実を食べてごらん。

- A. そうはしません。
D. 可笑しなことを聞くものだ、食べんのか?
A. (170) 食べない。
D. 何とお前は愚かだな。この言葉をお前はまた思い出すだろうよ。

[そこで悪魔は退場し、他の悪魔のところへ行く。舞台を一回りしてしばらく間を置いてから楽しそうに嬉しそうに、アダムを再び誘惑に行く、そして言う]：

D. アダム、何をしている？ 考えを変えるかね、お前さんはまだ馬鹿な考えをしているのか？ さきにお前に言っておこうと思っていたのだが、神の施しを受ける者として、この果実を食べるようになると神はお前を此處へ置かれたんだよ。他の楽しみはあるのかい。

A. ええ、勿論欠けるものは何もありません。

D. (180) もっと高望みをしないのかい？ 神があんたを庭番にしたのだからもっともっと自分の身を大切に楽しくできるだろう！ 神はお前を自分の場所の守り番にしたのだ。お前さんは他の楽しみを求めるのかい？ だた腹一杯食べさせようとお前を造ったのかい？ もっと別な栄誉は与えられないのか、よくお聞き、アダム、私の言うことを聞くのだよ。私は心底お前に忠告しよう。お前は主などいらなくなる、(190) つまり創り主と同等になるんだ。総てを言って上げよう。あの林檎を食べればだ、

[悪魔は天国の方へ手をあげる]：

汝は尊厳を以て支配し、神と力を分かつことができる。

A. ここから出てゆけ！

D. アダム、何と言ったんだ？

A. この場から立ち去れ、お前はサタンだ。悪い忠告を私に吹き込む。

D. 私がどのようにしてだ？

A. お前は私を神罰の苦しみに落としたいのだな。我が主といさかいをさせ、(200) 私から喜びを奪い、苦悩に陥れようとする。お前なんか信じないぞ、悪魔よ去れ！私の眼の前に再び現れるんじゃないぞ！ そんなに厚かましくするな！ お前は裏切者で真心のない奴だ。

[そこで悪魔は悲しそうに頭を垂れてアダムから離れ、地獄の門の所まで行き、他の悪魔と話をする。それから観衆の中を一めぐりし、やがてエヴァのいるあたりから楽園へ近付く。嬉しそうな顔をしてエヴァにおべっかを使い、次のように話しかける]：

エヴァさん、さあ、貴方の所へ来ましたよ。

E. サタンよ、どうしてなの、言って下さらない？

D. 貴方のためになることと貴女の栄誉を求めているんです。

E. 神様がそうして下さいますように！

D. 怖がってはいけませんね。天国に関する全ゆるもくろみを、かなり前から(210) 私は聞いて知っていますよ。その一部分を貴女に言って上げようと思って。

E. じゃ始めて下さいまし、聞きますわ。

D. 聞きますか。

E. ええ、聞きましょう。何も貴方を怒らせたくありませんから。

D. 私の話を隠しておけますか。

E. ええ、たしかに。

D. 露見するだろうがなあ。

E. 絶対にそんなことしません。

D. それでは貴女を信頼しよう。それ以上の確証はいらない。

E. わたしの言葉を信じて下さってよろしいのよ。

A. (220) 貴女は育ちが良いね。アダムに逢ったがあれは全く馬鹿だよ。

E. 少し堅物なのです。

- D. いずれ柔かくなるさ。今のところ地獄より固い。
E. 彼は高貴なのですわ。
- D. それどころか奴隸だ。自分のことを気遣おうとしない。少くともせめて貴女は考えなさいよ。貴女は弱くて優しいものなのだ。薔薇よりも瑞々しく、水晶よりも白く、(230) 谷間の氷上に降る雪よりも白い。創り主は悪い夫婦を造ったものだ。あんたはとても柔かく、彼は堅すぎる。然しながらあんたがずっと賢い、心に立派な分別が宿っている。だからこそ貴女とお近付きになるのがよいんだ。貴女と話したい。
- E. ええ、結構です。
- D. 誰にも知らさぬように。
- E. 一体誰が知るんですの？
- D. アダムにも。
- E. 知らせません、私からは。
- D. それでは言うから、言うことを聞いて欲しい。(240) 我々二人しか此の場にはいない。アダムは向こうだから我々の話は聞こえない。
- E. 大きな声で話して下さいな。彼には何も分からぬでしょうから。
- D. この庭で貴女のために仕組まれてある大いなるはかりごとを話して上げよう。神が貴女に与えた果実といふのはたいして善い所がなく、貴女に厳しく禁じた果実はその中にたいした力を持っている。その中にこそ生命の恩寵と、(250) 力と支配と、善と惡の全ての知識の恵みがある。
- E. どんな味ですの。
- D. 天上の味わいだ。貴女の美しい肢体、美しい顔にこの様な僥倖はふさわしい筈、貴女が全世界の女主人、天上と地底の女主人となり、存在すべき全ての物事を知り、全てのものの良き主となる、この様な幸運は全くあなたにふさわしい。
- E. この果物がそのようなものなんですか。
- D. そうだ、たしかに。
- [そこでエヴァは念入りに禁じられた果実を見る。それを長い間見つめてから言う]：
- E. (260) 見ているだけでも気持の良いものだわ。
- D. それを食べれば貴女はどうなるか。
- E. 私が、どうなるか知りません。
- D. 私を信じないのかね。では先ずそれを取りアダムに与えなさい。直ちに天上の王冠が手にはに入る。貴方がたは天上の創り主と同等になり、神は彼のはかりごとをあんたたちに隠しだてできなくなる。その果実を食べるや否や心は変わる。あんたたちは間違いなく神と共にあって(270) 同様の至善と同様の権能を持つのだ。さあ、その果実を食べてごらん！
- E. どうしましょうか。
- D. アダムなんぞ信じるな。
- E. そうしましょう。
- D. 何時何べるかね？
- E. 待っていただきたいの、アダムが休息するまで。
- D. さあ、食べるのだよ。怖がらずに！ ぐずぐずするのは子供じみている！
- [それから悪魔はエヴァを離れ、そして地獄の方へ行く。アダムがエヴァに近付いてくる、彼女が悪魔と話していたので腹を立てながらエヴァに言う]：
- 妻よ、私に言いなさい。悪いサタンが何を求めたのだ。お前に何を望んでいたのだ。

E. 彼はわたしたちの利益について話しました。

A. (280) 裏切者など信じてはいけない、あいつは裏切者だよ。よく分かっている。¹¹

E. どうしてですか？

A. 試したんだ。

E. それで彼に逢ってどうなるっていうの。考えを変えさせるんでしょう。

A. そんなことはさせん。あいつを試してみるまでは何も信じないぞ。

奴がお前の側に来るのを決して許すな。全く不実な奴なんだから。且て自分の主を裏切り（290）神の高い位に身を置こうとした。そんなことをした恥知らずがお前の方に逃げてこられては困る。

[その時人工的に作られた蛇が禁断の木の幹にくっついて登る。その木の傍らのエヴァは小さい耳をそれに近付けて恰も蛇の勧言を聞く振りをする。それからエヴァは林檎を受け取り、アダムに手渡す。彼はそれをまだ受け取らない。エヴァがアダムに言う]：

食べてごらんなさい、アダム！ 貴方はこれがどの様なものか知らないんです。私たちのために用意されてあるこの素晴らしいものをとりましょう。

A. 本当にそんなに良いものか？

E. お分かりになるわ。でも味わってみなければ分からぬでしょ。

A. どうか怪しいなあ。

E. ためらわぬで下さいな。

A. いや、そうはしない。

E. ぐずぐずしているなんていやになってしまふ。

A. じゃあ、それを貰うよ。

E. さあ、召し上れ。（300）これを食べて善悪を知るようになるのよ、私が先に食べましょ。

A. 私はあとだ。

E. そうね。きっとよ。

[エヴァはそこで林檎を少しかじり、アダムに言う]：

食べましたわ。まあ、何という味でしょ。こんな美味しいもの食べたことがない、この林檎はそんな味なの……

A. どんな味だって？

E. 人が味わったことのないようなもの。私には今とても判然とものが見える。全能の神のようよ。全てこれまでに有ったこと、又これから有るべきことが（310）私には完全に分かります。私は全てのものの主。アダム、お食べなさい。躊躇せずに、それを取るのが一番よいのよ。

[そこでアダムはエヴァの手から林檎を受け取り言う]：

A. お前を信じよう。お前は私と同じものだから。

E. あがりなさいな、疑ってはいけないわ。

[そこでアダムは林檎を少し食べ始める。それを食べると直ちに自らの罪を悟り、人々に見られぬように身をかがめる。立派な衣服を脱ぎ、無花果の葉でできた貧しい衣をつけて、この上なく悲しことに嘆きの言葉を言い始める]：

ああ、罪人よ、私は何をしたのだ。取り返しはつかず、私は今死んでしまった。救いの望みもなく私は生命を落とした。私の運命は随分ひどい所へ落ちこんだ。私の幸せな状態は不幸に変わった。（320）とても幸福だったのに今や何という惨めさ。私は悪い妻の助言に従って私の創り主に背いた。ああ情けない、罪深い私はどうしよう。我が主をどの様にしてお待ちするのか。自分の愚かさ故におろそかにした主のみ前にどの様にして罷り出られようか。こんな悪い取引きはしたことがない。今、私は何

が罪かを知っている。ああ、死よ！何故私を生かしておくのか、(330) 私を世界から引き離さぬのか。何故私に尚も世界を穢させる？ 私は地獄の底を味わうべきだ。地獄の中が私の住みかとなろう。私を救うお方がやってくるまで地獄で私は日々を過ごそう。いづこから其処へ私のために助けが来ようか？ いづこから地獄へ、私のために救いがこよう。誰がその苦しみから私を引き離してくれよう。我が主に背いた私に(340) 誰一人友となってくれる者はいない。私を地獄から引き出す程の大きな力を持つ人は誰もないだろう。もうどうしようもなく私は破滅だ。我が主に対しこの様な悪事を働いたらには弁明に立つ余地もない。まこと私の過ちで、彼は正しいのだから。ああ神よ！ こんなに呪われたひどい状態です。誰が今後私を思い出してくれましょう。栄光ある王に背いたのです。天上の王に対し罪を犯したのですから(350) 一言の弁解の言葉もありません。この状態にけりをつけ私を裁きから引き出してくれる友人も隣人もおりません。神が私に等しいものとして与えて下さった私の妻さえ私を裏切った今、私を助けて下さるよう誰に祈ったらよいでしょう。彼女は私に悪い忠告を与えたんです。ああ、エヴァよ！

[そこで自分の妻であるエヴァをつくづくと眺めて言う]：

ああ、心を狂わせた妻よ！ お前は不幸にも私から生まれた。(360) こんな不幸な境遇に私を陥れたこのあばら骨は焼かれてしまっておればよかった。こんなひどい騒動を起こしたのだからそのあばら骨は火にくべられて然るべきだった。神はあばら骨を私から取られた時どうしてそれを焼いてしまはず、私を殺しもされなかったのか。脇腹の骨が全身を裏切りそして狂わせ、我が身を虐待した。どう言ったら良いかどうしたら良いか私には分からぬ。もし天上の恩寵が下らぬとすれば私は苦しみから免れられない。(370) 私の心をさいなむのはこの心痛だ。ああ、エヴァよ！ 何という不幸！ お前が且て私と同じものになった時、何たる重荷を私に背負わせたか。今私はお前の助言のために身を滅ぼし、お前の助言ゆえに不幸となり、大層な高みから下に落とされた。権能ある神でない限り、この世に生を享けた人の手によってでは其処から引き上げられぬだろう。私は何を言ったのか。ああ、何故神の名を呼んだのか。神は私を助けて下さろうか？ (380) 私はの方を怒らせた。マリアよ、生まれる御子のほかには如何なる救いも求められまい。神に信仰を捧げなかつたのだから希望が持てるかどうかは分からない、今は全て神の思し召しになりますように。我々には死があるのみだ。

[そこでコーラスが始まる：応誦

その時神は逍遙されていた

コーラスがそう歌うと神は長い衣服を着けて現われる。あたりを見廻しながら天国の楽園へと入り、ちょうどアダムが何処にいるかを探している様子である。アダムとエヴァは恰も自分たちの哀れな有様を知っているかのように楽園の隅に隠れている。そこで神が言う]：

アダムよ、いづこか。

[その時両人が神の方にむかって立ち現われる。然し完全に直立しているのではなく自らの罪に対する恥ずかしさから少し身体をかがめ、大変悲しげである。アダムが答えて言う]：

我が主よ、私はここにいます。貴方様のお怒りを怖れて身を隠していました。そして私が裸であったので(390) こんな工合に隠れていたのです。

F. お前は何をしたのか。どんな過ちをしたのか。誰がお前を幸せな状態から引き離したのか。一体何をしたのだ。何故恥ずかしいのか。

A. どの様に貴方様に話を申し上げてよいのか。

F. これまでお前は自らを辱しめるようなものは何も持ていなかった。今お前は大層悲しげで憂鬱な顔付をしている。そのようにしているのは何か咎めるところがあるのだな。

A. 貴方様の前で大変恥ずかしい思いをしています。

F. (400) どうしてか。

A. 大きな羞恥が心をがんじがらめにしているので私は貴方様のお顔をみつめる勇気がありません。

F. 何故お前は私の禁令を破ったか。それはお前にとて大いに益であったか。汝は私のしもべである。

私は汝の主だ。

A. 貴方様にさからうことはできません。

F. 汝を私の似姿として造った。何故私の命令に背いたか。まさしく、汝を私の姿どうりに造り上げた。

(410) その故にこのような侮辱を私に与えた。汝は私の禁令を守らず、故意にそれを破った。お前は果実を味わった。それは私がお前に話しておいた果実であり、禁じておいたものだ。食べたことでお前は私と同等になろうと考えたのか。嘲弄する心算だったのか、どうかね。

[そこでアダムは神にむかって手を差し伸べ、そのあとでエヴァを指差し、そして言う]：

貴方様が私に与えられた妻がまず貴方に背くこの罪を犯しました。果物を私にくれまして、それを私は食べました。(420) 思いますに、それが害毒になりました。この食べものを不幸にも知りました。私は妻ゆえに悪い事をしたんです。

F. お前は私を信じるより自分の妻を信じ、私の許しなくして果実を食べたのだ。お前に似合う報酬を与える。大地は呪われるであろう。その大地に麦の種を播くとも、それは実をなさぬ。お前の手の下で大地は呪われ(430)耕作はいたづらに徒労となる。大地はその果実を拒み、いばらやおになべなを成長させる。お前の罪状ゆえに呪われて、お前の播く種を変えてしまうのだ。大いに精出して働き、大いに苦しんでパンを食べなければならない。大いなる苦悩を以て、大いに汗を流して、お前は夜も昼も生きることになる。

[そこで神はエヴァの方へ振り向き、恐ろしい顔で次のように言う]：

汝、エヴァよ、惡しき妻よ、(440) お前はいち早く私に反抗を始めた。私のいましめをほとんど守らずに。

E. 悪い蛇が私を騙しました。

F. 蛇の言葉でお前は私と等しくなれると思ったのか。何が起こるか分かっているのか。汝は生ある全てのものを支配しておったのに。何とこの様に早く汝はその支配権を失ってしまったことだ。私は汝が今悲しみにくれ、不幸になったのを見る。お前は利を得たのか、あるいは失ったのか。(450) 私は汝にふさわしいものを与えよう。お前の奉仕に報いるのだ。全ゆる点でお前の状態は悪くなる。悲しみの中に子供を生み、子供たちはみな苦しんで年月を過ごす。お前の子供たちは苦しみの中に生まれ、苦悩の中に死ぬ。この様な苦難と悲惨をお前とその子孫に味わわせる。汝から生まれ出ずる者は(460) 汝の罪を歎き悲しむであろう。

[エヴァは答えて、言う]

E. 私は罪を犯しました。それは狂気のせいです。たった一個の林檎のために私の子孫を苦難に陥れるという程の大きな災難を受けるのでしょうか。些細な利得のために私は大きな債務を負うのですね。私が悪を行ったとしても、それはたいして不思議じゃありません。人を誘惑する蛇が私を騙したんですから。蛇は悪いことを沢山知っていて小羊とは比ぶべくもありませんわ。蛇に助言を求める者は不幸になります。私は林檎を取りました。(470) 愚かな行為をしたのは存じています。貴方様の禁止にも拘わらず、それに対し不誠実な行動をしました。悪を味わい、貴方様から憎まれております。果物を一かじりしたために私は生命を失わねばなりません。

[そこで神は蛇を脅し、そして言う]

F. 汝、蛇よ、呪われてあれ！ 汝に私の権限を再び行使する。汝は生涯くる日もくる日も腹を地につけて這い回るがよい。森にあってもあるいは平野、荒地にあっても塵埃のみが常に汝の食物となるで

あろう。女はお前を憎み、(480) お前の危険な隣人となる。お前は女の踵を待ち伏せするであろうが、女はお前の舌をひき裂く、お前が非常な打撃を被ることとなるその様な槌で、女はお前の頭を打つ。また更に、女はどの様にして汝に復讐できるかを熟慮するのだ。お前が女と知り合ったのは運が悪かった。女はお前の頭を下げさせるであろう。さらに、女からその子孫が生まれ(490) 彼は汝の力を打ち碎くこととなる。

[そこで神は彼等二人を天国の楽園から追放し、そして言う]

さあ、天国の外へ出て行くのだ。お前達はこの園を愚かにも交換してしまった。お前達は大地に家を建てるのだ。最早楽園に留まる理由がない。当然の権利としてもう何も要求できぬのだ。永久にここから立ち去れ、裁きによって、もう何も所有することはできぬ。他の場所で住み家を求めよ。至福の地を離れよ。(500) かくして一週の一日たりとも飢えと疲労は尽きず、悲歎と苦悩は尽き果てぬ。大地にあって汝等は幸せ薄き日々を過ごし、その後遂に生命を落とす。死なるものを味わったあとは息つく暇なく地獄へおもむくのだ。肉体はこの世に追放され、魂は地獄で苦しみを受ける。サタンが汝等を支配し、(510) お前達を助け得る者はいないのだ。もし私がお前達に憐れみをかけねば誰がお前達を救うであろうか。

[コーラスが歌う：応誦

汝の顔に汗宿り

その間に天使が白衣を着て現われる。光り輝く剣を手にしている。その剣を神は天国の門に置き、そして次のように言う]：

天国をしっかりと守護せよ。この追放されし者が決して楽園へは入らぬように。この無法者が生命の果実に触れるという権力と権限を二度と持たぬように焰と燃えているこの剣を以て、侵害者に対し充分に楽園への道を守れ。

[楽園より追放されたので、いかにも悲しそうに困惑して、二人は地面につくほど、踵の上にかがみ込む。神は彼等を片手でさし示し、顔を天国の方へ振り向ける。

コーラスが歌い始める：応誦

見よ、アダムは孤独となりて

それが終ると神は教会の方へ退場。それからアダムは鋤を、エヴァはまぐわを持ち二人は大地を耕し始め、その地に麦を播く。播き終ると仕事に疲れたようにかたわらへ腰を下ろしに行く。弱々しく屢々天国を見上げ、自分の胸を叩く。その間に悪魔がやって来て彼等の耕地にとげのある茨や薊を植え、立ち去る。やがてアダムとエヴァは耕地の方へ来て茨や薊が立ち現われたのを見付け、激しい悲しみに打ちのめされて大地にひれ伏す。そしてやおら起き上り自分の胸と太腿を打ちながら絶望の身振りをする。アダムは嘆きの言葉を始める]：

ああ、情けない！みじめなさまよ、人間が崇め奉る主を捨てたという私の罪が私にふりかかった(520)
この不幸な時を見ようとは。主が私を救って下さるようにと、誰がとりなしてくれようか？

[その場でアダムは天国を振り返り、両手を天国の方へ上げ頭を垂れ、そして言う]：

おお、楽園よ、最も美しいすみかよ、緑の木々多き栄光の庭よ、それはお前の眼に何と美しく映ることか。まことに私は己れの罪故に其の場所から放り出された。楽園へ戻る希望も全て失ってしまった。私は天国の中にいた、けれども楽園を享受するすべを知らなかった。天国から直ちに私を立ち去らせることとなつたあの助言を信じた。今は私は悔んでいる、私が腹を立てるのも当然だ。(530) しかし遅すぎる、私の嘆きは何の役にも立たない。私の判断力は何処へ行ったのか。何を考えていたのか。栄光ある王をサタンのために捨てたとは！ 今や私は一生懸命に働くのだが、ほんの少ししか益はない。私の罪は物語に書かれるだろう。

[そこでエヴァにむかって手を上げる、彼女は少し離れたところにいる。アダムは非常に憤慨して頭をふりながら言う]：

ああ、悪い妻よ！裏切りに満ちた女よ！全くの滅びの道へとお前は直ちに私を誘った。何として私の理性と判断力を失わせたのか。私は今、後悔しているが許しは得られない。哀れなエヴァよ！何と悪に引きずり込まれたことか、(540) お前はすぐさま蛇の忠告を信じてしまった。お前ゆえに私は死ぬ、私は生命を失った。お前の罪は書物に記されるのだ。お前には大いなる混乱の徴がみえるか。大地は我々の呪を感じとっている。我々は小麦を播いたが、土地にはおになべなが生じた。様々の罰の始まりだ、悲惨なことだ。然し更に恐ろしい死が我々を待ち受けている。それから地獄へ連れて行かれるだろう。思うに、(550) 其処では苦悩にも責苦にも欠けることはない。

みじめなエヴァよ！ どう思うかね。お前はそれを手に入れた。それがお前に寡婦資産として与えられたのだ。以後お前は決して男に善きものを提供することはなかろう。常に理性の正道には従わぬだろう。我々の家系から生れてくる全ての者はお前の罪の重荷を感じることとなる。お前は悪事を働いた。その罪は全ての人にふりかかる。その罪の苦しみを覚え得る人はなかなか現われないので。

[そこでエヴァはアダムに答える]：

アダム、御立派な貴方、随分私を侮辱なさったのね。(560) 私の悪いところを並べ立てて非難なさった。私が卑劣な行為をしたのなら、私がその咎を受けましょう。私は罪人で、神のお裁きを受けます。私は神に対しても貴方に対しても大変悪いことをしました。私の悪行はこれからも長い間誹謗されるでしょう。私の罪は重くその罪過に私は恥じ入ります。私は罪人で、善いところは全然ありません。神に対し弁明する余地はありませんし、自分を罪過ある者と認めないわけにはまいりません。お許し下さい。私には償いができませんから。(570) もしできるならば捧げ物によっていたしましょうに。私は過ちを犯した哀れなみじめな者です。私の背信ゆえ、神に対し恥ずかしくてなりません。死よ、私を捕えておくれ。私の息の根を止めておくれ！ 私は危難に溺れ岸にはたどり着けないです。邪悪な性質の堕落した蛇が危険な果実を私に食べさせました。私はそれを貴方に上げました。善いことをしていると思ったのです。そして貴方を罪に陥れました。そこから貴方も逃れられないんです。何故私は創り主に従わなかったのでしょうか。(580) どうして私は貴方の言い付けを守らなかったのかしら。貴方は罪を犯しました、けれどもそれは私が原因です。我々の罪の償いは長いことかかります。私の罪咎、私の大きな不幸については、私達の子孫が高価な犠牲を支払うでしょう。罪の果実は甘かったけれども苦しみは厳しいものです。食べたのが悪いのです。叛逆は我々のなしたことです。けれども、私の希望は神の御手のうちにあります。この罪科のあがないは高価でありましょうが、神は私に恩寵をお与え下さり、顯現遊ばされて、(590) みちからを以て我々を地獄の果てから連れ出して下さいましよう。

[その時、3、4人の悪魔と共に悪魔の頭^{かしら}がやってくる。手に手に鎖と鉄の桎梏を持ってきてそれをアダムとエヴァの首につける。或る者は二人をせかして立て、他の者は彼等を引張って地獄の方へ行く。他の悪魔たちは地獄へ落ちる連中を出迎えに地獄の入口の所までやってくる。二人の破滅を喜びお互いに大騒ぎをしながら。そのうちの悪魔の一人は地獄へ近付くアダムとエヴァを指し、彼等をささえて地獄へ落とす。そうすると地獄は濃い煙をもくもくと出す。悪魔の仲間たちが地獄の中で喜び叫び合う声が大釜や鍋を打ち叩く音に混じって聞こえてくる。ほどなく悪魔たちが舞台に現れて歩き回る。数人の悪魔はそのまま地獄に残っている。]：

—アダムとエヴァの楽園喪失の場面おわる一

一跋一

神とアダム、エヴァ、そして悪魔の語る言葉は、この劇を楽しんで見物した当時の観客の思想や感情をうつし出す鏡でもある。観衆はアダム、エヴァと共に一喜一憂したことだろう。彼等が実感として殊に共鳴したであろうと思える表現を今少し詳しくとり上げてみることにする。まず、アダムについて述べよう。Tu le devez estre ben fiel (12)／お前はエヴァに誠実であれ、と神はアダムに命じた。そしてアダムは理性によって彼女を支配するのである。Tu la governe par raison (21)／されば二人の間には大いなる愛と理解が生まれる。それが結婚の掟である Tel soit la loi de mariage (24)／と神は諭した。これは封建時代の社会であっても理想的な結婚の姿であったろう。神に全身全霊を祝福された最初の人間の美しい姿である。アダムは神の園をあづかる jardinier (182) 庭番ではあるけれども君主より封土をあづかり受けた臣下のように堂々と威厳に満ちた存在だ。「彼は全ての大地の支配権を持ち」 De tote terre avez la seignorie (61)／、公平に判断して、善きもの、悪しきものを選び得る権限 poësté (75) は彼の掌中にある。seignorie には領主の権利という意味がある。poësté は力であるが律法による権限ということだから、まず最初の人間として現われたアダムには、アングロノルマン時代の君主の寵愛を受けている、上流社会に属する領主の風格さえ散見する。観客は身近な社会の理想像であるアダムをみるのである。神が一つの禁令を言い渡すとアダムは答えて、たった一個の果実と引き換えに領地 (107) (封土という意味がある) を失うならば裏切者に対する法 (111) によって裁かれるべきだ、と決然として言い切る。その時代は隙があれば君主を殞して下剋上の世界が繰り広げられた社会であった。この様な社会にあっては、ひとたび裏切行為が勃発すると社会秩序は混乱の極みに達し、君主の地位も危うくなる。裏切者 traitor (111) とは最もいむべき破廉恥な罪人の代名詞であったのだ。アダムは、若し神に背くような場合は最も破廉恥な罪人として裁かれるべし、と自らの覚悟を雄々しく述べる。彼は誠実な男で、神には忠実に誠を示そうと精一杯の努力をする。然し自分こそ絶対に神に背かない、というこの自負こそ人間の弱さを覆い隠そうとするアイロニーである。観る人は彼等の始祖アダムの言葉に人間が自らを陥れる罠の危険性を感じとり、身辺にある周囲の状況とひき較べて心を動かされたことであろう。

アダムが豪語した直後に悪魔が何気なくアダムに近寄ってくるのも全く巧みな演出と言わねばならない。それはまるで近所の悪友がふらりとやってきて、不埒なことをしてかそうと誘いかける如く何處にでもありそうな会話だ。一たん諦めかけた悪魔が思い直して、再びつくり笑いをしながらアダムの前に現れるのもたいへん人間臭い。このような悪友の姿は身分の上下を問わず万人の近くにいるはずだ。ドラマにおけるアダムとエヴァの神秘な世界は、時を越え空間を越えて親しく実感を分かち合える現実感に溢れた世界である。アダムは悪魔の言葉に多少興味を示すのであるが最後には怒って怒鳴りつける。お前は裏切者で真心のない奴だ (204) 二度と現われるな、と悪魔を退散させ、彼はまず最初の誘惑を神に誠実な男として切り抜けた。しかしほっと安心する間もなく、アダムは蛇に誘惑されたエヴァに勧められて林檎をかぢり、罪に陥るのであった。さて誘惑に負け、罪を自覚したアダムの嘆きようはまるで社会的特権を剥奪されて裁きの庭に立たされた、頼りない裸の人間の有様である。立派であったアダムは姿を消した。生活の規範を法におき、商業取引にも腕を揮った当時の人びとの考え方が再びアダムの言葉に現われる。アダムは言うのである……たった一個の林檎と安住のすみかを取り替えるなどという (cf. 107-112) 「こんな悪い取引はしたことがない」 Unches ne fis tant mal marchié (327)／と、そして悲歎にくれる。この大罪の苦悩から自分を救い出し得るほどの大きな力を持つ人（即ち辨護人）は誰もいない、このように大それた悪事であるから自分は神に対し何も言い立てる entrer en plait (344)

ことができない。誰がこの裁き *plaint* (352) から私を救ってくれるだろうかと。一躍栄光の座から身を墜落させたアダムを観衆は自分たちの生活の一場面である法廷に引きずり出したのだ。アダムはそこで更に情けない姿をさらけ出す。嘲笑を買うほどの弱々しい一面を見せるのである。特権を楽しみ、自信に満ちていた彼が一たび悲惨な境遇に陥ると女々しく泣きごとを述べる。この落差の激しさはまことに哀しい人間の姿として眼前に迫る。彼は罪を妻のエヴァの所為にしてくどくどと繰り言をのべたて、まさにアウエルバッハの言うごとくフランスの百姓か町人かのように非常に動搖して妻を責め立てる。エヴァに対し、地獄の苦しみを手に入れたお前には地獄が寡婦資産 *duaire* (552)¹² として与えられたと厭味を言う。*duaire* (=douaire) などという言葉も当時の人びとは聞き慣れていた言葉であったのだろう。エヴァが語る嘆きの中にも債務 *traiage* (464) (=treuage) というような言葉が現われ、それは封建時代、君主と臣下の関係の賦課租を思わせる。

さてそれではこのアングロノルマン時代の最も古い劇、現存する写本にはじめて姿を現わす女性、エヴァは果してどのような女性なのか。彼女は優美でやさしい。薔薇よりも瑞々しく、肌は透き通り、谷間の氷上に降る雪よりも白く (227—230) 美しい。そして終始魅力的である。神に対してもアダムに対しても、また、悪魔に対しても素直に心を開いて語る。彼女は罪がどのようなものかを明瞭に理解していない、軽はずみなところもある可愛い女である。貴女はアダムよりずっと賢いんだからなどと言うお世辞に弱く、好奇心が強い。常に夫に従い、彼の言うことを守るように (35—36) と神の命じた捷を一時は忘れたかの如く、甘美な果物を齧ってしまい、夫も食べるようになると執拗に勧めた。しかし明るくて大らかなエヴァは、アダムと較べても人間として遜色がないどころか美しい心を持ち合わせている。彼女は憎めない。この劇の作者はまことに魅力溢れる素晴らしい女性を文学に登場させたのだ。うっかり蛇の甘言に乗ったエヴァではあったが、一たび罪の重さを自覚した彼女は大変いさぎよい。自らの罪をくどくどと人のせいにしたりせずに、自己の罪を潔く神とアダムに詫びるのである。イギリス中世聖史劇、コーパス・クリスティ祝祭劇とよばれるサイクル劇に登場するエバの姿を垣間みても、例えはチエスターの「天地創造とアダムとエバ」においても、ヨークの「アダムとエバの創造」においても、この初期のアングロノルマン「アダム劇」に登場するエヴァほどの魅力を持ち合せない。¹³ チェスター劇にあっては、エバは「美味しいものが好きだから」 For women are full liccorie 219／まず悪魔の誘いに惹かれる、そして神のように賢くなれると言わられて木の実の味を試すのである。ヨーク劇では蛇を装ったSatanが、友達だと名乗ってエバに近付き、この果実を食べれば善惡を知るようになり、神の如く賢明になり、あがめられるのだと唆かす。エバは唆かされ、その気になってアダムを説得してしまうのだ。然し神に詰問されるとエバは両劇とも自らの罪を蛇の所為だと言い立てるのみであった。

「アダム劇」のエヴァの言葉は率直である。自分が卑劣な行為をしたのならその咎を受け、神の裁きを受けようと飾り気のない誠実さを溢れさせ、「神と貴方に対し大変悪いことをしました」 Je suis vers Deu e vers toi mult mesfeite (563)／「お許し下さい、償いができないのです」 Pardonez le moi, kar ne puis faire amende (569)／「貴方は罪を犯したけれどもそれは私が原因です」 Tu mesfesis, mes jo sui la racine (581)／と、罪の責任を充分に自覚するのだ。軽卒で可愛い女であったエヴァは自らの苦悩を通して他の人の苦痛も思い遣ることのできる人間に成長する。自分の罪のために苦しみを受ける子孫にも思いを馳せて心を痛めるのである。しかし、罪を悔いた彼女は希望を捨てなかった。これこそ信仰である。彼女は救いの道の光を見出すのだ。

Deus me rendra sa grace a sa mustrance ; / Gieter nus voldra d'emfer par pussance (589—590)／「神は私に恩寵をお与え下さり、顕現遊ばされて、御ちからを以て私たちを地獄から連れ出して下さいましょう」というエヴァ敬虔な祈りの言葉を終幕に観衆は心を引き締める。改めて彼等は原罪を想い、神の慈悲を想うたであろう。「アダム劇」は当時の人びとにとて身近に感じられる親しみ深いドラマであ

ると同時に崇高なる感動を觀衆の心に蘇らせ、時空を越えた永遠の神秘の世界へといざなう深い魅力を湛えているのである。

注

1. cf. E. K. Chambers, *The Mediaeval Stage*, Oxford, 1903, vol. ii. p. 308.
 2. 「アダム劇」は *Le Jeu d'Adam*、又は *Le Mystère d'Adam* と呼ばれる。Willem Noomen は CFMA叢書所収の edition1971年に *Le Jeu d'Adma* と題した。「mystère」という語が14世紀以前には使われていなかったというのが Noomen の主張である (see “*Le Jeu d'Adam. Étude descriptive et analytique*,” *Romania* 89, p. 145). TLF叢書所収「アダム劇」1963年の編者 Paul Aebischer は *Le Mystère d'Adam (Ordo Representacionis Ade)* と題している。
 3. Paul Studer ed. *Le Mystère d'Adam, An Anglo-Norman Drama of the Twelfth Century*, Manchester University Press, 1918 (rpt. 1967) pp. xix—xxiv. Noomen, *op. cit.* pp. 145—163.
但しこの劇が從来の典礼劇と同じく教会の祝祭日と緊密な関係をもって演じられたかどうかは不確実である。
 4. see Studer, *op. cit.* p. xvii., p. xxii.
 5. P. Aebischer, *op. cit.* はこの写本がプロヴァンスで書かれたとしている p. 15.
 6. Old English *Genesis* の悪魔は自ら神の使いでアダムの所へ現れたと称する。悪魔の誘いを退けるアダムは理路整然と答え、威厳がある。神は美しいエヴァにはアダムに少々劣る弱々しい心を授けられた。God had assigned her a weaker mind という表現は繰返して二度現われる。神の使いを拒絶すれば神を怒らせることになるとひたすら怖れて林檎を口にするエヴァは哀れで美しく、同情をそそる姿である。 (—hæfde hire wacran hyze/Meotod ȝemearcod—590).
 7. Studer, p. lvi., Willem Noomen ed. *Le Jeu d'Adam* [CFMA] 1971, p. 7.
 8. アダムとエヴァの物語に続くカインとアベルの話603—604行。
 9. Erich Auerbach, *Mimesis*, translated by W. R. Trask, Princeton University Press 1974, p. 151.
 10. Il est plus dors que n'est emfers 223)／地獄 emfers の綴にはアングロノルマンの特徴の唇歯音の前の m が現われているのである。「中世英國の聖書劇」研究社選書, 33. において魅力的に紹介されている「アダム劇」ではこの個所が「全く、火よりも堅いんだから」と訳されている。
 11. 写本には話者の頭に概ね F. A. E. D. の表示があるのでちょうどこの個所には混乱がみられる。Aebischer と Noomen 版には対話をするアダムとエヴァのせりふ配分のちがいはない。Auerbach は自己の異った読みを主張する (*Mimesis* pp. 143—151). Studer は Auerbach と 1 個所異っている。翻訳は Aebischer 版を底本としているのであるが、この280—287行は Auerbach の読みに従った。Aebischer, Noomen の対話ではエヴァの言葉があまりにもその場かぎりの言い逃れになるのである。
 12. cf. *Mimesis*, p. 147, p. 151.
 13. Peter Happé ed. “The Creation, and Adam and Eve,” *English Mystery Plays*, Penguin Books, 1975, p. 70.
 14. A. C. Cawley ed. “The Fall of Man,” *Everyman and Medieval Miracle Plays*, London, 1967, pp. 21—24.
- * * 写本31^v 12行でアダムとエヴァの劇は終る。続いて13行よりカインとアベルの劇が始まる。

Le Jeu d'Adam

Bibliothèque municipale de Tours MS 927

ff. 20^r-31^v

Ordo representacionis Ade. Constitutus paradisi
loci emperialis, ex cibis nunc coram pani
seret, ex aliorum sine ut pone q[uod] iniuncto fuit
vult, possit uideri fuisse ad hunc usus. Ser
nunt uerben flore, pionte, sic in eo dicitur
arbores et fructus in eis apparet ut ame
nissim locis uidentur. Tunc uenit salvator
uidit dalmatorem et statuit deinceps eo. Adam
Pia. Adam reditus sic tunica rubra. Sui
uxori mithra vestimenta albo. peplo serico
albo, et stet iuxta corda figura. Adam tamen
propter unitu copotus. cui uero panem dimicatio
ne et se ipse. Adam bene insubitus, qui respo
dere debet, ne ad respondendum unius sum
lae, et nimis credens. Nec soli ipse si nup
tione sic instruantur ut coposse loquantur
gesu frustis concurrentur nec de qua loquuntur.

(Ordo representacionis Ade)

卷之三

... avon plaiſurz nō voldray vere nō
vouloirz a ſeigni. tenuz pallez a forz, je
veux que toutz ſuſſez. venuz auſſi lez ſuſſez
lez ſuſſez lez ſuſſez. ferſtre en toutz grāz
luz. ſigā uocet adam priez. acoſtuz ſuſſez
Aſcore adam q̄ entētrau maison. la cui forme
porte bonor ref dou. tot deus poez uouez
ſitu tienz nō ferzouz. eſſerai lans nō ſent
raftris, ion. ja mazuz ferz p̄ leſoruz ne bu
zouez. u naquuz ſuſſez que u a di, ait ne ferzouez
tu uerz en uie uane ce laſſez. q̄ endouez u
bolez ne lauriſ. Tute ta uie deuinez priez en uie
ne uoz ferz uen eſſart pas poez. ſol de am
euoz q̄ eua loue. ſe uel eſſerai donc ſa toloue
Ille tute priez avec la ſeigneur. donſolz de ueliez
q̄ daſtre manante. Il priez uoſ ſort q̄ le poez
ce ouue. car tot li mond uoit en clau
En uie coſt uoſ uiet q̄ biē q̄ mal. tu ad eſſ
dum uoit pas liex aljal tuit en balancie
de penteſez p̄ egal. cr̄ez / conſeil q̄ ſouet
meſ ſuſſez ual. Lufle le mal e ſi te priez al
bien. tu ſcigiez arme e ouee ſuſ ſuſ tien.
Por ual ſuſſez ne ſerpizez be uiens. ſi uile
pauſ ne pecheraſ de uien. Adam.

Gré graces rend atabenguite. ki me ſor
mas e me faſ ſel bumz. Que biē q̄ mal
avez en ma poeſte ſa uoi ſeruer metz
mect uai uolante. Tu es mi ſurſio ſuſ en
eyant. ma uie plaiſuz e ſuſ ſuſ ca ſarture

Via uolente ne feris ad uerbi dure. e n'confar
ne sont tote nascue. Tē figa manū dico
Adam. A. Sire. f. Si n're padisū idc ducet
Hon am's et uoulire. f. D'auas tui n'mo am's.
Vez cest uardin. A. Cu ad n'm. f. Paradis. A.
Mlt p est bel. f. Si plantauz afis. A. Ouu
i mandra setia n'm am's. Jus tui comand
p mandre e p garder. Tē m'ost eos rupu
ratisū dwess.

Op p'le des jardins des d'yses tenuz de mal xeler
ne trouves faitz. Il est biē al mod q' conoit
exaté. O. Reg. V. me. I. p'utte i u'dure.
f. Ios. 1023. uane. A. ni ni p'ez d'urer. Ja
n'pres n'ur ne en gruter. Choz' canet.
K. Culit f. dñs l'hôm. Tē figa manū eré
der uersas padisū dicens.

De cest jardin dei d'yses tenuz. de nul delet
ne trouves falce. de nul delet Il est biē al mod
q' conoit exaté. chescouz ne poust uoyer as
meilleure femme de horne ni aura n'reu. ne ho
me de femme uerurme ne fizur. poe en ge
drez au est hñ pecheoz. ne aleufant femme
ni sent dolor. Cest deus uuris tant i ad bo
erage. ni p'ras ni chayer li coen cage. li uir
ni or'ndras ne ce. ni damage. ne ent
uoir q'ales sei feras mangier. Choz' canet.
K. dñe. dñs ad adam. Tē m'ost. f. li le ar

et mangier p' report. Et venuer et mener
arbois & fruches eus d'ors.
Cest voi desent, en rire here convive. Je
cu en matieres sempres senties morz.
mor p'ors mal chaugetas ta soze. Adam
je gardais tot ton conuement, ne l'on eue
ne esleuement de nient. Por un sol fruct sept
tel chascuēt. D'ors est q' j'ose le fors ietez
aluent. Por une poine se io Gerpis tamor.
A la en marie p'sous ne p' foloz. Sugiez
doit estre a loi de crator. Si par ure ete
ut son seignoz. C'ue nadit. f. ad ecclesiam
et adam & euā spaciens honeste delectantes
in paradiso. Jutea deniones incurrant p' pla
teas &c facientes appetitum & ueniant au
cissim iuxta paradisum. ostendentes eur fruc
tum metuēt. q' si suadentes ei ut eū comedat.
C'ue ueniat diabolus ad adam & dieet ei.
Que fais adme. C'ue en q'nt adme. Il.
Eitas tu bien. Il le sen n'en q' me uoit il
poet estre miez. Il le pur saner conueit.
Il vols le cu iauer. Il bien enuert ino talez
Il. Il s'au comet. Il l'oyoi q' chalt. Il. Por
q' non. A Rien ne me ualt. Il. Si ce ual
deus. Il lo ne sau q'nt. Il. Il est ce drame pas en
curant. Il Oi le medi. Il. Il'ore a pas. Amz te

Metrai dor priez. A. Il a nul boosome
 de ce laudur. Il. Kar tu ne das nul bien ruer.
 Tu as le bien ne senez ion. A. C'w comez. Il.
 Boldrus lorr. Solte dirras prudemment.
 A. Seuremet. Il. Faut adam eurent amoi
 Co ient can pru. A. C'lo lotrei. Il. C'eras que tu;
 A. Oul mult bien. Il. Uel tut entut. A. fers de
 une venu. Il. Ne quel chose. A. Solte dirras. oou
 errois pas ne offendras. Il. C'reus le cu taunt.
 A. Oul p'uear lo lam y erreu. Il. N'est pas faire.
 C'et poet faire. A. C' bien emal. Il. Solte es en
 tre en fol uinal. Autr' eriez mal mal te puse uenu.
 Yestu en gloire. N'en poez morir. A. Il. lema
 dit q' le marau aut son precept trespassera.
 Il. Ouel est eut gnt trespasseret. Our le uil
 sens uil entent. A. Solte dirras tot uerement.
 Il me fit un comandement. de nult le fruit
 de paradis. Puis lo mangier comua apres.
 fers de fulura cil mest de bon. Colui ne tu
 cheras de maras. Il. Le quels est ce. Tu es
 myat manu adam & extrudet ei fructum
 ueritatem dicens adam. Vez le cu la. C'
 lui tres bien me de uia. Il. vez tu p' que.
 Il. la cerres uan. Il. lo de dirras la li assan.

Il aultre fruit rien ne li chalt. Et maner
entroit en fructu arboru dicent adam.
J'ose de oedem q' pent en hant. Ce e. le fruit
de l'apocée. de tout sauver donec saignee. Il
Se tu le manieres bon le fruct. A l'iso en
quei. Il tu le uerras. En ois son serrurier
sempres ouvert. Q'isq; aert estre nent apert.
Q'isq; uuldras pris uentre faire. ojut le fait
bon mestre amure. Il amue le s'ras bien.
ne crendras pris un au... men. Bienz ser-
ras pris del aust son per. p'ce quidat uer.
Ceras me m. Guile del fruit. A l'el tem plus
Il ore de duit. Nel seras. A l'... Il leu
el soz. encore ce n'ebra des uoz.

Encore quez et babilus q' ibit ... id est uo-
nes q' fiet discursion goliath q' facta
aliquala n'rea uylans q' goliath redubet
Ad temptantu adam q' dicit ei.

Adam q' fait. Changeras ton iens. Il a
encore en fol queus. Jol ce q'das dire laxurier.
A q' ta fait en sun prouider. Ce tal mespris
qui ait fait. Il j' tu donch autre de deit.
I' j' u' u' u' u' fait. Il e u'itteras u'nes
plus hant. Ojut ce q'isq; venu p'cher. Il
de q' ta fet son jurement. Il de ta fent u'alem
de son ore. Ja ne q'ras autre de poit. For-
ma il coi p'ueatre faire. Autre honoz ne
t' u'otras el faire acure. Iscrit ali' quez

Amor. Jo te conseillerai en fer. Que pris
 entre ferz servir l'feras per del creatur.
 Jo te dirrai tout le fum. Si tu manieres
 la poinç. Enô eret manie q'paradisus.
 Tu regniers en maistre. ad dei poez par-
 tur poete. A. fuit res deci. Il. C. dit adam
 A. fuit res deci tu es sathan. Mal conseil
 dones. Il. E. jo comet. Cumne uols luer
 atorment. Chosier me uols o nû seigni
 toir de iore mette en dolor. Ne re-
 crerai fui te de ci. ne soies ja maistre
 hardi. Que tu uenges deuât moi.
 Tu es traitres e sans foi.
 Véris p multu d'fusso redit ab adam
 q' il n' esq; ad portas inferni q' collo quia
 habebit cu alios denounis. Post ea uero
 discursum faciet p plen de hinc expe-
 rie accedit ad paradisum. q' euâ letu
 multu blarriens sic allegavitur.
 Qua es fui uenuz aoi. C. ua. U'mois sa
 thian es cu pur quoir. Il. Je uois querant
 tui pri tui honor. E. Co dunge deu.
 Ohanz pour. vñc agit tens q' joi
 apres. Toz lesconseils de parlis. Une
 partie en terru. Il. Oue le commence e
 soloreu. Il. orras me ai. E. Si fuis biés.
 Hecte empereur de rietz. Il. Celestas men.
 E. Oul pfoi. Il. J'art descouert. Il. nem

pme. Il est nul iugement en la venance
 ne uoil de cor abe fiance. E bien ce poys
 creue at a parole. Il tu as esto. en bone
 creole. Jo me adam mais crop est folz.
 E. En poi es ditz. Il. Si serai nuls. Il est
 plus durs que aent ensors. E il est mie
 frues. Il. Amz est nulz serf. Caru ne uoile
 pndre de son. Car li puge sonals de ton.
 Tu es fublotee et edre chose. E es plus
 fresche q' nest rose. Tu es plus blanche q'
 cristal. q' nest q' chiet soz glace en mal. Mal
 culpe em fist li eratour. Tu es trop centore
 et trop dur. Mais au pque tu es pl' sage
 en gte sens as nus tan corrage. Por ce faire
 bon traire acoi. pler de j'auil. E ore iart
 fai. Il. Meni sache nuls. E li le ditz sauver.
 Il. Ners adam. E. Menil p moi. Il. orce dire
 en eau malestre. na q' il donis en este uoy.
 E adam la q' nest ov. E. plez en hale n'en
 faurat molt. Il. Jo l'aconit dui gte engon.
 C' est fait en eost grandis. le fruit q' l'
 l'ad done. nra a en soi ganes sonne. Cil
 q' l'ad tte defouli. il ad en soi gte uenu.
 En oden est gte deesse. de poete et de semestre
 De tout sauver bien et mal. E. Quel sonor et.
 Il. Celestial. aton bess cors at a si ge. Bien
 conuientre afigurer tel auant. Il tu
 fusset dame del mons. del souverain edel pfont.

Trouvez q'ilz veillent à ce de tout huyer
 come maistre. C'est tel le franz. Il est p.
 uoir. Tunc deligent inuectur in auctoritate
 uectu quo dicens. Ne me auerteretur
 dicens. J'aime faire bien tel le uer. Il si-
 ta le mangres q ferat. Et q'sai. Il. Ne
 me auerter. Primis le priez et adam le do-
 ure. Vel oiel auerez semperes coronae. Il crea-
 tor ferrez puriel. ne v' purra celer conseil.
 Puis q del fruit auerez mangie. Se pres v'
 iert le cuer change. Deus ferrez sans ful-
 lance. de egal bonte de egal puissance. Cu-
 ste del fruit. C. Jo nai regata. Il ne creera
 adam C. tel ferai. Il. O. mit. Il Suffitez moi
 tant q adam soit en ire. Il oame le
 auerez. Utrumque. le de morte ferut em-
 fiance. Tunc recedet dulcibus ab eis q'
 ibit ad infernum. Nam il ueniet ad eis
 millefe ferens qd'eu ei locut' sit du-
 bolus t' o'cet es.

Si uoi millefer querirot. Si mal
 citan q ce uolent. C. Si me plus de nre
 honore. Ne creere u le rason. Ne tenu-
 ait Bien le cuer. Il au mit. C' car
 q'sai ai. De ce que achet' un tel uer.
 Il ce feria changer sauer. C' nel fin plus
 car ne creera. De mille ueni tanq que
 la fer. Il nel lailler mas uenir sez ore

... et paretur. Et ait tu mala
familior. Ego poterit uel ualzer. Tel
potentier qd eo ad facie ne uul q uers u
ave uul ueretur. Tunc serpens artificis
se coposet ascendit usq; stipite arboris
et cum eua pnuis exhibebat aurum
qd spinis aliquid confidit de hinc accepit
et eua pomum parvum ade ipse uero n du
cum accepit qd eua dicit ei.

Amanue adam nre fay q est. pnu o bie
qd nus est pte. a. sicut tunc bon. c. tu le fa
meat uel poez sauve sre gaudiolas. a. jor
dut. c. lou le. a. henriui pte. c. belarmo
refacta qd las. a. c. io le pitoras. c. omanue
ren. pte lauras omal q bren. c. jor u manum
gimment a. c. io apres. c. gaudiolas. Tunc
comedet uine pte pomu. qd dicit ad.

George en ai dis qd favez lne ne cauad dieu qd
ploz. Dieu favez est ente penue. a. De quel i
di cel ne gusta homie. Or fait ures oul tunc uer
uante. Jo sembla deu le tunc parlant. Ures
fu qd qd soit uire. Qai io ueritez bie en tel
mararie. Omanue adam ne fay denuote. Tu
le pte rora en rebon ore. Tunc accepit
ad am pomu de manu uer dicens.

Jo ten ereta tu es ma per. c. omanue nre poez
dotes. Tunc comedat adam pte pomum
qd comebas. cognoscer statim peccati filii

¶ En chrester se no voila aplo uilen
¶ Et ses follempnes uerbes + inuent ne
 les paupes consitats folus fiers + may
 min simulans dolere m
 cypres lamentacione fram.
¶ Mais pechoz q ai io fait
 Jor sui mort sans nul retrant
 Senz nul rescus sui io mout
 Tantz eit chare mal ma fort
 Mal mout change ma auenture
 Quel fui lors or est nul dare
 Io ai grespi mun cratoy
 par le mal coeur de mal uxoz
 Mais pechable que fui
 Oys crain crain atendrai
 Ces atendrai mon cratoy
 Cio au querpi por ma felon
 Braches ne fis tantz nul marchep
 et fai lo ja q est pechuz.
¶ De mort p quiue die lassiuire
 I nent la uide de moi de hury
 Poecque faz die combrey al uuide
 Enfer me stoet cepter le foito
 En enfer serra ma deuure
 Tantz qui enge qui me future
 En enfer si uam ma me
 Dont me uendry aloc aer
 Dont me uendry iloec socors.

Si me grata dices povero
por que uers mon seigneur mes fris
Li xme de ce est ene nul ames
Li un eert nul q'gant uelle
Li o fuit pou senz male fallir
Li q'f mon seignor sui simefaut
Li n'epuis uere lui vint q' empafir
Li et jo ai dit en a droit
Li xu tantz aci mal plant
Li bi aurat mais de ojoi memoire
Li ar fuit mesfet au uoi de gloire
Li a u roi del ciel sui si mesfaut
Li de raison uai uers luy un trait
Li en as aus nre nul uerfau
Li ne me tra au del plant afu
Li que p'uzai io uai qui veaut
Li n'c' ma femme ma traite
Li n'c' de xue dona p' part
Li en dona mal conseil
Li e Eve.
Tu as prieat eno yrore sua q' dicit
Li femme de auer
Li al fuisse v de mon uer
Li ac fuit ar le uerbe colle
Li mad mis ens male poesie
Li ar fuit la colle en su brouiller
Li mad bouth si gant mesfau
Li n'c' uelo come de mon pris

P o d'april arti venuz a soix
 I a conseil a la tente le conseil
 e afole e mal bailli
 Il e sa q die ne ben face
 S i me me uient del ciel la grace
 Il em puis estre gitez le purfis
 T el est li mals que me demaine
 A ieux cu amal ore
 C uine qut penez me eust fait
 O ut onches futez mi paix
 O ve sui pris p ton conseil
 P ar ton conseil sui mis amal
 J e gitez haltelesz sui mals a mal
 Il en ferai traire por hame ue.
 S i deu ué est de maiesse
 Q ui lo las p qui le nomiez
 I me aidera comez lai
 N e me ferat la nul ore
 F or le fils d istra de marie
 I e sac de nus pindre culide
 O nt adeu ne pectance for
 O r en soit tot adeu plaisir
 Y i ad conseil que del uoies
 T ué me pieder chev il lu de ambulanc
 O uo dicto menex figura stola habes ring
 dier parofu circuifcione quasi que
 tenet ubi effec roam illa cu y enu late
 bair in anglo padei qli fuà cognoscit

Tu es ambo furent freres entrez. f. non
 nō omissons vies de si ob me perte de dom
 sui peccat aliquantulum tu tenuis q' envoi
 tu envoies q' respondent ad am. .
On suis deux bon frere
 Je port un tel importun
 Et pour ce q' fait tout mal
 Où est ton rore si embarras
 Le eust tu fait en n'importe
 Tu es tellement de trahison
 Où as tu fait por q' mes homm
 C' n' entretien ad voi en envie
 Tu n'as pas q' leste leste
 D' ior tu deposes l'empereur
 Où de nos mal' fait + malice.
On est bon frere q' oblation
 Tu es uegourde au je suis de tout
 Et tu por que. .
Gignat honte mon corps en lice
 Il est des neer en le face
 Il est q' trespassas mon devoir
 Il est garey garey
 Tu es mon herbe ero ton rice .
Hel te pures pas contre dore
 Je de formes amou semblante
 Por q' trespassas mon comanc

o voi plasmez sient a ma ymage
p otre me fis cel obteigne
c un defens en pas ne gardis
d e lurement le trespallis
l e fruit manie d'ut lo tel de
c je t'avoie toutz dit
p otre qu'ois estre mon per
n e sai si tu uotris gabb
c une adam manu entendet f.
l post en cortez era dicens
l a femme q tu me donas
e la fist priue ient despas
y ouat le moi etoy mangier
o r mest aus q wonez est aguier
o il a cortez ient mangier
l a mesfais par ma meillier
t a mouiller crestei pl q moi
m aus le fruit sanz mon estoir
o r ce rendrai tel guerdon
l a terre auant oy aleron
o au uoldras ton ble semier
l ce ralorat il fruit portez
e le est malence lor ta mait
t u le corzeras en uain
S ou fruit atoi de uentour
e spines e chunions te restorat
c hanger de uotris ta semence
o alant ient portz sentence

T en corde ma nangre cou pau
U grec p ame od que fuor
V ristau mort + le.
T ne syne mante se corde eus y mire
Cz deus en deus.
Et tu es mala espouler
Qoit me conueit a querreer
D or tenu mes commandementz
A men gracia le mal fermez
D ar les gardes estre apô per
S et tu ta bren deurrem
O reing avez la malice
D e qfiez doct eis en vie
L u lal tu li frotz gous
Oz de moi triste amie venise
A fcu fet grain ou perte
I o doi remora ta deferte
I o ten donrai por ton fruise
O al de meurra en tote cause
E n dolor portera en fuitz
E em paine uerot tot lez anez
T est em fuz en delas uerisitez
E en grec anguise finerit
E n del hahan en tel demage
A fuis toz etan lignage
T ort ceuls q de ton iherit
I : ton peche plorouer

. e.
. f.

Ce respondabit eua dicens
O sui messier co fu p folage
Por une pome soffrirai si pnt damage
q en paine moi moi enyon lignage
p est aquoit me net qut trauege
Li ipo mes fis ne fu eut merveille gnt
Ont tra moi le serpent suiuant
Or le set de mal ne seble pas veille
Or al est bailliz q alii se conseille
Li a pome p s'or fai que fis folie
Or es ton defens de co fis folgire
Or al en gustai or fui de toi hame
Por poi de front pris conest pme la me
Tuc traubit t. serpens dicens
O tu serpent soiez maledict
de ce reprendrai bien nuen drost
Soi ton piz de trauege
d tuz les lors que ta uiveras
Li a putare iart tut des tra uant v
En bois en plain en lantie
Feme de pororu hame
O ncore de iart male uerine
Tu son talon aguiteras
Cele te sacheras le ras
Li a telle ferre de tel mail
Q te ferra ne gnt tra uant
E nece en priuicia bien comei
C u poroz uengier de toi

On al acontraſtu ſun tain
e le teſſra le chief en elin
o neore raiſ de la uiflu
e cot ces uertuz confuitora
t uic. f. expelleſ eos de paradis decreſ
O re nre horſ de paradis
On al change auex fet de paſſ
e n terre v'uez uaiſou
e n paradiſ auuez uaiſou
n auuez uen q chalengier
f oſ auenez ſeruoir uerſ
n auuez uen p uigement
o r puez ailloſ chafement
f oſ auenez de bon auire
n e v' fait maſ ſam ne laſete
n e v' fait maſ ſam ne parau
a coſ les iorſ de la ſemaine
e n terre auuez maluans ſouz
a preſ moriez al chief de ux
v' et poiſ quauerez guſte mort
e n enfer urez ſauz depart
et auoront leſ cors enſil
eſ auuez en enfern pil
Satan v' arra en baſſie
n eſ horſ v' en face aie
p ar cui ſouez v' la refcoſ
e moi u'e priſe prie de laue
c horſ canet. **R.** In ſudore mult' uiri

Inferni uenit angelus ab ore in du-
tus ferens radientem gressum in
manu quae statuet. figura in puz-
zata paradiſi et dicet ei.

Gardez moi bien le paradis
Mais ne entrez pas fureux
Oui mais mais pour ne varier
Il a decouchez li fruit de vie
O cele spee qui flamboie
Si li deferoez mes bien la vie
Cui furent exiles paradiſium quia i-
eret et cofaci in curuati erit leorum
sup talos suos et f. morum et de mo-
strans uerba facie contra paradiſum
et eoz in capiet. R. Et cor ambi um
O no freres et f. regrediet an eccliam
Tunc ar in foliom et eua rostru et in ce-
pere calice tunc et seminabut in ea
truci. Post qm seminaverint ibi
iesum veloci aliquantulm tam
fangari labore et leviter respicent
separi paradiſum penitentes pecc
ta sua Inferni uenit diabolus et
plantabit in cultum eoz spinas
et tribulos et abscoet. Cui uenit ad
eua ad cultum sed et uo erunt
ortas spinas et tribulos uel hennetu
dolore percuti pterunt ut se immo-

... fumeed sua dolencia gesu face
entes & incipit labmetatione
Iles chaste tant mal u nuches llore
Iliu percevez mi fait comu soye
a lo gr erpi le seignee q hom aure
a requeru ia mes qnil me socore
Ilie respiciat etiam paratosum & amul
manus suas elevabit contra en & cap
pre nichilans dicens.
Oi paratos taut bel maner
O verper de ghe tat v fet bel ueer
Jostez enfin pmo pechue puoy
del recouer tot ai pdu bespoir
Je fin de denz ne lui gardes ion
Era conseil chi me fist tost partier
Or uen repent duret q me au
Co est atant ne uen ualt mon sospir
Ou fu mon sens q deuit ma memoire
Q p satan querpi le roi de gloire
Oz men traueil si me ualt nolt peot
Li une pechue ier en estoire esent
Enac manu contra euia levabit q aliquis
luna alto ent remota & cu magna my
nacione oportens caput duxerit
Oi male feme plaine deraison
Tantz mas nol tost en pdition
Cu me tuks sens elamison.

D'ilen i repint ut pris auer pardon
C'ue dolente en fust amai debrise
Oncrere s'ent conseil dela guerre
P' artor sui mort e ai pou le mure
Li wen pechue ier est eschue en leure
Vez cu le futes de gret confusio[n]
La tue sent la malison
formient seuaies or maiest chardon
De nre malueute le comenument
Co e nre gret dolors mas gretz n'atent
Oenez en seruans en eister l'adrement
Il e n' faldra ne poire ne temment
Enz chartue q den est amauy
Cest as conquis dmez cest endouare
Ja ne saueras uers homme bié ataire
Ores araison seras tut tens comaire
Tuz cest q istromt de nre lig[ue] nre
del wen forfait semoit li haschee
Tu for fist auz vals est regre
est p[er]azera p[er] qui il ier changee
L'ic respoideat ena au adam.

Adam iet fr[ere] mult marie b[ea]stenge
D'ora ulamme restance ei reproche
Si io mesme io en suffre li haschee
Jo sui capable p[er] deu serai uigre
Jo sui uers deu z uers ton mult mesme
Le nre mesfart mult vertug[ue] uer
D'ora culpe e. gret mes pechiez me dehure

vame sui de tue bretz et fust amez
 en ai raison queys des tue deffense
 que pechierz culpable ne me retene
 p ar donez le oys bar ne plus faire amez
 q ui lo poete lo fecer par ostendre
 o pechierz lo latte lo charmez
 p or son fec hui lo uers deu si eschue
 oj ort que pren ne fustret que lo uile
 e au pel sui tu plus uenuir auire
 l a fel serpet la gourue de maladure
 oj e fust mangier la pomme de contamine
 o a ten donai si q idai p bien faire
 t mes doi en peche dont uete p es veauant
 p or q ui ne fin al eraton en elme
 p or q ui ne rien lo fire ta desephrue
 t u mes fesf mes ia sui la racine
 d enre mal long nest la mesme
 l e mie mesfart magist mes auantane
 c omptera cher la mie en grand ure
 l i fruz sue delz la paine est doce
 oj al fu oyanguz mie uat la fruttine
 oj als nepquit en deu est ma spause
 d icest mesfart char tot iert accedance
 d s me redra la ghe et la multane
 G icter n uoldra denfer par p usance
 T uie uenit diabolus et tres uel xvi. diabolus
 eo deferentes in manibz chatenas et vime
 tel ferreos quos ponent in colla ade et ene

Et quodam eos in pessime alii vixit
hunc ad infernum. Alii uero diaboli erunt inter
infernū obuiā uenientibz et magnū in
cyporū mēt se faciunt. De eoz p̄dicioz
et singuli aliū diaboli illos uenientes mon
strabunt. et eos suscipiunt et in in ferne
mittent et in eo faciunt fumū oraginū
et uirgine et uocabunt mēt se in in for
no gaudentes et collident caldaria et beveria
suis ut extenuis antiant et facta aliquanta
la mora exhibunt. diaboli discutentes p̄ pla
teas quodā tū remanebit in in ferne.

He nō ueniet chaym abel. chaym sit in
dictus ruber uenibz. abel uero albus et uolat
cīam p̄plantam et cū ali q̄ntū alibz
re regnauerit alloquatatur abel chaym
frīm suū bland et amicabilē dicens ei.

Friere chaym uero fures dous german
se fures filz del home priuerain
C o sia adam lamere et non euam
U e deu seruir ne secun p̄si uilam
S enū tot deus subiect al crutor
e n̄si seruū q̄ conqueriorū si uame
L ue nos pareuz p̄dureut p̄ foloz
E uoce uos si soit breu n̄ra armor
S i seruū deu q̄ liueuge aplatisq
R entoam ses droez né soit ries del deur
S ede bon cuer le uolonus obenq

Select Bibliography

- Anonymous 1550. *A very necessarye boke bothe in Englysshe and in Frenche wherin thou mayst learne to speake and wryte Frenche truly in a litle space yf thou gyve thy mynde and diligence there unto.* London : Nycholas Hyll. [rpt. Menston : Scolar Press, 1967]
- Arnold, Ivor. ed. 1934. *Le Roman de Brut de Wace, Société des Anciens Textes Français.*
- . 1937. "Thomas Sampson and the *Orthographia Gallica*", *Med. Aev.* 6. 193-209.
- Arnould, E. J. 1939. "Les sources de *Femina nova*", *Studies in French Language and Mediaeval Literature Presented to Professer Mildred K. Pope.* Manchester. 1-9.
- Audiau, J. 1927. *Les Troubadours et l'Angleterre. Contribution à l'étude des poètes anglais de l'amour au moyen âge, XIII^e et XIV^e siècles.* Paris.
- Baker, John H. 1979. *Manual of Law French.* Avebury : Avebury Press. [Second ed., 1989]
- . 1989. "A French Vocabulary and Conversation Guide in a Fifteenth-Century Legal Notebook", *Med. Aev.* 58. 80-102.
- Bar, Francis. 1982. "Raoul le Tourtier et la chanson de geste d'*Ami et Amile*", *La chanson de geste et le mythe carolingien (Mélanges René Louis publiés par ses collègues, ses amis et ses élèves à l'occasion de son 75e anniversaire)*, Saint-Père-sous-Vézelay. II, 973-86.
- Barnett, F. J. 1984. "Nihil in textu nisi quoque in intellectu: That n̄ lostanit Passage in the *Strasbourg Oaths*", *Medieval French Textual Studies in Memory of T. B. W. Reid.* ed. Ian Short. London. 33-40.
- Baugh, A. C. 1959. "The Date of Walter of Bibbesworth's *Traité*", *Festschrift für Walther Fischer.* Heidelberg. 21-33.
- & Thomas Cable. 1978. *A History of the English Language.* Prentice-Hall.
- Beaulieux, Charles. 1904. "Liste des dictionnaires, lexiques et vocabulaires français antérieurs au *Thrésor de Nicot* (1606)", *Mélanges de philologie offerts à Ferdinand Brunot.* Paris : Société nouvelle de librairie et d'édition. 371-398.
- . 1913. "Le premier traité d'orthographe française imprimé", *Mélanges offerts à M. Emile Picot, membre de l'Institut, par ses amis et ses élèves.* vol. 2, Paris : Morgand / Rahir. 557-568.
- Bedier, Joseph. ed. 1954. *La Chanson de Roland.* Piazza.
- Bell, A. 1962. "Notes on Walter of Bibbesworth's *Treatise*", *Philological Quarterly* 41. 361-72.
- . 1993. "The Anglo-Norman *Description of Britain*: An Edition", *Anglo-Norman Anniversary Essays.* London. 31-47.
- Berndt, Rolf. 1965. "The Linguistic Situation in England From the Norman Conquest to the Loss of Normandy (1066-1204)", *Philologica Pragensia* 8. 145-163. [rpt. *Approaches to English Historical Linguistics. An Anthology.* ed. Roger Lass, 369-391. New York : Holt, Rinehart and Winston, 1969]
- . 1972. "The Period of the Final Decline of French in Medieval England", *Zeitschrift für Anglistik und Amerikanistik* 20. 341-369.
- . 1976. "French and English in Thirteenth-Century England. An Investigation into the Linguistic Situation after the Loss of the Duchy of Normandy and Other Continental Dominions", *Sitzungsberichte der Akademie der Wissenschaften der DDR, Gesellschaftswissenschaften* 1G. 129-150.
- Bischoff, B. 1961. "The Study of Foreign Language in the Middle Ages", *Speculum* 36. 209-224.
- Blacker, J. 1993. "Ne vuil sun livre translater" : Wace's Omission of Merlin's Prophecies from the *Roman de Brut*, *Anglo-Norman Anniversary Essays.* London. 49-59.

Select Bibliography

- Blake, Norman Francis. 1965. "The *Vocabularie in French and English* Printed by William Caxton", *English Language Notes* 3. 7-15.
- Bolland, W. C. 1912. 'Of a treatise on medieval French orthography', *Eyre of Kent, 6 & 7 Edward II, 1313-14*, Selden Society 27. London. II. xlivi-li.
- Brandin, Louis. 1939. "Le dit des trois signes" *Studies in French Language and Mediaeval Literature Presented to Professor Mildred K. Pope*. Manchester. 11-20.
- Brereton, Georgine E. 1939. "Some Grammatical Changes made by Two Continental Revisers of the Anglo-Norman Prose Version of *Des Grantz Geanz*", *Studies in French Language and Mediaeval Literature Presented to Professor Mildred K. Pope*. Manchester. 21-28.
- Brunner, Karl. 1960 & 62. *Die englische Sprache*. 2 vol. Tubingen.
- Burgess, G. S. 1993. "Repetition and Ambivalence in the Anglo-Norman *Voyage of St. Brendan*", *Anglo-Norman Anniversary Essays*. London. 61-74.
- . 1994 "The Term *Chevalerie* in Twelfth-Century French", *Medieval codicology, iconography, literature and translation : studies for K. V. Sinclair*. ed. P. R. Monks and D. D. R. Owen. Leiden ; New York. 343-58.
- Busby, K. 1993. "The Text of Chrétien's *Perceval* in MS London College of Arms Arundel XIV", *Anglo-Norman Anniversary Essays*. London. 75-85.
- Cahill, E., S. J. 1938. "Norman French and English Languages in Ireland 1170-1540", *Irish Ecclesiastical Record* 51. 159-173.
- Caxton, William. 1480. *Dialogues in French and English*. London : Caxton. (Editions by Henry Bradley, London : EETS. 1900.)
- Cerquiglini, B. 1981. *la Parole médiévale*. Paris.
- Chambers, Raymond W. ed. 1914. *A Fifteenth Century Courtesy Book*. EETS 148. London.
- Chesney, Kathleen. 1939. "A Fifteenth-century Miscellany. Notes on MS. Douce 252", *Studies in French Language and Mediaeval Literature Presented to Professor Mildred K. Pope*. Manchester. 61-70.
- Creytens, Raymond. 1946. "Le Manuel de Conversation de Philippe de Ferrare", *Archivum Fratrum Praedictorum* 16. 107-35.
- Damian-Grint. 1993. "A 12th-century Anglo-Norman Brut Fragment (MS BL Harley 4733, f. 128)", *Anglo-Norman Anniversary Essays*. London. 87-104.
- Dean, Ruth J. 1939. "An Essay in Anglo-Norman Palaeography", *Studies in French Language and Mediaeval Literature Presented to Professor Mildred K. Pope*. Manchester. 79-87.
- . 1939. "Anglo-Norman Studies", *Romanic Review* 30. 3.
- . 1954. "A Fair Field Needing Folk : Anglo-Norman", *PMLA* 69. 965-78.
- De Mandach, A. 1993. "The Creation of Herman de Valenciennes: An Unpublished Anglo-Norman Mystery Play of the 12th century", *Anglo-Norman Anniversary Essays*. London. 251-272.
- Dembowski, P. F. ed. 1969. *Ami et Amile*, CFMA 97. Paris.
- Diverres, A. H. 1984. "The Life of Saint Melor", *Medieval French Textual Studies in Memory of T. B. W. Reid*. ed. Ian Short. London. 41-53.
- Dobbie, Elliott Van Kirk. ed. 1958. *The Anglo-Saxon Minor Poems*. Columbia Univ. Press.
- Dufournet, Jean. ed. 1987. *Ami et Amile : une chanson de geste de l'amitié*. Paris.
- Emerson, Oliver F. 1916. "English or French in the Time of Edward III", *Romanic Review* 7. 127-143.
- Evans, D. 1993. "The Taxonomy of Bird-naming in Anglo-Norman and in Channel Island Patois", *Anglo-Norman Anniversary Essays*. London. 105-134.
- Ewert, Alfred. 1934. *A Fourteenth-Century Latin French Nominale* (St. John's College, Oxford, Ms. No. 178), *Med. Aev.* 3. 13-18.
- . 1939. "On the Text of Beroul's *Tristran*", *Studies in French Language and Mediaeval Literature Presented to Professor Mildred K. Pope*. Manchester. 89-98.
- . 1956. *The Glasgow Latin French Glossary*, *Med. Aev.* 25, 154-163.

Select Bibliography

- Formisano, L. 1993. "Le Chansonnier anglo-français du ms. Rawlinson G. 22 de la Bodléienne", *Anglo-Norman Anniversary Essays*. London. 135-147.
- Foulet, Lucien. 1939. "Tous les combien passe-t-il?", *Studies in French Language and Mediaeval Literature Presented to Professor Mildred K. Pope*. Manchester. 103-114.
- French, Walter Hoyt and Hale, Charles Brockway, ed. 1964. *Middle English Metrical Romances*. Russell & Russell, Inc.
- Fukui, H. 1993. "The All Souls Continuation of the *Maniere de langage*", *Anglo-Norman Anniversary Essays*. London. 149-157.
- Gessler, Jean. 1931. *Le livre des mestiers de Bruges et ses dérivés*. Bruges: Fondation universitaire de Belgique.
- . 1933. *Fragments d'anciens Traités pour l'Enseignement du français en Angleterre*. Paris.
- . 1934. *La manière de langage qui enseigne à bien parler et écrire le français : modèles de conversation composés en Angleterre à la fin du XIVe siècle*. Paris: Droz.
- . 1940. "Deux manuels de conversation imprimés en Angleterre au XVe siècle par deux élèves de William Caxton", *Leuvense Bijdragen* 32. 93-126.
- . ed. 1941. *Deux manuels de conversation*. Brussels.
- Gieben, Servus. 1967. "Robert Grosseteste and Medieval Courtesy Books", *Vivarium* 5. 47-78.
- Glixelli, Stefan. 1918. "Les Contenances de Table", *Romania* 47. 1-40.
- Gollancz, Israel. ed. 1964. *Sir Gawain and the Green Knight*. Oxford Univ. Press, EETS.
- Harvey, R. E. 1993. "En sa Veillesce set li prodom", *Anglo-Norman Anniversary Essays*, London. 159-178.
- Heinimann, Siegfried. 1966. "L'Ars minor de Donat traduit en ancien français", *Cahiers Ferdinand de Saussure* 23. 49-59.
- Highfield, John R. 1950. "A Note on the Introduction of English into the Proceedings of the Convocation of Canterbury in the reign of Edward III", *Med. Aev.* 19. 60-63.
- Hill, G. 1904. *Some Consequences of the Norman Conquest*.
- Hofmann, Konrad. ed. 1882. *Amis et Amiles und Jourdains de Blaivies*. Erlangen.
- Holden, A. J. ed. 1979. *Ipomedon*. Paris.
- Holt, James C. 1976. "A Vernacular Text of the Magna Carta, 1215", *English Historical Review* 89. 346 -364.
- Holtz, Louis. 1981. *Donat et la tradition de l'enseignement grammatical*. Paris: CNRS.
- Hope, T. H. 1971. *Lexical Borrowing in the Romance Languages*. vol. 2. Oxford.
- Hunt, Tony. 1979. *Vernacular glosses in medieval manuscripts*, *CN* 39. 9-37.
- . 1979. *Les gloses en langue vulgaire dans les manuscrits de l'Unum omnium de Jean de Garlande*, *RLiR* 43. 162-178.
- . 1979. *Les gloses en langue vulgaire dans les manuscrits de De Nominibus Ustensilium d'Alexandre Nequam*, *RLiR* 43. 235-262.
- . 1979. *The vernacular entries in the Glossae in Sidonium (Ms. Oxford. Digby 172)*, *ZfS* 89. 130 -150.
- . 1980. *The Anglo-Norman Vocabularies in Ms. Oxford Bodleian Library, Douce 88*, *Med. aev.* 49. 5-25.
- . 1981. "The Trilingual Vocabulary in MS Westminster Abbey 24 / 11", *Notes & Queries* 28. 14 -15.
- . 1984. "Une Petite Sume de les set pechez morteus (MS London B. L. Harley 4657)", *Medieval French Textual Studies in Memory of T. B. W. Reid*. ed. Ian Short. London. 65-98.
- . 1993. "Anglo-Norman Medical Receipts", *Anglo-Norman Anniversary Essays*. London. 179-233.
- . 1994. "An Anglo-Norman Treatise on the Religious Life", *Medieval codicology, iconography, literature and translation : studies for K. V. Sinclair*. ed. P. R. Monks and D. D. R. Owen. Leiden ; New York. 267-75.

Select Bibliography

- Ikegami, T. ed. 1983. *The Lyfe of Ipomydon*. 2 vol. Tokyo.
- Jeffrey, D. L. and B. J. Levy. ed. 1990. *The Anglo-Norman Lyric : An Anthology*. Pontifical Institute of Mediaeval Studies.
- Johnston, R. C. 1939. "How close *O* tonic and free became *Ö*. A Discussion Of Some Current Theories", *Studies in French Language and Mediaeval Literature Presented to Professor Mildred K. Pope*. Manchester. 215-224.
- . 1987. *Orthographia Gallica (Anglo-Norman Text Society, Plain Text Series, 5)*. London : Anglo-Norman Text Society.
- Jud, J. 1939. "Observations sur le lexique de la Franche-Comté et du francoprovençal", *Studies in French Language and Mediaeval Literature Presented to Professor Mildred K. Pope*. Manchester. 225-240.
- Kahane, Henry & Renée Kahane. 1979. "Decline and Survival of Western Prestige Languages", *Language* 55. 183-198.
- Kibbee, Douglas A. 1991. *For to Speke Frenche Trewely*. Amsterdam / Philadelphia : John Benjamins Publishing Company.
- Kölbing, Eugen. ed. 1884. *Amis and Amiloun*, Altenglische Bibliothek 2. Heilbronn. lxxiii-lxxvi (intro.), 111-187 (text).
- Kristol, A. M. 1993. "La prononciation du français en Angleterre au XV^e siècle", *Mélanges de philologie et de littérature médiévales offerts à Michel Burger*.
- Lambley, K. 1920. *The Teaching and Cultivation of the French Language in England during Tudor and Stuart Times, with an Introductory Chapter on the Preceding Period*. Manchester.
- Langlois, Charles-Victor. 1893. "Les Anglais du moyen âge d'après les sources françaises", *Revue Historique* 52. 298-315.
- Leader, Damian R. 1983. "Grammer in late-medieval Oxford and Cambridge", *History of Education* 12. 9-14.
- Leah, MacEdward. ed. 1960. *Amis and Amiloun*. Oxford Univ. Press, EETS.
- Lecoy, Félix. 1994. "Sur la vraie valeur de l'expression *perdre l'alleluya*", *Medieval codicology, iconography, literature and translation : studies for K. V. Sinclair*. ed. P. R. Monks and D. D. R. Owen. Leiden ; New York. 359-60.
- Lefèvre, Yves. 1973. "De l'usage du français en Grand-Bretagne à la fin du XII^e siècle". *Études de langue et de littérature du moyen âge, offertes à Félix Lecoy*. Paris : Champion. 301-305.
- Legge, M. D. 1939. "William of Kingsmill—A Fifteenth-Century Teacher of French in Oxford", *Studies in French Language and Mediaeval Literature Presented to Professer Mildred K. Pope*. Manchester. 241-246.
- . 1976. "L'anglo-normand : langue coloniale?", *Actes du 13e congrès international de linguistique et philologie romanes* ed. Marcel Boudreault & Frankwalt Möhren, 85-91. Québec : Presses universitaires de l'Université Laval.
- . 1979. "Anglo-Norman as a Spoken Language", *Anglo-Norman Studies* 2. 108-117.
- Le Saux, Françoise. ed. 1993. *Amys and Amylion*. Univ. of Exeter Press.
- Lusignan, Serge. 1987. *Parler vulgairement : Les intellectuels et la langue française aux XIII^e et XIV^e siècles*. Vrin PUM.
- Macbain, W. 1993. "Anglo- Norman Women Hagiographers", *Anglo-Norman Anniversary Essays*. London. 235-250.
- Malkiel, Y. 1984. "The Discovery in Old French Phonology of the *niece*, *piece*, *tierç*, *cierge* Type", *Medieval French Textual Studies in Memory of T. B. W. Reid*. ed. Ian Short. London. 99-118.
- Marshall, J. H. 1984. "Textual Transmission and Complex Musico-metrical Form in the Old French Lyric", *Medieval French Textual Studies in Memory of T. B. W. Reid*. ed. Ian Short. London. 119 -148.
- Matzke, John E. 1905-6. "Some Examples of French as Spoken by Englishmen in Old French Literature",

Select Bibliography

- Modern Philology* 3. 47-60.
- McKnight, George H. 1962. *King Horn, Floris and Blauncheflur, The Assumption of Our Lady*. Oxford Univ. Press, EETS.
- Meech, Sanford B. 1935. "An Early Treatise in English Concerning Latin Grammar", *University of Michigan Publications in Language and Literature* 13. 81-125.
- Ménard, P. 1984. "Tradition manuscrite et édition de textes: le cas des fabliaux", *Medieval French Textual Studies in Memory of T. B. W. Reid*. ed. Ian Short. London. 149-166.
- Menger, Louis E. 1904. *The Anglo-Norman Dialect : A Manual of its Phonology and Morphology*. New York : Columbia Univ. Press. [rpt. New York : AMS Press, 1966]
- Merrilees, Brian. 1985. "Le dialogue dans la méthodologie du français langue seconde au Moyen Age", *Le Dialogue*. ed. Pierre Léon & Paul Perron. Lasalle, Québec : Didier. 105-115.
- _____. 1987a. "An aspect of grammatical terminology in insular French", *Cahiers de lexicologie* 51. 193 -201.
- _____. 1993. "Donatus and the Teaching of French in Medieval England", *Anglo-Norman Anniversary Essays*. London. 273-91.
- Meyer, P. 1873. "La manière de language qui enseigne à parler et à écrire le français", *Revue critique d'histoire et de littérature* 12. 373-408.
- _____. 1879. "Les manuscrits français de Cambridge. 1. St. John's College", *Romania* 8. 305-342.
- _____. 1884. "Notice et extraits du MS. 8336 de la Bibliothèque de Sir Thomas Phillipps à Cheltenham", *Romania* 13. 497-541.
- _____. 1886. "Les manuscrits français de Cambridge. 2. Bibliothèque de l'Université", *Romania* 15. 236 -357.
- _____. 1903. "Les manuscrits français de Cambridge. 3. Trinity College", *Romania* 32. 18-20.
- Michael, Ian. 1970. *English Grammatical Categories and the Tradition to 1800*. Cambridge: Cambridge Univ. Press.
- Mok, Q. I. M. 1975, "Un traité médiéval de syntaxe latine en français", *Mélanges Lein Geschiere*. 37-53.
- Mustanoja, Tauno F. ed. 1948. *How the Good wife Taught Her Daughter*. Annales Academiae Scientiarum Fennicae, Ser. B, 61, 2. Helsinki.
- Noonan, J. A. 1939. "An Anglo-Norman Version of the Pseudo-Turpin", *Studies in French Language and Mediaeval Literature Presented to Professor Mildred K. Pope*. Manchester. 247-251.
- Orr, J. 1939. "On Homonymics", *Studies in French Language and Mediaeval Literature Presented to Professor Mildred K. Pope*. Manchester. 253-297.
- _____. 1953. *Words and Sounds in English & French*. Oxford.
- _____. 1962. *Old French and Modern English Idiom*. Oxford.
- Otaka, Y. 1993. "Sur la Langue des *Leis Willelme*", *Anglo-Norman Anniversary Essays*. London. 293-308.
- Owen, Annie. ed. 1929. *Le traité de Walter de Bibbesworth sur la langue française*. Paris: Presses universitaires. [rpt. Geneva : Slatkine, 1977]
- Parsons, H. Rosamund. 1929. "Anglo-Norman Books of Courtesy and Nurture", *PMLA* 44. 383-455. [rpt. New York, 1967.]
- Paton, D. A. 1939. "On the Origin of Aller", *Studies in French Language and Mediaeval Literature Presented to Professor Mildred K. Pope*. Manchester. 299-303.
- Percival, W. Keith. 1975. "The Grammatical Tradition and the Rise of the Vernaculars", *Current Trends in Linguistics* 13, 231-275. ed. Thomas Sebeok. The Hague : Mouton.
- Petit, Herbert H. 1960. "A Wood Needing—Clearing, Desiderata in Anglo-Norman—English Linguistics", *AnM* 1. 102-7.
- Place, Edwin B. 1962. "The First French Grammar", *The French Review* 35. 578-582.
- Pope, M. K. 1903. *Étude sur La Langue de Frère Angier*. Oxford.
- _____. 1910. "The Tractatus Orthographiae of T. H., Parisii Studentis", *MLR* 5. 185-192.

Select Bibliography

- . 1934. *From Latin to Modern French with Especial Consideration of Anglo-Norman*. Manchester.
- . 1944. *The Anglo-Norman Elements in our Vocabulary: its Significance for our Civilization*. Manchester.
- Price, H. T. 1947. *Foreign Influence on Middle English*. Michigan.
- Priebsch, J. 1905. "Ein anglonormannisches Glossar", *Bausteine zur romanischen Philologie, Festgabe für Adolfo Mussafia*. 534-556. Halle: Niemeyer.
- Prins, A. A. 1952. *French Influence in English Phrasing*. Leiden.
- Reid, T. B. W. 1939. "Non, Nen, and Ne with Finite Verbs in French", *Studies in French Language and Mediaeval Literature Presented to Professor Mildred K. Pope*. Manchester. 305-313.
- Richardson, Helen G. 1939. "An Oxford Teacher of the Fifteenth Century", *Bulletin of the John Rylands Library* 23. 436-457.
- . 1940. "A Twelfth-Century Anglo-Norman Charter", *Bulletin of the John Rylands Library* 24. 168 -172.
- . 1941a. "Business Training in Medieval Oxford", *The American Historical Review* 46. 259-280.
- . 1941b. "The Oxford Law School under John", *Law Quarterly Review* 57. 319-338.
- Richter, Michael. 1979. *Sprache und Gesellschaft im Mittelalter. Untersuchungen zur mündlichen Kommunikation in England von der Mitte des elften bis zum Beginn des vierzehnten Jahrhunderts*. Stuttgart: A. Hiersemann.
- Rickert, Edith. trans. 1908. *The Babees Book: Medieval Manners for the Young: Done into Modern English from Dr. Furnivall's Texts*. London.
- Ritchie, R. L. G. 1939. "Early Instances of French Loan-words in Scots and English", *Studies in French Language and Mediaeval Literature Presented to Professor Mildred K. Pope*. Manchester. 315-319.
- Robinson, F. N. ed. 1957. *The Works of Geoffrey Chaucer*. Boston.
- Roques, Mario. 1939. "Entre les dous furceles (Roland, vv. 1294 et 2249)", *Studies in French Language and Mediaeval Literature Presented to Professor Mildred K. Pope*. Manchester. 321-328.
- Rothwell, William. 1968. "The Teaching of French in Medieval England", *MLR*. 63. 37-46.
- . 1978. "A quelle époque a-t-on cessé de parler français en Angleterre?", *Mélanges de philologie romane offerts à Charles Camproux*. vol. 2. Montpellier: CEO Montpellier. 1075-1089.
- . 1982. "A Mis-Judged Author and a Mis-Used Text: Walter de Bibbesworth and his *Tretiz*", *MLR* 77. 282-293.
- . 1983. "Language and Government in Medieval England", *Zeitschrift für französischen Sprache und Literatur* 93. 258-270.
- . 1984. "Glimpses into our Ignorance of the Anglo-Norman Lexis", *Medieval French Textual Studies in Memory of T. B. W. Reid*. ed. Ian Short. London 167-179.
- . 1993. "The Legacy of Anglo-French: faux amis in French and English", *Zeitschrift für Romanische Philologie*. Tübingen: Max Niemeyer Verlag.
- . 1993. "The 'Faus français d'Angleterre': Later Anglo-Norman", *Anglo-Norman Anniversary Essays*. London. 309-326.
- Ruelle, Pierre. 1967. *L'ornement des dames (Ornatus mulierum), texte anglonormand du XIII^e siècle*. *Travaux de la Faculté de Philosophie et Lettres* 36. Bruxelles: Université libre de Bruxelles.
- . 1984. "Les Synonymes dans le *Dialogue des Créatures*, traduction par Colard Mansion du *Dialogus Creaturarum*", *Medieval French Textual Studies in Memory of T. B. W. Reid*. ed. Ian Short. London. 180-186.
- Russell, D. W. 1993. "The New OED Project and Anglo-Norman Lexicography", *Anglo-Norman Anniversary Essays*. London. 327-336.
- Rychner, J. 1984. "Deux copistes au travail: pour une étude textuelle globale du MS 354 de la Bibliothèque de la Bourgeoisie de Berne", *Medieval French Textual Studies in Memory of T. B. W. Reid*. ed. Ian Short. London. 187-218.

Select Bibliography

- Schellenberg, G. 1933. *Bemerkungen zum Traité des Walter von Bibbesworth* (dissertation, University of Berlin).
- Serjeantson, M. S. 1935. *A History of Foreign Words in English*. London.
- Shelly, P. Van Dyke. 1921. *English and French in England*. Philadelphia : Univ. of Pennsylvania Press.
- Shields, H. 1993. "More Poems by Philippe de Thaon?", *Anglo-Norman Anniversary Essays*. London. 337-359.
- Short, Ian. and B. Merrilees. ed. 1979. *The Anglo-Norman Voyage of St. Brendan*. Manchester.
- Short, Ian. 1980. "On Bilingualism in Anglo-Norman England", *Romance Philology* 33. 467-479.
- Sinclair, K. V. 1962. "Notes on the Vocabulary of *Tristan de Nanteuil*", *Zeitschrift für romanische Philologie* 78. 452-63.
- . 1963. "The Versification of *Tristan de Nanteuil*", *Romanische Forschungen* 75. 39-53.
- . 1963. "Proverbial Material in the Late French Epic of *Tristan de Nanteuil*", *Speculum* 38. 285-94.
- . 1965. "Anglo-Norman Studies: The last Twenty Years", *Australian Journal of French Studies* 2, 113-55, 225-78.
- . 1975. "An Anglo-Norman Proverb of the Chase", *Notes and Queries* 220. 436-7.
- . 1978. "Evidence for a Lost Anglo-Norman Copy of *Octavian*", *Neuphilologische Mitteilungen* 79. 216-18.
- . 1978-79. "Nature in a Late French Epic: Topos or Supernumerary", *Olifant* 6. 99-106.
- . 1980. "Anglo-Norman Bidding Prayers from Ramsey Abbey", *Mediaeval Studies* 42. 454-62.
- . 1984. "Anglo-Norman at Waterford: The Mute Testimony of MS Cambridge C. C. 405", *Medieval French Textual Studies in Memory of T. B. W. Reid*. ed. Ian Short. London. 219-238.
- . 1985. "The Originality of the Anglo-Norman Hospitallers' *Riwele*", *Parergon* 3. 63-72.
- . 1986. "The Anglo-Norman Miracles of the Foundation of the Hospital of St John in Jerusalem", *Med. Aev.* 55. 102-8.
- . 1992. "The Anglo-Norman Patrons of Robert the Chaplain and Robert of Greatham", *Forum for Modern Language Studies* 28. 193-208.
- . 1993. "Fierabras in Anglo-Norman: Some Cultural Perspectives", *Anglo-Norman Anniversary Essays*. London. 361-377.
- Skeat, Walter W. 1880-1881a. "A Rough List of English Words Found in Anglo-French, Especially During the Thirteenth and Fourteenth Centuries: With Numerous References", *Transactions of the Philological Society* 1880-1881. 91-168. (=Appendix V)
- . 1903-6. "Nominale sive verbale in gallicis cum expositione eiusdem in anglicis", *Transactions of the Philological Society*, supplement. 1-50.
- Smith, Lucy Toulmin and Paul Meyer. ed. 1889. *Les contes moralisés de Nicole Bozon, frère mineur* (=Société des anciens textes français 21). Paris: Firmin Didot.
- Södergård, Östen. 1953. "Une manière de parler. Ms. Cambridge, University Library I.i.6.17", *Neuphilologische Mitteilungen* 54. 201-225.
- . 1955. "Le plus ancien traité grammatical français", *Studia Neophilologica* 27. 192-194.
- . ed. 1956. "Un Art d'aimer anglo-normand", *Romania* 77. 289-330.
- Städtler, Thomas. 1988. *Zu den Anfängen der französischen Grammatiksprache. Textausgaben und Wortschatzstudien*. (=Beihefte zur Zeitschrift für romanische Philologie 223.) Tübingen: Max Niemeyer.
- Stein, Gabriele. 1982. "The English Dictionary in the Fifteenth Century", *Logos Semantikos. Studia Linguistica in honorem Eugenio Coseriu*, 1921-1981. vol. 1: *Geschichte der Sprachphilosophie und der Sprachwissenschaft* ed. Horst Geckeler, Brigitte Schlieben-Lange, Jürgen Trabant, & Harald Weydt. 313-322. Berlin: De Gruyter; Madrid: Gredos.
- Stengel, E. 1879. "Die ältesten Anleitungsschriften zur Erlernung der französischen Sprache", *Zeitschrift*

Select Bibliography

- für neufranzösische Sprache und Literatur* 1. 1-40.
- Streuber, A. 1962. "Die ältesten Anleitungsschriften zur Erlernung des Französischen in England und der Niederlanden bis zum 16. Jahrhundert", *Zeitschrift für französische Sprache und Literatur* 72. 37-86, 186-211.
- Studer, P. 1910-11. *The Oak Book of Southampton of c. A. D. 1300, including Anglo French Ordinances of the Ancient Guild Merchant of Southampton*. 2 vol.
- . 1920. *The Study of Anglo-Norman*. Oxford.
- Stürzinger, Jakob. 1884. *Orthographia Gallica*. . Ältester Traktat über französische Aussprache und Orthographie (=Allfranzösische Bibliothek 8.). Heilbronn: Henninger. [rpt. Wiesbaden: M. Sandig, 1968]
- Suggett, Helen. 1946. "The Use of French in England in the Later Middle Ages", *Transactions of the Royal Historical Society* 28. 61-83.
- Sutherland, D. R. 1939. "On the Use of Tenses in Old and Middle French", *Studies in French Language and Mediaeval Literature Presented to Professor Mildred K. Pope*. Manchester. 329-337.
- Swiggers, Pierre. 1986. "Le Donait françois: La plus ancienne grammaire du français. Édition avec introduction", *Revue des langues romanes* 89. 235-251.
- & Willy van Hoecke. ed. 1989, *La langue française au XVIe siècle: Usage, enseignement et approches descriptifs*. Louvain: Leuven Univ. Press.
- . 1990a. "Histoire et historiographie de l'enseignement du français: modèles, objets et analyses", *Études de linguistique appliquée* 78. 27-44.
- Tanquerey F. J. P. 1915. *L'Evolution du Verbe en anglo-français. XII^e-XIV^e siècles*.
- . 1916. *Recueil de Lettres anglo-française (1265-1399)*. Paris.
- . 1939. "Et particule", *Studies in French Language and Mediaeval Literature Presented to Professor Mildred K. Pope*. Manchester. 339-350.
- Tardif, E. J. 1903. *Coutumiers de Normandie*. Paris.
- Thorn, A Chr. ed. 1921. *N. Bozon: Proverbes des bon Enseignement*. Lund.
- Uerkvitz, W. 1898. *Tractate zur Unterweisung in der anglo-normannischen Briefschreibekunst*. Greifswald.
- Van Emden, W. 1984. "A Fragment of an Old French Poem in Octosyllables on the Subject of Pyramus and Thisbe", *Medieval French Textual Studies in Memory of T. B. W. Reid*. ed. Ian Short. London. 239-253.
- Van Selm, Bert. 1973. "Some Early Editions of Gabriel Meurier's School-Books", *Quaerendo* 3. 217-225.
- Vinaver, Eugène. 1939. "Principles of Textual Emendation", *Studies in French Language and Mediaeval Literature Presented to Professor Mildred K. Pope*. Manchester. 351-369.
- Vising, Johan. 1923. *Anglo-Norman Language & Literature*. London: Oxford Univ. Press.
- . 1882. *Etude sur le dialecte anglo-normand du XII^e siècle*. Uppsala.
- Watkin, Morgan. 1939. "Albert Stimming's Welsche Fassung in the Anglonormannische Boeve de Haumonte. An Examination of a Critique", *Studies in French Language and Mediaeval Literature Presented to Professor Mildred K. Pope*. Manchester. 371-379.
- Webster, T. B. L. 1939. "The Architecture of Sentences", *Studies in French Language and Mediaeval Literature Presented to Professor Mildred K. Pope*. Manchester. 381-392.
- Whitehead, Frederick. 1966-67. "Norman French: The Linguistic Consequences of the Conquest", *Memoirs and Proceedings of the Manchester Literary and Philosophical Society* 109. 78-83.
- Wilshere, A. D. 1993. "A Plea for Syntax", *Anglo-Norman Anniversary Essays*. London. 395-404.
- Woledge, B. 1984. "The Problem of Editing *Yvain*", *Medieval French Textual Studies in Memory of T. B. W. Reid*. ed. Ian Short. London. 254-267.
- Wolff, P. 1974. "Alexandre Neckam et l'article", *Études de civilisation médiévale(IX^e et XII^e siècles) Mélanges offerts à Edmond-René Labande*. Poitiers. 763-766.
- Woodbine, George E. 1910. *Four Thirteenth Century Law Tracts*. New Haven: Yale Univ. Press.

Select Bibliography

- . 1943. "The Language of English Law", *Speculum* 18. 395-436.
Wooldridge, Terence R. 1977. *Les débuts de la lexicographie française*. Toronto : Univ. of Toronto Press.
Wright, Thomas. 1882. *A Volume of Vocabularies*. 2nd ed. Liverpool : D. Marples. (1st ed : 1857)
Wright, W. Aldis. 1909. *Femina*. Cambridge : Publications of the Roxburghe Club.
Yvon, Henri. 1946. "Étude sur notre vocabulaire grammatical. Le mot *conditionnel*", *Études romanes dédiées à Mario Roques*. Paris : Droz. 149-168.
Zachrisson, R. E. 1909. *A Contribution to the Study of Anglo-Norman Influence on English Place-Names*.
———. 1913. *The Pronunciation of English Vowels, 1400-1700*. Goteborg : W. Zachrisson.
Zumthor, Paul. 1972. *Essai de poétique médiévale*. Paris.

- Alford, John A. & Dennis P. Seniff. 1984. *Literature and Law in the Middle Ages. A Bibliography of Scholarship*. New York : Garland.
Allen, Hope Emily. 1918. "The Mystical Lyrics of the *Manuel des Pechez*", *Romanic Review* 9. 154-193.
Aubert, Marcel. 1909. "Les anciens Donats de la Bibliothèque Nationale", *Bibliographe Moderne* 13. 220 -240
Baldwin, Dean R. 1980. "*Amis and Amiloun*: The Testing of *Treue*", *PLL* 16. 353-65.
Barlow, Frank. 1979. *The English Church 1066-1154 : A History of the Anglo-Norman Church*. London.
Baugh, A. C. 1948. *A literary history of England*. New York,
———. 1967. "The Middle English Romance : Some Questions of Creation, Presentation, and Preservation", *Speculum* 42. 1-31.
Baumgartner, E. 1993. "Figures du destinataire : Salomon, Arthur, le roi Henri d'Angleterre." *Anglo-Norman Anniversary Essays*. London. 1-10.
Blacker-Knight, Jean. 1985. *From Historia to Estoire : Literary Form and Social Function of the Twelfth-Century Old French Verse and Latin Prose Chronicle of the Anglo-Norman Regnum*. Unpublished PhD Thesis, Univ. of California, Berkeley.
Boase, Roger. 1977. *The Origin and Meaning of Courtly Love : A Critical Study of European Scholarship*. Manchester.
Breul, Karl. 1886. "The Boke of Curtesy", *Englische Studien* 9. 51-63.
Brody, Saul Nathaniel. 1974. *The Disease of the Soul : Leprosy in Medieval Literature*. Ithaca.
Brunner, Karl. 1961. "Sprachlehrbücher im Mittelalter", *Language and Society. Essays presented to Arthur M. Jensen on his seventieth birthday*. Copenhagen : Det Berlingske Bogtrykkeri. 37-43.
Buridant, Claude. ed. 1986. *La lexicographie au Moyen Age (=Lexique 4)*. Lille : Presses universitaires de Lille.
Burnley, J. D. 1980. "Fin' Amor : Its Meaning and Context", *RES*, n. s. 31. 129-48.
Calin, William. 1966. *The Epic Quest : Studies in four Old French Chansons de Geste*. Baltimore.
Carlyle, A. J. 1939 . "The Survival of the Constitutional Traditions of Mediaeval France in the Seventeenth Century", *Studies in French Language and Mediaeval Literature Presented to Professor Mildred K. Pope*. Manchester. 29-42.
Carroll, John B. 1975. *The Teaching of French as a Foreign Language in Eight Countries*. New York : Wiley & Sons.
Cazamian, L. 1960. *A History of French Literature*. Oxford Univ. Press.
Chase, Wayland J. 1922. *The Distichs : A Famous Medieval Textbook*. University of Wisconsin Studies in Social Sciences and History 7. Madison.
Childress, Diana T. 1978. "Between Romance and Legend : 'Secular Hagiography' in Middle English

Select Bibliography

- Literature", *PQ* 57. 311-22.
- Clanchy, M. T. 1979. *From Memory to Written Record. England, 1066-1307*. Cambridge : Harvard Univ. Press.
- Clark, Cecily. 1976. "People and Languages in Post-Conquest Canterbury", *Journal of Medieval History* 2. 1-33.
- . 1978. "Women's Names in Post-Conquest England: Observations and Speculations", *Speculum* 53. 223-251.
- Cline, Ruth Huff. 1945. "The Influence of Romances on Tournaments of the Middle Ages", *Speculum* 20. 204-11.
- Cohen, Gustave. 1945. *La Grande Clarté du Moyen-Age*. Gallimard.
- Coghill, Neville. 1971. *Chaucer's Idea of What is Noble*. English Association : Presidential Address.
- Collas, John P. & Theodore F. T. Plucknett. 1953. "Problems of Translation", *Year Books of Edward II vol. XXIV 12 Edward II. Hilary and Part of Easter, 1319 (=Publications of the Selden Society 70)*. xii-lxiv. London : Quaritch.
- . 1964. "Problems of Language and Interpretation", *Year Books 12 Edward II (=Publications of the Selden Society 81)*, xiv-cxxvii. London : Quaritch.
- Coulton, George G. 1913. 'Monastic Schools in the Middle Ages', *Contemporary Review* 103. 818-28.
- Crane, Susan. 1986. *Insular Romance. Politics, Faith, and Culture in Anglo-Norman and Middle English Literature*. Berkeley : Univ. of California Press.
- Dannenbaum, Susan. 1982. "Anglo-Norman Romances of English Heroes: 'Ancestral Romance?'", *Romance Philology* 35. 601-608.
- . 1983. "Insular Tradition in the Story of Amis and Amiloun", *Neophil.* 67. 611-22.
- Davis, H. W. C. 1905. *England under the Normans and Angevins, 1066-1272*. London.
- Davis, Ralph H. C. 1976. *The Normans and Their Myth*. London.
- Deansley, Margaret. 1926. "Medieval Schools to c. 1300", *The Cambridge Medieval History*. ed. Joseph R. Tanner, C. W. Previté-Orton, & Z. N. Brooke. Vol. V. [rpt. Cambridge. 1957. 765-79.]
- Denholm-Young, Noël. 1948. "The Tournament in the Thirteenth Century", *Studies in Medieval History Presented to Frederick Maurice Powicke*. ed. R. W. Hunt et al. Oxford. 240-68.
- De Vries, Jan. 1963. *Heroic Song and Heroic Legend*. trans. B. J. Timmer, Oxford Univ. Press.
- Duby, Georges. 1968, "The Diffusion of Cultural Patterns in Feudal Society", *Past and Present* 39. 3-10.
- Douglas, David C. 1969. *The Norman Achievement. 1050-1100*. London.
- Dyer, Christopher. 1980. *Lords and Peasants in a Changing Society : The Estates of the Bishopric of Worcester, 680-1540*. Cambridge.
- Eccles, Mark. 1986. "Claudius Hollyband and the earliest French-English dictionaries", *Studies in Philology* 83. 51-61.
- Elliott, Alison G. 1977. "The *Facetus*; or the *Art of Courtly Living*". *Allegorica* 2. 27-57.
- Evans, W. O. 1967. "'Cortaysye' in Middle English", *MS* 29. 143-57.
- Everett, Dorothy. 1955. *Essays on Middle English Literature*. Oxford Univ. Press.
- Ewert, A.: 1958. *Of the Precellence of the French Tongue*. Oxford : Clarendon.
- Faral, E. 1971. *les Arts poétiques du XII^e et du XIII^e siècle*. Paris.
- Favier, J. 1980. *la Guerre de Cent Ans*. Paris.
- Ferrante, Joan M. 1980. "Cortes' *Amor* in Medieval Texts", *Speculum* 55. 686-95.
- Fisher, Fay. 1938. *Narrative Art in Medieval Romances*. Cleveland.
- Foreville, Raymonde. 1974. "La Typologie du roi dans la littérature historiographique anglo-normande aux XI^e et XII^e siècles", *Etudes de civilisation médiévale (IX^e-XII^e siècles) : Mélanges offerts à Edmond-René Labande*. Poitiers. 275-92
- Francis, E. A. 1939. "The Trial in Lanval", *Studies in French Language and Mediaeval Literature Presented to Professor Mildred K. Pope*. Manchester. 115-124.

Select Bibliography

- Freeman, Edward A. 1901. *A Short History of the Norman Conquest of England*. 5 vol. 3rd Ed. Oxford : Clarendon.
- Furnivall, Frederick J. ed. 1901. *The Minor Poems of the Vernon MS*. vol. 2. EETS 117. London.
- . ed. 1931. *Early English Meals and Manners*. EETS 32. London.
- Galbraith, Vivian H. ed. 1927. *The Anonimalle Chronicle 1333 to 1381*. Manchester : Manchester Univ. Press. [rpt. with minor corrections, 1970]
- . 1935. "The literacy of the medieval English kings", *Proceedings of the British Academy* 1935. 201-238.
- . 1941. "Nationality and Language in Medieval England", *Transactions of the Royal Historical Society* 23. 113-128.
- Ganim, John. 1979-80. "History and Consciousness in Middle English Romance", *Literary Review* 23. 481 -96.
- . 1983. *Style and Consciousness in Middle English Narrative*. Princeton.
- Gardiner, Dorothy. 1929. *English Girlhood at School. A Study of Women's Education Through Twelve Centuries*. Oxford : Oxford Univ. Press.
- Garnett, George. 1985. "Franci et anglî": The Legal Distinctions Between Peoples After the Conquest". *Anglo-Norman Studies* 8. 109-137.
- Gist, Margaret A. 1947. *Love and War in the Middle English Romances*. Philadelphia.
- Green, Dennis Howard. 1979. *Irony in the Medieval Romance*. Cambridge.
- Green, Judith. 1982. "The Sheriffs of William the Conqueror", *Anglo-Norman Studies* 5. 129-145.
- Haidu, Peter. 1973. "Humor and the Aesthetics of Medieval Romance", *RR* 64. 54-68.
- Hanning, Robert W. 1972. "The Social Significance of Twelfth-Century Chivalric Romance", *M&H* n. s. 3. 3-29.
- . 1977. *The Individual in Twelfth-Century Romance*. New Haven.
- Haskins, Charles H. 1927. *The Renaissance of the Twelfth Century*. Cambridge, Mass.
- . 1929. *Studies in Mediaeval Culture*. Oxford : Clarendon.
- Hazleton, Richard. 1957. "The Christianization of Cato: The *Disticha Catonis* in the Light of Late Medieval Commentaries", *Med. St.* 19. 157-73.
- Hohler, Christopher. 1966. "Kings and Castles: Court Life in Peace and War", *Flowering of the Middle Ages*. ed. Joan Evans. London. 133-78.
- Hollister, C. Warren. 1976. "Normandy, France and the Anglo-Norman *Regnum*", *Speculum* 51. 202-42.
- Holmes, Urban T. 1952. *Daily Living in the Twelfth Century*. Madison.
- Holt, J. C. 1965. *Magna Carta*. Cambridge.
- Horner, Patrick. 1977. "The Use and Knowledge of Spoken French in Early Fifteenth-Century England", *Notes and Queries* 24. 488.
- Howatt, Anthony Philip Reid. 1984. *A History of English Language Teaching*. Oxford : Oxford Univ. Press.
- Huet, Gédéon. 1919. "Ami et Amile. Les origines de la légende", *Le Moyen Age* 31. 162-86.
- Hume, Kathryn. 1973. "Amis and Amiloun and the Aesthetics of Middle English Romance", *SP* 70. 19-41.
- . 1970. "Structure and Perspective: Romance and Hagiographic Features in the Amicus and Amelius Story", *JEGP* 69. 89-107.
- Hunt, Richard W. 1964. "Oxford Grammar Masters in the Middle Ages", *Oxford Historical Society New Series* 16. 163-193.
- Hunt, Tony. 1981. "The Emergence of the Knight in France and England, 1000-1200", *FMLS* 17. 93-114.
- . 1985. "Anecdota Anglo-Normannica", *The Yearbook of English Studies* 15. 1-17.
- Huntsman, Jeffrey. 1980. "The state of Lexicography and Lexicology in Plantagenet England: A Data Base", *Data Bases in the Humanities and Social Sciences*. ed. Joseph Raben & Gregory Marks. 197-201. Amsterdam : North Holland Publishing.

Select Bibliography

- Iglesias-Rábade, Luis. 1987. "Norman England: A Historical Sociolinguistic Approach", *Revista Canaria de Estudios Ingleses* 15. 101-112.
- Jacob, E. F. 1939. "To and from the Court of Rome in the Early Fifteenth Century", *Studies in French Language and Mediaeval Literature Presented to Professor Mildred K. Pope*. Manchester. 161-181.
- James, Montague R. 1900. *Western Manuscripts in the Library of Trinity College, Cambridge*. Cambridge: Cambridge Univ. Press.
- Jamison, Evelyn. 1939. "Some Notes on the Anonymi Gesta Francorum, with Special Reference to the Norman Contingent from South Italy and Sicily in the First Crusade", *Studies in French Language and Mediaeval Literature Presented to Professor Mildred K. Pope*. Manchester. 183-208.
- Jeanroy, Alfred. 1939. "Les genres lyriques secondaires dans la poésie provençale du XIV^e siècle", *Studies in French Language and Mediaeval Literature Presented to Professor Mildred K. Pope*. Manchester. 209-214.
- Johnson, L. 1993. "The Anglo-Norman *Description of Britain*: An Introduction", *Anglo-Norman Anniversary Essays*. London. 11-30.
- Jones, Robin F. 1980. "The Precocity of Anglo-Norman and the *Voyage of Saint Brendan*", *The Nature of Medieval Narrative*. ed. Minnette Grunmann-Gaudet and Robin F. Jones. French Forum Monographs 22. Lexington, Ky. 145-58.
- John Trevisa. 1869. *Polychronicon Ranulphi Higden Monachi Cestrensis together with English Translations of John Trevisa and of an Unknown Writer of the Fifteenth Century*. Londres, Rolls Publ. 41, vol. 2.
- Karnein, Alfred. 1981. "La Réception du *De Amore d'André Le Chapelain* au XIII^e siècle", *Romania* 102. 324-51, 501-42.
- Keen, Maurice. 1983. "Chaucer's Knight, the English Aristocracy and the Crusade", *English Court Culture in the Later Middle Ages*. ed. V. J. Scattergood and J. W. Sherborne. New York. 45-61.
- . 1976. "Chivalrous Culture in Fourteenth-Century England", *Historical Studies* 10. 1-24.
- Kelly, Henry Ansgar. 1975. *Love and Marriage in the Age of Chaucer*. Ithaca.
- Ker, William Paton. 1908. *Epic and Romance. Essays on Medieval Literature*. 2nd ed. London.
- Kibbee, Douglas A. 1989. "L'enseignement du français en Angleterre au seizième siècle". Swiggers & Van Hoecke 54-77.
- . 1994. "Bilingual Lexicography in the Middle Ages", *Variis loqui lingwagiis : Le pluralisme linguistique dans la société médiévale*. ed. Pierre Boglioni & Geneviève Hasenohr. Montréal : Presses universitaires.
- Klaeber, Fr. 1950. *Beowulf and the Fight at Finnsburg*. D. C. Heath and Company.
- Kramer, Dale. 1968. "Structural Artistry in *Amis and Amiloun*", *AnM* 9. 103-22.
- Krappe, A. H. 1923. "The Legend of Amicus and Amelius", *MLR* 18. 152-61.
- Kratins, Ojars. 1966. "Middle English *Amis and Amiloun*: Chivalric Romance or Secular Hagiography?", *PMLA* 81. 347-54.
- Kristol, Andres Max. 1989. "Le début du rayonnement parisien et l'unité du français au moyen âge : le témoignage des manuels d'enseignement du français écrits en Angleterre entre le XIII^e et le début du XV^e siècle", *Revue de Linguistique Romane* 53. 335-367.
- Krynen, J. 1981. *Idéal du prince et pouvoir royal en France à la fin du moyen âge (1380-1440)*. Paris.
- Kukenheim, Louis. 1962. *Esquisse historique de la linguistique française et de ses rapports avec la linguistique générale* (=Leidse romanistische reeks 8). Leiden : Universitaire Pers.
- Lazar, Moshé. 1964. *Amour courtois et "Fin' Amors" dans la littérature du XII^e siècle*. Paris.
- Le Gentil, Pierre. 1953-54. "La Légende de Tristan vue par Béroul et Thomas", *RPh* 7. 111-29.
- Legge, Mary Dominica. 1934. "The Salient Features of the Language of the Earlier Year Books", *Publications of the Selden Society* 52. xxx-xlii.
- . 1939. "William of Kingsmill—A Fifteenth Century Teacher of French in Oxford", *Studies in*

Select Bibliography

- French Language and Medieval Literature Presented to M. K. Pope. 241-246. Manchester
- _____. 1941. "Anglo-Norman and the Historian", *History* 26. 163-175.
- _____. 1950. "The French Language and the English Cloister", *Medieval Studies Presented to Rose Graham*. ed. Veronica Ruffer & A. J. Taylor. 146-162. Oxford: Oxford Univ. Press.
- _____. 1950. *Anglo-Norman in the Cloisters. The Influence of the Orders upon Anglo-Norman Literature*. Edinburgh.
- _____. 1956. "Archaism and the Conquest", *MLR* 51. 227-29.
- _____. 1961. "'Lettre' in Old French", *MLR* 58. 333-334.
- _____. 1963. *Anglo-Norman Literature and its Background*. Oxford: Clarendon.
- _____. 1965. "La Précocité de la littérature anglo-normande", *CCM* 8. 327-49.
- _____. 1967. "Les origines de l'anglo-normand littéraire", *Revue de Linguistique Romane* 31. 44-54.
- _____. 1975. "Anglo-Norman Hagiography and the Romances", *M&H* n. s. 6. 41-49.
- _____. 1978. "La 'Courtoisie' en anglo-normand", *Orbis Mediaevalis : Mélanges de langue et de littérature médiévales offerts à Reto Raduolf Bezzola*. ed. Georges Güntert et al. Berne. 235-39.
- Legros, Huguette. 1986. "Quand les jugements de Dieu deviennent artifices littéraires ou la profanité impunie d'une poétique", *La Justice au moyen âge (Sanction ou impunité?)*. Aix-en-Provence: Université de Provence, (Senefiance 16), 197-212.
- Lejeune, Rita. 1958. "Rôle littéraire de la famille d'Aliénor d'Aquitaine", *CCM* 1. 319-37.
- Le Patourel, John. 1976. *The Norman Empire*. Oxford.
- Le Saux, Françoise. 1989. *Layamon's Brut : The Poem and its Sources*. D. S. Brewer.
- Lévi-Strauss, Claude. 1978. *The Origin of Table Manners. Vol. 3 of Introduction to a Science of Mythology*. Trans. John & Doreen Weightman. London.
- Levy, Bernard S., and Paul E. Szarmach. ed. 1974-75 "The Rise and Fall of Anglo-Norman Literature", *Mosaic* 8 : 4. 1-6.
- _____. 1968. "The Significance of Anglo-Norman", University of Edinburgh Inaugural Lecture 38. Edinburgh.
- Levy, Brian Joseph. 1966. "The Ancestral Romance in Mediaeval French with Special Reference to Anglo-Norman Literature", Diss. Univ. of Edinburgh.
- _____. 1975. "Waltheof 'Earl' de Huntingdon et de Northampton : la naissance d'un héros anglo-normand", *CCM* 18. 183-96.
- Loomis, Laura Hibbard. 1963. *Mediaeval Romance in England*. New ed. New York.
- Lot-Borodine, Myrrha. 1961. *De l'amour profane à l'amour sacré*. Paris.
- Lytle, Guy F. 1978. "The Social Origins of Oxford Students in the Late Middle Ages : New College, c. 1380-c. 1510". *The Universities in the Late Middle Ages (= Mediævalia Lovaniensia, Series I, Studia VI)*. ed. Jozef Ijsewijn & Jacques Paquet. 426-454. Leuven : Leuven Univ. Press.
- Mackenzie, Fraser. 1939. *Les Relations de l'Angleterre et de la France d'après le vocabulaire*. Paris : Droz.
- Madika, Geneviève. 1987. "La religion dans Ami et Amile", *Ami et Amile (Une chanson de geste de l'amitié)*. ed. Jean Dufournet, Paris : Champion. (Unichamp 16), 39-50.
- Maitland, F. W. 1903. Year Books of Edward II. vol. 1. Selden Society.
- _____. 1933. "The Anglo-French Law Language", *The Cambridge History of English Literature* ed. A. W. Ward & A. R. Waller, 455-460. Cambridge : Cambridge Univ. Press. [rpt. of a section of Maitland's introduction to the *Selden Society Series 17*]
- Map, Walter. 1914. *De Nugis Curialium*. ed. Montague Rhodes James. Oxford. (trans. Frederick Tupper and M. B. Ogle. *Courtiers' Trifles*. London, 1924.)
- Marchello-Nizia, Christiane. 1979. *Histoire de la langue française aux XIV^e et XVe siècles*. Paris : Bordas.
- Mathew, Gervase. 1948. "Ideals of Knighthood in Late Fourteenth-Century England", *Studies in Medieval History Presented to Frederick Maurice Powicke*. ed. R. W. Hunt et al. Oxford. 354-62.
- _____. 1947. "Marriage and Amour Courtois in Late Fourteenth-Century England", *Essays Presented to*

Select Bibliography

- Charles Williams. London. 128-35.
- . 1966. "Ideals of Friendship", *Patterns of Love and Courtesy : Essays in memory of C. S. Lewis*. London. 45-53.
- McFarlane, Kenneth B. 1973. *The Nobility of Later Medieval England*. Oxford : Clarendon.
- . 1981. *England in the Fifteenth Century. Collected Essays*. London : The Hambledon Press.
- McKisack, May. 1959. *The Fourteenth Century, 1307-1399*. The Oxford History of England, vol. 5. Oxford.
- McMahon, Clara. 1947. *Education in Fifteenth Century England* (=Johns Hopkins University Studies in Education 35). Baltimore : Johns Hopkins Univ. Press.
- Mead, William E. 1931. *The English Medieval Feast*. [rpt. London, 1967.]
- Mehl, Dieter. 1968. *The Middle English Romances of the Thirteenth and Fourteenth Centuries*. London.
- Ménard, Philippe. 1977. "Les Fous dans la société médiévale : le témoignage de la littérature au XII^e et au XIII^e siècle", *Romania* 98. 433-59.
- . 1988. "La légende d'*Ami et Amile* au XIIe siècle : la chanson de geste et les traditions antérieures", *Bien dire et bien apprendre*. special issue "Sur *Ami et Amile*" 7-13.
- Merrilees, B. 1987b. "Teaching Latin in French : Adaptations of Donatus' *Ars Minor*", *Fifteenth Century Studies* 12. 87-98.
- & Beata Sitarz-Fitzpatrick. ed. 1993 *The Liber Donati. A Fifteenth-Century Manual of French*. London : Anglo-Norman Text Society.
- Michael, Ian. 1979. "The Historical Study of English as a Subject : a Preliminary Enquiry into some Questions of Method", *History of Education* 8. 193-206.
- Mickel, Emanuel. 1985. "The Question of Guilt in *Ami et Amile*", *Romania* 106. 19-35.
- Millet, Adrien. 1933. *Les grammairiens et la phonétique, ou, l'enseignement des sons du français depuis le XVI^e siècle jusqu'à nos jours*. Paris : J. Monnier.
- Miner, John N. T. (Brother Bonaventure, F. S. C.). 1961. "The Teaching of Latin in Later Medieval England", *Mediæval Studies* 23. 1-20.
- . 1962-3. "Schools and Literacy in Late Medieval England", *British Journal of Educational Studies* 11. 16-27.
- . 1989. *The Grammar Schools of Medieval England. A. F. Leach in historical perspective*. Montreal & Kingston : McGill-Queen's University Press.
- Morris, Colin. 1972. *The Discovery of the Individual, 1050-1200*. New York.
- Muscatine, Charles. 1957. *Chaucer and the French Tradition*. Berkeley and Los Angeles.
- Nelson, William. ed. 1956. *A Fifteenth Century School Book*. Oxford.
- Nicholls, J. W. 1985. *The Matter of Courtesy*. Suffolk.
- Oelsner, Hermann. 1905. "Early French Manuals for English Use", *The Athenæum* 4033 (Feb. 11, 1905). 182-3.
- Orme, Nicholas. 1973. *English Schools in the Middle Ages*. London : Methuen.
- . 1976. *Education in the West of England 1066-1548*. Exeter : Univ. of Exeter Press.
- . 1983. "The Education of the Courtier", *English Court Culture in the Later Middle Ages*. ed. V. J. Scattergood and J. W. Sherborne. New York. 63-85.
- Oschinsky, Dorothea. 1971. *Walter of Henley and other treatises on estate management and accounting*. Oxford : Clarendon Press.
- Painter, Sidney. 1960. "The Family and the Feudal System in Twelfth-Century England", *Speculum* 35. 1-16.
- Paré, Gérard M., A. Brunet, & P. Tremblay. 1933. *La Renaissance du XII^e Siècle*. Publications de l'Institut d'Etudes Médiévales d'Ottawa, 3. Paris.
- Parkes, Malcolm B. 1973. "The Literacy of the Laity", *The Medieval World*. vol. 2 of *Literature and Western Civilization*. ed. David Daiches & Anthony Thorlby. London. 555-77.

Select Bibliography

- Parry, Albert W. 1920. *Education in England in the Middle Ages*. London.
- Pearsall, Derek. 1965. "The Development of Middle English Romance", *MS* 27. 91-116.
- Pirenne, Henri. 1929. "L'instruction des marchands au moyen âge", *Annales d'Histoire Économique et Sociale* 1. 13-28.
- Plucknett, Theodore F. T. 1960. *Edward I and Criminal Law*. Cambridge: Cambridge Univ. Press
- Pollard, Alfred. 1915. "Claudius Hollyband and his French Schoolmaster and French Littelton", *Transactions of the Bibliographical Society* 13. 253-272.
- Poole, Austin L. 1955. *From Domesday Book to Magna Carta 1087-1216*. Oxford History of England. 2nd ed. Oxford.
- Pope, Mildred K. 1952. *From Latin to Modern French with Especial Consideration of Anglo-Norman*. Rev. ed. London.
- Postan, M. M. 1972. *The Mediaeval Economy and Society*. London.
- Potter, George R. 1936. "Education in the Fourteenth and Fifteenth Centuries", *The Cambridge Medieval History*. ed. Charles W. Previté-Orton, & Zachary N. Brooke. vol. 8. [rpt. Cambridge, 1967. 688-716.]
- Power, Eileen E. 1922. *Mediaeval English Nunneries, c. 1275-1535*. Cambridge Studies in Medieval Life and Thought. Cambridge. [rpt. New York, 1964]
- . 1941. *The Wool Trade in English Medieval History*. Oxford: Oxford Univ. Press.
- . 1975. *Medieval Women*. ed. Michael M. Postan. Cambridge.
- Powicke, Maurice. 1962. *The Thirteenth Century, 1216-1307*. 2nd ed. Oxford.
- Press, A. R. 1981. "The Precocious Courtesy of Geoffrey Gaimar", *Court and Poet*. ed. Glyn S. Burgess. Liverpool. 267-76.
- Raby, F. J. E. 1934. *A History of Secular Latin Poetry in the Middle Ages*. Oxford: Clarendon. vol. 2. 23-26
- Ramsey, Lee C. 1983. *Chivalric Romances : Popular Literature in Medieval England*. Bloomington.
- Rashdall, Hastings. 1936. *The Universities of Europe in the Middle Ages. A New Edition in Three Volumes* ed. Frederick M. Powicke and Alfred B. Emden. Oxford: Clarendon.
- Reiss, Edmund. 1979. "Fin' Amors : Its History and Meaning in Medieval Literature", *Journal of Medieval and Renaissance Studies* 8. 74-99.
- Remy, Paul. 1946. "La Lèpre, thème littéraire au moyen âge", *MA* 52. 195-242.
- Richards, Peter. 1977. *The Medieval Leper and his Northern Heirs*. Cambridge.
- Rickard, Peter. 1956. *Britain in Medieval French Literature 1100-1500*. Cambridge: Cambridge Univ. Press.
- Ridyard, Susan J. 1986. "Condigna veneratio : Post-Conquest Attitudes to the Saints of the Anglo-Saxons", *Anglo-Norman Studies* 9. 179-206.
- Riedel, Frederick Carl. 1938. *Crime and Punishment in the Old French Romances*. New York.
- Ritchie, Robert L. G. 1948. *The Normans in England Before Edward the Confessor*. Exeter: W. V. Cole.
- Rosenberg, Samuel N. 1987. "Lire Ami et Amile, le regard sur les personnages féminins", *Ami et Amile (Une chanson de geste de l'amitié)*. ed. Jean Dufournet, Paris: Champion. (Unichamp 16) 69-78
- Rothwell, William. 1975. "Anglo-Norman Perspectives", *MLR* 70. 41-49.
- . 1976. "The Rôle of French in Thirteenth-Century England", *Bulletin of the John Rylands University Library of Manchester* 58. 445-466.
- . 1985. "Stratford atte Bowe and Paris", *MLR* 80. 39-54.
- Rychner, Jean. ed. 1968. *Les Lais de Marie de France*. Champion.
- Schellenberg, Gerhard. 1933. *Bemerkungen zum Traité des Walter von Bibbesworth*. Berlin: Liebheit & Thiesen.
- Schelp, Hanspeter. 1965. "Nurture : ein mittelenglischer Statusbegriff", *Anglia* 83. 253-70.
- Schofield, William H. 1969. *English Literature from the Norman Conquest to Chaucer*. rpt. Phaeton Press.

Select Bibliography

- Shelby, L. R. 1970. "The Education of Medieval Master Masons", *Med. St.* 32. 1-26.
- Shelly, Percy Van Dyke. 1921. *English and French in England, 1066-1100*. Philadelphia.
- Shuman, R. Baird. 1958. "A Middle English Note on Female Education", *School and Society* 86. 36.
- Smalley, Vera. 1948. *The sources of A Dictionary of the French and English Tongues*. Baltimore : Johns Hopkins Univ. Press.
- Smythe-Palmer, Abram. 1908. *The Ideal of A Gentleman*. London.
- Southern, Richard W. 1953. *The Making of the Middle Ages*. London.
- . 1960. "The Place of England in the Twelfth-Century Renaissance", *History*, 45. 201-16.
- Smyser, Hamilton Martin. 1948. "The List of Norman Names in the Auchinleck Ms. (Battle Abbey Roll)", *Mediæval Studies in Honor of Jeremiah Denis Matthias Ford* ed. Urban T. Holmes, Jr. & Alexander J. Denomy, C. S. B., 257-287. Cambridge, MA : Harvard Univ. Press.
- Speed, Diane. 1994. "Havelok's Predecessor", *Medieval codicology, iconography, literature and translations : studies for K. V. Sinclair*. ed. P. R. Monks and D. D. R. Owen. Leiden ; New York.
- Steadman, J. M. 1957. "Adam's Tunica Rubea : Vestimentary Symbolism in the Anglo-Norman Adam", *Modern Language Notes* 72. 497-499.
- Stowell, William A. 1906. "Personal Relationships in Medieval France", *PMLA* 21. 3.
- Studer, Paul. ed. 1927. "Une définition d'amour en prose anglo-normande", *Mélanges de philologie et d'histoire offerts à M. Antoine Thomas*. Paris. 433-36.
- Suggett, Helen. 1942-3. "An Anglo-Norman return to the Inquest of Sheriffs", *Bulletin of the John Rylands Library* 27. 170.
- Taciti, Cornelii. 1952. "Germania", *Opera Minora*, Oxford Univ. Press.
- Thiolier, J. C. 1993. "Pierre de Langtoft : historiographe d'Edouard Ier Plantagenêt", *Anglo-Norman Anniversary Essays*. London. 379-394.
- Thompson, James Westfall. 1931. *Economic and Social History of Europe in the Later Middle Ages (1300 - 1530)*. New York : Century.
- . 1939. *The Literacy of the Laity in the Middle Ages*. (=University of California Publications in Education 9.) Berkeley : Univ. of California Press.
- Thorndike, Lynn. 1940. "Elementary and Secondary Education in the Middle Ages", *Speculum* 15. 400-08.
- Thrupp, Sylvia L. 1948. *The Merchant Class of Medieval London (1300-1500)*. Chicago.
- Türk, Egbert. 1977. *Nugae Curialium : Le Règne d'Henri II Plantagenêt (1145-1189) et l'éthique politique*. Geneva.
- Ullmann, Walter. 1977. *Medieval Foundations of Renaissance Humanism*. Ithaca.
- Uitti, Karl D. 1975. "The Clerical Narrator Figure in Old French Hagiography and Romance", *MedR* 2. 394-408.
- Vale, Juliet. 1982. *Edward III and Chivalry : Chivalric Society and Its Context 1270-1350*. Bury St. Edmunds.
- Vale, Malcolm. 1981. *War and Chivalry : Warfare and Aristocratic Culture in England, France and Burgundy at the End of the Middle Ages*. London.
- Verger, J. 1973. *les Universités au moyen âge*. Paris : P. U. F.
- Vinaver, Eugène. 1971. *The Rise of Romance*. Oxford.
- Wadsworth, Rosalind. 1972. *Historical Romance in England : Studies in Anglo-Norman and Middle English Romance*, Diss. York.
- Wakely, Richard. 1988. "The History of French Teaching in Britain : Some Remarks", *Newsletter of the Association for French Language Studies* 20. 17-25.
- Walberg, E. 1936. *Quelques aspects de la littérature anglo-normande*. Paris.
- Watson, Foster. 1908. *The English Grammar Schools to 1600 : Their Curriculum and Practice*. Cambridge : Cambridge Univ. Press.

Select Bibliography

- Waugh, William Templeton. 1967 (1925). "The Administration of Normandy, 1420-22", *Essays in Medieval History Presented to Thomas Frederick Tout* ed. A. G. Little & Frederick M. Powicke. Freeport NY: Books for Libraries Press. 349-359.
- Webster, Charles. 1975. "The Curriculum of the Grammar Schools and Universities 1500-1660: A Critical Review of the Literature", *History of Education* 4. 51-68.
- Wells, Henry W. 1940. "The Boy Standing at the Table", *Sewanee Review* 48. 217-20.
- West, Constance B. 1938. *Courtoisie in Anglo-Norman Literature*, Medium Aevum Monographs 3. Oxford.
- Whatley, Gordon. 1983. "Vita Erkenwaldi: An Anglo-Norman's Life of an Anglo-Saxon Saint", *Manuscripta* 27. 67-81.
- Whitehead, Frederick. 1939. "Tristan and Isolt in the Forest of Morrois", *Studies in French Language and Mediaeval Literature Presented to Professor Mildred K. Pope*. Manchester. 393-400
- Wildeblood, Joan, & Peter Brinson. 1965. *The Polite World: A Guide to English Manners and Deportment from the thirteenth to the nineteenth century*. London.
- Wilmette, M. 1939. "Reminiscences ovidiennes dans le conte de Guillaume d'Angleterre", *Studies in French Language and Mediaeval Literature Presented to Professor Mildred K. Pope*. Manchester. 413-419.
- Wilson, Richard M. 1943. 'English and French in England 1100-1300', *History* 28. 37-60.
- Wind, Bartina. 1970. "Nos incertitudes au sujet du 'Tristan' de Thomas", *Mélanges de langue et de littérature du moyen-âge et de la renaissance offerts à Jean Frappier*. vol. 2. Geneva. 1129-38.
- Wittig, Susan. 1978. *Stylistic and Narrative Structures in the Middle English Romances*. Austin.
- Wood, Charles T. 1970. *The Age of Chivalry. Manners and Morals, 1000-1450*. London.
- Woodward, William H. 1967 [1906]. *Studies in Education in the Age of the Renaissance 1400-1600* (= *Classics in Education* 32). New York: Teachers College Press of Columbia University.
- Wüest, Jakob. 1969. *Die Leis Willelme: Untersuchungen zum ältesten Gesetzbuch in französischer Sprache*. (= *Romanica Helvetica* 79.) Bern: Francke Verlag.

Anglo-Norman Studies

I 1978

<i>Brooks, N. P. and the late H. E. Walker.</i> The authority and interpretation of the Bayeux Tapestry	1
<i>Chibnall, Marjorie.</i> Feudal Society in Orderic Vitalis	35
<i>Foreville, Raymonde.</i> Le sacre des rois anglo-normands et angevins et le serment du sacre (XIe-XIIe siècles)	49
<i>Godfrey, John.</i> The defeated Anglo-Saxons take service with the Eastern emperor	63
<i>Hill, Rosalind.</i> Crusading warfare: a camp-follower's view 1097-1120	75
<i>Hooper, Nicholas.</i> Anglo-Saxon warfare on the eve of the Conquest: a brief survey	84
<i>Cook, David R.</i> The Norman military revolution in England	94
<i>Le Patourel, John.</i> The Norman conquest, 1066, 1106, 1154?	103
<i>Loyn, H. R.</i> Domesday Book	121
<i>Walker, David.</i> The Norman settlement in Wales	131
<i>Williams, Ann.</i> Some notes and considerations on problems connected with the English Royal succession, 860-1066	144
<i>Zarnecki, George.</i> Romanesque sculpture in Normandy and England in the eleventh century	168
II 1979	
<i>Clark, Cecily.</i> Battle c. 1110: an anthroponymist looks at an Anglo-Norman new town	21
<i>Curnow, P. E.</i> Some developments in military architecture c. 1200: Le Coudray-Salbart	42
<i>Harper-Bill, C.</i> The piety of the Anglo-Norman knightly class	63

Select Bibliography

<i>Hermans, Jos.</i> The Byzantine view of the Normans	78
<i>Hollister, C. W.</i> Henry I and the Anglo-Norman magnates	93
<i>Legge, M. D.</i> Anglo-Norman as a spoken language	108
<i>Mason, Emma.</i> Magnates, curiales and the Wheel of Fortune	118
<i>Owen, Dorothy M.</i> Bishop's Lynn: the first century of a new town?	141
<i>Searle, Eleanor M.</i> The abbey of the conquerors: defensive enfeoffment and economic development in Anglo-Norman England	154
III 1980	
<i>Brown R. Allen.</i> The Battle of Hastings	1
<i>Bur, Michel.</i> Les comtes de Champagne et la 'Normanitas': semiologie d'un tombeau	22
<i>Gem, R. D. H.</i> The Romanesque rebuilding of Westminster Abbey (with a reconstruction by W. T. Ball)	33
<i>Gem R. D. H.</i> Chichester Cathedral: when was the Romanesque church begun?	61
<i>Golding, Brian.</i> The coming of the Cluniacs	65
<i>Hare, J. H.</i> The buildings of Battle Abbey	78
<i>Hockey, S. F.</i> William fitz Osbern and the endowment of his abbey of Lyre	96
<i>van Houts, Elizabeth M. C.</i> The <i>Gesta Normannorum Ducum</i> : a history without an end	106
<i>Mortimer, Richard.</i> The beginnings of the Honour of Clare	119
<i>Rowlands, I. W.</i> The making of the March: aspects of the Norman settlement in Dyfed	142
<i>Searle, Eleanor.</i> Women and the legitimization of succession at the Norman Conquest	159
<i>Williams, Ann.</i> Land and power in the eleventh century: the estates of Harold Godwineson	171
<i>Wilson, David M.</i> Danish kings and England in the late tenth and early eleventh centuries — economic implications	188
IV 1981	
<i>Bates, David.</i> The origins of the justiciarship	1
<i>Beresford, Guy.</i> Goltho manor, Lincolnshire: the buildings and their surrounding defences c. 850-1150	13
<i>Bouet, Pierre.</i> La <i>Felicitas</i> de Guillaume le Conquérant dans les <i>Gesta Guillelmi</i> de Guillaume de Poitiers	37
<i>Gillingham, John.</i> The introduction of knight service into England	53
<i>Gransden, Antonia.</i> Baldwin, abbot of Bury St Edmunds, 1065-1097	65
<i>Hyams, Paul.</i> The Common Law and the French Connection	77
<i>King, Edmund.</i> John Horace Round and the <i>Calendar of Documents Preserved in France</i>	93
<i>Loud, G. A.</i> The <i>Gens Normannorum</i> — myth or reality?	104
<i>Nelson, Janet L.</i> The rites of the Conqueror	117
<i>Renoux, Annie.</i> Fouilles sur le site du château ducal de Fécamp (Xe-XIIe siècle)	133
<i>Rumble, Alexander R.</i> The purposes of the Codex Wintoniensis	153
V 1982	
<i>Baylé, Maylis.</i> Interlace Patterns in Norman Romanesque Sculpture : Regional Groups and their Historical Background	1
<i>Bennett, Matthew.</i> Poetry as History? The <i>Roman de Rou</i> of Wace as a source for the Norman conquest	21
<i>Bernstein, David.</i> The Blinding of Harold and the Meaning of the Bayeux Tapestry	40
<i>Chibnall, Marjorie.</i> Military Service in Normandy before 1066	65
<i>Ciggaar, Krijnie.</i> England and Byzantium on the Eve of the Norman Conquest (the reign of Edward the Confessor)	78
<i>Decaens, Joseph.</i> La datation de l'abbatiale de Bernay: quelques observations architecturales et résultats des fouilles récentes	97

Select Bibliography

<i>Gem, Richard.</i> The Early Romanesque Tower of Sompting Church, Sussex	121
<i>Green, Judith.</i> The Sheriffs of William the Conqueror	129
<i>Hockey, Frederick.</i> The House of Redvers and its Monastic Foundations	146
<i>Johnston R. C.</i> On Scanning Anglo-Norman Verse	153
<i>Keen, Laurence.</i> The Umfravilles, the Castle and the Barony of Prudhoe, Northumberland	165
<i>Darlington, R. R. and McGurk, P.</i> The <i>Chronicon ex Chronicis</i> of Worcester and its Use of Sources for English History before 1066	185
<i>Mahany, Christine and Roffe, David.</i> Stamford: the Development of an Anglo-Scandinavian Borough	197
<i>Walker, David.</i> Crown and Episcopacy under the Normans and Angevins	220
IV 1983	
<i>Bradbury, Jim.</i> Battles in England and Normandy, 1066-1154	1
<i>Coulson, Charles.</i> Fortress-Policy ds Capetian Tradition and Angevin Practice: aspects of the conquest of Normandy by Philip II	13
<i>Foreville, Raymonde.</i> La crise de l'ordre de Sempringham au XIIe siècle: nouvelle approche du dossier des frères lais	39
<i>Fröhlich, Walter.</i> The Letters Omitted from Anselm's Collection of Letters	58
<i>Hollister, C. Warren.</i> War and Diplomacy in the Anglo-Norman World: the reign of Henry I	72
<i>Holt, J. C.</i> The Introduction of Knight Service in England	89
<i>van Houts, Elisabeth M. C.</i> Scandinavian Influence in Norman Literature of the Eleventh Century	107
<i>Huisman, Gerda C.</i> Notes on the Manuscript Tradition of Dudo of St Quentin's <i>Gesta Normannorum</i>	122
<i>Klukas, Arnold William.</i> The Architectural Implications of the <i>Decreta Lanfranci</i>	136
<i>Maccarini, Pier Andrea.</i> William the Conqueror and the Church of Rome (from the <i>Epistolae</i>)	172
<i>Owen, Dorothy.</i> The Norman Cathedral at Lincoln	188
<i>Park, David.</i> The 'Lewes Group' of Wall Paintings in Sussex	200
<i>Gem, Richard.</i> An Early Church of the Knights Templars at Shipley, Sussex	238
VII 1984	
<i>Abels, Richard.</i> Bookland and Fyrd Service in Late Saxon England	1
<i>Abulafia, David.</i> The Norman Kingdom of Africa and the Norman Expeditions to Majorca and the Muslim Mediterranean	26
<i>Clark, Cecily.</i> British Library Additional MS. 40,000 ff. lv-12r	50
<i>Franklin, M. J.</i> The Identification of Minsters in the Midlands	69
<i>Gazeau-Goddet, Véronique.</i> L'aristocratie autour du Bec au tournant de l'année 1077	90
<i>Gillmor, C. M.</i> Naval Logistics of the Cross-Channel Operation, 1066	105
<i>Graboës, A.</i> Anglo-Norman England and the Holy Land	132
<i>Harper-Bill, Christopher.</i> Bishop William Turbe and the Diocese of Norwich, 1146-1174	142
<i>Hooper, Nicholas.</i> The Housecarls in England in the Eleventh Century	161
<i>Kiff, Jennie.</i> Images of War: Illustrations of Warfare in Early Eleventh-Century England	177
<i>Lewis, Christopher.</i> The Norman Settlement of Herefordshire under Willam I	195
<i>le Maho, Jacques.</i> Note sur l'histoire d'un habitat seigneurial des XIe et XIIe siècles en Normandie: Mirville (S. Mme)	214
<i>Martindale, Jane.</i> Aimeri of Thouars and the Poitevin Connection	224
VIII 1985	
<i>Bachrach, Bernard S.</i> Some Observations on the Military Administration of the Norman Conquest	1
<i>Baylé, Maylis.</i> Le décor sculpté de Saint-Georges-de-Boscherville: quelques questions de style et d'iconographie	27

Select Bibliography

<i>Baylé, Maylis.</i> Note sur les chapiteaux provenant de l'ancienne abbaye de Hyde conservés à St Bartholomew Hyde (Winchester)	46
<i>Biddle, Martin.</i> Seasonal Festivals and Residence : Winchester, Westminster and Gloucester in the Tenth to Twelfth Centuries	51
<i>Counihan, Joan.</i> Mrs Ella Armitage, John Horace Round, G. T. Clark and Early Norman Castles	73
<i>Eales, Richard.</i> Local Loyalties in Norman England : Kent in Stephen's Reign	88
<i>Garnett, George.</i> <i>Fraci et Angli</i> : the Legal Distinctions Between Peoples After the Conquest	109
<i>Holdsworth, Christopher.</i> St Bernard and England	138
<i>Mason, Emma.</i> Change and Continuity in Eleventh-Century Mercia : the Experience of St Wulfstan of Worcester	154
<i>Mortimer, Richard.</i> Land and Service : the Tenants of the Honour of Clare	177
<i>Searle, Eleanor.</i> Frankish Rivalries and Norse Warriors	198
<i>Williams, Ann.</i> The Knights of Shaftesbury Abbey	214
IX 1986	
<i>Beech, George.</i> The Participation of Aquitanians in the Conquest of England 1066-1100	1
<i>Bennett, Matthew.</i> Stereotype Normans in Old French Vernacular Literature	25
<i>Ciggaar, Krijnie.</i> Byzantine Marginalia to the Norman Conquest	43
<i>Aerts, W. J.</i> Appendix : The Latin-Greek Wordlist in Ms. 236 of the Municipal Library of Avranches, fol. 97v	64
<i>Fernie, Eric.</i> The Effect of the Conquest on Norman Architectural Patronage	71
<i>Fleming, Robin.</i> Domesday Book and the Tenurial Revolution	87
<i>Greenway, Diana E.</i> Henry of Huntingdon and the Manuscripts of his <i>Historia Anglorum</i>	103
<i>Hyams, Paul.</i> 'No Register of Title' : The Domesday Inquest and Land Adjudication	127
<i>Loud, G. A.</i> The Abbey of Cava, its Property and Benefactors in the Norman Era	143
<i>Ridyard, S. J.</i> <i>Condigna Veneratio</i> : Post-Conquest Attitudes to the Saints of the Anglo-Saxons	179
<i>Roesdahl, Else.</i> The Danish Geometrical Viking Fortresses and their Context	209
<i>Webb, Diana M.</i> The Holy Face of Lucca	227
X 1987	
<i>Baylé, Maylis.</i> Les ateliers de sculpture de S-Etienne de Caen au XI ^o et au XII ^o siècles	1
<i>de Boüard, Michel.</i> Y a-t-il eu, au XVI ^e siècle un project de béatification de Guillaume le Conquérant ?	25
<i>Chibnall, Marjorie.</i> The Empress Matilda and Bec-Hellouin	35
<i>Cowdrey, H. E. J.</i> Towards an Interpretation of the Bayeux Tapestry	49
<i>Davis, R. H. C.</i> The Warhorses of the Normans	67
<i>Decaens, Joseph.</i> Les origines du village et du chateau de Saint-Vaast-sur-Seulles (Calvados)	83
<i>Fröhlich, Walter.</i> St Anselm's special relationship with William the Conqueror	101
<i>Grant, Lindy.</i> The Architecture of the Early Savignacs and Cistercians in Normandy	111
<i>Hollister, C. Warren.</i> St Anselm on Lay Investiture	145
<i>van Houts, Elisabeth M. C.</i> The Ship List of William the Conqueror	159
<i>Keynes, Simon.</i> Regenbald the Chancellor (<i>sic</i>)	185
<i>Loyn, H. R.</i> William's bishops : some further thoughts	223
<i>Peirce, Ian.</i> Arms, Armour and Warfare in the Eleventh Century	237
<i>Vaughn, Sally N.</i> Eadmer's <i>Historia Novorum</i> : A Reinterpretation	259
V 1988	
<i>Anderson, Freda.</i> St Pancras Priory, Lewes : its Architectural Development to 1200	1
<i>Bennett, Matthew.</i> Wace and Warfare	37
<i>Brett, Caroline.</i> John Leland and the Anglo-Norman Historian	59
<i>Counihan, Joan.</i> The Growth of Castle Studies in England and on the Continent since 1850	77

Select Bibliography

<i>Gillmor, Carroll.</i> The Logistics of Fortified Bridge Building on the Seine under Charles the Bald	87
<i>Dearden, Brian.</i> Charles the Bald's Fortified Bridge at Pitres (Seine) :Recent Archaeological Investigations	107
<i>Harper-Bill, Christopher.</i> The Struggle for Benefices in Twelfth-Century East Anglia	113
<i>Keen, Laurence.</i> Coastal Salt Production in Norman England	133
<i>Maund, K. L.</i> The Welsh Alliances of Earl Ælfgar of Mercia and his Family in the mid-Eleventh Century	181
<i>Moore, John S.</i> Domesday Slavery	191
<i>Neumann, J.</i> Hydrographic and Ship-Hydrodynamic Aspects of the Norman Invasion, AD 1066	221
<i>Ruud, Marylou.</i> Monks in the World:the Case of Gundulf of Rochester	245
<i>Ward, Jennifer C.</i> Royal Service and Reward:the Clare Family and the Crown, 1066-1154.	261
<i>Williams, Ann.</i> A Vice-Comital Family in Pre-Conquest Warwickshire	279
XII 1989	
<i>Holdswoorth, Christopher.</i> R. Allen Brown	1
<i>Brown, Shirley Ann.</i> The Bayeux Tapestry :Why Eustace, Odo and William?	7
<i>Cooke, Kathleen.</i> Donors and Daughters :Shaftesbury Abbey's Benefactors, Endowments and Nuns c. 1086-1130	29
<i>Franklin, Michael.</i> The Bishops of Winchester and the Monastic Revolution	47
<i>Hudson, John.</i> Life-Grants of Land and the Development of Inheritance in Anglo-Norman England	67
<i>Huneycutt, Lois L.</i> The Idea of the Perfect Princess :the <i>Life of St Margaret</i> in the Reign of Matilda II (1100-1118)	81
<i>McNeill, T. E.</i> The Great Towers of Early Irish Castles	99
<i>Mortimer, Richard.</i> The Charters of Henry II: What are the Criteria for Authenticity ?	119
<i>Potts, Cassandra.</i> Normandy or Brittany? A Conflict of Interests at Mont Saint Michel (966-1035)	135
<i>Roffe, David.</i> From Thengnate to Barony :Sake and Soke, Title and Tenants-in-Chief	157
<i>Strickland, Matthew.</i> Securing the North :Invasion and the Strategy of Defence in Twelfth-Century Anglo-Scottish Warfare	177
<i>Tennis, H. B.</i> Benoit of St Maure and William the Conqueror's <i>amor</i>	199
<i>Tudor-Craig, Pamela.</i> Controversial Sculptures :the Southwell Tympanum, the Glastonbury Respond, the Leigh Christ	211
<i>van Houts, Elisabeth M. C.</i> Historiography and Hagiography at Saint-Wandrille :the <i>Inventio et Miracula Sancti Vulfranni</i>	233
XIII 1990	
<i>Searle, Eleanor.</i> 'Inter Amicos' :The Abbey, Town and Early Charters of Battle (Allen Brown Memorial Lecture)	1
<i>Barker, Lynn K.</i> Ivo of Chartres and the Anglo-Norman Cultural Tradition	15
<i>Baylé, Maylis.</i> Réminiscences anglo-scandinaves dans la sculpture romane de Normandie	35
<i>Blackburn, Mark.</i> Coinage and Currency under Henry I:A Review	49
<i>Fleming, Donald F.</i> Landholding by Milites in Domesday Book :A Revision	83
<i>Gillingham, John.</i> The Context and Purposes of Geoffrey of Monmouth's <i>History of the Kings of Britain</i>	99
<i>Golding, Brian.</i> Robert of Mortain	119
<i>Grabois, Aryeh.</i> The Description of Jerusalem by William of Malmesbury :A Mirror of the Holy Land's Presence in the Anglo-Norman Mind	145
<i>Keats-Rohan, K. S. B.</i> William I and the Breton Contingent in the non-Norman Conquest 1060-1087	157
<i>Keynes, Simon.</i> The Æthelings in Normandy	173
<i>Lewis, C. P.</i> The Early Earls of Norman England	207
<i>Leyser, Karl.</i> The Anglo-Norman Succession 1120-1125	225

Select Bibliography

<i>Mason, J. F. A.</i> Barons and their Officials in the Later Eleventh Century	243
<i>Thompson, Kathleen.</i> Robert of Bellême Reconsidered	263
XIV 1991	
<i>Taylor, Arnold J.</i> 'Belrem' (Allen Brown Memorial Lecture)	1
<i>Barrow, G. W. S.</i> The Charters of David I	25
<i>Dalton, Paul.</i> In <i>Neutro Latere</i> : The Armed Neutrality of Ranulf II Earl of Chester in King Stephen's Reign	39
<i>Gauthiez, Bernard.</i> Hypothèses sur la Fortification de Rouen au Onzième Siècle. Le Donjon, La Tour de Richard II et l'Enceinte de Guillaume	61
<i>Graham-Campbell, James.</i> Anglo-Scandinavian Equestrian Equipment in Eleventh-Century England	77
<i>Green, Judith.</i> Financing Stephen's War	91
<i>King, Edmund.</i> Dispute Settlement in Anglo-Norman England	115
<i>LoPrete, Kimberly A.</i> Adela of Blois and Ivo of Chartres: Piety, Politics and the Peace in the Diocese of Chartres	131
<i>Moore, John S.</i> The Anglo-Norman Family: Size and Structure	153
<i>Patterson, Robert B.</i> The Author of the 'Margam Annals': Early Thirteenth-Century Margam Abbey's Compleat Scribe	197
<i>Reynolds, Susan.</i> Bookland, Folkland and Fiefs	211
<i>Short, Ian.</i> Patrons and Polyglots: French Literature in Twelfth-Century England	229
<i>Tanner, Heather J.</i> The Expansion of the Power and Influence of the Counts of Boulogne under Eustace II	251
XV 1992	
<i>Alexander, J. J. G.</i> Ideological Representation of Military Combat in Anglo-Norman Art	1
<i>Beech, George.</i> A Norman-Italian Adventurer in the East: Richard of Salerno 1097-1112	25
<i>Bennett, Matthew.</i> Norman Naval Activity in the Mediterranean c. 1060-c. 1108	41
<i>Bisanti, Armando.</i> Mimo Giullaresco e Satira del Villano nel <i>De Clericis et Rustico</i>	59
<i>Cowdrey, H. E. J.</i> Simon Magus in South Italy	77
<i>D'Alessandro, Vincenzo.</i> Nobiltà e Parentela nell'Italia Normanna	91
<i>Fröhlich, Walter.</i> The Marriage of Henry VI and Constance of Sicily: Prelude and Consequences	99
<i>Grierson, Philip.</i> The Coinages of Norman Apulia and Sicily in their International Setting	117
<i>Johns, Jeremy.</i> The Norman Kings of Sicily and the Fatimid Caliphate	133
<i>Lendinara, Patrizia.</i> The <i>Oratio de Utensilibus ad domum regendum pertinentibus</i> by Adam of Balsham	161
<i>Loud, G. A.</i> The Genesis and Context of the Chronicle of Falco of Benevento	177
<i>Martindale, Jane.</i> The Sword on the Stone: Some Resonances of a Medieval Symbol of Power (The Tomb of King John in Worcester Cathedral)	199
<i>Melazzo, Lucio.</i> The Normans through their languages	243
<i>Peirce, Ian.</i> The Knight, his Arms and Armour, c. 1150-1250	251
<i>Shepard, Jonathan.</i> The Uses of the Franks in Eleventh-Century Byzantium	275
<i>Varga, Livia.</i> A New Aspect of the Porphyry Tombs of Roger II, First King of Sicily, in Cefalù	307
XVI 1993	
<i>Aird, W. M.</i> St Cuthbert, the Scots and the Normans	1
<i>Babcock, Robert S.</i> Rhys ap Tewdwr, king of Deheubarth	21
<i>Brand, Paul.</i> 'Time out of mind': the knowledge and use of the eleventh- and twelfth- century past in thirteenth-century litigation	37
<i>Brown, Shirley Ann and Herren Michael W.</i> The <i>Adelae Comitissae</i> of Baudri of Bourgeuil and the Bayeux Tapestry	55
<i>D'Angelo, Edoardo.</i> Giuseppe Del Re's 'critical' edition of Falco of Benevento's Chronicle	75

Select Bibliography

<i>Dunville, David N.</i> Anglo-Saxon books: treasure in Norman hands?	83
<i>Dunbabin, Jean.</i> Geoffrey of Chaumont, Thibaud of Blois and William the Conqueror	101
<i>Gauthiez, Bernard.</i> Paris, un Rouen capétien? (Développements comparés de Rouen et Paris sous les règnes de Henri II et Philippe-Auguste)	117
<i>Hiley, David.</i> Changes in English chant repertoires in the eleventh century as reflected in the Winchester sequences	137
<i>Kemp, B. R.</i> Towards admission and institution: English episcopal formulae for the appointment of parochial incumbents in the twelfth century	155
<i>Renn, Derek F.</i> Burhgeat and gonfanon: two sidelights from the Bayeux Tapestry	177
<i>Smith, Mary Frances.</i> Archbishop Stigand and the eye of the needle	199
<i>Thompson, Benjamin.</i> Free alms tenure in the twelfth century	221
<i>Vaughn, Sally N.</i> Anselm in Italy, 1097-1100	245
<i>Williams, John Bryan.</i> Judhael of Totnes: the life and times of a post-Conquest baron	271

Publications of the Anglo-Norman Text Society

No. I(for 1939) <i>La Petite Philosophie</i> , ed. W. H Trethewey (1939)	
No. II(for 1940) <i>La Livre de Seyntz Medicines</i> , ed. E. J. Arnould (1940)	
No. III(for 1941-2) <i>Anglo-Norman Letters and Petitions from All Souls MS 182</i> , ed. M. Dominica Legge (1941)	
No. IV(for 1943) <i>La Seinte Resurecccion</i> , ed. M. K. Pope, T. Atkinson Jenkins, J. M. Manley and Jean G. Wright (1943)	
No. V(for 1944) <i>le Secré de Secrez</i> , by <i>Pierre d'Abernun of Fetcham</i> , ed. O. A. Beckerlegge (1944)	
No. VI(for 1945-6) <i>An Anglo-Norman Rhymed Apocalypse, With Commentary</i> , ed. Olwen Rhys and Sir John Fox (1946)	
No. VII(for 1947-8) <i>St Modwenna</i> , ed. A. T. Baker and A. Bell (1947)	
No. VIII(for 1949) <i>Dialogue de s. Julien et son disciple</i> , ed. Adrien Bonjour (1949)	
Nos. IX-X(for 1950-2) <i>Romance of Horn</i> , by <i>Thomas</i> , Vol. II, ed. M. K. Pope (1955)	
No. XI(for 1953) <i>Anglo-Norman Political Songs</i> , ed. I. S. T. Aspin (1953)	
Nos. XII-XIII(for 1954-5) <i>Romance of Horn</i> , Vol. II, ed. M. K. Pope and T. B. W. Reid (1964)	
Nos. XIV-XVI(for 1956-8) <i>Estoire des Engleis</i> , by <i>Gaimar</i> , ed. A. Bell (1960)	
No. XVII(for 1959) <i>Crusade and Death of Richard I</i> , ed. R. C. Johnston (1961)	
No. XVIII(for 1960) <i>Life of St Catherine</i> , by <i>Clemence of Barking</i> , ed. W. MacBain (1964)	
No. XIX(for 1961) <i>La Vie de seint Auban</i> , ed. A. R. Harden (1968)	
No. XX(for 1962) <i>Le Petit Plet</i> , by <i>Chardri</i> , ed. B. S. Merrilees (1970)	
Nos. XXI-XXII(for 1963-4) <i>An Anglo-Norman Brut</i> (<i>Ms. B.M. Royal 13 .A. xxi</i>), ed. A. Bell (1969)	
No. XXIII(for 1965) <i>The Anglo-Norman Text of the Holkham Bible Picture Book</i> , ed. F. P. Pickering (1971)	
No. XXIV(for 1966) <i>Le Lai du Cor</i> , ed. C. T. Erickson (1973)	
No. XXV(for 1967) <i>The Anglo-Norman Pseudo-Turpin Chronicle of William de Briane</i> , ed. I. Short (1973)	
Nos. XXVI-XXVIII(for 1968-70) <i>Fouke le Fitz Waryn</i> , ed. E. J. Hathaway, P. T. Ricketts, C. A. Robson and A. D. Wilshere (1975)	
Nos. XXIX-XXXI(for 1971-73) <i>The Anglo-Norman Alexander</i> (<i>Le Roman de toute chevalerie</i>), by <i>Thomas of Kent</i> , Vol. I, ed. B. Foster (1976)	
Nos. XXXII-XXXIII(for 1974-75) <i>The Anglo-Norman Alexander</i> , Vol. II, ed. B. Foster (1977)	
No. XXXIV(for 1976) <i>La Vie de saint Laurent</i> , ed. D. W. Russell (1976)	
No. XXXV(for 1977) <i>La Vie des Set Dormanz</i> , by <i>Chardri</i> , ed. B. S. Merrilees (1977)	
No. XXXVI(for 1978) <i>La Passiun de seint Edmund</i> , ed. J. Grant (1978)	

Select Bibliography

- No. XXXVII(for 1979) *La Livre de Sibile*, by *Philippe de Thaon*, ed. H. Shields (1979)
No. XXXVIII(for 1980) *The Life of Saint John the Almsgiver*, Vol. I, ed. K. Urwin (1980)
No. XXXIX(for 1981) *The Life of Saint John the Almsgiver*, Vol. II, ed. K. Urwin (1981)
No. XL(for 1982) *Mirour de Seinte Eglyse*, ed. A. D. Wilshere (1982)
No. XLI(for 1983) *La Estoire de seint Aedward le Rei*, by *Matthew Paris*, ed. K. Y. Wallace (1983)
No. XLII(for 1984) *The Hospitallers' Rivle . . .*, ed. K. V. Sinclair (1984)
No. XLIII(for 1985) *Les Enfaunces de Jesu Crist*, ed. M. Boulton (1985)
No. XLIV(for 1986) *Les Proverbes de Salemon*, by *Sanson de Nantuil*, Vol. I, ed. C. Isoz (1988)
No. XLV(for 1987) *Les Proverbes de Salemon*, by *Sanson de Nantuil*, Vol. I, ed. C. Isoz (1988)
No. XLVI(for 1988) *La Novele Cirrgerie*, ed. C. Hieatt & R. Jones (1990)
No. XLVII(for 1989) *Protheselaus*, by *Hue de Rotelande*, Vol. I, ed. A. J. Holden (1991)
No. XLVIII(for 1990) *Protheselaus*, by *Hue de Rotelande*, Vol. II, ed. A. J. Holden (1991)
No. XLIX(for 1991) *Protheselaus*, by *Hue de Rotelande*, Vol. III, ed. A. J. Holden (1993)

Occasional Publications Series :

- 1 *Medieval French Textual Studies in Memory of T. B. W. Reid*, ed. Ian Short (1984)
- 2 *Anglo-Norman Anniversary Essays*, ed. Ian Short (1993)

Plain Text Series :

- 1 *Rauf de Linham, Kalender*, ed. Tony Hunt (1983)
- 2 *Philippe de Thaon, Comput*, ed. Ian Short (1984)
- 3 *Les Gius Partiz des Eschez*, ed. Tony Hunt (1985)
- 4 *Le Petit Bruit*, ed. D. Tyson (1988)
- 5 *Orthographia Gallica*, ed. R. C. Johnston (1988)
- 6 *Walter de Bibbesworth, Le Tretiz*, ed. W. Rothwell (1990)
- 7 *Amys e Amillyoun*, ed. Hideka Fukui (1990)
- 8 *La Destruction de Rome*, ed. Luciano Formisano (1990)
- 9 *Liber Donati*, ed. B. Merrilees & B. Sitarz-Fitzpatrick (1993)

Anglo-Norman Dictionary [published in conjunction with M. H. R. A.] :

Fasc. 1 A-C(1977) Fasc. 2 D-E(1981) Fasc. 3 F-L(1983) Fasc. 4 M-O(1985) Fasc. 5 P-Q(1988) Fasc. 6 R-S(1990) Fasc. 7 T-Z(1992)

Select Bibliography

本論文は以下の別個に公表した論文に加筆し、それらに修正を加えて更に新資料を補って纏め上げたものである。

初出

- 1) Middle English *Amis and Amiloun* と Anglo-Norman *Amis e Amilun*についての一考察。大阪大学大学院英文学淡活会 No. IX 1970.
- 2) Layamon's *Brut* と Wace の *Le Roman de Brut* 大阪大学大学院英文学淡活会 No. X 1971.
- 3) 「アングロノルマン文学素描」大手前女子大学論集 6 号 1972, 11月
- 4) Anglo-Norman *Ipomedon* と Middle English *Ipomadon* 村上至考教授退官記念論文集 1974, 4月
- 5) 「アングロノルマン研究」大手前女子大学論集 9 号 1975, 11月
- 6) 「ビブズワスのフランス語教本」大手前女子大学論集 10 号 1976, 11月
- 7) 「ビブズワスのフランス語教本（続）」大手前女子大学論集 15 号 1981, 11月
- 8) *Le Jeu d'Adam: An Anglo-Norman Drama of the Twelfth Century*—訳一大手前女子大学論集 19 号 1985, 11月
- 9) 「パリの学生 T. H. による正綴論」—訳述一大手前女子大学論集 20 号 1986, 11月
- 10) 「ガリア語正綴論」—訳述一大手前女子大学論集 21 号 1987, 12月
- 11) 「M. T. コワフルリイの『ガリア語正綴論』」—訳述一大手前女子大学論集 22 号 1988, 12月
- 12) 「アングロノルマン『礼節の書』」大手前女子大学論集 23 号 1989, 12月
- 13) 「フランス語の話し方、書き方教本」—訳述一大手前女子大学論集 24 号 1990, 12月
- 14) *Amys e Amillyoun* ed., Hideka Fukui: *Anglo-Norman Text Society, Plain Texts Series 7*, London, 1990
- 15) 「アングロノルマン『礼節』論」中世英文学への巡礼の道 斎藤勇教授還暦記念論文集 1993, 3月
- 16) *Les Dytees attributed to Walter de Bibbesworth* 佐藤輝夫先生卒寿記念論文集 1993, 6月
- 17) 「ビブズワスのフランス語教本 II」大手前女子大学論集 27 号 1993, 12月
- 18) The All Souls Continuation of *La Maniere de Langage* in Anglo-Norman Anniversary Essays ed. Ian Short, *Anglo-Norman Text Society, Occasional Publication Series No. 2* London, 1993.

CONCORDANCE
of
AMYS E AMILLYOUN

Edited by
HIDEKA FUKUI

231 li ad getté s'amour;/ Si forment comensa
1015 'Sire,' dit, 'par la foy qe vus deveze/
760 ly desqe a dis,/ En son pais s'en est alé,/

257 Ala par congé de sa mere/ Parler
593 hiet l'autre desq'a la mort./ Nul deigne
854 E il dit: 'C'est mal dolur/ Quant n'avom
241 langur demora/ Tant que li quens s'en ala/
603 as coups brusé/ E si sunt outrepassé./
995 serra achaté!'/ Outre la table saut a taunt,/

973 ma coupe od tot le vin,/ Si l'aportez
804 vous?'/ 'Dame, jeo [ne] le dirrai mes;/
1185 seignur la fist relever,/ Bel la comence
833 le serjant,/ Sire Amylloun e son enfant,/

736 vus dei jeo bien counter/ Coment il firent
432 e purpensa/ Com celi qe grant mester en

1233 En bienfaitz se pena./ Aprés sa mort
1077 l'avisioun/ E de cel sougne resperi,/ '

1135 Pere e mere, quant ceo virent,/

787 E quant longtemps out langui,/ Morust e
1114 deus fiz ai estranglé.'/ La dame ses meins
758 le congé pris,/ E seignurs ove ly desqe
1223 out comaundé./ Un an vesqui e un jour;/

404 Haist Amys desqe a la mort,/ Fust ceo
170 serra fet./ Sa gent durement l'amerent;/
583 s'il pout deffendre la bataille,/ Sa fille
594 deigne a autre affier;/ Chescun se prent
947 q'il clama pur seignur,/ Touz li tenoient
459 une vespré/ En un grant boys est alé./

199 respoudi/ Ne vout uncore aver mary./

927 sount;/ Si eus fuissent en la cort conuz,/

35 les fist a lour talent./ Chivalers lour fist
202 fuit bien gardé:/ Compaignes out

1192 Par Jhesu, le roy celestre./ Tourné me ert
32 envers lor seygnur,/ Bien le portent
329 e la meschine,/ L'endemain vint tot
425 E jeo lealment vus dy/ Qe, s'il defaut
434 en a./ De son frere li sovynt;/ Tantost
892 Que jeo puisse chivacher.'/ L'enfant
884 Donque li dist sire Amyllioun:/ 'Oweyn,
543 eus posa./ La dame de ceo s'enmerveilla./

224 Est venuz la novele/ En la chaumbre
403 virent qe le seignur/ Haist Amys desqe
1161 matyné/ Les deus countes sunt venuz/ E

621 Del cop parlent durement:/ Dist l'un
843 Ne a qui poet son dolur moustrer,/ Fors
709 furent assemblé,/ La pucele fut amené/
798 Com il en son lit gisoit,/ Sa bele dame
372 de la mayson,/ Si encontrra le botiler./

1056 viande e de boivre ensement./ E li memes
816 Meuz, ceo dit ele, veut morir/ Qe
243 en veneerie,/ Od ly tote sa chivalrie./

34 amast mult tendrement,/ Honur les fist
889 Mes jeo ne puis aler a pié;/ Priez
65 E il od force de sa gent/ Vendroit
1059 com pout l'ad conforté./ La dame sovent
63 Fuist ceo en pees ou en guerre,/ Maundast
40 De Amys fist son botiler,/ Car moult
508 sunt icy/ Od vous desoremés demorront;/

1198 Dame, sovenez vous del bien,/ Coment
854 mal dolur/ Quant n'avom a boivre ne
546 nyuyt issi se contint/ Desques Amyllioun
1126 Deu ount escoté./ Aprés la messe vint
286 e laner!/ Un play bien dur vus bateray:/

a amer/ Q'ele ne pout boyvre ne manger./ Les damoyses qe
A Amillioun, qe tant amez,/ Ne me facez enprisoner,/ Mes le
A Amys ad trestot counté/ Coment eust finé la bataille/ E
a Amys que ele ama./ Tant parla e taunt demora/ Qe tot son
a autre affier;/ Chescun se prent a ferir./ Amillioun fier le
a boivre ne a manger;/ Ne poums icy plus demorer./ Jhesu, le
A boys juwer en veneerie,/ Od ly tote sa chivalrie./ A l'ostel
A cel encoultre tant firent bien/ Qe l'un ne l'autre ne perdit
A cel povre vint errant:/ Forment l'ad feru du pé./ Qe en la
a ceo frarin,/ Au povres qe tant est mesaysé./ Mes le hanap
A ceo fui jeo confés./' Par ceo savoit sir Amillioun/ Qe Amis
a chastier./ 'Dame,' dit il, 'lessez ester!/ Ne deussez tel doil
A chef de la vile a un bordel/ Illoc lour fist aver hostel./ O,
a coucher:/ La dame ad son drew acolé/ E par amour sovent
a./ De son frere li sovynt;/ Tantost a la countesse vynt,/

A Deu ala;/ Amis, son frere, ensement./ Moult se amercent
A, Deu!' dit il, 'qe onqe ne menti,/ Doin qe voir soit mon
A Deu graces en rendirent./ Sire Amillioun, quant fust sané/ E
a Deu rendist s'alme;/ E tost aprés morust la dame./ Quant
a Deu tendi/ E mout graces li rendi,/ Donqe comence pur fere
a dis,/ En son pais s'en est alé,/ A Amys ad trestot counté/
A drein morust pur dolur./ Sire Amillioun fut molt prisé/ Qe
a dreit fust ceo at tort./ Nul ne oseit pur li parler,/ E le conte
A femme prendre li consaillement./ Par lour consail se mariat:/
a femme ly dorreyt/ E de tote sa terre heir li freit./ Est venuz
a ferir./ Amillioun fier le seneschal/ D'un grant launce
a folur./ Mes de l'enfant avoient pité:/ Al conte Amys ount
A force ly covynt dormir,/ Aviz li fust qu'il deust morir./

A grant cherté le tynt le pere,/ E mout l'ama auxi la mere./ La
A grant honur serreint receuz./ Pres [de] la porte se sount
a grant honur:/ Touz les ad dobbez en estour,/ Lour trova si
a grant pleinté/ Des dameseles del pais/ En sa chambre noef e
a grant vilté/ Si jeo ne soie de vous vengé./ Si fu[i] malades e
a honour;/ Si les amast mult tendrement,/ Honur les fist a lour
a hounte:/ Acounté est tot lor oevre al conte./ Li quens fu de
a la bataille,/ Le juggement avereuz saunz faille,/ Qe vostre
a la countesse vynt,/ Congé li ala demaunder/ Qe a son frere
a la dame ala,/ Son message li counta./ Ele li fist un asne
a la dame irrez,/ Nostre congé de li prendrez./ Hors de ceo pais
A la dame ne voleit parler,/ Desques al matin al lever./

a la damoisele/ Del botiler qe tant ert beaus/ E tres gentil
a la mort,/ Fust ceo a dreit fust ceo at tort./ Nul ne oseit pur li
a la porte descenduz,/ Qe nul fut aparcevant/ De lour venue
a l'autre qe le chivaler/ Ses armes sout trop bien porter,/ Mes
a l'enfant que ly serveit./ Amillioun com plus viveit,/ Tant
A l'huis de moster./ Quant Amillioun deust son noun nomer,/

a li disoit:/ 'Me diez par amour de moy —/ Car jeo vus aime en
A li soleit trop beal parler,/ Les ois sur ly forment roylla./

a li vet/ Chescun jour sis foiz ou sept;/ Tant com pout l'ad
a li vousist venir./ Cil soffri en cel an/ Grant dolur e grant
A l'ostel n'i out nul remis/ Des chevalers for sire Amis,/ E il
a lour talent./ Chivalers lour fist a grant honur./ Touz les ad
a lui par charité/ Qe ele me face une ane doner/ Qe jeo puisse
a ly, ceo li jura./ Amyllioun ly mercya./ Atant del counte
a ly est alé,/ Qe li ama molt de fin quer/ Comme si ele fust sa
a ly hastivement,/ E il od force de sa gent/ Vendroit a ly, ceo
a ly puet affyer./ Amyllioun ne velt lesser:/ De son hostel ly
A ma court od vous irround./ E quant nous averoms robes
a manger me menastes/ E del pais m'enchaceastes;/ Puis
a manger;/ Ne poums icy plus demorer./ Jhesu, le fiz seinte
a meson vynt./ Ore lerrom de Amis ester;/ De sir Amillioun
a mesoun;/ Joiouse est ele pur Amyllioun./ Amys donqe ove
A mon pere le conteray/ Qe vers li estes e moy forset,/ E

1104 que regeir;/ Une bone robe li fist vener/ E
76 En bone foy saunz tresoun/
306 'Nous le froms si privément/ Touz deus
124 volez unke nul autre amer/ Ne semblant
632 de son destrer;/ Combatre voleit per
626 dolent est e corucé/ Quant combatre deit
635 envie./ Tant fist il par sa cortesie:/ Meuz
888 que nous pooms./ Mes jeo ne puis aler
628 tost q'il pout se vengereit,/ E Amyllioun
682 plaie li demaunda;/ Cil dist que mal n'en
914 enchacer./ Amillion fist dedeinz cocher,/ Florie, quant le congé en eust,/ S'a hasté
254 aparcevant/ De lour estre tant ne quant./
767 est e corucé/ Quant combatre deit a pié;/
627 de li prendrez./ Hors de ceo pais irroms/
887 O, misires Amyllioun,/ Mis estes
836 puis li mena./ La dame, sitost com vew li
1105 La povre gent tot envirooun/ Ala com
923 Ne la savera plus aider./ Donqe comencea
1155 Nul solas ad ne compaignie:/ N'ad home
841 compagnie:/ N'ad home a qui parler,/ Ne
842 vous dirrai de sir Amilloun:/ Quant vint
154 doné/ Bons chevaus e deners,/ E robes
164 menestrauz furent feffez./ Le counte dona
733 Al counte de cel hanap counta/ Coment
988 De mei memes force ne fray.'/ L'enfant
864 Atant del counte departi,/ Si ala parler
68 est il alé;/ Deu requist e son haut noun/
1087 vynt,/ Congé li ala demaunder/ Qe
436 Unke ne vous pout amer,/ Mal vus ad quis
84 ou quere lour vivre avant./ Tantost counta
852 un vassal/ De la meisnee le seneschal./
315 son corps li fist garder,/ Servir le fist tot
1054 me volez, m'est avys!/ Si vous ne venez
441 Qe eus feussent al mariage./ L'endemain
703 Quant le counte ceo oist,/ Tost estendu
1039 Plus qe plein pé e demy;/ Le seneschal
618 de la pité n'en eust./ Paumez sunt chaeuz
95 Quant compaignoun velt autre trahir./
341 suy trahi;/ Cel fel traître m'ad icy servy./
197 desirent,/ E esposer la volirent,/ Mes ele
833 Amylloun e son enfant,/ A chef de la vile
309 mere neee./' Tant li ad dit e parlé/ Ore sunt
462 Desouz un arbre se cocha,/ E son chival
382 nul vous ad de moy counté/ For que dreit
728 damoisele fuit ben paé/ Quant ad baroun
698 respount moult simplement:/ 'Tot soit
122 alé pensant/ E de misire Amillioun/ Qi
753 quidez;/ De vostre espoir failli avez./
134 Si Amilliouns soit alé,/ Son quer me est
640 el heaulme peint de flurs,/ Qe tost
909 Pur cink souz e diz e maille;/ De ceo
993 De mon frere l'ad emblé./ Qe cher sera
737 il firent a coucher:/ La dame ad son drew
591 orguillous e tiers./ Ne avera mester de
330 L'endemain vint tot a hounte:/
102 Mout li devez amour e foy,/ Car bien
971 le counte ad pres mangé,/ Son botiler
1050 ensi com ert de tay levé./ Entre ses bras li
693 Son enemi ad confundu;/ Ly e vous
728 deceu./ La damoisele fuit ben paé/ Quant
1048 s'est tot adrescé./ Plus de cent foiz li
647 Meint coup li dona ceo jour./ La bataille
 a mouster puis li mena./ La dame, sitost com vew li a,/ Pres de
A nostre seignur servy avom./ Pur vostre honur vus cri mercy
a nostre talent/ Ne[!]I] savera home de mere neee./' Tant li ad dit
a nul mustrer;/ Mes quant s'en est departi,/ Requer qe soyez
a per,/ Q'il n'eust de son cheval envie./ Tant fist il par sa
a pié;/ A plus tost q'il pout se vengereit,/ E Amyllioun a pié
a pié l'estut ferir/ Que lessir son chival morir./ Le seneschal
a pié;/ Priez a lui par charité/ Qe ele me face une ane doner/ Qe
a pié se mettreit./ Mes il aparceut tost la manere,/ Si ceo retret
a:/ Plus est sain qe pesson de mer./ Atant li vount touz beiser
A plus q'il pout li eysa,/ De long en long li enmena./ Par la
a plus que ele pust:/ Ove une soule chambere/ Ala par congé de
A plus tost qe Amys poeit,/ Congé ad pris, si s'en aloit/ En
A plus tost q'il pout se vengereit,/ E Amyllioun a pié se
A plus tost que nous pooms./ Mes jeo ne puis aler a pié;/ Priez
a povre garisoun!/ Jadis fu sire e seignur;/ N'est pas merveile
a,/ Pres de joie se palma;/ Vint al seignur, si li demaunda/ Si
a processioune./ Entre autres les deuz vount./ Ne sciet, qe eus
a purpenser/ Q'entre nonaynes se muscereit;/ Son seignur
a qui parler,/ Ne a qui poet son dolur moustrer,/ Fors a l'enfant
a qui poet son dolur moustrer,/ Fors a l'enfant que ly serveit
a sa regioune,/ La gent qe de sa terre furent/ Od grant nobley li
a ses esquiers./ E il memes si bel estoit/ Qe tut le pays le
a ses esquiers/ Les chivals e les destres./ Ore vus dei jeo bien
a soen ressembleit./ E le counte moult esmerveileit,/ De
a soi doncque appelaist,/ E pur Deu li conjurast/ Qe illoec morir
a son amy/ Amys, q'estoit son compaignoun,/ En bone foy
A son frere doine garisoun./ La dame vint, qe bone fust
a son frere velt aler:/ Son enuy monstrer li vout,/ E ala qe mult
a son poer,/ Mes encheson ne pout trover/ Par quoi il vus pout
a son seignur,/ E il dit: 'C'est mal dolur/ Quant n'avom a
A son seignur le ala counter/ Sitost com il poet espleiter./ Le
a talent/ De viande e de boivre ensement./ E il memes a li vet
a tel jour,/ Vous savez bien qe mon seignur/ Pur vous ad ma
a terce sonant/ Touz i furent, petit e grant,/ Les barons e les
a terre chaist:/ Bate ses mains, ses chevez detire,/ Sa vie hiet
a terre chay./ Qe pout, quant son cheval li ment?/ Del cop
a terre;/ N'est home qì me vousist crere/ Si jeo deisse la moyté
A tote gent bel responez,/ Grant preu e grant honur avrez
A touz jours avera reprover/ Si jeo ne me puisse de li venger
a trestouz resoundi/ Ne vout uncore aver mary./ A grant
a un bordel/ Illoc lour fist aver hostel./ O, misires Amyllioun
a un de cel affere,/ Dount devisent la menere/ Coment e quant
a une raym lya./ Dormist, car mult fu travaillé,/ E son chival
a vérité,/ Moult bien me deffenderay/ Devant qe jeo denieray.
a volonté./ Le counte tynt feste plenere/ Une symaine tol
a vostre talent!/ Si vus me volez marier,/ Jeo ne me deveroy
a vous ert leal compaignon./ Ne volez unke nul autre amer/ Ne
A vous le peus bien counter,/ Car bien le deveerez celer./' Tot
abandoné,/ E jeo ly aym e ameray;/ Pur nul autre ne li lerray
abati les colurs./ Sur le senestre le coup descent,/ Mailles
acateront lour vitaille./ Ester ceo lour fount fere/ Sur deus
achaté!'/ Outre la table saut ataunt,/ A cel povre vint errant
acolé/ E par amour sovent baisé,/ E en quidoit qe ceo fu Amys
acord;/ L'un hiet l'autre desq'a la mort./ Nul deigne a autre
Accounté est tot lor oeuvre al counte./ Li quens fu de ire enflé
ad amé vous e moy./' Atant se sunt entrebeysés,/ Plurent e
ad appellé:/ 'Pernez ma coupe od tot le vin,/ Si l'aportez a ceo
ad apporté./ En sa chambre li ad couché./ Bainer li fist e
ad aquité/ Del fait dount fustes encusé./ S'il vous velt esposer
ad baroun a volonté./ Le counte tynt feste plenere/ Une
ad beisé,/ Tot ensi com ert de tay levé./ Entre ses bras li ad
ad bien duré/ Desque noune fust passé./ Ly seneschal fist

691 moy,' fait il, 'fille bele,/ Amys pur vous
 692 Amys pur vous ad combatu,/ Son enemi
 1051 ses braz li ad apporté./ En sa chambre li
 755 bien le deverez celer.' / Tot lour estre luy
 381 Jeo suy vostre chivaler leal;/ Si nul vous
 308 Ne[1] savera home de mère nee.' / Tant li
 36 lour fist a grant honur:/ Touz les
 838 fu sire e seignur;/ N'est pas merveile s'il
 248 De sa dame prist congé,/ E ele tantost li
 794 Ore vodrom de Amis lesser,/ Qe assez
 1144 el pais/ E od li le counte Amis,/ Tel
 1097 sanc de eux ad quillé/ E Amillioun dedeinz
 358 avez!! Ele est ja femme de mester,/ E ceo
 230 pucele en prist tendrour/ Qe tant vers li
 1036 li soleiez amer jadis./ Grant bosoigne li
 1095 pere [n']eust de ses fiz pité:/ Ambedeus
 580 En son corage fust bien païé/ Quant
 443 savez bien qe mon seignur/ Pur vous
 360 nostre bien hounte nous rend:/ Tray nous
 794 de Amis lesser,/ Qe assez ad dount il
 840 La mort desire plus qe la vie;/ Nul solas
 206 fesoient sa volonté;/ De countredit n'en
 970 Qe unke lesser le voleit./ Quant le counte
 52 pere fuy affyné,/ De son seignur le counte
 768 A plus tost qe Amys poeit,/ Congé
 1096 ad le chef trenché;/ E le sanc de eux
 84 doté./ Unke ne vous pout amer,/ Mal vus
 872 vous estre emperorur.' / Quant l'un l'autre
 79 De une chose soiez garny:/ Le counte
 737 Coment il firent a coucher:/ La dame
 654 Amillioun fust bien anuié/ Qe la bataille
 397 troverent en hostage./ Le seneschal
 361 Tray nous ad malement,/ Qe nostre fille
 760 a dis,/ En son pais s'en est alé,/ A Amys
 162 maisné./ Tant fuit de sa gent amé,/ E lour
 400 li seneschal doté/ Qe Amys un soul n'en
 333 fu de ire enflé./ Ne parla mot une luwé.' /
 1047 Trestouz plurent de pité./ Amis s'est tot
 309 Tant li ad dit e parlé/ Ore sunt a un de cel
 61 ne vout son honur;/ Mes s'il eust od ly
 140 me poez crere/ Qe, si vous eiez de moy
 782 fut par tote la terre,/ Tant demeint grant
 593 l'autre desq'a la mort./ Nul deigne a autre
 336 amey e tant ting cher,/ En qj me porrai
 361 ad malement,/ Qe nostre fille ad trahy e
 40 fist son botiler,/ Car moult a ly puet
 51 Amillioun sout pur veir/ Qe son pere fuy
 1113 dame, que pur sa sauté/ Voz deus fiz
 282 gentils hommes m'ount prié,/ E trestouz
 1018 chef me faites tost trencher./ Mes certes
 1019 Mes certes ai jeo trop vesqui;/ Trop bien
 1154 se met hors de la terre,/ Ne la saverai plus
 90 fort enemy./ Gardez vus de sa felonie!/ Ne
 800 diez par amour de moy —/ Car jeo vus
 783 Tant demeint grant affère./ Sa femme ly
 128 ami e mon bien voilant.' / Amis respount
 539 si par la robe noun./ Amis, quant il se
 759 ove ly desqe a dis,/ En son pais s'en est
 458 qe vers une vespré/ En un grant boys est
 701 pas corucer.' / Dount fut comaundé
 949 a folur./ Mes de l'enfant avoient pité:/
 987 fist un mestre!'/ Arere tantost se repeira,/
 330 tot a hounte:/ Acounté est tot lor oeuvre

ad combatu,/ Son enemi ad confundu;/ Ly e vous ad aquité/ Del
 ad confundu;/ Ly e vous ad aquité/ Del fait dount fuistes encusé
 ad couché./ Bainer li fist e seigner,/ Con son corps li fist
 ad counté,/ E puis dit q'il prendra congé,/ Quant il eust le
 ad de moy counté/ For que dreit a verité,/ Moult bien me
 ad dit e parlé/ Ore sunt a un de cel affere,/ Dount devisent la
 ad dobbez en estour,/ Lour trova si com il voleint
 ad dolur./ La mort desire plus qe la vie;/ Nul solas ad ne
 ad doné./ Nomre vous dey la pucele:/ Son dreit noun est
 ad dount il ad mester./ Vus dirrai de sire Amillioun/ Qe tant
 ad el quer dolur/ Qe unque femme ne out greignur./ Donqe se
 ad envolupé./ Sitost com le saunc senti,/ De son grant mal est
 ad fait nostre botiler./ Pur nostre bien hounte nous rend
 ad getté s'amour;/ Si forment comensa a amer/ Q'ele ne pout
 ad icy chacé./ Si le occiez, vous fetes pecché.' / Quant le
 ad le chef trenché;/ E le sanc de eux ad quillé/ E Amillioun
 ad le chivaler si bien armé./ Puis li dist suef en son oraille/ Qe
 ad ma mort juré.' / 'Dame,' dist il, par ma lealté,/ Pur ma
 ad malement,/ Qe nostre fille ad trahy e affolé./ Deu li doint
 ad mester./ Vus dirrai de sire Amillioun/ Qe tant estoit leal
 ad ne compaignie:/ N'ad home a qui parler,/ Ne a qui poet son
 ad parlé./ Un jour par aventure avint/ Qe li quens une feste
 ad pres mangé,/ Son botiler ad appélé:/ 'Pernez ma coupe od
 ad pris congé,/ Qe li covient garder sa terre/ Qe nul li fist
 ad pris, si s'en aloit/ En son pays vers s'amye/ Qe tant ama
 ad quillé/ E Amillioun dedeinz ad envolupé./ Sitost com le
 ad quis a son poer,/ Mes encheson ne pout trover/ Par quoi il
 ad regarde,/ Mout est entre eux grant pité:/ Plurent e decirent
 ad seignz un seneschal/ Qe mout est feloun e desleal/ E si est
 ad son drew acolé/ E par amour sovent baisé,/ E en quidoit qe
 ad tant duré,/ Un coup li voudra ja doner/ Qe li deit par dreit
 ad taunz trové/ Ke le counte fut bien payé./ Tant fuit li
 ad trahy e affolé./ Deu li doint male destiné!! Si avra il, si jeo
 ad trestot counté/ Coment eust finé la bataille/ E coment eust
 ad trestouz doné/ Bons chevaus e deners,/ E robes a ses
 ad trové./ Quoy pur doute quoy pur pour,/ E trestouz virent qe
A donke, ' dit il, 'Deu mercy,/ Si ceo traitour m'ad issi hony
adrescé. / Plus de cent foiz li ad beisé,/ Tot ensi com ert de
affere,/ Dount devisent la menere/ Coment e quant
affere,/ Fust ceo en pees ou en guerre,/ Maundast a ly
affere,/ Jeol vous fray od graunt douçour,/ Sauve chescuny
affere. / Sa femme ly aime tendrement,/ Si fist tot son
affier; Chescun se prent a ferir./ Amillioun fier le
affier?/ Si est grant desert venu:/ Ma fille est pute devenu
affolé. / Deu li doint male destiné!! Si avra il, si jeo vive tant
affyer. / Amyllioun ne velt lesser:/ De son hostel ly fist
affyné,/ De son seignur le counte ad pris congé,/ Qe li
 ai estranglé.' / La dame ses meins a Deu tendi/ E mout graces li
 ai je refusé./ Certes n'estes pas chevaler!! Mescreauz estes e
 ai jeo trop vesqui;/ Trop bien ai la mort deservi.' / 'Voir,' dist
 ai la mort deservi.' / 'Voir,' dist il, 'vous l'averez!! De vostre
aider. / Donqe comencea a purpenser/ Q'entre nonaynes se
aiez od li compaignie,/ Car qui s'acompanie od feloun/ Ne
aime en bone fey —/ Ta especue nue meistes entre nous,/ Sire
aime tendrement,/ Si fist tot son commaundement; Tant qe
aitant:/ 'Sire seneschal, vostre amisté/ En moy n'est si
ajousta,/ Leez la dame se coucha;/ Sa espeie nue entre eus
 alé,/ A Amys ad trestot counté/ Coment eust finé la bataille
 alé./ A force ly covynt dormir,/ Aviz li fust qu'il deust morir
 al baronage/ Qe eus feussent al mariage./ L'endemain a terce
Al counte Amys ount counté./ Cil, sitost com mangea,/ Son
Al counte de cel hanap counta/ Coment a soen ressembleit./ E
 al counte./ Li quens fu de ire enflé./ Ne parla mot une luwé

1085 s'est par matyn levé./ E al matin est il
 544 la dame ne voleit parler,/ Desques al matin
 702 comaundé al baronage/ Qe eus feussent
 544
 A la dame ne voleit parler,/ Desques
 1085 sauné. / Un jour s'est par matyn levé./ E
 1215 de illoec ne pout issir;/ La demora desqe
 120 dit il, 'bien veignant!'/ De vous suy ore
 1059 l'ad conforté./ La dame sovent a ly est
 1139 porra prist congé,/ En son pais s'en est
 1107 vew li a,/ Pres de joie se palma;/ Vint
 133 me doint e voler./ Si Amilliouns soit
 522 trestot chaungé,/ E Amyllioun s'en est
 240 cel langur demora/ Tant que li quens s'en
 1233 bienfaitz se pena./ Après sa mort a Deu
 923 ben fesoit./ La povre gent tot enviroun/
 451 esquier;/ N'ala pas com chivaler/ Mes
 315 meisnee le seneschal./ A son seignur le
 931 fust apris/ E moult ama son seignur,/ alé;
 435 Tantost a la countesse vynt,/ Congé li
 611 Qe de la mort l'ad deffendu,/ Qe le coup
 148 leu verreyt./ Amis lessa le temps aler,/ Deu requist e son haut noun/ A son frere doine garisoun
 1128 pur Amyllioun./ Amys doncq ove la dame
 607 tret le brank d'asser;/ Le seneschal ferir
 559 lour beauté./ Li quens, que mout fuit irré,/ al lever./ Chescune nuyt issi se contint/ Desques Amyllioun a
 1167 la dame oi counter,/ En une chaumbre se
 256 que ele pust:/ Ove une soule chambere/
 68 ly mercya./ Atant del counte departi,/ al mariage./ L'endemain a terce sonant/ Touz i furent, petit e
 438 Si velt aler./ Son enuy monstrer li vout,/ al matin al lever./ Chescune nuyt issi se contint/ Desques
 892 jeo puise chivacher./ L'enfant a la dame
 867 illoec morir le lessast,/ E yl en son pais
 888 tost que nous pooms./ Mes jeo ne puis
 147 son leu verreyt./ Amis lessa le temps
 436 li ala demaunder/ Qe a son frere velt
 934 de les terres./ Les gentils homes, qe
 916 long en long li enmena./ Par la terre tant
 563 veneur un chevaler/ Qe vers eux fist grant
 215 devant li quens teneit./ Mout fu beals e
 312 menere/ Coment e quant s'assemblerunt./
 1005 batu li out e desfolé/ Que ses mains sunt
 768 qe Amys poeit,/ Congé ad pris, si s'en
 274 Ele li respondi e dist: 'Coment/ Vous ay
 161 chivalers de maisné./ Tant fuit de sa gent
 777 Si tost come li quens est fini./ Ore est
 262 s'il n'eust de li pité/ E que ele fust de ly
 102 Mout li devez amour e foy,/ Car bien ad
 770 aloit/ En son pays vers s'amye/ Qe tant
 1177 lour pardona,/ Od sei les tint et les
 1060 La dame sovent a ly est alé,/ Qe li
 930 E l'enfant, que bien fust apris/ E moult
 257 congé de sa mere/ Parler a Amys que ele
 33 Bien le portent a honour;/ Si les
 1095 Le pere [n']jeust de ses fiz pité:/ Ameit./ Deu requist e son haut noun/ A son frere doine garisoun
 830 morir./ La dame, que mout est ennuyé,/ al lever./ Chescune nuyt issi se contint/ Desques Amyllioun a
 564 eux fist grant aleure,/ Poignant plus qe
 118 d'amur li fesoyt,/ Mes de quer poy li
 190 Li quens une dame aveit/ Q'il come sa vie
 708 Quant touz furent assemblé,/ La pucele fut
 56 Ne qe autre heyr n'i entrast/ Ne ses droitz
 696 S'il vous velt esposer,/ Li porriez de quer
 1035 remembrez, Amys,/ Com vous li soleiez
 83 est il le plus doté./ Unke ne vous pout
 123 compaignon./ Ne volez unke nul autre
 231 ad gettē s'amour;/ Si forment comensa a
al mariage./ L'endemain a terce sonant/ Touz i furent, petit e
al matin al lever./ Chescune nuyt issi se contint/ Desques
alé pensant/ E de misire Amillioun/ Qi a vous ert leal
alé,/ Qe li ama molt de fin quer/ Comme si ele fust sa soer
alé./ Quant la dame aveit oy/ Qe son seignur estoit garri/ E
al seignur, si li demaunda/ Si ceo fuist sire Amillioun
alé,/ Son quer me est abandoné,/ E jeo ly aym e ameray;/ Pur
alé;/ Tut soul va saunz compainie./ Ore Deus li soit en aye/ E
ala/ A boys juwer en venerie,/ Od ly tote sa chivalrie./ A
ala;/ Amis, son frere, ensement./ Moult se amerent fierement
Ala com a processioun./ Entre autres les deuz vount./ Ne sciet
ala com pelrin./ Ne fina unke soir ne matyn,/ Poy mangea e
ala counter/ Sitost com il poet espleiter./ Le seneschal fut
Ala demaundant tut entour/ Des povres les estres e les
ala demaunder/ Qe a son frere velt aler:/ Son enuy monstrer li
ala descendant/ Si chiet sur l'arsoun devant;/ Trestut trencha
Ala e fist son mester;/ Servi le counte com il soleyt,/ E le
ala/ En la chambre ou les enfaunz lessa./ Les enfantz furent
ala,/ En le healme grant coups dona./ Mes le healme tant fort
Ala hastaunt lour juggement,/ E si jura grant serement/ Qe il
ala muscer;/ Meuz velt este pendue/ Qe de son seignur estre
Ala par congé de sa mere/ Parler a Amys que ele ama./ Tant
ala parler a son amy/ Amys, q'estoit son compaignoun,/ En
ala qe mult se redut./ Ele li dist: 'Beau sir Amys,/ Trahir me
ala,/ Son message li conta./ Ele li fist un asne aver,/ E pus
alast./ L'enfant respoundi par grant douçur:/ 'Merci Deu
aler a pié;/ Priez a lui par charité/ Qe ele me face une ane
aler,/ Ala e fist son mester;/ Servi le counte com il soleyt,/ E
aler:/ Son enuy monstrer li vout,/ E ala qe mult se redut./ Ele
ale re[n]t juaunt/ E les povres regardant,/ Veu ount l'enfant
alerent/ Qe feym e me[s]aise troverent/ Desques eus vindrent
aleure,/ Poignant plus qe amblure;/ Del feu q'il vist fut
aligné,/ Des chivalers fuit moult prisé./ Entre eux
Allas! Q'encusé serrount,/ Qe trestot oy un vassal/ De la
allassé,/ Donqe comaund qe l'en ly lyast/ E en sa prison li
aloit/ En son pays vers s'amye/ Qe tant ama come sa vie
amé celement?/ Qe jeo vus ay doné m'amur?/ Ja en ma vie
amé,/ E lour ad trestouz doné/ Bons chevaus e deners,/ E
amé e tenu cher;/ N'estoet mes estre botiler./ Consailler fut
amé,/ Que si de ly amour ne avoit,/ Jamés home ne amereit
amé vous e moy./ Atant se sunt entrebeysés,/ Plurent e
ama come sa vie./ Ore est mout en astage,/ Car cru li est par
ama./ Donque fist sa femme demaunder,/ Car de li se veut
ama molt de fin quer/ Comme si ele fust sa soer,/ Plus ne li
ama son seignur,/ Ala demaundant tut entour/ Des povres les
ama./ Tant parla e taunt demora/ Qe tot son corage discovery
amast mult tendrement,/ Honur les fist a lour talent
Ambedeus ad le chef trenché;/ E le sanc de eux ad quillé/ E
Ambedeus s'est hors getté;/ E le seignur e le serjant,/ Sire
amblure;/ Del feu q'il vist fut grantment effraé/ E de les
ameit./ 'Si[re] Amis,' dit il, 'bien veignant!'/ De vous suy ore
ameit./ Une fille avoit la dame/ Q'ele amoit come s'alme
amené/ A l'huis de moster./ Quant Amillioun deust son noun
amenusast./ Le counte fust de ceo marriz,/ Congé li done
amer?/ E ele respount moult simplement:/ 'Tot soit a vostre
amer jadis./ Grant bosogne li ad icy chacé./ Si le occiez
amer,/ Mal vus ad quis a son poer,/ Mes encheson ne pout
amer/ Ne semblant a nul muster;/ Mes quant s'en est departi
amer/ Q'ele ne pout boyvre ne manger./ Les damoyseles qe

131 n'est si emploié/ Qe ne puisse nul autre
478 q'il voleit visiter/ Son frere qe tant pout
637 chival morir./ Le seneschal, qe nel pout
135 quer me est abandoné,/ E jeo ly aym e
1235 Amis, son frere, ensemement./ Moult se
264 si de ly amour ne avoit,/ Jamés home ne
335 Si ceo traitour m'ad issi hony,/ Que tant
962 vout vendre ne doner./ Mes le hanap tant
99 e envie,/ Si vous gardez de glotonie!/
1015 la foy qe vus devez/ A Amillioun, qe tant
127 departi,/ Requer qe soyez mon amy,/ Mon
47 servirent/ E par tot bien loé furent./
913 Qu'il pout sei meismes enhacer./
664 rendre,/ Li autre s'en irra gabbant./ E sire
878 chivalrie/ Le honur e la seignurie/ Qe sire
844 moustrer,/ Fors a l'enfant que ly serveit./
1108 seignur, si li demaunda/ Si ceo fuist sire
1097 chef trenché;/ E le sanc de eux ad quillé/ E
710 fut amené/ A l'huis de moster./ Quant
990 E le counte moult esmerveileit,/ De
1008 qe l'en ly lyast/ E en sa prison li gettast./
73 li greve le departir./ Donqe parla sire
1073 fiz de sa gendrure:/ Si les enfantz tuast/ E
595 a autre affier;/ Chescun se prent a ferir./
1170 Qe de son seignur estre veue./ Sire
660 La healme del coup enbarra,/ Qe
532 E la dame, quant li veu aveit,/ Qe
653 juger/ Lequel fuit meilleur chevaler./
1224 e un jour;/ A drein morust pur dolor./ Sire
714 oist fors li noun —/ 'Lessez, lessez, sire
721 ne fust/ Home, com dire bien le poet./'
1026 li fust baillé./ Puis l'ad en haut levé./ E
960 qe tant amoyst,/ Cele coupe li donait./
650 Ly seneschal fist moult bien,/ E sire
749 purquei tels suspirs getteit./ Donke dit sir
493 od l'autre est aquointé!! Donke li dit sir
484 passerent/ Ou sire Amis reposeit./ Sire
805 A ceo fui jeo confés./ Par ceo savoit sir
740 bâisé,/ E en quidoit qe ceo fu Amys./ Mes
1015 'Sire,' dit, 'par la foy qe vus devez/ A
958 avoit/ Ke mout ferement amoit,/ Car
795 ad dount il ad mester./ Vus dirrai de sire
121 De vous suy ore alé pensant/ E de misire
1136 virent,/ A Deu graces en rendirent./ Sire
1033 croiz suffri passioun,/ C'est mi sires, sire
50 fina,/ Qi de soi n'ad autre heyr./ Quant
1069 noyt dormi,/ Une voiz oy qe li disoit/ Qe
605 bien/ Qe l'un ne l'autre ne perdit ren./
548 vynt./ Ore lerrom de Amis ester;/ De sir
1241 finist le sermoun/ De sire Amis e de syre
133 amer/ Quant talent me doint e voler./ Si
153 autre de sa meisné./ Ore vous dirrai de sir
14 estoit Amys par noun,/ L'autre est appelé
791 ne eust soer ne frere/ For soul la dame qe
74 Doneqe parla sire Amillioun/ E dit: '
409 chei la meischine./ En la place estoit
113 Li autres remeint tristes e pensifs./ Quant
119 fesoyt,/ Mes de quer moy li ameit./ 'Si[re] mutz./ Tot ensi finist le sermoun/ De sire
1241 n'i out nul remis/ Des chevalers for sire
244 Le seneschal, quant sout la covine/ Entre
328 destiné! / La dame lermit pur pité,/ Prist
429 Amyllioun a meson vynt./ Ore lerrom de

amer/ Quant talent me doint e voler./ Si Amilliouns soit alé
amer./ Trusser s'en vount en mynyt;/ As autres ne fuist pas
amer,/ Un grant coup li vint doner/ Amount el heaulme peint
ameray;/ Pur nul autre ne li lerray/ Par [ceo] qu'il est chose
amercnt fierement,/ E bone fut la compaignie./ Lor corps
amereit./ Amis, quant l'ad escoté,/ Quideit que ele fuit devee
amey e tant ting cher,/ En qi me porrai affier?/ Si est grant
ameyt/ Q'en tot son anguisse guerpir ne voleit./ Les deus
Amez bien vostre seignur,/ Ne soffrez q'il eit deshonur
amez,/ Ne me facez enprisoner,/ Mes le chef me faites tost
ami e mon bien voilant.'/ Amis respount aitant:/ 'Sire
Amillion demorra/ Atant qe son pere fina,/ Qi de soi n'ad
Amillion fist dedeinz cocher,/ A plus q'il pout li eysa,/ De
Amillion atant/ Ferir li vint par tel ayr/ Qe le feu fist
Amillion avoit eu,/ Qe ore est devencu./ Le noun vous
Amillion com plus viveit,/ Tant plus leid deveneit./ La
Amillion,/ Coment il out sa garisoun./ 'Dame, certes, jeo
Amillion dedeinz ad envelopé./ Sitost com le saunc senti
Amillion deust son noun nomer,/ Si se purpensa moult
Amillion doneq li sovent:/ 'Bien sai', fait il, 'verraiment
Amillion doneque maundereit/ E la verité de li querreit/ Qe
Amillion/ E dit: 'Amis, beau compaignoun,/ En bone foy
Amillion en le saunk bainast,/ Si sain devendreit com
Amillion fier le seneschal/ D'un grant lance enpoignal
Amillion fist com leal bier:/ Sa gent fist tot assembler
Amillion fort estona./ Ore poet trop attendre:/ S'il ne
Amillion fuit bien quideit./ Les deuz furent issi d'un
Amillion fust bien anuié/ Qe la bataille ad tant duré;/ Un
Amillion fut molt prisé/ Qe autre peine n'ad liveré./ Unke
Amillion!/ Jeo vous di certaine novele:/ Si vous esposez
Amillion l'ad bien enteudu,/ E la prist sicom son dreu
Amillion le col tendist./ Mais l'enfant avant saillist
Amillion mesmes avoit le per,/ Qe ne vout vendre ne doner
Amillion ne dota de rien./ Ne savoit [nul] del chaump juger
Amillion: —/ Ne vodra celer son noun —/ 'Jeo ne suy pas
Amillion/ Paroles de mult grant resoun:/ 'Beau frere, quant
Amillion primes le veit;/ Tost est cele part torné
Amillion/ Qe Amis estoit leal compaignon./ Ove sa feme
Amillion, qe fu pensifs,/ Bien entendi en son corage/ Fere
Amillion, qe tant amez,/ Ne me facez enprisoner,/ Mes le
Amillion, qe tant amoyst,/ Cele coupe li donait./ Amillioun
Amillion/ Qe tant estoit leal compaignon./ Com il en son
Amillion/ Qi a vous ert leal compaignon./ Ne volez unke
Amillion, quant fust sané/ E de son grant mal netté,/ Sitost
Amillion!/ Sire quens, remembrez, Amys,/ Com vous li
Amillion sout pur veir/ Qe son pere fuy affyné,/ De son
Amillion trop bien garreit/ S'il en fist mettre cure/ [Des]
Amillion vint par corucer,/ Par ire tret le brank d'asser;/ Le
Amillion voloms parler./ Le jour vint qe fuist assis/ Entre
Amillion./
Amillioun soit alé,/ Son quer me est abandoné,/ E jeo ly
Amillioun:/ Quant vint a sa regioun,/ La gent qe de sa terre
Amillyoun./ Li deus estoient de une nature,/ Angeles
Amis aveit,/ Pur ceo les terres recevoit./ Ore vodrom de Amis
Amis, beau compaignoun,/ En bone foy saunz tresoun/ A
Amis/ Com esgarré e com pensifs,/ Ne sout lequel il pout
Amis de palmisoun levoit,/ Vers la court sei retorneyt
Amis,' dit il, 'bien veignant!// De vous suy ore alé pensant/ E
Amis e de syre Amillioun./
Amis,/ E il remist pur maladie./ E la damesele ne targa mye
Amis e la meschine,/ L'endemain vint tot a hounte:/ Acounté
Amis en plevine;/ Moult fu dolente la meschine./ Amis se
Amis ester;/ De sir Amillioun voloms parler./ Le jour vint qe

806 Par ceo savoit sir Amillioun/ Qe
 147 se vengereit/ Sitost com son leu verreyt./
 793 ceo les terres recevoit./ Ore vodrom de
 185 meuz li servi de jour en jour./ Taunz com
 374 parler;/ Les oils sur ly forment roylla./
 291 vous vengé!// Atant s'est Florie retorne./
 1102 en face/ De maladi ne appareust trace./ En
 539 fasçon./ Par riens, si par la robe noun./
 265 ne avoit,/ Jamés home ne amereit./
 483 Qe parmy le boys passerent/ Ou sire
 128 amy,/ Mon ami e mon bien voilant.'/
 431 plevine;/ Moult fu dolente la meschine./
 1047 biens li fesoit./ Trestouz plurent de pité./
 1234 se pena./ Après sa mort a Deu ala;/
 1143 E q'il revint el pais/ E od li le conte
 956 qe l'em li porta/ La moyté lor envoia./
 129 respount aitant:/ 'Sire seneschal, vostre
 520 Qe ele [est] mout aparcevante!'/ E sire
 957 Amis une coupe avoit/ Ke mout ferement
 192 vie ameit./ Une fille avoit la dame/ Q'ele
 881 diray de l'enfant:/ La gent l'appelent
 639 pout amer,/ Un grant coup li vint doner/
 799 Sa bele dame a li disoit:/ 'Me diez par
 101 soffrez q'il eit deshonur!/ Mout li devez
 263 pité/ E que ele fust de ly amé,/ Que si de ly
 324 Par grant duçour s'entrebeiserent./ De
 738 coucher:/ La dame ad son drew acolé/ E par
 958 ferement amoit,/ Car Amillioun, qe tant
 150 conte com il soleyt,/ E le conte mout li
 588 Le un l'autre desaffient/ Qe entre eus nul
 512 seiez lour seignur./ Si vous requer par
 68 del conte departi,/ Si ala parler a son
 126 s'en est departi,/ Requer qe soyez mon
 295 'Damoisel, pur Deu mercy,/ Vostre
 280 honye/ Quant vous me dedeignez avere
 546 Chescune nuyt issi se contint/ Desques
 628 pié;/ A plus tost q'il pout se vengereit,/ E
 1127 messe vint a mesoun;/ Joouse est ele pur
 465 fu travaillé,/ E son chival fuist messaysé,/

181 De parage e de beautez./ Ore lerray de
 1012 out perdu/ E coment est avenu./ Quant
 66 de sa gent/ Vendroit a ly, ceo li jura./
 835 Illoc lour fist aver hostel./ O, misires
 41 son botiler,/ Car moult a ly puet affyer./
 883 fuit son dreit noun./ Donque li dist sire
 1120 son poer/ Nous porra enfaunz doner./ Si
 645 le costé./ Mes la char n'ad pas toché./
 522 Lour robes ount trestot chaungé,/ E
 832 hors getté;/ E le seignur e le serjant,/ Sire
 760 desqe a dis,/ En son pais s'en est alé,/ A
 1034 sire Amillioun!/ Sire quens, remembrez,
 575 le chevaler veit,/ Bien quideit qe ceo fuit
 403 E trestouz virent qe le seignur/ Haist
 1128 mesoun;/ Joouse est ele pur Amyllioun./
 39 Hautement lour feste teneint./ De
 502 ne li forfiz,/ E quiderount qe jeo soye
 550 vint qe fuist assis/ Entre le seneschal e
 739 sovent baisé,/ E en quidoit qe ceo fu
 188 haeit;/ De son benfait avoit envie,/ Mes
 949 Mes de l'enfant avoient pité!/: Al conte
 13 vous dirroy bien lor nouns:/ Li un estoit
 767 De lour estre tant ne quant./ A plus tost qe
 691 appellé:/ 'Dy moy,' fait il, 'fille bele,/

Amis estoit leal compaignon./ Ove sa feme tant demorra/ Qe
Amis lessa le temps aler,/ Ala e fist son mester;/ Servi le
Amis lesser,/ Qe assez ad dout il ad mester./ Vus dirrai de
Amis meuz li serveyt,/ Le seneschal plus li hacit;/ De son
Amis moult se merveilla./ 'Fel,' fait il, 'Deu vous maudie
Amis mout se purpensa;/ Le un mal e l'autre mout dota
Amis ne out qe regeir;/ Une bone robe li fist vener/ E a
Amis, quant il se ajouta,/ Leez la dame se coucha;/ Sa espeie
Amis, quant l'ad escoté,/ Quideit que ele fuit devec/ Qe ele
Amis reposeit./ Sire Amillioun primes le veit;/ Tost est cele
Amis respount aitant:/ 'Sire seneschal, vostre amisté/ En
Amis se retret e purpensa/ Com celi qe grant mester en a./ De
Amis s'est tot adrescé./ Plus de cent foiz li ad beisé,/ Tot ensi
Amis, son frere, ensement./ Moult se amercent fierement,/ E
Amis,/ Tel ad el quer dolur/ Qe unque femme ne out greignur
Amis une coupe avoit/ Ke mout ferement amoit,/ Car
amisté/ En moy n'est si emploie/ Qe ne puisse nul autre amer
Amis trestut le graunte./ Lour robes ount trestot chaungé,/ E
amoit,/ Car Amillioun, qe tant amoyt,/ Cele coupe li donait
amoit come s'alme./ Mout fut gentile la damoysele,/ En une
Amorant,/ Mes Uwein fuit son dreit noun./ Donque li dist
Amount el heaulme peint de flurs,/ Qe tost abati les colurs
amour de moy —/ Car jeo vus aime en bone fey —/ Ta espec
amour e foy,/ Car bien ad amé vous e moy.'/ Atant se sunt
amour ne avoit,/ Jamés home ne amereit./ Amis, quant l'ad
amour parlerent e juwerent./ De autre chose ne dirra[i] mie
amour sovent baisé,/ E en quidoit qe ceo fu Amys./ Mes
amoyt,/ Cele coupe li donait./ Amillioun mesmes avoit le
amoyt:/ Od sei le tint plus privé/ Qe nul autre de sa meisné
amur ne eyent./ Ore s'en vount les chivalers/ Qi mult sunt
amur/ Qe de ma femme facez atant,/ En fet e en semblant
amy/ Amys, q'estoit son compaignoun,/ En bone foy saunz
amy,/ Mon ami e mon bien voilant.'/ Amis respount aitant
amy suy e serray,/ E vostre serjant tant com jeo viveray
amy e!/ Tant gentils hommes m'ount prié,/ E trestouz ai je
Amyllioun a meson vynt./ Ore lerrom de Amis ester;/ De sir
Amyllioun a pié se mettreit./ Mes il aparceut tost la manere
Amyllioun./ Amys doncq ove la dame ala/ En la chambre ou
Amyllioun en son lit giseit,/ Deleez sa femme se cocheit
Amyllioun ester,/ E de sir Amys vus voil counter,/ Qe fuit
Amyllioun li oist nomer,/ De dolur pout son quer crever
Amyllioun ly mercya./ Atant del conte parti,/ Si ala
Amyllioun,/ Mis estes a povre garisoun!! Jadis fu sire e
Amyllioun ne velt lesser./ De son hostel ly fist justizer
Amyllioun:/ 'Oweyn, a la dame irrez,/ Nostre congé de li
Amyllioun perdu eussez,/ Jamés tel autre ne averez./ De les
Amyllioun, qe tant fu de vigour,/ Meint coup li dona ceo
Amyllioun s'en est alé;/ Tut soul va saunz compainie./ Ore
Amyllioun e son enfant,/ A chef de la vile a un bordel/ Illoc
Amys ad trestot counté/ Coment eust finé la bataille/ E
Amys,/ Com vous li soleiez amer jadis./ Grant bosoigne li ad
Amys;/ De cors resemblast e de vis./ Bons armes demaunda
Amys desqe a la mort,/ Fust ceo a dreit fust ceo at tort./ Nul
Amys doncq ove la dame ala/ En la chambre ou les enfaunz
Amys fist son botiler,/ Car moult a ly puet affyer
Amys./ Jeo espoir par la grace de Dé/ Qe del feloun serrom
Amys./ Le seneschal se fist armer,/ Puis demaunda le botiler
Amys./ Mes Amillioun, qe fu pensifs,/ Bien entendi en son
Amys ne l'aparce[u]st mye./ Li quens une dame aveit/ Q'il
Amys ount counté./ Cil, sitost com mangea,/ Son premer
Amys par noun,/ L'autre est appélé Amyllioun./ Li deus
Amys poeit,/ Congé ad pris, si s'en aloit/ En son pays vers
Amys pur vous ad combatu,/ Son enemi ad confundu;/ Ly e

919 eus vindrent el pais/ Ou sojorna le conte
 69 conte departi,/ Si ala parler a son amy/
 212 baroun./ Est veuz li mestre botiler,/
 257 Ala par congé de sa mere/ Parler a
 527 fere!/ Grant chose enprent pur son frere!/
 468 se cocheit;/ Si s'avint en avisiooun/ Ke sir
 439 ala qe mult se redut./ Ele li dist: 'Beau sir
 400 payé./ Tant fuit li seneschal doté/ Qe
 379 vous va ja approchaunt!'/ 'Sire,' dist
 182 Ore lerray de Amyllioun ester,/ E de sir
 817 Qe a li vousist venir./ Cil soffri en cel
 1222 Coment le conte out comaundé./ Un
 890 Priez a lui par charité/ Qe ele me face une
 16 Li deus estoient de une nature,/
 963 Mes le hanap tant ameyt/ Q'en tot son
 653 meilleur chevaler./ Amillioun fust bien
 1063 Plus ne li poet fere compagnie./ Treis
 717 esposez la damoisele,/ Einz qe soint .iii.
 725 come sa mullier./ Ne voleit qe eus furent
 301 Deu en tesmoignage:/ Si ceo poet estre
 629 E Amyllioun a pié se mettreit./ Mes il
 765 E lour robes chaungerent;/ Donque ne fuit
 1162 venuz/ E a la porte descenduz,/ Qe nul fut
 519 vous dy en bone foy/ Qe ele [est] mout
 251 dreit noun est Mirabele./ Mes Florie fust
 1148 quideit pas q'il fuit en vie./ Pur ceo fut tot
 1101 Qe en corps ne en face/ De maladi ne
 658 primes li ferist,/ Qe son coup tres bien
 14 Li un estoit Amys par noun,/ L'autre est
 689 son pere moult dota./ Le conte atant l'ad
 971 le conte ad pres mangé,/ Son botiler ad
 473 E tost sus sailli com home desvee./ Tost
 864 force ne fray.'/ L'enfant a soi doncne
 939 Gentil home ressemblereit./ Un de eux ly
 1050 com ert de tay levé./ Entre ses braz li ad
 378 vous ne irrez ja riant;/ La mort vous va ja
 929 se souint mis,/ E l'enfant, qe bien fust
 276 Qe jeo vus ay doné m'amur?/ Ja en ma vie
 718 Einz qe soint .iii. anz passez,/
 1126 ount lessé/ E le service Deu ount escoté./
 788 Morust e a Deu rendist s'alme;/ E tost
 1233 vesqui;/ En bienfaict se pena./
 693 Son enemi ad confundu;/ Ly e vous ad
 492 joie, fu la pité./ Quant l'un od l'autre est
 461 Aviz li fust qu'il deust morir./ Desouz un
 368 dame ne sout quoy dire./ Le conte de mal
 561 grant serement/ Qe il memes les verreit
 986 estre?/ Ces deus hanaps fist un mestre!/
 630 aparcet tont la manere,/ Si ceo retret tont
 580 bien paié/ Quant ad le chivaler si bien
 578 armes demaunda/ E li memes le chivaler
 551 seneschal e Amys./ Le seneschal se fist
 577 De cors resemblast e de vis./ Bons
 8 Q'en la court un conte estoient/ E des
 571 fait esteit?/ Trop vilaine roste serreit!/
 622 Dist l'un a l'autre qe le chivaler/ Ses
 808 sa feme tant demorra/ Qe tot son pel ly
 366 Tut ert detret e puis pendu,/ E la pute
 19 Que freres se firent par serement;/
 480 amer./ Trusser s'en vount en mynuyt;/
 601 Le seneschal li referri;/ Lour launces ount
 894 Son message li counta./ Ele li fist un
 907 ne pount plus entendre/ Q'il covient lor

Amys/ Qe noble court illoeq tenoit/ E moult grant ben fesoit
Amys, q'estoit son compaignoun./ En bone foy saunz treson
Amys, qd bien sout son mester:/ De un drap vestu esteit,/ La
Amys que ele ama./ Tant parla e taunt demora/ Qe tot son
Amys remaint od la meisné,/ Cum li sire e envoyé;/ E
Amys son compaignoun/ D'un leon fust assailli,/ Qe li fuist
Amys,/ Trahir me volez, m'est avys!/ Si vous ne venez a tel
Amys un soul n'en ad trové./ Quoy pur doute quoy pur pour
Amys, 'vus dites mal./ Jeo suy vostre chivaler leal;/ Si nul
Amys vus voil counter,/ Qe fuit demoré od son seygnur/ E
an/ Grant dolur e grant han./ Ses chevalers touz departoient
an vesqui e un jour;/ A drein morust pur dolur./ Sire Amillioun
ane doner/ Qe jeo puissé chivacher./ L'enfant a la dame ala
Angeles ressembleient de failture./ Taunt s'amerent fierement
anguisse guerpir ne voleit./ Les deus hanaps tant
anuié/ Qe la bataille ad tant duré;/ Un coup li voudra ja doner
anz demena tele vie;/ De ses eses ass[e]z avoyt/ Tant com il
anz passez,/ après de ceste leprouz serrez./ Avant mes unke si
aparceu/ Coment son frere eust deceu./ La damoisele fuit ben
aparceu/ Qe de moy feisiez vostre dru,/ Ne serrioms nous en
aparceut tont la manere,/ Si ceo retret tont arare./ Tost
aparcevant/ De lour estre tant ne quant./ A plus tont qe
aparcevant/ De lour venue tant ne quant./ La meisnee fust
aparcevante!'/ E sire Amist trestut le graunte./ Lour robes
apelé/ De ceux qe furent de sa meisné./ Florie, quant le congé
appareillé/ Q'en le mois deust estre esposé./ Mes ore se
appareust trace./ En Amis ne out qe regeir;/ Une bone robe
apparist/ La healme del coup enbarra,/ Qe Amillioun fort
apelé Amillyoun./ Li deus estoient de une nature,/ Angeles
apelé/ 'Dy moy,' fait il, 'fille bele,/ Amys pur vous ad
apelé/ 'Pernez ma coupe od tot le vin,/ Si l'aportez a ceo
appela ses chevalers,/ Ses garsouns e ses esquiers./ Touz
appelast,/ E pur Deu li conjurast/ Qe illoec morir le lessast
appeleyt,/ Demaundast s'il voul servir./ E il getta un grant
apporté/ En sa chambre li ad couché./ Bainer li fist e
approchaunt!'/ 'Sire,' dist Amys, 'vus dites mal./ Jeo suy
apris/ E moult ama son seignur,/ Ala demaundant tut entour
aprés ceo jour/ Ne serray en mon quer heytez/ Si jeo ne soyé
aprés de ceste leprouz serrez./ Avant mes unke si laid ne fust
Aprés la messe vint a mesoun;/ Joouse est ele pur
aprés morust la dame./ Quant mortz furent pere e mere,/ Il ne
Aprés sa mort a Deu ala;/ Amis, son frere, ensement./ Moult
aquité/ Del fait douct fuites encusé./ S'il vous velt esposer
aquointé!'/ Donke li dit sir Amillioun/ Paroles de mult grant
arbre se cocha,/ E son chival a une raym lya./ Dormist, car
ard e d'yre,/ Devint plus noyr ke carboun./ Tost sailli hors de
arder./ Ataunt virer un chevaler/ Qe vers eux fist grant
Arere tantost se repeira,/ Al conte de cel hanap counta
are re./ Tost descendi de son destrer;/ Combater voleit per a
armé./ Puis li dist suef en son oraille/ Qe, s'il pout deffendre
arma./ En son corage fust bien paié/ Quant ad le chivaler si
armer,/ Puis demaunda le botiler;/ E quant il ne pout estre
armes demaunda/ E li memes le chivaler arma./ En son corage
armes li servoient./ Moult furent de grant vassalage
Armes me fetes tont bailler/ Pur cestes dames deliverer!/ Jeo
armes sout trop bien porter,/ Mes son coup est trop pesant
arracha./ Si malade e si laid devint/ Qe checun pur mesel li
arse en fu?/ La dame ne sout quoy dire./ Le conte de mal ard e
As autres ne fesoient unke semblaunt/ De companie tant ne
As autres ne fuist pas deduit./ En cele nyuy tant errerent/ Qe
as coups brusé/ E si sunt outrepassé./ A cel encountere tant
as ne aver,/ E pus sus les seintz jurer/ Qe mes en le pais [ne]
as ne vendre/ Pur cink souz e diz e maille;/ De ceo acateront

469 Amys son compaignoun/ D'un leon fust
707 sergians e esquiers./ Quant touz furent
210 tynt/ Par un jour de l'Ascensioun;/ La fuit
1171 fist com leal bier:/ Sa gent fist tot
794 Ore vodrom de Amis lesser,/ Qe
1064 Treis anz demena tele vie;/ De ses eses
549 voloms parler./ Le jour vint qe fuist
1002 pur poer qe eus avoient,/ Ne li poient
771 Qe tant ama come sa vie./ Ore est mout en
597 launce enpoignal/ Parmi l'escu peint de
404 desqe a la mort,/ Fust ceo a dreit fust ceo
447 mie,/ Tant com je puisse aver la vie!'/
67 a ly, ceo li jura./ Amyllioun ly mercya./
394 tendi son gant,/ E li quens [les] resceust
513 requer par amur/ Qe de ma femme facez
353 meins!/ Ceste play m'est laid e vleins.'/
664 autre s'en irra gabbant./ E sire Amillioun
1124 Si Deu velt, bien lé recoveroms.'/
689 osa,/ Car son pere moult dota./ Le counte
1090 qe bone fust,/ Sovent Deu pur li requist./
684 n'en a:/ Plus est sain qe pesson de mer./
48 tot bien loé furent./ Amillion demorra/
680 ja corerent,/ Mes le counte vient premer;/
103 e foy,/ Car bien ad amé vous e moy.'/
385 Devant qe jeo denieray.'/ Le seneschal
290 destret./ Donques serray de vous vengé!'/
994 Qe cher serra achaté!'/ Outre la table saut
624 est trop pesant./ Le seneschal se leve
143 Sauve chescuny honur.'/ Li seneschal
562 serement/ Qe il memes les verreit arder./
661 Qe Amillioun fort estona./ Ore poet trop
974 od tot le vin,/ Si l'aporte a ceo frarin,/br/>937 ount l'enfant bel e parceu,/ E [s']il fuit
593 hiet l'autre desq'a la mort./ Nul deigne a
123 ert leal compaignon./ Ne volez unke nul
131 En moy n'est si emploie/ Qe ne puisse nul
325 De amour parlerent e juwerent./ De
1216 ne pout issir;/ La demora desqe al morir./
517 Qe ele encheson ne troesse/ Qe illoke est
152 amoyt:/ Od sei le tint plus privé/ Qe nul
55 terre/ Qe nul li fist treson ne gere,/ Ne qe
49 Atant qe son pere fina,/ Qi de soi n'ad
1121 Si Amyllioun perdu eussez,/ Jamés tel
136 E jeo ly aym e ameray;/ Pur nul
476 fist mettre lour seeles;/ Unke ne lour dist
1225 dolur./ Sire Amillioun fut molt prisé/ Qe
663 attendre:/ S'il ne sache le coup rendre,/ Li
94 ne porra avenir/ Quant compaignoun velt
924 enviroun/ Ala com a processioum./ Entre
19 Que freres se firent par serement;/ As
480 amer./ Trusser s'en vount en mynuyt;/ As
677 la bataille./ Les uns chaunterent, les
112 demené./ Li un s'en va ver son pays,/ Li
200 grant cherte le tynt le pere,/ E mout l'ama
813 Ne voleit entrer en son lit,/ Ne voleit
616 del chival/ Cola le braunke en terre
487 l'ad esveillé./ E sa gent passerent
719 passez,/ après de ceste leprouz serrez./
1027 E Amillioun le col tendist./ Mais l'enfant
851 cel comaund,/ Ne sout ou quere lour vivre
413 Mort ou vie, ne sout ke dire./ Plusors
222 qe en la sale estoient/ De sa beauté matire
1230 feffa:/ De tote sa terre li herita,/ Qe bien
assailli,/ Qe li fuist mortel enemy./ Del sounge fut moult
asseblé,/ La pucele fut amené/ A l'huis de moster./ Quant
asseblé maint baroun./ Est veuz li mestre botiler,/ Amys
assebler,/ Chasteleins e chivalers./ Serjanz, vadlet e
assez ad douit il ad mester./ Vus dirrai de sire Amillioun/ Qe
ass[e]z avoy/ Tant com il memes desirroit./ Quant passa le
assis/ Entre le seneschal e Amys./ Le seneschal se fist armer
assuager/ Q'il ne li velt ocier./ Quant batu li out e defolé
astage,/ Car cru li est par mariage/ Grant seignurie e grant
asur,/ Mes le hauberc fuist fort e dur/ Qe de mal l'ad garri./ Le
at tort./ Nul ne oseit pur li parler,/ E le counte li velt venger
Atant congé ly dona,/ E un palefroy mounta/ Saunz garsoun e
Atant del counte departi,/ Si ala parler a son amy/ Amys
atant./ E donc jugga le baronage/ Que plegges troverent en
atant,/ En fet e en semblant,/ Come jeo memes iceo fuisse
Atant en la chambre entrat,/ La dame sur un lit trovat./ 'Dame
atant/ Ferir li vint par tel ay/ Qe le feu fist tresailler,/ Qe le
Atant la parole ount lessé/ E le service Deu ount escoté
atant l'ad appellé:/ 'Dy moy,' fait il, 'fille bele,/ Amys pur
Atant le counte s'est repairé./ En une chambre est entré/ Ou
Atant li vount touz beiser:/ Sur touz li fist la dame joie,/ E la
Atant qe son pere fina,/ Qi de soi n'ad autre heyr./ Quant
Atant se fist desarmer./ S'il eust plaie li demaunda;/ Cil dist
Atant se sunt entrebeysés,/ Plurent e crient de pité./ Suz cel
atant se vint/ E son gaunt en son poing tint,/ E tendist en
Atant s'est Florie retorné./ Amis mout se purpensa;/ Le un
ataunt,/ A cel povre vint errant:/ Forment l'ad feru du pé./ Qe
ataunt,/ Qe dolent est e corucé/ Quant combatre deit a pié/ A
ataunt se tint,/ Qe d'anguisse pale devint;/ Purpense sei q'il
Atant virent vener un chevaler/ Qe vers eux fist grant aleure
attendre:/ S'il ne sache le coup rendre,/ Li autre s'en irra
Au povres qe tant est mesaysé./ Mes le hanap soit bien gardé
auke vestu,/ Gentil home resemblereit./ Un de eux ly
autre affier;/ Chescun se prend a ferir./ Amillioun fier le
autre amer/ Ne semblant a nul muster;/ Mes quant s'en est
autre amer/ Quant talent me doint e voler./ Si Amilliouns
autre chose ne dirra[i] mie;/ Ne croy pas q'il y avoit vilainie
Autre dames ensample averont/ Coment iour seignurs lour
autre de moy;/ Car jeo vous dy en bone foy/ Qe ele [est] mout
autre de sa meisné./ Ore vous dirrai de sir Amillioun:/ Quant
autre heyr n'i entrast/ Ne ses droitz amenusast./ Le counte
autre heyr./ Quant Amillioun sout pur veir/ Qe son pere fuy
autre ne averez./ De les enfaunz plus n'empensoms;/ Si Deu
autre ne li lerray/ Par [ceo] qu'il est chose esprové/ Pur
autre noveles,/ Mes dist q'il voleit visiter/ Son frere qe tant
autre peine n'ad liveré./ Unke puis femme ne vout aver;/ Nul
autre s'en irra gabbant./ E sire Amillioun atant/ Ferir li vint
autre trahir./ A tote gent bel responez,/ Grant preu e grant
autres les deuz vount./ Ne sciет, qe eus veit, qu'il sount;/ Si
autres ne fesoient unke semblaunt/ De companie tant ne
autres ne fuist pas deduit./ En cele nyut tant errerent/ Qe
autres plorerent./ Les chevalers ja corerent,/ Mes le counte
autres remeint tristes e pensifs./ Quant Amis de palmisoun
auxi la mere./ La damoisele fuit bien gardé:/ Compaignes out
auxi od lui parler,/ Ne od li beivre ne manger./ Meuz, ceo dit
aval/ Plus qe plein pé e demy;/ Le seneschal a terre chay./ Qe
avant,/ E [i]ll entendi nepurquant;/ De son estre saver voleit
Avant mes unke si laid ne fust/ Home, com dire bien le poet.
avant saillist:/ Uwein, qe ne poet suffrir/ Qe son seignur
avant./ Tantost counta a son seignur,/ E il dit: 'C'est mal
aveient de ly pité,/ Mes li sire fust tant yrré/ Qe la n'out
aveient./ Est venuz la novele/ En la chaumbre a la damoisele
aveit deservy./ En bone vie longtemps vesqui;/ En bienfaitz

1140 En son pais s'en est alé./ Quant la dame
 791 soer ne frere/ For soul la dame qe Amis
 531 lour dreit seignur./ E la dame, quant li veu
 189 ne l'aparce[u]st mye./ Li quens une dame
 270 se purpensoit/ Com celi q talent ne
 93 trover si mal noun,/ Car piz ne porra
 207 De countredit n'en ad parlé./ Un jour par
 1011 Qe son hanap out perdu/ E coment est
 1189 qe sain tuy revenu./ Molt vus fust ben
 236 que malade fuit,/ Ne sout dont cel mal ly
 894 message li counta./ Ele li fist un asne
 858 longes me durra ceste vie?/ Jeo solei
 505 del feloun serrom vengé,/ Qe vus quideit
 834 chef de la vile a un bordel/ Illoc lour fist
 446 ne murrez mie,/ Tant com je puisse
 198 ele a trestouz respoundi/ Ne vont uncore
 1226 n'ad liveré./ Unke puis femme ne vont
 1082 Pur mes enfanz ne voil lesser./ Mout
 591 Qi mult sunt orguillous e tiers./ Ne
 341 fel traître m'ad icy servy./ A touz jours
 280 jeo bien honye/ Quant vous me dedeinez
 1121 perdu eussez,/ Jamés tel autre ne
 426 s'il defaut a la bataille,/ Le juggement
 1206 [K']ja moy livrastes pur hostel./ Celi
 298 ne mesprendroie mye/ Par quei vous en
 509 A ma court od vous irrount./ E quant nous
 1216 desqe al morir./ Autre dames ensample
 752 qe vous quidez;/ De vostre espoir failli
 356 Dame,' dit il, 'ne savez/ Quele fille vus
 496 frere, quant avez forfait/ E le serment
 495 de mult grant resoun:/ 'Beau frere, quant
 207 n'en ad parlé./ Un jour par aventure
 27 estoient,/ N'est home el mound qe les
 467 sa femme se cocheit;/ Si s'avint en
 460 boys est alé./ A force ly covynt dormir,/br/>
 945 li demaundeinent,/ Mes sitost com il veu
 556 lié,/ E la pucele ensement./ Grant pité
 1001 li voleient,/ Mes pur poer qe eus
 948 Touz li tenoient a folur./ Mes de l'enfant
 21 companie tant ne quant./ Ceus de la court
 187 seneschal plus li haeit;/ De son benfait
 878 honur e la seignurie/ Qe sire Amillioun
 263 ele fust de ly amé,/ Que si de ly amour ne
 956 La moyté lor envoia./ Amis une coupe
 191 aveit/ Q'il come sa vie ameit./ Une fille
 1075 sain devendreit com pessoun./ Quant veu
 960 Cele coupe li donait./ Amillioun mesmes
 177 Li fuit escheu del counté./ De beauté
 174 d'un conte estoit,/ E pere e mere perdu
 326 chose ne dirra[i] mie;/ Ne croy pas q'il y
 76 foy saunz tresoun/ A nostre seignur servy
 1064 anz demena tele vie;/ De ses eses ass[e]z
 363 c affolé./ Deu li doint male destiné!/ Si
 96 bel responez,/ Grant preu e grant honur
 440 'Beau sir Amys,/ Trahir me volez, m'est
 274 Ele li respondi e dist: 'Coment/ Vous
 275 Vous ay amé celement?/ Qe jeo vus
 524 va saunz compainie./ Ore Deus li soit en
 135 alé./ Son quer me est abandoné,/ E jeo ly
 665 sire Amillioun atant/ Ferir li vint par tel
 1024 dist q'il le tuera./ Tost l'espeie li fust
 571 vilaine roste serreit!/ Armes me fetes tost
 1073 les enfantz tuast/ E Amillioun en le saunk

aveit oy/ Qe son seignur estoit garri/ E q'il revint el pais/ E
aveit,/ Pur ceo les terres recevoit./ Ore vodrom de Amis
aveit,/ Qe Amillioun fuit bien quideit./ Les deuz furent issi
aveit/ Q'il come sa vie ameit./ Une fille avoit la dame/ Q'ele
aveit/ Q'il mesprist vers son seignur./ Estez vous Florie par
avenir/ Quant compaignoun velt autre trahir./ A tote gent
aventure avint/ Qe li quens une feste tynt/ Par un jour de
avenu./ Quant Amyllioun li oist nomer,/ De dolur pour son
avenu,/ Si feussez tele com deussez estre,/ Par Jhesu, le roy
avenut./ Ele comaunda qe eus se teysent/ E d'autre chose
aver,/ E pus sus les seintz jurer/ Qe mes en le pais [ne]
aver grant tresour,/ Estre servi d'argent e d'or,/ Ore tuy tant
aver hony./ Mes chivalers qe sunt icy/ Od vous desoremés
aver hostel./ O, misires Amyllioun,/ Mis estes a povre
aver la vie!/? Atant congé ly dona,/ E un palefroy mounta
aver mary./ A grant cherté le tynt le pere,/ E mout l'ama auxi
aver,/ Nul evr out de sa mullier./ Owein l'enfant bien feffa
avera fait bone jorné/ Si par lour saunk poet estre sauné.
avera mester de acord;/ L'un hiet l'autre desq'a la mort./ Nul
avera reprover/ Si jeo ne me puisse de li venger./ Est ceo
avere amye!/? Tant gentils hommes m'ount prié,/ E trestouz
averez./ De les enfaunz plus n'enpensoms;/ Si Deu velt, bien
averez saunz faille,/ Qe vostre fille fust destiné! / La dame
averez tant com vus viverez;/ En noun de dowere le tenez!
averez vilenye/ Ne de vostre corps hontage./ Jeo preng Deu
averoms robes chaungé,/ Donqe quideront de verité/ Qe vous
averont/ Coment iour seignurs lour garderont./ Une garce la
avez./ A vous le peus bien counter,/ Car bien le deverez celer
avez fet,/ Jeo me doute qe pur pecché/ Del serment serrez
avez forfait/ E le serment avez fet,/ Jeo me doute qe pur
avint/ Qe li quens une feste tynt/ Par un jour de l'Ascensioun
avisast/ Qe l'un de l'autre desceverast./ E si furent de une
avisioun/ Ke sir Amys son compaignoun/ D'un leon fust
Aviz li fust qu'il deust morir./ Desouz un arbre se cocha,/ E
avoient/ Celi q'il clama pur seignur,/ Touz li tenoient a folur
avoient la gent:/ Plurent e pleignent lour beauté./ Li quens
avoient,/ Ne li poeient assuager/ Q'il ne li velt ocier./ Quant
avoient pité:/ Al conte Amys ount counté./ Cil, sitost com
avoint envie/ De lour estre e de lour compaynie,/ Q'amerent
avoit envie,/ Mes Amys ne l'aparce[u]st mye./ Li quens une
avoit eu,/ Qe ore est devencu./ Le noun vous diray de
avoit,/ Jamés home ne amereit./ Amis, quant l'ad escoté
avoit/ Ke mout ferement amoit,/ Car Amillioun, qe tant
avoit la dame/ Q'ele amoit come s'alme./ Mout fut gentile la
avoit l'avisioun/ E de cel sougne resperi,/ 'A, Deu!' dit il, 'qe
avoit le per,/ Qe ne vont vendre ne doner./ Mes le hanap tant
avoit le pris/ Sour touz les dames du pays./ Bien furent entre
avoit;/ Pur heritage la moyté/ Li fuit escheu del counté./ De
avoit vilaynie./ Le seneschal, quant sout la covine/ Entre
avom./ Pur vostre honur vus cri mercy,/ De une chose soiez
avoyt/ Tant com il memes desiroit./ Quant passa le temps
avra il, si jeo vive tant;/ Ne li ert nul de mal garrant./ Tut ert
avrez!/? Lessez orgoil e envie,/ Si vous gardez de glotonie
avys!/? Si vous ne venez a tel jour,/ Vous savez bien qe mon
ay amé celement?/ Qe jeo vus ay doné m'amur?/ Ja en ma vie
ay doné m'amur?/ Ja en ma vie après ceo jour/ Ne serray en
aye/ E doigne q'il puisse bien fere!/? Grant chose enprent pur
aym e ameray;/ Pur nul autre ne li lerray/ Par [ceo] qu'il est
ayr/ Qe le feu fist tresailleur,/ Qe le healme fust tot purfendant
baillé./ Puis l'ad en haut levé./ E Amillioun le col tendist
bailler/ Pur cestes dames deliverer!/? Jeo deffendray nostre
bainast,/ Si sain devendreit com pessoun./ Quant veu avoit

1052 ad apporté./ En sa chambre li ad couché./
 738 ad son dreeu acolé/ E par amour sovent
 158 li firent homage./ Ore poet il mener grant
 701 pas corucer.'/ Dount fut comaundé al
 395 [les] resceust atant./ E doncq jugga le
 705 sonant/ Touz i furent, petit e grant,/ Les
 11 Gentils e de grant parage;/ Fiz estoient de
 728 La damoisele fuit ben paé/ Quant ad
 210 de l'Ascensioun;/ La fuit assemblé maint
 647 vigour,/ Meint coup li dona ceo jour./ La
 654 Amillioun fust bien anuié/ Qe la
 761 ad trestot counté/ Coment eust finé la
 499 serment serrez encombré./ Pur vous la
 425 E jeo lealment vus dy/ Qe, s'il defaut a la
 676 chaist, n'est pas mervaille./ Ore finist la
 582 en son oraille/ Qe, s'il pout deffendre la
 1040 ceo oist,/ Tost estendu a terre chaist:/
 285 estes e laner!/ Un play bien dur vus
 1004 assuager/ Q'il ne li velt ocier./ Quant
 372 Si encontra le botiler./ A li soleit trop
 215 La coupe devant li quens teneit./ Mout fu
 74 Doneq parla sire Amillioun/ E dit: 'Amis,
 495 Paroles de mult grant resoun:/ 'vout,
 439 E ala qe mult se redut./ Ele li dist: 'a
 225 la damoisele/ Del botiler qe tant ert
 177 la moyté/ Li fuit escheu del counté./ De
 557 avoient la gent:/ Plurent e pleignent lour
 222 Touz ceus qe en la sale estoient/ De sa
 180 furent entre eux couplés/ De parage e de
 1048 s'est tot adrescé./ Plus de cent foiz li ad
 684 qe pesson de mer./ Atant li vount touz
 814 lit,/ Ne voleit auxi od lui parler,/ Ne od li
 218 eux communement disoient/ Qe unque si
 220 E li quens même le dist/ Qe onqe si
 936 E les povres regardant,/ Veu ount l'enfant
 165 E robes a ses esquiers./ E il memes si
 1185 de pour./ Le seignur la fist relever,/ be
 95 velt autre trahir./ A tote gent
 1209 fist fere un turel:/ Petit fut mes molt
 690 atant l'ad appellé:/ 'Dy moy,' fait il, 'fille
 798 Com il en son lit gisoit,/ Sa
 194 la damoisele,/ En une realme ne out plus
 1189 Pur ceo qe sain tuy revenu./ Molt vus fust
 921 noble court illoeq tenoit/ E moult grant
 727 son frere eust deceu./ La damoisele fuit
 673 haunce le branc cola./ En cel champ fu
 187 Le seneschal plus li haeit;/ De son
 453 soir ne matyn,/ Poy mangea e mains
 102 Mout li devez amour e foy,/ Car
 1019 Mes certes ai jeo trop vesqui;/ Trop
 653 fuit meilleur chevaler./ Amillioun fust
 658 primés li ferist,/ Qe son coup tres
 580 fust bien paié/ Quant ad le chivaler si
 1230 bien feffa:/ De tote sa terre li herita,/ Qe
 1197 bien du mien./ Dame, sovenez vous del
 753 vostre espoir failli avez./ A vous le peus
 735 Les chivals e les destrers./ Ore vus dei jeo
 1196 n'avo jeo pas forfait,/ Qe vivre deusse
 647 coup li dona ceo jour./ La bataille ad
 285 Mescreaus estes e laner!/ Un play
 649 fust passé./ Ly seneschal fist moult
 741 fu Amys./ Mes Amillioun, qe fu pensifs,/ com dire bien le poet.'/ Amillioun l'ad

Bainer li fist e seigner,/ Con son corps li fist garder,/ Servir
baisé,/ E en quidoit qe ceo fu Amys./ Mes Amillioun, qe fu
baronage! N'ust od ly ja si privé/ Q'il n'out dis chivalers de
baronage/ Qe eus feussent al mariage./ L'endemain a terce
baronage/ Que plegges troverent en hostage./ Le seneschal
barons e les chevalers, Borgés, sergeans e esquiers./ Quant
barons,/ Si vous dirroy bien lor nouns:/ Li un estoit Amys
baroun a volonté./ Le conte tynt feste plenere/ Une
baroun./ Est veuz li mestre botiler,/ Amys, qd bien sout son
bataille ad bien duré/ Desque noune fust passé./ Ly
bataille ad tant duré;/ Un coup li voudra ja doner/ Qe li deit
bataille/ E coment eust fait la sposaille./ En une chambre
bataille fray,/ E le serment lealment juray/ Qe jeo unke ne li
bataille,/ Le juggement averez saunz faille,/ Qe vostre fille
bataille./ Les uns chaunterent, les autres plorerent./ Les
bataille,/ Sa fille a femme ly dorreyt/ E de tote sa terre heir
Bate ses mains, ses cheveuz detire,/ Sa vie hiet, sa mort
bateray:/ A mon pere le conteray/ Qe vers li estes e moy
batu li out e defolé/ Que ses mains sunt allassé,/ Donqe
beal parler,/ Les oils sur ly forment roylla./ Amis moult se
beals e aligné,/ Des chivalers fuit moult prisé./ Entre eux
beau compaignoun,/ En bone foy saunz tresoun/ A nostre
Beau frere, quant avez forfait/ E le serment avez fet,/ Jeo me
Beau sir Amys,/ Trahir me volez, m'est avys!/ Si vous ne
beaus/ E tres gentil dameye seals,/ E q'il fuit tant bon chivaler
beauté avoit le pris/ Sour touz les dames du pays./ Bien
beauté./ Li quens, que mout fuit irré,/ Ala hastaunt lour
beauté matire aveient./ Est venuz la novele/ En la chaumbre
beautez./ Ore lerray de Amyllioun ester,/ E de sir Amys vus
beisé,/ Tot ensi com ert de tay levé./ Entre ses braz li ad
beiser:/ Sur touz li fist la dame joie,/ E la pucele totevoie
beivre ne manger./ Meuz, ceo dit ele, veut morir/ Qe a li
bel chevaler ne veient;/ E li quens même le dist/ Qe onqe si
bel chivaler ne vist./ Touz ceus qe en la sale estoient/ De sa
bel e parceu,/ E [s']il fuit auke vestu,/ Gentil home
bel estoyt/ Qe tut le pays le disoyt/ Si Deu mesmes le eust
Bel la comence a chastier:/ 'Dame,' dit il, 'lessez ester!/ Ne
bel responez,/ Grant preu e grant honur avrez!/ Lessez orgoil
bel,/ Si fut fort durement;/ De loin le virent tote sa gent
bele,/ Amys pur vous ad combatu,/ Son enemi ad confundu
bele dame a li disoit:/ 'Me diez par amour de moy —/ Car jeo
bele./ Deus countes la desirent,/ E esposer la volirent,/ Mes
ben avenu,/ Si feussez tele com deussez estre,/ Par Jhesu, le
ben fesoit./ La povre gent tot enviroun/ Ala com a
ben paé/ Quant ad baroun a volonté./ Le conte tynt feste
ben vengé;/ Par li mes n'iert encusé./ S'il chaist, n'est pas
benfait avoit envie,/ Mes Amys ne l'aparce[u]st mye./ Li
beust,/ Si ne dormist nule nust./ Touz les noitz issi
ben ad amé vous e moy./ Atant se sunt entrebeyrés
ben ai la mort deservi./ 'Voir,' dist il, 'vous l'averez!/ De
ben anuié/ Qe la bataille ad tant duré;/ Un coup li voudra ja
ben apparist:/ La healme del coup enbarra,/ Qe Amillioun
ben armé./ Puis li dist suef en son oraille/ Qe, s'il pout
ben avait deservy./ En bone vie longtemps vesqui;/ En
ben,/ Coment a manger me menastes/ E del pais
ben counter,/ Car bien le deverez celer./ Tot lour estre luy
ben counter/ Coment il firent a coucher:/ La dame ad son
ben du mien./ Dame, sovenez vous del bien,/ Coment a
ben duré/ Desque noune fust passé./ Ly seneschal fist moult
ben dur vus bateray:/ A mon pere le conteray/ Qe vers li
ben,/ E sirc Amillioun ne dota de rien./ Ne savoit [nul] del
Ben entendi en son corage/ Fere ne li velt hountage/ De son
ben entendu,/ E la prist sicom son dreeu,/ Mes pur ceo ne

318 Le seneschal fut molt lee;/ Ore quideit
 1228 Nul evr out de sa mullier./ Owein l'enfant
 525 Deus li soit en aye/ E doigne q'il puisse
 179 le pris/ Sour touz les dames du pays./
 929 [de] la porte se sount mis,/ E l'enfant, qe
 201 l'ama auxi la mere./ La damoyselle fuit
 975 qe tant est mesaysé./ Mes le hanap soit
 1069 voiz oy qe li disoit/ Qe Amillioun trop
 279 soye de vous vengez!// Certes ore suy jeo
 359 E ceo ad fait nostre botiler./ Pur nostre
 1123 enfaunz plus n'empsons;/ Si Deu velt,
 754 avez./ A vous le peus bien counter,/ Car
 720 mes unke si laid ne fust/ Home, com dire
 32 nature./ Leals furent envers lor seignur,/ cel mester longtemps servirent/ E par tot
 46 Fiz estoient de barons,/ Si vous dirroy
 12 moy counté/ For que dreit a verité,/ Moult
 383 le chivaler arma./ En son corage fust
 579 seneschal ad taunz trové/ Ke le conte fut
 398 l'autre qe le chivaler/ Ses armes sout trop
 622 descent,/ Mailles trenchent plus de cent./
 643 outrepassé./ A cel encoultre tant firent
 603 Si vous ne venez a tel jour,/ Vous savez
 442 quant li veu aveit,/ Qe Amillioun fuit
 532 dreit. / Le quens, quant le chevaler veit,/ se coroucent sovent./ De cors de visage
 575 De Amillioun doncq li sovent:/ '
 25 Est veuz li mestre botiler,/ Amys, qe
 99 quer poy li ameit./ 'Si[re] Amis,' dit il, ' que soyez mon amy,/ Mon ami e mon
 1232 Si vous gardez de glotonie!! Amez
 1045 En bone vie longtemps vesqui;/ En
 1170 Qe son frere desconusset/ Qe touz
 903 estre veue./ Sire Amillioun fist com leal
 1055 tant lour vint sur cherté/ De pain, vin e de
 854 Servir le fist tot a talent/ De viande e de
 227 E il dit: 'C'est mal dolur/ Quant n'avom a
 168 E tres gentil dameyseals,/ E q'il fuit tant
 59 Si Deu mesmes le eust purtret,/ Plus
 800 li done mes enviz;/ Mes le conte fist com
 518 par amour de moy —/ Car jeo vus aime en
 70 est autre de moy;/ Car jeo vous dy en
 75 Amys, q'estoit son compaignoun,/ En
 1088 E dit: 'Amis, beau compaignoun,/ En
 1236 frere doine garisoun./ La dame vint, qe
 1082 Moult se amerct fierement,/ E
 1103 enfanz ne voil lesser./ Mout avera fait
 1231 trace./ En Amis ne out qe regeir/ Une
 577 terre li herita,/ Qe bien aveit deservy./ En
 163 fuit Amys;/ De cors resemblast e de vis./ de sa gent amé,/ E lour ad trestouz doné/
 833 e son enfant,/ A chef de la vile a un
 1204 pur vivre ne pur morir./ Suvenez vous del
 706 e grant,/ Les barons e les chevalers,/ Com vous li soleiez amer jadis./ Grant
 1036 sailli hors de la mayson,/ Si encontra le
 971 Quant le conte ad pres mangé,/ Son
 211 maint baroun./ Est veuz li mestre
 39 lour feste teneint./ De Amys fist son
 778 est amé e tenu cher;/ N'estoet mes estre
 552 seneschal se fist armer,/ Puis demaunda le
 358 ja femme de mester,/ E ceo ad fait nostre
 952 premer mes li envoya/ Par son mestre
 bien estre vengé/ De vostre corteis botiler;/ Tot lour estre
 bien feffa:/ De tote sa terre li herita,/ Qe bien aveit deservy
 bien fere!// Grant chose enprent pur son frere!/ Amys remaint
 Bien furent entre eux couplés/ De parage e de beautez./ Ore
 bien fust apri/ E moult ama son seignur,/ Ala demaundant tut
 bien gardé:/ Compaignes out a grant pleinté/ Des damescles
 bien gardé:/ En son esquel le vin versez,/ E ma coupe me
 bien garret/ S'il en fist mettre cure/ [Des] deus fiz de sa
 bien honye/ Quant vous me dedeignez avere amye!// Tant
 bien hounte nous rend:/ Tray nous ad malement,/ Qe nostre
 bien lé recoveroms. / Atant la parole ount lessé/ E le service
 bien le deverez celer. / Tot lour estre luy ad counté,/ E puis
 bien le poet. / Amillioun l'ad bien entendu,/ E la prist sicom
 Bien le portent a honour;/ Si les amast mult tendrement
 bien loé furent./ Amillion demorra/ Atant qe son pere fina
 bien lor nouns:/ Li un estoit Amys par noun,/ L'autre est
 bien me deffenderay/ Devant qe jeo denieray. / Le seneschal
 bien paié/ Quant ad le chivaler si bien armé./ Puis li dist suef
 bien payé./ Tant fuit li seneschal doté/ Qe Amys un soul n'en
 bien porter,/ Mes son coup est trop pesant./ Le seneschal se
 Bien pres passa le costé./ Mes la char n'ad pas toché
 bien/ Qe l'un ne l'autre ne perdit ren./ Amillioun vint par
 bien qe mon seignur/ Pur vous ad ma mort juré. / 'Dame,' dist
 bien quideit./ Les deuz furent issi d'un senblant/ Ne crerret
 Bien quideit qe ceo fuit Amys;/ De cors resemblast e de vis
 bien ressembleyent:/ Si de une robe vestu estoient,/ N'est
 Bien sai', fait il, 'verraiment,/ De mon frere l'ad emblé./ Qe
 bien sout son mester:/ De un drap vestu esteit,/ La coupe
 bien veignant!/ De vous suy ore alé pensant/ E de misire
 bien voiant. / Amis respount aitant:/ 'Sire seneschal
 bien vostre seignur,/ Ne soffrez q'il eit deshonur!/ Mout li
 bienfaitz se pena./ Après sa mort a Deu ala;/ Amis, son frere
 biens li fesoit./ Trestouz plurent de pité./ Amis s'est tot
 bier:/ Sa gent fist tot assemblé,/ Chasteleins e chivalers
 blé./ Qe donke ne poient home trover/ Qe rien lour voille
 boivre ensement./ E li memes a li vet/ Chescun jour sis foiz
 boivre ne a manger;/ Ne poums icy plus demorer./ Jhesu, le
 bon chivaler/ Q'en la court n'out son per./ La pucele en prist
 bon ne meuz [ne] serra fet./ Sa gent durement l'amerent;/ A
 bon seignur,/ Destourber ne vout son honur;/ Mes s'il eust
 bone foy —/ Ta espee nue meistes entre nous,/ Sire, purquei
 bone foy/ Qe ele [est] mout aparcevante! / E sire Amist
 bone foy saunz treson./ De plur ne se poet tenir,/ Car moult
 bone foy saunz tresoun/ A nostre seignur servy avom./ Pur
 bone fust,/ Sovent Deu pur li requist./ Atant le conte s'est
 bone fut la compagnie./ Lor corps gisent en Lombardie,/ E
 bone jorné/ Si par lour saunk poet estre sauné. / Un jour s'est
 bone robe li fist vene/ E a mouster puis li mena./ La dame
 bone vie longtemps vesqui;/ En bienfaitz se pena./ Après sa
 Bons armes demaunda/ E li memes le chivaler arma./ En son
 Bons chevaus e deners,/ E robes a ses esquiers./ E il memes si
 bordel/ Illoc lour fist aver hostel./ O, misires Amyllioun
 bordel/ [K']la moy lirastes pur hostel./ Celi averez tant com
 Borgés, sergeans e esquiers./ Quant touz furent assemblé
 bosoigne li ad icy chacé./ Si le occiez, vous fetes pecché.
 botiler./ A li soleit trop beal parler;/ Les oïls sur ly forment
 botiler ad appélé:/ 'Pernez ma coupe od tot le vin,/ Si
 botiler,/ Amys, qe bien sout son mester:/ De un drap vestu
 botiler,/ Car moult a ly puet affyer./ Amyllioun ne velt
 botiler./ Consailler fut fait e sire;/ Quantq'il voleit porreit
 botiler;/ E quant il ne pout estre trové,/ La dame fuit pris e
 botiler./ Pur nostre bien hounte nous rend:/ Tray nous ad
 botiler,/ Qe ert corteis chevaler./ De chescun mes qe l'em li

225 En la chaumbre a la damoisele/ Del
 319 bien estre vengé/ De vostre corteis
 997 errant:/ Forment l'ad feru du pé./ Qe en la
 458 Tant qe vers une vespré/ En un grant
 241 demora/ Tant que li quens s'en ala/ A
 482 En cele nuyt tant errerent/ Qe parmy le
 232 Si forment comensa a amer/ Q'ele ne pourt
 672 brank trencha:/ Desque en la haunce le
 606 Amillioun vint par corucer,/ Par ire tret le
 668 fust tot purfendant./ En la cervele cola le
 671 Voler fist enmi la place./ Le braz od le
 616 Parmy l'espaulde del chival/ Cola le
 1050 Tot ensi com ert de tay levé./ Entre ses
 671 tote la face/ Voler fist enmi la place./ Le
 601 li referri;/ Lour launces ount as coups
 958 coupe avoit/ Ke mout ferement amoit,/ /
 102 deshonur!/ Mout li devez amour e foy,/ /
 754 failli avez./ A vous le peus bien counter,/ /
 772 come sa vie./ Ore est mout en astage,/ /
 1179 ama./ Donque fist sa femme demaunder,/ /
 518 ne troesse/ Qe illoke est autre de moy;/ /
 800 li disoit:/ 'Me diez par amour de moy —/
 40 feste teneint./ De Amys fist son botiler,/ /
 72 saunz treson./ De plur ne se poet tenir,/ /
 463 E son chival a une raym lya./ Dormist,
 93 od feloun/ Ne porra trover si mal noun;/ /
 91 de sa felonie!! Ne aiez od li compaignie,/ /
 688 totevoie/ Semblant li fist tant com osa,/ /
 1159 ne verrait./ Mes ne li ert pas destiné,/ /
 369 de mal ard e d'yre,/ Devint plus noyr ke
 309 Tant li ad dit e parlé/ Ore sunt a un de
 817 morir/ Qe a li vousist venir./ Cil soffri en
 673 Desque en la haunce le branc cola./ En
 850 que manger li donast./ L'enfant, quant oy
 603 as coups brusé/ E si sunt outrepassé./ A
 340 devenu./ Ele est honie, jeo suy trahi;/ /
 987 Arere tantost se repeira,/ Al counte de
 239 teysent/ E d'autre chose s'enveysent./ En
 236 E ele dit que malade fuit,/ Ne sout dont
 45 sur touz/ Qi fort esteit e coragous./ De
 105 Plurent e crient de pité./ Suz
 995 achaté!'/ Outre la table saut ataunt,/ A
 1076 Quant veu avoit l'avisioun/ E de
 959 amoit,/ Car Amillioun, qe tant amoyt,/ /
 481 As autres ne fuist pas deduit./ En
 485 Sire Amillioun primes le veit;/ Tost est
 274 li respondi e dist: 'Coment/ Vous ay amé
 750 Donke dit sir Amillioun: —/ Ne vodra
 754 le peus bien counter,/ Car bien le deverez
 1191 tele com deussez estre,/ Par Jhesu, le roy
 1206 bordel/ [K']a moy livrastes pur hostel./
 978 vin versez,/ E ma coupe me reportez!'/ E
 346 mal.'/ 'Sire,' le seneschal respongud,/ Par
 432 Amis se retret e purpensa/ Com
 751 vodra celer son noun —/ 'Jeo ne suy pas
 270 desir./ De respoudre se purpensoit/ Com
 946 Mes sitost com il veu avoient/
 642 coup descent,/ Mailles trenchent plus de
 1048 de pité./ Amis s'est tot adrescé./ Plus de
 404 Haist Amys desqe a la mort,/ Fust
 909 vendre/ Pur cink souz e diz e maille;/ De
 358 vus avez!'/ Ele est ja femme de mester,/ E
 404 desqe a la mort,/ Fust ceo a dreit fust

botiler qe tant ert beaus/ E tres gentil dameyseals,/ E q'il fuit
botiler; Tot lour estre fist espier./ Qant vint le terme
bewe est il versé./ Les chevalers vindrent del deys,/ Qe li
boys est alé./ A force ly covynt dormir,/ Aviz li fust qu'il
boys juwer en venerie,/ Od ly tote sa chivalrie./ A l'ostel n'i
boys passerent/ Ou sire Amis reposoit./ Sire Amillioun
bovire ne manger./ Les damoysesles qe od li erent/ Purquei
branc cola./ En cel champ fu ben vengé;/ Par li mes n'iert
brank d'asser;/ Le seneschal ferir ala,/ En le healme grant
brank./ E l'oraille od tote la face/ Voler fist enmi la place
brank trencha:/ Desque en la haunce le branc cola./ En cel
braunke en terre aval/ Plus qe plein pé e demy;/ Le seneschal
braz li ad apporté./ En sa chambre li ad couché./ Bainer li fist
braz od le brank trencha:/ Desque en la haunce le branc cola
brusé/ E si sunt outrepassé./ A cel encoultre tant firent bien
Car Amillioun, qe tant amoyt,/ Cele coupe li donait
Car bien ad amé vous e moy./ Atant se sunt entrebeysés
Car bien le deverez celer./ Tot lour estre luy ad counté,/ E
Car cru li est par mariage/ Grant seignurie e grant honur:/ De
Car de li se veut venger./ Tant fuit quise q'ele fut trové/ Mes
Car jeo vous dy en bone foy/ Qe ele [est] mout aparcevanté!
Car jeo vus aime en bone fey —/ Ta espee nue meistes entre
Car moult a ly puet affyer./ Amyllioun ne velt lesser:/ De son
Car moult li greve le departir./ Doneq parla sire Amillioun/ E
car mult fu travaillé,/ E son chival fuist mesaysé,/ Amyllioun
Car piz ne porra avenir/ Quant compaignoun velt autre trahir
Car qui s'acompanie od feloun/ Ne porra trover si mal noun
Car son pere moult dota./ Le counte atant l'ad appellé:/ 'Dy
Car un jour par matyné/ Les deus countes sunt venuz/ E a la
carboun./ Tost sailli hors de la mayson,/ Si encontra le
cel affere,/ Dount devisent la menere/ Coment e quant
cel an/ Grant dolur e grant han./ Ses chevalers touz
cel champ fu ben vengé;/ Par li mes n'iert encusé./ S'il chaist
cel comaund,/ Ne sout ou quere lour vivre avant./ Tantost
cel encoultre tant firent bien/ Qe l'un ne l'autre ne perdit ren
Cel fel traître m'ad icy servy./ A touz jours avera reprover/ Si
cel hanap counta/ Coment a soen ressembleit./ E le counte
cel langur demora/ Tant que li quens s'en ala/ A boys juwer en
cel mal ly avenut./ Ele comaunda qe eus se teysent/ E d'autre
cel mester longtemps servirent/ E par tot bien loé furent
cel n'ad home que la fust/ Qe dolur de la pité n'en eust
cel povre vint errant:/ Forment l'ad feru du pé./ Qe en la bowe
cel sounge resperi,/ 'A, Deu!' dit il, 'qe onqe ne menti
Cele coupe li donait./ Amillioun mesmes avoit le per,/ Qe ne
cele nuyt tant errerent/ Qe parmy le boys passerent/ Ou sire
cele part torné,/ Tendrement l'ad esveillé./ E sa gent
celement?/ Qe jeo vus ay doné m'amur?/ Ja en ma vie après
celer son noun —/ 'Jeo ne suy pas celi qe vous quidez;/ De
celer./ Tot lour estre luy ad counté,/ E puis dit q'il prendra
celestre./ Tourné me ert a grant vilté/ Si jeo ne soie de vous
Celi avezer tant com vus viverez;/ En noun de dowere le tenez
celi fist le comaundement/ E vint e porta le present./ Le
celi qe fist le mound,/ S'il le velt denier./ Com leal chevaler
celi qe grant mester en a./ De son frere li sovnyt/ Tantost a
celi qe vous quidez;/ De vostre espoir sailli avez./ A vous le
celi qe talent ne aveit/ Q'il mesprist vers son seignur./ Estez
Celi q'il clama pur seignur,/ Touz li tenoient a folur./ Mes de
cent./ Bien pres passa le costé./ Mes la char n'ad pas toché
cent foiz li ad beisé,/ Tot ensi com ert de tay levé./ Entre ses
ceo a dreit fust ceo at tort./ Nul ne oseit pur li parler,/ E le
ceo acateront lour vitaille./ Estre ceo lour fount fere/ Sur deus
ceo ad fait nostre botiler./ Pur nostre bien hounte nous rend
ceo at tort./ Nul ne oseit pur li parler,/ E le counte li velt

815 Ne od li beivre ne manger./ Meuz,
 304 nous en fyn honye?/ 'Hostez, hostez!'
 62 honur;/ Mes s'il eust od ly affere,/ Fuist
 82 E si est de mult grant parenté;/ Pur
 973 ma coupe od tot le vin,/ Si l'aportez a
 739 E par amour sovent baiseé,/ E en quidoit qe
 568 dit il, 'jeo tuy venu! Dount vous sert tot
 804 vous?/ 'Dame, jeo [ne] le dirrai mes;/ A
 1108 Vint al seignur, si li demaunda/ Si
 575 quant le chevaler veit,/ Bien quideit qe
 944 Q'il ne lerreit pur estre emperur./ Qy
 530 E quiderount trestouz pur voir/ Qe
 1148 Ne quideit pas q'il fuit en vie./ Pur
 234 Les damoyseles qe od li erent/ Purquei
 646 qe tant fu de vigour,/ Meint coup li dona
 276 vus ay doné m'amur?/ Ja en ma vie aprés
 792 frere/ For soul la dame qe Amis aveit,/ Pur
 65 E il od force de sa gent/ Vendroit a ly,
 910 De ceo acateront lour vitaille./ Estre
 57 ses droitz amenusast./ Le counte fust de
 1195 vous vengé./ Si fu[i] malades e defet,/ Pur
 723 E la prist sicom son dreu,/ Mes pur
 1038 vous fetes pecché.'/ Quant le counte
 886 Nostre congé de li prendrez./ Hors de
 1202 Qe jeo ne deusse en mon vivant/ En
 301 Jeo preng Deu en tesmoignage:/ Si
 1188 ester!/ Ne deussez tel doil demener/ Pur
 137 e ameray;/ Pur nul autre ne li lerray/ Par [
 630 Mes il aparceut tost la manere,/ Si
 805 le dirrai mes;/ A ceo fui jeo confés.'/ Par
 24 Q'amerent entre eus tant fierement,/ E de
 542 Sa espeie nue entre eus posa./ La dame de
 334 luwé./ 'Adonke,' dit il, 'Deu mercy,/ Si
 1134 solail s'enjoierent./ Pere e mere, quant
 343 Si jeo ne me puisse de li venger./ Est
 715 lessez, sire Amillioun!/ Jeo vous di
 1018 Mes le chef me faites tost trencher./ Mes
 1110 Coment il out sa garisoun./ 'Dame,
 283 m'ount prié,/ E trestouz ai je refusé./
 279 heytez/ Si jeo ne soye de vous vengez?/
 668 Qe le healme fust tot purfendant./ En la
 985 regarda;/ Pensa cil: 'Coment poet estre?/
 853 Tantost counta a son seignur,/ E il dit: 'ne
 1033 menti/ E qì en croiz suffri passiouen,/ Einz qe
 718 soint .iii. anz passez,/ après de
 352 pendu!'/ E dit li quens: 'Ore vaut meins!/ le
 857 fiz seinte Marie,/ Com longes me durra
 572 serreit!/ Armes me fetes tost bailler/ Pur
 21 semblaunt/ De companie tant ne quant./
 221 Qe onqe si bel chivaler ne vist./ Touz
 252 est Mirabele,/ Mes Florie fust apelé/ De
 1036 amer jadis./ Grant bosoigne li ad icy
 107 dolur de la pité n'en eust./ Paumez sunt
 1039 le counte ceo oist,/ Tost estendu a terre
 675 ben vengé;/ Par li mes n'iert encusé./ S'il
 255 hasté a plus que ele pust:/ Ove une soule
 353 play m'est laid e vileins.'/ Atant en la
 1091 Atant le counte s'est repairé./ En une
 1051 levé./ Entre ses braz li ad apporté./ En sa
 204 pleinté/ Des dameseles del pais/ En sa
 1129 Amys doncq ove la dame ala/ En la
 763 E coment eust fait la sposaille./ En une
 673 en la haunche le branc cola./ En cel
 ceo dit ele, veut morir/ Qe a li vousist venir./ Cil soffri en cel
 ceo dit Florie./ 'Nous le froms si privément/ Touz deus a
 ceo en pees ou en guerre,/ Maundast a ly hastivement,/ E il od
 ceo est il le plus doté./ Unke ne vous pout amer,/ Mal vus ad
 ceo frarin,/ Au povres qe tant est mesaysé./ Mes le hanap soit
 ceo fu Amys./ Mes Amillioun, qe fu pensifs,/ Bien entendi en
 ceo fu/ Qe pur les dames fait esteit?/ Trop vilaine roste serreit
 ceo fui jeo confés.'/ Par ceo savoit sir Amillioun/ Qe Amis
 ceo fuist sire Amillioun,/ Coment il out sa garisoun./ 'Dame
 ceo fuit Amys;/ De cors resemblast e de vis./ Bons armes
 ceo fuit li demaundeinent,/ Mes sitost com il veu avoient/ Celi
 ceo fuit lour dreit seignur./ E la dame, quant li veu aveit,/ Qe
 ceo fut tot appareillé/ Q'en le mois deust estre esposé./ Mes
 ceo fuy ly demaunderent./ E ele dit que malade fuit,/ Ne sout
 ceo jour./ La bataille ad bien duré/ Desque noune fust passé
 ceo jour/ Ne serray en mon quer heytiez/ Si jeo ne soy de
 ceo les terres recevoit./ Ore vodrom de Amis lesser,/ Qe assez
 ceo li jura./ Amyllioun ly mercya./ Atant del counte departi
 ceo lour fount fere/ Sur deus roes une cyvere/ Qu'il pout sei
 ceo marriz,/ Congé li done mes enviz;/ Mes le conte fist com
 ceo n'avojeo pas forfait,/ Qe vivre deusse bien du mien
 ceo ne vout lesser,/ Mes la resceit come sa mullier./ Ne voleit
 ceo oist,/ Tost estendu a terre chaist:/ Bate ses mains, ses
 ceo pais irroms/ A plus tost que nous pooms./ Mes jeo ne
 ceo pais revener,/ Ne pur vivre ne pur morir./ Suvenez vous
 ceo poet estre aparceu/ Qe de moy feissey vostre dru,/ Ne
 ceo qe sain tuy revenu./ Molt vus fust ben avenu,/ Si feussez
 ceo qu'il est chose esprové/ Pur promesse saunz seurté./ Mes
 ceo retret tost arere./ Tost descendri de son destrier;/ Combattre
 ceo savoit sir Amillioun/ Qe Amis estoit leal compaignon
 ceo se coroucent sovent./ De cors de visage bien
 ceo s'enmerveilla./ A la dame ne voleit parler,/ Desques al
 ceo traitour m'ad issi hony,/ Que tant amey e tant ting cher
 ceo virent,/ A Deu graces en rendirent./ Sire Amillioun, quant
 ceo voir, sire seneschal?/ Jeo quide que l'avez dit pur mal.
 certeine novele:/ Si vous esposez la damoisele,/ Einz qe
 certes ai jeo trop vesqui;/ Trop bien ai la mort deservi.'
 certes, jeo vus dirray,/ Mes vous desconforteray./ Sachez
 Certes n'estes pas chevaler!/ Mescreaus estes e laner!/ Un
 Certes ore tuy jeo bien honye/ Quant vous me dedeignez
 cervele cola le brank./ E l'oraille od tote la face/ Voler fist
 Ces deus hanaps fist un mestre!'/ Arere tantost se repeira,/ Al
 C'est mal dolur/ Quant n'avom a boivre ne a manger;/ Ne
 C'est mi sires, sire Amillioun!/ Sire quens, remembrez
 ceste leprouz serrez./ Avant mes unke si laid ne fust/ Home
 Ceste play m'est laid e vileins.'/ Atant en la chambre entrat
 ceste vie?/ Jeo solei aver grant tresour,/ Etre servi d'argent
 cestes dames deliverer! Jeo deffendray nostre dreit.'/ Le
 Ceus de la court avoient envie/ De lour estre e de lour
 ceus qe en la sale estoient/ De sa beauté matire aveient./ Est
 ceux qe furent de sa meisné./ Florie, quant le congé en eust
 chacé./ Si le occiez, vous fetes pecché.'/ Quant le counte ceo
 chaeuz a terre;/ N'est home qì me vousist crere/ Si jeo deisse
 chaist:/ Bate ses mains, ses cheveuz detire,/ Sa vie hiet, sa
 chaist, n'est pas mervaille./ Ore finist la bataille./ Les uns
 chambre/ Ala par congé de sa mere/ Parler a Amys que ele
 chambre entrat,/ La dame sur un lit trovat./ 'Dame,' dit il
 chambre est entré/ Ou les deus enfanz dormerent;/ E
 chambre li ad couché./ Bainer li fist e seigner,/ Con son
 chambre noef e dis,/ Qe touz fesoient sa volonté;/ De
 chambre ou les enfaunz lessa./ Les enfantz furent estranglés
 chambre puis entrerent/ E lour robes chaungerent;/ Donque
 champ fu ben vengé;/ Par li mes n'iert encusé./ S'il chaist

644 cent./ Bien pres passa le costé./ Mes la
 889 Mes jeo ne puis aler a pié;/ Priez a lui par
 1172 leal bier:/ Sa gent fist tot assembler,/ Touz
 1185 seignur la fist relever,/ Bel la comence a
 224 aveient./ Est venuz la novele/ En la
 1167 mie./ Quant la dame oi counter,/ En une
 651 ne dota de rien./ Ne savoit [nul] del
 509 irrount./ E quant nous averoms robes
 521 le graunte./ Lour robes ount trestot
 764 une chambre puis entrerent/ E lour robes
 677 mervaille./ Ore finist la bataille./ Les uns
 1 Qi voet oyr
 618 qe plein pé e demy;/ Le seneschal a terre
 810 ly arracha./ Si malade e si laid devint/ Qe
 833 serjant,/ Sire Amyllioun e son enfant,/ A
 1017 amez,/ Ne me facez enprisoner,/ Mes le
 1095 [n']eust de ses fiz pité:/ Ambedeus ad le
 408 Quant ne pout trover plevine,/ Pausmē
 875 e decirent lour draps,/ Sovent se claiment
 1150 estre esposé./ Mes ore se claime lasse
 335 issi hony,/ Que tant amey e tant ting
 777 come li quens est fini./ Ore est amé e tenu
 993 De mon frere l'ad emblé./ Qe
 902 va querant,/ Mes tant lour vint sur
 199 Ne vout uncore aver mary./ A grant
 1220 la serveit/ Qe par une fenestre luy porteit/
 1057 de boivre ensement./ E li memes a li vet/
 954 botiler,/ Qe ert corteis chevaler./ De
 594 desq' a la mort./ Nul deigne a autre affier;/
 545 voleit parler,/ Desques al matin al lever./
 142 Jeol vous fray od graunt douçour,/ Sauve
 633 voleit per a per,/ Q'il n'eust de son
 619 a terre chay./ Qe pout, quant son
 652 del chaump juger/ Lequel fuit meilleur
 953 Par son mestre botiler,/ Qe ert corteis
 348 le mound,/ S'il le velt denier./ Com leal
 283 E trestouz ai je refusé./ Certes n'estes pas
 218 communement disoient/ Qe unqe si bel
 562 les verreit arder./ Ataunt virent vener un
 574 nostre dreit. / Le quens, quant le
 705 i furent, petit e grant,/ Les barons e les
 244 A l'ostel n'i out nul remis/ Des
 678 chaunterent, les autres plorerent./ Les
 473 sailli com home desvée./ Tost appela ses
 819 en cel an/ Grant dolur e grant han./ Ses
 998 du pé./ Qe en la bowe est il versé./ Les
 455 ne dormist nule nust./ Touz les noitz issi
 163 gent amé,/ E lour ad trestouz doné/ Bons
 1040 a terre chaist:/ Bate ses mains, ses
 612 deffendu,/ Qe le coup ala descendant/ Si
 891 ele me face une ane doner/ Qe jeo puisse
 462 morir./ Desouz un arbre se cocha,/ E son
 615 trenché le eust./ Parmy l'espaudle del
 464 Dormist, car mult fu travaillé,/ E son
 636 Meuz a pié l'estut ferir/ Que lessir son
 578 Bons armes demaunda/ E li memes le
 420 morir;/ Devant le counte se genula/ E le
 380 Amys, 'vus dites mal./ Jeo tuy vostre
 450 garsoun e saunz esquier;/ N'ala pas com
 220 E li quens meme le dist/ Qe onqe si bel
 227 gentil dameyseals,/ E q'il fuit tant bon
 621 parlent durement:/ Dist l'un a l'autre qe le
 580 En son corage fust bien païé/ Quant ad le

char n'ad pas toché./ Amyllioun, qe tant fu de vigour,/ Meint
charité/ Qe ele me face une ane doner/ Qe jeo puisse
Chasteleins e chivalers./ Serjanz, vadlet e esquiers,/ Touz
chastier:/ 'Dame,' dit il, 'lessez ester!/ Ne deussez tel doil
chaumbre a la damoisele/ Del botiler qe tant ert beaus/ E tres
chaumbre se ala muscer;/ Meuz velt estre pendue/ Qe de son
chaump juger/ Lequel fuit meilleur chevaler./ Amillioun fust
chaungé,/ Donqe quideront de verité/ Qe vous seiez lour
chaungé,/ E Amyllioun s'en est alé;/ Tut soul va saunz
chaungerent;/ Donqe ne fuit aparcevant/ De lour estre tant
chaunterent, les autres plorerent./ Les chevalers ja corerent
chaunzon d'amur,/ De leauté e de grant douçour —/ De
chay./ Qe pout, quant son cheval li ment?/ Del cop parlent
checun pur mesel li tint./ La dame li tint trop en despit./ Ne
chef de la vile a un bordel/ Illoc lour fist aver hostel./ O
chef me faites tost trencher./ Mes certes ai jeo trop vesqui
chef trenché;/ E le sanc de eux ad quillé/ E Amillioun dedeinz
chei la meischine./ En la place estoit Amis/ Com esgarré e
cheitif e las;/ Plein[en]t de grant chivalrie/ Le honur e la
cheitive;/ Moult luy poise qe ele est vive./ Ne saet ele pas
cher,/ En qj me porrai affier?/ Si est grant desert venu:/ Ma
cher;/ N'estoet mes estre botiler./ Consailler fut fait e sire
cher serra achaté!'/ Outre la table saut ataunt,/ A cel povre
cherté/ De pain, vin e de blé./ Qe donke ne poient home
cherté le tynt le pere,/ E mout l'ama auxi la mere./ La
Chescun jour sa liveré,/ Coment le counte out comaundé
Chescun jour sis foiz ou sept;/ Tant com pout l'ad conforté
chescun mes qe l'em li porta/ La moyté lor envoia./ Amis
Chescun se prent a ferir./ Amillioun fiert le seneschal/ D'un
Chescune nuyt issi se contint/ Desques Amyllioun a meson
chescuny honur.'/ Li seneschal ataunt se tint,/ Qe
cheval envie./ Tant fist il par sa cortesie:/ Meuz a pié l'estut
cheval li ment?/ Del cop parlent durement:/ Dist l'un a
chevaler./ Amillioun fust bien anuié/ Qe la bataille ad tant
chevaler./ De chescun mes qe l'em li porta/ La moyté lor
chevaler le voil prover,/ E cil que de nous est vencu/ Soit
chevaler!/ Mescreaus estes e laner!/ Un play bien dur vus
chevaler ne veient;/ E li quens memo le dist/ Qe onqe si bel
chevaler/ Qe vers eux fist grant aleure,/ Poignant plus qe
chevaler veit,/ Bien quideit qe ceo fuit Amys;/ De cors
chevalers,/ Borgés, sergeans e esquiers./ Quant touz furent
chevalers for sire Amis,/ E il remist pur maladie./ E la
chevalers ja corerent,/ Mes le counte vient premer;/ Atant
chevalers,/ Ses garsouns e ses esquiers./ Touz lour fist
chevalers touz departoient,/ Ses garsons touz li guerpeient
chevalers vindrent del deys,/ Qe li estoient de molt près
chevaucha,/ Qe onke de nuyt ne se reposa,/ Tant qe vers une
chevaus e deners,/ E robes a ses esquiers./ E il memes si bel
cheveuz detire,/ Sa vie hiet, sa mort desire,/ La hure maudit
chiet sur l'arsoun devant;/ Trestut trencha quir e fust/ Com si
chivacher.'/ L'enfant a la dame ala,/ Son message li counta
chival a une raym lya./ Dormist, car mult fu travaillé,/ E son
chival/ Cola le braunke en terre aval/ Plus qe plein pé e demy
chival fuist mesaysé,/ Amyllioun en son lit giseit,/ Deleez
chival morir./ Le seneschal, qe nel pout amer,/ Un grant
chivaler arma./ En son corage fust bien païé/ Quant ad le
chivaler demaunda:/ En hostage pur li serreit,/ En son
chivaler leal;/ Si nul vous ad de moy counté/ For que dreit a
chivaler/ Mes ala com pelrin./ Ne fina unke soir ne matyn
chivaler ne vist./ Touz ceus qe en la sale estoient/ De sa
chivaler/ Q'en la court n'out son per./ La pucele en prist
chivaler/ Ses armes sout trop bien porter,/ Mes son coup est
chivaler si bien armé./ Puis li dist suef en son oraille/ Qe

160 N'ust od ly ja si privé/ Q'il n'out dis
 392 Est veus tote la court ensemblé,/ Ly
 216 teneit./ Mout fu beals e aligné,/ Des
 35 tendrement,/ Honur les fist a lour talent./
 506 vengé,/ Qe vus quideit aver hony./ Mes
 589 eus nul amur ne eyent./ Ore s'en vount les
 1172 Sa gent fist tot assembler,/ Chastelains e
 242 A boys juwer en venerie,/ Od ly tote sa
 876 cheitif e las;/ Plein[en]t de grant
 288 Qe vers li estes e moy forfet,/ E serrés des
 734 feffez./ Le counte dona a ses esquiers/ Les
 526 aye/ E doigne q'il puisse bien fere!/ Grant
 137 nul autre ne li lerray/ Par [ceo] qu'il est
 325 De amour parlerent e juwerent./ De autre
 238 Ele comaunda qe eus se teysent/ E d'autre
 78 Pur vostre honur vus cri mercy,/ De une
 984 La coupe durment regarda;/ Pensa
 682 desarmer./ S'il eust plaie li demaunda;/
 942 vout servir./ E il getta un grant suspir;/
 349 Com leal chevaler le voil prover,/ E
 950 pité:/ Al counte Amys ount counté./
 817 dit ele, veut morir/ Qe a li vousist venir./
 908 Q'il covient lor asne vendre/ Pur
 1212 loin le virent tote sa gent/ Outre tote la
 1150 le mois deust estre esposé./ Mes ore se
 875 Plurent e decirent lour draps,/ Sovent se
 946 Mes sitost com il veu avoient/ Celi q'il
 461 fust qu'il deust morir./ Desouz un arbre se
 466 en son lit giseit,/ Deleez sa femme se
 913 meismes enhacer./ Amillion fist dedeinz
 1026 Puis l'ad en haut levé,/ E Amillioun le
 672 trencha:/ Desque en la haunce le branc
 668 healme fust tot purfendant./ En la cervelle
 616 le eust./ Parmy l'espaulde del chival/
 640 heaulme peint de flurs,/ Qe tost abati les
 923 fesoit./ La povre gent tot enviroun/ Ala
 185 E meuz li servi de jour en jour./ Taunz
 59 li done mes enviz;/ Mes le conte fist
 432 la meschine./ Amis se retret e purpensa/
 270 son desir./ De respoudre se purpensoit/
 450 Saunz garsoun e saunz esquier;/ N'ala pas
 1190 Molt vus fust ben avenu,/ Si feussez tele
 720 Avant mes unke si laid ne fust/ Home,
 115 Vers la court sei retorneyt;/ Sitost
 1049 Plus de cent foiz li ad beisé,/ Tot ensi
 410 la meischine./ En la place estoit Amis/
 388 poing tint,/ E tendist en noun de gage/
 472 sounge fut moult effraé/ E tost sus sailli
 797 Qe tant estoit leal compaignon./
 1065 tele vie;/ De ses eses ass[e]z avoyt/ Tant
 316 A son seignur le ala counter/ Sitost
 149 Ala e fist son mester;/ Servi le counte
 945 Qy ceo fuit li demaundeient,/ Mes sitost
 37 les ad dobbez en estour,/ Lour trova si
 446 Pur ma defaute ne murrez mie,/ Tant
 296 amy suy e serray,/ E vostre serjant tant
 1098 E Amillioun dedeinz ad envelopé./ Sitost
 1170 seignur estre veue./ Sire Amillioun fist
 348 celi qe fist le mound,/ S'il le velt denier./
 857 plus demorer./ Jhesu, le fiz seinte Marie,/ Al counte Amys ount counté./ Cil, sitost
 950 E la pucele totevoie/ Semblant li fist tant
 687 esquier;/ N'ala pas com chivaler/ Mes ala
 451

chivalers de maisné./ Tant fuit de sa gent amé,/ E lour ad
chivalers e la meisné./ Li un countre l'autre tendi son gant
chivalers fuit moult prisé./ Entre eux communement
Chivalers lour fist a grant honur./ Touz les ad dobbez en
chivalers qe sunt icy/ Od vous desoremés demorront;/ A ma
chivalers/ Qi mult sunt orguillous e fiers./ Ne avera mestre
chivalers./ Serjanz, vadlet e esquiers,/ Touz devant li
chivalrie./ A l'ostel n'i out nul remis/ Des chevalers for sire
chivalrie/ Le honur e la seignurie/ Qe sire Amillioun avoit
chivals destret./ Donques serray de vous vengé!'/ Atant s'est
chivals e les destrers./ Ore vus dei jeo bien counter/ Coment
chose enprent pur son frere!/ Amys remaint od la meisné
chose esprové/ Pur promesse saunz seurté./ Mes de taunt me
chose ne dirra[i] mie;/ Ne croy pas q'il y avoit vilaynie./ Le
chose s'enveysent./ En cel langur demora/ Tant que li quens
chose soiez garny:/ Le counte ad seignz un seneschal/ Qe
cil: 'Coment poet estre?/ Ces deus hanaps fist un mestre!'
Cil dist que mal n'en a:/ Plus est sain qe person de mer
Cil dit q'il out un seignur/ Q'il ne lerret pur estre emperur
cil que de nous est vencu/ Soit detret e puis pendu!'/ E dit li
Cil, sitost com mangea,/ Son premer mes li envoya/ Par son
Cil soffri en cel an/ Grant dolur e grant han./ Ses chevalers
cink souz e diz e maille;/ De ceo acateront lour vitaille
cité;/ La fu la dame durement lié./ Jamés de illoec ne pout
clame lasse cheitive;/ Moult luy poise qe ele est vive./ Ne
claiment cheitif e las;/ Plein[en]t de grant chivalrie/ Le
clama pur seignur,/ Touz li tenoient a folur./ Mes de l'enfant
cocha,/ E son chival a une raym lya./ Dormist, car mult fu
cocheit;/ Si s'avint en avisoun/ Ke sir Amys son
cocher,/ A plus q'il pout li eysa,/ De long en long li enmena
col tendist./ Mais l'enfant avant saillist:/ Uwein, qe ne poet
cola./ En cel champ fu ben vengé;/ Par li mes n'iert encusé
cola le brank./ E l'oraille od tote la face/ Voler fist enmi la
Cola le braunke en terre aval/ Plus qe plein pé e demy;/ Le
colurs./ Sur le senestre le coup descent,/ Mailles trenchent
com a processiou./ Entre autres les deuz vount./ Ne sciet, qe
com Amis meuz li serveyt,/ Le seneschal plus li haeit;/ De
com bon seygnur,/ Destourber ne vout son honur;/ Mes s'il
Com celi qe grant mester en a./ De son frere li sovynt
Com celi qe talent ne aveit/ Q'il mesprist vers son seignur
com chivaler/ Mes ala com pelrin./ Ne fina unke soir ne
com deussez estre,/ Par Jhesu, le roy celestre./ Tourné me ert
com dire bien le poet./ Amillioun l'ad bien entedu,/ E la
com en la porte entra,/ Li seneschal li encontra/ Qe semlaunt
com ert de tay levé./ Entre ses braz li ad apporté./ En sa
Com esgarré e com pensifs,/ Ne sout lequel il pout eslire
Com home de grant vasselage,/ E dit que od li combat[er]eit
com home desvec./ Tost appela ses chevalers,/ Ses garsouns
Com il en son lit gisoit,/ Sa bele dame a li disoit:/ 'Me diez
com il memes desiroit./ Quant passa le temps issi,/ Qe li
com il poet espleiter./ Le seneschal fut molt lee;/ Ore quideit
com il soleyt,/ E le conte mout li amoyt:/ Od sei le tint plus
com il veu avoient/ Celi q'il clama pur seignur,/ Touz li
com il voleint;/ Hautement lour feste teneint./ De Amys fist
com je puisse aver la vie!'/ Atant congé ly dona,/ E un
com jeo viveray./ Vers vous ne mesprendroie mye/ Par quei
com le saunc senti,/ De son grant mal est il garri,/ Qe en
com leal bier:/ Sa gent fist tot assembler,/ Chastelains e
Com leal chevaler le voil prover,/ E cil que de nous est vencu
Com longes me durra ceste vie?/ Jeo solei aver grant tresor
com mangea,/ Son premer mes li envoya/ Par son mestre
com osa,/ Car son pere moult dota./ Le counte atant l'ad
com pelrin./ Ne fina unke soir ne matyn,/ Poy mangea e

410 En la place estoit Amis/ Com esgarré e
 1074 en le saunk bainast,/ Si sain devendreit
 844 Fors a l'enfant que ly serveit./ Amillioun
 1138 sané/ E de son grant mal netté,/ Sitost
 1058 vet/ Chescun jour sis foiz ou sept;/ Tant
 614 devant;/ Trestut trencha quir e fust/
 146 Purpense sei q'il se vengereit/ Sitost
 1105 E a mouster puis li mena./ La dame, sitost
 1182 trové/ Mes de pour se fuist muscé./ Sitost
 1035 Sire quens, remembrez, Amys,/ /
 1206 livrastes pur hostel./ Celi averez tant
 701 ne me deveroy pas corucer. / Dount fut
 850 manger li donast./ L'enfant, quant oy cel
 1221 jour sa liveré,/ Coment le counte out
 237 fuit,/ Ne sout dont cel mal ly avenut./ Ele
 978 E ma coupe me reportez! / E celi fist le
 389 home de grant vasselage,/ E dit que od li
 626 ataunt,/ Qe dolent est e corucé/ Quant
 632 tost arere./ Tost descendri de son destrer;/
 691 fait il, 'fille bele,/ Amys pur vous ad
 515 facez atant,/ En fet e en semblant,/ /
 776 seignur,/ De .iii. countez e demy,/ Si tost
 724 pur ceo ne vout lesser,/ Mes la resceit
 190 mye./ Li quens une dame aveit/ Q'il
 770 En son pays vers s'amye/ Qe tant ama
 192 Une fille avoit la dame/ Q'e amoit
 1185 de pour./ Le seignur la fist relever,/ Bel la
 1116 Deu tendi/ E mout graces li rendi,/ Donqe
 1155 la terre,/ Ne la savera plus aider./ Donqe
 231 tant vers li ad getté s'amour;/ Si forment
 1198 du mien./ Dame, sovenez vous del bien,/ /
 988 repeira,/ Al counte de cel hanap counta/
 311 de cel affere,/ Dount devisent la menere/
 1011 de li querreit/ Qe son hanap out perdu/ E
 762 counté/ Coment eust finé la bataille/ E
 761 s'en est alé,/ A Amys ad trestot counté/
 736 destrers./ Ore vus dei jeo bien counter/
 1109 li demaunda/ Si ceo fuist sire Amillioun,/ /
 1217 al morir./ Autre dames ensample averont/
 1221 luy porteit/ Chescun jour sa liveré,/ /
 984 La coupe durment regarda;/ Pensa cil: ' /
 726 mullier./ Ne voleit qe eus furent aparceu/
 273 par grant error!/ Ele li respondi e dist: ' /
 1006 Que ses mains sunt allassé,/ Donqe
 784 ly aime tendrement,/ Si fist tot son
 1061 a ly est alé,/ Qe li ama molt de fin quer/
 217 Des chivalers fuit moult prisé./ Entre eux
 202 la mere./ La damoysèle fuit bien gardé:/ /
 90 Gardez vus de sa felonie! / Ne aiez od li
 1236 se amercent fierement,/ E bone fut la
 840 desire plus qe la vie;/ Nul solas ad ne
 796 de sire Amillioun/ Qe tant estoit leal
 122 E de misire Amillioun/ Qi a vous ert leal
 806 savoit sir Amillioun/ Qe Amis estoit leal
 468 Si s'avint en avisoun/ Ke sir Amys son
 69 ala parler a son amy/ Amys, q'estoit son
 74 parla sire Amillioun/ E dit: 'Amis, beau
 743 corage/ Fere ne li velt hountage/ De son
 94 mal noun;/ Car piz ne porra avenir/ Quant
 523 s'en est alé;/ Tut soul va saunz
 20 As autres ne fesoient unke semblaunt/ De
 1062 si ele fust sa soer;/ Plus ne li poet fere
 court avoint envie/ De lour estre e de lour

com pensifs,/ Ne sout lequel il pout eslire,/ Mort ou vie, ne
com pessoun./ Quant veu avoit l'avisoun/ E de cel soung
com plus viveit,/ Tant plus leid deveneit./ La dame par tant
com porra prist congé,/ En son pais s'en est alé./ Quant la
com pout l'ad conforté./ La dame sovent a ly est alé,/ Qe li
Com si rasour trenché le eust./ Parmy l'espaulde del chival
com son leu verreyt./ Amis lessa le temps aler,/ Ala e fist son
com vew li a,/ Pres de joie se palma;/ Vint al seignur, si li
com vist son seignur./ Ele pauma de pour./ Le seignur la fist
Com vous li soleiez amer jadis./ Grant bosogné li ad icy
com vus viverez;/ En noun de dower le tenez! / Donke fist
comaundé al baronage/ Qe eus feussent al mariage
comaund,/ Ne sout ou quere lour vivre avant./ Tantost counta
comaundé./ Un an vesqui e un jour;/ A drein morust pur dolor
comaunda qe eus se teysent/ E d'autre chose s'enveysent
comaundement/ E vint e porta le present./ Le povres, qe
combat[er]eit/ E la vérité provereit./ Est veus tote la court
combatre deit a pié;/ A plus tost q'il pout se vengereit,/ E
Combatre voleit per a per,/ Q'il n'eust de son cheval envie
combatu,/ Son enemi ad confundu;/ Ly e vous ad aquité/ Del
Come jeo memes ico fuisse,/ Qe ele encheson ne troesse/ Qe
come li quens est fini./ Ore est amé e tenu cher;/ N'estoet mes
come sa mullier./ Ne voleit qe eus furent aparceu/ Coment
come sa vie amoit./ Une fille avoit la dame/ Q'e amoit
come sa vie./ Ore est mout en astage,/ Car cru li est par
come s'alme./ Mout fut gentile la damoysèle,/ En une realme
comence a chastier:/ 'Dame,' dit il, 'lessez ester! / Ne
comence pur fere joie:/ 'Jhesu Crist, le fiz seinte Marie,/ Si
comencea a purpenser/ Q'entre nonaynes se muscereit;/ Son
comensa a amer/ Q'e ne pout boyvre ne manger./ Les
Coment a manger me menastes/ E del pais m'enchaceastes
Coment a soen ressembleit./ E le counte moult esmerveileit
Coment e quant s'assemblerunt./ Allas! Q'encusé serrount
coment est avenu./ Quant Amyllioun li oist nomer,/ De dolor
coment eust fait la sposaille./ En une chambre puis entrerent
Coment eust finé la bataille/ E coment eust fait la sposaille
Coment il firent a coucher:/ La dame ad son dreeu acolé/ E par
Coment il out sa garisoun./ 'Dame, certes, jeo vus diray
Coment iour seignurs lour garderont./ Une garce la serveit
Coment le counte out comaundé./ Un an vesqui e un jour;/ A
Coment poet estre?/ Ces deus hanaps fist un mestre! / Arere
Coment son frere eust deceu./ La damoisele fuit ben paé
Coment/ Vous ay amé celement?/ Qe jeo vus ay doné m'amur
commaund qe l'en ly lyast/ E en sa prison li gettast
commaundement; Tant qe le counte enmaladi./ E quant
Comme si ele fust sa soer;/ Plus ne li poet fere companie
communement disoient/ Qe unque si bel chevaler ne veient
Compaignes out a grant pleinté/ Des dameseles del pais/ En
compaignie,/ Car qui s'acompanie od feloun/ Ne porra
compaignie./ Lor corps gisent en Lombardie,/ E Deu fait
compaignie; N'ad home a qui parler,/ Ne a qui poet son
compaignon./ Com il en son lit gisoit,/ Sa bele dame a li
compaignon./ Ne volez unke nul autre amer/ Ne semblant a
compaignon./ Ove sa feme tant demorra/ Qe tot son pel ly
compaignoun/ D'un leon fust assailli,/ Qe li fuist mortel
compaignoun,/ En bone foy saunz treson./ De plur ne se
compaignoun,/ En bone foy saunz tresoun/ A nostre
compaignoun trahir./ Moult parfound getta un sospir,/ E el
compaignoun velt autre trahir./ A tote gent bel responez
complainie./ Ore Deus li soit en aye/ E doigne q'il puisse
companie tant ne quant./ Ceus de la court avoient envie/ De
companie./ Treis anz demena tele vie;/ De ses eses ass[e]z
compayne,/ Q'amerent entre eus tant fierement,/ E de ceo

1053 li ad couché./ Bainer li fist e seigner,/ 1058
 1058 jour sis foiz ou sept;/ Tant com pout l'ad
 804 jeo [ne] le dirrai mes;/ A ceo fui jeo
 692 pur vous ad combatu,/ Son enemi ad
 768 ne quant./ A plus tost qe Amys poeit,/ 855
 885 'Oweyn, a la dame irrez,/ Nostre
 256 pust:/ Ove une soule chambere/ Ala par
 247 damesele ne targa mye:/ De sa dame prist
 253 que furent de sa meismé./ Florie, quant le
 1138 grant mal netté,/ Sitost com porra prist
 435 li sovnyt;/ Tantost a la countesse vynt,/ 58
 amenusast./ Le counte fust de ceo marriz,/ 447
 447 Tant com je puisse aver la vie!'/ Atant
 757 dit q'il prendra congé,/ Quant il eust le
 52 affyné,/ De son seignur le counte ad pris
 756 luy ad counté,/ E puis dit q'il prendra
 865 a soi doncne appelaist,/ E pur Deu li
 171 femme prendre li consaillerent./ Par lour
 779 e tenu cher;/ N'estoet mes estre botiler./
 170 durement l'amerent;/ A femme prendre li
 59 Congé li done mes enviz;/ Mes le
 286 play bien dur vus bateray:/ A mon pere le
 545 al matin al lever./ Chescune nuyt issi se
 926 qu'il sount;/ Si eus fuissent en la cort
 620 Qe pout, quant son cheval li ment?/ Del
 259 Tant parla e taunt demora/ Qe tot son
 741 que fu pensifs,/ Bien entendi en son
 579 E li memes le chivaler arma./ En son
 44 Mestre mareschal sur touz/ Qi fort esteit e
 678 les autres plorerent./ Les chevalers ja
 24 entre eus tant fierement,/ E de ceo se
 1237 E bone fut la compagnie./ Lor
 299 quei vous en aveiez vilenye/ Ne de vostre
 1053 Bainer li fist e seigner,/ Con son
 1100 De son grant mal est il garri,/ Qe en
 25 E de ceo se coroucent sovent./ De
 537 Si par noun les oist nomer./ Ne par
 576 veit,/ Bien quideit qe ceo fuit Amys;/ De
 926 eus veit, qu'il sount;/ Si eus fuissent en la
 319 Ore quideit bien estre vengé/ De vostre
 953 li envoya/ Par son mestre botiler,/ Qe ert
 293 purpensa;/ Le un mal e l'autre mout dota./
 634 de son cheval envie./ Tant fist il par sa
 625 seneschal se leve ataunt,/ Qe dolent est e
 700 me volez marier,/ Jeo ne me deveroy pas
 605 l'autre ne perdit ren./ Amillioun vint par
 643 plus de cent./ Bien pres passa le
 1051 bras li ad apporté./ En sa chambre li ad
 540 quant il se ajouta,/ Leez la dame se
 736 dei jeo bien counter/ Coment il firent a
 949 avoient pité:/ Al counte Amys ount
 760 son pais s'en est alé,/ A Amys ad trestot
 176 Pur heritage la moyté/ Li fuit escheu del
 755 le deverez celer.'/ Tot lour estre luy ad
 381 chivaler leal;/ Si nul vous ad de moy
 852 sout ou quere lour vivre avant./ Tantost
 987 se repeira,/ Al counte de cel hanap
 893 L'enfant a la dame ala,/ Son message li
 970 ...]/ Qe unke lesser le voleit./ Quant le
 52 son pere fuy affyné,/ De son seignur le
 79 cri mercy,/ De une chose soiez garny:/ Le
 1143 garri/ E q'il revint el pais/ E od li le
 949 a folur./ Mes de l'enfant avoient pité:/ Al

Con son corps li fist garder,/ Servir le fist tot a talent/ De
conforté./ La dame sovent a ly est alé,/ Qe li ama molt de fin
confés.'/ Par ceo savoit sir Amillioun/ Qe Amis estoit leal
confundu;/ Ly e vous ad aquité/ Del fait dount fuites encusé
Congé ad pris, si s'en aloit/ En son pays vers s'amye/ Qe
congé de li prendrez./ Hors de ceo pais irroms/ A plus tost
congé de sa mere/ Parler a Amys que ele ama./ Tant parla e
congé,/ E ele tantost li ad doné./ Nomor vous dey la pucele
congé en eust,/ S'a hasté a plus que ele pust:/ Ove une soule
congé,/ En son pais s'en est alé./ Quant la dame aveit oy/ Qe
Congé li ala demaunder/ Qe a son frere velt aler:/ Son enuy
Congé li done mes enviz;/ Mes le conte fist com bon
congé ly dona,/ E un palefroy mounta/ Saunz garsoun e saunz
congé pris,/ E seignurs ove ly desqe a dis,/ En son pais s'en
congé,/ Qe li covient garder sa terre/ Qe nul li fist treson ne
congé,/ Quant il eust le congé pris,/ E seignurs ove ly desqe
conjurast/ Qe illoec morir le lessast,/ E yl en son pais alast
consail se mariat:/ Une gentile femme esposat/ Qe fille d'un
Consail fut fait e sire;/ Quantq'il voleit porreit dire
consaillerent./ Par lour consail se mariat:/ Une gentile
conte fist com bon seignur,/ Destourber ne vout son honur
conteray/ Qe vers li estes e moy forfet,/ E serrés des chivals
contint/ Desques Amyllioun a meson vynt./ Ore lerrom de
conuz,/ A grant honur serreint receuz./ Pres [de] la porte se
cop parlent durement:/ Dist l'un a l'autre qe le chivaler/ Ses
corage discovery:/ E dit pur l'amur de luy/ Morust, s'il
corage/ Fere ne li velt hountage/ De son compaignoun trahir
corage fust bien paié/ Quant ad le chivaler si bien armé
coragous./ De cel mester longtemps servirent/ E par tot
corerent,/ Mes le counte vient premer;/ Atant se fist
coroucent sovent./ De cors de visage bien ressembleyent
corps gisent en Lombardie,/ E Deu fait pur eus grant vertuz
corps hontage./ Jeo preng Deu en tesmoignage:/ Si ceo poet
corps li fist garder,/ Servir le fist tot a talent/ De viande e de
corps ne en face/ De maladi ne appareust trace./ En Amis ne
cors de visage bien ressembleyent:/ Si de une robe vestu
cors ne par fasçon./ Par riens, si par la robe noun./ Amis
cors ressemblast e de vis./ Bons armes demaunda/ E li memes
cort conuz,/ A grant honur serreint receuz./ Pres [de] la porte
corteis botiler;/ Tot lour estre fist espier./ Qant vint le
corteis chevaler./ De chescun mes qe l'em li porta/ La moyté
Corteisement ly respundi:/ 'Damoisel, pur Deu mercy
cortesie/ Meuz a pié l'estut ferir/ Que lessir son chival
corucé/ Quant combatre deit a pié;/ A plus tost q'il pout se
corucer.'/ Dount fut comaundé al baronage/ Qe eus feussent
corucer,/ Par ire tret le brank d'asser;/ Le seneschal ferir ala
costé./ Mes la char n'ad pas toché./ Amyllioun, qe tant fu de
couché./ Bainer li fist e seigner,/ Con son corps li fist
coucha; Sa espeie nue entre eus posa./ La dame de ceo
coucher/ La dame ad son drew acolé/ E par amour sovent
counté./ Cil, sitost com mangea,/ Son premer mes li envoya
counté/ Coment eust finé la bataille/ E coment eust fait la
counté./ De beauté avoient le pris/ Sour touz les dames du pays
counté,/ E puis dit q'il prendra congé,/ Quant il eust le congé
counté/ For que dreit a verité,/ Moult bien me deffenderay
counta a son seignur,/ E il dit: 'C'est mal dolur/ Quant
counta/ Coment a soen ressembleit./ E le counte moult
counta./ Ele li fist un asne aver,/ E pus sus les seintz jurer
counte ad pres mangé,/ Son botiler ad appellé:/ 'Pernez ma
counte ad pris congé,/ Qe li covient garder sa terre/ Qe nul li
counte ad seignz un seneschal/ Qe mout est feloun e desleal
counte Amis,/ Tel ad el quer dolur/ Qe unque femme ne out
counte Amys ount counté./ Cil, sitost com mangea,/ Son

919 eus vindrent el pais/ Ou sojorna le
 689 com osa,/ Car son pere moult dota./ Le
 1038 Si le occiez, vous fetes pecché.' / Quant le
 149 aler,/ Ala e fist son mester;/ Servi le
 987 un mestre!'/ Arere tantost se repeira,/ Al
 368 en fu!'/ La dame ne sout quoy dire./ Le
 67 li jura./ Amyllioun ly mercya./ Atant del
 733 Dont les menestrauz furent feffez./ Le
 785 fist tot son commaundement;/ Tant qe le
 7 en escrit le trovay;/ Q'en la court un
 173 Une gentile femme esposat/ Qe fille d'un
 57 n'i entrast/ Ne ses droitz amenusast./ Le
 398 Le seneschal ad taunz trové/ Ke le
 330 tot a hounte:/ Acounté est tot lor oeuvre al
 406 at tort./ Nul ne oseit pur li parler,/ E le
 989 counta/ Coment a soen ressembleit./ E le
 150 Servi le counte com il soleyt,/ E le
 1221 Chescun jour sa liveré,/ Coment le
 419 Ne pur vivere ne pur morir;/ Devant le
 1090 fust,/ Sovent Deu pur li requist./ Atant le
 825 Estre un enfant q'il out norri./ Fiz de un
 729 ben paé/ Quant ad baroun a volonté./ Le
 679 Les chevalers ja corerent,/ Mes le
 753 espoir failli avez./ A vous le peus bien
 735 e les destrers./ Ore vus dei jeo bien
 1166 venue ne saveint mie./ Quant la dame oi
 182 Amyllioun ester,/ E de sir Amys vus voil
 315 le seneschal./ A son seignur le ala
 195 En une realme ne out plus bele./ Deus
 1160 destiné,/ Car un jour par matyné/ Les deus
 434 a./ De son frere li soynt;/ Tantost a la
 775 De grant terres est il seignur,/ De .iii.
 393 Ly chivalers e la meisné./ Li un
 206 e dis,/ Qe touz fesoient sa volonté;/ De
 611 fort fu/ Qe de la mort l'ad deffendu,/ Qe le
 641 tost abati les colurs./ Sur le senestre le
 659 coup tres bien apparist:/ La healme del
 623 armes sout trop bien porter,/ Mes son
 646 Amyllioun, qe tant fu de vigour,/ Meint
 638 Le seneschal, qe nel pout amer,/ Un grant
 655 anuié/ Qe la bataille ad tant duré;/ Un
 662 Ore poet trop attendre:/ S'il ne sache le
 658 Mes le seneschal primes li ferist,/ Qe son
 956 li porta/ La moyté lor envoia./ Amis une
 214 son mester;/ De un drap vestu esteit,/ La
 983 E l'autre la vist, si s'esmerveilla./ La
 981 Le povres, qe mesel fuit en vein,/ Prist sa
 959 Car Amillioun, qe tant amoyt,/ Cele
 977 En son esquel le vin versez,/ E ma
 972 Son botiler ad appellé:/ 'Pernez ma
 179 les dames du pays./ Bien furent entre eux
 601 seneschal li referri;/ Lour launces ount as
 608 seneschal ferir ala,/ En le healme grant
 21 De companie tant ne quant./ Ceus de la
 391 E la verité provereit./ Est veus tote la
 920 Ou sojorna le counte Amys/ Qe noble
 228 E q'il fuit tant bon chivaler/ Q'en la
 508 icy/ Od vous desoremés demorront;/ A ma
 114 Quant Amis de palmisoun levoit,/ Vers la
 7 Sicom en escrit le trovay;/ Q'en la
 53 seignur le counte ad pris congé,/ Qe li
 907 donet./ Einz ne pount plus entendre/ Q'il
 327 vilainie./ Le seneschal, quant sout la

counte Amys/ Qe noble court illoeq tenoit/ E moult grant
counte atant l'ad appellé:/ 'Dy moy,' fait il, 'fille bele
counte ceo oist,/ Tost estendu a terre chaist:/ Bate ses mains
counte com il soleyt,/ E le counte mout li amoyt:/ Od sei le
counte de cel hanap counta/ Coment a soen ressembleit./ E le
counte de mal ard e d'yre,/ Devint plus noyr ke carboun
counte departi,/ Si ala parler a son amy/ Amys, q'estoit son
counte dona a ses esquiers/ Les chivals e les destrers./ Ore
counte enmaladi./ E quant longtemps out langui,/ Morust e a
counte estoient/ E des armes li servoient./ Moult furent de
counte estoit,/ E pere e mere perdu avoit;/ Pur heritage la
counte fust de ceo marriz,/ Congé li done mes enviz;/ Mes le
counte fut bien payé./ Tant fuit li seneschal doté/ Qe Amys
counte./ Li quens fu de ire enflé./ Ne parla mot une luwé
counte li velt venger./ Quant ne pout trover plevine
counte moult esmerveileit,/ De Amillioun doncé li sovent
counte mout li amoyt:/ Od sei le tint plus privé/ Qe nul autre
counte out comaundé./ Un an vesqui e un jour;/ A drein
counte se genula/ E le chivaler demaunda:/ En hostage pur li
counte s'est repairé./ En une chambre est entré/ Ou les deus
counte, son parent,/ Od li tint fer[m]ement,/ E dit que li ne
counte tynt feste plenere/ Une symaine tot entere;/ Mout i
counte vient premer;/ Atant se fist desarmer./ S'il eust plaie
counter,/ Car bien le deverez celer./ Tot lour estre luy ad
counter/ Coment il firent a coucher:/ La dame ad son dreu
counter,/ En une chaumbre se ala muscer;/ Meuz velt estre
counter,/ Qe fuit demoré od son seygnur/ E meuz li servi de
counter/ Sitost com il poet espleiter./ Le seneschal fut molt
countes la desirent,/ E esposer la volirent,/ Mes ele a
countes sunt venuz/ E a la porte descenduz,/ Qe nul fut
countesse vynt,/ Congé li ala demaunder/ Qe a son frere velt
countez e demy,/ Si tost come li quens est fini./ Ore est amé
countre l'autre tendi son gant,/ E li quens [les] resceust atant
countredit n'en ad parlé./ Un jour par aventure avint/ Qe li
coup ala descendant/ Si chiet sur l'arsoun devant;/ Trestut
coup descent,/ Mailles trenchent plus de cent./ Bien pres
coup enbarra,/ Qe Amillioun fort estona./ Ore poet trop
coup est trop pesant./ Le seneschal se leve ataunt,/ Qe dolent
coup li dona ceo jour./ La bataille ad bien duré/ Desque noune
coup li vint doner/ Amount el heaulme peint de flurs,/ Qe tost
coup li voudra ja doner/ Qe li deit par dreit grever./ Mes le
coup rendre,/ Li autre s'en irra gabbant./ E sire Amillioun
coup tres bien apparist:/ La healme del coup enbarra,/ Qe
coupe avoit/ Ke mout ferement amoit,/ Car Amillioun, qe
coupe devant li quens teneit./ Mout fu beals e aligné,/ Des
coupe durment regarda;/ Pensa cil: 'Coment poet estre?/ Ces
coupe hors de son sain,/ E l'autre la vist, si s'esmerveilla
coupe li donait./ Amillioun mesmes avoit le per,/ Qe ne vont
coupe me reportez!'/ E celi fist le comaundement/ E vint e
coupe od tot le vin,/ Si l'aportez a ceo frarin,/ Au povres qe
couplés/ De parage e de beautez./ Ore lerray de Amyllioun
coups brusé/ E si sunt outrepassé./ A cel encoultre tant firent
coups dona./ Mes le healme tant fort fu/ Qe de la mort l'ad
court avoient envie/ De lour estre e de lour compayne
court ensemblé,/ Ly chivalers e la meisné./ Li un countre
court illoeq tenoit/ E moult grant ben fesoit./ La povre gent
court n'out son per./ La pucele en prist tendrour/ Qe tant vers
court od vous irrount./ E quant nous averoms robes chaungé
court sei retorneyt;/ Sitost com en la porte entra,/ Li
court un counte estoient/ E des armes li servoient./ Moult
covient garder sa terre/ Qe nul li fist treson ne gere,/ Ne qe
covient lor asne vendre/ Pur cink souz e diz e maille;/ De ceo
covine/ Entre Amis e la meschine,/ L'endemain vint tot a

459 En un grant boys est alé./ A force ly
 139 saunz seurté./ Mes de taunt me poez
 108 chaeuz a terre;/ N'est home qj me vousist
 534 Les deuz furent issi d'un senblant/ Ne
 1013 li oist nomer,/ De dolur pout son quer
 77 servy avom./ Pur vostre honur vus
 1030 Qe son seignur deust morir./ En haut
 104 Atant se sunt entrebeyssés,/ Plurent e
 1175 esquiers,/ Touz devant li venerent;/ Merci
 1117 Donq̄e comence pur fere joie:/ 'Jhesu
 1032 Pur icel Deu qe onqe ne menti/ E qj en
 326 De autre chose ne dirra[i] mie;/ Ne
 772 sa vie./ Ore est mout en astage,/ Car
 528 son frere!/ Amys remaint od la meisné,/
 1070 trop bien garret/ S'il en fist mettre
 933 Des povres les estres e les maneres/ E les
 911 ceo lour fount fere/ Sur deus roes une
 503 soye Amys./ Jeo espoir par la grace de
 798 Com il en son lit gisoit,/ Sa bele
 737 counter/ Coment il firent a coucher:/ La
 1128 ele pur Amyllioun./ Amys donq̄e ove la
 892 Qe jeo puisse chivacher./' L'enfant a la
 1140 En son pais s'en est alé./ Quant la
 189 Amys ne l'aparce[u]st mye./ Li quens une
 1110 Amillioun,/ Coment il out sa garisoun./ '
 542 coucha;/ Sa espeie nue entre eus posa./ La
 444 seignur/ Pur vous ad ma mort juré./' '
 1186 fist relever,/ Bel la comence a chastier:/ '
 355 entrat,/ La dame sur un lit trovat./ '
 1213 tote sa gent/ Outre tote la cité;/ La fu la
 554 E quant il ne pout estre trové,/ La
 884 li dist sire Amyllioun:/ 'Oweyn, a la
 803 nous,/ Sire, purquei le feistes vous?'/ '
 685 li vount touz beiser:/ Sur touz li fist la
 746 un sospir,/ E el suspir geint forment./ La
 428 faille,/ Qe vostre fille fust destiné! /' La
 811 devint/ Qe checun pur mesel li tint./ La
 417 hardi/ Qe oseit un mot parler pur ly./ La
 367 e puis pendu,/ E la pute arse en fu!'/ La
 543 La dame de ceo s'enmerveilla./ A la
 1166 De lour venue ne saveint mie./ Quant la
 846 plus viveit,/ Tant plus leid deveneit./ La
 247 E la damesele ne targa mye:/ De sa
 791 mere,/ Il ne eust soer ne frere/ For soul la
 191 Q'il come sa vie ameit./ Une fille avoit la
 531 voir/ Qe ceo fuit lour dreit seignur./ E la
 788 rendist s'alme;/ E tost après morust la
 829 guerpir/ Ne pur vivre ne pur morir./ La
 1112 Mes vous desconforteray./ Sachez,
 540 noun./ Amis, quant il se ajouta,/ Leez la
 1114 sa saunté/ Voz deus fiz ai estranglé.' / La
 1105 fist vene/ E a mouster puis li mena./ La
 1197 forfait,/ Qe vivre deusse bien du mien./
 1059 ou sept;/ Tant com pout l'ad conforté./ La
 354 vileins.' Atant en la chambre entrat,/ La
 1088 noun/ A son frere doine garisoun./ La
 572 Armes me fetes tost bailler/ Pur cestes
 178 De beauté avoit le pris/ Sour touz les
 1216 issir;/ La demora desqe al morir./ Autre
 566 feu q'il vist fut grantment effraé/ E de les
 569 Dount vous sert tot ceo fu/ Qe pur les
 246 sire Amis,/ E il remist pur maladie./ E la
 203 Compagnes out a grant plainté/ Des

covynt dormir,/ Aviz li fust qu'il deust morir./ Desouz un
crere/ Qe, si vous eiez de moy affere,/ Jeol vous fray od
crere/ Si jeo deisse la moyté/ Del doel q'entre eus ount
crere it home ja si parcevant/ Qe l'un de l'autre sout deviser
crever: 'Sire,' dit, 'par la foy qe vus devez/ A Amillioun, qe
cri mercy,/ De une chose soiez garny:/ Le counte ad seignz un
cria: 'Mercy, mercy! Pur icel Deu qe onqe ne menti/ E qj en
crient de pité./ Suz cel n'ad home que la fust/ Qe dolur de la
crier touz penserent./ Son maltaalent lour pardona,/ Od sei les
Crist, le fiz seinte Marie,/ Si li plest, par son poer/ Nous
croiz suffri passiou,/ C'est mi sires, sire Amillioun!/ Sire
croy pas q'il y avoit vilaynie./ Le seneschal, quant sout la
cru li est par mariage/ Grant seignurie e grant honur:/ De
Cum li sire e envoyé:/ E quiderount trestouz pur voir/ Qe ceo
cure/ [Des] deus fiz de sa gendrure:/ Si les enfantz tuast/ E
custumes de les terres./ Les gentils homes, qe alere[n]t
cyvere/ Qu'il pout sei meismes enchacer./ Amillion fist
Dé/ Qe del feloun serrom vengé,/ Qe vus quideit aver hony
dame a li disoit:/ 'Me diez par amour de moy —/ Car jeo vus
dame ad son drew acolé/ E par amour sovent baisé,/ E en
dame ala/ En la chambre ou les enfaunz lessa./ Les enfantz
dame ala,/ Son message li counta./ Ele li fist un asne aver,/ E
dame aveit oy/ Qe son seignur estoit garri/ E q'il revint el
dame aveit/ Q'il come sa vie ameit./ Une fille avoit la dame
Dame, certes, jeo vus dirray,/ Mes vous desconforteray
dame de ceo s'enmerveilla./ A la dame ne voleit parler
Dame, dist il, par ma lealté,/ Pur ma defaute ne murrez mie
Dame, dit il, 'lessez ester!'/ Ne deussez tel doil demener/ Pur
Dame, dit il, 'ne savez/ Quele fille vus avez! Ele est ja
dame durement lié./ Jamés de illoec ne pout issir;/ La demora
dame fuit pris e durement lié,/ E la pucele ensement./ Grant
dame irrez,/ Nostre congé de li prendrez./ Hors de ceo pais
Dame, jeo [ne] le dirrai mes;/ A ceo fui jeo confés.' / Par ceo
dame joie,/ E la pucele totevoie/ Semblant li fist tant com
dame l'acola tendrement,/ Si li demaunda quoi pensoit/ E
dame lermist pur pité,/ Prist Amis en plevine;/ Moult fu
dame li tint trop en despit:/ Ne voleit entrer en son lit,/ Ne
dame ne se pout tenir/ Ne pur vivere ne pur morir;/ Devant le
dame ne sout quoy dire./ Le counte de mal ard e d'yre,/ Devint
dame ne voleit parler,/ Desques al matin al lever./ Chescune
dame oi counter,/ En une chaumbre se ala muscer;/ Meuz velt
dame par tant defendi/ Qe nul ne fut si hardi/ Qe de rien li
dame prist congé,/ E ele tantost li ad doné./ Nomre vous dey
dame qe Amis aveit,/ Pur ceo les terres recevoit./ Ore vodrom
dame/ Q'ele amoit come s'alme./ Mout fut gentile la
dame, quant li veu aveit,/ Qe Amillioun fuit bien quideit./ Les
dame./ Quant mortz furent pere e mere,/ Il ne eust soer ne
dame, que mout est ennuyé,/ Ambedeus s'est hors getté;/ E le
dame, que pur sa saunté/ Voz deus fiz ai estranglé.' / La dame
dame se coucha;/ Sa espeie nue entre eus posa./ La dame de
dame ses meins a Deu tendi/ E mout graces li rendi,/ Donq̄e
dame, sitost com vew li a,/ Pres de joie se palma;/ Vint al
Dame, sovenez vous del bien,/ Coment a manger me
dame sovent a ly est alé,/ Qe li ama molt de fin quer/ Comme
dame sur un lit trovat./ 'Dame,' dit il, 'ne savez/ Quele fille
dame vint, qe bone fust,/ Sovent Deu pur li requist./ Atant le
dames deliverer!/ Jeo deffendray nostre dreit.' / Le quens
dames du pays./ Bien furent entre eux couplés/ De parage e de
dames ensample averont/ Coment iour seignurs lour
dames eust grant pité./ 'Sire,' dit il, 'jeo suy venu!'/ Dount
dames fait esteit?/ Trop vilaine roste serreit!/ Armes me fetes
damesele ne targa mye:/ De sa dame prist congé,/ E ele
dameseles del pais/ En sa chambre noef e dis,/ Qe touz

226 Del botiler qe tant ert beaus/ E tres gentil
 294 mout dota./ Corteisement ly respundi:/ ‘
 224 Est venuz la novele/ En la chaumbre a la
 716 di certeine novele:/ Si vous esposez la
 727 aparceu/ Coment son frere eust deceu./ La
 193 amoit come s'alme./ Mout fut gentile la
 201 le pere,/ E mout l'ama auxi la mere./ La
 233 Q'ele ne pout boyvre ne manger./ Les
 1 Qi voet oyr chaunzon
 117 Li seneschal li encontra/ Qe semlaunt
 144 honur.’/ Li seneschal ataunt se tint,/ Qe
 859 Jeo solei aver grant tresour,/ Estre servi
 606 vint par corucer,/ Par ire tret le brank
 238 Ele comaunda qe eus se teysent/ E
 591 sunt orguillous e fiers./ Ne avera mester
 990 E le counte moult esmerveileit,/ Amyllioun a meson vynt./ Ore lerrom
 547 Pur ceo les terres recevoit./ Ore vodrom
 793 delit:/ Par grant duçour s'entrebeiserent./
 181 De parage e de beautez./ Ore lerray
 39 il voleint;/ Hautement lour feste teneint./
 597 launce enpoignal/ Parmi l'escu peint
 325 De amour parlerent e juwerent./
 11 Gentils e de grant parage:/ Fiz estoient
 177 la moyté/ Li fuit escheu del counté./
 180 furent entre eux couplés/ De parage e
 903 tant lour vint sur cherté/ De pain, vin e
 1055 Servir le fist tot a talent/ De viande e
 309 nee.’/ Tant li ad dit e parlé/ Ore sunt a un
 987 Arere tantost se repeira,/ Al counte
 45 sur touz/ Qi fort esteit e coragous./
 1076 pessoun./ Quant veu avoit l'avisioun/ E
 642 le coup descent,/ Mailles trenchent plus
 1048 de pité./ Amis s'est tot adrescé./ Plus
 909 asne vendre/ Pur cink souz e diz e maille;/
 57 Ne ses droitz amenusast./ Le counte fust
 886 irrez,/ Nostre congé de li prendrez./ Hors
 24 Q'amerent entre eus tant fierement,/ E
 542 Sa espeie nue entre eus posa./ La dame
 718 Einz qe soint .iii. anz passez,/ après
 252 est Mirabele,/ Mes Florie fust apelé/
 954 mestre botiler,/ Qe ert corteis chevaler./
 20 As autres ne fesoient unke semblaunt/
 25 E de ceo se coroucent sovent./
 576 veit,/ Bien quideit qe ceo fuit Amys;/
 206 noef e dis,/ Qe touz fesoient sa volonté;/
 503 jeo soye Amys./ Jeo espoir par la grace
 5 parler —/ En pees se tienge pur escoter!/ avenu./ Quant Amyllioun li oist nomer,/ 1013
 1207 averez tant com vus viverez;/ En noun
 1096 Ambedeus ad le chef trenché;/ E le sanc
 939 vestu,/ Gentil home ressemblereit./ Un
 16 de une nature,/ Angeles ressembleient
 862 Qe de ma vie est grant pité./ Si jeo
 1060 dame sovent a ly est alé,/ Qe li ama molt
 639 li vint doner/ Amount el heaulme peint
 387 en son poing tint,/ E tendist en noun
 98 Lessez orgoil e envie,/ Si vous gardez
 876 se claiement cheitif e las;/ Plein[en]t
 2 Qi voet oyr chaunzon d'amur,/ De leauté e
 10 furent de grant vassalage,/ Gentils e
 774 mariage/ Grant seignurie e grant honur:/
 9 E des armes li servoient./ Moult furent
 dameyseals,/ E q'il fuit tant bon chivaler/ Q'en la court
 Damoisel, pur Deu mercy,/ Vostre amy suy e serray,/ E
 damoisele/ Del botiler qe tant ert beaus/ E tres gentil
 damoisele,/ Einz qe soint .iii. anz passez,/ après de ceste
 damoisele fuit ben paé/ Quant ad baroun a volunté./ Le
 damoysel,/ En une realme ne out plus bele./ Deus countes
 damoysel fuit bien gardé:/ Compaignes out a grant pleinté
 damoysel qe od li erent/ Purquei ceo fuy ly demaunderent
 d'amur,/ De leauté e de grant douçour —/ De troeffle ne voil
 d'amur li fesoyt,/ Mes de quer poy li ameit./ ‘Si[re] Amis,’
 d'anguisse pale devint;/ Purpense sei q'il se vengereit
 d'argent e d'or,/ Ore suy tant demené/ Qe de ma vie est grant
 d'asser;/ Le seneschal ferir ala,/ En le healme grant coups
 d'autre chose s'enveysent./ En cel langur demora/ Tant que li
 de acord;/ L'un hiet l'autre desq'a la mort./ Nul deigne a autre
 De Amillioun doneq; li sovent:/ ‘Bien sai’, fait il, ‘verraiment
 de Amis ester;/ De sir Amillioun voloms parler./ Le jour vint
 de Amis lesser,/ Qe assez ad dount il ad mester./ Vus dirrai de
 De amour parlerent e juwerent./ De autre chose ne dirra[i] mie
 de Amyllioun ester,/ E de sir Amys vus voil counter,/ Qe fuit
 De Amys fist son botiler,/ Car moult a ly puet affyer
 de asur,/ Mes le hauberc fuist fort e dur/ Qe de mal l'ad garri
 De autre chose ne dirra[i] mie,/ Ne croy pas q'il y avoit
 de barons,/ Si vous dirroy bien lor nouns:/ Li un estoit Amys
 De beauté avoit le pris/ Sour touz les dames du pays./ Bien
 de beautez./ Ore lerray de Amyllioun ester,/ E de sir Amys vus
 de blé./ Qe donke ne poient home trover/ Qe rien lour voille
 de boivre ensement./ E li memes a li vet/ Chescun jour sis
 de cel affere,/ Dount devisent la menere/ Coment e quant
 de cel hanap counta/ Coment a soen ressembleit./ E le counte
 De cel mester longtemps servirent/ E par tot bien loé furent
 de cel sounge resperi,/ ‘A, Deu!’ dit il, ‘qe onqe ne menti
 de cent./ Bien pres passa le costé./ Mes la char n'ad pas toché
 de cent foiz li ad beisé,/ Tot ensi com ert de tay levé./ Entre
 De ceo acateront lour vitaille./ Estre ceo lour fount fere/ Sur
 de ceo marriz,/ Congé li done mes enviz;/ Mes le conte fist
 de ceo pais irroms/ A plus tost que nous pooms,/ Mes jeo ne
 de ceo se coroucent sovent./ De cors de visage bien
 de ceo s'enmerveilla./ A la dame ne voleit parler,/ Desques al
 de ceste leprouz serrez./ Avant mes unke si laid ne fust/ Home
 De ceux qe furent de sa meisné./ Florie, quant le congé en eust
 De chescun mes qe l'em li porta/ La moyté lor envoia./ Amis
 De companie tant ne quant./ Ceus de la court avoient envie/ De
 De cors de visage bien ressembleyent:/ Si de une robe vestu
 De cors resemblast e de vis./ Bons armes demaunda/ E li
 De countredit n'en ad parlé./ Un jour par aventure avint/ Qe li
 de Dé/ Qe del feloun serrrom vengé,/ Qe vus quideit aver hony
 De deus juvenceals vous dirray,/ Sicom en escrit le trovay
 De dolur pout son quer crever:/ ‘Sire,’ dit, ‘par la foy qe vus
 de dower le tenez!'/ Donke fist fere un turel:/ Petit fure mes
 de eux ad quillé/ E Amillioun dedeinz ad envelopé./ Sitost
 de eux ly appeleyt,/ Demaudast s'il vout servir./ E il getta un
 de faiture./ Taunt s'amerent fierement/ Que freres se firent par
 de feim morir deveray,/ De mei memes force ne fray.’
 de fin quer/ Comme si ele fust sa soer;/ Plus ne li poet fere
 de flurs,/ Qe tost abati les colurs./ Sur le senestre le coup
 de gage/ Com home de grant vasselage,/ E dit que od li
 de glotonie!/ Amez bien vostre seignur,/ Ne soffrez q'il eit
 de grant chivalrie/ Le honur e la seignurie/ Qe sire Amillioun
 de grant douçour —/ De troeffle ne voil jeo parler —/ En pees
 de grant parage;/ Fiz estoient de barons,/ Si vous dirroy bien
 De grant terres est il seignur,/ De .iii. countez e demy,/ Si
 de grant vassalage,/ Gentils e de grant parage;/ Fiz estoient

388 E tendist en noun de gage/ Com home
 775 honur./ De grant terres est il seignur,/ cité;/ La fu la dame durement lié./ Jamés
 1214 est tot lor oevre al conte./ Li quens fu
 331 La dame, sitost com vew li a,/ Pres
 1106 demoré od son seygnur/ E meuz li servi
 184 De companie tant ne quant./ Ceus
 21 plus noyr ke carboun./ Tost sailli hors
 370 serrount,/ Qe trestot oy un vassal/
 314 dona./ Mes le healme tant fort fu/ Qe
 610 Suz cel n'ad home que la fust/ Qe dolur
 106 A grant honur serreint receuz./ Pres [
 928 ele pas quoi ele poet fere;/ Si se met hors
 1153 Sire Amylloun e son enfant,/ A chef
 833 Qe li quens une feste tynt/ Par un jour
 209 home el mound qe les avisast/ Qe l'un
 28 qe tant de l'overaigne seust/ Qe l'un
 967 Ne crerreit home ja si parcevant/ Qe l'un
 535 Qi voet oyr chaunzon d'amur,/ seignur,/ Touz li tenoient a folur./ Mes
 2 Qe ore est devencu./ Le noun vous dirray
 948 Del feu q'il vist fut grantment effraé/ E
 880 perdu eussez,/ Jamés tel autre ne averez./
 566 les estres e les maneres/ E les custumes
 1122 jurer/ Qe mes en le pais [ne] vendreit/
 933 E dit pur l'amur de huy/ Morust, s'il n'eust
 897 'Oweyn, a la dame irrez,/ Nostre congé
 1009 Amillioun doncne maundereit/ E la verité
 1179 Donque fist sa femme demaunder,/ Car
 342 jours avera reprover/ Si jeo ne me puisse
 1211 fut mes molt bel,/ Si fut fort durement;/
 915 dedeinz cocher,/ A plus q'il pout li eysa,/ de la court avoient envie/ De lour estre e
 22 ne quant./ Ceus de la court avoient envie/
 22 chaungerent;/ Donque ne fuit aparcevant/
 766 ne quant./ La meisnee fust endormie;/
 1165 porte descenduz,/ Qe nul fut aparcevant/
 966 une mayn estoient,/ N'est home qe tant
 260 son corage discovery:/ E dit pur l'amur
 262 s'il n'eust de li pité/ E que ele fust
 263 de li pité/ E que ele fust de ly amé,/ Que si
 413 ou vie, ne sout ke dire./ Plusors aveient
 513 lour seignur./ Si vous requer par amur/ Qe
 861 d'argent e d'or,/ Ore suy tant demené/ Qe
 160 od ly ja si privé/ Q'il n'out dis chivalers
 368 La dame ne sout quoy dire./ Le counte
 364 Si avra il, si jeo vive tant;/ Ne li ert nul
 599 asur,/ Mes le hauberc fust forte d'ur/ Qe
 1101 mal est il garri,/ Qe en corps ne en face/
 863 grant pité./ Si jeo de feim morir deveray,/ que mal n'en a:/ Plus est sain qe person
 683 deus a nostre talent/ Ne[!]I savera home
 307 Quelle fille vus avez!/ Ele est ja femme
 357 veignant!! De vous suy ore alé pensant/ E
 121 vindrent del deys,/ Qe li estoient
 999 sovent:/ 'Bien sai', fait il, 'verraiment,/ assemblé,/ La pucele fut amené/ A l'huis
 992 de taunt me poez crere/ Qe, si vous eiez
 709 encheson ne troesse/ Qe illoke est autre
 140 bele dame a li disoit:/ 'Me diez par amour
 517 suy vostre chivaler leal;/ Si nul vous ad
 799 Si ceo poet estre aparceu/ Qe
 381 Qe mout est feloun e desleal/ E si est
 302 de grant vasselage,/ E dit que od li combat[er]eit/ E la verité
 81 de .iii. countez e demy,/ Si tost come li quens est fini./ Ore
 de illoec ne pout issir,/ La demora desqe al morir./ Autre
 de ire enflé./ Ne parla mot une luwé./ 'Adonke,' dit il, 'Deu
 de joie se palma;/ Vint al seignur, si li demaunda/ Si ceo fuist
 de jour en jour./ Taunz com Amis meuz li serveyt,/ Le
 de la court avoient envie/ De lour estre e de lour compayne
 de la mayson,/ Si encontrra le botiler./ A li soleit trop beal
 De la meisnee le seneschal./ A son seignur le ala counter
 de la mort l'ad deffendu,/ Qe le coup ala descendant/ Si chiet
 de la pité n'en eust./ Paumez sunt chaeuz a terre;/ N'est home
 de] la porte se souint mis,/ E l'enfant, qe bien fust apris/ E
 de la terre,/ Ne la savera plus aider./ Donqe comencea a
 de la vile a un bordel/ Illoc lour fist aver hostel./ O, misires
 de l'Ascensioun;/ La fuit assemblé maint baroun./ Est veuz li
 de l'autre desceverast./ E si furent de une estature,/ De une
 de l'autre deviser deust./ [...] / Qe unke lesser le voleit
 de l'autre sout deviser,/ Si par noun les oist nomer./ Ne par
 De leauté e de grant douçour —/ De troeffle ne voil jeo parler
 de l'enfant avoient pité:/ Al counte Amys ount counté./ Cil
 de l'enfant:/ La gent l'appelent Amorant,/ Mes Uwein fuit
 de les dames eust grant pité./ 'Sire,' dit il, 'jeo suy venu
 De les enfaunz plus n'empsons;/ Si Deu velt, bien lé
 de les terres./ Les gentils homes, qe alere[n]t juaunt/ E les
 De l'hure qe issi serreit./ Hors del pais s'en vont;/ Jamés
 de li pité/ E que ele fust de ly amé,/ Que si de ly amour ne avoit
 de li prendrez./ Hors de ceo pais irroms/ A plus tost que nous
 de li querreit/ Qe son hanap out perdu/ E coment est avenu
 de li se veut venger./ Tant fuit quise q'ele fut trové/ Mes de
 de li venger./ Est ceo voir, sire seneschal?/ Jeo quide que
 De loinz le virent tote sa gent/ Outre tote la cité;/ La fu la
 De long en long li enmena./ Par la terre tant alerent/ Qe feym
 de lour compayne,/ Q'amerent entre eus tant fierement,/ E de
 De lour estre e de lour compayne,/ Q'amerent entre eus tant
 De lour estre tant ne quant./ A plus tost qe Amys poeit
 De lour venue ne saveint mie./ Quant la dame oi counter,/ En
 De lour venue tant ne quant./ La meisnee fust endormie;/ De
 de l'overaigne seust/ Qe l'un de l'autre deviser deust./ [
 de luy/ Morust, s'il n'eust de li pité/ E que ele fust de ly amé
 de ly amé,/ Que si de ly amour ne avoit,/ Jamés home ne
 de ly amour ne avoit,/ Jamés home ne amereit./ Amis, quant
 de ly pité,/ Mes li sire fust tant yrré/ Qe la n'out home taunt
 de ma femme facez atant,/ En fet e en semblant,/ Come jeo
 de ma vie est grant pité./ Si jeo de feim morir deveray,/ De
 de maisné./ Tant fuit de sa gent amé,/ E lour ad trestouz doné
 de mal ard e d'yre,/ Devint plus noyr ke carboun./ Tost sailli
 de mal garrant./ Tut ert detret e puis pendu,/ E la pute arse en
 de mal l'ad garri./ Le seneschal li referri;/ Lour launces ount
 De maladi ne appareust trace./ En Amis ne out qe regeir,/ Une
 De mei memes force ne fray./ L'enfant a soi doncne appelaist
 de mer./ Atant li vount touz beiser;/ Sur touz li fist la dame
 de mere nee./ Tant li ad dit e parlé/ Ore sunt a un de cel affere
 de mester,/ E ceo ad fait nostre botiler./ Pur nostre bien
 de misire Amillioun/ Qi a vous ert leal compaignon./ Ne
 de molt prés:/ Enresoner li voleient,/ Mes pur poer qe eus
 De mon frere l'ad emblé./ Qe cher serra achaté! / Outre la table
 de moster./ Quant Amillioun deust son noun nomer,/ Si se
 de moy affere,/ Jeol vous fray od graunt douçour,/ Sauve
 de moy;/ Car jeo vous dy en bone foy/ Qe ele [est] mout
 de moy —/ Car jeo vus aime en bone fey —/ Ta espee nue
 de moy counté/ For que dreit a verité,/ Moult bien me
 de moy feiszez vostre dru,/ Ne serrioms nous en fyn honye?/
 de mult grant parenté;/ Pur ceo est il le plus doté./ Unke ne

494 Donke li dit sir Amillioun/ Paroles
 349 leal chevaler le voil prover,/ E cil que
 456 Touz les noitz issi chevaucha,/ Qe onke
 903 va querant,/ Mes tant lour vint sur cherté/
 113 remeint tristes e pensifs./ Quant Amis
 180 du pays./ Bien furent entre eux couplés/
 1046 Que touz biens li fesoit./ Trestouz plurent
 104 se sunt entrebeysés,/ Plurent e crient
 71 En bone foy saunz treson./
 1183 Sitost com vist son seignur./ Ele pauma
 1181 Tant fuit quise q'ele fut trové/ Mes
 696 S'il vous velt esposer,/ Li porriez
 118 Que semlaunt d'amur li fesoit,/ Mes
 269 descouvrir/ Sa volonté e son desir./
 848 par tant defendi/ Qe nul ne fut si hardi/ Qe
 650 fist moult bien,/ E sire Amillioun ne dota
 222 ne vist./ Touz ceus qe en la sale estoient/
 247 maladie./ E la damesele ne targa mye:/
 89 vus serra il fort enemy./ Gardez vus
 1071 S'il en fist mettre cure/ [Des] deus fiz
 161 n'out dis chivalers de maisné./ Tant fuit
 64 Maundast a ly hastivement,/ E il od force
 252 Mes Florie fust apelé/ De ceux qe furent
 152 Od sei le tint plus privé/ Qe nul autre
 256 Ove une soule chambre/ Ala par congé
 1227 puis femme ne vout aver;/ Nul evr out
 155 Quant vint a sa regioun,/ La gent qe
 1064 companie./ Treis anz demena tele vie;/
 1094 eux entreacolerent./ Le pere [n']jeust
 548 meson vynt./ Ore lerrom de Amis ester;/
 153 Qe nul autre de sa meisné./ Ore vous dirrai
 182 Ore lerray de Amyllioun ester,/ E
 795 Qe assez ad dount il ad mester./ Vus dirrai
 1241 les mutz./ Tot ensi finist le sermoun/
 49 demorra/ Atant qe son pere fina,/ Qi
 187 li serveyt,/ Le seneschal plus li haeit;/
 633 Combattre voleit per a per,/ Q'il n'eust
 743 en son corage/ Fere ne li velt hountage/
 631 Si ceo retrret tost arere./ Tost descendri
 489 avant,/ E [i]l entendri nepurqant;/
 433 purpensa/ Com celi qe grant mester en a./
 1099 ad envelopé./ Sitost com le saunc senti,/

1137 Sire Amillioun, quant fust sané/ E
 42 puet affyer./ Amyllioun ne velt lesser:/
 981 qe mesel fuit en vein,/ Prist sa coupe hors
 1169 ala muscer;/ Meuz velt estre pendue/ Qe
 52 sout pur veir/ Qe son pere fuy affyné,/

1241 Tot ensi finist le sermoun/ De sire Amis e
 139 esprové/ Pur promesse saunz seurté./ Mes
 1049 de cent foiz li ad beisé,/ Tot ensi com ert
 584 bataille,/ Sa fille a femme ly dorreyt/ E
 1229 de sa mullier./ Owein l'enfant bien feffa:/
 3 d'amur,/ De leauté e de grant douçour —/

825 Estre un enfant q'il out norri./ Fiz
 213 botiler,/ Amys, qj bien sout son mester:/
 78 avom./ Pur vostre honur vus cri mercy,/ Qe
 29 l'un de l'autre desceverast./ E si furent
 30 desceverast./ E si furent de une estature,/ est
 15 appelé Amillyoun./ Li deus estoient
 30 si furent de une estature,/ De une forme e
 26 De cors de visage bien ressembleyent:/ Si
 510 robes chaungé,/ Donqe quideront
 1055 li fist garder,/ Servir le fist tot a talent/

de mult grant resoun:/ 'Beau frere, quant avez forfait/ E le
 de nous est vencu/ Soit detret e puis pendu!'/ E dit li quens
 de nuyt ne se reposa,/ Tant qe vers une vespré/ En un grant
 De pain, vin e de blé./ Qe donke ne poient home trover/ Qe
 de palmisoun levoit,/ Vers la court sei retorneyt;/ Sitost com
 De parage e de beautez./ Ore lerray de Amyllioun ester,/ E de
 de pité./ Amis s'est tot adrescé./ Plus de cent foiz li ad beisé
 de pité./ Suz cel n'ad home que la fust/ Qe dolur de la pité n'en
 De plur ne se poet tenir,/ Car moult li greve le departir
 de pour./ Le seignur la fist relever,/ Bel la comence a chastier
 de pour se fuist muscé./ Sitost com vist son seignur./ Ele
 de quer amer?/ E ele respount moult simplement:/ 'Tot soit a
 de quer poy li ameit./ 'Si[re] Amis,' dit il, 'bien veignant!/ De
 De respoundre se purpensoit/ Com celi qj talent ne aveit/ Q'il
 de rien li regardast,/ Ne que manger li donast./ L'enfant, quant
 de rien./ Ne savoit [nul] del chaump juger/ Lequel fuit meilleur
 De sa beauté matire aveient./ Est venuz la novele/ En la
 De sa dame prist congé,/ E ele tantost li ad doné./ Nomer vous
 de sa felonie!/ Ne aiez od li compaignie,/ Car qui s'accompnie
 de sa gendture:/ Si les enfantz tuast/ E Amillioun en le saunk
 de sa gent amé,/ E lour ad trestouz doné/ Bons chevaus e
 de sa gent/ Vendroit a ly, ceo li jura./ Amyllioun ly mercya
 de sa meisné./ Florie, quant le congé en eust,/ S'a hasté a plus
 de sa meisné./ Ore vous dirrai de sir Amilloun:/ Quant vint a
 de sa mere/ Parler a Amys que ele ama./ Tant parla e taunt
 de sa mullier./ Owein l'enfant bien feffa:/ De tote sa terre li
 de sa terre furent/ Od grant nobley li receurent;/ Trestouz li
 De ses eses ass[e]z avoyt/ Tant com il memes desiroit./ Quant
 de ses fiz pité:/ Ambedeus ad le chef trenché,/ E le sanc de eux
 De sir Amillioun voloms parler./ Le jour vint qe fuist assis
 de sir Amilloun:/ Quant vint a sa regioun,/ La gent qe de sa
 de sir Amys vus voil counter,/ Qe fuit demoré od son seygnur
 de sire Amillioun/ Qe tant estoit leal compaignon./ Com il en
 De sire Amis e de syre Amillioun./
 de soi n'ad autre heyr./ Quant Amillioun sout pur veir/ Qe son
 De son benfait avoit envie,/ Mes Amys ne l'aparce[u]st mye
 de son cheval envie./ Tant fist il par sa cortesie:/ Meuz a pié
 De son compaignoun trahir./ Moult parfound getta un sospir
 de son destrer;/ Combattre voleit per a per,/ Q'il n'eust de son
 De son estre saver voleit./ Si li retint, si li diseit./ Fu la joie
 De son frere li sovynt;/ Tantost a la countesse vynt,/ Congé
 De son grant mal est il garri,/ Qe en corps ne en face/ De
 de son grant mal netté,/ Sitost com porra prist congé,/ En
 De son hostel ly fist justizer,/ Mestre mareschal sur touz/ Qi
 de son sain,/ E l'autre la vist, si s'esmerveilla./ La coupe
 de son seignur estre veue./ Sire Amillioun fist com leal bier
 De son seignur le conte ad pris congé,/ Qe li covient garder
 de syre Amillioun./
 de taunt me poez crere/ Qe, si vous eiez de moy affere,/ Jeol
 de tay levé./ Entre ses bras li ad apporté./ En sa chambre li ad
 de tote sa terre heir li freit./ Est venuz l'asemblié;/ Ore mes
 De tote sa terre li herita,/ Qe bien aveit deservy./ En bone vie
 De troeffle ne voil jeo parler —/ En pees se tienge pur escoter
 de un counte, son parent,/ Od li tint fer[m]ement,/ E dit que li
 De un drap vestu esteit,/ La coupe devant li quens teneit
 De une chose soiez garny:/ Le counte ad seignz un seneschal
 de une estature,/ De une forme e de une nature./ Leals furent
 De une forme e de une nature./ Leals furent envers lor seygnur
 de une nature,/ Angeles ressembleient de faiture./ Taunt
 de une nature./ Leals furent envers lor seygnur,/ Bien le
 de une robe vestu estoient,/ N'est home el mound qe les
 de verité/ Qe vous seiez lour seignur./ Si vous requer par amur
 De viande e de boivre ensement./ E li memes a li vet/ Chescun

645 n'ad pas toché./ Amyllioun, qe tant fu
 576 qe ceo fuit Amys;/ De cors ressemblast e
 25 E de ceo se coroucent sovent./ De cors
 299 mye/ Par quei vous en averez vilenye/ Ne
 319 molt lee;/ Ore quideit bien estre vengé/
 1021 deservi.' / 'Voir,' dist il, 'vous l'avezrez!'/
 752 —/ 'Jeo ne suy pas celi qe vous quidez;/
 120 'Si[re] Amis,' dit il, 'bien veignant!/
 289 des chivals destret./ Donques serray
 1193 Tourné me ert a grant vilté/ Si jeo ne soie
 278 serray en mon quer heytiez/ Si jeo ne soyé
 726 eus furent aparceu/ Coment son frere eust
 874 Mout est entre eux grant pité:/ Plurent e
 280 ore suy jeo bien honye/ Quant vous me
 1097 E le sanc de eux ad quillé/ E Amillioun
 913 sei meismes enhacer./ Amillion fist
 480 vount en mynuyt;/ As autres ne fuist pas
 425 ensy?/ E jeo lealment vus dy/ Qe, s'il
 445 'Dame,' dist il, par ma lealté,/ Pur ma
 846 Tant plus leid deveneit./ La dame par tant
 1194 ne soie de vous vengé./ Si fu[i] malades e
 383 For que dreit a vérité,/ Moult bien me
 573 bailler/ Pur cestes dames deliverer!/ Jeo
 582 li dist suef en son oraille/ Qe, s'il pout
 610 le healme tant fort fu/ Qe de la mort l'ad
 1004 Q'il ne li velt ocier./ Quant batu li out e
 823 froide li vodra doner./ Trestouz li ount
 735 Les chivals e les destrers./ Ore vus
 593 L'un hiet l'autre desq'a la mort./ Nul
 109 N'est home qm me vousist crere/ Si jeo
 626 Qe dolent est e corucé/ Quant combatre
 656 duré;/ Un coup li voudra ja doner/ Qe li
 1197 bien du mien./ Dame, sovenez vous
 1204 Ne pur vivre ne pur morir./ Suvenez vous
 225 la novele/ En la chaumbre a la damoisele/
 651 ne dota de rien./ Ne savoit [nul]
 615 rasour trenché le eust./ Parmy l'espaulde
 620 Qe pout, quant son cheval li ment?/
 176 Pur heritage la moyté/ Li fuit escheu
 67 ceo li jura./ Amyllioun ly mercya./ Atant
 659 son coup tres bien apparist:/ La healme
 998 bowe est il versé./ Les chevalers vindrent
 110 me vousist crere/ Si jeo deisse la moyté/
 694 enemi ad confundu:/ Ly e vous ad aquité/
 504 Amys./ Jeo espoir par la grace de Dé/ Qe
 565 grant aleure,/ Poignant plus qe amblure;/
 203 out a grant pleinté/ Des dameseles
 1199 bien,/ Coment a manger me menastes/ E
 898 vendredit/ De l'hure qe issi serreit./ Hors
 1133 ount trovez!/ En lor lit s'entrebeysèrent,/br/>
 498 avez fet,/ Jeo me doute qe pur pecché/
 1133 En lor lit s'entrebeysèrent,/ Del ray
 471 fust assailli,/ Qe li fuist mortel enemy./
 466 mesaysé,/ Amyllioun en son lit giseit,/br/>
 322 q'avoint dit,/ Il ensembleront od grant
 572 me fetes tost bailler/ Pur cestes dames
 681 Atant se fist desarmer./ S'il eust plaie li
 1022 demaunde ja ne faudrez!'/ Tantost espeie
 577 De cors ressemblast e de vis./ Bons armes
 420 Devant le counte se genula/ E le chivaler
 552 e Amys./ Le seneschal se fist armer,/ Puis
 747 La dame l'acola tendrement,/ Si li
 1107 de joie se palma;/ Vint al seignur, si li
 de vigour,/ Meint coup li dona ceo jour./ La bataille ad bien
 de vis./ Bons armes demaunda/ E li memes le chivaler arma
 de visage bien ressembleyent:/ Si de une robe vestu estoient
 de vostre corps hontage./ Jeo preng Deu en tesmoignage:/ Si
 De vostre corteis botiler;/ Tot lour estre fist espier./ Qant
 De vostre demaunde ja ne faudrez!'/ Tantost espeie demaunda
 De vostre espoir failli avez./ A vous le peus bien counter
 De vous suy ore alé pensant/ E de misire Amillioun/ Qi a vous
 de vous vengé!'/ Atant s'est Florie retorné./ Amis mout se
 de vous vengé./ Si fu[i] malades e defet,/ Pur ceo n'avo jeo
 de vous vengez!/ Certes ore suy jeo bien honye/ Quant vous
 deceu./ La damoisele fuit ben paé/ Quant ad baroun a volonté
 de cirent lour draps,/ Sovent se claiment cheitif e las
 dedeinez avere amyel/ Tant gentils hommes m'ont prié
 dedeinz ad envelopé./ Sitost com le saunc senti,/ De son
 dedeinz cocher,/ A plus q'il pout li eysa,/ De long en long li
 deduit./ En cele nyut tant errerent/ Qe parmy le boys
 defaut a la bataille,/ Le juggement averez saunz faille,/ Qe
 defaute ne murrez mie,/ Tant com je puisse aver la vie!'
 defendi/ Qe nul ne fut si hardi/ Qe de rien li regardast,/ Ne que
 defet,/ Pur ceo n'avo jeo pas forfait,/ Qe vivre deusse bien
 defenderay/ Devant qe jeo denieray.'/ Le seneschal atant se
 defendray nostre dreit.'/ Le quens, quant le chevaler veit
 defendre la bataille,/ Sa fille a femme ly dorreyt/ E de tote
 defendu./ Qe le coup ala descendant/ Si chiet sur l'arsoun
 defolé/ Que ses mains sunt allassé,/ Doneq; commaund qe l'en
 deguerpi./ Estre un enfant q'il out norri./ Fiz de un conte
 dei jeo bien counter/ Coment il firent a coucher:/ La dame ad
 deigne a autre affier/ Chescun se prent a ferit./ Amillioun
 deisse la moyté/ Del doel q'entre eus ount demené./ Li un
 deit a pié;/ A plus tost q'il pout se vengereit,/ E Amyllioun a
 deit par dreit grever./ Mes le seneschal primes li ferist,/ Qe
 del bien,/ Coment a manger me menastes/ E del pais
 del bordel/ [K']ja moy livrastes pur hostel./ Celi averez tant
 Del botiler qe tant ert beaus/ E tres gentil dameyseals,/ E q'il
 del chaump juger/ Lequel fuit meilleur chevaler./ Amillioun
 del chival/ Cola le braunke en terre aval/ Plus qe plein pé e
 Del cop parlent durement:/ Dist l'un a l'autre qe le chivaler
 del counté./ De beauté avoit le pris/ Sour touz les dames du
 del counte departi,/ Si ala parler a son amy/ Amys, q'estoit
 del coup enbarra,/ Qe Amillioun fort estona./ Ore poet trop
 del deys,/ Qe li estoient de molt près:/ Enresoner li volcient
 Del doel q'entre eus ount demené./ Li un s'en va ver son pays
 Del fait dount fuistes encusé./ S'il vous velt esposer,/ Li
 del feloun serrom vengé,/ Qe vus quideit aver hony./ Mes
 Del feu q'il vist fut grantment effraé/ E de les dames eust grant
 del pais/ En sa chambre noef e dis,/ Qe touz fesoient sa
 del pais m'enchaceastes/ Puis feistes jurer mon serjant/ Qe
 del pais s'en vont;/ Jamés quident qe revendrount./ Owein, le
 Del ray del solail s'enjoierent./ Pere e mere, quant ceo virent
 Del serment serrez encombré./ Pur vous la bataille fray,/ E le
 del solail s'enjoierent./ Pere e mere, quant ceo virent,/ A Deu
 Del sounge fut moult effraé/ E tost sus sailli com home
 Deleez sa femme se cocheit;/ Si s'avint en avisoun/ Ke sir
 delit:/ Par grant duçour s'entrebeysèrent./ De amour parlerent
 deliverer!/ Jeo deffendray nostre dreit,'/ Le quens, quant le
 demaunda;/ Cil dist que mal n'en a:/ Plus est sain qe person
 demaunda,/ E li memes dist q'il le tuera./ Tost l'espeie li fust
 demaunda/ E li memes le chivaler arma./ En son corage fust
 demaunda:/ En hostage pur li serreit,/ En son plegge
 demaunda le botiler;/ E quant il ne pout estre trové,/ La dame
 demaunda quoi pensoit/ E purquei tels suspirs getteit
 demaunda/ Si ceo fuist sire Amillioun,/ Coment il out sa

931 fust apres/ E moult ama son seignur,/ Ala
 940 ressemblereit./ Un de eux ly appeleyt,/ 'Voir,' dist il, 'vous l'averez!'/ De vostre
 1021 leurreit pur estre emperur./ Qy ceo fuit li
 944 les tint e les ama./ Donque fist sa femme
 1178 a la countesse vynt,/ Congé li ala
 435 que od li erent/ Purquei ceo fuy ly
 234 dire./ Tenu fut par tote la terre,/ Tant
 782 deisse la moyté/ Del doel q'entre eus ount
 110 Estre servi d'argent e d'or,/ Ore suy tant
 860 Plus ne li poet fere companie./ Treis anz
 1063 dit il, 'lessez ester!'/ Ne deussez tel doil
 1187 E de sir Amys vus voil counter,/ Qe fuit
 183 lié./ Jamés de illoec ne pout issir;/ La
 1215 a Amys que ele ama./ Tant parla e taunt
 258 d'autre chose s'enveysent./ En cel languar
 239 a boivre ne a manger;/ Ne poums icy plus
 855 47 E par tot bien loé furent./ Amillion
 807 leal compaignon./ Ove sa feme tant
 507 chivalers qe sunt icy/ Od vous desoremés
 617 braunke en terre aval/ Plus qe plein pé e
 775 terres est il seignur,/ De .iii. countez e
 163 .E lour ad trestouz doné/ Bons chevaus e
 347 Par celi qe fist le mound,/ S'il le velt
 384 Moult bien me deffenderay/ Devant qe jeo
 87 li vus pout grever./ Mes quant jeo serray
 125 a nul musterer;/ Mes quant s'en est
 67 Amyllioun ly mercya./ Atant del counte
 72 ne se poet tenir,/ Car moult li greve le
 819 8 dolur e grant han./ Ses chevalers touz
 244 Q'en la court un counte estoient/ E
 216 sa chivalrie./ A l'ostel n'i out nul remis/
 288 li quens teneit./ Mout fu beals e aligné,/
 203 Qe vers li estes e moy forfet,/ E serrés
 1071 gardé:/ Compaignes out a grant pleinté/
 932 bien garret/ S'il en fist mettre cure/ [son seignur,/ Ala demaundant tut entour/
 731 Une symaine tot entere;/ Mout i furent
 587 Ore mes sourdra la medlé./ Le un l'autre
 680 Mes le counte vient premer;/ Atant se fist
 611 de la mort l'ad deffendu,/ Qe le coup ala
 631 la manere,/ Si ceo retret tost arere./ Tost
 1161 Les deus countes sunt venuz/ E a la porte
 641 abati les colurs./ Sur le senestre le coup
 28 el mound qe les avisast/ Qe l'un de l'autre
 1111 'Dame, certes, jeo vus diray,/ Mes vous
 1044 pecché l'ad ensi encembré/ Qe son frere
 267 que ele fuit devee/ Qe ele pout pur hounte
 259 parla e taunt demora/ Qe tot son corage
 337 cher,/ En qm me porrai affier?/ Si est grant
 1019 ai jeo trop vesqui;/ Trop bien ai la mort
 1230 De tote sa terre li herita,/ Qe bien aveit
 100 bien vostre seignur,/ Ne soffrez q'il eit
 268 pur hounte discoverir/ Sa volonté e son
 1041 ses cheveuz detire,/ Sa vie hiet, sa mort
 839 N'est pas merveile s'il ad dolur./ La mort
 195 realme ne out plus bele./ Deus countes la
 1065 eses ass[e]z avoyt/ Tant com il memes
 80 seignz un seneschal/ Qe moult est feloun e
 507 Mes chivalers qe sunt icy/ Od vous
 461 dormir,/ Aviz li fust qu'il deust morir./
 811 pur mesel li tint./ La dame li tint trop en
 592 avera mester de acord;/ L'un hiet l'autre

demaundant tut entour/ Des povres les estres e les maneres
Demaundast s'il vont servir./ E il getta un grant suspir,/ Cil
demaunde ja ne faudrez!'/ Tantost espeie demaunda,/ E il
demaundement,/ Mes sitost com il veu avoient/ Celi q'il
demaunder,/ Car de li se veut venger./ Tant fuit quise q'ele
demaunder/ Qe a son frere velt aler./ Son enuy monstreli
demaudent/ E ele dit que malade fuit,/ Ne sout dont cel
demeint grant affere./ Sa femme ly aime tendrement,/ Si fist
demené./ Li un s'en va ver son pays,/ Li autres remeint
demené/ Qe de ma vie est grant pité./ Si jeo de feim morir
dema tele vie;/ De ses eses ass[e]z avoyt/ Tant com il
demaner/ Pur ceo qe sain suy revenu./ Molt vus fust ben
demané od son seygnur/ E meuz li servi de jour en jour
demora desqe al morir./ Autre dames ensample averont
demora/ Qe tot son corage discovery:/ E dit pur l'amur de luy
demora/ Tant que li quens s'en ala/ A boys juwer en venerie
demorer,/ Jhesu, le fiz seinte Marie,/ Com longes me durra
demorra/ Atant qe son pere fina,/ Qi de soi n'ad autre heyr
demorra/ Qe tot son pel ly arracha./ Si malade e si laid
demorrant/ A ma court od vous irrount./ E quant nous
demy/ Le seneschal a terre chay./ Qe pout, quant son cheval
demy,/ Si tost come li quens est fini./ Ore est amé e tenu cher
dener,/ E robes a ses esquiers./ E il memes si bel estoyt/ Qe
denier,/ Com leal chevaler le voil prover,/ E cil que de nous
denieray,/ Le seneschal atant se vint/ E son gaunt en son
departi,/ Donke vus serra il fort enemy./ Gardez vus de sa
departi,/ Requer qe soyez mon amy,/ Mon ami e mon bien
departi,/ Si ala parler a son amy/ Amys, q'estoit son
departir,/ Doneq parla sire Amillioun/ E dit: 'Amis, beau
departoient,/ Ses garsons touz li guerpeient;/ Ne trova
des armes li servoient./ Moult furent de grant vassalage
Des chevalers for sire Amis,/ E il remist pur maladie./ E la
Des chivalers fuit moult prisé./ Entre eux communement
des chivals destret./ Donques serray de vous vengé!'/ Atant
Des dameleles del pais/ En sa chambre noef e dis,/ Qe touz
Des] deus fiz de sa gendrue:/ Si les enfantz tuast/ E
Des povres les estres e les maneres/ E les custumes de les
des robes donez/ Dont les menestrauz furent feffez./ Le counte
desaffient/ Qe entre eus nul amur ne eyent./ Ore s'en vount
desarmer,/ S'il eust plaire li demaunda;/ Cil dist que mal n'en
descendant/ Si chiet sur l'arsoun devant;/ Trestut trencha
descendi de son destrer;/ Combatre voleit per a per,/ Q'il
descenduz,/ Qe nul fut aparcevant/ De lour venue tant ne
descent,/ Mailles trenchent plus de cent./ Bien pres passa le
desceverast,/ E si furent de une estature,/ De une forme e de
desconforteray,/ Sachez, dame, que pur sa saunté/ Voz deus
desconusseit/ Qe touz biens li fesoit./ Trestouz plurent de
discoverri/ Sa volonté e son desir./ De respoudre se
discovery,/ E dit pur l'amur de luy/ Morust, s'il n'eust de li
desert venu:/ Ma fille est pute devenu./ Ele est honie, jeo suy
deservi,/ 'Voir,' dist il, 'vous l'averez!'/ De vostre
deservy,/ En bone vie longtemps vesqui,/ En bienfaitz se
deshonor!'/ Mout li devez amour e foy,/ Car bien ad amé vous
desir,/ De respoudre se purpensoit/ Com celi q talent ne
desire,/ La hure maudist q'onq fu nee,/ Quant pecché l'ad
desire plus qe la vie;/ Nul solas ad ne compaignie:/ N'ad
desirent,/ E esposer la volirent,/ Mes ele a trestouz
desiroit,/ Quant passa le temps issi,/ Qe li quens une noyt
desleal/ E si est de mult grant parenté,/ Pur ceo est il le plus
desoremés demorront;/ A ma court od vous irrount./ E quant
Desouz un arbre se cocha,/ E son chival a une raym lya
despit,/ Ne voleit entrer en son lit,/ Ne voleit auxi od lui
desq'a la mort./ Nul deigne a autre affier;/ Chescun se prent a

758 il eust le congé pris,/ E seignurs ove ly
 403 trestouz virent qe le seignur/ Haist Amys
 1215 Jamés de illoec ne pout issir;/ La demora
 544 A la dame ne voleit parler,/ /
 672 la place./ Le braz od le brank trencha:/ li dona ceo jour./ La bataille ad bien duré/
 648 al lever./ Chescune nuyt issi se contint/
 546 alerent/ Qe feym e me[s]aise troverent/
 918 jamés ne verrait./ Mes ne li ert pas
 1158 averez saunz faille,/ Qe vostre fille fust
 427 fille ad trahy e affolé./ Deu li doint male
 362 Mes le conte fist com bon seynur,/ /
 60 retret tost arere./ Tost descendri de son
 631 dona a ses esquiers/ Les chivals e les
 734 li estes e moy forfet,/ E serrés des chivals
 288 moult effraé/ E tost sus sailli com home
 472 terre chaist:/ Bate ses mains, ses cheveuz
 1040 prover,/ E cil que de nous est vencu/ Soit
 350 tant;/ Ne li ert nul de mal garrant./ Tut ert
 365 En bienfaitz se pena./ Aprés sa mort a
 1233 l'avisioun/ E de cel sounge resperi,/ 'A,
 1077 Ne de vostre corps hontage./ Jeo preng
 300 Lor corps gisent en Lombardie,/ E
 1238 Pere e mere, quant ceo virent,/ A
 1135 L'enfant a soi doncne appelaist,/ E pur
 865 Qe nostre fille ad trahy e affolé./
 362 Ne parla mot une luwé./ 'Adonke,' dit il, '
 333 ly respundi:/ 'Damoisel, pur
 294 si bel estoyt/ Qe tut le pays le disoyt/ Si
 167 respondi par grant douçur:/ 'Merci
 869 Atant la parole ount lessé/ E le service
 1125 La dame vint, qe bone fust,/ Sovent
 1089 En haut cria: 'Mercy, mercy!/ Pur icel
 787 quant longtemps out langui,/ Morust e a
 1086 par matyn levé./ E al matin est il alé;/
 1114 fiz ai estranglé.' La dame ses meins a
 1123 De les enfaunz plus n'empsons;/ Si
 375 Amis moult se merveilla./ 'Fel,' fait il, '
 306 'Nous le froms si privément/ Touz
 195 En une realme ne out plus bele./
 1160 pas destiné,/ Car un jour par matyné/ Les
 1092 repairé./ En une chambre est entré/ Ou les
 15 noun,/ L'autre est appelé Amillyoun./ Li
 1113 Sachez, dame, que pur sa sauté/ Voz
 1071 garreit/ S'il en fist mettre cure/ [Des]
 985 Pensa cil: 'Coment poet estre?/ Ces
 964 tot son anguisse guerpir ne voleit./ Les
 5 —/ En pees se tienge pur escoter!// De
 524 alé;/ Tut soul va saunz compainie./ Ore
 911 vitaille./ Estre ceo lour fount fere/ Sur
 1196 Pur ceo n'avo jeo pas forfait,/ Qe vivre
 1201 Puis feistes jurer mon serjant/ Qe jeo ne
 1190 vus fust ben avenu,/ Si feussez tele com
 1187 'Dame,' dit il, 'lessez ester!// Ne
 1149 Pur ceo fut tot appareillé/ Q'en le mois
 460 force ly covynt dormir,/ Aviz li fust qu'il
 1029 Uwein, qj ne poet suffrir/ Qe son seignur
 967 seust/ Qe l'un de l'autre deviser
 710 A l'huis de moster./ Quant Amillyoun
 533 Qe Amillyoun fuit bien quideit./ Les
 924 Ala com a processioun./ Entre autres les
 419 se pout tenir/ Ne pur vivere ne pur morir;/
 214 De un drap vestu esteit,/ La coupe
 desqe a dis,/ En son pais s'en est alé,/ A Amys ad trestot
 desqe a la mort,/ Fust ceo a dreit fust ceo at tort./ Nul ne oseit
 desqe al morir./ Autre dames ensample averont/ Coment iour
 Desques al matin al lever./ Chescune nuyt issi se contint
 Desque en la haunce le branc cola./ En cel champ fu ben
 Desque noune fust passé./ Ly seneschal fist moult bien,/ E
 Desques Amyllioun a meson vynt./ Ore lerrom de Amis ester
 Desques eus vindrent el pais/ Ou sojorna le counte Amys/ Qe
 destiné,/ Car un jour par matyné/ Les deus countes sunt
 destiné! / La dame lermist pur pité,/ Prist Amis en plevine
 destiné! Si avra il, si jeo vive tant;/ Ne li ert nul de mal
 Destourber ne vout son honur;/ Mes s'il eust od ly affere
 destrer;/ Combatre voleit per a per,/ Q'il n'eust de son
 destre rs./ Ore vus dei jeo bien counter/ Coment il firent a
 destret./ Donques serray de vous vengé! / Atant s'est Florie
 desvée./ Tost appela ses chevalers,/ Ses garsouns e ses
 detire,/ Sa vie hiet, sa mort desire,/ La hure maudist q'onqe fu
 detret e puis pendu! / E dit li quens: 'Ore vaut meins!/ Ceste
 detret e puis pendu,/ E la pute arse en fu! / La dame ne sout
 Deu ala;/ Amis, son frere, ensement./ Moult se amercent
 Deu! dit il, 'qe onqe ne menti,/ Doinc qe voir soit mon
 Deu en tesmoignage:/ Si ceo poet estre aparceu/ Qe de moy
 Deu fait pur eus grant vertuz:/ Les voegles ver, parler les mutz
 Deu graces en rendirent./ Sire Amillioun, quant fust sané/ E de
 Deu li conjurast/ Qe illoec morir le lessast,/ E yl en son pais
 Deu li doint male destiné!! Si avra il, si jeo vive tant;/ Ne li
 Deu mercy,/ Si ceo traitour m'ad issi hony,/ Que tant amey e
 Deu mercy,/ Vostre amy suy e serray,/ E vostre serjant tant
 Deu mesmes le eust purtet,/ Plus bon ne meuz [ne] serra fet
 Deu, mon seignur,/ Meuz voil od vous suffrir dolur/ Qe sanz
 Deu ount escoté./ Aprés la messe vint a mesoun;/ Joiouse est
 Deu pur li requist./ Atant le counte s'est repairé./ En une
 Deu qe onqe ne menti/ E qj en croiz suffri passioun,/ C'est mi
 Deu rendist s'alme;/ E tost aprés morust la dame./ Quant
 Deu requist e son haut noun/ A son frere doine garisoun./ La
 Deu tendi/ E mout graces li rendi,/ Donqe comence pur fere
 Deu velt, bien lé recoveroms./ Atant la parole ount lessé/ E
 Deu vous maudie!/ Ma fille est par vous honye./ Mes vous ne
 deus a nostre talent/ Ne[ll] savera home de mere nee./ Tant li
 Deus countes la desirent,/ E esposer la volirent,/ Mes ele a
 deus countes sunt venuz/ E a la porte descenduz,/ Qe nul fut
 deus enfanz dormerent;/ E doucement eux entreacolerent./ Le
 deus estoient de une nature,/ Angeles ressemblent de faiture
 deus fiz ai estranglé.' La dame ses meins a Deu tendi/ E mout
 deus fiz de sa gendrure:/ Si les enfantz tuast/ E Amillioun en
 deus hanaps fist un mestre! / Arere tantost se repeira,/ Al
 deus hanaps tant ressemblent/ Qe, si en une mayn estoient
 deus juvenceals vous diray,/ Sicom en escrit le trovay;/ Q'en
 Deus li soit en aye/ E doigne q'il puisse bien fere!/ Grant
 deus roes une cyvere/ Qu'il pout sei meismes enhacer
 deusse bien du mien./ Dame, sovenez vous del bien
 deusse en mon vivant/ En ceo pais revener,/ Ne pur vivre ne
 deusse estre,/ Par Jhesu, le roy celestre./ Tourné me ert a
 deusse tel doil demenet/ Pur ceo qe sain suy revenu./ Molt
 deust estre esposé./ Mes ore se clame lasse cheitive;/ Moult
 deust morir./ Desouz un arbre se cocha,/ E son chival a une
 deust morir./ En haut cria: 'Mercy, mercy!/ Pur icel Deu qe
 deust./ [...] / Qe unke lesser le voleit./ Quant le counte
 deust son noun nomer,/ Si se purpensa moult estreit;/ Oyst
 deuz furent issi d'un senblant/ Ne crerreet home ja si
 deuz vount./ Ne sciet, qe eus veit, qu'il sount;/ Si eus fuissent
 Devant le counte se genula/ E le chivaler demaunda:/ En
 devant li quens teneit./ Mout fu beals e aligné,/ Des

119 Mes de quer poy li ameit./ 'Si[re] Amis,'
 333 enflé./ Ne parla mot une luwé./ 'Adonke,'
 321 fist espier./ Qant vint le terme q'avoint
 567 E de les dames eust grant pité./ 'Sire,'
 1186 Bel la comence a chastier./ 'Dame,'
 355 La dame sur un lit trovat./ 'Dame,'
 1077 E de cel sounge resperi,/ 'A, Deu!'
 351 est venu/ Soit detret e puis pendu!'/ E
 423 En son plegge devendreit./ 'Voir,'
 1014 De dolur pout son quer crever:/ 'Sire,'
 260 demora/ Qe tot son corage discovery:/ E
 344 voir, sire seneschal?/ Jeo quide que l'avez
 942 servir./ E il getta un grant suspir;/ Cil
 756 Tot lour estre luy ad counté,/ E puis
 827 son parent,/ Od li tint fer[m]ement,/ E
 235 Purquei ceo fuy ly demaunderent./ E ele
 389 gage/ Com home de grant vasselage,/ E
 749 E purquei tels suspirs getteit./ Donke
 493 l'un od l'autre est aquointé!'/ Donke li
 379 ja approchaunt!'/ 'Sire,' dist Amys, 'vus
 908 covient lor asne vendre/ Pur cink souz e
 36 lour fist a grant honur:/ Touz les ad
 110 vousist crere/ Si jeo deisse la moyté/ Del
 525 compainie./ Ore Deus li soit en aye/ E
 1187 dit il, 'lessez ester!'/ Ne deussez tel
 1087 Deu requist e son haut noun/ A son frere
 1078 'A, Deu!' dit il, 'qe onqe ne menti,/ ne puissse nul autre amer/ Quant talent me
 132 Qe nostre fille ad trahy e affolé./ Deu li
 362 pesant./ Le seneschal se leve ataunt,/ Qe
 625 pité,/ Prist Amis en plevine;/ Moult fu
 106 de pité./ Suz cel n'ad home que la fust/ Qe
 818 vousist venir./ Cil soffri en cel an/ Grant
 838 sire e seignur;/ N'est pas merveile s'il ad
 842 N'ad home a qui parler,/ Ne a qui poet son
 1013 Quant Amyllioun li oist nomer,/ De
 870 mon seignur,/ Meuz voil od vous suffrir
 1144 E od li le counte Amis,/ Tel ad el quer
 853 counta a son seignur,/ E il dit: 'C'est mal
 1223 an vesqui e un jour;/ A drein morust pur
 162 fuit de sa gent amé,/ E lour ad trestouz
 275 Vous ay amé celement?/ Qe jeo vus ay
 248 sa dame prist congé,/ E ele tantost li ad
 733 les menestrauz furent feffez./ Le counte
 646 qe tant fu de vigour,/ Meint coup li
 447 je puissse aver la vie!'/ Atant congé ly
 608 ferir ala,/ En le healme grant coups
 959 Amillioun, qe tant amoyt,/ Cele coupe li
 849 Qe de rien li regardast,/ Ne que manger li
 58 Le counte fust de ceo marriz,/ Congé li
 638 qe nel pout amer,/ Un grant coup li vint
 905 poient home trover/ Qe rien lour voille
 961 avoit le per,/ Qe ne vout vendre ne
 890 a lui par charité/ Qe ele me face une ane
 655 bataille ad tant duré;/ Un coup li voudra ja
 1119 li plest, par son poer/ Nous porra enfaunz
 822 serjant ne esquier/ Qe ewe froide li vodra
 731 tot entere;/ Mout i furent des robes
 749 pensoit/ E purquei tels suspirs getteit./
 1208 viverez;/ En noun de dowere le tenez!'/
 493 pité./ Quant l'un od l'autre est aquointé!/
 904 vint sur cherté/ De pain, vin e de blé./ Qe
 grever./ Mes quant jeo serray departi,/

dit il, 'bien veignant!/ De vous suy ore alé pensant/ E de
 dit il, 'Deu mercy,/ Si ceo traitour m'ad issi hony,/ Que tant
 dit,/ Il ensembleront od grant delit:/ Par grant duçour
 dit il, 'jeo suy venu!/ Dount vous sert tot ceo fu/ Qe pur les
 dit il, 'lessez ester!/ Ne deussez tel doil demener/ Pur ceo qe
 dit il, 'ne savez/ Quelc fille vus avez! Ele est ja femme de
 dit il, 'qe onqe ne menti,/ Doine qe voir soit mon sounge
 dit li quens: 'Ore vaut meins!/ Ceste play m'est laid e vleins
 dit li quens, volez ensy?/ E jeo lealement vus dy/ Qe, s'il
 dit, 'par la foy qe vus devez/ A Amillioun, qe tant amez,/ Ne
 dit pur l'amur de luy/ Morust, s'il n'eust de li pité/ E que ele
 dit pur mal./ 'Sire,' le seneschal respound,/ Par celi qe fist le
 dit q'il out un seignur/ Q'il ne lerreit pur estre emperor./ Qy
 dit q'il prendra congé,/ Quant il eust le congé pris,/ E
 dit que li ne velt guerpir/ Ne pur vivre ne pur morir./ La dame
 dit que malade fuit,/ Ne sout dont cel mal ly avenut./ Ele
 dit que od li combat[er]eit/ E la vérité provereit./ Est veus
 dit sir Amillioun: —/ Ne vodra celer son noun —/ 'Jeo ne suy
 dit sir Amillioun/ Paroles de mult grant resoun:/ 'Beau frere
 dites mal./ Jeo suy vostre chivaler leal;/ Si nul vous ad de
 diz e maille;/ De ceo acateront lour vitaille./ Estre ceo lour
 dobbez en estour,/ Lour trova si com il voleint;/ Hautement
 doel q'entre eus ount demené./ Li un s'en va ver son pays,/ Li
 doigne q'il puisse bien fere!/ Grant chose enprent pur son
 doil demener/ Pur ceo qe sain suy revenu./ Molt vus fust ben
 doine garisoun./ La dame vint, qe bone fust,/ Sovent Deu pur
 Doine qe voir soit mon sounge./ Mes ore, soit voir ou
 doint e voler./ Si Amilliouns soit alé,/ Son quer me est
 doint male destiné!/ Si avra il, si jeo vive tant;/ Ne li ert nul
 dolent est e corucé/ Quant combatre deit a pié;/ A plus tost
 dolente la meschine./ Amis se retret e purpensa/ Com celi qe
 dolur de la pité n'en eust./ Paumez sunt chaeuz a terre;/ N'est
 dolur e grant han./ Ses chevalers touz departoient,/ Ses
 dolur./ La mort desire plus qe la vie;/ Nul solas ad ne
 dolur moustrer,/ Fors a l'enfant que ly serveit./ Amillioun
 dolur pout son quer crever:/ 'Sire,' dit, 'par la foy qe vus
 dolur/ Qe sanz vous estre emperour.'/ Quant l'un l'autre ad
 dolur/ Qe unque femme ne out greignur./ Doneq se tint enfyn
 dolur/ Quant n'avom a boivre ne a manger;/ Ne poums icy
 dolur./ Sire Amillioun fut molt prisé/ Qe autre peine n'ad
 doné/ Bons chevaus e deners,/ E robes a ses esquiers./ E il
 doné m'amur?/ Ja en ma vie après ceo jour/ Ne serray en mon
 doné./ Nomre vous dey la pucele:/ Son dreit noun est
 dona a ses esquiers/ Les chivals e les destrers./ Ore vus dei
 dona ceo jour./ La bataille ad bien duré/ Desque noune fust
 dona,/ E un palefroy mounta/ Saunz garsoun e saunz esquier
 dona./ Mes le healme tant fort fu/ Qe de la mort l'ad deffendu
 donait./ Amillioun messmes avoit le per,/ Qe ne vout vendre
 donast./ L'enfant, quant oy cel comaund,/ Ne sout ou quere
 done mes enviz;/ Mes le conte fist com bon seygnur
 done r/ Amount el heaulme peint de flurs,/ Qe tost abati les
 done r./ Einz ne pount plus entendre/ Q'il covient lor asnc
 done r./ Mes le hanap tant ameyt/ Q'en tot son anguisse
 done r/ Qe jeo puissse chivacher.'/ L'enfant a la dame ala
 done r/ Qe li deit par dreit grever./ Mes le seneschal primes li
 done r./ Si Amyllioun perdu eussez,/ Jamés tel autre ne averez
 done r./ Trestouz li ount deguerpi,/ Estre un enfant q'il out
 done z/ Dont les menestrauz furent feffez./ Le counte dona a
 Donke dit sir Amillioun: —/ Ne vodra celer son noun
 Donke fist fere un turel:/ Petit fut mes molt bel,/ Si fut fort
 Donke li dit sir Amillioun/ Paroles de mult grant resoun
 donke ne poient home trover/ Qe rien lour voille done
 Donke vus serra il fort enemy./ Gardez vus de sa felonie!/ Ne

1116 a Deu tendi/ E mout graces li rendi,/ Donqe comence pur fere joie:/ 'Jhesu Crist, le fiz seinte
 1155 hors de la terre,/ Ne la savera plus aider./ Donqe comencea a purpenser/ Q'entre nonaynes se muscereit
 1006 out e defolé/ Que ses mains sunt allassé,/ Donqe commaund qe l'en ly lyast/ E en sa prison li gettast
 395 gant,/ E li quens [les] resceust atant./ E donqe jugga le baronage/ Que plegges troverent en hostage
 990 moult esmerveileit,/ De Amillioun donqe li sovent:/ 'Bien sai', fait il, 'verraiment,/ De mon
 1128 Joiose est ele pur Amyllioun./ Amys donqe ove la dame ala/ En la chambre ou les enfaunz lessa
 73 tenir,/ Car moult li greve le departir./ Donqe parla sire Amillioun/ E dit: 'Amis, beau compaignoun
 510 E quant nous averoms robes chaungé,/ dolur/ Que unque femme ne out greignur./ Donqe quideront de verité/ Qe vous seiez lour seignur./ Si
 1146 mei memes force ne fray.'/ L'enfant a soi Donqe se tint enfyn honie:/ Ne quideit pas q'il fuit en vie
 864 lour pardona,/ Od sei les tint e les ama./ donqe appelast,/ E pur Deu li conjurast/ Qe illoec morir le
 1178 Mes Uwein fuit son dreit noun./ Donqe fist sa femme demaunder,/ Car de li se veut venger
 883 E en sa prison li gettast./ Amillioun Donqe li dist sire Amyllioun:/ 'Oweyn, a la dame irrez
 1008 puis entrerent/ E lour robes chaungerent;/ moy forfet,/ E serrés des chivals destret./ donqe maundereit/ E la verité de li querreit/ Qe son hanap
 765 289 E ele dit que malade fuit,/ Ne sout Donqe ne fuit aparcevant/ De lour estre tant ne quant./ A
 236 entere;/ Mout i furent des robes donez/ Donques sarray de vous vengé!'/ Atant s'est Florie retorne
 732 859 aver grant tresour,/ Estre servi d'argent e dont cel mal ly avenut./ Ele comaunda qe eus se teysent/ E
 1092 une chambre est entré/ Ou les deus enfanz dormist, car mult fu travaillé,/ E son chival fuist mesaysé
 1067 passa le temps issi,/ Qe li quens une noyt dormist nule nust./ Touz les noitz issi chevaucha,/ Qe onke
 459 un grant boys est alé./ A force ly covynt dorreyt/ E de tote sa terre heir li freit./ Est venuz l'asemblé
 463 se cocha,/ E son chival a une raym lya./ doté/ Qe Amys un soul n'en ad trové./ Quoy pur doute quoq
 454 Poy mangea e mains beust,/ Si ne 82 dormi,/ Une voiz oy qe li disoit/ Qe Amillioun trop bien
 583 deffendre la bataille,/ Sa fille a femme 1y dormir,/ Aviz li fust qu'il deust morir./ Desouz un arbre se
 399 fut bien payé./ Tant fuit li seneschal mult grant parenté;/ Pur ceo est il le plus
 292 568 se purpensa;/ Le un mal e l'autre mout dormist, car mult fu travaillé,/ E son chival fuist mesaysé
 650 fist moult bien,/ E sire Amillioun ne 688 dormist nule nust./ Touz les noitz issi chevaucha,/ Qe onke
 1093 li fist tant com osa,/ Car son pere moult 1093 dorreyt/ E de tote sa terre heir li freit./ Est venuz l'asemblé
 310 entré/ Ou les deus enfanz dormerent;/ E ad dit e parlé/ Ore sunt a un de cel affere,/ ad confundu;/ Ly e vous ad aquité/ Del fait
 694 701 marier,/ Jeo ne me deveroy pas corucer.'/ 794 568 Ore vodrom de Amis lesser,/ Qe assez ad
 794 568 grant pité./ 'Sire,' dit il, 'jeo suy venu!/ chaunzon d'amur,/ De leauté e de grant
 2 530 de moy affere,/ Jeo vous fray od graunt
 141 737 forfait/ E le serment avez fet,/ Jeo me 874 1223 Amys, qd bien sout son mester:/ De un
 497 722 eux grant pité:/ Plurent e decirent lour out comaundé./ Un an vesqui e un jour,/ A
 401 566 Si nul vous ad de moy counté/ For que
 656 Haist Amys desqe a la mort,/ Fust ceo a
 573 Un coup li voudra ja doner/ Qe li deit par
 882 dames deliverer!/ Jeo deffendray nostre
 250 l'appellent Amorant,/ Mes Uwein fuit son
 530 ad doné./ Nomre vous dey la pucele:/ Son
 737 trestouz pur voir/ Qe ceo fuit lour
 722 il firent a coucher:/ La dame ad son
 56 l'ad bien entendu,/ E la prist sicom son
 302 gere,/ Ne qe autre heyr n'i entrast/ Ne ses
 1196 estre aparceu/ Qe de moy feiszez vostre
 996 jeo pas forfait,/ Qe vivre deusse bien
 178 cel povre vint errant:/ Forment l'ad feru
 173 beaulté avoit le pris/ Sour touz les dames
 596 Une gentile femme esposat/ Qe fille
 469 a ferir./ Amillioun fier le seneschal/
 533 Ke sir Amys son compaignoun/
 323 fuit bien quideit./ Les deuz furent issi
 Il ensembleront od grant delit:/ Par grant

Donqe comence pur fere joie:/ 'Jhesu Crist, le fiz seinte
Donqe comencea a purpenser/ Q'entre nonaynes se muscereit
Donqe commaund qe l'en ly lyast/ E en sa prison li gettast
donqe jugga le baronage/ Que plegges troverent en hostage
donqe li sovent:/ 'Bien sai', fait il, 'verraiment,/ De mon
donqe ove la dame ala/ En la chambre ou les enfaunz lessa
Donqe parla sire Amillioun/ E dit: 'Amis, beau compaignoun
Donqe quideront de verité/ Qe vous seiez lour seignur./ Si
Donqe se tint enfyn honie:/ Ne quideit pas q'il fuit en vie
donqe appelast,/ E pur Deu li conjurast/ Qe illoec morir le
Donqe fist sa femme demaunder,/ Car de li se veut venger
Donqe li dist sire Amyllioun:/ 'Oweyn, a la dame irrez
donqe maundereit/ E la verité de li querreit/ Qe son hanap
Donqe ne fuit aparcevant/ De lour estre tant ne quant./ A
Donques sarray de vous vengé!'/ Atant s'est Florie retorne
dont cel mal ly avenut./ Ele comaunda qe eus se teysent/ E
Dont les menestrauz furent feffez./ Le conte dona a ses
d'or,/ Ore suy tant demené/ Qe de ma vie est grant pité./ Si
dormerent/ E doucement eux entreacolerent./ Le pere
dormi,/ Une voiz oy qe li disoit/ Qe Amillioun trop bien
dormir,/ Aviz li fust qu'il deust morir./ Desouz un arbre se
Dormist, car mult fu travaillé,/ E son chival fuist mesaysé
dormist nule nust./ Touz les noitz issi chevaucha,/ Qe onke
dorreyt/ E de tote sa terre heir li freit./ Est venuz l'asemblé
doté/ Qe Amys un soul n'en ad trové./ Quoy pur doute quoq
doté./ Unke ne vous pout amer,/ Mal vus ad quis a son poer
dota./ Corteisement ly respundi:/ 'Damoisel, pur Deu mercy
dota de rien./ Ne savoit [nul] del chaump juger/ Lequel fuit
dota./ Le conte atant l'ad appellé:/ 'Dy moy,' fait il, 'fille
doucement eux entreacolerent./ Le pere [n']eut de ses fiz
Dount devisent la menere/ Coment e quant s'assemblerunt
dount fuites encusé./ S'il vous velt esposer,/ Li porriez de
Dount fut comaundé al baronage/ Qe eus feussent al mariage
dount il ad mester./ Vus dirrai de sire Amillioun/ Qe tant
Dount vous sert tot ceo fu/ Qe pur les dames fait esteit?/ Trop
doucour —/ De troeffle ne voil jeo parler —/ En pees se
doucour,/ Sauve chescuny honur./ Li seneschal ataunt se
doute qe pur pecché/ Del serment serrez encombré./ Pur vous
doute quoq pur pour,/ E trestouz virent qe le seignur/ Haist
doucur:/ 'Merci Deu, mon seignur,/ Meuz voil od vous suffrir
dowere le tenez!'/ Donke fist fere un turel:/ Petit fut mes
drap vestu esteit,/ La coupe devant li quens teneit./ Mout fu
draps,/ Sovent se claiment cheitif e las;/ Plein[en]t de grant
drein morust pur dolur./ Sire Amillioun fut molt prisé/ Qe
dreit a verité,/ Moult bien me dessenderay/ Devant qe jeo
dreit fust ceo at tort./ Nul ne oseit pur li parler,/ E le conte li
dreit grever./ Mes le seneschal primes li ferist,/ Qe son coup
dreit./ Le quens, quant le chevaler veit,/ Bien quideit qe ceo
dreit noun./ Donque li dist sire Amyllioun:/ 'Oweyn, a la
dreit noun est Mirabele,/ Mes Florie fust apelé/ De ceux qe
dreit seignur./ E la dame, quant li veu aveit,/ Qe Amillioun
dreu acolé/ E par amour sovent baiqué,/ E en quidoit qe ceo fu
dreu,/ Mes pur ceo ne vont lesser,/ Mes la resceut come sa
droitz amenusast./ Le conte fust de ceo marriz,/ Congé li
drui,/ Ne serrioms nous en fyn honye?'/ 'Hostez, hostez!' ceo
du mien./ Dame, sovenez vous del bien,/ Coment a manger
du pé./ Qe en la bowe est il versé./ Les chevalers vindrent del
du pays./ Bien furent entre eux couplés/ De parage e de
d'un conte estoit,/ E pere e mere perdu avoit;/ Pur heritage la
D'un grant launce enpoignal/ Parmi l'escu peint de asur
D'un leon fust assailli,/ Qe li fuist mortel enemy./ Del
d'un senblant/ Ne crerret home ja si parcevant/ Qe l'un de
duçour s'entrebeiserent./ De amour parlerent e juwerent./ De

647 coup li dona ceo jour./ La bataille ad bien
 598 peint de asur,/ Mes le hauberc fuist fort e
 654 fust bien anuié/ Qe la bataille ad tant
 285 Mescreaus estes e laner!/ Un play bien
 1210 turel:/ Petit fut mes molt bel,/ Si fut fort
 620 son cheval li ment?/ Del cop parlent
 169 Plus bon ne meuz [ne] serra fet./ Sa gent
 554 il ne pout estre trové,/ La dame fuit pris e
 1213 sa gent/ Outre tote la cité;/ La fu la dame
 983 l'autre la vist, si s'esmerveilla./ La coupe
 857 le fiz seinte Marie,/ Com longes me
 518 Que illoke est autre de moy;/ Car jeo vous
 690 dota./ Le counte atant l'ad appélé: /
 424 li quens, volez ensy?/ E jeo lealment vus
 368 ne sout quoy dire./ Le counte de mal ard e
 787 E quant longtemps out langui,/ Morust
 1161 par matyné/ Les deus countes sunt venuz/
 1104 qe regeir;/ Une bone robe li fist vene/
 361 ad malement,/ Qe nostre fille ad trahy
 1085 sauné.'/ Un jour s'est par matyn levé./
 438 velt aler:/ Son enuy monstrar li vout,/ /
 215 devant li quens teneit./ Mout fu beals
 135 Son quer me est abandoné,/ E jeo ly aym
 1097 chef trenché;/ E le sanc de eux ad quillé/
 1073 fiz de sa gendrure:/ Si les enfantz tuast/
 1026 li fust baillé./ Puis l'ad en haut levé./
 628 a pié;/ A plus tost q'il pout se vengereit,/ /
 Lour robes ount trestot chaungé,/ /
 550 jour vint qe fuist assis/ Entre le seneschal
 1236 ensement./ Moult se amerent fierement,/ /
 978 le vin versez,/ E ma coupe me reportez!'/ /
 358 vus avez!! Ele est ja femme de mester,/ /
 1172 Sa gent fist tot assemblier,/ Chasteleins
 349 Com leal chevaler le voil prover,/ /
 410 En la place estoit Amis/ Com esgarré
 1011 de li querreit/ Qe son hanap out perdu/
 762 counté/ Coment eust finé la bataille/
 44 Mestre mareschal sur touz/ Qi fort esteit
 625 seneschal se leve ataunt,/ Qe dolent est
 104 Atant se sunt entrebeysés,/ Plurent
 238 avenut./ Ele comaunda qe eus se teysent/
 180 Bien furent entre eux couplés/ De parage
 903 tant lour vint sur cherté/ De pain, vin
 1055 Servir le fist tot a talent/ De viande
 1076 pessoun./ Quant veu avoit l'avisioun/
 2 Q'amerent entre eus tant fierement,/ /
 10 Qi voet oyr chaunzon d'amur,/ De leauté
 Moult furent de grant vassalage,/ Gentils
 566 Del feu q'il vist fut grantment effraé/
 22 de la court avoient envie/ De lour estre
 121 veignant!/ De vous suy ore alé pensant/
 182 beautez./ Ore lerray de Amyllioun ester,/ /
 1137 Sire Amillioun, quant fust sané/
 1241 Tot ensi finist le sermoun/ De sire Amis
 584 la bataille,/ Sa fille a femme ly dorreyt/
 30 E si furent de une estature,/ De une forme
 576 qe ceo fuit Amys;/ De cors ressemblast
 874 Mout est entre eux grant pité:/ Plurent
 1194 ne soie de vous vengé./ Si fu[i] malades
 1004 Q'il ne li velt ocier./ Quant batu li out
 1199 bien,/ Coment a manger me menastes/
 617 le braunk en terre aval/ Plus qe plein pé
 775 terres est il seignur,/ De .iii. countez
 duré/ Desque noune fust passé./ Ly seneschal fist moult bien
 dur/ Qe de mal l'ad garri./ Le seneschal li referri;/ Lour
 duré;/ Un coup li voudra ja doner/ Qe li deit par dreit grever
 dur vus bateray:/ A mon pere le conteray/ Qe vers li estes e
 durement;/ De loin le virent tote sa gent/ Outre tote la cité
 durement:/ Dist l'un a l'autre qe le chivaler/ Ses armes sout
 durement l'amerent;/ A femme prendre li consaillerent./ Par
 durement lié,/ E la pucele ensement./ Grant pité avoient la
 durement lié./ Jamés de illoec ne pout issir;/ La demora
 durment regarda;/ Pensa cil: 'Coment poet estre?/ Ces deus
 durra ceste vie?/ Jeo solei aver grant tresour,/ Estre servi
 dy en bone foy/ Qe ele [est] mout aparcevante!'/ E sire Amist
 Dy moy,' fait il, 'fille bele,/ Amys pur vous ad combatu,/ Son
 dy/ Qe, s'il defaut a la bataille,/ Le juggement averez saunz
 d'yre,/ Devint plus noyr ke carboun./ Tost sailli hors de la
 e a Deu rendist s'alme;/ E tost après morust la dame./ Quant
 E a la porte descenduz,/ Qe nul fut aparcevant/ De lour venue
 E a mouster puis li menua./ La dame, sitost com vew li a,/ Pres
 e affolé./ Deu li doint male destiné!/ Si avra il, si jeo vive tant
 E al matin est il alé;/ Deu requist e son haut noun/ A son frere
 E ala qe mult se redut./ Ele li dist: 'Beau sir Amys,/ Trahir me
 e aligné,/ Des chivalers fuit moult prisé./ Entre eux
 e ameray;/ Pur nul autre ne li lerray/ Par [ceo] qu'il est chose
 E Amillioun dedeinz ad envelopé./ Sitost com le saunc senti
 E Amillioun en le saunk bainast,/ Si sain devendreit com
 E Amillioun le col tendist./ Mais l'enfant avant saillist
 E Amyllioun a pié se mettreit./ Mes il aparceut tost la manere
 E Amyllioun s'en est alé;/ Tut soul va saunz compainie./ Ore
 e Amys./ Le seneschal se fist armer,/ Puis demaunda le botiler
 E bone fut la compaignie./ Lor corps gisent en Lombardie,/ E
 E celi fist le comaundement/ E vint e porta le present./ Le
 E ceo ad fait nostre botiler./ Pur nostre bien hounte nous rend
 e chivalers./ Serjanz, vadlet e esquiers,/ Touz devant li
 E cil que de nous est venu/ Soit detret e puis pendu!'/ E dit li
 e com pensifs,/ Ne sout lequel il pout eslire,/ Mort ou vie, ne
 E coment est avenu./ Quant Amyllioun li oist nomer,/ De
 E coment eust fait la sposaille./ En une chambre puis
 e coragous./ De cel mester longtemps servirent/ E par tot bien
 e corucé/ Quant combatre deit a pié;/ A plus tost q'il pout se
 e crient de pité./ Suz cel n'ad home que la fust/ Qe dolur de la
 E d'autre chose s'enveysent./ En cel langur demora/ Tant que
 e de beautez./ Ore lerray de Amyllioun ester,/ E de sir Amys
 e de blé./ Qe donke ne poient home trover/ Qe rien lour voille
 e de boivre ensement./ E li memes a li vet/ Chescun jour sis
 E de cel sounge resperi,/ 'A, Deu!' dit il, 'qe onqe ne menti
 E de ceo se coroucent sovent./ De cors de visage bien
 e de grant doucour —/ De troeffle ne voil jeo parler —/ En
 e de grant parage;/ Fiz estoient de barons,/ Si vous dirroy
 E de les dames eust grant pité./ 'Sire,' dit il, 'jeo suy venu
 e de lour compainie,/ Q'amerent entre eus tant fierement,/ /
 E de misire Amillioun/ Qi a vous ert leal compaignon./ Ne
 E de sir Amys vus voil counter,/ Qe fuit demoré od son
 E de son grant mal netté,/ Sitost com porra prist congé,/ En
 e de syre Amillioun./
 E de tote sa terre heir li freit./ Est venuz l'asemblé;/ Ore mes
 e de une nature./ Leals furent envers lor seygnur,/ Bien le
 e de vis./ Bons armes demaunda/ E li memes le chivaler arma
 e decirent lour draps,/ Sovent se claiement cheitif e las
 e defet,/ Pur ceo n'avojeo pas forfait,/ Qe vivre deusse bien
 e defolé/ Que ses mains sunt allassé,/ Donqe commaund qe
 E del pais m'enchaceastes;/ Puis feistes jurer mon serjant/ Qe
 e demy;/ Le seneschal a terre chay./ Qe pout, quant son cheval
 e demy,/ Si tost come li quens est fini./ Ore est amé e tenu

163 E lour ad trestouz doné/ Bons chevaus
 8 trovay;/ Q'en la court un counte estoient/
 80 seignz un seneschal/ Qe mout est feloun
 1238 Lor corps gisent en Lombardie,/ e deners,/ E robes a ses esquiers./ E il memes si bel estoyt/ Qe
 204 dameleles del pais/ En sa chambre noeф E des armes li servoient./ Moult furent de grant vassalage
 273 Florie par grant errour!/ Ele li respondi e desleal/ E si est de mult grant parenté;/ Pur ceo est il le plus
 74 le departir./ Donqe parla sire Amillioun/ E Deu fait pur eus grant vertuz:/ Les voegles ver, parler les
 351 nous est venu/ Soit detret e puis pendu!'/ e dis,/ Qe touz fesoient sa volonté;/ De countredit n'en ad
 260 demora/ Qe tot son corage discovery:/ e dist: 'Coment/ Vous ay amé clement?/ Qe jeo vus ay doné
 827 son parent,/ Od li tint fer[m]ement,/ E dit: 'Amis, beau compaignoun,/ En bone foy saunz tresoun
 389 de gage/ Com home de grant vasselage,/ E dit li quens: 'Ore vaut meins!/ Ceste play m'est laid e
 908 covient lor asne vendre/ Pur cink souz E dit pur l'amur de luy/ Morust, s'il n'eust de li pité/ E que ele
 525 compainie./ Ore Deus li soit en aye/ E dit que li ne velt guerpir/ Ne pur vivre ne pur morir./ La dame
 395 son gant,/ E li quens [les] resceust atant./ E dit que od li combat[er]oit/ E la verité provereit./ Est veus
 859 aver grant tresour,/ Estre servi d'argent e diz e maille;/ De ceo acateront lour vitaille./ Estre ceo lour
 1093 est entré/ Ou les deus enfanz dormerent;/ E doigne q'il puisse bien fere!! Grant chose enprent pur son
 598 peint de asur,/ Mes le hauberc fuist fort E doneq jugga le baronage/ Que plegges troverent en hostage
 554 il ne pout estre trové,/ La dame fuit pris e d'or,/ Ore suy tant demené/ Qe de ma vie est grant pité./ Si
 368 ne sout quoy dire./ Le counte de mal ard E doucement eux entreacolerent./ Le pere [n']jeust de ses fiz
 745 trahir./ Moult parfound getta un sospir,/ e dur/ Qe de mal l'ad garri./ Le seneschal li referri;/ Lour
 235 erent/ Purquei ceo fuy ly demaunderent./ e durement lié,/ E la pucele ensement./ Grant pité avoient la
 697 velt esposer,/ Li porriez de quer amer?'/ e d'yre,/ Devint plus noyr ke carboun./ Tost sailli hors de la
 248 ne targa mye:/ De sa dame prist congé,/ E el suspir geint forment./ La dame l'acola tendrement,/ Si li
 739 dreu acolé/ E par amour sovent baisé,/ E ele dit que malade fuit,/ Ne sout dont cel mal ly avenut./ Ele
 1007 Donqe commaudq qe l'en ly iyast/ E ele respount moult simplement:/ 'Tot soit a vostre talent
 514 amur/ Qe de ma femme facez atant,/ En fet E ele tantost li ad doné./ Nomer vous dey la pucele:/ Son dreit
 97 preu e grant honur avrez!/ Lessez orgoil E en quidoit qe ceo fu Amys./ Mes Amillioun, qe fu pensifs
 528 Amys remaint od la meisné,/ Cum li sire E en sa prison li gettast./ Amillioun doncue maundereit/ E la
 196 out plus bele./ Deus countes la desirent,/ e en semblant,/ Come jeo memes iceo fuisse,/ Qe ele
 706 barons e les chevalers,/ Borgés, sergeans e envie,/ Si vous gardez de glotonie!/ Amez bien vostre
 1173 Chasteleins e chivalers./ Serjanz, vadlet e envoyé,/ E quiderount trestouz pur voir/ Qe ceo fuit lour dreit
 590 les chivalers/ Qi mult sunt orguillous E esposer la volirent,/ Mes ele a trestouz respoundi/ Ne vout
 148 verreyt./ Amis lessa le temps aler,/ Ala e esquiers./ Quant touz furent assemblé,/ La pucele fut amené
 101 q'il eit deshonur!/ Mout li devez amour e esquiers,/ Touz devant li venerent;/ Merci crier touz
 613 sur l'arsoun devant;/ Trestut trencha quir e fiers./ Ne avera mester de acord;/ L'un hiet l'autre desq'a la
 818 venir./ Cil soffri en cel an/ Grant dolur e fist son mester;/ Servi le counte com il soleyt,/ E le counte
 96 A tote gent bel responez,/ Grant preu e foy,/ Car bien ad amé vous e moy.'/ Atant se sunt
 773 Car cru li est par mariage/ Grant seignurie e fust/ Com si rasour trenché le eust./ Parmy l'espaulde del
 704 a terce sonant/ Touz i furent, petit e grant han./ Ses chevalers touz departoient,/ Ses garsons
 853 avant./ Tantost counta a son seignur,/ e grant honur avrez!/ Lessez orgoil e envie,/ Si vous gardez de
 488 l'ad esveillé./ E sa gent passerent avant,/ e grant honur:/ De grant terres est il seignur,/ De .iii. countez
 941 appeleyt,/ Demaundast s'il vout servir./ e grant,/ Les barons e les chevalers,/ Borgés, sergeans e
 1023 ja ne faudrez!'/ Tantost espeie demaunda,/ E il dit: 'C'est mal dolur/ Quant n'avom a boivre ne a manger
 165 chevaus e deners,/ E robes a ses esquiers./ E [i]l entendi nepurqant;/ De son estre saver voleit./ Si li
 64 en guerre,/ Maundast a ly hastivement,/ E il getta un grant suspir;/ Cil dit q'il out un seignur/ Q'il ne
 245 nul remis/ Des chevalers for sire Amis,/ E il memes dist q'il le tuerat./ Tost l'espeie li fust baillé./ Puis
 424 'Voir,' dit li quens, volez ensy?/ E il memes si bel estoyt/ Qe tut le pays le disoyt/ Si Deu
 135 soit alé,/ Son quer me est abandoné,/ E il od force de sa gent/ Vendroit a ly, ceo li jura./ Amyllioun
 324 s'entrebeiserent./ De amour parlerent E il remist pur maladie./ E la damesele ne targa mye:/ De sa
 531 pur voir/ Qe ceo fuit lour dreit seignur./ E jeo lealment vus dy/ Qe, s'il defaut a la bataille,/ Le
 246 for sire Amis,/ E il remist pur maladie./ E jeo ly aym e ameray;/ Pur nul autre ne li lerray/ Par [ceo]
 392 tote la court ensemble/ Ly chivalers e juwerent./ De autre chose ne dirra[i] mie;/ Ne croy pas q'il y
 328 quant sout la covine/ Entre Amis E la dame, quant li veu aveit,/ Qe Amillioun fuit bien quideit
 722 le poet./ Amillioun l'ad bien entendu,/ E la damesele ne targa mye:/ De sa dame prist congé,/ E ele
 555 trové,/ La dame fuit pris e durement lié,/ e la meisné./ Li un countre l'autre tendi son gant,/ E li quens
 686 touz beiser:/ Sur touz li fist la dame joie,/ e la meschine,/ L'endemain vint tot a hounte:/ Acounté est tot
 366 mal garrant./ Tut ert detret e puis pendu,/ E la prist sicom son dreu,/ Mes pur ceo ne vout lesser,/ Mes la
 877 Plein[en]t de grant chivalrie/ Le honur E la pucele ensement./ Grant pité avoient la gent:/ Plurent e
 1009 li gettast./ Amillioun doncue maundereit/ E la pute arse en fu!'/ La dame ne sout quoy dire./ Le counte de
 390 vasselage,/ E dit que od li combat[er]oit/ e la seignurie/ Qe sire Amillioun avoit eu,/ Qe ore est devencu
 284 n'estes pas chevaler!/ Mescreaus estes E la verité de li querreit/ Qe son hanap out perdu/ E coment est
 875 lour draps,/ Sovent se clament cheifif E la verité provereit./ Est veus tote la court ensemble,/ Ly
 982 vein,/ Prist sa coupe hors de son sain,/ e laner!/ Un play bien dur vus bateray:/ A mon pere le
 e las;/ Plein[en]t de grant chivalrie/ Le honur e la seignurie
 E l'autre la vist, si s'esmerveilla./ La coupe durment regarda

292 Amis mout se purpensa;/ Le un mal
 420 pur morir;/ Devant le counte se genula/
 406 ceo at tort./ Nul ne oseit pur li parler,/ /
 989 counta/ Coment a soen ressembleit./ /
 150 mestre;/ Servi le counte com il soleyt,/ /
 1096 fiz pité:/ Ambedeus ad le chef trenché;/ /
 831 est ennuyé,/ Ambedeus s'est hors getté;/ /
 831 Ambedeus s'est hors getté;/ E le seignur
 496 resoun:/ 'Beau frere, quant avez forfait/
 500 encombré./ Pur vous la bataille fray,/ /
 1125 recoveroms.' Atant la parole ount lessé/
 929 receuz./ Pres [de] la porte se sount mis,/ /
 1177 maltaient lour pardona,/ Od sei les tint
 705 Touz i furent, petit e grant,/ Les barons
 933 Des povres les estres e les maneres/
 734 Le counte dona a ses esquiers/ Les chivals
 932 tut entour/ Des povres les estres
 935 Les gentils homes, qe alere[n]t juaunt/
 1056 talent/ De viande e de boivre ensement./ /
 578 e de vis./ Bons armes demaunda/
 394 Li un countre l'autre tendi son gant,/ /
 219 Qe unque si bel chevaler ne veient;/ /
 669 purfendant./ En la cervele cola le brank./ /
 162 de maisné./ Tant fuit de sa gent amé,/ /
 764 En une chambre puis entrerent/
 977 gardé:/ En son esquiel le vin versez,/ /
 908 lor asne vendre/ Pur cink souz e diz
 453 Ne fina unke soir ne matyn,/ Poy mangea
 789 morust la dame./ Quant mortz furent pere
 174 Qe fille d'un counte estoit,/ E pere
 1134 Del ray del solail s'ajoierent./ Pere
 917 Par la terre tant alerent/ Qe feym
 184 counter,/ Qe fuit demoré od son seygnur/
 127 Requer qe soyez mon amy,/ Mon ami
 930 sount mis,/ E l'enfant, qe bien fust apris/
 921 Amys/ Qe noble court illoeq tenoit/
 1115 La dame ses meins a Deu tendi/
 200 mary./ A grant cherté le tynt le pere,/ /
 102 devez amour e foy,/ Car bien ad amé vous
 287 A mon pere le conteray/ Qe vers li estes
 1143 seignur estoit garri/ E q'il revint el pais/
 738 a coucher./ La dame ad son drew acolé/
 46 De cel mester longtemps servirent/
 936 povres regardant,/ Veu ount l'enfant bel
 308 savera home de mere nee.' Tant li ad dit
 112 va ver son pays,/ Li autres remeint tristes
 174 esposat/ Qe fille d'un counte estoit,/ /
 557 Grant pité avoient la gent:/ Plurent
 979 E celi fist le comaundement/ E vint
 756 celer.' Tot lour estre luy ad counté,/ /
 350 E cil que de nous est vencu/ Soit detret
 365 Ne li ert nul de mal garrant./ Tut ert detret
 865 fray.' L'enfant a soi doneque appelast,/ /
 431 fu dolente la meschine./ Amis se retrat
 748 tendrement,/ Si li demaunda quoi pensoit/
 895 li counta./ Ele li fist un asne aver,/ /
 1032 mercy!/ Pur icel Deu qe onqe ne menti/
 227 tant ert beaus/ E tres gentil dameyseals,/ /
 1142 aveit oy/ Qe son seignur estoit garri/
 553 se fist armer,/ Puis demaunda le botiler;/ /
 786 Tant qe le counte enmaladi./ /
 509 demorront;/ A ma court od vous irrount./ /
 311 Dount devisent la menere/ Coment

e l'autre mout dota./ Corteisement ly respundi:/ 'Damoisel
 E le chivaler demaunda:/ En hostage pur li serreit,/ En son
 E le counte li velt venger./ Quant ne pout trover plevine
 E le counte moult esmerveileit,/ De Amillioun doncq li sovent
 E le counte mout li amoyt:/ Od sei le tint plus privé/ Qe nul
 E le sanc de eux ad quillé/ E Amillioun dedeinz ad envelopé
 E le seignur e le serjant,/ Sire Amylloun e son enfant,/ A chef
 e le serjant,/ Sire Amylloun e son enfant,/ A chef de la vile a
 E le serment avez fet,/ Jeo me doute qe pur pecché/ Del
 E le serment lealment juray/ Qe jeo unke ne li forfiz,/ E
 E le service Deu ount escoté./ Aprés la messe vint a mesoun
 E l'enfant, qe bien fust apris/ E moult ama son seignur,/ Ala
 e les ama./ Donque fist sa femme demaunder,/ Car de li se veut
 e les chevalers,/ Borgés, sergeans e esquiers./ Quant touz
 E les custumes de les terres./ Les gentils homes, qe alere[n]t
 e les destrers./ Ore vus dei jeo bien counter/ Coment il firent a
 e les maneres/ E les custumes de les terres./ Les gentils homes
 E les povres regardant,/ Veu ount l'enfant bel e parceu,/ E
 E li memes a li vet/ Chescun jour sis foiz ou sept;/ Tant com
 E li memes le chivaler arma./ En son corage fust bien paié
 E li quens [les] resceust atant./ E doncq jugga le baronage/ Que
 E li quens memo le dist/ Qe onqe si bel chivaler ne vist./ Touz
 E l'oraille od tote la face/ Voler fist enim la place./ Le bras od
 E lour ad trestouz doné/ Bons chevaus e deners,/ E robes a ses
 E lour robes chaungerent;/ Donque ne fuit aparcevant/ De lour
 E ma coupe me reportez!'/ E celi fist le comaundement/ E vint
 e maille;/ De ceo acateront lour vitaille./ Estre ceo lour fount
 e mains beust,/ Si ne dormist nule nust./ Touz les noitz issi
 e mere,/ Il ne eust soer ne frere/ For soul la dame qe Amis avait
 e mere perdu avoit;/ Pur heritage la moyté/ Li fuit escheu del
 e mere, quant ceo virent,/ A Deu graces en rendirent./ Sire
 e me[s]aise troverent/ Desques eus vindrent el pais/ Ou
 E meuz li servi de jour en jour./ Taunz com Amis meuz li
 e mon bien voilant.' Amis respount aitant:/ 'Sire seneschal
 E moult ama son seignur,/ Ala demaundant tut entour/ Des
 E moult grant ben fesoit./ La povre gent tot enviroun/ Ala
 E mout graces li rendi,/ Donque comence pur fere joie:/ 'Jhesu
 E mout l'ama auxi la mere./ La damoysele fuit bien gardé
 e moy.' Atant se sunt entrebeysés,/ Plurent e crient de pité
 e moy forfet,/ E serrés des chivals destret./ Donques serray de
 E od li le counte Amis,/ Tel ad el quer dolur/ Qe unque femme
 E par amour sovent baisé,/ E en quidoit qe ceo fu Amys./ Mes
 E par tot bien loé furent./ Amillion demorra/ Atant qe son
 e parceu,/ E [s']il fuit auke vestu,/ Gentil home ressemblereit
 e parlé/ Ore sunt a un de cel affere,/ Dount devisent la menere
 e pensifs./ Quant Amis de palmisoun levoit,/ Vers la court sei
 E pere e mere perdu avoit;/ Pur heritage la moyté/ Li fuit
 e plaignent lour beauté./ Li quens, que mout fuit irré,/ Ala
 e porta le present./ Le povres, qe mesel fuit en vein,/ Prist sa
 E puis dit q'il prendra congé,/ Quant il eust le congé pris,/ E
 e puis pendu!'/ E dit li quens: 'Ore vaut meins!/ Ceste play
 e puis pendu,/ E la pute arse en fu!'/ La dame ne sout quoy dire
 E pur Deu li conjurast/ Qe illoec morir le lessast,/ E yl en son
 e purpensa/ Com celi qe grant mester en a./ De son frere li
 E purquei tels suspirs getteit./ Donke dit sir Amillioun: —/ Ne
 E pus sus les seintz jurer/ Qe mes en le pais [ne] vendreit/ De
 E q[ue]i en croiz suffri passiouen,/ C'est mi sires, sire Amillioun
 E q'il fuit tant bon chivaler/ Q'en la court n'out son per./ La
 E q'il revint el pais/ E od li le counte Amis,/ Tel ad el quer
 E quant il ne pout estre trové,/ La dame fuit pris e durement lié
 E quant longtemps out langui,/ Morust e a Deu rendist s'alme
 E quant nous averoms robes chaungé,/ Donque quideront de
 e quant s'assemblerunt./ Allas! Q'encusé serrount,/ Qe trestot

de luy/ Morust, s'il n'eust de li pité/
 502 lealment juray/ Qe jeo unke ne li forfiz,/ /
 529 od la meisné,/ Cum li sire e envoyé;/ /
 164 ad trestouz doné/ Bons chevaus e déners,/ /
 487 part torné,/ Tendrement l'ad esveillé./ /
 449 E un palefroy mounta/ Saunz garsoun
 1052 En sa chambre li ad couché./ Bainer li fist
 837 Mis estes a povre garisoun!/ Jadis fu sire
 758 congé,/ Quant il eust le congé pris,/ /
 295 pur Deu mercy./ Vostre amy suy
 288 conteray/ Qe vers li estes e moy forfet,/ /
 474 Tost appela ses chevalers,/ Ses garsouns
 81 seneschal/ Qe mout est feloun e desleal/
 29 avisast/ Qe l'un de l'autre desceverast./ /
 560 fuit irré,/ Ala hastaunt lour juggement,/ /
 809 Qe tot son pel ly arracha./ Si malade
 602 referri;/ Lour launces ount as coups brusé/
 937 Veu ount l'enfant bel e parceu,/ /
 664 coup rendre,/ Li autre s'en irra gabbant./ /
 650 passé./ Ly seneschal fist moult bien,/ /
 520 foy/ Qe ele [est] moult aparcante!'/ /
 779 mes estre botiler./ Consailler fut fait
 462 deust morir./ Desouz un arbre se cocha,/ /
 464 raym lya./ Dormist, car mult fu travaillé,/ /
 268 pour pur hounte descouverit/ Sa volonté
 832 E le seignur e le serjant,/ Sire Amylloun
 386 denieray.'/ Le seneschal atant se vint/
 1086 levé./ E al matin est il alé;/ Deu requist
 335 traitour m'ad issi hony,/ Que tant amey
 258 Parler a Amys que ele ama./ Tant parla
 387 se vint/ E son gaunt en son poing tint,/ /
 777 tost come li quens est fini./ Ore est amé
 788 langui,/ Morust e a Deu rendist s'alme;/ /
 472 enemy./ Del sougne fut moult effraé/
 1131 lessa./ Les enfantz furent estranglés./ /
 226 damoisele/ Del botiler qe tant ert beaus/
 282 Tant gentils hommes m'ont prié,/ /
 402 ad trové./ Quoy pur doute quoy pur pour,/ /
 1222 le counte out comaundé./ Un an vesqui
 448 aver la vie!'/ Atant congé ly dona,/ /
 352 'Ore vaut meins!// Ceste play m'est laid
 979 reportez!'/ E celi fist le comaundement/
 132 nul autre amer/ Quant talent me doint
 296 pur Deu mercy./ Vostre amy suy e serray,/ /
 693 ad combatu,/ Son enemi ad confundu;/ Ly
 867 li conjurast/ Qe illoec morir le lessast,/ /
 565 amblure;/ Del feu q'il vist fut grantement
 471 mortel enemy./ Del sougne fut moult
 140 Mes de taunt me poez crere/ Qe, si vous
 906 home trover/ Qe rien lour voille doner./ /
 717 novele:/ Si vous esposez la damoisele,/ /
 100 bien vostre seignur,/ Ne soffrez q'il
 639 Un grant coup li vint doner/ Amount
 27 de une robe vestu estoient,/ N'est home
 1142 Qe son seignur estoit garri/ E q'il revint
 918 me[s]aise troverent/ Desques eus vindrent
 1144 el pais/ E od li le counte Amis,/ Tel ad
 745 Moult parfound getta un sospir,/ E
 197 la desirent,/ E esposer la volirent,/ Mes
 257 par congé de sa mere/ Parler a Amys que
 237 fuit,/ Ne sout dont cel mal ly avenut./ /
 235 erent/Purquei ceo fuy ly demaunderent./ E
 516 Come jeo memes iceo fuisse,/ Qe

E que ele fust de ly amé,/ Que si de ly amour ne avoit,/ Jamés
 E quiderount qe jeo soy Amys./ Jeo espoir par la grace de Dé
 E quiderount trestouz pur voir/ Qe ceo fuit lour dreit seignur
 E robes a ses esquiers./ E il memes si bel estoyt/ Qe tut le
 E sa gent passerent avant,/ E [i]l entendi nepurqant;/ De son
 e saunz esquier,/ N'ala pas com chivaler/ Mes ala com peirin
 e seignier,/ Con son corps li fist garder,/ Servir le fist tot a
 e seignur;/ N'est pas merveile s'il ad dolur./ La mort desire
 E seignurs ove ly desqe a dis,/ En son pais s'en est alé,/ A
 e serray,/ E vostre serjant tant com jeo viveray./ Vers vous ne
 E serrés des chivals destret./ Donques serray de vous vengé!
 e ses esquiers./ Touz lour fist mettre lour seeles;/ Unke ne lour
 E si est de mult grant parenté;/ Pur ceo est il le plus doté
 E si furent de une estature,/ De une forme e de une nature
 E si jura grant serement/ Qe il memes les verreit arder./ Ataunt
 e si laid devint/ Qe checun pur mesel li tint./ La dame li tint
 E si sunt outrepasseé./ A cel encoultre tant firent bien/ Qe l'un
 E [s']il fuit auke vestu,/ Gentil home ressemblereit./ Un de eux
 E sire Amillioun atant/ Ferir li vint par tel ayr/ Qe le feu fist
 E sire Amillioun ne dota de rien./ Ne savoit [nul] del chaump
 E sire Amist trestut le graunte./ Lour robes ount trestot
 e sire;/ Quantq'il voleit porreit dire./ Tenu fut par tote la terre
 E son chival a une raym lya./ Dormist, car mult fu travaillé,/ E
 E son chival fuist mesaysé,/ Amyllioun en son lit giseit
 e son desir./ De respoundre se purpenseoit/ Com celi q talent
 e son enfant,/ A chef de la vile a un bordel/ Illoc lour fist aver
 E son gaunt en son poing tint,/ E tendist en noun de gage
 e son haut noun/ A son frere doine garisoun./ La dame vint, qe
 e tant ting cher,/ En qe me porrai affier?/ Si est grant desert
 e taunt demora/ Qe tot son corage descovery./ E dit pur l'amur
 E tendist en noun de gage/ Com home de grant vasselage,/ E
 e tenu cher;/ N'estoet mes estre botiler./ Consailler fut fait e
 E tost après morust la dame./ Quant mortz furent pere e mere
 E tost sus sailli com home desvee./ Tost appela ses chevalers
 E tot vifs les ount trovez!// En lor lit s'entrebeysèrent,/ Del
 E tres gentil dameyseals,/ E q'il fuit tant bon chivaler/ Q'en la
 E trestouz ai je refusé./ Certes n'estes pas chevaler
 E trestouz virent qe le seignur/ Haist Amys desqe a la mort
 e un jour;/ A drein morust pur dolur./ Sire Amillioun fut molt
 E un palefroy mounta/ Saunz garsoun e saunz esquier;/ N'ala
 e vileins.'/ Atant en la chambre entrat,/ La dame sur un lit
 E vint e porta le present./ Le povres, qe mesel fuit en vein
 e voler./ Si Amilliouns soit alé,/ Son quer me est abandoné
 E vostre serjant tant com jeo viveray./ Vers vous ne
 e vous ad aquité/ Del fait dount fuistes encusé./ S'il vous velt
 E yl en son pais alast./ L'enfant respoundi par grant douçur
 effraé/ E de les dames eust grant pité./ 'Sire,' dit il, 'jeo suy
 effraé/ E tost sus sailli com home desvee./ Tost appela ses
 e iez de moy affere,/ Jeol vous fray od graunt douçour,/ Sauve
 Einz ne point plus entendre/ Q'il covient lor asne vendre
 Einz qe soint .iii. anz passez,/ après de ceste leprouz serrez
 e it deshonur!/ Mout li devez amour e foy,/ Car bien ad amé
 e l heaulme peint de flurs,/ Qe tost abati les colurs./ Sur le
 e l mound qe les avisast/ Qe l'un de l'autre desceverast./ E si
 e l pais/ E od li le counte Amis,/ Tel ad el quer dolur/ Qe unque
 e l pais/ Ou sojorna le counte Amys/ Qe noble court illoeq
 e l quer dolur/ Qe unque femme ne out greignur./ Donqe se tint
 e l suspir geint forment./ La dame l'acola tendrement,/ Si li
 e le a trestouz respoundi/ Ne vout uncore aver mary./ A grant
 e le ama./ Tant parla e taunt demora/ Qe tot son corage
 Ele comaunda qe eus se teysent/ E d'autre chose s'enveysent
 e le dit que malade fuit,/ Ne sout dont cel mal ly avenut./ Ele
 e le encheson ne troesse/ Qe illoke est autre de moy;/ Car jeo

339 desert venu:/ Ma fille est pute devenu./
 357 dit il, ‘ne savez/ Quelle fille vus avez!/
 519 de moy;/ Car jeo vous dy en bone foy/ Qe
 1151 lasse cheitive;/ Moult luy poise qe
 266 Amis, quant l’ad escoté,/ Quideit que
 262 de luy/ Morust, s’il n’eust de li pité/ E que
 1061 Qe li ama molt de fin quer/ Comme si
 439 monstrer li vout,/ E ala qe mult se redut./
 894 a la dame ala,/ Son message li counta./
 273 Estez vous Florie par grant errorr!/
 890 puis aler a pié;/ Priez a lui par charité/ Qe
 1152 Moult luy poise qe ele est vive./ Ne saet
 1183 muscé./ Sitost com vist son seignur./
 1152 qe ele est vive./ Ne saet ele pas quoi
 267 l’ad escoté,/ Quideit que ele fuit devee/ Qe
 1127 la messe vint a mesoun;/ Joiouse est
 254 le congé en eust,/ S’a hasté a plus que
 697 velt esposer,/ Li porriez de quer amer?/ E
 248 ne targa mye:/ De sa dame prist congé,/ E
 815 Ne od li beivre ne manger./ Meuz, ceo dit
 992 fait il, ‘verraiment,/ De mon frere l’ad
 871 od vous suffrir dolur/ Qe sanz vous estre
 943 out un seignur/ Q’il ne lerret pur estre
 432 e purpensa/ Com celi qe grant mester
 1102 ne en face/ De maladi ne appareust trace./
 771 Qe tant ama come sa vie./ Ore est mout
 298 vous ne mesprendroie mye/ Par quei vous
 467 Deleez sa femme se cocheit;/ Si s’avint
 524 va saunz compainie./ Ore Deus li soit
 1232 En bone vie longtemps vesqui;/
 800 par amour de moy —/ Car jeo vus aime
 518 illoke est autre de moy;/ Car jeo vous dy
 70 amy/ Amys, q'estoit son compaignoun,/

E dit: ‘Amis, beau compaignoun,/

75 sa terre li herita,/ Qe bien aveit deservy./
 1231 morir/ Qe a li vousist venir./ Cil soffri
 817 Desque en la haunce le branc cola./
 6 se teysent/ E d’autre chose s’enveysent./
 239 mynuyt;/ As autres ne fuist pas deduit./
 481 serjant/ Qe jeo ne deusse en mon vivant/
 1202 senti,/ De son grant mal est il garri,/ Qe
 1100 Pur icel Deu qe onqe ne menti/ E qe
 514 pur mesel li tint./ La dame li tint trop
 1032 De deus juvenceals vous dirray,/ Sicom
 811 fist a grant honur:/ Touz les ad dobbez
 6 de sa meisné./ Florie, quant le congé
 253 son grant mal est il garri,/ Qe en corps ne
 1100 par amur/ Qe de ma femme facez atant,/

Qe Amillioun trop bien garreit/ S'il

366 Tut ert detret e puis pendu,/ E la pute arse
 303 feissez vostre dru,/ Ne serrioms nous
 62 eust od ly affere,/ Fuist ceo en pees ou
 1030 poet suffrir/ Qe son seignur deust morir./
 1025 Tost l’espae li fust baillé./ Puis l’ad
 396 jugga le baronage/ Que plegges troverent
 421 se genula/ E le chivaler demaunda:/
 184 od son seignur/ E meuz li servi de jour
 997 vint errant:/ Forment l’ad feru du pé./ Qe
 668 Qe le healme fust tot purfendant./
 353 Ceste play m'est laid e vileins.’/ Atant
 1129 Amys donqe ove la dame ala/
 224 matire aveient./ Est venuz la novele/
 926 qe eus veit, qu'il sount;/ Si eus fuissent

Ele est honie, jeo suy trahi;/ Cel fel traître m’ad icy servy./ A
 Ele est ja femme de mester,/ E ceo ad fait nostre botiler./ Pur
 ele [est] mout aparcavante!'/ E sire Amist trestut le graunte
 ele est vive./ Ne saet ele pas quoi ele poet fere;/ Si se met
 ele fuit devee/ Qe ele pout pur hounte discoverir/ Sa volonté e
 ele fust de ly amé,/ Que si de ly amour ne avoit,/ Jamés home
 ele fust sa soer;/ Plus ne li poet fere companie./ Treis anz
 Ele li dist: ‘Beau sir Amys,/ Trahir me volez, m'est avys!'/ Si
 Ele li fist un asne aver,/ E pus sus les seintz jurer/ Qe mes en
 Ele li respondi e dist: ‘Coment/ Vous ay amé clement?/ Qe
 ele me face une ane doner/ Qe jeo puisse chivacher.’/ L'enfant
 ele pas quoi ele poet fere;/ Si se met hors de la terre,/ Ne la
 Ele pauma de pour./ Le seignur la fist relever,/ Bel la comence
 ele poet fere;/ Si se met hors de la terre,/ Ne la savera plus
 ele pout pur hounte discoverir/ Sa volonté e son desir./ De
 ele pur Amyllioun,/ Amys donqe ove la dame ala/ En la
 ele pust:/ Ove une soule chambere/ Ala par congé de sa mere
 ele respount moult simplement:/ ‘Tot soit a vostre talent!'/ Si
 ele tantost li ad doné./ Nomer vous dey la pucele:/ Son dreit
 ele, veut morir/ Qe a li vousist venir./ Cil soffri en cel an
 emblé./ Qe cher serra achaté!'/ Outre la table saut ataunt,/ A
 emperour.’/ Quant l’un l'autre ad regarde,/ Mout est entre
 emperur./ Qy ceo fuit li demaundeint,/ Mes sitost com il
 en a./ De son frere li sovynt;/ Tantost a la countesse vynt
 En Amis ne out qe regeir;/ Une bone robe li fist tener/ E a
 en astage,/ Car cru li est par mariage/ Grant seignurie e grant
 en averyez vilenye/ Ne de vostre corps hontage./ Jeo preng
 en avisoun/ Ke sir Amys son compaignoun/ D'un leon fust
 en aye/ E doigne q'il puisse bien fere!'/ Grant chose enprent
 En bienfaitz se pena./ Après sa mort a Deu ala;/ Amis, son
 en bone fey —/ Ta espee nue meistes entre nous,/ Sire
 en bone foy/ Qe ele [est] mout aparcavante!'/ E sire Amist
 En bone foy saunz tresoun./ De plur ne se poet tenir,/ Car
 En bone vie longtemps vesqui;/ En bienfaitz se pena./ Après
 en cel an/ Grant dolur e grant han./ Ses chevalers touz
 En cel champ fu ben vengé;/ Par li mes n'iert encusé./ S'il
 En cel langur demora/ Tant que li quens s'en ala/ A boys juwer
 En cele nyuyt tant errerent/ Qe parmy le boys passerent/ Ou
 En ceo pais revener,/ Ne pur vivre ne pur morir./ Suvenez
 en corps ne en face/ De maladi ne appareust trace./ En Amis
 en croiz suffri passioun,/ C'est mi sires, sire Amillioun!'/ Sire
 en despit:/ Ne voleit entrer en son lit,/ Ne voleit auxi od lui
 en escrit le trovay;/ Q'en la court un counte estoient/ E des
 en estour,/ Lour trova si com il voleint;/ Hautement lour feste
 en eust,/ S'a hasté a plus que ele pust:/ Ove une soule
 en face/ De maladi ne appareust trace./ En Amis ne out qe
 En fet e en semblant,/ Come jeo memes iceo fuisse,/ Qe ele
 en fist mettre cure/ [Des] deus fiz de sa gendrure:/ Si les
 en fu!'/ La dame ne sout quoy dire./ Le counte de mal ard e
 en fyn hony?/ ‘Hostez, hostez!’ ceo dit Florie,/ ‘Nous le
 en guerre,/ Maundast a ly hastivement,/ E il od force de sa
 En haut cria: ‘Mercy, mercy!'/ Pur icel Deu qe onqe ne menti/ E
 en haut levé./ E Amillioun le col tendist./ Mais l'enfant avant
 en hostage./ Le seneschal ad taunz trové/ Ke le counte fut
 En hostage pur li serreit,/ En son plegge devendreit./ ‘Voir,’
 en jour./ Taunz com Amis meuz li serveyt,/ Le seneschal plus
 en la bowe est il versé./ Les chevalers vindrent del deys,/ Qe
 En la cervele cola le brank./ E l'oraille od tote la face/ Voler
 en la chambre entrat,/ La dame sur un lit trovat./ ‘Dame,’ dit il
 En la chambre ou les enfaunz lessa./ Les enfantz furent
 En la chaumbre a la damoisele/ Del botiler qe tant ert beaus/ E
 en la cort comuz,/ A grant honur scritteint receuz./ Pres [de] la

672 Le bras od le brank trencha:/ Desque
 409 plevine,/ Pausmé chei la meischine./
 115 Vers la court sei retorneyt;/ Sitost com
 221 onqe si bel chivaler ne vist./ Touz ceus qe
 608 le brank d'asser;/ Le seneschal ferir ala,/br/>
 896 aver,/ E pus sus les seintz jurer/ Qe mes
 1073 Si les enfantz tuast/ E Amillioun
 1237 fut la compaignie./ Lor corps gisent
 915 cocher,/ A plus q'il pout li eysa,/ De long
 1132 estranglés./ E tot vifs les ount trovez!
 276 Qe jeo vus ay donné m'amur?/ Ja
 277 Ja en ma vie après ceo jour/ Ne serray
 1201 jurer mon serjant/ Qe jeo ne deusse
 130 aitant:/ 'Sire seneschal, vostre amisté/
 479 qe tant pout amer./ Trusser s'en vount
 1207 Celi averez tant com vus viverez;/
 387 E son gaunt en son poing tint,/ E tendist
 62 Mes s'il eust od ly affere,/ Fust ceo
 4 —/ De troeffle ne voil jeo parler —/br/>
 429 '/ La dame lermit pur pité,/ Prist Amis
 229 Q'en la court n'out son per./ La pucele
 336 hony,/ Que tant amey e tant ting cher,/br/>
 739 dreu acolé/ E par amour sovent baisé,/ E
 1135 e mere, quant ceo virent,/ A Deu graces
 1051 de tay levé./ Entre ses bras li ad apporté./
 204 a grant pleinté/ Des damesoles del pais/
 1007 Donqe commaund qe l'en ly lyast/ E
 514 Qe de ma femme facez atant,/ En fet e
 741 Amillioun, qe fu pensifs,/ Bien entendi
 579 demaunda/ E li memes le chivaler arma./
 976 mesaysé./ Mes le hanap soit bien gardé:/
 465 E son chival fuist mesaysé,/ Amyllioun
 797 Qe tant estoit leal compaignon./ Com il
 812 li tint trop en despit:/ Ne voleit entrer
 581 le chivaler si bien armé./ Puis li dist suef
 867 Qe illoec morir le lessast,/ E yl
 759 pris,/ E seignurs ove ly desqe a dis,/br/>
 1139 netté,/ Sitost com porra prist congé,/br/>
 769 poeit,/ Congé ad pris, si s'en aloit/
 422 demaunda:/ En hostage pur li serreit,/br/>
 386 Le seneschal atant se vint/ E son gaunt
 616 l'espaulde del chival/ Cola le braunke
 300 de vostre corps hontage./ Jeo preng Deu
 458 ne se reposa,/ Tant qe vers une vespré/
 1091 li requist./ Atant le counte s'est repairé./
 763 bataille/ E coment eust fait la sposaille./
 1167 saveint mie./ Quant la dame oi counter,/br/>
 965 Les deus hanaps tant ressembleient/ Qe, si
 194 s'alme./ Mout fut gentile la damoysete,/br/>
 980 porta le present./ Le povres, qe mesel fuit
 241 Tant que li quens s'en ala/ A boys juwer
 1147 tint enfyn honie:/ Ne quideit pas q'il fuit
 659 tres bien apparist:/ La healme del coup
 912 roes une cyvere/ Qu'il pout sei meismes
 85 amer,/ Mal vus ad quis a son poer,/ Mes
 516 Come jeo memes iceo fuisse,/ Qe ele
 498 doute qe pur pecché/ Del serment serrez
 1043 q'onqe fu nee,/ Quant pecché l'ad ensi
 371 Tost sailli hors de la mayson,/ Si
 116 com en la porte entra,/ Li seneschal li
 603 coups brusé/ E si sunt outrepassé./ A cel
 674 cel champ fu ben vengé;/ Par li mes n'iert
 694 Ly e vous ad aquité/ Del fait dount fuistes
 e n la haunce le branc cola./ En cel champ fu ben vengé;/ Par
 En la place estoit Amis/ Com esgarré e com pensifs,/ Ne sout
 e n la porte entra,/ Li seneschal li encontral/ Qe semlaunt
 e n la sale estoient/ De sa beauté matire aveient./ Est venuz la
 En le healme grant coups dona./ Mes le healme tant fort fu
 e n le pais [ne] vendredit/ De l'hure qe issi serreit./ Hors del
 e n le saunk bainast,/ Si sain devendredit com pessoun./ Quant
 e n Lombardie,/ E Deu fait pur eus grant vertuz:/ Les voegles
 e n long li enmena./ Par la terre tant alerent/ Qe feym e
 En lor lit s'entrebeyserent,/ Del ray del solail s' enjoierent
 e n ma vie après ceo jour/ Ne serray en mon quer heytiez/ Si jeo
 e n mon quer heytiez/ Si jeo ne soy de vous vengez!/ Certes
 e n mon vivant/ En ceo pais revener,/ Ne pur vivre ne pur
 En moy n'est si emploie/ Qe ne puisse nul autre amer/ Quant
 e n mynuyt;/ As autres ne fuist pas deduit./ En cele nuyt tant
 En noun de dowere le tenez!'/ Donke fist fere un turel:/ Petit
 e n noun de gage/ Com home de grant vasselage,/ E dit que od
 e n pees ou en guerre,/ Maundast a ly hastivement,/ E il od
 En pees se tienge pur escoter!/ De deus juvenceals vous dirray
 e n plevine;/ Moult fu dolente la meschine./ Amis se retret e
 e n prist tendrou/ Qe tant vers li ad getté s'amour/ Si forment
 En qì me porrai affier?/ Si est grant desert venu:/ Ma fille est
 e n quidoit qe ceo fu Amys./ Mes Amillioun, qe fu pensifs
 e n rendirent./ Sire Amillioun, quant fust sané/ E de son grant
 En sa chambre li ad couché./ Bainer li fist e seigner,/ Con son
 En sa chambre noef e dis,/ Qe touz fesoient sa volonté;/ De
 e n sa prison li gettast./ Amillioun doncne maundereit/ E la
 e n semblant,/ Come jeo memes iceo fuisse,/ Qe ele encheson
 e n son corage/ Fere ne li velt hountage/ De son compaignoun
 En son corage fust bien paié/ Quant ad le chivaler si bien
 En son esquel le vin versez,/ E ma coupe me reportez!'/ E celi
 e n son lit giseit,/ Deleez sa femme se cocheit;/ Si s'avint en
 e n son lit gisoit,/ Sa bele dame a li disoit:/ 'Me diez par
 e n son lit,/ Ne voleit auxi od lui parler,/ Ne od li beivre ne
 e n son oraille/ Qe, s'il pout deffendre la bataille,/ Sa fille a
 e n son pais alast./ L'enfant respoundi par grant douçur
 En son pais s'en est alé,/ A Amys ad trestot counté/ Coment
 En son pais s'en est alé./ Quant la dame aveit oy/ Qe son
 En son pays vers s'amye/ Qe tant ama come sa vie./ Ore est
 En son plegge devendredit./ 'Voir,' dit li quens, volez ensy?/ E
 e n son poing tint,/ E tendist en noun de gage/ Com home de
 e n terre aval/ Plus qe plein pé e demy;/ Le seneschal a terre
 e n tesmoignage:/ Si ceo poet estre aparceu/ Qe de moy feissez
 En un grant boys est alé./ A force ly covynt dormir,/ Aviz li
 En une chambre est entré/ Ou les deus enfanz dormerent;/ E
 En une chambre puis entrerent/ E lour robes chaungerent
 En une chaumbre se ala muscer;/ Meuz velt estre pendue/ Qe de
 e n une mayn estoient,/ N'est home qe tant de l'overaigne
 En une realme ne out plus bele./ Deus countes la desirent,/ E
 e n vein,/ Prist sa coupe hors de son sain,/ E l'autre la vist, si
 e n venerie,/ Od ly tote sa chivalrie./ A l'ostel n'i out nul
 e n vie./ Pur ceo fut tot appareillé/ Q'en le mois deust estre
 enbarra,/ Qe Amillioun fort estona./ Ore poet trop attendre
 enhacer./ Amillion fist dedeinz cocher,/ A plus q'il pout li
 encheson ne pout trover/ Par quoi il vus pout grever./ Mes
 encheson ne troesse/ Qe illoke est autre de moy;/ Car jeo
 encombré./ Pur vous la bataille fray,/ E le serment lealment
 encombré/ Qe son frere desconusseit/ Qe touz biens li fesoit
 encontra le botiler./ A li soleit trop beal parler;/ Les oïls
 encontra/ Qe semlaunt d'amur li fesoyt,/ Mes de quer poy li
 encontre tant firent bien/ Qe l'un ne l'autre ne perdit ren
 encusé./ S'il chaist, n'est pas mervaille./ Ore finist la
 encusé./ S'il vous velt esposer,/ Li porriez de quer amer?'/ E

1164 lour venue tant ne quant./ La meisnee fust
 692 bele,/ Amys pur vous ad combatu,/ Son
 470 D'un leon fust assailli,/ Qe li fuist mortel
 88 serray departi,/ Donke vus serra il fort
 832 seignur e le serjant,/ Sire Amylloun e son
 900 quident qe revendrount./ Owein, le leal
 824 Trestouz li ount deguerpi,/ Estre un
 1130 En la chambre ou les enfaunz lessa./ Les
 1072 cure/ [Des] deus fiz de sa gendrure:/ Si les
 1092 En une chambre est entré/ Ou les deus
 1081 La merveile voiz voil prover,/ Pur mes
 1119 Si li plest, par son poer/ Nous porra
 1129 ove la dame ala/ En la chambre ou les
 1122 eussez,/ Jamés tel autre ne averez./ De les
 331 tot lor oevre al counte./ Li quens fu de ire
 1146 femme ne out greignur./ Doneq se tint
 785 son commaundement;/ Tant qe le counte
 915 plus q'il pout li eysa,/ De long en long li
 670 E l'oraille od tote la face/ Voler fist
 829 ne pur morir./ La dame, que mout est
 130 vostre amisté/ En moy n'est si
 596 fier le seneschal/ D'un grant launce
 526 doigne q'il puisse bien fere!! Grant chose
 1016 A Amillioun, qe tant amez,/ Ne me facez
 1000 del deys,/ Qe li estoient de molt prés:/
 1216 La demora desqe al morir./ Autre dames
 391 la vérité provereit./ Est veus tote la court
 322 Qant vint le terme q'avoint dit,/ Il
 1055 le fist tot a talent/ De viande e de boivre
 555 dame fuit pris e durement lié,/ E la pucele
 1234 Après sa mort a Deu ala;/ Amis, son frere,
 1049 Plus de cent foiz li ad beisé,/ Tot
 1043 maudist q'onqe fu nee,/ Quant pecché l'ad
 1240 Les voegles ver, parler les mutz./ Tot
 423 devendreit./ 'Voir,' dit li quens, volez
 741 Mes Amillioun, qe fu pensifs,/ Bien
 488 E sa gent passerent avant,/ E [i]l
 906 lour voille doner./ Einz ne pount plus
 721 dire bien le poet.'/ Amillioun l'ad bien
 730 tynt feste plenere/ Une symaine tot
 931 ama son seignur,/ Ala demaundant tut
 1091 counte s'est repairé./ En une chambre est
 115 sei retorneyt;/ Sitost com en la porte
 55 li fist treson ne gere,/ Ne qe autre heyr n'i
 353 laid e vileins.'/ Atant en la chambre
 328 Le seneschal, quant sout la covine/
 924 tot enviroun/ Ala com a processioune./
 588 la medlé./ Le un l'autre desaffient/ Qe
 541 Leez la dame se coucha;/ Sa espee nue
 23 estre e de lour compaynie,/ Q'amerent
 217 e aligné,/ Des chivalers fuit moult prisé./
 179 Sour touz les dames du pays./ Bien furent
 873 Quant l'un l'autre ad regarde,/ Mout est
 550 parler./ Le jour vint qe fuist assis/
 801 en bone fey —/ Ta espee nue meistes
 1050 li ad beisé,/ Tot ensi com ert de tay levé./
 1093 deus enfaunz dormerent;/ E doucement eux
 103 bien ad amé vous e moy.'/ Atant se sunt
 812 La dame li tint trop en despit:/ Ne voleit
 763 fait la sposaille./ En une chambre puis
 437 demaunder/ Qe a son frere velt aler:/ Son
 31 une forme e de une nature./ Leals furent
 21 tant ne quant./ Ceus de la court avoient
 endormie;/ De lour venue ne saveint mie./ Quant la dame oi
 enemí ad confundu;/ Ly e vous ad aquité/ Del fait dount
 enemy./ Del sougne fut moult effraé/ E tost sus sailli com
 enemy./ Gardez vus de sa felonie!/ Ne aiez od li compaignie
 enfant,/ A chef de la vile a un bordel/ Illoc lour fist aver
 enfant,/ Lour viaunde va querant,/ Mes tant lour vint sur
 enfant q'il out norri./ Fiz de un counte, son parent,/ Od li
 enfantz furent estranglés./ E tot vifs les ount trovez!/ En lor
 enfantz tuast/ E Amillioun en le saunk bainast,/ Si sain
 enfaunz dormerent;/ E doucement eux entreacolerent./ Le pere
 enfaunz ne voil lesser./ Mout avera fait bone jorné/ Si par
 enfaunz doner./ Si Amyllioun perdu eussez,/ Jamés tel autre
 enfaunz lessa./ Les enfantz furent estranglés./ E tot vifs les
 enfaunz plus n'enpensoms;/ Si Deu velt, bien lé recoveroms
 enflé./ Ne parla mot une luwé./ 'Adonke,' dit il, 'Deu mercy
 enfy n honie./ Ne quideit pas q'il fuit en vie./ Pur ceo fut tot
 enmaladi./ E quant longtemps out langui,/ Morust e a Deu
 enmena./ Par la terre tant alerent/ Qe feym e me[s]aise
 enmi la place./ Le braz od le brank trencha:/ Desque en la
 ennuyé,/ Ambedeus s'est hors getté;/ E le seignur e le serjant
 emplo ié/ Qe ne puisse nul autre amer/ Quant talent me doint e
 enpoignal/ Parmi l'escu peint de asur,/ Mes le hauberc fuist
 enprent pur son frere!/ Amys remaint od la meisné,/ Cum li
 enprisoner,/ Mes le chef me faites tost trenched./ Mes
 Enresoner li voleient,/ Mes pur poer qe eus avoient,/ Ne li
 ensample averont/ Coment iour seignurs lour garderont
 ensemble,/ Ly chivalers e la meisné./ Li un countre l'autre
 ensemble ront od grant delit:/ Par grant duçour
 ensement./ E li memes a li vet/ Chescun jour sis foiz ou sept
 ensement./ Grant pité avoient la gent:/ Plurent e pleignent
 ensement./ Moult se amerent fierement,/ E bone fut la
 ensi com ert de tay levé./ Entre ses bras li ad apporté./ En sa
 ensi encombré/ Qe son frere desconusset/ Qe touz biens li
 ensi finist le sermoun/ De sire Amis e de syre Amillioun./
 ensy?/ E jeo lealment vus dy/ Qe, s'il defaut a la bataille,/ Le
 entendi en son corage/ Fere ne li velt hountage/ De son
 entendri nepurqant;/ De son estre saver voleit./ Si li retint, si
 entendre/ Q'il covient lor asne vendre/ Pur cink souz e diz e
 entendu,/ E la prist sicom son drew,/ Mes pur ceo ne vout
 entere:/ Mout i furent des robes donez/ Dont les menestrauz
 entour/ Des povres les estres e les maneres/ E les custumes
 entré/ Ou les deus enfaunz dormerent;/ E doucement eux
 entra,/ Li seneschal li encontra/ Qe semlaunt d'amur li fesoyt
 entrast/ Ne ses droitz amenusast./ Le counte fust de ceo
 entrat,/ La dame sur un lit trovat./ 'Dame,' dit il, 'ne savez
 Entre Amis e la meschine,/ L'endemain vint tot a hounte
 Entre autres les deuz vount./ Ne sciet, qe eus veit, qu'il sount
 entre eus nul amur ne eyent./ Ore s'en vount les chivalers/ Qi
 entre eus posa./ La dame de ceo s'enmerveilla./ A la dame ne
 entre eus tant fierement,/ E de ceo se coroucent sovent./ De
 Entre eux communement disoient/ Qe unque si bel chevaler
 entre eux couplés/ De parage e de beautez./ Ore lerray de
 entre eux grant pité:/ Plurent e decirent lour draps,/ Sovent
 Entre le seneschal e Amys./ Le seneschal se fist armer,/ Puis
 entre nous,/ Sire, purqui le feistes vous?/ 'Dame, jeo [ne] le
 Entre ses bras li ad apporté./ En sa chambre li ad couché
 entreacole rent./ Le pere [n']euist de ses fiz pité:/ Ambedeus
 entre beysés,/ Plurent e crient de pité./ Suz cel n'ad home
 entrer en son lit,/ Ne voleit auxi od lui parler,/ Ne od li
 entre rent/ E lour robes chaungerent;/ Donque ne fuit
 enuy monstrar li vout,/ E ala qe mult se redut./ Ele li dist
 envers lor seygnur,/ Bien le portent a honour;/ Si les amast
 envie/ De lour estre e de lour compaynie,/ Q'amerent entre

187 plus li haeit;/ De son benfait avoit
 97 preu e grant honur avrez!/ Lessez orgoil e
 633 per a per,/ Q'il n'eust de son cheval
 922 grant ben fesoit./ La povre gent tot
 58 fust de ceo marriz,/ Congé li done mes
 955 mes qe l'em li porta/ La moyté lor
 1097 de eux ad quillé/ E Amillioun dedeinz ad
 528 remaint od la meisné,/ Cum li sire e
 951 sitost com mangea,/ Son premer mes li
 233 ne manger./ Les damoyselles qe od li
 995 la table saut ataunt,/ A cel povre vint
 481 ne fuist pas deduit./ En cele nuyt tant
 272 son seignur./ Estez vous Florie par grant
 1192 Par Jhesu, le roy celestre./ Tourné me
 225 a la damoisele/ Del botiler qe tant
 953 li envoia/ Par son mestre botiler,/ Qe
 1049 de cent foiz li ad beisé,/ Tot ensi com
 365 tant;/ Ne li ert nul de mal garrant./ Tut
 122 E de misire Amillioun/ Qi a vous
 364 Si avra il, si jeo vive tant;/ Ne li
 1158 Son seignur jamés ne verrait./ Mes ne li
 176 avoit;/ Pur heritage la moyté/ Li fuit
 1125 la parole ount lessé/ E le service Deu ount
 265 Jamés home ne amereit./ Amis, quant l'ad
 4 voil jeo parler —/ En pees se tienge pur
 6 deus juvenceals vous dirray,/ Sicom en
 1064 Treis anz demena tele vie;/ De ses
 410 En la place estoit Amis/ Com
 411 e com pensifs,/ Ne sout lequel il pout
 989 a soen ressembleit./ E le counte moult
 801 —/ Car jeo vus aime en bone fey —/ Ta
 1022 vostre demaunde ja ne faudrez!;/ Tantost
 541 il se ajouta,/ Leez la dame se coucha;/ Sa
 320 vostre corteis botiler;/ Tot lour estre fist
 316 seignur le ala counter/ Sitost com il poet
 752 ne suy pas celi qe vous quidez;/ De vostre
 503 E quiderount qe jeo soye Amys./ Jeo
 1149 tot appareillé/ Q'en le mois deust estre
 172 consail se mariat:/ Une gentile femme
 196 plus bele./ Deus countes la desirant,/ E
 695 fait dount fuistes encusé./ S'il vous velt
 716 Jeo vous di certeine novele:/ Si vous
 137 autre ne li lerray/ Par [ceo] qu'il est chose
 976 Mes le hanap soit bien gardé!/ En son
 449 palefroy mounta/ Saunz garsoun e saunz
 821 touz li guerpeient;/ Ne trova serjant ne
 164 Bons chevaus e deners,/ E robes a ses
 733 furent feffez./ Le counte dona a ses
 706 e les chevalers,/ Borgés, sergeans e
 1173 e chivalers./ Serjanz, vadlet e
 474 appela ses chevalers,/ Ses garsouns e ses
 134 Si Amilliouns soit alé,/ Son quer me
 759 ove ly desqe a dis,/ En son pais s'en
 458 Tant qe vers une vespré/ En un grant boys
 1059 pout l'ad conforté./ La dame sovent a ly
 1139 com porra pris congé,/ En son pais s'en
 522 ount trestot chaungé,/ E Amyllioun s'en
 777 demy,/ Si tost come li quens est fini./ Ore
 14 Li un estoit Amys par noun,/ L'autre
 492 la joie, fu la pité./ Quant l'un od l'autre
 517 Qe ele encheson ne troesse/ Qe illoke
 1011 Qe son hanap out perdu/ E coment
 485 Sire Amillioun primes le veit;/ Tost

envie,/ Mes Amys ne l'aparce[u]st mye./ Li quens une dame
envie,/ Si vous gardez de glotonie!/ Amez bien vostre
envie,/ Tant fist il par sa cortesie:/ Meuz a pié l'estut ferir
envirooun/ Ala com a processioum./ Entre autres les deuz
enviz,/ Mes le conte fist com bon seygnur,/ Destourber ne
envoia,/ Amis une coupe avoit/ Ke mout ferement amoit
envolupé,/ Sitost com le saunc senti,/ De son grant mal est
envoyé,/ E quiderount trestouz pur voir/ Qe ceo fuit lour dreit
envoya/ Par son mestre botiler,/ Qe ert corteis chevaler./ De
erent/ Purquei ceo fuy ly demaunderent./ E ele dit que malade
errant,/ Forment l'ad feru du pé./ Qe en la bowe est il versé
errerent/ Qe parmy le boys passerent/ Ou sire Amis reposeit
errour! Ele li respondi e dist: 'Coment/ Vous ay amé
ert a grant vilté/ Si jeo ne soie de vous vengé./ Si fu[i]
ert beaus/ E tres gentil dameyseals,/ E q'il fuit tant bon
ert corteis chevaler./ De chescun mes qe l'em li porta/ La
ert de tay levé./ Entre ses braz li ad apporté./ En sa chambre li
ert detret e puis pendu,/ E la pute arse en fu!'/ La dame ne sout
ert leal compaignon./ Ne volez unke nul autre amer/ Ne
ert nul de mal garrant./ Tut ert detret e puis pendu,/ E la pute
ert pas destiné./ Car un jour par matyné/ Les deus countes
escheu del counté./ De beauté avoit le pris/ Sour touz les
escoté,/ Après la messe vint a mesoun;/ Joiouse est ele pur
escoté,/ Quideit que ele fuit devee/ Qe ele pout pur hounte
escoter! De deus juvenceals vous dirray,/ Sicom en escrit le
escri le trovay;/ Q'en la court un counte estoient/ E des
eses ass[e]z avoyt/ Tant com il memes desiroit./ Quant passa
esgarré e com pensifs,/ Ne sout lequel il pout eslire,/ Mort
eslire,/ Mort ou vie, ne sout ke dire./ Plusors aveient de ly
esmerveileit,/ De Amillioun doncq li sovent:/ 'Bien sai'
espee nue meistes entre nous,/ Sire, purquei le feistes vous?"
espee demaunda,/ E il memes dist q'il le tuera./ Tost l'espeie
espee nue entre eus posa./ La dame de ceo s'enmerveilla./ A
espier,/ Qant vint le terme q'avoint dit,/ Il ensembleront od
espleiter,/ Le seneschal fut molt lee;/ Ore quideit bien estre
espoir failli avez./ A vous le peus bien counter,/ Car bien le
espoir par la grace de Dé/ Qe del feloun serrom vengé,/ Qe
esposé,/ Mes ore se clame lasse cheitive;/ Moult luy poise
esposat/ Qe fille d'un counte estoit,/ E pere e mere perdu
esposer la volirent,/ Mes ele a trestouz respoundi/ Ne vout
esposer,/ Li porriez de quer amer?/ E ele respount moult
esposez la damoisele,/ Einz qe soint .iii. anz passez,/ après
esprové,/ Pur promesse saunz seurté./ Mes de taunt me poez
esquiel le vin versez,/ E ma coupe me reportez!'/ E celi fist
esquier,/ N'ala pas com chivaler/ Mes ala com pelrin./ Ne
esquier/ Qe ewe froide li vodra doner./ Trestouz li ount
esquiers,/ E il memes si bel estoyt/ Qe tut le pays le disoyt
esquiers/ Les chivals e les destrers,/ Ore vus dei jeo bien
esquiers,/ Quant touz furent assemblé,/ La pucele fut amené
esquiers,/ Touz devant li venerent;/ Merci crier touz
esquiers,/ Touz lour fist mettre lour seeles;/ Unke ne lour
est abandoné,/ E jeo ly aym e ameray;/ Pur nul autre ne li
est alé,/ A Amys ad trestot counté/ Coment eust finé la
est alé,/ A force ly covynt dormir,/ Aviz li fust qu'il deust
est alé,/ Qe li ama molt de fin quer/ Comme si ele fust sa soer
est alé,/ Quant la dame aveit oy/ Qe son seignur estoit garri
est alé,/ Tut soul va saunz compainie./ Ore Deus li soit en aye
est amé e tenu cher,/ N'estoet mes estre botiler./ Consailler
est appellé Amillyoun./ Li deus estoient de une nature
est aquoingté! Donke li dit sir Amillioun/ Paroles de mult
est autre de moy,/ Car jeo vous dy en bone foy/ Qe ele [est]
est avenu./ Quant Amyllioun li oist nomer,/ De dolur pour
est cele part torné,/ Tendrement l'ad esveillé./ E sa gent

343 Si jeo ne me puisse de li venger./
 137 Pur nul autre ne li lerray/ Par [ceo] qu'il
 81 Qe mout est feloun e desleal/ E si
 125 semblant a nul mustrer;/ Mes quant s'en
 879 Qe sire Amillioun avoit eu,/ Qe ore
 625 Le seneschal se leve ataunt,/ Qe dolent
 1127 Aprés la messe vint a mesoun;/ Joiouse
 829 vivre ne pur morir./ La dame, que mout
 1091 le counte s'est repairé./ En une chambre
 873 Quant l'un l'autre ad regarde,/ Mout
 80 counte ad seignz un seneschal/ Qe mout
 776 countez e demy,/ Si tost come li quens
 337 tant ting cher,/ En qj me porrai affier?/ Si
 861 e d'or,/ Ore suy tant demené/ Qe de ma vie
 339 venu:/ Ma fille est pute devenu./ Ele
 1085 Un jour s'est par matyn levé./ E al matin
 1099 com le saunc senti,/ De son grant mal
 82 E si est de mult grant parenté;/ Pur ceo
 774 seignurie e grant honur:/ De grant terres
 997 Forment l'ad feru du pé./ Qe en la bowe
 357 dit il, 'ne savez/ Quele fille vus avez!'/ Ele
 974 l'aporteza ceo frarin,/ Au povres qe tant
 250 vous dey la pucele:/ Son dreit noun
 519 Car jeo vous dy en bone foy/ Qe ele [
 771 s'amy/ Qe tant ama come sa vie./ Ore
 772 sa vie./ Ore est mout en astage,/ Car cru li
 376 'Fel,' fait il, 'Deu vous maudie!'/ Ma fille
 338 affier?/ Si est grant desert venu:/ Ma fille
 683 demaunda;/ Cil dist que mal n'en a:/ Plus
 330 L'endemain vint tot a hounte:/ Accounté
 623 sout trop bien porter,/ Mes son coup
 349 chevaler le voil prover,/ E cil que de nous
 223 estoient/ De sa beauté matire aveient./
 585 ly dorrey/ E de tote sa terre heir li freit./
 391 od li combat[er]eit/ E la verité provereit./
 211 La fuit assemblé maint baroun./
 1151 lasse cheitive;/ Moult luy poise qe ele
 29 de l'autre desceverast./ E si furent de une
 44 Mestre mareschal sur touz/ Qi fort
 213 qi bien sout son mester:/ De un drap vestu
 569 vous sert tot ceo fu/ Qe pur les dames fait
 1039 pecché.'/ Quant le counte ceo oist,/ Tost
 547 a meson vynt./ Ore lerrom de Amis
 181 e de beautez./ Ore lerray de Amyllioun
 1186 a chastier:/ 'Dame,' dit il, 'lessez
 836 aver hostel./ O, misires Amyllioun,/ Mis
 284 Certes n'estes pas chevaler!/ Mescreaus
 287 A mon pere le conteray/ Qe vers li
 272 ne aveit/ Q'il mesprist vers son seignur./
 11 Gentils e de grant parage;/ Fiz
 999 Les chevalers vindrent del deys,/ Qe li
 221 chivaler ne vist./ Touz ceus qe en la sale
 15 L'autre est appellé Amillyoun./ Li deus
 7 escrit le trovay;/ Q'en la court un counte
 26 bien ressembleyent:/ Si de une robe vestu
 965 tant ressembleient/ Qe, si en une mayn
 409 Pausmé chei la meischine./ En la place
 13 Si vous dirroy bien lor nouns:/ Li un
 173 femme esposat/ Qe fille d'un counte
 1141 Quant la dame aveit oy/ Qe son seignur
 796 Vus dirrai de sire Amillioun/ Qe tant
 806 Par ceo savoit sir Amillioun/ Qe Amis
 660 del coup enbarra,/ Qe Amillioun fort
 Est ceo voir, sire seneschal?/ Jeo quide que l'avez dit pur mal
 est chose esprové/ Pur promesse saunz seurté./ Mes de taunt
 est de mult grant parenté;/ Pur ceo est il le plus doté./ Unke
 est departi,/ Requer qe soyez mon amy,/ Mon ami e mon bien
 est devencu./ Le noun vous dirray de l'enfant:/ La gent
 est e corucé/ Quant combatre deit a pié;/ A plus tost q'il pout
 est ele pur Amyllioun./ Amys doncq ove la dame ala/ En la
 est ennué,/ Ambedeus s'est hors getté;/ E le seignur e le
 est entré/ Ou les deus enfanz dormerent;/ E doucement eux
 est entre eux grant pité:/ Plurent e decirent lour draps
 est feloun e desleal/ E si est de mult grant parenté;/ Pur ceo
 est fini./ Ore est amé e tenu cher,/ N'estoet mes estre botiler
 est grant desert venu:/ Ma fille est pute devenu./ Ele est honie
 est grant pité./ Si jeo de feim morir deveray,/ De mei memes
 est honie, jeo suy trahi;/ Cel fel traître m'ad icy servy./ A
 est il alé;/ Deu requist e son haut noun/ A son frere doine
 est il garri,/ Qe en corps ne en face/ De maladi ne appareust
 est il le plus doté./ Unke ne vous pout amer,/ Mal vus ad quis
 est il seignur,/ De .iii. countez e demy,/ Si tost come li quens
 est il versé./ Les chevalers vindrent del deys,/ Qe li estoient
 est ja femme de mester,/ E ceo ad fait nostre botiler./ Pur
 est mesaysé./ Mes le hanap soit bien gardé:/ En son esquel
 est Mirabele,/ Mes Florie fust apelé/ De ceux qe furent de sa
 est] mout aparcevante!'/ E sire Amist trestut le graunte./ Lour
 est mout en astage,/ Car cru li est par mariage/ Grant
 est par mariage/ Grant seignurie e grant honur:/ De grant
 est par vous honye./ Mes vous ne irrez ja riant;/ La mort vous
 est pute devenu./ Ele est honie, jeo suy trahi;/ Cel fel traître
 est sain qe pesson de mer./ Atant li vount touz beiser:/ Sur
 est tot lor oeuvre al counte./ Li quens fu de ire enflé./ Ne parla
 est trop pesant./ Le seneschal se leve ataunt,/ Qe dolent est e
 est venu/ Soit detret e puis pendu!'/ E dit li quens: 'Ore vaut
 Est venuz la novele/ En la chaumbre a la damoisele/ Del
 Est venuz l'asemblé;/ Ore mes sourdra la medlé./ Le un l'autre
 Est veus tote la court ensemblé,/ Ly chivalers e la meisné./ Li
 Est veuz li mestre botiler,/ Amys, qj bien sout son mester
 est vive./ Ne saet ele pas quoi ele poet fere;/ Si se met hors de
 estature,/ De une forme e de une nature./ Leals furent envers
 esteit e coragous./ De cel mester longtemps servirent/ E par
 esteit,/ La coupe devant li quens teneit./ Mout fu beals e
 esteit?/ Trop vilaine roste serreit!/ Armes me fetes tost
 estendu a terre chaist:/ Bate ses mains, ses cheveuz detire
 ester;/ De sir Amillioun voloms parler./ Le jour vint qe fuist
 ester,/ E de sir Amys vus voil counter,/ Qe fuit demoré od son
 ester!/ Ne deussez tel doil demener/ Pur ceo qe sain suy
 estes a povre garisoun!/ Jadis fu sire e seignur;/ N'est pas
 estes e laner!// Un play bien dur vus bateray:/ A mon pere le
 estes e moy forfet,/ E serrés des chivals destret./ Donques
 Estez vous Florie par grant errorr!/ Ele li respondi e dist
 estoient de barons,/ Si vous dirroy bien lor nouns:/ Li un
 estoient de molt prés:/ Enresoner li voleient,/ Mes pur poer
 estoient/ De sa beauté matire aveient./ Est venuz la novele
 estoient de une nature,/ Angeles ressemblent de faiture
 estoient/ E des armes li servoient./ Moult furent de grant
 estoient,/ N'est home el mound qe les avisast/ Qe l'un de
 estoient,/ N'est home qe tant de l'overaigne seust/ Qe l'un
 estoit Amis/ Com esgarré e com pensifs,/ Ne sout lequel il
 estoit Amys par noun,/ L'autre est appellé Amillyoun./ Li
 estoit,/ E pere e mere perdu avoit;/ Pur heritage la moyté/ Li
 estoit garri/ E q'il revint el pais/ E od li le counte Amis,/ Tel
 estoit leal compaignon./ Com il en son lit gisoit,/ Sa bele
 estoit leal compaignon./ Ove sa feme tant demorra/ Qe tot
 estona./ Ore poet trop attendre:/ S'il ne sache le coup rendre

fist a grant honur:/ Touz les ad dobbez en
 165 E robes a ses esquiers./ E il memes si bel
 1113 dame, que pur sa saunté/ Voz deus fiz ai
 1130 ou les enfaunz lessa./ Les enfantz furent
 301 preng Deu en tesmoignage:/ Si ceo poet
 778 Ore est amé e tenu cher;/ N'estoet mes
 910 e maille;/ De ceo acateron lour vitaille./
 984 e regarda;/ Pensa cil: 'Coment poet
 22 Ceus de la court avoint envie/ De lour
 871 voil od vous suffrir dolor/ Qe sanz vous
 943 dit q'il out un seignur/ Q'il ne lerret pur
 1149 ceo fut tot appareillé/ Q'en le mois deust
 320 De vostre corteis botiler;/ Tot lour
 755 Car bien le deverez celer.'/ Tot lour
 1190 ben avenu,/ Si feussez tele com deussez
 1168 une chaumbre se ala muscer;/ Meuz velt
 1083 fait bone jorné/ Si par lour saunk poet
 489 avant,/ E [i]l entendi nepurqant;/ De son
 859 ceste vie?/ Jeo solei aver grant tresour,/

Donque ne fuit aparcavant/ De lour
 553 demaunda le botiler;/ E quant il ne pout
 824 vodra doner./ Trestouz li ount deguerpi,/
 318 seneschal fut molt lee;/ Ore quideit bien
 1169 Meuz velt estre pendue/ Qe de son seignur
 711 son noun nomer,/ Si se purpensa moult
 932 demaudant tut entour/ Des povres les
 486 Tost est cele part torné,/ Tendrement l'ad
 878 e la seignurie/ Qe sire Amillioun avoit
 1001 Enresoner li voleient,/ Mes pur poer qe
 702 Dount fut comaundé al baronage/ Qe
 926 Ne sciet, qe eus veit, qu'il sount;/ Si
 725 la resceit come sa mullier./ Ne voleit qe
 1238 gisent en Lombardie,/ E Deu fait pur
 588 medié./ Le un l'autre desaffient/ Qe entre
 110 Si jeo deisse la moyté/ Del doel q'entre
 541 la dame se coucha;/ Sa espeie nue entre
 237 dont cel mal ly avenir./ Ele comaunda qe
 23 e de lour compaynie,/ Q'amerent entre
 925 Entre autres les deuz vount./ Ne sciet, qe
 918 Qe feym e me[s]jaise troverent/ Desques
 1120 porra enfaunz doner./ Si Amyllioun perdu
 726 qe eus furent aparcue/ Coment son frere
 762 Coment eust finé la bataille/ E coment
 761 alé,/ A Amys ad trestot counté/ Coment
 566 vist fut grantment effraé/ E de les dames
 757 E puis dit q'il prendra congé,/ Quant il
 61 Destourber ne vout son honur;/ Mes s'il
 614 quir e fust/ Com si rasour trenché le
 106 home que la fust/ Qe dolur de la pité n'en
 681 premer;/ Atant se fist desarmer./ S'il
 167 Qe tut le pays le disoyt/ Si Deu mesmes le
 253 de sa meismé./ Florie, quant le congé en
 790 Quant mortz furent pere e mere,/ Il ne
 1096 Ambedeus ad le chef trenché;/ E le sanc de
 217 Des chivalers fuit moult prisé./ Entre
 179 touz les dames du pays./ Bien furent entre
 1093 les deus enfanz dormerent;/ E doucement
 563 Ataunt virent veneur un chevaler/ Qe vers
 873 l'un l'autre ad regarde./ Mout est entre
 939 vestu,/ Gentil home ressemblereit./ Un de
 1227 Unke puis femme ne vout aver;/ Nul
 822 Ne trova serjant ne esquier/ Qe
 588 desaffient/ Qe entre eus nul amur ne
 estour,/ Lour trova si com il voleint;/ Hautement lour feste
 estoyt/ Qe tut le pays le disoyt/ Si Deu mesmes le eust
 estranglé./ La dame ses meins a Deu tendi/ E mout graces li
 estranglés./ E tot vifs les ount trovez!/ En lor lit
 estre aparcue/ Qe de moy feisiez vostre dru,/ Ne serrioms
 estre botiler./ Consailler fut fait e sire;/ Quantq'il voleit
 Estre ceo lour fount fere/ Sur deus roes une cyvere/ Qu'il pout
 estre?/ Ces deus hanaps fist un mestre!'/ Arere tantost se
 estre e de lour compaynie,/ Q'amerent entre eus tant
 estre emperour./ Quant l'un l'autre ad regarde,/ Mout est
 estre emperur./ Qy ceo fuit li demaundeinent,/ Mes sitost com
 estre esposé./ Mes ore se claime lasse cheitive;/ Moult luy
 estre fist espier./ Qant vint le terme q'avoint dit,/ Il
 estre luy ad counté,/ E puis dit q'il prendra congé,/ Quant il
 estre,/ Par Jhesu, le roy celestre./ Tourné me ert a grant vilté
 estre pendue/ Qe de son seignur estre veue./ Sire Amillioun
 estre sauné./ Un jour s'est par matyn levé./ E al matin est il
 estre saver voleit./ Si li retint, si li diseit./ Fu la joie, fu la
 Estre servi d'argent e d'or,/ Ore suy tant demené/ Qe de ma
 estre tant ne quant./ A plus tost qe Amys poet,/ Congé ad
 estre trové./ La dame fuit pris e durement lié,/ E la pucele
 Estre un enfant q'il out norri./ Fiz de un counte, son parent
 estre vengé/ De vostre corteis botiler;/ Tot lour estre fist
 estre veue./ Sire Amillioun fist com leal bier:/ Sa gent fist
 estreit;/ Oyst une voiz que li disoit: —/ Qe nul ne oist fors li
 estres e les maneres/ E les custumes de les terres./ Les
 esveillé./ E sa gent passerent avant,/ E [i]l entendi
 eu,/ Qe ore est devencu./ Le noun vous diray de l'enfant:/ La
 eus avoient,/ Ne li poeient assuager/ Q'il ne li velt ocier
 eus feussent al mariage./ L'endemain a terce sonant/ Touz i
 eus fuissent en la cort conuz,/ A grant honur serreint receuz
 eus furent aparcue/ Coment son frere eust deceu./ La
 eus grant vertuz:/ Les voegles ver, parler les mutz./ Tot ensi
 eus nul amur ne eyent./ Ore s'en vount les chivalers/ Qi mult
 eus ount demené./ Li un s'en va ver son pays,/ Li autres
 eus posa./ La dame de ceo s'enmerveilla./ A la dame ne voleit
 eus se teysent/ E d'autre chose s'enveysent./ En cel langur
 eus tant fierement,/ E de ceo se coroucent sovent./ De cors de
 eus veit, qu'il sount;/ Si eus fuissent en la cort conuz,/ A
 eus vindrent el pais/ Ou sojorna le counte Amys/ Qe noble
 eussez,/ Jamés tel autre ne averez./ De les enfaunz plus
 eust deceu./ La damoisele fuit ben paé/ Quant ad baroun a
 eust fait la sposaille./ En une chambre puis entrerent/ E lour
 eust finé la bataille/ E coment eust fait la sposaille./ En une
 eust grant pité./ 'Sire,' dit il, 'jeo suy venu!'/ Dount vous sert
 eust le congé pris,/ E seignurs ove ly desqe a dis,/ En son
 eust od ly affere,/ Fuist ceo en pees ou en guerre,/ Maundast a
 eust./ Parmy l'espaudle del chival/ Cola le braunke en terre
 eust./ Paumez sunt chaeuz a terre;/ N'est home qm vousist
 eust plaie li demaunda;/ Cil dist que mal n'en a:/ Plus est sain
 eust purtret,/ Plus bon ne meuz [ne] serra fet./ Sa gent
 eust,/ S'a hasté a plus que ele pust:/ Ove une soule chambre
 eust soer ne frere/ For soul la dame qe Amis aveit,/ Pur ceo les
 eux ad quillé/ E Amillioun dedeinz ad envelopé./ Sitost com
 eux communement disoient/ Qe unique si bel chevaler ne
 eux couplés/ De parage e de beautez./ Ore lerray de Amyllioun
 eux entreacolerent./ Le pere [n']eust de ses fiz pité
 eux fist grant aleure,/ Poignant plus qe amblure;/ Del feu q'il
 eux grant pité:/ Plurent e decirent lour draps,/ Sovent se
 eux ly appeleyt,/ Demaundast s'il vout servir./ E il getta un
 eur out de sa mullier./ Owein l'enfant bien fessa:/ De tote sa
 ewe froide li vodra doner./ Trestouz li ount deguerpi,/ Estre un
 e yent./ Ore s'en vount les chivalers/ Qi mult sunt orguillous

914 fist dedeinz cocher,/ A plus q'il pout li
 1100 grant mal est il garri,/ Qe en corps ne en
 890 a pié;/ Priez a lui par charité/ Qe ele me
 669 cola le brank./ E l'oraille od tote la
 513 Si vous requer par amur/ Qe de ma femme
 1016 devez/ A Amillioun, qe tant amez,/ Ne me
 426 a la bataille,/ Le juggement averez saunz
 752 pas celi qe vous quidez;/ De vostre espoir
 1082 mes enfanz ne voil lesser./ Mout avera
 694 ad confundu;/ Ly e vous ad aquité/ Del
 779 mes estre botiler./ Consailler fut
 569 vous sert tot ceo fu/ Qe pur les dames
 375 roylla./ Amis moult se merveilla./ 'Fel,'
 690 Le counte atant l'ad appellé:/ 'Dy moy,'
 991 Amillioun doneq; li sovent:/ 'Bien sai',
 762 eust finé la bataille/ E coment eust
 358 Ele est ja femme de mester,/ E ceo ad
 1238 Lor corps gisent en Lombardie,/ E Deu
 1017 Ne me facez enprisoner,/ Mes le chef me
 16 de une nature,/ Angeles ressembleient de
 537 noun les oist nomer./ Ne par cors ne par
 1021 'vous l'averez! De vostre demaunde ja ne
 1228 out de sa mullier./ Owein l'enfant bien
 732 robes donez/ Dont les menestrauz furent
 862 Qe de ma vie est grant pité./ Si jeo de
 302 Si ceo poet estre aparceu/ Qe de moy
 1200 E del pais m'enchaceastes;/ Puis
 802 nue meistes entre nous,/ Sire, purquei le
 375 roylla./ Amis moult se merveilla./ 'devenu./ Ele est honie, jeo suy trahi;/ Cel
 340 89 vus serra il fort enemy./ Gardez vus de sa
 80 ad seignz un seneschal/ Qe mout est
 91 li compaignie,/ Car qui s'accompnie od
 504 Jeo espoir par la grace de Dé/ Qe del
 807 Qe Amis estoit leal compaignon./ Ove sa
 357 'ne savez/ Quelle fille vus avez!/ Ele est ja
 1178 Od sei les tint e les ama./ Donque fist sa
 172 Par lour consail se mariat:/ Une gentile
 513 Si vous requer par amur/ Qe de ma
 783 la terre,/ Tant demeint grant affere./ Sa
 1145 Amis,/ Tel ad el quer dolur/ Qe unque
 1226 Que autre peine n'ad liveré./ Unke puis
 170 serra fet./ Sa gent durement l'amerent;/ A
 466 Amyllioun en son lit giseit,/ Deleez sa
 583 s'il pout defendre la bataille,/ Sa fille a
 1219 Une garce la serveit/ Qe par une
 1062 si ele fust sa soer;/ Plus ne li poet
 525 li soit en aye/ E doigne q'il puisse bien
 1116 mout graces li rendi,/ Donqe comence pur
 742 fu pensifs,/ Bien entendi en son corage/
 1152 ele est vive./ Ne saet ele pas quoi ele poet
 910 lour vitaille./ Estre ceo lour fount
 1208 En noun de dowere le tenez!'/ Donke fist
 957 envoia./ Amis une coupe avoit/ Ke mout
 607 Par ire tret le brank d'asser;/ Le seneschal
 594 deigne a autre affier;/ Chescun se prent a
 665 irra gabbant./ E sire Amillioun atant/
 635 fist il par sa cortesie:/ Meuz a pié l'estut
 657 dreit grever./ Mes le seneschal primes li
 826 Fiz de un counte, son parent,/ Od li tint
 996 A cel povre vint errant:/ Forment l'ad
 205 pais/ En sa chambre noef e dis,/ Qe touz
 19 se firent par serement;/ As autres ne

eysa,/ De long en long li enmena./ Par la terre tant alerent
 face/ De maladi ne appareust trace./ En Amis ne out qe regeir
 face une ane doner/ Qe jeo puisse chivacher.'/ L'enfant a la
 face/ Voler fist enmi la place./ Le bras od le brank trencha
 facez atant,/ En fet e en semblant,/ Come jeo memes iceo
 facez enprisoner,/ Mes le chef me faites tost trencher./ Mes
 faille,/ Qe vostre fille fust destiné! / La dame lermit pur
 failli avez./ A vous le peus bien counter,/ Car bien le deverez
 fait bone jormé/ Si par lour saunk poet estre sauné.'/ Un jour
 fait dount fuites encusé./ S'il vous velt esposer,/ Li porriez
 fait e sire;/ Quantq'il voleit porrait dire./ Tenu fut par tote la
 fait esteit?/ Trop vilaine roste serret!! Armes me fetes tost
 fait il, 'Deu vous maudie!/ Ma fille est par vous honye./ Mes
 fait il, 'fille bele,/ Amys pur vous ad combatu,/ Son enemi ad
 fait il, 'verraiment,/ De mon frere l'ad emblé./ Qe cher serra
 fait la sposaille./ En une chambre puis entrerent/ E lour robes
 fait nostre botiler./ Pur nostre bien hounte nous rend:/ Tray
 fait pur eus grant vertuz:/ Les voegles ver, parler les mutz
 faites tost trencher./ Mes certes ai jeo trop vesqui;/ Trop
 faiture./ Taunt s'amerent fierement/ Que freres se firent par
 fasçon./ Par riens, si par la robe noun./ Amis, quant il se
 faudrez!'/ Tantost espeie demaunda,/ E il memes dist q'il le
 feffa:/ De tote sa terre li herita,/ Qe bien aveit deservy./ En
 feffez./ Le counte dona a ses esquiers/ Les chivals e les
 feim morir deveray,/ De mei memes force ne fray.'/ L'enfant
 feissez vostre dru,/ Ne serrioms nous en fyn honye?
 feistes jurer mon serjant/ Qe jeo ne deusse en mon vivant
 feistes vous?'/ 'Dame, jeo [ne] le dirrai mes;/ A ceo fui jeo
 Fel,' fait il, 'Deu vous maudie!/ Ma fille est par vous honye
 fel traitre m'ad icy servy./ A touz jours avera reprover/ Si jeo
 felonie!'/ Ne aiez od li compaignie,/ Car qui s'accompanie od
 feloun e desleal/ E si est de mult grant parenté;/ Pur ceo est il
 feloun/ Ne porra trover si mal noun;/ Car piz ne porra avenir
 feloun serrom vengé,/ Qe vus quideit aver hony./ Mes
 femme tant demorra/ Qe tot son pel ly arracha./ Si malade e si
 femme de mester,/ E ceo ad fait nostre botiler./ Pur nostre
 femme demaunder,/ Car de li se veut venger./ Tant fuit quise
 femme esposat/ Qe fille d'un counte estoit,/ E pere e mere
 femme facez atant,/ En fet e en semblant,/ Come jeo memes
 femme ly aime tendrement,/ Si fist tot son commaundement
 femme ne out greignur./ Doneq; se tint enfyn honie:/ Ne
 femme ne vout aver;/ Nul evr out de sa mullier./ Owein
 femme prendre li consaillerent./ Par lour consail se mariat
 femme se cocheit;/ Si s'avint en avisoun/ Ke sir Amys son
 femme ly dorreyt/ E de tote sa terre heir li freit./ Est venuz
 fenestre luy porteit/ Chescun jour sa liveré,/ Coment le
 fere companie./ Treis anz demena tele vie;/ De ses eses
 fere!'/ Grant chose enprent pur son frere!/ Amys remaint od la
 fere joie:/ 'Jhesu Crist, le fiz sciente Marie,/ Si li plest, par
 Fere ne li velt hountage/ De son compaignoun trahir./ Moult
 fere;/ Si se met hors de la terre,/ Ne la savera plus aider
 fere/ Sur deus roes une cyvere/ Qu'il pout sei meismes
 fere un turel:/ Petit fut mes molt bel,/ Si fut fort durement
 fement amoit,/ Car Amillioun, qe tant amoyt,/ Cele coupe
 ferir ala,/ En le healme grant coups dona./ Mes le healme
 ferir./ Amillioun fiert le seneschal/ D'un grant launce
 Ferir li vint par tel ayr/ Qe le feu fist tresailler,/ Qe le healme
 ferir/ Que lessir son chival morir./ Le seneschal, qe nel pout
 ferist,/ Qe son coup tres bien apparist:/ La healme del coup
 fer[m]ement,/ E dit que li ne velt guerpir/ Ne pur vivre ne
 feru du pé./ Qe en la bowe est il versé./ Les chevalers
 fesoient sa volonté;/ De countredit n'en ad parlé./ Un jour
 fesoient unke semblaunt/ De compagnie tant ne quant./ Ceus

court illoeq tenoit/ E moult grant ben
son frere desconusseit/ Qe touz biens li
li encontra/ Qe semblaunt d'amur li
ad baroun a volunté./ Le counte tynt
trova si com il voleint;/ Hautement lour
jour par aventure avint/ Qe li quens une
amur/ Qe de ma femme facez atant,/ En
quant avez forfait/ E le serment avez
eust purtret,/ Plus bon ne meuz [ne] serra
li ad icy chacé./ Si le occiez, vous
Trop vilaine roste serreit!/ Armes me
atant/ Ferir li vint par tel ay/ Qe le
aleure,/ Poignant plus qe amblure;/ Del
Dount fut comaundé al baronage/ Qe eus
suy revenu./ Molt vus fust ben avenu,/ Si
de moy —/ Car jeo vus aime en bone
li enmena./ Par la terre tant alerent/ Qe
son frere, ensement./ Moult se amercent
compaynie,/ Q'amerent entre eus tant
resembleient de faiture./ Taunt s'amerent
les chivalers/ Qi mult sunt orguillous e
Chescun se prent a ferir./ Amillioun
Qe, s'il pout deffendre la bataille,/ Sa
rend:/ Tray nous ad malement,/ Qe nostre
dame aveit/ Q'il come sa vie ameit./ Une
atant l'ad appellé:/ 'Dy moy,' fait il, 'mariait:/ Une gentile femme esposat/ Qe
'Fel,' fait il, 'Deu vous maudie!'/ Ma
affier?/ Si est grant desert venu:/ Ma
juggement averez saunz faille,/ Qe vostre
trovat./ 'Dame,' dit il, 'ne savez/ Quele
A Amys ad trestot counté/ Coment eust
sovent a ly est alé,/ Qe li ama molt de
Amillion demorra/ Atant qe son pere
com chivaler/ Mes ala com pelrin./ Ne
countez e demy,/ Si tost come li quens est
S'il chaist, n'est pas mervaille./ Ore
voegles ver, parler les mutz./ Tot ensi
Ore vus dei jeo bien counter/ Coment il
si sunt outrepassé./ A cel encoultre tant
Od grant nobley li receurent;/ Trestouz li
Taunt s'amerent fierement/ Que freres se
les fist a lour talent./ Chivalers lour
Si les amast mult tendrement,/ Honur les
le seneschal e Amys./ Le seneschal se
A chef de la vile a un bordel/ Illoc lour
Congé li done mes enviz;/ Mes le conte
son seignur estre veue./ Sire Amillioun
pout sei meismes enhacer./ Amillion
Mes le counte vient premer,/ Atant se
En sa chambre li ad couché./ Bainer li
brank./ E l'oraille od tote la face/ Voler
De vostre corteis botiler;/ Tot lour estre
En noun de dowere le tenez!'/ Donke
Bainer li fist e seigner,/ Con son corps li
virent veneur un chevaler/ Qe vers eux
Q'il n'eust de son cheval envie./ Tant
ne velt lesser:/ De son hostel ly
Atant li vount touz beiser:/ Sur touz li
versez,/ E ma coupe me reportez!'/ E celi
Qe Amillioun trop bien garreit/ S'il en
Ses garsouns e ses esquiers./ Touz lour

fesoit./ La povre gent tot enviroun/ Ala com a processiou
fesoit./ Trestouz plurent de pité./ Amis s'est tot adrescé
fesoit./ Mes de quer poy li ameit/ ‘Si[re] Amis,’ dit il, ‘bien
feste plenere/ Une symaine tot entere:/ Mout i furent des
feste teneint./ De Amys fist son botiler,/ Car moult a ly puet
feste tynt/ Par un jour de l'Ascensioun;/ La fuit assemblé
fete e en semblant,/ Come jeo memes iceo fuisse,/ Qe ele
fete,/ Jeo me doute qe pur peccché/ Del serment serrez encombré
fete./ Sa gent durement l'amerent;/ A femme prendre li
fetes pecché.’/ Quant le counte ceo oist,/ Tost estendu a terre
fetes tost bailler/ Pur cestes dames deliverer!/ Jeo deffendray
feu fist tresailleur,/ Qe le healme fust tot purfendant./ En la
feu q'il vist fut grantment effraé/ E de les dames eust grant
feusseal mariage./ L'endemain a terce sonant/ Touz i
feusseal tele com deussez estre,/ Par Jhesu, le roy celestre
fey —/ Ta espee nue meistes entre nous,/ Sire, purquei le
feym e me[s]aise troverent/ Desques eus vindrent el pais/ Ou
fierement,/ E bone fut la compagnie./ Lor corps gisent en
fierement,/ E de ceo se coroucent sovent./ De cors de visage
fierement/ Que freres se firent par serement;/ As autres ne
fiers./ Ne avera mester de acord;/ L'un hiet l'autre desq'a la
fiert le seneschal/ D'un grant launce enpoignal/ Parmi l'escu
fille a femme ly dorrey/ E de tote sa terre heir li freit./ Est
fille ad trahy e affolé./ Deu li doint male destiné!/ Si avra il
fille avoit la dame/ Q'ele amoit come s'alme./ Mout fut
fille bele,/ Amys pur vous ad combatu,/ Son enemi ad
fille d'un counte estoit,/ E pere e mere perdu avoit;/ Pur
fille est par vous honye./ Mes vous ne irrez ja riant;/ La mort
fille est pute devenu./ Ele est honie, jeo suy trahi,/ Cel fel
fille fust destiné! / La dame lermist pur pité,/ Prist Amis en
fille vus avez!/ Ele est ja femme de mester,/ E ceo ad fait
finé la bataille/ E coment eust fait la sposaille./ En une
fin quer/ Comme si ele fust sa soer;/ Plus ne li poet fere
fina,/ Qi de soi n'ad autre heyr./ Quant Amillioun sout pur
fina unke soir ne matyn,/ Poy mangea e mains beust,/ Si ne
fini./ Ore est amé e tenu cher;/ N'estoet mes estre botiler
finist la bataille./ Les uns chaunterent, les autres plorerent
finist le sermoun/ De sire Amis e de syre Amillioun./
firent a coucher./ La dame ad son dreu acolé/ E par amour
firent bien/ Qe l'un ne l'autre ne perdit ren./ Amillioun vint
firent homage./ Ore poet il mener grant baronage!/ N'ust od
firent par serement;/ As autres ne fesoient unke semblaunt
fist a grant honour:/ Touz les ad dobbez en estour,/ Lour trova
fist a lour talent./ Chivalers lour fist a grant honour:/ Touz les
fist armer,/ Puis demaunda le botiler;/ E quant il ne pout estre
fist aver hostel./ O, misires Amillyoun,/ Mis estes a povre
fist com bon seygnur,/ Destourber ne vout son honour;/ Mes
fist com leal bier:/ Sa gent fist tot assemblé,/ Chasteleins e
fist dedeinz cocher,/ A plus q'il pout li eyss,/ De long en
fist desarmer./ S'il eust plaic li demaunda;/ Cil dist que mal
fist e seigner,/ Con son corps li fist garder,/ Servir le fist tot
fist enmi la place./ Le bras od le brank trencha;/ Desque en la
fist espier./ Qant vint le terme q'avoint dit,/ Il ensembleront
fist fere un turcl./ Petit fut mes molt bel,/ Si fut fort durement
fist garder,/ Servir le fist tot a talent/ De viande e de boivre
fist grant aleure,/ Poignant plus qe amblure;/ Del feu q'il vist
fist il par sa cortesie:/ Meuz a pié l'estut ferir/ Que lessir son
fist justizer,/ Mestre mareschal sur touz/ Qi fort esteit e
fist la dame joie,/ E la pucele totevoie/ Semblant li fist tant
fist le comaundement/ E vint e porta le present./ Le povres
fist le mound,/ S'il le velt denier./ Com leal chevaler le voil
fist mettre cure/ [Des] deus fiz de sa gendrure:/ Si les enfantz
fist mettre lour seeles:/ Unke ne lour dist autre noveles./ Mes

649 Desque noune fust passé./ Ly seneschal
 1184 Ele pauma de pour./ Le seignur la
 1178 Od sei les tint e les ama./ Donque
 39 Hautement lour feste teneint./ De Amys
 148 verreyt./ Amis lessa le temps aler,/ Ala e
 687 joie,/ E la pucele totevoie/ Semblant li
 1054 Con son corps li fist garder,/ Servir le
 1171 Amillioun fist com leal bier:/ Sa gent
 784 affere./ Sa femme ly aime tendrement,/ Si
 666 atant/ Ferir li vint par tel ayr/ Qe le feu
 54 Qe li covient garder sa terre/ Qe nul li
 894 dame ala,/ Son message li counta./ Ele li
 985 'Coment poet estre?/ Ces deus hanaps
 1103 Amis ne out qe regeir;/ Une bone robe li
 1113 Sachez, dame, que pur sa saunté/ Voz deus
 1071 garreit/ S'il en fist mettre cure/ [Des] deus
 825 deguerpi./ Estre un enfant q'il out norri./
 11 vassalage,/ Gentils e de grant parage;/
 1094 entreacolerent./ Le pere [n']eust de ses
 856 Ne poums icy plus demorer./ Jhesu, le
 1117 comence pur fere joie! / Jhesu Crist, le
 251 Son dreit noun est Mirabele,/ Mes
 304 en fyn honye?/ 'Hostez, hostez!' ceo dit
 272 mesprist vers son seignur./ Estez vous
 253 apelé/ De ceux qe furent de sa meisné./
 290 serray de vous vengé! / Atant s'est
 639 li vint doner/ Amount el heaulme peint de
 1048 Amis s'est tot adrescé./ Plus de cent
 1057 E li memes a li vet/ Chescun jour sis
 947 q'il clama pur seignur,/ Touz li tenoient a
 382 leal;/ Si nul vous ad de moy counté/
 244 A l'ostel n'i out nul remis/ Des chevalers
 791 pere e mere,/ Il ne eust soer ne frere/
 64 Maundast a ly hastivement,/ E il od
 459 une vespré/ En un grant boys est alé./ A
 863 de feim morir deveray,/ De moi memes
 495 grant resoun:/ 'Beau frere, quant avez
 1195 malades e defet,/ Pur ceo n'avoje pas
 287 pere le conteray/ Qe vers li estes e moy
 501 serment lealment juray/ Qe jeo unke ne li
 30 E si furent de une estature,/ De une
 231 Qe tant vers li ad getté s'amour/ Si
 745 getta un sospir,/ E el suspir geint
 996 saut ataunt,/ A cel povre vint errant:/
 373 li soleit trop beal parler;/ Les ois sur ly
 843 parler,/ Ne a qui poet son dolur moustrer,/ /
 713 une voiz que li disoit: —/ Qe nul ne oist
 1210 un turel:/ Petit fut mes molt bel,/ Si fut
 598 l'escu peint de asur,/ Mes le hauberc fuit
 88 jeo serray departi,/ Donke vus serra il
 44 justizer,/ Mestre mareschal sur touz/ Qi
 660 healme del coup enbarra,/ Qe Amillioun
 609 grant coups dona./ Mes le healme tant
 910 ceo acateront lour vitaille./ Estre ceo lour
 101 q'il eit deshonur!/ Mout li devez amour e
 518 autre de moy;/ Car jeo vous dy en bone
 1014 pout son quer crever:/ 'Sire,' dit, 'par la
 70 q'estoit son compaignoun,/ En bone
 75 dit: 'Amis, beau compaignoun,/ En bone
 973 ma coupe od tot le vin,/ Si l'aportez a ceo
 499 serrez encombré./ Pur vous la bataille
 863 morir deveray,/ De moi memes force ne
 141 Qe, si vous eiez de moy affere,/ Jeol vous

fist moult bien,/ E sire Amillioun ne dota de rien./ Ne savoit
fist relever,/ Bel la comence a chastier:/ 'Dame,' dit il
fist sa femme demaunder,/ Car de li se veut venger./ Tant fuit
fist son botiler,/ Car moult a ly puet affyer./ Amyllioun ne
fist son mester;/ Servi le conte com il soleyt,/ E le conte
fist tant com osa,/ Car son pere moult dota./ Le conte atant
fist tot a talent/ De viande e de boivre ensement./ E li memes
fist tot assembler,/ Chasteleins e chivalers./ Serjanz, vadlet
fist tot son commaundement;/ Tant qe le conte enmaladi./ E
fist tresailleur,/ Qe le healme fust tot purfendant./ En la
fist treson ne gere,/ Ne qe autre heyr n'i entrast/ Ne ses droitz
fist un asne aver,/ E pus sus les seintz jurer/ Qe mes en le pais
fist un mestre! / Arere tantost se repeira,/ Al conte de cel
fist vener/ E a mouster puis li mena./ La dame, sitost com
fiz ai estranglé.' / La dame ses meins a Deu tendi/ E mout
fiz de sa gendrure:/ Si les enfantz tuast/ E Amillioun en le
Fiz de un conte, son parent,/ Od li tint fer[m]ement,/ E dit
Fiz estoient de barons,/ Si vous dirroy bien lor nouns:/ Li un
fiz pité:/ Ambedeus ad le chef trenché,/ E le sanc de eux ad
fiz seinte Marie,/ Com longes me durra ceste vie?/ Jeo solei
fiz seinte Marie,/ Si li plest, par son poer/ Nous porra
Florie fust apelé/ De ceux qe furent de sa meisné./ **Florie**
Florie, / 'Nous le froms si privément/ Touz deus a nostre
Florie par grant errorr!/ Ele li respondi e dist: 'Coment
Florie, quant le congé en eust,/ S'a hasté a plus que ele pust
Florie retorné./ Amis mout se purpensa;/ Le un mal e l'autre
flurs,/ Qe tost abati les colurs./ Sur le senestre le coup
foiz li ad beisé,/ Tot ensi com ert de tay levé./ Entre ses braz
foiz ou sept;/ Tant com pout l'ad conforté./ La dame sovent a
fotur./ Mes de l'enfant avoient pité:/ Al conte Amys ount
For que dreit a verité,/ Moult bien me deffenderay/ Devant qe
for sire Amis,/ E il remist pur maladie./ E la damesele ne targa
For soul la dame qe Amis aveit,/ Pur ceo les terres recevoit
force de sa gent/ Vendroit a ly, ceo li jura./ Amyllioun ly
force ly covynt dormir,/ Aviz li fust qu'il deust morir
force ne fray./ L'enfant a soi doncne appelaist,/ E pur Deu li
forfait/ E le serment avez fet,/ Jeo me doute qe pur pecché
forfait,/ Qe vivre deusse bien du mien./ Dame, sovenez vous
forfait,/ E serrés des chivals destret./ Donques serray de vous
forfiz,/ E quiderount qe jeo soye Amys./ Jeo espoir par la
forme e de une nature./ Leals furent envers lor seignur,/ Bien
forment comensa a amer/ Q'ele ne pout boyvre ne manger
forment./ La dame l'acola tendrement,/ Si li demaunda quoi
Forment l'ad feru du pé./ Qe en la bowe est il versé./ Les
forment roylla./ Amis moult se merveilla./ 'Fel,' fait il
Fors a l'enfant que ly serveit./ Amillioun com plus viveit
fors li noun —/ 'Lessez, lessez, sire Amillioun!'/ Jeo vous di
fort durement;/ De loin le virent tote sa gent/ Outre tote la
fort e dur/ Qe de mal l'ad garri./ Le seneschal li referri;/ Lour
fort enemy./ Gardez vus de sa felonie!/ Ne aiez od li
fort esteit e coragous./ De cel mester longtemps servirent/ E
fort estona./ Ore poet trop attendre:/ S'il ne sache le coup
fort fu/ Qe de la mort l'ad deffendu,/ Qe le coup ala descendant
fount fere/ Sur deus roes unc cyvere/ Qu'il pout sei meismes
foy,/ Car bien ad amé vous e moy.' / Atant se sunt
foy/ Qe cle [est] moult aparcevante! / E sire Amist trestut le
foy qe vus devez/ A Amillioun, qe tant amez,/ Ne me facez
foy saunz treson./ De plur ne se poet tenir,/ Car moult li
foy saunz tresoun/ A nostre seignur servy avom./ Pur vostre
frarin,/ Au povres qe tant est mesaysé./ Mes le hanap soit
fray,/ E le serment lealment juray/ Qe jeo unke ne li forfiz,/ E
fray. / L'enfant a soi doncne appelaist,/ E pur Deu li conjurast
fray od graunt douçour,/ Sauve chescuny honur.' / Li

584 ly dorreyt/ E de tote sa terre heir li
 526 bien fere!/ Grant chose enprent pur son
 1044 Quant pecché l'ad ensi encombré/ Qe son
 1087 il alé;/ Deu requist e son haut noun/ A son
 1234 Aprés sa mort a Deu ala;/ Amis, son
 726 voleit qe eus furent aparceu/ Coment son
 790 furent pere e mere,/ Il ne eust soer ne
 992 'Bien sai', fait il, 'verraiment,/ De mon
 433 Com celi qe grant mester en a./ De son
 478 Mes dist q'il voleit visiter/ Son
 495 Paroles de mult grant resoun:/ 'Beau
 436 vynt,/ Congé li ala demaunder/ Qe a son
 18 faiture./ Taunt s'amerent fierement/ Que
 822 Ne trova serjant ne esquier/ Qe ewe
 305 'Hostez, hostez!' ceo dit Florie,/ 'Nous le
 739 amour sovent baisé,/ E en quidoit qe ceo
 215 La coupe devant li quens teneit./ Mout
 673 la haunce le branc cola./ En cel champ
 331 est tot lor oevre al counte./ Li quens
 645 char n'ad pas toché./ Amyllioun, qe tant
 430 pur pité,/ Prist Amis en plevine;/ Moult
 1213 virent tote sa gent/ Outre tote la cité;/ La
 366 ert detret e puis pendu,/ E la pute arse en
 491 saver voleit./ Si li retint, si li disoit./
 491 Si li retint, si li disoit./ Fu la joie,
 1042 sa mort desire,/ La hure maudist q'onqe
 740 qe ceo fu Amys./ Mes Amillioun, qe
 609 coups dona./ Mes le healme tant fort
 568 il, 'jeo suy venu!'/ Dount vous sert tot ceo
 837 Mis estes a povre garisoun!// Jadis
 463 chival a une raym lya./ Dormist, car mult
 804 'Dame, jeo [ne] le dirrai mes;/ A ceo
 1194 vilté/ Si jeo ne soie de vous vengé./ Si
 515 fet e en semblant,/ Come jeo memes iceo
 926 Ne sciet, qe eus veit, qu'il sount;/ Si eus
 549 Amillioun voloms parler./ Le jour vint qe
 62 son honur;/ Mes s'il eust od ly affere,/

598 l'escu peint de asur,/ Mes le hauberc
 464 car mult fu travaillé,/ E son chival
 470 D'un leon fust assailli,/ Qe li
 1181 fuit quise q'e fut trové/ Mes de pour se
 480 s'en vount en mynuyt;/ As autres ne
 1108 Vint al seignur, si li demaunda/ Si ceo
 694 Ly e vous ad aquité/ Del fait dount
 575 le chevaler vcit,/ Bien quideit qe ceo
 765 E lour robes chaungerent;/ Donque ne
 210 tynt/ Par un jour de l'Ascensioun;/ La
 937 Veu ount l'enfant bel e parceu, / E [s']il
 727 son frere eust deceu./ La damoisele
 201 E mout l'ama auxi la mere./ La damoysele
 532 la dame, quant li veu aveit,/ Qe Amillioun
 161 Q'il n'out dis chivalers de maisné./ Tant
 183 E de sir Amys vus voil counter,/ Qe
 266 Amis, quant l'ad escoté,/ Quideit que ele
 980 e porta le present./ Le povres, qe mesel
 1147 se tint enfyn honie:/ Ne quideit pas q'il
 176 perdu avoit;/ Pur heritage la moyté/ Li
 558 lour beauté./ Li quens, que mout
 944 Q'il ne lerreit pur estre emperor,/ Qy ceo
 399 trové/ Ke le counte fut bien payé./ Tant
 530 E quiderount trestouz pur voir/ Qe ceo
 652 Ne savoit [nul] del chaump juger/ Lequel
 216 Mout fu beals e aligné,/ Des chivalers

freit./ Est venuz l'asemblé;/ Ore mes sourdra la medlé./ Le un
 frere!/ Amys remaint od la meisné,/ Cum li sire e envoyé;/ E
 frere desconussein/ Qe touz biens li fesoit./ Trestouz plurent
 frere doine garisoun./ La dame vint, qe bone fust,/ Sovent
 frere, ensement./ Moult se amerct fierement,/ E bone fut la
 frere eust deceu./ La damoisele fuit ben paé/ Quant ad baroun
 frere/ For soul la dame qe Amis aveit,/ Pur ceo les terres
 frere l'ad emblé./ Qe cher serra achaté!'/ Outre la table saut
 frere li sovint;/ Tantost a la countesse vynt,/ Congé li ala
 frere qe tant pout amer./ Trusser s'en vount en mynuyt;/ As
 frere, quant avez forfait/ E le serment avez fet,/ Jeo me doute
 frere velt aler:/ Son enuy monstrer li vout,/ E ala qe mult se
 freres se firent par serement;/ As autres ne fesoient unke
 froide li vodra doner./ Trestouz li ount deguerpi,/ Estre un
 froms si privément/ Touz deus a nostre talent/ Ne[1] savera
 fu Amys./ Mes Amillioun, qe fu pensifs,/ Bien entendi en son
 fu beals e aligné,/ Des chivalers fuit moult prisé./ Entre eux
 fu ben vengé;/ Par li mes n'iert encusé./ S'il chaist, n'est pas
 fu de ire enflé./ Ne parla mot une luwé./ 'Adonke,' dit il, 'Deu
 fu de vigour,/ Meint coup li dona ceo jour./ La bataille ad bien
 fu dolente la meschine./ Amis se retret e purpensa/ Com celi
 fu la dame durement lié./ Jamés de illoec ne pout issir;/ La
 fu!'/ La dame ne sout quoy dire./ Le counte de mal ard e d'yre
 Fu la joie, fu la pité./ Quant l'un od l'autre est aquointé
 fu la pité./ Quant l'un od l'autre est aquointé!/ Donke li dit sir
 fu nee,/ Quant pecché l'ad ensi encombré/ Qe son frere
 fu pensifs,/ Bien entendi en son corage/ Fere ne li velt
 fu/ Qe de la mort l'ad deffendu,/ Qe le coup ala descendant/ Si
 fu/ Qe pur les dames fait esteit?/ Trop vilaine roste serreit
 fu sire e seignur;/ N'est pas merveile s'il ad dolur./ La mort
 fu travaillé,/ E son chival fuist mesaysé,/ Amyllioun en son
 fui jeo confés.'/ Par ceo savoit sir Amillioun/ Qe Amis estoit
 fu[i] malades e defet,/ Pur ceo n'avojeo pas forfait,/ Qe
 fuisse,/ Qe ele encheson ne troesse/ Qe illoke est autre de
 fuisse en la cort conuz,/ A grant honur serreint receuz
 fuist assis/ Entre le seneschal e Amys./ Le seneschal se fist
 Fuist ceo en pees ou en guerre,/ Maundast a ly hastivement
 fuist fort e dur/ Qe de mal l'ad garri./ Le seneschal li referri
 fuist mesaysé,/ Amyllioun en son lit giseit,/ Deleez sa
 fuist mortel enemy./ Del sounge fut moult effraé/ E tost sus
 fuist muscé./ Sitost com vist son seignur./ Ele pauma de pour
 fuist pas deduit./ En cele nytt tant errerent/ Qe parmy le boys
 fuist sire Amillioun,/ Coment il out sa garisoun./ 'Dame
 fuistes encusé./ S'il vous velt esposer,/ Li porriez de quer
 fuit Amys;/ De cors resemblast e de vis./ Bons armes
 fuit aparcavant/ De lour estre tant ne quant./ A plus tost qe
 fuit assemblé maint baroun./ Est veuz li mestre botiler
 fuit auke vestu,/ Gentil home ressemblereit./ Un de eux ly
 fuit ben paé/ Quant ad baroun a volonté./ Le counte tynt feste
 fuit bien gardé./ Compaignes out a grant pleinté/ Des
 fuit bien quideit./ Les deuz furent issi d'un senblant/ Ne
 fuit de sa gent amé,/ E lour ad trestouz doné/ Bons chevaus e
 fuit demoré od son seygnur/ E meuz li servi de jour en jour
 fuit devec/ Qe ele pout pur hounte discoverir/ Sa volonté e
 fuit en vein,/ Prist sa coupe hors de son sain,/ E l'autre la
 fuit en vie./ Pur ceo fut tot appareillé/ Q'en le mois deust
 fuit escheu del counté./ De beauté avoit le pris/ Sour touz les
 fuit irré,/ Ala hastaunt lour juggement,/ E si jura grant
 fuit li demaundeinent,/ Mes sitost com il veu avoient/ Celi q'il
 fuit li seneschal doté/ Qe Amys un soul n'en ad trové./ Quoy
 fuit lour dreit seignur./ E la dame, quant li veu aveit,/ Qe
 fuit meilleur chevaler./ Amillioun fust bien anuié/ Qe la
 fuit moult prisé./ Entre eux communement disoient/ Qe unque

235 fuy ly demaunderent./ E ele dit que malade
 554 E quant il ne pout estre trové,/ La dame
 1180 Car de li se veut venger./ Tant
 882 La gent l'appelent Amorant,/ Mes Uwein
 227 beaus/ E tres gentil dameyseals,/ E q'il
 46 longtemps servirent/ E par tot bien loé
 725 resceit come sa mullier./ Ne voleit qe eus
 707 Borgés, sergeans e esquiers./ Quant touz
 9 estoient/ E des armes li servoient./ Moult
 252 Mes Florie fust apelé/ De ceux qe
 29 Qe l'un de l'autre desceverast./ E si
 731 plenere/ Une symaine tot entere;/ Mout i
 179 pris/ Sour touz les dames du pays./ Bien
 31 De une forme e de une nature./ Leals
 1130 ou les enfaunz lessa./ Les enfantz
 732 des robes donez/ Dont les menestrauz
 533 Qe Amillioun fuit bien quideit./ Les deuz
 155 vint a sa regioun,/ La gent qe de sa terre
 789 E tost aprés morust la dame./ Quant mortz
 704 L'endemain a terce sonant/ Touz i
 251 Son dreit noun est Mirabele,/ Mes Florie
 929 la porte se souint mis,/ E l'enfant, qe bien
 469 sir Amys son compaignoun/ D'un leon
 1024 memes dist q'il le tuera./ Tost l'espeie li
 1189 Pur ceo qe sain tuy revenu./ Molt vus
 653 Lequel fuit meilleur chevaler./ Amillioun
 579 memes le chivaler arma./ En son corage
 404 le seignur/ Haist Amys desqe a la mort,/
 404 Amys desqe a la mort,/ Fust ceo a dreit
 613 l'arsoun devant;/ Trestut trencha quir e
 57 Ne ses droitz amenusast./ Le conte
 262 Morust, s'il n'eust de li pité/ E que ele
 427 averez saunz faille,/ Qe vostre fille
 1164 De lour venue tant ne quant./ La meisnee
 719 leprouz serrez./ Avant mes unke si laid ne
 648 La bataille ad bien duré/ Desque noune
 105 e crient de pité./ Suz cel n'ad home que la
 460 alé./ A force ly covynt dormir,/ Aviz li
 1061 Qe li ama molt de fin quer/ Comme si ele
 1136 en rendirent./ Sire Amillioun, quant
 1088 doine garisoun./ La dame vint, qe bone
 414 Plusors aveient de ly pité,/ Mes li sire
 667 ayr/ Qe le feu fist tresailleur,/ Qe le healme
 708 Quant touz furent assemblé,/ La pucele
 1162 venuz/ E a la porte descenduz,/ Qe nul
 398 Le seneschal ad taunz trové/ Ke le conte
 701 Jeo ne me deveroy pas corucer./ Dount
 779 N'estoet mes estre botiler./ Consailler
 1210 fere un turel:/ Petit fut mes molt bel,/ Si
 193 la dame/ Q'ele amoit come s'alme./ Mout
 565 plus qe amblure;/ Del feu q'il vist
 1236 Moult se amercent fierement,/ E bone
 1209 le tenez!'/ Donke fist fere un turel:/ Petit
 317 com il poet espleiter./ Le seneschal
 1224 A drein morust pur dolur./ Sire Amillioun
 471 Qe li fuist mortel enemy./ Del sougne
 781 sire;/ Quantq'il volciet porreit dire./ Tenu
 847 La dame par tant defendi/ Qe nul ne
 1148 Ne quideit pas q'il fuit en vie./ Pur ceo
 1180 de li se veut venger./ Tant fuit quise q'eles
 51 Amillioun sout pur veir/ Qe son pere
 234 Les damoyselles qe od li erent/ Purquei ceo
 303 feisiez vostre dru,/ Ne serrioms nous en

fuit,/ Ne sout dont cel mal ly avenut./ Ele comaunda qe eus se
fuit pris e durement lié,/ E la pucele ensement./ Grant pité
fuit quise q'eles fut trové/ Mes de pour se fuist muscé./ Sitost
fuit son dreit noun./ Donque li dist sire Amyllioun:/ 'Oweyn
fuit tant bon chivaler/ Q'en la court n'out son per./ La pucele
furent/ Amillion demorra/ Atant qe son pere fina,/ Qi de soi
furent aparceu/ Coment son frere eust deceu./ La damoisele
furent assemblé,/ La pucele fut amené/ A l'huis de moster
furent de grant vassalage,/ Gentils e de grant parage;/ Fiz
furent de sa meisné./ Florie, quant le congé en eust,/ S'a
furent de une estature,/ De une forme e de une nature./ Leals
furent des robes donez/ Dont les menestrauz furent feffez./ Le
furent entre eux couplés/ De parage e de beautez./ Ore lerray
furent envers lor seignur,/ Bien le portent a honour;/ Si les
furent estrangléz./ E tot vifs les ount trovez!/ En lor lit
furent feffez./ Le conte dona a ses esquiers/ Les chivals e les
furent issi d'un senblant/ Ne crerret home ja si parcevant
furent/ Od grant nobley li receurent;/ Trestouz li firent
furent pere e mere,/ Il ne eust soer ne frere/ For soul la dame
furent, petit e grant,/ Les barons e les chevalers,/ Borgés
fust apelé/ De ceux qe furent de sa meisné./ Florie, quant le
fust apris/ E moult ama son seignur,/ Ala demaundant tut
fust assailli,/ Qe li fuist mortel enemy./ Del sougne fut moult
fust baillé./ Puis l'ad en haut levé./ E Amillioun le col tendist
fust ben avenu,/ Si feussez tele com deussez estre,/ Par Jhesu
fust bien anuié/ Qe la bataille ad tant duré;/ Un coup li voudra
fust bien paié/ Quant ad le chivaler si bien armé./ Puis li dist
Fust ceo a dreit fust ceo at tort./ Nul ne oseit pur li parler,/ E
fust ceo at tort./ Nul ne oseit pur li parler,/ E le conte li velt
fust/ Com si rasour trenché le eust./ Parmy l'espaulde del
fust de ceo marriz,/ Congé li done mes enviz;/ Mes le conte
fust de ly amé,/ Que si de ly amour ne avoit,/ Jamés home ne
fust destiné!'/ La dame lermist pur pité,/ Prist Amis en
fust endormie;/ De lour venue ne saveint mie./ Quant la dame
fust/ Home, com dire bien le poet./' Amillioun l'ad bien
fust passé./ Ly seneschal fist moult bien,/ E sire Amillioun
fust/ Qe dolur de la pité n'en eust./ Paumez sunt chaeuz a terre
fust qu'il deust morir./ Desouz un arbre se cocha,/ E son
fust sa soer;/ Plus ne li poet fere companie./ Treis anz
fust sané/ E de son grant mal netté,/ Sitost com porra prist
fust,/ Sovent Deu pur li requist./ Atant le conte s'est repaire
fust tant yrré/ Qe la n'out home taunt hardi/ Qe oseit un mot
fust tot purfendant./ En la cervele cola le brank./ E l'oraille
fut amené/ A l'huis de moster./ Quant Amillioun deust son
fut aparcavant/ De lour venue tant ne quant./ La meisnee fust
fut bien payé./ Tant fuit li seneschal doté/ Qe Amys un soul
fut comaundé al baronage/ Qe eus feussent al mariage
fut fait e sire;/ Quantq'il volciet porreit dire./ Tenu fut par tote
fut fort durement;/ De loin le virent tote sa gent/ Outre tote
fut gentile la damoisele,/ En une realme ne out plus bele
fut grantment effraé/ E de les dames eust grant pité./ 'Sire,'
fut la compaignie./ Lor corps gisent en Lombardie,/ E Deu
fut mes molt bel,/ Si fut fort durement;/ De loin le virent
fut molt lee;/ Ore quideit bien estre vengé/ De vostre corteis
fut molt prisé/ Qe autre peine n'ad liveré./ Unke puis femme
fut moult effraé/ E tost sus sailli com home desvee./ Tost
fut par tote la terre,/ Tant demeint grant affere./ Sa femme ly
fut si hardi/ Qe de rien li regardast,/ Ne que manger li donast
fut tot appareillé/ Q'en le mois deust estre esposé./ Mes ore
fut trové/ Mes de pour se fuist muscé./ Sitost com vist son
fuy affyné,/ De son seignur le conte ad pris congé,/ Qe li
fuy ly demaunderent./ E ele dit que malade fuit,/ Ne sout dont
fyn honye?/ 'Hostez, hostez!' ceo dit Florie,/ 'Nous le froms

663 ne sache le coup rendre,/ Li autre s'en irra
 387 en son poing tint,/ E tendist en noun de
 393 la meisné./ Li un countre l'autre tendi son
 1218 iour seignurs lour garderont./ Une
 201 auxi la mere./ La damoysèle fuit bien
 975 tant est mesaysé./ Mes le hanap soit bien
 53 le conte ad pris congé,/ Qe li covient
 1053 li fist e seigner,/ Con son corps li fist
 1217 averont/ Coment iour seignurs lour
 98 avrez!/ Lessez orgoil e envie,/ Si vous
 89 departi,/ Donke vus serra il fort enemy./
 1109 fuist sire Amillioun,/ Coment il out sa
 836 O, misires Amyllioun,/ Mis estes a povre
 1087 requist e son haut noun/ A son frere doine
 78 honur vus cri mercy,/ De une chose soiez
 364 il, si jeo vive tant;/ Ne li ert nul de mal
 1069 oy qe li disoit/ Qe Amillioun trop bien
 1141 la dame aveit oy/ Qe son seignur estoit
 599 le hauberc fuist fort e dur/ Qe de mal l'ad
 1099 le saunc senti,/ De son grant mal est il
 820 Ses chevalers touz departoient,/ Ses
 449 ly dona,/ E un palefroy mounta/ Saunz
 474 desvee./ Tost appela ses chevalers,/ Ses
 386 Le seneschal atant se vint/ E son
 745 parfound getta un sospir,/ E el suspir
 1071 en fist mettre cure/ [Des] deus fiz de sa
 161 dis chivalers de maisné./ Tant fuit de sa
 95 compagnoun velt autre trahir./ A tote
 169 Plus bon ne meuz [ne] serra fet./ Sa
 1171 Sire Amillioun fist com leal bier:/ Sa
 881 Le noun vous dirray de l'enfant:/ La
 1211 fort durement;/ De loin le virent tote sa
 487 torné,/ Tendrement l'ad esveillé./ E sa
 556 pucele ensement./ Grant pité avoient la
 155 Amillioun:/ Quant vint a sa regioun,/ La
 922 E moult grant ben fesoit./ La povre
 64 a ly hastivement,/ E il od force de sa
 226 Del botiler qe tant ert beaus/ E tres
 938 bel e parceu,/ E [s']il fuit auke vestu,/

172 Par lour consail se mariat:/ Une
 193 Q'ele amoit come s'alme./ Mout fut
 10 Moult furent de grant vassalage,/

934 E les custumes de les terres./ Les
 281 vous me dedeignez avere amye!/ Tant
 419 vivere ne pur morir;/ Devant le conte se
 54 garder sa terre/ Qe nul li fist treson ne
 830 mout est ennuyé,/ Ambedeus s'est hors
 230 pucele en prist tendrour/ Qe tant vers li ad
 941 Demaundast s'il vout servir./ E il
 744 compaignoun trahir./ Moult parfound
 1007 qe l'en ly lyast/ E en sa prison li
 748 quoi pensoit/ E purquei tels suspirs
 465 fuist mesaysé,/ Amyllioun en son lit
 1237 E bone fut la compaignie./ Lor corps
 797 leal compaignon./ Com il en son lit
 98 Lessez orgoil e envie,/ Si vous gardez de
 503 qe jeo soye Amys./ Jeo espoir par la
 1135 Pere e mere, quant cco virent,/ A Deu
 1115 La dame ses meins a Deu tendi/ E mout
 782 Tenu fut par tote la terre,/ Tant demeint
 563 virent vener un chevaler/ Qe vers eux fist
 158 li firent homage./ Ore poet il mener
 921 Qe noble court illoeq tenoit/ E moult

gabbant./ E sire Amillioun atant/ Ferir li vint par tel ayr/ Qe
gage/ Com home de grant vasselage,/ E dit que od li
gant,/ E li quens [les] resceust atant./ E donc jugga le
garce la serveit/ Qe par une fenestre luy porteit/ Chescun jour
gardé:/ Compaignes out a grant pleinté/ Des dameseles del
gardé:/ En son esquel le vin versez,/ E ma coupe me reportez
garder sa terre/ Qe nul li fist treson ne gere,/ Ne qe autre heyr
garder,/ Servir le fist tot a talent/ De viande e de boivre
garde ront./ Une garce la serveit/ Qe par une fenestre luy
gardez de glotonie!/ Amez bien vostre seignur,/ Ne soffrez
Gardez vus de sa felonie!/ Ne aiez od li compaignie,/ Car qui
garisoun./ 'Dame, certes, jeo vus dirray,/ Mes vous
garisoun! Jadis fu sire e seignur,/ N'est pas merveile s'il ad
garisoun./ La dame vint, qe bone fust,/ Sovent Deu pur li
garny:/ Le conte ad seignz un seneschal/ Qe mout est feloun
garrant./ Tut ert detret e puis pendu,/ E la pute arse en fu!// La
garreit/ S'il en fist mettre cure/ [Des] deus fiz de sa gendrure
garri/ E q'il revint el pais/ E od li le conte Amis,/ Tel ad el
garri./ Le seneschal li referri;/ Lour launces ount as coups
garri,/ Qe en corps ne en face/ De maladi ne appareust trace
garsons touz li guerpeient;/ Ne trova serjant ne esquier/ Qe
garsoun e saunz esquier;/ N'ala pas com chivaler/ Mes ala
garsouns e ses esquiers./ Touz lour fist mettre lour seeles
gaunt en son poing tint,/ E tendist en noun de **gage**/ Com
geint forment./ La dame l'acola tendrement,/ Si li demauda
gendrure:/ Si les enfantz tuast/ E Amillioun en le saunk
gent amé,/ E lour ad trestouz doné/ Bons chevaus e deners,/ E
gent bel responez,/ Grant preu e grant honur avrez!// Lessez
gent durement l'amerent;/ A femme prendre li consaillerent
gent fist tot assembler,/ Chasteleins e chivalers./ Serjanz
gent l'appelent Amorant,/ Mes Uwein fuit son dreit noun
gent/ Outre tote la cité;/ La fu la dame durement lié./ Jamés de
gent passerent avant,/ E [i]ll entendi nepurqant;/ De son estre
gent:/ Plurent e pleignent lour beauté./ Li quens, que mout
gent qe de sa terre furent/ Od grant nobley li receurent
gent tot enviroun/ Ala com a processioun./ Entre autres les
gent/ Vendroit a ly, cco li jura./ Amyllioun ly mercya./ Atant
gentil dameyseals,/ E q'il fuit tant bon chivaler/ Q'en la
Gentil home ressemblereit./ Un de eux ly appleyt
gentile femme esposat/ Qe fille d'un conte estoit,/ E pere e
gentile la damoysèle,/ En une realme ne out plus bele./ Deus
Gentils e de grant parage;/ Fiz estoient de barons,/ Si vous
gentils homes, qe alere[n]t juauant/ E les povres regardant
gentils hommes m'ount prié,/ E trestouz ai je refusé./ Certes
genula/ E le chivaler demaunda:/ En hostage pur li serreit
gere,/ Ne qe autre heyr n'i entrast/ Ne ses droitz amenusast
getté;/ E le seignur e le serjant,/ Sire Amyllioun e son enfant
getté s'amour;/ Si forment comensa a amer/ Q'ele ne pout
getta un grant sospir;/ Cil dit q'il out un seignur/ Q'il ne
getta un sospir,/ E el sospir geint forment./ La dame l'acola
gettast./ Amillioun doncque maundereit/ E la vérité de li
getteit./ Donke dit sir Amillioun: —/ Ne vodra celer son
giseit,/ Deleez sa femme se cocheit;/ Si s'avint en avisoun
gisent en Lombardie,/ E Deu fait pur eus grant vertuz:/ Les
gisoit,/ Sa bele dame a li disoit:/ 'Me diez par amour de moy
glotonie! Amez bien vostre seignur,/ Ne soffrez q'il eit
grace de Dé/ Qe del feloun serrom vengé,/ Qe vus quideit aver
graces en rendirent./ Sire Amillioun, quant fust sané/ E de
graces li rendi,/ Doneq comence pur fere joie:/ 'Jhesu Crist
grant affere./ Sa femme ly aime tendrement,/ Si fist tot son
grant aleure,/ Poignant plus qe amblure;/ Del feu q'il vist fut
grant baronage!! N'ust od ly ja si privé/ Q'il n'out dis
grant ben fesoit./ La povre gent tot enviroun/ Ala com a

1036 Amys,/ Com vous li soleiez amer jadis./
 458 se reposa,/ Tant qe vers une vespré/ En un
 199 respondu/ Ne vout uncore aver mary./ A
 876 se claiment cheitif e las;/ Plein[en]jt de
 526 en aye/ E doigne q'il puisse bien fere!/
 638 Le seneschal, qe nel pout amer,/ Un
 608 Le seneschal ferir ala,/ En le healme
 322 le terme q'avoient dit,/ Il ensembleront od
 337 ting cher,/ En qj me porrai affier?/ Si est
 818 a li vousist venir./ Cil soffri en cel an/
 2 voet oyr chaunzon d'amur,/ De leauté e de
 868 en son pais alast./ L'enfant respondu par
 323 dit,/ Il ensembleront od grant delit:/ Par
 272 vers son seignur./ Estez vous Florie par
 818 venir./ Cil soffri en cel an/ Grant dolur e
 96 A tote gent bel responez,/ Grant preu e
 773 cru li est par mariage/ Grant seignurie e
 927 Si eus fuissent en la cort conuz,/ A
 35 les fist a lour talent./ Chivalers lour fist a
 596 ferir./ Amillioun fier le seneschal/ D'un
 704 a terce sonant/ Touz i furent, petit e
 1099 Sitost com le saunc senti,/ De son
 1137 Sire Amillioun, quant fust sané/ E de son
 432 Amis se retret e purpensa/ Com celi qe
 156 regioun,/ La gent qe de sa terre furent/ Od
 10 furent de grant vassalage,/ Gentils e de
 81 mout est feloun e desleal/ E si est de mult
 556 e durement lié,/ E la pucele ensement./
 873 l'autre ad regarde,/ Mout est entre eux
 861 Ore suy tant demené/ Qe de ma vie est
 566 fut grantment effraé/ E de les dames eust
 202 fuit bien gardé:/ Compaignes out a
 96 autre trahir./ A tote gent bel responez,/
 494 li dit sir Amillioun/ Paroles de mult
 773 en astage,/ Car cru li est par mariage/
 560 Ala hastaunt lour juggement,/ E si jura
 941 Demaundast s'il vout servir./ E il getta un
 774 Grant seignurie e grant honur:/ De
 858 longes me durra ceste vie?/ Jeo solei aver
 9 E des armes li servoient./ Moult furent de
 388 E tendist en noun de gage/ Com home de
 1238 gisent en Lombardie,/ E Deu fait pur eus
 1192 Jhesu, le roy celestre./ Tourné me ert a
 565 plus qe amblure;/ Del feu q'il vist fut
 141 eiez de moy affere,/ Jeol vous fray od
 520 aparcevant!/ E sire Amist trestut le
 1145 ad el quer dolur/ Qe unque femme ne out
 72 De plur ne se poet tenir,/ Car moult li
 656 li voudra ja doner/ Qe li deit par dreit
 86 ne pour trover/ Par quoi il vus pour
 820 touz departoient,/ Ses garsons touz li
 827 li tint fer[m]lement,/ E dit que li ne velt
 963 hanap tant ameyt/ Q'en tot son anguisse
 62 eust od ly affere,/ Fuist ceo en pees ou en
 186 meuz li surveyt,/ Le seneschal plus li
 403 pur pour,/ E trestouz virent qe le seignur/
 818 Cil soffri en cel an/ Grant dolur e grant
 987 Arere tantost se repeira,/ Al counte de cel
 1010 E la verité de li querreit/ Qe son
 975 Au povres qe tant est mesaysé./ Mes le
 962 per,/ Qe ne vout vendre ne doner./ Mes le
 985 Pensa cil: 'Coment poet estre?/ Ces deus
 964 son anguisse guerpir ne voleit./ Les deus

Grant bosoigne li ad icy chacé./ Si le occiez, vous fetes
grant boys est alé./ A force ly covynt dormir,/ Aviz li fust
grant cherté le tynt le pere,/ E mout l'ama auxi la mere./ La
grant chivalrie/ Le honur e la seignurie/ Qe sire Amillioun
Grant chose enprent pur son frere!/ Amys remaint od la
grant coup li vint doner/ Amount el heaulme peint de flurs
grant coups dona./ Mes le healme tant fort fu/ Qe de la mort
grant delit:/ Par grant duçour s'entrebeiserent./ De amour
grant desert venu:/ Ma fille est pute devenu./ Ele est honie
Grant dolur e grant han./ Ses chevalers touz departoient,/ Ses
grant douçour —/ De troeffle ne voil jeo parler —/ En pees se
grant douçur:/ 'Merci Deu, mon seignur,/ Meuz voil od vous
grant duçour s'entrebeisserent./ De amour parlerent e juwerent
grant errorr!/ Ele li respondi e dist: 'Coment/ Vous ay amé
grant han./ Ses chevalers touz departoient,/ Ses garsons touz
grant honur avrez!! Lessez orgoil e envie,/ Si vous gardez de
grant honur:/ De grant terres est il seignur,/ De .iii. countez
grant honur serreint receuez./ Pres [de] la porte se souint mis
grant honur:/ Touz les ad dobbez en estour,/ Lour trova si
grant launce enpoignal/ Parmi l'escu peint de asur,/ Mes le
grant,/ Les barons e les chevalers,/ Borgés, sergeans e
grant mal est il garri,/ Qe en corps ne en face/ De maladi ne
grant mal netté,/ Sitost com porra prist congé,/ En son pais
grant mester en a./ De son frere li sovynt;/ Tantost a la
grant nobleyn li receurent;/ Trestouz li firent homage./ Ore
grant parage;/ Fiz estoient de barons,/ Si vous dirroy bien
grant parenté;/ Pur ceo est il le plus doté./ Unke ne vous pour
Grant pité avoient la gent:/ Plurent e pleignent lour beauté
grant pité:/ Plurent e decirent lour draps,/ Sovent se claiement
grant pité./ Si jeo de feim morir deveray,/ De mei memes
grant pité./ 'Sire,' dit il, 'jeo suy venu!// Dount vous sert tot
grant pleinté/ Des dameles del pais/ En sa chambre noef e
Grant preu e grant honur avrez!! Lessez orgoil e envie,/ Si
grant resoun:/ 'Beau frere, quant avez forfait/ E le serment
Grant seignurie e grant honur:/ De grant terres est il seignur
grant serement/ Qe il memes les verreit arder./ Ataunt virent
grant suspir;/ Cil dit q'il out un seignur/ Q'il ne lerreit pur
grant terres est il seignur,/ De .iii. countez e demy,/ Si tost
grant tresour,/ Estre servi d'argent e d'or,/ Ore suy tant
grant vassalage,/ Gentils e de grant parage;/ Fiz estoient de
grant vasselage,/ E dit que od li combat[er]oit/ E la vérité
grant vertuz:/ Les voegles ver, parler les mutz./ Tot ensi
grant vilté/ Si jeo ne soie de vous vengé./ Si fu[i] malades e
grantment effraé/ E de les dames eust grant pité./ 'Sire,' dit
graunt douçour,/ Sauve chescuny honur.'/ Li seneschal
graunte./ Lour robes ount trestot chaungé,/ E Amyllioun
greignur./ Donqe se tint enfyn honie:/ Ne quideit pas q'il
grave le departir./ Donqe parla sire Amillioun/ E dit: 'Amis
grever./ Mes le seneschal primes li ferist,/ Qe son coup tres
grever./ Mes quant jeo serray departi,/ Donke vus serra il
guerpient/ Ne trova serjant ne esquier/ Qe ewe froide li
guerpir/ Ne pur vivre ne pur morir./ La dame, que mout est
guerpir ne voleit./ Les deus hanaps tant ressembleient/ Qe, si
guerre,/ Maundast a ly hastivement,/ E il od force de sa gent
haeit/ De son benfait avoit envie,/ Mes Amys ne
Haist Amys desqe a la mort,/ Fust ceo a dreit fust ceo at tort
han./ Ses chevalers touz departoient,/ Ses garsons touz li
hanap counta/ Coment a soen ressembleit./ E le counte moult
hanap out perdu/ E coment est avenu./ Quant Amyllioun li
hanap soit bien gardé:/ En son esquel le vin versez,/ E ma
hanap tant ameyt/ Q'en tot son anguisse guerpir ne voleit
hanaps fist un mestre!'/ Arere tantost se repeira,/ Al counte
hanaps tant ressembleient/ Qe, si en une mayn estoient

847 La dame par tant defendi/ Qe nul ne fut si
 415 sire fust tant yrré/ Qe la n'out home taunt
 254 Florie, quant le congé en eust,/ S'a
 559 beauté./ Li quens, que mout fuit irré,/ Ala
 63 ceo en pees ou en guerre,/ Maundast a ly
 598 Parmi l'escu peint de asur,/ Mes le
 672 Le braz od le brank trencha:/ Desque en la
 1030 suffrir/ Qe son seigneur deust morir./ En
 1025 Tost l'espeie li fust baillé./ Puis l'ad en
 1086 E al matin est il alé,/ Deu requist e son
 38 en estour,/ Lour trova si com il voleint;/
 659 Qe son coup tres bien apparist:/ La
 667 par tel ayr/ Qe le feu fist tresailleur,/ Qe le
 608 d'asser;/ Le seneschal ferir ala,/ En le
 609 En le healme grant coups dona./ Mes le
 639 Un grant coup li vint doner/ Amount el
 584 fille a femme ly dorreyt/ E de tote sa terre
 1229 l'enfant bien feffa:/ De tote sa terre li
 175 estoit,/ E pere e mere perdu avoit;/ Pur
 55 Qe nul li fist treson ne gere,/ Ne qe autre
 49 qe son pere fina,/ Qi de soi n'ad autre
 277 vie aprés ceo jour/ Ne serray en mon quer
 592 e fiers./ Ne avera mester de acord;/ L'un
 1041 ses mains, ses cheveuz detire,/ Sa vie
 157 noblely li receurent;/ Trestouz li firent
 841 vie;/ Nul solas ad ne compaignie:/ N'ad
 720 serrez./ Avant mes unke si laid ne fust/
 388 tint,/ E tendist en noun de gage/ Com
 307 Touz deus a nostre talent/ Ne[!] savera
 472 fut moult effraé/ E tost sus sailli com
 27 Si de une robe vestu estoient,/ N'est
 534 deuz furent issi d'un senblant/ Ne crerret
 264 amé,/ Que si de ly amour ne avoit,/ Jamés
 966 Qe, si en une mayn estoient,/ N'est
 108 eust./ Paumez sunt chaeuz a terre;/ N'est
 105 Plurent e crient de pité./ Suz cel n'ad
 938 e parceu,/ E [s']il fuit auke vestu,/ Gentil
 415 Mes li sire fust tant yrré/ Qe la n'out
 904 pain, vin e de blé./ Qe donke ne poient
 934 E les custumes de les terres./ Les gentils
 281 me dedeignez avere amye!/ Tant gentils
 339 venu:/ Ma fille est pute devenu./ Ele est
 1146 ne out greignur./ Donqe se tint enfyn
 32 envers lor seygnur,/ Bien le portent a
 299 en avere vilenye/ Ne de vostre corps
 96 gent bel responez,/ Grant preu e grant
 773 li est par mariage/ Grant seignurie e grant
 877 e las;/ Plein[en]t de grant chivalrie/ Le
 34 a honour;/ Si les amast mult tendrement,/ fray od graunt doucour,/ Sauve chescuny
 142 bon seygnur,/ Destourber ne vot son
 60 Si eus fuissent en la cort conuz,/ A grant
 927 a lour talent./ Chivalers lour fist a grant
 35 A nostre seignur servy avom./ Pur vostre
 77 feloun serrom vengé,/ Qe vus quideit aver
 505 il, 'Deu mercy,/ Si ceo traitour m'ad issi
 334 vostre dru,/ Ne serrioms nous en fyn
 303 'Deu vous maudie!/ Ma fille est par vous
 376 de vous vengez!/ Certes ore suy jeo bien
 279 dame irrez,/ Nostre congé de li prendrez./
 886 Devint plus noyr ke carboun./ Tost sailli
 370 saet ele pas quoi ele poet fere;/ Si se met
 1153 qe mesel fuit en vein,/ Prist sa coupe
 hardi/ Qe de rien li regardast,/ Ne que manger li donast
 hardi/ Qe oseit un mot parler pur ly./ La dame ne se pout tenir
 hasté a plus que ele pust:/ Ove une soule chambere/ Ala par
 hastaunt lour juggement,/ E si jura grant serement/ Qe il
 hastivement,/ E il od force de sa gent/ Vendroit a ly, ceo li
 hauberc fuiest fort e dur/ Qe de mal l'ad garri./ Le seneschal li
 haunce le branc cola./ En cel champ fu ben vengé;/ Par li
 haut cria: 'Mercy, mercy!/ Pur icel Deu qe onqe ne menti/ E qe
 haut levé./ E Amillioun le col tendist./ Mais l'enfant avant
 haut noun/ A son frere doine garisoun./ La dame vint, qe
 Hautement lour feste teneint./ De Amys fist son botiler
 healme del coup enbarra,/ Qe Amillioun fort estona./ Ore
 healme fust tot purfendant./ En la cervele cola le brank./ E
 healme grant coups dona./ Mes le healme tant fort fu/ Qe de
 healme tant fort fu/ Qe de la mort l'ad deffendu,/ Qe le coup
 heaulme peint de flurs,/ Qe tost abati les colurs./ Sur le
 heir li freit./ Est venuz l'asemblé;/ Ore mes sourdra la medlé
 herita,/ Qe bien aveit deservy./ En bone vie longtemps
 heritage la moyté/ Li fuit escheu del counté./ De beauté
 heyr n'i entrast/ Ne ses droitz amenusast./ Le counte fust de
 heyr./ Quant Amillioun sout pur veir/ Qe son pere fuy affyné
 heyz/ Si jeo ne soye de vous vengez!/ Certes ore suy jeo
 hiet l'autre desq'a la mort./ Nul deigne a autre affier
 hiet, sa mort desire,/ La hure maudist q'onqe fu nee,/ Quant
 hommage./ Ore poet il mener grant baronage!/ N'ust od ly ja
 home a qui parler,/ Ne a qui poet son dolur moustrer,/ Fors a
 Home, com dire bien le poet./ Amillioun l'ad bien entendu
 home de grant vasselage,/ E dit que od li combat[er]eit/ E la
 home de mere nee./ Tant li ad dit e parlé/ Ore sunt a un de cel
 home desvec./ Tost appela ses chevalers,/ Ses garsouns e ses
 home el mound qe les avisast/ Qe l'un de l'autre desceverast
 home ja si parcevant/ Qe l'un de l'autre sout deviser,/ Si par
 home ne amereit./ Amis, quant l'ad escoté,/ Quideit que ele
 home qe tant de l'overaigne seust/ Qe l'un de l'autre deviser
 home qe me vousist crere/ Si jeo deisse la moyté/ Del doel
 home que la fust/ Qe dolur de la pité n'en eust./ Paumez sunt
 home ressemblereit./ Un de eux ly appeleyt,/ Demaundast s'il
 home taunt hardi/ Qe oseit un mot parler pur ly./ La dame ne
 home trover/ Qe rien lour voille doner./ Einz ne pount plus
 homes, qe alere[n]t juaut/ E les povres regardant,/ Veu ount
 hommes m'ount prié,/ E trestouz ai je refusé./ Certes n'estes
 honie, jeo suy trahi;/ Cel fel traître m'ad icy servy./ A touz
 honie:/ Ne quideit pas q'il fuit en vie./ Pur ceo fut tot
 honour;/ Si les amast mult tendrement,/ Honour les fist a lour
 hontage./ Jeo preng Deu en tesmoignage:/ Si ceo poet estre
 honour avrez!/ Lessez orgoil e envie,/ Si vous gardez de
 honour:/ De grant terres est il seignur,/ De .iii. countez e
 honour e la seignurie/ Qe sire Amillioun avoit eu,/ Qe ore est
 Honour les fist a lour talent./ Chivalers lour fist a grant honour
 honour./ Li seneschal ataunt se tint,/ Qe d'anguisse pale
 honour;/ Mes s'il eust od ly affere,/ Fuist ceo en pees ou en
 honour serreint receuz./ Pres [de] la porte se sount mis,/ E
 honour:/ Touz les ad dobbez en estour,/ Lour trova si com il
 honour vus cri mercy,/ De une chose soiez garny:/ Le counte
 honie./ Mes chivalers qe sunt icy/ Od vous desoremés
 honie,/ Que tant amey e tant ting cher,/ En qe me porrai affier
 honie?/ 'Hostez, hostez!' ceo dit Florie,/ 'Nous le froms si
 honie./ Mes vous ne irez ja riant;/ La mort vous va ja
 honie/ Quant vous me dedeignez avere amye!/ Tant gentils
 Hors de ceo pais irroms/ A plus tost que nous pooms./ Mes
 hors de la mayson,/ Si encontra le botiler./ A li soleit trop
 hors de la terre,/ Ne la savera plus aider./ Donqe comencea a
 hors de son sain,/ E l'autre la vist, si s'esmerveilla./ La

898 [ne] vendreit/ De l'hure qe issi serreit./
 830 que mout est ennuéy,/ Ambedeus s'est
 396 le baronage/ Que plegges troverent en
 421 se genula/ E le chivaler demaunda:/ En
 1205 vous del bordel/ [K']a moy livrastes pur
 42 Amyllioun ne velt lesser:/ De son
 834 de la vile a un bordel/ Illoc lour fist aver
 304 serrioms nous en fyn honye?/ 'Hostez,
 304 dru,/ Ne serrioms nous en fyn honye?/ '
 742 entendi en son corage/ Fere ne li velt
 329 e la meschine,/ L'endemain vint tot a
 267 Quideit que ele fuit devec/ Qe ele pout pur
 359 ad fait nostre botiler./ Pur nostre bien
 1042 detire,/ Sa vie hiet, sa mort desire,/ La
 731 plenere/ Une symaine tot entere;/ Mout
 704 L'endemain a terce sonant/ Touz
 1031 morir./ En haut cria: 'Mercy, mercy!'/ Pur
 515 En fet e en semblant,/ Come jeo memes
 1036 soleiez amer jadis./ Grant bosoigne li ad
 506 quideit aver honye./ Mes chivalers qe sunt
 855 n'avom a boivre ne a manger;/ Ne poums
 340 honie, jeo suy trahi;/ Cel fel traître m'ad
 717 esposez la damoisele,/ Einz qe soint .
 775 De grant terres est il seignur,/ De .
 794 de Amis lesser,/ Qe assez ad dount
 1085 jour s'est par matyn levé./ E al matin est
 629 E Amyllioun a pié se mettreit./ Mes
 119 de quer poy li ameit./ 'Si[re] Amis,' dit
 333 Ne parla mot une luwe./ 'Adonke,' dit
 375 Amis moult se merveilla./ 'Fel,' fait
 853 avant./ Tantost counta a son seignur,/ E
 797 Qe tant estoit leal compaignon./ Com
 322 espier./ Qant vint le terme q'avoint dit,/ /
 488 esveillé./ E sa gent passerent avant,/ E [
 757 E puis dit q'il prendra congé,/ Quant
 690 counte atant l'ad appellé:/ 'Dy moy,' fait
 736 Ore vus dei jeo bien counter/ Coment
 88 quant jeo serray departi,/ Donke vus serra
 1099 com le saunc senti,/ De son grant mal est
 941 Demaundast s'il vout servir./ E
 567 E de les dames eust grant pité./ 'Sire,' dit
 82 E si est de mult grant parenté;/ Pur ceo est
 1186 Bel la comence a chastier:/ 'Dame,' dit
 1065 vie;/ De ses eses ass[e]z avoyt/ Tant com
 1023 ne faudrez!/> Tantost espeie demaunda,/ E
 561 juggement,/ E si jura grant serement/ Qe
 165 e deners,/ E robes a ses esquires./ E
 158 Trestouz li firent homage./ Ore poet
 790 la dame./ Quant mortz furent pere e mere,/ /
 553 armer,/ Puis demaunda le botiler;/ E quant
 355 La dame sur un lit trovat./ 'Dame,' dit
 64 en guerre,/ Maundast a ly hastivement,/ E
 1109 Si ceo fuist sire Amillioun,/ Coment
 444 Pur vous ad ma mort juré./ 'Dame,' dist
 634 Q'il n'eust de son cheval envie./ Tant fist
 316 A son seignur le ala counter/ Sitost com
 411 esgarré e com pensifs,/ Ne sout lequel
 1077 E de cel sounge resperi,/ 'A, Deu!' dit
 245 nul remis/ Des chevalers for sire Amis,/ E
 539 riens, si par la robe noun./ Amis, quant
 774 e grant honur:/ De grant terres est
 363 Deu li doint male destiné!/ Si avra
 149 e fist son mester;/ Servi le counte com

Hors del pais s'en vont;/ Jamés quident qe revendrount
hors getté;/ E le seignur e le serjant,/ Sire Amyllioun e son
hostage./ Le seneschal ad taunz trové/ Ke le counte fut bien
hostage pur li serreit,/ En son plegge devendreit./ 'Voir,' dit
hostel./ Celi avereit tant com vus viverez;/ En noun de
hostel ly fist justizer,/ Mestre mareschal sur touz/ Qi fort
hostel./ O, misires Amyllioun,/ Mis estes a povre garisoun
hostez! ceo dit Florie,/ 'Nous le froms si privément/ Touz
Hostez, hostez!' ceo dit Florie,/ 'Nous le froms si privément
hountage/ De son compaignoun trahir./ Moult parfound
hounte:/ Acounté est tot lor oeuvre al counte./ Li quens fu de
hounte discoverir/ Sa volonté e son desir./ De respoudre se
hounte nous rend:/ Tray nous ad malement,/ Qe nostre fille
hure maudist q'onqe fu nee,/ Quant peccché l'ad ensi encombré
i furent des robes donez/ Dont les menestrauz furent feffez./ Le
i furent, petit e grant,/ Les barons e les chevalers,/ Borgés
ice l Deu qe onqe ne menti/ E qi en croiz suffri passiou
ice o fuisse,/ Qe ele encheson ne troesse/ Qe illoke est autre
icy chacé./ Si le occiez, vous fetes pecché.'/ Quant le counte
icy Od vous desoremés demorront;/ A ma court od vous
icy plus demorer./ Jhesu, le fiz seinte Marie,/ Com longes me
icy servy./ A touz jours avera reprover/ Si jeo ne me puisse de
iii. anz passez,/ aprés de ceste leprouz serrez./ Avant mes
iii. countez e demy,/ Si tost come li quens est fini./ Ore est
ii ad mester./ Vus dirrai de sire Amillioun/ Qe tant estoit leal
ii alé;/ Deu requist e son haut noun/ A son frere doine
ii aparceut tost la manere,/ Si ceo retret tost arere./ Tost
ii, 'bien veignant!'/ De vous suy ore alé pensant/ E de misire
ii, 'Deu mercy,/ Si ceo traitour m'ad issi hony,/ Que tant
ii, 'Deu vous maudie!'/ Ma fille est par vous honye./ Mes vous
ii dit: 'C'est mal dolur/ Quant n'avom a boivre ne a manger
ii en son lit gisoit,/ Sa bele dame a li disoit:/ 'Me diez par
ii ensembleront od grant delit:/ Par grant duçour
ii entendi nepurqant;/ De son estre saver voleit./ Si li retint
ii eust le congé pris,/ E seignurs ove ly desqe a dis,/ En son
ii, 'fille bele,/ Amys pur vous ad combatu,/ Son enemi ad
ii firent a coucher:/ La dame ad son dreu acolé/ E par amour
ii fort enemy./ Gardez vus de sa felonie!/ Ne aiez od li
ii garri,/ Qe en corps ne en face/ De maladi ne appareust trace
ii getta un grant suspir;/ Cil dit q'il out un seignur/ Q'il ne
ii, 'jeo suy venu!'/ Dount vous sert tot ceo fu/ Qe pur les dames
ii le plus doté./ Unke ne vous pout amer,/ Mal vus ad quis a
ii, 'lessez ester!'/ Ne deussez tel doil demener/ Pur ceo qe sain
ii memes desiroit./ Quant passa le temps issi,/ Qe li quens une
ii memes dist q'il le tuera./ Tost l'espeie li fust baillé./ Puis
ii memes les verreit arder./ Ataunt virent vener un chevaler
ii memes si bel estoyt/ Qe tut le pays le disoyt/ Si Deu
ii mener grant baronage!/> N'ust od ly ja si privé/ Q'il n'out
ii ne eust soer ne frere/ For soul la dame qe Amis aveit,/ Pur
ii ne pout estre trové,/ La dame fuit pris e durement lié,/ E la
ii, 'ne savez/ Quele fille vus avez!'/ Ele est ja femme de mester
ii od force de sa gent/ Vendroit a ly, ceo li jura./ Amyllioun ly
ii out sa garisoun./ 'Dame, certes, jeo vus dirray,/ Mes vous
ii, par ma lealté,/ Pur ma defaute ne murrez mie,/ Tant com je
ii par sa cortesie:/ Meuz a pié l'estut ferir/ Que lessir son
ii poet espleiter./ Le seneschal fut molt lec;/ Ore quideit bien
ii pout eslire,/ Mort ou vie, ne sout ke dire./ Plusors aveient
ii, 'qe onqe ne menti,/ Doine qe voir soit mon sounge./ Mes
ii remist pur maladie./ E la damesele ne targa mye:/ De sa
ii se ajouta,/ Leez la dame se coucha;/ Sa espeie nue entre eus
ii seignur,/ De .iii. countez e demy,/ Si tost come li quens est
ii, si jeo vive tant;/ Ne li ert nul de mal garrant./ Tut ert detret
ii soleyt,/ E le counte mout li amoyt:/ Od sei le tint plus privé

donqe li sovent:/ ‘Bien sai’, fait
l’ad feru du pé./ Qe en la bowe est
ceo fuit li demaundeine/, Mes sitost com
ad dobbez en estour,/ Lour trova si com
bien ai la mort deservi.’ / ‘Voir,’ dist
Mes encheson ne pout trover/ Par quoi
son enfant,/ A chef de la vile a un bordel/
appelast,/ E pur Deu li conjurast/ Qe
La fu la dame durement lié./ Jamés de
sojorna le counté Amys/ Qe noble court
fuisse,/ Qe ele encheson ne troesse/ Qe
Autre dames ensample averont/ Coment
est tot lor oeuvre al counte./ Li quens fu de
ren./ Amillioun vint par corucer,/ Par
lour beauté./ Li quens, que mout fuit
S’il ne sache le coup rendre,/ Li autre s’en
fille est par vous honye./ Mes vous ne
dist sire Amyllioun:/ ‘Oweyn, a la dame
congé de li prendrez./ Hors de ceo pais
demorront;/ A ma court od vous
Si ne dormist nule nust./ Touz les noitz
fuit bien quideit./ Les deuz furent
dit il, ‘Deu mercy./ Si ceo traitour m’ad
il memes desirot./ Quant passa le temps
Desques al matin al lever./ Chescune nuyt
mes en le pais [ne] vendreit/ De l’heure qe
durement lié./ Jamés de illoec ne pout
vous ne irrez ja riant;/ La mort vous va
les autres plorerent./ Les chevalers
la bataille ad tant duré;/ Un coup li voudra
clement?/ Qe jeo vus ay doné m’amur?/
‘ne savez/ Quele fille vus avez!/ Ele est
il, ‘vous l’avez!/ De vostre demaunde
est par vous honye./ Mes vous ne irrez
issi d’un senblant/ Ne crerret home
il mener grant baronage!/ N’ust od ly
Amyllioun,/ Mis estes a povre garisoun!/
Amys,/ Com vous li soleiez amer
tote la cité;/ La fu la dame durement lié./
de ly amé,/ Que si de ly amour ne avoit,/
nonaynes se muscereit;/ Son seignur
qe issi serreit./ Hors del pais s’en vont;/
doner./ Si Amyllioun perdu eussez,/ Pur
ma defaute ne murrez mie,/ Tant com
hommes m’ount prié,/ E trestouz ai
Les chivals e les destrers./ Ore vus dei
ne soye de vous vengez!// Certes ore suy
‘Dame, jeo [ne] le dirrai mes;/ A ceo fui
demené/ Qe de ma vie est grant pité./ Si
tost bailler/ Pur cestes dames deliverer!/
terre;/ N’est home qe me vousist crere/ Si
Moult bien me deffenderay/ Devant qe
forfiz,/ E quiderount qe jeo soye Amys./
‘Voir,’ dit li quens, volez ensy?/ E
soit alé,/ Son quer me est abandoné,/ E
quant avez forfait/ E le serment avez fet,/ faciez atant,/ En fet e en semblant,/ Come
Puis feistes jurer mon serjant/ Qe
Sire, purquei le feistes vous?/ ‘Dame,
a vostre talent!/ Si vus me volez marier,/ servy./ A touz jours avera reprover/ Si
A plus tost que nous pooms./ Mes
celestre./ Tourné me ert a grant vilté/ Si

jour/ Ne serray en mon quer heytes/ Si
—/ Ne vodra celer son noun —/ ‘
e de grant douçour —/ De troeffle ne voil
Si fu[i] malades e defet,/ Pur ceo n’avo
vilenye/ Ne de vostre corps hontage./
charité/ Qe ele me face une ane doner/ Qe
li venger./ Est ceo voir, sire seneschal?/
Par quoi il vus pout grever./ Mes quant
Marie,/ Com longes me durra ceste vie?/
Qe jeo unke ne li forfiz,/ E quiderount qe
Ma fille est pute devenu./ Ele est honie,
les dames eust grant pité./ ‘Sire,’ dit il, ‘
‘Sire,’ dist Amys, ‘vus dites mal./
me faites tost trencher./ Mes certes ai
fray,/ E le serment lealment juray/ Qe
Deu li doint male destiné!/ Si avra il, si
suy e serray,/ E vostre serjant tant com
—/ ‘Lessez, lessez, sire Amillioun!/
troesse/ Qe illoke est autre de moy;/ Car
‘Me diez par amour de moy —/ Car
‘Coment/ Vous ay amé celement?/ Qe
il out sa garisoun./ ‘Dame, certes,
crere/ Qe, si vous eiez de moy affere,/

li rendi,/ Donqe comence pur fere joie:/ ‘
a manger;/ Ne poums icy plus demorer./
Si feussez tele com deussez estre,/ Par
vount touz beiser:/ Sur touz li fist la dame
voleit./ Si li retint, si li diseit./ Fu la
graces li rendi,/ Donqe comence pur fere
La dame, sitost com vew li a,/ Pres de
escoté./ Après la messe vint a mesoun;/
ne voil lesser./ Mout avera fait bone
counte out comaundé./ Un an vesqui e un
avint/ Qe li quens une feste tynt/ Par un
demoré od son seygnur/ E meuz li servi de
tant fu de vigour,/ Meint coup li dona ceo
ay doné m’amur?/ Ja en ma vie après ceo
volunté;/ De countredit n’en ad parlé./ Un
verrait./ Mes ne li ert pas destiné,/ Car un
Qe par une fenestre luy porteit/ Chescun
Si par lour saunk poet estre sauné.’/ Un
ensemement./ E li memes a li vet/ Chescun
od son seygnur/ E meuz li servi de jour en
De sir Amillioun voloms parler./ Le
volez, m'est avys!/ Si vous ne venez a tel
Cel fel traitre m'ad icy servy./ A touz
terres./ Les gentils homes, qe alere[n]t
dota de rien./ Ne savoit [nul] del chaump
E li quens [les] resceust atant./ E doncé
vus dy/ Qe, s'il defaut a la bataille,/ Le
que mout fuit irré,/ Ala hastaunt lour
bien qe mon seignur/ Pur vous ad ma mort
od force de sa gent/ Vendroit a ly, ceo li
irré,/ Ala hastaunt lour juggement,/ E si
la bataille fray,/ E le serment lealment
E del pais m'enchaestes;/ Puis feistes
li fist un asne aver,/ E pus sus les seintz
ne velt lesser:/ De son hostel ly fist
En pees se tienge pur escoter!// De deus
Tant que li quens s'en ala/ A boys
s'entrebeiserent./ De amour parlerent e
ne pur morir./ Suvenez vous del bordel/ [
de mal ard e d'vre, / Devint plus noyr

jeo ne soye de vous vengez!// Certes ore suy jeo bien hony
Jeo ne suy pas celi qe vous quidez;/ De vostre espoir failli
jeo parler —/ En pees se tienge pur escoter!// De deus
jeo pas forfait,/ Qe vivre deusse bien du mien./ Dame
Jeo preng Deu en tesmoignage:/ Si ceo poet estre aparceu/ Qe
jeo puisse chivacher.’/ L'enfant a la dame ala,/ Son message
Jeo quide que l'avez dit pur mal.’/ ‘Sire,’ le seneschal
jeo serray departi,/ Donke vus sera il fort enemy./ Gardez
Jeo solei aver grant tresour,/ Estre servi d'argent e d'or,/ Ore
jeo soye Amys./ Jeo espoir par la grace de Dé/ Qe del feloun
jeo suy trahi;/ Cel fel traitre m'ad icy servy./ A touz jours
jeo suy venu!// Dount vous sert tot ceo fu/ Qe pur les dames
Jeo suy vostre chivaler leal;/ Si nul vous ad de moy counté
jeo trop vesqui;/ Trop bien ai la mort deservi.’/ ‘Voir,’ dist il
jeo unke ne li forfiz,/ E quiderount qe jeo soye Amys./ Jeo
jeo vive tant;/ Ne li ert nul de mal garrant./ Tut ert detret e
jeo viveray./ Vers vous ne mesprendroie mye/ Par qui vous
Jeo vous di certeine novele:/ Si vous espousez la damoisele
jeo vous dy en bone foy/ Qe ele [est] mout aparcevante!'/ E
jeo vus aime en bone fey —/ Ta espee nue meistes entre nous
jeo vus ay doné m'amur?/ Ja en ma vie après ceo jour/ Ne
jeo vus dirray,/ Mes vous desconforteray./ Sachez, dame, que
Jeol vous fray od graunt douçour,/ Sauve chescun honur.’
Jhesu Crist, le fiz seinte Marie,/ Si li plest, par son poer
Jhesu, le fiz seinte Marie,/ Com longes me durra ceste vie
Jhesu, le roy celestre./ Tourné me ert a grant vilté/ Si jeo ne
joie,/ E la pucele totevoie/ Semblant li fist tant com osa
joie, fu la pité./ Quant l'un od l'autre est aquointé!/ Donke li
joie:/ ‘Jhesu Crist, le fiz seinte Marie,/ Si li plest, par son
joie se palma;/ Vint al seignur, si li demaunda/ Si ceo fuist
Joiouse est ele pur Amyllioun./ Amys doncé ove la dame ala
jorné/ Si par lour saunk poet estre sauné.’/ Un jour s'est par
jour;/ A drein morust pur dolur./ Sire Amillioun fut molt prisé
jour de l'Ascensioun;/ La fuit assemblé maint baroun./ Est
jour en jour./ Taunz com Amis meuz li serveyt,/ Le seneschal
jour./ La bataille ad bien duré/ Desque noune fust passé./ Ly
jour/ Ne serray en mon quer heytes/ Si jeo ne soye de vous
jour par aventure avint/ Qe li quens une feste tynt/ Par un jour
jour par matyné/ Les deus countes sunt venuz/ E a la porte
jour sa liveré,/ Coment le counte out comaundé./ Un an
jour s'est par matyn levé./ E al matin est il alé;/ Deu requist c
jour sis foiz ou sept:/ Tant com pout l'ad conforté./ La dame
jour./ Taunz com Amis meuz li serveyt,/ Le seneschal plus li
jour vint qe fuist assis/ Entre le seneschal e Amys./ Le
jour,/ Vous savez bien qe mon seignur/ Pur vous ad ma mort
jours avera reposer/ Si jeo ne me puisse de li venger./ Est
juaunt/ E les povres regardant,/ Veu ouint l'enfant bel e
juger/ Lequel fuit meilleur chevaler./ Amillioun fust bien
jugga le baronage/ Que plegges troverent en hostage./ Le
juggement averez saunz faille,/ Qc vostre fille fust destiné
juggement,/ E si jura grant serement/ Qe il memes les
juré.’/ ‘Dame,’ dist il, par ma lealté,/ Pur ma defaute ne
jura./ Amyllioun ly mercya./ Atant del counte departi,/ Si ala
jura grant serement/ Qe il memes les verreit arder./ Ataunt
juray/ Qe jeo unke ne li forfiz,/ E quiderount qe jeo soye
jurer/ Mon serjant/ Qe jeo ne deusse en mon vivant/ En ceo
jurer/ Qe mes en le pais [ne] vendreit/ De l'hure qe issi serreit
justizer,/ Mestre mareschal sur touz/ Qi fort esteit e
juvenceals vous dirray,/ Sicom en escrit le trovay;/ Q'en la
juwer en venerie,/ Od ly tote sa chivalrie./ A l'ostel n'i out
juwerent./ De autre chose ne dirra[i] mie;/ Ne croy pas q'il y
K'ja moy livrastes pur hostel./ Celi averez tant com vus
ke carboun./ Tost sailli hors de la mayson,/ Si encontrera le

412 lequel il pout eslire,/ Mort ou vie, ne sout
 398 en hostage./ Le seneschal ad taunz trové/
 957 lor envoia./ Amis une coupe avoit/
 468 se cocheit;/ Si s'avint en avisoun/
 1123 plus n'enpensoms;/ Si Deu velt, bien
 647 de vigour,/ Meint coup li dona ceo jour./
 654 chevaler./ Amillioun fust bien anuié/ Qe
 761 Amys ad trestot counté/ Coment eust finé
 499 Del serment serrez encombré./ Pur vous
 425 E jeo lealment vus dy/ Qe, s'il defaut a
 676 chaist, n'est pas mervaille./ Ore finist
 582 en son oraille/ Qe, s'il pout deffendre
 997 errant:/ Forment l'ad feru du pé./ Qe en
 668 Qe le healme fust tot purfendant./ En
 353 play m'est laid e vileins.'/ Atant en
 1129 Amys doncq ove la dame ala/ En
 644 de cent./ Bien pres passa le costé./ Mes
 224 matire aveient./ Est venuz la novele/ En
 1212 De loin le virent tote sa gent/ Outre tote
 1185 de pour./ Le seignur la fist relever,/ Bel
 1236 Moult se amerct fierement,/ E bone fut
 926 eus veit, qu'il sount;/ Si eus fuissent en
 434 en a./ De son frere li sovynt;/ Tantost a
 214 son mester:/ De un drap vestu esteit,/ Des
 983 sain,/ E l'autre la vist, si s'enmerveilla./ La
 21 De companie tant ne quant./ Ceus de
 391 E la vérité provereit./ Est veus tote
 228 E q'il fuit tant bon chivaler/ Q'en
 114 Quant Amis de palmisoun levoit,/ Vers
 7 diray,/ Sicom en escrit le trovay;/ Q'en
 327 avoit vilaynie./ Le seneschal, quant sout
 737 bien counter/ Coment il firent a coucher:/
 1128 est ele pur Amyllioun./ Amys doncq ove
 892 Qe jeo puisse chivacher.'/ L'enfant a
 1140 congé,/ En son pais s'en est alé./ Quant
 542 se coucha;/ Sa espeie nue entre eus posa./
 1213 tote sa gent/ Outre tote la cité;/ La fu
 554 le botiler;/ E quant il ne pout estre trové,/ La
 884 li dist sire Amyllioun:/ 'Oweyn, a
 685 li vount touz beiser:/ Sur touz li fist
 746 un sospir,/ E el suspir geint forment./
 428 faille,/ Qe vostre fille fust destiné! '/
 811 laid devint/ Qe checun pur mesel li tint./
 417 hardi/ Qe oseit un mot parler pur ly./
 367 detret e puis pendu,/ E la pute arce en fu?/
 543 posa./ La dame de ceo s'enmerveilla./ A
 1166 De lour venue ne saveint mie./ Quant
 846 plus viveit,/ Tant plus leid deveneit./
 791 e mere,/ Il ne eust soer ne frere/ For soul
 191 Q'il come sa vie ameit./ Une fille avoit
 531 pur voir/ Qe ceo fuit lour dreit seignur./ E
 788 a Deu rendist s'alme;/ E tost après morust
 829 velt guerpir/ Ne pur vivre ne pur morir./
 540 noun./ Amis, quant il se ajouta,/ Leez
 1114 pur sa saunté/ Voz deus fiz ai estranglé.'/
 1105 li fist veneit/ E a mouster puis li mena./
 1059 ou sept;/ Tant com pout l'ad conforté./
 354 e vileins.'/ Atant en la chambre entrat,
 1088 haut noun/ A son frere doine garisoun./
 246 for sire Amis,/ E il remist pur maladie./ E
 224 Est venuz la novele/ En la chaumbre a
 716 vous di certeine novele:/ Si vous esposez
 727 aparceu/ Coment son frere eust deceu./

ke dire./ Plusors aveient de ly pité,/ Mes li sire fust tant yré
 Ke le counte fut bien payé./ Tant fuit li seneschal doté/ Qe
 Ke mout ferement amoit,/ Car Amillioun, qe tant amoyt
 Ke sir Amys son compaignoun/ D'un leon fust assailli,/ Qe li
 1é recoveroms.'/ Atant la parole ount lessé/ E le service Deu
 La bataille ad bien duré/ Desque noune fust passé./ Ly
 La bataille ad tant duré;/ Un coup li voudra ja doner/ Qe li deit
 La bataille/ E coment eust fait la sposaille./ En une chambre
 La bataille fray,/ E le serment lealment juray/ Qe jeo unke ne
 La bataille,/ Le juggement averez saunz faille,/ Qe vostre fille
 La bataille./ Les uns chaunterent, les autres plorerent./ Les
 La bataille,/ Sa fille a femme ly dorreyt/ E de tote sa terre heir
 La bowe est il versé./ Les chevalers vindrent del deys,/ Qe li
 La cervele cola le brank./ E l'oraille od tote la face/ Voler fist
 La chambre entrat,/ La dame sur un lit trovat./ 'Dame,' dit il
 La chambre ou les enfaunz lessa./ Les enfantz furent
 La char n'ad pas toché./ Amyllioun, qe tant fu de vigour
 La chaumbre a la damoisele/ Del botiler qe tant ert beaus/ E
 La cité;/ La fu la dame durement lié./ Jamés de illoec ne pout
 La comence a chastier:/ 'Dame,' dit il, 'lessez ester!/ Ne
 La compagnie./ Lor corps gisent en Lombardie,/ E Deu fait
 La cort conuz,/ A grant honur serreint receuz./ Pres [de] la
 La countesse vynt,/ Congé li ala demaunder/ Qe a son frere
 La coupe devant li quens teneit./ Mout fu beals e aligné,/ Des
 La coupe durment regarda;/ Pensa cil: 'Coment poet estre
 La court avoint envie/ De lour estre e de lour compayne
 La court ensemblé,/ Ly chivalers e la meisné./ Li un contre
 La court n'out son per./ La pucele en prist tendrour/ Qe tant
 La court sci retorneyt;/ Sitost com en la porte entra,/ Li
 La court un counte estoient/ E des armes li servoient./ Moult
 La covine/ Entre Amis e la meschine,/ L'endemain vint tot a
 La dame ad son dreu acolé/ E par amour sovent baisé,/ E en
 La dame ala/ En la chambre ou les enfaunz lessa./ Les enfantz
 La dame ala,/ Son message li counta./ Ele li fist un asne aver
 La dame aveit oy/ Qe son seignur estoit garri/ E q'il revint el
 La dame de ceo s'enmerveilla./ A la dame ne voleit parler
 La dame durement lié./ Jamés de illoec ne pout issir;/ La
 La dame fuit pris e durement lié,/ E la pucele ensement./ Grant
 La dame irrez,/ Nostre congé de li prendrez./ Hors de ceo pais
 La dame joie,/ E la pucele totevoie/ Semblant li fist tant com
 La dame l'acola tendrement,/ Si li demaunda quoi pensoit/ E
 La dame lermist pur pité,/ Prist Amis en plevine;/ Moult fu
 La dame li tint trop en despit:/ Ne voleit entrer en son lit,/ Ne
 La dame ne se pout tenir/ Ne pur vivre ne pur morir;/ Devant
 La dame ne sout quoy dire./ Le counte de mal ard e d'yre
 La dame ne voleit parler,/ Desques al matin al lever./ Chescune
 La dame oi counter,/ En une chaumbre se ala muscer;/ Meuz
 La dame par tant defendi/ Qe nul ne fut si hardi/ Qe de rien li
 La dame qe Amis aveit,/ Pur ceo les terres recevoit./ Ore
 La dame/ Q'ele amoit come s'alme./ Mout fut gentile la
 La dame, quant li veu aveit,/ Qe Amillioun fuit bien quideit
 La dame./ Quant mortz furent pere e mere,/ Il ne eust soer ne
 La dame, que mout est ennuyé,/ Ambedeus s'est hors getté;/ E
 La dame se coucha;/ Sa espeie nue entre eus posa./ La dame de
 La dame ses meins a Deu tendi/ E mout graces li rendi,/ Doneq
 La dame, sitost com vew li a,/ Pres de joie se palma;/ Vint al
 La dame sovent a ly est alé,/ Qe li ama molt de fin quer
 La dame sur un lit trovat./ 'Dame,' dit il, 'ne savez/ Quele fille
 La dame vint, qe bone fust,/ Sovent Deu pur li requist./ Atant
 La damesele ne targa mye:/ De sa dame prist congé,/ E ele
 La damoisele/ Del botiler qe tant ert beaus/ E tres gentil
 La damoisele,/ Einz qe soint .iii. anz passez,/ après de ceste
 La damoisele fuit ben paé/ Quant ad baroun a volonté./ Le

193 amoit come s'alme./ Mout fut gentile
 201 tynt le pere,/ E mout l'ama auxi la mere./
 1215 lié./ Jamés de illoec ne pout issir;/
 195 realme ne out plus bele./ Deus countes
 669 cervele cola le brank./ E l'oraille od tote
 1184 seignur./ Ele pauma de pour./ Le seignur
 1014 pout son quer crever:/ 'Sire,' dit, 'par
 1213 le virent tote sa gent/ Outre tote la cité;/
 210 feste tynt/ Par un jour de l'Ascensioun;/
 105 e crient de pité./ Suz cel n'ad home que
 881 Le noun vous dirray de l'enfant:/
 556 E la pucele ensement./ Grant pité avoient
 155 sir Amillioun:/ Quant vint a sa regioun,/ qe jeo soye Amys./ Jeo espoir par
 503 Le braz od le brank trencha:/ Desque en li
 672 ferist,/ Qe son coup tres bien apparist:/ detire,/ Sa vie hiet, sa mort desire,/ saver voleit./ Si li retint, si li diseit./ Fu
 370 a pié se mettreit./ Mes il aparceut tost plus noyr ke carboun./ Tost sailli hors de
 586 Est venuz l'assemblé;/ Ore mes sourdra ne pout trover plevine,/ Pausmē chei
 408 enprent pur son frere!/ Amys remaint od
 527 tote la court ensamble,/ Ly chivalers e
 392 aparcevant/ De lour venue tant ne quant./ serround,/ Qe trestot oy un vassal/ De
 1164 sunt a un de cel affere,/ Dount devisent cherté le tynt le pere,/ E mout l'ama auxi
 314 Mes ore, soit voir ou mensouinge,/ Prist Amis en plevine;/ Moult fu dolente
 310 quant sout la covine/ Entre Amis e
 200 E le service Deu ount escoté./ Après certes ai jeo trop vesqui;/ Trop bien ai
 1080 N'est pas merveile s'il ad dolur./ virent qe le seignur/ Haist Amys desqe a
 430 dona./ Mes le healme tant fort fu/ Qe de
 328 mester de accord:/ L'un hiet l'autre desq'a vous honye./ Mes vous ne irrez ja riant;/
 1126 home qm me vousist crere/ Si jeo deisse
 1019 E pere e mere perdu avoit;/ Pur heritage
 839 De chescun mes qe l'em li porta/ de ly pité,/ Mes li sire fust tant yrré/ Qe
 403 De sa beauté matire aveient./ Est venuz
 610 Si Deu velt, bien le recoveroms./ Atant
 1124 106 Suz cel n'ad home que la fust/ Qe dolur de
 491 Si li retint, si li diseit./ Fu la joie, fu
 409 plevine,/ Pausmē chei la meischine./ En
 670 E l'oraille od tote la face/ Voler fist enni
 1161 matyné/ Les deus countes sunt venuz/ E a
 115 la court sei retrorneyt;/ Sitost com en
 928 A grant honur serreint receuz./ Pres [de] illoec tenoit/ E moult grant ben fesoit./
 922 le poet./ Amillioun l'ad bien entendu,/ E
 722 chivaler/ Q'en la court n'out son per./
 555 La dame fuit pris e durement lié,/ E
 708 e esquiers./ Quant touz furent assemblé,/ E ele tantost li ad doné./ Nomer vous dey
 249 beiser:/ Sur touz li fist la dame joie,/ E
 686 garrant./ Tut ert detret e puis pendu,/ E
 366 drew,/ Mes pur ceo ne vout lesser,/ Mes
 724 par cors ne par fasçon./ Par riens, si par
 538 si bel chivaler ne vist./ Touz ceus qe en
 221 poet fere;/ Si se met hors de la terre,/ Ne
 1154

1a damoysele,/ En une realme ne out plus bele./ Deus countes
 La damoysele fuit bien gardé:/ Compaignes out a grant
 La demora desqe al morir./ Autre dames ensample averont
 1a desirent,/ E esposer la volirent,/ Mes ele a trestouz
 1a face/ Voler fist enni la place./ Le braz od le brank trencha
 1a fist relever,/ Bel la comence a chastier:/ 'Dame,' dit il
 1a foy qe vus devez/ A Amillioun, qe tant amez,/ Ne me facez
 La fu la dame durement lié./ Jamés de illoec ne pout issir;/ La
 La fuit assemblé maint baroun./ Est veuz li mestre botiler
 1a fust/ Qe dolur de la pité n'en eust./ Paumez sunt chacuz a
 La gent l'appelent Amorant,/ Mes Uwein fuit son dreit noun
 1a gent:/ Plurent e pleignent lour beauté./ Li quens, que mout
 La gent qe de sa terre furent/ Od grant nobley li receurent
 1a grace de Dé/ Qe del feloun serrom vengé,/ Qe vus quideit
 1a haunch le branc cola./ En cel champ fu ben vengé,/ Par li
 La healme del coup enbarra,/ Qe Amillioun fort estona./ Ore
 La hure maudist q'onqe fu nee,/ Quant pecché l'ad ensi
 1a joie, fu la pité./ Quant l'un od l'autre est aquointé!/ Donke
 1a manere,/ Si ceo retret tost arere./ Tost descendri de son
 1a mayson,/ Si encontra le botiler./ A li soleit trop beal
 1a medlé./ Le un l'autre desaffient/ Qe entre eus nul amur ne
 1a meischine./ En la place estoit Amis/ Com esgarré e com
 1a meisné,/ Cum li sire e envoyé;/ E quiderount trestouz pur
 1a meisné./ Li un countre l'autre tendi son gant,/ E li quens
 La meisnee fust endormie;/ De lour venue ne saveint mie
 1a meisnee le seneschal./ A son seignur le ala counter/ Sitost
 1a menere/ Coment e quant s'assemblerunt./ Allas! Q'encusé
 1a mere./ La damoysele fuit bien gardé:/ Compaignes out a
 La merveile voiz voil prover,/ Pur mes enfanz ne voil lesser
 1a meschine./ Amis se retret e purpensa/ Com celi qe grant
 1a meschine,/ L'endemain vint tot a hounte:/ Acounté est tot
 1a messe vint a mesoun;/ Joouse est ele pur Amyllioun
 1a mort deservi./ 'Voir,' dist il, 'vous l'averez!/ De vostre
 La mort desire plus qe la vie;/ Nul solas ad ne compaignie
 1a mort,/ Fust ceo a dreit fust ceo at tort./ Nul ne oseit pur li
 1a mort l'ad deffendu,/ Qe le coup ala descendant/ Si chiet sur
 1a mort./ Nul deigne a autre affier;/ Chescun se prent a ferir
 La mort vous va ja approchaunt!'/ 'Sire,' dist Amys, 'vus
 1a moyté/ Del doel q'entre eus ount demené./ Li un s'en va ver
 1a moyté/ Li fuit escheu del counté./ De beauté avoit le pris
 La moyté lor envoia./ Amis une coupe avoit/ Ke mout
 1a n'out home taunt hardi/ Qe oseit un mot parler pur ly./ La
 1a novele/ En la chaumbre a la damoisele/ Del botiler qe tant
 1a parole ount lessé/ E le service Deu ount escoté./ Après la
 1a pité n'en eust./ Paumez sunt chacuz a terre;/ N'est home qm
 1a pité./ Quant l'un od l'autre est aquointé!! Donke li dit sir
 1a place estoit Amis/ Com esgarré e com pensifs,/ Ne sout
 1a place./ Le bras od le brank trencha:/ Desque en la haunch
 1a porte descenduz,/ Qe nul fut aparcevant/ De lour venue tant
 1a porte entra,/ Li seneschal li encontra/ Qe semlaunt d'amur
 1a porte se souint mis,/ E l'enfant, qe bien fust apris/ E moult
 La povre gent tot enviroun/ Ala com a processioun./ Entre
 1a prist sicom son drew,/ Mes pur ceo ne vout lesser,/ Mes la
 La pucele en prist tendrour/ Qe tant vers li ad getté s'amour
 1a pucele ensement./ Grant pité avoient la gent:/ Plurent e
 La pucele fut amené/ A l'huis de moster./ Quant Amillioun
 1a pucele:/ Son dreit noun est Mirabele,/ Mes Florie fust apelé
 1a pucele totevoie/ Semblant li fist tant com osa,/ Car son
 1a pute arse en fu!'/ La dame ne sout quoy dire./ Le counte de
 1a resceit come sa mullier./ Ne voleit qe eus furent aparceu
 1a robe noun./ Amis, quant il se ajouta,/ Leez la dame se
 1a sale estoient/ De sa beauté matire aveient./ Est venuz la
 1a savera plus aider./ Donqe comencea a purpenser/ Q'entre

877 Plein[en]t de grant chivalrie/ Le honur e
 1218 iour seignurs lour garderont./ Une garce
 762 eust finé la bataille/ E coment eust fait
 994 l'ad emblé./ Qe cher serra achaté! / Outre
 1153 pas quoi ele poet fere;/ Si se met hors de
 916 li eysa,/ De long en long li enmena./ Par
 781 voleit porreit dire./ Tenu fut par tote
 1009 gettast./ Amillioun doncue maundereit/ E
 390 E dit que od li combat[er]jeit/ E
 446 ne murrez mie,/ Tant com je puisse aver
 839 s'il ad dolur./ La mort desire plus qe
 833 Sire Amylloun e son enfant,/ A chef de
 982 Prist sa coupe hors de son sain,/ E l'autre
 196 Deus countes la desirant,/ E esposer
 746 E el suspir geint forment./ La dame
 689 Car son pere moult dota./ Le counte atant
 721 Home, com dire bien le poet.' / Amillioun
 1058 jour sis foiz ou sept;/ Tant com pour
 610 Mes le healme tant fort fu/ Qe de la mort
 992 sai', fait il, 'verraiment,/ De mon frere
 1025 le tuerat./ Tost l'espeie li fust baillé./ Puis
 1043 hure maudist q'onqe fu nee,/ Quant pecché
 265 Jamés home ne amereit./ Amis, quant
 486 Tost est cele part torné,/ Tendrement
 996 ataut,/ A cel povre vint errant:/ Forment
 599 Mes le hauberc fust fort e dur/ Qe de mal
 809 Qe tot son pel ly arracha./ Si malade e si
 352 quens: 'Ore vaut meins! / Ceste play m'est
 719 ceste leprouz serrez./ Avant mes unke si
 200 A grant cherté le tynt le pere,/ E mout
 169 ne meuz [ne] serra fet./ Sa gent durement
 260 Qe tot son corage descouery:/ E dit pur
 284 n'estes pas chevaler!/ Mescreaus estes e
 786 counte enmaladi./ E quant longtemps out
 239 E d'autre chose s'enveysent./ En cel
 188 son benfait avoit envie,/ Mes Amys ne
 973 'Pernez ma coupe od tot le vin,/ Si
 881 Le noun vous diray de l'enfant:/ La gent
 612 Qe le coup ala descendant/ Si chiet sur
 875 lour draps,/ Sovent se claiment cheitif e
 209 Qe li quens une feste tynt/ Par un jour de
 585 E de tote sa terre heir li freit./ Est venuz
 1150 deust estre esposé./ Mes ore se clame
 596 Amillioun fiert le seneschal/ D'un grant
 601 l'ad garri./ Le seneschal li referri;/ Lour
 872 Qe sanz vous estre emperour.' / Quant l'un
 587 Ore mes sourdra la medié./ Le un
 28 home el mound qe les avisast/ Qc l'un de
 592 Ne avera mester de accord;/ L'un hiet
 967 qe tant de l'overaigne seust/ Qe l'un de
 14 lor nouns:/ Li un estoit Amys par noun,/ /
 492 Fu la joie, fu la pité./ Quant l'un od
 982 vein,/ Prist sa coupe hors de son sain,/ E
 292 Amis mout se purpensa;/ Le un mal e
 604 cel encouentre tant firent bien/ Qe l'un ne
 621 Del cop parlent durement:/ Dist l'un a
 535 crerret home ja si parcevant/ Qe l'un de
 393 Ly chivalers e la meisné./ Li un countre
 1020 ai la mort deservi. / 'Voir,' dist il, 'vous
 344 ceo voir, sire seneschal?/ Jeo quide que
 1075 com pessoun./ Quant veu avoit
 315 la meisnee le seneschal./ A son seignur
 395 quens [les] resceust atant./ E doncue jugga

1a seignurie/ Qe sire Amillioun avoit eu,/ Qe ore est devencu
 1a serveit/ Qe par une fenestre luy porteit/ Chescun jour sa
 1a sposaille./ En une chambre puis entrerent/ E lour robes
 1a table saut ataunt,/ A cel povre vint errant:/ Forment l'ad
 1a terre,/ Ne la savera plus aider./ Donqe comencea a
 1a terre tant alerent/ Qe feym e me[s]laise troverent/ Desques
 1a terre, / Tant dement grant affere./ Sa femme ly aime
 1a verité de li querreit/ Qe son hanap out perdu/ E coment est
 1a verité provereit./ Est veus tote la court ensemblé,/ Ly
 1a vie! / Atant congé ly dona,/ E un palefroy mounta/ Saunz
 1a vie;/ Nul solas ad ne compagnie:/ N'ad home a qui parler
 1a vile a un bordel/ Illoc lour fist aver hostel./ O, misires
 1a vist, si s'esmerveilla./ La coupe durment regarda;/ Pensa
 1a volirent,/ Mes ele a trestouz respoundi/ Ne vout uncore
 1a col a tendrement,/ Si li demaunda quoi pensoit/ E purquei
 1a ad appellé:/ 'Dy moy,' fait il, 'fille bele,/ Amys pur vous ad
 1a ad bien entendu,/ E la prist sicom son dreu,/ Mes pur ceo ne
 1a ad conforté./ La dame sovent a ly est alé,/ Qe li ama molt de
 1a ad deffendu,/ Qe le coup ala descendant/ Si chiet sur l'arsoun
 1a ad emblé./ Qe cher serra achaté! / Outre la table saut ataut
 1a ad en haut levé./ E Amillioun le col tendist./ Mais l'enfant
 1a ad ensi encombré/ Qe son frere desconusset/ Qe touz biens
 1a ad escoté,/ Quideit que ele fuit devee/ Qe ele pout pur hounte
 1a ad esveillé./ E sa gent passerent avant,/ E [i]l entendi
 1a ad feru du pé./ Qe en la bowe est il versé./ Les chevalers
 1a ad garri./ Le seneschal li referri;/ Lour launces ount as
 1a ad devint/ Qe checun pur mesel li tint./ La dame li tint trop
 1a ad e vileins./ Atant en la chambre entrat,/ La dame sur un
 1a ad ne fust/ Home, com dire bien le poet.' / Amillioun l'ad
 1a ama auxi la mere./ La damoysele fuit bien gardé
 1a amerent;/ A femme prendre li consaillerent./ Par lour
 1a amur de luy/ Morust, s'il n'eust de li pité/ E que ele fust de
 1a laner!/ Un play bien dur vus bateray:/ A mon pere le conteray
 1a langui,/ Morust e a Deu rendist s'alme;/ E tost après morust
 1a langur demora/ Tant que li quens s'en ala/ A boys juwer en
 1a aparce[u]st mye./ Li quens une dame aveit/ Q'il come sa
 1a aporez a ceo frarin,/ Au povres qe tant est mesaysé./ Mes
 1a appelen Amorant,/ Mes Uwein fuit son dreit noun
 1a arsoun devant;/ Trestut trencha quir e fust/ Com si rasour
 1a as;/ Plein[en]t de grant chivalrie/ Le honur e la seignurie/ Qe
 1a Ascension;/ La fuit assemblé maint baroun./ Est veuz li
 1a asemblé;/ Ore mes sourdra la medié./ Le un l'autre
 1a lasse cheitive;/ Moult luy poise qe ele est vive./ Ne saet ele
 1a launce enpoignai/ Parmi l'escu peint de asur,/ Mes lc
 1a launces ount as coups brusé/ E si sunt outrepassé./ A cel
 1a autre ad regarde,/ Mout est entre eux grant pité:/ Plurent e
 1a autre desafrient/ Qe entre eus nul amur ne cyent./ Ore s'en
 1a autre desceverast./ E si furent de une estature,/ De unc
 1a autre desq'a la mort./ Nul deigne a autre affier;/ Chescun se
 1a autre deviser deust./ [...] / Qe unke lesser le voleit
 1a autre est appellé Amillyoun./ Li deus estoient de une nature
 1a autre est aquointé! / Donqe li dit sir Amillioun/ Paroles de
 1a autre la vist, si s'esmerveilla./ La coupe durment regarda
 1a autre mout dota./ Corteusement ly respundi:/ 'Damoisel
 1a autre ne perdit ren./ Amillioun vint par corucer,/ Par ire
 1a autre qe le chivaler/ Ses armes sout trop bien porter,/ Mes
 1a autre sout deviser,/ Si par noun les oist nomer./ Ne par
 1a autre tendi son gant,/ E li quens [les] resceust atant./ E
 1a avez! / De vostre demaunde ja ne faudrez! / Tantost espeie
 1a avez dit pur mal./ 'Sire,' le seneschal respound,/ Par celi
 1a avisoun/ E de cel soungue resperi,/ 'A, Deu!' dit il, 'qe
 1a ala counter/ Sitost com il poet espleiter./ Le seneschal fut
 le baronage/ Que plegges troverent en hostage./ Le seneschal

371 sailli hors de la mayson,/ Si encontra
 552 seneschal se fist armer,/ Puis demaunda
 482 En cele nuyt tant errerent/ Qe parmy
 672 le brank trencha:/ Desque en la haunce
 606 Amillioun vint par corucer,/ Par ire tret
 668 fust tot purfendant./ En la cervele cola
 671 face/ Voler fist enmi la place./ Le bras od
 616 eust./ Parmy l'espaulde del chival/ Cola
 671 od tote la face/ Voler fist enmi la place./
 1017 tant amez,/ Ne me facez enprisoner,/ Mes
 1095 pere [n']eut de ses fiz pité:/ Ambedeus ad
 574 daffendray nostre dreit.'/ Le quens, quant
 578 vis./ Bons armes demaunda/ E li memes
 420 pur morir;/ Devant le counte se genula/ E
 621 parlent durement:/ Dist l'un a l'autre qe
 580 En son corage fust bien païé/ Quant ad
 1026 Puis l'ad en haut levé./ E Amillioun
 978 E ma coupe me reportez!'/ E celi fist
 253 ceux qe furent de sa meisné./ Florie, quant
 757 puis dit q'il prendra congé,/ Quant il eust
 59 marriz./ Congé li done mes enviz;/ Mes
 286 play bien dur vus bateray:/ A mon pere
 643 trenchent plus de cent./ Bien pres passa
 970]/ Qe unke lesser le voleit./ Quant
 52 Qe son pere fuy affyné,/ De son seignur
 79 cri mercy,/ De une chose soiez garny:/
 1143 estoit garri/ E q'il revint el pais/ E od li
 919 Desques eus vindrent el pais/ Ou sojorna
 689 tant com osa,/ Car son pere moult dota./
 1038 Si le occiez, vous fetes pecché.'/ Quant
 149 temps aler,/ Ala e fist son mester;/ Servi
 368 arse en fu!'/ La dame ne sout quoy dire./
 733 donez/ Dont les menestrauz furent feffez./
 785 Si fist tot son commaundement;/ Tant qe
 57 n'i entrast/ Ne ses droitz amenusast./
 398 hostage./ Le seneschal ad taunz trové/ Ke
 406 ceo at tort./ Nul ne oseit pur li parler,/ E
 989 counta/ Coment a soen ressembleit./ E
 150 mester;/ Servi le counte com il soleyt,/ E
 1221 porteit/ Chescun jour sa liveré,/ Coment
 419 tenir/ Ne pur vivere ne pur morir;/ Devant
 1090 fust,/ Sovent Deu pur li requist./ Atant
 729 fuit ben paé/ Quant ad baroun a volonté./
 679 Les chevalers ja corerent,/ Mes
 611 fort fu/ Qe de la mort l'ad daffendu,/ Qe
 641 Qe tost abati les colurs./ Sur le senestre
 662 Ore poet trop attendre:/ S'il ne sache
 72 plur ne se poct tenir,/ Car moult li greve
 754 A vous le peus bien counter,/ Car bien
 803 purquei le feistes vous?'/ 'Dame, jeo [ne]
 166 E il memes si bel estoyt/ Qe tut le pays
 219 bel chevaler ne veient;/ E li quens meme
 614 trencha quir e fust/ Com si rasour trenché
 167 Qe tut le pays le disoyt/ Si Deu mesmes
 802 nue meistes entre nous,/ Sire, purquei
 666 atant/ Ferir li vint par tel ayr/ Qe
 1054 Con son corps li fist garder,/ Servir
 856 Ne poums icy plus demorer./ Jhesu,
 1117 comence pur fere joie:/ 'Jhesu Crist,
 305 'Hostez, hostez!' ceo dit Florie,/ 'Nous
 520 mout aparcevante!'/ E sire Amist trestut
 975 Au povres qe tant est mesaysé./ Mes
 962 le per,/ Qe ne vont vendre ne doner./ Mes

1e botiler./ A li soleit trop beal parler;/ Les oils sur ly
 1e botiler/ E quant il ne pout estre trové,/ La dame fuit pris e
 1e boys passerent/ Ou sire Amis reposeit./ Sire Amillioun
 1e branc cola./ En cel champ fu ben vengé;/ Par li mes n'iet
 1e brank d'asser;/ Le seneschal ferir ala,/ En le healme grant
 1e brank./ E l'oraille od tote la face/ Voler fist enmi la place
 1e brank trencha:/ Desque en la haunce le branc cola./ En cel
 1e braunke en terre aval/ Plus qe plein pé e demy;/ Le
 1e bras od le brank trencha:/ Desque en la haunce le branc
 1e chef me faites tost trencher./ Mes certes ai jeo trop vesqui
 1e chef trenché;/ E le sanc de eux ad quillé/ E Amillioun
 1e chevaler veit,/ Bien quideit qe ceo fuit Amys;/ De cors
 1e chivaler arma./ En son corage fust bien païé/ Quant ad le
 1e chivaler demaunda:/ En hostage pur li serreit,/ En son
 1e chivaler/ Ses armes sout trop bien porter,/ Mes son coup
 1e chivaler si bien armé./ Puis li dist suef en son oraille/ Qe
 1e col tendist./ Mais l'enfant avant saillist:/ Uwein, q i ne
 1e comaundement/ E vint e porta le present./ Le povres, qe
 1e congé en eust,/ S'a hasté a plus que ele pust:/ Ove une soule
 1e congé pris,/ E seignurs ove ly desqe a dis,/ En son pais
 1e conte fist com bon seygnur./ Destourber ne vout son honur
 1e conteray/ Qe vers li estes e moy forset,/ E serrés des
 1e costé./ Mes la char n'ad pas toché./ Amyllioun, qe tant fu
 1e counte ad pres mangé,/ Son botiler ad appellé:/ 'Pernez ma
 1e counte ad pris congé,/ Qe li covient garder sa terre/ Qe nul
 1e counte ad seignz un seneschal/ Qe mout est feloun e desleal
 1e counte Amis,/ Tel ad el quer dolur/ Qe unique femme ne out
 1e counte Amys/ Qe noble court illoeq tenoit/ E moult grant
 1e counte atant l'ad appellé:/ 'Dy moy,' fait il, 'fille bele
 1e counte ceo oist,/ Tost estendu a terre chaist:/ Bate ses
 1e counte com il soleyt,/ E le counte mout li amoyt:/ Od sei le
 1e counte de mal ard e d'yre,/ Devint plus noyr ke carboun
 1e counte dona a ses esquiers/ Les chivals e les destrers./ Ore
 1e counte enmaladi./ E quant longtemps out langui,/ Morust e
 1e counte fust de ceo marriz./ Congé li done mes enviz;/ Mes
 1e counte fut bien payé./ Tant fuit li seneschal doté/ Qe Amys
 1e counte li velt venger./ Quant ne pout trover plevine
 1e counte moult esmerveileit,/ De Amillioun doncq li sovent
 1e counte mout li amoyt:/ Od sei le tint plus privé/ Qe nul
 1e counte out comaundé./ Un an vesqui e un jour;/ A drein
 1e counte se genula/ E le chivaler demaunda:/ En hostage pur
 1e counte s'est repairé./ En une chambre est entré/ Ou les deus
 1e counte tynt feste plenere/ Une symaine tot entere;/ Mout i
 1e counte vient premer;/ Atant se fist desarmer./ S'il eust
 1e coup ala descendant/ Si chiet sur l'arsoun devant;/ Trestut
 1e coup descent,/ Mailles trenchent plus de cent./ Bien pres
 1e coup rendre,/ Li autre s'en irra gabbant./ E sire Amillioun
 1e departir./ Doncq parla sire Amillioun/ E dit: 'Amis, beau
 1e deverez celer.'/ Tot lour estre tuy ad counté,/ E puis dit q'il
 1e dirrai mes;/ A ceo fui jeo confés.'/ Par ceo savoit sir
 1e disoyt/ Si Deu mesmes le eust purtret,/ Plus bon ne meuz
 1e dist/ Qe onqe si bel chevaler ne vist./ Touz ceus qc en la
 1e eust./ Parmy l'espaulde del chival/ Cola le braunke en terre
 1e eust purtret,/ Plus bon ne meuz [ne] serra fet./ Sa gent
 1e feistes vous?'/ 'Dame, jeo [ne] le dirrai mes;/ A ceo fui jeo
 1e feu fist tresailier,/ Qe le healme fust tot purfendant./ En la
 1e fist tot a talent/ De viande e de boivre ensement./ E li
 1e fiz scinte Marie,/ Com longes me durra ceste vie?/ Jeo
 1e fiz scinte Marie,/ Si li plest, par son poer/ Nous porra
 1e froms si privément/ Touz deus a nostre talent/ Ne[!] savera
 1e graunte./ Lour robes ount trestot chaungé,/ E Amyllioun
 1e hanap soit bien gardé:/ En son esquel le vin versez,/ E ma
 1e hanap tant ameyt/ Q'en tot son anguisse guerpir ne voleit

598 Parmi l'escu peint de asur,/ Mes
 667 par tel ayr/ Qe le feu fist tresailier,/ Qe
 608 brank d'asser;/ Le seneschal ferir ala,/ En
 609 En le healme grant coups dona./ Mes
 877 e las;/ Plein[en]t de grant chivalrie/
 549 ester;/ De sir Amillioun voloms parler./
 426 vus dy/ Qe, s'il defaut a la bataille,/ En
 900 Jamés quident qe revendrount./ Owein,
 866 E pur Deu li conjurast/ Qe illoec morir
 1149 en vie./ Pur ceo fut tot appareillé/ Q'en
 346 le seneschal respond./ Par celi qe fist
 880 Amillioun avoit eu,/ Qe ore est devencu./
 1037 jadis./ Grant bosoigne li ad icy chacé./ Si
 896 E pus sus les seintz jurer/ Qe mes en
 166 esquiers./ E il memes si bel estoyt/ Qe tut
 960 li donait./ Amillioun mesmes avoit
 199 uncore aver mary./ A grant cherté le tynt
 1044 E doucement eux entreacolerent./
 753 De vostre espoir failli avez./ A vous
 82 est de mult grant parenté;/ Pur ceo est il
 720 unke si laid ne fust/ Home, com dire bien
 32 Leals furent envers lor seygnur,/ Bien
 980 E vint e porta le present./
 979 celi fist le comaundement/ E vint e porta
 177 Li fuit escheu del counté./ De beauté avoit
 574 deliverer!/ Jeo deffendray nostre dreit./
 1191 tele com deussez estre,/ Par Jhesu,
 1096 fiz pité:/ Ambedeus ad le chef trenché;/ E
 1098 dedein ad envelopé./ Sitost com
 1073 Si les enfantz tuast/ E Amillioun en
 831 ennuyé,/ Ambedeus s'est hors getté;/ E
 402 doute quoy pur pour,/ E trestouz virent qe
 1184 vist son seignur./ Ele pauma de pour./
 314 Qe trestot oy un vassal/ De la meisnee
 618 en terre aval/ Plus qe plein pé e demy;/
 397 Que plegges troverent en hostage./
 385 me deffenderay/ Devant qe jeo denieray./
 595 Chescun se prent a ferir./ Amillioun fier
 550 parler./ Le jour vint qe fuist assis/ Entre
 607 par corucer,/ Par ire tret le brank d'asser;/
 317 ala counter/ Sitost com il poet espleiter./
 600 fuist fort e dur/ Qe de mal l'ad garri./
 186 jour./ Taunz com Amis meuz li serveyt,/ ja
 657 doner/ Qe li deit par dreit grever./ Mes
 637 l'estut ferir/ Que lessir son chival morir./
 327 mie;/ Ne croy pas q'il y avoit vilaynic./
 345 Jeo quide que l'avez dit pur mal./ 'Sire,'
 551 fuist assis/ Entre le seneschal e Amys./
 624 porter,/ Mes son coup est trop pesant./
 641 de flurs,/ Qe tost abati les colurs./ Sur
 831 Ambedeus s'est hors getté;/ E le seignur e
 496 resoun:/ 'Beau frere, quant avez forfait/ E
 500 encombré./ Pur vous la bataille fray,/ E
 1240 ver, parler les mutz./ Tot ensi finist
 1125 Atant la parole ount lessé/ E
 147 Sitost com son leu verreyt./ Amis lessa
 1066 Tant com il memes desiroit./ Quant passa
 1207 tant com vus viverez;/ En noun de dowere
 321 Tot lour estre fist espier./ Qant vint
 151 E le conte mout li amoyt:/ Od sei
 6 juvenceals vous dirray,/ Sicom en escrit
 1023 espeie demaunda,/ E il memes dist q'il
 199 Ne vout uncore aver mary./ A grant cherté

1e hauberc fuist fort e dur/ Qe de mal l'ad garri./ Le seneschal
 1e healme fust tot purfendant./ En la cervele cola le brank./ E
 1e healme grant coups dona./ Mes le healme tant fort fu/ Qe de
 1e healme tant fort fu/ Qe de la mort l'ad deffendu,/ Qe le coup
 Le honur e la seignurie/ Qe sire Amillioun avoit eu,/ Qe ore
 Le jour vint qe fuist assis/ Entre le seneschal e Amys./ Le
 Le juggement averez saunz faille,/ Qe vostre fille fust destiné
 1e leal enfant,/ Lour viaunde va querant,/ Mes tant lour vint
 1e lessast,/ E yl en son pais alast./ L'enfant respoundi par
 1e mois deust estre esposé./ Mes ore se claime lasse cheitive
 1e mound,/ S'il le velt denier./ Com leal chevaler le voil
 Le noun vous dirray de l'enfant:/ La gent l'appelent Amorant
 1e occiez, vous fetes pecché./ Quant le counte ceo oist,/ Tost
 1e pais [ne] vendrait/ De l'hure qe issi serreit./ Hors del pais
 1e pays le disoyt/ Si Deu mesmes le eust purtret,/ Plus bon ne
 1e per,/ Qe ne vont vendre ne doner./ Mes le hanap tant ameyt
 1e pere,/ E mout l'ama auxi la mere./ La damoysele fuit bien
 Le pere [n']eust de ses fiz pité:/ Ambedeus ad le chef trenché
 1e peus bien counter,/ Car bien le develez celer./ Tot lour
 1e plus doté./ Unke ne vous pout amer,/ Mal vus ad quis a son
 1e poet./ Amillioun l'ad bien entendeu,/ E la prist sicom son
 1e portent a honour;/ Si les amast mult tendrement,/ Honur les
 Le povres, qe mesel fuit en vein,/ Prist sa coupe hors de son
 1e present./ Le povres, qe mesel fuit en vein,/ Prist sa coupe
 1e pris/ Sour touz les dames du pays./ Bien furent entre eux
 Le quens, quant le chevaler veit,/ Bien quideit qe ceo fuit
 1e roy celestre./ Tourné me ert a grant vilté/ Si jeo ne soie de
 1e sanc de eux ad quillé/ E Amillioun dedeinz ad envelopé
 1e saunc senti,/ De son grant mal est il garri,/ Qe en corps ne
 1e saunk bainast,/ Si sain devendreit com pessoun./ Quant veu
 1e seignur e le serjant,/ Sire Amylloun e son enfant,/ A chef
 1e seignur/ Haist Amys desqe a la mort,/ Fust ceo a dreit fust
 Le seignur la fist relever,/ Bel la comence a chastier:/ 'Dame,'
 1e seneschal./ A son seignur le ala counter/ Sitost com il poet
 Le seneschal a terre chay./ Qe pout, quant son cheval li ment
 Le seneschal ad taunz trové/ Ke le counte fut bien payé./ Tant
 Le seneschal atant se vint/ E son gaunt en son poing tint,/ E
 1e seneschal/ D'un grant launce enpoignal/ Parmi l'escu peint
 1e seneschal e Amys./ Le seneschal se fist armer,/ Puis
 Le seneschal ferir ala,/ En le healme grant coups dona./ Mes
 Le seneschal fut molt lec;/ Ore quideit bien estre vengé/ De
 Le seneschal li referri;/ Lour launces ount as coups brusé/ E si
 Le seneschal plus li haeit;/ De son benfait avoit envie,/ Mes
 Le seneschal primes li ferist,/ Qe son coup tres bien apparist
 Le seneschal, qe nel pout amer,/ Un grant coup li vint doner
 Le seneschal, quant sout la covine/ Entre Amis e la meschine
 1e seneschal respond./ Par celi qe fist le mound,/ S'il le velt
 Le seneschal se fist armer,/ Puis demaunda le botiler;/ E quant
 Le seneschal se leve ataunt,/ Qe dolent est e corucé/ Quant
 1e senestre le coup descent,/ Mailles trenchent plus de cent
 1e serjant,/ Sire Amylloun e son enfant,/ A chef de la vile a un
 1e serment avez fet,/ Jeo me doute qe pur pecché/ Del serment
 1e serment lealment juray/ Qe jeo unke ne li forfiz,/ E
 1e sermoun/ De sire Amis e de syre Amillioun./
 1e service Deu ount escoté./ Après la messe vint a mesoun
 1e temps aler,/ Ala e fist son mester;/ Servi le counte com il
 1e temps issi,/ Qe li quens une noyt dormi,/ Une voiz oy qe li
 1e tenez!'/ Donke fist fere un turel:/ Petit fut mes molt bel,/ Si
 1e terme q'avoint dit,/ Il ensembleront od grant delit:/ Par
 1e tint plus privé/ Qe nul autre de sa meisné./ Ore vous dirrai
 1e trovay;/ Q'en la court un counte estoient/ E des armes li
 1e tueria./ Tost l'espeie li fust baillé./ Puis l'ad en haut levé./ E
 1e tynt le pere,/ E mout l'ama auxi la mere./ La damoysele fuit

587 l'asemblé;/ Ore mes sourdra la medlé./
 292 Florie retorné./ Amis mout se purpensa;/
 484 Amis reposeit./ Sire Amillioun primes
 347 respond,/ Par celi qe fist le mound,/ S'il
 972 ad appellé:/ 'Pernez ma coupe od tot
 976 le hanap soit bien gardé:/ En son esquel
 1211 molt bel,/ Si fut fort durement;/ De loinz
 348 S'il le velt denier./ Com leal chevaler
 969 deviser deust./ [...] / Qe unke lesser
 1170 estre veue./ Sire Amillioun fist com
 348 fist le mound,/ S'il le velt denier./ Com
 796 dirrai de sire Amillioun/ Qe tant estoit
 122 E de misire Amillioun/ Qi a vous ert
 806 ceo savoist sir Amillioun/ Qe Amis estoit
 900 Jamés quident qe revendrount./ Owein, le
 380 'vus dites mal./ Jeo tuy vostre chivaler
 500 Pur vous la bataille fray,/ E le serment
 424 'Voir,' dit li quens, volez ensy?/ E jeo
 31 estature,/ De une forme e de une nature./
 444 ad ma mort juré.' / 'Dame,' dist il, par ma
 2 Qi voet oyr chaunzon d'amur,/ De
 317 il poet espleiter./ Le seneschal fut molt
 540 la robe noun./ Amis, quant il se ajouta,/
 845 Amillioun com plus viveit,/ Tant plus
 954 ert corteis chevaler./ De chescun mes qe
 1006 mains sunt allassé,/ Donqe commaund qe
 703 al baronage/ Qe eus feussent al mariage./
 329 la covine/ Entre Amis e la meschine,/
 892 une ane doner/ Qe jeo puisse chivacher.' /
 864 deveray,/ De mei memes force ne fray.' /
 1027 levé./ E Amillioun le col tendist./ Mais
 948 seignur,/ Touz li tenoient a folur./ Mes de
 936 juauant/ E les povres regardant,/ Veu ount
 1228 aver;/ Nul evr out de sa nullier./ Owein
 880 ore est devencu./ Le noun vous diray de
 929 receuz./ Pres [de] la porte se sount mis,/ E
 850 li regardast,/ Ne que manger li donast./
 843 Ne a qui poet son dolur moustrer,/ Fors a
 868 morir le lessast,/ E yl en son pais alast./
 469 Ke sir Amys son compaignoun/ D'un
 718 qc soint .iii. anz passez,/ après de ceste
 652 rien./ Ne savoit [nul] del chaump juger/
 411 Com esgarré e com pensifs,/ Ne sout
 428 Qe vostre fille fust destine! / La dame
 181 eux couplés/ De parage e de beautez./ Ore
 136 E jeo ly aym e ameray;/ Pur nul autre ne li
 943 spirer;/ Cil dit q'il out un seignur/ Q'il ne
 547 Desques Amyllioun a meson vynt./ Ore
 36 Chivalers lour fist a grant honur;/ Touz
 1177 maltalement lour pardona,/ Od sei les tint e
 33 seygnur,/ Bien le portent a honour;/ Si
 677 finist la bataille./ Les uns chaunterent,
 27 vestu estoient,/ N'est home el mound qe
 705 terce sonant/ Touz i furent, petit e grant,/ Touz i furent, petit e grant,/ Les barons e
 705 uns chaunterent, les autres plorerent./
 678 feru du pé./ Qe en la bowe est il versé./
 998 eus nul amur ne eyent./ Ore s'en vount
 589 feffez./ Le counte dona a ses esquiers/
 734 el heaulme peint de flurs,/ Qe tost abati
 640 Des povres les estres e les mancres/ E
 933 De beauté avoit le pris/ Sour touz
 178 Del feu q'il vist fut grantement esfraé/ E de

Le un l'autre desaffient/ Qe entre eus nul amur ne eyent./ Ore
 Le un mal e l'autre mout dota./ Cortesement ly respundi
 Le veit;/ Tost est cele part torné,/ Tendrement l'ad esveillé./ E
 Le velt denier./ Com leal chevaler le voil prover,/ E cil que de
 Le vin,/ Si l'aportez a ceo frarin,/ Au povres qe tant est
 Le vin versez,/ E ma coupe me reportez! / E celi fist le
 Le virent tote sa gent/ Outre tote la cité/ La fu la dame
 Le voil prover,/ E cil que de nous est vencu/ Soit detret e puis
 Le voleit./ Quant le counte ad pres mangé,/ Son botiler ad
 Leal bier:/ Sa gent fist tot assembler,/ Chasteleins e
 Leal chevaler le voil prover,/ E cil que de nous est vencu/ Soit
 Leal compaignon./ Com il en son lit gisoit,/ Sa bele dame a
 Leal compaignon./ Ne volez unke nul autre amer/ Ne
 Leal compaignon./ Ove sa feme tant demorra/ Qe tot son pel
 Leal enfant,/ Lour viaunde va querant,/ Mes tant lour vint sur
 Leal;/ Si nul vous ad de moy counté/ For que dreit a vérité
 Lealment juray/ Qe jeo unke ne li forfiz,/ E quiderount qe jeo
 Lealment vus dy/ Qe, s'il defaut a la bataille,/ Le juggement
 Leals furent envers lor seygnur,/ Bien le portent a honour
 Lealté,/ Pur ma defaute ne murrez mie,/ Tant com je puisse
 Leauté e de grant douçour —/ De troeffle ne voil jeo parler
 Lee;/ Ore quideit bien estre vengé/ De vostre corteis botiler
 Leez la dame se coucha;/ Sa espeie nue entre eus posa./ La
 Leid deveneit./ La dame par tant defendi/ Qe nul ne fut si hardi
 L'em li porta/ La moyté lor envoia./ Amis une coupe avoit
 L'en ly lyast/ E en sa prison li gettast./ Amillioun doncque
 L'endemain a terce sonant/ Touz i furent, petit e grant,/ Les
 L'endemain vint tot a hounte:/ Acounté est tot lor oeuvre al
 L'enfant a la dame ala,/ Son message li counta./ Ele li fist
 L'enfant a soi doncque appelaist,/ E pur Deu li conjurast/ Qe
 L'enfant avant saillist:/ Uwein, qi ne poet suffrir/ Qe son
 L'enfant avoient pité:/ Al counte Amys ount counté./ Cil
 L'enfant bel e parceu,/ E [s']il fuit auke vestu,/ Gentil home
 L'enfant bien feffa:/ De tote sa terre li herita,/ Qe bien avait
 L'enfant:/ La gent l'appelent Amorant,/ Mes Uwein fuit son
 L'enfant, qe bien fust apris/ E moult ama son seignur,/ Ala
 L'enfant, quant oy cel comaund,/ Ne sout ou quere lour vivre
 L'enfant que ly serveit./ Amillioun com plus viveit,/ Tant
 L'enfant respondui par grant douçur:/ 'Merci Deu, mon
 Leon fust assailli,/ Qe li fuist mortel enemy./ Del sounge fut
 Leprouz serrez./ Avant mes unke si laid ne fust/ Home, com
 Lequel fuit meilleur chevaler./ Amillioun fust bien anuié/ Qe
 lequel il pout eslire,/ Mort ou vie, ne sout kc dire./ Plusors
 Lermist pur pité,/ Prist Amis en plevine;/ Moult fu dolente la
 Lerray de Amyllioun ester,/ E de sir Amys vus voil counter
 Lerray/ Par [ceo] qu'il est chose esprové/ Pur promesse saunz
 le reit pur estre emperur./ Qy ceo fuit li demaundeient,/ Mes
 le rom de Amis ester;/ De sir Amillioun voloms parler./ Le
 les ad dobbez en estour,/ Lour trova si com il voleint
 les ama./ Donque fist sa femme demaunder,/ Car de li se veut
 les amast mult tendrement,/ Honur les fist a lour talent
 les autres plorerent./ Les chevalers ja corerent,/ Mes le
 les avisast/ Qe l'un de l'autre desceverast./ E si furent de une
 Les barons e les chevalers,/ Borgés, sergeans e esquiers
 les chevalers,/ Borgés, sergeans e esquiers./ Quant touz
 Les chevalers ja corerent,/ Mes le counte vient premer
 Les chevalers vindrent del deys,/ Qe li estoient de molt près
 les chivalers/ Qi mult sunt orguillous e fiers./ Ne avera
 Les chivals e les destrers./ Ore vus dei jeo bien counter
 les colurs./ Sur le senestre le coup descent,/ Mailles
 les custumes de les terres./ Les gentils homes, qe alere[n]
 les dames du pays./ Bien furent entre eux couplés/ De parage e
 les dames eust grant pité./ 'Sire,' dit il, 'jeo tuy venu!/ Dount

venu!/ Dount vous sert tot ceo fu/ Qe pur
a amer/ Q'ele ne pout boyvre ne manger./
counte dona a ses esquiers/ Les chivals e
ert pas destiné./ Car un jour par matyné/
repairé./ En une chambre est entré/ Ou
Q'en tot son anguisse guerpir ne voleit./
aveit,/ Qe Amillioun fuit bien quideit./

Ala com a processioune./ Entre autres
ala/ En la chambre ou les enfaunz lessa./
cure/ [Des] deus fiz de sa gendrure:/ Si
doneq; ove la dame ala/ En la chambre ou
eussez,/ Jamés tel autre ne averez./ De
Ala demaundant tut entour/ Des povres
Si les amast mult tendrement,/ Honur
les maneres/ E les custumes de les terres./
tut entour/ Des povres les estres e
Mout i furent des robes donez/ Dont
eus grant vertuz:/ Les voegles ver, parler
beust,/ Si ne dormist nule nust./ Touz
le botiler./ A li soleit trop beal parler;/
l'un de l'autre sout deviser,/ Si par noun
Les enfantz furent estranglés./ E tot vifs
Les gentils homes, qe alere[n]t jaunt/ E
l'autre tendi son gant,/ E li quens [

Ele li fist un asne aver,/ E pus sus
les estres e les maneres/ E les custumes de
For soul la dame qe Amis aveit,/ Pur ceo
Son maltaient lour pardona,/ Od sei
pas mervaille./ Ore finist la bataille./
E si jura grant serement/ Qe il memes
E Deu fait pur eus grant vertuz:/
D'un grant launce enpoignal/ Parmi
Com si rasour trenché le eust./ Parmy
E il memes dist q'il le tuera./ Tost
lé recoveroms.'/ Atant la parole ount
Sitost com son leu verreyt./ Amis
la dame ala/ En la chambre ou les enfaunz
E pur Deu li conjurast/ Qe illoec morir le
a ly puet affyer./ Amyllioun ne velt
l'autre deviser deust./ [...] / Qe unke
sicom son drew,/ Mes pur ceo ne vout
voiz voil prover,/ Pur mes enfanz ne voil
les terres recevoit./ Ore vodrom de Amis
la comence a chastier:/ 'Dame,' dit il, '
—/ Qe nul ne oist fors li noun —/ '
Grant preu e grant honur avrez!/
Qe nul ne oist fors li noun —/ 'Lessez,
sa cortesie:/ Meuz a pié l'estut ferir/ Que
Tant fist il par sa cortesie:/ Meuz a pié
sei q'il se vengereit/ Sitost com son
estre sauné.'/ Un jour s'est par matyn
l'espeie li fust baillé./ Puis l'ad en haut
foiz li ad beisé./ Tot ensi com ert de tay
coup est trop pesant./ Le seneschal se
dame ne voleit parler,/ Desges al matin al
e pensifs./ Quant Amis de palmisoun
furent assemblé,/ La pucele fut amené/ A
jurer/ Qe mes en le pais [ne] vendreit/ De
puis li mena./ La dame, sitost com vew
ensi com ert de tay levé./ Entre ses bras
Amis s'est tot adrescé./ Plus de cent foiz
ses bras li ad apporté./ En sa chambre
Nell savera home de mere nee '/ Tant

les dames fait esteit?/ Trop vilaine roste serreit!/ Armes me
Les damoyseles qe od li erent/ Purquei ceo fuy ly
les destrers./ Ore vus dei jeo bien counter/ Coment il firent a
Les deus countes sunt venuz/ E a la porte descenduz,/ Qe nul
les deus enfanz dormerent;/ E doucement eux entreacolerent
Les deus hanaps tant ressembleient/ Qe, si en une mayn
Les deuz furent issi d'un senblant/ Ne crerret home ja si
les deuz vount./ Ne sciet, qe eus veit, qu'il sount;/ Si eus
Les enfantz furent estranglés./ E tot vifs les ount trovez!/ En
les enfantz tuast/ E Amillioun en le saunk bainast,/ Si sain
les enfaunz lessa./ Les enfantz furent estranglés./ E tot vifs
les enfaunz plus n'empensoms;/ Si Deu velt, bien lé
les estres e les maneres/ E les custumes de les terres./ Les
les fist a lour talent./ Chivalers lour fist a grant honur:/ Touz
Les gentils homes, qe alere[n]t juaunt/ E les povres regardant
les maneres/ E les custumes de les terres./ Les gentils homes
les menestrauz furent feffez./ Le conte dona a ses esquiers
les mutz./ Tot ensi finist le sermoun/ De sire Amis e de syre
les noitz issi chevaucha,/ Qe onke de nuyt ne se reposa,/ Tant
Les oils sur ly forment roylla./ Amis moult se merveilla
les oist nomer./ Ne par cors ne par fasçon./ Par riens, si par
les ount trovez!/ En lor lit s'entrebeyscrent,/ Del ray del
les povres regardant,/ Veu ount l'enfant bel e parceu,/ E [s']il
les] resceust atant./ E doncq jugga le baronage/ Que plegges
les seintz jurer/ Qe mes en le pais [ne] vendreit/ De l'hure qe
les terres./ Les gentils homes, qe alere[n]t juaunt/ E les
les terres recevoit./ Ore vodrom de Amis lesser,/ Qe assez ad
les tint e les ama./ Donque fist sa femme demaunder,/ Car de li
Les uns chaunterent, les autres plorerent./ Les chevalers ja
les verreit arder./ Ataunt virent vener un chevaler/ Qe vers
Les voegles ver, parler les mutz./ Tot ensi finist le sermoun
l'escu peint de asur,/ Mes le hauberc fuist fort e dur/ Qe de
l'espaudle del chival/ Cola le braunke en terre aval/ Plus qe
l'espeie li fust baillé./ Puis l'ad en haut levé./ E Amillioun
lessé/ E le service Deu ount escoté./ Aprés la messe vint a
lessa le temps aler,/ Ala e fist son mester,/ Servi le conte
lessa./ Les enfantz furent estranglés./ E tot vifs les ount
lessast,/ E yl en son pais alast./ L'enfant respoundi par
lesser:/ De son hostel ly fist justizer,/ Mestre mareschal sur
lesser le voleit./ Quant le conte ad pres mangé,/ Son botiler
lesser,/ Mes la resceut come sa mullier./ Ne voleit qe eus
lesser./ Mout avera fait bone jorné/ Si par lour saunk poet
lesser,/ Qe assez ad dount il ad mester./ Vus dirrai de sire
lessez ester!/ Ne deussez tel doil demener/ Pur ceo qe sain tuy
Lessez, lessez, sire Amillioun!/ Jeo vous di certeine novele
Lessez orgoil e envie,/ Si vous gardez de glotonie!/ Amez
lessez, sire Amillioun!/ Jeo vous di certeine novele:/ Si
lessir son chival morir./ Le seneschal, qe nel pout amer,/ Un
l'estut ferir/ Que lessir son chival morir./ Le seneschal, qe
leu verreyt./ Amis lessa le temps aler,/ Ala e fist son mester
levé./ E al matin est il alé;/ Deu requist e son haut noun/ A
levé./ E Amillioun le col tendist./ Mais l'enfant avant
levé./ Entre ses braz li ad apporté./ En sa chambre li ad
leve ataunt,/ Qe dolent est e corucc/ Quant combatre deit a pié
lever./ Chescune nuyt issi se contint/ Desques Amyllioun a
levoit,/ Vers la court sei retorneyt;/ Sitost com en la porte
l'huis de moster./ Quant Amillioun deust son noun nomer
l'hure qe issi serreit./ Hors del pais s'en vont;/ Jamés
li a,/ Pres de joie se palma;/ Vint al seignur, si li demaunda
li ad apporté./ En sa chambre li ad couché./ Bainer li fist e
li ad beisé,/ Tot ensi com ert de tay levé./ Entre ses braz li ad
li ad couché./ Bainer li fist e seigner,/ Con son corps li fist
li ad dit e parlé/ Ore sunt a un de cel affere,/ Dount devisent la

248 De sa dame prist congé,/ E ele tantost
 230 La pucele en prist tendrour/ Qe tant vers
 1036 li soleiez amer jadis./ Grant bosoigne
 435 Tantost a la countesse vynt,/ Congé
 1060 La dame sovent a ly est alé,/ Qe
 118 d'amur li fesoyst,/ Mes de quer poy
 150 le counte com il soleyt,/ E le counte mout
 663 attendre:/ S'il ne sache le coup rendre,/
 112 demené./ Li un s'en va ver son pays,/
 814 lit,/ Ne voleit auxi od lui parler,/ Ne od
 389 home de grant vasselage,/ E dit que od
 90 Gardez vus de sa felonie!/ Ne aiez od
 865 a soi doncque appelaist,/ E pur Deu
 170 durement l'amerent;/ A femme prendre
 893 L'enfant a la dame ala,/ Son message
 53 son seignur le counte ad pris congé,/ Qe
 656 tant duré;/ Un coup li voudra ja doner/ Qe
 681 Atant se fist desarmer./ S'il eust plaie
 747 forment./ La dame l'acola tendrement,/ Si
 1107 Pres de joie se palma;/ Vint al seignur, si
 944 ne lerreit pur estre emperur./ Qy ceo fuit
 15 par noun,/ L'autre est appellé Amillyoun./
 101 Ne soffrez q'il eit deshonur!/ Mout
 490 De son estre saver voleit./ Si li retint, si
 798 Com il en son lit gisoit,/ Sa bele dame a
 1068 li quens une noyt dormi,/ Une voiz oy qe
 712 moult estreit;/ Oyst une voiz que
 439 li vout,/ E ala qe mult se redut./ Ele
 883 Mes Uwein fuit son drcit noun./ Donque
 581 Quant ad le chivaler si bien armé./ Puis
 493 Quant l'un od l'autre est aquointé!/ Donke
 362 Qe nostre fille ad trahy e affolé./ Deu
 646 qe tant fu de vigour,/ Meint coup
 959 Amillioun, qe tant amoyt,/ Cele coupe
 849 Qe de rien li regardast,/ Ne que manger
 58 Le counte fust de ceo marriz,/ Congé
 554 estre trové,/ La dame fuit pris e durement
 116 com en la porte entra,/ Li seneschal
 915 A plus q'il pout li eysa,/ De long en long
 951 Cil, sitost com mangea,/ Son premer mes
 233 boyvre ne manger./ Les damoiseles qe od
 364 destiné!/ Si avra il, si jeo vive tant;/ Ne
 1158 Son seignur jamés ne verrait./ Mes ne
 772 sa vie./ Ore est mou en astage,/ Car cru
 287 bateray:/ A mon pere le conteray/ Qe vers
 999 Les chevalers vindrent del deys,/ Qe
 914 fist dedeinz cocher,/ A plus q'il pout
 657 dreit grever./ Mes le seneschal primes
 1045 Qe son frere desconusset/ Qe touz biens
 117 li encontrera/ Qe semlaunt d'amur
 157 Od grant nobley li receurent;/ Trestouz
 1052 En sa chambre li ad couché./ Bainer
 1053 Bainer li fist e seigner,/ Con son corps
 685 mer./ Atant li vount touz beiser:/ Sur touz
 687 joie,/ E la pucele totevoie/ Semblant
 54 Qe li covient garder sa terre/ Qe nul
 894 la dame ala,/ Son message li counta./ Ele
 1103 En Amis ne out qe regeir;/ Une bone robe
 501 le serment lealment juray/ Qe jeo unke ne
 584 a femme 1y dorreyt/ E de tote sa terre heir
 470 D'un leon fust assailli,/ Qe
 176 mere perdu avoit;/ Pur heritage la moyté/
 1024 il memes dist q'il le tuera./ Tost l'espeie

1 i ad doné./ Nomer vous dey la pucele:/ Son dreit noun est
 1 i ad getté s'amour;/ Si forment comensa a amer/ Q'e le ne
 1 i ad icy chacé./ Si le occiez, vous fetes peccché. / Quant le
 1 i ala demaunder/ Qe a son frere velt aler:/ Son enuy monstre
 1 i ama molt de fin quer/ Comme si ele fust sa soer;/ Plus ne li
 1 i ameit./ 'Si[re] Amis,' dit il, 'bien veignant!'/ De vous suy
 1 i amoyt:/ Od sei le tint plus privé/ Qe nul autre de sa meisné
 1 i autre s'en irra gabbant./ E sire Amillioun atant/ Ferir li
 1 i autres remeint tristes e pensifs./ Quant Amis de palmisoun
 1 i beivre ne manger./ Meuz, ceo dit ele, veut morir/ Qe a li
 1 i combat[er]ejt/ E la vérité provereit./ Est veus tote la court
 1 i compagnie,/ Car qui s'acompanie od felon/ Ne porra
 1 i conjurast/ Qe illoec morir le lessast,/ E yl en son pais alast
 1 i consaillerent./ Par lour consaïl se mariat:/ Une gentile
 1 i counta./ Ele li fist un asne aver,/ E pus sus les seintz jurer
 1 i covient garder sa terre/ Qe nul li fist treson ne gere,/ Ne qe
 1 i deit par dreit grever./ Mes le seneschal primes li ferist,/ Qe
 1 i demaunda;/ Cil dist que mal n'en a:/ Plus est sain qe pesson
 1 i demaunda quoi pensoit/ E purquei tels suspirs getteit
 1 i demaunda/ Si ceo fuist sire Amillioun,/ Coment il out sa
 1 i demaundeinent,/ Mes sitost com il veu avoient/ Celi q'il
 1 i deus estoient de une nature,/ Angeles ressembleient de
 1 i devez amour e foy,/ Car bien ad amé vous e moy. / Atant se
 1 i diseit./ Fu la joie, fu la pité./ Quant l'un od l'autre est
 1 i disoit:/ 'Me diez par amour de moy —/ Car jeo vus aime en
 1 i disoit/ Qe Amillioun trop bien garreit/ S'il en fist mettre
 1 i disoit: —/ Qe nul ne oist fors li noun —/ 'Lessez, lessez
 1 i dist: 'Beau sir Amys,/ Trahir me volez, m'est avys!/ Si
 1 i dist sire Amyllioun:/ 'Oweyn, a la dame irrez,/ Nostre
 1 i dist suef en son oraille/ Qe, s'il pout deffendre la bataille
 1 i dit sir Amillioun/ Paroles de mult grant resoun:/ 'Beau frere
 1 i doint male destiné!/ Si avra il, si jeo vive tant;/ Ne li ert
 1 i dona ceo jour./ La bataille ad bien duré/ Desque noune fust
 1 i donait./ Amillioun mesmes avoit le per,/ Qe ne vout vendre
 1 i donast./ L'enfant, quant oy cel comaund,/ Ne sout ou quere
 1 i done mes enviz;/ Mes le conte fist com bon seygnur
 1 i é, / E la pucele ensement./ Grant pité avoient la gent
 1 i encontra/ Qe semlaunt d'amur li fesoyst,/ Mes de quer poy li
 1 i enmena./ Par la terre tant alerent/ Qe feym e me[s]aise
 1 i envoyea/ Par son mestre botiler,/ Qe ert corteis chevaler
 1 i erent/ Purquei ceo fuy ly demaunderent./ E ele dit que malade
 1 i ert nul de mal garrant./ Tut ert detret e puis pendu,/ E la pute
 1 i ert pas destiné,/ Car un jour par matyné/ Les deus countes
 1 i est par mariage/ Grant seignurie e grant honur:/ De grant
 1 i estes e moy forset,/ E serrés des chivals destret./ Donques
 1 i estoient de molt prés:/ Enresoner li voleient,/ Mes pur poer
 1 i cysa,/ De long en long li enmena./ Par la terre tant alerent
 1 i ferist,/ Qe son coup tres bien apparist./ La healme del coup
 1 i fesoit./ Trestouz plurent de pité./ Amis s'est tot adrescé
 1 i fesoyst,/ Mes de quer poy li ameit./ 'Si[re] Amis,' dit il
 1 i firent homage./ Ore poet il mener grant baronage!/ N'ust od
 1 i fist e seigner,/ Con son corps li fist garder,/ Servir le fist
 1 i fist garder,/ Servir le fist tot a talent/ De viande e de boivre
 1 i fist la dame joic,/ E la pucele totevoie/ Semblant li fist tant
 1 i fist tant com osa,/ Car son pere moult dota./ Le counte
 1 i fist treson ne gere,/ Ne qe autre heyr n'i entrast/ Ne ses
 1 i fist un asne aver,/ E pus sus les seintz jurer/ Qe mes en le
 1 i fist vene/ E a mouster puis li mena./ La dame, sitost com
 1 i forfiz,/ E quiderount qe jeo soye Amys./ Jeo espoir par la
 1 i freit./ Est venuz l'assemblé;/ Ore mes sourdra la medlé./ Le
 1 i fuist mortel enemy./ Del sounge fut moult effraé/ E tost sus
 1 i fuit escheu del counté./ De beauté avoit le pris/ Sour touz
 1 i fust baillé./ Puis l'ad en haut levé./ E Amillioun le col

460 est alé./ A force ly covynt dormir,/ Aviz
 1007 commaund qe l'en ly lyast/ E en sa prison
 72 De plur ne se poet tenir,/ Car moult
 820 touz departoient,/ Ses garsons touz
 186 Amis meuz li serveyt,/ Le seneschal plus
 1229 l'enfant bien feffa;/ De tote sa terre
 1213 Outre tote la cité;/ La fu la dame durement
 65 E il od force de sa gent/ Vendroit a ly, ceo
 1143 estoit garri/ E q'il revint el pais/ E od
 136 E jeo ly aym e ameray;/ Pur nul autre ne
 1056 De viande e de boivre ensement./ E
 578 e de vis./ Bons armes demaunda/ E
 1104 bone robe li fist vener/ E a mouster puis
 619 a terre chay./ Qe pout, quant son cheval
 674 cola./ En cel champ fu ben vengé;/ Par
 211 La fuit assemblé maint baroun./ Est veuz
 827 parent,/ Od li tint fer[m]ement,/ E dit que
 713 voiz que li disoit: —/ Qe nul ne oist fors
 1012 E coment est avenu./ Quant Amyllioun
 823 Qe ewe froide li vodra doner./ Trestouz
 1004 Q'il ne li velt ocier./ Quant batu
 405 a dreit fust ceo at tort./ Nul ne oseit pur
 261 pur l'amur de luy/ Morust, s'il n'eust de
 1118 'Jhesu Crist, le fiz seinte Marie,/ Si
 1002 Mes pur poer qe eus avoient,/ Ne
 1062 quer/ Comme si ele fust sa soer;/ Plus ne
 696 fuiestes encusé./ S'il vous velt esposer,/ corteis chevaler./ De chescun mes qe l'em
 954 'Oweyn, a la dame irrez,/ Nostre congé dc
 885 De .iii. countez e demy,/ Si tost come
 776 Acounté est tot lor oeuvre al counte./
 331 Li un countre l'autre tendi son gant,/ E
 394 Qe unque si bel chevaler ne veient;/ E
 219 est venu/ Soit detret e puis pendu!'/ E dit
 351 la gent:/ Plurent e pleignent lour beauté./
 558 En cel langur demora/ Tant que
 240 De un drap vestu esteit,/ La coupe devant
 214 envie,/ Mes Amys ne l'aparce[u]st mye./
 189 ad parlé./ Un jour par aventure avint/ Qe
 208 desiroit./ Quant passa le temps issi,/ Qe
 1067 En son plegge devendreit./ 'Voir,' dit
 423 doncne maundereit/ E la verité de
 1009 gent qe de sa terre furent/ Od grant nobley
 156 e dur/ Qe de mal l'ad garri./ Le seneschal
 600 defendi/ Qe nul ne fut si hardi/ Qe de rien
 848 ses meins a Deu tendi/ E mout graces
 1115 dame vint, qe bone fust,/ Sovent Deu pur
 1089 Etez vous Florie par grant error!/ Ele
 273 nepurquant;/ De son estre saver voleit./ Si
 490 Donque fist sa femme demaunder,/ Car de
 1179 143 graunt douçour,/ Sauve chescuny honur.'/
 399 Ke le counte fut bien payé./ Tant fuit
 116 retorneyt;/ Sitost com en la porte entra,/ E
 421 le chivaler demaunda:/ En hostage pur
 185 de jour en jour./ Taunz com Amis meuz
 184 Qe fuit demoré od son seygnur/ E meuz
 8 la court un counte estoient/ E des armes
 528 frere!/ Amys remaint od la meisné,/ Cum
 414 ke dire./ Plusors aveient de ly pité,/ Mes
 524 Tut soul va saunz compainie./ Ore Deus
 1035 quens, remembrez, Amys,/ Com vous
 372 de la mayson,/ Si encontrà le botiler./ A
 990 moult esmervileit,/ De Amillioun doncne

1 i fust qu'il deust morir./ Desouz un arbre se cocha,/ E son
 1 i gettast./ Amillioun doncne maundereit/ E la verité de li
 1 i greve le departir./ Donqe parla sire Amillioun/ E dit: 'Amis
 1 i guerpeient;/ Ne trova serjant ne esquier/ Qe ewe froide li
 1 i haeit;/ De son benfait avoit envie,/ Mes Amys ne
 1 i herita,/ Qe bien aveit deservy./ En bone vie longtemps
 1 i lé./ Jamés de illoec ne pout issir;/ La demora desqe al morir
 1 i jura./ Amyllioun ly mercya./ Atant del counte departi,/ Si
 1 i le counte Amis,/ Tel ad el quer dolur/ Qe unique femme ne out
 1 i lerray/ Par [ceo] qu'il est chose esprové/ Pur promesse
 1 i memes a li vet/ Chescun jour sis foiz ou sept;/ Tant com
 1 i memes le chivaler arma./ En son corage fust bien païé
 1 i mena./ La dame, sitost com vew li a,/ Pres de joie se palma
 1 i ment?/ Del cop parlent durement:/ Dist l'un a l'autre qe le
 1 i mes n'iert encusé./ S'il chaist, n'est pas mervaille./ Ore
 1 i mestre botiler,/ Amys, qd bien sout son mester:/ De un drap
 1 i ne velt guerpir/ Ne pur vivre ne pur morir./ La dame, que
 1 i noun —/ 'Lessez, lessez, sire Amillioun!'/ Jeo vous di
 1 i oist nomer,/ De dolur pout son quer crever:/ 'Sire,' dit, 'par
 1 i ount deguerpi,/ Estre un enfant q'il out norri./ Fiz de un
 1 i out e defolé/ Que ses mains sunt allassé,/ Donqe commaund
 1 i parler,/ E le counte li velt venger./ Quant ne pout trover
 1 i pité/ E que ele fust de ly amé,/ Que si de ly amour ne avoit
 1 i plest, par son poer/ Nous porra enfaunz doner./ Si
 1 i poeient assuager/ Q'il ne li velt ocier./ Quant batu li out e
 1 i poet fere companie./ Treis anz demena tele vie;/ De ses eses
 1 i porriez de quer amer?'/ E ele respount moult simplement
 1 i porta/ La moyté lor envoia./ Amis une coupe avoit/ Ke
 1 i prendrez./ Hors de ceo pais irroms/ A plus tost que nous
 1 i quens est fini./ Ore est amé e tenu cher;/ N'estoet mes estre
 1 i quens fu de ire enflé./ Ne parla mot une luwé./ 'Adonke,' dit
 1 i quens [les] resceust atant./ E doncne jugga le baronage/ Que
 1 i quens meme le dist/ Qe onqe si bel chivaler ne vist./ Touz
 1 i quens: 'Ore vaut meins! Ceste play m'est laid e vileins.'
 1 i quens, que mout fuit irré,/ Ala hastaunt lour juggement,/ E
 1 i quens s'en ala/ A boys juwer en venerie,/ Od ly tote sa
 1 i quens teneit./ Mout fu beals e aligné,/ Des chivalers fuit
 1 i quens une dame aveit/ Q'il come sa vie ameit./ Une fille
 1 i quens une feste tynt/ Par un jour de l'Ascensioun;/ La fuit
 1 i quens une noyt dormi,/ Unc voiz oy qe li disoit/ Qe
 1 i quens, volez ensy?/ E jeo lealment vus dy/ Qe, s'il defaut a
 1 i querreit/ Qe son hanap out perdu/ E coment est avenu
 1 i receurent;/ Trestouz li firent homage./ Ore poet il mener
 1 i referri;/ Lour launces ount as coups brusé/ E si sunt
 1 i regardast,/ Ne que manger li donast./ L'enfant, quant oy cel
 1 i rendi,/ Donqe comence pur fere joie:/ 'Jhesu Crist, le fiz
 1 i requist./ Atant le counte s'est repairé./ En une chambre est
 1 i respondi e dist: 'Comment/ Vous ay amé clement?/ Qe jeo
 1 i retint, si li diseit./ Fu la joie, fu la pité./ Quant l'un od
 1 i se veut venger./ Tant fuit quise q'ele fut trové/ Mes de pour
 1 i seneschal ataunt se tint,/ Qe d'anguisse pale devint
 1 i seneschal doté/ Qe Amys un soul n'en ad trové./ Quoy pur
 1 i seneschal li encontra/ Qe semlaunt d'amur li fesoyt,/ Mes
 1 i serreit,/ En son plegge devendreit./ 'Voir,' dit li quens
 1 i servet,/ Le seneschal plus li haeit;/ De son benfait avoit
 1 i servi de jour en jour./ Taunz com Amis meuz li servet,/ Le
 1 i servoient./ Moult furent de grant vassalage,/ Gentils e de
 1 i sire e envoyé;/ E quiderount trestouz pur voir/ Qe ceo fuit
 1 i sire fust tant yrré/ Qe la n'out home taunt hardi/ Qe oseit un
 1 i soit en aye/ E doigne q'il puisse bien fere!/ Grant chose
 1 i soleiez amer jadis./ Grant bosoigne li ad icy chacé./ Si le
 1 i soleit trop beal parler;/ Les oils sur ly forment roylla
 1 i sovent:/ 'Bien sai', fait il, 'verraiement,/ De mon frere l'ad

433 celi qe grant mester en a./ De son frere
 947 Celi q'il clama pur seignur,/ Touz
 826 norri./ Fiz de un counte, son parent,/ Od
 810 e si laid devint/ Qe checun pur mesel
 811 Qe checun pur mesel li tint./ La dame
 393 ensemblé,/ Ly chivalers e la meisné./
 13 barons,/ Si vous dirroy bien lor nouns:/
 111 Del doel q'entre eus ount demené./
 742 Bien entendi en son corage/ Fere ne
 1003 avoient,/ Ne li poeient assuager/ Q'il ne
 406 Nul ne oseit pur li parler,/ E le counte
 1174 Serjanz, vadlet e esquiers,/ Touz devant
 342 avera reprover/ Si jeo ne me puisse de
 1056 e de boivre ensement./ E li memes a
 531 fuit lour dreit seignur./ E la dame, quant
 638 qe nel pout amer,/ Un grant coup
 665 gabbant./ E sire Amillioun atant/ Ferir
 822 Ne trova serjant ne esquier/ Qe ewe froide
 1000 Qe li estoient de molt près:/ Enresoner
 655 Qe la bataille ad tant duré;/ Un coup
 684 a:/ Plus est sain qe pesson de mer./ Atant
 816 Meuz, ceo dit ele, veut morir/ Qe a
 437 a son frere velt aler:/ Son enuy monstren
 465 chival fuist mesaysé,/ Amyllioun en son
 797 estoit leal compaignon./ Com il en son
 812 trop en despit:/ Ne voleit entrer en son
 1132 E tot vifs les ount trovez!/ En lor
 354 en la chambre entrat,/ La dame sur un
 1220 une fenestre luy porteit/ Chescun jour sa
 1225 fut molt prisé/ Qe autre peine n'ad
 1205 Suvenez vous del bordel/ [K']a moy
 46 longtemps servirent/ E par tot bien
 1211 mes molt bel,/ Si fut fort durement;/ De
 1237 fut la compaignie./ Lor corps gisent en
 915 cocher,/ A plus q'il pout li eysa,/ De
 915 A plus q'il pout li eysa,/ De long en
 857 Jhesu, le fiz scinte Marie,/ Com
 786 Tant qe le counte emmaladi./ E quant
 45 Qi fort esteit e coragous./ De cel mester
 1231 Qe bien aveit deservy./ En bone vie
 907 Einz ne pount plus entendre/ Q'il covient
 1237 fierement,/ E bone fut la compaignie./
 955 chescun mes qe l'em li porta/ La moyté
 1132 E tot vifs les ount trovez!// En
 12 estoient de barons,/ Si vous dirroy bien
 330 vint tot a hounte:/ Acounté est tot
 31 e de une nature./ Leals furent envers
 669 En la cervele cola le brank./ E
 243 en veneerie,/ Od ly tote sa chivalrie./ A
 162 de maisné./ Tant fuit de sa gent amé,/ E
 557 pité avoient la gent:/ Plurent e pleignent
 22 de la court avoient envie/ De lour estre e de
 171 A femme prendre li consaillerent./ Par
 476 lour fist mettre lour seeles;/ Unke ne
 874 entre eux grant pité:/ Plurent e decirent
 530 E quiderount trestouz pur voir/ Qe ceo fuit
 22 quant./ Ceus de la court avoient envie/ De
 320 vengé/ De vostre corteis botiler;/ Tot
 755 counter,/ Car bien le deverez celer. /' Tot
 766 Donque ne fuit aparcevant/ De
 38 Lour trova si com il voleint;/ Hautement
 35 Honur les fist a lour talent./ Chivalers
 834 A chef de la vile a un bordel/ Illoc

1 i sovynt:/ Tantost a la countesse vynt,/ Congé li ala
 1 i tenoient a folur./ Mes de l'enfant avoient pité:/ Al counte
 1 i tint fer[m]ement,/ E dit que li ne velt guerpir/ Ne pur vivre
 1 i tint./ La dame li tint trop en despit:/ Ne voleit entrer en son
 1 i tint trop en despit:/ Ne voleit entrer en son lit,/ Ne voleit
 Li un countre l'autre tendi son gant,/ E li quens [les] resceust
 Li un estoit Amys par noun,/ L'autre est appellé Amillyoun
 Li un s'en va ver son pays,/ Li autres remeint tristes e pensifs
 1 i velt hountage/ De son compaignoun trahir./ Moult
 1 i velt ocier./ Quant batu li out e defolé/ Que ses mains sunt
 1 i velt venger./ Quant ne pout trover plevine,/ Pausmé chei la
 1 i venerent;/ Merci crier touz penserent./ Son maltalet lour
 1 i venger./ Est ceo voir, sire seneschal?/ Jeo quide que l'avez
 1 i vet/ Chescun jour sis foiz ou sept;/ Tant com pout l'ad
 1 i veu aveit,/ Qe Amillioun fuit bien quideit./ Les deuz furent
 1 i vint doner/ Amount el heaulme peint de flurs,/ Qe tost abati
 1 i vint par tel ay/ Qe le feu fist tresailleur,/ Qe le healme fust
 1 i vodra doner./ Trestouz li ouint deguerpi,/ Estre un enfant q'il
 1 i voleient,/ Mes pur poer qe eus avoient,/ Ne li poeient
 1 i voudra ja doner/ Qe li deit par dreit grever./ Mes le
 1 i vount touz beiser:/ Sur touz li fist la dame joie,/ E la pucele
 1 i vousist venir./ Cil soffri en cel an/ Grant dolur e grant han
 1 i vout,/ E ala qe mult se redut./ Ele li dist: 'Beau sir Amys
 1 i gitiseit,/ Deleez sa femme se cocheit;/ Si s'avint en
 1 i gitisoit,/ Sa bele dame a li disoit:/ 'Me diez par amour de
 1 i,/ Ne voleit auxi od lui parler,/ Ne od li beivre ne manger
 1 i s'entrebeyseren,/ Del ray del solail s'ensoieroent./ Pere e
 1 i trovat./ 'Dame,' dit il, 'ne savez/ Quele fille vus avez!/ Ele
 1 i liveré,/ Coment le counte out comaundé./ Un an vesqui e un
 1 i liveré./ Unke puis femme ne vout aver;/ Nul evr out de sa
 1 i vrastes pur hostel./ Celi averez tant com vus viverez;/ En
 1 i loé furent./ Amillion demorra/ Atant qe son pere fina,/ Qi de
 1 i loinz le virent tote sa gent/ Outre tote la cité;/ La fu la dame
 1 i Lombardie,/ E Deu fait pur eus grant vertuz:/ Les voegles
 1 i long en long li enmena./ Par la terre tant alerent/ Qe feym e
 1 i long li enmena./ Par la terre tant alerent/ Qe feym e me[s]jaise
 1 i longes me durra ceste vie?/ Jeo solei aver grant tresour
 1 i longtemps out langui,/ Morust e a Deu rendist s'alme;/ E
 1 i longtemps servirent/ E par tot bien loé furent./ Amillion
 1 i longtemps vesqui;/ En bienfaitz se pena./ Après sa mort a
 1 i lor asne vendre/ Pur cink souz e diz e maille;/ De ceo
 1 i lor corps gisent en Lombardie,/ E Deu fait pur eus grant
 1 i lor envoia./ Amis une coupe avoit/ Ke mout ferement amoit
 1 i lor lit s'entrebeyseren,/ Del ray del solail s'ensoieroent./ Pere
 1 i lor nouns:/ Li un estoit Amys par noun,/ L'autre est appellé
 1 i lor oevre al counte./ Li quens fu de ire enflé./ Ne parla mot
 1 i lor seignur,/ Bien le portent a honour;/ Si les amast mult
 1 i oraille od tote la face/ Voler fist enmi la place./ Le bras od
 1 i ostel n'i out nul remis/ Des chevalers for sire Amis,/ E il
 1 i lour ad trestouz doné/ Bons chevaus e deners,/ E robes a ses
 1 i lour beauté./ Li quens, que mout fuit irré,/ Ala hastaunt lour
 1 i lour compayne,/ Q'amerent entre eus tant fierement,/ E de
 1 i lour consail se mariat./ Une gentile femme esposat/ Qe fille
 1 i lour dist autre noveles,/ Mes dist q'il voleit visiter/ Son frere
 1 i lour draps,/ Sovent se claiment cheitif e las;/ Plein[en]jt de
 1 i lour dreit seignur./ E la dame, quant li veu aveit,/ Qe
 1 i lour estre e de lour compayne,/ Q'amerent entre eus tant
 1 i lour estre fist espier./ Qant vint le terme q'avoint dit,/ Il
 1 i lour estre luy ad counté,/ E puis dit q'il prendra congé./ Quant
 1 i lour estre tant ne quant./ A plus tost qe Amys poeit,/ Congé
 1 i lour feste teneint./ De Amys fist son botiler,/ Car moult a ly
 1 i lour fist a grant honur:/ Touz les ad dobbez en estour,/ Lour
 1 i lour fist aver hostel./ O, misires Amyllioun,/ Mis estes a

Ses garsouns e ses esquiers./ Touz
De ceo acateront lour vitaille./ Estre ceo
ensample averont/ Coment iour seignurs
Li quens, que mout fuit irré,/ Ala hastaunt
de mal l'ad garri./ Le seneschal li referri;/
crier touz penserent./ Son maltalement
En une chambre puis entrerent/ E
E sire Amist trestut le graunte./
Mout avera fait bone jorné/ Si par
e ses esquiers./ Touz lour fist mettre
Donqe quideront de verité/ Qe vous sciez
amast mult tendrement,/ Honur les fist a
honur:/ Touz les ad dobbez en estour,/ ne quant./ La meisnee fust endormie;/ De
descenduz,/ Qe nul fut aparcevant/ De
qe revendrount./ Owein, le leal enfant,/ Lour viaunde va querant,/ Mes tant
souz e diz e maille;/ De ceo acateront
quant oy cel comaund,/ Ne sout ou quere
Qe donke ne poient home trover/ Qe rien
mayn estoient,/ N'est home qe tant de
Mes jeo ne puis aler a pié;/ Priez a
entrer en son lit,/ Ne voleit auxi od
li ment?/ Del cop parlent durement:/ Dist
N'est home el mound qe les avisast/ Qe
home qe tant de l'overaigne seust/ Qe
Ne crerret home ja si parcevant/ Qe
e fiers./ Ne avera mester de accord;/
Qe sanz vous estre emperour.'/ Quant
A cel encountre tant firent bien/ Qe
si li disoit./ Fu la joie, fu la pité./ Quant
Li quens fu de ire enflé./ Ne parla mot une
Car bien le deverez celer.'/ Tot lour estre
son corage descovery:/ E dit pur l'amur de
Mes ore se clame lasse cheitive;/ Moult
Une garce la serveit/ Qe par une fenestre
ne vout son honour;/ Mes s'il eust od
Tant demeint grant affere./ Sa femme
s'il n'eust de li pité/ E que ele fust de
li pité/ E que ele fust de ly amé,/ Que si de
Gentil home ressemblereit./ Un de eux
Ove sa feme tant demorra/ Qe tot son pel
dit que malade fuit,/ Ne sout dont cel mal
alé,/ Son quer me est abandoné,/ E jeo
E il od force de sa gent/ Vendroit a
Est veus tote la court ensemble,/ vespré/
En un grant boys est alé./ A force
damoiseles qe od li erent/ Purquei ceo fuy
il eust le congé pris,/ E seignurs ove
com je puisse aver la vic!'/ Atant congé
ad combatu,/ Son enemi ad confundu;/
pout l'ad conforté./ La dame sovent a
Amyllioun ne velt lesser:/ De son hostel
A li soleit trop beal parler;/ Les oils sur
ceo en pees ou en guerre,/ Maundast a
poet il mener grant baronage!! N'ust od
taunt hardi/ Qe oseit un mot parler pur
sunt allassé,/ Donqe commaund qe l'en
Vendroit a ly, ceo li jura./ Amyllioun
vie, ne sout ke dire./ Plusors aveient de
De Amys fist son botiler,/ Car moult a
un mal e l'autre mout dota./ Corteisement
ad bien duré/ Desque noune fust passé./

lour fist mettre lour seèles;/ Unke ne lour dist autre noveles
lour fount fere/ Sur deus roes une cyvere/ Qu'il pout sei
lour garderont./ Une garce la serveit/ Qe par une fenestre luy
lour juggement,/ E si jura grant serement/ Qe il memes les
Lour launces ount as coups brusé/ E si sunt outrepassé./ A cel
lour pardona,/ Od sei les tint e les ama./ Donque fist sa
lour robes chaungerent;/ Donque ne fuit aparcevant/ De lour
Lour robes ount trestot chaungé,/ E Amyllioun s'en est alé
lour saunk poet estre sauné.'/ Un jour s'est par matyn levé
lour seeles;/ Unke ne lour dist autre noveles,/ Mes dist q'il
lour seignur./ Si vous requer par amur/ Qe de ma femme facez
lour talent./ Chivalers lour fist a grant honur:/ Touz les ad
Lour trova si com il voleint;/ Hautement lour feste teneint
lour venue ne saveint mie./ Quant la dame oi counter,/ En une
lour venue tant ne quant./ La meisnee fust endormie;/ De lour
Lour viaunde va querant,/ Mes tant lour vint sur cherté/ De
lour vint sur cherté/ De pain, vin e de blé./ Qe donke ne
lour vitaille./ Estre ceo lour fount fere/ Sur deus roes une
lour vivre avant./ Tantost counta a son seignur,/ E il dit
lour voille doner./ Einz ne pount plus entendre/ Q'il covient
l'overaigne seust/ Qe l'un de l'autre deviser deust./ [
lui par charité/ Qe ele me face une anc doner/ Qe jeo puisse
lui parler,/ Ne od li beivre ne manger./ Meuz, ceo dit ele, veut
l'un a l'autre qe le chivaler/ Ses armes sout trop bien porter
l'un de l'autre desceverast./ E si furent de une estature,/ De
l'un de l'autre deviser deust./ [...] / Qe unke lesser le
l'un de l'autre sout deviser,/ Si par noun les oist nomer,/ Ne
L'un hiet l'autre desq'a la mort./ Nul deigne a autre affier
l'un l'autre ad regarde,/ Mout est entre eux grant pité
l'un ne l'autre ne perdit ren./ Amillioun vint par corucer,/ Par
l'un od l'autre est aquointé!/ Donke li dit sir Amillioun
luwé./ 'Adonke,' dit il, 'Deu mercy,/ Si ceo traitour m'ad issi
luy ad counté,/ E puis dit q'il prendra congé,/ Quant il eust le
luy/ Morust, s'il n'eust de li pité/ E que ele fust de ly amé
luy poise qe ele est vive./ Ne sact ele pas quoi ele poet fere
luy portoit/ Chescun jour sa liveré,/ Coment le counte out
ly affere,/ Fuist ceo en pees ou en guerre,/ Maundast a ly
ly aime tendrement,/ Si fist tot son commaundement;/ Tant qe
ly amé,/ Que si de ly amour ne avoit,/ Jamés home ne amereit
ly amour ne avoit,/ Jamés home ne amereit./ Amis, quant l'ad
ly appeleyt,/ Demaundast s'il vout servir./ E il getta un grant
ly arracha./ Si malade e si laid devint/ Qe checun pur mesel li
ly avenut./ Ele comaunda qe eus se teysent/ E d'autre chose
ly aym e ameray;/ Pur nul autre ne li lerray/ Par [eco] qu'il est
ly, ceo li jura./ Amyllioun ly mercya./ Atant del counte
Ly chivalers e la meisné./ Li un countre l'autre tendi son gant
ly covynt dormir,/ Aviz li fust qu'il deust morir./ Desouz un
ly demaunderent./ E ele dit que malade fuit,/ Ne sout dont cel
ly desqe a dis,/ En son pais s'en est alé,/ A Amys ad trestot
ly dona,/ E un palefroy mounta/ Saunz garsoun e saunz esquier
Ly e vous ad aquité/ Del fait dount fuistes encusé./ S'il vous
ly est alé,/ Qe li ama molt de fin quer/ Comme si ele fust sa
ly fist justizer,/ Mestre mareschal sur touz/ Qi fort esteit e
ly forment roylla./ Amis moult se merveilla./ 'Pel,' fait il
ly hastivement,/ E il od force de sa gent/ Vendroit a ly, ceo li
ly ja si privé/ Q'il n'out dis chivalers de maisné./ Tant fuit de
ly./ La dame ne se pout tenir/ Ne pur vivere ne pur morir
ly lyast/ E en sa prison li gettast./ Amillioun doncque
ly mercya./ Atant del counte departi,/ Si ala parler a son amy
ly pité,/ Mes li sire fust tant yrré/ Qe la n'out home taunt
ly puet affyter./ Amyllioun ne velt lesser:/ De son hostel ly
ly respundi:/ 'Damoisel, pur Deu mercy,/ Vostre amy suy e
Ly seneschal fist moult bien,/ E sire Amillioun ne dota de

843 son dolur moustrer,/ Fors a l'enfant que
 242 s'en ala/ A boys juwer en venerie,/ Od
 462 arbre se cocha,/ E son chival a une raym
 1006 sunt allassé,/ Donqe commaund qe l'en ly
 977 gardé:/ En son esquel le vin versez,/ E
 972 mangé,/ Son botiler ad appellé:/ 'Pernez
 508 icy/ Od vous desoremés demorront;/ A
 445 juré.' / 'Dame,' dist il, par ma lealté,/ Pur
 513 seignur./ Si vous requer par amur/ Qe de
 376 'Fel,' fait il, 'Deu vous maudie!/
 338 porrai affier?/ Si est grant desert venu:/
 444 ad ma mort juré.' / 'Dame,' dist il, par
 443 savez bien qe mon seignur/ Pur vous ad
 276 Qe jeo vus ay doné m'amur?/ Ja en
 861 e d'or,/ Ore suy tant demené/ Qe de
 340 est honie, jeo suy trahi;/ Cel fel traitre
 334 dit il, 'Deu mercy./ Si ceo traitour
 908 lor asne vendre/ Pur cink souz e diz e
 642 colurs./ Sur le senestre le coup descent,/ fina unke soir ne matyn,/ Poy mangea e
 1040 Tost estendu a terre chaist:/ Bate ses
 1005 ocier./ Quant batu li out e defolé/ Que ses
 210 jour de l'Ascensioun;/ La fuit assemblé
 1027 en haut levé./ E Amillioun le col tendist./
 160 ly ja si privé/ Q'il n'out dis chivalers de
 368 La dame ne sout quoy dire./ Le conte de
 853 counta a son seignur,/ E il dit: 'C'est
 292 returné./ Amis mout se purpensa;/ Le un
 1099 Sitost com le saunc senti,/ De son grant
 364 avra il, si jeo vive tant;/ Ne li ert nul de
 379 'Sire,' dist Amys, 'vus dites
 599 Mes le hauberc fuist fort e dur/ Qe de
 236 E ele dit que malade fuit,/ Ne sout dont cel
 682 S'il eust plaie li demaunda;/ Cil dist que
 1137 quant fust sané/ E de son grant
 92 s'accompanie od feloun/ Ne porra trover si
 344 seneschal?/ Jeo quide que l'avez dit pur
 84 il le plus doté./ Unke ne vous pout amer,/ demorra/ Qe tot son pel ly arracha./ Si
 809 ceo fuy ly demaunderent./ E ele dit que
 235 Si jeo ne soie de vous vengé./ Si fu[i] est il garri,/ Qe en corps ne en face/ De
 1194 chevalers for sire Amis,/ E il remist pur
 245 nostre fille ad trahy e affolé./ Deu li doint
 362 bien hounte nous rend:/ Tray nous ad
 1176 Merci crier touz penserent./ Son
 275 ay amé clement?/ Qe jeo vus ay doné
 629 a pié se mettreit./ Mes il aparceut tost la
 932 tut entour/ Des povres les estres e les
 970 lesser le voleit./ Quant le conte ad pres
 453 pelrin./ Ne fina unke soir ne matyn,/ Poy
 950 Amys ount counté./ Cil, sitost com
 232 comensa a amer/ Q'ele ne pout boyvre ne
 849 si hardi/ Qe de rien li regardast,/ Ne que
 1198 Dame, sovenez vous del bien,/ Coment a
 814 auxi od lui parler,/ Ne od li beivre ne
 854 mal dolur/ Quant n'avom a boivre ne a
 43 De son hostel ly fist justizer,/ Mestre
 772 Ore est mout en astage,/ Car cru li est par
 702 comaundé al baronage/ Qe eus feussent al
 171 li consaillerent./ Par lour consail se
 856 icy plus demorer./ Jhesu, le fiz seinte
 1117 pur fere joie./ 'Jhesu Crist, le fiz seinte

I y serveit./ Amillioun com plus viveit,/ Tant plus leid
 I y tote sa chivalrie./ A l'ostel n'i out nul remis/ Des
 I y a./ Dormist, car mult fu travaillé,/ E son chival fuist
 I y ast/ E en sa prison li gettast./ Amillioun doncue
 ma coupe me reportez!'/ E celi fist le comaundement/ E vint e
 ma coupe od tot le vin,/ Si l'aportez a ceo frarin,/ Au povres
 ma court od vous irrount./ E quant nous averons robes
 ma defaute ne murrez mie,/ Tant com je puisse aver la vie!
 ma femme facez atant,/ En fet e en semblant,/ Come jeo
 Ma fille est par vous honye./ Mes vous ne irrez ja riant;/ La
 Ma fille est pute devenu./ Ele est honie, jeo suy trahi;/ Cel fel
 ma lealté,/ Pur ma defaute ne murrez mie,/ Tant com je puisse
 ma mort juré.' / 'Dame,' dist il, par ma lealté,/ Pur ma defaute
 ma vie après ceo jour/ Ne serray en mon quer heytiez/ Si jeo ne
 ma vie est grant pité./ Si jeo de feim morir deveray,/ De mei
 m'ad icy servy./ A touz jours avera reproto/ Si jeo ne me
 m'ad issi hony,/ Que tant amey e tant ting cher,/ En qe me
 maille;/ De ceo acateront lour vitaille./ Estre ceo lour fount
 Mailles trenchent plus de cent./ Bien pres passa le costé
 mains beust,/ Si ne dormist nule nust./ Touz les noitz issi
 mains, ses cheveuz detire,/ Sa vie hiet, sa mort desire,/ La
 mains sunt allassé,/ Donqe commaund qe l'en ly lyast/ E en
 maint baroun./ Est veuz li mestre botiler,/ Amys, qj bien
 Mais l'enfant avant saillist:/ Uwein, qj ne poet suffrir/ Qe
 maisné./ Tant fuit de sa gent amé,/ E lour ad trestouz doné
 mal ard e d'yre,/ Devint plus noyr ke carboun./ Tost sailli
 mal dolur/ Quant n'avom a boivre ne a manger;/ Ne poums
 mal e l'autre mout dota./ Cortesement ly respundi
 mal est il garri,/ Qe en corps ne en face/ De maladi ne
 mal garrant./ Tut ert detret e puis pendu,/ E la pute arse en fu!
 mal./ Jeo suy vostre chivaler leal;/ Si nul vous ad de moy
 mal l'ad garri./ Le seneschal li referri;/ Lour launces ount as
 mal ly avenut./ Ele comaunda qe eus se teysent/ E d'autre
 mal n'en a:/ Plus est sain qe person de mer./ Atant li vount
 mal netté,/ Sitost com porra prist congé,/ En son pais s'en
 mal noun;/ Car piz ne porra avenir/ Quant compaignoun velt
 mal.' / 'Sire,' le seneschal respongud,/ Par celi qe fist le mound
 Mal vus ad quis a son poer,/ Mes encheson ne pout trover
 malade e si laid devint/ Qe checun pur mesel li tint./ La dame
 malade fuit,/ Ne sout dont cel mal ly avenut./ Ele comaunda
 malades e defet,/ Pur ceo n'avojeo pas forfait,/ Qe vivre
 maladi ne appareust trace./ En Amis ne out qe regeir;/ Unc
 maladie./ E la damesele ne targa mye:/ De sa dame prist
 male destinié!/ Si avra il, si jeo vive tant;/ Ne li ert nul de mal
 malement,/ Qe nostre fille ad trahy e affolé./ Deu li doint
 mal talent lour pardona,/ Od sei les tint e les ama./ Donque
 m'amur?/ Ja en ma vie après ceo jour/ Ne serray en mon quer
 manere,/ Si ceo retret tost arere./ Tost descendri de son
 maneres/ E les custumes de les terres./ Les gentils homes, qe
 mangé,/ Son botiler ad appellé:/ 'Pernez ma coupe od tot le
 mangea e mains beust,/ Si ne dormist nule nust./ Touz les
 mangea,/ Son premer mes li envoya/ Par son mestre botiler
 manger./ Les damoyseles qe od li erent/ Purquei ceo suy ly
 manger li donast./ L'enfant, quant oy cel comaund,/ Ne sout
 manger me menastes/ E del pais m'enchaceastes;/ Puis
 manger./ Meuz, ceo dit ele, veut morir/ Qe a li vousist venir
 manger;/ Ne poums icy plus demorer./ Jhesu, le fiz seinte
 mareschal sur touz/ Qi fort esteit e coragous./ De cel mester
 mariage/ Grant seignurie e grant honur:/ De grant terres est
 mariage./ L'endemain a terce sonant/ Touz i furent, petit e
 mariat./ Une gentile femme esposat/ Qe fille d'un conte
 Marie,/ Com longes me durra ceste vie?/ Jeo solei aver grant
 Marie,/ Si li plest, par son poer/ Nous porra enfaunz donez

699 'Tot soit a vostre talent!/ Si vus me volez
 57 droitz amenusast./ Le counte fust de ceo
 198 a trestouz respoundi/ Ne vout uncore aver
 544 A la dame ne voleit parler,/ Desques al
 1085 Un jour s'est par matyn levé./ E al
 222 ceus qe en la sale estoient/ De sa beauté
 1159 Mes ne li ert pas destiné,/ Car un jour par
 1084 poet estre sauné.'/ Un jour s'est par
 452 Mes ala com pelrin./ Ne fina unke soir ne
 375 se merveilla./ 'Fel,' fait il, 'Deu vous
 1042 Sa vie hiet, sa mort desire,/ La hure
 63 ly affere,/ Fuist ceo en pees ou en guerre,/ sa prison li gettast./ Amillioun doncne
 1008 hanaps tant ressembleient/ Qe, si en une
 965 noyr ke carboun./ Tost sailli hors de la
 370 ore suy jeo bien honye/ Quant vous
 280 counté/ For que dreit a vérité,/ Moult bien
 383 talent!/ Si vus me volez marier,/ Jeo ne
 700 son lit gisoit./ Sa bele dame a li disoit:/ 'Qe ne puisse nul autre amer/ Quant talent
 799 497 avez forfait/ E le serment avez fet,/ Jeo
 857 Jhesu, le fiz seinte Marie,/ Com longes
 1192 estre,/ Par Jhesu, le roy celestre./ Tourné
 134 voler./ Si Amilliouns soit alé,/ Son quer
 890 ale a pié;/ Priez a lui par charité/ Qe ele
 1016 devez/ A Amillioun, qe tant amez,/ Ne
 1017 Ne me facez enprisoner,/ Mes le chef
 571 esteit?/ Trop vilaine roste serreit!/ Armes
 1198 vous del bien,/ Coment a manger
 139 Pur promesse saunz seurté./ Mes de taunt
 336 Que tant amey e tant ting cher,/ En q
 342 A touz jours avera reprover/ Si jeo ne
 977 En son esquel le vin versez,/ E ma coupe
 699 'Tot soit a vostre talent!/ Si vus
 440 Ele li dist: 'Beau sir Amys,/ Trahir
 108 sunt chaeuz a terre;/ N'est home q
 586 Est venuz l'asemblé;/ Ore mes sourdra la
 863 pité./ Si jeo de feim morir deveray,/ De
 652 savoito [nul] del chaump juger/ Lequel fuit
 1114 Voz deus fiz ai estranglé.'/ La dame ses
 351 e puis pendu!'/ E dit li quens: 'Ore vaut
 646 toché./ Amyllioun, qe tant fu de vigour,/ ne pout trover plevine,/ Pausmé chei la
 408 Sur deus roes une cyvere/ Qu'il pout sei
 912 pur son frere! Amys remaint od la
 527 Florie fust apelé/ De ceux qe furent de sa
 252 tote la court ensemblé,/ Ly chivalers e la
 392 sei le tint plus privé/ Qe nul autre de sa
 152 De lour venue tant ne quant./ La
 1164 serrount,/ Qe trestot oy un vassal/ De la
 314 jco vus aime en bone fey —/ Ta espee nue
 801 si bel chevaler ne veient;/ E li quens
 219 De viande e de boivre ensement./ E li
 1056 De ses eses ass[e]z avoyt/ Tant com il
 1065 faudrez!'/ Tantost espeie demaunda,/ E il
 1023 Si jeo de feim morir deveray,/ De mei
 863 atant,/ En fet e en semblant,/ Come jeo
 515 e de vis./ Bons armes demaunda/ E li
 578 E si jura grant serement/ Qe il
 561 e deners,/ E robes a ses esquiers./ E il
 165 robe li fist vene/ E a mouster puis li
 1104 vous del bien,/ Coment a manger me
 1198 a manger me menastes/ E del pais
 1199

marier,/ Jeo ne me deveroy pas corucer.'/ Dount fut
marriz,/ Congé li done mes enviz;/ Mes le conte fist com
mary./ A grant cherté le tynt le pere,/ E mout l'ama auxi la
matin al lever./ Chescune nuyt issi se contint/ Desques
matin est il alé;/ Deu requist e son haut noun/ A son frere
matire aveient./ Est venuz la novele/ En la chaumbre a la
matyné/ Les deus countes sunt venuz/ E a la porte descenduz
matyn levé./ E al matin est il alé;/ Deu requist e son haut
matyn,/ Poy mangea e mains beust,/ Si ne dormist nule nust
maudie!/ Ma fille est par vous honye./ Mes vous ne irrez ja
maudist q'onqe fu nee,/ Quant peccé l'ad ensi encombré/ Qe
Maundast a ly hastivement,/ E il od force de sa gent
maundereit/ E la vérité de li querreit/ Qe son hanap out perdu
mayn estoient,/ N'est home qe tant de l'overaigne seust/ Qe
mayson,/ Si encontrra le botiler./ A li soleit trop beal parler
me dedeignez avere amye!! Tant gentils hommes m'ount prié
me deffenderay/ Devant qe jeo denieray.'/ Le seneschal atant
me deveroy pas corucer.'/ Dount fut comaundé al baronage
Me diez par amour de moy —/ Car jeo vus aime en bone fey
me doint e voler./ Si Amilliouns soit alé,/ Son quer me est
me doute qe pur peccé/ Del serment serrez encombré./ Pur
me durra ceste vie?/ Jeo solei aver grant tresour,/ Estre servi
me ert a grant vilté/ Si jeo ne soie de vous vengé./ Si ful[i]
me est abandoné,/ E jeo ly aym e ameray;/ Pur nul autre ne li
me face une ane doner/ Qe jeo puisse chivacher.'/ L'enfant a
me facez enprisoner,/ Mes le chef me faites tost trencher
me faites tost trencher./ Mes certes ai jeo trop vesqui;/ Trop
me fetes tost bailler/ Pur cestes dames deliverer!/ Jeo
me menastes/ E del pais m'enchaceastes;/ Puis feistes jurer
me poez crere/ Qe, si vous eiez de moy affere,/ Jeol vous fray
me porrai affier?/ Si est grant desert venu:/ Ma fille est pute
me puisse de li venger./ Est ceo voir, sire seneschal?/ Jeo
me reportez!'/ E celi fist le comaundement/ E vint e porta le
me volez marier,/ Jeo ne me deveroy pas corucer.'/ Dount fut
me volez, m'est avys!/ Si vous ne venez a tel jour,/ Vous
me vousist crere/ Si jeo deisse la moyté/ Del docl q'entre eus
medlé./ Le un l'autre desaffient/ Qe entre eus nul amur ne
mei memes force ne fray.'/ L'enfant a soi doncne appelaist,/ E
meillour chevaler./ Amillioun fust bien anuié/ Qe la bataille
meins a Deu tendi/ E mout graces li rendi,/ Donqce comence
meins! Ceste play m'est laid e vileins.'/ Atant en la
Meint coup li dona ceo jour./ La bataille ad bien duré/ Desque
meischine./ En la place estoit Amis/ Com esgarré e com
meismes enhacer./ Amillion fist dedeinz cocher,/ A plus
meisné,/ Cum li sire e envoyé;/ E quiderount trestouz pur
meisné./ Florie, quant le congé en eust,/ S'a hasté a plus que
meisné./ Li un contre l'autre tendi son gant,/ E li quens
meisné./ Ore vous dirrai de sir Amillioun:/ Quant vint a sa
meisnée fust endormie;/ De lour venue nc saveint mie
meisnée le seneschal./ A son seignur le ala counter/ Sitost
meistes entré nous,/ Sire, purquei le feistes vous?/ 'Dame
meme le dist/ Qe onqe si bel chivaler ne vist./ Touz ceus qe
memes a li vet/ Chescun jour sis foiz ou sept;/ Tant com pour
memes desiroit./ Quant passa le temps issi,/ Qe li quens une
memes dist q'il le tuera./ Tost l'espeie li fust baillé./ Puis
memes force ne fray.'/ L'enfant a soi doncne appelaist,/ E pur
memes iceo fuisse,/ Qe ele encheson ne troesse/ Qe illoke
memes le chivaler arma./ En son corage fust bien paié/ Quant
memes les verreit arder./ Ataunt virent vener un chevaler/ Qe
memes si bel estoyt/ Qe tut le pays le disoyt/ Si Deu mesmes
mena./ La dame, sitost com vew li a,/ Pres de joie se palma
menastes/ E del pais m'enchaceastes;/ Puis feistes jurer mon
m'enchaceastes; Puis feistes jurer mon serjant/ Qe jeo ne

158 Trestouz li firent homage./ Ore poet il
 310 sunt a un de cel affere,/ Dount devisent la
 732 Mout i furent des robes donez/ Dont les
 1079 soit mon sounge./ Mes ore, soit voir ou
 619 a terre chay./ Qe pout, quant son cheval li
 1077 resperi,/ 'A, Deu!' dit il, 'qe onqe ne
 1031 'Mercy, mercy!/ Pur icel Deu qe onqe ne
 683 mal n'en a:/ Plus est sain qe pesson de
 1175 e esquiers,/ Touz devant li venerent;/
 869 L'enfant respoundi par grant douçur:/ '
 77 servy avom./ Pur vostre honur vus cri
 1030 son seignur deust morir./ En haut cria: '
 1030 deust morir./ En haut cria: 'Mercy,
 333 mot une luwé./ 'Adonke,' dit il, 'Deu
 294 ly respundi:/ 'Damoisel, pur Deu
 66 Vendroit a ly, ceo li jura./ Amyllioun ly
 789 la dame./ Quant mortz furent pere e
 200 le tynt le pere,/ E mout l'ama auxi la
 307 deus a nostre talent/ Ne[!] savera home de
 256 une soule chambere/ Ala par congé de sa
 174 Qe fille d'un conte estoit,/ E pere e
 1134 Del ray del solail s'enjoierent./ Pere e
 675 mes n'iert encusé./ S'il chaist, n'est pas
 838 Jadis fu sire e seignur;/ N'est pas
 1080 Mes ore, soit voir ou mensoungue,/ La
 374 sur ly forment roylla./ Amis moult se
 803 le feistes vous?/ 'Dame, jeo [ne] le dirrai
 451 e saunz esquier;/ N'ala pas com chivaler/
 740 baisé,/ E en quidoit qe ceo fu Amys./
 188 li haeit;/ De son benfait avoit envie,/ Mes le chef me faites tost trencher./
 1018 vengé,/ Qe vus quideit aver hony./
 506 pur seignur,/ Touz li tenoient a folur./
 948 venger./ Tant fuit quise q'ele fut trové/
 118 encontra/ Qe semlaunt d'amur li fesoyt,/ 139
 139 esprové/ Pur promesse saunz scurté./
 477 seeles;/ Unke ne lour dist autre noveles,/ 197 la desirent,/ E esposer la volirent,/ 896 asne aver,/ E pus sus les scintz jurer/ Qe
 85 pout amer,/ Mal vus ad quis a son poer,/ 1081 La merveile voiz voil prover,/ Pur
 58 conte fust de ceo marriz,/ Congé li done
 778 fini./ Ore est amé e tenu cher;/ N'estoet
 251 la pacete:/ Son dreit noun est Mirabele.,/ 629 E Amyllioun a pié se mettreit./
 888 irroms/ A plus tost que nous pooms./
 644 plus de cent./ Bien pres passa le costé./
 724 son drew,/ Mes pur ceo ne vout lesser,/ 1017 qe tant amez,/ Ne me facez enprisoner,/ 59 de ceo marriz,/ Congé li done mes enviz;/
 679 plorerent./ Les chevalers ja corerent,/ 975 frarin,/ Au povres qe tant est mesaysé./
 962 le per,/ Qe nc vout vendre ne doner./
 598 enpoignal/ Parmi l'escu peint de asur,/ 609 ala,/ En le healme grant coups dona./
 657 ja doner/ Qe li deit par dreit grever./
 951 Cil, sitost com mangea,/ Son premer
 414 sout ke dire./ Plusors aveient de ly pité,/ 1209 tenez!'/ Donke fist fere un turel:/ Petit fut
 1158 Son seignur jamés ne verrait./
 674 cola./ En cel champ fu ben vengé;/ Par li
 1150 Q'en le mois deust estre esposé./
 1079 menti,/ Doine qe voir soit mon sounge./

mener grant baronage!// N'ust od ly ja si privé/ Q'il n'out dis
mene re/ Coment e quant s'assemblerunt./ Allas! Q'encusé
menestrauz furent feffez./ Le conte dona a ses esquiers/ Les
mensoungue,/ La merveile voiz voil prover,/ Pur mes enfanz
ment?/ Del cop parlent durement:/ Dist l'un a l'autre qe le
menti,/ Doine qe voir soit mon sounge./ Mes ore, soit voir
menti/ E qj en croiz suffri passioun,/ C'est mi sires, sire
mer./ Atant li vount touz beiser:/ Sur touz li fist la dame joie
Merci crier touz penserent./ Son maltaalent lour pardona,/ Od
Merci Deu, mon seignur,/ Meuz voil od vous suffrir dolur/ Qe
mercy,/ De une chose soiez garny:/ Le conte ad seignz un
Mercy, mercy!/ Pur icel Deu qe onqe ne menti/ E qj en croiz
mercy!/ Pur icel Deu qe onqe ne menti/ E qj en croiz suffri
mercy,/ Si ceo traitour m'ad issi hony,/ Que tant amey e tant
mercy,/ Vostre amy suy e serray,/ E vostre serjant tant com
mercy a./ Atant del conte departi,/ Si ala parler a son amy
mere,/ Il ne eust soer ne frere/ For soul la dame qe Amis avait
mere./ La damoysele fuit bien gardé:/ Compaignes out a
mere nee./ Tant li ad dit e parlé/ Ore sunt a un de cel affere
mere/ Parler a Amys que ele ama./ Tant parla e taunt demora
mere perdu avoit;/ Pur heritage la moyté/ Li fuit escheu del
mere, quant ceo virent,/ A Deu graces en rendirent./ Sire
mervaille./ Ore finist la bataille./ Les uns chaunterent, les
merveile s'il ad dolur./ La mort desire plus qe la vie;/ Nul
merveile voiz voil prover,/ Pur mes enfanz ne voil lesser
merveilla./ 'Fel,' fait il, 'Deu vous maudie! Ma fille est par
mes;/ A ceo fui jeo confés.'/ Par ceo savoit sir Amillioun/ Qe
Mes ala com pelrin./ Ne fina unke soir ne matyn,/ Poy
Mes Amillioun, qe fu pensifs,/ Bien entendi en son corage
Mes Amys ne l'aparce[u]st mye./ Li quens une dame avait
Mes certes ai jeo trop vesqui;/ Trop bien ai la mort deservi.
Mes chivalers qe sunt icy/ Od vous desoremés demorront;/ A
Mes de l'enfant avoient pité:/ Al conte Amys ount counté
Mes de pour se fuist muscé./ Sitost com vist son seignur./ Ele
Mes de quer poy li ameit./ 'Si[re] Amis,' dit il, 'bien
Mes de taunt me poez crere/ Qe, si vous eiez dc moy affere
Mes dist q'il voleit visiter/ Son frere qe tant pout amer
Mes ele a trestouz respoundi/ Ne vout uncore aver mary./ A
mes en le pais [ne] vendreit/ De l'hure qe issi serreit./ Hors
Mes encheson ne pout trover/ Par quoi il vus pout grever
mes enfanz ne voil lesser./ Mout avera fait bone jorné/ Si par
mes enviz;/ Mes le conte fist com bon seygnur,/ Destourber
mes estre botiler./ Consailler fut fait e sire;/ Quantq'il volciet
Mes Florie fust apelé/ De ceux qe furent de sa meisné./ Florie
Mes il aparceut tost la manere,/ Si ceo retret tost arere./ Tost
Mes jeo ne puis aler a pié;/ Priez a lui par charité/ Qe ele me
Mes la char n'ad pas toché./ Amyllioun, qe tant fu de vigour
Mes la resccit come sa nullier./ Ne voleit qe eus furent
Mes le chef me faites tost trencher./ Mes certes ai jeo trop
Mes le conte fist com bon seygnur,/ Destourber ne vout son
Mes le counte vient premer;/ Atant se fist desarmer./ S'il eust
Mes le hanap soit bien gardé:/ En son esquel le vin versez
Mes le hanap tant amey/ Q'en tot son anguisse guerpir nc
Mes le hauberc fuist fort e dur/ Qe de mal l'ad garri./ Le
Mes le healme tant fort fu/ Qe de la mort l'ad deffendu,/ Qe le
Mes le seneschal primes li ferist,/ Qe son coup tres bien
mes li envoya/ Par son mestre botiler,/ Qe ert corteis
Mes li sire fust tant yrré/ Qe la n'out home taunt hardi/ Qe
mes molt bel,/ Si fut fort durement;/ De loinz le virent tote sa
Mes ne li ert pas destiné,/ Car un jour par matyné/ Les deus
mes n'iert encusé./ S'il chaist, n'est pas mervaille./ Ore
Mes ore sc clame lasse cheitive;/ Moult luy poise qe ele est
Mes ore, soit voir ou mensoungue,/ La merveile voiz voil

bien entendu,/ E la prist sicom son dreu,/ de molt prés:/ Enresoner li voleient,/ Qe ert corteis chevaler./ De chescun pout trover/ Par quoi il vus pout grever./ autre amer/ Ne semblant a nul muster;/ seygnur,/ Destourber ne vout son honur;/ emperur./ Qy ceo fuit li demaundeinent,/ Ses armes sout trop bien porter,/ heir li freit./ Est venuz l'asemblé;/ Ore le leal enfant,/ Lour viaunde va querant,/ après de ceste leprouz serrez./ Avant l'enfant./ La gent l'appelent Amorant,/ garisoun./ 'Dame, certes, jeo vus dirray,/ maudie!/ Ma fille est par vous honye./ Par la terre tant alerent/ Qe feym e car mult fu travaillé,/ E son chival fuist a ceo frarin,/ Au povres qe tant est Amis en plevine;/ Moult fu dolente la quant sout la covine/ Entre Amis e la ai je refusé./ Certes n'estes pas chevaler!// E vint e porta le present./ Le povres, qe Si malade e si laid devint/ Qe checun pur amoyt,/ Cele coupe li donait./ Amillioun estoyst/ Qe tut le pays le disoyst/ Si Deu issi se contint/ Desques Amyllioun a Deu ount escoté./ Après la messe vint a tant com jeo viveray./ Vers vous ne Com celi qe talent ne aveit/ Q'il chivacher./' L'enfant a la dame ala,/ Son E le service Deu ount escoté./ Après la dist: 'Beau sir Amys,/ Trahir me volez, dit li quens: 'Ore vaut meins!// Ceste play Qi mult sunt orguillous e fiers./ Ne avera li mestre botiler,/ Amys, qe bien sout son Quele fille vus avez!// Ele est ja femme de se retret e purpensa/ Com celi qe grant sur touz/ Qi fort esteit e coragous./ De cel Amis lessa le temps aler,/ Ala e fist son de Amis lesser,/ Qe assez ad dount li ad poet estre?// Ces deus hanaps fist un fuit assemblé maint baroun./ Est veuz li Son premer mes li envoya/ Par son lesser:/ De son hostel ly fist justizer,/ Ne saet ele pas quoi ele poet fere;/ Si se Amillioun trop bien garreit/ S'il en fist garsouns e ses esquiers./ Touz lour fist pourt se vengereit,/ E Amyllioun a pié se envie./ Tant fist il par sa cortesie:/ od lui parler,/ Ne od li beivre ne manger,/ li servi de jour en jour./ Taunz com Amis Qe fuit demoré od son seygnur/ E Deu mesmes le eust purtret,/ Plus bon ne counter,/ En une chaumbre se ala muscer;/ grant douçur:/ 'Merci Deu, mon seignur,/ E qe en croiz suffri passioun,/ C'est e juwerent./ De autre chose ne dirra[i] fust endormie;/ De lour venue ne saveint par ma lealté,/ Pur ma defaute ne murrez jeo pas forfait,/ Qe vivre deusse bien du vous dey la pucele:/ Son dreit noun est recuz./ Pres [de] la porte se sount fist aver hostel./ O, misires Amyllioun,/ De vous suv ore alé pensant/ E de

Mes pur ceo ne vout lesser,/ Mes la resceit come sa mullier
Mes pur poer qe eus avoient,/ Ne li poeient assuager/ Q'il ne
mes qe l'em li porta/ La moyté lor envoia./ Amis une coupe
Mes quant jeo serray departi,/ Donke vus serra il fort enemy
Mes quant s'en est departi,/ Requer qe soyez mon amy,/ Mon
Mes s'il eust od ly affere,/ Fuiſt ceo en pees ou en guerre
Mes sitost com il veu avoient/ Celi q'il clama pur seignur
Mes son coup est trop pesant./ Le seneschal se leve ataunt
mes sourdra la medlé./ Le un l'autre desaffient/ Qe entre eus
Mes tant lour vint sur cherté/ De pain, vin e de blé./ Qe donek
mes unke si laid ne fust/ Home, com dire bien le poet.
Mes Uwein fuit son dreit noun./ Donque li dist sire
Mes vous desconforteray./ Sachez, dame, que pur sa saunte
Mes vous ne irrez ja riant;/ La mort vous va ja approchaunt!
me[s]aise troverent/ Desques eus vindrent el pais/ Ou
mesaysé,/ Amyllioun en son lit giseit,/ Deleez sa femme se
mesaysé./ Mes le hanap soit bien gardé!/ En son esquel le
meschine./ Amis se retret e purpensa/ Com celi qe grant
meschine,/ L'endemain vint tot a hounte:/ Acounté est tot
Mescreaus estes e laner!/ Un play bien dur vus bateray:/ A
mesel fuit en vein,/ Prist sa coupe hors de son sain,/ E l'autre
mesel li tint./ La dame li tint trop en despit:/ Ne voleit entrer
mesmes avoit le per,/ Qe ne vout vendre ne doner./ Mes le
mesmes le eust purtret,/ Plus bon ne meuz [ne] serra fet./ Sa
meson vynt./ Ore lerrom de Amis ester;/ De sir Amillioun
mesoun;/ Joiouse est ele pur Amyllioun./ Amys doneq ove la
mesprendroie mye/ Par quei vous en averez vileny/ Ne de
mesprist vers son seignur./ Estez vous Florie par grant
message li counta./ Ele li fist un asne aver,/ E pus sus les
messe vint a mesoun;/ Joiouse est ele pur Amyllioun./ Amys
m'est avys!/ Si vous ne venez a tel jour,/ Vous savez bien qe
m'est laid e vileins./ Atant en la chambre entrat,/ La dame
mester de acord;/ L'un hiet l'autre desq'a la mort./ Nul deigne
mester:/ De un drap vestu esteit,/ La coupe devant li quens
mester,/ E ceo ad fait nostre botiler./ Pur nostre bien hounte
mester en a./ De son frere li sovynt;/ Tantost a la countesse
mester longtemps servirent/ E par tot bien loé furent
mester;/ Servi le counte com il soleyt,/ E le counte mout li
mester./ Vus dirrai de sire Amillioun/ Qe tant estoit leal
mestre!// Arere tantost se repeira,/ Al counte de cel hanap
mestre botiler,/ Amys, qd bien sout son mester:/ De un drap
mestre botiler,/ Qe ert corteis chevaler./ De chescun mes qe
Mestre mareschal sur touz/ Qi fort esteit e coragous./ De ccl
met hors de la terre,/ Ne la savera plus aider./ Donqe
mettre cure/ [Des] deus fiz de sa gendrure:/ Si les enfantz
mettre lour seeles;/ Unke ne lour dist autre noveles,/ Mes
mettreit./ Mes il aparceut tost la manere,/ Si ceo retret tost
Meuz a pié l'estut ferir/ Que lessir son chival morir./ Le
Meuz, ceo dit ele, veut morir/ Qe a li vousist venir./ Cil
meuz li serveyt,/ Le seneschal plus li haecit;/ De son benfait
meuz li servi de jour en jour./ Taunz com Amis meuz li
meuz [ne] serra fet./ Sa gent durement l'amerent;/ A femme
Meuz velt estre pendue/ Qc de son seignur estre veuc./ Sire
Meuz voil od vous suffrir dolur/ Qe sanz vous estre emperorur
mi sires, sire Amillioun!/ Sire quens, remembrez, Amys
mie;/ Ne croy pas q'il y avoit vilaynic./ Le seneschal, quant
mie./ Quant la dame oi counter,/ En une chaumbre se ala
mie./ Tant com je puisse aver la vie!// Atant congé ly dona
mien./ Dame, sovenez vous del bien,/ Coment a manger me
Mirabele,/ Mes Florie fust apelé/ De ceux qe furent de sa
mis,/ E l'enfant, qe bien fust apris/ E moult ama son seignur
Mis estes a povre garisoun!/ Jadis fu sire e seignur;/ N'est
misire Amillioun/ Qi a vous ert leal compaignon./ Ne volez

un bordel/ Illoc lour fist aver hostel./ O en vie./ Pur ceo fut tot appareillé/ Q'en le
Donke fist fere un turel:/ Petit fut mes
La dame sovent a ly est alé,/ Qe li ama
com il poet espleiter./ Le seneschal fut
morust pur dolur./ Sire Amillioun fut
vindrent del deys,/ Qe li estoient de
doil demener/ Pur ceo qe sain tuy revenu./
est departi,/ Requer qe soyez mon amy,/
quant s'en est departi,/ Requer qe soyez
Requer qe soyez mon amy,/ Mon ami e
‘Bien sai’, fait il, ‘verraiment,/ De
e laner!/ Un play bien dur vus bateray:/ A
Ja en ma vie après ceo jour/ Ne serray en
respondu par grant douçur:/ ‘Merci Deu,
ne venez a tel jour,/ Vous savez bien qe
pais m’enchaceastes;/ Puis feistes jurer
il, ‘qe onqe ne menti,/ Doine qe voir soit
jurer mon serjant/ Qe jeo ne deusse en
Qe a son frere velt aler:/ Son enuy
illoec ne pout issir;/ La demora desqe al
ly covynt dormir,/ Aviz li fust qu'il deust
ne se pout tenir/ Ne pur vivere ne pur
de ma vie est grant pité./ Si jeo de feim
qi ne poet suffrir/ Qe son seignur deust
que li ne velt guerpir/ Ne pur vivre ne pur
E pur Deu li conjurast/ Qe illoec
a pié l'estut ferir/ Que lessir son chival
ne manger./ Meuz, ceo dit ele, veut
En ceo pais revener,/ Ne pur vivre ne pur
vesqui;/ En bienfaitz se pena./ Après sa
certes ai jeo trop vesqui;/ Trop bien ai la
mains, ses cheveuz detire,/ Sa vie hiet, sa
N'est pas merveile s'il ad dolur./ La
qe le seignur/ Haist Amys desqe a la
bien qe mon seignur/ Pur vous ad ma
dona./ Mes le healme tant fort fu/ Qe de la
de acord;/ L'un hiet l'autre desq'a la
pensifs,/ Ne sout lequel il pout eslire,/
honye./ Mes vous ne irrez ja riant;/ La
D'un leon fust assailli,/ Qe li fuist
E tost après morust la dame./ Quant
E quant longtemps out langui,/ e a Deu rendist s'alme;/ E tost après
Un an vesqui e un jour;/ A drein
descovery:/ E dit pur l'amur de luy/
La pucele fut amené/ A l'huis de
Qe la n'out home taunt hardi/ Qe oseit un
counte./ Li quens fu de ire enflé./ Ne parla
teneint./ De Amys fist son botiler,/ Car
mis,/ E l'enfant, qc bien fust apris/ E
noune fust passé./ Ly seneschal fist
ad de moy counté/ For que dreit a verité,/ li
fist tant com osa,/ Car son pere
Qe li fuist mortel enemy./ Del sounge fut
Coment a soen ressembleit./ E le counte
deust son noun nomer,/ Si se purpensa
lermist pur pité,/ Prist Amis en plevine;/
estoient/ E des armes li servoient./
Amys/ Qe noble court illoec tenoit/ E
treson./ De plur ne se poet tenir,/ Car
Mes ore se claiame lasse cheitive;/
hountage/ De son compaignoun trahir/

misires Amyllioun,/ Mis estes a povre garisoun!! Jadis fu
mois deust estre esposé./ Mes ore se claime lasse cheitive
molt bel,/ Si fut fort durement;/ De loin le virent tote sa
molt de fin quer/ Comme si ele fust sa soer;/ Plus ne li poet
molt lee,/ Ore quideit bien estre vengé/ De vostre corteis
molt prisé/ Qe autre peine n'ad liveré./ Unke puis femme ne
molt prés:/ Enresoner li voleient,/ Mes pur poer qe eus
Moult vus fust ben avenu,/ Si feussez tele com deussez estre
Mon ami e mon bien voilant.'/ Amis respount aitant:/ 'Sire
mon amy,/ Mon ami e mon bien voilant.'/ Amis respount
mon bien voilant.'/ Amis respount aitant:/ 'Sire seneschal
mon frere l'ad emblé./ Qe cher serra achaté!'/ Outre la table
mon pere le conteray/ Qe vers li estes e moy forfet,/ E serrés
mon quer heytiez/ Si jeo ne soye de vous vengez!/ Certes ore
mon seignur,/ Meuz voil od vous suffrir dolur/ Qe sanz vous
mon seignur/ Pur vous ad ma mort juré.'/ 'Dame,' dist il, par
mon serjant/ Qe jeo ne deusse en mon vivant/ En ceo pais
mon sounge./ Mes ore, soit voir ou mensoungle,/ La merveile
mon vivant/ En ceo pais revener,/ Ne pur vivre ne pur morir
monstrer li vont,/ E ala qe mult se redut./ Ele li dist: 'Beau
morir./ Autre dames ensample averont/ Coment iour seignurs
morir./ Desouz un arbre se cocha,/ E son chival a une raym
morir;/ Devant le counte se genula/ E le chivaler demaunda
morir deveray,/ De mei memes force ne fray.'/ L'enfant a soi
morir./ En haut cria: 'Mercy, mercy!'/ Pur icel Deu qe onqe ne
morir./ La dame, que mout est ennuyé,/ Ambedeus s'est hors
morir le lessast,/ E yl en son pais alast./ L'enfant respoundi
morir./ Le seneschal, qe nel pout amer,/ Un grant coup li
morir/ Qe a li vousist venir./ Cil soffri en cel an/ Grant dolur
morir./ Suvenez vous del bordel/ [K]ja moy livrastes pur
mort a Deu ala;/ Amis, son frere, ensement/ Moult se
mort deservi.'/ 'Voir,' dist il, 'vous l'averez!!/ De vostre
mort desire,/ La hure maudist q'onqe fu nee,/ Quant pecché
mort desire plus qe la vie;/ Nul solas ad ne compaignie:/ N'ad
mort,/ Fust ceo a dredit fust ceo at tort./ Nul ne oseit pur li
mort juré.'/ 'Dame,' dist il, par ma lealté,/ Pur ma defaute ne
mort l'ad deffendu,/ Qe le coup ala descendant/ Si chiet sur
mort./ Nul deigne a autre affier;/ Chescun se prend a ferir
Mort ou vie, ne sout ke dire./ Plusors aveient de ly pité,/ Mes
mort vous va ja approchaunt!'/ 'Sire,' dist Amys, 'vus dites
mortel enemy./ Del sounge fut moult effraé/ E tost sus sailli
mortz furent pere e mere,/ Il ne eust soer ne frere/ For soul la
Morust e a Deu rendist s'alme;/ E tost aprés morust la dame
morust la dame./ Quant mortz furent pere e mere,/ Il ne eust
morust pur dolur./ Sire Amillioun fut molt prisé/ Qe autre
Morust, s'il n'eust de li pité/ E que cle fust de ly amé,/ Que si
moter./ Quant Amillioun deust son noun nomer,/ Si se
mot parler pur ly./ La dame ne se pout tenir/ Ne pur vivere ne
mot une luwé./ 'Adonke,' dit il, 'Deu mercy,/ Si ceo traitour
moult a ly puet affyer./ Amyllioun ne velt lesser:/ De son
moult ama son seignur,/ Ala demaundant tut entour/ Des
moult bien,/ E sire Amillioun ne dota de rien./ Ne savoit
Moult bien me deffenderay/ Devant qe jeo denieray.'/ Le
moult dota./ Le counte atant l'ad appellé:/ 'Dy moy,' fait il
moult effraé/ E tost sus sailli com home desvee./ Tost appela
moult esmerveileit,/ De Amillioun onqe li sovent:/ 'Bien
moult estreit;/ Oyst une voiz que li disoit: —/ Qe nul ne oist
Moult fu dolente la meschine./ Amis se retret e purpensa
Moult furent de grant vassalage,/ Gentils e de grant parage
moult grant ben fesoit./ La povre gent tot enviroun/ Ala com
moult li greve le departir./ Donqe parla sire Amillioun/ E dit
Moult lui poise qe ele est vive./ Ne saet ele pas quoi ele poet
Moult parfound getta un sospir,/ E el suspir geint forment

fu beals e aligné,/ Des chivalers fuit
a Deu ala;/ Amis, son frere, ensement./
Les ois sur ly forment roylla./ Amis
Li porriez de quer amer?/ E ele respount
une robe vestu estoient,/ N'est home el
le seneschal respond,/ Par celi qe fist le
avere amye! Tant gentils hommes
Atant congé ly dona,/ E un palefroy
regeir,/ Une bone robe li fist vener/ E a
a qui parler,/ Ne a qui poet son dolur
Car jeo vous dy en bone foy/ Qe ele [est]
prover,/ Pur mes enfanz ne voil lesser./
mout se purpensa;/ Le un mal e l'autre
s'amye/ Qe tant ama come sa vie./ Ore est
Ne pur vivre ne pur morir./ La dame, que
emperour. / Quant l'un l'autre ad regarde,/

Le counte ad seignz un seneschal/ Qe
lor envoia./ Amis une coupe avoit/ Ke
esteit,/ La coupe devant li quens teneit./
e pleignent lour beauté./ Li quens, que
avoit la dame/ Q'ele amoit come s'alme./
La dame ses meins a Deu tendi/ E
feste plenere/ Une symaine tot entere;/ mary./ A grant cherté le tynt le pere,/ E
le counte com il soleyt,/ E le counte
seignur,/ Ne soffrez q'il eit deshonur!/
Atant s'est Florie returné./ Amis
de taunt me poez crere/ Qe, si vous eiez de
amour e foy,/ Car bien ad amé vous e
ne troesse/ Qe illoke est autre de
dame a li disoit:/ 'Me diez par amour de
vostre chivaler leal;/ Si nul vous ad de
dota./ Le counte atant l'ad appellé:/ 'Dy
Si ceo poet estre aparceu/ Qe de
A mon pere le conteray/ Qe vers li estes e
morir./ Suvenez vous del bordel/ [K'] a
'Sire seneschal, vostre amisté/ En
home qm me vousist crere/ Si jeo deisse la
E pere e mere perdu avoit;/ Pur heritage la
De chescun mes qe l'em li porta/ La
ne vout lesser,/ Mes la resceit come sa
femme ne vout aver;/ Nul evr out de sa
son chival a une raym lya./ Dormist, car
Qe mout est feloun e desleal/ E si est de
Donke li dit sir Amillioun/ Paroles de
aler;/ Son enuy monstrar li vout,/ E ala qe
eyent./ Ore s'en vount les chivalers/ Qi
Bien le portent a honour;/ Si les amast
dist il, par ma lealté,/ Pur ma defaute ne
quise q'ele fut trové/ Mes de pour se fuist
dame oi counter,/ En une chaumbre se ala
a purpenser/ Q'entre nonaynes se
unke nul autre amer/ Ne semblant a nul
grant vertuz:/ Les voegles ver, parler les
pur maladie./ E la damesele ne targa
avoit envie,/ Mes Amys ne l'aparce[u]st
jeo viveray./ Vers vous ne mesprendroie
qe tant pout amer./ Trusser s'en vount en
Atant qe son pere fina,/ Qi de soi
qe la vie;/ Nul solas ad ne compagnie:/
Plurent e crient de pité./ Suz cel
Amillioun fut molt prisé/ Qe autre peine
Bien pres passa le costé./ Mes la char

moult prisé./ Entre eux communement disoient/ Qe unque si
Moult se amerct fierement,/ E bone fut la compaignie./ Lor
moult se merveilla./ 'Fel,' fait il, 'Deu vous maudie!/ Ma
moult simplement:/ 'Tot soit a vostre talent!/ Si vus me
mound qe les avisast/ Qe l'un de l'autre desceverast./ E si
mound,/ S'il le velt denier./ Com leal chevaler le voil prover
m'ount prié,/ E trestouz ai je refusé./ Certes n'estes pas
mounta/ Saunz garsoun e saunz esquier;/ N'ala pas com
mouster puis li mena./ La dame, sitost com vew li a,/ Pres de
moustrer,/ Fors a l'enfant que ly serveit./ Amillioun com
mout aparcavante! / E sire Amist trestut le graunte./ Lour
Mout avera fait bone jorné/ Si par lour saunk poet estre sauné
mout dota./ Corteisement ly respundi:/ 'Damoisel, pur Deu
mout en astage,/ Car cru li est par mariage/ Grant seignurie e
mout est ennuyé,/ Ambedeus s'est hors getté;/ E le seignur e
Mout est entre eux grant pité:/ Plurent e crient lour draps
mout est feloun e desleal/ E si est de mult grant parenté,/ Pur
mout ferement amoit,/ Car Amillioun, qe tant amoyt,/ Cele
Mout fu beals e aligné,/ Des chivalers fuit moult prisé./ Entre
mout fuit irré,/ Ala hastaunt lour juggement,/ E si jura grant
Mout fut gentile la damoysele,/ En une realme ne out plus
mout graces li rendi,/ Donq comence pur fere joie:/ 'Jhesu
Mout i furent des robes donez/ Dont les menestrauz furent
mout l'ama auxi la mere./ La damoysele fuit bien gardé
mout li amoyt:/ Od sei le tint plus privé/ Qe nul autre de sa
Mout li devez amour e foy,/ Car bien ad amé vous e moy.'
mout se purpensa;/ Le un mal e l'autre mout dota
moy affere,/ Jeol vous fray od graunt doucour,/ Sauve
moy.'/ Atant se sunt entrebeysés,/ Plurent e crient de pité
moy;/ Car jeo vous dy en bone foy/ Qe ele [est] mout
moy —/ Car jeo vus aime en bone fey —/ Ta espee nue
moy counté/ For que dreit a verité,/ Moult bien me
moy,' fait il, 'fille bele,/ Amys pur vous ad combatu,/ Son
moy feissez vostre dru,/ Ne serrioms nous en syn honye?'
moy forfeit,/ E serrés des chivals destret./ Donques serray de
moy livrastes pur hostel./ Celi aavez tant com vus viverez
moy n'est si emploié/ Qe ne puisse nul autre amer/ Quant
moyté/ Del doel q'entre eus ount demené./ Li un s'en va ver
moyté/ Li fuit escheu del counté./ De beauté avoit le pris
moyté lor envoia./ Amis une coupe avoit/ Ke mout ferement
mullier./ Ne voleit qe eus furent aparcu/ Coment son frere
mullier./ Owein l'enfant bien seffa:/ De tote sa terre li herita
mult fu travaillé,/ E son chival fuist mesaysé,/ Amyllioun en
mult grant parenté;/ Pur ceo est il le plus doté./ Unke ne vous
mult grant resoun:/ 'Beau frere, quant avez forfait/ E le
mult se redut./ Ele li dist: 'Beau sir Amys,/ Trahir me volez
mult sunt orguillous e fiers./ Ne avera mester de acord;/ L'un
mult tendrement,/ Honur les fist a lour talent./ Chivalers lour
murrez mie,/ Tant com je puisse aver la vie!'/ Atant congé ly
muscé./ Sitost com vist son seignur./ Ele pauma de pour./ Le
muscer;/ Meuz velt estre pendue/ Qe de son seignur estre
muscereit;/ Son seignur jamés ne verrait./ Mes ne li ert pas
mustrer;/ Mes quant s'en est departi,/ Requer qe soyez mon
mutz./ Tot ensi finist le sermoun/ De sire Amis e de syrc
mye:/ De sa dame prist congé,/ E ele tantost li ad doné
mye./ Li quens une dame aveit/ Q'il come sa vie ameit./ Une
mye/ Par qui vous en aavez vileny/ Ne de vostre corps
mynyt;/ As autres ne fuist pas deduit./ En cele nyuy tant
n'ad autre heyr./ Quant Amillioun sout pur veir/ Qe son pere
N'ad home a qui parler,/ Ne a qui poet son dolur moustrar
n'ad home que la fust/ Qe dolur de la pité n'en eust./ Paumez
n'ad liveré./ Unke puis femme ne vout aver;/ Nul evr out de sa
n'ad pas toché./ Amyllioun, qe tant fu de vigour,/ Meint coup

450 mounta/ Saunz garsoun e saunz esquier;/
15 Amillyoun./ Li deus estoient de une
30 de une estature,/ De une forme e de une
1195 vengé./ Si fu[i] malades e defet,/ Pur ceo
854 seignur,/ E il dit: 'C'est mal dolur/ Quant
854 'C'est mal dolur/ Quant n'avom a boivre
842 ne compaignie:/ N'ad home a qui parler,/ il fort enemy./ Gardez vus de sa felonie!/ Que si de ly amour ne avoit,/ Jamés home
90 garri,/ Qe en corps ne en face/ De maladi
264 se purpensoit/ Com celi q[ui] talent
1101 Qi mult sunt orguillous e fiers./
270 Amyllioun perdu eussez,/ Jamés tel autre
1121 que ele fust de ly amé,/ Que si de ly amour
263 mort desire plus q[ue] la vie;/ Nul solas ad
840 Les deuz furent issi d'un senblant/
534 juwerent./ De autre chose ne dirra[i] mie;/
326 mye/ Par quei vous en avez vilenye/
299 Puis feistes jurer mon serjant/ Qe jeo
1201 a chastier: 'Dame,' dit il, 'lessez ester!/
325 parlerent e juwerent./ De autre chose
961 mesmes avoit le per,/ Qe ne vout vendre
454 matyn,/ Poy mangea e mains beust,/ Si
650 fist moult bien,/ E sire Amillioun
1100 son grant mal est il garri,/ Qe en corps
821 touz li guerpeient;/ Ne trova serjant
790 dame./ Quant mortz furent pere e mere,/ Il
588 l'autre desaffient/ Qe entre eus nul amur
1021 il, 'vous l'avezrez! De vostre demaunde ja
19 freres se firent par serement;/ As autres
452 pas com chivaler/ Mes ala com pelrin./
863 feim morir deveray,/ De mei memes force
790 mortz furent pere e mere,/ Il ne eust soer
480 Trusser s'en vount en mynyt;/ As autres
765 E lour robes chaungerent;/ Donque
719 leprouz serrez./ Avant mes unke si laid
847 La dame par tant defendi/ Qe nul
54 garder sa terre/ Qe nul li fist treson
377 Ma fille est par vous honye./ Mes vous
1154 ele poet fere;/ Si se met hors de la terre,/ De son benfait avoit envie,/ Mes Amys
604 A cel encoultre tant firent bien/ Qe l'un
803 purquei le feistes vous?/ 'Dame, jeo [943
943 suspir;/ Cil dit q'il out un seignur/ Q'il
364 destiné! Si avra il, si jeo vive tant;/
1158 Son seignur jamés ne verrait./ Mes
501 E le serment lealment juray/ Qe jeo unke
136 E jeo ly aym e ameray;/ Pur nul autre
1002 voleint,/ Mes pur poer qe eus avoient,/ fin quer/ Comme si ele fust sa soer;/ Plus
742 Bien entendi en son corage/ Fere
1003 eus avoient,/ Ne li poeient assuager/ Q'il
476 Touz lour fist mettre lour sceles;/ Unke
232 comensa a amer/ Q'e le ne pout boyvre
814 voleit auxi od lui parler,/ Ne od li beivre
452 Mes ala com pelrin./ Ne fina unke soir
700 talent!/ Si vus me volez marier,/ Jeo
1016 qe vus devez/ A Amillioun, qe tant amez,/ A touz jours avera reprover/ Si jeo
342 sougne resperi,/ 'A, Deu!' dit il, 'qe onqe
1077 cria: 'Mercy, mercy! Pur icel Deu qe onqe
1031 serjant tant com jeo viveray./ Vers vous
297 Si Deu mesmes le eust purtret,/ Plus bon
168 N'ala pas com chivaler/ Mes ala com pelrin./ Ne fina unke
nature, / Angeles ressembleient de faiture./ Taunt s'amerent
nature./ Leals furent envers lor seygnur,/ Bien le portent a
n'avoi jeo pas forfait,/ Qe vivre deusse bien du mien./ Dame
n'avom a boivre ne a manger;/ Ne poums icy plus demorer
ne a manger;/ Ne poums icy plus demorer./ Jhesu, le fiz seinte
Ne a qui poet son dolur moustrer,/ Fors a l'enfant que ly
Ne aiez od li compaignie,/ Car qui s'acompanie od feloun/ Ne
ne amereit./ Amis, quant l'ad escoté,/ Quideit que ele fuit
ne appareust trace./ En Amis ne out qe regeir;/ Une bone robe
ne aveit/ Q'il mesprist vers son seignur./ Estez vous Florie
Ne avera mester de acord;/ L'un hiet l'autre desq'a la mort
ne averez./ De les enfaunz plus n'empensoms;/ Si Deu velt
ne avoit,/ Jamés home ne amereit./ Amis, quant l'ad escoté
ne compaignie:/ N'ad home a qui parler,/ Ne a qui poet son
Ne crerret home ja si parcevant/ Qe l'un de l'autre sout
Ne croy pas q'il y avoit vilainie./ Le seneschal, quant sout la
Ne de vostre corps hontage./ Jeo preng Deu en tesmoignage
ne deusse en mon vivant/ En ceo pais revener,/ Ne pur vivre
Ne deussez tel doil demener/ Pur ceo qe sain tuy revenu./ Molt
ne dirra[i] mie;/ Ne croy pas q'il y avoit vilainie./ Le
ne doner./ Mes le hanap tant ameyt/ Q'en tot son anguisse
ne dormist nule nust./ Touz les noitz issi chevaucha,/ Qe
ne dota de rien./ Ne savoit [nul] del chaump juger/ Lequel fuit
ne en face/ De maladi ne appareust trace./ En Amis ne out qe
ne esquier/ Qe ewe froide li vodra doner./ Trestouz li ount
ne eust soer ne frere/ For soul la dame qe Amis aveit,/ Pur ceo
ne eyent./ Ore s'en vount les chivalers/ Qi mult sunt
ne faudrez! Tantost espeie demaunda,/ E il memes dist q'il le
ne fesoient unke semblaunt/ De companie tant ne quant
Ne fina unke soir ne matyn,/ Poy mangea e mains beust,/ Si
ne fray./ L'enfant a soi doncque appelaist,/ E pur Deu li
ne frere/ For soul la dame qe Amis aveit,/ Pur ceo les terres
ne fuist pas deduit./ En cele nyut tant errerent/ Qe parmy le
ne fuit aparcevant/ De lour estre tant ne quant./ A plus tost qe
ne fust/ Home, com dire bien le poet./ Amillioun l'ad bien
ne fut si hardi/ Qe de rien li regardast,/ Ne que manger li
ne gere,/ Ne qe autre heyr n'i entrast/ Ne ses droitz amenusast
ne irrez ja riant;/ La mort vous va ja approchaunt!'/ 'Sire,'
Ne la savera plus aider./ Donqe comencea a purpenser/ Q'entre
ne l'aparce[u]st mye./ Li quens une dame aveit/ Q'il come sa
ne l'autre ne perdit ren./ Amillioun vint par corucer,/ Par ire
ne le dirrai mes;/ A ceo fui jeo confés./ Par ceo savoit sir
ne lerret pur estre emperur./ Qy ceo fuit li demaundeient
Ne li ert nul de mal garrant./ Tut ert detret e puis pendu,/ E la
ne li ert pas destiné,/ Car un jour par matyné/ Les deus
ne li forfiz,/ E quiderount qe jeo soye Amys./ Jeo espoir par la
ne li ferray/ Par [cco] qu'il est chose esprové/ Pur promesse
Ne li poeient assuager/ Q'il ne li velt ocier./ Quant batu li out
ne li poet fere companie./ Treis anz demena tele vie;/ De ses
ne li velt hountage/ De son compaignoun trahir./ Moult
ne li velt ocier./ Quant batu li out e defolé/ Que ses mains sunt
ne lour dist autre noveles,/ Mes dist q'il voleit visiter/ Son
ne manger./ Les damoyseles qe od li erent/ Purquei ceo fuy ly
ne manger./ Meuz, ceo dit cle, veut morir/ Qe a li vousist
ne matyn,/ Poy mangea e mains beust,/ Si ne dormist nule
ne me deveroy pas corucer./ Dount fut comaundé al baronage
Ne me facez enprisoner,/ Mes le chef me faites tost trencher
ne me puisse de li venger./ Est ceo voir, sire seneschal?/ Jeo
ne menti,/ Doin qe voir soit mon sougne./ Mes ore, soit
ne menti/ E q[ui] en croiz suffri passiouin,/ C'est mi sires, sire
ne mesprendroie mye/ Par quei vous en avez vilenye/ Ne de
ne meuz [ne] serra fet./ Sa gent durement l'amerent;/ A femme

dist il, par ma lealte,/ Pur ma defaute
en son lit,/ Ne voleit auxi od lui parler,/ Oyst une voiz que li disoit: —/ Qe nul
Fust ceo a dreit fust ceo at tort./ Nul
Tel ad el quer dolur/ Qe unque femme
fut gentile la damoisele,/ En une realme
De maladi ne appareust trace./ En Amis
deviser,/ Si par noun les oist nomer./ Si
par noun les oist nomer./ Ne par cors
oevre al counte./ Li quens fu de ire enflé./
tant firent bien/ Qe l'un ne l'autre
Mais l'enfant avant saillist:/ Uwein, q*i*
cherté/ De pain, vin e de blé./ Qe donke
Ne porra trover si mal noun;/ Car piz
Car qui s'acompanie od feloun/
Quant n'avom a boivre ne a manger;/
trover/ Qe rien lour voille doner./ Einz
Si forment comensa a amer/ Q'ele
Puis demaunda le botiler;/ E quant il
fu la dame durement lié./ Jamés de illoec
vus ad quis a son poer,/ Mes encheson
parler,/ E le counte li velt venger./ Quant
A plus tost que nous pooms./ Mes jeo
amisté/ En moy n'est si emploié/ Qe
La dame ne se pout tenir/ Ne pur vivere
E dit que li ne velt guerpit/ Ne pur vivre
En ceo pais revener,/ Ne pur vivre
parler pur ly./ La dame ne se pout tenir/
fer[m]ement,/ E dit que li ne velt guerpit/
en mon vivant/ En ceo pais revener,/ sa
terre/ Qe nul li fist treson ne gere,/ ne
fuit aparcavant/ De lour estre tant
unke semblaunt/ De companie tant
Qe nul fut aparcavant/ De lour venue tant
ne fut si hardi/ Qe de rien li regardast,/ greignur./ Donqe se tint enfyn honie:/ fort estona./ Ore poet trop attendre:/ S'il
Moult luy poise qe ele est vive./ La
meisnee fust endormie;/ De lour venue
La dame sur un lit trovat./ 'Dame,' dit il, ' bien,/ E sire Amillioun ne dota de rien./ Entre autres les deuz vount./ En bone foy saunz treson./ De plur
Qe oseit un mot parler pur ly./ La dame
noitz issi chevaucha,/ Qe onke de nuyt
Ne volez unke nul autre amer/
le eust purtret,/ Plus bon ne meuz [m'amur?/ Ja en ma vie après ceo jour/
aparceu/ Qe de moy feisiez vostre dru,/ ne
gere,/ Ne qe autre heyr n'i entrast/
de glotonie!! Amez bien vostre seignur,/ Tourné me ert a grant vilté/ Si jeo
demaundrent./ E ele dit que malade fuit,/ sout lequel il pout eslire,/ Mort ou vie,
estoit Amis/ Com esgarré e com pensifs,/ donast./ L'enfant, quant oy cel comaund,/ pendu,/ E la pute arsc en fu!'/ La dame
jour/ Ne serray en mon quer heytz/ Si jeo
—/ Ne vodra celer son noun —/ 'Jeo
E il remist pur maladie./ E la dameselc
jeo memes iceo fuisse,/ Qe ele encheson
Ses garsons touz li guerpeient;/
disoient/ Qe unque si bel chevaler

827 Od li tint fer[m]ement,/ E dit que li
 41 Car moult a ly puet affyer./ Amyllioun
 896 sus les seintz jurer/ Qe mes en le pais [ne velt guerpir/ Ne pur vivre ne pur morir./ La dame, que mout
 441 Trahir me volez, m'est avys!/ Si vous ne velt lesser:/ De son hostel ly fist justizer,/ Mestre
 1157 se muscereit;/ Son seignur jamés ne] vendreit/ De l'hure qe issi serreit./ Hors del pais s'en vont
 220 meme le dist/ Qe onqe si bel chivaler ne venez a tel jour,/ Vous savez bien qe mon seignur/ Pur
 750 getteit./ Donke dit sir Amillioun: —/ leauté e de grant doucour —/ De troeffle
 3 voiz voil prover,/ Pur mes enfanz ne verrait./ Mes ne li ert pas destiné,/ Car un jour par matyné
 1081 en despit:/ Ne voleit entrer en son lit,/ ne vist./ Touz ceus qe en la sale estoient/ De sa beauté matire
 813 li tint./ La dame li tint trop en despit:/ Ne vodra celer son noun —/ 'Jeo ne suy pas celi qe vous
 812 tant ameyt/ Q'en tot son anguisse guerpir ne voil jeo parler —/ En pees se tienge pur escoter!/ De deus
 963 La dame de ceo s'enmerveilla./ A la dame ne voil lesser./ Mout avera fait bone jorné/ Si par lour saunk
 543 lesser,/ Mes la resceit come sa mullier./ Ne voleit auxxi od lui parler,/ Ne od li beivre ne manger./ Meuz
 725 Qi a vous ert leal compaignon./ Ne voleit entrer en son lit,/ Ne voleit auxxi od lui parler,/ Ne
 123 Pur ceo est il le plus doté./ Unke autre peine n'ad liveré./ Unke puis femme ne voleit parler,/ Les deus hanaps tant ressembleient/ Qe, si en une
 1226 E la prist sicom son dreeu,/ Mes pur ceo ne voleit parler,/ Desques al matin al lever./ Chescune nuyt
 723 conte fist com bon seignur,/ Destourber Ne voleit qe eus furent aparceu/ Coment son frere eust deceu
 60 volirent,/ Mes ele a trestouz respoundi/ Ne voleit unke nul autre amer/ Ne semblant a nul muster
 198 Amillioun mesmes avoit le per,/ Qe ne vous pout amer,/ Mal vus ad quis a son poer,/ Mes
 961 sa mort desire,/ La hure maudist q'onqe fu ne vout aver;/ Nul evr out de sa mullier./ Owein l'enfant bien
 1042 nostre talent/ Ne[!] savera home de mere ne vout lesser,/ Mes la resceit come sa mullier./ Ne voleit qe
 307 lessir son chival morir./ Le seneschal, qe ne vout son honur;/ Mes s'il eust od ly affere,/ Fuist ceo en
 637 si privément/ Touz deus a nostre talent/ eust plaie li demaunda;/ Cil dist que mal Ne voleit uncore aver mary./ A grant cherté le tynt le pere,/ E
 307 fesoient sa volonté;/ De countredit ne voleit vendre ne doner./ Mes le hanap tant ameyt/ Q'en tot
 682 fuit li seneschal doté/ Qe Amys un soul nee,/ Quant pecché l'ad ensi encombré/ Qe son frere
 206 n'ad home que la fust/ Qe dolur de la pité nee./ Tant li ad dit e parlé/ Ore sunt a un de cel affere,/ Dount
 400 tel autre ne averez./ De les enfaunz plus nel pout amer,/ Un grant coup li vint doner/ Amount el
 106 E sa gent passerent avant,/ E [i]l entendi Ne[!] savera home de mere nee./ Tant li ad dit e parlé/ Ore
 1122 Si de une robe vestu estoient,/ n'e n a:/ Plus est sain qe person de mer./ Atant li vount touz
 488 Par li mes n'iert encusé./ S'il chait, n'en ad parlé./ Un jour par aventure avint/ Qe li quens une
 27 povre garisoun!! Jadis fu sire e seignur;/ n'e n ad trové./ Quoy pur doute quoy pur pour,/ E trestouz
 966 'Sire seneschal, vostre amisté/ En moy n'en eust./ Paumez sunt chaeuz a terre;/ N'est home qi me
 108 prié,/ E trestouz ai je refusé./ Certes n'en pensoms;/ Si Deu velt, bien lé recoveroms./' Atant la
 675 quens est fini./ Ore est amé e tenu cher;/ ne purqant;/ De son estre saver voleit./ Si li retint, si li
 130 quant fust sané/ E de son grant mal N'est home el mound qe les avisast/ Qe l'un de l'autre
 283 E dit pur l'amur de luy/ Morust, s'il N'est home qe tant de l'overaigne seust/ Qe l'un de l'autre
 778 doucement eux entreacolerent./ Le pere [N'est home qi me vousist crere/ Si jeo deisse la moyté/ Del
 1137 destrer;/ Combattre voleit per a per,/ Q'il li fist treson ne gere,/ Ne qe autre heyr
 261 Od ly tote sa chivalrie./ A l'ostel n'est pas mervaille./ Ore finist la bataille./ Les uns
 1094 En cel champ fu ben vengé;/ Par li mes n'est pas merveile s'il ad dolur./ La mort desire plus qe la vie
 633 el pais/ Ou sojorna le counte Amys/ Qe n'est si emploié/ Qe ne puisse nul autre amer/ Quant talent me
 55 La gent qe de sa terre furent/ Od grant n'estes pas chevaler!/ Mescreaus estes e laner!/ Un play
 204 Des damescles del pais/ En sa chambre n'estot de ses fiz pité:/ Ambedeus ad le chef trenché;/ E le
 455 beust,/ Si ne dormist nule nust./ Touz les n'eust de son cheval envie./ Tant fist il par sa cortesie
 1012 est avenu./ Quant Amyllioun li oist n'i entrast/ Ne ses droitz amenusast./ Le counte fust de ceo
 536 l'autre sout deviser,/ Si par noun les oist n'i out nul remis/ Des chevalers for sire Amis,/ E il remist pur
 710 moster./ Quant Amillioun deust son noun n'iert encusé./ S'il chait, n'est pas mervaille./ Orc finist la
 249 prist congé,/ E ele tantost li ad doné./ noble court illoeq tenoit/ E moult grant ben fesoit./ La povre
 1156 Donqe comencia a purpenser/ Q'entre n'eust de ses fiz pité:/ Ambedeus ad le chef trenché;/ E le
 824 li ount deguerpi,/ Estre un enfant q'il out n'eust de son cheval envie./ Trestouz li firent homage./ Ore poet il
 359 mester,/ E ceo ad fait nostre botiler./ Pur noeuf e dis,/ Qe touz fesoient sa volonté;/ De countredit n'en
 358 Ele est ja femme de mester,/ E ceo ad fait noitz issi chevaucha,/ Qe onke de nuyt ne se reposa,/ Tant qe
 885 Amyllioun: 'Oweyn, a la dame irrez,/ nomer,/ De dolur pout son quer crever:/ 'Sire,' dit, 'par la foy
 573 cestes dames deliverer!/ Jeo deffendray nomer./ Ne par cors ne par fasçon./ Par riens, si par la robe
 361 nous rend:/ Tray nous ad malement,/ Qe nomer,/ Si se purpensa moult estreit;/ Oyst une voiz que li
 76 En bone foy saunz tresoun/ A Nom er vous dey la pucele:/ Son dreit noun est Mirable
 306 'Nous le froms si privément/ Touz deus a nonaynes se muscereit;/ Son seignur jamés ne verrait./ Mes
 norri./ Fiz de un counte, son parent,/ Od li tint fer[m]ement
 nostre bien hounte nous rend:/ Tray nous ad malement,/ Qe
 nostre botiler./ Pur nostre bien hounte nous rend:/ Tray nous
 Nostre congé de li prendrez./ Hors de ceo pais irroms/ A plus
 nostre dreit.'/ Le quens, quant le chevaler veit,/ Bien quideit
 nostre fille ad trahy e affolé./ Deu li doint male destiné!/ Si
 nostre seignur servy avom./ Pur vostre honur vus cri mercy
 nostre talent/ Ne[!] savera home de mere nee./' Tant li ad dit

1086 al matin est il alé;/ Deu requist e son haut
 538 ne par fasçon./ Par riens, si par la robe
 92 od feloun/ Ne porra trover si mal
 1207 Celi averez tant com vus viverez;/ En
 387 gaunt en son poing tint,/ E tendist en
 882 Amorant,/ Mes Uwein fuit son dreit
 250 Nomer vous dey la pucele:/ Son dreit
 750 dit sir Amillioun: —/ Ne vodra celer son
 13 bien lor nouns:/ Li un estoit Amys par
 536 Ce l'un de l'autre sout deviser,/ Si par
 713 que li disoit: —/ Qe nul ne oist fors li
 710 de moster./ Quant Amillioun deust son
 880 avoit eu,/ Qe ore est devencu./ Le
 648 ceo jour./ La bataille ad bien duré/ Desque
 12 de barons,/ Si vous dirroy bien lor
 360 Pur nostre bien hounte nous rend:/ Tray
 509 A ma court od vous irround./ E quant
 303 de moy feissez vostre dru,/ Ne serrioms
 349 leal chevaler le voil prover,/ E cil que de
 305 'Hostez, hostez!' ceo dit Florie,/ 'Hors de ceo pais irroms/ A plus tost que
 887 seinte Marie,/ Si li plest, par son poer/
 1119 nostre botiler./ Pur nostre bien hounte
 359 bone fey —/ Ta espee nue meistes entre
 801 baronage!/ N'ust od ly ja si privé/ Q'il
 415 ly pité,/ Mes li sire fust tant yrré/ Qe la
 228 E q'il fuit tant bon chivaler/ Q'en la court
 223 De sa beauté matire aveient./ Est venuz la
 715 sire Amillioun!/ Jeo vous di certeine
 476 lour seeles;/ Unke ne lour dist autre
 369 Le conte de mal ard e d'yre,/ Devint plus
 1067 passa le temps issi,/ Qe li quens une
 541 Leez la dame se coucha;/ Sa espee
 Car jeo vus aime en bone fey —/ Ta espee
 588 Le un l'autre desaffient/ Qe entre eus
 123 ert leal compaignon./ Ne volez unke
 131 En moy n'est si emploié/ Qe ne puisse
 152 li amoyt:/ Od sei le tint plus privé/ Qe
 136 abandoné,/ E jeo ly aym e ameray;/ Pur
 364 Si avra il, si jeo vive tant;/ Ne li ert
 593 acord;/ L'un hiet l'autre desq'a la mort./
 651 Amillioun ne dota de rien./ Ne savoit [liveré]./ Unke puis femme ne vout aver;/
 1227 sunt venuz/ E a la porte descenduz,/ Qe
 1162 congé,/ Qe li covient garder sa terre/ Qe
 54 volez unke nul autre amer/ Ne semblant a
 124 deveneit./ La dame par tant defendi/ Qe
 847 Oyst une voiz que li disoit: —/ Qe
 713 la mort,/ Fust ceo a dreit fust ceo at tort./
 405 Od ly tote sa chivalrie./ A l'ostel n'i out
 243 ad dolur./ La mort desire plus qe la vie;/
 840 mal./ Jeo suy vostre chivaler leal;/ Si
 381 mangea e mains beust,/ Si ne dormist
 454 Ore poet il mener grant baronage!/
 545 e mains beust,/ Si ne dormist nule
 Desques al matin al lever./ Chescune
 456 les noitz issi chevaucha,/ Qe onke de
 481 As autres ne fuist pas deduit./ En cele
 835 a un bordel/ Illoc lour fist aver hostel./
 1037 Grant bosoigne li ad icy chacé./ Si le
 1003 Ne li poeient assuager/ Q'il ne li velt
 91 od li compaignie,/ Car qui s'acompanie
 64 guerre,/ Maundast a ly hastivement,/ E il

noun/ A son frere doine garisoun./ La dame vint, qe bone fust
noun/ Amis, quant il se ajouta,/ Leez la dame se coucha;/ Sa
noun/ Car piz ne porra avenir/ Quant compaignoun velt
noun de dowere le tenez!'/ Donke fist fere un turel:/ Petit fut
noun de gage/ Com home de grant vasselage,/ E dit que od li
noun/ Donque li dist sire Amyllioun:/ 'Oweyn, a la dame
noun est Mirabele,/ Mes Florie fust apelé/ De ceux qe furent
noun —/ 'Jeo ne suy pas celi qe vous quidez;/ De vostre
noun/ L'autre est appellé Amillyoun./ Li deus estoient de une
noun les oist nomer./ Ne par cors ne par fasçon./ Par riens, si
noun —/ 'Lessez, lessez, sire Amillioun!/ Jeo vous di
noun nomer,/ Si se purpensa moult estreit;/ Oyst une voiz
noun vous dirray de l'enfant:/ La gent l'appellent Amorant
noune fust passé./ Ly seneschal fist moult bien,/ E sire
nouns/ Li un estoit Amys par noun,/ L'autre est appellé
nous ad malement,/ Qe nostre fille ad trahy e affolé./ Deu li
nous averoms robes chaungé,/ Donqe quideront de verité/ Qe
nous en fyn honye?'/ 'Hostez, hostez!' ceo dit Florie,/ 'Nous
nous est venu/ Soit detret e puis pendu!'/ E dit li quens: 'Ore
Nous le froms si privément/ Touz deus a nostre talent/ Ne[!]
nous pooms./ Mes jeo ne puis aler a pié;/ Priez a lui par
Nous porra enfaunz doner./ Si Amyllioun perdu eussez
nous rend:/ Tray nous ad malement,/ Qe nostre fille ad trahy e
nous,/ Sire, purquei le feistes vous?'/ 'Dame, jeo [ne] le dirrai
n'out dis chivalers de maisné./ Tant fuit de sa gent amé,/ E
n'out home taunt hardi/ Qe oscit un mot parler pur ly./ La
n'out son per./ La pucele en prist tendrour/ Qe tant vers li ad
novele/ En la chaumbre a la damoisele/ Del botiler qe tant ert
novele/ Si vous esposez la damoisele,/ Einz qe soint .iii
noveles,/ Mes dist q'il voleit visiter/ Son frere qe tant pour
noyr ke carboun./ Tost sailli hors de la mayson,/ Si encontra
noyt dormi,/ Une voiz oy qe li disoit/ Qe Amillioun trop
nue entre eus posa./ La dame de ceo s'enmerveilla./ A la dame
nue meistes entre nous,/ Sire, purquei le feistes vous?
nul amur ne event./ Ore s'en vount les chivalers/ Qi mult sunt
nul autre amer/ Ne semblant a nul mustrer;/ Mes quant s'en est
nul autre amer/ Quant talent me doint e voler./ Si Amillioun
nul autre de sa meisné./ Ore vous dirrai de sir Amilloun
nul autre ne li lerray/ Par [ceo] qu'il est chose esprové/ Pur
nul de mal garrant./ Tut ert detret e puis pendu,/ E la pute arse
Nul deigne a autre affier;/ Chescun se prent a ferir./ Amillioun
nul] del chaump juger/ Lequel fuit meilleur chevaler
Nul evr out de sa mullier./ Owein l'enfant bien feffa:/ De tote
nul fut aparcevant/ De lour venue tant ne quant./ La meisnee
nul li fist treson ne gere,/ Ne qe autre heyr n'i entrast/ Ne ses
nul mustrer;/ Mes quant s'en est departi,/ Requer qe soyez
nul ne fut si hardi/ Qe de rien li regardast,/ Ne que manger li
nul ne oist fors li noun —/ 'Lessez, lessez, sire Amillioun
Nul ne oscit pur li parler,/ E le conte li velt venger./ Quant
nul remis/ Des chevalers for sire Amis,/ E il remist pur
Nul solas ad ne compaignie:/ N'ad home a qui parler,/ Ne a qui
nul vous ad de moy counté/ For que drcit a verité,/ Moult bien
nule nust./ Touz les noitz issi chevaucha,/ Qe onke de nuyt
 N'ust od ly ja si privé/ Q'il n'out dis chivalers de maisné
nust./ Touz les noitz issi chevaucha,/ Qe onke de nuyt ne se
nuyt issi se contint/ Desques Amyllioun a meson vynt./ Ore
nuyt ne se reposa,/ Tant qe vers une vespré/ En un grant boys
nuyt tant errerent/ Qe parmy le boys passerent/ Ou sire Amis
O, misires Amyllioun,/ Mis estes a povre garisoun!/ Jadis fu
occiez, vous fetes pecché.'/ Quant le conte ceo oist,/ Tost
ocier./ Quant batu li out e defolé/ Que ses mains sunt allassé
od feloun/ Ne porra trover si mal noun;/ Car piz ne porra
od force de sa gent/ Vendroit a ly, ceo li jura./ Amyllioun ly

322 le terme q'avoint dit,/ Il ensembleront
 156 sa regioun,/ La gent qe de sa terre furent/
 141 vous eiez de moy affere,/ Jeol vous fray
 527 enprend pur son frere!! Amys remaint
 492 diseit./ Fu la joie, fu la pité./ Quant l'un
 671 la face/ Voler fist enmi la place./ Le bras
 814 son lit,/ Ne voleit auxi od lui parler,/ Ne
 389 Com home de grant vasselage,/ E dit que
 90 Gardez vus de sa felonie!! Ne aiez
 233 boyvre ne manger./ Les damoyseles qe
 1143 estoit garri/ E q'il revint el pais/ E
 826 out norri./ Fiz de un counte, son parent,/ Ne
 813 voleit entrer en son lit,/ Ne voleit auxi
 61 ne vout son honur;/ Mes s'il eust
 159 Ore poet il mener grant baronage!! N'ust
 242 quens s'en ala/ A boys juwer en venerie,/ Ne
 151 il soleyt,/ E le counte mout li amoyt:/
 1177 penserent./ Son maltaalent lour pardona,/ Amys vus voil counter,/ Qe fuit demoré
 183 Son botiler ad appellé:/ 'Pernez ma coupe
 972 En la cervele cola le brank./ E l'oraille
 669 aver hony./ Mes chivalers qe sunt icy/
 507 vous desoremés demorront;/ A ma court
 508 'Merci Deu, mon seignur,/ Meuz voil
 870 vint tot a hounte:/ Accounté est tot lor
 330 lour venue ne saveint mie./ Quant la dame
 1166 botiler./ A li soleit trop beal parler;/ Les
 373 Oyst une voiz que li disoit: —/ Qe nul ne
 713 E coment est avenu./ Quant Amyllioun li
 1012 de l'autre sout deviser,/ Si par noun les
 536 vous fetes pecché.'/ Quant le counte ceo
 1038 nust./ Touz les noitz issi chevaucha,/ Qe
 456 de cel sounge resperi,/ 'A, Deu!' dit il, 'qe
 1077 haut cria: 'Mercy, mercy!/ Pur icel Deu qe
 1031 ne veient;/ E li quens memo le dist/ Qe
 220 si bien armé./ Puis li dist suef en son
 581 dit il, 'bien veignant!/ De vous suy
 120 est alé;/ Tut soul va saunz compainie./
 524 e demy,/ Si tost come li quens est fini./
 777 Qe sire Amillioun avoit eu,/ Qe
 771 vers s'amye/ Qe tant ama come sa vie./
 676 encusé./ S'il chaist, n'est pas mervaille./
 181 eux couplés/ De parage e de beautez./
 547 Desques Amyllioun a meson vynt./
 586 terre heir li freit./ Est venuz l'assemblé;/
 158 li receurent;/ Trestouz li firent homage./
 661 coup enbarra,/ Qe Amillioun fort estona./
 318 espleiter./ Le seneschal fut molt lee;/
 1150 Q'en le mois deust estre esposé./ Mes
 589 Qe entre eus nul amur ne eyent./
 1079 Doine qe voir soit mon sounge./ Mes
 309 home de mere nec./ Tant li ad dit e parlé/
 279 Si jeo ne soye de vous vengez!/ Certes
 860 tresour,/ Estre servi d'argent e d'or,/ Soit detret e puis pendu!!/ E dit li quens: 'Amis aveit,/ Pur ceo les terres recevoit./ plus privé/ Qe nul autre de sa meisné./ a ses esquiers/ Les chivals e les destrers./ Grant preu e grant honur avrez!/ Lessez Ore s'en vount les chivalers/ Qi mult sunt totevoie/ Semblant li fist tant com Fust ceo a dreit fust ceo at tort./ Nul ne yrré/ Qe la n'out home taunt hardi/ Qe od grant delit:/ Par grant duçour s'entrebeiserent./ De amour Od grant nobley li receurent;/ Trestouz li firent homage./ Ore od graunt douçour,/ Sauve chescuny honur.'/ Li seneschal od la meisné,/ Cum li sire e envoyé;/ E quiderount trestouz pur od l'autre est aquointé!! Donke li dit sir Amillioun/ Paroles de od le brank trencha:/ Desque en la haunce le branc cola./ En od li beivre ne manger./ Meuz, ceo dit ele, veut morir/ Qe a li od li combat[er]eit/ E la verité provereit./ Est veus tote la od li compagnie,/ Car qui s'acompanie od felon/ Ne porra od li erent/ Purquei ceo fuy ly demaunderent./ E ele dit que od li le counte Amis,/ Tel ad el quer dolur/ Qe unque femme ne Od li tint fer[m]ement,/ E dit que li ne velt guerpir/ Ne pur od lui parler,/ Ne od li beivre ne manger./ Meuz, ceo dit ele od ly affere,/ Fuist ceo en pees ou en guerre,/ Maundast a ly od ly ja si privé/ Q'il n'out dis chivalers de maisné./ Tant fuit Od ly tote sa chivalrie./ A l'ostel n'i out nul remis/ Des Od sei le tint plus privé/ Qe nul autre de sa meisné./ Ore vous Od sei les tint e les ama./ Donque fist sa femme demaunder od son seygnur/ E meuz li servi de jour en jour./ Taunz com od tot le vin,/ Si l'aportez a ceo frarin,/ Au povres qe tant est od tote la face/ Voler fist enmi la place./ Le bras od le brank Od vous desoremés demorront;/ A ma court od vous irround./ E od vous irround./ E quant nous averoms robes chaungé od vous suffrir dolur/ Qe sanz vous estre emperour.'/ Quant oevre al counte./ Li quens fu de ire enflé./ Ne parla mot une oï counter,/ En une chaumbre se ala muscer;/ Meuz velt estre oïls sur ly forment roylla./ Amis moult se merveilla./ 'Fel,' oïst fors li noun —/ 'Lessez, lessez, sire Amillioun!/ Jeo oïst nomer,/ De dolur pout son quer crever./ 'Sire,' dit, 'par la oïst nomer./ Ne par cors ne par fasçon./ Par riens, si par la oïst,/ Tost estendu a terre chaist:/ Bate ses mains, ses onke de nuyt ne se reposa,/ Tant qe vers une vespré/ En un onqe ne menti,/ Doine qe voir soit mon sounge./ Mes ore onqe ne menti/ E qj en croiz suffri passioun,/ C'est mi sires onqe si bel chivaler ne vist./ Touz ceus qe en la sale estoient oraille/ Qe, s'il pout deffendre la bataille,/ Sa fille a femme ore alé pensant/ E de misire Amillioun/ Qi a vous ert leal Ore Deus li soit en aye/ E doigne q'il puisse bien fere!/ Grant Ore est amé e tenu cher;/ N'estoet mes estre botiler ore est devencu./ Le noun vous dirray de l'enfant:/ La gent Ore est mout en astage,/ Car cru li est par mariage/ Grant Ore finist la bataille./ Les uns chaunterent, les autres Ore lerray de Amyllioun ester,/ E de sir Amys vus voil Ore lerrom de Amis ester;/ De sir Amillioun voloms parler Ore mes sourdra la medlé./ Le un l'autre desaffient/ Qe entre Ore poet il mener grant baronage!! N'ust od ly ja si privé Ore poet trop attendre:/ S'il ne sache le coup rendre,/ Li autre Ore quideit bien estre vengé/ De vostre corteis botiler;/ Tot ore se clame lasse cheitive;/ Moult luy poise qe ele est vive Ore s'en vount les chivalers/ Qi mult sunt orguillous e fiers ore, soit voir ou mensoungue,/ La merveile voiz voil prover Ore sunt a un de cel affere,/ Dount devisent la menere ore suy jeo bien honye/ Quant vous me dedeignez avere amye Ore suy tant demené/ Qe de ma vie est grant pité./ Si jeo de Ore vaut meins!! Ceste play m'est laid e vileins.'/ Atant en la Ore vodrom de Amis lesser,/ Qe assez ad dount il ad mester Ore vous dirrai de sir Amilloun:/ Quant vint a sa regioun,/ La Ore vus dei jeo bien counter/ Coment il firent a coucher:/ La orgoile envie,/ Si vous gardez de glotonie!/ Amez bien orguillous e fiers./ Ne avera mester de acord;/ L'un hiet oza,/ Car son pere moult dota./ Le counte atant l'ad appellé oseit pur li parler,/ E le counte li velt venger./ Quant ne pout oseit un mot parler pur ly./ La dame ne se pout tenir/ Ne pur

62 s'il eust od ly affere,/ Fuist ceo en pees
 1092 s'est repairé./ En une chambre est entré/
 1129 doncq ove la dame ala/ En la chambre
 1079 soit mon sounge./ Mes ore, soit voir
 851 L'enfant, quant oy cel comaund,/ Ne sout
 1057 E li memes a li vet/ Chescun jour sis foiz
 483 errerent/ Qe parmy le boys passerent/
 919 troverent/ Desques eus vindrent el pais/
 412 Ne sout lequel il pout eslire,/ Mort
 601 Le seneschal li referri;/ Lour launces
 949 de l'enfant avoient pité:/ Al counte Amys
 823 Qe ewe froide li vodra doner./ Trestouz li
 110 jeo deisse la moyté/ Del doel q'entre eus
 1125 la parole ount lessé/ E le service Deu
 936 juaunt/ E les povres regardant,/ Veu
 1124 bien lé recoveroms./ Atant la parole
 521 sire Amist trestut le graunte./ Lour robes
 1131 enfantz furent estranglés./ E tot viis les
 202 damoysele fuit bien gardé:/ Compaignes
 1221 jour sa liveré,/ Coment le counte
 1227 Unke puis femme ne vont aver;/ Nul evr
 1004 Q'il ne li velt ocier./ Quant batu li
 1145 Tel ad el quer dolur/ Qe unque femme ne
 786 le counte emmaladi./ E quant longtemps
 824 li ount deguerpi,/ Estre un enfant q'il
 243 Od ly tote sa chivalrie./ A l'ostel n'i
 1010 E la verité de li querreit/ Qe son hanap
 194 gentile la damoysele,/ En une realme ne
 1102 maladi ne appareust trace./ En Amis ne
 1109 Si ceo fuist sire Amillioun,/ Coment il
 942 E il getta un grant suspir;/ Cil dit q'il
 994 frere l'ad emblé./ Qe cher serra achaté!/
 1212 De loinz le virent tote sa gent/
 602 launces ount as coups brusé/ E si sunt
 1128 est ele pur Amyllioun./ Amys doncq
 758 Quant il eust le congé pris,/ E seignurs
 807 Qe Amis estoit leal compaignon./
 255 en eust,/ S'a hasté a plus que ele pust:/
 900 vont;/ Jamés quident qe revendrount./
 1228 ne vont aver;/ Nul evr out de sa mullier./
 884 noun./ Donque li dist sire Amyllioun:/
 850 Ne que manger li donast./ L'enfant, quant
 1068 Qe li quens une noyt dormi,/ Une voiz
 1140 pais s'en est alé./ Quant la dame aveit
 313. Allas! Q'encusé serrount,/ Qe trestot
 1 Qi voet
 712 nomer,/ Si se purpensa moult estreit;/
 617 le braunk en terre aval/ Plus qe plein
 996 povre vint errant:/ Forment l'ad feru du
 727 frere eust deceu./ La damoisele fuit ben
 579 le chivaler arma./ En son corage fust bien
 903 querant,/ Mes tant lour vint sur cherté/ De
 867 Qe illoec morir le lessast,/ E yl en son
 1142 son seignur estoit garri/ E q'il revint el
 203 out a grant pleinté/ Des dameseles del
 886 Nostre congé de li prendrez./ Hors de ceo
 1199 Coment a manger me menastes/ E del
 896 E pus sus les seintz jurer/ Qe mes en le
 918 troverent/ Desques eus vindrent el
 1202 Qe jeo ne deusse en mon vivant/ En ceo
 759 E seignurs ove ly desqe a dis,/ En son
 1139 Sitost com porra prist congé,/ En son
 898 De l'hure qe issi serreit./ Hors del

ou en guerre,/ Maundast a ly hastivement,/ E il od force de sa
 Ou les deus enfanz dormerent;/ E doucement eux
 ou les enfaunz lessa./ Les enfantz furent estranglés./ E tot
 ou mensoungue,/ La merveile voiz voil prover,/ Pur mes
 ou quere lour vivre avant./ Tantost counta a son seignur,/ E il
 ou sept;/ Tant com pout l'ad conforté./ La dame sovent a ly
 Ou sire Amis reposeit./ Sire Amillioun primes le veit;/ Tost
 Ou sojorna le counte Amys/ Qe noble court illoeq tenoit/ E
 ou vie, ne sout ke dire./ Plusors aveient de ly pité,/ Mes li
 ount as coups brusé/ E si sunt outrepassé./ A cel encoultre
 ount counté./ Cil, sitost com mangea,/ Son premer mes li
 ount deguerpi,/ Estre un enfant q'il out norri./ Fiz de un
 ount demené./ Li un s'en va ver son pays,/ Li autres remeint
 ount escoté./ Aprés la messe vint a mesoun;/ Joiouse est ele
 ount l'enfant bel e parceu,/ E [s']il fuit auke vestu,/ Gentil
 ount lessé/ E le service Deu ount escoté./ Aprés la messe vint
 ount trestot chaungé,/ E Amyllioun s'en est alé;/ Tut soul va
 ount trovez!/ En lor lit s'entrebeysèrent,/ Del ray del solail
 ount a grant pleinté/ Des dameseles del pais/ En sa chambre
 ount comaundé./ Un an vesqui e un jour,/ A drein morust pur
 ount de sa mullier./ Owein l'enfant bien feffa:/ De tote sa terre
 ount e defolé/ Que ses mains sunt allassé,/ Donque commaund qe
 ount greignur./ Donque se tint enfyn honie:/ Ne quideit pas q'il
 ount langui,/ Morust e a Deu rendist s'alme;/ E tost après
 ount norri./ Fiz de un counte, son parent,/ Od li tint
 ount nul remis/ Des chevalers for sire Amis,/ E il remist pur
 ount perdu/ E coment est avenu./ Quant Amyllioun li oist
 ount plus bele./ Deus countes la desirent,/ E espouser la
 ount qe regeir;/ Une bone robe li fist vene/ E a mouster puis li
 ount sa garisoun./ 'Dame, certes, jeo vus dirray,/ Mes vous
 ount un seignur/ Q'il ne lerreit pur estre emperor./ Qy ceo fuit
 Outre la table saut ataunt,/ A cel povre vint errant:/ Forment
 Outre tote la cité;/ La fu la dame durement lié./ Jamés de
 outrepassé./ A cel encoultre tant firent bien/ Qe l'un ne
 ove la dame ala/ En la chambre ou les enfaunz lessa./ Les
 ove ly desqe a dis,/ En son pais s'en est alé,/ A Amys ad
 Ove sa feme tant demorra/ Qe tot son pel ly arracha./ Si
 Ove une soule chambere/ Ala par congé de sa mere/ Parler a
 Owein, le leal enfant,/ Lour viaunde va querant,/ Mes tant
 Owein l'enfant bien feffa:/ De tote sa terre li herita,/ Qe bien
 Oweyn, a la dame irrez,/ Nostre congé de li prendrez./ Hors
 o y cel comaund,/ Ne sout ou quere lour vivre avant./ Tantost
 o y qe li disoit/ Qe Amillioun trop bien garrait/ S'il en fist
 o y/ Qe son seignur estoit garri/ E q'il revint el pais/ E od li le
 o y un vassal/ De la meisnee le seneschal./ A son seignur le
 o y r chaunzon d'amur,/ De leauté e de grant douçour —/ De
 Oyst une voiz que li disoit: —/ Qe nul ne oist fors li noun
 pé e demy;/ Le seneschal a terre chay./ Qe pout, quant son
 pé./ Qe en la bowe est il versé./ Les chevalers vindrent del
 paé/ Quant ad baroun a volonté./ Le counte tynt feste plenere
 paé/ Quant ad le chivaler si bien armé./ Puis li dist suef en
 pain, vin e de blé./ Qe donke ne poient home trover/ Qe rien
 pais alast./ L'enfant respoundi par grant douçur:/ 'Merci Deu
 pais/ E od li le counte Amis,/ Tel ad el quer dolur/ Qe unque
 pais/ En sa chambre noeuf e dis,/ Qe touz fesoient sa volonté
 pais irroms/ A plus tost que nous pooms./ Mes jeo ne puis
 pais m'enchaceastes;/ Puis feistes jurer mon serjant/ Qe jeo
 pais [ne] vendreit/ De l'hure qe issi serreit./ Hors del pais
 pais/ Ou sojorna le counte Amys/ Qe noble court illoeq
 pais revener,/ Ne pur vivre ne pur morir./ Suvenez vous del
 pais s'en est alé,/ A Amys ad trestot counté/ Coment eust
 pais s'en est alé./ Quant la dame aveit oy/ Qe son seignur
 pais s'en vont;/ Jamés quident qe revendrount./ Owein, le

144 seneschal ataunt se tint,/ Qe d'angusse
 448 aver la vie!'/ Atant congé ly dona,/ E un
 1106 dame, sitost com vew li a,/ Pres de joie se
 113 remeint tristes e pensifs./ Quant Amis de
 799 Sa bele dame a li disoit:/ 'Me diez
 738 a coucher:/ La dame ad son dreeu acolé/ E
 512 vous seiez lour seignur./ Si vous requer
 207 De countredit n'en ad parlé./ Un jour
 346 pur mal.' / 'Sire,' le seneschal respound,/ aym e ameray;/ Pur nul autre ne li lerray/
 137 [ne] le dirrai mes;/ A ceo fui jeo confés.'/.
 805 Mes jeo ne puis aler a pié;/ Priez a lui
 256 ele pust:/ Ove une soule chambre/ Ala
 537 deviser,/ Si par noun les oist nomer./ Ne
 605 ne l'autre ne perdit ren./ Amillioun vint
 656 Un coup li voudra ja doner/ Qe li deit
 537 par noun les oist nomer./ Ne par cors ne
 868 yi en son pais alast./ L'enfant respoundi
 323 dit,/ Il ensembleront od grant delit:/
 272 vers son seignur./ Estez vous Florie
 606 perdit ren./ Amillioun vint par corucer,/ Si feussez tele com deussez estre,/ dolor pout son quer crever:/ 'Sire,' dit, ' quiderount qe jeo soye Amys./ Jeo espoir
 538 Ne par cors ne par fasçon./ Par riens, si
 916 li eysa,/ De long en long li enmena./ branc cola./ En cel champ fu ben vengé;/
 674 A femme prendre li consaillerent./ lesser./ Mout avera fait bone jorné/ Si
 1083 vous ad ma mort juré.' / 'Dame,' dist il,
 444 Ore est mout en astage,/ Car cru li est
 772 Mes ne li ert pas destiné,/ Car un jour
 1159 saunk poet estre sauné.'/ Un jour s'est
 1084 dirroy bien lor nouns:/ Li un estoit Amys
 13 536 Qe l'un de l'autre sout deviser,/ Si
 298 Vers vous ne mesprendroie mye/
 86 son poer,/ Mes encheson ne pout trover/
 538 oist nomer./ Ne par cors ne par fasçon./
 634 n'eust de son cheval envie./ Tant fist il
 18 s'amerent fierement/ Que freres se firent
 952 com mangea,/ Son premer mes li envoyea/
 1118 Crist, le fiz seinte Marie,/ Si li plest,
 846 viveit,/ Tant plus leid deveneit./ La dame
 665 E sire Amillioun atant/ Ferir li vint
 46 De cel mester longtemps servirent/ E
 781 Quantq'il voleit porroit dire./ Tenu fut
 209 aventure avint/ Qe li quens une feste tynt/
 1219 tour garderont./ Une garce la serveit/ Qe
 376 fait il, 'Deu vous maudie!'/ Ma fille est
 180 pays./ Bien furent entre eux couplés/ De
 10 de grant vassalage,/ Gentils e de grant
 936 povres regardant,/ Veu ount l'enfant bel e
 534 issi d'un senblant/ Ne crerret home ja si
 1176 crier touz penserent./ Son maltaient lour
 825 q'il out norri./ Fiz de un counte, son
 81 est feloun e desleal/ E si est de mult grant
 744 De son compaignoun trahir./ Moult
 308 savera home de mere nee.'/ Tant li ad dit e
 206 sa volonté;/ De countredit n'en ad
 258 sa mere/ Parler a Amys que ele ama./ Tant
 332 al counte./ Li quens fu de ire enflé./ Ne
 73 Car moult li greve le departir./ Donqe
 620 pout, quant son cheval li ment?/ Del cop
 pale devint;/ Purpense sei q'il se vengereit/ Sitost com son
 palefroy mounta/ Saunz garsoun e saunz esquier;/ N'ala pas
 palma;/ Vint al seignur, si li demaunda/ Si ceo fuist sire
 palmisoun levoit,/ Vers la court sei retorneyt;/ Sitost com
 par amour de moy —/ Car jeo vus aime en bone fey —/ Ta
 par amour sovent baisé,/ E en quidoit qe ceo fu Amys./ Mes
 par amur/ Qe de ma femme facez atant,/ En fet e en semblant
 par aventure avint/ Qe li quens une feste tynt/ Par un jour de
 Par celi qe fist le mound,/ S'il le velt denier./ Com leal
 Par [ceo] qu'il est chose esprové/ Pur promesse saunz seurte
 Par ceo savoito sir Amillioun/ Qe Amis estoit leal
 par charité/ Qe ele me face une ane doner/ Qe jeo puisse
 par congé de sa mere/ Parler a Amys que ele ama./ Tant parla e
 par cors ne par fasçon./ Par riens, si par la robe noun./ Amis
 par corucer,/ Par ire tret le brank d'asser;/ Le seneschal ferir
 par dreit grever./ Mes le seneschal primes li ferist,/ Qe son
 par fasçon./ Par riens, si par la robe noun./ Amis, quant il se
 par grant douçur:/ 'Merci Deu, mon seignur,/ Meuz voil od
 Par grant duçour s'entrebeiserent./ De amour parlerent e
 par grant error!/ Ele li respondi e dist: 'Comment/ Vous ay
 Par ire tret le brank d'asser;/ Le seneschal ferir ala,/ En le
 Par Jhesu, le roy celestre./ Tourné me ert a grant vilté/ Si jeo
 par la foy qe vus devez/ A Amillioun, qe tant amez,/ Ne me
 par la grace de Dé/ Qe del felon serrom vengé,/ Qe vus
 par la robe noun./ Amis, quant il se ajouta,/ Leez la dame se
 Par la terre tant alerent/ Qe feym e me[s]aise troverent
 Par li mes n'iert encusé./ S'il chaist, n'est pas mervaille
 Par lour conseil se mariat:/ Une gentile femme esposat/ Qe
 par lour saunk poet estre sauné.'/ Un jour s'est par matyn
 par ma lealté,/ Pur ma defaute ne murrez mie,/ Tant com je
 par mariage/ Grant seignurie e grant honur:/ De grant terres
 par matyné/ Les deus countes sunt venuz/ E a la porte
 par matyn levé./ E al matin est il alé;/ Deu requist e son haut
 par noun,/ L'autre est appellé Amillyoun./ Li deus estoient de
 par noun les oist nomer./ Ne par cors ne par fasçon./ Par
 Par qui vous en avereil vilenye/ Ne de vostre corps hontage
 Par quoi il vus pout grever./ Mes quant jeo serray departi
 Par riens, si par la robe noun./ Amis, quant il se ajouta
 par sa cortesie:/ Meuz a pié l'estut ferir/ Que lessir son chival
 par serement;/ As autres ne fesoient unke semblaunt/ De
 Par son mestre botiler,/ Qe ert corteis chevaler./ De chescun
 par son poer/ Nous porra enfaunz doner./ Si Amyllioun perdu
 par tant defendi/ Qe nul ne fut si hardi/ Qe de rien li regardast
 par tel ay!/ Qe le feu fist tresailleur,/ Qe le healm fust tot
 par tot bien loé furent./ Amillion demorra/ Atant qe son pere
 par tote la terre,/ Tant demeint grant affere./ Sa femme ly
 Par un jour de l'Ascensioun;/ La fuit assemblé maint baroun
 par une fenestre luy portoit/ Chescun jour sa liveré,/ Comment
 par vous honye./ Mes vous ne irrez ja riant;/ La mort vous va
 parage e de beautez./ Ore lerray de Amyllioun ester,/ E de sir
 parage;/ Fiz estoient de barons,/ Si vous dirroy bien lor
 parceu,/ E [s']il fuit auke vestu,/ Gentil home ressemblereit
 par devant/ Qe l'un de l'autre sout deviser,/ Si par noun les
 pardona,/ Od sei les tint e les ama./ Donqe fist sa femme
 parent,/ Od li tint fer[m]ement,/ E dit que li ne velt guerpir
 parenté;/ Pur ceo est il le plus doté./ Unke ne vous pout amer
 parfound getta un sospir,/ E el suspir geint forment./ La
 parlé/ Orc sunt a un de cel affere,/ Dount devisent la menere
 parlé./ Un jour par aventure avint/ Qe li quens une feste tynt
 parla e taunt demora/ Qe tot son corage discovery:/ E dit pur
 parla mot une luwé./ 'Adonke,' dit il, 'Deu mercy,/ Si ceo
 parla sire Amillioun/ E dit: 'Amis, beau compaignoun,/ En
 parlent durement:/ Dist l'un a l'autre qe le chivaler/ Ses

chambere/ Ala par congé de sa mere/
mercyia./ Atant del counte departi,/ Si ala
ceo s'enmerveilla./ A la dame ne voleit
a dreit fust ceo at tort./ Nul ne oseit pur li
grant douçour —/ De troeffle ne voil jeo
de Amis ester;/ De sir Amillioun voloms
pur eus grant vertuz:/ Les voegles ver,
encontra le botiler./ A li soleit trop beal
solas ad ne compaignie:/ N'ad home a qui
entrer en son lit,/ Ne voleit auxi od lui
n'out home taunt hardi/ Qe oseit un mot
grant duçour s'entrebeiserent./ De amour
seneschal/ D'un grant launce enpoignal/
pas deduit./ En cele nuyt tant errerent/ Qe
quir e fust/ Com si rasour trenché le eust./
Deu velt, bien lé recoveroms. /' Atant la
est aquointé! / Donke li dit sir Amillioun/
Amillioun primes le veit;/ Tost est cele
Ne vodra celer son noun —/ 'Jeo ne suy
E trestouz ai je refusé./ Certes n'estes
Saunz garsoun e saunz esquier;/ N'ala
vus me volez marier,/ Jeo ne me deveroy
s'en vount en mynyt;/ As autres ne fuist
seignur jamés ne verrait./ Mes ne li ert
fu[i] malades e defet,/ Pur ceo n'avojeo
li mes n'iert encusé./ S'il chaist, n'est
garisoun!/ Jadis fu sire e seignur;/ N'est
Doneq se tint enfyn honie:/ Ne quideit
De autre chose ne dirra[i] mie;/ Ne croy
luy poise qe ele est vive./ Ne saet ele
pres passa le costé./ Mes la char n'ad
bataille ad bien duré/ Desque noune fust
trenchent plus de cent./ Bien pres
Tant com il memes desiroit./ Quant
Tendrement l'ad esveillé./ E sa gent
cele nuyt tant errerent/ Qe parmy le boys
la damoisele,/ Einz qe soint .iii. anz
Deu qe onqe ne menti/ E qj en croiz suffri
muscé./ Sitost com vist son seignur./ Ele
que la fust/ Qe dolur de la pité n'en eust./
venger./ Quant ne pout trover plevine,/

ad taunz trové/ Ke le counte fut bien
avoit le pris/ Sour touz les dames du
E il memes si bel estoyt/ Qe tut le
eus ount demené./ Li un s'en va ver son
Congé ad pris, si s'en aloit/ En son
le serment avez fet,/ Jeo me doute qe pur
La hure maudist q'onqe fu nec,/ Quant
li ad icy chacé./ Si le occiez, vous fetes
Mes s'il eust od ly afferc,/ Fuist ceo en
—/ De troeffle ne voil jeo parler —/ En
Sire Amillioun fut molt prisé/ Qe autre
grant launce enpoignal/ Parmi l'escu
coup li vint doner/ Amount el heaulme
Ove sa feme tant demorra/ Qe tot son
N'ala pas com chivaler/ Mes ala com
vie longtemps vesqui;/ En bienfaitz se
que de nous est vencu/ Soit detret e puis
nul de mal garrant./ Tut ert detret e puis
chaumbre se ala muscer;/ Meuz velt estre
La coupe durment regarda;/
il, 'bien veignant! / De vous suy ore alé
Touz devant li yenerent:/ Merci crier touz

Parler a Amys que ele ama./ Tant parla e taunt demora/ Qe tot
parler a son amy/ Amys, q'estoit son compaignoun,/ En
parler,/ Desques al matin al lever./ Chescune nuyt issi se
parler,/ E le conte li velt venger./ Quant ne pout trover
parler —/ En pees se tienge pur escoter!/ De deus juvenceals
parler,/ Le jour vint qe fuist assis/ Entre le seneschal e Amys
parler les mutz./ Tot ensi finist le sermoun/ De sire Amis e
parler,/ Les ois sur ly forment roylla./ Amis moult se
parler,/ Ne a qui poet son dolur moustrer,/ Fors a l'enfant que
parler,/ Ne od li beivre ne manger./ Meuz, ceo dit ele, veut
parler pur ly./ La dame ne se pout tenir/ Ne pur vivere ne pur
parlerent e juwerent./ De autre chose ne dirra[i] mie./ Ne
Parmi l'escu peint de asur,/ Mes le hauberc fuist fort e dur/ Qe
parmy le boys passerent/ Ou sire Amis reposeit./ Sire
Parmy l'espaulde del chival/ Cola le braunke en terre aval
parole ount lessé/ E le service Deu ount escoté./ Aprés la
Paroles de mult grant resoun:/ Beau frere, quant avez forfait
part torné,/ Tendrement l'ad esveillé./ E sa gent passerent
pas celi qe vous quidez;/ De vostre espoir failli avez./ A vous
pas chevaler!! Mescreaus estes e laner!! Un play bien dur vus
pas com chivaler/ Mes ala com pelrin./ Ne fina unke soir ne
pas corucer./ Dount fut comaundé al baronage/ Qe eus
pas deduit./ En cele nuyt tant errerent/ Qe parmy le boys
pas destiné,/ Car un jour par matyné/ Les deus countes sunt
pas forfait,/ Qe vivre deusse bien du mien./ Dame, sovenez
pas mervaille./ Ore finist la bataille./ Les uns chaunterent
pas merveile s'il ad dolur./ La mort desire plus qe la vie;/ Nul
pas q'il fuit en vie./ Pur ceo fut tot appareillé/ Q'en le mois
pas q'il y avoit vilaynie./ Le seneschal, quant sout la covine
pas quoi ele poet fere;/ Si se met hors de la terre,/ Ne la savera
pas toché./ Amyllioun, qe tant fu de vigour,/ Meint coup li
passé./ Ly seneschal fist moult bien,/ E sire Amillioun ne
passa le costé./ Mes la char n'ad pas toché./ Amyllioun, qe
passa le temps issi,/ Qe li quens une noyt dormi,/ Une voiz
passerent avant,/ E [i]] entendi nepurqant;/ De son estre
passerent/ Ou sire Amis reposeit./ Sire Amillioun primes le
passez,/ aprés de ceste leprouz serrez./ Avant mes unke si
passioun,/ C'est mi sires, sire Amillioun!! Sire quens
pauma de pour./ Le seignur la fist relever,/ Bel la comence a
Paumez sunt chaeuz a terre;/ N'est home qm me vousist crere
Pausmé chei la meischine./ En la place estoit Amis/ Com
payé./ Tant fuit li seneschal doté/ Qe Amys un soul n'en ad
pays./ Bien furent entre eux couplés/ De parage e de beautez
pays le disoyt/ Si Deu mesmes le eust purret,/ Plus bon ne
pays,/ Li autres remeint tristes e pensifs./ Quant Amis de
pays vers s'amy/ Qe tant ama come sa vie./ Ore est mout en
pecché! Del serment serrez encombré./ Pur vous la bataille
pecché l'ad ensi encombré/ Qe son frere desconusseit/ Qe
pecché./ Quant le conte ceo oist,/ Tost estendu a terre
pees ou en guerre,/ Maundast a ly hastivement,/ E il od force
pees se tienge pur escoter!/ De deus juvenceals vous dirray
peine n'ad liveré./ Unke puis femme ne vout aver;/ Nul evr
peint de asur,/ Mes le hauberc fuist fort e dur/ Qe de mal l'ad
peint de flurs,/ Qe tost abati les colurs./ Sur le senestre le
pel ly arracha./ Si malade e si laid devint/ Qe checun pur
pelrin./ Ne fina unke soir ne matyn,/ Poy mangea e mains
pena./ Aprés sa mort a Deu ala;/ Amis, son frere, ensement
pendu!// E dit li quens: 'Ore vaut meins!! Ceste play n'est
pendu,/ E la pute arse en fu!'/ La dame ne sout quoy dire./ Le
pendue/ Qe de son seignur estre veue./ Sire Amillioun fist
Pensa cil: 'Coment poet estre?// Ces deus hanaps fist un
pensant/ E de misire Amillioun/ Qi a vous ert leal
penserent./ Son malfalent lour pardona./ Od sei les tint e

740 qe ceo fu Amys./ Mes Amillioun, qe fu
 410 la place estoit Amis/ Com esgarré e com
 112 ver son pays,/ Li autres remeint tristes e
 747 l'acola tendrement,/ Si li demaunda quoi
 632 descendi de son destrer;/ Combattre voleit
 228 tant bon chivaler/ Q'en la court n'out son
 960 li donait./ Amillioun mesmes avoit le
 632 de son destrer;/ Combattre voleit per a
 604 tant firent bien/ Qe l'un ne l'autre ne
 174 Qe fille d'un conte estoit,/ E pere e mere
 1010 E la verité de li querreit/ Qe son hanap out
 1120 Nous porra enfaunz doner./ Si Amyllioun
 789 aprés morust la dame./ Quant mortz furent
 174 esposat/ Qe fille d'un conte estoit,/ E
 1134 Del ray del solail s'enjoierent./
 199 aver mary./ A grant cherté le tynt le
 48 furent./ Amillion demorra/ Atant qe son
 51 Quant Amillioun sout pur veir/ Qe son
 286 Un play bien dur vus bateray:/ A mon
 688 Semblant li fist tant com osa,/ Car son
 1094 E doucement eux entreacolerent./ Le
 972 ad pres mangé,/ Son botiler ad appélé:/ 'trop
 623 bien porter,/ Mes son coup est trop
 683 Cil dist que mal n'en a:/ Plus est sain qe
 1074 le saunk bainast,/ Si sain devendreit com
 704 L'endemain a terce sonant/ Touz i furent,
 1209 le tenez!'/ Donke fist fere un turel:/
 753 De vostre espoir failli avez./ A vous le
 626 dolent est e corucé/ Quant combattre deit a
 635 Tant fist il par sa cortesie:/ Meuz a
 888 que nous pooms./ Mes jeo ne puis aler a
 628 q'il pout se vengereit,/ E Amyllioun a
 948 tenoient a folur./ Mes de l'enfant avoient
 1094 entreacolerent./ Le pere [n']eut de ses fiz
 1046 touz biens li fesoit./ Trestouz plurent de
 556 lié,/ E la pucele ensement./ Grant
 261 pur l'amur de luy/ Morust, s'il n'eust de li
 413 ne sout ke dire./ Plusors aveient de ly
 106 cel n'ad home que la fust/ Qe dolur de la
 873 ad regarde,/ Mout est entre eux grant
 428 fille fust destiné! / La dame lermit pur
 491 Si li retint, si li diseit./ Fu la joie, fu la
 861 suy tant demené/ Qe de ma vie est grant
 566 effraé/ E de les dames eust grant
 104 se sunt entrebeysés,/ Plurent e crient de
 93 feloun/ Ne porra trover si mal noun;/ Car
 409 Pausmé chei la meischine./ En la
 670 l'oraille od tote la face/ Voler fist enim la
 681 premer;/ Atant se fist desarmer./ S'il eust
 285 chevaler!/ Mescreaus estes e laner!/ Un
 352 E dit li quens: 'Ore vaut meins!/ Ceste
 422 En hostage pur li serreit,/ En son
 396 atant./ E doncq jugga le baronage/ Que
 557 Grant pité avoient la gent:/ Plurent e
 617 Cola le braunke en terre aval/ Plus qe
 876 draps,/ Sovent se clament cheitif e las;/
 202 fuit bien gardé:/ Compaignes out a grant
 729 ad baroun a volonté./ Le conte tynt feste
 1118 'Jhesu Crist, le fiz seinte Marie,/ Si li
 429 La dame lermit pur pité,/ Prist Amis en
 407 li velt venger./ Quant ne pout trover
 677 bataille./ Les uns chaunterent, les autres
 71 En bone foy saunz treson./ De

pensifs,/ Bien entendi en son corage/ Fere ne li velt
pensifs,/ Ne sout lequel il pout eslire,/ Mort ou vie, ne sout
pensifs./ Quant Amis de palmisoun levoit,/ Vers la court sei
pensoit/ E purquei tels suspirs getteit./ Donke dit sir
per a per,/ Q'il n'eust de son cheval envie./ Tant fist il par sa
per,/ La pucele en prist tendrour/ Qe tant vers li ad getté
per,/ Qe ne vout vendre ne doner./ Mes le hanap tant ameyt
per,/ Q'il n'eust de son cheval envie./ Tant fist il par sa
perdit ren./ Amillioun vint par corucer,/ Par ire tret le brank
perdu avoit;/ Pur heritage la moyté/ Li fuit escheu del counté
perdu/ E coment est avenu./ Quant Amyllioun li oist nomer
perdu eussez,/ Jamés tel autre ne averez./ De les enfaunz plus
per e mere,/ Il ne eust soer ne frere/ For soul la dame qe Amis
per e mere perdu avoit;/ Pur heritage la moyté/ Li fuit escheu
Pere e mere, quant ceo virent,/ A Deu graces en rendirent
perre,/ E mout l'ama auxi la mere./ La damoysele fuit bien
perre fina,/ Qi de soi n'ad autre heyr./ Quant Amillioun sout
perre fuy affyné,/ De son seignur le conte ad pris congé,/ Qe
perre le conteray/ Qe vers li estes e moy forfet,/ E serrés des
perre moult dota./ Le conte atant l'ad appélé:/ 'Dy moy,' fait
perre [n']eust de ses fiz pité!/ Ambedeus ad le chef trenché/ E
Pernez ma coupe od tot le vin,/ Si l'aportez a ceo frarin,/ Au
pesant./ Le seneschal se leve ataunt,/ Qe dolent est e corucé
pessoun de mer./ Atant li vount touz beiser:/ Sur touz li fist la
pessoun./ Quant veu avoit l'avisioun/ E de cel sounge
petit e grant,/ Les barons e les chevalers,/ Borgés, sergeans
Petit fut mes molt bel,/ Si fut fort durement;/ De loin le
peus bien counter,/ Car bien le deverez celer./ Tot lour estre
pié/ A plus tost q'il pout se vengereit,/ E Amyllioun a pié se
pié l'estut ferir/ Que lessir son chival morir./ Le seneschal
pié/ Priez a lui par charité/ Qe ele me face une ane doner/ Qe
pié se mettreit./ Mes il aparceut tost la manere,/ Si ceo retret
pité/ Al conte Amys ount counté./ Cil, sitost com mangea
pité/ Ambedeus ad le chef trenché;/ E le sanc de eux ad quillé
pité./ Amis s'est tot adrescé./ Plus de cent foiz li ad beisé
pité avoient la gent:/ Plurent e pleignent lour beauté./ Li
pité/ E que ele fust de ly amé,/ Que si de ly amour ne avoit
pité,/ Mes li sire fust tant yrré/ Qe la n'out home taunt hardi
pité n'en eust./ Paumez sunt chaeuz a terre;/ N'est home qì me
pité/ Plurent e decirent lour draps,/ Sovent se clament
pité/ Prist Amis en plevine;/ Moult fu dolente la meschine
pité./ Quant l'un od l'autre est aquointé!/ Donke li dit sir
pité/ Si jeo de feim morir deveray,/ De mei memes force ne
pité./ 'Sire,' dit il, 'jeo suy venu! Dount vous sert tot ceo fu
pité./ Suz cel n'ad home que la fust/ Qe dolur de la pité n'en
piz ne porra avenir/ Quant compaignoun velt autre trahir./ A
place estoit Amis/ Com esgarré e com pensifs,/ Ne sout
place./ Le bras od le brank trencha;/ Desque en la haunch le
plaie li demaunda;/ Cil dist que mal n'en a:/ Plus est sain qe
play bien dur vus bateray:/ A mon pere le conteray/ Qe vers li
play m'est laid e vileins./ Atant en la chambre entrat,/ La
plegge devendreit./ 'Voir,' dit li quens, volez ensy?/ E jeo
plegges troverent en hostage./ Le seneschal ad taunz trové
pleignant lour beauté./ Li quens, que mout fuit irré,/ Ala
plein pé e demy;/ Le seneschal a terre chay./ Qe pout, quant
Plein[en]t de grant chivalerie/ Le honur e la seignurie/ Qe
plainté/ Des dameles del pais/ En sa chambre noef e dis
plene re/ Une symaine tot entere;/ Mout i furent des robes
plest, par son poer/ Nous porra enfaunz doner./ Si
plevine;/ Moult fu dolente la meschine./ Amis se retret
plevine,/ Pausmé chei la meischine./ En la place estoit
ploré rent./ Les chevalers ja corerent,/ Mes le conte vient
plur ne se poet tenir,/ Car moult li greve le departir./ Donke

1046 Que touz biens li fesoit./ Trestouz
 104 vous e moy.'/ Atant se sunt entrebeysés./
 874 regarde,/ Mout est entre eux grant pité:/
 557 ensement./ Grant pité avoient la gent:/
 1154 Si se met hors de la terre,/ Ne la savera
 194 la damoysele,/ En une realme ne out
 168 le disoyt/ Si Deu mesmes le eust purtret,/

le coup descent,/ Mailles trenchent
plurent de pité./ Amis s'est tot adrescé./

a boivre ne a manger;/ Ne poums icy
de mult grant parenté;/ Pur ceo est il le
906 Qe rien lour voille doner./ Einz ne pount
683 li demaunda;/ Cil dist que mal n'en a:/

Amillion com plus viveit,/ Tant
com Amis meuz li serveyt,/ Le seneschal
1062 de fin quer/ Comme si ele fust sa soer;/

Jamés tel autre ne averez./ De les enfaunz
369 Le conte de mal ard e d'yre,/ Devint
151 E le conte mout li amoyt:/ Od sei le tint
564 Qe vers eux fist grant aleure,/ Poignant
839 pas merveile s'il ad dolur./ La mort desire
617 del chival/ Cola le braunke en terre aval/
914 Amillion fist dedeinz cocher,/ A
254 quant le congé en eust,/ S'a hasté a
767 De lour estre tant ne quant./ A
627 e corucé/ Quant combatire deit a pié;/ A
887 li prendrez./ Hors de ceo pais irroms/ A
844 a l'enfant que ly serveit./ Amillion com
413 eslire,/ Mort ou vie, ne sout ke dire./

Mes pur poer qe eus avoient,/ Ne li
1002 estre tant ne quant./ A plus tost qe Amys
767 ne vous pout amer,/ Mal vus ad quis a son
84 le fiz seinte Marie,/ Si li plest, par son
1118 prés:/ Enresoner li voleient,/ Mes pur
1001 si laid ne fust/ Home, com dire bien le
720 son seignur le ala counter/ Sitost com il
316 Jeo preng Deu en tesmognage:/ Si ceo
301 durment regarda;/ Pensa cil: 'Coment
984 avera fait bone jorné/ Si par lour saunk
1083 Comme si ele fust sa soer;/ Plus ne li
1062 qe ele est vive./ Ne saet ele pas quoi ele
1152 Trestouz li firent homage./ Ore
158 N'ad home a qui parler,/ Ne a qui
842 l'enfant avant saillist./ Uwein, qj ne
71 En bone foy saunz treson./ De plur ne se
661 enbarra,/ Qe Amillion fort estona./ Ore
139 promesse saunz seurté./ Mes de taunt me
904 De pain, vin e de blé./ Qe donke ne
564 chevaler/ Qe vers eux fist grant aleure,/

atant se vint/ E son gaunt en son
1151 ore se claime lasse cheitifive;/ Mout luy
887 de ceo pais irroms/ A plus tost que nous
93 Ne porra trover si mal noun;/ Car piz ne
1119 Marie,/ Si li plest, par son poer/ Nous
1138 E de son grant mal netté,/ Sitost com
92 Car qui s'acompanie od feloun/ Ne
336 Que tant amey e tant ting cher,/ En qj me
780 fut fait e sire;/ Quantq'il voleit
696 encusé./ S'il vous velt esposer,/ Li
954 chevaler./ De chescun mes qe l'em li
979 E celi fist le comaundement/ E vint e
1161 Les deus countes sunt venuz/ E a la
115 la court sei retorneyt;/ Sitost com en la

plurent de pité./ Amis s'est tot adrescé./ Plus de cent foiz li
Plurent e crient de pité./ Suz cel n'ad home que la fust/ Qe
Plurent e decirent lour draps,/ Sovent se claiment cheitif e
Plurent e pleignent lour beauté./ Li quens, que mout fuit irré
plus aider./ Donqe comencea a purpenser/ Q'entre nonaynes
plus bele./ Deus countes la desirent,/ E esposer la volirent
Plus bon ne meuz [ne] serra fet./ Sa gent durement l'amerent
plus de cent./ Bien pres passa le costé./ Mes la char n'ad pas
Plus de cent foiz li ad beisé,/ Tot ensi com ert de tay levé
plus demorer./ Jhesu, le fiz seinte Marie,/ Com longes me
plus doté./ Unke ne vous pout amer,/ Mal vus ad quis a son
plus entendre. Q'il covient lor asne vendre/ Pur cink souz e
Plus est sain qe pesson de mer./ Atant li vount touz beiser
plus leid deveneit./ La dame par tant defendi/ Qe nul ne fut si
plus li haeit;/ De son benfait avoit envie,/ Mes Amys ne
Plus ne li poet fere companie./ Treis anz demena tele vie;/ De
plus n'enpensoms; Si Deu velt, bien lé recoveroms./' Atant
plus noyr ke carboun./ Tost sailli hors de la mayson,/ Si
plus privé; Qe nul autre de sa meisné./ Ore vous dirrai de sir
plus qe amblure;/ Del feu q'il vist fut grantment effraé/ E de
plus qe la vie; Nul solas ad ne compagnie:/ N'ad home a qui
Plus qe plein pé e demy; Le seneschal a terre chay./ Qe pout
plus q'il pout li eysa; De long en long li enmena./ Par la
plus que ele pust; Ove une soule chambere/ Ala par congé de
plus tost qe Amys poeit; Congé ad pris, si s'en aloit/ En son
plus tost q'il pout se vengereit; E Amyllioun a pié se
plus tost que nous pooms./ Mes jeo ne puis aler a pié;/ Priez
plus viveit; Tant plus leid deveneit./ La dame par tant
Plusors aveient de ly pité./ Mes li sire fust tant yré/ Qe la
poeient assuager; Q'il ne li velt ocier./ Quant batu li out e
poeit; Congé ad pris, si s'en aloit/ En son pays vers s'amye
poeir; Mes encheson ne pout trover/ Par quoi il vus pout
poeir; Nous porra enfaunz doner./ Si Amyllioun perdu eussez
poeir qe eus avoient; Ne li poeient assuager/ Q'il ne li velt
poeit./ Amillion l'ad bien entendu,/ E la prist sicom son
poeit espleiter. Le seneschal fut molt lee;/ Ore quideit bien
poeit estre aparceu; Qe de moy feissez vostre dru,/ Ne
poeit estre? Ces deus hanaps fist un mestre!'/ Arere tantost se
poeit estre sauné./' Un jour s'est par matyn levé./ E al matin
poeit fere companie./ Treis anz demena tele vie;/ De ses eses
poeit fere; Si se met hors de la terre,/ Ne la savera plus aider
poeit il mener grant baronage!/ N'ust od ly ja si privé/ Q'il
poeit son dolur moustrer,/ Fors a l'enfant que ly serveit
poeit suffrir; Qe son seignur deust morir./ En haut cria
poeit tenir,/ Car moult li greve le departir./ Donqe parla sire
poeit trop attendre; S'il ne sache le coup rendre,/ Li autre
poez crere; Qe, si vous eiez de moy affere,/ Jeol vous fray od
poeit home trover; Qe rien lour voille doner./ Einz ne
Poignant plus qe amblure;/ Del feu q'il vist fut grantment
poin tint,/ E tendist en noun de gage/ Com home de grant
poise qe ele est vive./ Ne saet ele pas quoi ele poet fere;/ Si
pooms./ Mes jeo ne puis aler a pié;/ Priez a lui par charité
porra avenir; Quant compaignoun velt autre trahir./ A tote
porra enfaunz doner./ Si Amyllioun perdu eussez,/ Jamés tel
porra prist congé, En son pais s'en est alé./ Quant la dame
porra trover si mal noun; Car piz ne porra avenir/ Quant
porrai affier? Si est grant desert venu:/ Ma fille est pute
porre it dire. Tenu fut par tote la terre,/ Tant demeint grant
porriez de quer amer?/ E ele respount moult simplement
porta/ La moyté lor envoia./ Amis une coupe avoit/ Ke mout
porta le present./ Le povres, qe mesel fuit en vein,/ Prist sa
porte descenduz, Qe nul fut aparcevant/ De lour venue tant
porte entra, Li seneschal li encontrat/ Qe semlaunt d'amur li

928 grant honur serreint receuz./ Pres [de] la
 1219 garce la serveit/ Qe par une fenestre luy
 32 Leals furent envers lor seygnur,/ Bien le
 622 que le chivaler/ Ses armes sout trop bien
 541 dame se coucha;/ Sa espeie nue entre eus
 855 Quant n'avom a boivre ne a manger;/ Ne
 906 trover/ Qe rien lour voille doner./ Einz ne
 401 n'en ad trové./ Quoy pur doute quoy pur
 1183 com vist son seignur./ Ele pauma de
 1181 Tant fuit quise q'ele fut trové/ Mes de
 83 Pur ceo est il le plus doté./ Unke ne vous
 478 dist q'il voleit visiter/ Son frere qe tant
 637 son chival morir./ Le seneschal, qe nel
 232 Si forment comensa a amer/ Q'ele ne
 582 Puis li dist suef en son oraille/ Qe, s'il
 411 esgarré e com pensifs,/ Ne sout lequel il
 553 Puis demaunda le botiler;/ E quant il ne
 86 encheson ne pout trover/ Par quoi il vus
 1214 la dame durement lié./ Jamés de illoec ne
 1058 Chescun jour sis foiz ou sept;/ Tant com
 914 Amillion fist dedeinz cocher,/ A plus q'il
 267 escoté,/ Quideit que ele fuit devee/ Qe ele
 619 pé e demy;/ Le seneschal a terre chay./ Qe
 627 combatre deit a pié;/ A plus tost q'il
 912 fount fere/ Sur deus roes une cyvere/ Qu'il
 1013 Quant Amyllioun li oist nomer,/ De dolur
 417 oseit un mot parler pur ly./ La dame ne se
 85 vus ad quis a son poer,/ Mes encheson ne
 407 E le counte li velt venger./ Quant ne
 836 O, misires Amyllioun,/ Mis estes a
 922 tenoit/ E moult grant ben fesoit./ La
 995 achaté! Outre la table saut ataunt,/ A cel
 932 seignur,/ Ala demaundant tut entour/ Des
 980 E vint e porta le present./ Le
 974 tot le vin,/ Si l'aportez a ceo frarin,/ Au
 935 gentils homes, qe alere[n]t juaunt/ E les
 118 semlaunt d'amur li fesoyt,/ Mes de quer
 453 com pelrin./ Ne fina unke soir ne matyn,/
 679 ja corerent,/ Mes le counte vient
 951 counté./ Cil, sitost com mangea,/ Son
 756 lour estre luy ad counté,/ E puis dit q'il
 170 Sa gent durement l'amerent;/ A femme
 885 a la dame irrez,/ Nostre congé de li
 300 Ne de vostre corps hontage./ Jeo
 594 Nul deigne a autre affier;/ Chescun se
 1106 li mena./ La dame, sitost com vew li a,/
 928 conuz,/ A grant honur serreint receuz./
 970 unke lesser le voleit./ Quant le counte ad
 643 Mailles trenchent plus de cent./ Bien
 979 fist le comaundement/ E vint e porta le
 96 trahir./ A tote gent bel responez,/ Grant
 281 amye!/ Tant gentils hommes m'ount
 889 nous pooms./ Mes jeo ne puis aler a pié;/
 484 Ou sire Amis reposeit./ Sire Amillioun
 657 li deit par dreit grever./ Mes le seneschal
 52 fuy affyné,/ De son seignur le counte ad
 554 quant il ne pout estre trové,/ La dame fuit
 757 prendra congé,/ Quant il eust le congé
 216 beals e aligné,/ Des chivalers fuit moult
 1224 pur dolur./ Sire Amillioun fut molt
 768 A plus tost qe Amys poeit,/ Congé ad
 177 fuit escheu del counté./ De beauté avoit le
 1007 Doneq commaund qe l'en lyast/ E en sa

porte se sount mis,/ E l'enfant, qe bien fust apbris/ E moult
porteit/ Chescun jour sa liveré,/ Coment le counte out
portent a honour;/ Si les amast mult tendrement,/ Honur les
porter,/ Mes son coup est trop pesant./ Le seneschal se leve
posa./ La dame de ceo s'enmerveilla./ A la dame ne voleit
poums icy plus demorer./ Jhesu, le fiz seinte Marie,/ Com
pount plus entendre/ Q'il covient lor asne vendre/ Pur cink
pour,/ E trestouz virent qe le seignur/ Haist Amys desqe a la
pour./ Le seignur la fist relever,/ Bel la comence a chastier
pour se fuist muscé./ Sitost com vist son seignur./ Ele pauma
pout amer,/ Mal vus ad quis a son poer,/ Mes encheson ne
pout amer./ Trusser s'en vount en mynuyt;/ As autres ne fuist
pout amer,/ Un grant coup li vint doner/ Amount el heaulme
pout boyvre ne manger./ Les damoyseles qe od li erent
pout deffendre la bataille,/ Sa fille a femme ly dorreyt/ E de
pout eslire,/ Mort ou vie, ne sout ke dire./ Plusors aveient de
pout estre trové,/ La dame fuit pris e durement lié,/ E la
pout grever./ Mes quant jeo serray departi,/ Donke vus serra
pout issir;/ La demora desqe al morir./ Autre dames ensample
pout l'ad conforté./ La dame sovent a ly est alé,/ Qe li ama
pout li eysa,/ De long en long li emmena./ Par la terre tant
pout pur hounte discoverir/ Sa volonté e son desir./ De
pout, quant son cheval li ment?/ Del cop parlent durement
pout se vengereit,/ E Amyllioun a pié se mettreit./ Mes il
pout sei meismes enchacer./ Amillion fist dedeinz cocher,/ A
pout son quer crever:/ 'Sire,' dit, 'par la foy qe vus devez/ A
pout tenir/ Ne pur vivere ne pur morir;/ Devant le counte se
pout trover/ Par quoi il vus pout grever./ Mes quant jeo serray
pout trover plevine,/ Pausmé chei la meischine./ En la place
povre garisoun!/ Jadis fu sire e seignur;/ N'est pas merveile
povre gent tot enviroun/ Ala com a procession./ Entre
povre vint errant:/ Forment l'ad feru du pé./ Qe en la bowe
povres les estres e les maneres/ E les custumes de les terres
povres, qe mesel fuit en vein,/ Prist sa coupe hors de son
povres qe tant est mesaysé./ Mes le hanap soit bien gardé
povres regardant,/ Veu ount l'enfant bel e parceu,/ E [s']il
poy li ameit./ 'Si[re] Amis,' dit il, 'bien veignant!! De vous
Poy mangea e mains beust,/ Si ne dormist nule nust./ Touz
premer/ Atant se fist desarmer./ S'il eust plaie li demaunda
premer mes li envoya/ Par son mestre botiler,/ Qe ert corteis
prendra congé/ Quant il eust le congé pris,/ E seignurs ove
prendre li consailleur./ Par lour consail se mariat:/ Une
prendrez/ Hors de ceo pais irroms/ A plus tost que nous
preng Deu en tesmoignage:/ Si ceo poet estre apourceu/ Qe de
prend a ferir./ Amillion fier le seneschal/ D'un grant launce
Pres de joie se palma;/ Vint al seignur, si li demaunda/ Si ceo
Pres [de] la porte se sount mis,/ E l'enfant, qe bien fust apbris
pres mangé/ Son botiler ad appélé/ 'Pernez ma coupe od tot
pres passa le costé/ Mes la char n'ad pas toché./ Amyllioun
present/ Le povres, qe mesel fuit en vein,/ Prist sa coupe
**preu e grant honur avrez!/ Lessez orgoil e envie,/ Si vous
prié/ E trestouz ai je refusé./ Certes n'estes pas chevaler
Priez a lui par charité/ Qe ele me face une ane doner/ Qe jeo
primes le veit;/ Tost est cele part torné,/ Tendrement l'ad
primes li ferist,/ Qe son coup tres bien apparist:/ La heaulme
pris congé/ Qe li covient garder sa terre/ Qe nul li fist treson
pris e durement lié/ E la pucelle ensement./ Grant pité
pris/ E seignurs ove ly desqe a dis,/ En son pais s'en est alé
prisé/ Entre eux communement disoient/ Qe unque si bel
pris/ Qe autre peine n'ad liveré./ Unke puis femme ne voul
pris, si s'en aloit/ En son pays vers s'amy/ Qe tant ama
pris/ Sour touz les dames du pays./ Bien furent entre eux
prison li gettast./ Amillion doncque maudereit/ E la verité**

429 fust destiné! / La dame lermist pur pité,/ 1138
 247 E la damesele ne targa mye:/ De sa dame 1138
 de son grant mal netté,/ Sitost com porra
 981 Le povres, qe mesel fuit en vein,/ poet./ 722
 722 Amillioun l'ad bien entendu,/ E la Q'en la court n'out son per./ La pucele en
 229 conte mout li amoyst:/ Od sei le tint plus
 151 mener grant baronage!/ N'ust od ly ja si
 159 hostez! ceo dit Florie,/ 'Nous le froms si
 305 La povre gent tot enviroun/ Ala com a
 923 Par [ceo] qu'il est chose esprové/ Pur
 138 le velt denier./ Com leal chevaler le voil
 348 ou mensouinge,/ La merveile voiz voil
 1080 E dit que od li combat[er]eit/ E la verité
 390 vindrent del deys,/ Qe li estoient de molt
 999 chivaler/ Q'en la court n'out son per./ La
 229
 555 La dame fuit pris e durement lié,/ E la
 708 esquiers./ Quant touz furent assemblé,/ La
 249 ele tantost li ad doné./ Nomor vous dey la
 686 beiser:/ Sur touz li fist la dame joie,/ E la
 40 De Amys fist son botiler,/ Car mout a ly
 888 A plus tost que nous pooms./ Mes jeo ne
 552 e Amys./ Le seneschal se fist armer,/ celer./
 756 Tot lour estre luy ad counté,/ E
 763 eust fait la sposaille./ En une chambre
 1200 me menastes/ E del pais m'enchaestes;/
 1226 prisé/ Qe autre peine n'ad liveré./ Unke
 1025 q'il le tuera./ Tost l'espeie li fust baillé./
 581 païé/ Quant ad le chivaler si bien armé./
 1104 Une bone robe li fist tener/ E a mouster
 350 E cil que de nous est vencu/ Soit detret e
 365 li ert nul de mal garrant./ Tut ert detret e
 446 ma defaute ne murrez mie,/ Tant com je
 525 Ore Deus li soit en aye/ E doigne q'il
 891 Qe ele me face une ane doner/ Qe jeo
 342 A touz jours avera reprover/ Si jeo ne me
 131 amisté/ En moy n'est si emploié/ Qe ne
 1127 la messe vint a mesoun;/ Joiouse est ele
 82 e desleal/ E si est de mult grant parenté;/
 1148 honie:/ Ne quideit pas q'il fuit en vie./
 792 ne frere/ For soul la dame qe Amis aveit,/ 1195
 1195 de vous vengé./ Si fu[i] malades e defet,/ 723
 entendu,/ E la prist sicom son drew,/ Mes
 1188 ester!/ Ne deussez tel doil demener/
 572 serreit!/ Armes me fetes tost bailler/
 908 entendre/ Q'il covient lor asne vendre/
 865 fray./' L'enfant a soi doncne appelaist,/ E
 294 Cortesement ly respundi:/ 'Damoisel,
 1223 Un an vesqui e un jour;/ A drein morust
 401 Qe Amys un soul n'en ad trové./ Quoy
 943 ne voil jeo parler —/ En pees se tienge
 1238 Cil dit q'il out un seignur/ Q'il ne lerreit
 1116 corps gisent en Lombardie,/ E Deu fait
 175 E mout graces li rendi,/ Donqe comence
 counte estoit,/ E pere e mere perdu avoit;/
 1205 vous del bordel/ [K']ja moy lirrastes
 267 Quideit que ele fuit deeve/ Qe ele pout
 1031 morir./ En haut cria: 'Mercy, mercy!/
 260 Qe tot son corage discovery:/ E dit
 569 suy venu!/ Dount vous sert tot ceo fu/ Qe
 405 ceo a dreit fust ceo at tort./ Nul ne oseit
 1089 La dame vint, qe bone fust,/ Sovent Deu
 421 E le chivaler demaunda:/ En hostage

Prist Amis en plevine;/ Moult fu dolente la meschine./ Amis
priſt congé,/ E ele tantost li ad doné./ Nomor vous dey la
priſt congé,/ En son pais s'en est alé./ Quant la dame aveit
Prist sa coupe hors de son sain,/ E l'autre la vist, si
priſt sicom son drew,/ Mes pur ceo ne vout lesser,/ Mes la
priſt tendrou/ Qe tant vers li ad getté s'amour/ Si forment
priſé/ Qe nul autre de sa meisné./ Ore vous dirrai de sir
priſé/ Q'il n'out dis chivalers de maisné./ Tant fuit de sa
priſément/ Touz deus a nostre talent/ Ne[l] savera home de
processioun./ Entre autres les deuz vount./ Ne sciet, qe eus
promesse saunz seurté./ Mes de taunt me poez crere/ Qe, si
prover,/ E cil que de nous est vencu/ Soit detret e puis pendu
prover,/ Pur mes enfanz ne voil lesser./ Mout avera fait bone
provereit./ Est veus tote la court ensemblé,/ Ly chivalers e
prés./ Enresoner li voleient,/ Mes pur poer qe eus avoient
pucele en prist tendrou/ Qe tant vers li ad getté s'amour/ Si
pucele ensement./ Grant pité avoient la gent:/ Plurent e
pucele fut amené/ A l'huis de moster./ Quant Amillioun deust
pucele:/ Son dreit noun est Mirabele,/ Mes Florie fust apelé
pucele totevoie/ Semblant li fist tant com osa,/ Car son pere
puet affyer./ Amyllioun ne velt lesser./ De son hostel ly fist
puis aler a pié;/ Priez a lui par charité/ Qe ele me face une ane
Puis demaunda le botiler;/ E quant il ne pout estre trové,/ La
puis dit q'il prendra congé,/ Quant il eust le congé pris,/ E
puis entrerent/ E lour robes chaungerent;/ Donque ne fuit
Puis feistes jurer mon serjant/ Qe jeo ne deusse en mon
puis femme ne vout aver;/ Nul evr out de sa mullier./ Owein
Puis l'ad en haut levé./ E Amillioun le col tendist./ Mais
Puis li dist suef en son oraille/ Qe, s'il pout deffendre la
puis li mena./ La dame, sitost com vew li a,/ Pres de joie se
puis pendu!/ E dit li quens: 'Ore vaut meins!// Ceste play
puis pendu,/ E la pute arse en fu!'/ La dame ne sout quoy dire
puisse aver la vie!'/ Atant congé ly dona,/ E un palefroy
puisse bien fere!/ Grant chose enprent pur son frere!// Amys
puisse chivacher./ L'enfant a la dame ala,/ Son message li
puisse de li venger./ Est ceo voir, sire seneschal?/ Jeo quide
puisse nul autre amer/ Quant talent me doint e voler./ Si
pur Amyllioun./ Amys doncne ove la dame ala/ En la chambre
Pur ceo est il le plus doté./ Unke ne vous pout amer,/ Mal vus
Pur ceo fut tot appareillé/ Q'en le mois deust estre esposé
Pur ceo les terres recevoit./ Ore vodrom de Amis lesser,/ Qe
Pur ceo n'avojeo pas forfait,/ Qe vivre deusse bien du mien
pur ceo ne vout lesser,/ Mes la resceit come sa mullier./ Ne
Pur ceo qe sain suy revenu./ Molt vus fust ben avenu,/ Si
Pur cestes dames deliverer!/ Jeo deffendray nostre dreit./ Le
Pur cink souz e diz e maille;/ De ceo acateront lour vitaille
pur Deu li conjurast/ Qe illoec morir le lessast,/ E yl en son
pur Deu mercy,/ Vostre amy suy e serray,/ E vostre serjant
pur dolor./ Sire Amillioun fut molt prisé/ Qe autre peine n'ad
pur doute quoy pur pour,/ E trestouz virent qe le seignur/ Haist
pur escoter!// De deus juvenceals vous dirray,/ Sicom en escrit
pur estre emperur./ Qy ceo fuit li demaundeient,/ Mes sitost
pur eus grant vertuz:/ Les voegles ver, parler les mutz./ Tot
pur fere joie!// Jhesu Crist, le fiz seinte Marie,/ Si li plest
Pur heritage la moyté/ Li fuit escheu del counté./ De beauté
pur hostel./ Celi averezt tant com vus viverez;/ En noun de
pur hounte discoverir/ Sa volonté e son desir./ De resoundre
Pur icel Deu qe onqe ne menti/ E qj en croiz suffri passiou
pur l'amur de luy/ Morust, s'il n'eust de li pité/ E que ele fust
pur les dames fait esteit?// Trop vilaine roste serreit!/ Armes
pur li parler,/ E le counte li velt venger./ Quant ne pout trover
pur li requist./ Atant le counte s'est repairé./ En une chambre
pur li serreit,/ En son plegge devendreit./ 'Voir,' dit li quens

416 home taunt hardi/ Qe oseit un mot parler
 445 juré.' / 'Dame,' dist il, par ma lealté,/ pur ly./ La dame ne se pout tenir/ Ne pur vivere ne pur morir
 344 sire seneschal?/ Jeo quide que l'avez dit
 245 Des chevalers for sire Amis,/ E il remist
 1081 La merveile voiz voil prover,/ pur ma defaute ne murtez mie, / Tant com je puisse aver la vie
 810 Si malade e si laid devint/ Qe checun pur mal.' / 'Sire,' le seneschal resound,/ Par celi qe fist le
 418 La dame ne se pout tenir/ Ne pur vivere ne pur maladie./ E la damesele ne targa mye:/ De sa dame prist
 828 dit que li ne velt guerpir/ Ne pur vivre ne
 1203 En ceo pais revener,/ Ne pur vivre ne pur mesel li tint./ La dame li tint trop en despit:/ Ne voleit
 359 de mester,/ E ceo ad fait nostre botiler./ pur morir;/ Devant le counte se genula/ E le chivaler
 136 est abandoné,/ E jeo ly aym e ameray,/ pur morir./ La dame, que mout est ennuyé,/ Ambedeus s'est
 497 E le serment avez fet,/ Jeo me doute qe
 428 fille fust destiné! / La dame fermist
 1001 molt près:/ Enresoner li voleient,/ Mes pur poer qe eus avoient,/ Ne li poeient assuager/ Q'il ne li
 401 soul n'en ad trové./ Quoy pur doute quoy
 138 lerray/ Par [ceo] qu'il est chose esprové/ pur pour,/ E trestouz virent qe le seignur/ Haist Amys desqe a
 1112 vous desconforteray./ Sachez, dame, que
 946 sitost com il veu avoient/ Celi q'il clama
 526 puisse bien fere!/ Grant chose enprent
 50 n'ad autre heyr./ Quant Amillioun sout
 418 pur ly./ La dame ne se pout tenir/ Ne
 828 E dit que li ne velt guerpir/ Ne
 1203 en mon vivant/ En ceo pais revener,/ Ne
 529 li sire e envoyé;/ E quiderount trestouz
 77 tresoun/ A nostre seignur servy avom./
 691 'Dy moy,' fait il, 'fille bele,/ Amys
 443 jour,/ Vous savez bien qe mon seignur/
 499 peccché/ Del serment serrez encombré./
 667 le feu fist tresailler,/ Qe le healme fust tot
 431 fu dolente la meschine./ Amis se retret e
 291 Atant s'est Florie retorné./ Amis mout se
 711 Amillioun deust son noun nomer,/ Si se
 145 se tint,/ Qe d'anguisse pale devint;/
 1155 la savera plus aider./ Donqce comencea a
 269 Sa volonté e son desir./ De respoudre se
 234 manger./ Les damoyses qe od li erent/
 802 Ta espee nue meistes entre nous,/ Sire,
 748 Si li demaunda quoi pensoit/ E
 167 le pays le disoyst/ Si Deu mesmes le eust
 895 li counta./ Ele li fist un asne aver,/ E
 254 le congé en eust,/ S'a hasté a plus que ele
 366 garrant./ Tut ert detret e puis pendu,/ E la
 338 Si est grant desert venu:/ Ma fille est
 23 envie/ De lour estre e de lour compayneie,/ Q'amerent entre eus tant fierement,/ E de ceo se coroucent
 321 boitier;/ Tot lour estre fist espier./
 321 lour estre fist espier./ Qant vint le terme
 816 manger./ Meuz, ceo dit ele, veut morir/
 436 countesse vynt,/ Congé li ala demaunder/
 934 de les terres./ Les gentils homes,
 564 vers eux fist grant aleure,/ Poignant plus
 660 apparist:/ La healme del coup enbarra,/ Qant vint le terme q'avoint dit,/ Il ensembleront od grant
 532 seignur./ E la dame, quant li veu aveit,/ q'avoint dit,/ Il ensembleront od grant delit:/ Par grant
 1069 une noyt dormi,/ Une voiz oy qe li disoit/ Qe a li vousist venir./ Cil soffri en cel an/ Grant dolur e grant
 791 Il ne eust soer ne frere/ For soul la dame
 806 confés.' / Par ceo savoit sir Amillioun/ Qe a son frere velt aler:/ Son enuy monstrer li vout,/ E ala qe
 767 De lour estre tant ne quant./ A plus tost
 400 bien payé./ Tant fuit li seneschal doté/
 794 recevoit./ Ore vodrom de Amis lesser,/ qe alere[n]t juaunt/ E les povres regardant,/ Veu ount l'enfant
 55 sa terre/ Qe nul li fist treson ne gere,/ Ne
 1225 pur dolur./ Sire Amillioun fut molt prisé/
 1230 bien feffa:/ De tote sa terre li herita,/ Qe Amillioun fort estona./ Ore poet trop attendre:/ S'il ne
 929 [de] la porte se sount mis,/ E l'enfant
 1088 son frere doine garisoun./ La dame vint,
 pur vivre ne pur morir;/ La dame, que mout est ennuyé,/ Ambedeus s'est
 pur poer qe eus avoient,/ Ne li poeient assuager/ Q'il ne li
 pur pour,/ E trestouz virent qe le seignur/ Haist Amys desqe a
 pur promesse saunz seurté./ Mes de taunt me poez crere/ Qe
 pur sa saunta/ Voz deus fiz ai estranglé. / La dame ses meins a
 pur seignur,/ Touz li tenoient a folur./ Mes de l'enfant
 pur son frere!/ Amys remaint od la meisné, / Cum li sire e
 pur veir/ Qe son pere fuy affyné, / De son seignur le counte ad
 pur vivre ne pur morir;/ Devant le counte se genula/ E le
 pur vivre ne pur morir./ Suvenez vous del bordel/ [K']ja moy
 pur voir/ Qe ceo fuit lour dreit seignur./ E la dame, quant li
 Pur vostre honur vus cri mercy,/ De une chose soiez garny
 pur vous ad combatu,/ Son enemi ad confundu;/ Ly e vous ad
 Pur vous ad ma mort juré.' / 'Dame,' dist il, par ma lealté,/ Pur
 Pur vous la bataille fray,/ E le serment lealment juray/ Qe jeo
 purfendant./ En la cervele cola le brank./ E l'oraille od tote
 purpensa/ Com celi qe grant mester en a./ De son frere li
 purpensa;/ Le un mal e l'autre mout dota./ Corteusement ly
 purpensa moult estreit;/ Oyst une voiz que li disoit: —/ Qe
 Purpense sei q'il se vengereit/ Sitost com son leu verreyt
 purpenser/ Q'entre nonaynes se muscereit;/ Son seignur
 purpensoit/ Com celi q talent ne aveit/ Q'il mesprist vers
 Purquei ceo fuy ly demaunderent./ E ele dit que malade fuit
 purquei le feistes vous?/ 'Dame, jeo [ne] le dirrai mes,/ A
 purquei tels suspirs getteit./ Donke dit sir Amillioun: —/ Ne
 purtret,/ Plus bon ne meuz [ne] serra fet./ Sa gent durement
 pus sus les seintz jurer/ Qe mes en le pais [ne] vendreit/ De
 pust:/ Ove une soule chambere/ Ala par congé de sa mere
 pute arse en fu!'/ La dame ne sout quoy dire./ Le counte de mal
 pute devenu./ Ele est honie, jeo suy trahi;/ Cel fel traitre
 Q'amerent entre eus tant fierement,/ E de ceo se coroucent
 Qant vint le terme q'avoint dit,/ Il ensembleront od grant
 q'avoint dit,/ Il ensembleront od grant delit:/ Par grant
 Qe a li vousist venir./ Cil soffri en cel an/ Grant dolur e grant
 Qe a son frere velt aler:/ Son enuy monstrer li vout,/ E ala qe
 qe alere[n]t juaunt/ E les povres regardant,/ Veu ount l'enfant
 qe amblure;/ Del feu q'il vist fut grantment effraé/ E de les
 Qe Amillioun fort estona./ Ore poet trop attendre:/ S'il ne
 Qe Amillioun fuit bien quideit./ Les deuz furent issi d'un
 Qe Amillioun trop bien garreit/ S'il en fist mettre cure/ [Des]
 qe Amis aveit,/ Pur ceo les terres recevoit./ Ore vodrom de
 Qe Amis estoit leal compaignon./ Ove sa feme tant demorra
 qe Amys poeit,/ Congé ad pris, si s'en aloit/ En son pays
 Qe Amys un soul n'en ad trové./ Quoy pur doute quoy pur pour
 Qe assez ad dount il ad mester./ Vus dirrai de sire Amillioun
 qe autre heyr n'i entrast/ Ne ses droitz amenusast./ Le counte
 Qe autre peine n'ad liveré./ Unke puis femme ne vout aver
 Qe bien aveit deservy./ En bone vie longtemps vesqui;/ En
 qe bien fust apris/ E moult ama son seignur,/ Ala demaundingant
 qe bone fust,/ Sovent Deu pur li requist./ Atant le counte s'est

739 E par amour sovent baisé,/ E en quidoit
 575 quant le chevaler veit,/ Bien quideit
 530 e envoyé;/ E quiderount trestouz pur voir/
 810 pel ly arracha./ Si malade e si laid devint/
 993 'verraient,/ De mon frere l'ad emblé./
 144 honur.'/ Li seneschal ataunt se tint,/ coups dona./ Mes le healme tant fort fu/
 610 lour seignur./ Si vous requer par amur/
 513 d'argent e d'or,/ Ore suy tant demené/
 861 de asur,/ Mes le hauberc fust fort e dur/
 599 tesmoinage:/ Si ceo poet estre aparceu/
 302 par tant defendi/ Qe nul ne fut si hardi/
 848 Quant vint a sa regioun,/ La gent
 155 se ala muscer;/ Meuz velt estre pendue/
 1169 Amys./ Jeo espoir par la grace de Dé/
 504 pesant./ Le seneschal se leve ataunt,/ de pité./ Suz cel n'ad home que la fust/
 625 vint sur cherté/ De pain, vin e de blé./
 106 semblant,/ Come jeo memes iceo fuisse,/ de moy;/ Car jeo vous dy en bone foy/
 516 claime lasse cheitive;/ Moult luy poise
 519 ne puis aler a pié;/ Priez a lui par charité/
 1151 l'ad escoté./ Quideit que ele fuit devee/
 267 senti,/ De son grant mal est il garri,/ vint errant:/ Forment l'ad feru du pé./
 1100 onqe si bel chivaler ne vist./ Touz ceus
 997 sourdra la medié./ Le un l'autre desaffient/
 221 mes li envoya/ Par son mestre botiler,/ 588
 519 Enresoner li voleient,/ Mes pur poer
 702 Dout fut comaundé al baronage/
 725 Mes la resceit come sa mullier./ Ne voleit
 237 dont cel mal ly avenut./ Ele comaunda
 925 Entre autres les deuz vount./ Ne sciet,
 822 guerpeient;/ Ne trova serjant ne esquier/
 917 long li enmena./ Par la terre tant alerent/
 173 se mariat:/ Une gentile femme esposat/
 346 'Sire,' le seneschal respond,/ Par celi
 740 quidoit qe ceo fu Amys./ Mes Amillioun,
 549 Amillioun voloms parler./ Le jour vint
 183 ester,/ E de sir Amys vus voil counter,/ Mirabele,/ Mes Florie fust apelé/ De ceux
 432 Amis se retret e purpensa/ Com celi
 561 lour juggement,/ E si jura grant serement/
 866 donque appelaist,/ E pur Deu li conjurast/
 517 iceo fuisse,/ Qe ele encheson ne troesse/
 897 Qe mes en le pais [ne] vendreit/ De l'hure
 384 Moult bien me defenderay/ Devant
 1201 Puis feistes jurer mon serjant/
 891 par charité/ Qe ele me face une ane doner/
 502 Qe jeo unke ne li forfiz,/ E quiderount
 501 fray,/ E le serment lealment juray/
 275 e dist: 'Coment/ Vous ay amé celement?/
 654 chevaler./ Amillioun fust bien anuié/
 415 de ly pité,/ Mes li sire fust tant yrré/
 839 s'il ad dolur./ La mort desire plus
 621 cop parlent durement:/ Dist l'un a l'autre
 785 Si fist tot son commaundement;/ Tant
 611 tant fort fu/ Qe de la mort l'ad deffendu,/ Amillioun atant/ Ferir li vint par tel ayr/
 666 vint par tel ayr/ Qe le feu fist tresailleur,/ 402
 667 doute quoy pur pour,/ E trestouz virent
 954 Qe ert corteis chevaler./ De chescun mes
 1006 mains sunt allassé,/ Donqe commaund
 qe ceo fu Amys./ Mes Amillioun, qe fu pensifs,/ Bien entendi
 qe ceo fuit Amys;/ De cors resemblast e de vis./ Bons armes
 Qe ceo fuit lour dreit seignur./ E la dame, quant li veu aveit
 Qe checun pur mesel li tint./ La dame li tint trop en despit
 Qe cher serra achaté!'/ Outre la table saut ataunt,/ A cel povre
 Qe d'angusse pale devint;/ Purpense sei q'il se vengereit
 Qe de la mort l'ad deffendu,/ Qe le coup ala descendant/ Si
 Qe de ma femme facez atant,/ En fet e en semblant,/ Come jeo
 Qe de ma vie est grant pité./ Si jeo de feim morir deveray,/ De
 Qe de mal l'ad garri./ Le seneschal li referri;/ Lour launces
 Qe de moy feisiez vostre dru,/ Ne serrioms nous en fyn honye
 Qe de rien li regardast,/ Ne que manger li donast./ L'enfant
 qe de sa terre furent/ Od grant nobley li receurent;/ Trestouz li
 Qe de son seignur estre veue./ Sire Amillioun fist com leal
 Qe del feloun serrom vengé,/ Qe vus quideit aver hony./ Mes
 Qe dolent est e corucé/ Quant combatre deit a pié;/ A plus tost
 Qe dolur de la pité n'en eust./ Paumez sunt chaeuz a terre
 Qe donke ne poient home trover/ Qe rien lour voille doner
 Qe ele encheson ne troesse/ Qe illoke est autre de moy;/ Car
 Qe ele [est] mout aparcevante!'/ E sire Amist trestut le graunte
 qe ele est vive./ Ne saet ele pas quoi ele poet fere;/ Si se met
 Qe ele me face une ane doner/ Qe jeo puisse chivacher.'
 Qe ele pout pur hounte discoverir/ Sa volonté e son desir./ De
 Qe en corps ne en face/ De maladi ne appareust trace./ En
 Qe en la bowe est il versé./ Les chevalers vindrent del deys
 qe en la sale estoient/ De sa beauté matire aveient./ Est venuz
 Qe entre eus nul amur ne eyent./ Ore s'en vount les chivalers
 Qe ert corteis chevaler./ De chescun mes qe l'em li porta/ La
 qe eus avoient,/ Ne li poeient assuager/ Q'il ne li velt ocier
 Qe eus feussent al mariage./ L'endemain a terce sonant/ Touz i
 qe eus furent aparceu/ Coment son frere eust deceu./ La
 qe eus se teysent/ E d'autre chose s'enveysent./ En cel langur
 qe eus veit, qu'il sount;/ Si eus fuissent en la cort conuz,/ A
 Qe ewe froide li vodra doner./ Trestouz li ount deguerpi,/ Estre
 Qe feym e me[s]aise troverent/ Desques eus vindrent el pais
 Qe fille d'un conte estoit,/ E pere e mere perdu avoit;/ Pur
 qe fist le mound,/ S'il le velt denier./ Com leal chevaler le
 qe fu pensifs,/ Bien entendi en son corage/ Fere ne li velt
 qe fuist assis/ Entre le seneschal e Amys./ Le seneschal se fist
 Qe fuit demoré od son seignur/ E meuz li servi de jour en jour
 qe furent de sa meisné./ Florie, quant le congé en eust,/ S'a
 qe grant mester en a./ De son frere li sovynt;/ Tantost a la
 Qe il memes les verreit arder./ Ataunt virent vener un chevaler
 Qe illoeç morir le lessast,/ E yl en son pais alast./ L'enfant
 Qe illoke est autre de moy;/ Car jeo vous dy en bone foy/ Qe
 qe issi serreit./ Hors del pais s'en vont;/ Jamés quident qe
 qe jeo denieray.'/ Le seneschal atant se vint/ E son gaunt en
 Qe jeo ne deusse en mon vivant/ En ceo pais revener,/ Ne pur
 Qe jeo puisse chivacher.'/ L'enfant a la dame ala,/ Son
 qe jeo soye Amys./ Jeo espoir par la grace de Dé/ Qe del
 Qe jeo unke ne li forfiz,/ E quiderount qe jeo soye Amys./ Jeo
 Qe jeo vus ay doné m'amur?/ Ja en ma vie après ceo jour/ Ne
 Qe la bataille ad tant duré;/ Un coup li voudra ja doner/ Qe li
 Qe la n'out home taunt hardi/ Qe oseit un mot parler pur ly
 qe la vie;/ Nul solas ad ne compaignie:/ N'ad home a qui
 qe le chivaler/ Ses armes sout trop bien porter,/ Mes son coup
 qe le counte enmaladi./ E quant longtemps out langui
 Qe le coup ala descendant/ Si chiet sur l'arsoun devant
 Qe le feu fist tresailleur,/ Qe le healme fust tot purfendant./ En
 Qe le healme fust tot purfendant./ En la cervele cola le brank
 qe le seignur/ Haist Amys desqe a la mort,/ Fust ceo a dreit
 qe l'em li porta/ La moyté lor envoia./ Amis une coupe avoit
 qe l'en ly lyast/ E en sa prison li gettast./ Amillioun donque

770 si s'en aloit/ En son pays vers s'amye/
 1015 'par la foy qe vus deveze/ A Amillioun,
 958 Ke mout ferement amoit,/ Car Amillioun,
 966 Qe, si en une mayn estoient,/ N'est home
 225 la chaumbre a la damoisele/ Del botiler
 974 vin,/ Si l'aportez a ceo frarin,/ Au povres
 796 ad mester./ Vus dirrai de sire Amillioun/
 645 Mes la char n'ad pas toché./ Amyllioun,
 478 Mes dist q'il voleit visiter/ Son frere
 230 son per./ La pucele en prist tendrour/
 640 doner/ Amount el heaulme peint de flurs,/
 259 que ele ama./ Tant parla e taunt demora/
 808 compaignon./ Ove sa feme tant demorra/
 1045 encombré/ Qe son frere desconusseit/
 205 del pais/ En sa chambre noeф e dis,/
 313 Allas! Q'encusé serrount,/
 166 a ses esquiers./ E il memes si bel estoyt/
 969 l'un de l'autre deviser deust./ [...] /
 1145 od li le counte Amis,/ Tel ad el quer dolur/
 218 prisé./ Entre eux communement disoient/
 563 arder./ Ataunt virent vener un chevaler/
 287 dur vus bateray:/ A mon pere le conteray/
 457 Qe onke de nuyt ne se reposa,/ Tant
 1196 e defet,/ Pur ceo n'avojeo pas forfait,/ 'A, Deu!' dit il, 'qe onqe ne menti,/ Doin
 1078 Le juggement averez saunz faille,/
 427 celer son noun —/ 'Jeo ne suy pas celi
 751 chaungé,/ Donqe quideront de verité/
 511 son quer crever./ 'Sire,' dit, 'par la foy
 1014 grace de Dé/ Qe del feloun serrom vengé,/
 505 sa vie ameit./ Une fille avoit la dame/
 192 Car de li se veut venger./ Tant fuit quise
 1180 s'amour;/ Si forment comensa a amer/
 232 dameyseals,/ E q'il fuit tant bon chivaler/
 228 vous dirray,/ Sicom en escrit le trovay;/
 7 q'il fuit en vie./ Pur ceo fut tot appareillé/
 1149 ne doner./ Mes le hanap tant ameyt/
 963 Coment e quant s'assemblerunt./ Allas!
 312 crere/ Si jeo deisse la moyté/ Del doel
 110 plus aider./ Donqe comencea a purpenser/
 1156 departi,/ Si ala parler a son amy/ Amys,
 69 ore alé pensant/ E de misire Amillioun/
 122 Est veuz li mestre botiler,/ Amys,
 49 demorra/ Atant qe son pere fina,/
 1032 mercy!/ Pur icel Deu qe onqe ne menti/ E
 44 fist justizer,/ Mestre mareschal sur touz/
 336 Que tant amey e tant ting cher,/ En
 108 Paumez sunt chaeuz a terre;/ N'est home
 590 ne eyent./ Ore s'en vount les chivalers/
 1028 Mais l'enfant avant saillist:/ Uwein,
 270 De respondre se purpensoit/ Com celi
 1
 946 Mes sitost com il veu avoient/ Celi
 190 mye./ Li quens une dame aveit/
 907 doner./ Einz ne pount plus entendre/
 100 Amez bien vostre seignur,/ Ne soffrez
 1147 se tint enfyn honie:/ Ne quideit pas
 227 ert beaus/ E tres gentil dameyseals,/ E
 1023 espeie demaunda,/ E il memes dist
 271 purpensoit/ Com celi q talent ne aveit/
 943 grant suspir;/ Cil dit q'il out un seignur/
 1003 qe eus avoient,/ Ne li poeient assuager/
 633 son destrer;/ Combatre voleit per a per,/

Qe tant ama come sa vie./ Ore est mout en astage,/ Car cru li
 qe tant amez,/ Ne me facez enprisoner,/ Mes le chef me faites
 qe tant amoyt,/ Cele coupe li donait./ Amillioun mesmes
 qe tant de l'overaigne seust/ Qe l'un de l'autre deviser deust./ [
 qe tant ert beaus/ E tres gentil dameyseals,/ E q'il fuit tant
 qe tant est mesaysé./ Mes le hanap soit bien gardé:/ En son
 Qe tant estoit leal compaignon./ Com il en son lit gisoit,/ Sa
 qe tant fu de vigour,/ Meint coup li dona ceo jour./ La bataille
 qe tant pout amer./ Trusser s'en vount en mynyt;/ As autres
 Qe tant vers li ad getté s'amour;/ Si forment comensa a amer
 Qe tost abati les colurs./ Sur le senestre le coup descent
 Qe tot son corage discovery:/ E dit pur l'amur de luy/ Morust
 Qe tot son pel ly arracha./ Si malade e si laid devint/ Qe
 Qe touz biens li fesoit./ Trestouz plurent de pité./ Amis s'est
 Qe touz fesoient sa volonté;/ De countredit n'en ad parlé./ Un
 Qe trestot oy un vassal/ De la meisnee le seneschal./ A son
 Qe tut le pays le disoyt/ Si Deu mesmes le eust purtret,/ Plus
 Qe unke lesser le voleit./ Quant le counte ad pres mangé,/ Son
 Qe unque femme ne out greignur./ Donqe se tint enfyn honie
 Qe unque si bel chevaler ne veient;/ E li quens même le dist
 Qe vers eux fist grant aleure,/ Poignant plus qe amblure;/ Del
 Qe vers li estes e moy forfet,/ E serrés des chivals destret
 qe vers une vespré/ En un grant boys est alé./ A force ly
 Qe vivre deusse bien du mien./ Dame, sovenez vous del bien
 qe voir soit mon sounge./ Mes ore, soit voir ou mensoung
 Qe vostre fille fust destiné! / La dame lermist pur pité,/ Prist
 qe vous quidez;/ De vostre espoir failli avez./ A vous le peus
 Qe vous seiez lour seignur./ Si vous requer par amur/ Qe de ma
 qe vus deveze/ A Amillioun, qe tant amez,/ Ne me facez
 Qe vus quideit aver hony./ Mes chivalers qe sunt icy/ Od vous
 Q'e le amoit come s'alme./ Mout fut gentile la damoisele
 q'e le fut trové/ Mes de pour se fuist muscé./ Sitost com vist
 Q'e le ne pout boyvre ne manger./ Les damoiseles qe od li
 Q'en la court n'out son per./ La pucele en prist tendrour/ Qe
 Q'en la court un counte estoient/ E des armes li servoient
 Q'en le mois deust estre esposé./ Mes ore se claime lasse
 Q'en tot son anguisse guerpir ne voleit./ Les deus hanaps
 Q'encusé serrount,/ Qe trestot oy un vassal/ De la meisnee
 q'entre eus oint demené./ Li un s'en va ver son pays,/ Li
 Q'entre nonaynes se muscereit;/ Son seignur jamés ne
 q'estoit son compaignoun,/ En bone foy sauriz treason./ De
 Qi a vous ert leal compaignon./ Ne volez unke nul autre amer
 q'i bien sout son mester:/ De un drap vestu esteit,/ La coupe
 Qi de soi n'ad autre heyr./ Quant Amillioun sout pur veit/ Qe
 q'i en croiz suffri passioun,/ C'est mi sires, sire Amillioun
 Qi fort esteit e coragous./ De cel mester longtemps servirent
 q'i me porrai affier?/ Si est grant desert venu:/ Ma fille est pute
 q'i me vousist crere/ Si jeo deisse la moyté/ Del doel q'entre
 Qi mult sunt orguillous e tiers./ Ne avera mester de acord
 q'i ne poet suffrir/ Qe son seignur deust morir./ En haut cria
 q'i talent ne aveit/ Q'il mesprist vers son seignur./ Estez vous
 Qi voet oy chaunzon d'amur,/ De leauté e de grant doucour
 q'il clama pur seignur,/ Touz li tenoient a folur./ Mes de
 Q'il come sa vie ameit./ Une fille avoit la dame/ Q'e amoit
 Q'il covient lor asne vendre/ Pur cink souz e diz e maille;/ De
 q'il eit deshonur!/ Mout li deveze amour e foy,/ Car bien ad
 q'il fuit en vie./ Pur ceo fut tot appareillé/ Q'en le mois deust
 q'il fuit tant bon chivaler/ Q'en la court n'out son per./ La
 q'il le tuera./ Tost l'espeie li fust baillé./ Puis l'ad en haut
 Q'il mesprist vers son seignur./ Estez vous Florie par grant
 Q'il ne lerreit pur estre emperor./ Qy ceo fuit li demaundement
 Q'il ne li velt ocier./ Quant batu li out e defolé/ Que ses
 Q'il n'eust de son cheval envie./ Tant fist il par sa cortesie

160 grant baronage!/ N'ust od ly ja si privé/
 824 li ount deguerpi,/ Estre un enfant
 942 servir./ E il getta un grant suspir;/ Cil dit
 914 Amillion fist dedeinz cocher,/ A plus
 627 Quant combattre deit a pié;/ A plus tost
 756 Tot lour estre huy ad counté,/ E puis dit
 525 Ore Deus li soit en aye/ E doigne
 1142 aveit oy/ Qe son seignur estoit garri/ E
 145 Qe d'anguisse pale devint;/ Purpense sei
 565 Poignant plus qe amblure;/ Del feu
 477 Unke ne lour dist autre noveles,/ Mes dist
 326 autre chose ne dirra[i] mie;/ Ne croy pas
 1042 vie hiet, sa mort desire,/ La hure maudist
 766 ne fuit aparcevant/ De lour estre tant ne
 728 eust deceu./ La damoisele fuit ben paé/
 580 arma./ En son corage fust bien paié/
 710 La pucele fut amené/ A l'huis de moster./
 50 son pere fina,/ Qi de soi n'ad autre heyr./
 113 Li autres remeint tristes e pensifs./
 1012 hanap out perdu/ E coment est avenu./
 495 de mult grant resoun:/ Beau frere,
 1004 li poeient assuager/ Q'il ne li velt ocier./
 1134 ray del solail s'ensoierent./ Pere e mere,
 20 unke semblaunt/ De companie tant ne
 626 se leve atauant,/ Qe dolent est e corucé/
 94 si mal noun;/ Car piz ne porra avenir/
 1136 Deu graces en rendirent./ Sire Amillioun,
 757 ad counté,/ E puis dit q'il prendra congé,/
 553 fist armer,/ Puis demaunda le botiler;/ E
 539 Par riens, si par la robe noun./ Amis,
 87 trover/ Par quoi il vus pout grever./ Mes
 1140 prist congé,/ En son pais s'en est alé./
 1166 De lour venue ne saveint mie./
 1163 nul fut aparcevant/ De lour venue tant ne
 265 avoit,/ Jamés home ne amereit./ Amis,
 574 Jeo deffendray nostre dreit./ Le quens,
 253 De ceux qe furent de sa meisné./ Florie,
 970 [...] / Qe unke lesser le voleit./
 1038 chacé./ Si le occiez, vous fetes peccché./
 531 Qe ceo fuit lour dreit seignur./ E la dame,
 786 Tant qe le counte enmaladi./ E
 872 dolur/ Qe sanz vous estre emperour./
 492 retint, si li diseit./ Fu la joie, fu la pité./
 789 s'alme;/ E tost après morust la dame./
 854 a son seignur,/ E il dit: 'C'est mal dolur/
 407 pur li parler,/ E le counte li velt venger./
 509 A ma court od vous irround./ E
 850 Ne que manger li donast./ L'enfant,
 1066 avoyt/ Tant com il memes desiroit./
 1043 desire,/ La hure maudist q'onqe fu nee,/br/>
 311 Dount devisent la menere/ Coment e
 125 amer/ Ne semblant a nul muster;/ Mes
 619 Le seneschal a terre chay./ Qe pout,
 327 pas q'il y avoit vilaynie./ Le seneschal,
 132 si emploié/ Qe ne puisse nul autre amer/
 707 chevalers,/ Borgés, sergeans e esquiers./
 1075 Si sain devendreit com pessoun./
 154 meisné./ Ore vous dirrai de sir Amillioun:/
 280 vengez!/ Certes ore suy jeo bien honye/
 780 estre botiler./ Consailler fut fait e sire;/
 349 Com leal chevaler le voil prover,/ E cil
 382 leal;/ Si nul vous ad de moy counté/ For
 257 Ala par congé de sa mere/ Parler a Amys

Q'il n'out dis chivalers de maisné./ Tant fuit de sa gent amé
 q'il out norri./ Fiz de un counte, son parent,/ Od li tint
 q'il out un seignur/ Q'il ne lerret pur estre emperur./ Qy ceo
 q'il pout li eysa,/ De long en long li enmena./ Par la terre
 q'il pout se vengereit,/ E Amyllioun a pié se mettreit./ Mes il
 q'il prendra congé,/ Quant il eust le congé pris,/ E seignurs
 q'il puisse bien fere!/ Grant chose enprent pur son frere
 q'il revint el pais/ E od li le counte Amis,/ Tel ad el quer dolur
 q'il se vengereit/ Sitost com son leu verreyt./ Amis lessa le
 q'il vist fut grantment effraé/ E de les dames eust grant pité
 q'il voleit visiter/ Son frere qe tant pout amer./ Trusser s'en
 q'il y avoit vilaynie./ Le seneschal, quant sout la covine
 q'onqe fu nee,/ Quant pecché l'ad ensi encombré/ Qe son
 quant./ A plus tost qe Amys poeit,/ Congé ad pris, si s'en
 Quant ad baroun a volonté./ Le counte tynt feste plenere/ Une
 Quant ad le chivaler si bien armé./ Puis li dist suef en son
 Quant Amillioun deust son noun nomer,/ Si se purpensa
 Quant Amillioun sout pur veir/ Qe son pere fuy affyné,/ De
 Quant Amis de palmisoun levoit,/ Vers la court sei retorneyt
 Quant Amillioun li oist nomer,/ De dolur pout son quer
 quant avez forfait/ E le serment avez fet,/ Jeo me doute qe pur
 Quant batu li out e defolé/ Que ses mains sunt attassé,/ Donqe
 quant ceo virent,/ A Deu graces en rendirent./ Sire Amillioun
 quant./ Ceus de la court avoint envie/ De lour estre e de lour
 Quant combattre deit a pié;/ A plus tost q'il pout se vengereit
 Quant compaignoun velt autre trahir./ A tote gent bel
 quant fust sané/ E de son grant mal netté,/ Sitost com porra
 Quant il eust le congé pris,/ E seignurs ove ly desqe a dis
 quant il ne pout estre trové,/ La dame fuit pris e durement lié
 quant il se ajouta,/ Leez la dame se coucha;/ Sa espeie nue
 quant jeo serray departi,/ Donke vus serra il fort enemy
 Quant la dame aveit oy/ Qe son seignur estoit garri/ E q'il
 Quant la dame oi counter,/ En une chaumbre se ala muscer
 quant./ La meisnee fust endormie;/ De lour venue ne saveint
 quant l'ad escoté,/ Quideit que ele fuit devee/ Qe ele pout pur
 quant le chevaler veit,/ Bien quideit qe ceo fuit Amys;/ De
 quant le congé en eust,/ S'a hasté a plus que ele pust:/ Ove
 Quant le counte ad pres mangé,/ Son botiler ad appellé
 Quant le counte ceo oist,/ Tost estendu a terre chaist:/ Bate
 quant li veu aveit,/ Qe Amillioun fuit bien quideit./ Les deuz
 quant longtemps out langui,/ Morust e a Deu rendist s'alme
 Quant l'un l'autre ad regarde,/ Mout est entre eux grant pité
 Quant l'un od l'autre est aquointé!/ Donke li dit sir Amillioun
 Quant mortz furent pere e mere,/ Il ne eust soer ne frere/ For
 Quant n'avom a boivre ne a manger;/ Ne poums icy plus
 Quant ne pout trover plevine,/ Pausmé chei la meischine
 quant nous averoms robes chaungé,/ Donqe quideront de
 quant oy cel comaund,/ Ne sout ou quere lour vivre avant
 Quant passa le temps issi,/ Qe li quens une noyt dormi,/ Une
 Quant pecché l'ad ensi encombré/ Qe son frere desconusseit
 quant s'assemblerunt./ Alias! Q'encusé serrount,/ Qe trestot
 quant s'en est departi,/ Requer qe soyez mon amy,/ Mon ami
 quant son cheval li ment?/ Del cop parlent durement:/ Dist
 quant sout la covine/ Entre Amis e la meschine,/ L'endemain
 Quant talent me doint e voler./ Si Amilliouns soit alé,/ Son
 Quant touz furent assemblé,/ La pucele fut amené/ A l'huis de
 Quant veu avoit l'avisioun/ E de cel sounge resperi,/ 'A, Deu
 Quant vint a sa regioun,/ La gent qe de sa terre furent/ Od
 Quant vous me dedeignez avere amye!/ Tant gentils hommes
 Quant q'il voleit porreit dire./ Tenu fut par tote la terre
 que de nous est vencu/ Soit detret e puis pendu!'/ E dit li quens
 que dreit a vérité,/ Moult bien me deffenderay/ Devant qe jeo
 que ele ama./ Tant parla e taunt demora/ Qe tot son corage

266 Amis, quant l'ad escoté,/ Quideit
 262 de luy/ Morust, s'il n'eust de li pité/ E
 254 quant le congé en eust,/ S'a hasté a plus
 18 de faiture./ Taunt s'amerent fierement/
 105 e crient de pité./ Suz cel n'ad home
 344 Est ceo voir, sire seneschal?/ Jeo quide
 636 par sa cortesie:/ Meuz a pié l'estut ferir/
 712 se purpensa moult estreit;/ Oyst une voiz
 827 son parent,/ Od li tint fer[m]ement,/ E dit
 240 s'enveysent./ En cel langur demora/ Tant
 843 poet son dolur moustrer,/ Fors a l'enfant
 682 S'il eust plaie li demaunda;/ Cil dist
 235 ceo fuy ly demaunderent./ E ele dit
 849 ne fut si hardi/ Qe de rien li regardast,/ Ne
 829 Ne pur vivre ne pur morir./ La dame,
 558 e pleignent lour beauté./ Li quens,
 887 Hors de ceo pais irroms/ A plus tost
 389 Com home de grant vasselage,/ E dit
 396 atant./ E doneq jugga le baronage/
 1112 Mes vous desconforteray./ Sachez, dame,
 1005 li velt ocier./ Quant batu li out e defolé/
 263 n'eust de li pité/ E que ele fust de ly amé,/ /
 335 mercy,/ Si ceo traitour m'ad issi hony,/ /
 298 Vers vous ne mesprendroie mye/ Par
 356 un lit trovat./ 'Dame,' dit il, 'ne savez/
 776 De .iii. countez e demy,/ Si tost come li
 331 Acounté est tot lor oeuvre al counte./ Li
 394 Li un countre l'autre tendi son gant,/ E li
 219 Qe unque si bel chevaler ne veient;/ E li
 351 venu/ Soit detret e puis pendu!'/ E dit li
 574 Jeo deffendray nostre dreit./ 'Le
 558 gent:/ Plurent e pleignent lour beauté./ Li
 1034 C'est mi sires, sire Amillioun!/ Sire
 240 En cel langur demora/ Tant que li
 214 un drap vestu esteit,/ La coupe devant li
 189 Mes Amys ne l'aparce[u]st mye./ Li
 208 parlé./ Un jour par aventure avint/ Qe li
 1067 Quant passa le temps issi,/ Qe li
 423 En son plegge devendreit./ 'Voir,' dit li
 696 S'il vous velt esposer,/ Li porriez de
 1060 sovent a ly est alé,/ Qe li ama molt de fin
 1013 li oist nomer,/ De dolur pout son
 1144 el pais/ E od li le counte Amis,/ Tel ad el
 277 ma vie après ceo jour/ Ne serray en mon
 134 e voler./ Si Amilliouns soit alé,/ Son
 118 Qe semlaunt d'amur li fesoyt,/ Mes de
 901 Owein, le leal enfant,/ Lour viaunde va
 851 quant oy cel comaund,/ Ne sout ou
 1009 doncne maundereit/ E la verité de li
 841 solas ad ne compaignie:/ N'ad home a
 842 N'ad home a qui parler,/ Ne a
 91 felonie!/ Ne aiez od li compaignie,/ Car
 344 Est ceo voir, sire seneschal?/ Jeo
 505 Dé/ Qe del feloun serrom vengé,/ Qe vus
 318 espleiter./ Le seneschal fut molt lee;/ Ore
 532 li veu aveit,/ Qe Amillioun fuit bien
 1147 greignur./ Doneq se tint ensyn honie:/ Ne
 575 Le quens, quant le chevaler veit,/ Bien
 266 ne amereit./ Amis, quant l'ad escoté,
 899 serreit./ Hors del pais s'en vont;/ Jamés
 510 nous averoms robes chaungé,/ Doneq
 502 juray/ Qe jeo unke ne li forfiz,/ E
 529 od la meisné,/ Cum li sire e envoyé,/ E

que ele fuit devee/ Qe ele pout pur hounte discoverir/ Sa
que ele fust de ly amé,/ Que si de ly amour ne avoit,/ Jamés
que ele pust:/ Ove une soule chambere/ Ala par congé de sa
Que freres se firent par serement;/ As autres ne fesoient unke
que la fust/ Qe dolur de la pité n'en eust./ Paumez sunt chaeuz
que l'avez dit pur mal.'/ 'Sire,' le seneschal respond,/ Par
Que lessir son chival morir./ Le seneschal, qe nel pout amer
que li disoit: —/ Qe nul ne oist fors li noun —/ 'Lessez
que li ne velt guerpir/ Ne pur vivre ne pur morir./ La dame, que
que li quens s'en ala/ A boys juwer en venerie,/ Od ly tote sa
que ly serveit./ Amillioun com plus viveit,/ Tant plus leid
que mal n'en a:/ Plus est sain qe pesson de mer./ Atant li
que malade fuit,/ Ne sout dont cel mal ly avenut./ Ele
que manger li donast./ L'enfant, quant oy cel comaund,/ Ne
que mout est ennuyé,/ Ambedeus s'est hors getté;/ E le
que mout fuit irré,/ Ala hastaunt lour juggement,/ E si jura
que nous pooms./ Mes jeo ne puis aler a pié;/ Priez a lui par
que od li combat[er]eit/ E la verité provereit./ Est veus tote la
Que plegges troverent en hostage./ Le seneschal ad taunz
que pur sa saunté/ Voz deus fiz ai estranglé./ La dame ses
Que ses mains sunt allassé,/ Doneq commaund qe l'en ly lyast
Que si de ly amour ne avoit,/ Jamés home ne amereit./ Amis
Que tant amey e tant ting cher,/ En qì me porrai affier?/ Si est
que i vous en averezy vileny/ Ne de vostre corps hontage
Quele fille vus avez!/ Ele est ja femme de mester,/ E ceo ad
que ns est fini./ Ore est amé e tenu cher;/ N'estoet mes estre
que ns fu de ire enflé./ Ne parla mot une tuwé./ 'Adonke,' dit il
que ns [les] resceust atant./ E doneq jugga le baronage/ Que
que ns meme le dist/ Qe onqe si bel chivaler ne vist./ Touz
que ns: 'Ore vaut meins!/ Ceste play m'est laid e vileins.'
que ns, quant le chevaler veit,/ Bien quideit qe ceo fuit Amys
que ns, que mout fuit irré,/ Ala hastaunt lour juggement,/ E si
que ns, remembrez, Amys,/ Com vous li soleiez amer jadis
que ns s'en ala/ A boys juwer en venerie,/ Od ly tote sa
que ns teneit./ Mout fu beals e aligné,/ Des chivalers fuit
que ns une dame aveit/ Q'il come sa vie ameit./ Une fille
que ns une feste tynt/ Par un jour de l'Ascensioun;/ La fuit
que ns une noyt dormi,/ Une voiz oy qe li disoit/ Qe
que ns, volez ensy?/ E jeo lealment vus dy/ Qe, s'il defaut a la
quer amer?/ E ele respouint moult simplement:/ 'Tot soit a
quer/ Comme si ele fust sa soer;/ Plus ne li poet fere
quer crever:/ 'Sire,' dit, 'par la foy qe vus devez/ A Amillioun
quer dolur/ Qe unque femme ne out greignur./ Doneq se tint
quer heytz/ Si jeo ne soye de vous vengez!/ Certes ore suy
quer me est abandoné,/ E jeo ly aym e ameray;/ Pur nul autre
quer moy li ameit./ 'Si[re] Amis,' dit il, 'bien veignant!/ De
querant,/ Mes tant lour vint sur cherté/ De pain, vin e de blé
quer e leur vivre avant./ Tantost counta a son seignur,/ E il
querreit/ Qe son hanap out perdu/ E coment est avenu
qui parler,/ Ne a qui poet son dolur moustrer,/ Fors a l'enfant
qui poet son dolur moustrer,/ Fors a l'enfant que ly serveit
qui s'acompanie od feloun/ Ne porra trover si mal noun;/ Car
quideit que l'avez dit pur mal.'/ 'Sire,' le seneschal respond
quideit aver hony./ Mes chivalers qe sunt icy/ Od vous
quideit bien estre vengé/ De vostre corteis botiler;/ Tot lour
quideit./ Les deuz furent issi d'un senblant/ Ne crerreit home
quideit pas q'il fuit en vie./ Pur ceo fut tot appareillé/ Q'en le
quideit qe ceo fuit Amys;/ De cors ressemblast e de vis./ Bons
Quideit que ele fuit devee/ Qe ele pout pur hounte discoverir
quident qe revendrount./ Owein, le leal enfant,/ Lour viaunde
quideront de verité/ Qe vous seiez lour seignur./ Si vous
quideront qe jeo soye Amys./ Jeo espoir par la grace de Dé
quideront trestouz pur voir/ Qe ceo fuit lour dreit seignur

751 son noun —/ ‘Jeo ne suy pas celui qe vous
 739 acolé/ E par amour sovent baisé/ E en
 460 A force ly covynt dormir,/ Aviz li fust
 137 Pur nul autre ne li lerray/ Par [ceo]
 912 lour fount fere/ Sur deus roes une cyvere/
 925 les deuz vount./ Ne sciet, qe eus veit,
 1096 ad le chef trenché;/ E le sanc de eux ad
 613 chiet sur l’arsoun devant;/ Trestut trencha
 84 Unke ne vous pout amer,/ Mal vus ad
 1180 Car de li se veut venger./ Tant fuit
 1152 luy poise qe ele est vive./ Ne saet ele pas
 86 poer,/ Mes encheson ne pout trover/ Par
 747 dame l’acola tendrement,/ Si li demaunda
 367 E la pute arse en fu!'/ La dame ne sout
 401 doté/ Qe Amys un soul n'en ad trové./
 401 un soul n'en ad trové./ Quoy pur doute
 944 signur/ Q'il ne lerreit pur estre emperur./
 614 Trestut trencha quir e fust/ Com si
 1133 trovez!/ En lor lit s’entrebeyserset,/ Del
 462 un arbre se cocha,/ E son chival a une
 194 Mout fut gentile la damoisele,/ En une
 156 qe de sa terre furent/ Od grant nobleyn li
 927 en la cort conuz,/ A grant honur serreint
 792 la dame qe Amis aveit,/ Pur ceo les terres
 1123 plus n’empsons;/ Si Deu velt, bien lé
 438 enuy monstrer li vout,/ E ala qe mult se
 600 dur/ Qe de mal l’ad gari./ Le seneschal li
 282 hommes m’ount prié,/ E trestouz ai je
 983 vist, si s’esmerveilla./ La coupe durment
 935 homes, qe alere[n]t juaunt/ E les povres
 848 Qe nul ne fut si hardi/ Qe de rien li
 872 estre emperour./ Quant l’un l’autre ad
 1102 ne appareust trace./ En Amis ne out qe
 154 dirrai de sir Amillioun:/ Quant vint a sa
 1184 Ele pauma de pour./ Le signur la fist
 527 Grant chose enprent pur son frere!/ Amys
 112 Li un s’en va ver son pays,/ Li autres
 1034 mi sires, sire Amillioun!/ Sire quens,
 243 ly tote sa chivalrie./ A l’ostel n’i out nul
 245 remis/ Des chevalers for sire Amis,/ E il
 604 firent bien/ Qe l’un ne l’autre ne perdit
 359 botiler./ Pur nostre bien hounte nous
 1115 ses meins a Deu tendi/ E mout graces li
 787 e mere, quant ceo virent,/ A Deu graces en
 662 longtemps out langui,/ Morust e a Deu
 1090 poet trop attendre:/ S’il ne sache le coup
 986 Deu pur li requist./ Atant le counte s'est
 977 hanaps fist un mestre!'/ Arete tantost se
 456 son esquel le vin versez,/ E ma coupe me
 483 issi chevaucha,/ Qe onke de nuyt ne se
 341 parmy le boys passerent/ Ou sire Amis
 512 traite m’ad icy servy./ A touz jours avera
 126 Qe vous seiez lour signur./ Si vous
 1089 nul mustrer;/ Mes quant s'en est departi,
 1086 vint, qe bone fust,/ Sovent Deu pur li
 724 matyn levé./ E al matin est il alé;/ Deu
 394 drew,/ Mes pur ceo ne vont lesser,/ Mes la
 576 l'autre tendi son gant,/ E li quens [les]
 16 Bien quideit qe ceo fuit Amys;/ De cors
 964 Li deus estoient de une nature,/ Angeles
 988 guerpir ne volet./ Les deus hanaps tant
 938 de cel hanap counta/ Coment a soen
 E [s']il fuit auke vestu,/ Gentil home

quidez;/ De vostre espoir failli avez./ A vous le peus bien
quidoit qe ceo fu Amys./ Mes Amillioun, qe fu pensifs,/ Bien
qu'il deust morir./ Desouz un arbre se cocha,/ E son chival a
qu'il est chose esprové/ Pur promesse saunz seurté./ Mes de
Qu'il pout sei meismes enhacer./ Amillion fist dedeinz
qu'il sount;/ Si eus fuisseen en la cort conuz,/ A grant honur
quillé/ E Amillioun dedeinz ad envelopé./ Sitost com le
quir e fust/ Com si rasour trenché le eust./ Parmy l’espaulde
quis a son poer,/ Mes encheson ne pout trover/ Par quoi il
quise q'ele fut trové/ Mes de pour se fust muscé./ Sitost com
quoi ele poet fere;/ Si se met hors de la terre,/ Ne la savera
quoi il vus pout grever./ Mes quant jeo serray departi,/ Donke
quoi pensoit/ E purquei tels suspirs getteit./ Donke dit sir
quoy dire./ Le counte de mal ard e d'yre,/ Devint plus noyr ke
Quoy pur doute quoy pur pour,/ E trestouz virent qe le signur
quoy pur pour,/ E trestouz virent qe le signur/ Haist Amys
Qy ceo fuit li demaundeint,/ Mes sitost com il veu avoient
rasour trenché le eust./ Parmy l’espaulde del chival/ Cola le
ray del solail s’enjoierent./ Pere e mere, quant ceo virent,/ A
raym lya./ Dormist, car mult fu travaillé,/ E son chival fuist
realme ne out plus bele./ Deus countes la desirant,/ E espouser
receurent;/ Trestouz li firent homage./ Ore poet il mener
receuz./ Pres [de] la porte se sount mis,/ E l'enfant, qe bien
recevoit./ Ore vodrom de Amis lesser,/ Qe assez ad dount il
recoveroms./ Atant la parole ount lessé/ E le service Deu
redut./ Ele li dist: ‘Beau sir Amys,/ Trahir me volez, m'est
refirri;/ Lour launces ount as coups brusé/ E si sunt
refusé./ Certes n'estes pas chevaler!/ Mescreaus estes e laner
regarda;/ Pensa cil: ‘Coment poet estre?/ Ces deus hanaps
regardant,/ Veu ount l'enfant bel e parceu,/ E [s']il fuit auke
regardast,/ Ne que manger li donast./ L'enfant, quant oy cel
regarde,/ Mout est entre eux grant pité./ Plurent e decirent
regeir;/ Une bone robe li fist vene/ E a mouster puis li mena
regioun,/ La gent qe de sa terre furent/ Od grant nobleyn li
relever,/ Bel la comence a chastier./ ‘Dame,’ dit il, ‘lessez
remain od la meisné,/ Cum li sire e envoyé;/ E quiderount
remeint tristes e pensifs./ Quant Amis de palmisoun levoit
remembrez, Amys,/ Com vous li soleiez amer jadis./ Grant
remis/ Des chevalers for sire Amis,/ E il remist pur maladie
remist pur maladie./ E la damesele ne targa mye:/ De sa dame
ren./ Amillioun vint par corucer,/ Par ire tret le brank d'asser
rend./ Tray nous ad malement,/ Qe nostre fille ad trahy e
rendi,/ Donqe comence pur fere joie./ ‘Jhesu Crist, le fiz
rendient./ Sire Amillioun, quant fust sané/ E de son grant
rendist s'alme;/ E tost après morust la dame./ Quant mortz
rendre,/ Li autre s'en irra gabbant./ E sire Amillioun atant
repairé./ En une chambre est entré/ Ou les deus enfanz
repeira,/ Al counte de cel hanap counta/ Coment a soen
reportez?/ E celi fist le comaundement/ E vint e porta le
reposa,/ Tant qe vers une vespré/ En un grant boys est alé
reposeit./ Sire Amillioun primes le veit;/ Tost est cele part
reprover/ Si jeo ne me puisse de li venger./ Est ceo voir
requer par amur/ Qe de ma femme facez atant,/ En fet e en
Requer qe soyez mon amy,/ Mon ami e mon bien voilant.
requist./ Atant le counte s'est repairé./ En une chambre est
requist e son haut noun/ A son frere doine garisoun./ La
resceit come sa mullier./ Ne voleit qe eus furent parceu
resceust atant./ E donqe jugga le baronage/ Que plegges
resemblast e de vis./ Bons armes demaunda/ E li memes le
resembleient de faiture./ Taunt s'amerent fierement/ Que
resembleient/ Qe, si en une mayn estoient,/ N'est homé qe
resembleit./ E le counte moult esmerveileit,/ De Amillioun
resembleoit./ Un de eux ly appleyt,/ Demaundast s'il

25 sovent./ De cors de visage bien
 494 li dit sir Amillioun/ Paroles de mult grant
 1076 veu avoit l'avisioun/ E de cel souuge
 273 Estez vous Florie par grant errorr!/ Ele li
 95 velt autre trahir./ A tote gent bel
 345 l'avez dit pur mal.'/ 'Sire,' le seneschal
 197 E esposer la volirent,/ Mes ele a trestouz
 868 lessast,/ E yl en son pais alast./ L'enfant
 269 descoverir/ Sa volonté e son desir./ De
 128 Mon ami e mon bien voilant./' Amis
 697 esposer,/ Li porriez de quer amer?'/ E ele
 293 mal e l'autre mout dota./ Corteusement ly
 490 De son estre saver voleit./ Si li
 290 serray de vous vengé!'/ Atant s'est Florie
 114 de palmisoun levoit,/ Vers la court sei
 431 Moult fu dolente la meschine./ Amis se
 630 Mes il aparceut tost la manere,/ Si ceo
 899 del pais s'en vont;/ Jamés quidant qe
 1202 jeo ne deusse en mon vivant/ En ceo pais
 1188 tel doil demener/ Pur ceo qe sain tuy
 1142 oy/ Qe son seignur estoit garri/ E q'il
 377 est par vous honye./ Mes vous ne irrez ja
 848 tant defendi/ Qe nul ne fut si hardi/ Qe de
 905 blé./ Qe donke ne poient home trover/ Qe
 650 moult bien,/ E sire Amillioun ne dota de
 538 nomen./ Ne par cors ne par fasçon./ Par
 1103 En Amis ne out qe regeir;/ Une bone
 538 cors ne par fasçon./ Par riens, si par la
 26 de visage bien ressembleyent:/ Si de une
 164 trestouz doné/ Bons chevaus e deners,/ E
 509 od vous irround./ E quant nous averoms
 764 En une chambre puis entrerent/ E lour
 731 symaine tot entere;/ Mout i furent des
 521 E sire Amist trestut le graunte./ Lour
 911 Estre ceo lour fount fere/ Sur deus
 570 Qe pur les dames fait esteit?/ Trop vilaine
 1191 tele com deussez estre,/ Par Jhesu, le
 373 trop beal parler;/ Les oils sur ly forment
 222 vist./ Touz ceus qe en la sale estoient/ De
 798 compaignon./ Com il en son lit gisoit,/ I
 1051 levé./ Entre ses braz li ad apporté./ En
 204 grant pleinté/ Des dameseles del pais/ En
 242 ala/ A boys juwer en venerie,/ Od ly tote
 634 de son cheval envie./ Tant fist il par
 981 Le povres, qe mesel fuit en vein,/ Prist
 247 maladie./ E la damesele ne targa mye:/ De
 541 il se ajouta,/ Leez la dame se coucha;/
 89 vus serra il fort enemy./ Gardez vus de
 807 Qe Amis estoit leal compaignon./ Ove
 1178 Od sei les tint e les ama./ Donque fist
 783 tote la terre,/ Tant demeint grant affere./
 466 Amyllioun en son lit giseit,/ Deleez
 583 Qe, s'il pout deffendre la bataille,/ ceo
 1109 fuist sire Amillioun,/ Coment il out
 1071 S'il en fist mettre cure/ [Des] deus fiz de
 161 dis chivalers de maisné./ Tant fuit de
 169 purtret,/ Plus bon ne meu [ne] serra fet./
 1171 veue./ Sire Amillioun fist com leal bier:/
 1211 fut fort durement;/ De loin le virent tote
 487 part torné,/ Tendrement l'ad esveillé./ E
 64 a ly hastivement,/ E il od force de
 254 meisné./ Florie, quant le congé en eust,/ par une fenestre luy porteit/ Chescun jour
 1220

resembleyent: Si de une robe vestu estoient,/ N'est home
resoun: Beau frere, quant avez forfait/ E le serment avez fet
resperi: 'A, Deu!' dit il, 'qe onqe ne menti,/ Doine qe voir
respondi e dist: 'Coment/ Vous ay amé celement?'/ Qe jeo
responez, Grant preu e grant honur avrez!/ Lessez orgoil e
resound, Par celi qe fist le mound,/ S'il le velt denier
resoundi / Ne vout uncore aver mary./ A grant cherté le tynt
resoundi par grant douçur./ 'Merci Deu, mon seignur
resoundre se purpensoit/ Com celi q talent ne aveit/ Q'il
resount aitant:/ 'Sire seneschal, vostre amisté/ En moy
resount moult simplement:/ 'Tot soit a vostre talent!'/ Si
respundi: 'Damoisel, pur Deu mercy,/ Vostre amy suy e
retint, si li diseit./ Fu la joie, fu la pité./ Quant l'un od
returné / Amis moult se purpensa;/ Le un mal e l'autre moult
retorneyt; Sitost com en la porte entra,/ Li seneschal li
retret e purpensa/ Com celi qe grant mester en a./ De son
retret tost arere./ Tost descendri de son destrer;/ Combatre
revendrount. Owein, le leal enfant,/ Lour viaunde va
revener, Ne pur vivre ne pur morir./ Suvenez vous del
revenu. Molt vus fust ben avenu,/ Si feussez tele com
revint el pais/ E od li le counte Amis,/ Tel ad el quer dolur
riant; La mort vous va ja approchaunt!'/ 'Sire,' dist Amys
rien li regardast,/ Ne que manger li donast./ L'enfant, quant
rien lour voille doner./ Einz ne pount plus entendre/ Q'il
rien. Ne savoit [nul] del chaump juger/ Lcquel fuit meilleur
riens, si par la robe noun./ Amis, quant il se ajouta,/ Leez la
robe li fist tener/ E a mouster puis li mena./ La dame, sitost
robe noun./ Amis, quant il se ajouta,/ Leez la dame se
robe vestu estoient,/ N'est home el mound qe les avisast/ Qe
robes a ses esquiers./ E il memes si bel estoyt/ Qe tut le pays
robes chaungé,/ Doneqe quideront de verité/ Qe vous seiez
robes chaungerent;/ Donque ne fuit aparcevant/ De lour estre
robes donez/ Dont les menestrauz furent feffez./ Le counte
robes ount trestot chaungé,/ E Amyllioun s'en est alé;/ Tut
roes une cyvere/ Qu'il pout sei meismes enhacer./ Amillion
roste serreit!/ Armes me fetes tost bailler/ Pur cestes dames
roy celestre./ Tourné me ert a grant vilté/ Si jeo ne soie de
roylla. Amis moult se merveilla./ 'Fel,' fait il, 'Deu vous
sa beauté matire aveient./ Est venuz la novele/ En la
Sa bele dame a li disoit:/ 'Me diez par amour de moy —/ Car
sa chambre li ad couché./ Bainer li fist e seigner,/ Con son
sa chambre noeuf e dis,/ Qe touz fesoient sa volonté;/ De
sa chivalrie./ A l'ostel n'i out nul remis/ Des chevalers for
sa cortesie:/ Meuz a pié l'estut ferir/ Que lessir son chival
sa coupe hors de son sain,/ E l'autre la vist, si s'esmerveilla
sa dame prist congé,/ E ele tantost li ad doné./ Nomor vous
Sa espeie nue entre eus posa./ La dame de ceo s'enmerveilla
sa felonie!/ Ne aiez od li compaignie,/ Car qui s'acompanie
sa feme tant demorra/ Qe tot son pel ly arracha./ Si malade e
sa femme demaunder,/ Car de li se veut venger./ Tant fuit quise
Sa femme ly aime tendrement,/ Si fist tot son
sa femme se cocheit;/ Si s'avint en avisoun/ Kc sir Amys
Sa fille a femme ly dorreyt/ E de tote sa terre heir li freit./ Est
sa garisoun./ 'Dame, certes, jeo vus dirray,/ Mes vous
sa gendrure:/ Si les enfantz tuast/ E Amillioun en le saunk
sa gent amé,/ E lour ad trestouz doné/ Bons chevaus e deners
Sa gent durement l'amerent;/ A femme prendre li
Sa gent fist tot assembler,/ Chasteleins e chivalers./ Serjanz
sa gent/ Outre tote la cité;/ La fu la dame durement lié./ Jamés
sa gent passerent avant,/ E [i]ll entendi nepurquant;/ De son
sa gent/ Vendroit a ly, ceo li jura./ Amyllioun ly mercya
Sa hasté a plus que ele pust:/ Ove une soule chambere/ Ala
sa liveré,/ Coment le counte out comaundé./ Un an vesqui e un

252 Florie fust apelé/ De ceux qe furent de
 152 Od sei le tint plus privé/ Qe nul autre de
 256 une soule chambere/ Ala par congé de
 1233 vesqui;/ En bienfaitz se pena./ Après
 1041 mains, ses cheveuz detire,/ Sa vie hiet,
 724 ceo ne vout lesser,/ Mes la resceit come
 1227 puis femme ne vout aver;/ Nul evr out de
 1007 Donqe commaund qe l'en ly lyast/ E en
 154 vous dirrai de sir Amilloun:/ Quant vint a sa
 1112 desconforteray./ Sachez, dame, que pur
 1061 li ama molt de fin quer/ Comme si ele fust
 155 Quant vint a sa regioun,/ La gent qe de
 584 Sa fille a femme ly dorreyt/ E de tote
 1229 Owein l'enfant bien feffa:/ De tote
 53 ad pris congé,/ Qe li covient garder
 190 mye./ Li quens une dame aveit/ Q'il come
 1041 Bate ses mains, ses cheveuz detire,/ son pays vers s'amyel/ Qe tant ama come
 770 sa chambre noef e dis,/ Qe touz fesoient
 205 devee/ Qe ele pout pur hounte discoverit/
 268 estona./ Ore poet trop attendre:/ S'il ne
 662 vus dirray, / Mes vous desconforteray./
 1112 Ne aiez od li compaignie,/ Car qui
 91 Moult luy poise qe ele est vive./ Ne
 1152 De Amillioun doncq li sovent:/ 'Bien
 991 Del sougne fut moult effraé/ E tost sus
 472 Devint plus noyr ke carboun./ Tost
 370 le col tendist./ Mais l'enfant avant
 1027 E Amillioun en le saunk bainast,/ Si
 981 fuit en vein,/ Prist sa coupe hors de son
 683 Cil dist que mal n'en a:/ Plus est
 1188 Ne deussez tel doil demener/ Pur ceo qe
 221 si bel chivaler ne vist./ Touz ceus qe en la
 787 out langui,/ Morust e a Deu rendist
 192 Une fille avoit la dame/ Q'ele amoit come
 17 Angeles ressembleient de failture./ Taunt
 230 en prist tendrour/ Qe tant vers li ad getté
 769 ad pris, si s'en aloit/ En son pays vers
 1136 en rendirent./ Sire Amillioun, quant fust
 1096 pité:/ Ambedeus ad le chef trenché/ E le
 871 Meuz voil od vous suffrir dolur/ Qe
 311 devisent la menere/ Coment e quant
 1083 bone jorné/ Si par lour saunk poet estre
 1098 dedeinz ad envelopé./ Sitost com le
 1073 Si les enfantz tuast/ E Amillioun en le
 1083 Mout avera fait bone jorné/ Si par lour
 1112 desconforteray./ Sachez, dame, que pur sa
 523 E Amyllioun s'en est alé;/ Tut soul va
 449 E un palefroy mounta/ Saunz garsoun e
 426 defaut a la bataille,/ Le juggement averez
 449 congé ly dona,/ E un palefroy mounta/
 138 qu'il est chose esprové/ Pur promesse
 70 q'estoit son compaignoun,/ En bone foy
 75 'Amis, beau compaignoun,/ En bone foy
 994 Qe cher sera achaté!'/ Outre la table
 142 affere,/ Jeol vous fray od graunt douçour,/
 1165 meisnee fust endormie;/ De lour venue ne
 489 E [i]l entend nepurquant;/ De son estre
 307 Touz deus a nostre talent/ Ne[l]
 1154 fere;/ Si se met hors de la terre,/ Ne la
 442 avys!/ Si vous ne venez a tel jour,/ Vous
 355 dame sur un lit trovat./ 'Dame,' dit il, 'ne
 467 giseit,/ Deleez sa femme se cocheit;/ Si
 s a meisné./ Florie, quant le congé en eust,/ S'a hasté a plus
 s a meisné./ Ore vous dirrai de sir Amilloun:/ Quant vint a sa
 s a mere/ Parler a Amys que ele ama./ Tant parla e taunt demora
 s a mort a Deu ala;/ Amis, son frere, ensement./ Moult se
 s a mort desire,/ La hure maudist q'onqe fu nee,/ Quant pecché
 s a mullier./ Ne voleit qe eus furent aparceu/ Coment son frere
 s a mullier./ Owein l'enfant bien feffa:/ De tote sa terre li
 s a prison li gettast./ Amillioun doncq maundereit/ E la verité
 s a regioun,/ La gent qe de sa terre furent/ Od grant nobley li
 s a saunté/ Voz deus fiz ai estranglé.'/ La dame ses meins a Deu
 s a soer;/ Plus ne li poet fere companie./ Treis anz demena tele
 s a terre furent/ Od grant nobley li receurent;/ Trestouz li firent
 s a terre heir li freit./ Est venuz l'asemblé;/ Ore mes sourdra la
 s a terre li herita,/ Qe bien aveit deservy./ En bone vie
 s a terre/ Qe nul li fist treson ne gere,/ Ne qe autre heyr n'i
 s a vie ameit./ Une fille avoit la dame/ Q'ele amoit come
 Sa vie hiet, sa mort desire,/ La hure maudist q'onqe fu nee
 s a vie./ Ore est mout en astage,/ Car cru li est par mariage
 s a volonté;/ De countredit n'en ad parlé./ Un jour par aventure
 Sa volonté e son desir./ De respoundre se purpensoit/ Com
 sache le coup rendre,/ Li autre s'en irra gabbant./ E sire
 Sachez, dame, que pur sa saunté/ Voz deus fiz ai estranglé.
 s'acompanie od feloun/ Ne porra trover si mal noun;/ Car
 saet ele pas quoi ele poet fere;/ Si se met hors de la terre,/ Ne
 sai', fait il, 'verraiment,/ De mon frere l'ad emblé./ Qe cher
 sailli com home desvee./ Tost appela ses chevalers,/ Ses
 sailli hors de la mayson,/ Si encontrra le botiler./ A li soleit
 saillist:/ Uwein, qj ne poet suffrir/ Qe son seignur deust
 sain devendreit com pessoun./ Quant veu avoit l'avisioun/ E
 sain, / E l'autre la vist, si s'esmerveilla./ La coupe durment
 sain qe pesson de mer./ Atant li vount touz beiser:/ Sur touz
 sain suy revenu./ Molt vus fust ben avenu,/ Si feussez tele
 sale estoient/ De sa beauté matire aveient./ Est venuz la
 s'alme;/ E tost après morust la dame./ Quant mortz furent
 s'alme./ Mout fut gentile la damoysele,/ En une realme ne
 s'ameren fierement/ Que freres se firent par serement;/ As
 s'amour;/ Si forment comensa a amer/ Q'ele ne pout boyvre
 s'amyel/ Qe tant ama come sa vie./ Ore est mout en astage
 sané/ E de son grant mal netté,/ Sitost com porra prist congé
 sanc de eux ad quillé/ E Amillioun dedeinz ad envelopé
 sanz vous estre emperor./ Quant l'un l'autre ad regardé
 s'assemble runt./ Allas! Q'encusé serrount,/ Qe trestot oy
 sauné./ Un jour s'est par matyn levé./ E al matin est il alé
 saunc senti,/ De son grant mal est il garri,/ Qe en corps ne en
 saunk bainast,/ Si sain devendreit com pessoun./ Quant veu
 saunk poet estre sauné./ Un jour s'est par matyn levé./ E al
 saunté/ Voz deus fiz ai estranglé./ La dame ses meins a Deu
 saunz compainie./ Ore Deus li soit en aye/ E doigne q'il
 saunz esquier;/ N'ala pas com chivaler/ Mes ala com pelrin
 saunz faille,/ Qe vostre fille fust destiné! / La dame lermit
 Saunz garsoun e saunz esquier;/ N'ala pas com chivaler/ Mes
 saunz seurté./ Mes de taunt me poez crere/ Qe, si vous eiez de
 saunz treson./ De plur ne se poet tenir,/ Car moult li greve le
 saunz tresoun/ A nostre seignur servy avom./ Pur vostre
 saut ataunt,/ A cel povre vint errant./ Forment l'ad feru du pé
 Sauve chescuny honur./ Li seneschal ataunt se tint,/ Qe
 saveint mie./ Quant la dame oï counter,/ En une chaumbre se
 saver volet./ Si li retint, si li diseit./ Fu la joie, fu la pité
 saver a home de mere nec./ Tant li ad dit e parlé/ Ore sunt a
 saver plus aider./ Donqe comencea a purpenser/ Q'entre
 savez bien qe mon seignur/ Pur vous ad ma mort juré.
 savez/ Quele fille vus avez!/ Ele est ja femme de mester,/ E
 s'avint en avisoun/ Ke sir Amys son compaignoun/ D'un

E sire Amillioun ne dota de rien./ Ne
 mes;/ A ceo fui jeo confés.'/ Par ceo
 Entre autres les deuz vount./ Ne
 riens, si par la robe noun./ Amis, quant il
 la dame oi counter,/ En une chaumbre
 ala;/ Amis, son frere, ensement./ Moult
 Q'en le mois deust estre esposé./ Mes ore
 Plurent e decirent lour draps,/ Sovent
 li fust qu'il deust morir./ Desouz un arbre
 en son lit giseit,/ Deleez sa femme
 al matin al lever./ Chescune nuyt issi
 entre eus tant fierement,/ E de ceo
 Amis, quant il se ajouta,/ Leez la dame
 Taunt s'amerent fierement/ Que freres
 Entre le seneschal e Amys./ Le seneschal
 Mes le counte vient premer;/ Atant
 fuit quise q'ele fut trové/ Mes de pour
 vivere ne pur morir;/ Devant le counte
 son coup est trop pesant./ Le seneschal
 prendre li consaillerent./ Par lour consail
 ois sur ly forment roylla./ Amis moult
 Ne saet ele pas quoi ele poet fere;/ Si
 q'il pout se vengereit,/ E Amyllioun a pié
 comencea a purpenser/ Q'entre nonaynes
 dame, sitost com vew li a,/ Pres de joie
 bone vie longtemps vesqui;/ En bienfaitz
 En bone foy saunz treson./ De plur ne
 Qe oseit un mot parler pur ly./ La dame ne
 mort./ Nul deigne a autre affier;/ Chescun
 Atant s'est Florie retorné./ Amis mout
 Amillioun deust son noun nomer,/ Si
 Sa volonté e son desir./ De respoundre
 Son enuy monstrer li vout,/ E ala qe mult
 hanaps fist un mestre!'/ Arere tantost
 noitz issi chevaucha,/ Qe onke de nuyt ne
 Moult fu dolente la meschine./ Amis
 honur serreint receuz./ Pres [de] la porte
 Car bien ad amé vous e moy.'/ Atant
 cel mal ly avenut./ Ele comaunda qe eus
 De troeffle ne voil jeo parler —/ En pees
 Qe unque femme ne out greignur./ Donqe
 chescuny honur.'/ Li seneschal ataut
 combatre deit a pié;/ A plus tost q'il pout
 d'anguisse pale devint;/ Purpense sei q'il
 fist sa femme demaunder,/ Car de li
 qe jeo denieray.'/ Le seneschal atant
 e ses esquiers./ Touz lour fist mettre lour
 il soleyt,/ E le counte mout li amoyt:/ Od
 Son maltaalent lour pardona,/ Od
 fere/ Sur deus roes une cyvere/ Qu'il pout
 Qe d'anguisse pale devint;/ Purpense
 Amis de palmisoun levoit,/ Vers la court
 Donqe quideront de verité/ Qe vous
 sa chambre li ad couché./ Bainer li fist e
 qe bien fust apris/ E moult ama son
 e grant honur./ De grant terres est il
 Uwein, qe ne poet suffrir/ Qe son
 lour vivre avant./ Tantost counta a son
 trestouz pur voir/ Qe ceo fuit lour dreit
 ennué,/ Ambedeus s'est hors getté;/ E le
 pour se fuist muscé./ Sitost com vist son
 qe talent ne aveit/ Q'il mesprist vers son
 est alé./ Quant la dame aveit oy/ Qe son
 s a v o i t [nul] del chaump juger/ Lequel fuit meilleur chevaler
 s a v o i t sir Amillioun/ Qe Amis estoit leal compaignon./ Ove
 sciet, qe eus veit, qu'il sount;/ Si eus fuissent en la cort
 se ajouta,/ Leez la dame se coucha;/ Sa espeie nue entre eus
 se ala muscer;/ Meuz velt estre pendue/ Qe de son seignur
 se amerent fierement,/ E bone fut la compaignie./ Lor corps
 se claime lasse cheitive;/ Moult luy poise qe ele est vive./ Ne
 se clament cheitif e las;/ Plein[en]t de grant chivalrie/ Le
 se cocha,/ E son chival a une raym lya./ Dormist, car mult fu
 se cocheit;/ Si s'avint en avisoun/ Ke sir Amys son
 se contint/ Desques Amyllioun a meson vynt./ Ore lerrom de
 se coroucent sovent./ De cors de visage bien ressembleyent
 se coucha;/ Sa espeie nue entre eus posa./ La dame de ceo
 se firent par serement;/ As autres ne fesoient unke semblaunt
 se fist armer,/ Puis demaunda le botiler;/ E quant il ne pout
 se fist desarmer./ S'il eust pliae li demaunda;/ Cil dist que mal
 se fuist muscé./ Sitost com vist son seignur./ Ele pauma de
 se genula/ E le chivaler demaunda:/ En hostage pur li serreit
 se leve ataunt,/ Qe dolent est e corucé/ Quant combatre deit a
 se mariat:/ Une gentile femme esposat/ Qe fille d'un counte
 se merveilla./ 'Fel,' fait il, 'Deu vous maudie!'/ Ma fille est
 se met hors de la terre,/ Ne la savera plus aider./ Donqe
 se mettreit./ Mes il aparcut tost la manere,/ Si ceo retret tost
 se muscereit;/ Son seignur jamés ne verrait./ Mes ne li ert pas
 se palma;/ Vint al seignur, si li demaunda/ Si ceo fuist sire
 se pena./ Après sa mort a Deu ala;/ Amis, son frere, ensement
 se poet tenir,/ Car moult li greve le departir./ Donqe parla sire
 se pout tenir/ Ne pur vivere ne pur morir;/ Devant le counte se
 se prent a ferir./ Amillioun fier le seneschal/ D'un grant
 se purpensa;/ Le un mal e l'autre mout dota./ Cortaisement ly
 se purpensa moult estreit;/ Oyst une voiz que li disoit: —/ Qe
 se purpensoit/ Com celi qe talent ne aveit/ Q'il mesprist vers
 se redut./ Ele li dist: 'Beau sir Amys,/ Trahir me volez, m'est
 se repeira,/ Al counte de cel hanap counta/ Coment a soen
 se reposa,/ Tant qe vers une vespré/ En un grant boys est alé
 se retret e purpensa/ Com celi qe grant mester en a./ De son
 se sount mis,/ E l'enfant, qe bien fust apris/ E moult ama son
 se sunt entrebeysés,/ Plurent e crient de pité./ Suz cel n'ad
 se teysent/ E d'autre chose s'enveysent./ En cel langur
 se tienge pur escoter!/ De deus juvenceals vous dirray./ Sicom
 se tint enfyn honie:/ Ne quideit pas q'il fuit en vie./ Pur ceo
 se tint,/ Qe d'anguisse pale devint;/ Purpense sei q'il se
 se vengereit,/ E Amyllioun a pié se mettreit./ Mes il aparcut
 se vengereit/ Sitost com son leu verreyt./ Amis lessa le
 se veut venger./ Tant fuit quise q'ele fut trové/ Mes de pour se
 se vint/ E son gaunt en son poing tint,/ E tendist en noun de
 se e les;/ Unke ne lour dist autre noveles,/ Mes dist q'il voleit
 sei le tint plus privé/ Qe nul autre de sa meisné./ Ore vous
 sei les tint e les ama./ Donqe fist sa femme demaunder,/ Car
 sei meismes enhacer./ Amillion fist dedeinz cocher,/ A plus
 sei q'il se vengereit/ Sitost com son leu verreyt./ Amis lessa
 sei retorneyt;/ Sitost com en la porte entra,/ Li seneschal li
 se iez lour seignur./ Si vous requer par amur/ Qe de ma femme
 seignur,/ Con son corps li fist garder,/ Servir le fist tot a
 seignur,/ Ala demaunding tut entour/ Des povres les estres e
 seignur,/ De .iii. countez e demy,/ Si tost come li quens est
 seignur deust morir./ En haut cria: 'Mercy, mercy! Pur icel
 seignur,/ E il dit: 'C'est mal dolur/ Quant n'avom a boivre
 seignur./ E la dame, quant li veu aveit,/ Qe Amillioun fuit
 seignur e le serjant,/ Sire Amyllioun e son enfant,/ A chef de
 seignur./ Ele pauma de pour./ Le seignur la fist relever,/ Bel
 seignur./ Estez vous Florie par grant error!/ Ele li respondi
 seignur estoit garri/ E q'il revint el pais/ E od li le counte

1169 Meuz velt estre pendue/ Qe de son
 402 quoy pur pour,/ E trestouz virent qe le
 1157 Q'entre nonaynes se muscereit;/ Son
 1184 vist son seignur./ Ele pauma de pour./ Le
 315 De la meisnee le seneschal./ A son
 52 pur veir/ Qe son pere fuy affyné,/ De son
 869 par grant douçur:/ 'Merci Deu, mon
 99 gardez de glotonie!/ Amez bien vostre
 837 estes a povre garisoun!/ Jadis fu sire e
 442 venez a tel jour,/ Vous savez bien qe mon
 942 getta un grant suspir;/ Cil dit q'il out un
 76 En bone foy saunz tresoun/ A nostre
 1107 vew li a,/ Pres de joie se palma;/ Vint al
 511 quideront de verité/ Qe vous seiez lour
 946 com il veu avoient/ Celi q'il clama pur
 773 astage,/ Car cru li est par mariage/ Grant
 877 de grant chivalrie/ Le honur e la
 1217 dames ensample averont/ Coment iour
 758 congé,/ Quant il eust le congé pris,/ E
 79 De une chose soiez garny:/ Le conte ad
 856 Ne poums icy plus demorer./ Jhesu, le fiz
 1117 pur fere joie:/ 'Jhesu Crist, le fiz
 895 Ele li fist un asne aver,/ E pus sus les
 124 Ne volez unke nul autre amer/ Ne
 514 Qe de ma femme facezz atant,/ En fet e en
 687 li fist la dame joie,/ E la pucele totevoie/
 19 par serement;/ As autres ne fesoient unke
 117 porte entra,/ Li seneschal li encontrat/ Qe
 240 En cel langur demora/ Tant que li quens
 768 tost qe Amys poeit,/ Congé ad pris, si
 759 seignurs ove ly desqe a dis,/ En son pais
 1139 com porra prist congé,/ En son pais
 522 robes ount trestot chaungé,/ E Amillioun
 125 Ne semblant a nul mustrer;/ Mes quant
 663 S'il ne sache le coup rendre,/ Li autre
 111 Del doel q'entre eus ount demené./ Li un
 898 De l'hure qe issi serreit./ Hors del pais
 479 Son frere qe tant pout amer./ Trusser
 589 Qe entre eus nul amur ne event./ Ore
 533 fuit bien quideit./ Les deuz furent issi d'un
 314 Qe trestot oy un vassal/ De la meisnee le
 618 en terre aval/ Plus qe plein pé e demy;/ Le
 397 Que plegges troverent en hostage./ Le
 385 deffenderay/ Devant qe jeo denieray./' Le
 143 douçour,/ Sauve chescuny honur./' Li
 399 Ke le conte fut bien payé./ Tant fuit li
 595 se prent a ferir./ Amillioun fiert le
 550 Le jour vint qe fuist assis/ Entre le
 607 coruercer,/ Par ire tret le brank d'asser;/ Le
 649 bien duré/ Desque noune fust passé./ Ly
 317 counter/ Sitost com il poet espleiter./ Le
 343 me puisse de li venger./ Est ceo voir, sire
 116 Sitost com en la porte entra,/ Li
 600 fuist fort e dur/ Qe de mal l'ad garri./ Le
 186 Taunz com Amis meuz li serveyt,/ Le
 657 doner/ Qe li deit par dreit grever./ Mes le
 79 soiez garny:/ Le conte ad seignz un
 637 ferir/ Que lessir son chival morir./ Le
 327 Ne croy pas q'il y avoit vilainie./ Le
 345 quide que l'avez dit pur mal./' Sire,' le
 551 assis/ Entre le seneschal e Amys./ Le
 624 Mes son coup est trop pesant/ Le
 129 voilant./ Amis respount aitant:/ 'Sire
 seignur estre veue./ Sire Amillioun fist com leal bier:/ Sa
 seignur/ Haist Amys desqe a la mort,/ Fust ceo a dreit fust
 seignur jamés ne verrait./ Mes ne li ert pas destiné,/ Car un
 seignur la fist relever,/ Bel la comence a chastier:/ 'Dame,'
 seignur le ala counter/ Sitost com il poet espleiter./ Le
 seignur le conte ad pris congé,/ Qe li covient garder sa terre
 seignur,/ Meuz voil od vous suffrir dolur/ Qe sanz vous estre
 seignur,/ Ne soffrez q'il eit deshonur!/ Mout li devez amour e
 seignur;/ N'est pas merveile s'il ad dolur./ La mort desire
 seignur/ Pur vous ad ma mort juré./ 'Dame,' dist il, par ma
 seignur/ Q'il ne lerret pur estre emperorur./ Qy ceo fuit li
 seignur servy avom./ Pur vostre honur vus cri mercy,/ De
 seignur, si li demaunda/ Si ceo fuist sire Amillioun
 seignur./ Si vous requer par amur/ Qe de ma femme facez
 seignur,/ Touz li tenoient a folur./ Mes de l'enfant avoient
 seignurie e grant honur:/ De grant terres est il seignur,/ De
 seignurie/ Qe sire Amillioun avoit eu,/ Qe ore est devencu
 seignurs lour garderont./ Une garce la serveit/ Qe par une
 seignurs ove ly desqe a dis,/ En son pais s'en est alé,/ A
 seignz un seneschal/ Qe mout est feloun e desleal/ E si est de
 seinte Marie,/ Com longes me durra ceste vie?/ Jeo solei
 seinte Marie,/ Si li plest, par son poer/ Nous porra enfaunz
 seintz jurer/ Qe mes en le pais [ne] vendreit/ De l'hure qe issi
 semblant a nul mustrer;/ Mes quant s'en est departi,/ Requer
 semblant,/ Come jeo memes iceo fuisse,/ Qe ele encheson
 Semblant li fist tant com osa,/ Car son pere moult dota./ Le
 semblaunt/ De companie tant ne quant./ Ceus de la court
 semblaunt d'amur li fesoyt,/ Mes de quer poy li ameit./ 'Si[re]
 s'en ala/ A boys juwer en venerie,/ Od ly tote sa chivalrie./ A
 s'en aloit/ En son pays vers s'amyel/ Qe tant ama come sa vie
 s'en est alé,/ A Amys ad trestot counté/ Coment eust finé la
 s'en est alé./ Quant la dame aveit oy/ Qe son seignur estoit
 s'en est alé;/ Tut soul va saunz compainie./ Ore Deus li soit
 s'en est departi,/ Requer qe soyez mon amy,/ Mon ami e mon
 s'en irra gabbant./ E sire Amillioun atant/ Ferir li vint par tel
 s'en va ver son pays,/ Li autres remeint tristes e pensifs
 s'en vont;/ Jamés quident qe revendrout./ Owein, le leal
 s'en vont en mynuyt;/ As autres ne fuist pas deduit./ En cele
 s'en vont les chivalers/ Qi mult sunt orguillous e fiers./ Ne
 semblant/ Ne crerret home ja si parcevant/ Qe l'un de l'autre
 seneschal./ A son seignur le ala counter/ Sitost com il poet
 seneschal a terre chay./ Qe pout, quant son cheval li ment
 seneschal ad taunz trové/ Ke le conte fut bien payé./ Tant
 seneschal atant se vint/ E son gaunt en son poing tint,/ E
 seneschal ataunt se tint,/ Qe d'angusse pale devint
 seneschal doté/ Qe Amys un soul n'en ad trové./ Quoy pur
 seneschal/ D'un grant launce enpoignal/ Parmi l'escu peint
 seneschal e Amys./ Le seneschal se fist armer,/ Puis
 seneschal ferir ala,/ En le healme grant coups dona./ Mes le
 seneschal fist moult bien,/ E sire Amillioun ne dota de rien
 seneschal fut molt lee;/ Ore quideit bien estre vengé/ De
 seneschal?/ Jeo quide que l'avez dit pur mal./' Sire,' le
 seneschal li encontrat/ Qe semblaunt d'amur li fesoyt,/ Mes
 seneschal li referri;/ Lour launces ount as coups brusé/ E si
 seneschal plus li haeit;/ De son benfait avoit envie,/ Mes
 seneschal primes li ferist,/ Qe son coup tres bien apparist
 seneschal/ Qe mout est feloun e desleal/ E si est de mult
 seneschal, qe nel pout amer,/ Un grant coup li vint doner
 seneschal, quant sout la covine/ Entre Amis e la meschine
 seneschal respond,/ Par celi qe fist le mound,/ S'il le velt
 seneschal se fist armer,/ Puis demaunda le botiler;/ E quant
 seneschal se leve ataunt,/ Qe dolent est e corucé/ Quant
 seneschal, vostre amisté/ En moy n'est si emploie/ Qe ne

641 de flurs,/ Qe tost abati les colurs./ Sur le
 1133 lit s'entrebeyseren,/ Del ray del solail
 542 nue entre eus posa./ La dame de ceo
 1098 dedeinz ad envelopé./ Sitost com le saunc
 323 od grant delit:/ Par grant duçour
 1132 E tot vifs les ount trovez!/ En lor lit
 238 que eus se teysent/ E d'autre chose
 1057 memes a li vet/ Chescun jour sis foiz ou
 18 fierement/ Que freres se firent par
 560 hastaunt lour juggement,/ E si jura grant
 706 Les barons e les chevalers,/ Borgés,
 821 Ses garsons touz li guerpeient;/ Ne trova
 1200 m'enchaceastes;/ Puis feistes jurer mon
 831 s'est hors getté;/ E le seignur e le
 296 Vostre amy suy e serray,/ E vostre
 1173 tot assemlbler,/ Chasteleins e chivalers./
 496 'Beau frere, quant avez forfait/ E le
 500 encombré./ Pur vous la bataille fray,/ E le
 498 avez fet,/ Jeo me doute qe pur peccché/ Del
 1240 ver, parler les mutz./ Tot ensi finist le
 993 De mon frere l'ad emblé./ Qe cher
 168 le eust purtret,/ Plus bon ne meuz [ne]
 88 Mes quant jeo serray departi,/ Donke vus
 289 E serrés des chivals destret./ Donques
 87 quoi il vus pout grever./ Mes quant jeo
 295 pur Deu mercy,/ Vostre amy suy e
 277 m'amur?/ Ja en ma vie après ceo jour/ Ne
 927 fuissent en la cort conuz,/ A grant honur
 570 les dames fait esteit?/ Trop vilaine roste
 421 le chivaler demaunda:/ En hostage pur li
 897 en le pais [ne] vendreit/ De l'hure qe issi
 718 .iii. anz passez,/ après de ceste leprouz
 498 Jeo me doute qe pur peccché/ Del serment
 303 Qe de moy feisiez vostre dru,/ Ne
 504 espoir par la grace de Dé/ Qe del feloun
 312 e quant s'assemlblerunt./ Allas! Q'encusé
 288 conteray/ Qe vers li estes e moy forset,/ E
 568 'Sire,' dit il, 'jeo suy venu!/ Dount vous
 843 dolur moustrer,/ Fors a l'enfant que ly
 1218 seignurs lour garderont./ Une garce la
 185 de jour en jour./ Taunz com Amis meuz li
 859 vie?/ Jeo solei aver grant tresour,/ Estre
 184 Qe fuit demoré od son seygnur/ E meuz li
 149 le temps aler,/ Ala e fist son mester;/
 1125 Atant la parole ount lessé/ E le
 940 de eux ly appeleyt,/ Demaundast s'il vout
 1054 e seigner,/ Con son corps li fist garder,/ 45
 e coragous./ De cel mester longtemps
 la court un counte estoient/ E des armes li
 340 jeo suy trahi;/ Cel fel traitre m'ad icy
 76 bone foy saunz tresoun/ A nostre seignur
 622 Dist l'un a l'autre qe le chivaler/
 1050 Tot ensi com ert de tay levé./ Entre
 473 sus sailli com home desvee./ Tost appela
 819 soffri en cel an/ Grant dolur e grant han./
 1040 estendu a terre chaist:/ Bate ses mains,
 56 ne gere,/ Ne qe autre heyr n'i entrast/ Ne
 1064 Treis anz demena tele vie;/ De
 164 doné/ Bons chevaus e deners,/ E robes a
 733 furent feffez./ Le counte dona a
 474 appela ses chevalers,/ Ses garsouns e
 1094 eux entreacolerent./ Le pere [n']jeust de
 820 han./ Ses chevalers touz departoient,/ 90

se nestre le coup descent,/ Mailles trenchent plus de cent
s'enjoierent. / Pere e mere, quant ceo virent,/ A Deu graces
s'enmerveilla. / A la dame ne voleit parler,/ Desques al
sent. / De son grant mal est il garri,/ Qe en corps ne en face
s'entrebeiserent. / De amour parlerent e juwerent./ De autre
s'entrebeiserent. / Del ray del solail s'enjoierent./ Pere e
s'enveysent. / En cel langur demora/ Tant que li quens s'en
sept; / Tant com pout l'ad conforté./ La dame sovent a ly est
serement; / As autres ne fesoient unke semblaunt/ De
serement/ Qe il memes les verreit arder./ Ataunt virent vener
sergeans e esquiers./ Quant touz furent assemblé,/ La pucele
serjant ne esquier/ Qe ewe froide li vodra doner./ Trestouz li
serjant/ Qe jeo ne deusse en mon vivant/ En ceo pais revener
serjant, / Sire Amyloun e son enfant,/ A chef de la vile a un
serjant tant com jeo viveray./ Vers vous ne mesprendroie
Serjanz, vadlet e esquiers,/ Touz devant li venerent;/ Merci
serment avez fet,/ Jeo me doute qe pur pecché/ Del serment
serment lealment juray/ Qe jeo unke ne li forfiz,/ E
serment serrez encombré./ Pur vous la bataille fray,/ E le
sermoun/ De sire Amis e de syre Amillioun./
serra achaté?/ Outre la table saut ataunt,/ A cel povre vint
serra fet./ Sa gent durement l'amerent;/ A femme prendre li
serra il fort enemy./ Gardez vus de sa felonie!/ Ne aiez od li
serray de vous vengé?/ Atant s'est Florie retorné./ Amis
serray departi,/ Donke vus serra il fort enemy./ Gardez vus de
serray,/ E vostre serjant tant com jeo viveray./ Vers vous ne
serray en mon quer heytez/ Si jeo ne soye de vous vengez
serreint receuz./ Pres [de] la porte se souint mis,/ E l'enfant
serreit!/ Armes me fetes tost bailler/ Pur cestes dames
serreit,/ En son plegge devendreit./ 'Voir,' dit li quens
serreit. / Hors del pais s'en vont;/ Jamés quident qe
serrez. / Avant mes unke si laid ne fust/ Home, com dire bien
serrez encombré./ Pur vous la bataille fray,/ E le serment
serrioms nous en fyn hony?/ 'Hostez, hostez!' ceo dit
serrom vengé,/ Qe vus quideit aver hony./ Mes chivalers qe
serroundt,/ Qe trestot oy un vassal/ De la meisnee le
serrés des chivals destret./ Donques serray de vous vengé?
sert tot ceo fu/ Qe pur les dames fait esteit?/ Trop vilaine
serveit. / Amillioun com plus viveit,/ Tant plus leid deveneit
serveit/ Qe par une fenestre luy portoit/ Chescun jour sa
serveyt,/ Le seneschal plus li haeit;/ De son benfait avoit
servi d'argent e d'or,/ Ore suy tant demené/ Qe de ma vie est
servi de jour en jour./ Taunz com Amis meuz li serveyt,/ Le
Servi le counte com il soleyt,/ E le counte mout li amoyt
service Deu ount escoté./ Après la messe vint a mesoun
servir. / E il getta un grant suspir;/ Cil dit q'il out un seignur
Servir le fist tot a talent/ De viande e de boivre ensement./ E
servirent/ E par tot bien loé furent./ Amillion demorra
servoient. / Moult furent de grant vassalage,/ Gentils e de
servy. / A touz jours avera reposer/ Si jeo ne me puisse de li
servy avom./ Pur vostre honur vus cri mercy,/ De une chose
Ses armes sout trop bien porter,/ Mes son coup est trop
ses braz li ad apporté./ En sa chambre li ad couché./ Bainer li
ses chevalers,/ Ses garsouns e ses esquiers./ Touz lour fist
Ses chevalers touz departoient,/ Ses garsons touz li
ses cheveuz detire,/ Sa vie hiet, sa mort desire,/ La hure
ses droitz amenusast./ Le counte fust de ceo marrix,/ Congé li
ses eses ass[e]z avoyt/ Tant com il memes desiroit./ Quant
ses esquiers./ E il memes si bel estoyt/ Qe tut le pays le
ses esquiers/ Les chivals e les destrers./ Ore vus dei jeo bien
ses esquiers./ Touz lour fist mettre lour seeles;/ Unke ne lour
ses fiz pité;/ Ambedeus ad le chef trenché;/ E le sanc de eux ad
Ses garsons touz li guerpeient;/ Ne trova serjant ne esquier

desvee./ Tost appela ses chevalers,/ oist,/ Tost estendu a terre chait:/ Bate velt ocier./ Quant batu li out e defolé/ Que Voz deus fiz ai estranglé.'/ La dame hors de son sain,/ E l'autre la vist, si Donques serray de vous vengé!'/ Atant La dame, que mout est ennuyé,/ Ambedeus par lour saunk poet estre sauné.'/ Un jour Deu pur li requist./ Atant le conte li fesoit./ Trestouz plurent de pité./ Amis est chose esprové/ Pur promesse saunz N'est home qe tant de l'overaigne e de une nature./ Leals furent envers lor mes enviz;/ Mes le conte fist com bon vus voil counter,/ Qe fuit demoré od son ly mercya./ Atant del conte departi,/ amer/ Quant talent me doint e voler./ par son poer/ Nous porra enfaunz doner./ e affolé./ Deu li doint male destiné!/ eux communement disoient/ Qe unque veient;/ E li quens même le dist/ Qe onqe E robes a ses esquiers./ E il memes fust bien païé/ Quant ad le chivaler palma;/ Vint al seignur, si li demaunda Jeo preng Deu en tesmoignage:/ mettreit./ Mes il aparceut tost la manere,/ une luwé./ 'Adonke,' dit il, 'Deu mercy,/ l'ad deffendu,/ Qe le coup ala descendant/ Touz les ad dobbez en estour,/ Lour trova de li pité/ E que ele fust de ly amé,/ Que De cors de visage bien ressembleyent:/ si bel estoyt/ Qe tut le pays le disoyt De les enfaunz plus n'enpensoms;/ alé,/ Qe li ama molt de fin quer/ Comme Les deus hanaps tant ressembleient/ Qe, carboun./ Tost sailli hors de la mayson,/ seneschal, vostre amisté/ En moy n'est seneschal/ Qe mout est feloun e desleal/ E e tant ting cher,/ En qi me porrai affier?/ vount./ Ne sciet, qe eus veit, qu'il sount;/ suy revenu./ Molt vus fust ben avenu,/ affere./ Sa femme ly aime tendrement,/ Qe tant vers li ad getté s'amour;/ vilté/ Si jeo ne soie de vous vengé!/ avisast/ Qe l'un de l'autre desceverast./ E fist fere un turel:/ Petit fut mes molt bel,/ La dame par tant defendi/ Qe nul ne fut tant demené/ Qe de ma vie est grant pité./ a terre;/ N'est home qi me vousist crere/ icy servy./ A touz jours avera reprover/ roy celestre./ Tourné me ert a grant vilté/ ceo jour/ Ne serray en mon quer heytiez/ Deu li doint male destiné!/ Si avra il, fuit irré,/ Ala hastaunt lour juggement,/ E Qe tot son pel ly arracha./ Si malade e de ceste leprouz serrez../ Avant mes unke appelé: 'Pernez ma coupe od tot le vin,/ jadis./ Grant bosoigne li ad icy chacé,/ lor seygnur,/ Bien le portent a honour;/ mettre cure/ [Des] deus fiz de sa gendrure:/ forment./ La dame l'acola tendrement,/ Pres de joie se palma;/ Vint al seignur, De son estre saver voleit / Si li retint,

Ses garsouns e ses esquiers./ Touz lour fist mettre lour seeles
ses mains, ses cheveuz detire,/ Sa vie hiet, sa mort desire,/ La
ses mains sunt allassé,/ Donneq commaund qe l'en ly lyast/ E
ses meins a Deu tendi/ E mout graces li rendi,/ Donneq
s'esmerveilla./ La coupe durment regarda;/ Pensa cil
s'est Florie retorné./ Amis mout se purpensa;/ Le un mal e
s'est hors getté;/ E le seignur e le serjant,/ Sire Amyloun e
s'est par matyn levé./ E al matin est il alé;/ Deu requist e son
s'est repairé./ En une chambre est entré/ Ou les deus enfanz
s'est tot adrescé./ Plus de cent foiz li ad beisé,/ Tot ensi com
seurté./ Mes de taunt me poez crere/ Qe, si vous eiez de moy
seust/ Qe l'un de l'autre deviser deust./ [...] [...]]/ Qe unke
seygnur,/ Bien le portent a honour;/ Si les amast mult
seygnur,/ Destourber ne vout son honur;/ Mes s'il eust od ly
seygnur/E meuz li servi de jour en jour./ Taunz com Amis
Si ala parler a son amy/ Amys, q'estoit son compaignoun
Si Amillioun soit alé,/ Son quer me est abandoné,/ E jeo ly
Si Amyllioun perdu eussez,/ Jamés tel autre ne averez./ De les
Si avra il, si jeo vive tant;/ Ne li ert nul de mal garrant./ Tut
si bel chevaler ne veient:/ E li quens meme le dist/ Qe onqe si
si bel chivaler ne vist./ Touz ceus qe en la sale estoient/ De sa
si bel estoyt/ Qe tut le pays le disoyt/ Si Deu mesmes le eust
si bien armé./ Puis li dist suef en son oraille/ Qe, s'il pout
Si ceo fuist sire Amillioun,/ Coment il out sa garisoun
Si ceo poet estre aparceu/ Qe de moy feissez vostre dru,/ Ne
Si ceo retret tost arere./ Tost descendri de son destre
Si ceo traitour m'ad issi hony,/ Que tant amey e tant ting cher
Si chiet sur l'arsoun devant;/ Trestut trencha quir e fust/ Com
si com il voleint;/ Hautement lour feste teneint./ De Amys
si de ly amour ne avoit,/ Jamés home ne amereit./ Amis
Si de une robe vestu estoient,/ N'est home el mound qe les
Si Deu mesmes le eust purtret,/ Plus bon ne meuz [ne] serra fet
Si Deu velt, bien lé recoveroms.'/ Atant la parole ount lessé
si ele fust sa soer;/ Plus ne li poet fere companie./ Treis anz
si en une mayn estoient,/ N'est home qe tant de l'overaigne
Si encontral le botiler./ A li soleit trop beal parler;/ Les oïls
si emploié/ Qe ne puisse nul autre amer/ Quant talent me doint
si est de mult grant parenté;/ Pur ceo est il le plus doté./ Unke
Si est grant desert venu:/ Ma fille est pute devenu./ Ele est
Si eus fuissent en la cort conuz,/ A grant honur serreint receuz
Si feussez tele com deussez estre,/ Par Jhesu, le roy celestre
Si fist tot son commaundement;/ Tant qe le counte enmaladi
Si forment comensa a amer/ Q'ele ne pout boyvre ne manger
Si fu[i] malades e defet,/ Pur ceo n'avojeo pas forfait,/ Qe
si furent de une estature,/ De une forme e de une nature./ Leals
Si fut fort durement;/ De loin le virent tote sa gent/ Outre
si hardi/ Qe de rien li regardast,/ Ne que manger li donast
Si jeo de feim morit deveray,/ De mei memes force ne fray.
Si jeo deisse la moyté/ Del doel q'entre eus ount demené./ Li
Si jeo ne me puisse de li venger./ Est ceo voir, sire sceschal
Si jeo ne soie de vous vengé./ Si fu[i] malades e defet,/ Pur
Si jeo ne soye de vous vengez!/ Certes ore suy jeo bien honye
si jeo vive tant;/ Ne li ert nul de mal garrant./ Tut ert detret e
si jura grant serrement/ Qe il memes les verreit arder./ Ataunt
si laid devint/ Qe checun pur mesel li tint./ La dame li tint
si laid ne fust/ Home, com dire bien le poet./ Amillioun l'ad
Si l'aporte a ceo frarin,/ Au povres qe tant est mesayé./ Mes
Si le occiez, vous fetes pecché.'/ Quant le counte ceo oist
Si les amast mult tendrement,/ Honur les fist a lour talent
Si les enfantz tuast/ E Amillioun en le saunk bainast,/ Si sain
Si li demaunda quoi pensoit/ E purquei tels suspirs getteit
si li demaunda/ Si ceo fuist sire Amillioun,/ Coment il out sa
si li diseit./ Fu la joie, fu la pité./ Quant l'un od l'autre est

1118 joie:/ 'Jhesu Crist, le fiz seinte Marie,/ 92
 490 nepurqant;/ De son estre saver voleit./ 92
 92 s'accompaie od feloun/ Ne porra trover 809
 809 tant demorra/ Qe tot son pel ly arracha./ 454
 454 ne matyn,/ Poy mangea e mains beust,/ 381
 381 dites mal./ Jeo tuy vostre chivaler leal;/ 538
 538 Ne par cors ne par fasçon./ Par riens, 1083
 1083 voil lesser./ Mout avera fait bone jorné/ 536
 536 Qe l'un de l'autre sout deviser,/ 534
 534 issi d'un senblant/ Ne crerret home ja 159
 159 il mener grant baronage!/ N'ust od ly ja 305
 305 hostez!' ceo dit Florie,/ 'Nous le froms 614
 614 devant;/ Trestut trencha quir e fust/ Com 1074
 1074 tuast/ E Amillioun en le saunk bainast,/ 467
 467 lit giseit,/ Deleez sa femme se cocheit;/ 1153
 1153 vive./ Ne saet ele pas quoi ele poet fere;/ 711
 711 Quant Amillioun deust son noun nomer,/ 768
 768 plus tost qe Amys poeit,/ Congé ad pris, 982
 982 coupe hors de son sain,/ E l'autre la vist, 602
 602 Lour launces ount as coups brusé/ E 776
 776 est il seignur,/ De .iii. countez e demy,/ 12
 12 de grant parage;/ Fiz estoient de barons,/ 140
 140 seurté./ Mes de taunt me poez crere/ Qe, 716
 716 Amillioun!/ Jeo vous di certeine novele:/ 98
 98 honur avrez!/ Lessez orgoil e envie,/ 441
 441 sir Amys,/ Trahir me volez, m'est avys!/ 512
 512 de verité/ Qe vous seiez lour seignur./ 699
 699 simplement:/ 'Tot soit a vostre talent!/ 6
 6 escoter!/ De deus juvenceals vous dirray,/ 722
 722 Amillioun l'ad bien entendu,/ E la prist 838
 838 fu sire e seignur;/ N'est pas merveile 675
 675 fu ben vengé;/ Par li mes n'iert encusé./ 425
 425 volez ensy?/ E jeo lealment vus dy/ Qe, 1070
 1070 li disoit/ Qe Amillioun trop bien garreit/ 61
 61 Destourber ne vout son honur;/ Mes 681
 681 vient premer;/ Atant se fist desarmer./ 937
 937 Veu ount l'enfant bel e parceu,/ E [347
 347 respond,/ Par celi qe fist le mound,/ 662
 662 fort estona./ Ore poet trop attendre:/ 261
 261 E dit pur l'amur de luy/ Morust, 582
 582 armé./ Puis li dist suef en son oraillo/ Qe, 695
 695 ad aquité/ Del fait dount fuites encusé./ 940
 940 Un de eux ly appeleyt,/ Demaundast 697
 697 de quer amer?/ E ele respount moult 749
 749 E purquei tels suspirs getteit./ Donke dit 493
 493 l'un od l'autre est aquointé!/ Donke li dit 805
 805 A ceo fui jeo confés./ Par ceo savoit 548
 548 vynt./ Ore lerrom de Amis ester;/ De 153
 153 nul autre de sa meisné./ Ore vous dirrai de 468
 468 se cocheit;/ Si s'avint en avisoun/ Ke 439
 439 E ala qe mult se redut./ Ele li dist: 'Beau 182
 182 Ore lerray de Amyllioun ester,/ E de 664
 664 rendre,/ Li autre s'en irra gabbant./ E 878
 878 chivalrie/ Le honur e la seignurie/ Qe 1108
 1108 al seignur, si li demaunda/ Si ceo fuist 73
 73 moult li greve le departir./ Donqe parla 1170
 1170 pendue/ Qe de son seignur estre veue./ 1224
 1224 e un jour;/ A drein morust pur dolur./ 714
 714 ne oist fors li noun —/ 'Lessez, lessez, 650
 650 passé./ Ly seneschal fist moult bien,/ E 484
 484 boys passerent/ Ou sire Amis reposeit./ 795
 795 assez ad dount il ad mester./ Vus dirrai de 1136
 1136 ceo virent,/ A Deu graces en rendirent./

Si li plest, par son poer/ Nous porra enfaunz doner./ Si
 Si li retint, si li diseit./ Fu la joie, fu la pité./ Quant l'un od
 si mal noun;/ Car piz ne porra avenir/ Quant compaignoun
 Si malade e si laid devint/ Qe checun pur mesel li tint./ La
 Si ne dormist nule nust./ Touz les noitz issi chevaucha,/ Qe
 Si nul vous ad de moy counté/ For que dreit a verité,/ Mout
 si par la robe noun./ Amis, quant il se ajouta,/ Leez la dame
 Si par lour saunk poet estre sauné.'/ Un jour s'est par matyn
 Si par noun les oist nomer./ Ne par cors ne par fasçon./ Par
 si parcevant/ Qe l'un de l'autre sout deviser,/ Si par noun les
 si privé/ Q'il n'out dis chivalers de maisné./ Tant fuit de sa
 si privément/ Touz deus a nostre talent/ Ne[I] savera home de
 si rasour trenché le eust./ Parmy l'espaudle del chival/ Cola le
 Si sain devendreit com pessoun./ Quant veu avoit l'avisioun
 Si s'avint en avisoun/ Ke sir Amys son compaignoun/ D'un
 Si se met hors de la terre,/ Ne la savera plus aider./ Donqe
 Si se purpensa moult estreit;/ Oyst une voiz que li disoit
 si s'en aloit/ En son pays vers s'amye/ Qe tant ama come sa
 si s'esmerveilla./ La coupe durment regarda;/ Pensa cil
 si sunt outrepassé./ A cel encountre tant firent bien/ Qe l'un
 Si tost come li quens est fini./ Ore est amé e tenu cher
 Si vous dirroy bien lor nouns:/ Li un estoit Amys par noun
 si vous eiez de moy affere,/ Jeol vous fray od graunt doucour
 Si vous esposez la damoisele,/ Einz qe soint .iii. anz passez
 Si vous gardez de glotonie!/ Amez bien vostre seignur,/ Ne
 Si vous ne venez a tel jour,/ Vous savez bien qe mon seignur
 Si vous requer par amur/ Qe de ma femme facez atant,/ En fet e
 Si vus me volez marier,/ Jeo ne me deveroy pas corucer.'
Sicom en escrit le trovay;/ Q'en la court un counte estoient
sicom son drew,/ Mes pur ceo ne vout lesser,/ Mes la resceit
 s'il ad dolur./ La mort desire plus qe la vie;/ Nul solas ad ne
 S'il chaist, n'est pas mervaille./ Ore finist la bataille./ Les
 s'il defaut a la bataille,/ Le juggement averez saunz faille
 S'il en fist mettre cure/ [Des] deus fiz de sa gendrure:/ Si les
 s'il cust od ly affere,/ Fuist ceo en pees ou en guerre
 S'il eust plaire li demaunda;/ Cil dist que mal n'en a:/ Plus est
 s'il fuit auke vestu,/ Gentil home ressemblereit./ Un de eux
 S'il le velt denier./ Com leal chevaler le voil prover,/ E cil
 S'il ne sache le coup rendre,/ Li autre s'en irra gabbant./ E
 s'il n'eust de li pité/ E que ele fust de ly amé./ Que si de ly
 s'il pout deffendre la bataille,/ Sa fille a femme ly dorrey/ E
 S'il vous velt esposer,/ Li porriez de quer amer?'/ E cle
 s'il vout servir./ E il getta un grant suspir;/ Cil dist q'il out un
simplement:/ 'Tot soit a vostre talent!'/ Si vus me volcz
 sir Amillioun: —/ Ne vodra celer son noun —/ 'Jeo ne tuy
 sir Amillioun/ Paroles de mult grant resoun:/ 'Beau frere
 sir Amillioun/ Qe Amis estoit leal compaignon./ Ove sa feme
 sir Amillioun voloms parler./ Le jour vint qe fuist assis
 sir Amillioun:/ Quant vint a sa regioun,/ La gent qe de sa terre
 sir Amys son compaignoun/ D'un leon fust assailli,/ Qe li
 sir Amys,/ Trahir me volez, m'est avys!'/ Si vous ne venez a
 sir Amys vus voil counter,/ Qe fuit demoré od son seygnur/ E
 sire Amillioun atant/ Ferir li vint par tel ayr/ Qe le feu fist
 sire Amillioun avoit eu,/ Qe ore est devencu./ Le noun vous
 sire Amillioun,/ Coment il out sa garisoun./ 'Dame, certes
 sire Amillioun/ E dit: 'Amis, beau compaignoun,/ En bone
 Sire Amillioun fist com leal bier:/ Sa gent fist tot assembler
 Sire Amillioun fut molt prisé/ Qe autre peine n'ad liveré
 sire Amillioun!'/ Jeo vous di certeine novele:/ Si vous
 sire Amillioun ne dota de rien./ Ne savoit [nul] del chaump
 Sire Amillioun primes le veit;/ Tost est cele part torné
 sire Amillioun/ Qe tant estoit leal compaignon./ Com il en
 Sire Amillioun, quant fust sané/ E de son grant mal netté

1033 en croiz suffri passioun,/ C'est mi sires,
 119 li fesoyt,/ Mes de quer poy li ameit./ 'sire Amillioun!/ Sire quens, remembrez, Amys,/ Com vous li
 1241 les mutz./ Tot ensi finist le sermoun/ De
 244 n'i out nul remis/ Des chevalers for
 483 errerent/ Qe parmy le boys passerent/ Ou
 520 foy/ Qe ele [est] mout aparcavanter!'/ E
 883 Uwein fuit son dreit noun./ Donque li dist
 832 hors getté;/ E le seignur e le serjant,/ 'sire Amillioun!/ Sire quens, remembrez, Amys,/ Com vous li
 379 La mort vous va ja approchaunt!'/ 'sire Amillioun!/ Sire quens, remembrez, Amys,/ Com vous li
 567 effraé/ E de les dames eust grant pité./ 'sire Amillioun!/ Sire quens, remembrez, Amys,/ Com vous li
 1014 nomer,/ De dolur pout son quer crever:/ 'sire Amillioun!/ Sire quens, remembrez, Amys,/ Com vous li
 528 Amys remaind od la meisné,/ Cum li
 837 Mis estes a povre garisoun!'/ Jadis fu
 414 dire./ Plusors aveient de ly pité,/ Mes li
 345 Jeo quide que l'avez dit pur mal.'/ 'sire Amillioun!/ Sire quens, remembrez, Amys,/ Com vous li
 802 fey —/ Ta espee nue meistes entre nous,/ mes estre botiler./ Consailler fut fait e
 779 C'est mi sires, sire Amillioun!/
 1034 ne me puisse de li venger./ Est ceo voir,
 343 bien voilant./ Amis respount aitant:/ 'sire Amillioun!/ Sire quens, remembrez, Amys,/ Com vous li
 129 E q[ue]i en croiz suffri passioun,/ C'est mi
 1057 E li memes a li vet/ Chescun jour
 115 levoit,/ Vers la court sei retormeyt;/
 316 seneschal./ A son seignur le ala counter/
 945 Qy ceo fuit li demaundeient,/ Mes
 1098 quillé/ E Amillioun dedeinz ad envelopé./
 950 pité:/ Al counte Amys oint counté./ Cil,
 1138 quant fust sané/ E de son grant mal netté,/ devint;/ Purpense sei q'il se vengereit/
 146 E a mouster puis li mena./ La dame,
 1105 fut trové/ Mes de pour se fuist muscé./
 1182 Al counte de cel hanap counta/ Coment a
 988 Quant mortz furent pere e mere,/ Il ne eust
 790 molt de fin quer/ Comme si ele fust sa
 1061 glotonie!/ Amez bien vostre seignur,/ Ne
 100 ele, veut morir/ Qe a li vousist venir./ Cil
 817 De mei memes force ne fray./ L'enfant a
 864 demorra/ Atant qe son pere fina,/ Qi de
 49 Tourné me ert a grant vilté/ Si jeo ne
 1193 honur vus cri mercy,/ De une chose
 78 Si vous espousez la damoisele,/ Einz qe
 452 Mes ala com pelrin./ Ne fina unke
 698 E ele respount moult simplement:/ 'Tot
 133 talent me doint e voler./ Si Amilliouns
 975 qe tant est mesaysé./ Mes le hanap
 350 voil prover,/ E cil que de nous est vencu/
 524 Tut soul va saunz compainie./ Ore Deus li
 1078 dit il, 'qe onqe ne menti,/ Doiné qe voir
 1079 qe voir soit mon sounge./ Mes ore,
 919 Desques eus vindrent el pais/ Ou
 1133 En lor lit s'entrebeysèrent,/ Del ray del
 840 dolur./ La mort desire plus qe la vie;/ Nul
 858 Com longes me durra ceste vie?/ Jeo
 1035 quens, remembrez, Amys,/ Com vous li
 372 la mayson,/ Si encontra le botiler./ A li
 149 e fist son mester;/ Servi le counte com il
 68 Atant del counte departi,/ Si ala parler a
 963 Mes le hanap tant ameyt/ Q'en tot
 187 serveyt,/ Le seneschal plus li haeit;/ De
 971 voleit./ Quant le counte ad pres mangé,/ lour
 39 feste teneint./ De Amys fist
 633 Combatre voleit per a per,/ Q'il n'eust de
 619 Le seneschal a terre chay./ Qe pout, quant

sire Amillioun!/ Sire quens, remembrez, Amys,/ Com vous li
 Si[re] Amis,' dit il, 'bien veignant!'/ De vous suy ore alé
 sire Amis e de syre Amillioun./
 sire Amis,/ E il remist pur maladie./ E la damesele ne targa
 sire Amis reposeit./ Sire Amillioun primes le veit;/ Tost est
 sire Amist trestut le graunte./ Lour robes oint trestot
 sire Amyllioun:/ 'Oweyn, a la dame irrez,/ Nostre congé de li
 Sire Amyllioun e son enfant,/ A chef de la vile a un bordel
 Sire,' dist Amys, 'vus dites mal./ Jeo suy vostre chivaler leal
 Sire,' dit il, 'jeo suy venu!/ Doubt vous sert tot ceo fu/ Qe pur
 Sire,' dit, 'par la foy qe vus devez/ A Amillioun, qe tant amez
 sire e envoyé;/ E quideront trestouz pur voir/ Qe ceo fuit lour
 sire e seignur,/ N'est pas merveile s'il ad dolur./ La mort
 sire fust tant yrré/ Qe la n'out home taunt hardi/ Qe oseit un
 Sire,' le seneschal resound,/ Par celi qe fist le mound,/ S'il
 Sire, purquei le feistes vous?/ 'Dame, jeo [ne] le dirrai mes
 sire;/ Quantq'il voleit porreit dire./ Tenu fut par tote la terre
 Sire quens, remembrez, Amys,/ Com vous li soleiez amer
 sire seneschal?/ Jeo quide que l'avez dit pur mal.'/ 'Sire,' le
 Sire seneschal, vostre amisté/ En moy n'est si emploie/ Qe
 sires, sire Amillioun!/ Sire quens, remembrez, Amys,/ Com
 sis foiz ou sept;/ Tant com pout l'ad conforté./ La dame
 Sitost com en la porte entra,/ Li seneschal li encontra/ Qe
 Sitost com il poet espleiter./ Le seneschal fut molt lee;/ Ore
 sitost com il veu avoient/ Celi q'il clama pur seignur,/ Touz
 Sitost com le saunc senti,/ De son grant mal est il garri,/ Qe
 sitost com mangea,/ Son premer mes li envoya/ Par son
 Sitost com porra prist congé,/ En son pais s'en est alé
 Sitost com son leu verreyt./ Amis lessa le temps aler,/ Ala e
 sitost com vew li a,/ Pres de joie se palma;/ Vint al seignur
 Sitost com vist son seignur./ Ele pauma de pour./ Le seignur
 soen ressembleit./ E le counte moult esmerveileit,/ De
 soer ne frere/ For soui la dame qe Amis aveit,/ Pur ceo les
 soer;/ Plus ne li poet fere companie./ Treis anz demena tele
 soffrez q'il eit deshonur!/ Mout li devez amour e foy,/ Car
 soffri en cel an/ Grant dolur e grant han./ Ses chevalers touz
 soi doncne appelaist,/ E pur Deu li conjurast/ Qe illoeç morir
 soi n'ad autre heyr./ Quant Amillioun sout pur veir/ Qe son
 soie de vous vengé./ Si fu[i] malades e defet,/ Pur ceo n'avo
 soiez garny:/ Le counte ad seignz un seneschal/ Qe mout est
 soint .iii. anz passez,/ après de ceste leprouz serrez./ Avant
 soir ne matyn,/ Poy mangea e mains beust,/ Si ne dormist
 soit a vostre talent!/ Si vus me volez marier,/ Jeo ne me
 soit alé,/ Son quer me est abandoné,/ E jeo ly aym e ameray
 soit bien gardé:/ En son esquel le vin versez,/ E ma coupe
 Soit detret e puis pendu!'/ E dit li quens: 'Ore vaut meins
 soit en aye/ E doigne q'il puisse bien fere!/ Grant chose
 soit mon sounge./ Mes ore, soit voir ou mensouinge,/ La
 soit voir ou mensouinge,/ La merveile voiz voi prover,/ Pur
 sojorna le counte Amys/ Qe noble court illoeç tenoit/ E
 solail s'enjoierent./ Pere e mere, quant ceo virent,/ A Deu
 solas ad ne compagnie:/ N'ad home a qui parler,/ Ne a qui
 solei aver grant tresour,/ Estre servi d'argent e d'or,/ Ore suy
 soleiez amer jadis./ Grant bosoigne li ad icy chacé./ Si le
 soleit trop beal parler;/ Les oils sur ly forment roylla./ Amis
 soleyt,/ E le counte moult li amoyst:/ Od sei le tint plus privé
 son amy/ Amys, q'estoit son compaignoun,/ En bone foy
 son anguisse guerpir ne voleit./ Les deus hanaps tant
 son benfait avoit envie,/ Mes Amys ne l'aparce[u]st mye./ Li
 son botiler ad appélé:/ 'Pernez ma coupe od tot le vin,/ Si
 son botiler,/ Car moult a ly puet affyer./ Amyllioun ne velt
 son cheval envie./ Tant fist il par sa cortesie:/ Meuz a pié
 son cheval li ment?/ Del cop parlent durement:/ Dist l'un a

462 deust morir./ Desouz un arbre se cocha,/ E
 464 lya./ Dormist, car mult fu travaillé,/ E
 636 Meuz a pié l'estut ferir/ Que lessir
 784 Sa femme ly aime tendrement,/ Si fist tot
 468 Si s'avint en avisiooun/ Ke sir Amys
 69 Si ala parler a son amy/ Amys, q'estoit
 743 son corage/ Fere ne li velt hountage/ De
 259 ama./ Tant parla e taunt demora/ Qe tot
 741 qe fu pensifs,/ Bien entendi en
 579 E li memes le chivaler arma./ En
 1053 ad couché./ Bainer li fist e seigner,/ Con
 623 Ses armes sout trop bien porter,/ Mes
 658 Mes le seneschal primes li ferist,/ Qe
 268 pout pur hounte discoverir/ Sa volonté e
 631 Si ceo retret tost arere./ Tost descendri de
 842 N'ad home a qui parler,/ Ne a qui poet
 882 l'appelent Amorant,/ Mes Uwein fuit
 250 li ad doné./ Nomre vous dey la pucele:/
 737 Coment il firent a coucher:/ La dame ad
 722 l'ad bien entendu,/ E la prist sicom
 692 'fille bele,/ Amys pur vous ad combatu,/ E
 832 le seignur e le serjant,/ Sire Amyllioun e
 437 li ala demaunder/ Qe a son frere velt aler:/
 976 Mes le hanap soit bien gardé:/ En
 489 avant,/ E [il] entendi nepurqant;/ De
 526 bien fere!/ Grant chose enprent pur
 1044 Quant pecché l'ad ensi encembré/ Qe
 1087 est il alé;/ Deu requist e son haut noun/ A
 1234 se pena./ Après sa mort a Deu ala;/ Amis,
 726 Ne voleit qe eus furent aparceu/ Coment
 433 Com cel qe grant mester en a./ De
 478 noveles,/ Mes dist q'il voleit visiter/
 436 vynt,/ Congé li ala demaunder/ Qe a
 393 e la meisné./ Li un countre l'autre tendi
 386 denieray./' Le seneschal atant se vint/ E
 1099 envolupé./ Sitost com le saunc senti,/ De
 1137 Sire Amillioun, quant fust sané/ E de
 1010 maundereit/ E la verité de li querreit/ Qe
 1086 levé./ E al matin est il alé;/ Deu requist e
 60 com bon seygnur,/ Destourber ne vout
 42 affyer./ Amyllioun ne velt lesser:/ De
 146 Purpense sei q'il se vengereit/ Sitost com
 465 son chival fuist mesaysé,/ Amyllioun en
 797 tant estoit leal compaignon./ Com il en
 812 li tint trop en despit:/ Ne voleit entrer en
 1176 li venerent;/ Merci crier touz penserent./
 893 chivacher./' L'enfant a la dame ala,/ E
 212 li mestre botiler,/ Amys, q bien sout
 148 Amis lessa le temps aler,/ Ala e fist
 952 mangea,/ Son premer mes li envoya/ Par
 750 dit sir Amillioun: --/ Ne vodra celer
 710 l'huis de moster./ Quant Amillioun deust
 581 chivaler si bien armé./ Puis li dist suef en
 867 Qe illoec morir le lessast,/ E yl en
 759 pris,/ E seignurs ove ly desqe a dis,/ En
 1139 netté,/ Sitost com porra prist congé,/ En
 825 un enfant q'il out norri./ Fiz de un counte,
 111 eus ount demené./ Li un s'en va ver
 769 poeit,/ Congé ad pris, si s'en aloit/ En
 808 Ove sa feme tant demorra/ Qe tot
 228 fuit tant bon chivaler/ Q'en la court n'out
 48 loé furent./ Amillion demorra/ Atant qe
 51 heyr./ Quant Amillioun sout pur veir/ Qe

s o n chival a une raym lya./ Dormist, car mult fu travaillé,/ E
 s o n chival fuist mesaysé,/ Amyllioun en son lit giseit
 s o n chival morir./ Le seneschal, qe nel pout amer,/ Un grant
 s o n commaundement;/ Tant qe le counte enmaladi./ E quant
 s o n compaignoun/ D'un leon fust assailli,/ Qe li fuist mortel
 s o n compaignoun,/ En bone foy saunz treson./ De plur ne se
 s o n compaignoun trahir./ Moult parfound getta un sospir,/ E
 s o n corage discovery:/ E dit pur l'amur de luy/ Morust, s'il
 s o n corage/ Fere ne li velt hountage/ De son compaignoun
 s o n corage fust bien païé/ Quant ad le chivaler si bien armé
 s o n corps li fist garder,/ Servir le fist tot a talent/ De viande e
 s o n coup est trop pesant./ Le seneschal se leve ataunt,/ Qe
 s o n coup tres bien apparist:/ La healme del coup enbarra,/ Qe
 s o n desir./ De respoudre se purpensoit/ Com celi qj talent ne
 s o n destrer;/ Combatre voleit per a per,/ Q'il n'eust de son
 s o n dolur moustrer,/ Fors a l'enfant que ly serveit
 s o n dreit noun./ Donque li dist sire Amyllioun:/ 'Oweyn, a la
 S o n dreit noun est Mirabele,/ Mes Florie fust apelé/ De ceux
 s o n drew acolé/ E par amour sovent baisé,/ E en quidoit qe ceo
 s o n drew,/ Mes pur ceo ne vout lesser,/ Mes la resceit come sa
 S o n enemi ad confundu;/ Ly e vous ad aquité/ Del fait dount
 s o n enfant,/ A chef de la vile a un bordel/ Illoc lour fist aver
 S o n enuy monstrer li vout,/ E ala qe mult se redut./ Ele li dist
 s o n esquel le vin versez,/ E ma coupe me reportez!'/ E celi
 s o n estre saver voleit./ Si li retint, si li diseit./ Fu la joie, fu
 s o n frere! Amys remaint od la meisné,/ Cum li sire e envoyé
 s o n frere desconusseit/ Qe touz biens li fesoit./ Trestouz
 s o n frere doine garisoun./ La dame vint, qe bone fust
 s o n frere, ensement./ Moult se amercent fierement,/ E bone fut
 s o n frere eust deceu./ La damoisele fuit ben paé/ Quant ad
 s o n frere li soynt;/ Tantost a la countesse vynt,/ Congé li
 S o n frere qe tant pout amer./ Trusser s'en vount en mynyt
 s o n frere velt aler:/ Son enuy monstrer li vout,/ E ala qe mult
 s o n gant,/ E li quens [les] resceust atant./ E donc jugga le
 s o n gaunt en son poing tint,/ E tendist en noun de gage/ Com
 s o n grant mal est il garri,/ Qe en corps ne en face/ De maladi
 s o n grant mal netté,/ Sitost com porra prist congé,/ En son
 s o n hanap out perdu/ E coment est avenu./ Quant Amyllioun
 s o n haut noun/ A son frere doine garisoun./ La dame vint, qe
 s o n honur;/ Mes s'il eust od ly affere,/ Fust ceo en pees ou
 s o n hostel ly fist justizer,/ Mestre mareschal sur touz/ Qi fort
 s o n leu verreyt./ Amis lessa le temps aler,/ Ala e fist son
 s o n lit giseit,/ Deleez sa femme se cocheit;/ Si s'avint en
 s o n lit gisoit,/ Sa bele dame a li disoit: 'Me diez par amour
 s o n lit,/ Ne voleit auxi od lui parler,/ Ne od li beivre ne
 S o n maltalet lour pardona,/ Od sei les tint e les ama
 S o n message li conta./ Ele li fist un asne aver,/ E pus sus les
 s o n mester:/ De un drap vestu esteit,/ La coupe devant li
 s o n mester;/ Servi le counte com il soleyt,/ E le counte mout
 s o n mestre botiler,/ Qe ert corteis chevaler./ De chescun mes
 s o n noun --/ 'Jeo ne suy pas celi qe vous quidez;/ De vostre
 s o n noun nomer,/ Si se purpensa moult estreit;/ Oyst une
 s o n oraille/ Qe, s'il pout deffendre la bataille,/ Sa fille a
 s o n pais alast./ L'enfant respoundi par grant douçur./ 'Merci
 s o n pais s'en est alé,/ A Amys ad trestot counté/ Coment eust
 s o n pais s'en est alé./ Quant la dame aveit oy/ Qe son seignur
 s o n parent,/ Od li tint fer[m]ement,/ E dit que li ne velt
 s o n pays,/ Li autres remeint tristes e pensifs./ Quant Amis de
 s o n pays vers s'amyte/ Qe tant ama come sa vie./ Ore est mout
 s o n pel ly arracha./ Si malade e si laid devint/ Qe checun pur
 s o n per./ La pucele en prist tendrour/ Qe tant vers li ad getté
 s o n pere fina,/ Qi de soi n'ad autre heyr./ Quant Amillioun
 s o n pere fuy affyné,/ De son seignur le counte ad pris congé

688 Semblant li fist tant com osa,/ Car
 422 demaunda:/ En hostage pur li serreit,/ En
 84 ne vous pout amer,/ Mal vus ad quis a
 1118 Crist, le fiz seinte Marie,/ Si li plest, par
 386 seneschal atant se vint/ E son gaunt en
 951 ount counté./ Cil, sitost com mangea,/ Amyllioun li oist nomer,/ De dolur pout
 1013 doint e voler./ Si Amilliouns soit alé,/ mesel fuit en vein,/ Prist sa coupe hors de
 134 l'enfant, qe bien fust apris/ E moult ama
 981 saillist:/ Uwein, qe ne poet suffrir/ Qe
 930 quere lour vivre avant./ Tantost counta a
 1029 de pour se fuist muscé./ Sitost com vist
 852 celi qe talent ne aveit/ Q'il mesprist vers
 1182 s'en est alé./ Quant la dame aveit oy/ Qe
 271 muscer;/ Meuz velt estre pendue/ Qe de
 1141 Q'entre nonaynes se muscereit;/ un vassal/ De la meisnee le seneschal./ A
 315 sout pur veir/ Qe son pere fuy affyné,/ De
 52 vus voil counter,/ Qe fuit demoré od
 183 feussent al mariage./ L'endemain a terce
 703 trahir./ Moult parfound getta un
 744 pere e mere,/ Il ne eust soer ne frere/ For
 791 Tant fuit li seneschal doté/ Qe Amys un
 400 chaungé,/ E Amyllioun s'en est alé/ Tut
 523 S'a hasté a plus que ele pust:/ Ove une
 255 assailli,/ Qe li fuist mortel enemy./ Del
 471 onqe ne menti,/ Doine qe voir soit mon
 1078 Quant veu avoit l'avisioun/ E de cel
 928 serreint receuz./ Pres [de] la porte se
 925 deuz vount./ Ne sciet, qe eus veit, qu'il
 178 del counté./ De beauté avoit le pris/
 586 li freit./ Est venuz l'assemblé,/ Ore mes
 535 home ja si parcevant/ Qe l'un de l'autre
 236 E ele dit que malade fuit,/ Ne
 412 sout lequel il pout eslire,/ Mort ou vie, ne
 327 y avoit vilainie./ Le seneschal, quant
 411 Amis/ Com esgarré e com pensifs,/ Ne
 851 L'enfant, quant oy cel comaund,/ Ne
 50 de soi n'ad autre heyr./ Quant Amillioun
 367 pendu,/ E la pute arse en fu!/ La dame ne
 212 Est veuz li mestre botiler,/ Amys, qe bien
 622 l'un a l'autre qe le chivaler/ Ses armes
 908 Q'il covient lor asne vendre/ Pur cink
 1197 Qe vivre deusse bien du mien./ Dame,
 1059 Tant com pout l'ad conforté./ La dame
 738 La dame ad son drew acolé/ E par amour
 990 esmerveileit,/ De Amillioun onqe li
 24 eus tant fierement,/ E de ceo se coroucent
 1089 garisoun./ La dame vint, qe bone fust,/ grant pité:/ Plurent e decirent lour draps,/ celi qe grant mester en a./ De son frere li
 875 jeo unke ne li forfiz,/ E quiderount qe jeo
 433 Ne serray en mon quer heytz/ Si jeo ne
 502 Mes quant s'en est departi,/ Requer qe
 278 eust finé la bataille/ E coment eust fait la
 126 ad le chivaler si bien armé./ Puis li dist
 762 icel Deu qe onqe ne menti/ E qe en croiz
 581 Deu, mon seigneur,/ Meuz voil od vous
 1032 l'enfant avant saillist:/ Uwein, qe ne poet
 870 de mere nee./ Tant li ad dit e parlé/ Ore
 1028 Quant batu li out e defolé/ Que ses mains
 309 Qe dolur de la pité n'en eust./ Paumez
 1005
 107

s o n pere moult dota./ Le conte atant l'ad appellé:/ 'Dy moy,'
 s o n plegge devendreit./ 'Voir,' dit li quens, volez ensy?/ E
 s o n poer,/ Mes encheson ne pout trover/ Par quoi il vus pout
 s o n poer/ Nous porra enfaunz doner./ Si Amyllioun perdu
 s o n poing tint,/ E tendist en noun de gage/ Com home de
 Son premer mes li envoya/ Par son mestre botiler,/ Qe ert
 s o n quer crever:/ 'Sire,' dit, 'par la foy qe vus devez/ A
 Son quer me est abandoné,/ E jeo ly aym e ameray;/ Pur nul
 s o n sain,/ E l'autre la vist, si s'esmerveilla./ La coupe
 s o n seignur,/ Ala demaundant tut entour/ Des povres les
 s o n seignur deust morir./ En haut cria: 'Mercy, mercy! Pur
 s o n seignur,/ E il dit: 'C'est mal dolur/ Quant n'avom a
 s o n seignur./ Ele pauma de pour./ Le seignur la fist relever
 s o n seignur./ Estez vous Florie par grant errorr!/ Ele li
 s o n seignur estoit garri/ E q'il revint el pais/ E od li le conte
 s o n seignur estre veue./ Sire Amillioun fist com leal bier:/ Sa
 Son seignur jamés ne verrait./ Mes ne li ert pas destiné,/ Car
 s o n seignur le ala counter/ Sitost com il poet espleiter./ Le
 s o n seignur le conte ad pris congé,/ Qe li covient garder sa
 s o n seygnur/ E meuz li servi de jour en jour./ Taunz com Amis
 s o n a n t/ Touz i furent, petit e grant,/ Les barons e les
 s o s p i r,/ E el suspir geint forment./ La dame l'acola
 s o u l la dame qe Amis aveit,/ Pur ceo les terres recevoit./ Ore
 s o u l n'en ad trové./ Quoy pur doute quoy pur pour,/ E trestouz
 s o u l va saunz compainie./ Ore Deus li soit en aye/ E doigne
 s o u l e chambre/ Ala par congé de sa mere/ Parler a Amys que
 s o u n g e fut moult effraé/ E tost sus sailli com home desvée
 s o u n g e ./ Mes ore, soit voir ou mensoungue,/ La merveile
 s o u n g e resperi,/ 'A, Deu!' dit il, 'qe onqe ne menti,/ Doin
 s o u n t mis,/ E l'enfant, qe bien fust apris/ E moult ama son
 s o u n t;/ Si eus fuissent en la cort conuz,/ A grant honur
 Sour touz les dames du pays./ Bien furent entre eux couplés
 s o u r d r a la medlé./ Le un l'autre desaffient/ Qe entre eus nul
 s o u t deviser,/ Si par noun les oist nomer./ Ne par cors ne par
 s o u t dont cel mal ly avenut./ Ele comaunda qe eus se teysent
 s o u t ke dire./ Plusors aveient de ly pité,/ Mes li sire fust tant
 s o u t la covine/ Entre Amis e la meschine,/ L'endemain vint
 s o u t lequel il pout eslire,/ Mort ou vie, ne sout ke dire
 s o u t ou quere lour vivre avant./ Tantost counta a son seignur
 s o u t pur veir/ Qe son pere fuy affyné,/ De son seignur le
 s o u t quoy dire./ Le conte de mal ard e d'yre,/ Devint plus
 s o u t son mester:/ De un drap vestu esteit,/ La coupe devant li
 s o u t trop bien porter,/ Mes son coup est trop pesant./ Le
 s o u z e diz e maille./ De ceo acateront lour vitaillé./ Estre ceo
 s o v e n e z vous del bien,/ Coment a manger me menastes/ E
 s o v e n t a ly est alé,/ Qe li ama molt de fin quer/ Comme si ele
 s o v e n t baisedé,/ E en quidoit qe ceo fu Amys./ Mes Amillioun
 s o v e n t:/ 'Bien sai', fait il, 'verraiment,/ De mon frere l'ad
 s o v e n t./ De cors de visage bien ressembleyent:/ Si de une
 Sovent Deu pur li requist./ Atant le conte s'est repairé./ En
 Sovent se claiment cheitif e las;/ Plein[en]t de grant
 s o v y n t;/ Tantost a la countesse vynt,/ Congé li ala
 s o y e Amys./ Jeo espoir par la grace de Dé/ Qe del feloun
 s o y e de vous vengez!/ Certes ore suy jeo bien honye/ Quant
 s o y e z mon amy,/ Mon ami e mon bien voilant./ Amis
 s p o s a i l l e./ En une chambre puis entrerent/ E lour robes
 s u e f en son oraille/ Qe, s'il pout deffendre la bataille,/ Sa
 s u f f r i passiou,/ C'est mi sires, sire Amillioun!/ Sire quens
 s u f f r i r dolur/ Qe sanz vous estre emperorur./ Quant l'un
 s u f f r i r/ Qe son seignur deust morir./ En haut cria: 'Mercy
 s u n t a un de cel affere,/ Dount devisent la menere/ Coment e
 s u n t allassé,/ Donqé commaund qe l'en ly lyast/ E en sa
 s u n t chaeuz a terre;/ N'est home qe me vousist crere/ Si jeo

103 Car bien ad amé vous e moy.' / Atant se
 506 vus quideit aver hony./ Mes chivalers qe
 590 Ore s'en vount les chivalers/ Qi mult
 602 Lour launces ount as coups brusé/ E si
 1160 Car un jour par matyné/ Les deus countes
 902 viaunde va querant,/ Mes tant lour vint
 911 lour vitaille./ Estre ceo lour fount fere/
 612 Qe le coup ala descendant/ Si chiet
 641 peint de flurs,/ Qe tost abati les colurs./
 373 A li soleit trop beal parler;/ Les ois
 685 de mer./ Atant li vount touz beiser:/
 43 hostel ly fist justizer,/ Mestre mareschal
 354 Atant en la chambre entrat,/ La dame
 895 li counta./ Ele li fist un asne aver,/ E pus
 472 Del sounge fut moult effraé/ E tost
 941 s'il vout servir./ E il getta un grant
 745 Moult parfoud getta un sospir,/ E el
 748 li demanda quoi pensoit/ E purquei tels
 1204 pais revener,/ Ne pur vivre ne pur morir./
 295 'Damoisel, pur Deu mercy,/ Vostre amy
 279 jeo ne soye de vous vengez!/ Certes ore
 120 Amis,' dit il, 'bien veignant!! De vous
 751 —/ Ne vodra celer son noun —/ 'Jeo ne
 1188 deussez tel doil demener/ Pur ceo qe sain
 860 tresour,/ Estre servi d'argent e d'or/, Ore
 339 fille est pute devenu./ Ele est honie, jeo
 567 dames eust grant pité./ 'Sire,' dit il, 'jeo
 380 'Sire,' dist Amys, 'vus dites mal./ Jeo
 105 entrebeysés,/ Plurent e crient de pité./
 730 Le counte tynt feste plenere/ Une
 1241 ensi finist le sermoun/ De sire Amis e de
 801 moy —/ Car jeo vus aime en bone fey —/ emblé./ Qe cher serra achaté! / Outre la
 994 mult tendrement,/ Honur les fist a lour
 34 corps li fist garder,/ Servir le fist tot a
 1054 Qe ne puisse nul autre amer/ Quant
 270 De resoundre se purpensoit/ Com celi q
 306 le froms si privément/ Touz deus a nostre
 698 moult simplement:/ 'Tot soit a vostre
 916 De long en long li enmena./ Par la terre
 770 s'en aloit/ En son pays vers s'amye/ Qe
 335 Si ceo traitour m'ad issi hony,/ Que
 962 ne vont vendre ne doner./ Mes le hanap
 1015 'par la foy qe vus devez/ A Amillioun, qe
 958 mout ferement amoit,/ Car Amillioun, qe
 227 E tres gentil dameyseals,/ E q'il fuit
 1065 tele vie;/ De ses eses ass[e]z avoyt/
 446 ma lealte,/ Pur ma defaute ne murrez mie,/ Vostre amy suy e serray,/ E vostre serjant
 296 E la pucele totevoie/ Semblant li fist
 687 a li vet/ Chescun jour sis foiz ou sept;/
 1058 moy livrastes pur hostel./ Celi averez
 1206 si en une mayn estoient,/ N'est home qe
 966 Tant plus leid deveneit./ La dame par
 782 porroit dire./ Tenu fut par tote la terre,/ Estre servi d'argent e d'or,/ Ore suy
 860 estoit leal compaignon./ Ove sa femme
 807 fust bien anuié/ Qe la bataille ad
 654 autres ne fuist pas deduit./ En cele nuyt
 481 la chaumbre a la damoisele/ Del botiler qe
 225 Si l'aportez a ceo frarin,/ Au povres qe
 974 mester./ Vus dirrai de sire Amillioun/ Qe
 796 de lour compainie,/ Q'amerent entre eus
 sunt entrebeysés,/ Plurent e crient de pité./ Suz cel n'ad home
 sunt icy/ Od vous desoremés demorront;/ A ma court od vous
 sunt orguillous e tiers./ Ne avera mester de acord;/ L'un hiet
 sunt outrepassé./ A cel encoultre tant firent bien/ Qe l'un ne
 sunt venuz/ E a la porte descenduz,/ Qe nul fut aparcevant/ De
 sur cherté/ De pain, vin e de blé./ Qe donke ne poient home
 Sur deus roes une cyvere/ Qu'il pout sei meismes enhacer
 sur l'arsoun devant;/ Trestut trencha quir e fust/ Com si rasour
 Sur le senestre le coup descent,/ Mailles trenchent plus de
 sur ly forment roylla./ Amis moult se merveilla./ 'Fel,' fait il
 Sur touz li fist la dame joie,/ E la pucele totevoie/ Semblant li
 sur touz/ Qi fort esteit e coragous./ De cel mester longtemps
 sur un lit trovat./ 'Dame,' dit il, 'ne savez/ Quele fille vus
 sus les seintz jurer/ Qe mes en le pais [ne] vendreit/ De l'hure
 sus sailli com home desvee./ Tost appela ses chevalers,/ Ses
 suspir;/ Cil dit q'il out un seignur/ Q'il ne lerret pur estre
 suspir geint forment./ La dame l'acola tendrement,/ Si li
 suspirs getteit./ Donke dit sir Amillioun: —/ Ne vodra celer
 Suvenez vous del bordel/ [K']a moy livrastes pur hostel
 suy e serray,/ E vostre serjant tant com jeo viveray./ Vers
 suy jeo bien honye/ Quant vous me dedeignez avere amye
 suy ore alé pensant/ E de misire Amillioun/ Qi a vous ert leal
 suy pas celi qe vous quidez;/ De vostre espoir failli avez./ A
 suy revenu./ Molt vus fust ben avenu,/ Si feussez tele com
 suy tant demené/ Qe de ma vie est grant pité./ Si jeo de feim
 suy trahi;/ Cel fel traître m'ad icy servy./ A touz jours avera
 suy venu!/ Dount vous sert tot ceo fu/ Qe pur les dames fait
 suy vostre chivaler leal;/ Si nul vous ad de moy counté/ For
 Suz cel n'ad home que la fust/ Qe dolur de la pité n'en eust
 symaine tot entere;/ Mout i furent des robes donez/ Dont les
 syre Amillioun./
 Ta espee nue meistes entre nous,/ Sire, purquei le feistes vous
 table saut ataut,/ A cel povre vint errant:/ Forment l'ad feru
 talent./ Chivalers lour fist a grant honur:/ Touz les ad
 talent/ De viande e de boivre ensement./ E li memes a li vet
 talent me doint e voler./ Si Amilliouns soit alé,/ Son quer
 talent ne aveit/ Q'il mesprist vers son seignur./ Estez vous
 talent/ Ne[!] savera home de mere nee./ Tant li ad dit e parlé
 talent!/ Si vus me volez marier,/ Jeo ne me deveroy pas
 tant alerent/ Qe feym e me[s]aise troverent/ Desques eus
 tant ama come sa vie./ Ore est mout en astage,/ Car cru li est
 tant amey e tant ting cher,/ En qe me porrai affier?/ Si est
 tant amey!/ Q'en tot son anguisse guerpir ne voleit./ Les
 tant amez,/ Ne me facez enprisoner,/ Mes le chef me faites
 tant amoyt,/ Cele coupe li donait./ Amillioun mesmes avoit
 tant bon chivaler/ Q'en la court n'out son per./ La pucele en
 Tant com il memes desiroit./ Quant passa le temps issi,/ Qe
 Tant com je puisse aver la vie! / Atant congé ly dona,/ E un
 tant com jeo viveray./ Vers vous ne mesprendroie mye/ Par
 tant com osa,/ Car son pere moult dota./ Le counte atant l'ad
 Tant com pout l'ad conforté./ La dame sovent a ly est alé,/ Qe
 tant com vus viverez;/ En noun de dowere le tenez! / Donke
 tant de l'overaigne seust/ Qe l'un de l'autre deviser deust./ [
 tant defendi/ Qe nul ne fut si hardi/ Qe de rien li regardast,/ Ne
 Tant demeint grant affere./ Sa femme ly aime tendrement,/ Si
 tant demené/ Qe de ma vie est grant pité./ Si jeo de feim
 tant demorra/ Qe tot son pel ly arracha./ Si malade e si laid
 tant duré;/ Un coup li voudra ja doner/ Qe li deit par dreit
 tant errerent/ Qe parmy le boys passerent/ Ou sire Amis
 tant ert beaus/ E tres gentil dameyseals,/ E q'il fuit tant bon
 tant est mesaysé./ Mes le hanap soit bien gardé:/ En son
 tant estoit leal compaignon./ Com il en son lit gisoit,/ Sa
 tant fierement,/ E de ceo se coroucent sovent./ De cors de

603 E si sunt outrepassé./ A cel encoultre
 634 a per,/ Q'il n'eust de son cheval envie./
 609 healme grant coups dona./ Mes le healme
 645 la char n'ad pas toché./ Amyllioun, qe
 161 Q'il n'out dis chivalers de maisné./
 399 taunz trové/ Ke le counte fut bien payé./
 1180 demaunder,/ Car de li se veut venger./
 281 Quant vous me dedeignez avere amye!/
 308 talent/ Ne[!] savera home de mere nee ./'
 902 enfant,/ Lour viaunde va querant,/ Mes
 363 doint male destiné!/ Si avra il, si jeo vive
 766 Donque ne fuit aparcevant/ De lour estre
 20 fesoient unke semblaunt/ De compagnie
 1163 Qe nul fut aparcevant/ De lour venue
 258 de sa mere/ Parler a Amys que ele ama./
 845 ly serveit./ Amillioun com plus viveit,/ Mes
 478 dist q'il voleit visiter/ Son frere qe
 785 Si fist tot son commaundement;/
 457 Qe onke de nuyt ne se reposa,/ s'enveysent./ En cel langur demora/
 240 guerpir ne voleit./ Les deus hanaps
 964 traitour m'ad issi hony,/ Que tant amey e
 335 son per./ La pucele en prist tendrour/ Qe
 230 aveient de ly pité,/ Mes li sire fust
 414 mester en a./ De son frere li soynt;/
 434 Ne sout ou quere lour vivre avant./
 1022 De vostre demaunde ja ne faudrez!'/ mye:/ De sa dame prist congé,/ E ele
 248 Ces deus hanaps fist un mestre!'/ Arece
 986 E il remist pur maladie./ E la damesele ne
 246 Parler a Amys que ele ama./ Tant parla e
 415 li sire fust tant yrré/ Qe la n'out home
 139 Pur promesse saunz seurté./ Mes de
 17 nature,/ Angeles ressembleient de fature./
 185 seygnur/ E meuz li servi de jour en jour./
 397 troverent en hostage./ Le seneschal ad
 1049 cent foiz li ad beisé,/ Tot ensi com ert de
 1144 revint el pais/ E od li le counte Amis,/ Si
 1121 Amyllioun perdu eussez./ Jamés
 665 E sire Amillioun atant/ Ferir li vint par
 1187 'Dame,' dit il, 'lessez ester!/ Ne deussez
 441 volez, m'est avys!! Si vous ne venez a
 1190 Molt vus fust ben avenu,/ Si feussez
 1063 li poet fere companie./ Treis anz demena
 748 Si li demaunda quoi pensoit/ E purquei
 147 com son leu verreyt./ Amis lessa le
 1066 com il memes desiroit./ Quant passa le
 1114 ai estrangle!'/ La dame ses meins a Deu
 393 e la meisné./ Li un countre l'autre
 387 se vint/ E son gaunt en son poing tint,/ E
 1026 Puis l'ad en haut levé./ E Amillioun le col
 33 le portent a honour;/ Si les amast mult
 486 primes le veit;/ Tost est cele part torné,/ demeint grant affere./ Sa femme ly aime
 783 el suspir geint forment./ La dame l'acola
 746 la court n'out son per./ La pucele en prist
 229 si com il voleint;/ Hautement lour feste
 38 vestu esteit,/ La coupe devant li quens
 214 com vus viverez;/ En noun de dowere le
 1207 foy saunz treson./ De plur ne se poet
 71 un mot parler pur ly./ La dame ne se pout
 417 Celi q'il clama pur seignur,/ Touz li
 947 le counte Amys/ Qe noble court illoeq
 920 tant firent bien/ Qe l'un ne l'autre ne perdit ren./ Amillioun
 Tant fist il par sa cortesie./ Meuz a pié l'estut ferir/ Que lessir
 tant fort fu/ Qe de la mort l'ad deffendu,/ Qe le coup ala
 tant fu de vigour,/ Meint coup li dona ceo jour./ La bataille ad
 Tant fuit de sa gent amé,/ E lour ad trestouz doné/ Bons
 Tant fuit li seneschal doté/ Qe Amys un soul n'en ad trové
 Tant fuit quise q'ele fut trové/ Mes de pour se fuist muscé
 Tant gentils hommes m'ount prié,/ E trestouz ai je refusé
 Tant li ad dit e parlé/ Ore sunt a un de cel affere,/ Dount
 tant lour vint sur cherté/ De pain, vin e de blé./ Qe doneke ne
 tant;/ Ne li ert nul de mal garrant./ Tut ert detret e puis pendu
 tant ne quant./ A plus tost qe Amys poeit,/ Congé ad pris, si
 tant ne quant./ Ceus de la court avoient envie/ De lour estre e
 tant ne quant./ La meisnee fust endormie;/ De lour venue ne
 Tant parla e taunt demora/ Qe tot son corage discovery:/ E dit
 Tant plus leid deveneit./ La dame par tant defendi/ Qe nul ne
 tant pout amer./ Trusser s'en vount en mynuyt;/ As autres ne
 Tant qe le counte enmaladi./ E quant longtemps out langui
 Tant qe vers une vespré/ En un grant boys est alé./ A force ly
 Tant que li quens s'en ala/ A boys juwer en venerie,/ Od ly
 tant ressembleient/ Qe, si en une mayn estoient,/ N'est home
 tant ting cher,/ En qi me porrai affier?/ Si est grant desert
 tant vers li ad getté s'amour;/ Si forment comensa a amer
 tant yrré/ Qe la n'out home taunt hardi/ Qe oseit un mot
 Tantost a la countesse vynt,/ Congé li ala demaunder/ Qe a
 Tantost counta a son seignur,/ E il dit: 'C'est mal dolur
 Tantost espeie demaunda,/ E il memes dist q'il le tuera./ Tost
 tantost li ad doné./ Nomor vous dey la pucele:/ Son dreit
 tantost se repeira,/ Al counte de cel hanap counta/ Coment a
 targa mye:/ De sa dame prist congé,/ E ele tantost li ad doné
 taunt demora/ Qe tot son corage discovery:/ E dit pur l'amur
 taunt hardi/ Qe oseit un mot parler pur ly./ La dame ne se
 taunt me poez crere/ Qe, si vous eiez de moy affere,/ Jeol
 Taunt s'amerent fierement/ Que freres se firent par serement
 Taunz com Amis meuz li serveyt,/ Le seneschal plus li haet
 taunz trové/ Ke le counte fut bien payé./ Tant fuit li
 tay levé./ Entre ses braz li ad apporté./ En sa chambre li ad
 Tel ad el quer dolur/ Qe unque femme ne out greignur./ Doneq
 tel autre ne averez./ De les enfaunz plus n'enpensoms;/ Si
 tel ayr/ Qe le feu fist tressailler,/ Qe le healme fust tot
 tel doil demener/ Pur ceo qe sain tuy revenu./ Molt vus fust
 tel jour,/ Vous savez bien qe mon seignur/ Pur vous ad ma
 tele com deussez estre,/ Par Jhesu, le roy celestre./ Tourné me
 tele vie;/ De ses eses ass[e]z avoyt/ Tant com il memes
 tels suspirs getteit./ Donke dit sir Amillioun: —/ Ne vodra
 temps aler,/ Ala e fist son mester;/ Servi le counte com il
 temps issi,/ Qe li quens une noyt dormi,/ Une voiz oy qe li
 tendi/ E mout graces li rendi,/ Donqe comence pur fere joie
 tendi son gant,/ E li quens [les] resceust atant./ E doncq
 tendist en noun de gage/ Com home de grant vasselage,/ E
 tendist./ Mais l'enfant avant saillist:/ Uwein, qe ne poet
 tendrement,/ Honur les fist a lour talent./ Chivalers lour
 Tendrement l'ad esveillé./ E sa gent passerent avant,/ E [i]l
 tendrement,/ Si fist tot son commaundement;/ Tant qe le
 tendrement,/ Si li demaunda quoi pensoit/ E purquei tels
 tendrour/ Qe tant vers li ad getté s'amour;/ Si forment
 teneint./ De Amys fist son botiler,/ Car moult a ly puet
 teneit./ Mout fu beals e aligné,/ Des chivalers fuit moult
 tenez!'/ Donke fist fere un turel:/ Petit fut mes molt bel,/ Si
 tenir,/ Car moult li greve le departir./ Doneq parla sire
 tenir/ Ne pur vivere ne pur morir;/ Devant le counte se genula
 tenoient a folur./ Mes de l'enfant avoient pité:/ Al counte
 tenoit/ E moult grant ben fesoit./ La povre gent tot enviroun

777 tost come li quens est fini./ Ore est amé e
 781 fait e sire;/ Quantq'il voleit porreit dire./
 703 Qe eus feussent al mariage./ L'endemain a
 321 Tot lour estre fist espier./ Qant vint le
 616 l'espaudle del chival/ Cola le braunke en
 1039 Quant le counte ceo oist,/ Tost estendu a
 618 Plus qe plein pé e demy;/ Le seneschal a
 155 Quant vint a sa regioun,/ La gent qe de sa
 584 Sa fille a femme 1y dorreyt/ E de tote sa
 1229 Owein l'enfant bien feffa:/ De tote sa
 1153 quoi ele poet fere;/ Si se met hors de la
 107 la pité n'en eust./ Paumez sunt chaeuz a
 53 ad pris congé,/ Qe li covient garder sa
 916 eysa,/ De long en long li enmena./ Par la
 781 voileit porreit dire./ Tenu fut par tote la
 774 Grant seignurie e grant honur:/ De grant
 933 estres e les maneres/ E les custumes de les
 792 soul la dame qe Amis aveit,/ Pur ceo les
 300 vostre corps hontage./ Jeo preng Deu en
 237 mal ly avenut./ Ele comaunda qe eus se
 4 troeffle ne voil jeo parler —/ En pees se
 335 m'ad issi hony,/ Que tant amey e tant
 1177 Son maltalet lour pardona,/ Od sei les
 386 atant se vint/ E son gaunt en son poing
 1146 unque femme ne out greignur./ Donqe se
 826 Fiz de un counte, son parent,/ Od li
 810 e si laid devint/ Qe checun pur mesel li
 151 E le counte mout li amoyt:/ Od sei le
 143 chescuny honur.'/ Li seneschal ataunt se
 811 Qe checun pur mesel li tint./ La dame li
 644 pres passa le costé./ Mes la char n'ad pas
 485 primes le veit;/ Tost est cele part
 404 a la mort,/ Fust ceo a dreit fust ceo at
 640 Amount el heaulme peint de flurs,/ Qe
 473 E tost sus sailli com home desvee./
 788 langui,/ Morust e a Deu rendist s'alme;/ E
 630 il aparceut tost la manere,/ Si ceo retreret
 571 vilaine roste serreit!/ Armes me fetes
 776 il seignur,/ De .iii. countez e demy,/ Si
 631 tost la manere,/ Si ceo retreret tost arere./
 485 reposeit./ Sire Amillioun primes le veit;/
 1039 fetes pecché.'/ Quant le counte ceo oist,/

629 a pié se mettreit./ Mes il aparceut
 1024 demauda,/ E il memes dist q'il le tuerat./
 767 De lour estre tant ne quant./ A plus
 627 corucé/ Quant combatre deit a pié;/ A plus
 887 Hors de ceo pais irroms/ A plus
 370 e d'yre,/ Devint plus noyr ke carbonn./
 472 enemy./ Del sougne fut moult effraé/ E
 1017 facez enprisoner,/ Mes le chef me faites
 329 Amis e la meschine,/ L'endemain vint
 1054 son corps li fist garder,/ Servir le fist
 1047 Trestouz plurent de pité./ Amis s'est
 1148 Ne quideit pas q'il fuit en vie./ Pur ceo fut
 1171 Amillioun fist com leal bier:/ Sa gent fist
 46 De cel mester longtemps servirent/ E par
 568 dit il, 'jeo suy venu!'/ Dount vous sert
 1049 tot adrescé./ Plus de cent foiz li ad beisé,/ vertuz:/ Les voegles ver, parler les mutz./
 1240 counte tynt feste plenere/ Une symaine
 730 E moult grant ben fesoit./ La povre gent
 922 botiler ad appellé:/ 'Pernez ma coupe od
 972 vint tot a hounte:/ Acounté est

tenu cher;/ N'estoet mes estre botiler./ Consailler fut fait e
 Tenu fut par tote la terre,/ Tant demeint grant affere./ Sa
 terce sonant/ Touz i furent, petit e grant,/ Les barons e les
 terme q'avoint dit,/ Il ensembleront od grant delit./ Par grant
 terre aval/ Plus qe plein pé e demy;/ Le seneschal a terre chay
 terre chaist./ Bate ses mains, ses chevez detire,/ Sa vie hiet
 terre chay./ Qe pout, quant son cheval li ment?/ Del cop
 terre furent/ Od grant nobley li receurent;/ Trestouz li firent
 terre heir li freit./ Est venuz l'asemblé;/ Ore mes sourdra la
 terre li herita,/ Qe bien aveit deservy./ En bone vie
 terre,/ Ne la savera plus aider./ Donqe comencea a purpenser
 terre;/ N'est home qì me vousist crere/ Si jeo deisse la moyté
 terre/ Qe nul li fist treson ne gere,/ Ne qe autre heyr n'i
 terre tant alerent/ Qe feym e me[s]aise troverent/ Desques eus
 terre,/ Tant demeint grant affere./ Sa femme ly aime
 terres est il seignur,/ De .iii. countez e demy,/ Si tost come
 terres./ Les gentils homes, qe alere[n]t juaunt/ E les povres
 terres recevoit./ Ore vodrom de Amis lesser,/ Qe assez ad
 tesmoignage:/ Si ceo poet estre aparceu/ Qe de moy feiszez
 teysent/ E d'autre chose s'enveysent./ En cel langur demora
 tienge pur escoter!/ De deus juvenceals vous dirray./ Sicom
 ting cher,/ En qì me porrai affier?/ Si est grant desert venu
 tint e les ama./ Donque fist sa femme demaunder,/ Car de li se
 tint,/ E tendist en noun de gage/ Com home de grant
 tint enfyn honie:/ Ne quideit pas q'il fuit en vie./ Pur ceo fut
 tint fer[m]ement,/ E dit que li ne velt guerpir/ Ne pur vivre ne
 tint./ La dame li tint trop en despit:/ Ne voleit entrer en son
 tint plus privé/ Qe nul autre de sa meisné./ Ore vous dirrai de
 tint,/ Qe d'anguisse pale devint;/ Purpense sei q'il se
 tint trop en despit:/ Ne voleit entrer en son lit,/ Ne voleit
 toché./ Amyllioun, qe tant fu de vigour,/ Meint coup li dona
 torné./ Tendrement l'ad esveillé./ E sa gent passerent avant
 tort./ Nul ne oseit pur li parler,/ E le counte li velt venger
 tost abati les colurs./ Sur le senestre le coup descent
 Tost appela ses chevalers,/ Ses garsouns e ses esquiers
 tost après morust la dame./ Quant mortz furent pere e mere
 tost arere./ Tost descendri de son destrer;/ Combatre voleit
 tost bailler/ Pur cestes dames deliverer!/ Jeo deffendray
 tost come li quens est fini./ Ore est amé e tenu cher;/ N'estoet
 Tost descendri de son destrer;/ Combatre voleit per a per
 Tost est cele part torné./ Tendrement l'ad esveillé./ E sa gent
 Tost estendu a terre chaist:/ Bate ses mains, ses chevez
 tost la manere,/ Si ceo retreret tost arere./ Tost descendri de son
 Tost l'espeie li fust baillé./ Puis l'ad en haut levé./ E
 tost qe Amys pocit,/ Congé ad pris, si s'en aloit/ En son
 tost q'il pout se vengereit,/ E Amyllioun a pié se mettreit
 tost que nous pooms./ Mes jeo ne puis aler a pié;/ Priez a lui
 Tost sailli hors de la mayson,/ Si encontrera le botiler./ A li
 tost sus sailli com home desvee./ Tost appela ses chevalers
 tost trencher./ Mes certes ai jeo trop vesqui;/ Trop bien ai la
 tot a hounte:/ Acounté est tot lor oeuvre al counte./ Li quens fu
 tot a talent/ De viande e de boivre ensement./ E li memes a li
 tot adrescé./ Plus de cent foiz li ad beisé,/ Tot ensi com ert de
 tot appareillé/ Q'en le mois deust estre esposé./ Mes ore se
 tot assembler,/ Chasteleins e chivalers./ Serjanz, vadlet e
 tot bien loé furent./ Amillion demorra/ Atant qe son pere fina
 tot ceo fu/ Qe pur les dames fait esteit?/ Trop vilaine roste
 Tot ensi com ert de tay levé./ Entre ses braz li ad apporté./ En
 Tot ensi finist le sermoun/ De sire Amis e de syre Amillioun
 tot entere;/ Mout i furent des robes donez/ Dont les
 tot enviroun/ Ala com a processioune./ Entre autres les deuz
 tot le vin,/ Si l'aportez a ceo frarin,/ Au povres qe tant est
 tot lor oeuvre al counte./ Li quens fu de ire enflé./ Ne parla mot

320 estre vengé/ De vostre corteis botiler;/
 755 bien counter,/ Car bien le deverez celer./' /
 667 Qe le feu fist tresailler,/ Qe le healme fust
 698 E ele respoint moult simplement:/ ' /
 963 ne doner./ Mes le hanap tant ameyt/ Q'en
 784 Sa femme ly aime tendrement,/ Si fist
 259 ele ama./ Tant parla e taunt demora/ Qe
 808 Ove sa feme tant demorra/ Qe
 1131 lessa./ Les enfantz furent estranglés./ E
 95 Quant compaignoun velt autre trahir./ A
 1212 De loin le virent tote sa gent/ Outre
 391 E la verité provereit./ Est veus
 669 En la cervele cola le brank./ E l'oraille od
 781 Quantq'il voleit porreit dire./ Tenu fut par
 242 s'en ala/ A boys juwer en venerie,/ Od ly
 1211 Si fut fort durement;/ De loin le virent
 584 Sa fille a femme ly dorreyt/ E de
 1229 mullier./ Owein l'enfant bien feffa:/ De
 686 Sur touz li fist la dame joie,/ E la pucele
 1192 deussez estre,/ Par Jhesu, le roy celestre./
 684 est sain qe pesson de mer./ Atant li vount
 1045 encembré/ Qe son frere desconusseit/ Qe
 221 le dist/ Qe onqe si bel chivaler ne vist./
 819 Grant dolur e grant han./ Ses chevalers
 306 dit Florie,/ 'Nous le froms si privément/
 1174 e chivalers./ Serjanz, vadlet e esquiers,/ /
 205 del pais/ En sa chambre noeuf e dis,/ Qe
 707 Borgés, sergeans e esquiers./ Quant
 704 al mariage./ L'endemain a terce sonant/
 341 trahi;/ Cel fel traître m'ad icy servy./ A
 36 Chivalers lour fist a grant honur:/
 178 del counté./ De beauté avoit le pris/ Sour
 455 e mains beust,/ Si ne dormist nule nust./
 685 de mer./ Atant li vount touz beiser:/ Sur
 820 chevalers touz departoient,/ Ses garsons
 947 veu avoient/ Celi q'il clama pur seignur,/ /
 475 chevalers,/ Ses garsouns e ses esquiers./
 1175 Touz devant li venerent;/ Merci crier
 43 ly fist justizer,/ Mestre mareschal sur
 1101 corps ne en face/ De maladi ne appareust
 339 est pute devenu./ Ele est honie, jeo suy
 94 avenir/ Quant compaignoun velt autre
 743 ne li velt hountage/ De son compaignoun
 361 nous ad malement,/ Qe nostre fille ad
 440 se redut./ Ele li dist: 'Beau sir Amys,/ /
 334 'Adonke,' dit il, 'Deu mercy,/ Si ceo
 340 Ele est honie, jeo suy trahi;/ Cel fel
 463 a une raym lya./ Dormist, car mult fu
 360 Pur nostre bien hounte nous rend:/
 1063 sa socr;/ Plus ne li poet fere companie./
 1095 de ses fiz pité:/ Ambedeus ad le chef
 614 Trestut trencha quir e fust/ Com si rasour
 671 fist enmi la place./ Le bras od le brank
 613 Si chiet sur l'arsoun devant;/ Trestut
 642 Sur le senestre le coup descent,/ Mailles
 1017 enprisoner,/ Mes le chef me faites tost
 658 seneschal primes li ferist,/ Qe son coup
 226 damoisele/ Del botiler qe tant ert beaus/ E
 666 Ferir li vint par tel ayr/ Qe le feu fist
 70 son compaignoun,/ En bone foy saunz
 54 Qe li covient garder sa terre/ Qe nul li fist
 75 beau compaignoun,/ En bone foy saunz
 858 me durra ceste vie?/ Jeo solei aver grant
 Tot lour estre fist espier./ Qant vint le terme q'avoint dit,/ Il
 Tot lour estre luy ad counté,/ E puis dit q'il prendra congé
 tot purfendant./ En la cervele cola le brank./ E l'oraille od
 Tot soit a vostre talent!/ Si vus me volez marier,/ Jeo ne me
 tot son anguisse guerpir ne voileit./ Les deus hanaps tant
 tot son commaundement;/ Tant qe le conte emmaladi./ E
 tot son corage discovery/ E dit pur l'amur de luy/ Morust
 tot son pel ly arracha./ Si malade e si laid devint/ Qe checun
 tot vifs les ount trovez!/ En lor lit s'entrebeyserset,/ Del ray
 tote gent bel responez,/ Grant preu e grant honur avrez
 tote la cité;/ La fu la dame durement lié./ Jamés de illoec ne
 tote la court ensemble,/ Ly chivalers e la meisné./ Li un
 tote la face/ Voler fist enmi la place./ Le bras od le brank
 tote la terre,/ Tant demeint grant affere./ Sa femme ly aime
 tote sa chivalrie./ A l'ostel n'i out nul remis/ Des chevalers
 tote sa gent/ Outre tote la cité./ La fu la dame durement lié
 tote sa terre heir li freit./ Est venuz l'assemblé;/ Ore mes
 tote sa terre li herita,/ Qe bien aveit deservy./ En bone vie
 tote voie/ Semblant li fist tant com osa,/ Car son pere moult
 Tourné me ert a grant vilté/ Si jeo ne soie de vous vengé./ Si
 touz beiser:/ Sur touz li fist la dame joie,/ E la pucele
 touz biens li fesoit./ Trestouz plurent de pité./ Amis s'est tot
 Touz ceus qe en la sale estoient/ De sa beauté matire aveient
 touz departoient,/ Ses garsons touz li guerpeient;/ Ne trova
 Touz deus a nostre talent/ Ne[!]I savera home de mere nee.
 Touz devant li venerent;/ Merci crier touz penserent./ Son
 touz fesoient sa volonté;/ De countredit n'en ad parlé./ Un
 touz furent assemblé,/ La pucele fut amené/ A l'huis de
 Touz i furent, petit e grant,/ Les barons e les chevalers
 touz jours avera reprover/ Si jeo ne me puisse de li venger
 Touz les ad dobbez en estour,/ Lour trova si com il voleint
 touz les dames du pays./ Bien furent entre eux couplés/ De
 Touz les noitz issi chevaucha,/ Qe onke de nuyt ne se reposa
 touz li fist la dame joie,/ E la pucele totevoie/ Semblant li
 touz li guerpeient;/ Ne trova serjant ne esquier/ Qe ewe froide
 Touz li tenoient a folur./ Mes de l'enfant avoient pité:/ Al
 Touz lour fist mettre lour seeles;/ Unke ne lour dist autre
 touz penserent./ Son matalent lour pardona,/ Od sei les tint
 touz Qi fort esteit e coragous./ De cel mester longtemps
 trace./ En Amis ne out qe regeir;/ Une bone robe li fist vener
 trahi;/ Cel fel traître m'ad icy servy./ A touz jours avera
 trahir./ A tote gent bel responez,/ Grant preu e grant honur
 trahir./ Moult parfound getta un sospir,/ E el suspir geint
 trahy e affolé./ Deu li doint male destiné!/ Si avra il, si jeo
 Trahir me volez, m'est avys!/ Si vous ne venez a tel jour
 traitour m'ad issi hony,/ Que tant amey e tant ting cher,/ En
 traître m'ad icy servy./ A touz jours avera reprover/ Si jeo ne
 travaillé,/ E son chival fuist mesaysé,/ Amyllioun en son
 Tray nous ad malement,/ Qe nostre fille ad trahy e affolé
 Treis anz demena tele vie;/ De ses escs ass[e]z avoyt/ Tant
 trenché;/ E le sanc de eux ad quillé/ E Amillioun dedeinz ad
 trenché le eust./ Parmy l'espaudle del chival/ Cola le
 trencha:/ Desque en la haunce le branc cola./ En cel champ
 trencha quir e fust/ Com si rasour trenché le eust./ Parmy
 trenchent plus de cent./ Bien pres passa le costé./ Mes la
 tresscher./ Mes certes ai jeo trop vesqui;/ Trop bien ai la
 tres bien apparist:/ La healme del coup enbarra,/ Qe
 tres gentil dameyseals,/ E q'il fuit tant bon chivaler/ Q'en la
 tresailler,/ Qe le healme fust tot purfendant./ En la cervele
 treson./ De plur ne se poet tenir,/ Car moult li greve le
 treson ne gere,/ Ne qe autre heyr n'i entrast/ Ne ses droitz
 tresoun/ A nostre seignur servy avom./ Pur vostre honur vus
 tresour,/ Estre servi d'argent e d'or,/ Ore suy tant demené

521 Amist trestut le graunte./ Lour robes ount
 760 dis,/ En son pais s'en est alé,/ A Amys ad
 313 Allas! Q'encusé serrount,/ Qe
 282 Tant gentils hommes m'ount prié,/ E
 162 Tant fuit de sa gent amé,/ E lour ad
 157 furent/ Od grant nobley li receurent;/
 823 ne esquier/ Qe ewe froide li vodra doner./
 1046 desconusseit/ Qe touz biens li fesoit./
 529 Cum li sire e envoyé;/ E quiderouunt
 197 E esposer la volirent,/ Mes ele a
 402 trové./ Quoy pur doute quoy pur pour,/ E
 520 ele [est] mout aparcavante!'/ E sire Amist
 613 descendant/ Si chiet sur l'arsoun devant;/
 606 ren./ Amillioun vint par corucer,/ Par ire
 112 s'en va ver son pays,/ Li autres remeint
 3 De leauté e de grant douçour —/ De
 516 memes iceo fuisse,/ Qe ele encheson ne
 661 Qe Amillioun fort estona./ Ore poet
 372 Si encontra le botiler./ A li soleit
 1019 trencher./ Mes certes ai jeo trop vesqui;/
 1069 Une voiz oy qe li disoit/ Qe Amillioun
 622 a l'autre qe le chivaler/ Ses armes sout
 811 checun pur mesel li tint./ La dame li tint
 623 sout trop bien porter,/ Mes son coup est
 1018 me faites tost trencher./ Mes certes ai jeo
 570 tot ceo fu/ Qe pur les dames fait esteit?/
 397 en hostage./ Le seneschal ad taunz
 553 le botiler;/ E quant il ne pout estre
 1180 li se veut venger./ Tant fuit quise q'ele fut
 400 seneschal doté/ Qe Amys un soul n'en ad
 821 Ses garsons touz li guerpeient;/ Ne
 37 Touz les ad dobbez en estour,/ Lour
 354 en la chambre entrat,/ La dame sur un lit
 6 vous dirray,/ Sicom en escrit le
 85 quis a son poer,/ Mes encheson ne pout
 407 E le counte li velt venger./ Quant ne pout
 904 vin e de blé./ Qe donke ne poient home
 92 Car qui s'accompie od feloun/ Ne porra
 917 la terre tant alerent/ Qe feym e mc[s]laise
 396 E donc jugga le baronage/ Que plegges
 1131 furent estranglé./ E tot vifs les ount
 479 visiter/ Son frere qe tant pout amer./
 1072 deus fiz de sa gendrure:/ Si les enfantz
 1023 espeie demaunda,/ E il memes dist q'il le
 1208 de dowere le tenez!'/ Donke fist fere un
 931 moult ama son seignur,/ Ala demaundant
 365 vive tant;/ Ne li ert nul de mal garrant./
 166 esquiers./ E il memes si bel estoit/ Qe
 523 chaungé,/ E Amyllioun s'en est alé;/
 729 Quant ad baroun a volonté./ Le counte
 199 vout uncore aver mary./ A grant cherté le
 208 par aventure avint/ Qe li quens une feste
 1222 liveré,/ Coment le counte out comaundé./
 461 Aviz li fust qu'il deust morir./ Desouz
 894 ala,/ Son message li counta./ Ele li fist
 833 e son enfant,/ A chef de la vile a
 562 les verreit arder./ Ataunt virent vener
 7 Sicom en escrit le trovay;/ Q'en la court
 825 Estre un enfant q'il out norri./ Fiz de
 393 ensemblé,/ Ly chivalers e la meisné./ Li
 655 bien anuié/ Qe la bataille ad tant duré/
 309 nee.'/ Tant li ad dit e parlé/ Ore sunt a
 939 auke vestu,/ Gentil home ressemblereit/

trestot chaungé,/ E Amyllioun s'en est alé;/ Tut soul va
trestot counté/ Coment eust finé la bataille/ E coment eust
trestot oy un vassal/ De la meisnée le seneschal./ A son
trestouz ai je refusé./ Certes n'estes pas chevaler
trestouz doné/ Bons chevaus e deners,/ E robes a ses
Trestouz li firent hommage./ Ore poet il mener grant
Trestouz li ount deguerpi,/ Estre un enfant q'il out norri
Trestouz plurent de pité./ Amis s'est tot adrescé./ Plus de
trestouz pur voir/ Qe ceo fuit lour dreit seignur./ E la dame
trestouz respoundi/ Ne vout uncore aver mary./ A grant
trestouz virent qe le seignur/ Haist Amys desqe a la mort
trestut le graunte./ Lour robes ount trestot chaungé,/ E
Trestut trencha quir e fust/ Com si rasour trenché le eust
tret le brank d'asser;/ Le seneschal ferir ala,/ En le healme
tristes e pensifs./ Quant Amis de palmisoun levoit,/ Vers la
troeffle ne voil jeo parler —/ En pees se tienge pur escoter
troesse/ Qe illoke est autre de moy;/ Car jeo vous dy en bone
trop attendre:/ S'il ne sache le coup rendre,/ Li autre s'en irra
trop beal parler;/ Les oils sur ly forment roylla./ Amis moult
Trop bien ai la mort deservi.'/ 'Voir,' dist il, 'vous l'averez
trop bien garreit/ S'il en fist mettre cure/ [Des] deus fiz de sa
trop bien porter,/ Mes son coup est trop pesant./ Le
trop en despit:/ Ne voleit entrer en son lit,/ Ne voleit auxi od
trop pesant./ Le seneschal se leve ataunt,/ Qe dolent est e
trop vesqui/ Trop bien ai la mort deservi.'/ 'Voir,' dist il
Trop vilaine roste serreit!/ Armes me fetes tost bailler/ Pur
trové/ Ke le counte fut bien payé./ Tant fuit li seneschal doté
trové/ La dame fuit pris e durement lié,/ E la pucele
trové/ Mes de pour se fuist muscé./ Sitost com vist son
trové/ Quoy pur doute quoy pur pour,/ E trestouz virent qe le
trova serjant ne esquier/ Qe ewe froide li vodra doner
trova si com il voleint;/ Hautement lour feste teneint./ De
trovat/ 'Dame,' dit il, 'ne savez/ Quelle fille vus avez!'/ Ele
trovay/ Q'en la court un counte estoient/ E des armes li
trover/ Par quoi il vus pout grever./ Mes quant jeo serray
trover plevine,/ Pausmé chei la meischine./ En la place
trover/ Qe rien lour voille doner./ Einz ne pount plus
trover si mal noun;/ Car piz ne porra avenir/ Quant
troverent/ Desques eus vindrent el pais/ Ou sojorna le
troverent en hostage./ Le seneschal ad taunz trové/ Ke le
trovez!/ En lor lit s'entrebeyscrent,/ Del ray del solail
Trusser s'en vount en mynyt;/ As autres ne fuist pas deduit
tuast/ E Amillioun en le saunk bainast,/ Si sain devendreit
tuera./ Tost l'espeie li fust baillé./ Puis l'ad en haut levé./ E
turel/ Petit fut mes molt bel,/ Si fut fort durement;/ De loin
 tut entour/ Des povres les estres e les maneres/ E les custumes
 Tut ert detret e puis pendu,/ E la pute arse en fu!'/ La dame ne
 tut le pays le disoyt/ Si Deu mesmes le eust purtret,/ Plus bon
 Tut soul va saunz compainie./ Ore Deus li soit en ayc/ E
tynt feste plenere/ Une symaine tot entere;/ Mout i furent des
tynt le pere,/ E mout l'ama auxi la mere./ La damoisele fuit
tynt/ Par un jour de l'Assensioun;/ La fuit assemblé maint
Un an vesqui e un jour;/ A drein morust pur dolur./ Sire
un arbre se cocha,/ E son chival a une raym lya./ Dormist, car
un asne aver,/ E pus sus les seintz jurer/ Qe mes en le pais [nc]
un bordel/ Illoc lour fist aver hostel./ O, misires Amyllioun
un chevaler/ Qe vers eux fist grant aleure,/ Poignant plus qe
un counte estoient/ E des armes li servoient./ Moult furent de
un counte, son parent,/ Od li tint fer[m]lement,/ E dit que li ne
un contre l'autre tendi son gant,/ E li quens [les] resceust
Un coup li voudra ja doner/ Qe li deit par dreit grever./ Mes le
un de cel affere,/ Dount devisent la menere/ Coment e quant
Un de eux ly appeleyt,/ Demaundast s'il vout servir./ E il

213 Amys, qui bien sout son mester:/ De
 824 doner./ Trestouz li ount deguerpi,/ Estre
 13 Si vous dirroy bien lor nouns:/ Li
 458 ne se reposa,/ Tant qe vers une vespré/ En
 638 morir./ Le seneschal, qe nel pout amer,/
 941 Demaundast s'il vout servir./ E il getta
 1222 le conte out comaundé./ Un an vesqui e
 209 avint/ Qe li quens une feste tynt/ Par
 207 sa volonté;/ De countredit n'en ad parlé./
 1159 ne verrait./ Mes ne li ert pas destiné,/ Car
 1084 Si par lour saunk poet estre sauné./
 587 l'assemblé;/ Ore mes sourdra la medlé./ Le
 354 Atant en la chambre entrat,/ La dame sur
 292 returné./ Amis mout se purpensa;/ Le
 985 poet estre?/ Ces deus hanaps fist
 416 Qe la n'out home taunt hardi/ Qe oseit
 448 aver la vie!'/ Atant congé ly dona,/ E
 285 pas chevaler!'/ Mescreaus estes e laner!/
 942 E il getta un grant suspir;/ Cil dit q'il out
 111 Del doel q'entre eus ount demené./ Li
 79 chose soiez garny:/ Le conte ad seignz
 744 trahir./ Moult parfound getta
 400 Tant fuit li seneschal doté/ Qe Amys
 1208 noun de dowere le tenez!'/ Donke fist fere
 313 Allas! Q'encusé serrount,/ Qe trestot oy
 198 Mes ele a trestouz respoundi/ Ne vout
 890 Priez a lui par charité/ Qe ele me face
 1103 trace./ En Amis ne out qe regeir;/
 1091 requist./ Atant le conte s'est repairé./ En
 763 E coment eust fait la sposaille./ En
 1167 mie./ Quant la dame oi counter,/ En
 78 Pur vostre honur vus cri mercy,/ De
 956 l'em li porta/ La moyté lor envoia./ Amis
 911 Estre ceo lour fount fere/ Sur deus roes
 189 Amys ne l'aparce[u]st mye./ Li quens
 29 l'un de l'autre desceverast./ E si furent de
 1219 garderont./ Une garce la serveit/ Qe par
 208 Un jour par aventure avint/ Qe li quens
 191 une dame aveit/ Q'il come sa vie ameit./
 30 E si furent de une estature,/ De
 1218 Coment iour seignurs lour garderont./
 172 Par lour consail se mariat:/
 332 Li quens fu de ire enflé./ Ne parla mot
 965 deus hanaps tant ressembleient/ Qe, si en
 15 appellé Amillyoun./ Li deus estoient de
 30 furent de une estature,/ De une forme e de
 1067 Quant passa le temps issi,/ Qe li quens
 462 Desouz un arbre se cocha,/ E son chival a
 194 Mout fut gentile la damoysele,/ En
 26 cors de visage bien ressembleyent:/ Si de
 255 eust,/ S'a hasté a plus que ele pust:/ Ove
 730 a volonté./ Le conte tynt feste plenere/
 457 onke de nyut ne se reposa,/ Tant qe vers
 1068 temps issi,/ Qe li quens une noyt dormi,/
 712 Si se purpensa moult estreit;/ Oyst
 969 de l'autre deviser deust./ [...] / Qe
 501 fray,/ E le serment lealment juray/ Qe jeo
 476 Touz lour fist mettre lour seèles;/
 83 parenté;/ Pur ceo est il le plus doté./
 123 Qi a vous ert leal compaignon./ Ne volez
 1226 molt prisé/ Qe autre peine n'ad liveré./
 19 par serement;/ As autres ne fesoient
 719 après de ceste leprouz serrez./ Avant mes

un drap vestu esteit,/ La coupe devant li quens teneit./ Mout fu
un enfant q'il out norri./ Fiz de un conte, son parent,/ Od li
un estoit Amys par noun,/ L'autre est appelé Amillyoun./ Li
un grant boys est alé./ A force ly covynt dormir,/ Aviz li fust
un grant coup li vint doner/ Amount el heaulme peint de flurs
un grant suspir;/ Cil dit q'il out un seignur/ Q'il ne lerret pur
un jour;/ A drein morust pur dolur./ Sire Amillioun fut molt
un jour de l'Ascensioun;/ La fuit assemblé maint baroun./ Est
un jour par aventure avint/ Qe li quens une feste tynt/ Par un
un jour par matyné/ Les deus countes sunt venuz/ E a la porte
un jour s'est par matyn levé./ E al matin est il alé;/ Deu
un l'autre desaffient/ Qe entre eus nul amur ne eyent./ Ore s'en
un lit trovat./ 'Dame,' dit il, 'ne savez/ Quele fille vus avez
un mal e l'autre mout dota./ Cortesement ly respundi
un mestre!'/ Arere tantost se repeira,/ Al conte de cel hanap
un mot parler pur ly./ La dame ne se pout tenir/ Ne pur vivere
un palefroy mounta/ Saunz garsoun e saunz esquier;/ N'ala pas
un play bien dur vus bateray:/ A mon pere le conteray/ Qe
un seignur/ Q'il ne lerret pur estre emperur./ Qy ceo fuit li
un s'en va ver son pays,/ Li autres remeint tristes e pensifs
un seneschal/ Qe mout est feloun e desleal/ E si est de mult
un sospir,/ E el suspir geint forment./ La dame l'acola
un soul n'en ad trové./ Quoy pur doute quoy pur pour,/ E
un turel:/ Petit fut mes molt bel,/ Si fut fort durement;/ De
un vassal/ De la meisne le seneschal./ A son seignur le ala
uncore aver mary./ A grant cherté le tynt le pere,/ E mout
une ane doner/ Qe jeo puisse chivacher./ L'enfant a la dame
Une bone robe li fist tener/ E a mouster puis li mena./ La
une chambre est entré/ Ou les deus enfanz dormerent;/ E
une chambre puis entrerent/ E lour robes chaungerent
une chaumbre se ala muscer;/ Meuz velt estre pendue/ Qe de
une chose soiez garny:/ Le conte ad seignz un seneschal/ Qe
une coupe avoit/ Ke mout ferement amoit,/ Car Amillioun, qe
une cyvere/ Qu'il pout sei meismes enhacer./ Amillion fist
une dame aveit/ Q'il come sa vie ameit./ Une fille avoit la
une estature,/ De une forme e de une nature./ Leals furent
une fenestre luy portoit/ Chescun jour sa liveré,/ Coment le
une feste tynt/ Par un jour de l'Ascensioun;/ La fuit assemblé
Une fille avoit la dame/ Q'e amoit come s'alme./ Mout fut
une forme e de une nature./ Leals furent envers lor seygnur
Une garce la serveit/ Qe par une fenestre luy portoit/ Chescun
Une gentile femme esposat/ Qe fille d'un conte estoit,/ E
une luwé./ 'Adonke,' dit il, 'Deu mercy,/ Si ceo traitour m'ad
une mayn estoient,/ N'est home qe tant de l'overaigne seust
une nature,/ Angeles ressembleient de faiture./ Taunt
une nature./ Leals furent envers lor seygnur,/ Bien le portent
une noyt dormi,/ Une voiz oy qe li disoit/ Qe Amillioun trop
une raym lya./ Dormist, car mult fu travallé,/ E son chival
une realme ne out plus bele./ Deus countes la desirent,/ E
une robe vestu estoient,/ N'est home el mound qe les avisast
une soule chambere/ Ala par congé de sa mere/ Parler a Amys
Une symaine tot entere;/ Mout i furent des robes donez/ Dont
une vespré/ En un grant boys est alé./ A force ly covynt
Une voiz oy qe li disoit/ Qe Amillioun trop bien garreit/ S'il
une voiz que li disoit: —/ Qe nul ne oist fors li noun
unke lesser le voleit./ Quant le conte ad pres mangé,/ Son
unke ne li forfiz,/ E quiderount qe jeo soye Amys./ Jeo espoir
Unke ne lour dist autre noveles,/ Mes dist q'il voleit visiter
Unke ne vous pout amer,/ Mal vus ad quis a son poer,/ Mes
unke nul autre amer/ Ne semblant a nul mustrer;/ Mes quant
Unke puis femme ne vout aver;/ Nul evr out de sa mullier
unke semblaunt/ De compagnie tant ne quant./ Ceus de la court
unke si laid ne fust/ Home, com dire bien le poet.'

452 chivaler/ Mes ala com pelrin./ Ne fina
 1145 li le conte Amis,/ Tel ad el quer dolur/ Qe
 218 Entre eux communement disoient/ Qe
 677 pas mervaille./ Ore finist la bataille./ Les
 882 La gent l'appelent Amorant,/ Mes
 1028 tendist./ Mais l'enfant avant saillist:/
 378 Mes vous ne irrez ja riant;/ La mort vous
 901 Owein, le leal enfant,/ Lour viaunde
 523 E Amyllioun s'en est ale;/ Tut soul
 111 doel q'entre eus ount demené./ Li un s'en
 1173 Chasteleins e chivalers./ Serjanz,
 313 Q'encusé serrount,/ Qe trestot oy un
 9 armes li servoient./ Moult furent de grant
 388 en noun de gage/ Com home de grant
 351 detret e puis pendu!'/ E dit li quens: 'Ore
 218 disoient/ Qe unque si bel chevaler ne
 119 poy li ameit.' / 'Si[re] Amis,' dit il, 'bien
 980 le present./ Le povres, qe mesel fuit en
 50 autre heyr./ Quant Amillioun sout pur
 574 nostre dreit.' / Le quens, quant le chevaler
 925 autres les deuz vount./ Ne sciet, qe eus
 484 Amis reposeit./ Sire Amillioun primes le
 436 Congé li ala demaunder/ Qe a son frere
 94 piz ne porra avenir/ Quant compaignoun
 1123 les enfaunz plus n'enpensoms;/ Si Deu
 347 Par celi qe fist le mound,/ S'il le
 695 Del fait dount fuistes encusé./ S'il vous
 1168 En une chaumbre se ala muscer;/ Meuz
 827 Od li tint fer[m]ement,/ E dit que li ne
 742 Bien entendi en son corage/ Fere ne li
 41 Car moult a ly puet affyer./ Amyllioun ne
 1003 Ne li poeient assuager/ Q'il ne li
 406 Nul ne oseit pur li parler,/ E le conte li
 349 le voil prover,/ E cil que de nous est
 961 mesmes avoit le per,/ Qe ne vout
 907 plus entendre/ Q'il covient lor asne
 896 sus les seintz jurer/ Qe mes en le pais [ne]
 65 ly hastivement,/ E il od force de sa gent/
 1103 ne out qe regeir;/ Une bone robe li fist
 562 il memes les verreit arder./ Ataunt virent
 1174 Serjanz, vadlet e esquiers,/ Touz devant li
 241 que li quens s'en ala/ A boys juwer en
 441 Trahir me volez, m'est avys!'/ Si vous ne
 289 chivals destret./ Donques serray de vous
 318 fut molt lee;/ Ore quideit bien estre
 673 le branc cola./ En cel champ fu ben
 504 par la grace de DÉ/ Qe del feloun serrom
 1193 ert a grant vilté/ Si jeo ne soie de vous
 342 avera reprover/ Si jeo ne me puisse de li
 406 ne oseit pur li parler,/ E le conte li velt
 1179 sa femme demaunder,/ Car de li se veut
 627 deit a pié;/ A plus tost q'il pout se
 145 pale devint;/ Purpense sei q'il se
 278 mon quer heytes/ Si jeo ne soye de vous
 816 ceo dit ele, veut morir/ Qe a li vousist
 567 eust grant pité./ 'Sire,' dit il, 'jeo suy
 337 En q'i me porrai affier?/ Si est grant desert
 1165 La meisnee fust endormie;/ De lour
 1163 descenduz,/ Qe nul fut aparcavant/ De lour
 1160 un jour par matyné/ Les deus countes sunt
 223 De sa beauté matire aveient./ Est
 585 dorreyt/ E de tote sa terre heir li freit./ Est
 1239 fait pur eus grant vertuz:/ Les voegles
 unke soir ne matyn,/ Poy mangea e mains beust,/ Si ne
 unque femme ne out greignur./ Donqe se tint enfyn honie
 unque si bel chevaler ne veient;/ E li quens meme le dist/ Qe
 uns chaunterent, les autres plorerent./ Les chevalers ja
 Uwein fuit son dreit noun./ Donque li dist sire Amyllioun
 Uwein, qe ne poet suffrir/ Qe son seignur deust morir./ En
 va ja approchaunt!'/ 'Sire,' dist Amys, 'vus dites mal./ Jeo
 va querant,/ Mes tant lour vint sur cherté/ De pain, vin e de
 va saunz compainie./ Ore Deus li soit en aye/ E doigne q'il
 va ver son pays,/ Li autres remeint tristes e pensifs./ Quant
 vadlet e esquiers,/ Touz devant li venerent;/ Merci crier touz
 vassal/ De la meisnee le seneschal./ A son seignur le ala
 vassalage,/ Gentils e de grant parage;/ Fiz estoient de
 vasselage,/ E dit que od li combat[er]eit/ E la verité
 vaut meins!/ Ceste play m'est laid e vileins.'/ Atant en la
 veient;/ E li quens meme le dist/ Qe onqe si bel chivaler ne
 veignant!/ De vous suy ore alé pensant/ E de misire
 vein,/ Prist sa coupe hors de son sain,/ E l'autre la vist, si
 veir/ Qe son pere fuy affyné,/ De son seignur le conte ad
 veit,/ Bien quideit qe ceo fuit Amys;/ De cors resemblast e de
 veit, qu'il sount;/ Si eus fuissent en la cort conuz,/ A grant
 veit;/ Tost est cele part torné,/ Tendrement l'ad esveillé./ E
 velt aler:/ Son enuy monstrer li vout,/ E ala qe mult se redut
 velt autre trahir./ A tote gent bel responez,/ Grant preu e
 velt, bien lé recoveroms./ Atant la parole ount lessé/ E le
 velt denier./ Com leal chevaler le voil prover,/ E cil que de
 velt esposer,/ Li porriez de quer amer?'/ E ele respoult moult
 velt este pendue/ Qe de son seignur estre veue./ Sire
 velt guerpir/ Ne pur vivre ne pur morir./ La dame, que mout
 velt hountage/ De son compaignoun trahir./ Moult parfound
 velt lesser:/ De son hostel ly fist justizer,/ Mestre mareschal
 velt ocier./ Quant batu li out e desfolé/ Que ses mains sunt
 velt venger./ Quant ne pout trover plevine,/ Pausmé chei la
 venu/ Soit detret e puis pendu!'/ E dit li quens: 'Ore vaut
 vendre ne doner./ Mes le hanap tant ameyt/ Q'en tot son
 vendre/ Pur cink souz e diz e maille;/ De ceo acateront lour
 vendreit/ De l'hure qe issi serreit./ Hors del pais s'en vont
 Vendroit a ly, ceo li jura./ Amyllioun ly mercya./ Atant del
 veneer/ E a mouster puis li mena./ La dame, sitost com vew li
 veneer un chevaler/ Qe vers eux fist grant aleure,/ Poignant
 venerent;/ Merci crier touz penserent./ Son maltaient lour
 veneerie,/ Od ly tote sa chivalrie./ A l'ostel n'i out nul remis
 venez a tel jour,/ Vous savez bien qe mon seignur/ Pur vous
 vengé!'/ Atant s'est Florie retorné./ Amis mout se purpensa
 vengé/ De vostre corteis botiler;/ Tot lour estre fist espier
 vengé;/ Par li mes n'iert encusé./ S'il chaist, n'est pas
 vengé,/ Qe vus quideit aver hony./ Mes chivalers qe sunt icy
 vengé./ Si fu[i] malades e defet,/ Pur ceo n'avojeo pas
 venger./ Est ceo voir, sire seneschal?/ Jeo quide que l'avez
 venger./ Quant ne pout trover plevine,/ Pausmé chei la
 venger./ Tant fuit quise q'e fut trové/ Mes de pour se fuit
 vengereit,/ E Amyllioun a pié se mettreit./ Mes il aparceut
 vengereit/ Sitost com son leu verreyt./ Amis lessa le temps
 vengez!/. Certes ore suy jeo bien honye/ Quant vous me
 venir./ Cil soffri en cel an/ Grant dolur e grant han./ Ses
 venu!/ Dount vous sert tot ceo fu/ Qe pur les dames fait esteit
 venu:/ Ma fille est pute devenu./ Ele est honie, jeo suy trahi
 venue ne saveint mie./ Quant la dame oi counter,/ En une
 venue tant ne quant./ La meisnee fust endormie;/ De lour
 venuz/ E a la porte descenduz,/ Qe nul fut aparcavant/ De lour
 venuz la novele/ En la chaumbre a la damoisele/ Del botiler
 venuz l'assemblé;/ Ore mes sourdra la medlé./ Le un l'autre
 ver, parler les mutz./ Tot ensi finist le sermoun/ De sire Amis

111 q'entre eus ount demené./ Li un s'en va
 1009 Amillioun doncne maundereit/ E la
 382 nul vous ad de moy counté/ For que dreit a
 390 E dit que od li combat[er]eit/ E la
 510 robes chaungé,/ Donqe quideront de
 991 doncne li sovent:/ 'Bien sai', fait il, 'se
 1157 muscereit;/ Son seignur jamés ne
 561 E si jura grant serement/ Qe il memes les
 146 sei q'il se vengereit/ Sitost com son leu
 563 Ataunt virent veneur un chevaler/ Qe
 114 Quant Amis de palmisoun levoit,/ l'ad feru du pé./ Qe en la bowe est il
 997 per./ La pucele en prist tendrour/ Qe tant
 230 vus bateray:/ A mon pere le conteray/ Qe Congé ad pris, si s'en aloit/ En son pays
 287 Com celi qui talent ne aveit/ Q'il mesprist
 769 Qe onke de nuyt ne se reposa,/ Tant que
 271 E vostre serjant tant com jeo viveray./ soit bien gardé:/ En son esquel le vin
 457 en Lombardie, / E Deu fait pur eus grant
 1222 de nuyt ne se reposa,/ Tant que vers une
 1231 Coment le counte out comaundé./ Un an
 1018 aveit deservy./ En bone vie longtemps
 213 tost tresscher./ Mes certes ai jeo trop
 26 qui bien sout son mester:/ De un drap
 937 bien ressembleyent:/ Si de une robe
 1056 l'enfant bel e parceu, / E [s']il fuit auke
 531 e de boivre ensement./ E li memes a li
 945 fuit lour dreit seignur./ E la dame, quant li
 1075 fuit li demaundement,/ Mes sitost com il
 936 Si sain devendreit com pessoun./ Quant
 1169 alere[n]t juauant/ E les povres regardant,/ velt estre pendue/ Qe de son seignur estre
 391 combat[er]eit/ E la verité provereit./ Est
 815 li beivre ne manger./ Meuz, ceo dit ele,
 1179 fist sa femme demaunder,/ Car de li se
 211 La fuit assemblé maint baroun./ Est
 1105 puis li mena./ La dame, sitost com
 1055 fist garder,/ Servir le fist tot a talent/ De
 901 revendrount./ Owein, le leal enfant,/ Lour
 190 Li quens une dame aveit/ Q'il come sa
 276 Qe jeo vus ay doné m'amur?/ Ja en ma
 446 murrez mie,/ Tant com je puisse aver la
 1063 fere companie./ Treis anz demena tele
 861 e d'or,/ Ore suy tant demené/ Qe de ma
 1041 Bate ses mains, ses cheveuz detire,/ Sa
 857 sainte Marie,/ Com longes me durra ceste
 1231 herita,/ Qe bien aveit deservy./ En bone
 412 Ne sout lequel il pout eslire,/ Mort ou
 839 s'il ad dolur./ La mort desire plus que la
 770 pays vers s'amye/ Qe tant ama come sa
 1147 enfyn honie/ Ne quideit pas q'il fuit en
 679 Les chevalers ja corerent,/ Mes le counte
 1131 Les enfantz furent estranglés./ E tot
 645 n'ad pas toché./ Amyllioun, qe tant fu de
 570 ceo fu/ Qe pur les dames fait esteit?/ Trop
 326 ne dirra[i] mie;/ Ne croy pas q'il y avoit
 833 Sire Amyllioun e son enfant,/ A chef de la
 352 'Ore vaut meins! Ceste play m'est laid e
 298 mye/ Par quei vous en avez
 1192 le roy celestre./ Tourné me ert a grant
 903 Mes tant lour vint sur cherté/ De pain,
 972 ad appélé/ 'Pernez ma coupe od tot le
 ver son pays,/ Li autres remeint tristes e pensifs./ Quant
 verité de li querreit/ Qe son hanap out perdu/ E coment est
 verité,/ Moult bien me deffenderay/ Devant qe jeo denieray.
 verité provereit./ Est veus tote la court ensemblé,/ Ly
 verité/ Qe vous seiez lour seignur./ Si vous requer par amur
 verraiement,/ De mon frere l'ad emblé./ Qe cher sera achaté
 verrait./ Mes ne li ert pas destiné,/ Car un jour par matyné
 verreyt arder./ Ataunt virent veneur un chevaler/ Qe vers eux
 verreyt./ Amis lessa le temps aler,/ Ala e fist son mester
 vers eux fist grant aleure,/ Poignant plus que amblure;/ Del feu
 Vers la court sei retorneyt;/ Sitost com en la porte entra,/ Li
 versé./ Les chevalers vindrent del deys,/ Qe li estoient de
 vers li ad getté s'amour,/ Si forment comensa a amer/ Q'ele
 vers li estes e moy forfet,/ E serrés des chivals destret
 vers s'amye/ Qe tant ama come sa vie./ Ore est mout en
 vers son seignur./ Estez vous Florie par grant error!/ Ele li
 vers une vespré/ En un grant boys est alé./ A force ly covynt
 Vers vous ne mesprendroie mye/ Par quei vous en avez
 versez,/ E ma coupe me reportez!'/ E celi fist le
 vertuz:/ Les voegles ver, parler les mutz./ Tot ensi finist le
 vespré/ En un grant boys est alé./ A force ly covynt dormir
 vesqui e un jour;/ A drein morust pur dolur./ Sire Amillioun
 vesqui;/ En bienfaitz se pena./ Après sa mort a Deu ala
 vesqui;/ Trop bien ai la mort deservi.'/ 'Voir,' dist il, 'vous
 vestu esteit,/ La coupe devant li quens teneit./ Mout fu beals
 vestu estoient,/ N'est home el mound que les avisast/ Qe l'un
 vestu,/ Gentil home ressembleyent./ Un de eux ly appeleyt
 vet/ Chescun jour sis foiz ou sept;/ Tant com pout l'ad
 veu aveit,/ Qe Amillioun fuit bien quideit./ Les deuz furent
 veu avoient/ Celi q'il clama pur seignur,/ Touz li tenoient a
 veu avoit l'avisioun/ E de cel sounge resperi,/ 'A, Deu!' dit il
 Veu oint l'enfant bel e parceu,/ E [s']il fuit auke vestu
 veue./ Sire Amillioun fist com leal bier:/ Sa gent fist tot
 veus tote la court ensemblé,/ Ly chivalers e la meisné./ Li un
 veut morir/ Qe a li vousist venir./ Cil soffri en cel an/ Grant
 veut venger./ Tant fuit quise q'ele fut trové/ Mes de pour se
 veuz li mestre botiler,/ Amys, qui bien sout son mester:/ De
 vew li a,/ Pres de joie se palma;/ Vint al seignur, si li
 viande e de boivre ensement./ E li memes a li vet/ Chescun
 viaunde va querant,/ Mes tant lour vint sur cherté/ De pain
 vie ameit./ Une fille avoit la dame/ Q'ele amoit come s'alme
 vie après ceo jour/ Ne serray en mon quer heyz/ Si jeo ne
 vie!'/ Atant congé ly dona,/ E un palefroy mounta/ Saunz
 vie;/ De ses eses ass[e]z avoyt/ Tant com il memes desirot
 vie est grant pité./ Si jeo de feim morir deveray,/ De mei
 vie hiet, sa mort desire,/ La hure maudist q'onq fu nee
 vie?/ Jeo solei aver grant tresour,/ Estre servi d'argent e d'or
 vie longtemps vesqui;/ En bienfaitz se pena./ Après sa mort a
 vie, ne sout ke dire./ Plusors aveient de ly pité,/ Mes li sire
 vie;/ Nul solas ad ne compagnie:/ N'ad home a qui parler
 vie./ Ore est mout en astage,/ Car cru li est par mariage/ Grant
 vie./ Pur ceo fut tot appareillé/ Q'en le mois deust estre
 vient premer;/ Atant se fist desarmer./ S'il eust plaie li
 viifs les oint trovez! En lor lit s'entrebeysent,/ Del ray del
 vigour,/ Meint coup li dona ceo jour./ La bataille ad bien
 vilaine roste serreit!/ Armes me fetes tost bailler/ Pur cestes
 vilaynie./ Le seneschal, quant sout la covine/ Entre Amis e
 ville a un bordel/ Illoc lour fist aver hostel./ O, misires
 villeins./ Atant en la chambre entrat,/ La dame sur un lit
 vilene/e/ Ne de vostre corps hontage./ Jeo preng Deu en
 vilté/ Si jeo ne soie de vous vengé./ Si fu[i] malades e defet
 vine e de blé./ Qe donke ne poient home trover/ Qe rien lour
 vin./ Si l'aportez a ceo frarin,/ Au povres que tant est mesaysé

hanap soit bien gardé:/ En son esquel le
 998 Qe en la bowe est il versé./ Les chevalers
 918 feym e me[s]aise troverent/ Desques eus
 1126 service Deu ount escoté./ Après la messe
 154 Ore vous dirrai de sir Amillioun:/ Quant
 1107 com vew li a,/ Pres de joie se palma;/
 638 qe nel pout amer,/ Un grant coup li
 979 reportez?/ E celi fist le comaundement/ E
 385 qe jeo denieray./ Le seneschal atant se
 995 Outre la table saut ataunt,/ A cel povre
 321 botiler,/ Tot lour estre fist espier./ Qant
 605 l'un ne l'autre ne perdit ren./ Amillioun
 665 gabbant./ E sire Amillioun atant/ Ferir li
 1088 A son frere doine garisoun./ La dame
 549 De sir Amillioun voloms parler./ Le jour
 902 Lour viaunde va querant,/ Mes tant lour
 329 Entre Amis e la meschine,/ L'endemain
 1134 s'enjoierent./ Pere e mere, quant ceo
 402 Quoy pur doute quoy pur pour,/ E trestouz
 1211 bel,/ Si fut fort durement;/ De loin le
 562 Qe il memes les verreit arder./ Ataunt
 576 ceo fuit Amys;/ De cors resembast e de
 25 E de ceo se coroucent sovent./ De cors de
 477 dist autre noveles,/ Mes dist q'il voleit
 565 Poignant plus qe amblure;/ Del feu q'il
 982 sa coupe hors de son sain,/ E l'autre la
 1182 Mes de pour se fuist muscé./ Sitost com
 220 memo le dist/ Qe onqe si bel chivaler ne
 909 souz e diz e maille;/ De ceo acateront lour
 1201 mon serjant/ Qe jeo ne deusse en mon
 1151 lasse cheitive;/ Moult luy poise qe ele est
 363 li doint male destiné!/ Si avra il, si jeo
 844 que ly serveit./ Amillioun com plus
 296 e serray,/ E vostre serjant tant com jeo
 418 pur ly./ La dame ne se pout tenir/ Ne pur
 1206 pur hostel./ Celi averez tant com vus
 851 oy cel comaund,/ Ne sout ou quere lour
 1196 defet,/ Pur ceo n'avoi jeo pas forfait,/ Qe
 828 E dit que li ne velt guerpir/ Ne pur
 1203 mon vivant/ En ceo pais revener,/ Ne pur
 750 getteit./ Donke dit sir Amillioun: —/ Ne
 822 trova serjant ne esquier/ Qe ewe froide li
 793 aveit,/ Pur ceo les terres recevoit./ Ore
 1239 E Deu fait pur eus grant vertuz./ Les
 1 Qi
 182 de Amyllioun ester,/ E de sir Amys vus
 3 e de grant douçour —/ De troeffle ne
 1081 voiz voil prover,/ Pur mes enfanz ne
 870 douçur:/ 'Merci Deu, mon seignur,/ Meuz
 348 S'il le velt denier./ Com leal chevaler le
 1080 voir ou mensouinge,/ La merveile voiz
 127 qe soyez mon amy,/ Mon ami e mon bien
 905 ne poient home trover/ Qe rien lour
 1020 vesqui;/ Trop bien ai la mort deservi./ 'li
 423 serreit,/ En son plegge devendreit./ 'li
 1079 qe voir soit mon sounge./ Mes ore, soit
 529 sire e envoyé;/ E quiderount trestouz pur
 343 Si jeo ne me puisse de li venger./ Est ceo
 1078 Deu! dit il, 'qe onqe ne menti,/ Doinqe qe
 1068 issi,/ Qe li quens une noyt dormi,/ Une
 712 Si se purpensa moult estreit;/ Oyst une
 1080 soit voir ou mensouinge,/ La merveile
 1000 Qe li estoient de molt prés:/ Enresoner li
 vin versez,/ E ma coupe me reportez?/ E celi fist le
 vindrent del deys,/ Qe li estoient de molt près:/ Enresoner li
 vindrent el pais/ Ou sojorna le counte Amys/ Qe noble court
 vint a mesoun;/ Joiouse est ele pur Amyllioun./ Amys doncé
 vint a sa regiouen,/ La gent qe de sa terre furent/ Od grant
 Vint al seignur, si li demaunda/ Si ceo fuist sire Amillioun
 vint doner/ Amount el heaulme peint de flurs,/ Qe tost abati
 vint e porta le present./ Le povres, qe mesel fuit en vein
 vint/ E son gaunt en son poing tint,/ E tendist en noun de
 vint errant:/ Forment l'ad feru du pé./ Qe en la bowe est il
 vint le terme q'avoint dit,/ Il ensembleront od grant delit
 vint par corucer,/ Par ire tret le brank d'asser;/ Le seneschal
 vint par tel ayr/ Qe le feu fist tresailleur,/ Qe le healme fust tot
 vint, qe bone fust,/ Sovent Deu pur li requist./ Atant le
 vint qe fuist assis/ Entre le seneschal e Amys./ Le seneschal
 vint sur cherté/ De pain, vin e de blé./ Qe donke ne poient
 vint tot a hounte:/ Acounté est tot lor oeuvre al counte./ Li
 virent,/ A Deu graces en rendirent./ Sire Amillioun, quant
 virent qe le seignur/ Haist Amys desqe a la mort,/ Fust ceo a
 virent tote sa gent/ Outre tote la cité;/ La fu la dame durement
 virent tener un chevaler/ Qe vers eux fist grant aleure
 vis./ Bons armes demaunda/ E li memes le chivaler arma./ En
 visage bien ressembleyent:/ Si de une robe vestu estoient
 visiter/ Son frere qe tant pout amer./ Trusser s'en vount en
 vist fut grantment effraé/ E de les dames eust grant pité
 vist, si s'esmerveilla./ La coupe durment regarda;/ Pensa cil
 vist son seignur./ Ele pauma de pour./ Le seignur la fist
 vist./ Touz ceus qe en la sale estoient/ De sa beauté matire
 vitaille./ Estre ceo lour fount fere/ Sur deus roes une cyvere
 vivant/ En ceo pais revener,/ Ne pur vivre ne pur morir
 vive./ Ne saet ele pas quoi ele poet fere;/ Si se met hors de la
 vive tant;/ Ne li ert nul de mal garrant./ Tut ert detret e puis
 viveit,/ Tant plus leid deveineit./ La dame par tant defendi
 viveray./ Vers vous ne mesprendroie mye/ Par quei vous en
 vivere ne pur morir;/ Devant le counte se genula/ E le
 viverez;/ En noun de dowere le tenez?/ Donke fist fere un
 vivre avant./ Tantost counta a son seignur,/ E il dit: 'C'est
 vivre deusse bien du mien./ Dame, sovenez vous del bien
 vivre ne pur morir./ La dame, que mout est ennuié
 vivre ne pur morir./ Suvez vous del bordel/ [K']la moy
 vodra celer son noun —/ 'Jeo ne suy pas celi qe vous quidez
 vodra doner./ Trestouz li ount deguerpi,/ Estre un enfant q'il
 vodrom de Amis lesser,/ Qe assez ad dout il ad mester./ Vus
 voegles ver, parler les mutz./ Tot ensi finist le sermoun/ De
 voet oyr chaunzon d'amur,/ De leauté e de grant douçour
 voil counter,/ Qe fuit demoré od son seignur/ E meuz li servi
 voil jeo parler —/ En pees se tienge pur escoter!/ De deus
 voil lesser./ Mout avera fait bone jorné/ Si par lour saunk
 voil od vous suffrir dolur/ Qe sanz vous estre emperour.
 voil prover,/ E cil que de nous est venu/ Soit detret e puis
 voil prover,/ Pur mes enfanz ne voil lesser./ Mout avera fait
 voilant./ Amis respount aitant:/ 'Sire seneschal, vostre
 voille doner./ Einz ne pount plus entendre/ Q'il covient lor
 Voir,' dist il, 'vous l'averez!/ De vostre demaunde ja ne
 Voir,' dit li quens, volez ensy?/ E jeo lealment vus dy/ Qe
 voir ou mensouinge,/ La merveile voiz voil prover,/ Pur mes
 voir/ Qe ceo fuit lour dreit seignur./ E la dame, quant li veu
 voir, sire seneschal?/ Jeo quide que l'avez dit pur mal./ 'Sire
 voir soit mon sounge./ Mes ore, soit voir ou mensouinge,/ La
 voiz oy qe li disoit/ Qe Amillioun trop bien garreit/ S'il en
 voiz que li disoit: —/ Qe nul ne oist fors li noun —/ 'Lessez
 voiz voil prover,/ Pur mes enfanz ne voil lesser./ Mout avera
 voleient,/ Mes pur poer qe eus avoient,/ Ne li poient

37 ad dobbez en estour,/ Lour trova si com il
 813 despit./ Ne voleit entrer en son lit,/ Ne
 812 li tint./ La dame li tint trop en despit:/ Ne
 963 ameyt/ Q'en tot son anguisse guerpir ne
 543 dame de ceo s'enmerveilla./ A la dame ne
 632 Tost descendie de son destrier;/ Combattre
 780 Consailler fut fait e sire;/ Quantq'il
 725 Mes la resceit come sa mullier./ Ne
 969 deust./ [...] / Qe unke lesser le
 489 entendi nepurqant;/ De son estre saver
 477 ne lour dist autre noveles,/ Mes dist q'il
 670 cola le brank./ E l'oraille od tote la face/
 132 nul autre amer/ Quant talent me doint e
 423 plegge devendreit./ 'Voir,' dit li quens,
 699 'Tot soit a vostre talent!/ Si vus me
 440 Ele li dist: 'Beau sir Amys,/ Traihir me
 123 Qi a vous ert leal compaignon./ Ne
 196 Deus countes la desirent,/ E esposer la
 548 lerrom de Amis ester;/ De sir Amillioun
 205 chambre noeef dis,/ Qe touz fesoient sa
 268 Qe ele pout pur hounte discoverir/ Sa
 728 damoisele fuit ben paé/ Quant ad baroun a
 898 l'hure qe issi serreit./ Hors del pais s'en
 129 Amis respouint aitant:/ 'Sire seneschal,
 295 ly respundi:/ 'Damoisel, pur Deu mercy,/br/>
 380 dist Amys, 'vus dites mal./ Jeo tuy
 299 Par quei vous en averez vilenye/ Ne de
 319 lee;/ Ore quideit bien estre vengé/ De
 1021 'Voir,' dist il, 'vous l'averez!// De
 302 ceo poet estre aparceu/ Qe de moy feisiez
 752 'Jeo ne tuy pas celi qe vous quidez;/ De
 427 Le juggement averez saunz faille,/ Qe
 77 A nostre seignur servy avom./ Pur
 99 Si vous gardez de glotonie!/ Amez bien
 296 Deu mercy,/ Vostre amy tuy e serray,/ E
 698 respouint moult simplement:/ 'Tot soit a
 655 Qe la bataille ad tant duré;/ Un coup li
 479 Son frere qe tant pout amer./ Trusser s'en
 589 Qe entre eus nul amur ne eyent./ Ore s'en
 924 com a processioune./ Entre autres les deuz
 684 Plus est sain qe pesson de mer./ Atant li
 693 combatu,/ Son enemi ad confundu;/ Ly e
 691 'Dy moy,' fait il, 'fille bele,/ Amys pur
 381 mal./ Jeo tuy vostre chivaler leal;/ Si nul
 443 Vous savez bien qe mon seignur/ Pur
 274 erreur!// Ele li respondi e dist: 'Comment/
 802 entre nous,/ Sire, purquei le feistes
 1197 deusse bien du mien./ Dame, sovenez
 1204 Ne pur vivre ne pur morir./ Suvenez
 1111 'Dame, certes, jeo vus dirray,/ Mes
 507 aver hony./ Mes chivalers qe sunt icy/ Od
 249 congé,/ E ele tantost li ad doné./ Nomre
 715 —/ 'Lessez, lessez, sire Amillioun!/ Jeo
 153 privé/ Qe nul autre de sa meisné./ Ore
 880 avoit eu,/ Qe ore est devencu./ Le noun
 5 se tienge pur escoter!// De deus juvenceals
 12 grant parage;/ Fiz estoient de barons,/ Si
 518 Qe illoke est autre de moy;/ Car jeo
 102 li devez amour e foy,/ Car bien ad amé
 140 Mes de taunt me poez crere/ Qe, si
 298 Vers vous ne mesprendroie mye/ Par quei
 122 alé pensant/ E de misire Amillioun/ Qi a
 716 Jeo vous di certaine novele:/ Si

voleint; Hautement lour feste teneint./ De Amys fist son
voleit auxi od lui parler,/ Ne od li beivre ne manger./ Meuz
voleit entrer en son lit,/ Ne voleit auxi od lui parler,/ Ne od
voleit. Les deus hanaps tant ressembleient/ Qe, si en une
voleit parler,/ Desques al matin al lever./ Chescune nuyt issi
voleit per a per,/ Q'il n'eust de son cheval envie./ Tant fist
voleit porreit dire./ Tenu fut par tote la terre,/ Tant demeint
voleit qe eus furent aparceu/ Coment son frere eust deceu./ La
voleit. Quant le counte ad pres mangé,/ Son botiler ad
voleit. Si li retint, si li diseit./ Fu la joie, fu la pité./ Quant
voleit visiter/ Son frere qe tant pout amer./ Trusser s'en
Voler fist enmi la place./ Le braz od le brank trencha
voler. Si Amilliounz soit alé,/ Son quer me est abandoné,/ E
volez ensy?/ E jeo lealment vus dy/ Qe, s'il defaut a la
volez marier,/ Jeo ne me deveroy pas corucer./ Dount fut
volez, m'est avys!/ Si vous ne venez a tel jour,/ Vous savez
volez unke nul autre amer/ Ne semblant a nul muster;./ Mes
volirent,/ Mes ele a trestouz respondi/ Ne vont uncore aver
voloms parler./ Le jour vint qe fuist assis/ Entre le seneschal
volunté;/ De countredit n'en ad parlé./ Un jour par aventure
volunté e son desir./ De respondre se purpensoit/ Com celi
volunté./ Le counte tynt feste plenere/ Une symaine tot
vont;/ Jamés quident qe revendrount./ Owein, le leal enfant
vostre amisté/ En moy n'est si emploié/ Qe ne puisse nul
Vostre amy tuy e serray,/ E vostre serjant tant com jeo
vostre chivaler leal;/ Si nul vous ad de moy counté/ For que
vostre corps hontage./ Jeo preng Deu en tesmognage:/ Si
vostre corteis botiler;/ Tot lour estre fist espier./ Qant vint
vostre demaunde ja ne faudrez!'/ Tantost espeie demaunda,/ E
vostre dru,/ Ne serrioms nous en fyn honye?'/ Hostez
vostre espoir failli avez./ A vous le peus bien counter,/ Car
vostre fille fust destiné!'/ La dame lermist pur pité,/ Prist
vostre honur vus cri mercy,/ De une chose soiez garny:/ Le
vostre seignur,/ Ne soffrez q'il eit deshonur!/ Mout li devez
vostre serjant tant com jeo viveray./ Vers vous ne
vostre talent!/ Si vus me volez marier,/ Jeo ne me deveroy
voudra ja doner/ Qe li deit par dreit grever./ Mes le seneschal
vount en mynuyt;/ As autres ne fuist pas deduit./ En cele nuyt
vount les chivalers/ Qi mult sunt orguillous e fiers./ Ne avera
vount./ Ne sciet, qe eus veit, qu'il sount;/ Si eus fuissent en
vount touz beiser;/ Sur touz li fist la dame joie,/ E la pucele
vous ad aquité/ Del fait dount fuites encusé./ S'il vous velt
vous ad combatu,/ Son enemi ad confundu;/ Ly e vous ad
vous ad de moy counté/ For que dreit a verité,/ Moult bien me
vous ad ma mort juré.'/ 'Dame,' dist il, par ma lealté,/ Pur ma
Vous ay amé clemente?/ Qe jeo vus ay doné m'amur?/ Ja en
vous?/ 'Dame, jeo [ne] le dirrai mes;/ A ceo fui jeo confés.'

vous del bien,/ Coment a manger me menastes/ E del pais
vous del bordel/ [K']a moy livrastes pur hostel./ Celi avere
vous desconforteray./ Sachez, dame, que pur sa saunté/ Voz
vous desoremés demorront;/ A ma court od vous irrount./ E
vous dey la pucele:/ Son dreit noun est Mirabele,/ Mes Florie
vous di certaine novele:/ Si vous espousez la damoisele,/ Einz
vous dirrai de sir Amillioun:/ Quant vint a sa regioun,/ La
vous dirray de l'enfant:/ La gent l'appelent Amorant,/ Mes
vous dirray,/ Sicom en escrit le trovay;/ Q'en la court un
vous dirroy bien lor nouns:/ Li un estoit Amys par noun
vous dy en bone foy/ Qe ele [est] mout aparcevante!'/ E sire
vous e moy.'/ Atant se sunt entrebeysés,/ Plurent e crient de
vous eiez de moy affere,/ Jeol vous fray od graunt doucour
vous en averez vilenye/ Ne de vostre corps hontage./ Jeo
vous ert leal compaignon./ Ne volez unke nul autre amer/ Ne
vous espousez la damoisele,/ Einz qe soint .iii. anz passez

871 Meuz voil od vous suffrir dolur/ Qe sanz
 1037 bosoigne li ad icy chacé./ Si le occiez,
 272 Q'il mesprist vers son seignur./ Estez
 141 Qe, si vous eiez de moy affere,/ Jeol
 98 honur avrez!// Lessez orgoil e envie,/ Si
 376 fait il, 'Deu vous maudie!// Ma fille est par
 508 desoremés demorront;/ A ma court od
 499 Del serment serrez encombré./ Pur
 1020 bien ai la mort deservi.'/ 'Voir,' dist il, 'A
 753 quidez;/ De vostre espoir failli avez./ A
 1035 Sire quens, remembrez, Amys,/ Com
 375 moult se merveilla./ 'Fel,' fait il, 'Deu
 280 Certes ore suy jeo bien honye/ Quant
 377 Ma fille est par vous honye./ Mes
 297 serjant tant com jeo viveray./ Vers
 441 Amys,/ Trahir me volez, m'est avys!// Si
 83 Pur ceo est il le plus doté./ Unke ne
 751 celer son noun —/ 'Jeo ne suy pas celi qe
 512 de verité/ Qe vous seiez lour seignur./ Si
 442 m'est avys!// Si vous ne venez a tel jour,/ chaungé,/ Doneq
 511 quideront de verité/ Qe
 568 pité./ 'Sire,' dit il, 'jeo suy venu!// Dount
 870 'Merci Deu, mon seignur,/ Meuz voil od
 120 'Si[re] Amis,' dit il, 'bien veignant!// De
 378 Mes vous ne irrez ja riant;/ La mort
 695 aquité/ Del fait dount fuistes encusé./ S'il
 289 des chivals destret./ Donques serray de
 1193 me ert a grant vilté/ Si jeo ne soie de
 278 en mon quer heytz/ Si jeo ne soye de
 108 sunt chaeuz a terre;/ N'est home q i me
 816 Meuz, ceo dit ele, veut morir/ Qe a li
 1226 peine n'ad liveré./ Unke puis femme ne
 437 son frere velt aler:/ Son enuy monstrer li
 723 E la prist sicom son drew,/ Mes pur ceo ne
 940 Un de eux ly appeleyt,/ Demaundast s'il
 60 fist com bon seygnur,/ Destourber ne
 198 Mes ele a trestouz respoundi/ Ne
 961 Amillioun mesmes avoit le per,/ Qe ne
 1113 Sachez, dame, que pur sa saunté/
 84 plus doté./ Unke ne vous pout amer,/ Mal
 800 'Me diez par amour de moy —/ Car jeo
 356 'Dame,' dit il, 'ne savez/ Quele fille
 275 'Coment/ Vous ay amé clement?// Qe jeo
 285 estes e laner!/ Un play bien dur
 77 seignur servy avom./ Pur vostre honur
 89 Donke vus serra il fort enemy./ Gardez
 735 esquiers/ Les chivals e les destrers./ Ore
 1014 son quer crever./ 'Sire,' dit, 'par la foy qe
 795 lesser,/ Qe assez ad dount il ad mester./
 1110 il out sa garisoun./ 'Dame, certes, jeo
 379 va ja approchaunt!'/ 'Sire,' dist Amys,
 424 dit li quens, volez ensy?// E jeo lealment
 1189 Pur ceo qe sain suy revenu./ Molt
 699 'Tot soit a vostre talent!// Si
 86 Mes encheson ne pout trover/ Par quoi il
 505 de Dé/ Qe del feloun serrom vengé,/ Qe
 88 Mes quant jeo serray departi,/ Donke
 1206 pur hostel./ Celi averez tant com
 182 lerray de Amyllioun ester,/ E de sir Amys
 434 frere li soyvnt;/ Tantost a la countesse
 546 se contint/ Desques Amyllioun a meson
 326 chose ne dirra[i] mie;/ Ne croy pas q'il
 583 deffendre la bataille,/ Sa fille a femme 1

vous estre emperor.'/ Quant l'un l'autre ad regarde,/ Mout
 vous fetes peccché.'/ Quant le conte ceo oist,/ Tost estendu a
 vous Florie par grant errour!! Ele li respondi e dist: 'Coment
 vous fray od graunt doucour,/ Sauve chescuny honur.'/ Li
 vous gardez de glotonie!/ Amez bien vostre seignur,/ Ne
 vous honye./ Mes vous ne irrez ja riant;/ La mort vous va ja
 vous irrount./ E quant nous averoms robes chaungé,/ Donqe
 vous la bataille fray,/ E le serment lealment juray/ Qe jeo
 vous l'averez!// De vostre demaunde ja ne faudrez!'/ Tantost
 vous le peus bien counter,/ Car bien le deverez celer.'/ Tot
 vous li soleiez amer jadis./ Grant bosoigne li ad icy chacé
 vous maudie!// Ma fille est par vous honye./ Mes vous ne
 vous me dedeignez avere amye!// Tant gentils hommes
 vous ne irrez ja riant;/ La mort vous va ja approchaunt!'
 vous ne mesprendroie mye/ Par quei vous enavez vileny
 vous ne venez a tel jour,/ Vous savez bien qe mon seignur
 vous pout amer,/ Mal vus ad quis a son poer,/ Mes encheson
 vous quidez;/ De vostre espoir failli avez./ A vous le peus
 vous requér par amur/ Qe de ma femme facez atant,/ En fet e en
 Vous savez bien qe mon seignur/ Pur vous ad ma mort juré.'
 vous seiez lour seignur./ Si vous requér par amur/ Qe de ma
 vous sert tot ceo fu/ Qe pur les dames fait esteit?/ Trop
 vous suffrir dolur/ Qe sanz vous estre emperor.'/ Quant l'un
 vous suy ore alé pensant/ E de misire Amillioun/ Qi a vous
 vous velt esposer,/ Li porriez de quer amer?// E ele respount
 vous vengé!// Atant s'est Florie retorné./ Amis mout se
 vous vengé./ Si fu[i] malades e defet,/ Pur ceo n'avojeo pas
 vous vengez!// Certes ore suy jeo bien honye/ Quant vous me
 vous ist crere/ Si jeo deisse la moyté/ Del doel q'entre eus
 vous ist venir./ Cil soffri en cel an/ Grant dolur e grant han
 tout aver;/ Nul evr out de sa mullier./ Owein l'enfant bien
 tout,/ E ala qe mult se redut./ Ele li dist: 'Beau sir Amys
 tout lesser,/ Mes la resceit come sa mullier./ Ne voleit qe eus
 tout servir./ E il getta un grant suspir;/ Cil dit q'il out un
 tout son honur;/ Mes s'il eust od ly affere,/ Fuit ceo en pees
 tout uncore aver mary./ A grant cherte le tynt le pere,/ E
 tout vendre ne doner./ Mes le hanap tant ameyt/ Q'en tot son
 Voz deus fiz ai estranglé.'/ La dame ses meins a Deu tendi/ E
 vus ad quis a son poer,/ Mes encheson ne pout trover/ Par
 vus aime en bone fey —/ Ta especie nue meistes entre nous
 vus avez!// Ele est ja femme de mester,/ E ceo ad fait nostre
 vus ay doné m'amur?/ Ja en ma vie aprés ceo jour/ Ne serray
 vus bateray:/ A mon pere le conteray/ Qe vers li estes e moy
 vus cri mercy,/ De une chose soiez garny:/ Le conte ad
 vus de sa felonie!// Ne aiez od li compaignie,/ Car qui
 vus dei jeo bien counter/ Coment il firent a coucher:/ La dame
 vus devez/ A Amillioun, qe tant amez,/ Ne me facez
 Vus dirrai de sire Amillioun/ Qe tant estoit leal compaignon
 vus dirray,/ Mes vous desconforteray./ Sachez, dame, que pur
 vus dites mal./ Jeo suy vostre chivaler leal;/ Si nul vous ad de
 vus dy/ Qe, s'il defaut a la bataille,/ Le juggement avercz.
 vus fust ben avenu,/ Si feussez tele com deussez estre,/ Par
 vus me volez marier,/ Jeo ne me deveroy pas corucer.'/ Dount
 vus pout grever./ Mes quant jeo serray departi,/ Donke vus
 vus quideit aver hony./ Mes chivalers qe sunt icy/ Od vous
 vus serra il fort enemy./ Gardez vus de sa felonie!// Ne aiez od
 vus viverez;/ En noun de dowere le tenez!'/ Donke fist fere un
 vus voil counter,/ Qe fuit demoré od son seygnur/ E meuz li
 vint,/ Congé li ala demaunder/ Qe a son frere velt aler:/ Son
 vint./ Ore lerrom de Amis ester;/ De sir Amillioun voloms
 y avoit vilaynie./ Le seneschal, quant sout la covine/ Entre
 y dorreyt/ E de tote sa terre heir li freit./ Est venuz l'assemblé

867
414

li conjurast/ Qe illoec morir le lessast,/ E **y l** en son pais alast./ L'enfant respoundi par grant douçur
aveient de ly pité,/ Mes li sire fust tant **y rré**/ Qe la n'out home taunt hardi/ Qe oseit un mot parler pur